首都圏中央連絡自動車道
入間川高架橋耐震補強工事

設 計 図

令和 8年 9月

東日本高速道路株式会社 関東支社
所　沢　管　理　事　務　所

図 面 目 次

図面番号	図 面 名 称
1 ～ 4	数量総括表 (1) ～ (4)
5	位置図
	【牛沢橋】
6 ～ 7	耐震補強一般図 (1) ～ (2)
8 ～ 10	構造一般図 (1) ～ (3)
11 ～ 23	補強構造図 (1) ～ (13)
24	P1橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図
25 ～ 31	A1橋台 落橋防止構造 構造図 (1) ～ (7)
32 ～ 38	P1橋脚 落橋防止構造 構造図 (1) ～ (7)
39 ～ 43	吊り材根巻きコンクリート撤去図 (1) ～ (5)
44 ～ 46	吊り材根巻きコンクリート改良図 (1) ～ (3)
47 ～ 51	吊り材化粧板撤去図 (1) ～ (5)
52 ～ 58	吊り材化粧板改良図 (1) ～ (7)
59 ～ 67	塗分け区分図 (1) ～ (9)
68 ～ 69	P1橋脚 構造物掘削図 (1) ～ (2)
70 ～ 71	工事用進入路計画図 (1) ～ (2)
72	P1橋脚 足場計画図 (参考図)
73	吊足場計画図 (参考図)
74	施工要領図 (参考図)
75 ～ 76	交通規制図 (1) ～ (2)
	【入間川高架橋】
77 ～ 95	耐震補強一般図 (1) ～ (19)
96	P2橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
97	P2橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
98	P3橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
99	P3橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
100	P4橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
101	P4橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
102	P5橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
103	P5橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
104	P6橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
105	P6橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
106	P7橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
107	P7橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
108	P8橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
109	P8橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
110	P8橋脚 RC巻立て補強一般図 (下り線)
111	P8橋脚 RC巻立て補強配筋図 (下り線)
112	P9橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
113 ～ 114	P9橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線) (1) ～ (2)
115	P9橋脚 RC巻立て補強一般図 (下り線)
116 ～ 117	P9橋脚 RC巻立て補強配筋図 (下り線) (1) ～ (2)
118	P10橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
119	P10橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
120	P10橋脚 RC巻立て補強一般図 (下り線)
121	P10橋脚 RC巻立て補強配筋図 (下り線)
122	P11橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
123 ～ 124	P11橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線) (1) ～ (2)
125	P12橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
126	P12橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
127	P13橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
128	P13橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
129 ～ 130	P14橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線) (1) ～ (2)
131 ～ 132	P14橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線) (1) ～ (2)
133 ～ 134	P15橋脚 RC巻立て補強一般図 (1) ～ (2)
135 ～ 137	P15橋脚 RC巻立て補強配筋図 (1) ～ (3)
138 ～ 139	P16橋脚 RC巻立て補強一般図 (1) ～ (2)
140 ～ 142	P16橋脚 RC巻立て補強配筋図 (1) ～ (3)
143 ～ 144	P17橋脚 RC巻立て補強一般図 (1) ～ (2)
145 ～ 147	P17橋脚 RC巻立て補強配筋図 (1) ～ (3)
148 ～ 149	P18橋脚 RC巻立て補強一般図 (1) ～ (2)

図面番号	図 面 名 称
150 ～ 152	P18橋脚 RC巻立て補強配筋図 (1) ～ (3)
153 ～ 154	P19橋脚 RC巻立て補強一般図 (1) ～ (2)
155 ～ 157	P19橋脚 RC巻立て補強配筋図 (1) ～ (3)
158	P19橋脚 あと施工せん断補強配筋図
159	P20橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
160	P20橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
161	P21橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
162	P21橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
163	P22橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
164	P22橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
165	P23橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
166	P23橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
167	P24橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
168	P24橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
169	P25橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
170	P25橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
171	P26橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
172	P26橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
173	P27橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
174	P27橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
175	P28橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
176	P28橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
177	P30橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
178	P30橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
179	P31橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
180	P31橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
181	P32橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
182	P32橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
183	P33橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
184	P33橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
185	P34橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
186	P34橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
187	P35橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
188	P35橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
189	P36橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
190	P36橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
191	P38橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
192	P38橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
193	P39橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
194	P39橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
195	P40橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
196	P40橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
197	P41橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
198	P41橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
199	P42橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
200	P42橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
201	P43橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
202	P43橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
203	P44橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
204	P44橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
205	P45橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
206	P45橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
207	P45橋脚 RC巻立て補強一般図 (下り線)
208	P45橋脚 RC巻立て補強配筋図 (下り線)
209	P46橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
210	P46橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
211	P46橋脚 ポリマーセメント巻立て補強一般図 (下り線)
212	P46橋脚 ポリマーセメント巻立て補強配筋図 (下り線)
213	P47橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
214	P47橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
215	P48橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
216	P48橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
217	P49橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)

図面番号	図 面 名 称
218	P49橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
219	P50橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
220	P50橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
221	P51橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
222	P51橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
223	P52橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
224	P52橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
225	P53橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
226	P53橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
227	P55橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
228	P55橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
229	P56橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
230	P56橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
231	P57橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
232	P57橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
233	P58橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
234	P58橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
235	P59橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
236	P59橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
237	P60橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
238	P60橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
239	P61橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
240	P61橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
241	P62橋脚 RC巻立て補強一般図 (上り線)
242	P62橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)
243	P1橋脚 (終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
244	P4橋脚 (起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
245	P4橋脚 (終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
246	P8橋脚 (起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
247	P10橋脚 (終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
248	P13橋脚 (起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
249	P13橋脚 (終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
250	P15橋脚 (起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
251	P20橋脚 (起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
252	P45橋脚 (終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
253	P45橋脚 (終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (下り線)
254	P46橋脚 (起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
255	P46橋脚 (起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (下り線)
256	P62橋脚 (終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
257	A2橋台 (起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
258 ～ 259	P8橋脚 (終点側)落橋防止構造C 構造図 (上り線) (1) ～ (2)
260 ～ 261	P8橋脚 (終点側)落橋防止構造C 構造図 (下り線) (1) ～ (2)
262 ～ 263	P10橋脚 (起点側)落橋防止構造C 構造図 (上り線) (1) ～ (2)
264 ～ 265	P10橋脚 (起点側)落橋防止構造C 構造図 (下り線) (1) ～ (2)
266 ～ 268	P15橋脚 (終点側)落橋防止構造P 構造図 (上り線) (1) ～ (3)
269 ～ 271	P19橋脚 (起点側)落橋防止構造P 構造図 (上り線) (1) ～ (3)
272 ～ 273	P15橋脚 (起点側)横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (1) ～ (2)
274 ～ 277	P15橋脚 (終点側)横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (1) ～ (4)
278 ～ 281	P19橋脚 (起点側)横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (1) ～ (4)
282 ～ 283	P19橋脚 (終点側)横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (1) ～ (2)
284 ～ 285	P8・10橋脚 塗分け区分図 (上下線) (1) ～ (2)
286 ～ 288	P15・19橋脚 塗分け区分図 (上下線) (1) ～ (3)
289	P2橋脚 構造物掘削図 (上り線)
290	P3橋脚 構造物掘削図 (上り線)
291	P4橋脚 構造物掘削図 (上り線)
292	P5橋脚 構造物掘削図 (上り線)
293	P6橋脚 構造物掘削図 (上り線)
294	P7橋脚 構造物掘削図 (上り線)
295	P8橋脚 構造物掘削図 (上下線)
296	P9橋脚 構造物掘削図 (上下線)
297	P10橋脚 構造物掘削図 (上下線)
298	P11橋脚 構造物掘削図 (上り線)
299 ～ 300	P12橋脚 構造物掘削図 (上り線) (1) ～ (2)

図 面 目 次

図面番号	図　面　名　称
301	P13橋脚 構造物掘削図（上り線）
302	P14橋脚 構造物掘削図（上り線）
303	P15橋脚 構造物掘削図
304 ～ 306	P16橋脚 構造物掘削図 (1) ～ (3)
307 ～ 308	P17橋脚 構造物掘削図 (1) ～ (2)
309 ～ 310	P18橋脚 構造物掘削図 (1) ～ (2)
311	P19橋脚 構造物掘削図
312 ～ 313	P20橋脚 構造物掘削図（上り線） (1) ～ (2)
314 ～ 315	P21橋脚 構造物掘削図（上り線） (1) ～ (2)
316 ～ 317	P22橋脚 構造物掘削図（上り線） (1) ～ (2)
318	P23橋脚 構造物掘削図（上り線）
319	P24橋脚 構造物掘削図（上り線）
320	P25橋脚 構造物掘削図（上り線）
321	P26橋脚 構造物掘削図（上り線）
322 ～ 323	P27橋脚 構造物掘削図（上り線） (1) ～ (2)
324 ～ 325	P28橋脚 構造物掘削図（上り線） (1) ～ (2)
326	P30橋脚 構造物掘削図（上り線）
327 ～ 328	P31橋脚 構造物掘削図（上り線） (1) ～ (2)
329	P32橋脚 構造物掘削図（上り線）
330	P33橋脚 構造物掘削図（上り線）
331	P34橋脚 構造物掘削図（上り線）
332	P35橋脚 構造物掘削図（上り線）
333	P36橋脚 構造物掘削図（上り線）
334	P38橋脚 構造物掘削図（上り線）
335	P39橋脚 構造物掘削図（上り線）
336	P40橋脚 構造物掘削図（上り線）
337	P41橋脚 構造物掘削図（上り線）
338	P42橋脚 構造物掘削図（上り線）
339	P43橋脚 構造物掘削図（上り線）
340	P44橋脚 構造物掘削図（上り線）
341	P45橋脚 構造物掘削図（上下線）
342	P46橋脚 構造物掘削図（上下線）
343	P47橋脚 構造物掘削図（上り線）
344	P48橋脚 構造物掘削図（上り線）
345	P49橋脚 構造物掘削図（上り線）
346	P50橋脚 構造物掘削図（上り線）
347	P51橋脚 構造物掘削図（上り線）
348	P52橋脚 構造物掘削図（上り線）
349	P53橋脚 構造物掘削図（上り線）
350	P55橋脚 構造物掘削図（上り線）
351	P56橋脚 構造物掘削図（上り線）
352	P57橋脚 構造物掘削図（上り線）
353	P58橋脚 構造物掘削図（上り線）
354	P59橋脚 構造物掘削図（上り線）
355	P60橋脚 構造物掘削図（上り線）
356	P61橋脚 構造物掘削図（上り線）
357	P62橋脚 構造物掘削図（上り線）
358 ～ 359	工事用進入路計画図 (1) ～ (2)
360 ～ 368	交通保安要員配置図 (1) ～ (9)
369 ～ 370	交通保安要員配置詳細図 (1) ～ (2)
371	P2橋脚 足場計画図（参考図）
372	P3橋脚 足場計画図（参考図）
373	P4橋脚 足場計画図（参考図）
374	P5橋脚 足場計画図（参考図）
375	P6橋脚 足場計画図（参考図）
376	P7橋脚 足場計画図（参考図）
377	P8橋脚 足場計画図（参考図）
378	P9橋脚 足場計画図（参考図）
379	P10橋脚 足場計画図（参考図）
380	P11橋脚 足場計画図（参考図）
381	P12橋脚 足場計画図（参考図）
382	P13橋脚 足場計画図（参考図）
383	P14橋脚 足場計画図（参考図）

図面番号	図　面　名　称
384	P15橋脚 足場計画図（参考図）
385	P16橋脚 足場計画図（参考図）
386	P17橋脚 足場計画図（参考図）
387	P18橋脚 足場計画図（参考図）
388	P19橋脚 足場計画図（参考図）
389	P20橋脚 足場計画図（参考図）
390	P21橋脚 足場計画図（参考図）
391	P22橋脚 足場計画図（参考図）
392	P23橋脚 足場計画図（参考図）
393	P24橋脚 足場計画図（参考図）
394	P25橋脚 足場計画図（参考図）
395	P26橋脚 足場計画図（参考図）
396	P27橋脚 足場計画図（参考図）
397	P28橋脚 足場計画図（参考図）
398	P30橋脚 足場計画図（参考図）
399	P31橋脚 足場計画図（参考図）
400	P32橋脚 足場計画図（参考図）
401	P33橋脚 足場計画図（参考図）
402	P34橋脚 足場計画図（参考図）
403	P35橋脚 足場計画図（参考図）
404	P36橋脚 足場計画図（参考図）
405	P38橋脚 足場計画図（参考図）
406	P39橋脚 足場計画図（参考図）
407	P40橋脚 足場計画図（参考図）
408	P41橋脚 足場計画図（参考図）
409	P42橋脚 足場計画図（参考図）
410	P43橋脚 足場計画図（参考図）
411	P44橋脚 足場計画図（参考図）
412	P45橋脚 足場計画図（参考図）
413	P46橋脚 足場計画図（参考図）
414	P47橋脚 足場計画図（参考図）
415	P48橋脚 足場計画図（参考図）
416	P49橋脚 足場計画図（参考図）
417	P50橋脚 足場計画図（参考図）
418	P51橋脚 足場計画図（参考図）
419	P52橋脚 足場計画図（参考図）
420	P53橋脚 足場計画図（参考図）
421	P55橋脚 足場計画図（参考図）
422	P56橋脚 足場計画図（参考図）
423	P57橋脚 足場計画図（参考図）
424	P58橋脚 足場計画図（参考図）
425	P59橋脚 足場計画図（参考図）
426	P60橋脚 足場計画図（参考図）
427	P61橋脚 足場計画図（参考図）
428	P62橋脚 足場計画図（参考図）
429	A2橋台 足場計画図（参考図）

図面番号	図　面　名　称

数 量 総 括 表（その１）

名称及び測点	No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
	区分	2-(6)												8－(1)	8－(2)	8－(3)		17-(9)							17-(11)											
		構造物類削												コンクリート	型わく	鉄 筋		緑端拡幅工3							落橋防止構造											
		普通部	特殊部											A1－5	TH	T	T1	コンクリート	型わく	鉄 筋	アンカー工				C1－			P1－				鋼製ブラケット		アンカー工		
			AP12	AP27	AP28	AP31	BP16	BP17	BP18	BP20	BP21	BP22	CP1								φ29・295（水平方向）	φ32・340（水平方向）	φ35・385（水平方向）	φ42・490（水平方向）	800(412．4)	888(493．2)	1175(493．2)	1875(250)	2025(250)	4725(150)	4725(250)	A	B	φ45・535（水平方向）	φ48・580（水平方向）	φ61・775（水平方向）
	単位	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m2	t	t	m3	m2	t	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	t	t	本	本	本
牛沢橋																																				
A1橋台																														4.0			3.854			80.0
P1橋脚													260.0																		4.0		3.854			80.0
上部工																																				
牛沢橋 計													260.0																	4.0	4.0		7.708			160.0
入間川高架橋																																				
P1橋脚																		3.6	14.5	0.502		62.0														
P2橋脚		265.6												47.9	202.0		12.432																			
P3橋脚		346.6												54.9	231.6		12.398																			
P4橋脚		218.5												54.8	219.5	4.650		2.8	16.2	0.872			112.0													
P5橋脚		233.0												52.6	221.8		12.220																			
P6橋脚		250.9												52.6	221.8		12.219																			
P7橋脚		286.2												50.2	211.8		13.662																			
P8橋脚	(上9)	345.1												36.7	150.6		3.164	3.3	14.8	0.506		70.0			4.0							0.708		24.0		
	(下9)	144.4												28.0	114.8		2.433									4.0						0.876			24.0	
P9橋脚	(上9)	80.1												28.1	113.3		5.894																			
	(下9)	80.1												28.1	113.3		5.894																			
P10橋脚	(上9)	87.0												23.8	96.9	1.950		3.2	14.3	0.495		70.0					2.0					0.444		12.0		
	(下9)	87.0												23.8	96.9	1.950											2.0					0.444		12.0		
P11橋脚		103.4												29.8	119.2		8.933																			
P12橋脚			127.0											49.5	201.5		4.502																			
P13橋脚		84.3												51.6	210.0		4.683	5.6	23.9	0.875	64.0	64.0														
P14橋脚		46.7												49.9	201.2		11.270																			
P15橋脚		419.2												42.1	169.2		8.010	4.8	20.2	0.780			84.0					2.0				0.808				18.0
P16橋脚							1,150.4							72.4	294.8		6.117																			
P17橋脚								778.2						65.6	266.9		8.257																			
P18橋脚									1,391.5					62.2	253.0		5.252																			
P19橋脚		638.0												83.0	218.5		19.132												2.0			0.820				18.0
P20橋脚										205.4				47.2	190.1		4.093	1.5	8.5	0.460			60.0													
P21橋脚											80.7			33.0	137.4		2.899																			
P22橋脚												88.4		30.8	128.7		2.707																			
P23橋脚		75.5												28.8	120.0		2.523																			
P24橋脚		79.6												26.6	111.3		2.352																			
P25橋脚		72.4												24.6	102.6		2.164																			
P26橋脚		85.3												24.6	102.6		2.164																			
P27橋脚				108.8										24.6	102.6		2.164																			
P28橋脚					133.9									26.6	111.3		2.352																			
P29橋脚																																				
P30橋脚		88.8												24.6	102.6		2.164																			

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	数 量 総 括 表（その１）
縮　尺	－ 図面番号 /
設計会社名	
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

数 量 総 括 表（その２）

名称及び測点	No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
	区分	2-(6)												8－(1)	8－(2)	8－(3)		17-(9)							17-(11)											
		構造物施工												コンクリート	型わく	鉄 筋		袖壁拡幅工B							落橋防止構造											
		普通部	特殊部																		アンカー工				C1－			P1－				鋼製ブラケット		アンカー工		
			AP12	AP27	AP28	AP31	BP16	BP17	BP18	BP20	BP21	BP22	CP1	A1－5	TH	T	T1	コンクリート	型わく	鉄 筋	φ29・295（水平方向）	φ32・340（水平方向）	φ35・385（水平方向）	φ42・490（水平方向）	800(412．4)	888(493．2)	1175(493．2)	1875(250)	2025(250)	4725(150)	4725(250)	A	B	φ45・535（水平方向）	φ48・580（水平方向）	φ61・775（水平方向）
	単位	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m2	t	t	m3	m2	t	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	t	t	本	本	本
P31橋脚						98.2								26.6	111.3		2.352																			
P32橋脚		85.9												26.6	111.3		2.352																			
P33橋脚		80.5												26.6	111.3		2.352																			
P34橋脚		88.4												28.8	120.0		2.523																			
P35橋脚		58.7												28.8	120.0		2.523																			
P36橋脚		75.1												30.8	128.7		2.707																			
P37橋脚																																				
P38橋脚		64.9												33.0	137.4		5.552																			
P39橋脚		59.1												33.0	137.4		5.548																			
P40橋脚		59.6												35.0	146.1		5.908																			
P41橋脚		53.0												35.0	146.1		5.908																			
P42橋脚		40.9												37.2	154.8		4.764																			
P43橋脚		97.3												37.1	154.7		4.764																			
P44橋脚		68.2												37.1	154.7		4.763																			
P45橋脚	（上り）	139.0												28.7	119.4	4.679		3.6	17.3	1.158				68.0												
	（下り）	139.0												28.7	119.4	4.679		3.6	17.3	1.158				68.0												
P46橋脚	（上り）	134.4												24.2	100.8		5.194	3.6	17.3	1.337				68.0												
	（下り）	134.4															5.973	3.6	17.3	1.337				68.0												
P47橋脚		114.2												35.0	145.7		5.903																			
P48橋脚		114.4												35.0	145.8		5.902																			
P49橋脚		89.9												32.8	136.9		5.523																			
P50橋脚		104.4												32.8	136.9		5.523																			
P51橋脚		129.5												32.8	136.9		5.523																			
P52橋脚		96.6												30.8	128.3		5.169																			
P53橋脚		99.9												30.8	128.3		5.169																			
P54橋脚																																				
P55橋脚		100.7												30.8	128.3		5.169																			
P56橋脚		114.1												30.8	128.3		5.169																			
P57橋脚		113.2												30.8	128.3		5.169																			
P58橋脚		115.2												30.8	128.3		5.169																			
P59橋脚		111.1												30.8	128.3		5.169																			
P60橋脚		121.3												30.8	128.3		5.169																			
P61橋脚		146.6												28.6	119.5		4.817																			
P62橋脚		93.4												28.0	110.3	2.321		1.5	8.5	0.460			60.0													
A2橋台																		4.0	15.9	0.506		68.0														
入間川高架橋 計		7,080.6	127.0	108.8	133.9	98.2	1,150.4	778.2	1,391.5	205.4	80.7	88.4		2,247.6	9,169.6	20.229	319.771	44.7	206.0	10.446	64.0	334.0	316.0	272.0	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0			4.100		24.0	48.0	36.0
合 計		7,080.6	127.0	108.8	133.9	98.2	1,150.4	778.2	1,391.5	205.4	80.7	88.4	260.0	2,247.6	9,169.6	20.229	319.771	44.7	206.0	10.446	64.0	334.0	316.0	272.0	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0	4.0	4.0	4.100	7.708	24.0	48.0	196.0

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	数 量 総 括 表（その２）
縮 尺	－ 図面番号 /
設計会社名	
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

数 量 総 括 表（その３）

名称及び測点	No	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72
	区分	17-(13)							17-(18)	17-(25)	17-(26)	17-(27)	17－(30)		18－(17)		19－(1)	19－(2)		特-(1)				特-(2)		特-(3)	特-(4)			特-(5)			特-(6)				特-(7)	特-(8)
		横変位拘束構造M				アンカー工			桁座埋換用コンクリート表面処理工	関素鐵繊維巻立て下地処理工	関素鐵繊維巻立て工	関素鐵繊維巻立て表面仕上工	コンクリート表面処理工		構造物取壊し工		交通規制工	交通保安要員		中間貫通鋼材工				あと施工せん断補強工		PCM巻立て工	吊り材部改良工			上部工補強工			工事用進入路工				試料採取	宇計上工事に関する事項
		A	B	C	鋼製ブラケットA	φ51・625（下方向）	φ51・830（下方向）	φ61・775（水平方向）	A		A－1	A	A	B	コンクリート構造物取壊し（TypeA）（夜）	コンクリート構造物取壊し（TypeB）（夜）	車線規制A（夜）	交通誘導警備員B1	交通誘導警備員B2	φ42・2000（水平方向）	φ42・2300（水平方向）	φ42・2500（水平方向）	φ42・2600（水平方向）	φ42・2495（水平方向）	φ42・2521（水平方向）		無収縮モルタル（夜）	型わく（夜）	鉄筋（夜）	A	B1（夜）	B2	A1	A2	A3	B	A	
	単位	t	t	t	t	本	本	本	m2	m2	m2	m2	m2	m2	m3	m3	回	人・日	人・日	本	本	本	本	本	本	m3	m3	m2	t	t	t	t	箇所	m3	m3	箇所	箇所	式
牛沢橋																																						
A1橋台																																						
P1橋脚										172.2	172.2	172.2		172.2																					1.0			
上部工															10.0	2.0	168.0										14.1	34.9	0.538		12.706	91.681						
牛沢橋　計										172.2	172.2	172.2		172.2	10.0	2.0	168.0										14.1	34.9	0.538		12.706	91.681				1.0		
入間川高架橋																																						
P1橋脚													10.4																									
P2橋脚									165.6																													
P3橋脚									189.2																													
P4橋脚									190.5																												1.0	
P5橋脚									181.4																													
P6橋脚									181.4																													
P7橋脚									173.4																													
P8橋脚　（上9）									134.2				11.1																0.280							1.0		
（下9）									102.4																				0.296									
P9橋脚　（上9）									101.1											18.0																		
（下9）									101.1											18.0																		
P10橋脚　（上9）									87.5				10.6																0.148							1.0		
（下9）									87.5																				0.148									
P11橋脚									106.5											27.0																		
P12橋脚									182.5																													
P13橋脚									190.1				17.4																							1.0		
P14橋脚									181.8												20.0																	
P15橋脚		2.286	0.480		1.830	24.0	16.0		157.2				15.7									50.0							0.486							1.0		
P16橋脚									276.2											36.0																		
P17橋脚									249.9											36.0														1.0	677.9	238.4			
P18橋脚									236.7											36.0																		
P19橋脚		2.508		2.201	3.970	24.0		24.0	196.3														82.0	121.0	75.0					0.576							1.0		
P20橋脚									168.8																													
P21橋脚									116.1																													
P22橋脚									108.9																													
P23橋脚									101.9																													
P24橋脚									94.7																													
P25橋脚									87.7																													
P26橋脚									87.7																													
P27橋脚									87.7																													
P28橋脚									94.7																													
P29橋脚																																						
P30橋脚									87.7																													

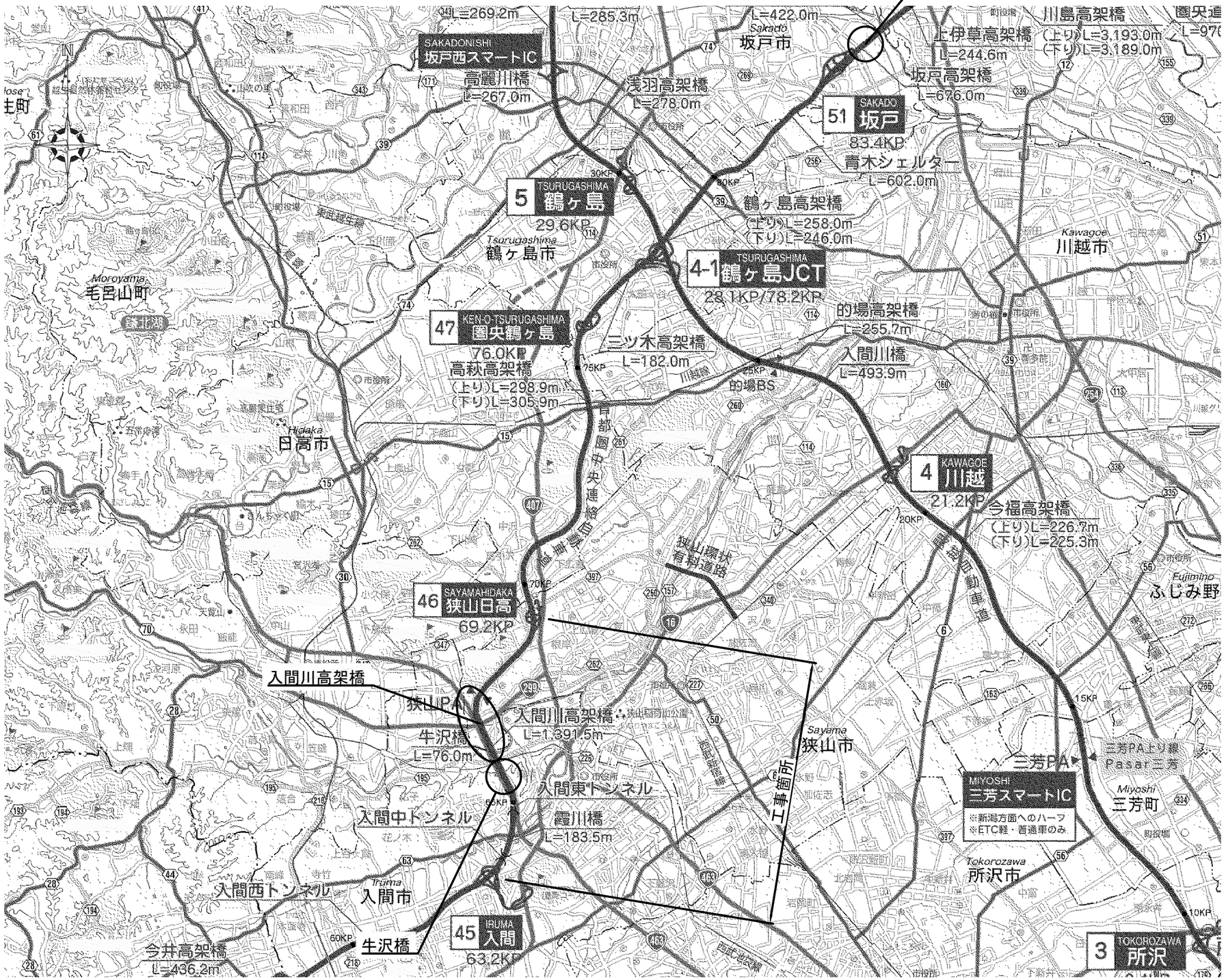
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表（その３）		
縮　尺	－	図面番号	/
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

数 量 総 括 表（その４）

名称及び測点	No	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72
	区分	17−(13)							17−(18)	17−(25)	17−(26)	17−(27)	17−(30)		18−(17)		19−(1)	19−(2)		特−(1)				特−(2)		特−(3)	特−(4)			特−(5)			特−(6)				特−(7)	特−(8)
		橋変位拘束構造M							耐震補強用コンクリート表面処理工	炭素繊維巻立て下地処理工	炭素繊維巻立て工	炭素繊維巻立て表面仕上工	コンクリート表面処理工		構造物取壊し工		交通規制工	交通保安要員		中間貫通鋼材工				あと施工せん断補強工		PCM巻立て工	吊り材部改良工			上部工補強工			工事用進入路工				試料採取	平計上工事に関する事項
		A	B	C	鋼製ブラケットA	アンカー工							A	B	コンクリート構造物取壊し（TypeA）（夜）	コンクリート構造物取壊し（TypeB）（夜）	車線規制A（夜）	交通誘導警備員B1	交通誘導警備員B2	φ42・2000（水平方向）	φ42・2300（水平方向）	φ42・2500（水平方向）	φ42・2600（水平方向）	φ42・2495（水平方向）	φ42・2521（水平方向）		無収縮モルタル（夜）	型わく（夜）	鉄筋（夜）	A	B1（夜）	B2	A1	A2	A3	B	A	
						φ51・625（下方向）	φ51・830（下方向）	φ61・775（水平方向）																														
	単位	t	t	t	t	本	本	本	m2	m2	m2	m2	m2	m2	m3	m3	回	人・日	人・日	本	本	本	本	本	本	m3	m3	m2	t	t	t	t	箇所	m3	m3	箇所	箇所	式
P31橋脚									94.7																												
P32橋脚									94.7																												
P33橋脚									94.7																												
P34橋脚									101.9																												
P35橋脚									101.9																												
P36橋脚									108.9																												
P37橋脚																																					
P38橋脚									116.1																												
P39橋脚									116.1																												
P40橋脚									123.1																												
P41橋脚									123.1																												
P42橋脚									130.3																												
P43橋脚									130.2																												
P44橋脚									130.2																												
P45橋脚	（上り）								103.1				14.3																								
	（下り）								103.1				14.3																								
P46橋脚	（上り）								87.8				14.3																								1.0	
	（下り）												98.9													7.3											
P47橋脚									122.9																												
P48橋脚									122.9																												
P49橋脚									115.7																												
P50橋脚									115.7																												
P51橋脚									115.7																												
P52橋脚									108.6																												
P53橋脚									108.6																												
P54橋脚																																					
P55橋脚									108.6																												
P56橋脚									108.6																												
P57橋脚									108.6																												
P58橋脚									108.6																												
P59橋脚									108.6																												
P60橋脚									108.6																												
P61橋脚									101.5																												
P62橋脚									102.0																												
A2橋台													11.5																								
入間川高架橋 計		4.794	0.480	2.201	5.800	48.0	16.0	24.0	7,933.5				218.5							171.0	20.0	50.0	82.0	121.0	75.0	7.3				1.934			1.0	677.9	238.4		7.0	
合　計		4,794	0.480	2.201	5.800	48.0	16.0	24.0	7,933.5	172.2	172.2	172.2	218.5	172.2	10.0	2.0	168.0	411.0	24.0	171.0	20.0	50.0	82.0	121.0	75.0	7.3	14.1	34.9	0.538	1.934	12.706	91.681	1.0	677.9	238.4	1.0	7.0	1.0

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	数量総括表（その４）
縮　尺	− 図面番号 /
設計会社名	
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

位 置 図　S=1:100,000

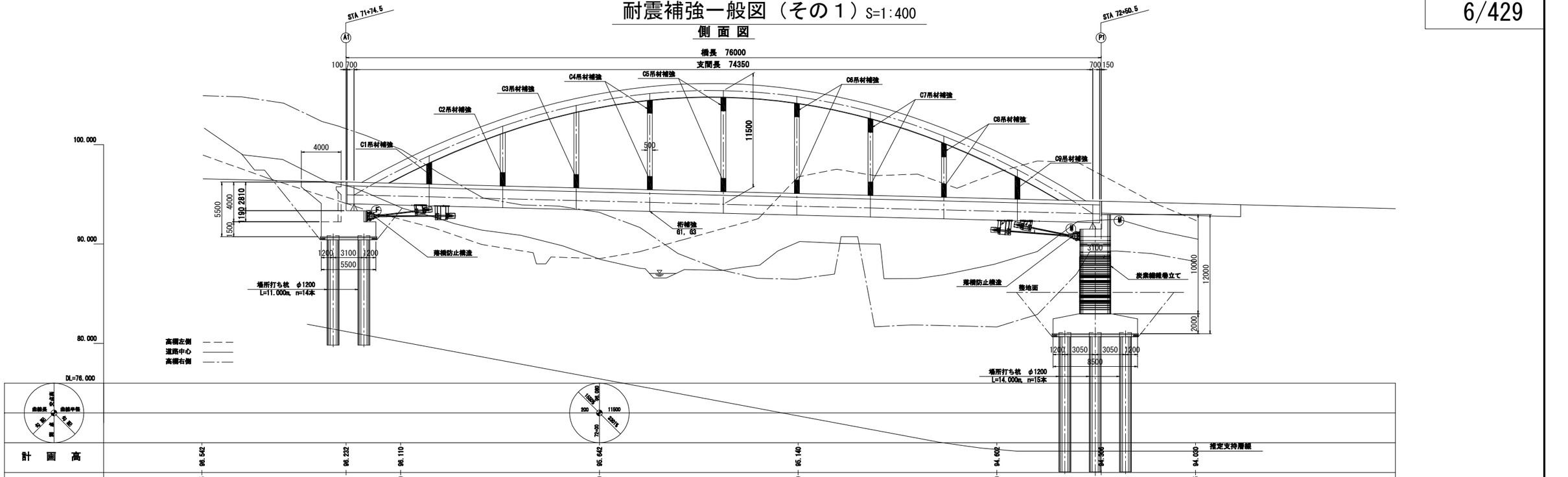


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	位置図		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

牛　沢　橋

耐震補強一般図（その１）S=1:400

側 面 図

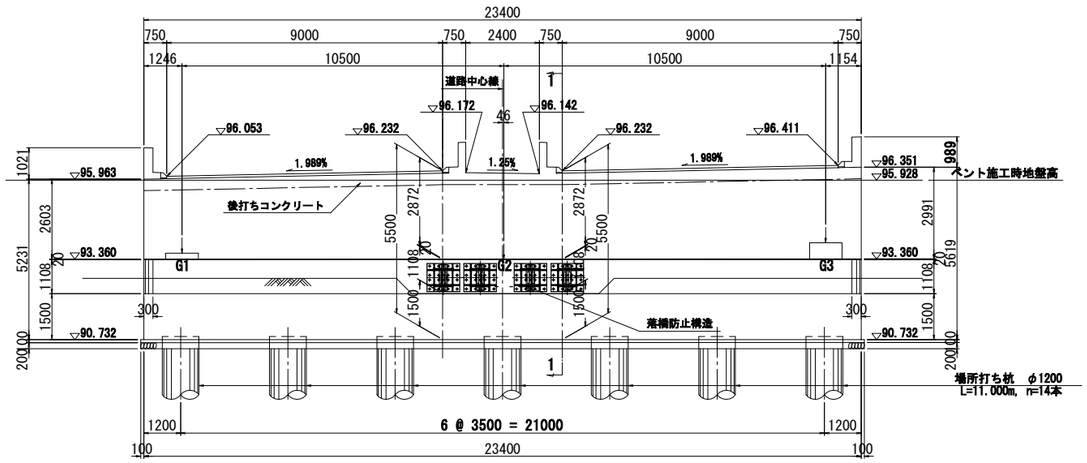


| | | |

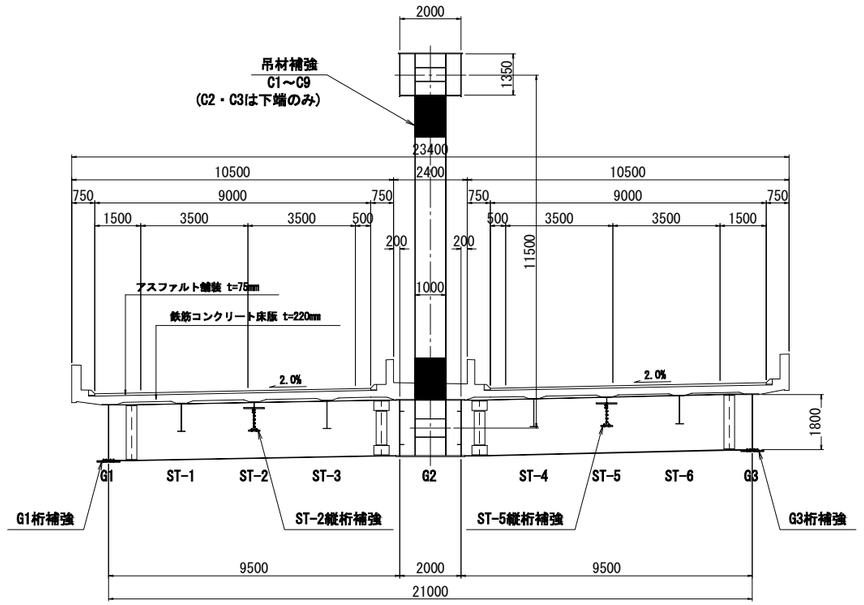
耐震補強一般図（その２）S=1:200

A1橋台

正 面 図

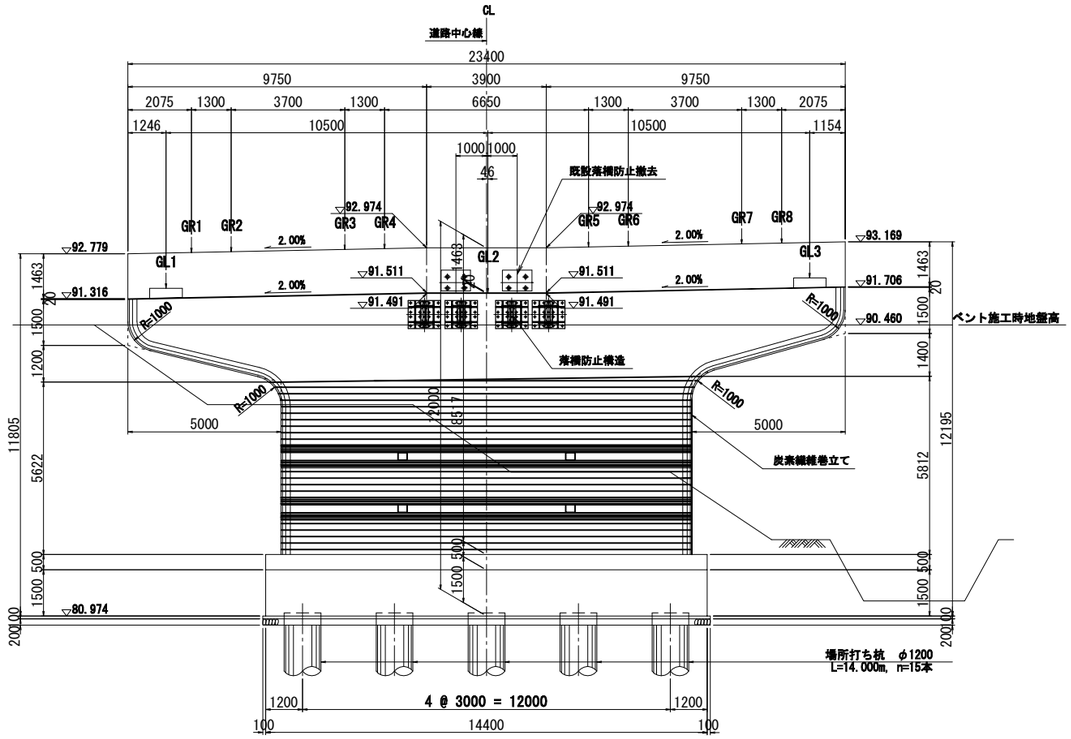


上部工断面図



P1橋脚

正 面 図



設 計 条 件			
橋　長	76.000m	桁 長	75.750m
道路規格	１種３級Ａ		
荷　重	TL-20, TT-43		
形　式	上 部 工	鋼単独ローゼ桁	
	下 部 工	Ａ１～逆Ｔ式橋台，杭基礎	
		Ｐ１～壁式橋脚，杭基礎	
支　間	74.350m		
有効幅員	9.000m	斜 角	90° 00' 00"
横断勾配	2.0%		2.0%
縦断勾配	1.550%	VCL=200m	3.301%
設計震度	KH ＝ 0.2 × 1.0 × 1.0 × 1.0 × 1.25 ＝ 0.25		
使用材料 コンクリート	σck=240kgf/cm²		
使用材料 鉄　筋	SD345		
使用材料 鋼　材	SS400, SM490Y		
適用示方書	道路橋示方書・同解説(H2.2)Ⅰ,Ⅱ,Ⅳ, 設計要領第二集(H2.7)		

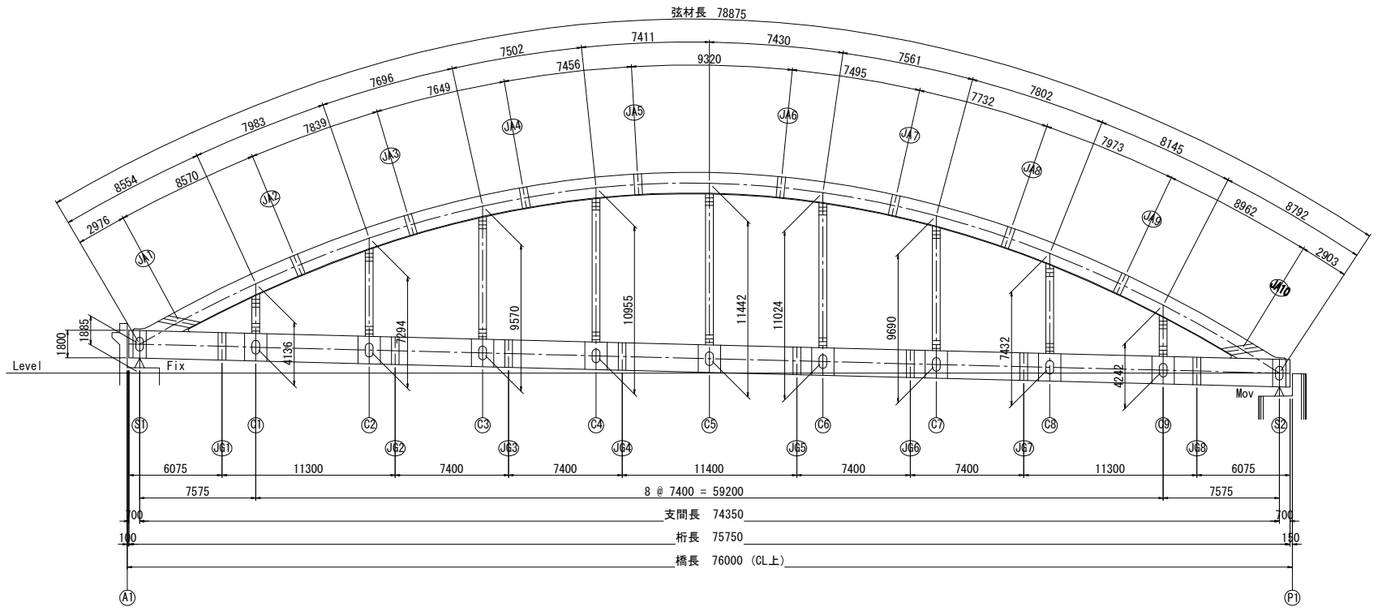
※この図は，完成図を基に復元したものである．

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	牛沢橋 耐震補強一般図（その２）
縮　尺	1:200　図面番号　/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

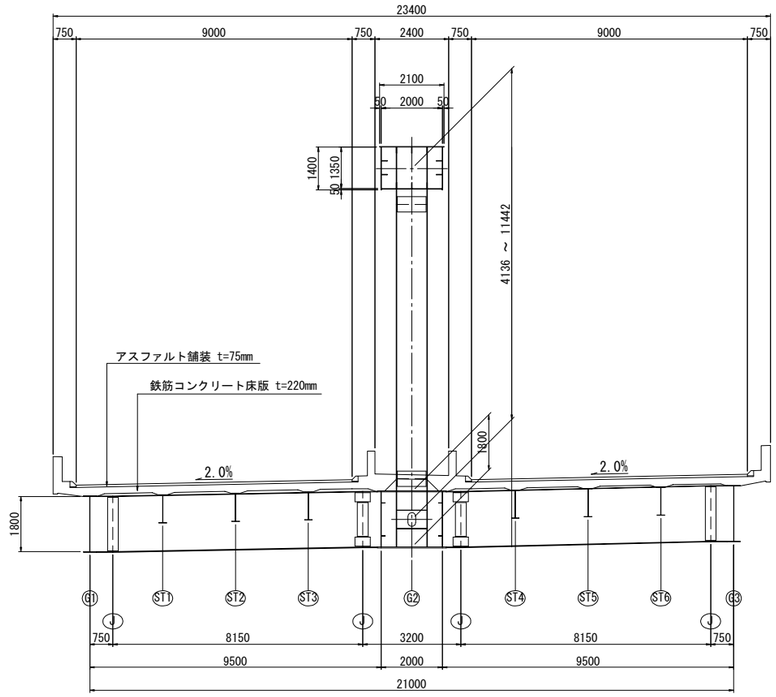
構 造 一 般 図（その１）S=図示

上部工

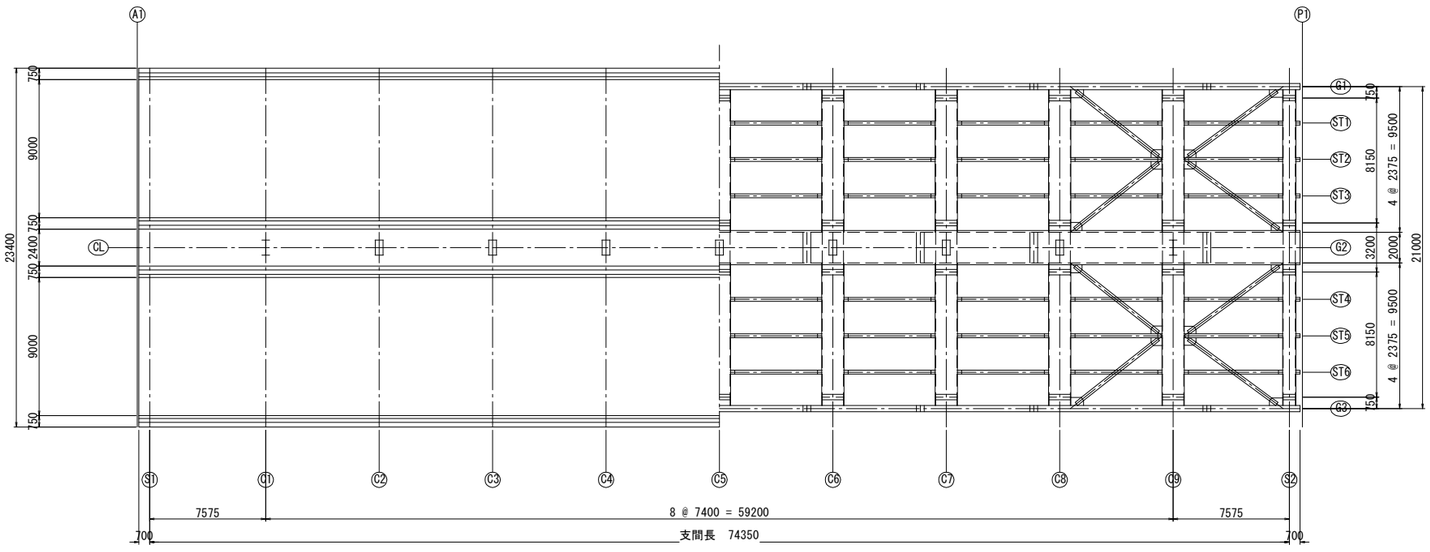
側 面 図 S=1:400



断 面 図 S=1:200



平 面 図 S=1:400



設 計 条 件

道路規格	１種３級
設計速度	80 km/h
橋　　格	１等橋
橋　　種	鋼単弦ローゼ桁
橋　　長	76.000m
支 間 長	74.350m
幅　　員	有効幅員 上り線 9.0m，下り線 9.0m
	総幅員 23.400m
平面線形	R＝10 000m
縦断線形	1.55% ～ 3.301%
	VCL＝200m，VCR＝11500m
横断勾配	片勾配 i＝2.00%
斜　　角	90°
活 荷 重	TT-43，TL-20
設計震度	KH＝0.25
舗　　装	アスファルト舗装厚　75mm
床　　版	RC床版厚　220m
準拠図書	道路橋示方書・同解説（日本道路協会　平成2年2月）
	設計要領第二集（日本道路公団　平成2年7月）

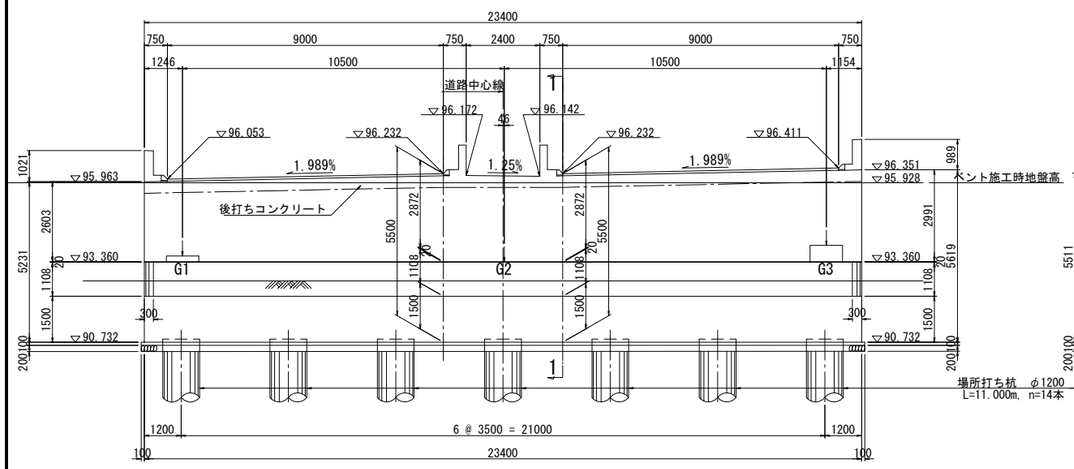
※この図は，完成図を基に復元したものである．

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事				
図面の種類	牛沢橋 構造一般図（その１）			
縮　　尺	図示	図面番号	/	
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所			

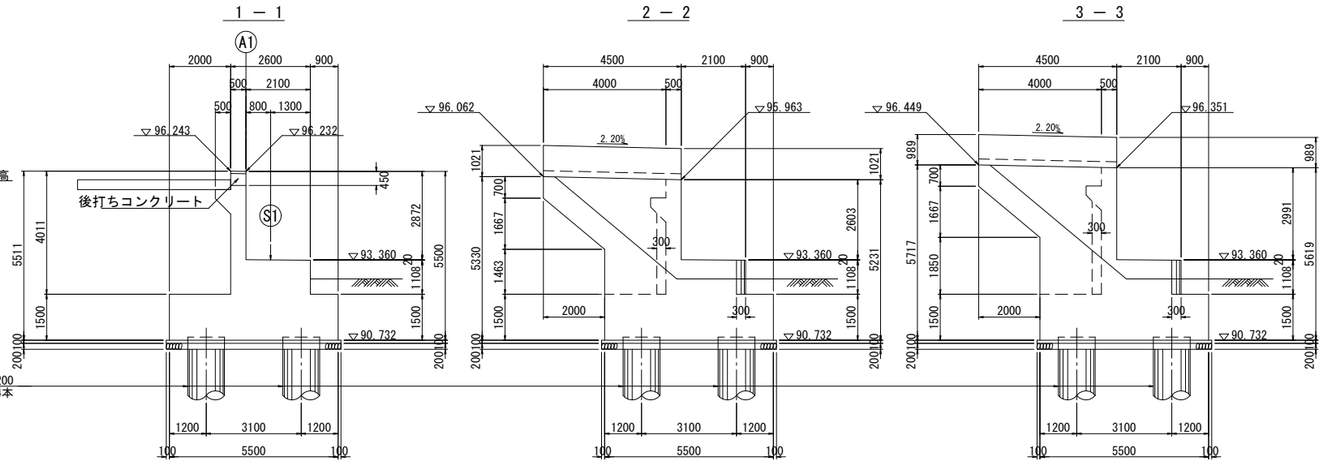
構 造 一 般 図（その２）S=図示

Ａ１橋台

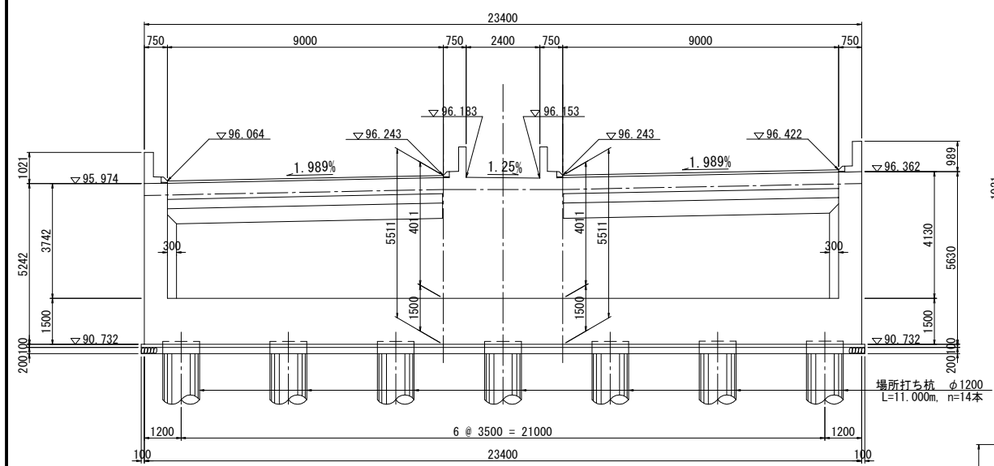
正 面 図 S=1:200



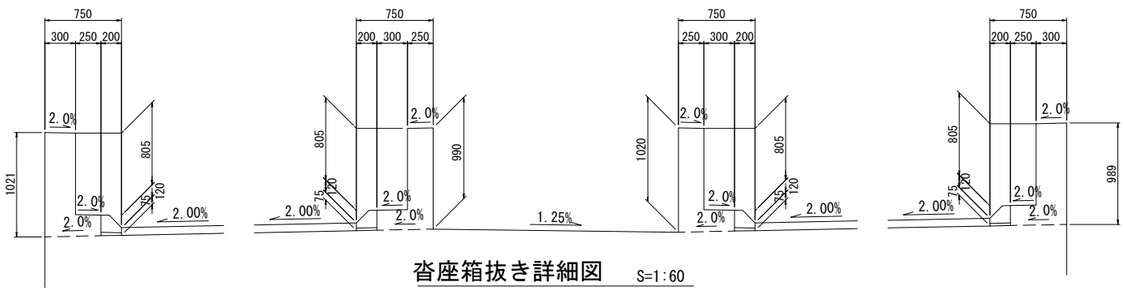
断 面 図 S=1:200



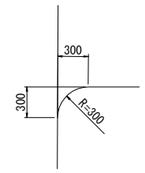
背 面 図 S=1:200



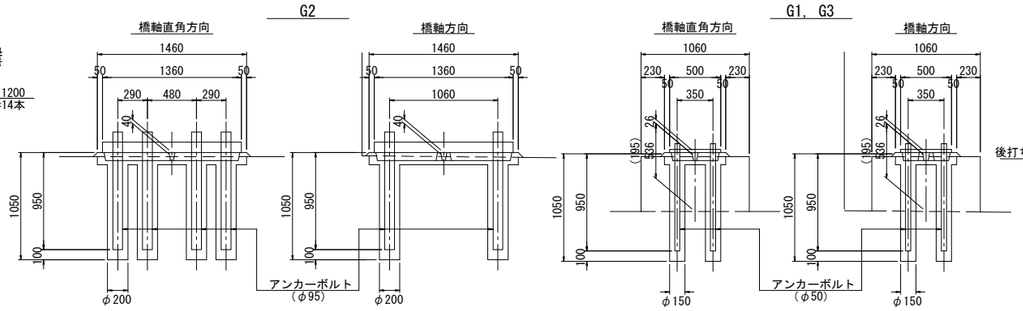
地覆・高蘭詳細図 S=1:60



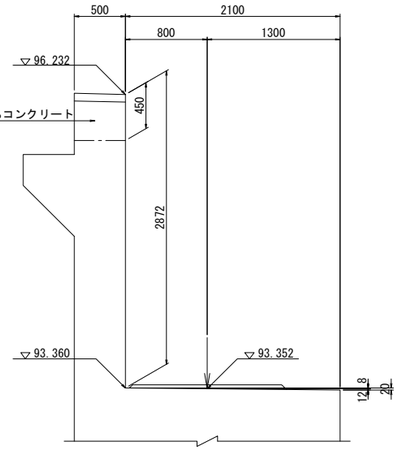
Ａ部詳細図 S=1:60



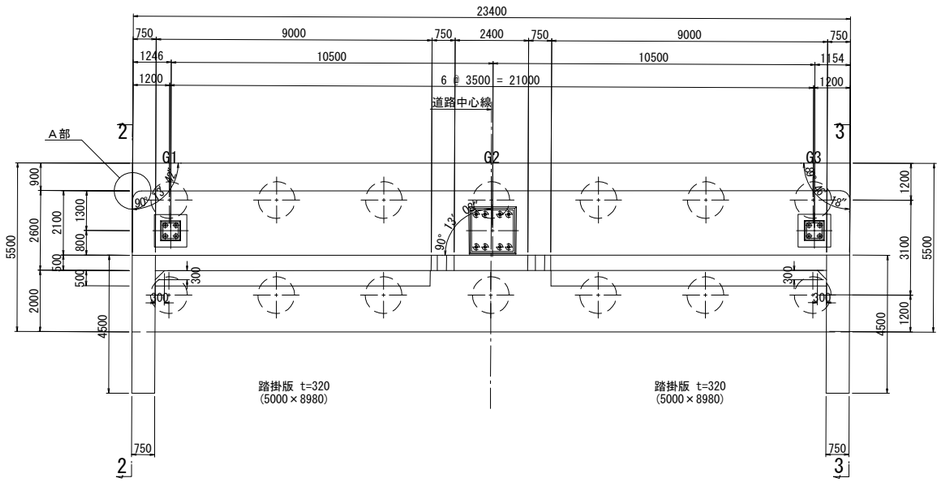
沓座箱抜き詳細図 S=1:60



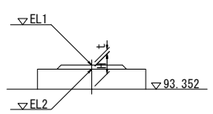
橋座詳細図 S=1:60



平 面 図 S=1:200



橋座高表



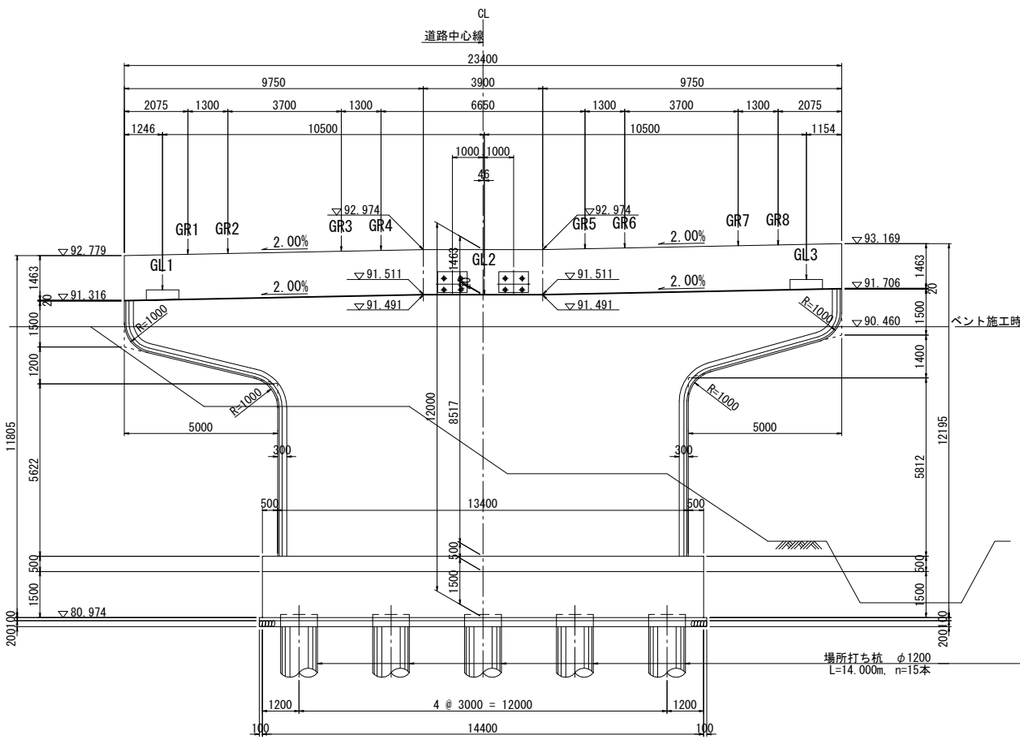
	G1	G2	G3
EL1	93.587	93.392	93.928
モルタル高(t)	40	40	40
EL2	93.547	93.352	93.888
台座高(H)	195	—	536

※この図は，完成図を基に復元したものである．

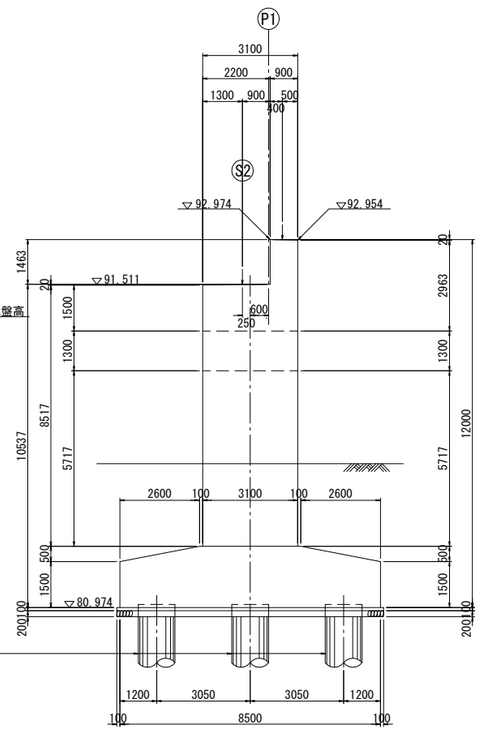
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 構造一般図（その２）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

構 造 一 般 図（その３）S=図示

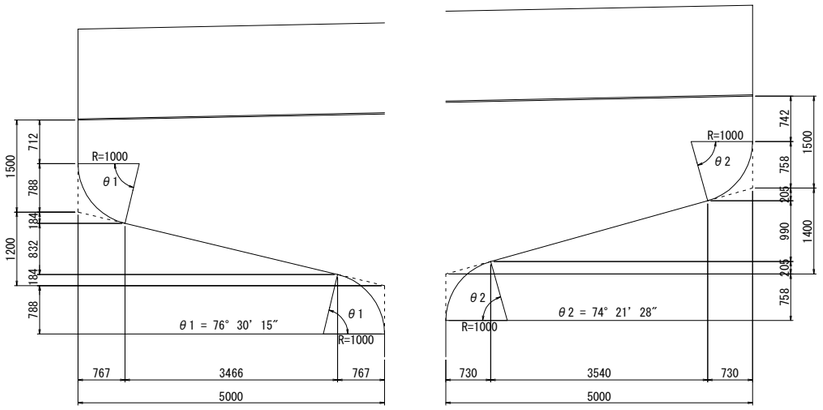
正 面 図 S=1:200



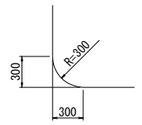
断 面 図 S=1:200



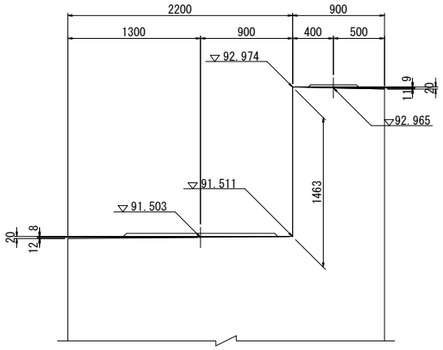
R部詳細図 S=1:100



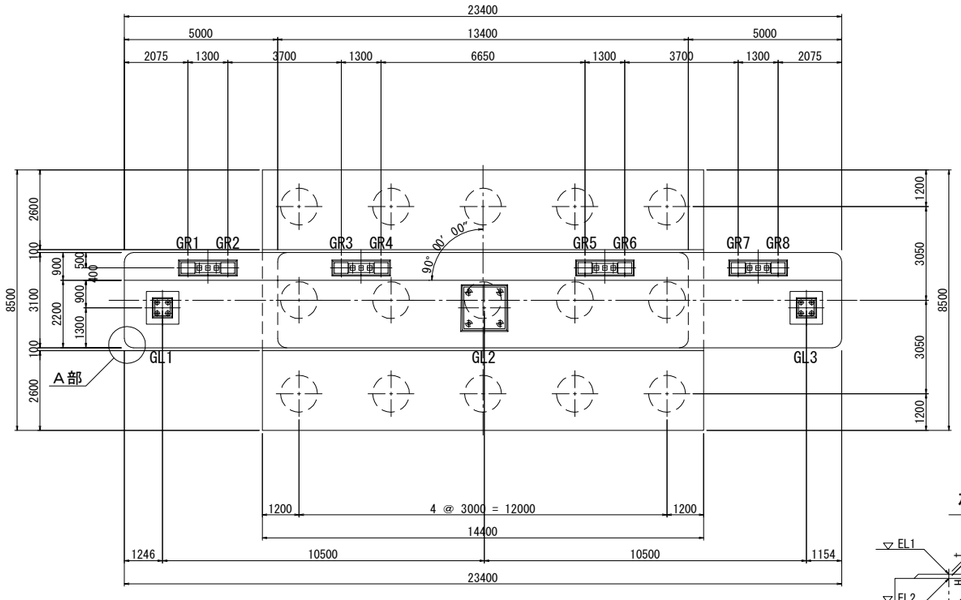
Ａ部詳細図 S=1:60



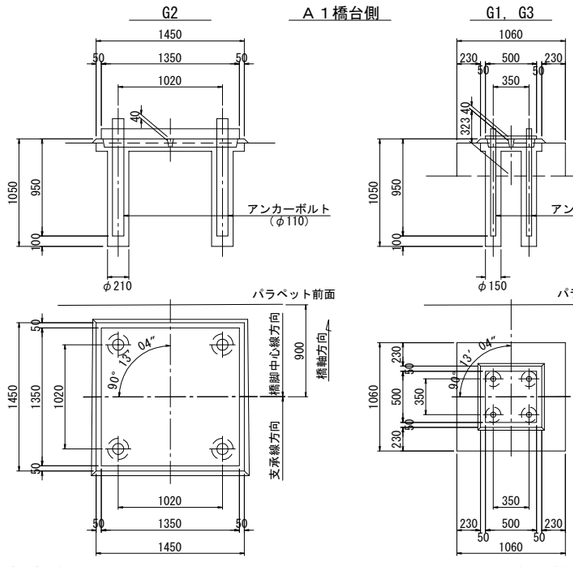
梁天端詳細図 S=1:60



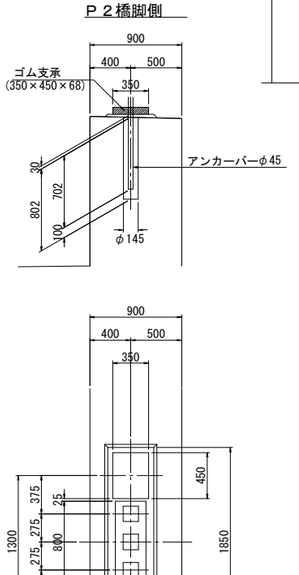
平 面 図 S=1:200



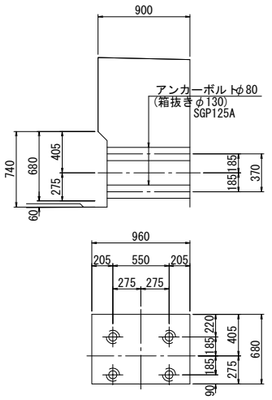
沓座箱抜き詳細図 S=1:60



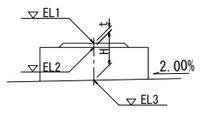
Ｐ２橋脚側



落橋防止装置部 S=1:60



橋座高表



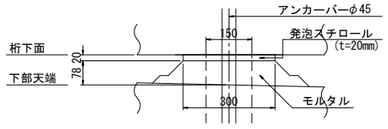
（Ａ１橋台側）

	GL1	GL2	GL3
EL1	91.694	91.543	92.038
モルタル高(t)	40	40	40
EL2	91.654	91.503	91.998
台座高(H)	323	—	323
EL3	91.331	91.503	91.675

（Ｐ２橋脚側）

	GR1	GR2	GR3	GR4	GR5	GR6	GR7	GR8
EL1	92.840	92.866	92.940	92.966	93.022	93.048	93.122	93.148
モルタル高(t)	30	30	30	30	30	30	30	30
EL2	92.810	92.836	92.910	92.936	92.992	93.018	93.092	93.118

アンカーバー部詳細図 S=1:20

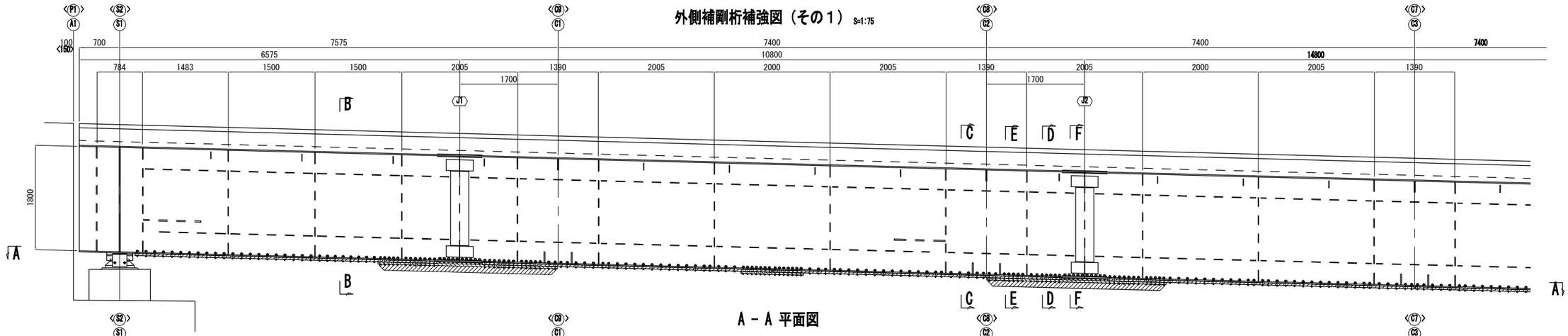


※この図は，完成図を基に復元したものである．

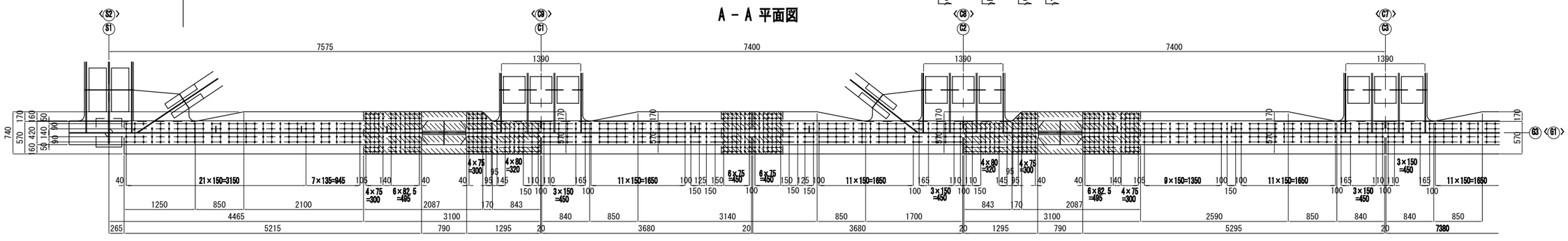
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 構造一般図（その３）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

補強構造図（その１）　S=図示

外側補剛桁補強図（その１）S=1:75



A－A 平面図



外主桁補強（S1～C1, C9～S2区間）1か所当り材料

1-PL　740×38×5215
1-PL　740×38×1295
1-PL　740×38×3100
1-PL　105×14×3060（SM490YA）
114-TCB　M22×　95（S10T）
85-TCB　M22×115（S10T）
104-TCB　M22×135（S10T）

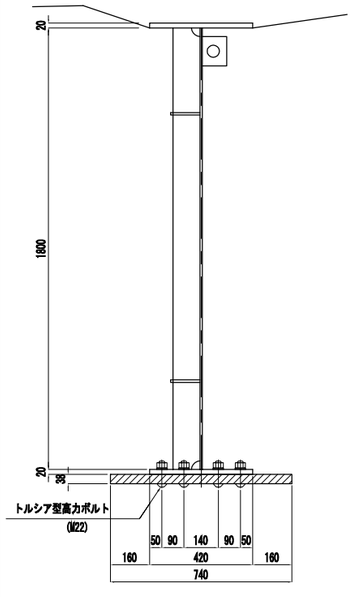
外主桁補強（C1～C2, C8～C9区間）1か所当り材料

2-PL　740×38×3680
1-PL　740×38×1080
174-TCB　M22×　95（S10T）
56-TCB　M22×135（S10T）
56-TCB　M22×115（S10T）

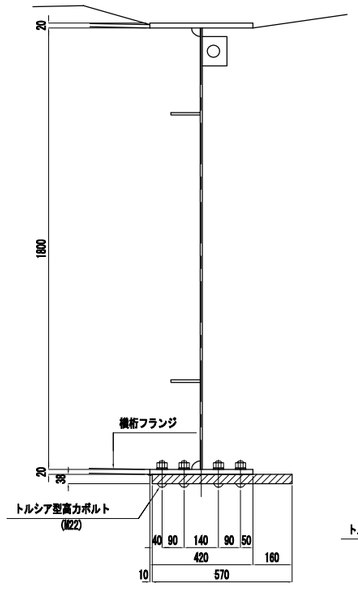
外主桁補強（C2～C3, C7～C8区間）1か所当り材料

1-PL　740×38×1295
1-PL　740×38×5295
1-PL　740×38×3100
1-PL　105×14×3060（SM490YA）
120-TCB　M22×　95（S10T）
85-TCB　M22×115（S10T）
104-TCB　M22×135（S10T）

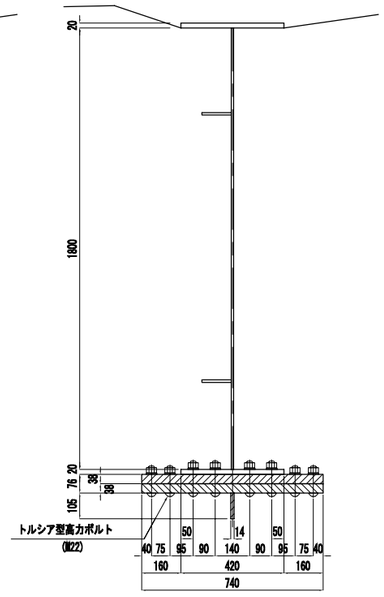
B－B 断面図 S=1:25



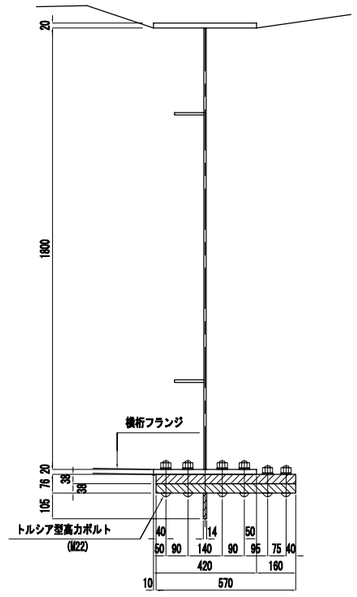
C－C 断面図 S=1:25



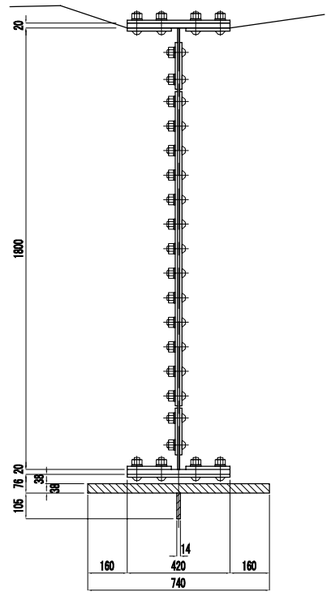
D－D 断面図 S=1:25



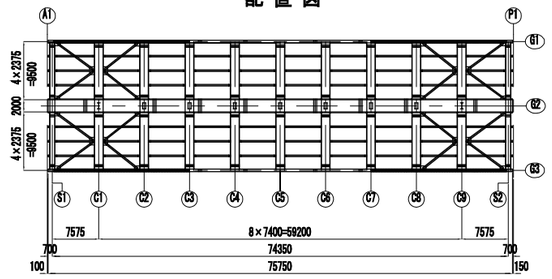
E－E 断面図 S=1:25



F－F 断面図 S=1:25



配置図

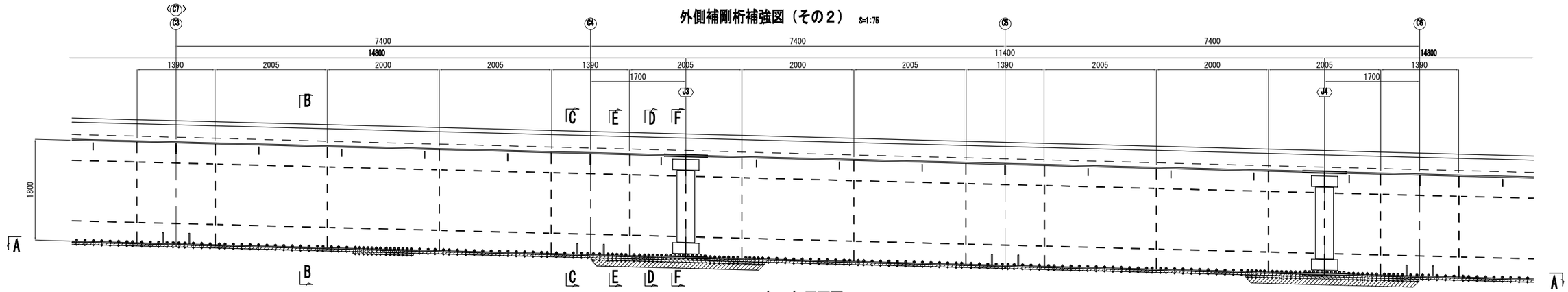


注）
1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
2. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。
3. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

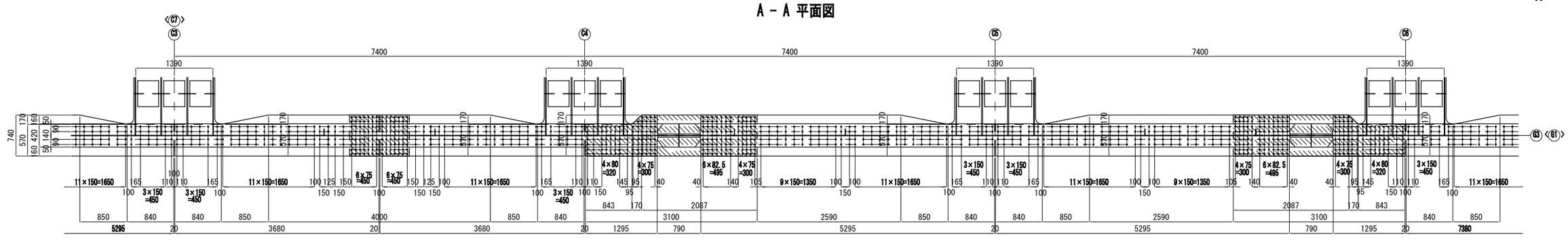
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 補強構造図（その１）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

補強構造図（その２）　S=図示

外側補剛桁補強図（その２）　S=1:75



A－A 平面図



外主桁補強（C3～C4, C6～C7区間）1か所当り材料

2-PL　740×38×3680
1-PL　740×38×1080
176-TCB　M22×　95（S10T）
56-TCB　M22×135（S10T）
56-TCB　M22×115（S10T）

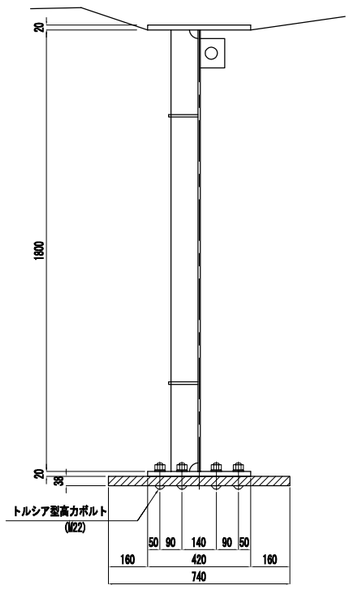
外主桁補強（C4～C5区間）1か所当り材料

1-PL　740×38×1295
1-PL　740×38×5295
1-PL　740×38×3100
1-PL　105×14×3060（SM490YA）
120-TCB　M22×　95（S10T）
85-TCB　M22×115（S10T）
104-TCB　M22×135（S10T）

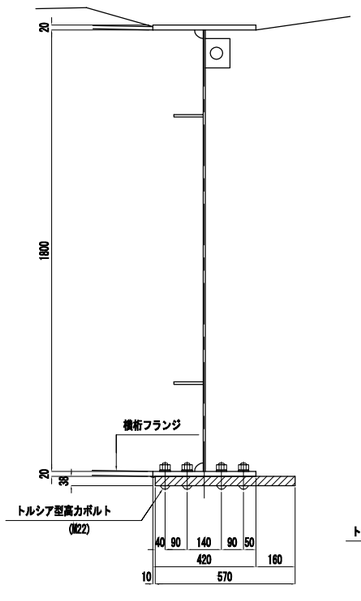
外主桁補強（C5～C6区間）1か所当り材料

1-PL　740×38×1295
1-PL　740×38×5295
1-PL　740×38×3100
1-PL　105×14×3060（SM490YA）
120-TCB　M22×　95（S10T）
85-TCB　M22×115（S10T）
104-TCB　M22×135（S10T）

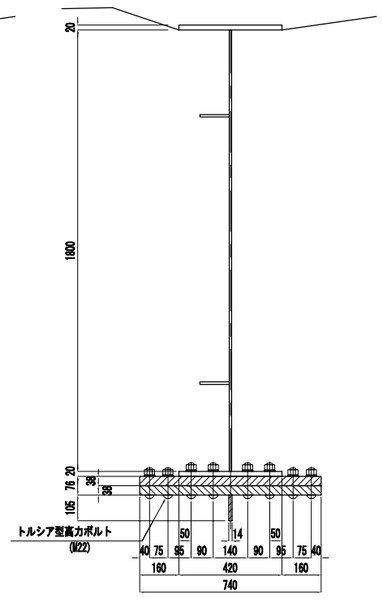
B－B 断面図 S=1:25



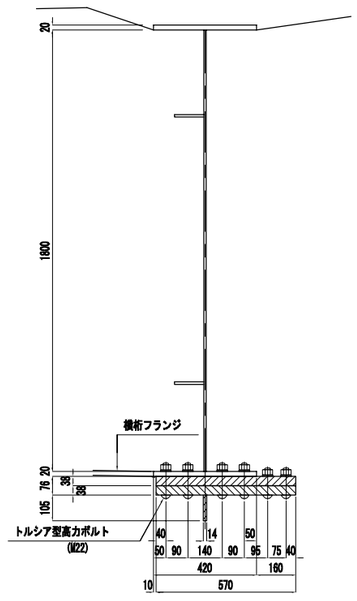
C－C 断面図 S=1:25



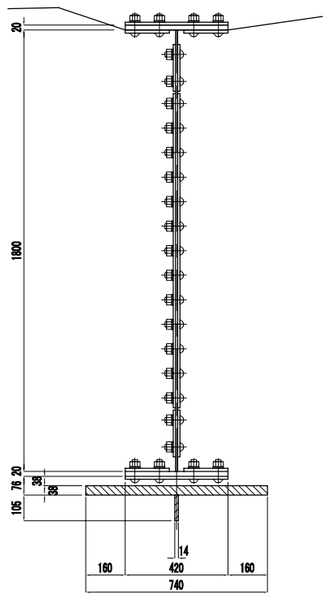
D－D 断面図 S=1:25



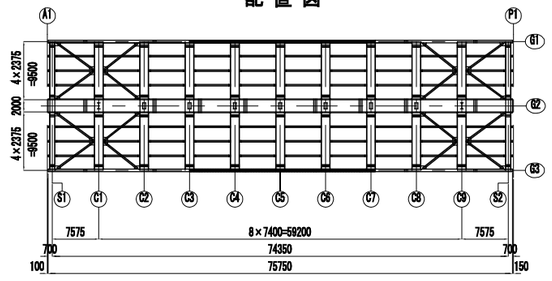
E－E 断面図 S=1:25



F－F 断面図 S=1:25



配 置 図



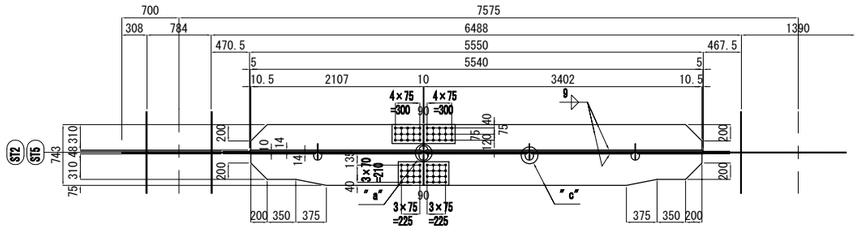
注）
1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
2. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。
3. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	牛沢橋 補強構造図（その２）
縮　尺	図示
図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

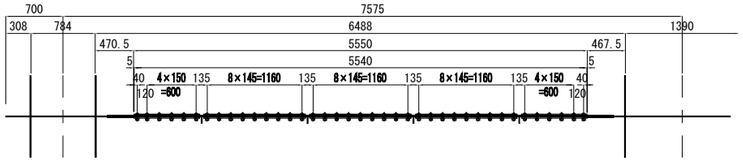
補強構造図（その３）　S=図示

S1～C1, C9～S2区間

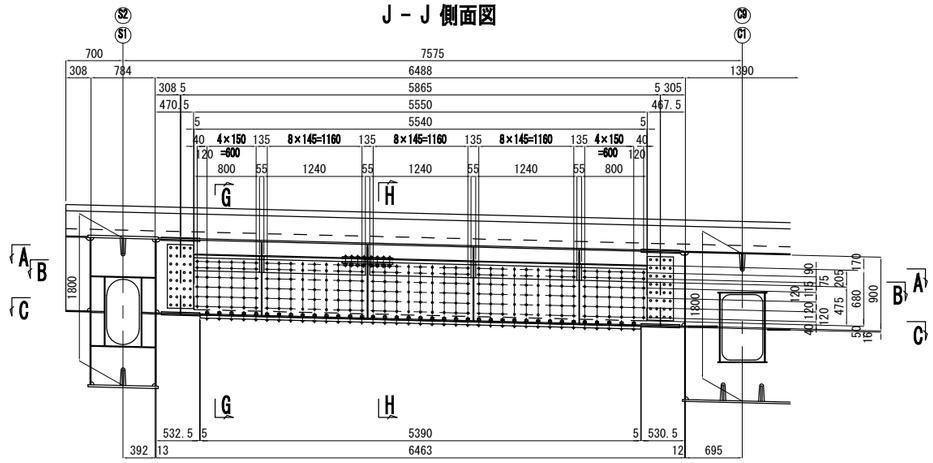
A－A 平面図



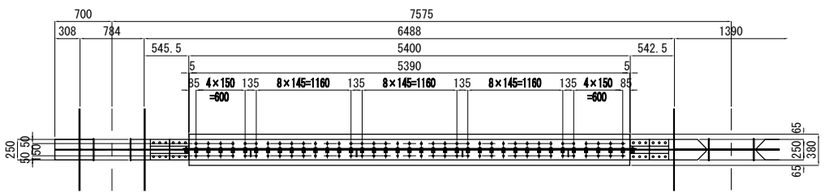
B－B 平面図



J－J 側面図



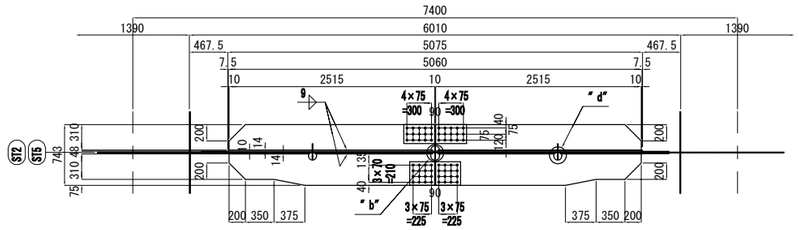
C－C 平面図



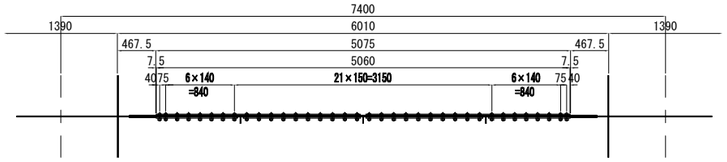
中縦桁補強図 ST2, ST5 S=1:75

C1～C9区間

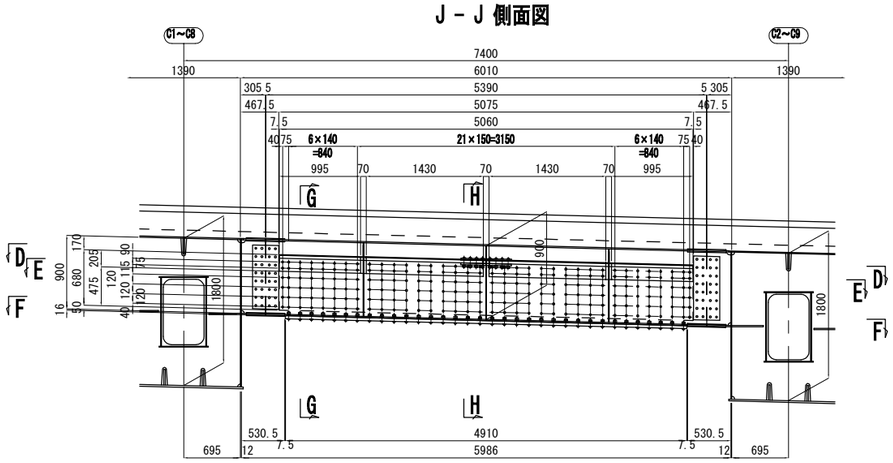
D－D 平面図



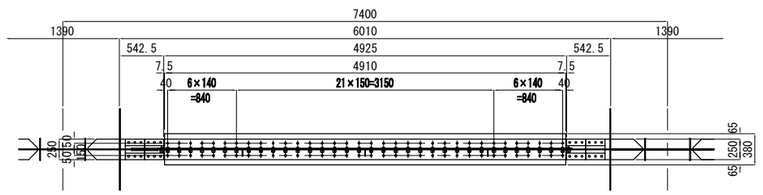
E－E 平面図



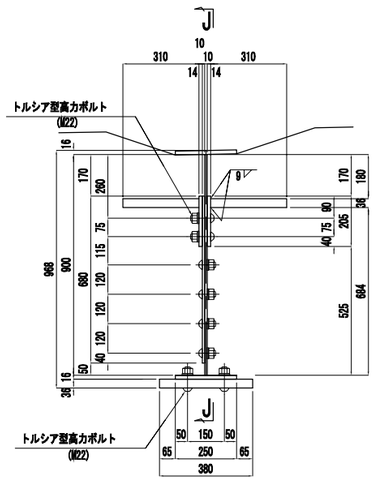
J－J 側面図



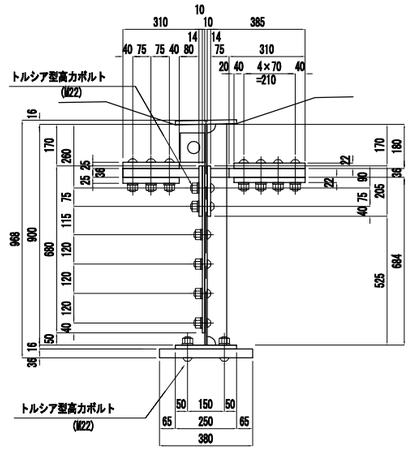
F－F 平面図



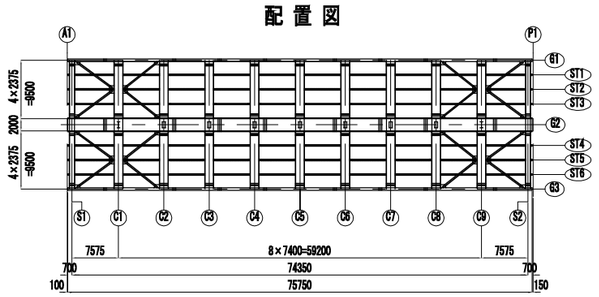
G－G 断面図 S=1:25



H－H 断面図 S=1:25



配置図



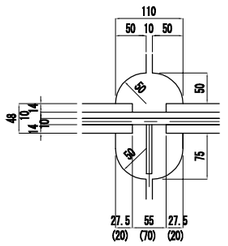
S1～C1, C9～S2区間 中縦桁補強 1か所当り材料

1-Web	PL	680×10×5540	(SS400)
1-Flg	PL	380×36×5390	(SS400)
1-Flg	PL	310×36×2107	(SM400B)
1-Flg	PL	310×36×3402	(SM400B)
1-Flg	PL	385×36×2107	(SM400B)
1-Flg	PL	385×36×3402	(SM400B)
1-Web	PL	205×14×2095	
1-Web	PL	205×14×3390	
3-Web	PL	205×14×1240	
2-Web	PL	205×14× 800	
2-SPL	PL	290×22× 620	(SS400)
2-SPL	PL	230×25× 770	(SS400)
156-TCB		M22× 55	(S10T)
78-TCB		M22× 85	(S10T)
74-TCB		M22× 90	(S10T)
32-TCB		M22×115	(S10T)
30-TCB		M22×125	(S10T)

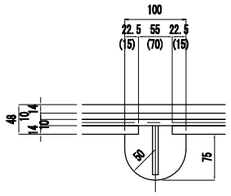
C1～C9区間 中縦桁補強 1か所当り材料

1-Web	PL	680×10×5060	(SS400)
1-Flg	PL	380×36×4910	(SS400)
2-Flg	PL	310×36×2515	(SM400B)
2-Flg	PL	385×36×2515	(SM400B)
2-Web	PL	205×14×2495	
2-Web	PL	205×14×1430	
2-Web	PL	205×14× 995	
2-SPL	PL	290×22× 620	(SS400)
2-SPL	PL	230×25× 770	(SS400)
144-TCB		M22× 55	(S10T)
72-TCB		M22× 85	(S10T)
68-TCB		M22× 90	(S10T)
32-TCB		M22×115	(S10T)
30-TCB		M22×125	(S10T)

"a"("b")部詳細 S=1:10



"c"("d")部詳細 S=1:10



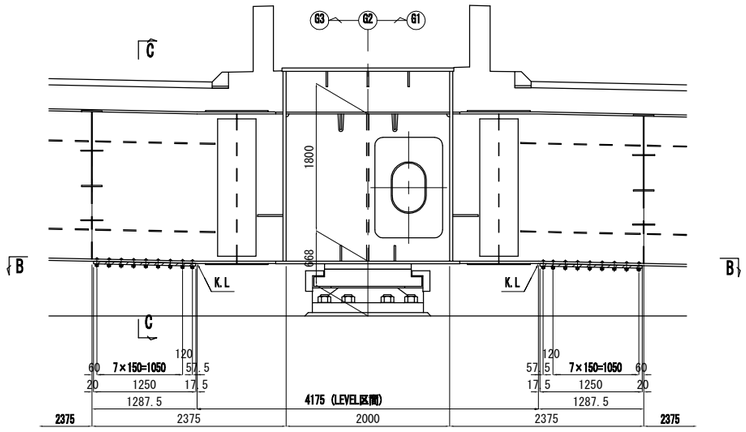
注）
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. スカーラップは、全て50Rとする。
3. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。
4. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 補強構造図（その３）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

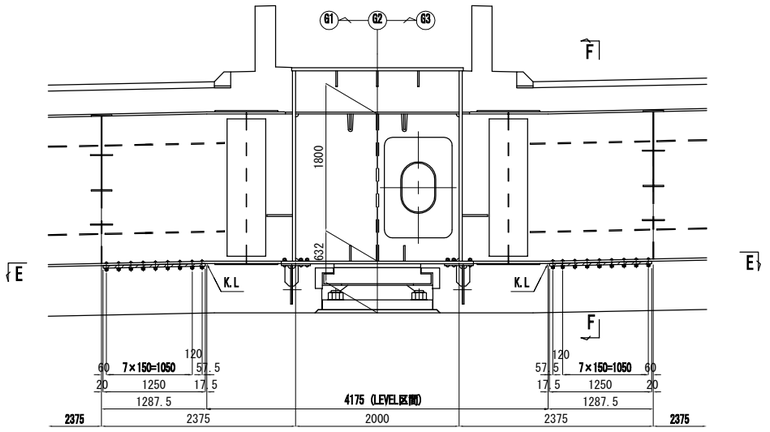
補強構造図（その４）　S=図示

端横桁補強図 S1,S2　　S=1:75

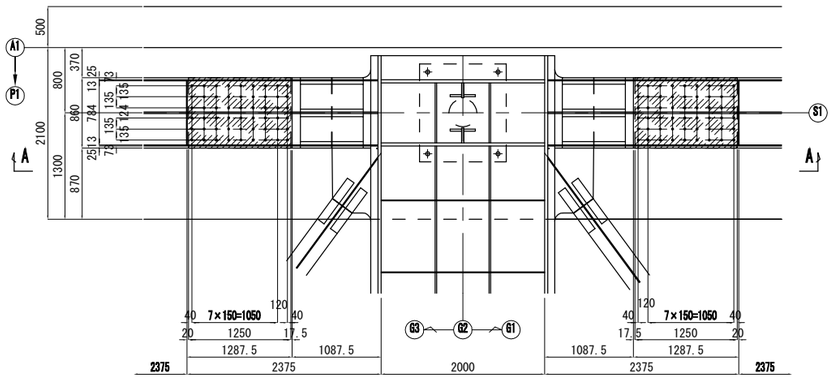
A1橋台側 A－A 正面図



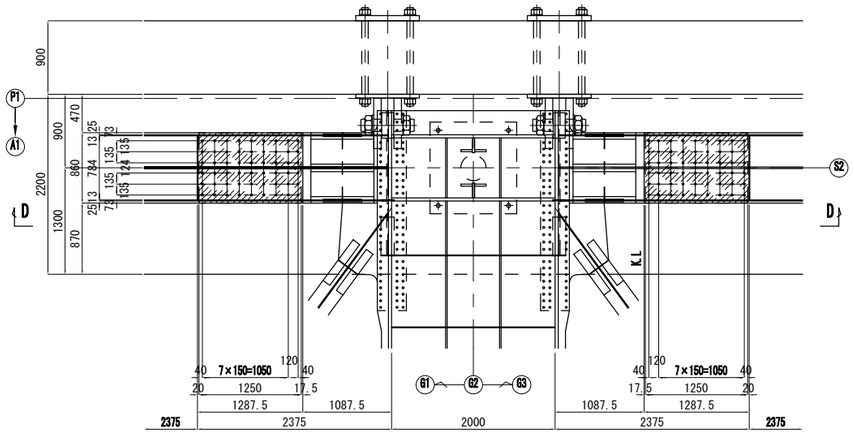
P1橋脚側 D－D 正面図



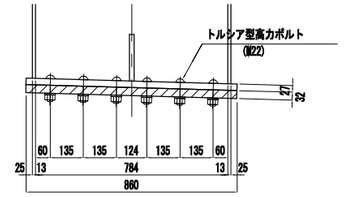
B－B 平面図



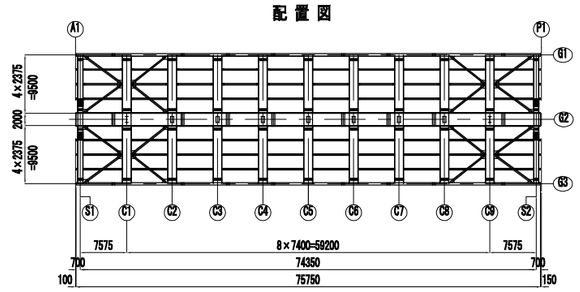
E－E 平面図



″a″部詳細図　S=1:25



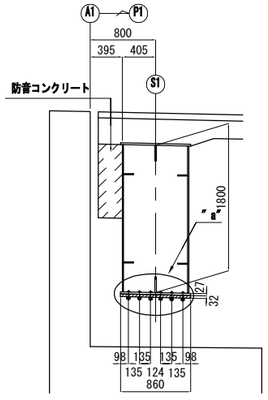
配置図



C－C 断面図

S1側端横桁補強 1か所当り材料

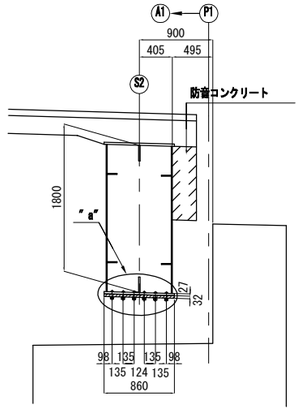
2-Fig PL　860×32×1250(SS400)
108-TCB　M22×95 (S10T)



F－F 断面図

S2側端横桁補強 1か所当り材料

2-Fig PL　860×32×1250(SS400)
108-TCB　M22×95 (S10T)



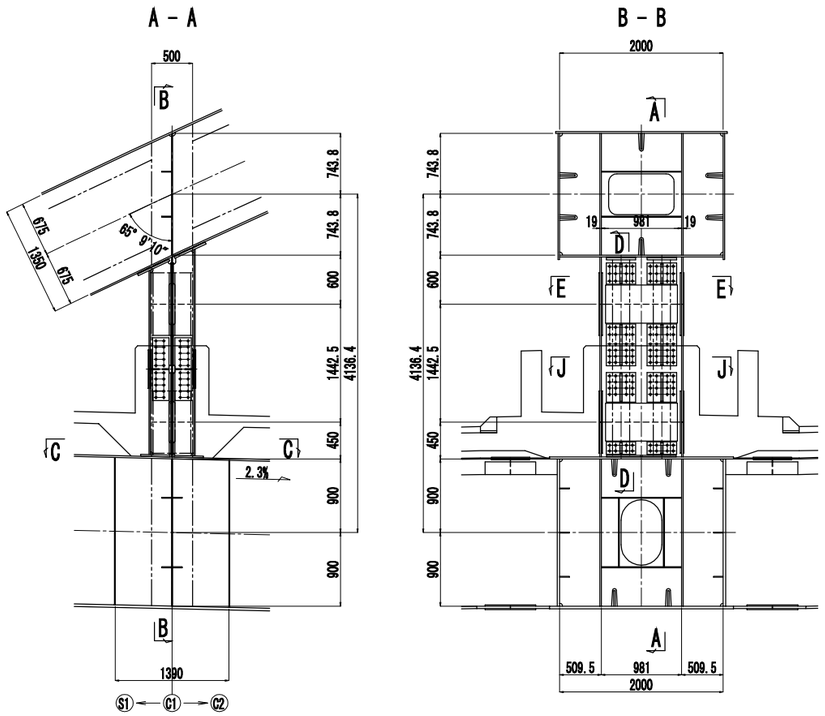
注）
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。
3. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 補強構造図（その４）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

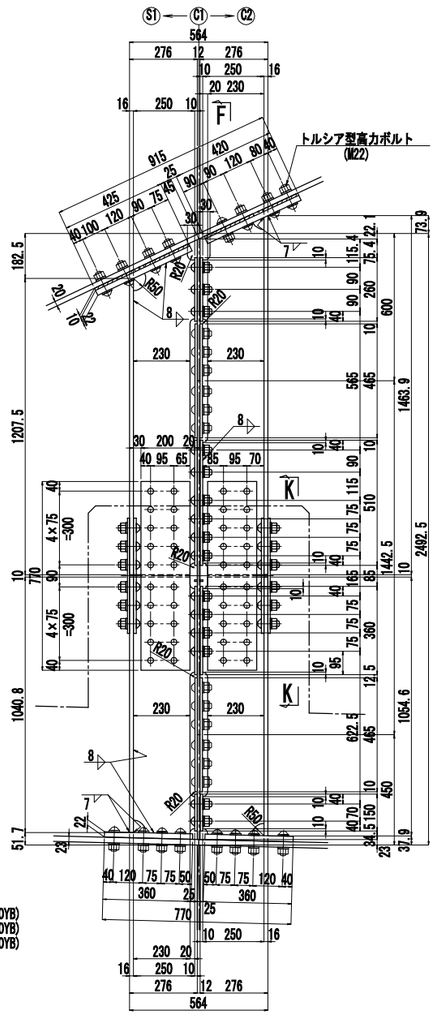
補強構造図（その５）　S=図示

吊材 C1補強図

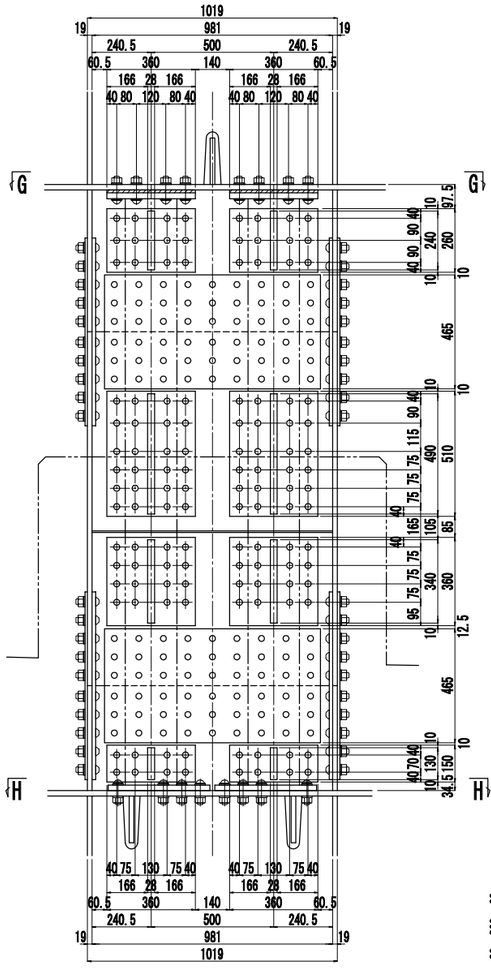
吊材 C1構造図 S=1:75



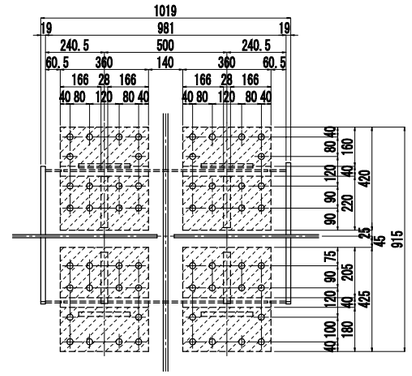
D－D 断面図 S=1:25



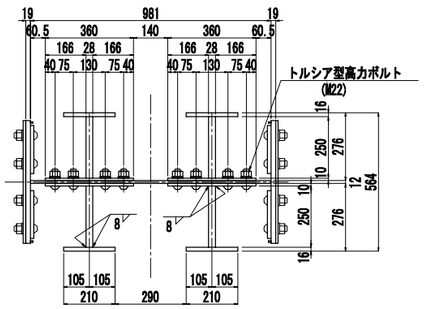
F－F 断面図 S=1:25



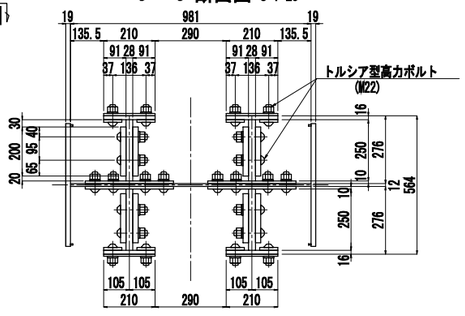
G－G 平面図 S=1:25



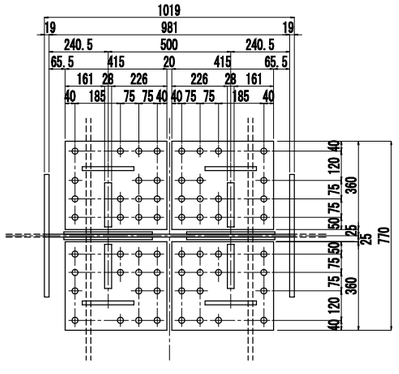
E－E 断面図 S=1:25



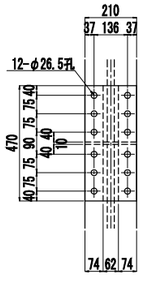
J－J 断面図 S=1:25



H－H 平面図 S=1:25



K－K 側面図 S=1:25

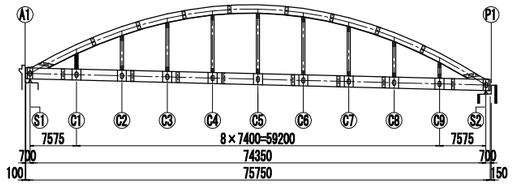


吊材(C1)補強 1か所当り材料

アーチリブ桁側(吊材上部)			
4-Base	PL	360×10× 260	
4-Base	PL	360×10× 510	
2-Base	PL	360×22× 425	(SM490YB)
2-Base	PL	360×22× 420	(SM490YB)
2-Fill	PL	160×10× 360	(SS400)
2-Fill	PL	180×10× 360	(SS400)
2-Fill	PL	205×10× 360	(SS400)
2-Fill	PL	220×10× 360	(SS400)
2-Web	PL	250×28×1311	(SM490YB)
2-Web	PL	250×28×1442	(SM490YB)
2-Flg	PL	210×16×1208	
2-Flg	PL	210×16×1464	
56-TCB		M22×95 (S10T)〈+1W〉	
72-TCB		M22×70 (S10T)	
4-Spl	PL	210× 9× 470	
8-Spl	PL	74×12× 470	
8-Spl	PL	200×22× 770	(SM490YB)
48-TCB		M22× 75 (S10T)	
80-TCB		M22×110 (S10T)	

内側補剛桁側(吊材下部)			
4-Base	PL	360×10× 360	
4-Base	PL	360×10× 150	
4-Base	PL	415×22× 360	(SM490YB)
2-Web	PL	250×28×1047	(SM490YB)
2-Web	PL	250×28×1053	(SM490YB)
2-Flg	PL	210×16×1041	
2-Flg	PL	210×16×1055	
60-TCB		M22×90 (S10T)〈+1W〉	
48-TCB		M22×70 (S10T)	

配 置 図



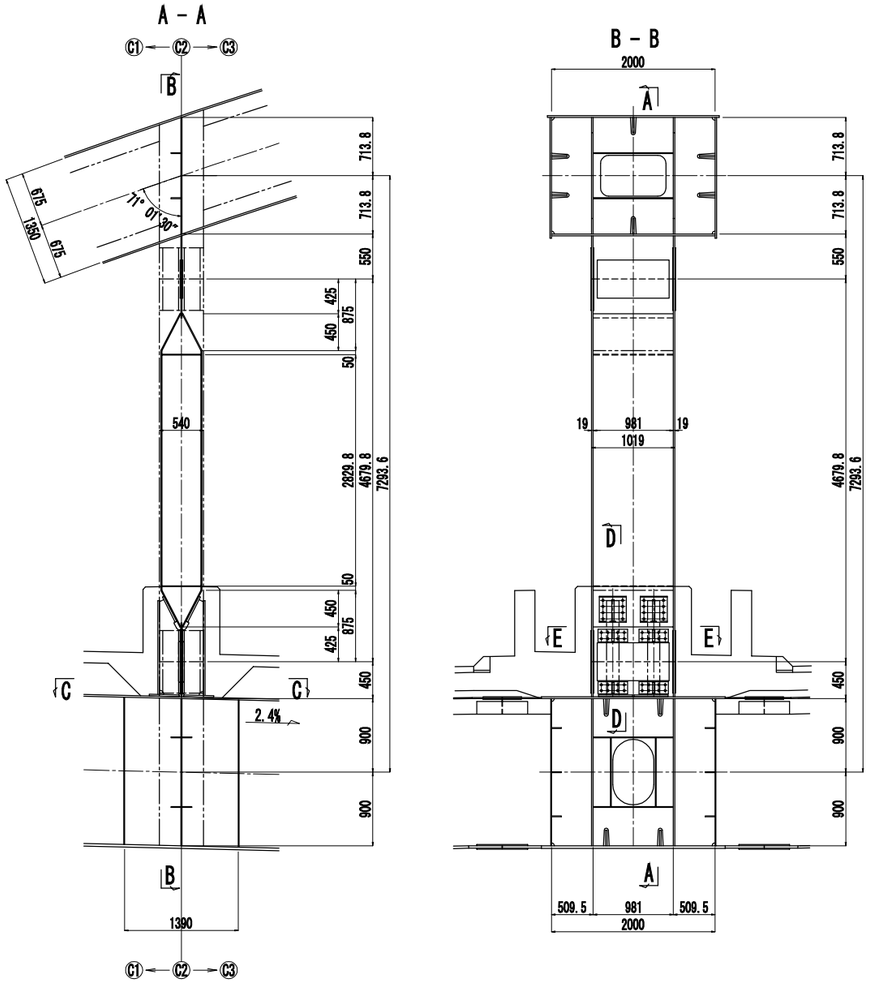
注）
1. 特記なき材質は全てSM490YAとする。
2. スカーラップは、全て50Rとする。
3. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。
4. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 補強構造図（その５）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

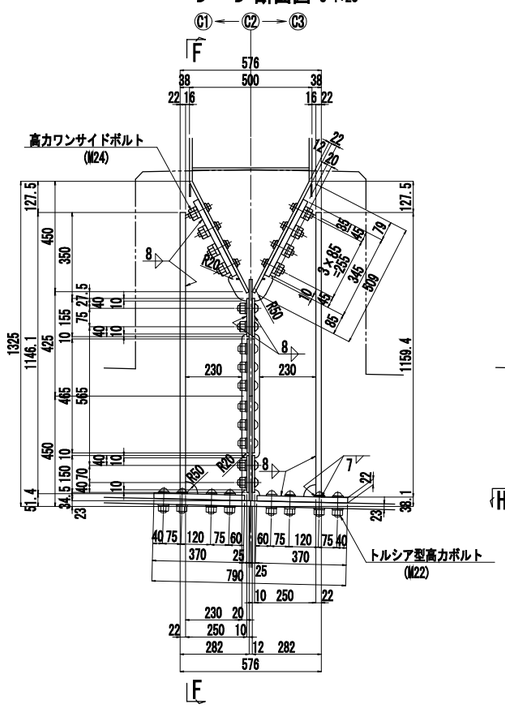
補強構造図（その６）　S=図示

吊材 C2補強図

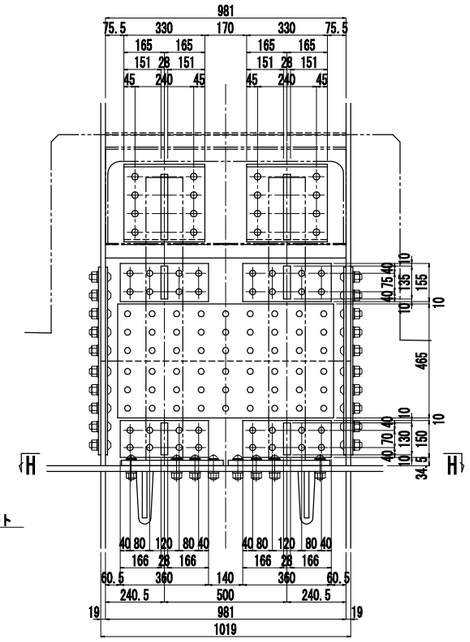
吊材 C2構造図 S=1:75



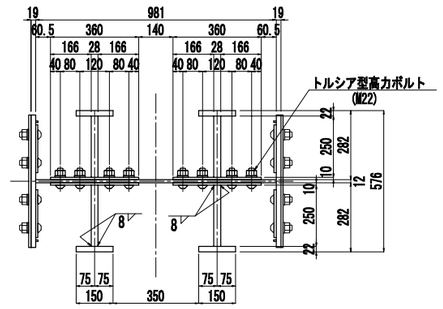
D－D 断面図 S=1:25



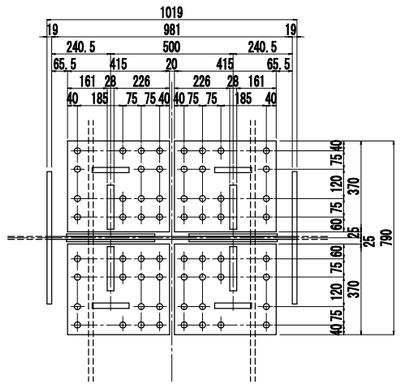
F－F 断面図 S=1:25



E－E 断面図 S=1:25



H－H 平面図 S=1:25

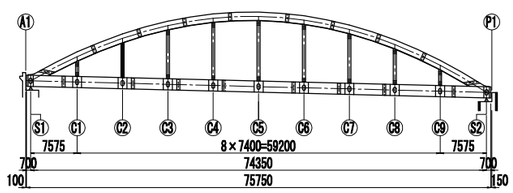


吊材(C2)補強 1か所当り材料

内側補剛桁側(吊材下部)

4-Base	PL	360×10× 150	
4-Base	PL	360×10× 155	
4-Base	PL	415×22× 370	(SM490YB)
4-Base	PL	330×22× 345	(SM490YB)
2-Web	PL	250×28×1165	(SM490YB)
2-Web	PL	250×28×1171	(SM490YB)
2-Flg	PL	150×22×1146	(SM490YB)
2-Flg	PL	150×22×1159	(SM490YB)
60-TCB		M22×90 (S10T)<+1W>	
32-TCB		M22×70 (S10T)	
32-高力ワンサイドボルト		M24×35 (MUTF24)	

配置図



注）

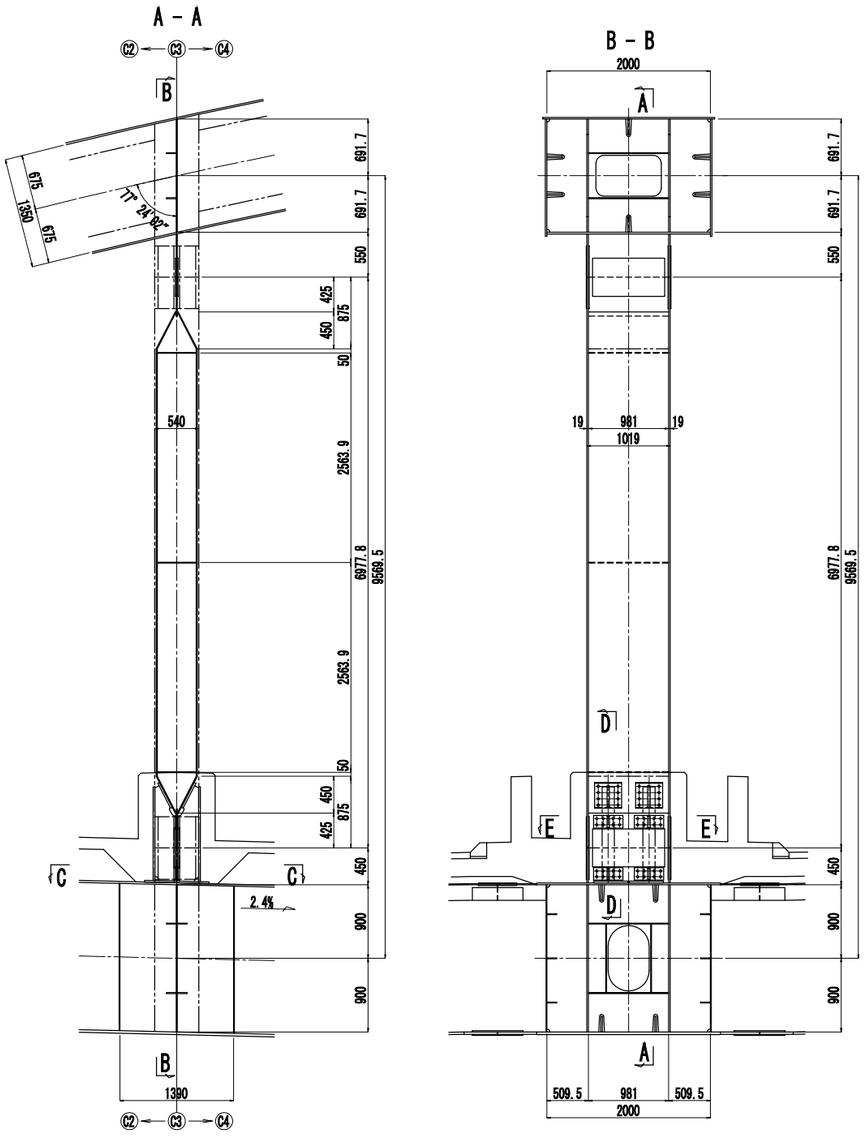
1. 特記なき材質は全てSM490YAとする。
2. スカーラップは、全て50Rとする。
3. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。
4. 高力ワンサイドボルトの孔明け径は、既設部φ25.0mm、補強材部φ27.0mmとする。
5. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事				
図面の種類	牛沢橋 補強構造図（その６）			
縮　尺	図示	図面番号	/	
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所			

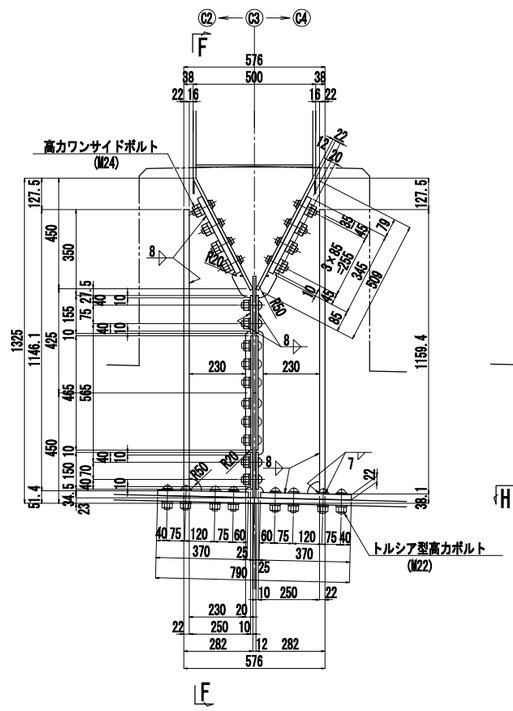
補強構造図（その７）　S=図示

吊材 C3補強図

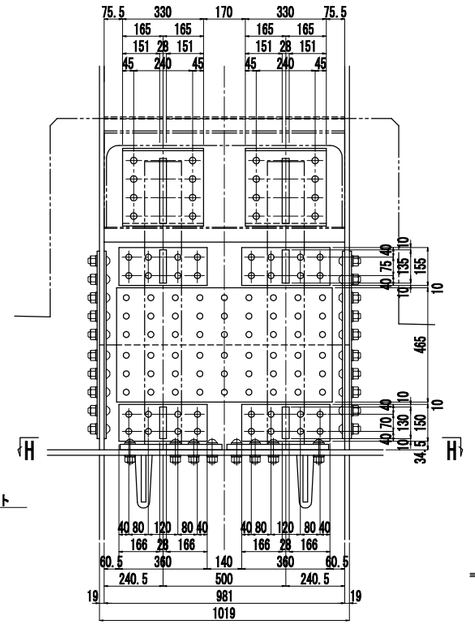
吊材 C3構造図 S=1:75



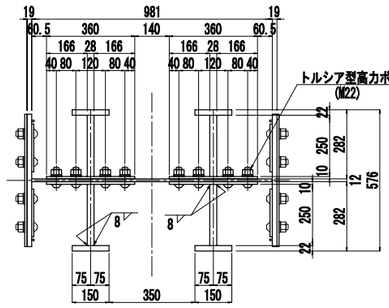
D－D 断面図 S=1:25



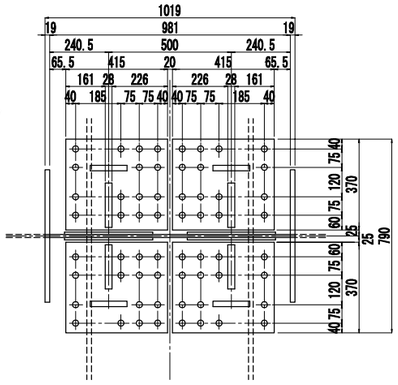
F－F 断面図 S=1:25



E－E 断面図 S=1:25



H－H 平面図 S=1:25

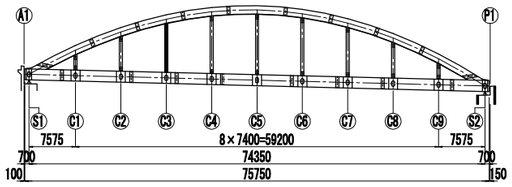


吊材(C3)補強 1か所当り材料

内側補剛桁側(吊材下部)

4-Base	PL	360×10× 150	
4-Base	PL	360×10× 155	
4-Base	PL	415×22× 370	(SM490YB)
4-Base	PL	330×22× 345	(SM490YB)
2-Web	PL	250×28×1165	(SM490YB)
2-Web	PL	250×28×1171	(SM490YB)
2-Flg	PL	150×22×1146	(SM490YB)
2-Flg	PL	150×22×1159	(SM490YB)
60-TCB		M22×90 (S10T)<+1W>	
32-TCB		M22×70 (S10T)	
32-高力ワンサイドボルト		M24×35	(MUTF24)

配置図



注）

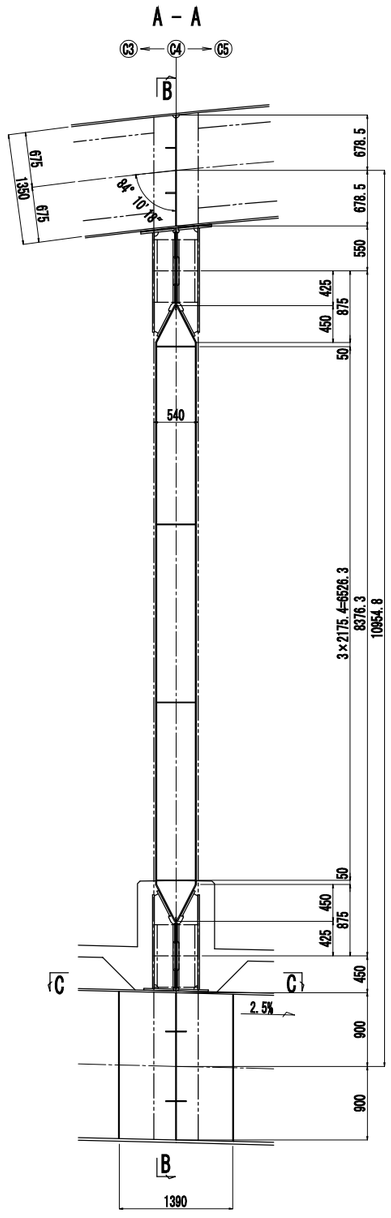
1. 特記なき材質は全てSM490YAとする。
2. スカーラップは、全て50Rとする。
3. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、
   補強材部φ26.5mmとする。
4. 高力ワンサイドボルトの孔明け径は、既設部φ25.0mm、
   補強材部φ27.0mmとする。
5. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 補強構造図（その７）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

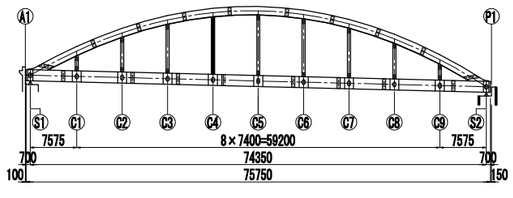
補強構造図（その８）　S=図示

吊材 C4補強図

吊材 C4構造図 S=1:75



配置図



吊材(C4)補強 1か所当り材料

アーチリブ桁側(吊材上部)

4-Base PL	360×10×	305	
4-Base PL	360×10×	230	
4-Base PL	360×22×	410	(SM490YB)
4-Base PL	330×22×	345	(SM490YB)
4-Fill PL	170×10×	360	(SS400)
4-Fill PL	200×10×	360	(SS400)
2-Web PL	250×28×1255		(SM490YB)
2-Web PL	250×28×1280		(SM490YB)
2-Flg PL	150×22×1217		(SM490YB)
2-Flg PL	150×22×1275		(SM490YB)
56-TCB	M22×95 (S10T)<十1軸>		
56-TCB	M22×70 (S10T)		
32-高力ワンサイドボルト	M24×35 (MUTF24)		

内側補剛桁側(吊材下部)

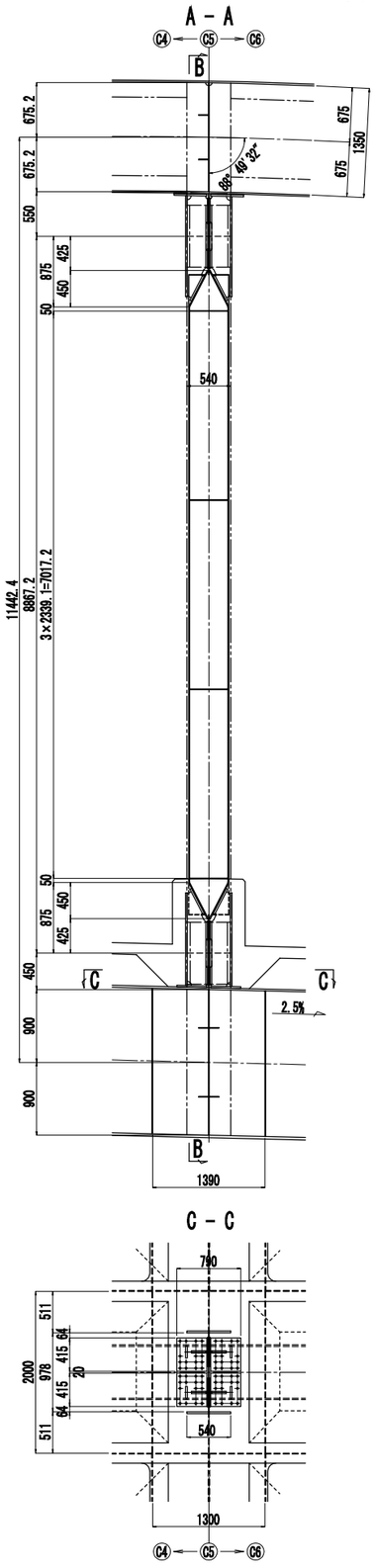
4-Base PL	360×10×	225	
4-Base PL	360×10×	230	
4-Base PL	415×22×	370	(SM490YB)
4-Base PL	330×22×	345	(SM490YB)
2-Web PL	250×28×1165		(SM490YB)
2-Web PL	250×28×1171		(SM490YB)
2-Flg PL	150×22×1146		(SM490YB)
2-Flg PL	150×22×1160		(SM490YB)
60-TCB	M22×90 (S10T)<十1軸>		
48-TCB	M22×70 (S10T)		
32-高力ワンサイドボルト	M24×35 (MUTF24)		

注）
1. 特記なき材質は全てSM490YAとする。
2. スカーラップは、全て50Rとする。
3. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。
4. 高力ワンサイドボルトの孔明け径は、既設部φ25.0mm、補強材部φ27.0mmとする。
5. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 補強構造図（その８）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

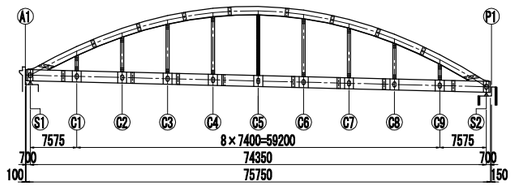
補強構造図（その９）　S=図示

吊材 C5構造図 S=1:75



吊材 C5補強図

配置図



吊材(C5)補強 1か所当り材料

アーチリブ桁側(吊材上部)

4-Base	PL	360×10× 305	
4-Base	PL	360×10× 230	
4-Base	PL	360×22× 405	(SM490YB)
4-Base	PL	330×22× 345	(SM490YB)
4-Fill	PL	165×10× 360	(SS400)
4-Fill	PL	200×10× 360	(SS400)
2-Web	PL	250×28×1263	(SM490YB)
2-Web	PL	250×28×1258	(SM490YB)
2-Flg	PL	150×22×1251	(SM490YB)
2-Flg	PL	150×22×1239	(SM490YB)
56-TCB		M22×95 (S10T)〈十1W〉	
56-TCB		M22×70 (S10T)	
32-高力ワンサイドボルト		M24×35 (MUTF24)	

内側補剛桁側(吊材下部)

4-Base	PL	360×10× 225	
4-Base	PL	360×10× 230	
4-Base	PL	415×22× 370	(SM490YB)
4-Base	PL	330×22× 345	(SM490YB)
2-Web	PL	250×28×1165	(SM490YB)
2-Web	PL	250×28×1171	(SM490YB)
2-Flg	PL	150×22×1146	(SM490YB)
2-Flg	PL	150×22×1160	(SM490YB)
60-TCB		M22×90 (S10T)〈十1W〉	
48-TCB		M22×70 (S10T)	
32-高力ワンサイドボルト		M24×35 (MUTF24)	

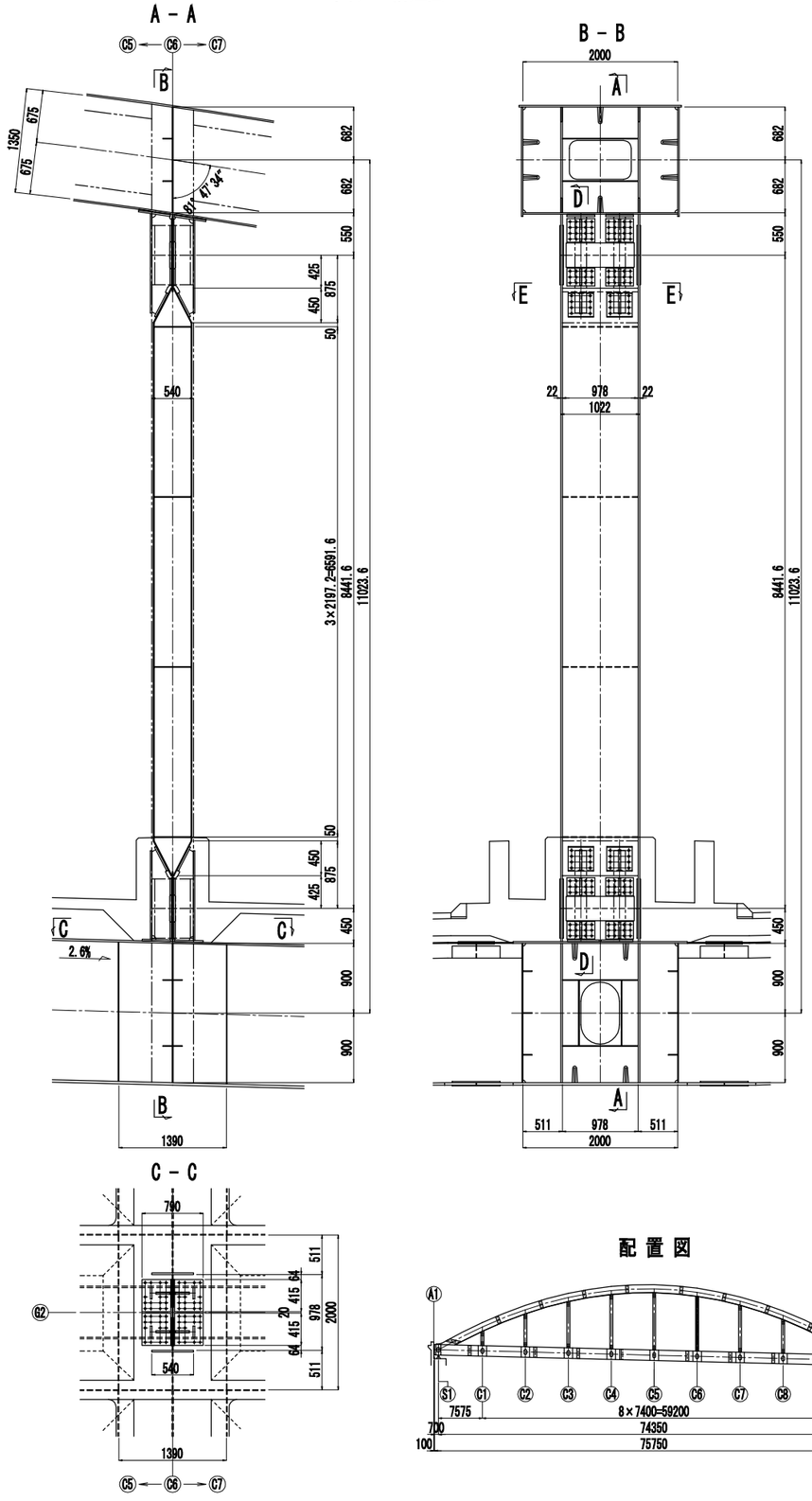
注)
1. 特記なき材質は全てSM490YAとする。
2. スカーラップは、全て50Rとする。
3. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。
4. 高力ワンサイドボルトの孔明け径は、既設部φ25.0mm、補強材部φ27.0mmとする。
5. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 補強構造図（その９）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

補強構造図（その１０） S=図示

吊材 C6補強図

吊材 C6構造図 S=1:75



配置図

吊材(C6)補強 1か所当り材料

アーチリブ桁側(吊材上部)

4-Base PL	360×10× 305		
4-Base PL	360×10× 230		
4-Base PL	360×22× 415	(SM490YB)	
4-Base PL	330×22× 345	(SM490YB)	
4-Fill PL	175×10× 360	(SS400)	
4-Fill PL	200×10× 360	(SS400)	
2-Web PL	250×28×1289	(SM490YB)	
2-Web PL	250×28×1253	(SM490YB)	
2-Flg PL	150×22×1286	(SM490YB)	
2-Flg PL	150×22×1205	(SM490YB)	
56-TCB	M22×95 (S10T)〈+1W〉		
56-TCB	M22×70 (S10T)		
32-高力ワンサイドボルト	M24×35 (MUTF24)		

内側補剛桁側(吊材下部)

4-Base PL	360×10× 225		
4-Base PL	360×10× 230		
4-Base PL	415×22× 370	(SM490YB)	
4-Base PL	330×22× 345	(SM490YB)	
2-Web PL	250×28×1165	(SM490YB)	
2-Web PL	250×28×1171	(SM490YB)	
2-Flg PL	150×22×1146	(SM490YB)	
2-Flg PL	150×22×1160	(SM490YB)	
60-TCB	M22×90 (S10T)〈+1W〉		
48-TCB	M22×70 (S10T)		
32-高力ワンサイドボルト	M24×35 (MUTF24)		

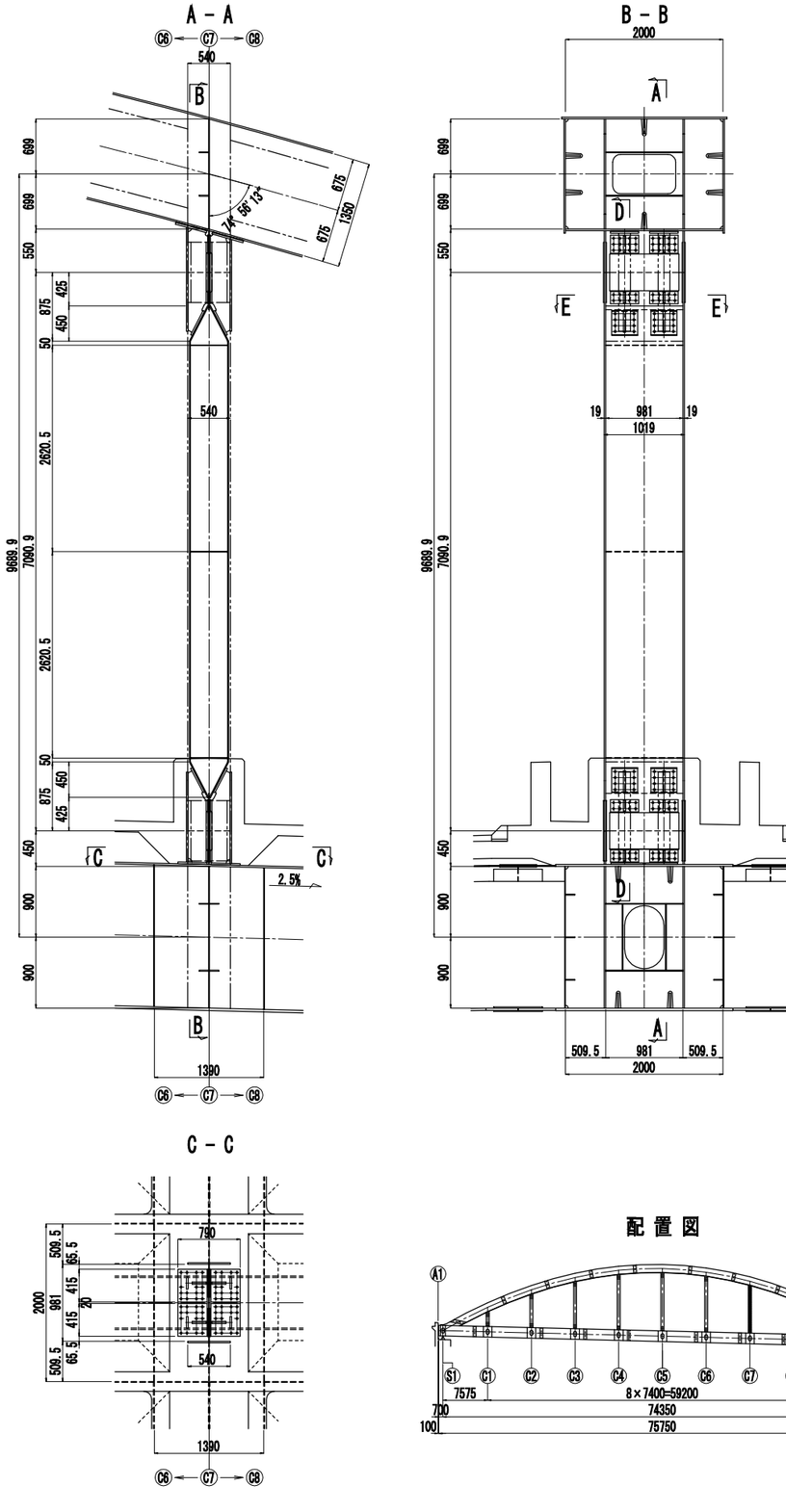
注）
1. 特記なき材質は全てSM490YAとする。
2. スカーラップは、全て50Rとする。
3. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。
4. 高力ワンサイドボルトの孔明け径は、既設部φ25.0mm、補強材部φ27.0mmとする。
5. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 補強構造図（その１０）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

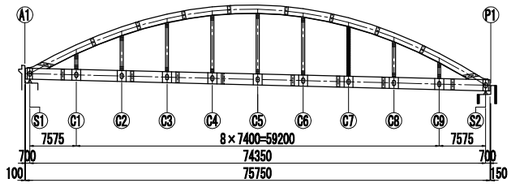
補強構造図（その１１） S=図示

吊材 C7補強図

吊材 C7構造図 S=1:75



配置図



吊材(C7)補強 1か所当り材料

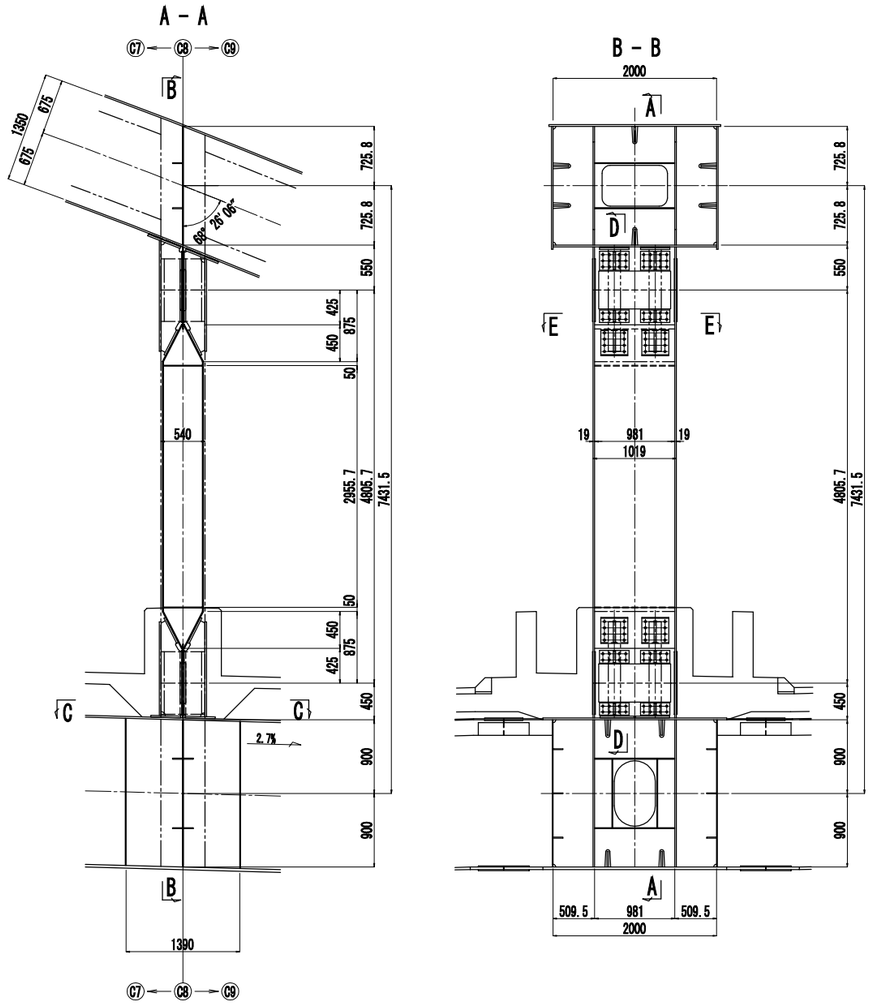
アーチリブ桁側(吊材上部)		内側補剛桁側(吊材下部)	
4-Base PL	360×10× 230	4-Base PL	360×10× 150
4-Base PL	360×10× 155	4-Base PL	360×10× 155
4-Base PL	360×22× 410 (SM490YB)	4-Base PL	415×22× 370 (SM490YB)
4-Base PL	330×22× 345 (SM490YB)	4-Base PL	330×22× 345 (SM490YB)
4-Fill PL	165×10× 360 (SS400)	2-Web PL	250×28×1165 (SM490YB)
2-Fill PL	205×10× 360 (SS400)	2-Web PL	250×28×1171 (SM490YB)
2-Fill PL	185×10× 360 (SS400)	2-Flg PL	150×22×1146 (SM490YB)
2-Web PL	250×28×1319 (SM490YB)	2-Flg PL	150×22×1160 (SM490YB)
2-Web PL	250×28×1243 (SM490YB)		
2-Flg PL	150×22×1321 (SM490YB)		
2-Flg PL	150×22×1171 (SM490YB)		
56-TCB	M22×95 (S10T)<+1W>	60-TCB	M22×90 (S10T)<+1W>
40-TCB	M22×70 (S10T)	32-TCB	M22×70 (S10T)
32-高カワンサイドボルト	M24×35 (MUTF24)	32-高カワンサイドボルト	M24×35 (MUTF24)

注）
1. 特記なき材質は全てSM490YAとする。
2. スカーラップは、全て50Rとする。
3. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。
4. 高カワンサイドボルトの孔明け径は、既設部φ25.0mm、補強材部φ27.0mmとする。
5. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

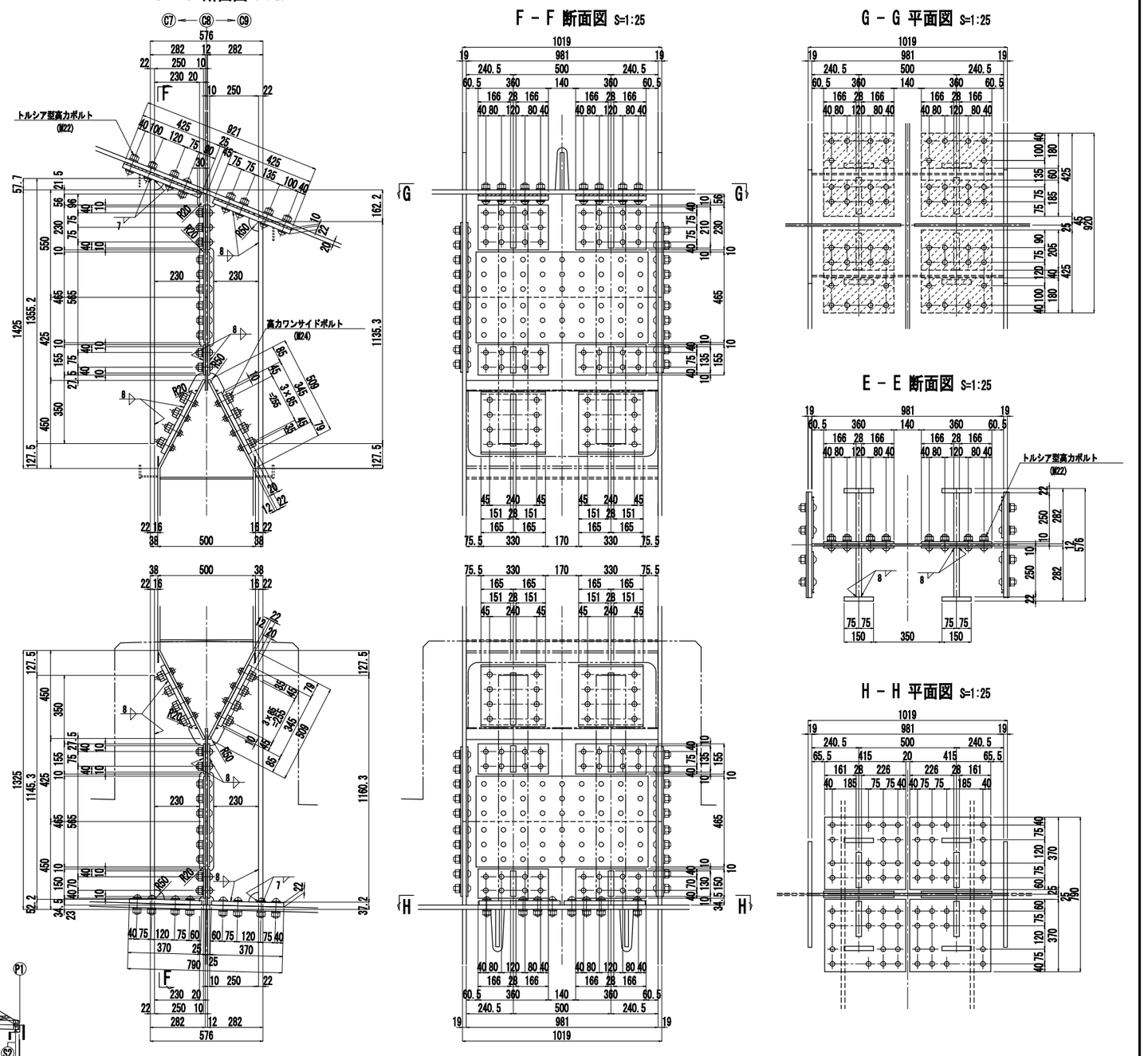
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 補強構造図（その１１）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

補強構造図（その１２） S=図示

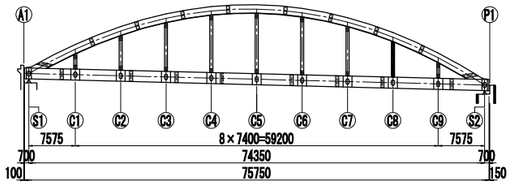
吊材 C8構造図 S=1:75



吊材 C8補強図



配置図



吊材(C8)補強 1か所当り材料

アーチリブ桁側(吊材上部)

4-Base	PL	360×10× 230	
4-Base	PL	360×10× 155	
4-Base	PL	360×22× 425	(SM490YB)
4-Base	PL	330×22× 345	(SM490YB)
4-Fill	PL	180×10× 360	(SS400)
2-Fill	PL	205×10× 360	(SS400)
2-Fill	PL	185×10× 360	(SS400)
2-Web	PL	250×28×1341	(SM490YB)
2-Web	PL	250×28×1237	(SM490YB)
2-Flg	PL	150×22×1355	(SM490YB)
2-Flg	PL	150×22×1135	(SM490YB)
56-TCB	M22×95	(S10T)〈+1W〉	
40-TCB	M22×70	(S10T)	
32-高力ワンサイドボルト	M24×35	(MUTF24)	

内側補剛桁側(吊材下部)

4-Base	PL	360×10× 150	
4-Base	PL	360×10× 155	
4-Base	PL	415×22× 370	(SM490YB)
4-Base	PL	330×22× 345	(SM490YB)
2-Web	PL	250×28×1165	(SM490YB)
2-Web	PL	250×28×1171	(SM490YB)
2-Flg	PL	150×22×1145	(SM490YB)
2-Flg	PL	150×22×1160	(SM490YB)
60-TCB	M22×90	(S10T)〈+1W〉	
32-TCB	M22×70	(S10T)	
32-高力ワンサイドボルト	M24×35	(MUTF24)	

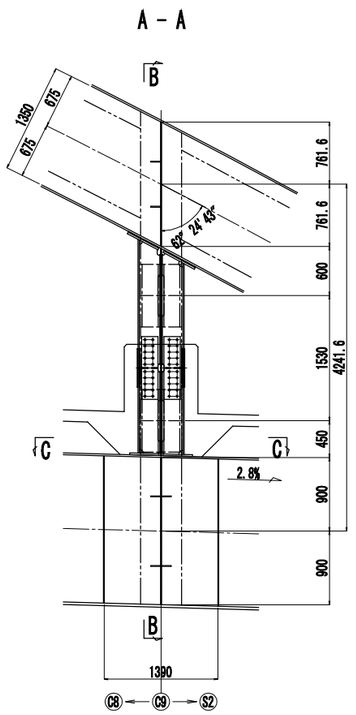
注）
1. 特記なき材質は全てSM490YAとする。
2. スカーラップは、全て50Rとする。
3. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。
4. 高力ワンサイドボルトの孔明け径は、既設部φ25.0mm、補強材部φ27.0mmとする。
5. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 補強構造図（その１２）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

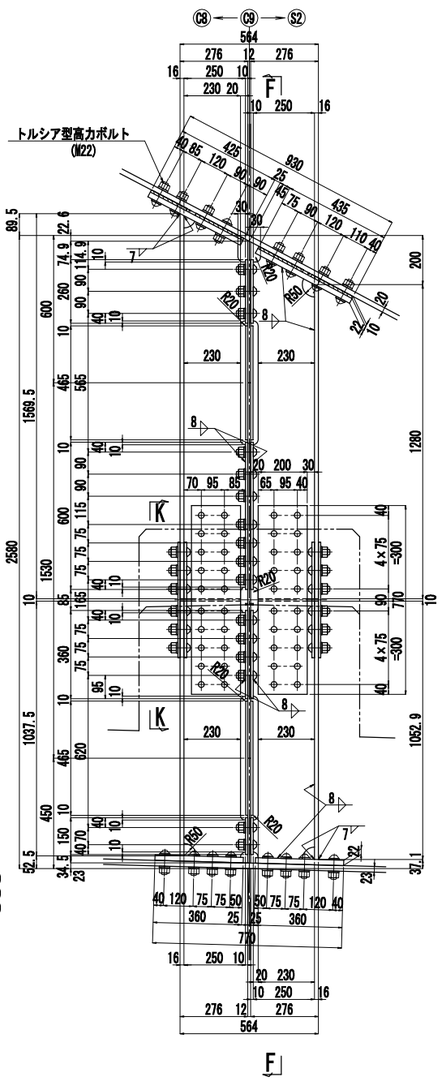
補強構造図（その１３） S=図示

吊材 C9補強図

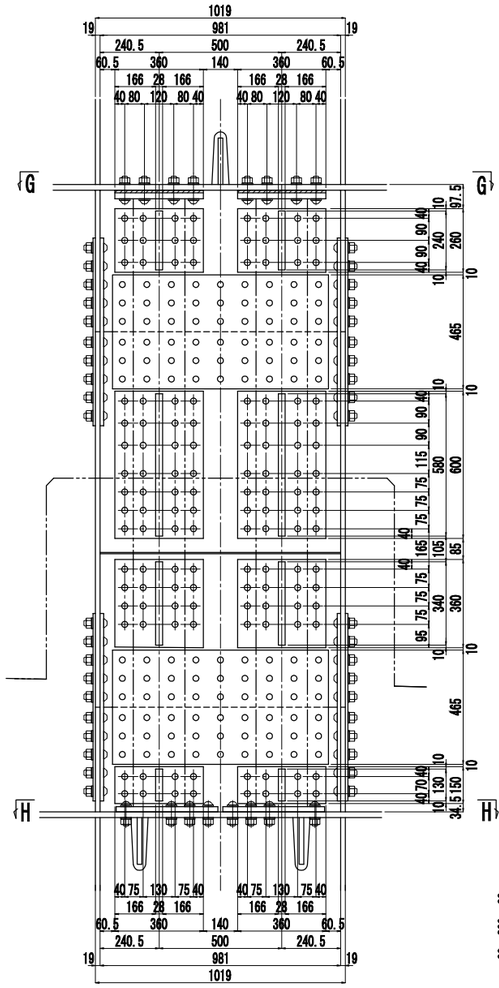
吊材 C9構造図 S=1:75



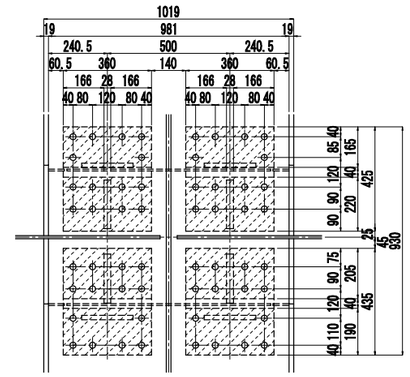
D－D 断面図 S=1:25



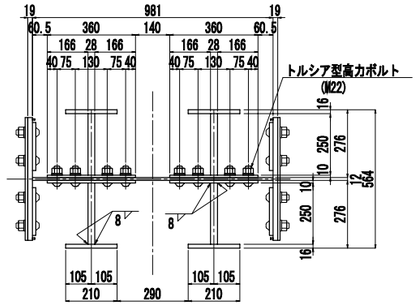
F－F 断面図 S=1:25



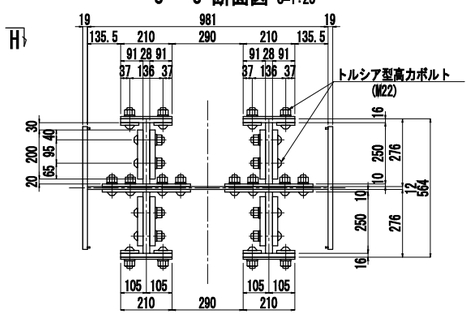
G－G 平面図 S=1:25



E－E 断面図 S=1:25



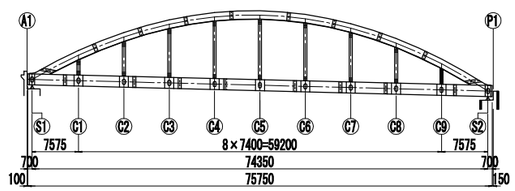
J－J 断面図 S=1:25



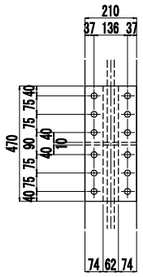
吊材(C9)補強 1か所当り材料

アーチリブ桁側(吊材上部)		内側補剛桁側(吊材下部)	
4-Base PL	360×10× 260	4-Base PL	360×10× 360
4-Base PL	360×10× 600	4-Base PL	360×10× 150
2-Base PL	360×22× 435 (SM490YB)	4-Base PL	415×22× 360 (SM490YB)
2-Base PL	360×22× 425 (SM490YB)	2-Web PL	250×28×1044 (SM490YB)
2-Fill PL	165×10× 360 (SS400)	2-Web PL	250×28×1051 (SM490YB)
2-Fill PL	190×10× 360 (SS400)	2-Flg PL	210×16×1038
2-Fill PL	205×10× 360 (SS400)	2-Flg PL	210×16×1053
2-Fill PL	220×10× 360 (SS400)	60-TCB	M22×90 (S10T)〈+1W〉
2-Web PL	250×28×1538 (SM490YB)	48-TCB	M22×70 (S10T)
2-Web PL	250×28×1397 (SM490YB)		
2-Flg PL	210×16×1570		
2-Flg PL	210×16×1280		
56-TCB	M22×95 (S10T)〈+1W〉		
80-TCB	M22×70 (S10T)		
4-Spl PL	210× 9× 470		
8-Spl PL	74×12× 470		
8-Spl PL	200×22× 770 (SM490YB)		
48-TCB	M22× 75 (S10T)		
80-TCB	M22×110 (S10T)		

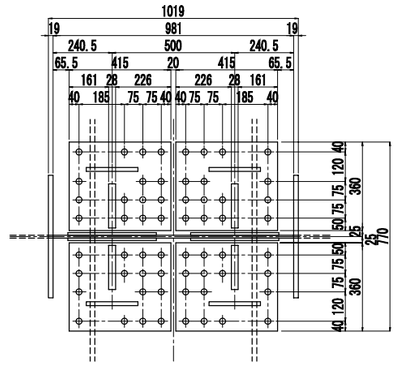
配置図



K－K 側面図 S=1:25



H－H 平面図 S=1:25



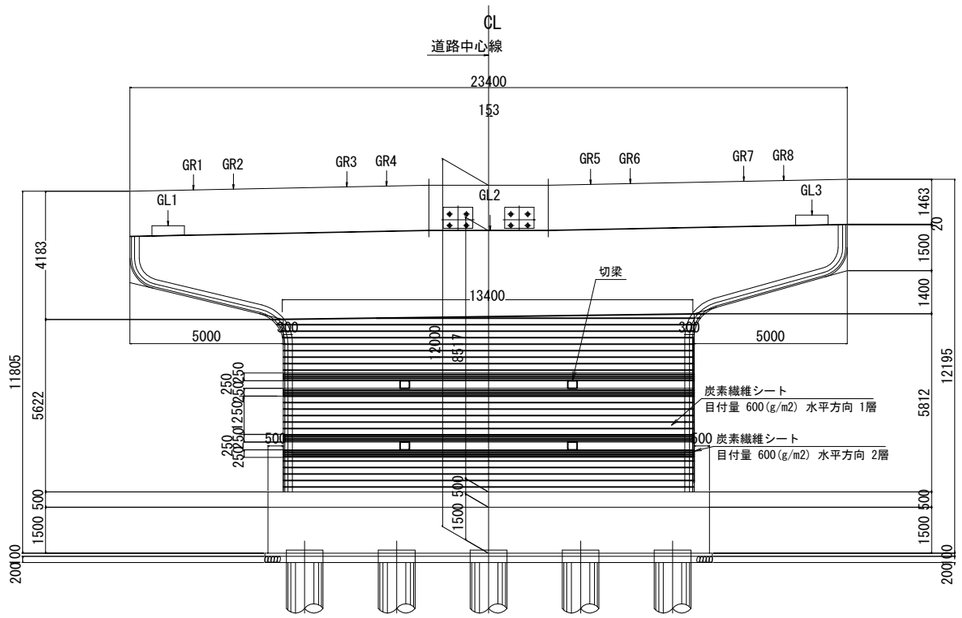
注）

1. 特記なき材質は全てSM490YAとする。
2. スカーラップは、全て50Rとする。
3. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。
4. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

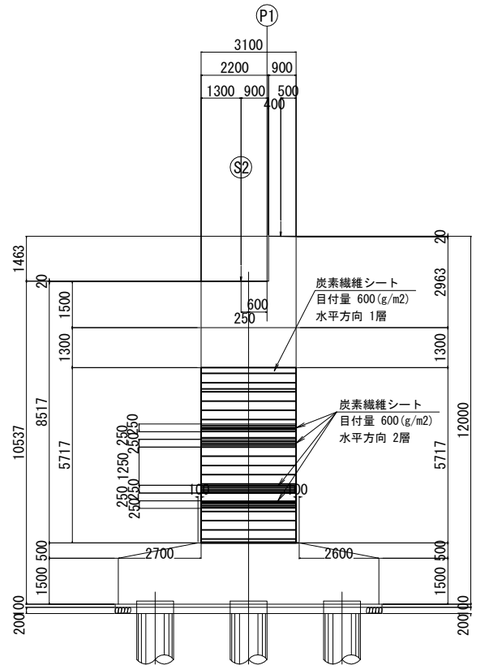
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 補強構造図（その１３）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P1橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図 S=1:200

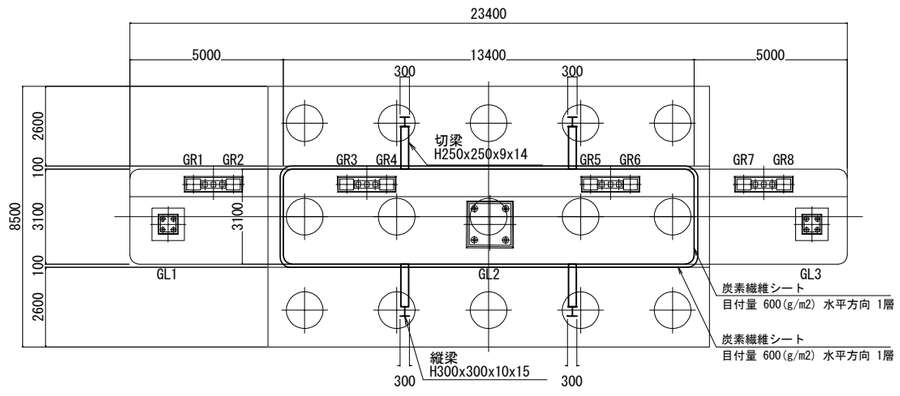
正 面 図



断 面 図

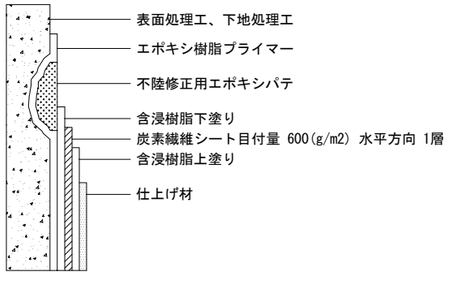


平 面 図

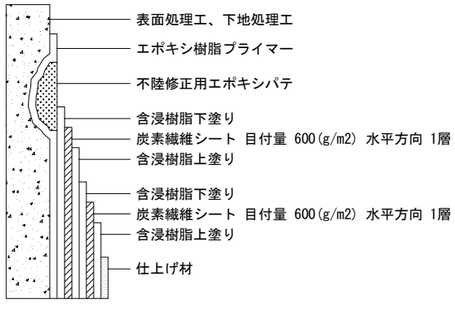


施工断面詳細図

＜一般部＞



＜一般部増し貼り部＞



性 能 表

繊維目付 (g/m2)	引張強度 (N/mm2)	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ (mm)
600	3,400	$(2.45 \pm 0.36) \times 10^5$	0.333

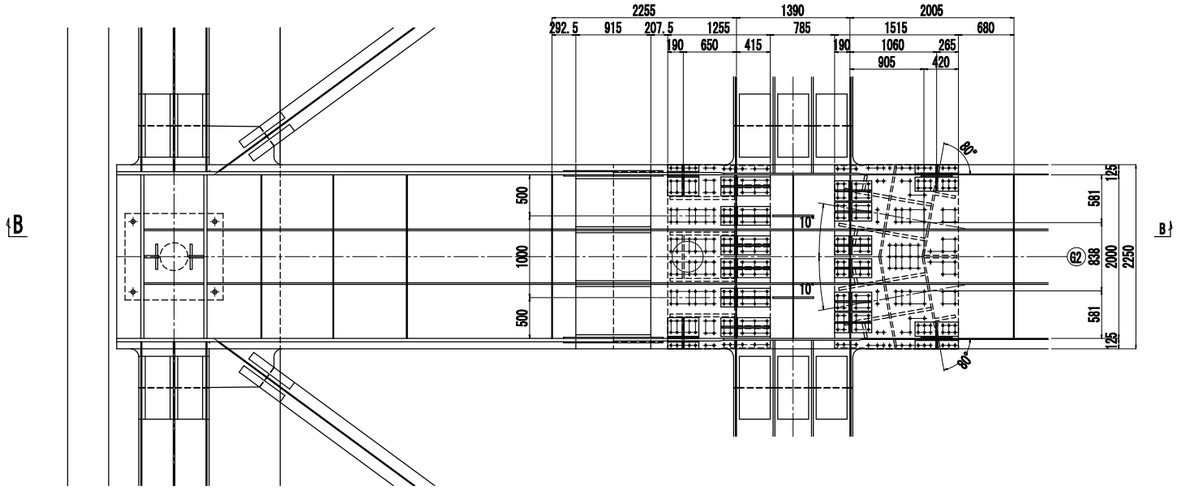
注)
1.施工にあたっては，現地計測を実施して
構造寸法を再確認すること．

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 P1橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

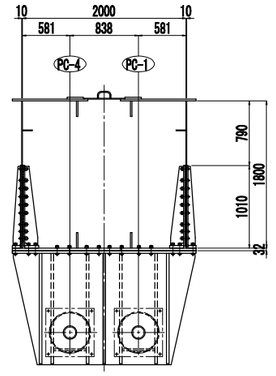
A1橋台 落橋防止構造 構造図（その1） S=1:75

A1橋台側配置図 P1-4725(150)

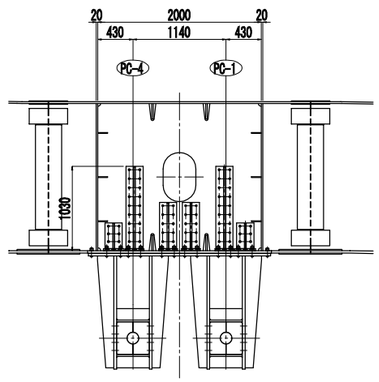
平面図 A－A



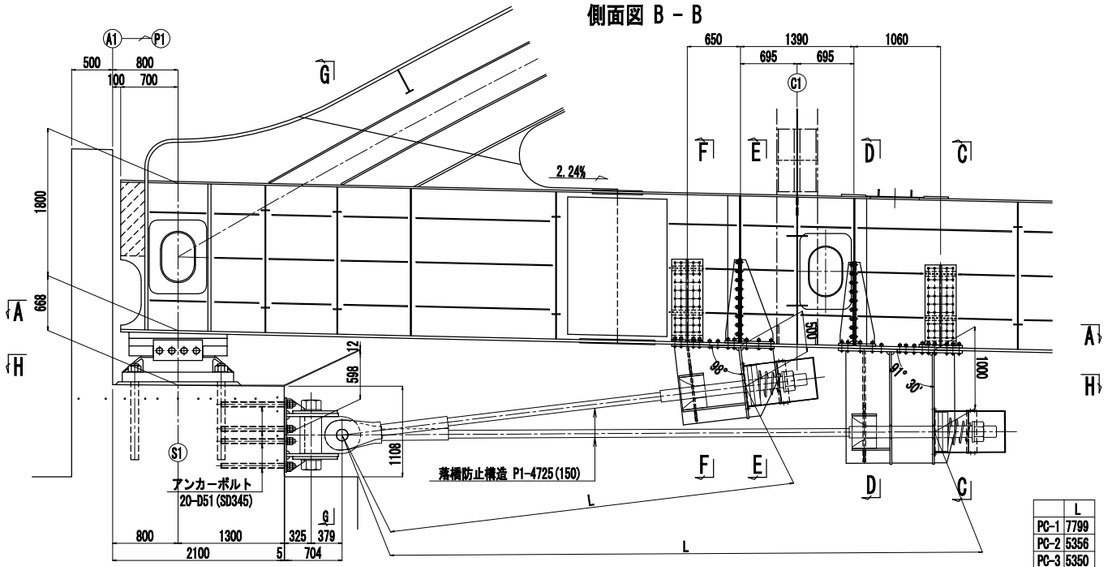
断面図 C－C



断面図 D－D

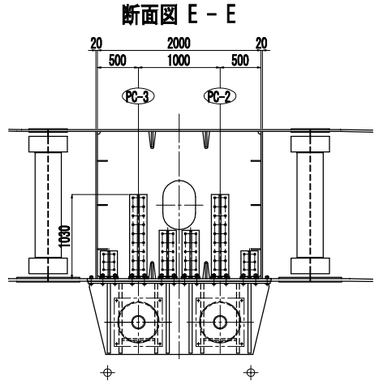


側面図 B－B

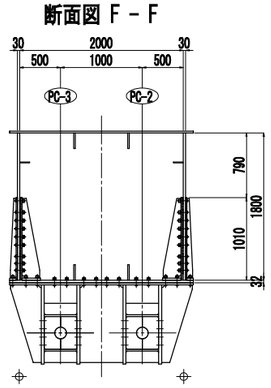


	L
PC-1	7799
PC-2	5356
PC-3	5350
PC-4	7780

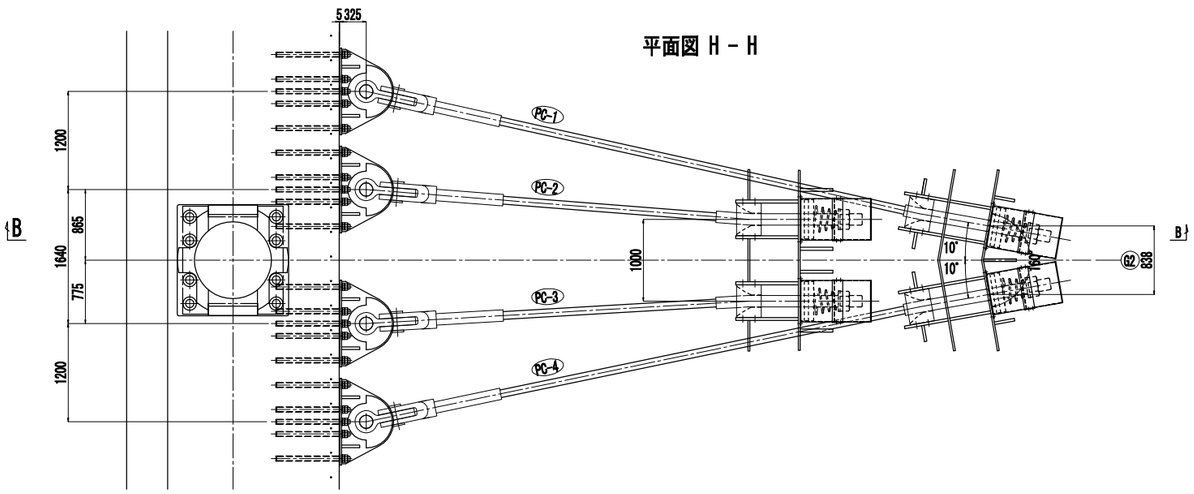
断面図 E－E



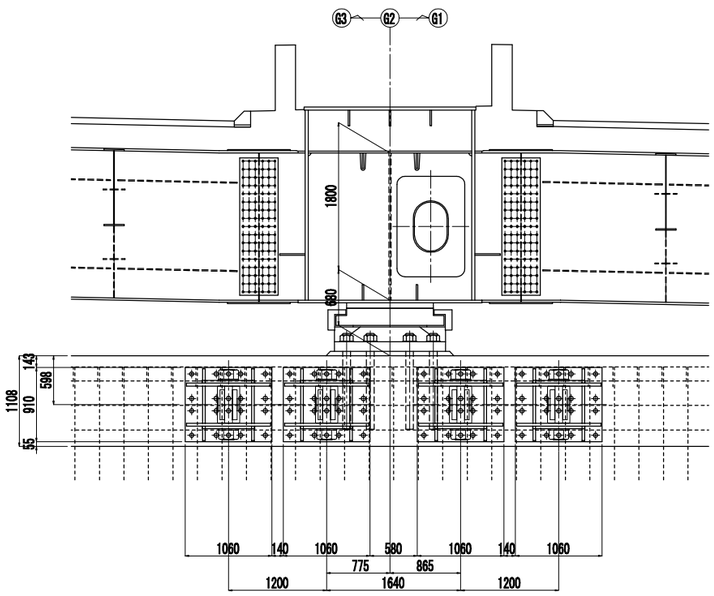
断面図 F－F



平面図 H－H



正面図 G－G

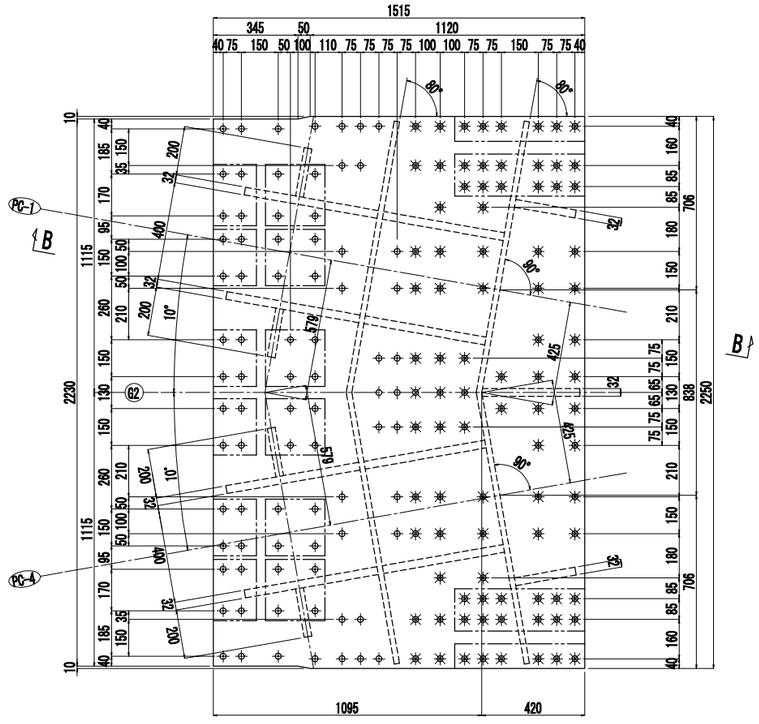


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 A1橋台 落橋防止構造 構造図（その1）		
縮尺	1:75	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

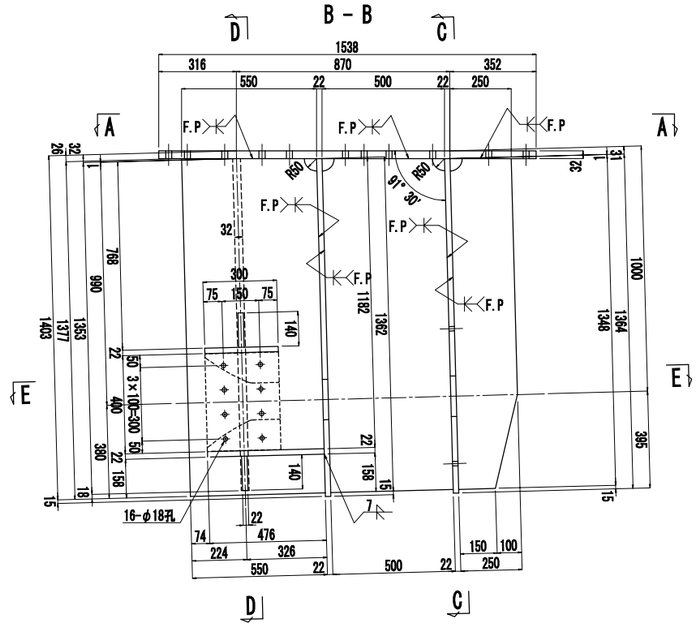
A1橋台 落橋防止構造 構造図（その２）S=1:25

A1橋台側詳細図 P1-4725(150)

A－A

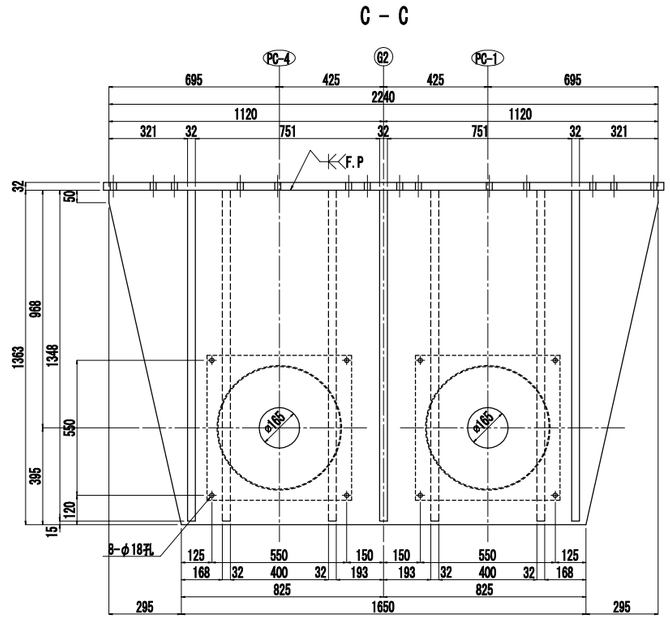


B－B

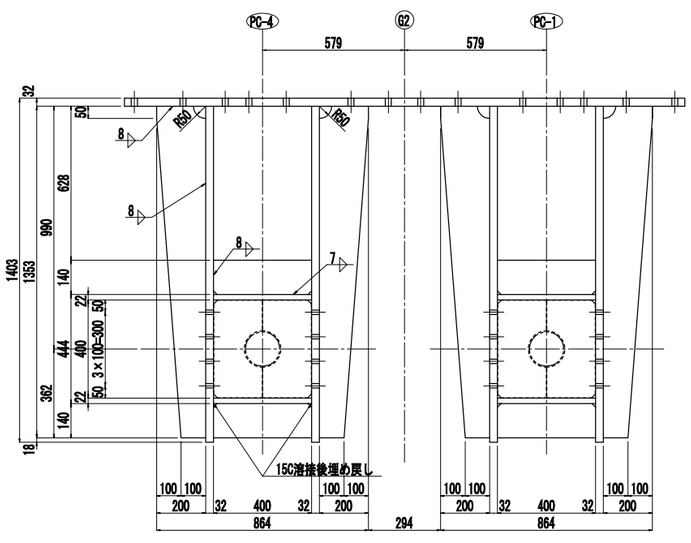


PC-1,PC-4 上部エブラケット

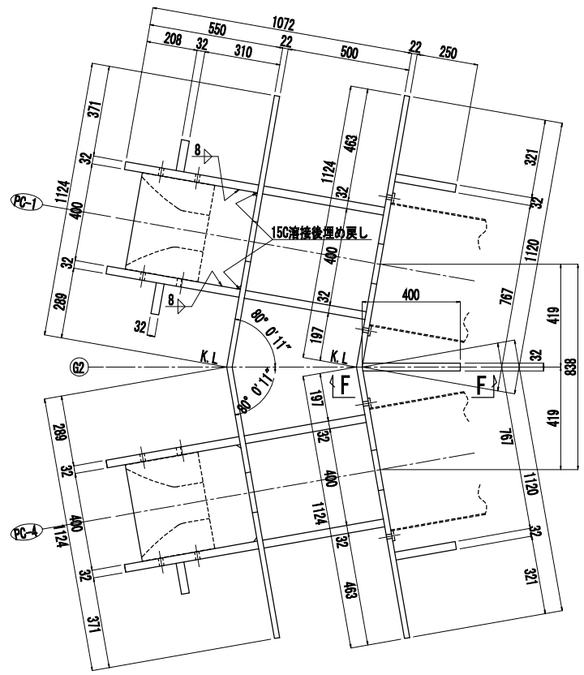
C－C



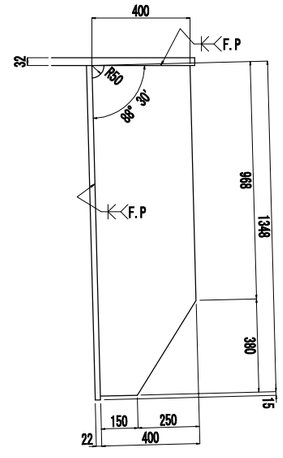
D－D



E－E



F－F



PC-1,PC-4 上部エブラケット材料

製作数 1 基

1-Base	PL	2250	× 32 ×	1515	(SM490B)
1-Flg	PL	2248	× 22 ×	1364	
1-Flg	PL	2248	× 22 ×	1377	
2-Rib	PL	250	× 32 ×	1348	(SM490B)
4-Rib	PL	500	× 32 ×	1362	(SM490B)
4-Rib	PL	550	× 32 ×	1377	(SM490B)
1-Rib	PL	400	× 32 ×	1348	(SM490B)
4-Rib	PL	200	× 32 ×	1353	(SM490B)
2-Rib	PL	400	× 22 ×	476	
2-Rib	PL	300	× 22 ×	400	
4-Rib	PL	140	× 22 ×	400	
32-TCB	M22	× 100	(S10T)		
48-TCB	M22	× 125	(S10T)		
51-TCB	M22	× 105	(S10T)	[+1W]	
36-TCB	M22	× 140	(S10T)	[+1W]	

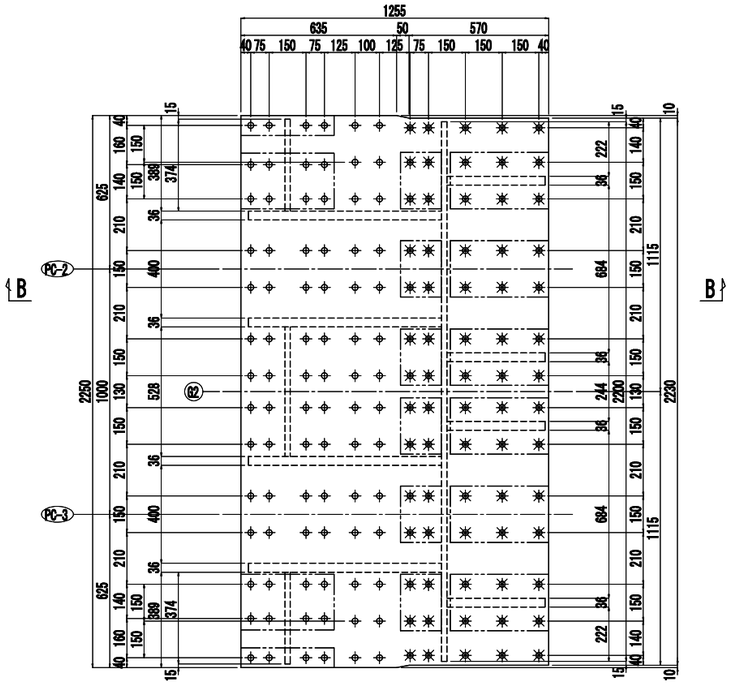
注）
1. 特記なき材質は、全てSM490Aとする。
2. 特記なきスカーラップは、全て50Rとする。
3. ブラケットは現場実測確認のうえ、製作を行なうこと。
4. 「F.P」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。
5. ※　印の高力ボルトは頭部側にも座金を用いるものとする。
6. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、
補強材部φ26.5mmとする。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 A1橋台 落橋防止構造 構造図（その２）		
縮　尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

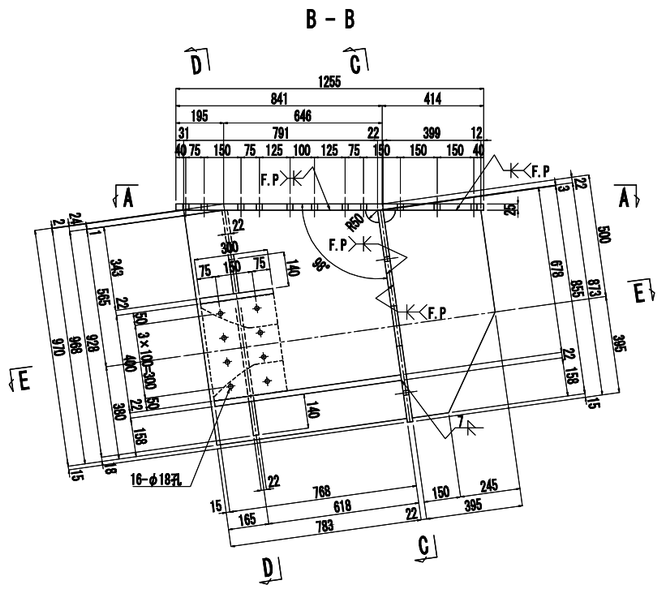
A1橋台 落橋防止構造 構造図（その３）S=1:25

A1橋台側詳細図 P1-4725(150)

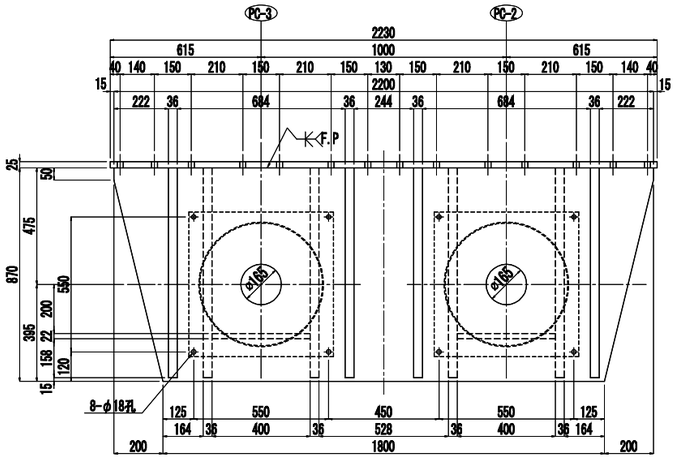
A－A



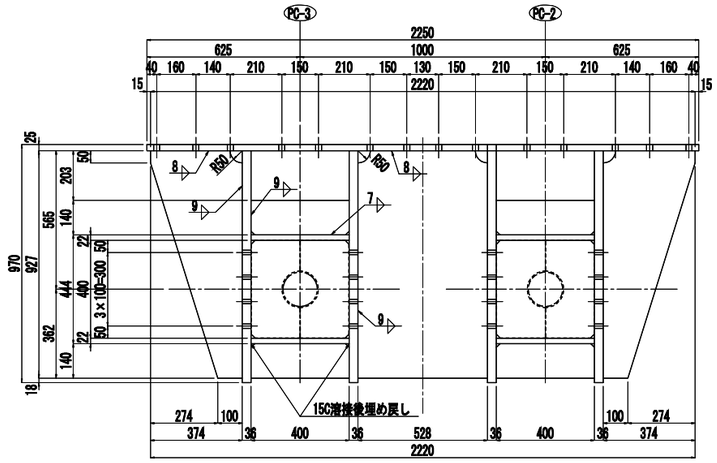
B－B



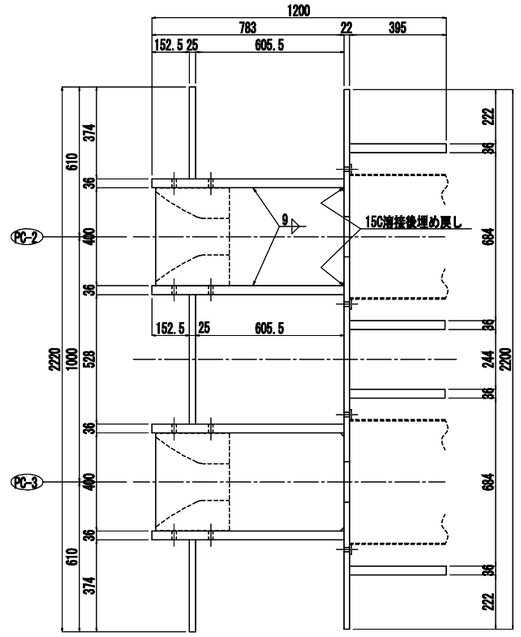
C－C



D－D



E－E



PC-2,PC-3 上部エブラケット

PC-2,PC-3 上部エブラケット材料

製作数 1 基

1-Base	PL	2250	× 25 ×	1255	
1-Flg	PL	2200	× 22 ×	873	
4-Rib	PL	395	× 36 ×	855	(SM490B)
4-Rib	PL	783	× 36 ×	968	(SM490B)
2-Rib	PL	374	× 25 ×	928	
1-Rib	PL	528	× 25 ×	928	
2-Rib	PL	400	× 22 ×	768	
2-Rib	PL	300	× 22 ×	400	
4-Rib	PL	140	× 22 ×	400	
60-TCB	M22	× 95	(S10T)		
24-TCB	M22	× 120	(S10T)		
10-TCB	M22	× 100	(S10T)	[+1個]	
60-TCB	M22	× 125	(S10T)	[+1個]	

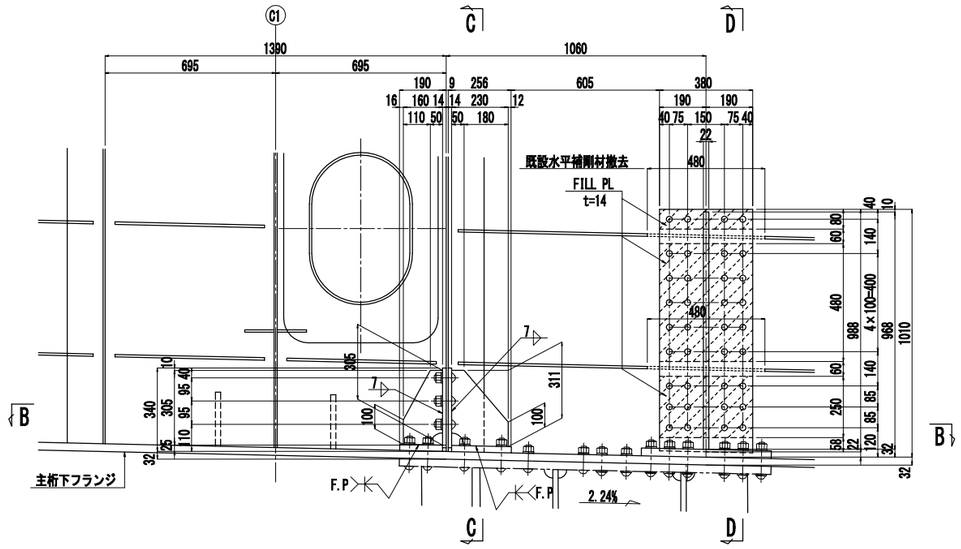
注)
1. 特記なき材質は、全てSM490Aとする。
2. 特記なきスカーラップは、全て5Rとする。
3. ブラケットは現場実測確認のうえ、製作を行なうこと。
4. 「F.P」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。
5. ※　印の高力ボルトは腹部側にも座金を用いるものとする。
6. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、
   補強材部φ26.5mmとする。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 A1橋台 落橋防止構造 構造図（その３）		
縮　尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

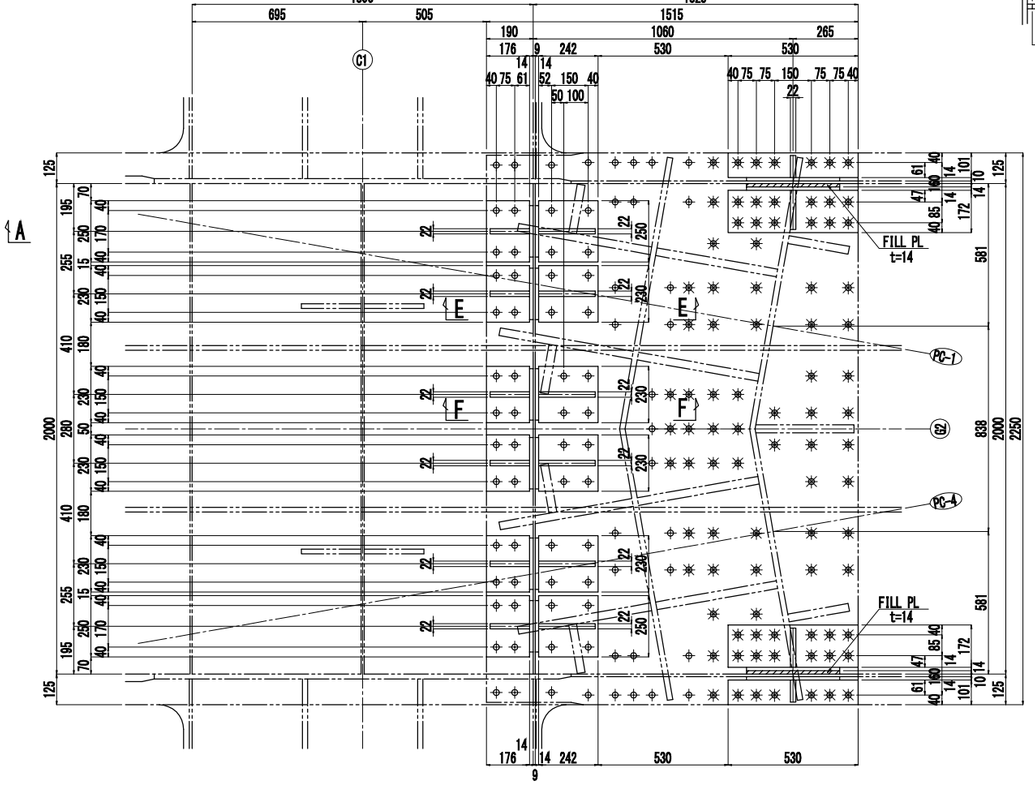
A1橋台 落橋防止構造 構造図（その４）S=1:25

A1橋台側詳細図 P1-4725(150)

側面図 A－A

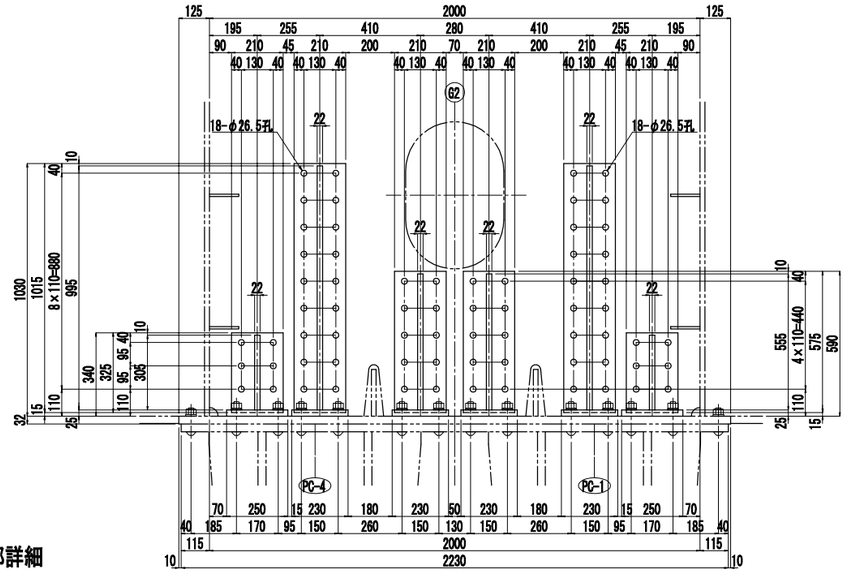


平面図 B－B

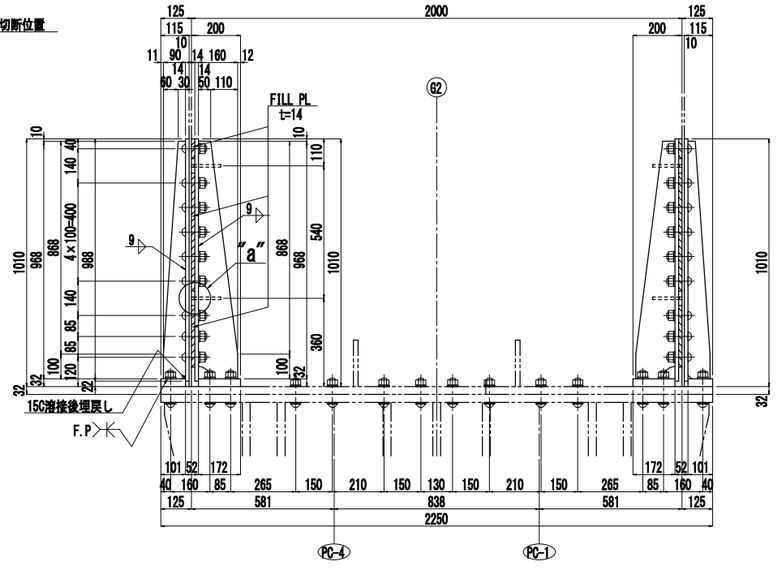


PC-1,PC-4 主桁補強図

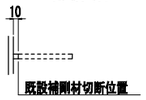
C－C



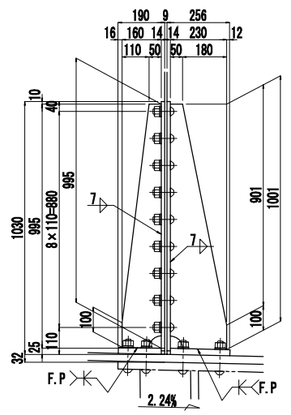
D－D



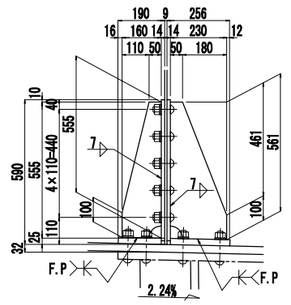
"a" 部詳細



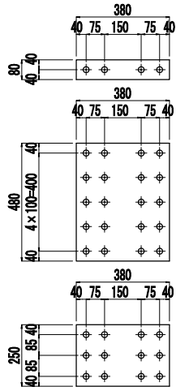
E－E



F－F



フィラープレート詳細



注）
1. 特記なき材質は、全てSM490YBとする。
2. 特記なきスカーラップは、全て50Rとする。
3. ブラケットは現場実測確認のうえ、製作を行なうこと。
4. 「F.P」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。
5. ※　印の高力ボルトは頭部側にも座金を用いるものとする。
6. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、
補強材部φ26.5mmとする。

PC-1,PC-4 主桁補強材料
製作数 1 基

2-Base PL	530 × 32 × 101		
2-Base PL	380 × 14 × 992	(SM490YA)	
2-Rib PL	90 × 22 × 968		
2-Base PL	530 × 32 × 172		
2-Base PL	380 × 14 × 992	(SM490YA)	
2-Rib PL	160 × 22 × 968		
2-Fill PL	380 × 14 × 80	(SS400)	
2-Fill PL	380 × 14 × 480	(SS400)	
2-Fill PL	380 × 14 × 250	(SS400)	
72-TCB	M22 × 90	(S10T)	
2-Base PL	250 × 25 × 176		
4-Base PL	230 × 25 × 176		
4-Base PL	210 × 14 × 325	(SM490YA)	
4-Base PL	210 × 14 × 1015	(SM490YA)	
4-Base PL	210 × 14 × 575	(SM490YA)	
2-Base PL	250 × 25 × 242		
4-Base PL	230 × 25 × 242		
2-Rib PL	160 × 22 × 305		
2-Rib PL	230 × 22 × 311		
2-Rib PL	160 × 22 × 995		
2-Rib PL	230 × 22 × 1001		
2-Rib PL	160 × 22 × 555		
2-Rib PL	230 × 22 × 561		
68-TCB	M22 × 75	(S10T)	

既設桁撤去材数量

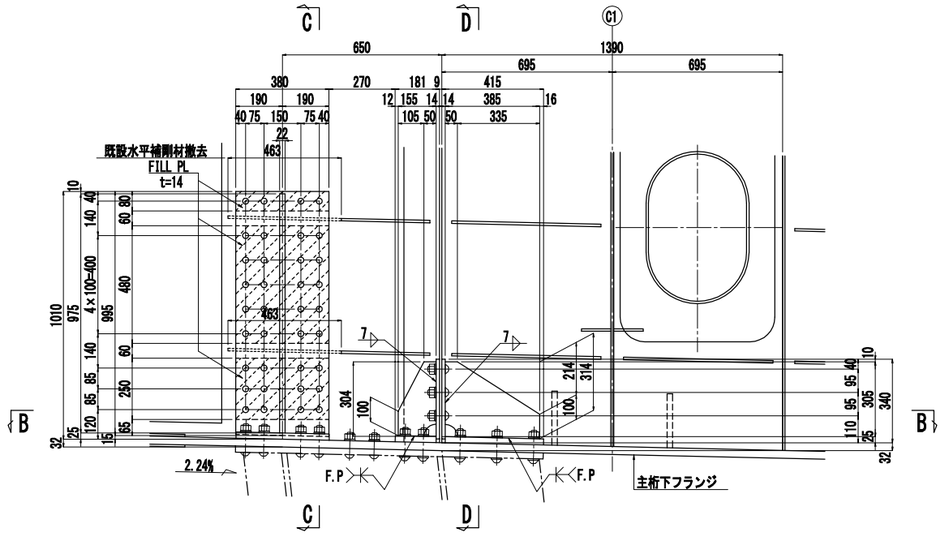
4-STIFF PL 110×10× 480 (SS400)

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	牛沢橋 A1橋台 落橋防止構造 構造図（その４）
縮　尺	1:25　図面番号　/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

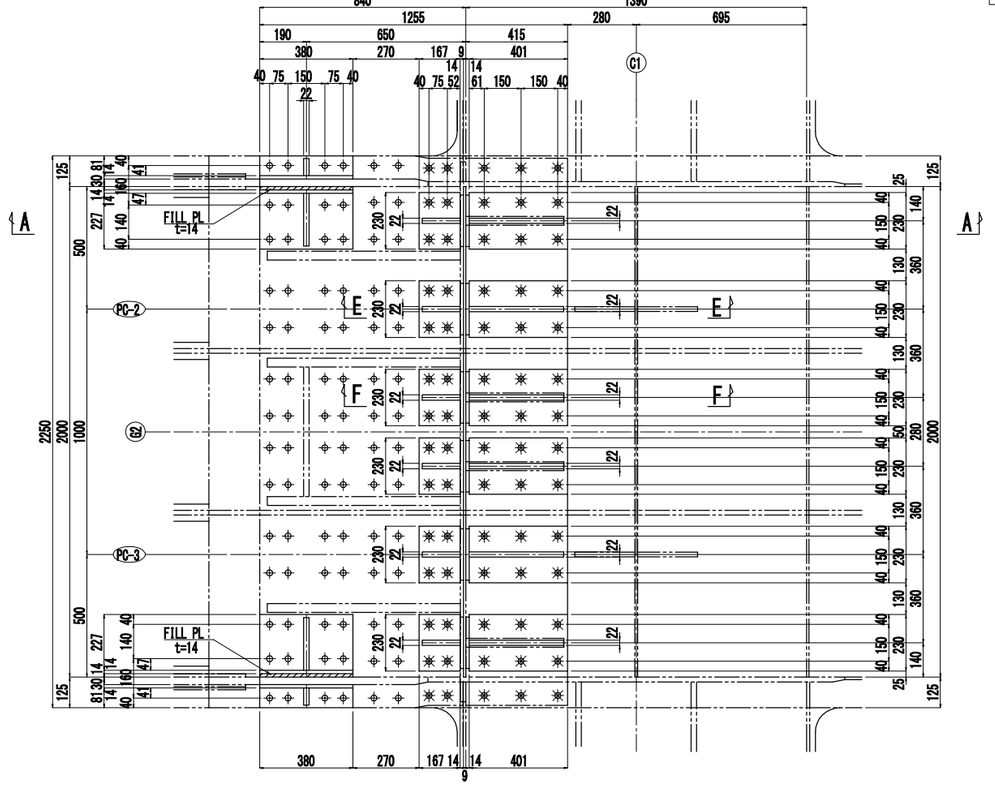
A1橋台 落橋防止構造 構造図（その５）S=1:25

A1橋台側詳細図 P1-4725(150)

側面図 A－A

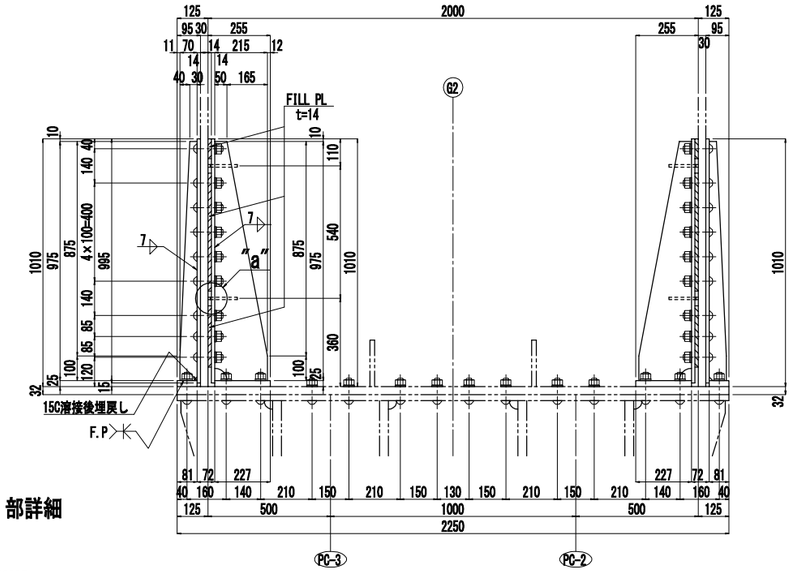


平面図 B－B

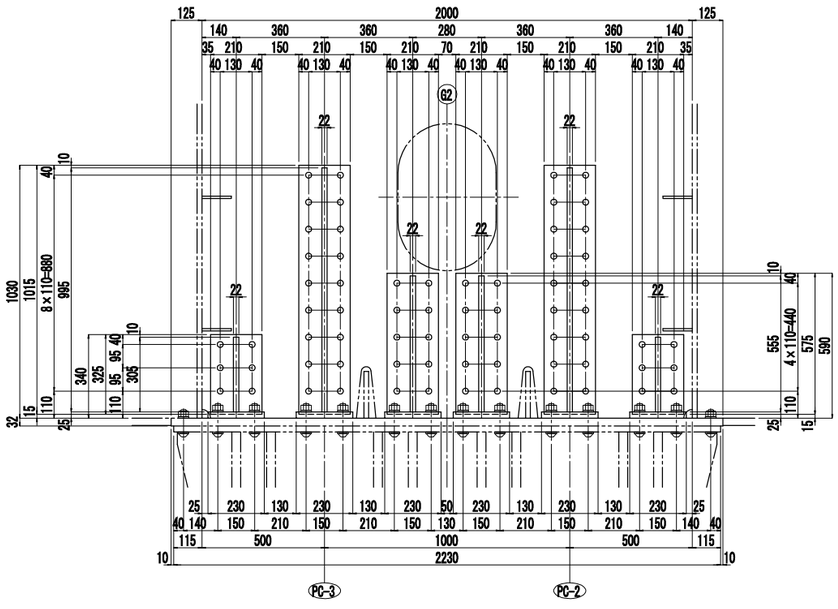


PC-2, PC-3 主桁補強図

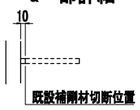
C－C



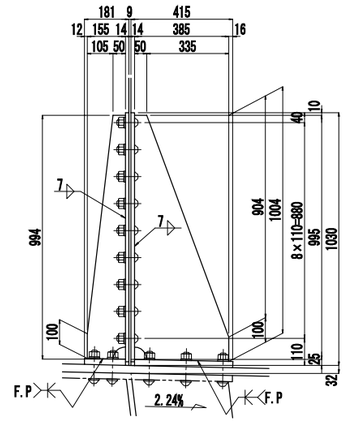
D－D



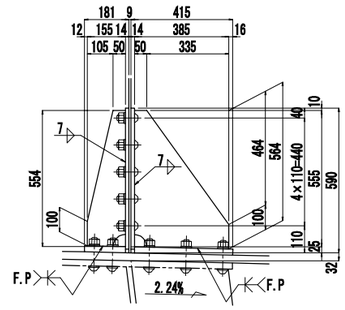
"a" 部詳細



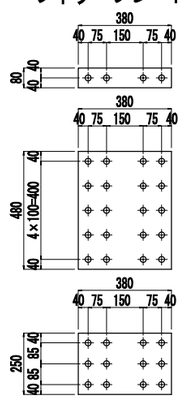
E－E



F－F



フィラープレート詳細



PC-2, PC-3 主桁補強材料
製作数 1 基

2-Base PL 380 × 25 × 81	6-Base PL 230 × 25 × 167
2-Base PL 380 × 14 × 999 (SM490YA)	4-Base PL 210 × 14 × 325 (SM490YA)
2-Rib PL 70 × 22 × 975	4-Base PL 210 × 14 ×1015 (SM490YA)
2-Base PL 380 × 25 × 227	4-Base PL 210 × 14 × 575 (SM490YA)
2-Base PL 380 × 14 × 999 (SM490YA)	6-Base PL 230 × 25 × 401
2-Rib PL 215 × 22 × 975	2-Rib PL 155 × 22 × 304
2-Fill PL 380 × 14 × 80 (SS400)	2-Rib PL 385 × 22 × 314
2-Fill PL 380 × 14 × 480 (SS400)	2-Rib PL 155 × 22 × 994
2-Fill PL 380 × 14 × 250 (SS400)	2-Rib PL 385 × 22 ×1004
72-TCB M22 ×110 (S10T)	2-Rib PL 155 × 22 × 554
	2-Rib PL 385 × 22 × 564
	68-TCB M22 × 75 (S10T)

既設桁撤去材数量

4-STIFF PL 110×10× 463 (SS400)

注）
1. 特記なき材質は、全てSM490YBとする。
2. 特記なきスカーラップは、全て50Rとする。
3. ブラケットは現場実測確認のうえ、製作を行なうこと。
4. 「F.P」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。
5. ※ 印の高力ボルトは頭部側にも座金を用いるものとする。
6. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。

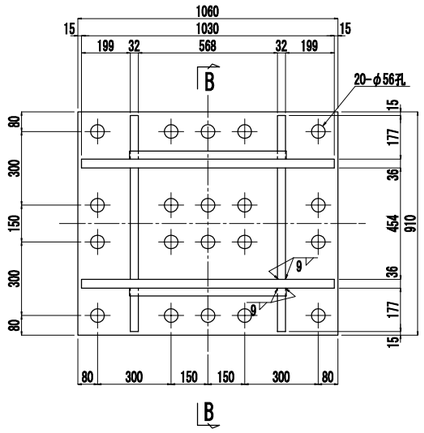
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 A1橋台 落橋防止構造 構造図（その５）		
縮尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

A1橋台 落橋防止構造 構造図（その６）S=1:25

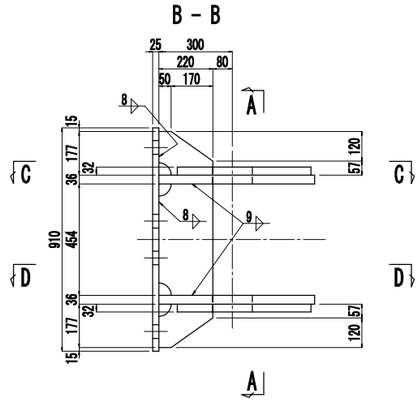
A1橋台側詳細図 P1-4725(150)

下部工ブラケット詳細図

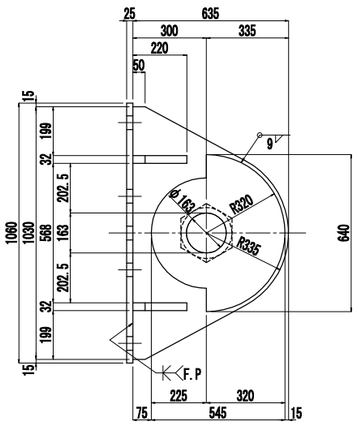
A－A



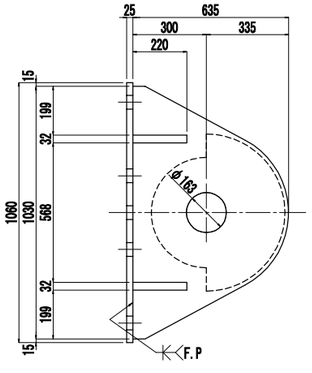
B－B



C－C

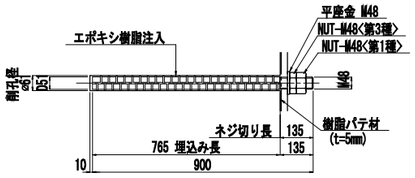


D－D



下部工側アンカーボルト詳細

落橋防止構造 アンカー工φ61・775(水平方向)



※ アンカーボルトはネジ切り部のみ
溶融亜鉛めっきを施すものとする。

下部工ブラケット 1基当り材料

製作数　A1橋台,P1橋脚 各4基

1-Base	PL	910 × 25 ×1060	
2-Top	PL	635 × 36 ×1030	(SM490B)
2-補強	PL	545 × 32 × 640	(SM490B)
4-Rib	PL	220 × 32 × 177	(SM490B)
2-Rib	PL	220 × 32 × 454	(SM490B)
20-アンカーボルト	D51 × 900		(SD345)
20-NUT	M48〈第1種〉		(SS400)
20-NUT	M48〈第3種〉		(SS400)
20-座金	M48		(SS400)

注)
1. 特記なき材質は、全てSM490Aとする。
2. 特記なきスカーラップは、全て50Rとする。
3. ブラケットは現場実測確認のうえ、製作を行なうこと。
4. 「F.P」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しない様に現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認する事。
6. 鋼製ブラケット（下部工付）との接触面部コンクリートは、表面処理としてチッピングを行う。
7. 下部工ブラケットの防錆処理は、溶融亜鉛めっきとする。
（亜鉛の膜厚は JIS H8641のHDZT77とする。
尚、厚さ1mm以上の部材、直径12mm以上のボルト，ナットおよび厚さ2.3mmを超える座金の付着量はHDZT49とする。）

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 A1橋台 落橋防止構造 構造図（その６）		
縮　尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

A1橋台 落橋防止構造 構造図（その７）（参考図） S=図示

落橋防止構造図 P1-4725(150)

設計条件

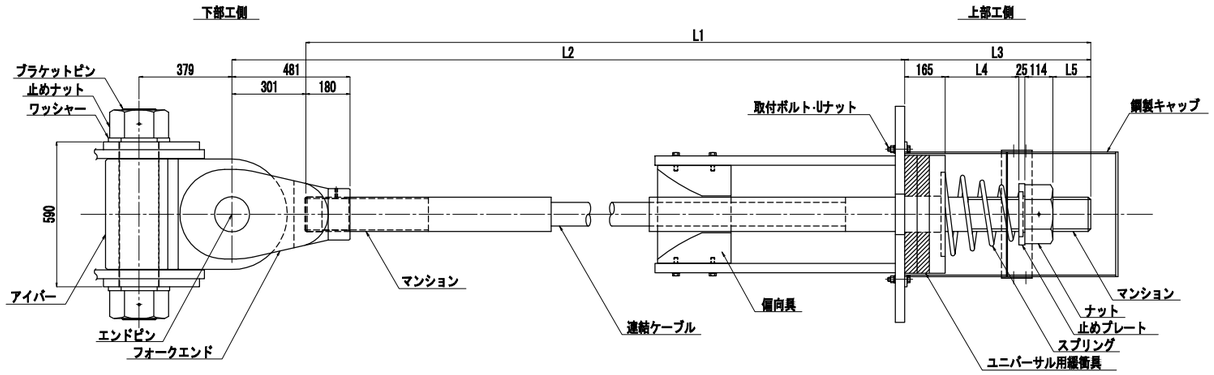
設計水平力	Hf=1.5Rd	4725 kN
設計遊間量	A1橋台	150 mm
	P1橋脚	250 mm

材 料 表（落橋防止構造1組当たり）

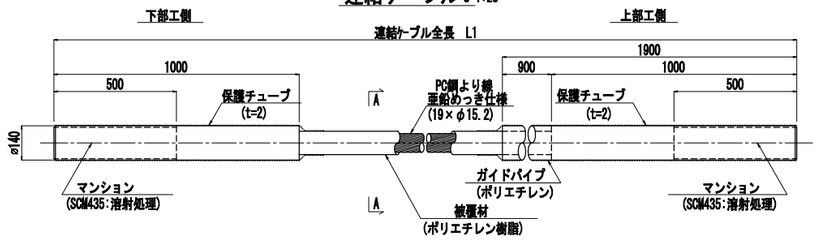
全 組(4組/支承線)

名 称	単位	数量	摘 要	重 量 (kg)
連結ケーブル	本	1	PC鋼より線,亜鉛めっき仕様,ポリエチレン被覆	ｗ
(マンション)	個	2	SCM435,亜鉛アルミ溶射,ねじきり標準 〈ケーブルに組込〉	
(ガイドパイプ)	本	1	ポリエチレン 〈ケーブルに組込〉	
ナット	個	1	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)	19.8
止めプレート	個	1	SS400相当品:亜鉛めっき(HDZT77)	3.6
スプリング	個	1	SWRS:亜鉛めっき,クロメート処理	10.0
ユニバーサル用緩衝具	個	1	SS400:亜鉛めっき(HDZT77)＋合成ゴム	96.6
偏向具	個	1	ポリエチレン	38.0
(取付ボルト)	本	16	SS400相当品:亜鉛めっき(HDZT49) 接着剤付(M16×55 1W付)	1.6
鋼製キャップ	組	1	SS400,STK400:亜鉛めっき(HDZT77)	96.6
取付ボルト･Uナット	組	4	SS400相当品:亜鉛めっき(HDZT49) (M16×75 2W付)	0.4
ブラケットピン	本	1	SCM435,ダクロダイズド処理,DMコート	125.0
止めナット	個	2	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)	39.6
ワッシャー	個	2	SS400相当品,亜鉛めっき(HDZT77)	8.0
アイバー	個	1	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)	321.1
フォークエンド	個	1	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)	173.2
エンドピン (ピン)	本	1	SCM435,ダクロダイズド処理,DMコート	29.0
(止めプレート)	個	1	SS400相当品,亜鉛めっき(HDZT77)	

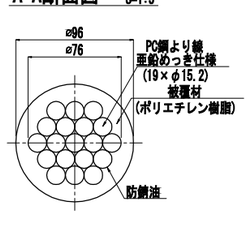
取付詳細図 S=1:25



連結ケーブル S=1:25

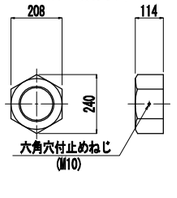


A-A断面図 S=1:5



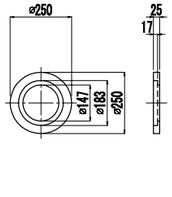
ナット S=1:25

(S45C:亜鉛めっき)



止めプレート S=1:25

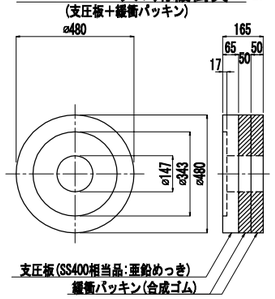
(SS400相当品:亜鉛めっき)



設置箇所		L1	L2	L3	L4	L5	L6	ｗ	合計重量
A1橋台	PC-1	8100	7799	602	150	148	300	199.4	1161.9
	PC-2	5650	5356	595	150	141	300	139.1	1101.6
	PC-3	5650	5350	601	150	147	300	139.1	1101.6
	PC-4	8100	7780	621	150	167	300	199.4	1161.9
P1橋脚	PC-5	8300	7896	705	250	151	450	204.3	1166.8
	PC-6	5850	5461	690	250	136	450	144.0	1106.5
	PC-7	5850	5455	696	250	142	450	144.0	1106.5
	PC-8	8300	7877	724	250	170	450	204.3	1166.8

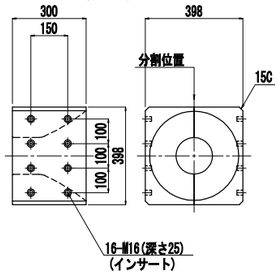
ユニバーサル用緩衝具 S=1:25

(支圧板＋緩衝パッキン)



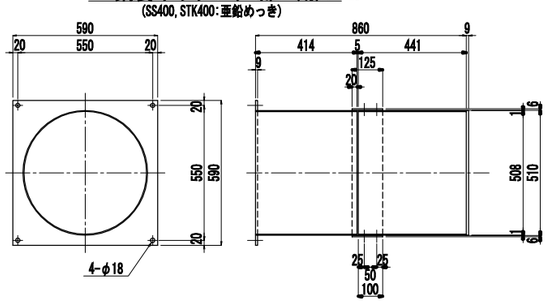
偏 向 具 S=1:25

(ポリエチレン)



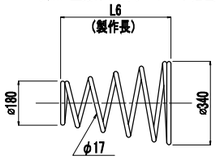
鋼製キャップ(上部工用) S=1:25

(SS400, STK400:亜鉛めっき)



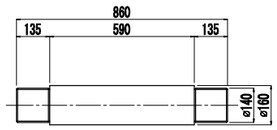
スプリング S=1:25

(SWRS:亜鉛めっき,クロメート処理)



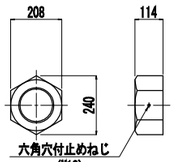
ブラケットピン S=1:25

(SCM435:DMコート)



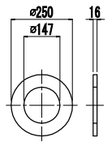
止めナット S=1:25

(S45C:亜鉛めっき)



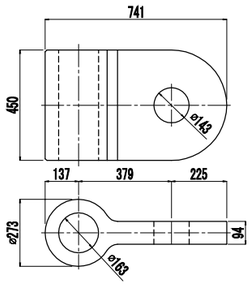
ワッシャー S=1:25

(SS400相当品:亜鉛めっき)



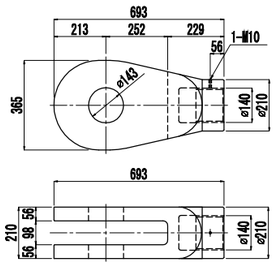
アイバー S=1:25

(S45C:亜鉛めっき)



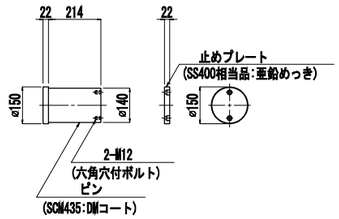
フォークエンド S=1:25

(S45C:亜鉛めっき)



エンドピン S=1:25

(ピン＋止めプレート)



マンション端部処理 S=1:25



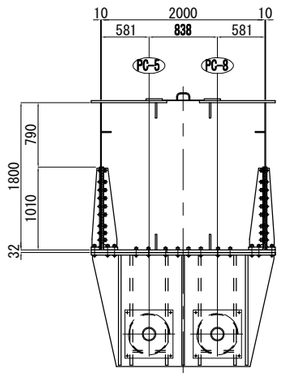
※取付前に保護チューブをはぎ取る。
取付後はマンション先端ねじ部に
防錆処理をおこなうこと。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	牛沢橋 A1橋台 落橋防止構造 構造図（その７）
縮 尺	図示
図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

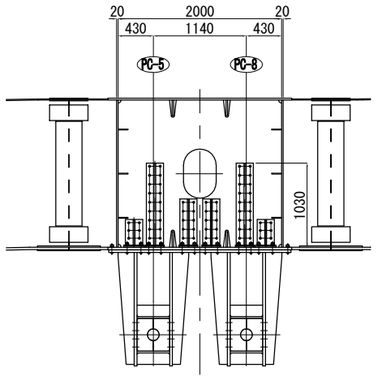
P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その１）S=1:75

P1橋脚側配置図 P1-4725(250)

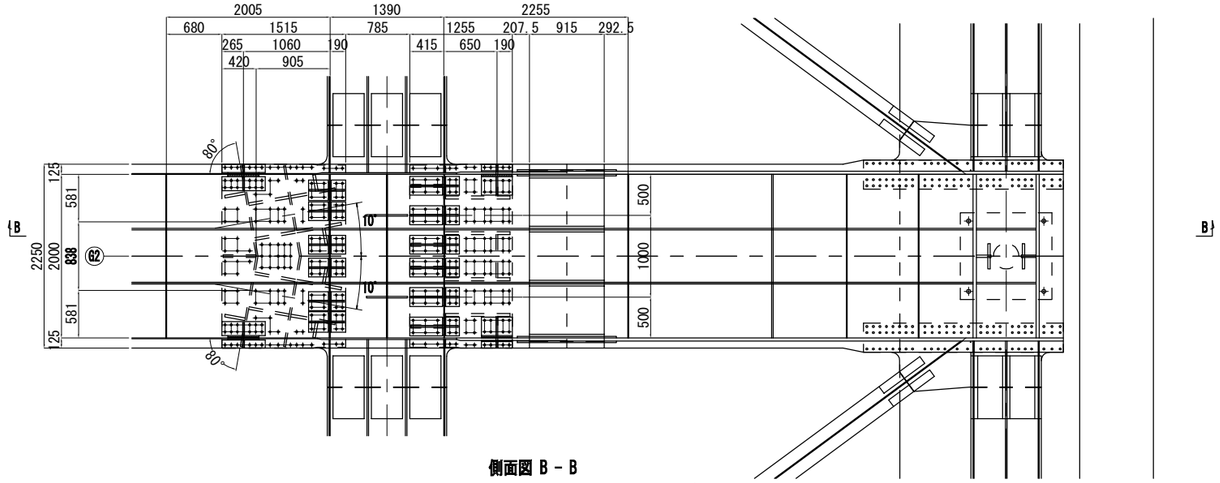
断面図 C－C



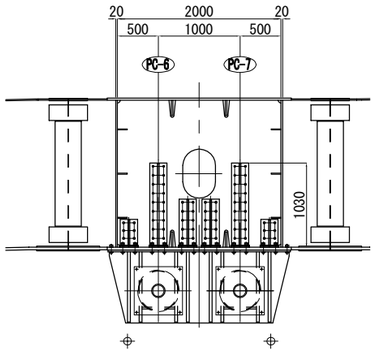
断面図 D－D



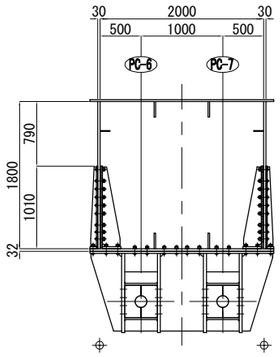
平面図 A－A



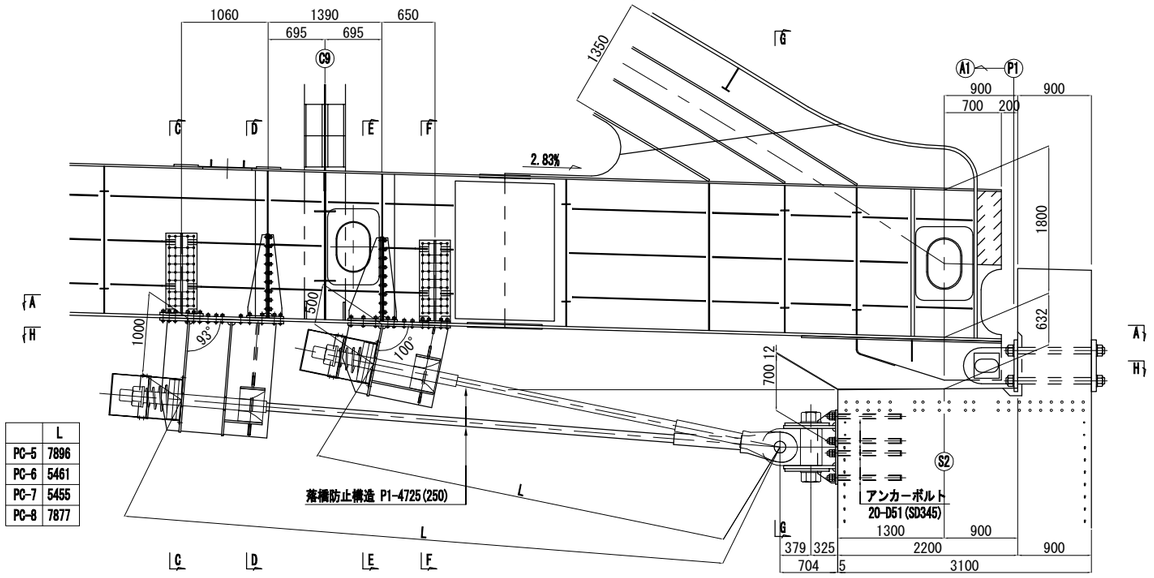
断面図 E－E



断面図 F－F

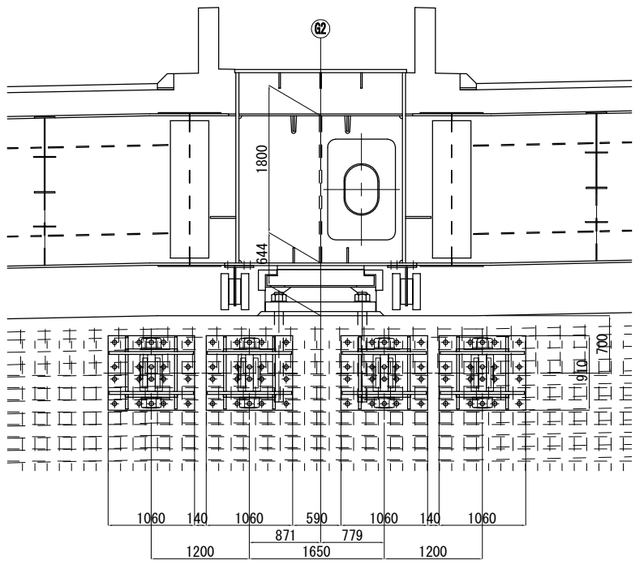


側面図 B－B

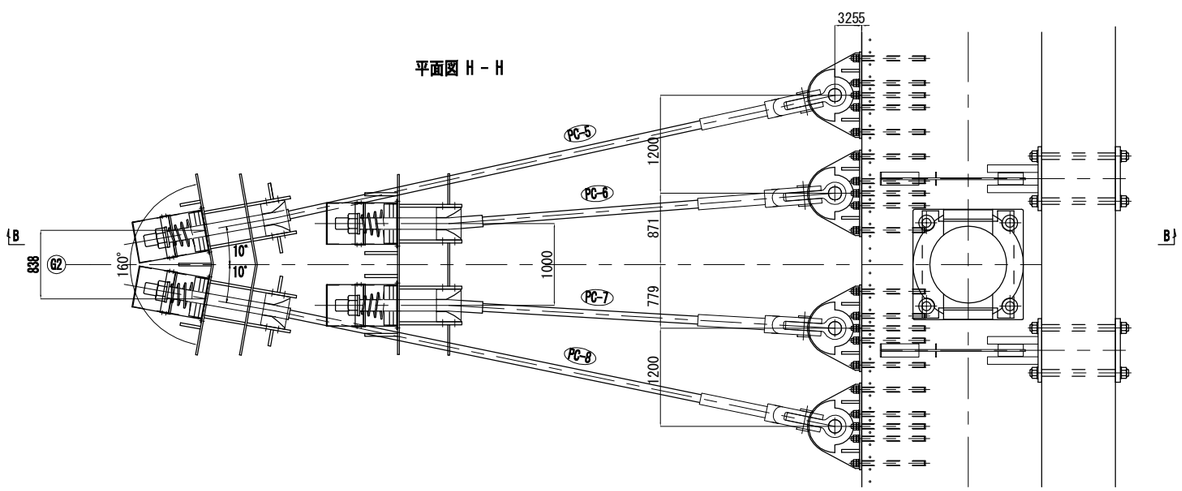


	L
PC-5	7896
PC-6	5461
PC-7	5455
PC-8	7877

正面図 G－G



平面図 H－H

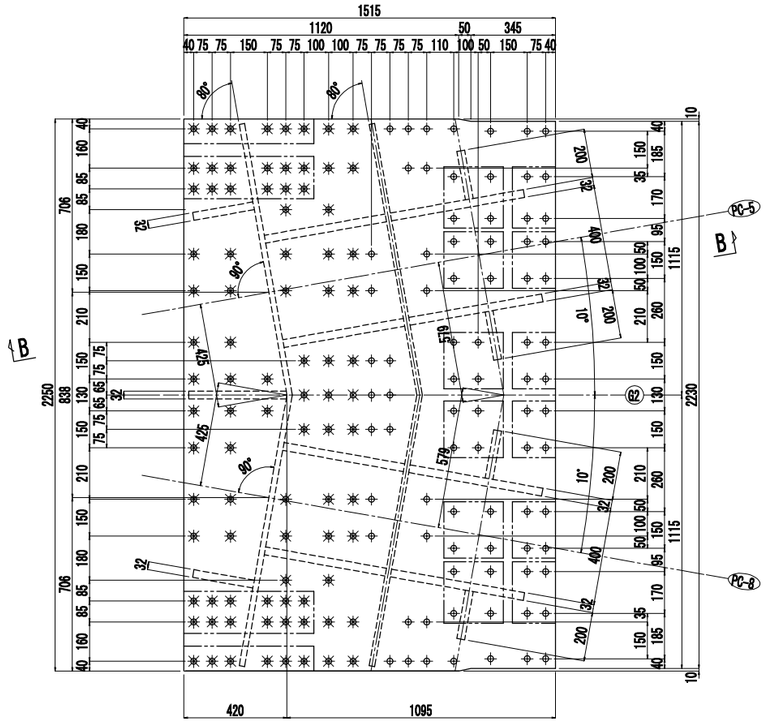


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	牛沢橋 P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その１）
縮尺	1:75
図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

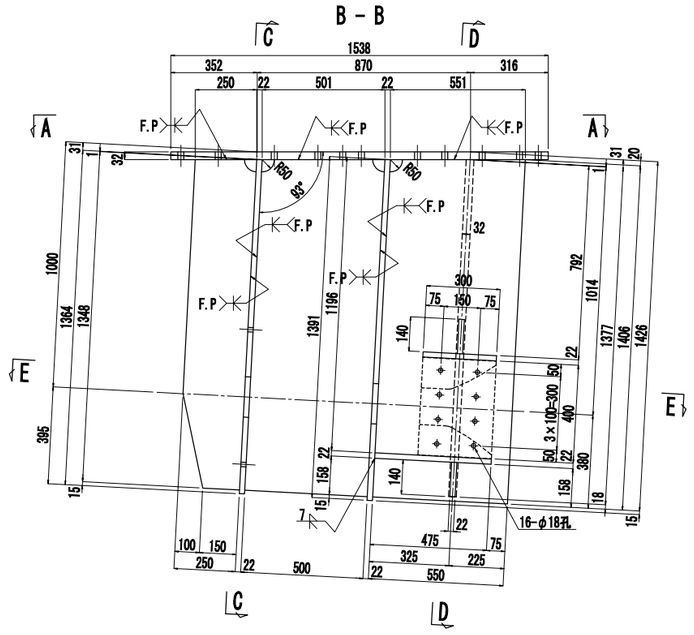
P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その２）S=1:25

P1橋脚側詳細図 P1-4725(250)

A－A

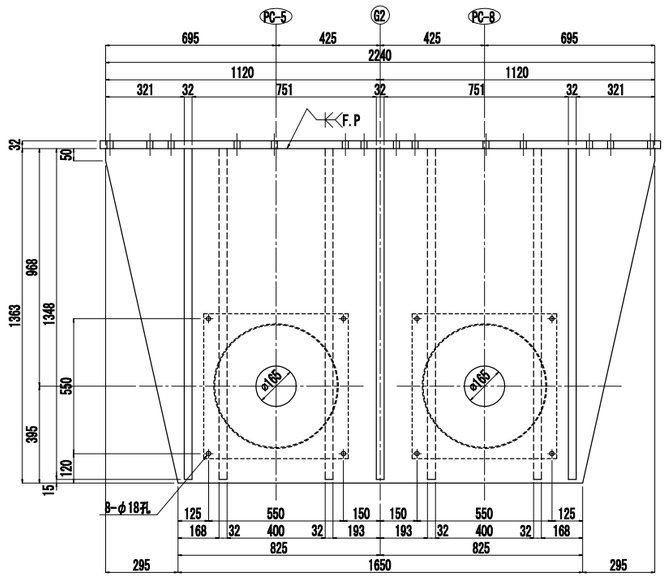


B－B

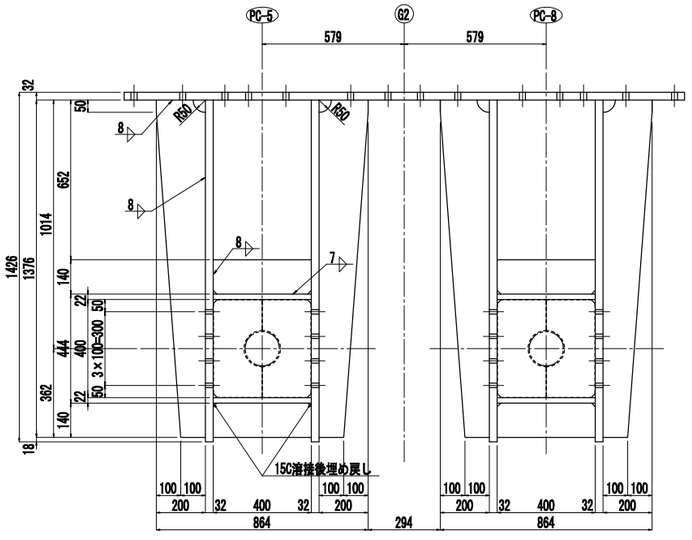


PC-5,PC-8 上部エブラケット

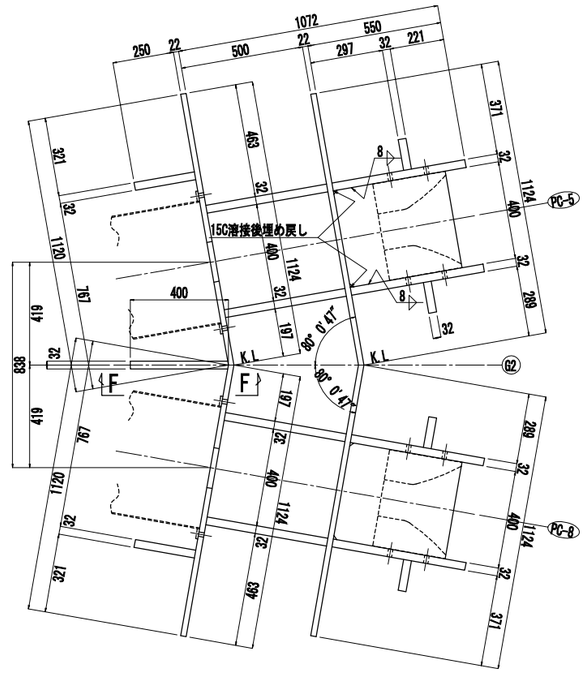
C－C



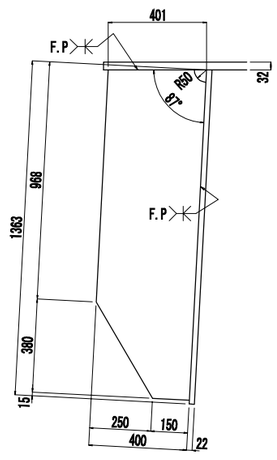
D－D



E－E



F－F



PC-5,PC-8 上部エブラケット材料

製作数 1 基

1-Base	PL	2250	× 32 ×	1515	(SM490B)
1-Fig	PL	2248	× 22 ×	1364	
1-Fig	PL	2248	× 22 ×	1391	
2-Rib	PL	250	× 32 ×	1348	(SM490B)
4-Rib	PL	500	× 32 ×	1375	(SM490B)
4-Rib	PL	550	× 32 ×	1406	(SM490B)
1-Rib	PL	400	× 32 ×	1348	(SM490B)
4-Rib	PL	200	× 32 ×	1377	(SM490B)
2-Rib	PL	400	× 22 ×	475	
2-Rib	PL	300	× 22 ×	400	
4-Rib	PL	140	× 22 ×	400	
32-TCB	M22	× 100	(S10T)		
48-TCB	M22	× 125	(S10T)		
51-TCB	M22	× 105	(S10T)	[+1個]	
36-TCB	M22	× 140	(S10T)	[+1個]	

注）
1. 特記なき材質は、全てSM490Aとする。
2. 特記なきスカーラップは、全て50Rとする。
3. ブラケットは現場実測確認のうえ、製作を行なうこと。
4. 「F.P」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。
5. ※　印の高力ボルトは頭部側にも座金を用いるものとする。
6. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、
補強材部φ26.5mmとする。

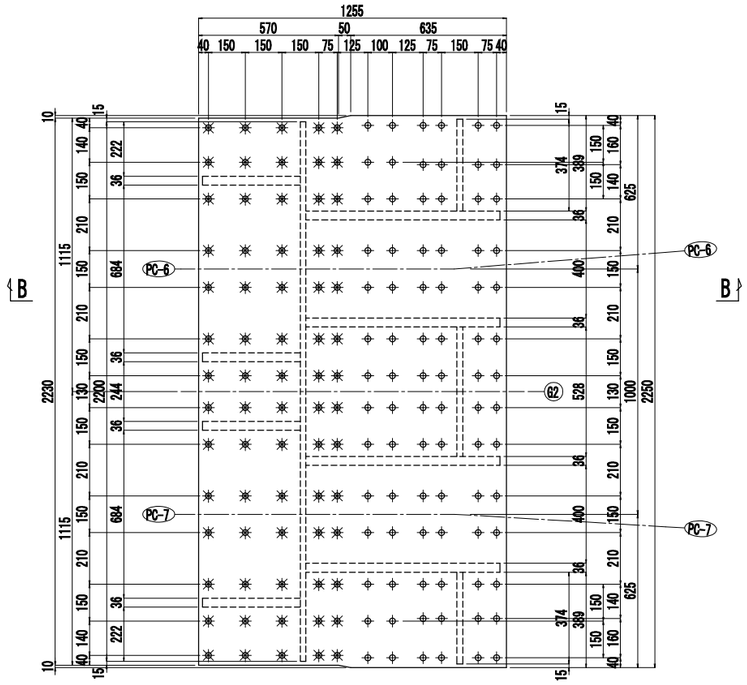
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事				
図面の種類	牛沢橋 P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その２）			
縮　尺	1:25	図面番号	/	
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所			

P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その３）S=1:25

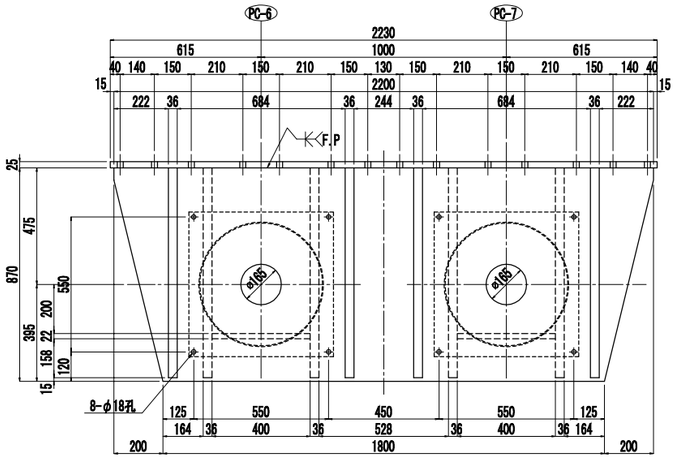
P1橋脚側詳細図 P1-4725(250)

PC-6,PC-7 上部エブラケット

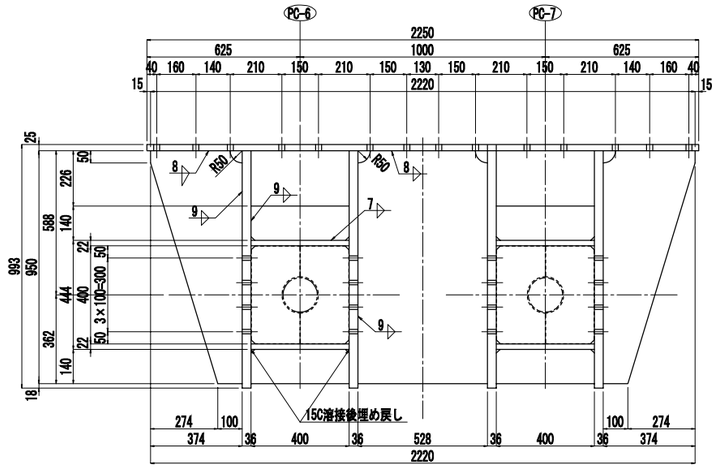
A－A



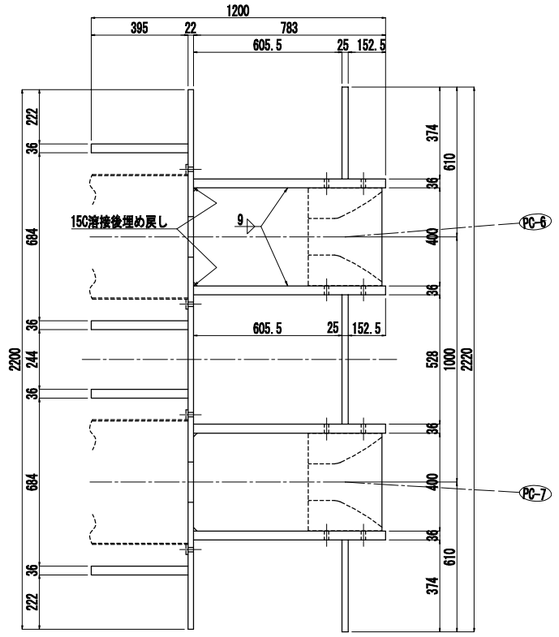
C－C



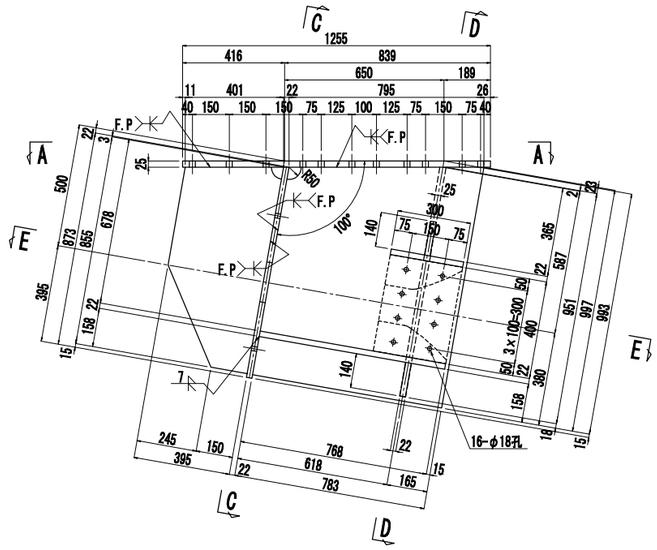
D－D



E－E



B－B



PC-6,PC-7 上部エブラケット材料

製作数 1 基

1-Base	PL	2250	× 25 ×	1255	
1-Flg	PL	2200	× 22 ×	873	
4-Rib	PL	395	× 36 ×	855	(SM490B)
4-Rib	PL	783	× 36 ×	997	(SM490B)
2-Rib	PL	374	× 25 ×	951	
1-Rib	PL	528	× 25 ×	951	
2-Rib	PL	400	× 22 ×	768	
2-Rib	PL	300	× 22 ×	400	
4-Rib	PL	140	× 22 ×	400	
60-TCB	M22	×	95	(S10T)		
24-TCB	M22	×	120	(S10T)		
10-TCB	M22	×	100	(S10T)	[+1W]	
60-TCB	M22	×	125	(S10T)	[+1W]	

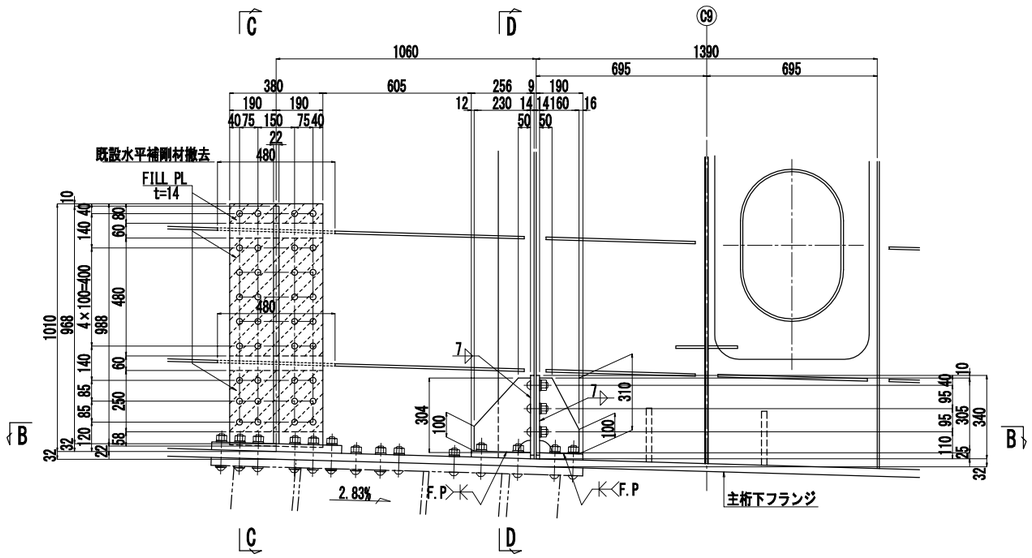
注)
1. 特記なき材質は、全てSM490Aとする。
2. 特記なきスカーラップは、全て50Rとする。
3. ブラケットは現場実測確認のうえ、製作を行なうこと。
4. 「F.P」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。
5. ※　印の高力ボルトは頭部側にも座金を用いるものとする。
6. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、
補強材部φ26.5mmとする。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その３）		
縮　尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

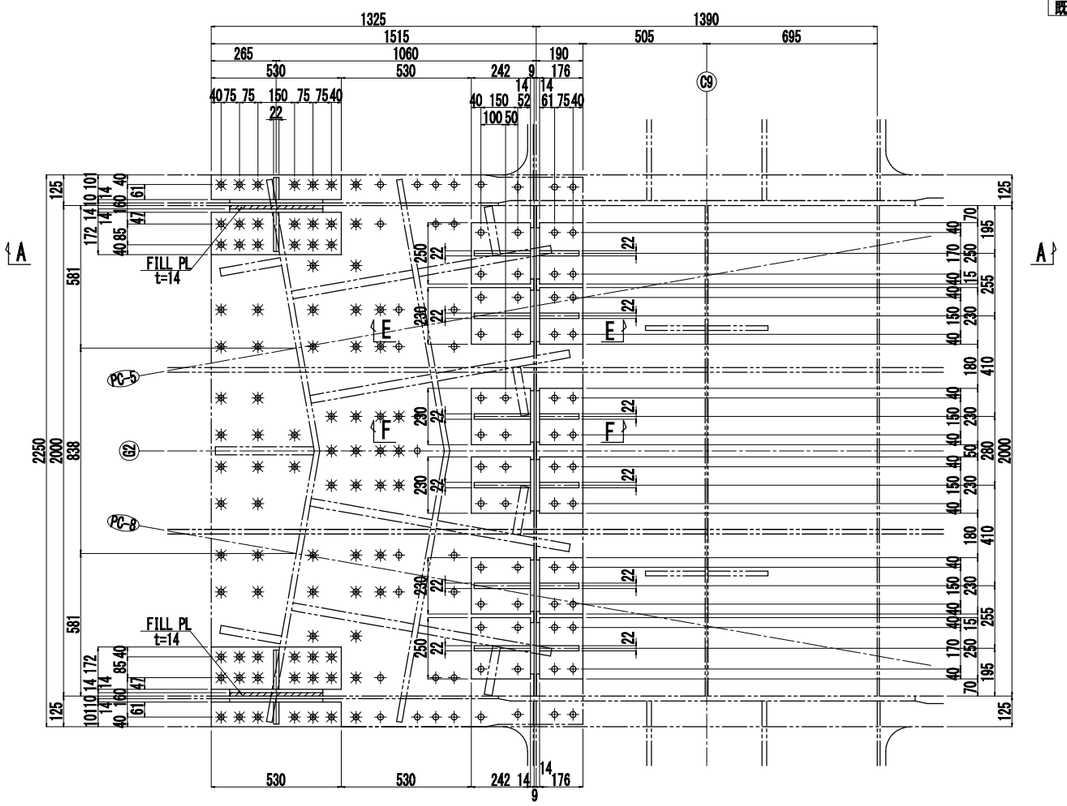
P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その４）S=1:25

P1橋脚側詳細図 P1-4725(250)

側面図 A－A

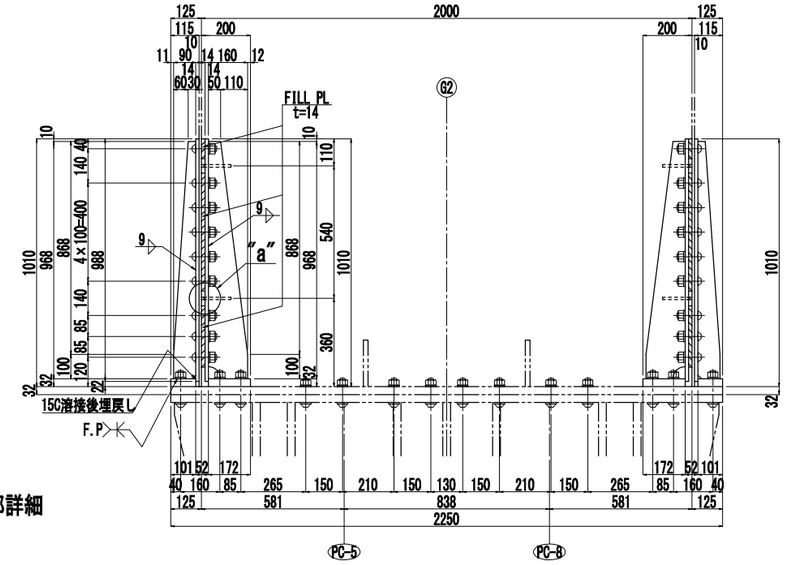


平面図 B－B

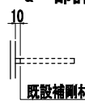


PC-5,PC-8 主桁補強図

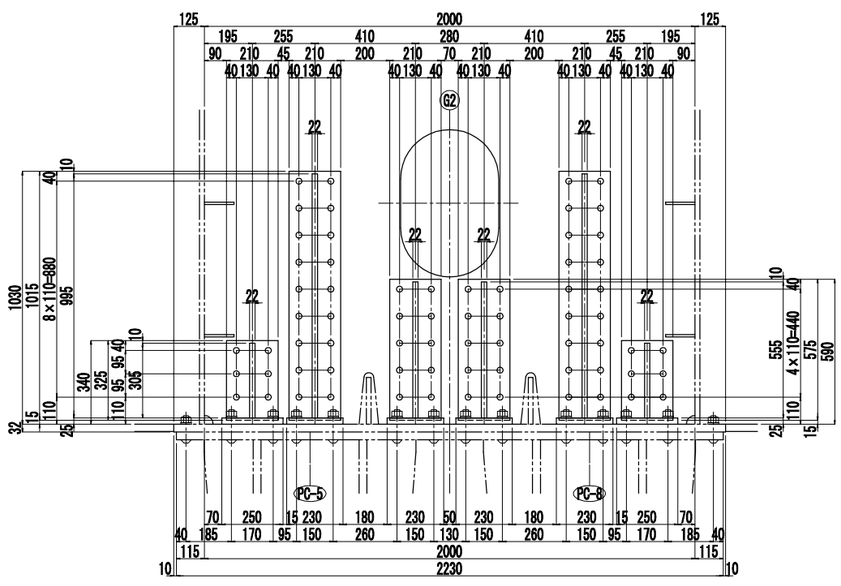
C－C



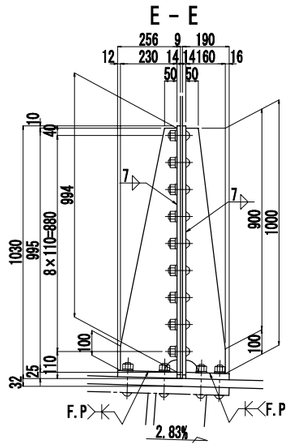
"a" 部詳細



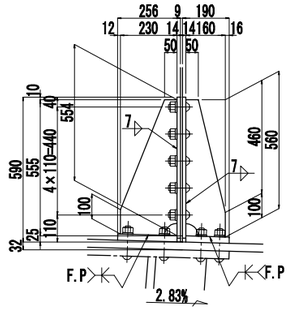
D－D



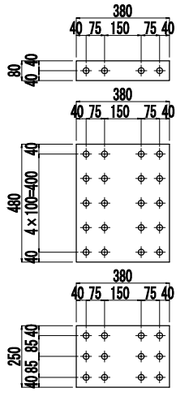
E－E



F－F



フィラープレート詳細



PC-5,PC-8 主桁補強材料

製作数 1 基

2-Base PL	530 × 32 × 101		
2-Base PL	530 × 32 × 172		
4-Base PL	380 × 14 × 993	(SM490YA)	
2-Rib PL	90 × 22 × 968		
2-Rib PL	160 × 22 × 968		
2-Fill PL	380 × 14 × 80	(SS400)	
2-Fill PL	380 × 14 × 480	(SS400)	
2-Fill PL	380 × 14 × 250	(SS400)	
72-TCB	M22 × 90	(S10T)	

2-Base PL	250 × 25 × 242		
4-Base PL	230 × 25 × 242		
4-Base PL	210 × 14 × 325	(SM490YA)	
4-Base PL	210 × 14 ×1015	(SM490YA)	
4-Base PL	210 × 14 × 575	(SM490YA)	
2-Base PL	250 × 25 × 176		
4-Base PL	230 × 25 × 176		
2-Rib PL	230 × 22 × 304		
2-Rib PL	160 × 22 × 310		
2-Rib PL	230 × 22 × 994		
2-Rib PL	160 × 22 ×1000		
2-Rib PL	230 × 22 × 554		
2-Rib PL	160 × 22 × 560		
68-TCB	M22 × 75	(S10T)	

既設桁撤去材数量

4-STIFF PL 110×10× 480 (SS400)

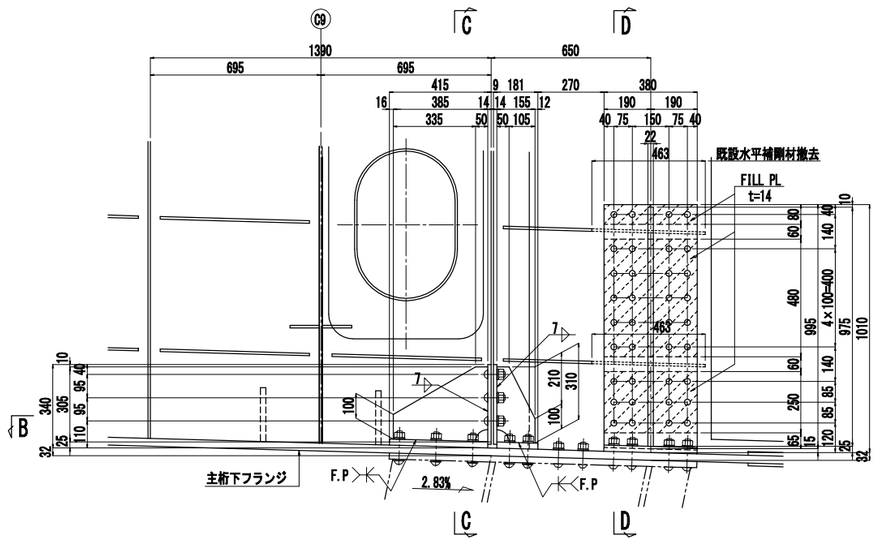
注）
1. 特記なき材質は、全てSM490YBとする。
2. 特記なきスカーラップは、全て5ORとする。
3. ブラケットは現場実測確認のうえ、製作を行なうこと。
4. 「F.P」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。
5. ※ 印の高力ボルトは頭部側にも座金を用いるものとする。
6. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その４）		
縮尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

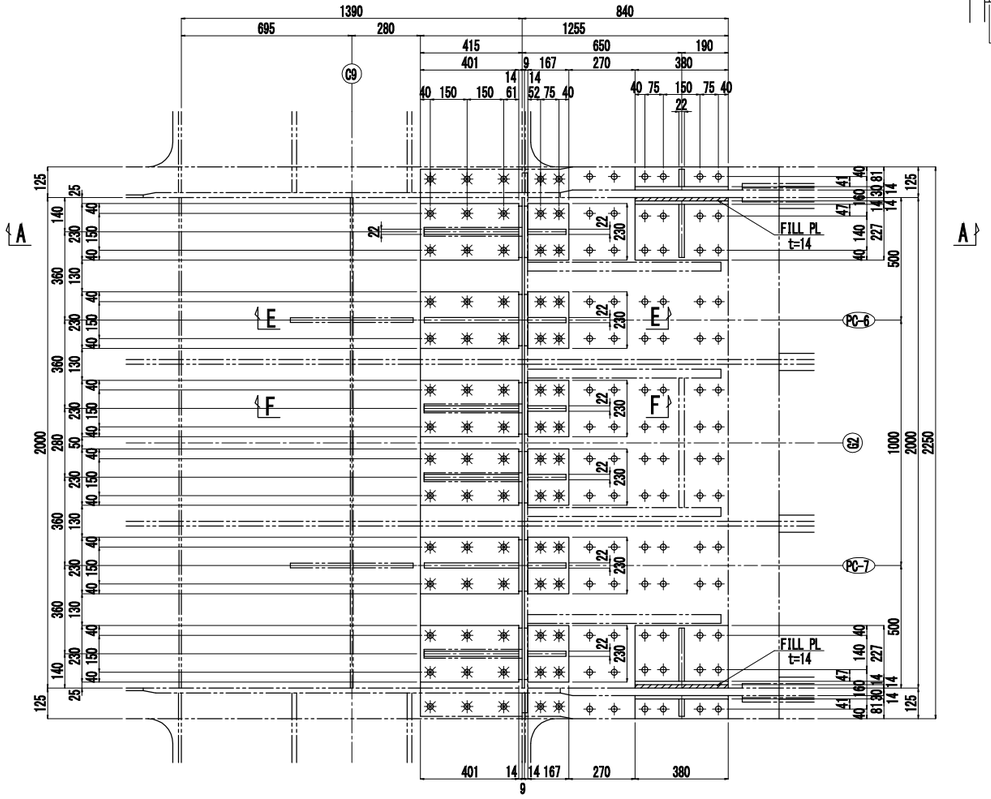
P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その５）S=1:25

P1橋脚側詳細図 P1-4725(250)

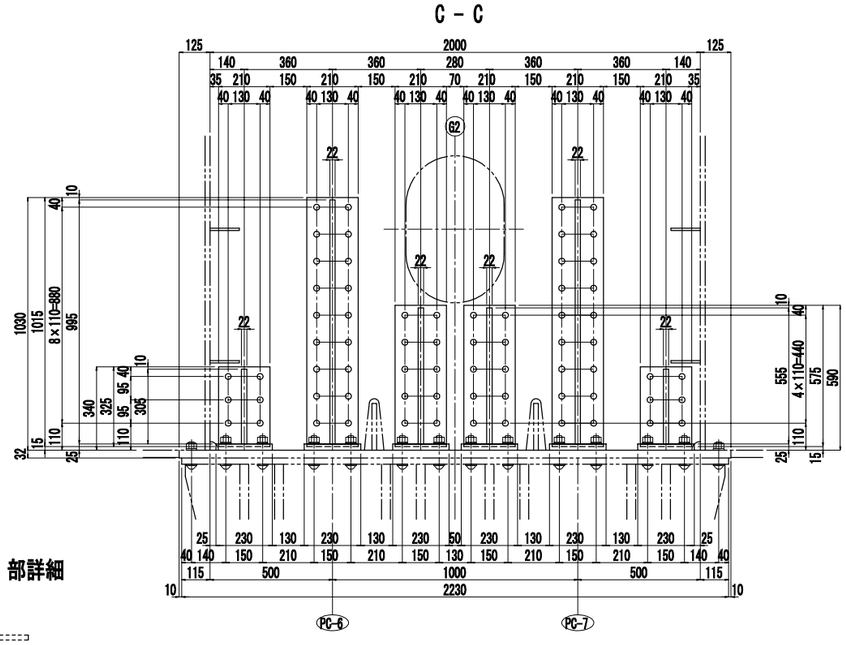
側面図 A－A



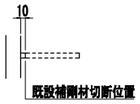
平面図 B－B



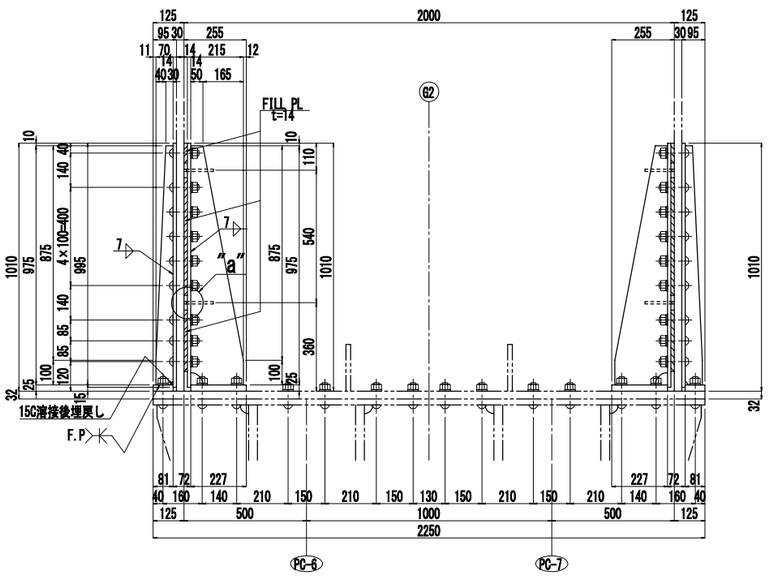
PC-6,PC-7 主桁補強図



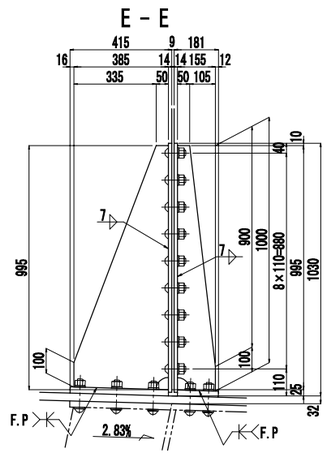
"a" 部詳細



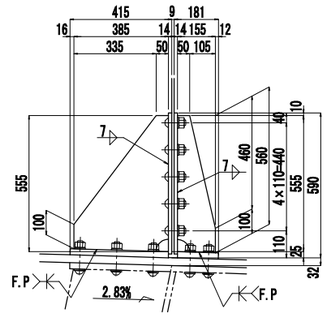
D－D



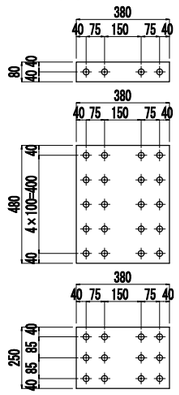
E－E



F－F



フィラープレート詳細



注）
1. 特記なき材質は、全てSM490YBとする。
2. 特記なきスカーラップは、全て50Rとする。
3. ブラケットは現場実測確認のうえ、製作を行なうこと。
4. 「F.P」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。
5. ※　印の高力ボルトは頭部側にも座金を用いるものとする。
6. 高力ボルトの孔明け径は、既設部φ24.5mm、補強材部φ26.5mmとする。

PC-6,PC-7 主桁補強材料

製作数 1 基

2-Base PL	380 × 25 × 81		6-Base PL	230 × 25 × 167	
2-Base PL	380 × 25 × 227		4-Base PL	210 × 14 × 325	(SM490YA)
4-Base PL	380 × 14 ×1000	(SM490YA)	4-Base PL	210 × 14 ×1015	(SM490YA)
2-Rib PL	70 × 22 × 975		4-Base PL	210 × 14 × 575	(SM490YA)
2-Rib PL	215 × 22 × 975		6-Base PL	230 × 25 × 401	
2-Fill PL	380 × 14 × 80	(SS400)	2-Rib PL	155 × 22 × 310	
2-Fill PL	380 × 14 × 480	(SS400)	2-Rib PL	385 × 22 × 305	
2-Fill PL	380 × 14 × 250	(SS400)	2-Rib PL	155 × 22 ×1000	
72-TCB	M22 ×110	(S10T)	2-Rib PL	385 × 22 × 995	
			2-Rib PL	155 × 22 × 560	
			2-Rib PL	385 × 22 × 555	
			68-TCB	M22 × 75	(S10T)

既設桁撤去材数量

4-STIFF PL 110×10× 463 (SS400)

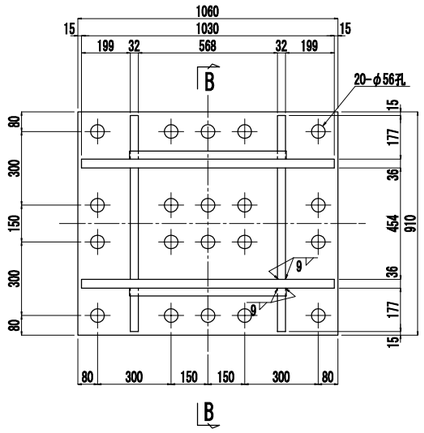
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	牛沢橋 P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その５）
縮　尺	1:25
図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その６）S=1:25

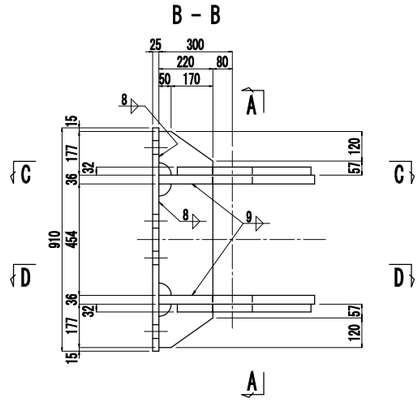
P1橋脚側詳細図 P1-4725(250)

下部工ブラケット詳細図

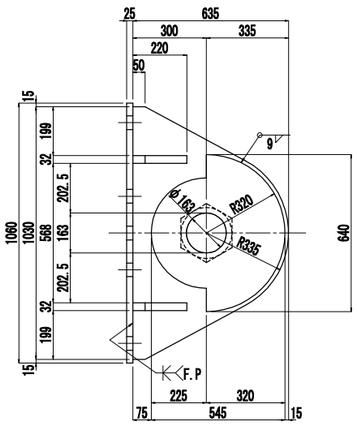
A－A



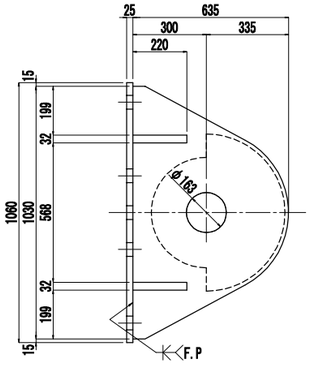
B－B



C－C

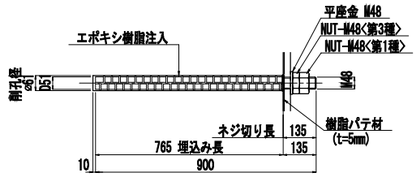


D－D



下部工側アンカーボルト詳細

落橋防止構造 アンカー工φ61・775(水平方向)



※ アンカーボルトはネジ切り部のみ
溶融亜鉛めっきを施すものとする。

下部工ブラケット 1基当り材料

製作数　A1橋台,P1橋脚 各4基

1-Base	PL	910 × 25 × 1060	
2-Top	PL	635 × 36 × 1030	(SM490B)
2-補強	PL	545 × 32 × 640	(SM490B)
4-Rib	PL	220 × 32 × 177	(SM490B)
2-Rib	PL	220 × 32 × 454	(SM490B)
20-アンカーボルト	D51 × 900		(SD345)
20-NUT	M48〈第1種〉		(SS400)
20-NUT	M48〈第3種〉		(SS400)
20-座金	M48		(SS400)

注)
1. 特記なき材質は、全てSM490Aとする。
2. 特記なきスカーラップは、全て50Rとする。
3. ブラケットは現場実測確認のうえ、製作を行なうこと。
4. 「F.P」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しない様に現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認する事。
6. 鋼製ブラケット（下部工付）との接触面部コンクリートは、表面処理としてチッピングを行う。
7. 下部工ブラケットの防錆処理は、溶融亜鉛めっきとする。（亜鉛の膜厚は JIS H8641のHDZT77とする。尚、厚さ1mm以上の部材、直径12mm以上のボルト，ナットおよび厚さ2.3mmを超える座金の膜厚はHDZT49とする。）

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その６）		
縮　尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その７）（参考図） S=図示

落橋防止構造図 P1-4725(250)

設計条件

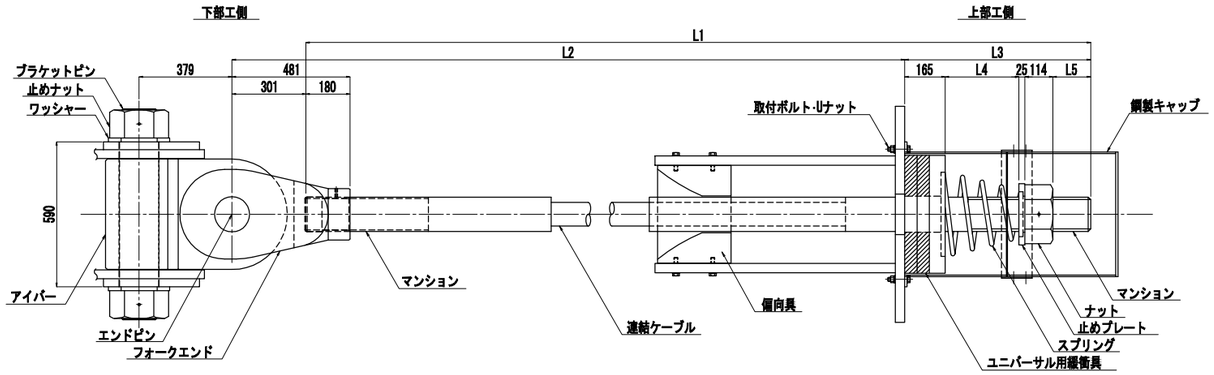
設計水平力	Hf=1.5Rd	4725 kN
設計遊間量	A1橋台	150 mm
	P1橋脚	250 mm

材 料 表（落橋防止構造1組当たり）

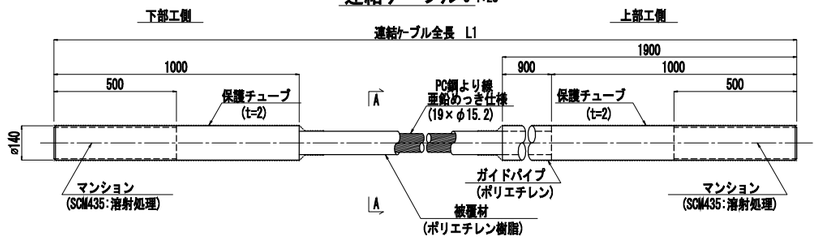
全 組(4組/支承線)

名 称	単位	数量	摘 要	重 量 (kg)
連結ケーブル	本	1	PC鋼より線,亜鉛めっき仕様,ポリエチレン被覆	ｗ
(マンション)	個	2	SCM435,亜鉛アルミ溶射,ねじきり標準 〈ケーブルに組込〉	
(ガイドパイプ)	本	1	ポリエチレン 〈ケーブルに組込〉	
ナット	個	1	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)	19.8
止めプレート	個	1	SS400相当品:亜鉛めっき(HDZT77)	3.6
スプリング	個	1	SWRS:亜鉛めっき,クロメート処理	10.0
ユニバーサル用緩衝具	個	1	SS400:亜鉛めっき(HDZT77)＋合成ゴム	96.6
偏向具	個	1	ポリエチレン	38.0
(取付ボルト)	本	16	SS400相当品:亜鉛めっき(HDZT49) 接着剤付(M16×55 1W付)	1.6
鋼製キャップ	組	1	SS400,STK400:亜鉛めっき(HDZT77)	96.6
取付ボルト･Uナット	組	4	SS400相当品:亜鉛めっき(HDZT49) (M16×75 2W付)	0.4
ブラケットピン	本	1	SCM435,ダクロダイズド処理,DMコート	125.0
止めナット	個	2	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)	39.6
ワッシャー	個	2	SS400相当品,亜鉛めっき(HDZT77)	8.0
アイバー	個	1	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)	321.1
フォークエンド	個	1	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)	173.2
エンドピン (ピン)	本	1	SCM435,ダクロダイズド処理,DMコート	29.0
(止めプレート)	個	1	SS400相当品,亜鉛めっき(HDZT77)	

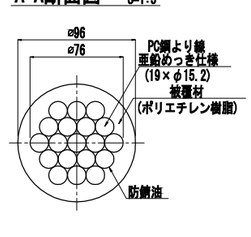
取付詳細図 S=1:25



連結ケーブル S=1:25

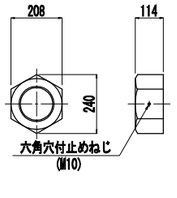


A-A断面図 S=1:5



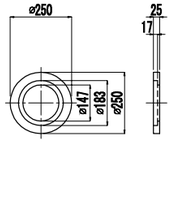
ナット S=1:25

(S45C:亜鉛めっき)



止めプレート S=1:25

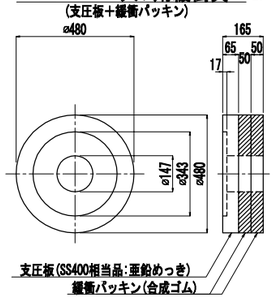
(SS400相当品:亜鉛めっき)



設置箇所		L1	L2	L3	L4	L5	L6	ｗ	合計重量
A1橋台	PC-1	8100	7799	602	150	148	300	199.4	1161.9
	PC-2	5650	5356	595	150	141	300	139.1	1101.6
	PC-3	5650	5350	601	150	147	300	139.1	1101.6
	PC-4	8100	7780	621	150	167	300	199.4	1161.9
P1橋脚	PC-5	8300	7896	705	250	151	450	204.3	1166.8
	PC-6	5850	5461	690	250	136	450	144.0	1106.5
	PC-7	5850	5455	696	250	142	450	144.0	1106.5
	PC-8	8300	7877	724	250	170	450	204.3	1166.8

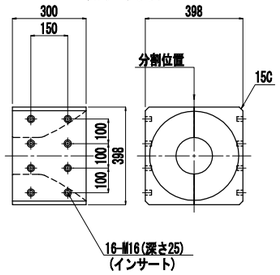
ユニバーサル用緩衝具 S=1:25

(支圧板＋緩衝パッキン)



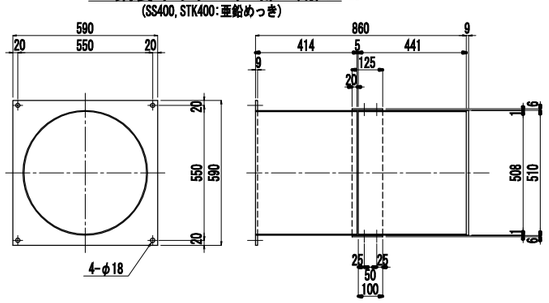
偏 向 具 S=1:25

(ポリエチレン)



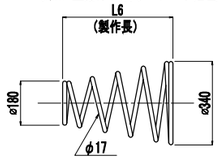
鋼製キャップ(上部工用) S=1:25

(SS400, STK400:亜鉛めっき)



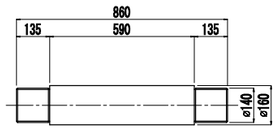
スプリング S=1:25

(SWRS:亜鉛めっき,クロメート処理)



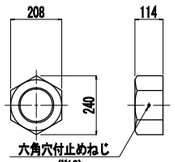
ブラケットピン S=1:25

(SCM435:DMコート)



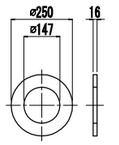
止めナット S=1:25

(S45C:亜鉛めっき)



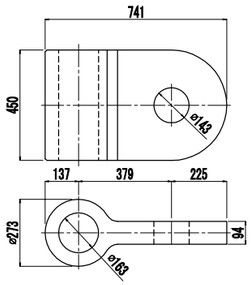
ワッシャー S=1:25

(SS400相当品:亜鉛めっき)



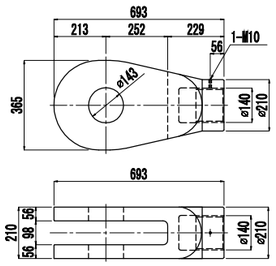
アイバー S=1:25

(S45C:亜鉛めっき)



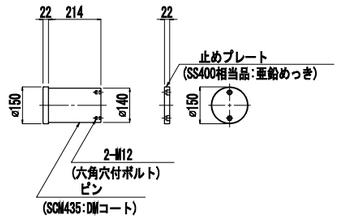
フォークエンド S=1:25

(S45C:亜鉛めっき)



エンドピン S=1:25

(ピン＋止めプレート)



マンション端部処理 S=1:25



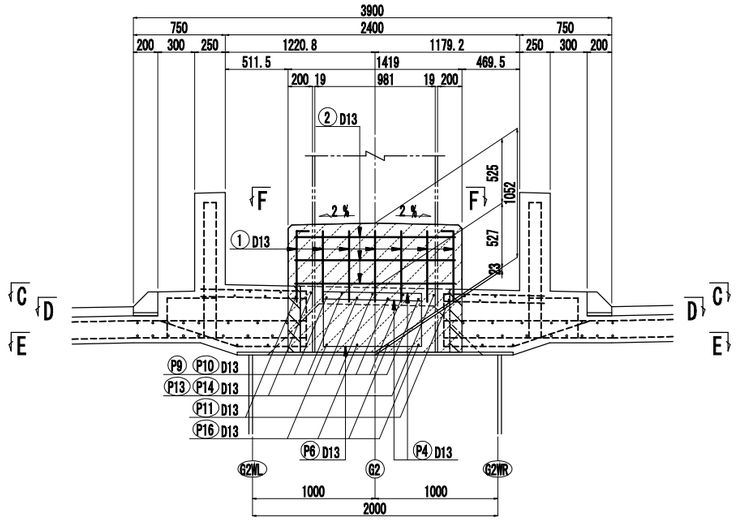
※取付前に保護チューブをはぎ取る。
取付後はマンション先端ねじ部に
防錆処理をおこなうこと。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 P1橋脚 落橋防止構造 構造図（その７）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

吊り材根巻きコンクリート撤去図（その１）S=1:50

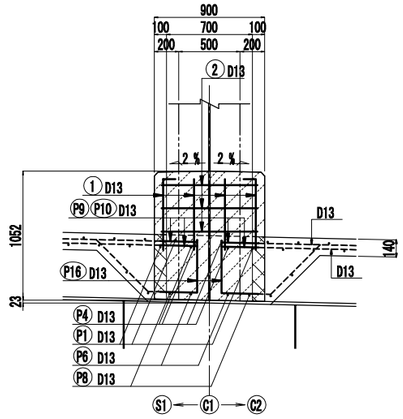
吊材 C1, C9

A－A（橋軸直角方向）

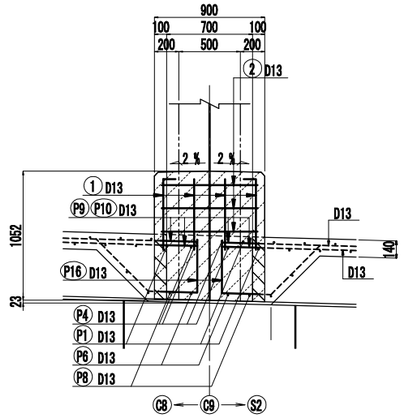


B－B（橋軸方向）

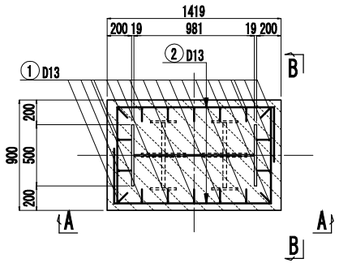
吊材 C1



吊材 C9

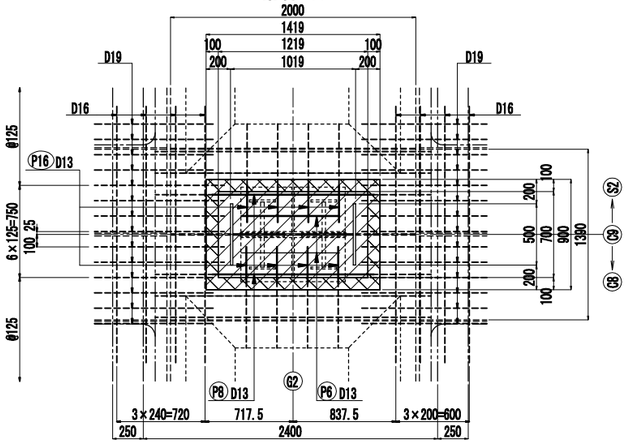


F－F 根巻きコンクリート天端

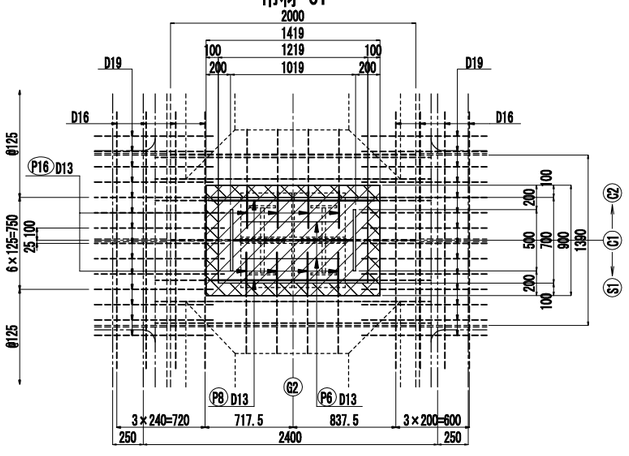


E－E 床版配筋

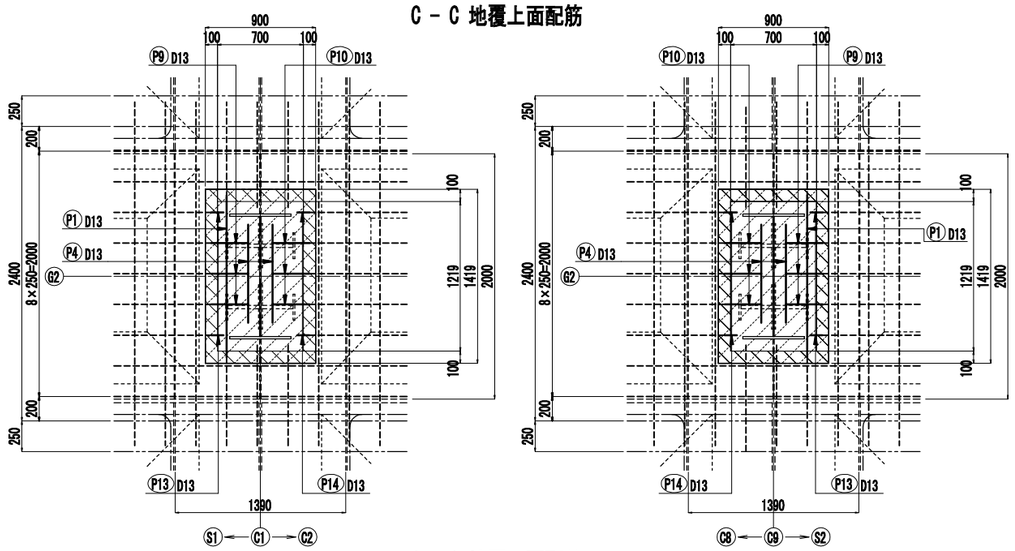
吊材 C9



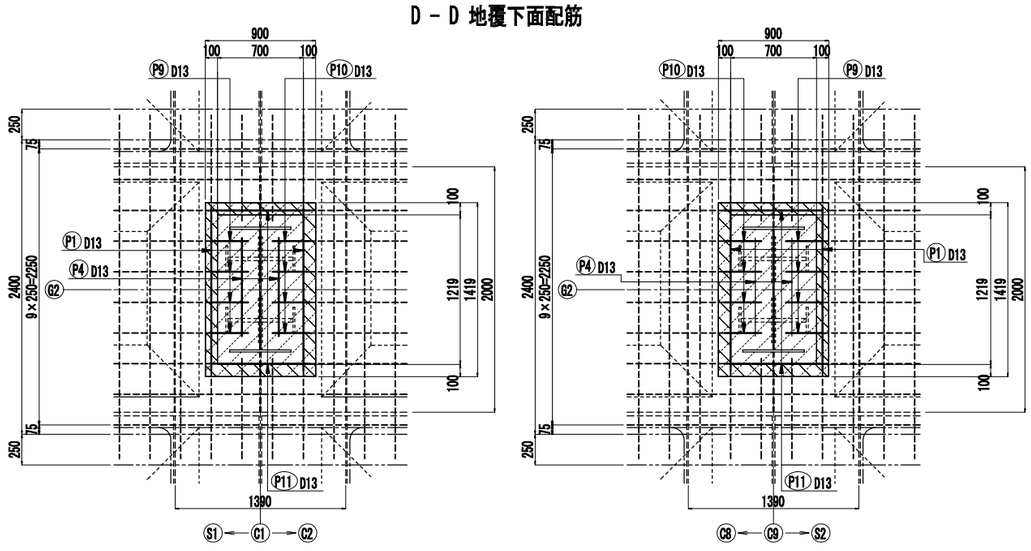
吊材 C1



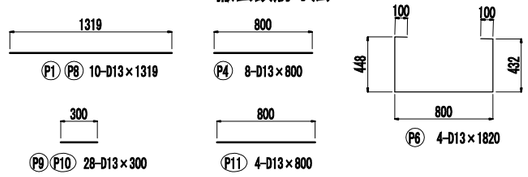
C－C 地覆上面配筋



D－D 地覆下面配筋



撤去鉄筋寸法



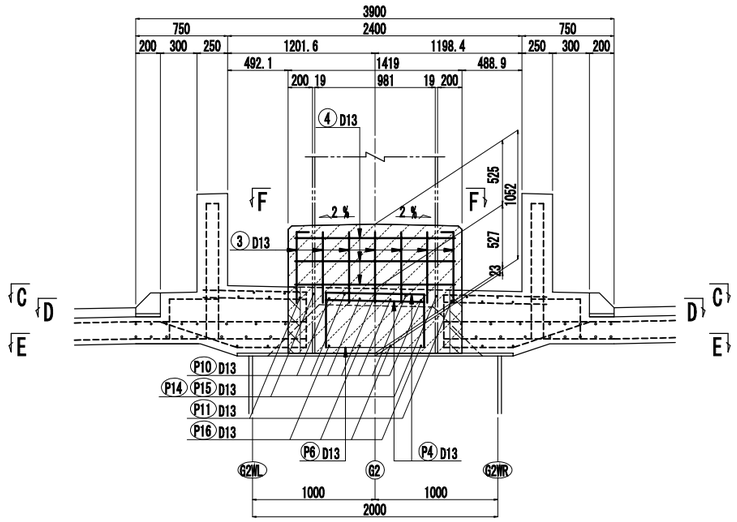
注）
1. 撤去作業の際は、主構造部材の損傷が無い様に施工する事。
2. ▨ 範囲は、人力による取り壊しを示す。
3. ▩ 範囲は、コア掘削による取り壊しを示す。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材根巻きコンクリート撤去図（その１）		
縮尺	1:50	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

吊り材根巻きコンクリート撤去図（その２）S=1:50

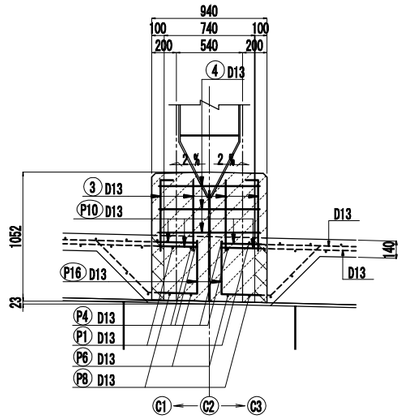
吊材 C2, C8

A－A（橋軸直角方向）

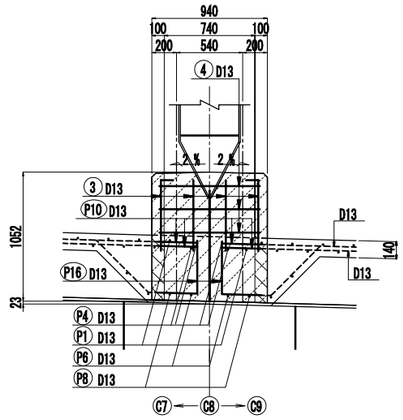


B－B（橋軸方向）

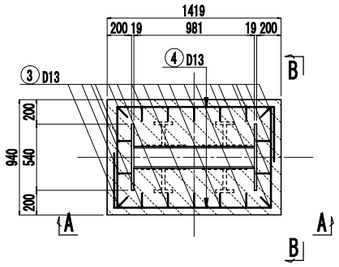
吊材 C2



吊材 C8

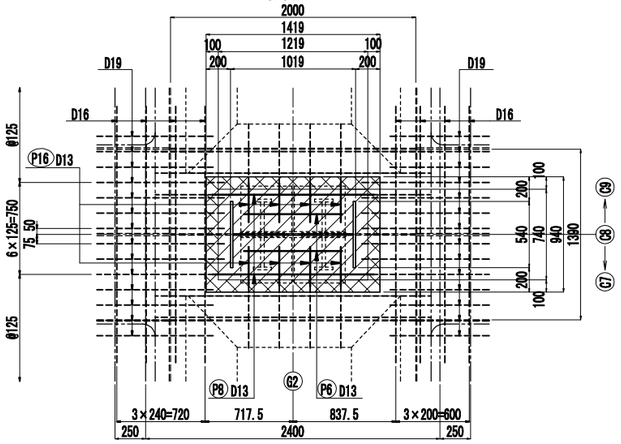


F－F 根巻きコンクリート天端

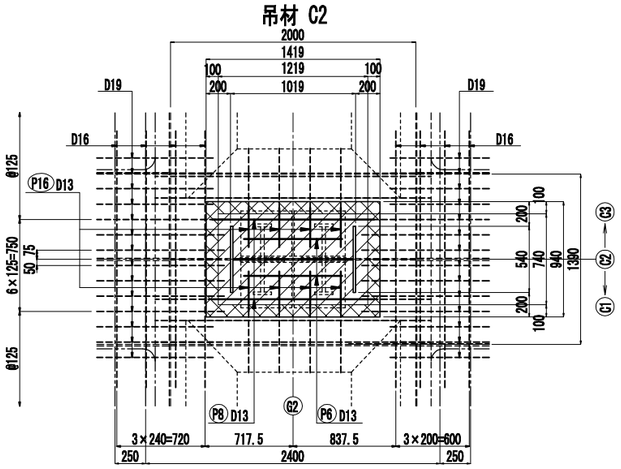


E－E 床版配筋

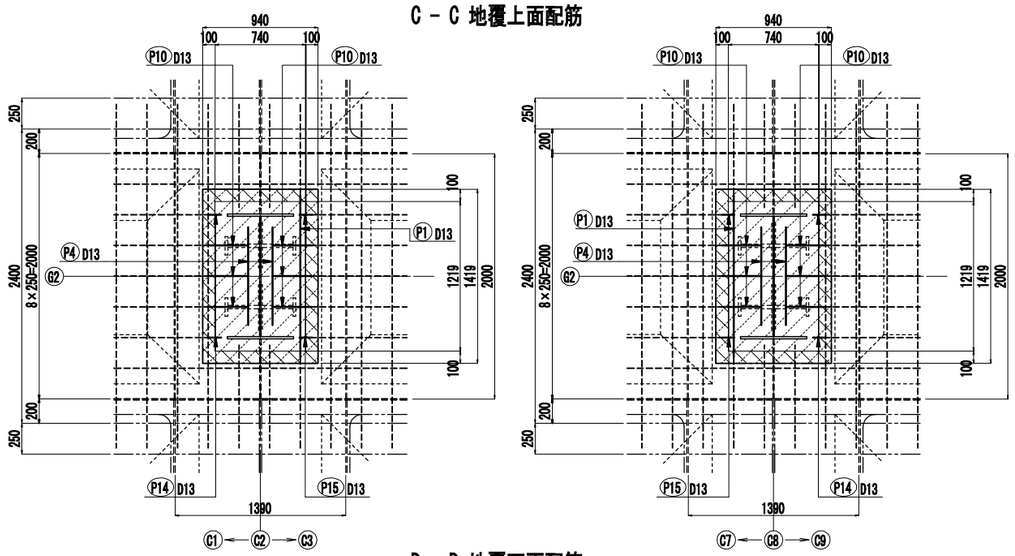
吊材 C8



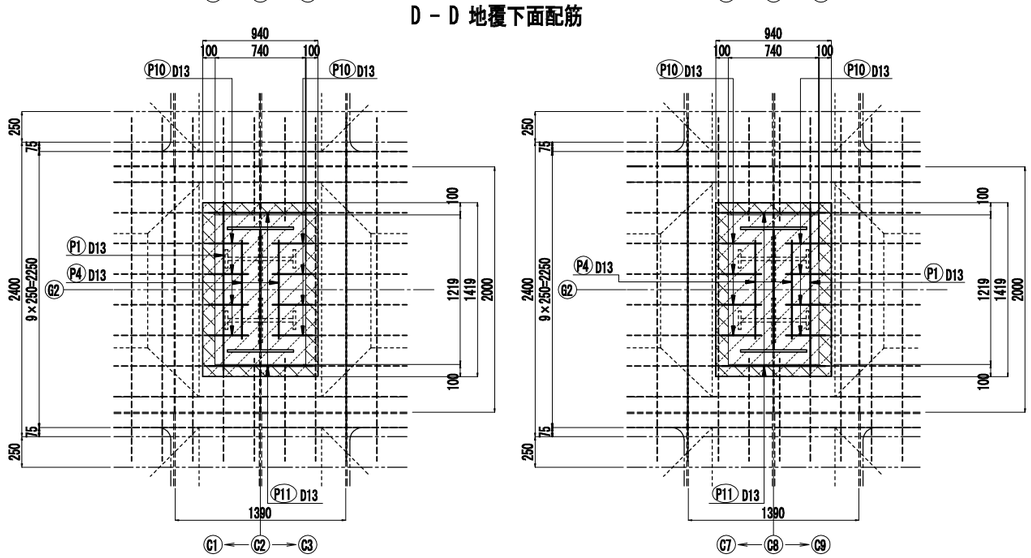
吊材 C2



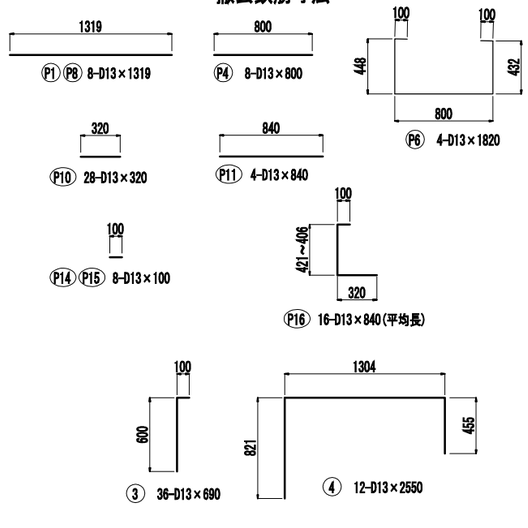
C－C 地覆上面配筋



D－D 地覆下面配筋



撤去鉄筋寸法



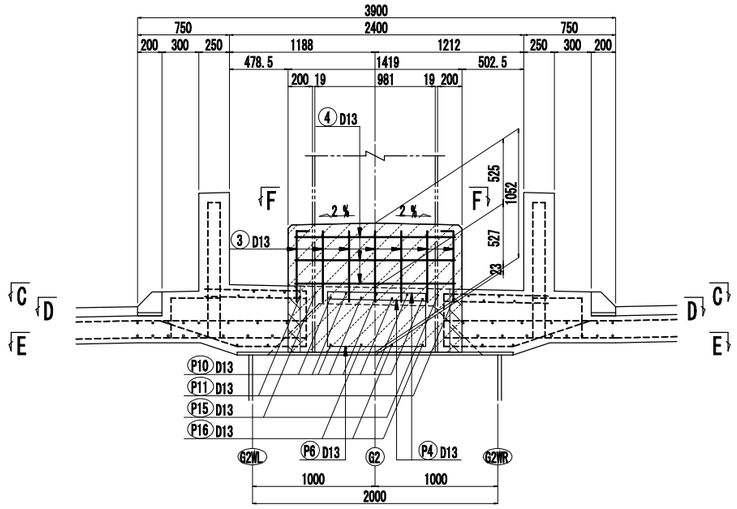
注）
1. 撤去作業の際は、主構造部材の損傷が無い様に施工する事。
2. ▨ 範囲は、人力による取り壊しを示す。
3. ▨ 範囲は、コア掘削による取り壊しを示す。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材根巻きコンクリート撤去図（その２）		
縮尺	1:50	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

吊り材根巻きコンクリート撤去図（その３）S=1:50

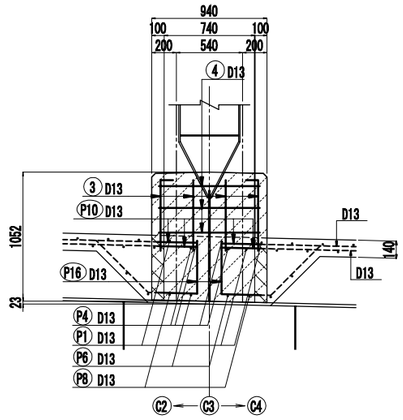
吊材 C3, C7

A－A（橋軸直角方向）

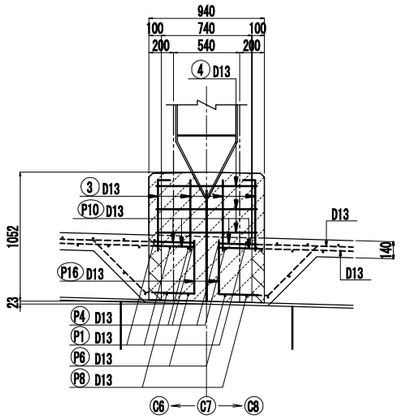


B－B（橋軸方向）

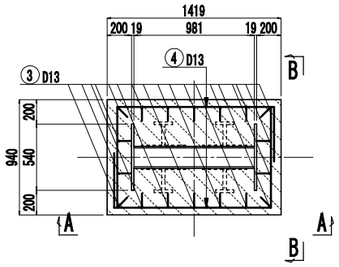
吊材 C3



吊材 C7

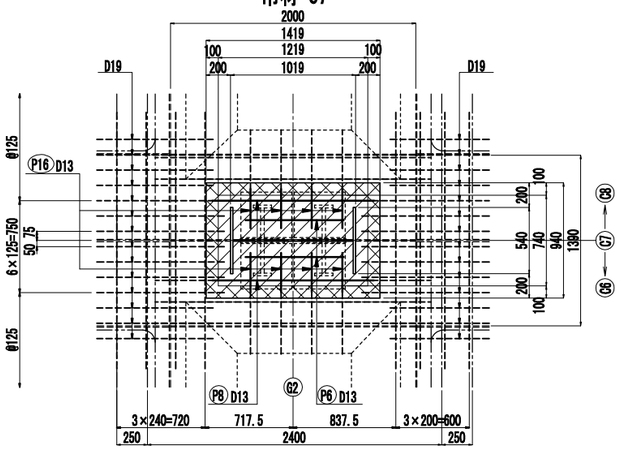


F－F 根巻きコンクリート天端

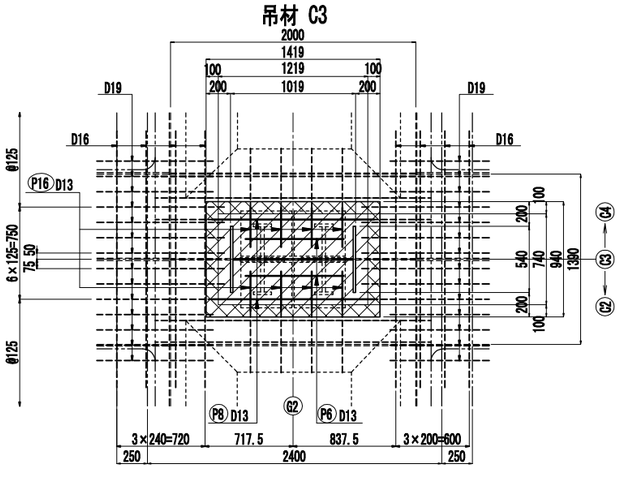


E－E 床版配筋

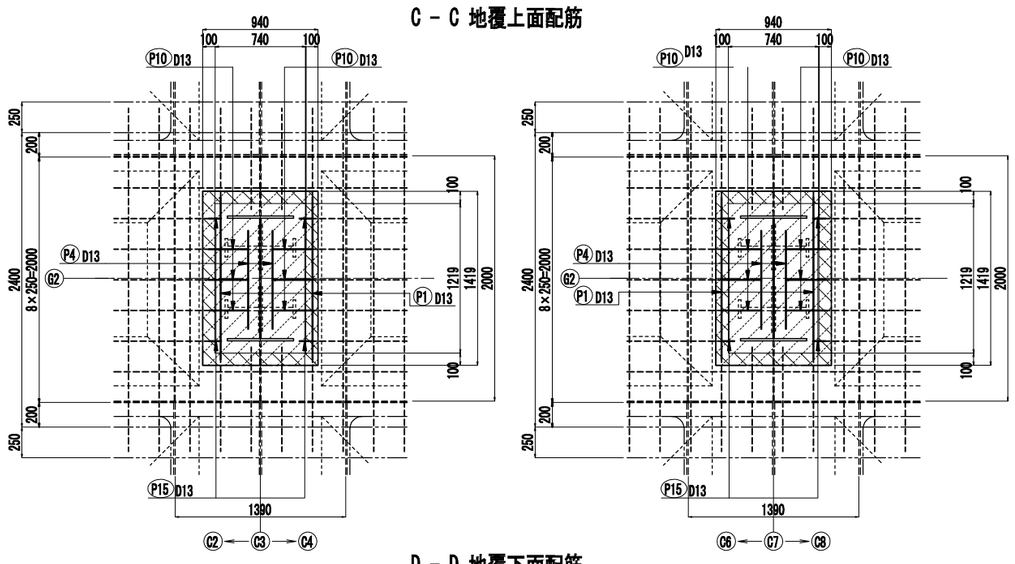
吊材 C7



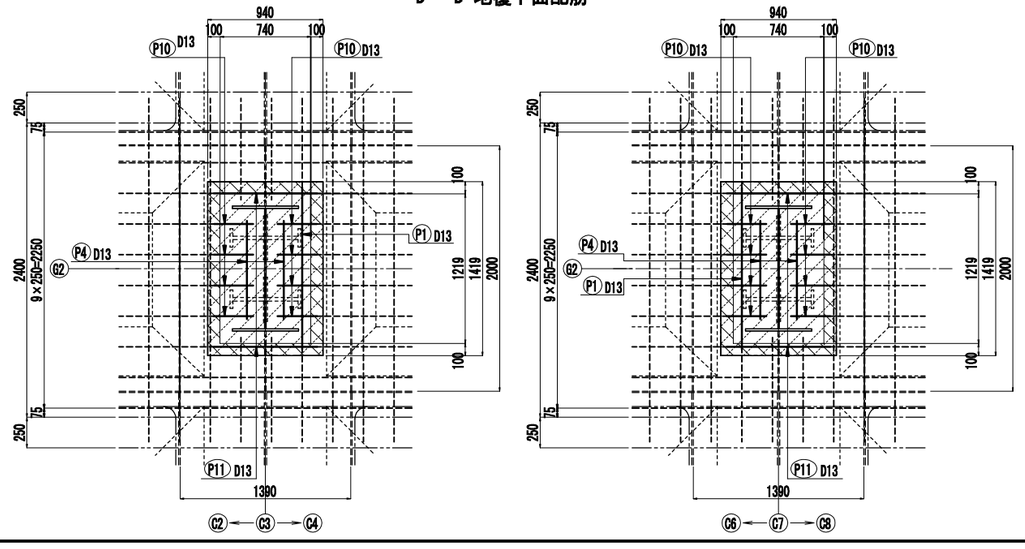
吊材 C3



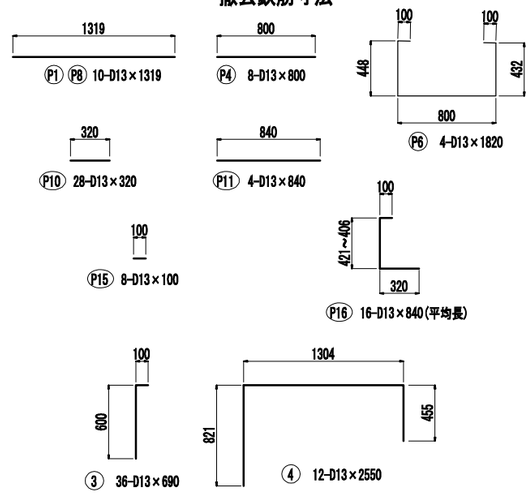
C－C 地覆上面配筋



D－D 地覆下面配筋



撤去鉄筋寸法



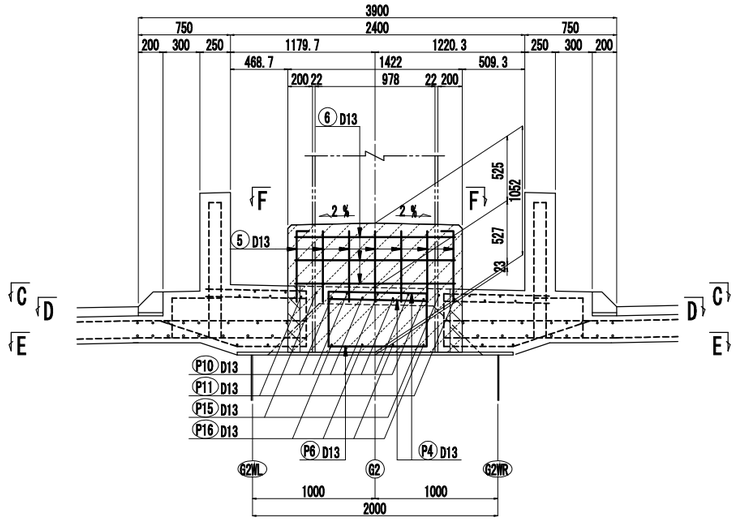
注）
1. 撤去作業の際は、主構造部材の損傷が無い様に施工する事。
2. ▨ 範囲は、人力による取り壊しを示す。
3. ▨ 範囲は、コア掘削による取り壊しを示す。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材根巻きコンクリート撤去図（その３）		
縮　尺	1:50	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

吊り材根巻きコンクリート撤去図（その４）S=1:50

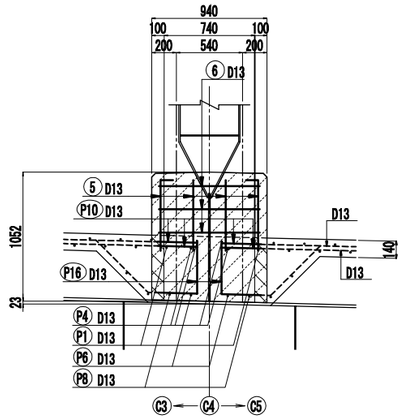
吊材 C4, C6

A－A（橋軸直角方向）

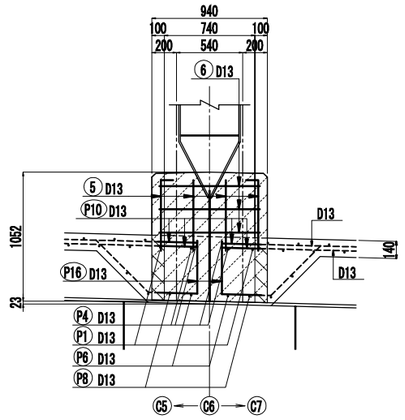


B－B（橋軸方向）

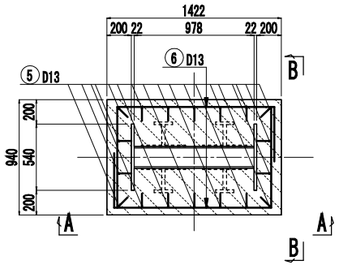
吊材 C4



吊材 C6

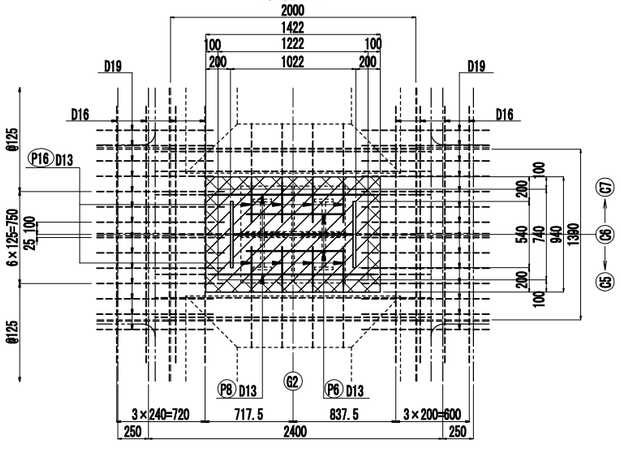


F－F 根巻きコンクリート天端

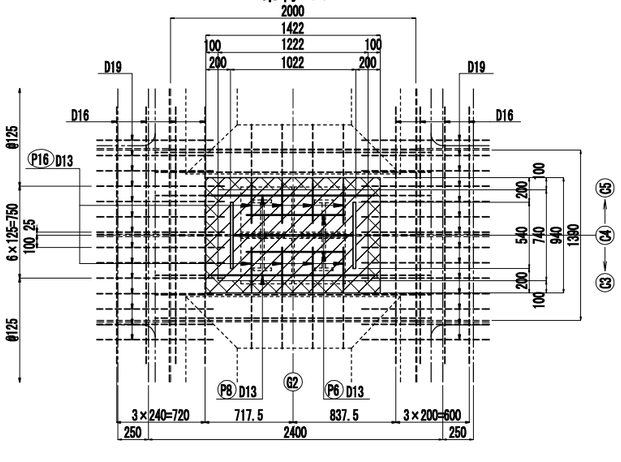


E－E 床版配筋

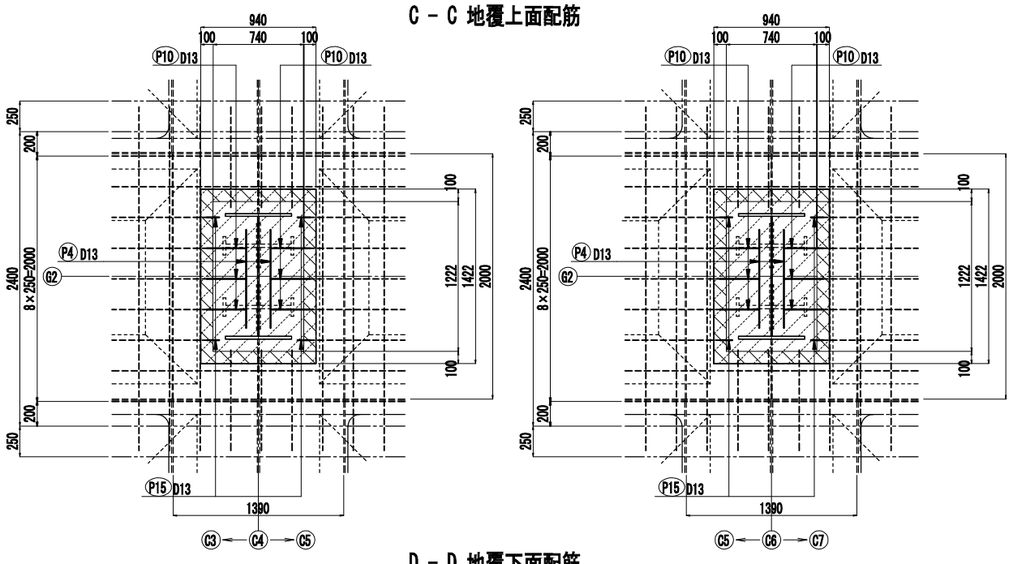
吊材 C6



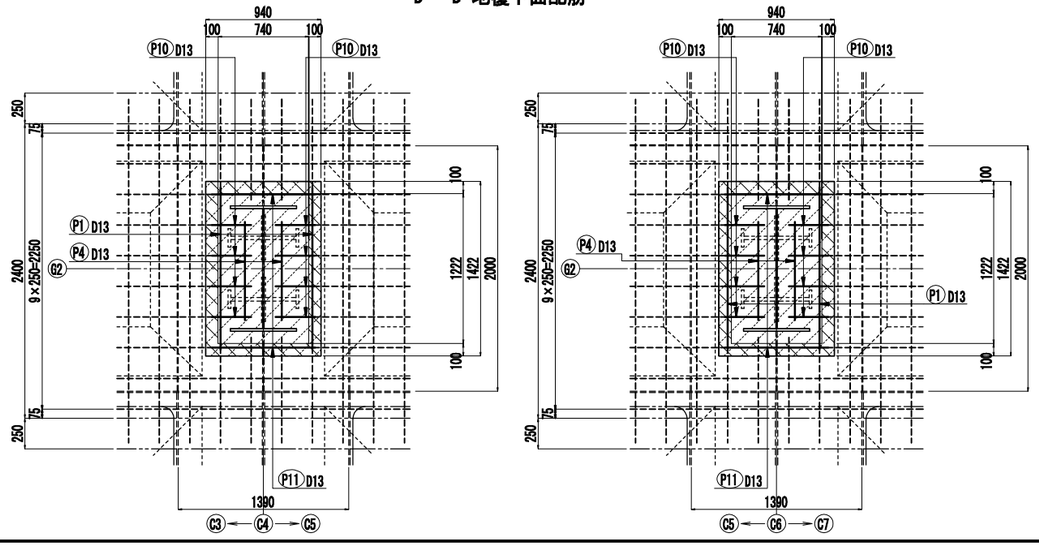
吊材 C4



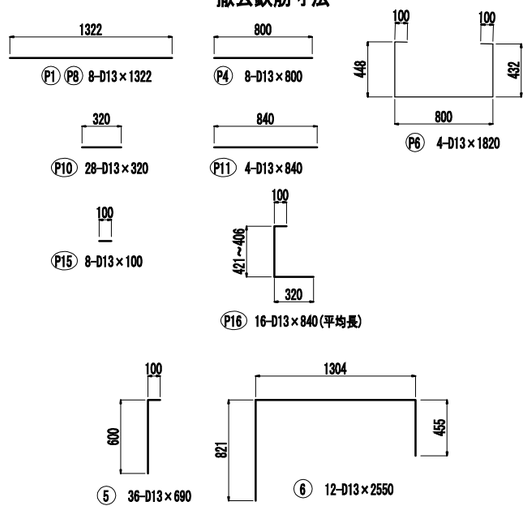
C－C 地覆上面配筋



D－D 地覆下面配筋



撤去鉄筋寸法



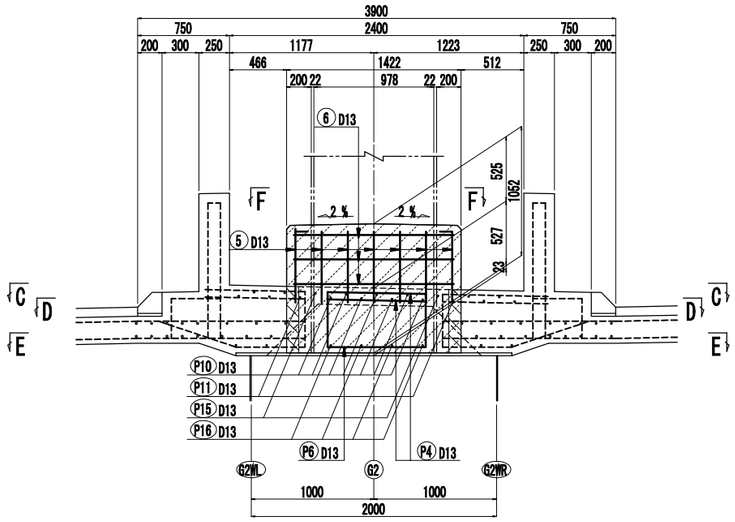
注）
1. 撤去作業の際は、主構造部材の損傷が無い様に施工する事。
2. ▨ 範囲は、人力による取り壊しを示す。
3. ▩ 範囲は、コア掘削による取り壊しを示す。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材根巻きコンクリート撤去図（その４）		
縮　尺	1:50	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

吊り材根巻きコンクリート撤去図（その５）S=1:50

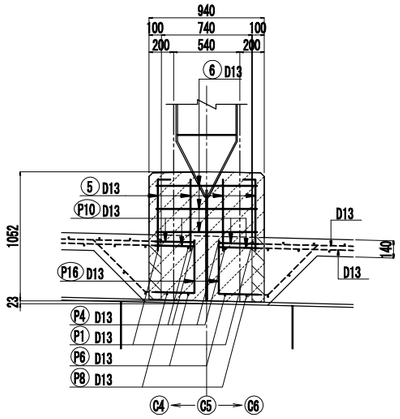
吊材 C5

A－A（橋軸直角方向）

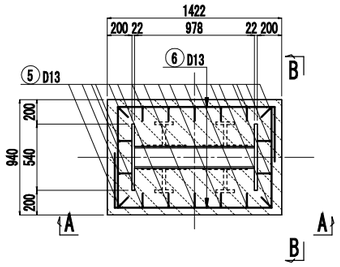


B－B（橋軸方向）

吊材 C5



F－F 根巻きコンクリート天端

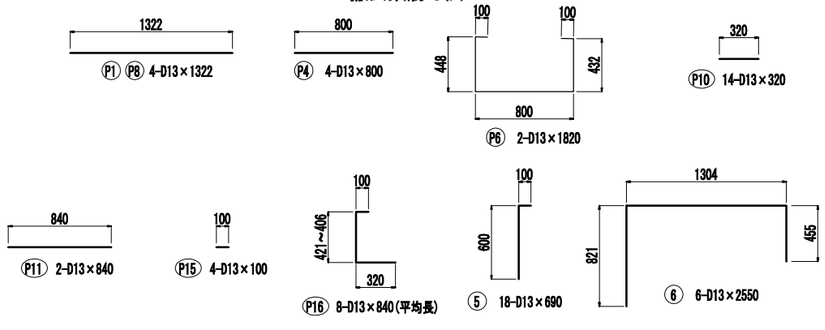


E－E 床版配筋

C－C 地覆上面配筋

D－D 地覆下面配筋

撤去鉄筋寸法



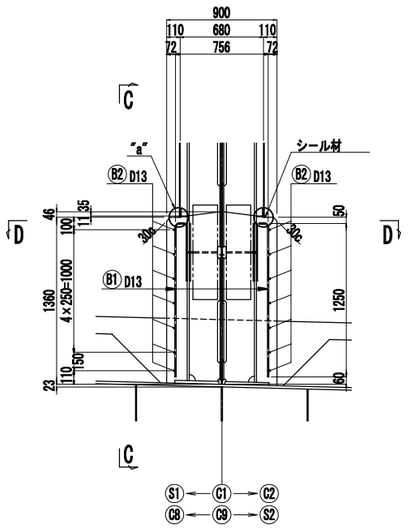
注）
1. 撤去作業の際は、主構造部材の損傷が無い様に施工する事。
2. ▨ 範囲は、人力による取り壊しを示す。
3. ▨ 範囲は、コア掘削による取り壊しを示す。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材根巻きコンクリート撤去図（その５）		
縮尺	1:50	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

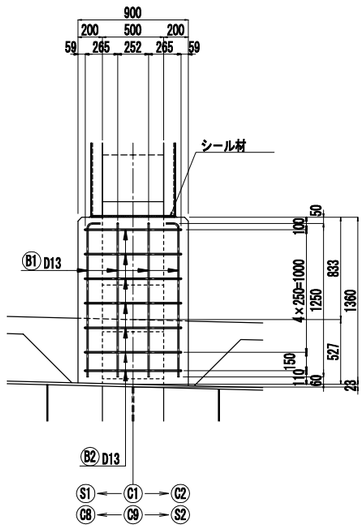
吊り材根巻きコンクリート改良図（その１）S=図示

吊材 C1,C9 改良図

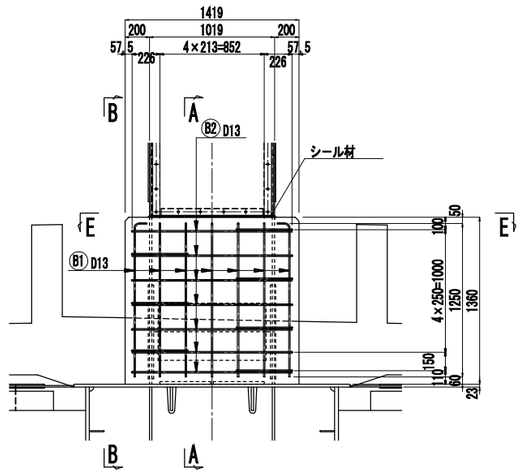
A － A S=1:50



B － B S=1:50

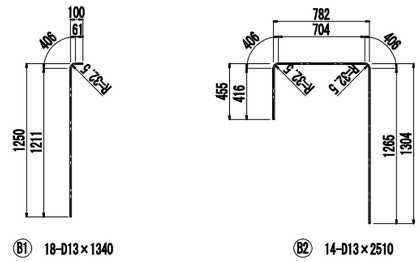


C － C S=1:50



鉄筋加工図

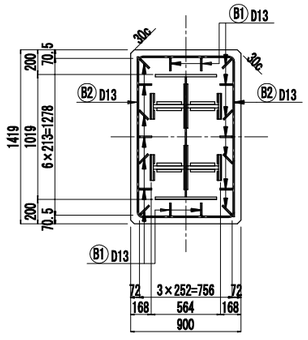
（1箇所当たり数量）



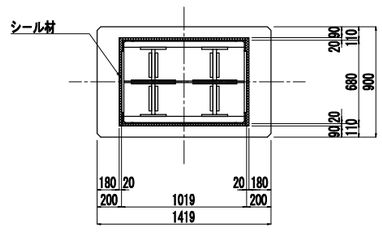
B1 18-D13×1340

B2 14-D13×2510

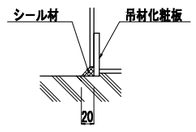
D － D S=1:50



E － E S=1:50



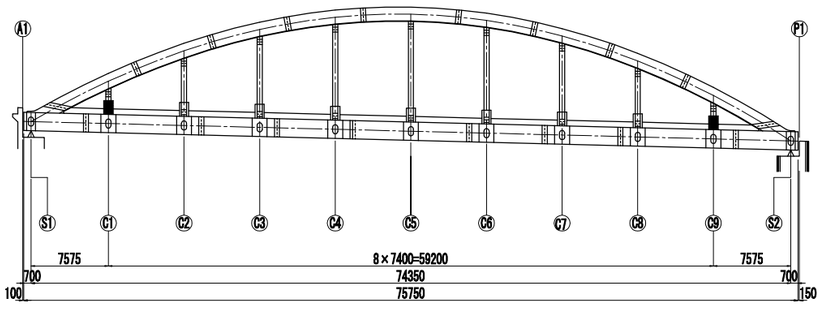
"a"部詳細（参考図）S=1:10



鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
B1	D13	1340	18	0.995	1.33	24	┌
B2	D13	2510	14	0.995	2.50	35	┌
					合計	59 kg	

配置図



注）

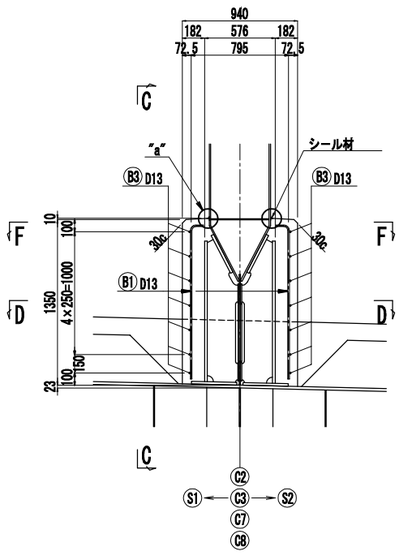
1. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材根巻きコンクリート改良図（その１）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

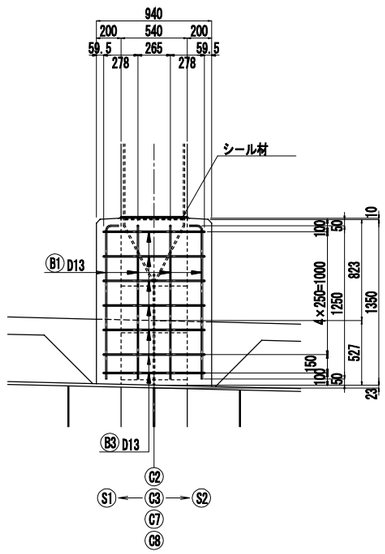
吊り材根巻きコンクリート改良図（その２）S=図示

吊材 C2, C3, C7, C8 改良図

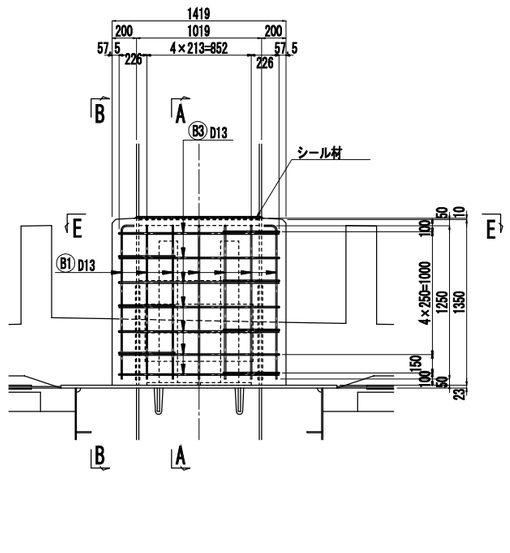
A－A S=1:50



B－B S=1:50

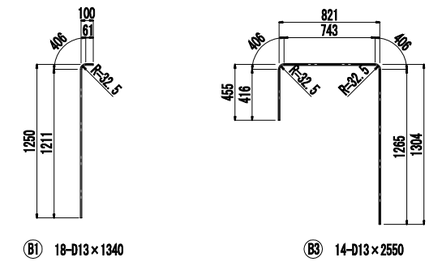


C－C S=1:50



鉄筋加工図

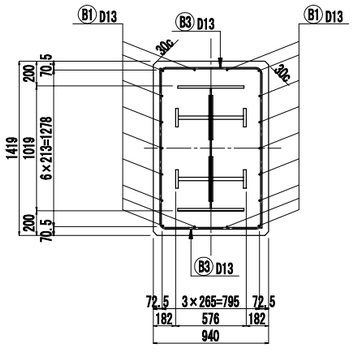
（1箇所当たり数量）



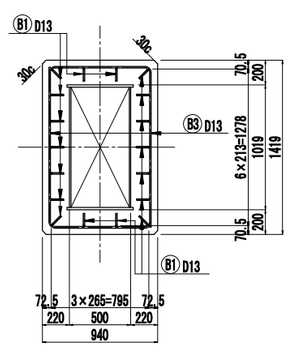
B1 18-D13×1340

B3 14-D13×2550

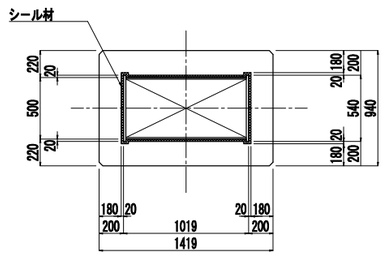
D－D S=1:50



F－F S=1:50



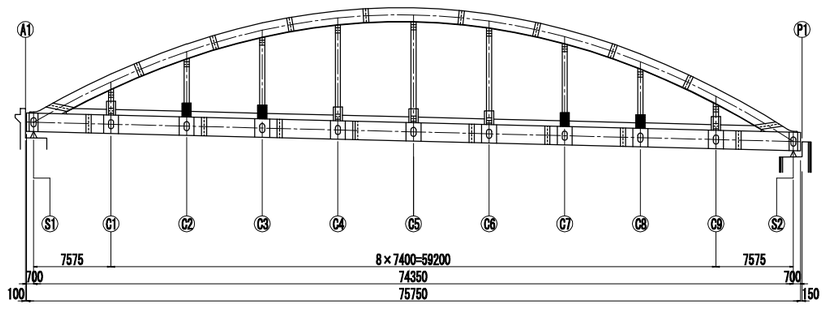
E－E S=1:50



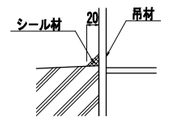
鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
B1	D13	1340	18	0.995	1.33	24	┌
B3	D13	2550	14	0.995	2.54	36	┌┐
					合計	60 kg	

配置図



"a"部詳細（参考図）S=1:10



注）

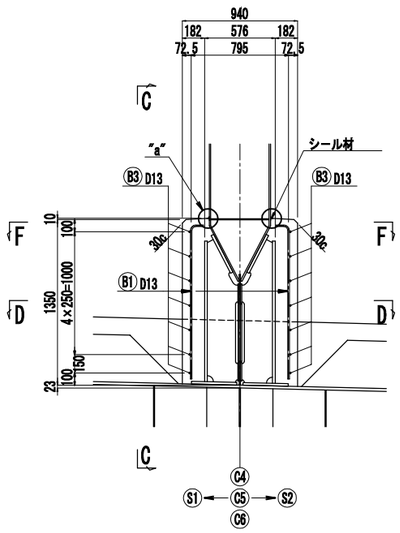
1. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材根巻きコンクリート改良図（その２）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

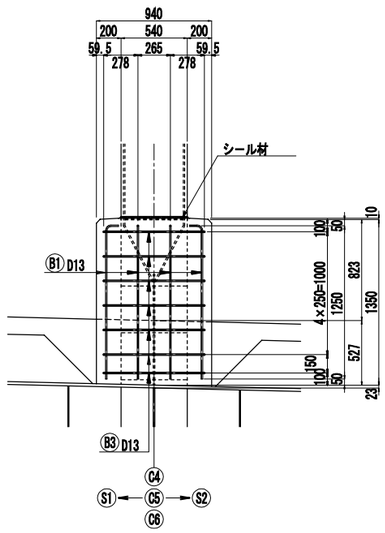
吊り材根巻きコンクリート改良図（その３）S=図示

吊材 C4,C5,C6 改良図

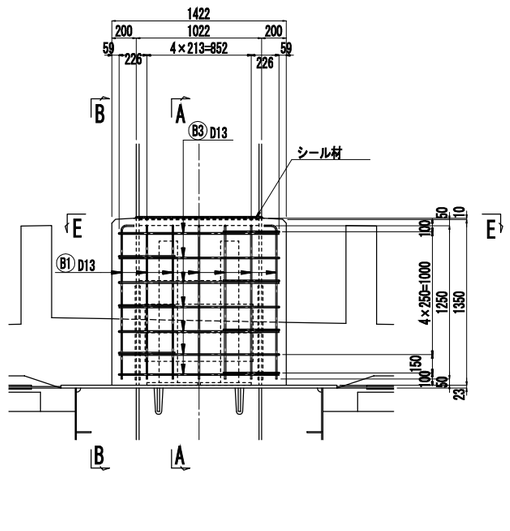
A－A S=1:50



B－B S=1:50

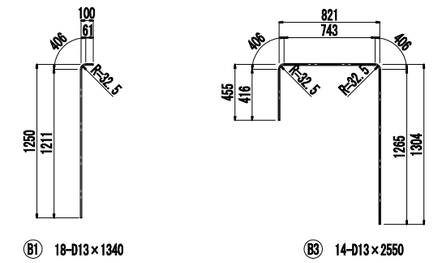


C－C S=1:50



鉄筋加工図

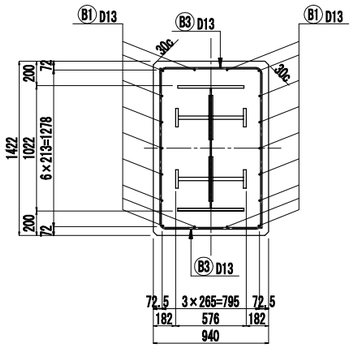
（1箇所当たり数量）



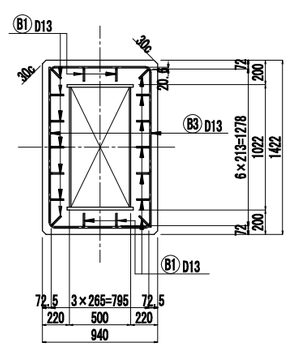
B1 18-D13×1340

B3 14-D13×2550

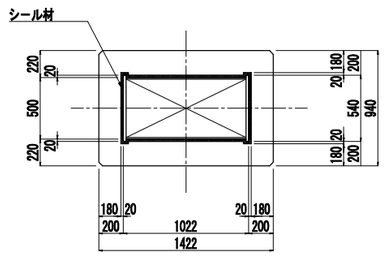
D－D S=1:50



F－F S=1:50



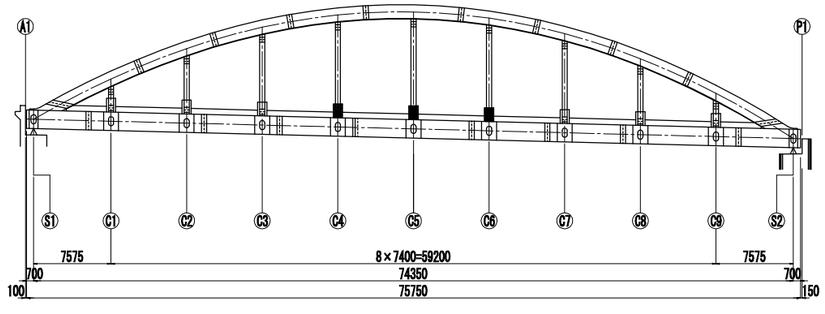
E－E S=1:50



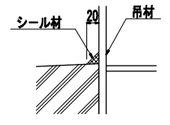
鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
B1	D13	1340	18	0.995	1.33	24	┌
B3	D13	2550	14	0.995	2.54	36	┌┐
					合計	60 kg	

配置図



"a"部詳細（参考図）S=1:10



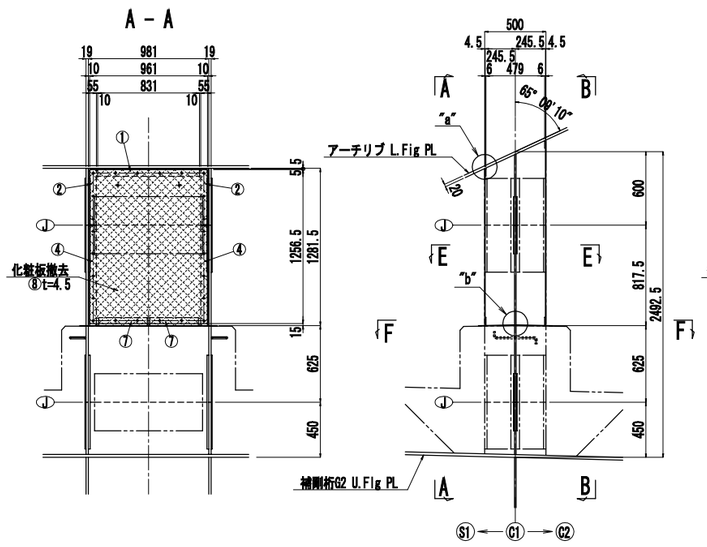
注）

1. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

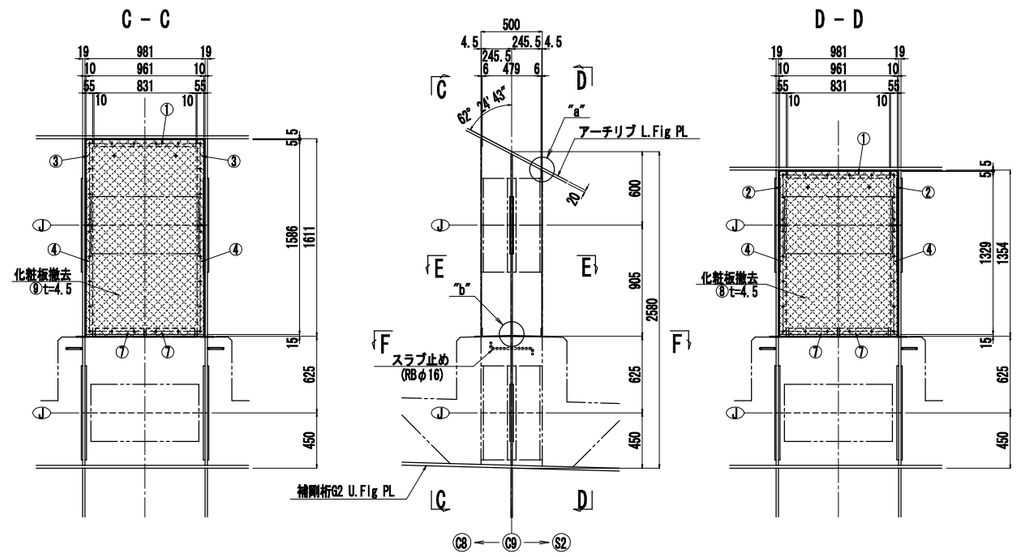
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材根巻きコンクリート改良図（その３）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

吊り材化粧板撤去図（その１）S=図示

吊材 C1 S=1:50



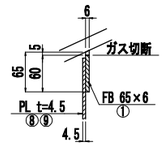
吊材 C9 S=1:50



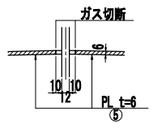
吊材 C1位置 化粧板撤去数量

①	2-FB	60×	6×	831
②	2-FB	55×	6×	454
③	2-FB	55×	6×	682
④	4-FB	55×	6×	813
⑤	2-PL	284×	6×1019	
⑥	4-FB	50×	6×	40
⑦	4-FB	50×	6×	396
⑧	1-PL	961×4.5×1257		
⑨	1-PL	961×4.5×1485		
	50-BN	M16×35 (1-W)		

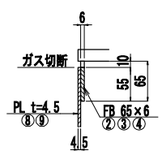
"a"部詳細 S=1:10



"b"部詳細 S=1:10



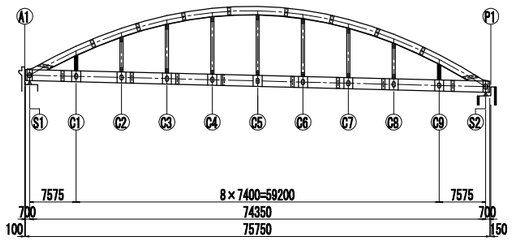
"c"部詳細 S=1:10



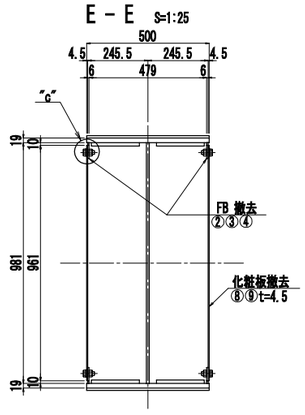
吊材 C9位置 化粧板撤去数量

①	2-FB	60×	6×	831
②	2-FB	55×	6×	439
③	2-FB	55×	6×	696
④	4-FB	55×	6×	900
⑤	2-PL	284×	6×1019	
⑥	4-FB	50×	6×	40
⑦	4-FB	50×	6×	396
⑧	1-PL	961×4.5×1329		
⑨	1-PL	961×4.5×1586		
	50-BN	M16×35 (1-W)		

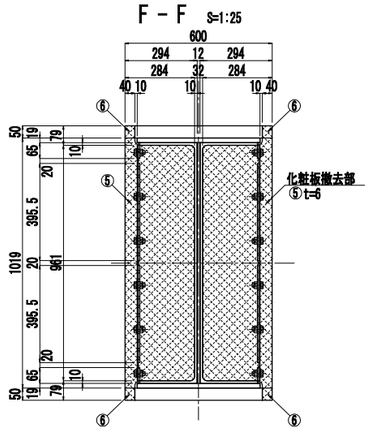
配置図



E－E S=1:25



F－F S=1:25

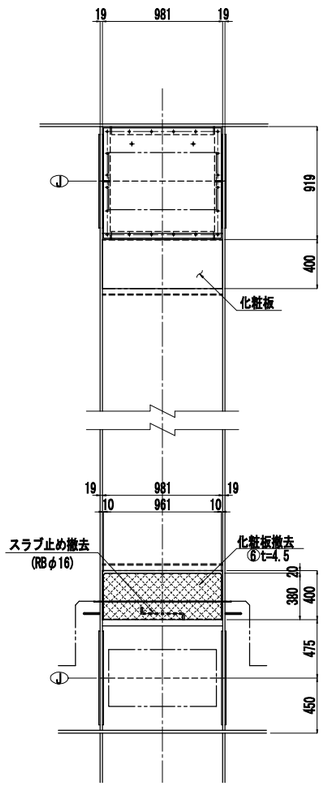


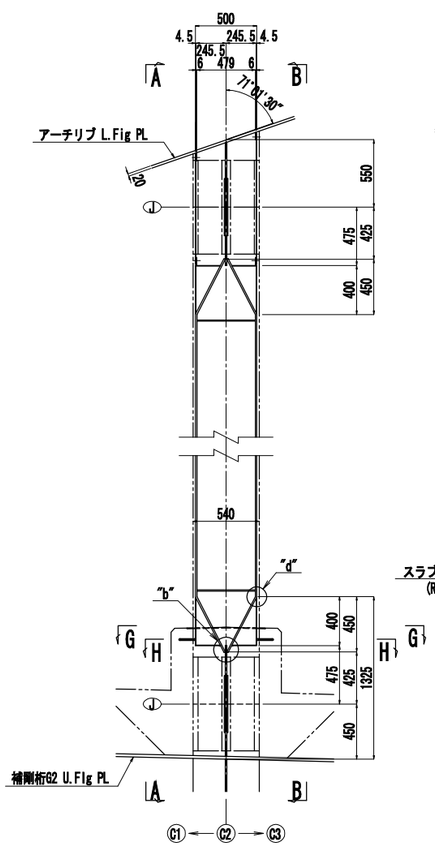
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材化粧板撤去図（その１）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

吊り材化粧板撤去図（その２）S=図示

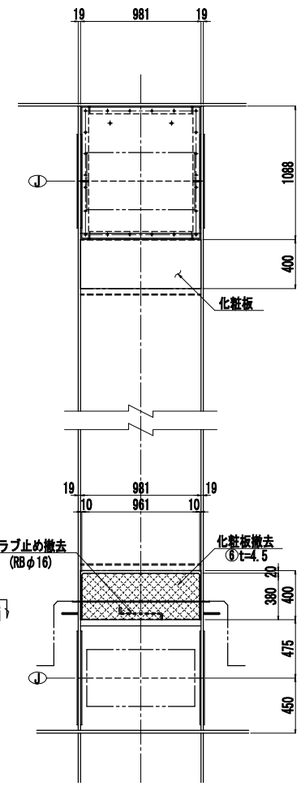
吊材 C2 S=1:50

A－A

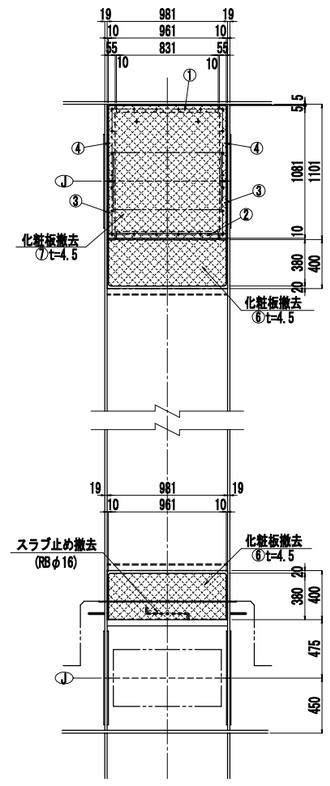




B－B

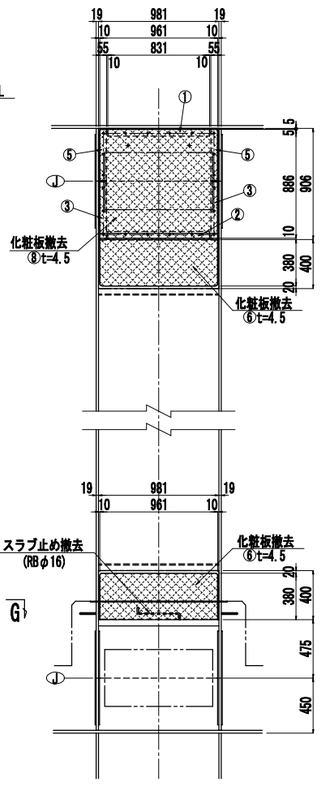


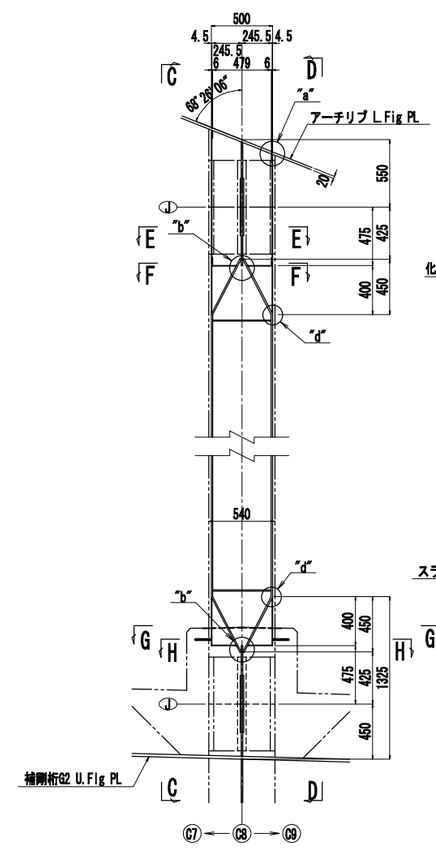
C－C



吊材 C8 S=1:50

D－D

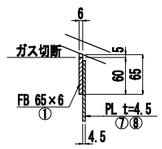




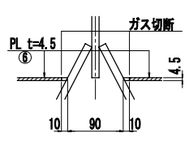
吊材 C2位置 化粧板撤去数量

⑥	2-PL	575×4.5×	961
⑨	4-PL	50× 6 ×	40
⑩	2-PL	70× 6 ×	1019
	2-RB	16φ×	540

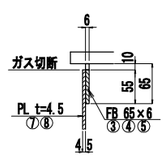
"a"部詳細 S=1:10



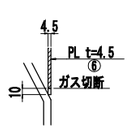
"b"部詳細 S=1:10



"c"部詳細 S=1:10



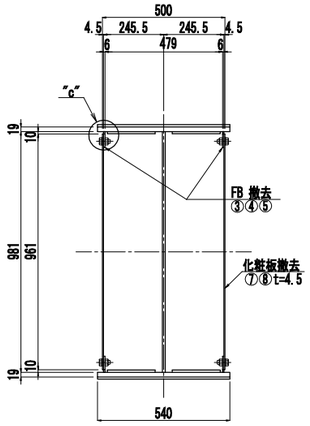
"d"部詳細 S=1:10



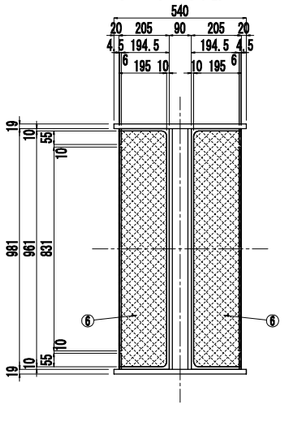
吊材 C8位置 化粧板撤去数量

①	2-FB	60× 6 ×	831
②	2-FB	65× 6 ×	831
③	4-FB	55× 6 ×	470
④	2-FB	55× 6 ×	616
⑤	2-FB	55× 6 ×	421
⑥	4-PL	575×4.5×	961
⑦	1-PL	961×4.5×	886
⑧	1-PL	961×4.5×	1081
⑨	4-PL	50× 6 ×	40
⑩	2-PL	70× 6 ×	1019
	42-BN	M16×35	(1-W)
	2-RB	16φ×	540

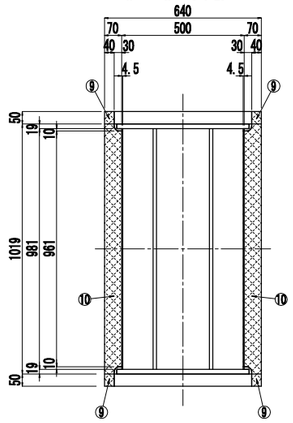
E－E S=1:25



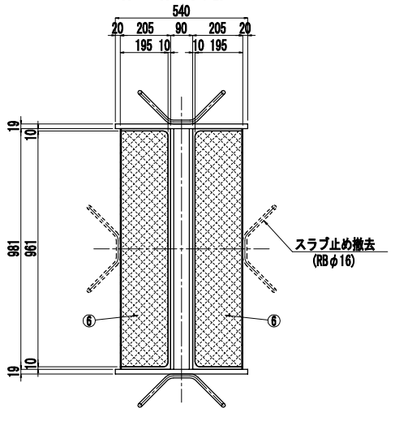
F－F S=1:25



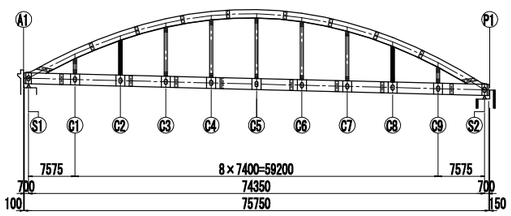
G－G S=1:25



H－H S=1:25



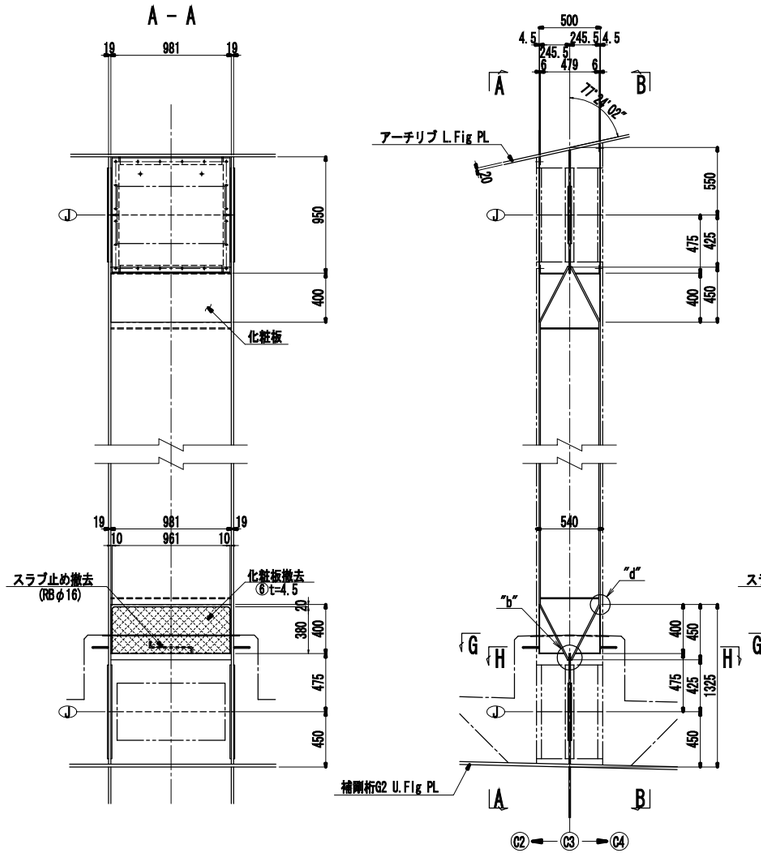
配置図



首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事				
図面の種類	牛沢橋 吊り材化粧板撤去図（その２）			
縮　尺	図示	図面番号	/	
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所			

吊り材化粧板撤去図（その３）S=図示

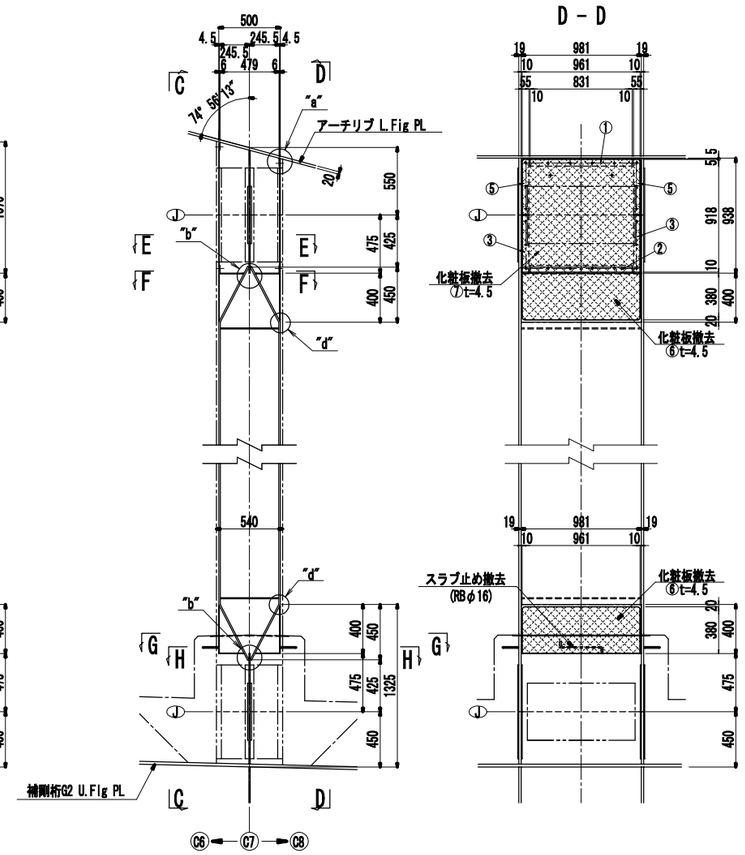
吊材 C3 S=1:50



吊材 C3位置 化粧板撤去数量

⑥	2-PL	575×4.5× 961	
⑨	4-PL	50× 6 × 40	
⑩	2-PL	70× 6 ×1019	
	2-RB	16φ×540	

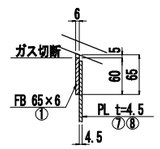
吊材 C7 S=1:50



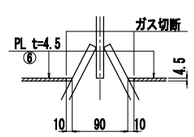
吊材 C7位置 化粧板撤去数量

①	2-FB	60× 6 × 831	
②	2-FB	65× 6 × 831	
③	4-FB	55× 6 × 470	
④	2-FB	55× 6 × 585	
⑤	2-FB	55× 6 × 453	
⑥	4-PL	575×4.5× 961	
⑦	1-PL	961×4.5× 918	
⑧	1-PL	961×4.5×1050	
⑨	4-PL	50× 6 × 40	
⑩	2-PL	70× 6 ×1019	
	42-SHI	M16×35 (1-M)	
	2-RB	16φ×540	

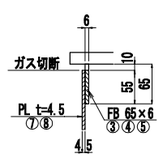
"a"部詳細 S=1:10



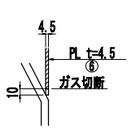
"b"部詳細 S=1:10



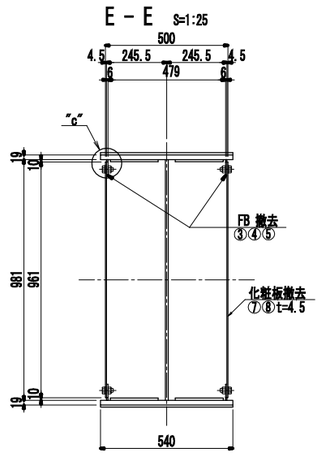
"c"部詳細 S=1:10



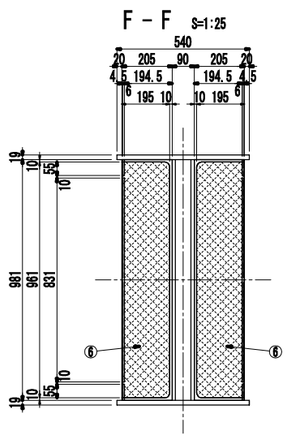
"d"部詳細 S=1:10



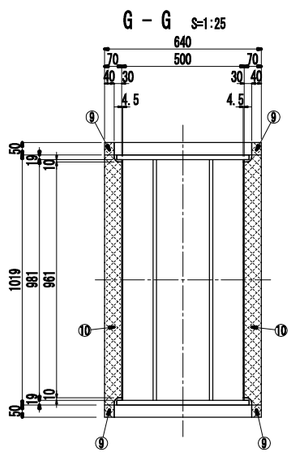
E－E S=1:25



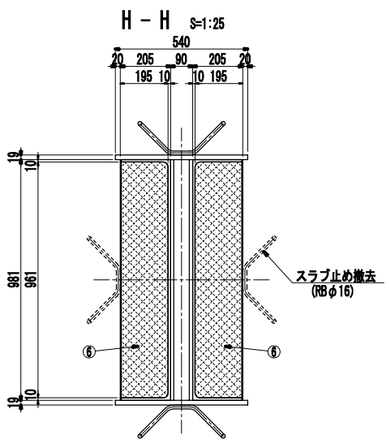
F－F S=1:25



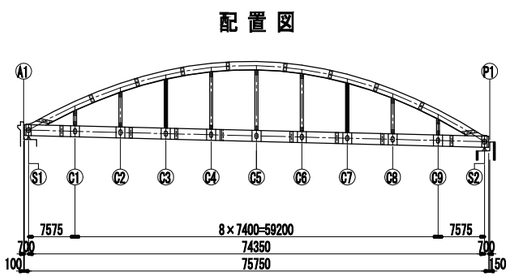
G－G S=1:25



H－H S=1:25



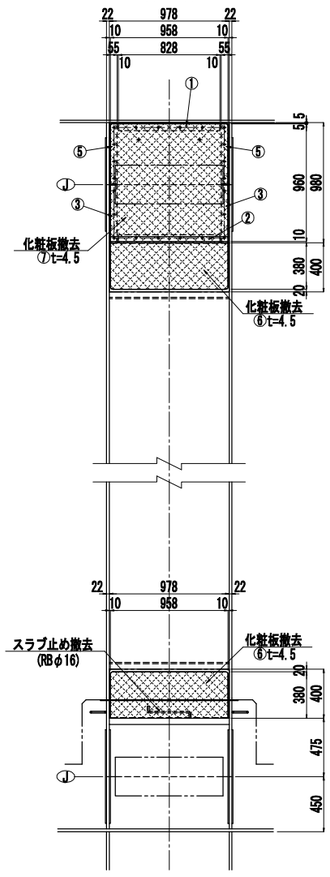
配置図



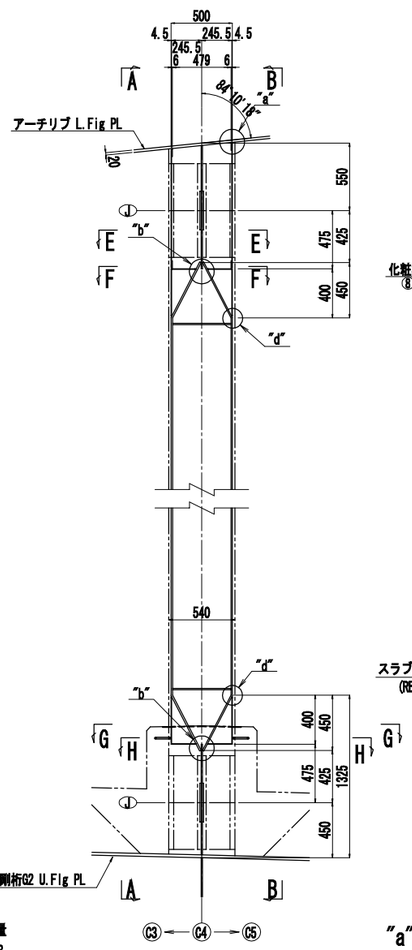
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事				
図面の種類	牛沢橋 吊り材化粧板撤去図（その３）			
縮　尺	図示	図面番号	/	
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所			

吊り材化粧板撤去図（その４）S=図示

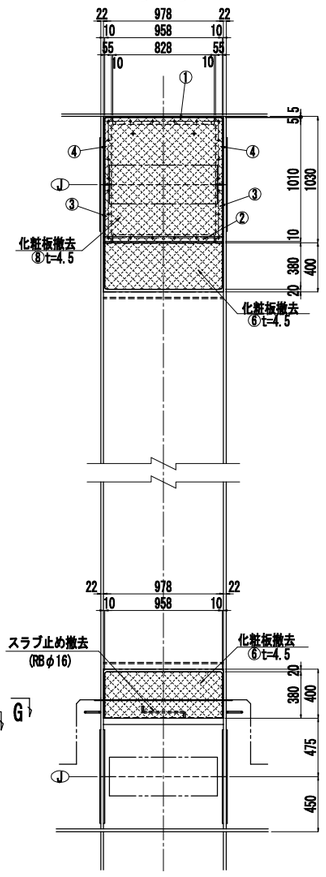
A－A



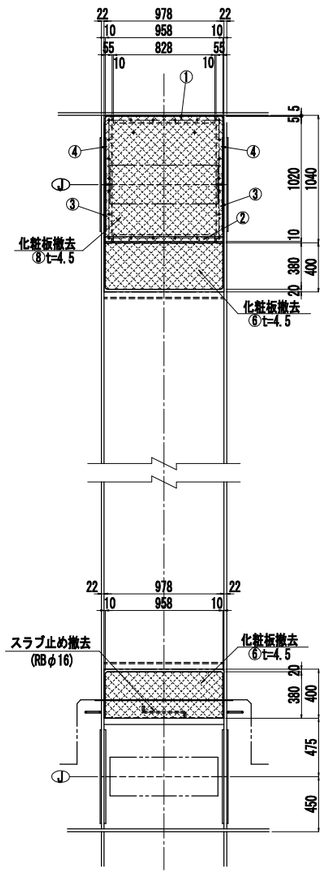
吊材 C4 S=1:50



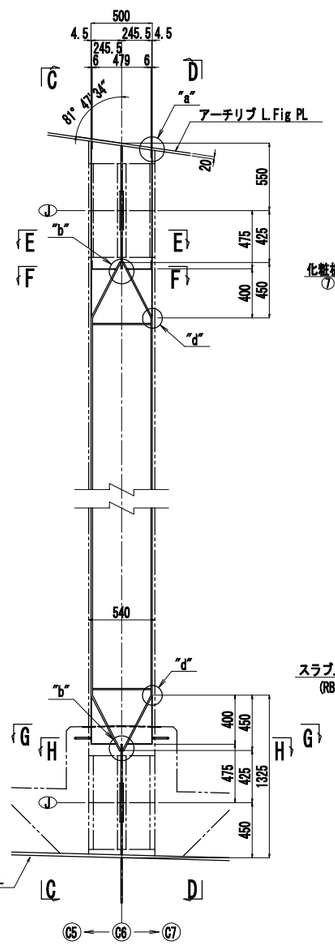
B－B



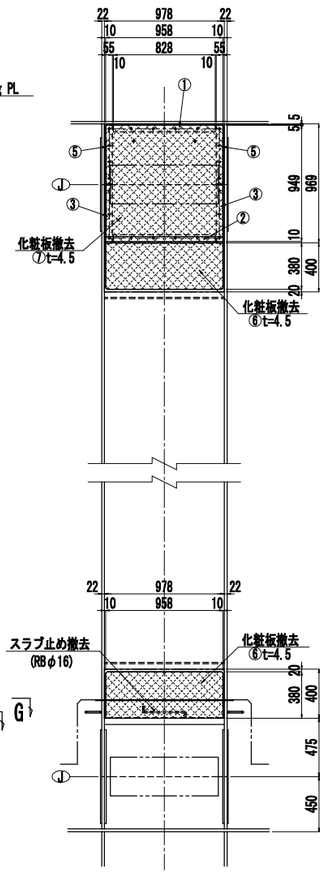
C－C



吊材 C6 S=1:50



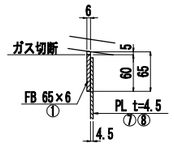
D－D



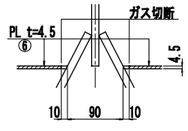
吊材 C4位置 化粧板撤去数量

①	2-FB	60× 6 × 828
②	2-FB	65× 6 × 828
③	4-FB	55× 6 × 470
④	2-FB	55× 6 × 545
⑤	2-FB	55× 6 × 495
⑥	4-PL	575×4.5× 958
⑦	1-PL	958×4.5× 960
⑧	1-PL	958×4.5×1010
⑨	4-PL	50× 6 × 40
⑩	2-PL	70× 6 ×1022
	44-BN	M16×35 (1-W)
	2-RB	16φ×540

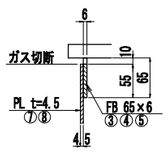
"a"部詳細 S=1:10



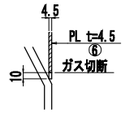
"b"部詳細 S=1:10



"c"部詳細 S=1:10



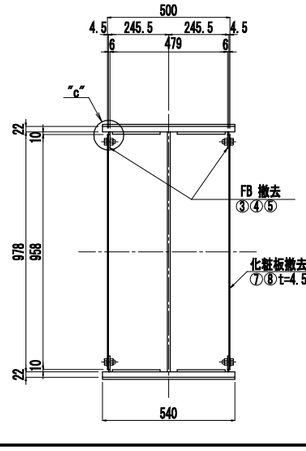
"d"部詳細 S=1:10



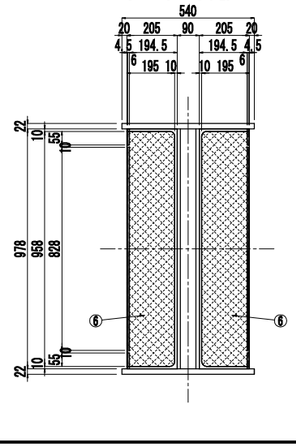
吊材 C6位置 化粧板撤去数量

①	2-FB	60× 6 × 828
②	2-FB	65× 6 × 828
③	4-FB	55× 6 × 470
④	2-FB	55× 6 × 555
⑤	2-FB	55× 6 × 494
⑥	4-PL	575×4.5× 958
⑦	1-PL	958×4.5× 949
⑧	1-PL	958×4.5×1020
⑨	4-PL	50× 6 × 40
⑩	2-PL	70× 6 ×1022
	44-BN	M16×35 (1-W)
	2-RB	16φ×540

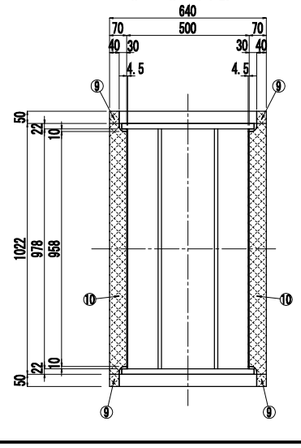
E－E S=1:25



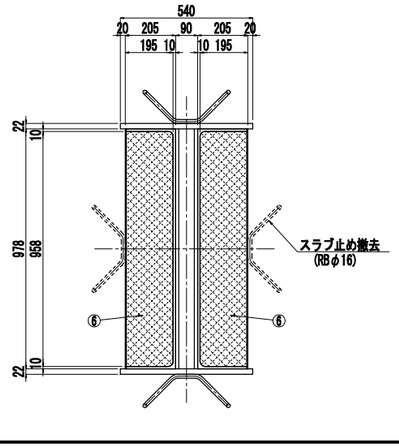
F－F S=1:25



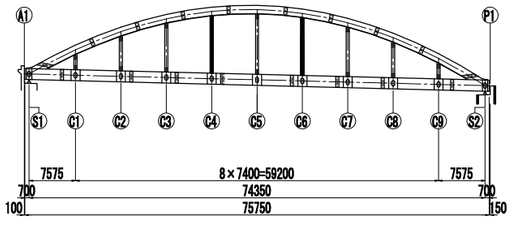
G－G S=1:25



H－H S=1:25



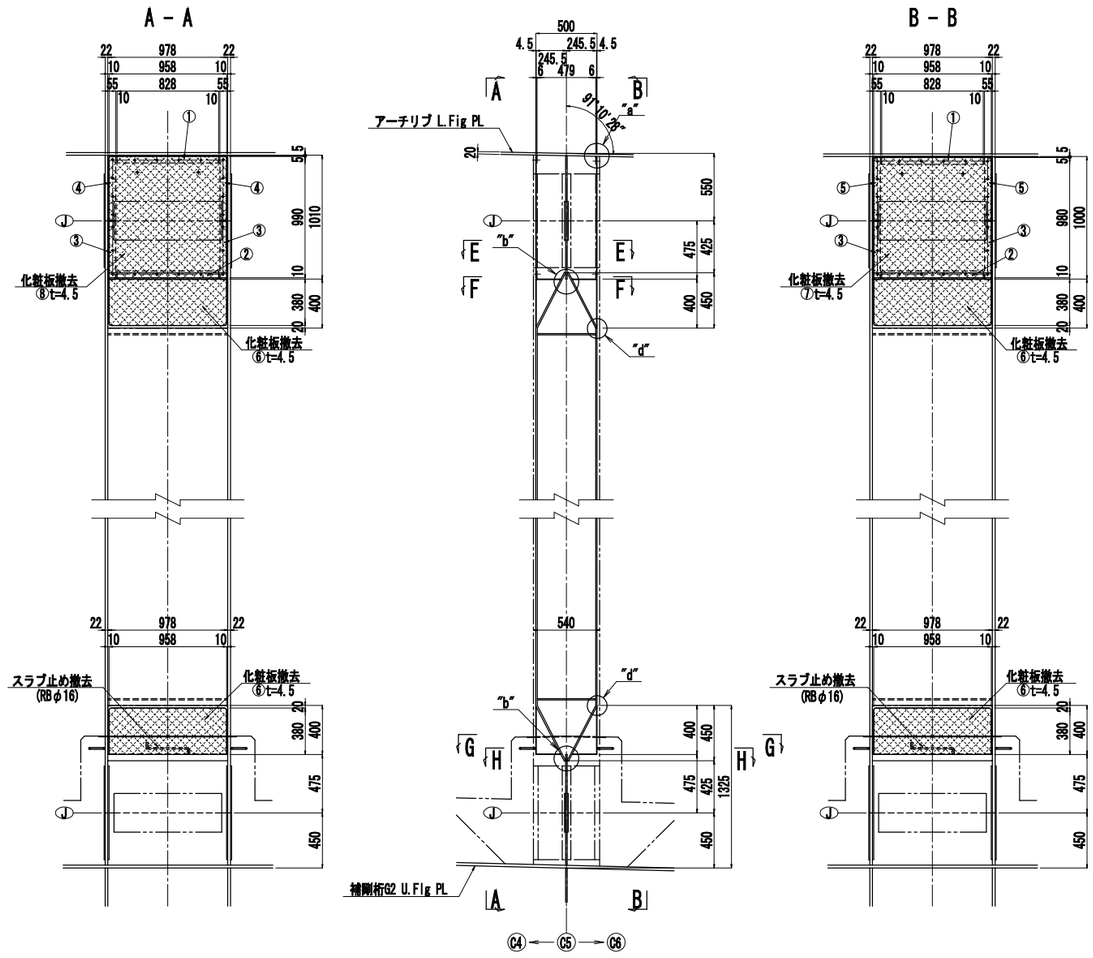
配置図



首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材化粧板撤去図（その４）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

吊り材化粧板撤去図（その５）S=図示

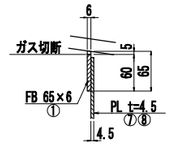
吊材 C5 S=1:50



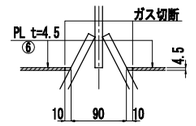
吊材 C5位置 化粧板撤去数量

①	2-FB	60× 6 ×	828
②	2-FB	65× 6 ×	828
③	4-FB	55× 6 ×	470
④	2-FB	55× 6 ×	525
⑤	2-FB	55× 6 ×	515
⑥	4-PL	575×4.5×	958
⑦	1-PL	958×4.5×	980
⑧	1-PL	958×4.5×	990
⑨	4-PL	50× 6 ×	40
⑩	2-PL	70× 6 ×	1022
	44-BH	M16×35 (1-W)	
	2-RB	16φ×540	

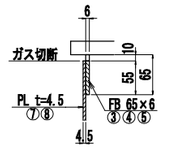
"a"部詳細 S=1:10



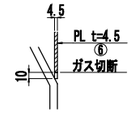
"b"部詳細 S=1:10



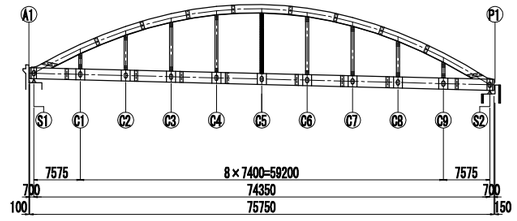
"c"部詳細 S=1:10



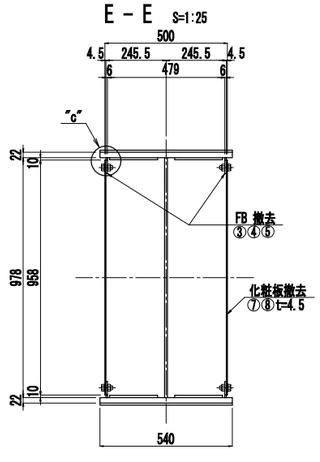
"d"部詳細 S=1:10



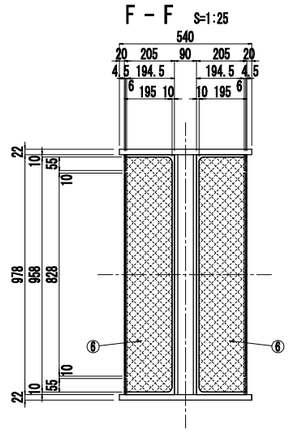
配置図



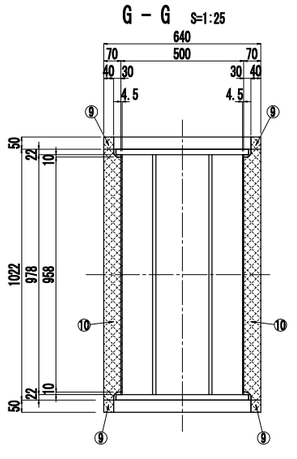
E－E S=1:25



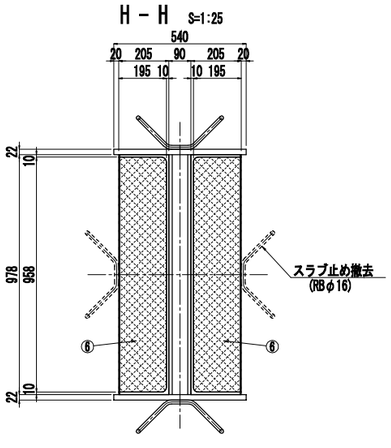
F－F S=1:25



G－G S=1:25



H－H S=1:25

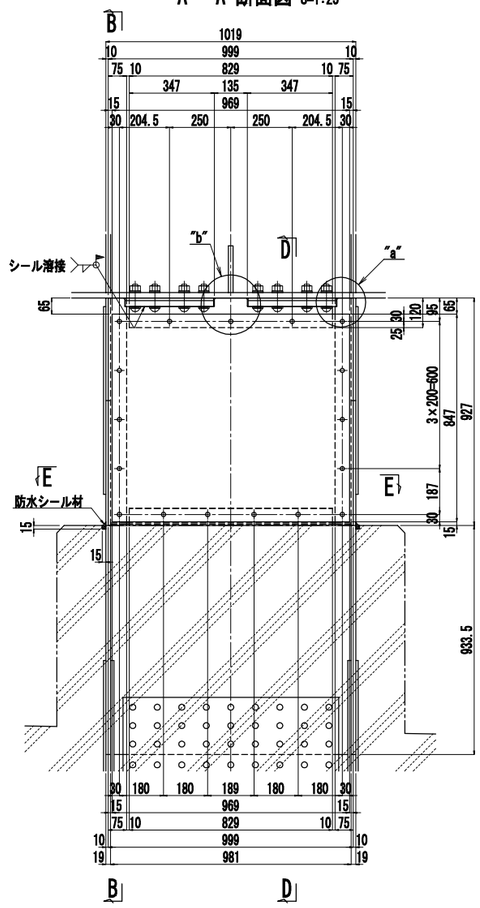


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事				
図面の種類	牛沢橋 吊り材化粧板撤去図（その５）			
縮　尺	図示	図面番号	/	
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所			

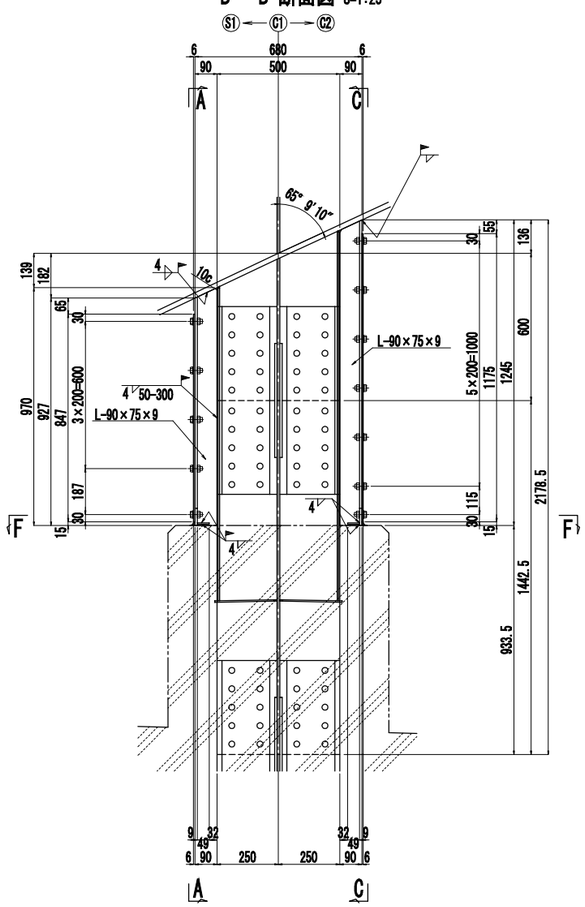
吊り材化粧板改良図（その１） S=図示

吊材（C1）改良図

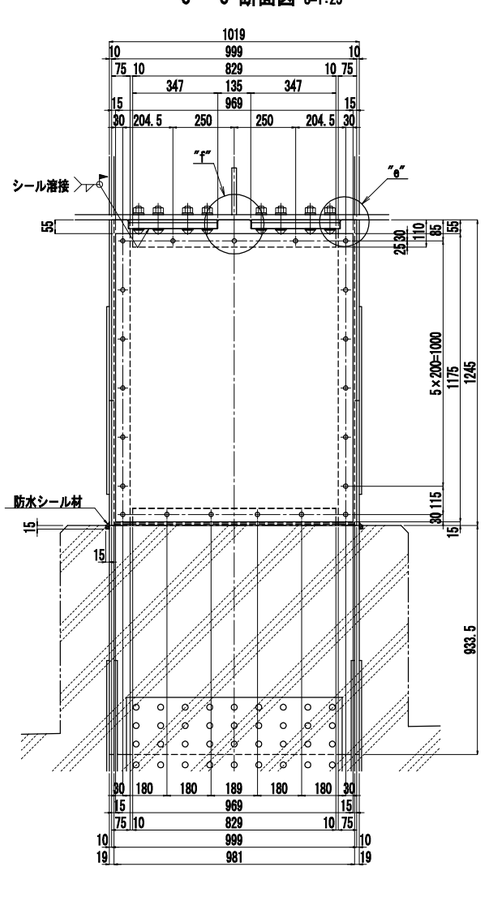
A－A 断面図 S=1:25



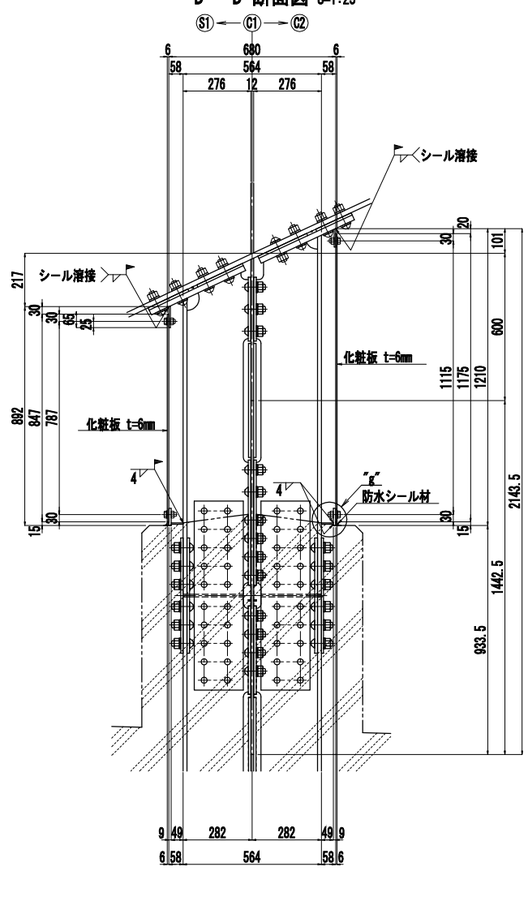
B－B 断面図 S=1:25



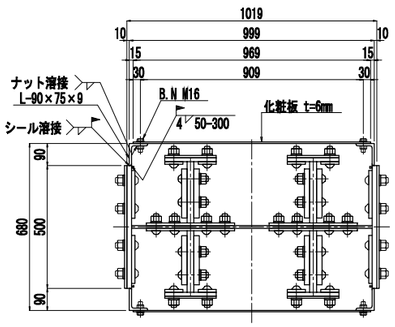
C－C 断面図 S=1:25



D－D 断面図 S=1:25



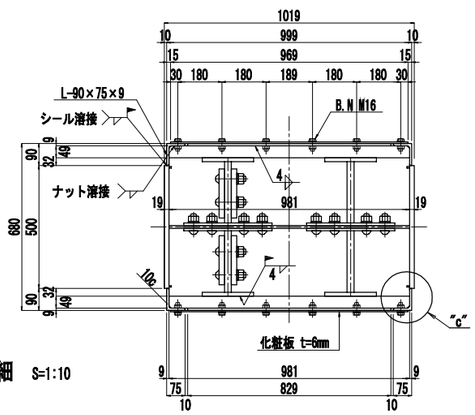
E－E 断面図



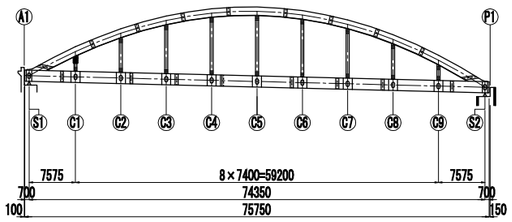
吊材(C1)化粧板改良 1か所当り材料

1-PL	110×6×	829
1-PL	120×6×	829
2-PL	49×6×	981
2-PL	70×9×	829
2- L	90×75×9×	970 (SS400)
2- L	90×75×9×1245	(SS400)
1-PL	969×6×	847 (SS400)
1-PL	969×6×1175	(SS400)
4-BN	M16×30	(SS400)<1-M>
6-BN	M16×35	(SS400)<1-M>
32-BN	M16×40	(SS400)<1-M>

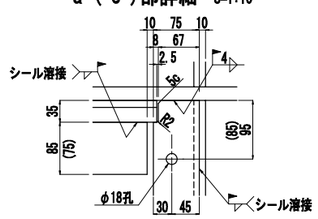
F－F 断面図



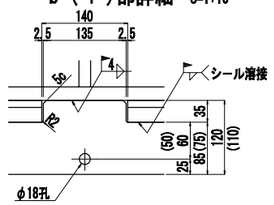
配 置 図



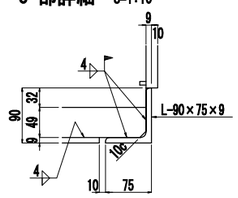
"a"("e")部詳細 S=1:10



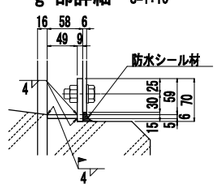
"b"("f")部詳細 S=1:10



"c"部詳細 S=1:10



"g"部詳細 S=1:10



注）

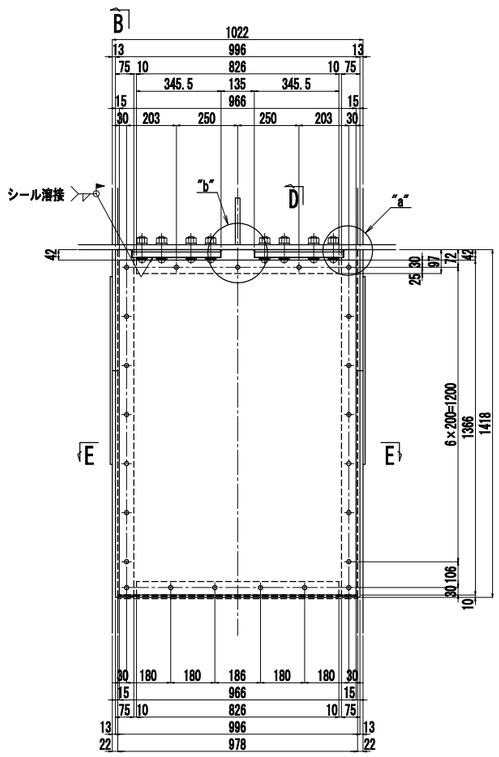
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきボルト孔は、φ18とする。
3. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材化粧板改良図（その１）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

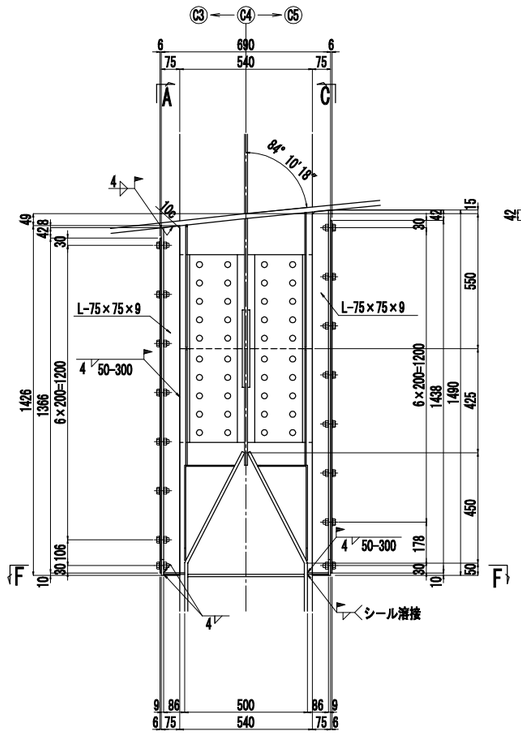
吊り材化粧板改良図（その２） S=図示

吊材（C4）改良図

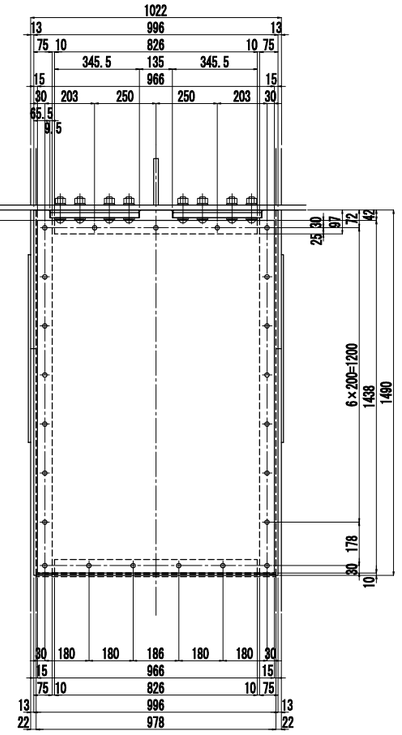
A－A 断面図 S=1:25



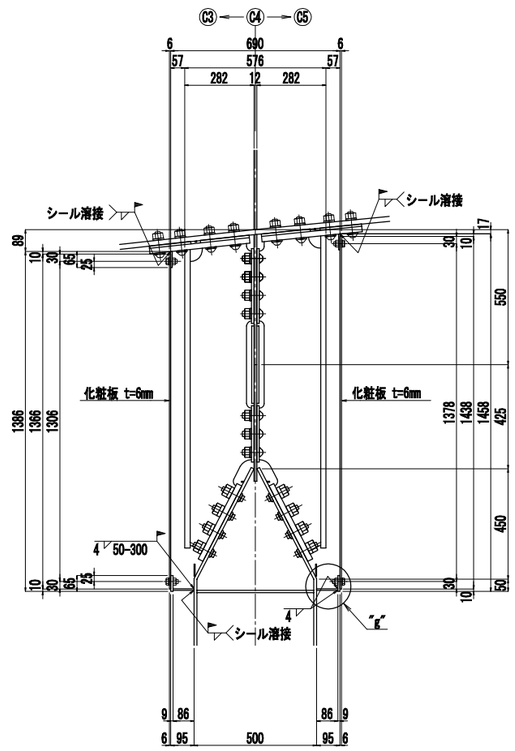
B－B 断面図 S=1:25



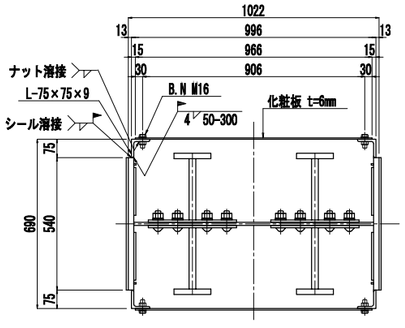
C－C 断面図 S=1:25



D－D 断面図 S=1:25



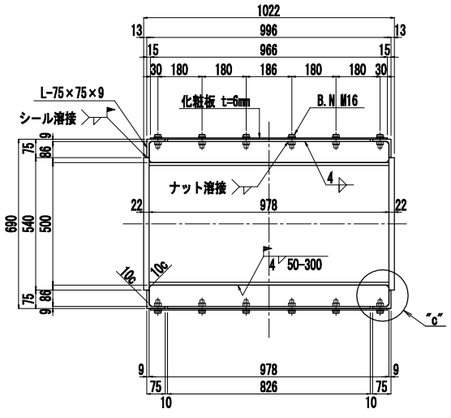
E－E 断面図



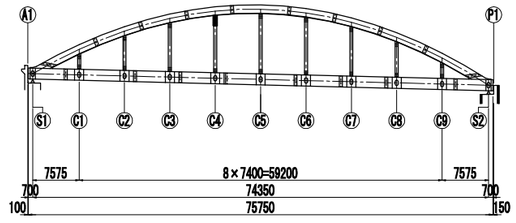
吊材(C4)化粧板改良 1か所当り材料

アーチリブ桁側(吊材上部)	
2-PL	98×6× 826
2-PL	86×6× 978
2-PL	65×9× 826
2- L	75×75×9×1490 (SS400)
2- L	75×75×9×1426 (SS400)
1-PL	966×6×1438 (SS400)
1-PL	966×6×1366 (SS400)
4-BH	M16×30 (SS400)〈1-荷〉
6-BH	M16×35 (SS400)〈1-荷〉
40-BH	M16×40 (SS400)〈1-荷〉

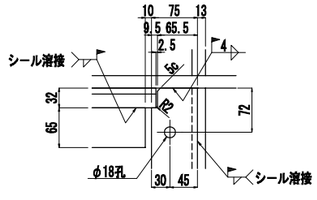
F－F 断面図



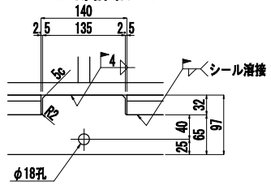
配置図



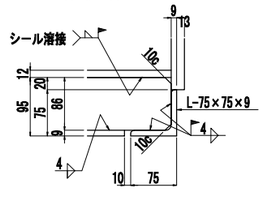
"a"部詳細 S=1:10



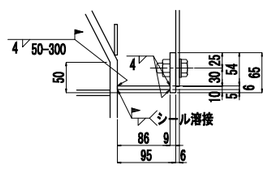
"b"部詳細 S=1:10



"c"部詳細 S=1:10



"g"部詳細 S=1:10



注）

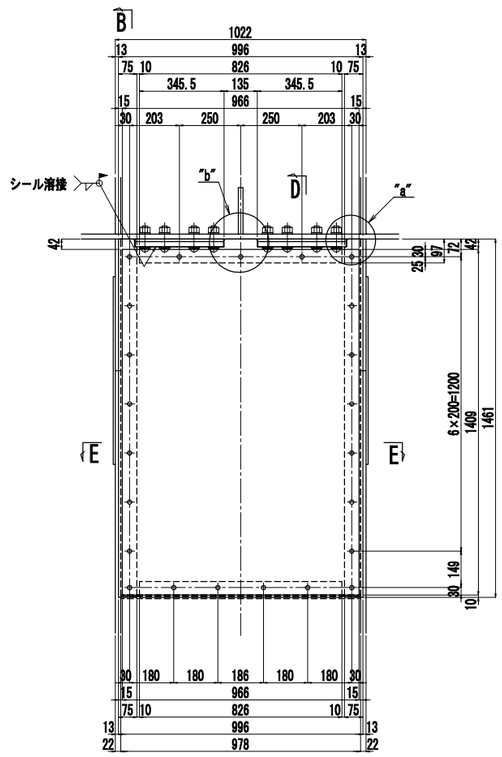
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきボルト孔は、φ18とする。
3. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材化粧板改良図（その２）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

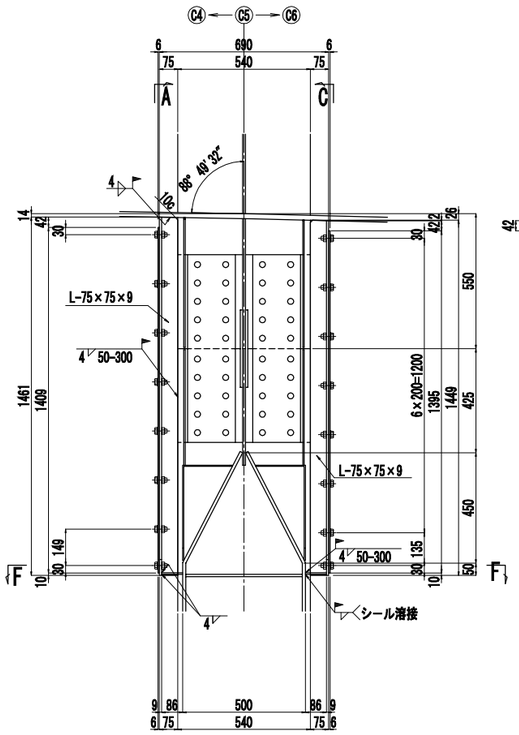
吊り材化粧板改良図（その３） S=図示

吊材（C5）改良図

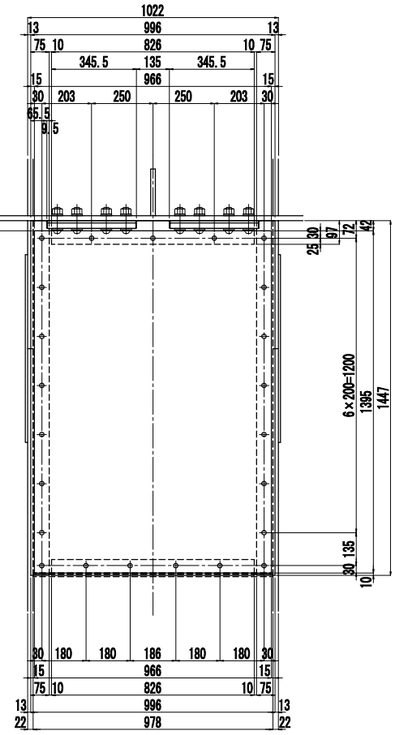
A－A 断面図 S=1:25



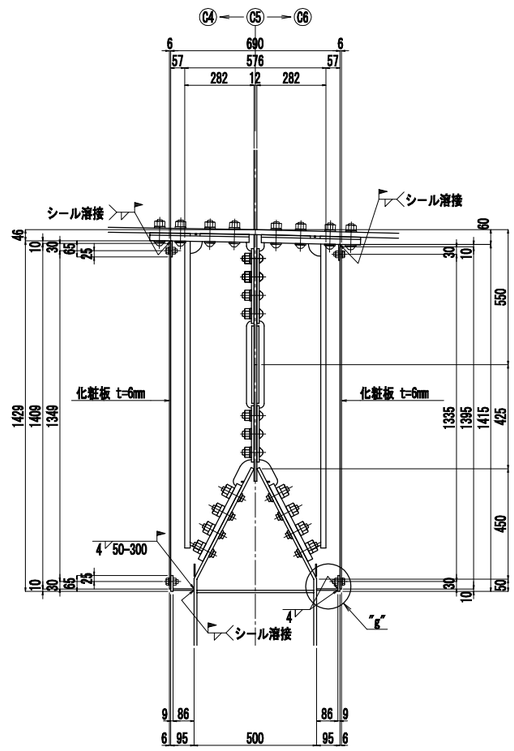
B－B 断面図 S=1:25



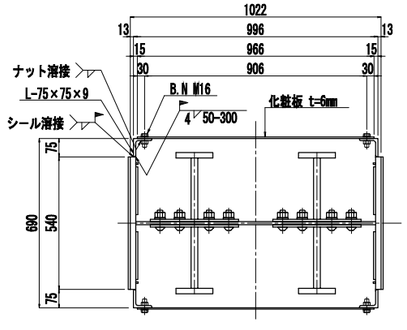
C－C 断面図 S=1:25



D－D 断面図 S=1:25



E－E 断面図

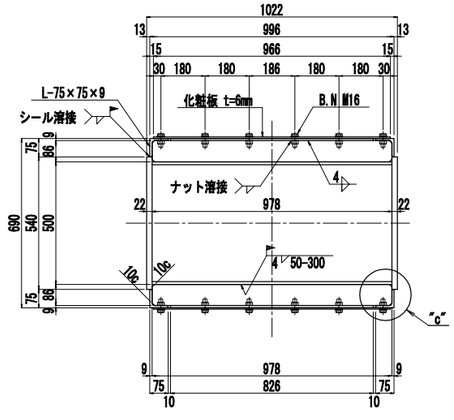


吊材(C5)化粧板改良 1か所当り材料

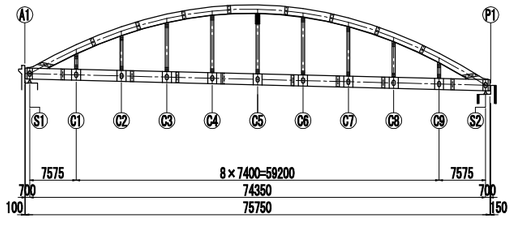
アーチリブ桁側(吊材上部)

2-PL	97×6×	826
2-PL	86×6×	978
2-PL	65×9×	826
2- L	75×75×9×1461	(SS400)
2- L	75×75×9×1449	(SS400)
1-PL	966×6×1409	(SS400)
1-PL	966×6×1395	(SS400)
4-BN	M16×30	(SS400)〈1-摩〉
6-BN	M16×35	(SS400)〈1-摩〉
40-BN	M16×40	(SS400)〈1-摩〉

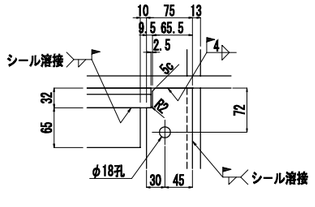
F－F 断面図



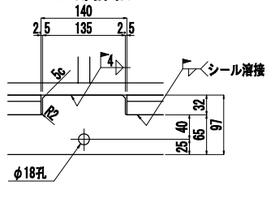
配置図



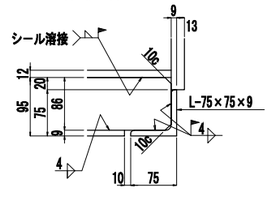
"a"部詳細 S=1:10



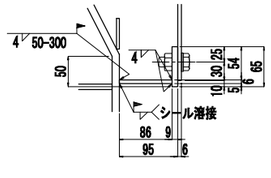
"b"部詳細 S=1:10



"c"部詳細 S=1:10



"g"部詳細 S=1:10



注）

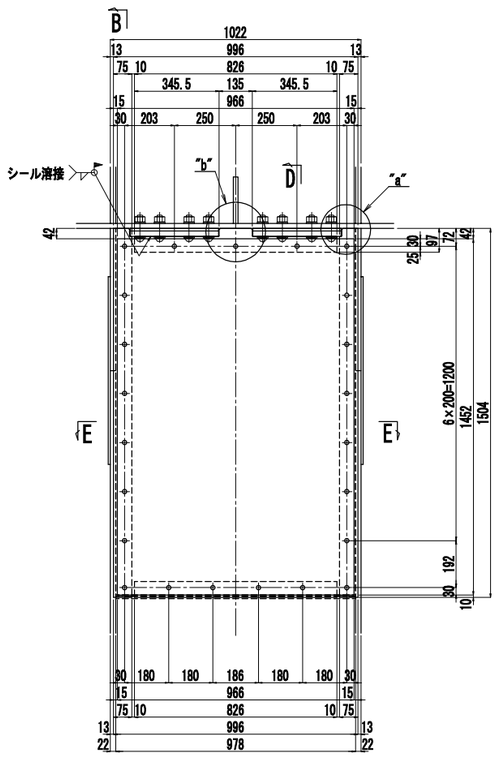
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきボルト孔は、φ18とする。
3. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材化粧板改良図（その３）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

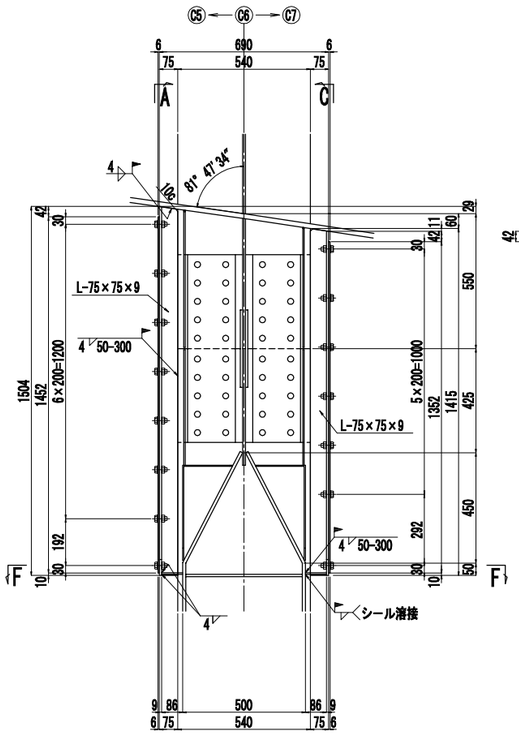
吊り材化粧板改良図（その４） S=図示

吊材（C6）改良図

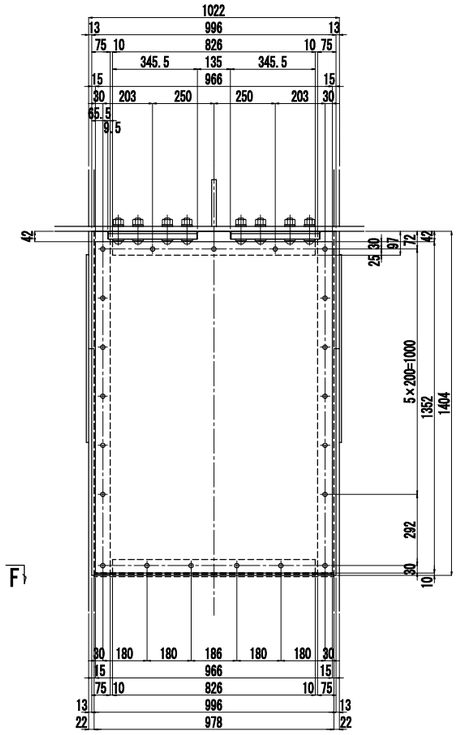
A－A 断面図 S=1:25



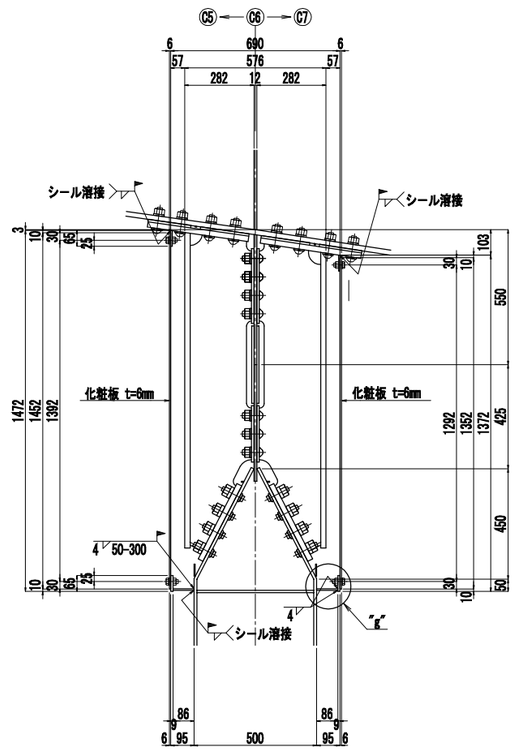
B－B 断面図 S=1:25



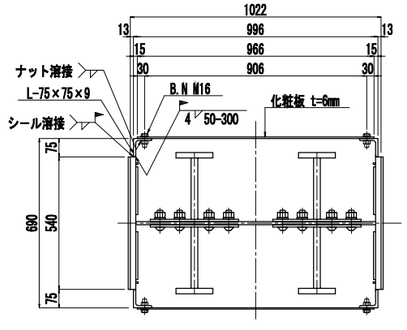
C－C 断面図 S=1:25



D－D 断面図 S=1:25



E－E 断面図

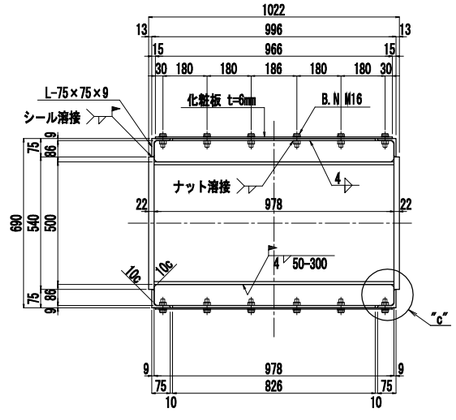


吊材(C6)化粧板改良 1か所当り材料

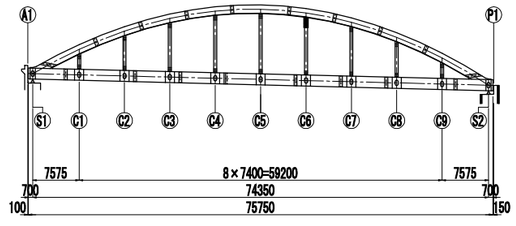
アーチリブ桁側(吊材上部)

2-PL	97×6×	826
2-PL	86×6×	978
2-PL	65×9×	826
2- L	75×75×9×1504	(SS400)
2- L	75×75×9×1415	(SS400)
1-PL	966×6×1452	(SS400)
1-PL	966×6×1352	(SS400)
4-BN	M16×30	(SS400)〈1-摩〉
6-BN	M16×35	(SS400)〈1-摩〉
38-BN	M16×40	(SS400)〈1-摩〉

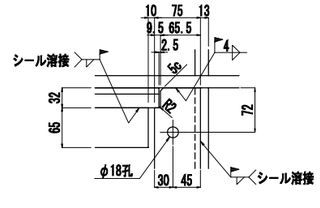
F－F 断面図



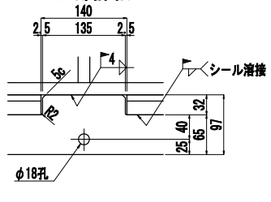
配置図



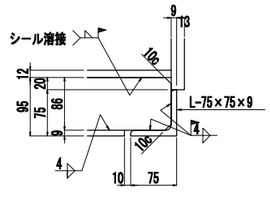
"a"部詳細 S=1:10



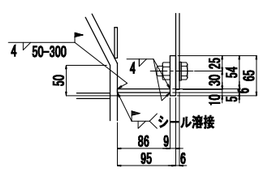
"b"部詳細 S=1:10



"c"部詳細 S=1:10



"g"部詳細 S=1:10



注）

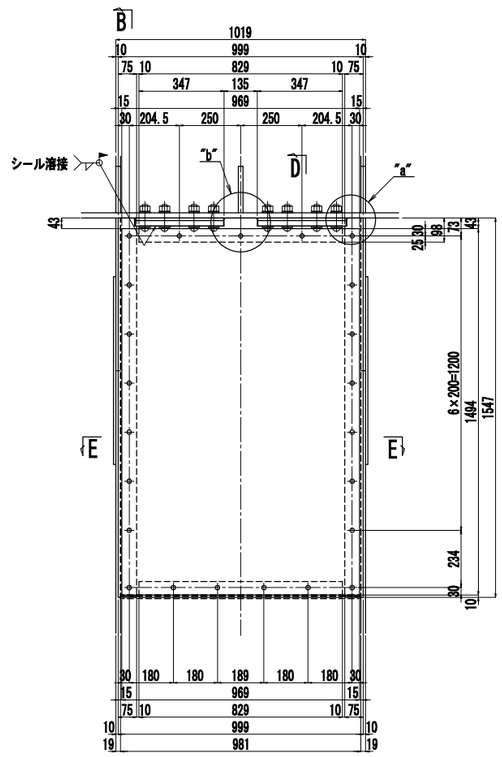
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきボルト孔は、φ18とする。
3. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材化粧板改良図（その４）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

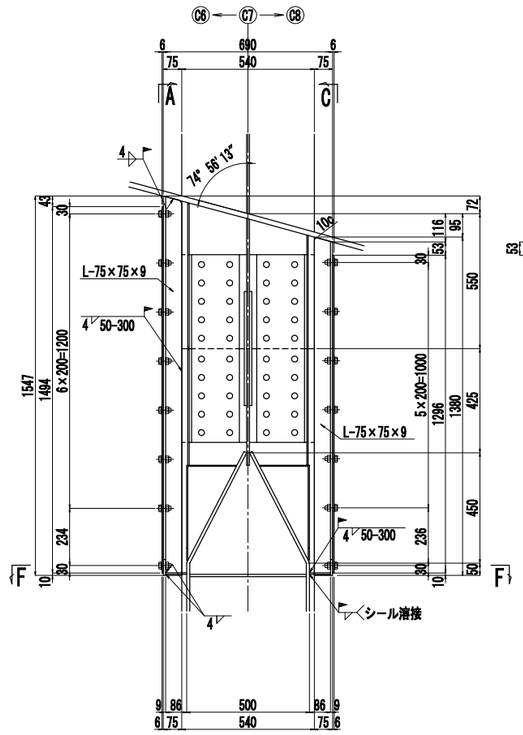
吊り材化粧板改良図（その５） S=図示

吊材（C7）改良図

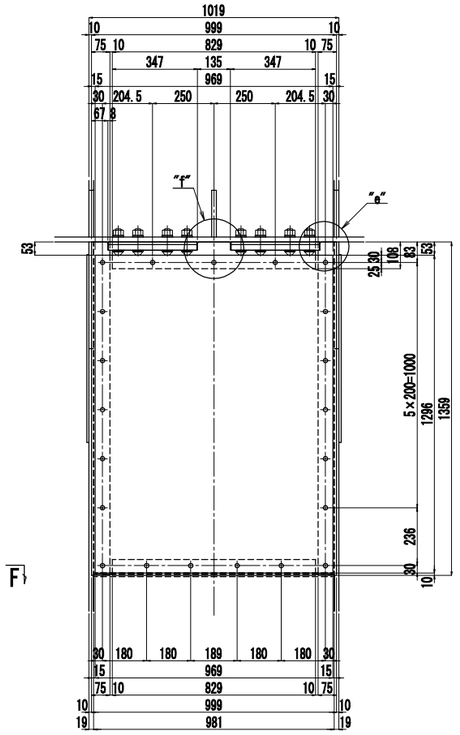
A－A 断面図 S=1:25



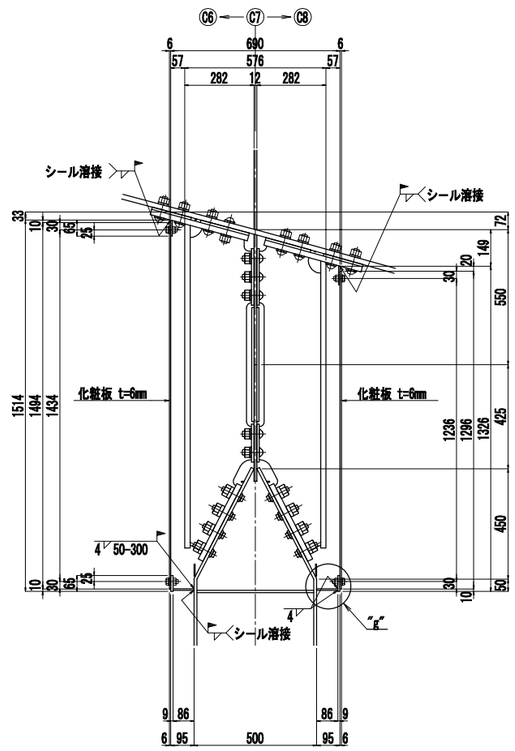
B－B 断面図 S=1:25



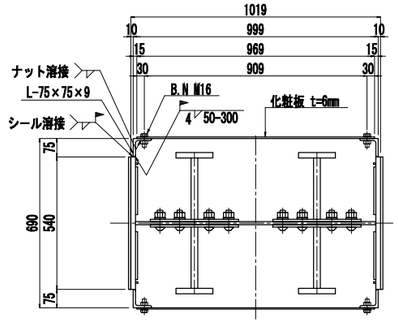
C－C 断面図 S=1:25



D－D 断面図 S=1:25



E－E 断面図

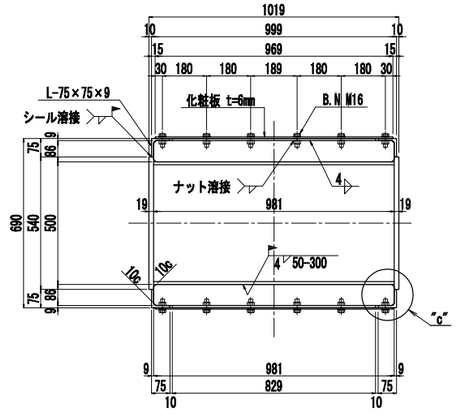


吊材(C7)化粧板改良 1か所当り材料

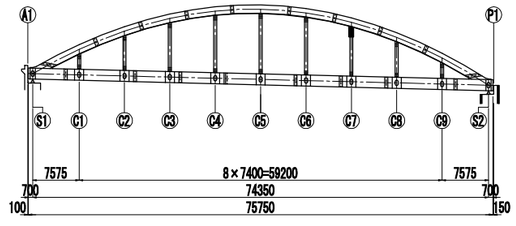
アーチリブ桁側(吊材上部)

1-PL	98×6× 829
1-PL	108×6× 829
2-PL	86×6× 981
2-PL	65×9× 829
2- L	75×75×9×1547 (SS400)
2- L	75×75×9×1380 (SS400)
1-PL	969×6×1494 (SS400)
1-PL	969×6×1296 (SS400)
4-BN	M16×30 (SS400)<1-W>
6-BN	M16×35 (SS400)<1-W>
38-BN	M16×40 (SS400)<1-W>

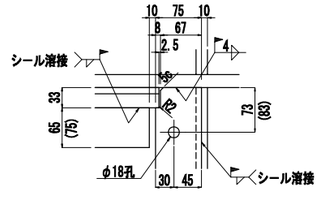
F－F 断面図



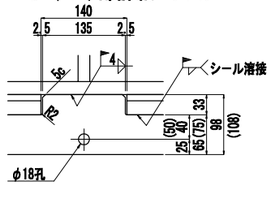
配置図



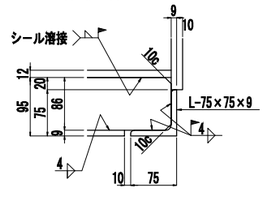
"a"("e")部詳細 S=1:10



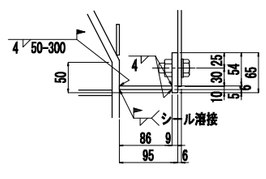
"b"("f")部詳細 S=1:10



"c"部詳細 S=1:10



"g"部詳細 S=1:10



注）

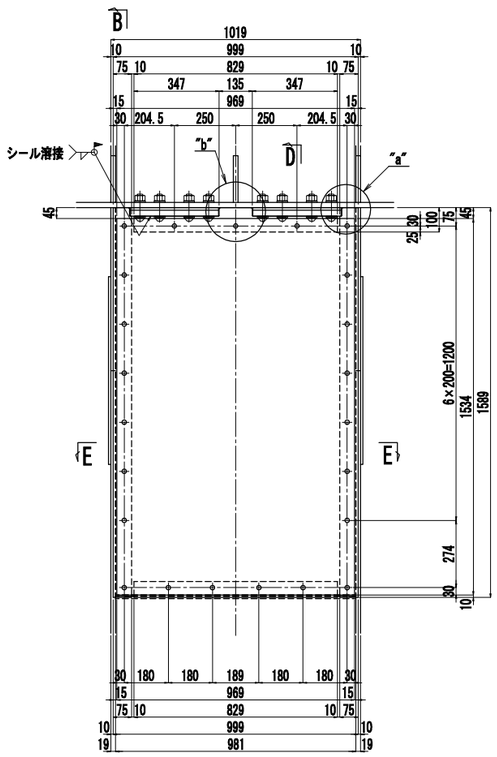
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきボルト孔は、φ18とする。
3. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材化粧板改良図（その５）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

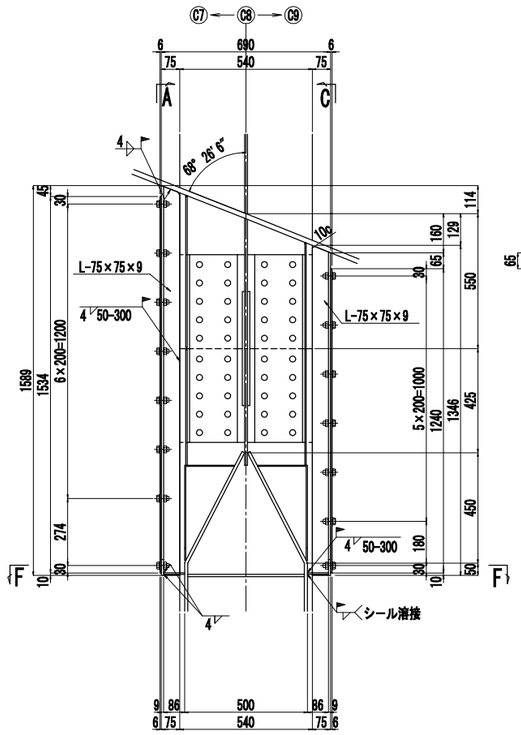
吊り材化粧板改良図（その６） S=図示

吊材（C8）改良図

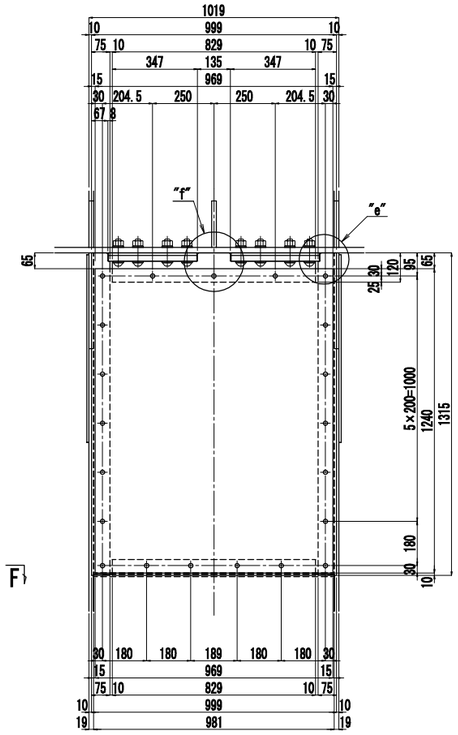
A－A 断面図 S=1:25



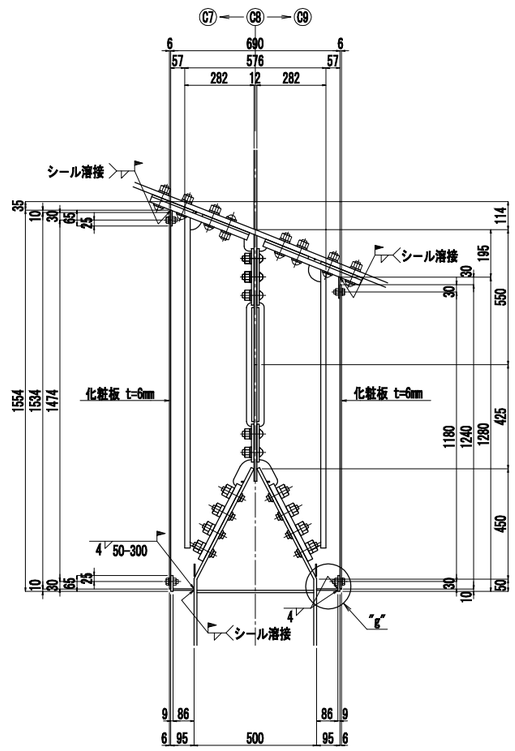
B－B 断面図 S=1:25



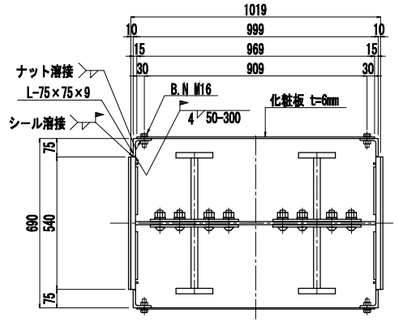
C－C 断面図 S=1:25



D－D 断面図 S=1:25



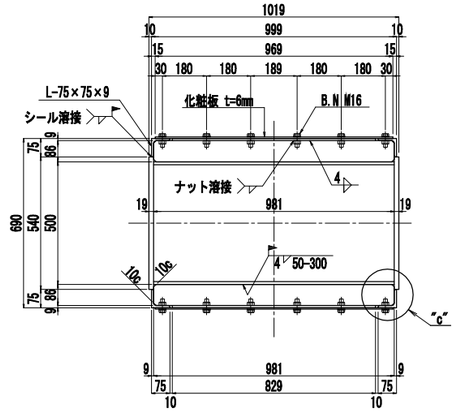
E－E 断面図



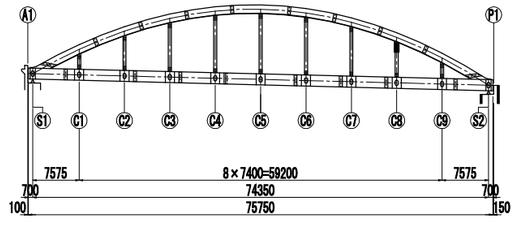
吊材(C8)化粧板改良 1か所当り材料

アーチリブ桁側(吊材上部)	
1-PL	100×6× 829
1-PL	120×6× 829
2-PL	86×6× 981
2-PL	65×9× 829
2- L	75×75×9×1589 (SS400)
2- L	75×75×9×1346 (SS400)
1-PL	969×6×1534 (SS400)
1-PL	969×6×1240 (SS400)
4-BN	M16×30 (SS400)<1-W>
6-BN	M16×35 (SS400)<1-W>
38-BN	M16×40 (SS400)<1-W>

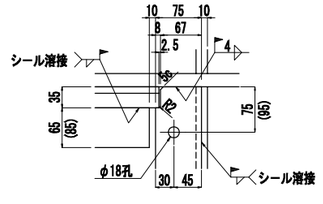
F－F 断面図



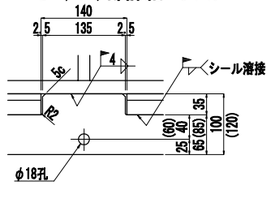
配置図



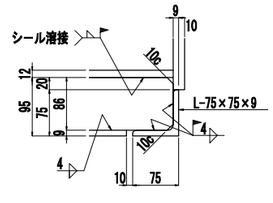
"a"("e")部詳細 S=1:10



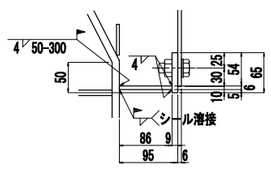
"b"("f")部詳細 S=1:10



"c"部詳細 S=1:10



"g"部詳細 S=1:10



注）

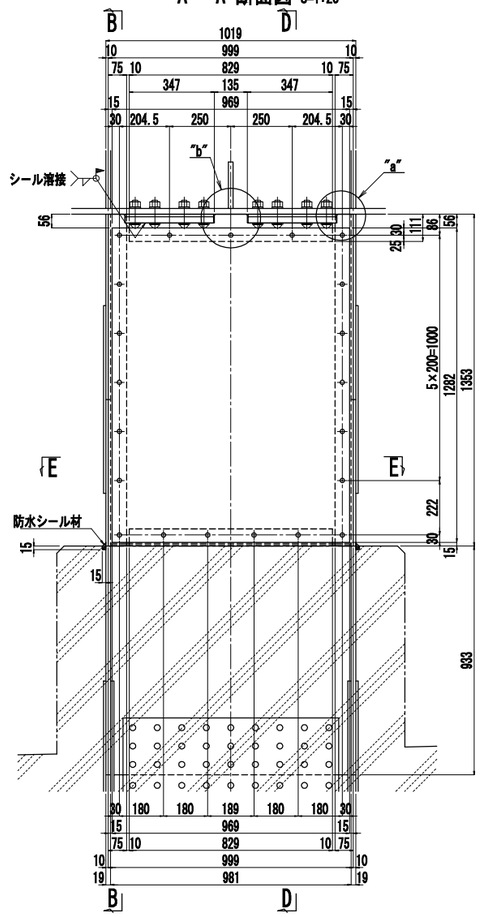
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきボルト孔は、φ18とする。
3. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材化粧板改良図（その６）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

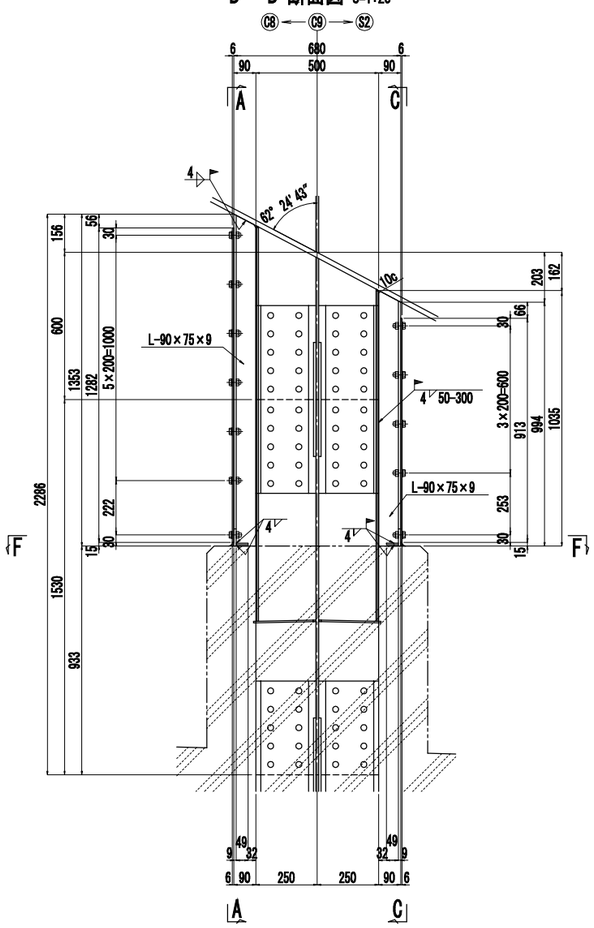
吊り材化粧板改良図（その７） S=図示

吊材（C9）改良図

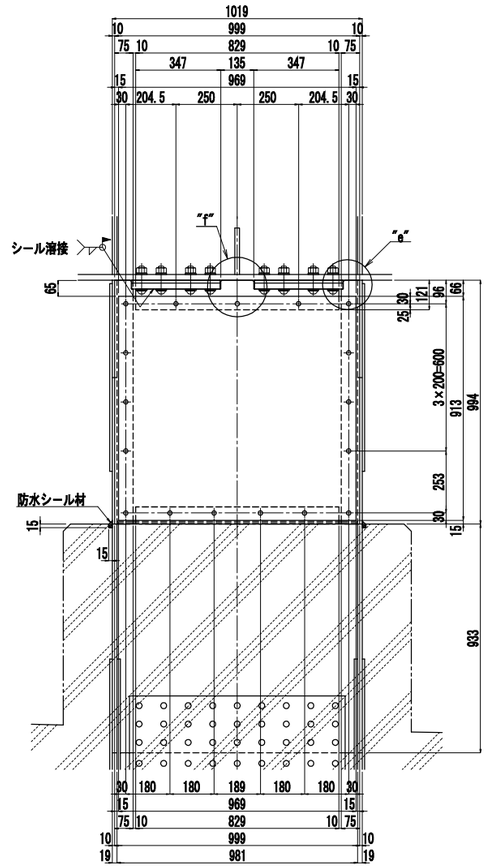
A－A 断面図 S=1:25



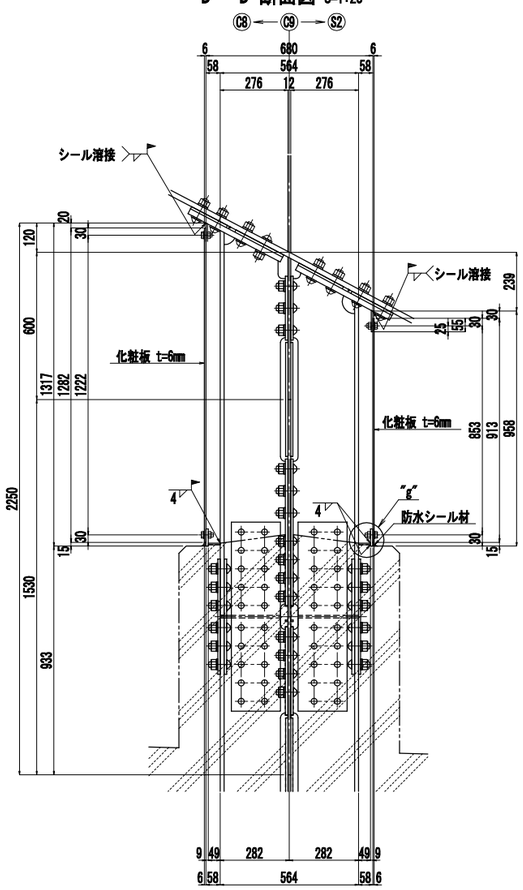
B－B 断面図 S=1:25



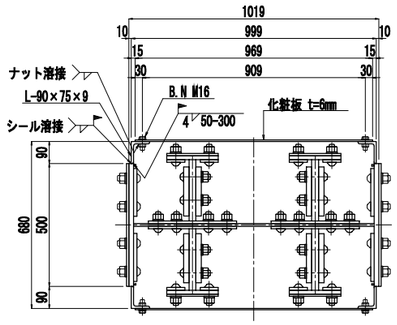
C－C 断面図 S=1:25



D－D 断面図 S=1:25



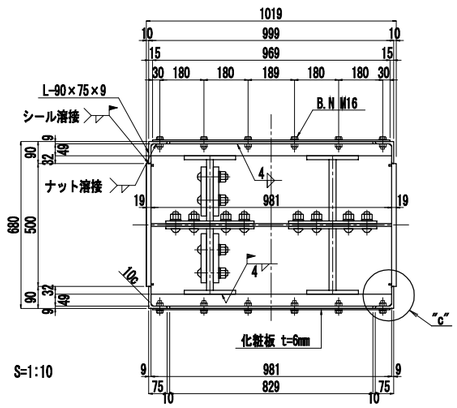
E－E 断面図



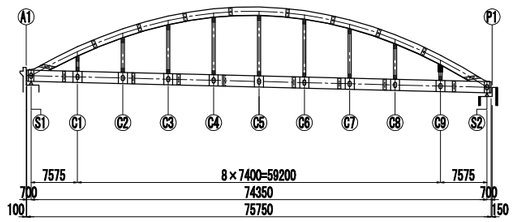
吊材(C9)化粧板改良 1か所当り材料

1-PL	111×6×	829
1-PL	121×6×	829
2-PL	49×6×	981
2-PL	70×9×	829
2- L	90×75×9×1035	(SS400)
2- L	90×75×9×1353	(SS400)
1-PL	969×6× 913	(SS400)
1-PL	969×6×1282	(SS400)
4-BN	M16×30	(SS400)<1-M>
6-BN	M16×35	(SS400)<1-M>
32-BN	M16×40	(SS400)<1-M>

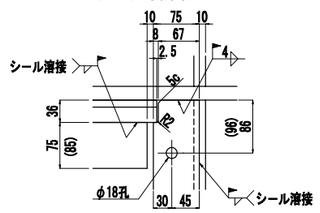
F－F 断面図



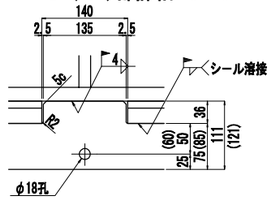
配置図



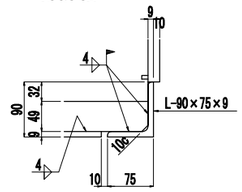
"a"("e")部詳細 S=1:10



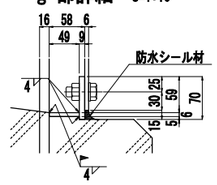
"b"("f")部詳細 S=1:10



"c"部詳細 S=1:10



"g"部詳細 S=1:10

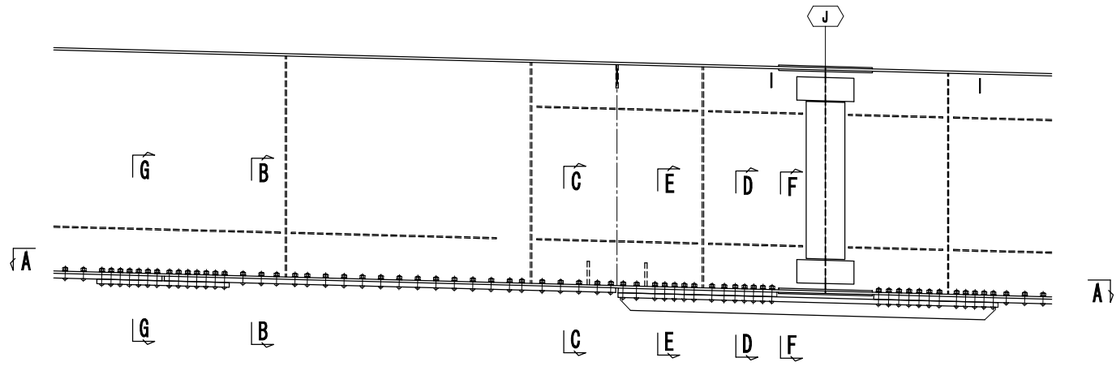


注）
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきボルト孔は、φ18とする。
3. 部材の製作及び取付けは、現地実測確認の上実施すること。

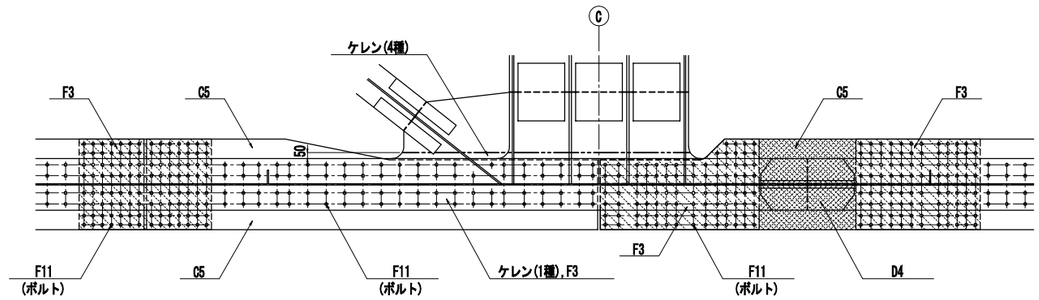
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊り材化粧板改良図（その７）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

塗分け区分図（その１）S=図示

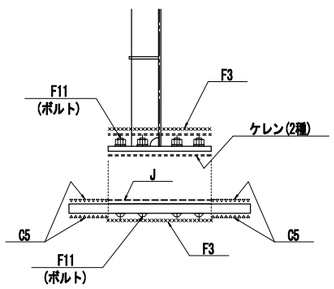
外側補剛桁補強材



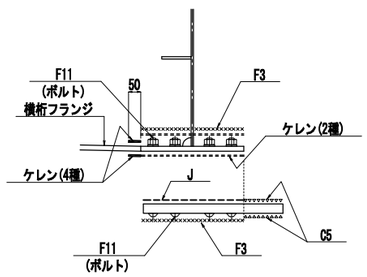
A－A 平面図 S=1:50



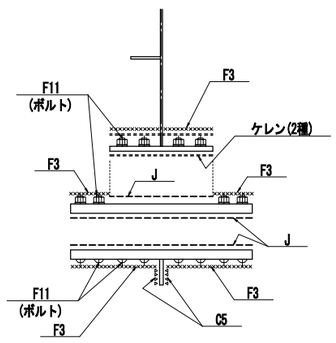
B－B 断面図 S=1:25



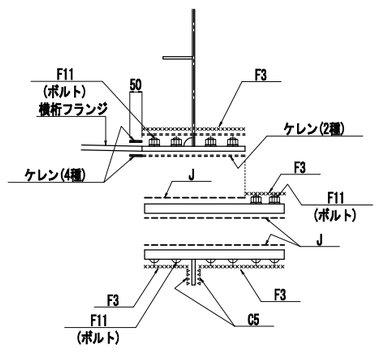
C－C 断面図 S=1:25



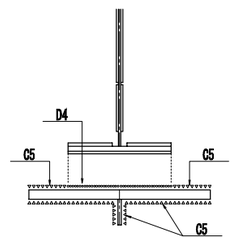
D－D 断面図 S=1:25



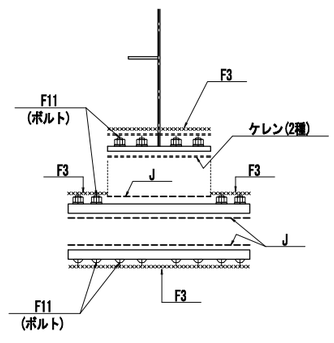
E－E 断面図 S=1:25



F－F 断面図 S=1:25



G－G 断面図 S=1:25

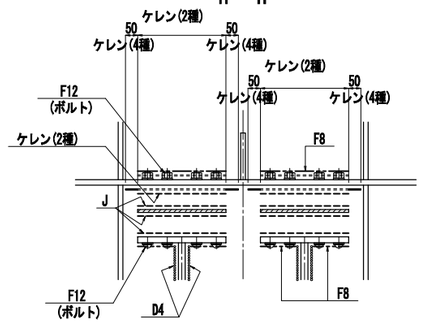


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 塗分け区分図（その１）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

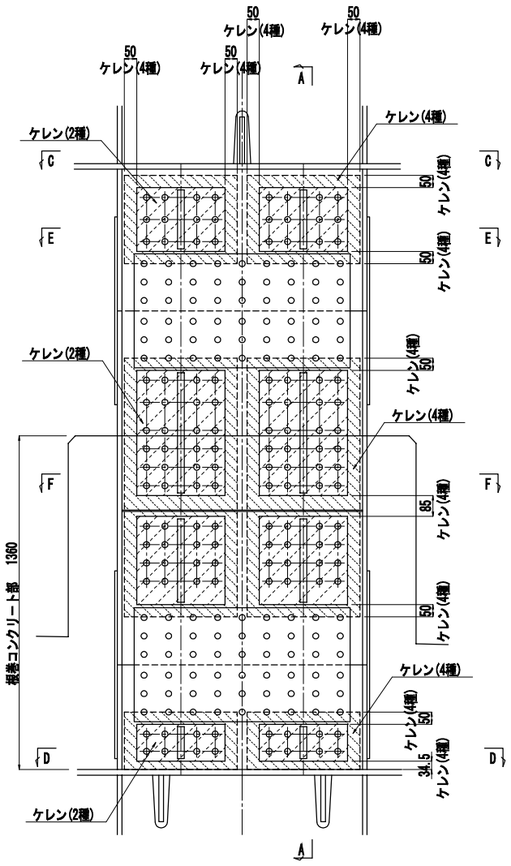
塗分け区分図（その２）S=1:25

吊材 C1,C9補強材

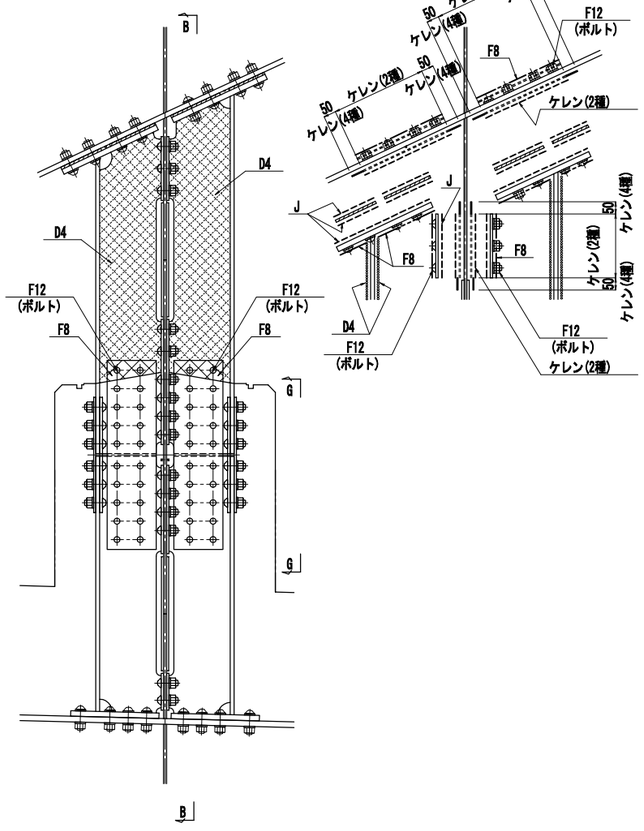
H－H



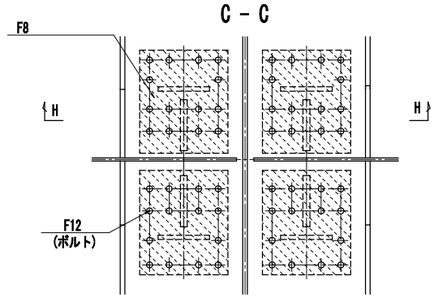
B－B



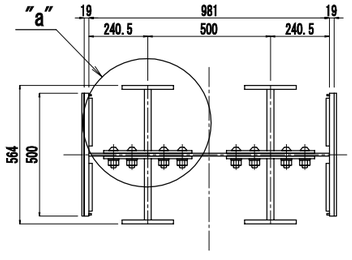
A－A



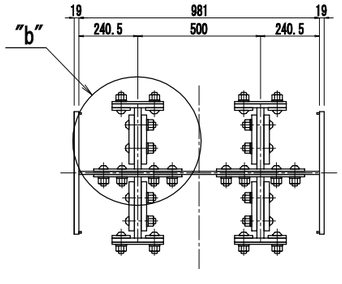
C－C



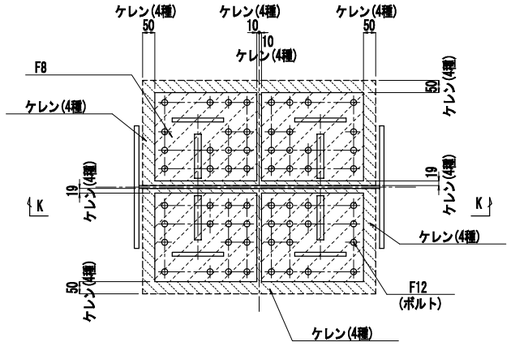
E－E



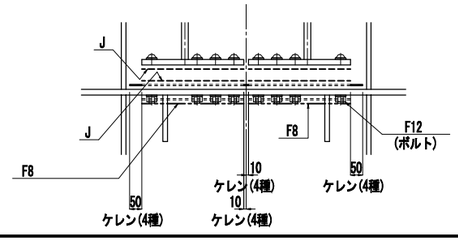
F－F



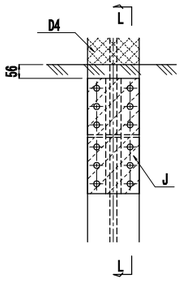
D－D



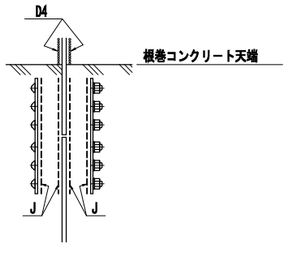
K－K



G－G

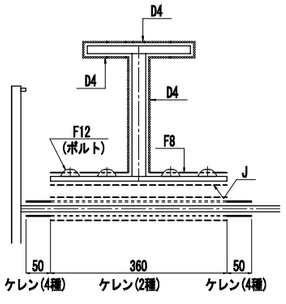


L－L

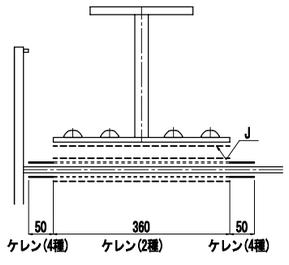


"a" 部

一般部

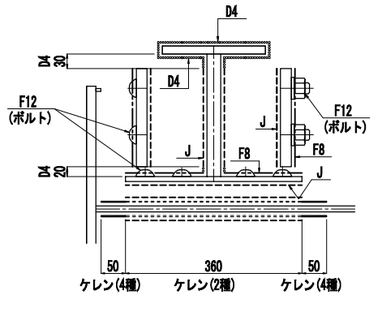


根巻コンクリート部

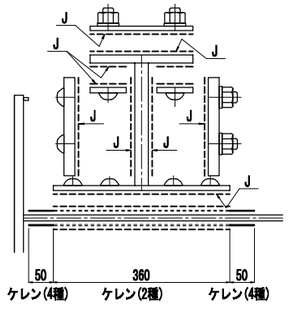


"b" 部

一般部



根巻コンクリート部

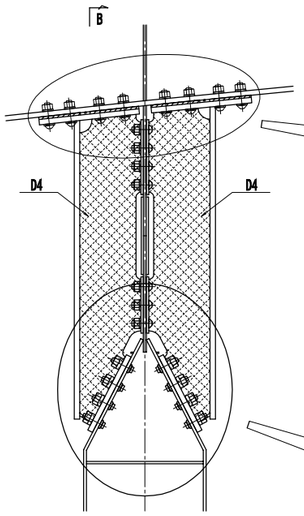


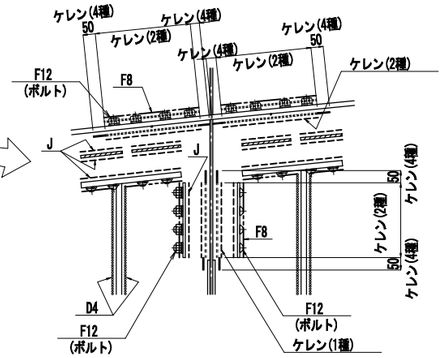
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 塗分け区分図（その２）		
縮　尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

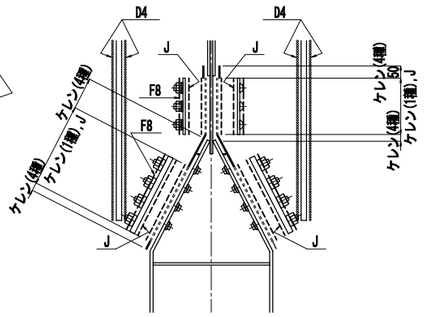
塗分け区分図（その３）S=1:25

吊材 C2～C8補強材

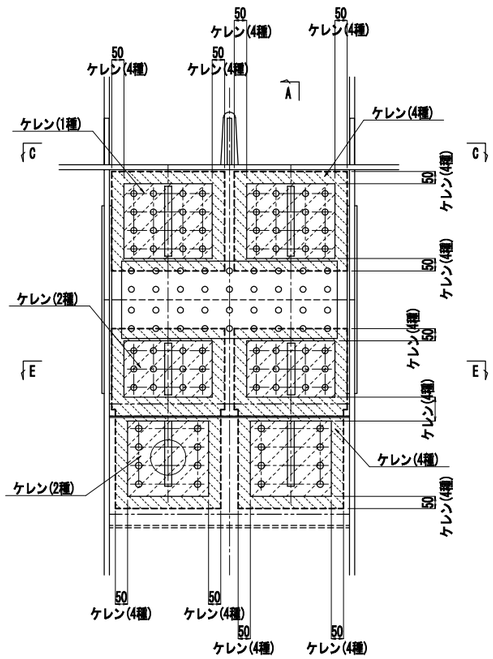
A－A



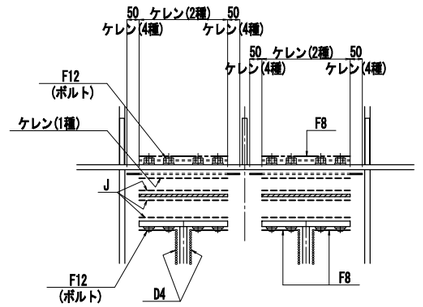




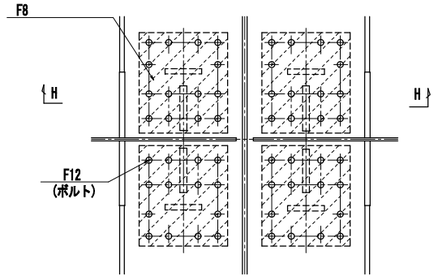
B－B



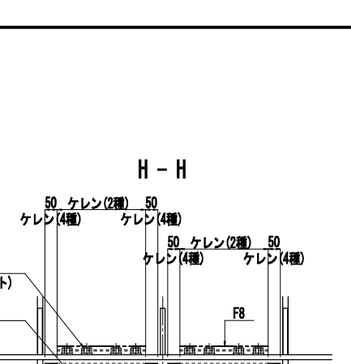
H－H



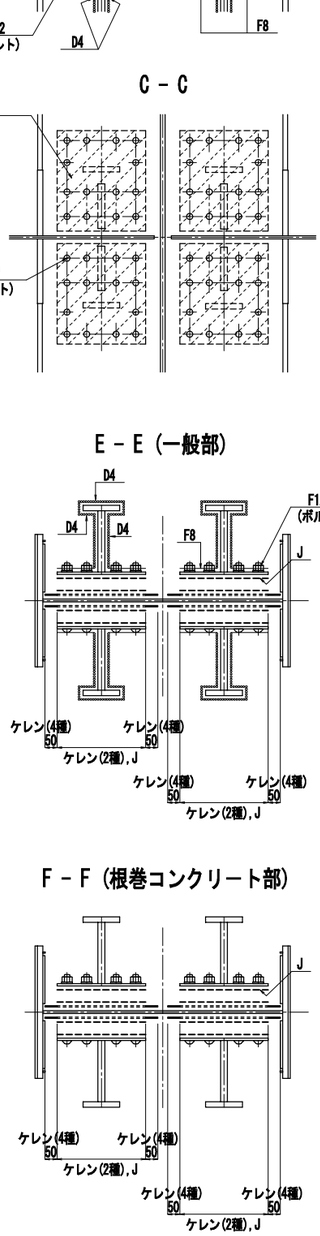
C－C

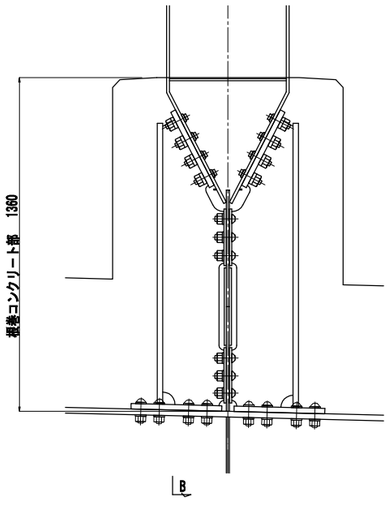


E－E（一般部）

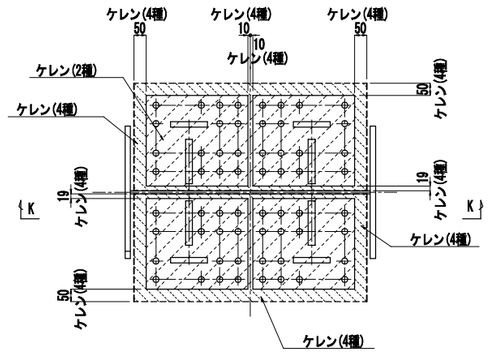


F－F（根巻コンクリート部）

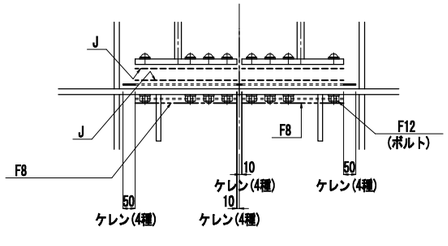


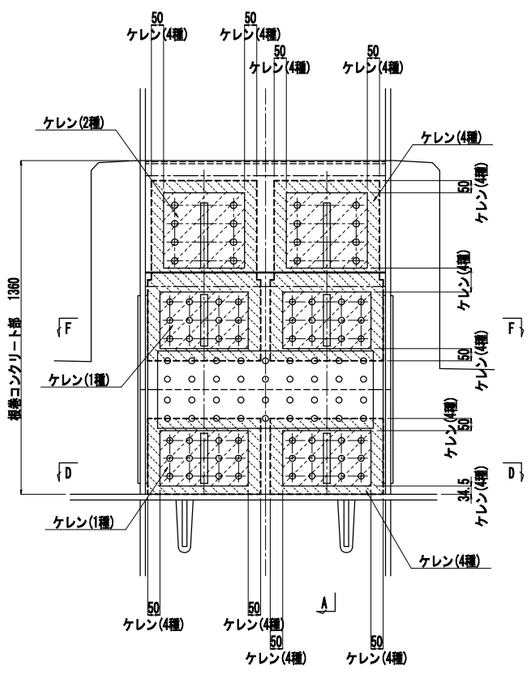


D－D



K－K



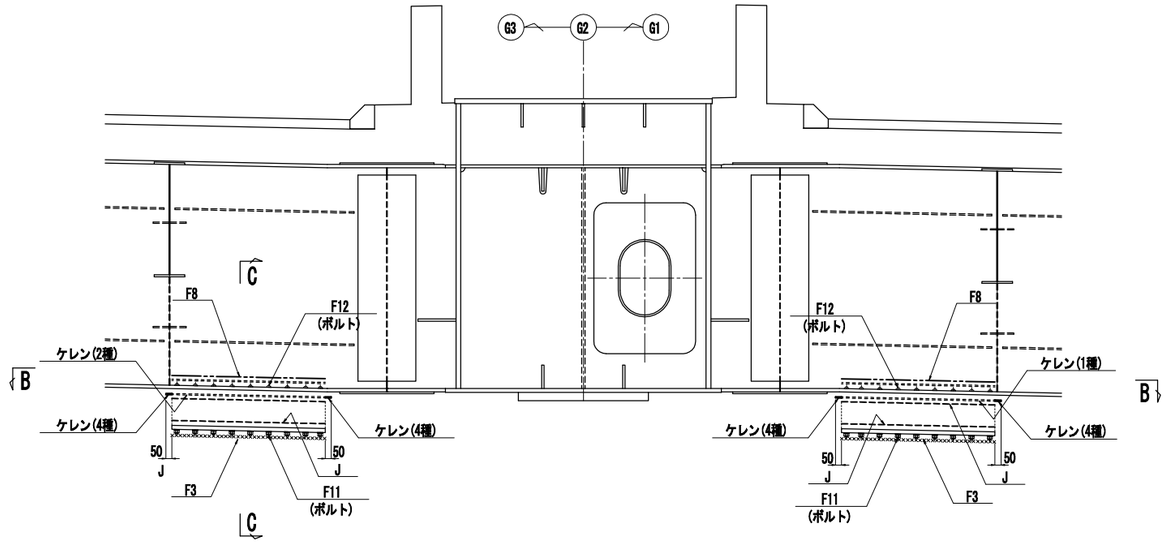


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 塗分け区分図（その３）		
縮　尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

塗分け区分図（その４）S=1:50

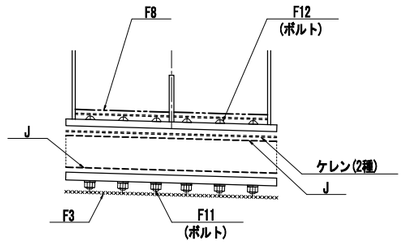
端横桁補強材

A－A 正面図

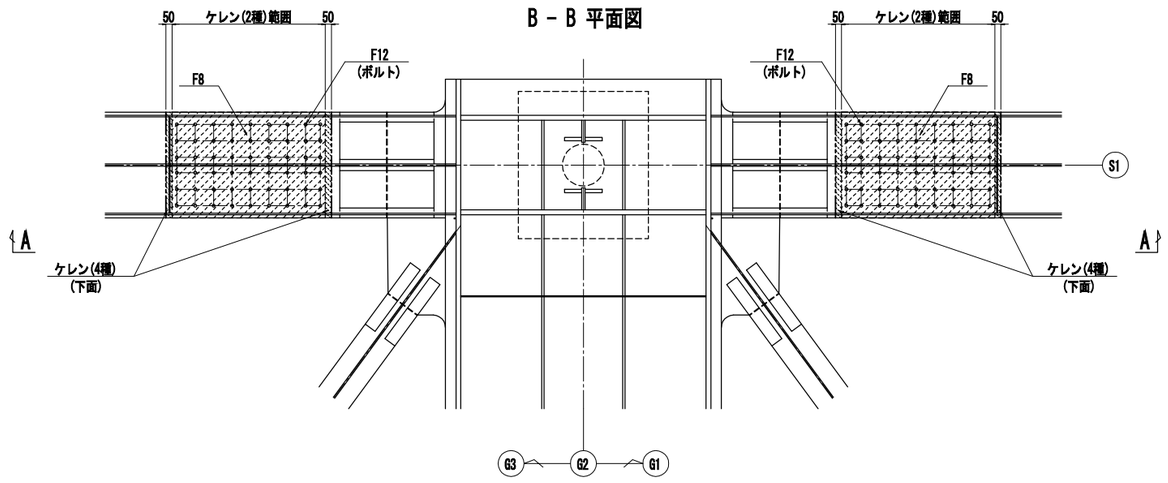


C－C 断面図

縮尺 1:25



B－B 平面図

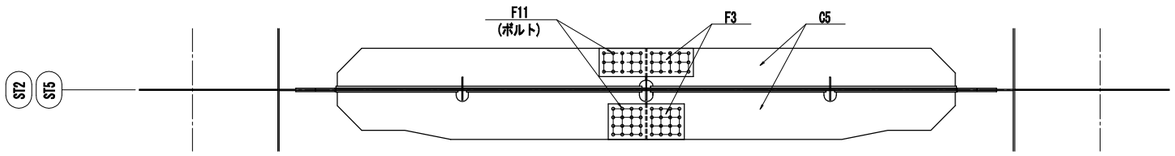


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 塗分け区分図（その４）		
縮　尺	1:50	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

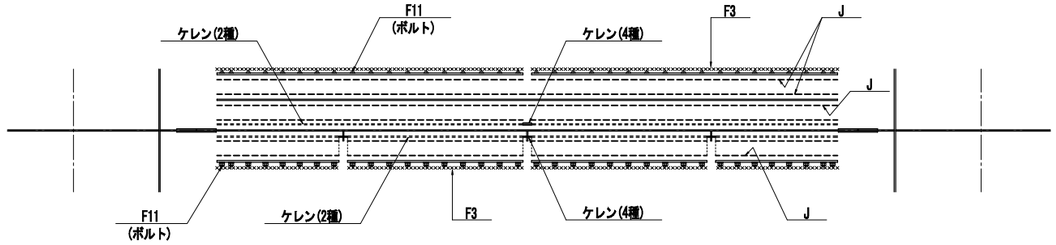
塗分け区分図（その５）S=図示

中縦桁補強材

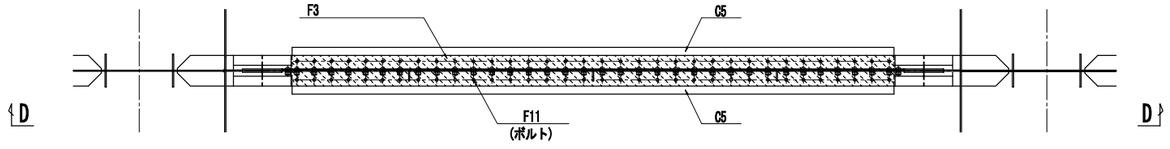
A－A 平面図 S=1:50



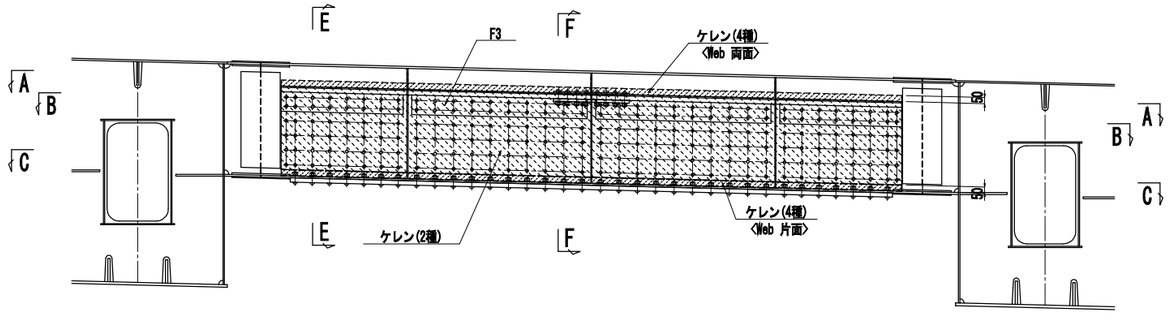
B－B 平面図 S=1:50



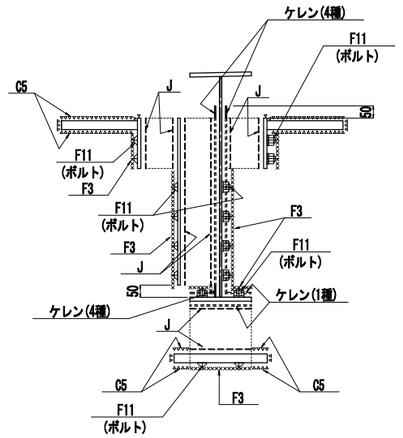
C－C 平面図 S=1:50



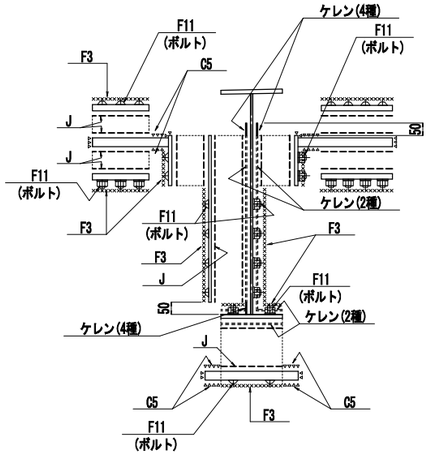
D－D 側面図 S=1:50



E－E 断面図 S=1:25



F－F 断面図 S=1:25



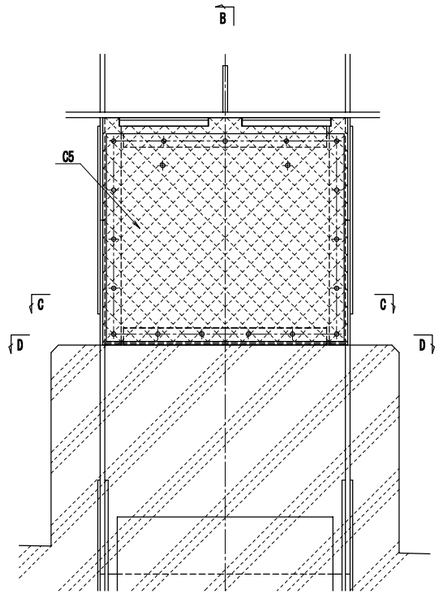
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 塗分け区分図（その５）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

塗分け区分図（その６）S=1:25

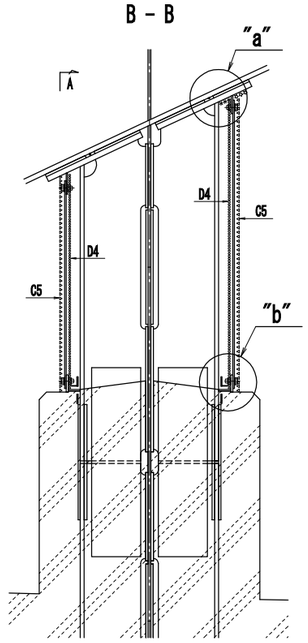
吊材化粧板

吊材 C1,C9 化粧板

A－A

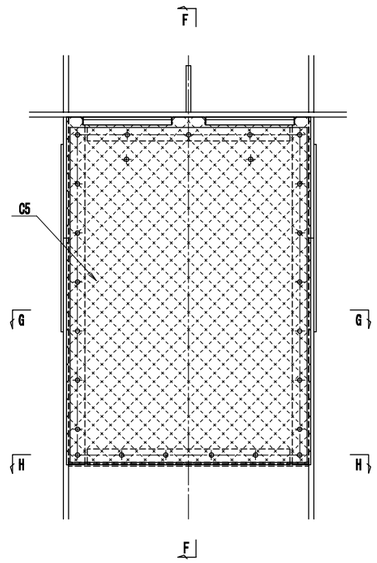


B－B

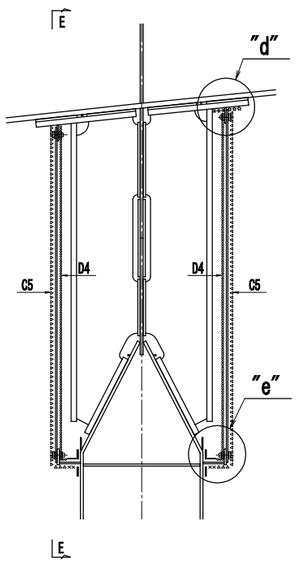


吊材 C4～C8 化粧板

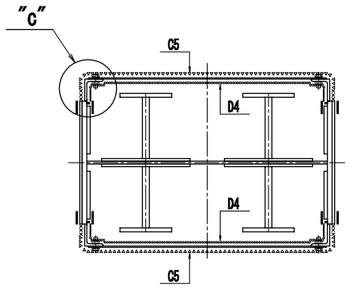
E－E



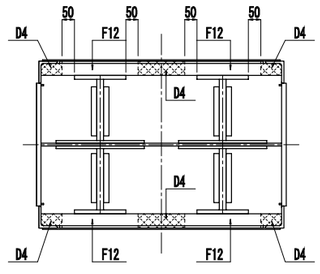
F－F



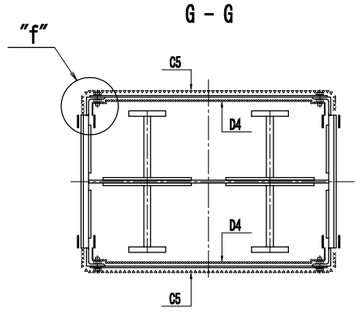
C－C



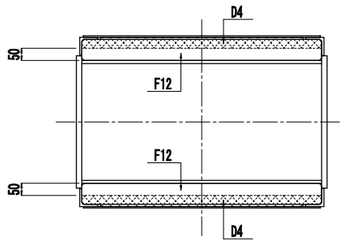
D－D



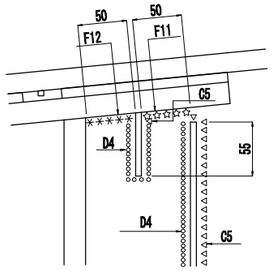
G－G



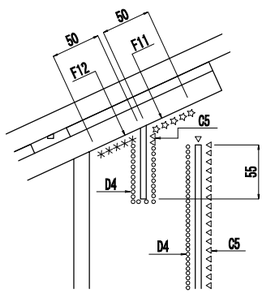
H－H



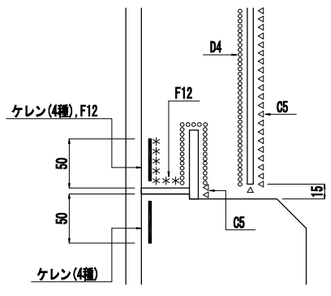
"d" 部



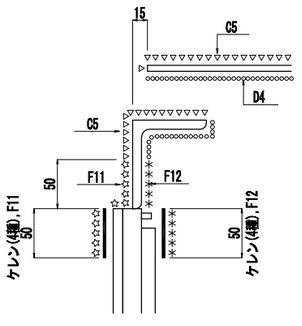
"a" 部



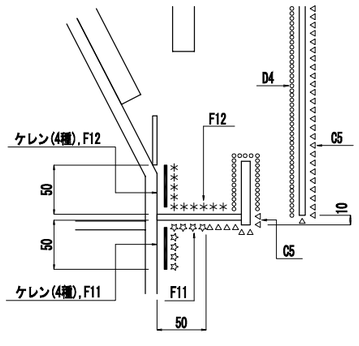
"b" 部



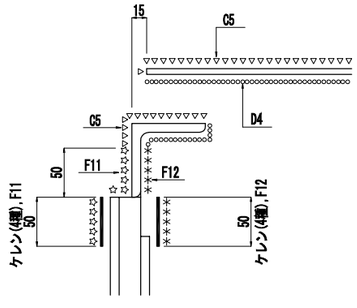
"c" 部



"e" 部



"f" 部

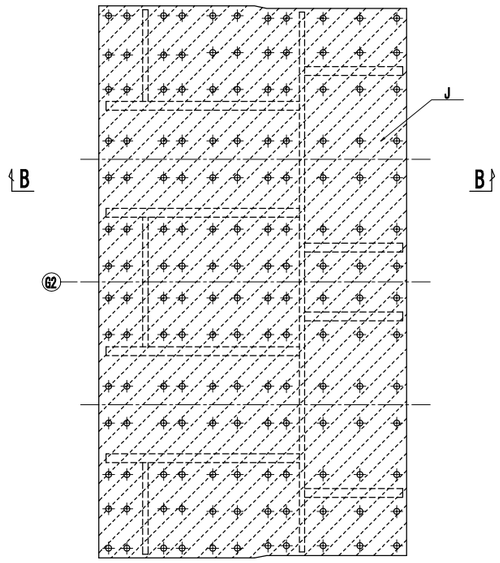


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 塗分け区分図（その６）		
縮　尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

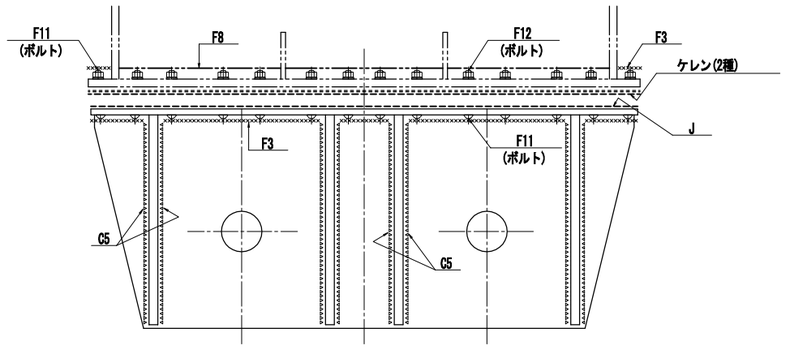
塗分け区分図（その７）S=1:25

落橋防止構造 上部エブラケット

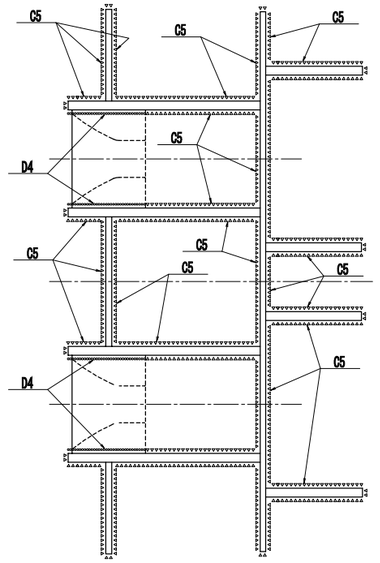
A－A 平面図



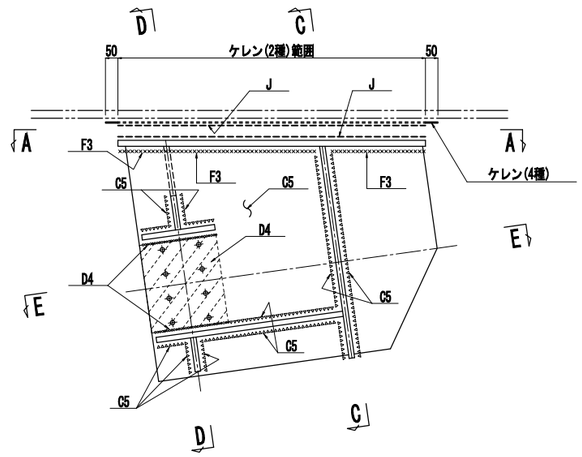
C－C 断面図



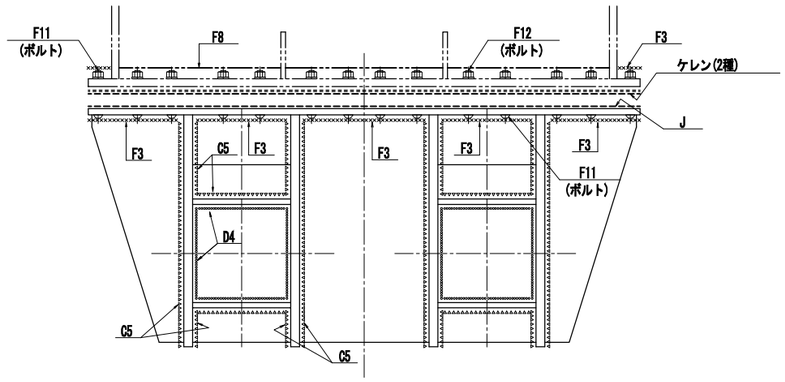
E－E 平面図



B－B 側面図



D－D 断面図

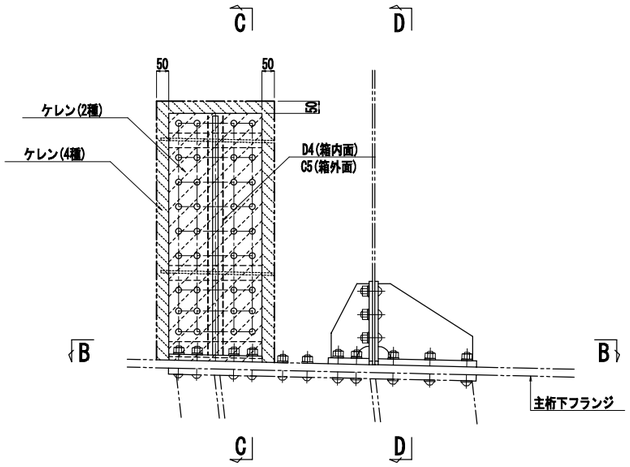


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 塗分け区分図（その７）		
縮　尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

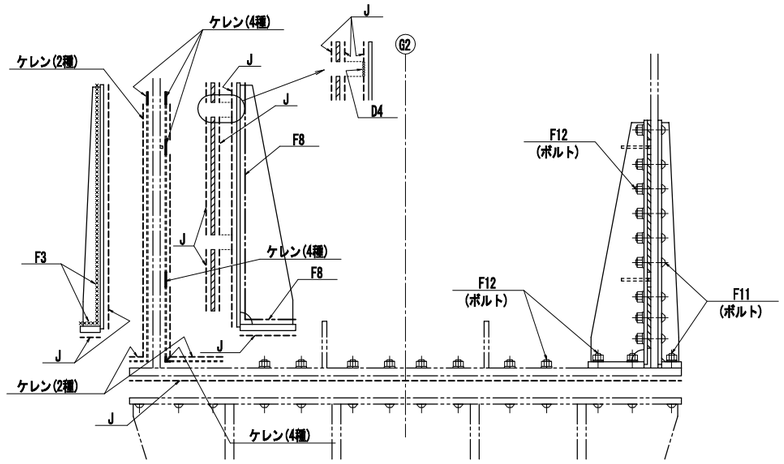
塗分け区分図（その８）S=1:25

落橋防止構造 主桁補強材

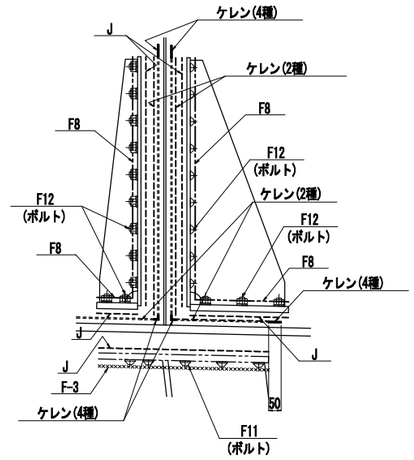
A － A 平面図



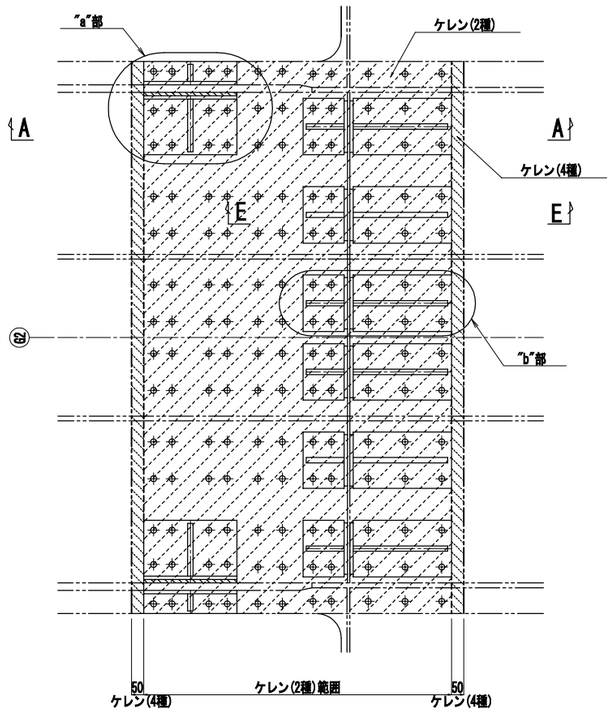
C － C 断面図



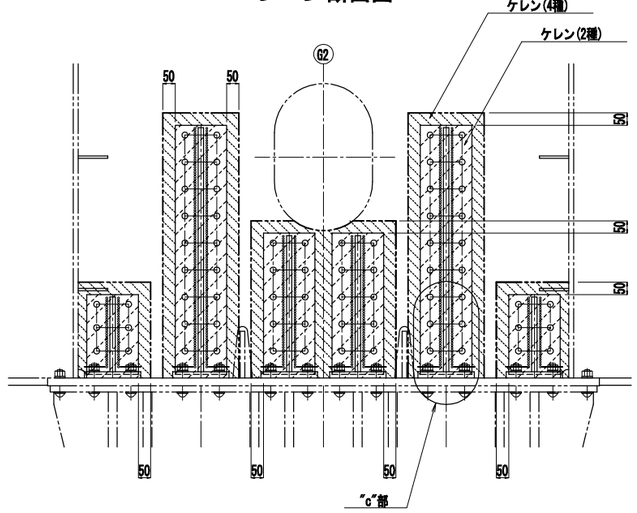
E － E 断面図



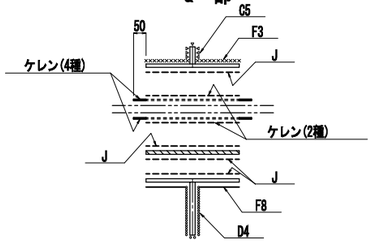
B － B 平面図



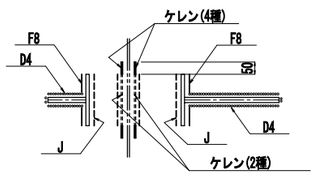
D － D 断面図



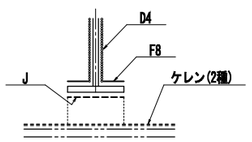
"a" 部



"b" 部



"c" 部



首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 塗分け区分図（その８）		
縮　尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

塗分け区分図（その９）

塗装仕様

一般外面の塗装系

記号	工程		塗料または素地調整程度	標準使用量(g/m2)	塗装間隔	標準膜厚(μm)
C５	前処理	素地調整	G-a	－		－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚｰ160	2hr 以内	(15)
	工場塗装	２次素地調整	G-a	－	～6ヶ月	－
		下塗 第１層	無機ジンクリッチペイント	ｽﾌﾟﾚｰ600	2hr 以内	75
		ミストコート	エポキシ樹脂塗料下塗あるいは厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗(120μm)	ｽﾌﾟﾚｰ160	2～10日	－
		下塗 第２層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗(120μm)	ｽﾌﾟﾚｰ540	1～10日	120
		中塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	ｽﾌﾟﾚｰ170	1～10日	30
		上塗	ふっ素樹脂塗料上塗	ｽﾌﾟﾚｰ140	1～10日	25

箱桁の内面及び上フランジ上面の塗装系

記号	工程		塗料または素地調整程度	標準使用量(g/m2)	塗装間隔	標準膜厚(μm)
D４	前処理	素地調整	G-a	－		－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚｰ160	2hr 以内	(15)
	工場塗装	２次素地調整	G-c	－	～6ヶ月	－
		第１層	変性エポキシ樹脂塗料内面用	ｽﾌﾟﾚｰ410	2hr 以内	120
		第２層	変性エポキシ樹脂塗料内面用	ｽﾌﾟﾚｰ410	1～10日	120

高力ボルト接合部および現場塗装部（熱影響部以外）の塗装系

記号	工程		塗料または素地調整程度	標準使用量(g/m2)	塗装間隔	標準膜厚(μm)
F３	前処理	素地調整	G-a	－		－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚｰ160	2hr 以内	(15)
	工場塗装	２次素地調整	G-a	－	～6ヶ月	－
		下塗 第１層	無機ジンクリッチペイント	ｽﾌﾟﾚｰ600	2hr 以内	75
	現場塗装	ミストコート	変性エポキシ樹脂塗料下塗あるいは厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗(120μm)	(ｽﾌﾟﾚｰ160)ﾊｹ130	2日～12ヶ月	－
		下塗 第２層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗(120μm)	(ｽﾌﾟﾚｰ360)ﾊｹ300	1～10日	90
		下塗 第３層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗(120μm)	(ｽﾌﾟﾚｰ360)ﾊｹ300	1～10日	90
		中塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(ｽﾌﾟﾚｰ170)ﾊｹ140	1～10日	30
		上塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(ｽﾌﾟﾚｰ140)ﾊｹ120	1～10日	25
F８	前処理	素地調整	G-a	－		－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚｰ160	2hr 以内	(15)
	現場塗装	２次素地調整	G-c	－	～6ヶ月	－
		下塗 第１層	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	ﾊｹ300	2hr 以内	120
		下塗 第２層	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	ﾊｹ300	1～10日	120

高力ボルト頭部および現場塗装部（熱影響部）の塗装系

記号	工程		塗料または素地調整程度	標準使用量(g/m2)	塗装間隔	標準膜厚(μm)
F１１	現場塗装	素地調整	G-c	－		－
		下塗 第１層	有機ジンクリッチペイント	ﾊｹ240	2hr 以内	30
		下塗 第２層	有機ジンクリッチペイント	ﾊｹ240	1～10日	30
		下塗 第３層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗(120μm)	(ｽﾌﾟﾚｰ360)ﾊｹ300	1～10日	90
		下塗 第４層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗(120μm)	(ｽﾌﾟﾚｰ360)ﾊｹ300	1～10日	90
		中塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(ｽﾌﾟﾚｰ170)ﾊｹ140	1～10日	30
		上塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(ｽﾌﾟﾚｰ140)ﾊｹ120		25
F１２	現場塗装	素地調整	G-c	－		－
		下塗 第１層	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	ﾊｹ300	2hr 以内	120
		下塗 第２層	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	ﾊｹ300	1～10日	120

高力ボルト接合部接合部（接触面）の塗装系

記号	工程		塗料または素地調整程度	標準使用量(g/m2)	塗装間隔	標準膜厚(μm)
J	前処理	素地調整	G-a	－		－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚｰ160	2hr 以内	(15)
	工場塗装	２次素地調整	G-a	－	～6ヶ月	－
		下塗	無機ジンクリッチペイント	ｽﾌﾟﾚｰ600	2hr 以内	75

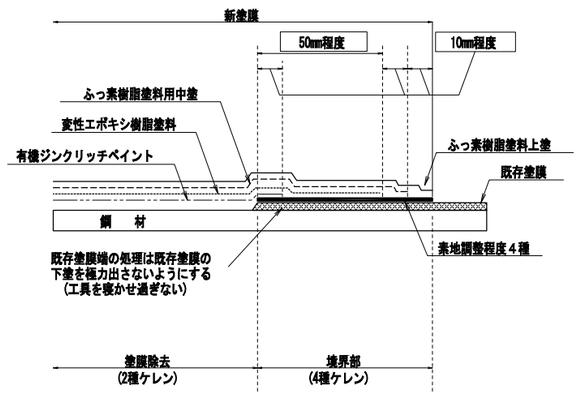
既設部材一般部（外面）の塗装系

記号	工程		塗料または素地調整程度	標準使用量(g/m2)	塗装間隔	標準膜厚(μm)
C３ (境界部)	現場塗装	素地調整	４種	－		－
		下塗	変性エポキシ樹脂塗料下塗	ﾊｹ200	4hr 以内	60
		中塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	ﾊｹ140	1～10日	30
		上塗	ふっ素樹脂塗料上塗	ﾊｹ120	1～10日	25

既設部材一般部（内面）の塗装系

記号	工程		塗料または素地調整程度	標準使用量(g/m2)	塗装間隔	標準膜厚(μm)
d (境界部)	現場塗装	素地調整	４種	－		－
		第１層	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	ﾊｹ300	2hr 以内	120
		第２層	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	ﾊｹ300	2～10日	120

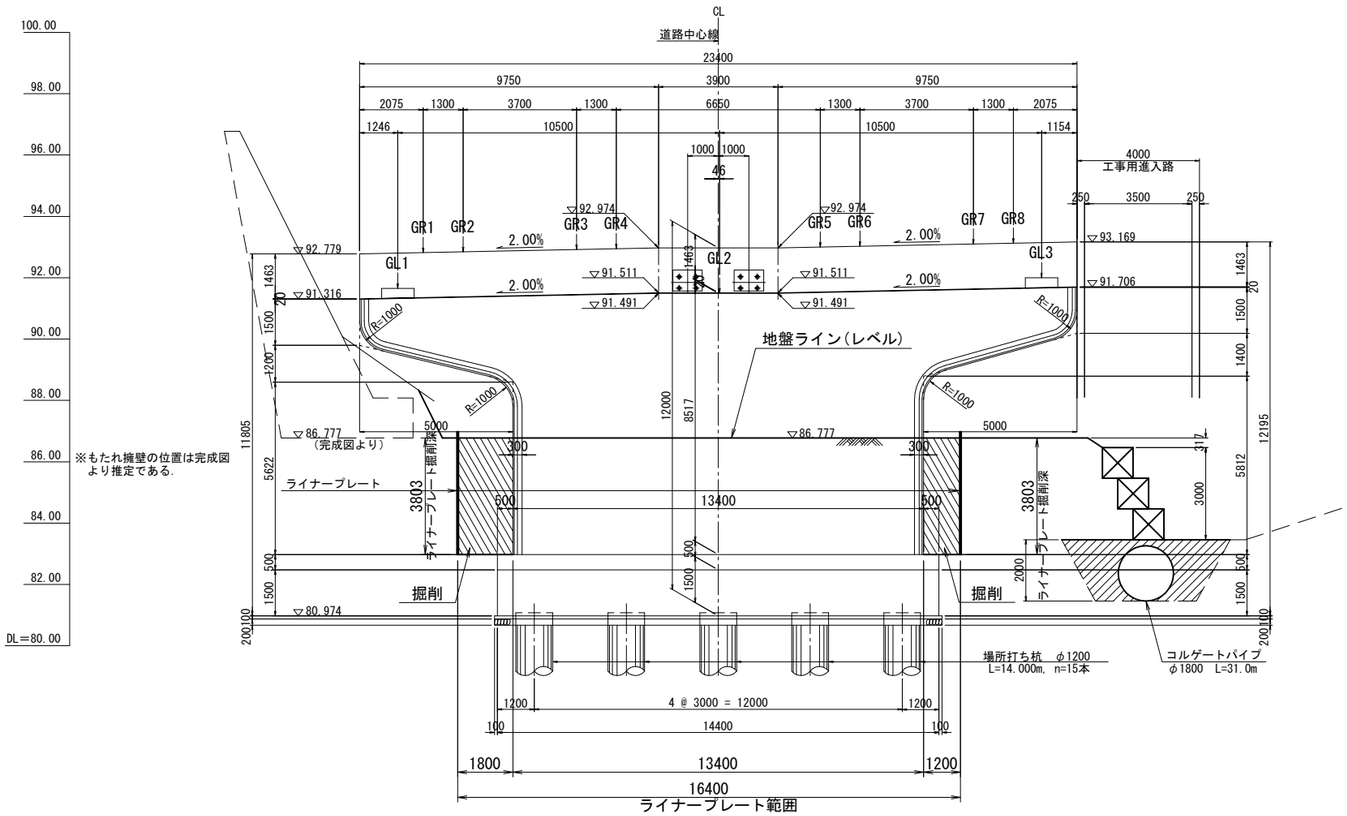
既存塗膜との境界部の処理（外面）



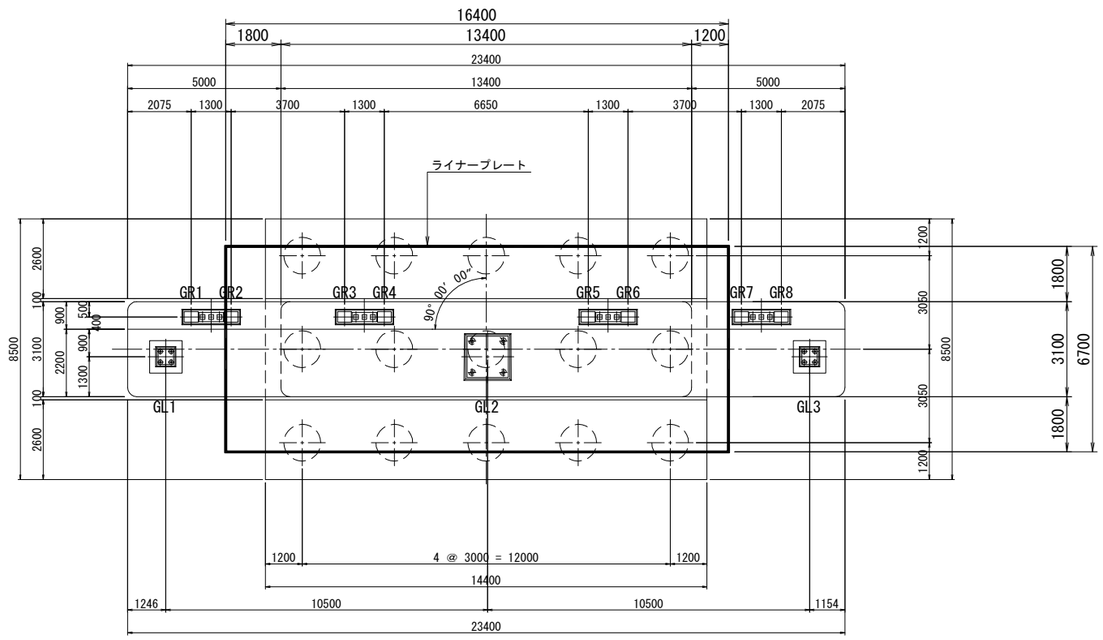
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	牛沢橋 塗分け区分図（その９）
縮尺	－ 図面番号 /
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P1橋脚　構造物掘削図（その1） S=1:200

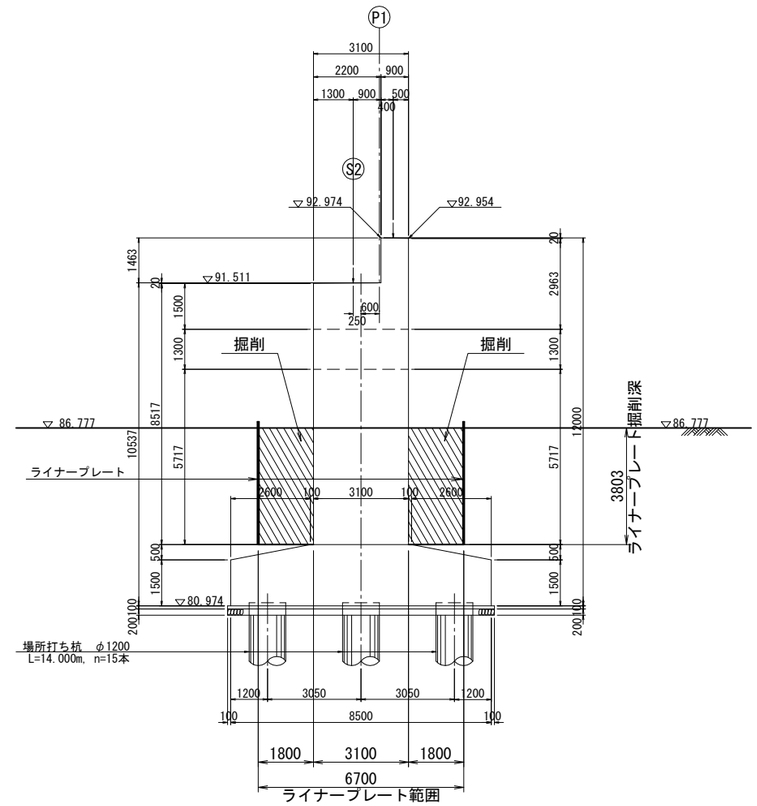
正面図



平面図



断面図

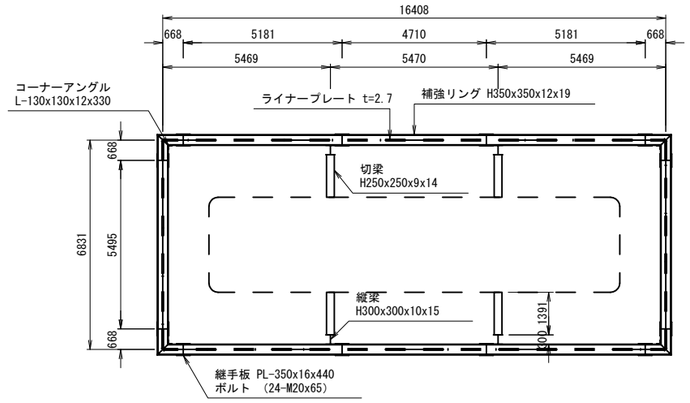


注）
1. もたれ擁壁の位置は完成図より推定である.

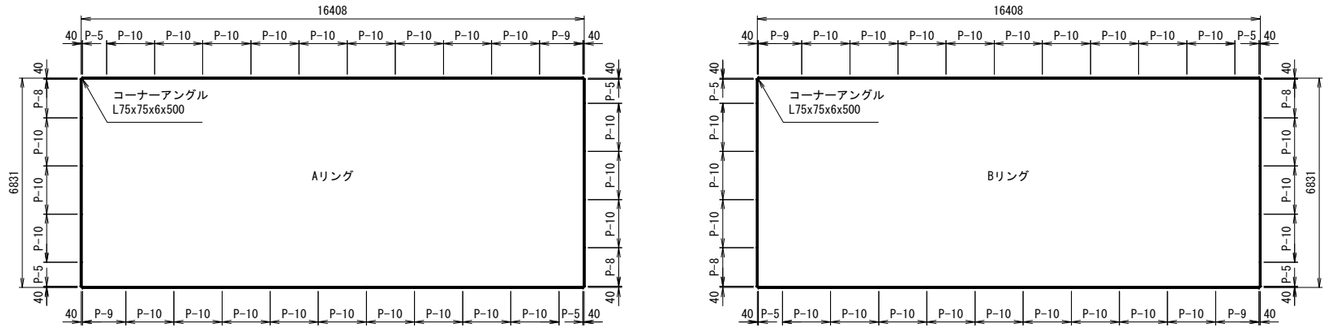
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 P1橋脚　構造物掘削図（その1）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P1橋脚　構造物掘削図（その2）S=図示

平　面　図 S=1:200

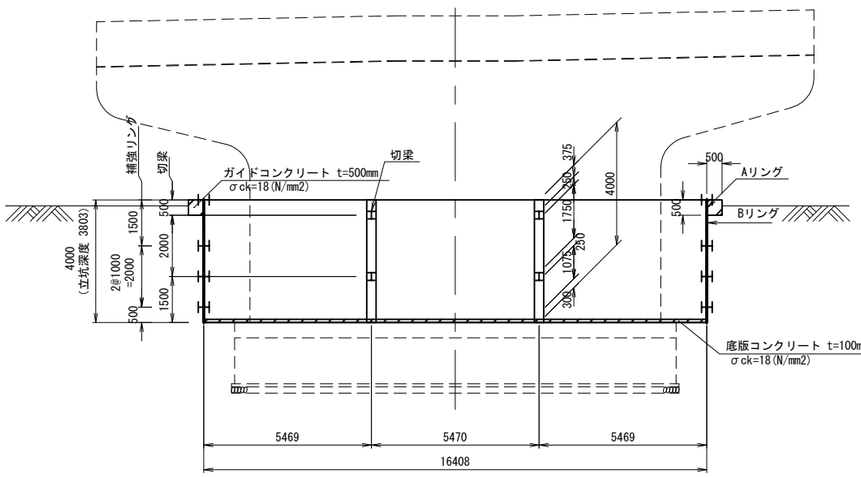


ライナープレート構成図 S=1:200



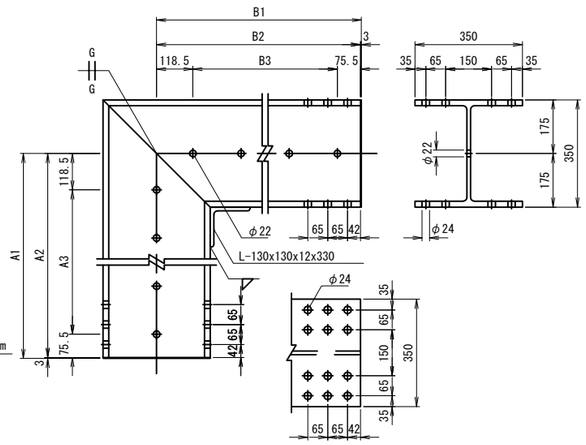
断　面　図 S=1:200

注：縦梁とライナープレートの隙間には、スペーサーを挿入の事。

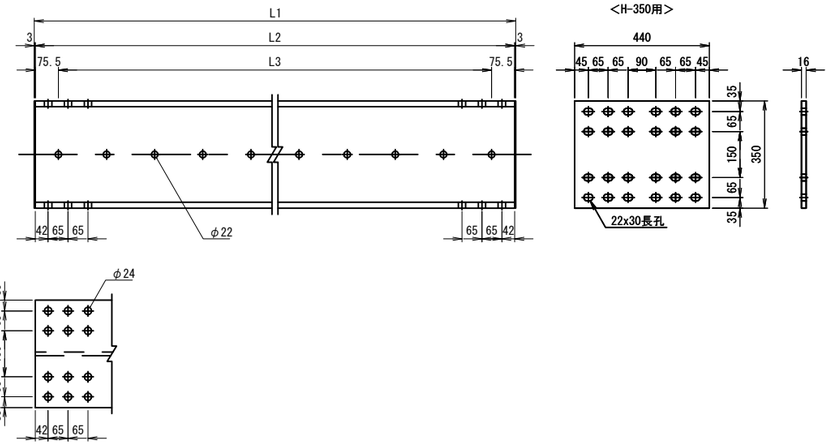


補強リング S=1:20

（H-350x350x12x19）



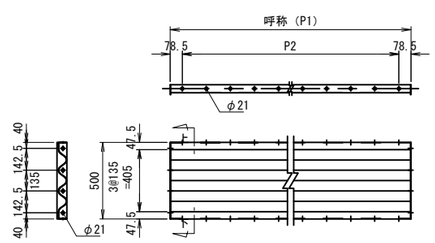
補強リング継手板 S=1:20



角度部補強リング						
全長	A1	A2	A3	B1	B2	B3
1330	668	665	3 @157= 471	668	665	3 @157= 471

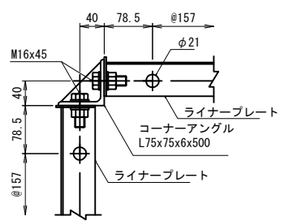
直部補強リング		
L1	L2	L3
5495	5489	34 @157= 5338
5181	5175	32 @157= 5024
4710	4704	29 @157= 4553

ライナープレート S=1:40

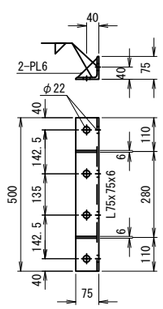


呼称	P1	P2
P-10	1570	9 @157= 1413
P-9	1413	8 @157= 1256
P-8	1256	7 @157= 1099
P-5	785	4 @157= 628

コーナー部詳細図（ 参考図） S=1:10



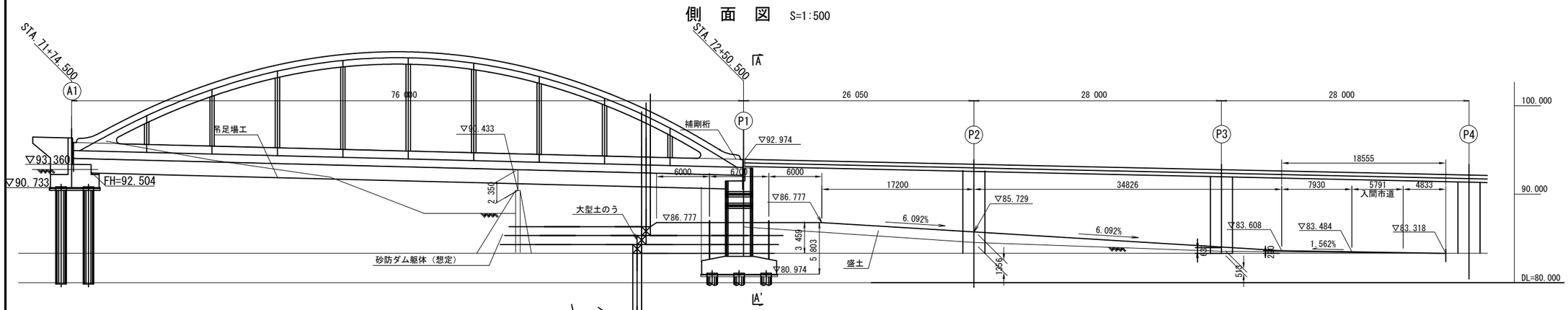
コーナーアングル（ 参考図） S=1:20



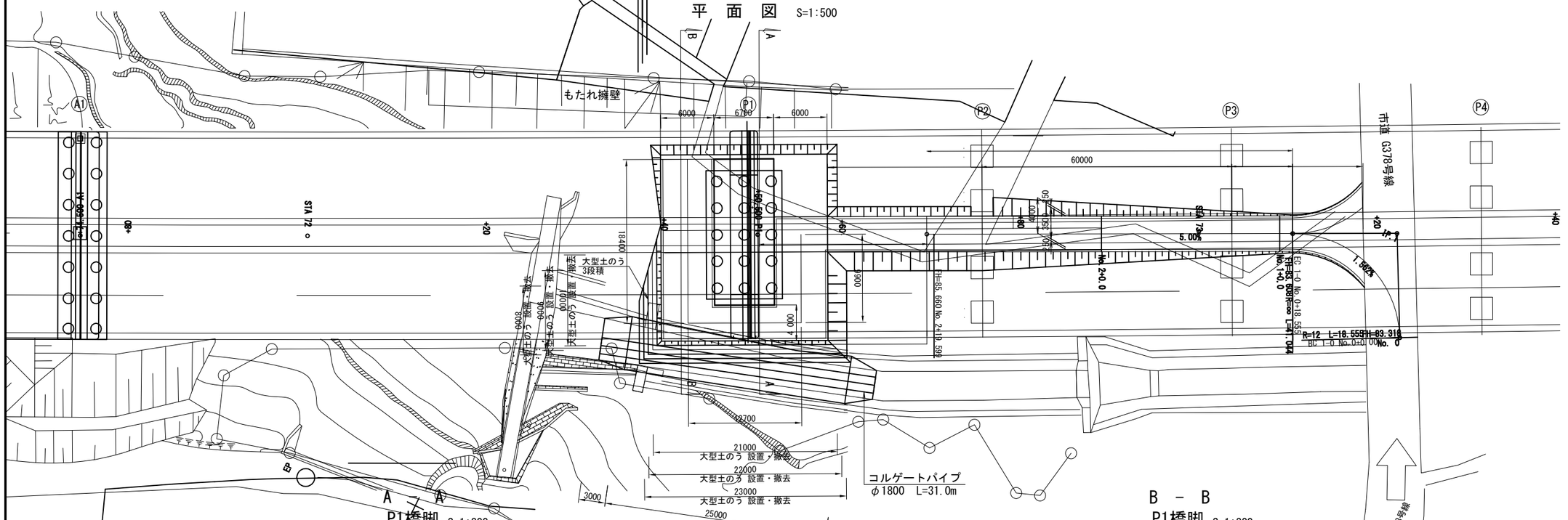
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 P1橋脚　構造物掘削図（その2）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

工事用進入路計画図（その１）S=図示

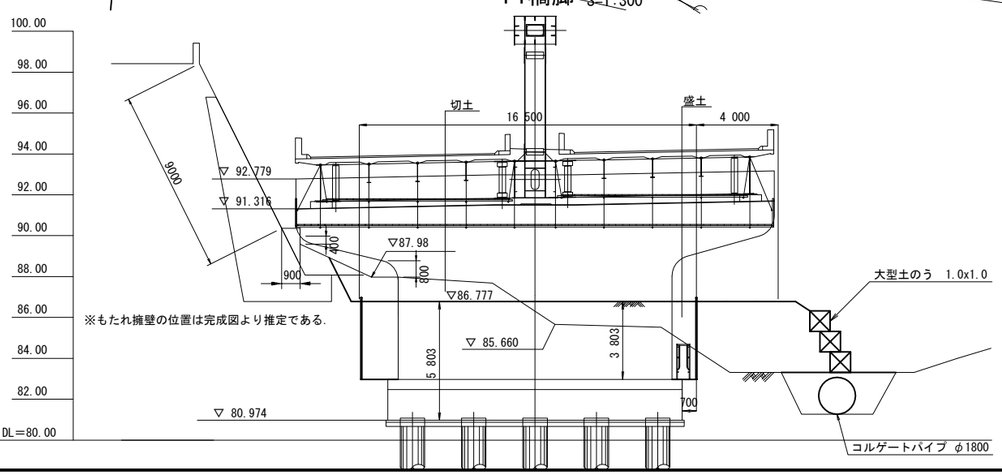
側　面　図　S=1:500



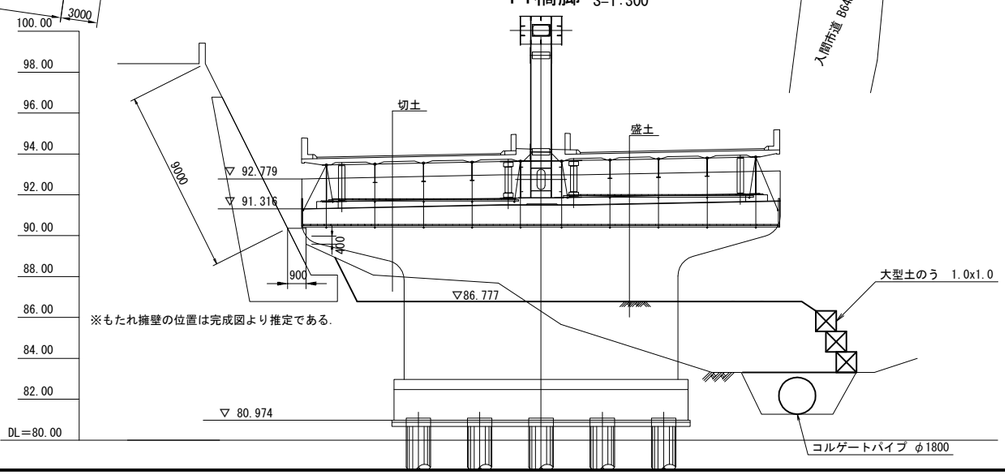
平　面　図　S=1:500



A － A
P1橋脚　S=1:300



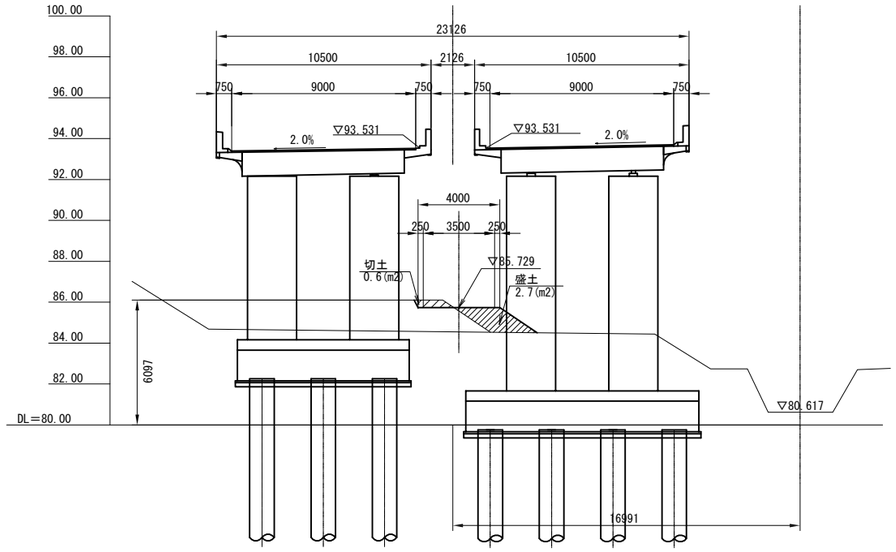
B － B
P1橋脚　S=1:300



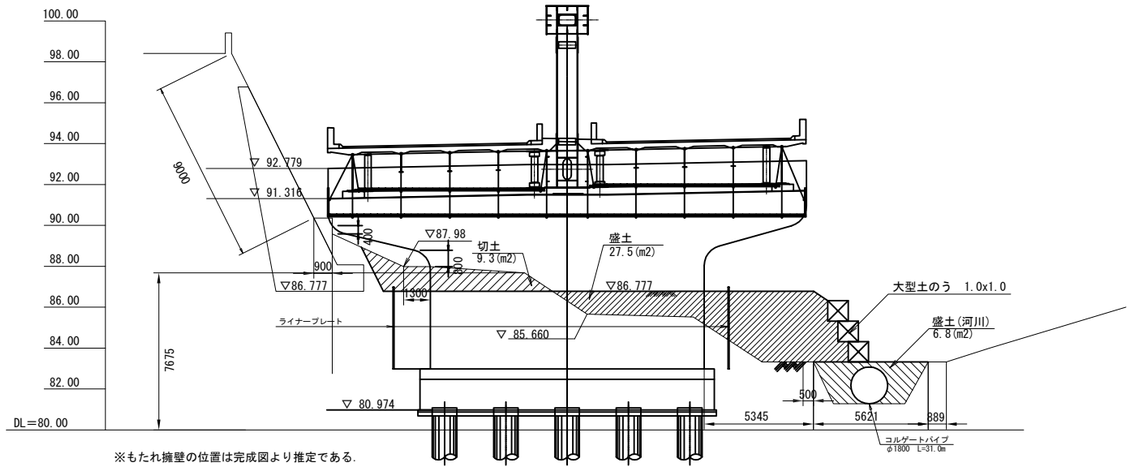
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	牛沢橋 工事用進入路計画図（その１）
縮　尺	図示　図面番号　/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

工事用進入路計画図（その２）S=1:300

NO.2+13.381
P2橋脚

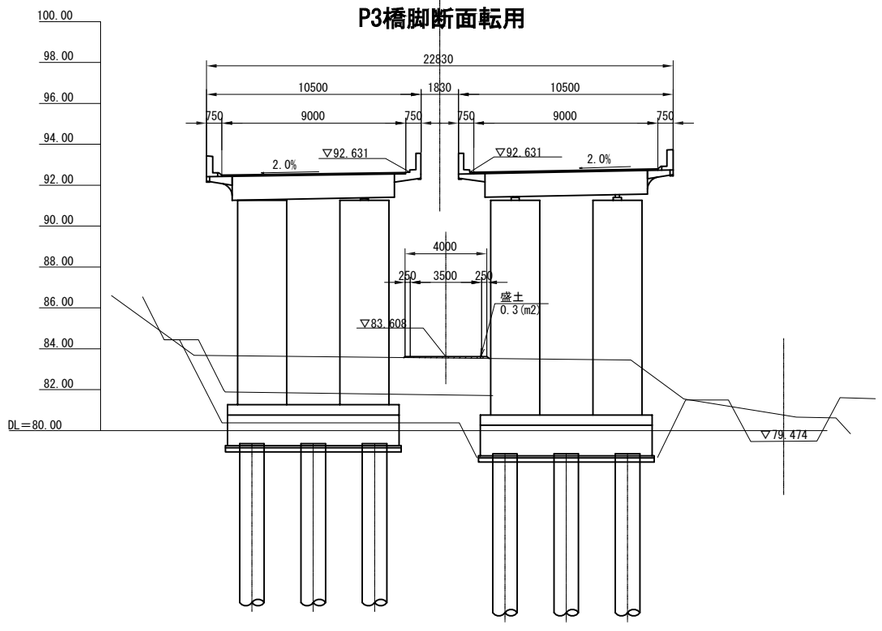


A-A′
P1橋脚断面転用



※もたれ擁壁の位置は完成図より推定である.

No.0+18.555
P3橋脚断面転用



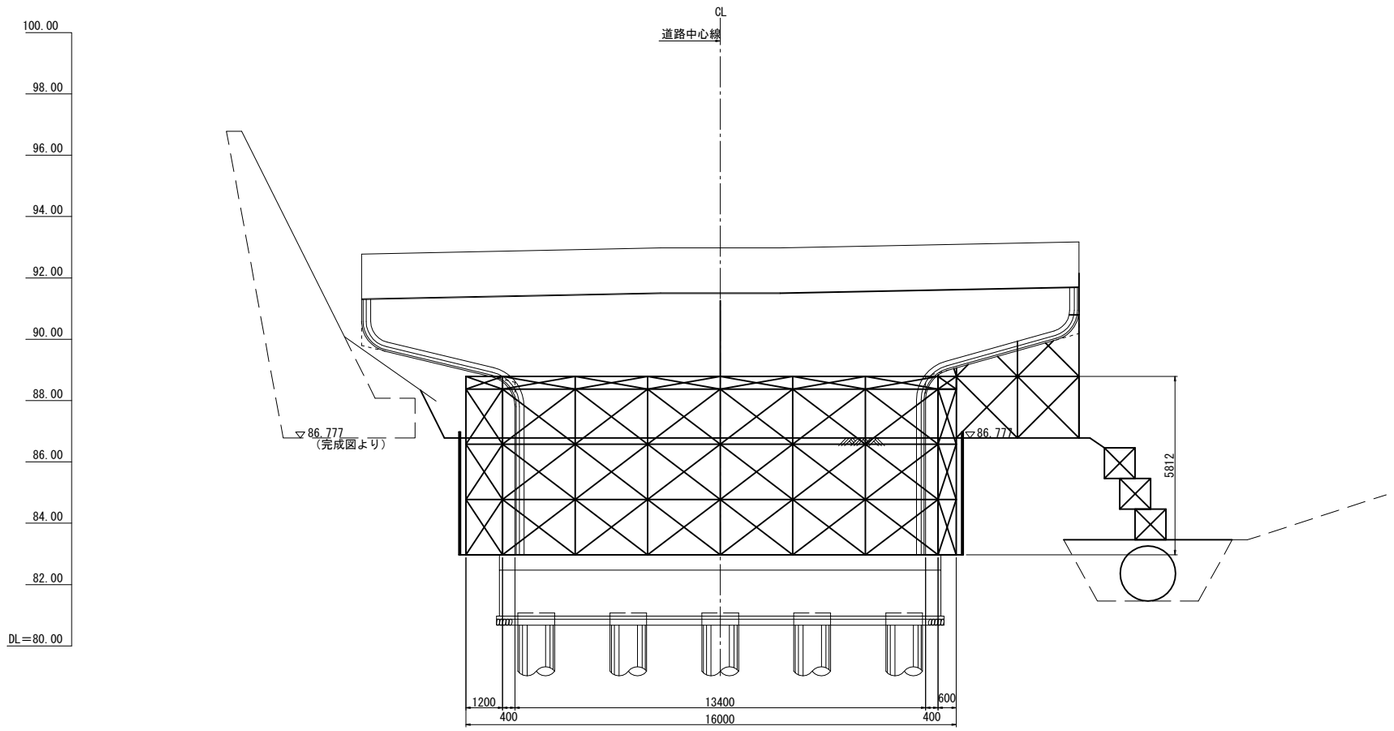
参考数量表

項　目	区　分	単位	数量	備　考
工事用進入路	盛土量	m３	589.7	全体土量
	切盛土工	m３	167.2	原型復旧
	盛土工	m３	422.5	
	捨土	m３	422.5	撤去（P17進入路へ運搬）
仮設コルゲートパイプ	φ1800	m	31.0	Ｉ型 t=3.2 1/2ペーピング P17進入路へ転用
大型土のう	設置・撤去	袋	93.0	耐候性 P17進入路へ転用

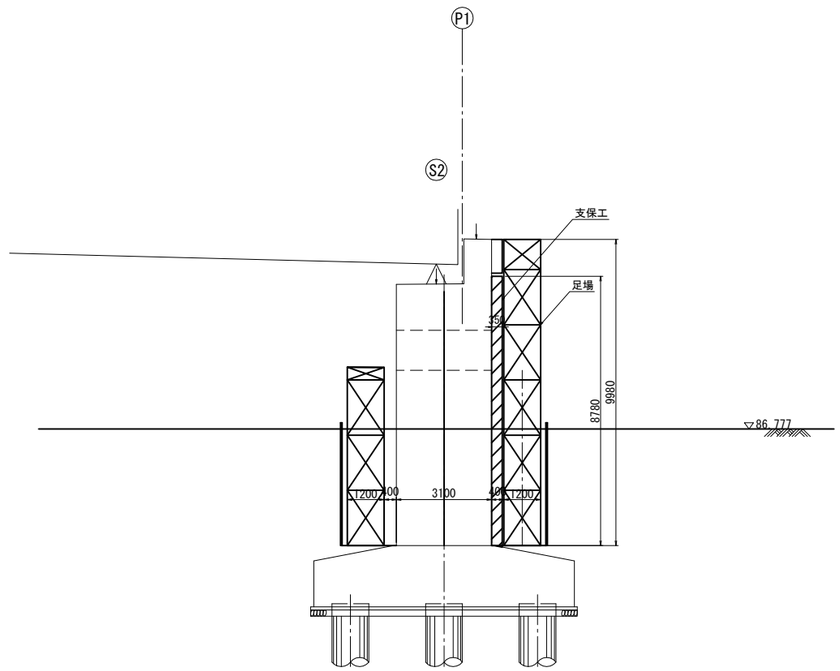
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 工事用進入路計画図（その２）		
縮　尺	1:300	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P1橋脚 足場計画図（参考図） S=1:200

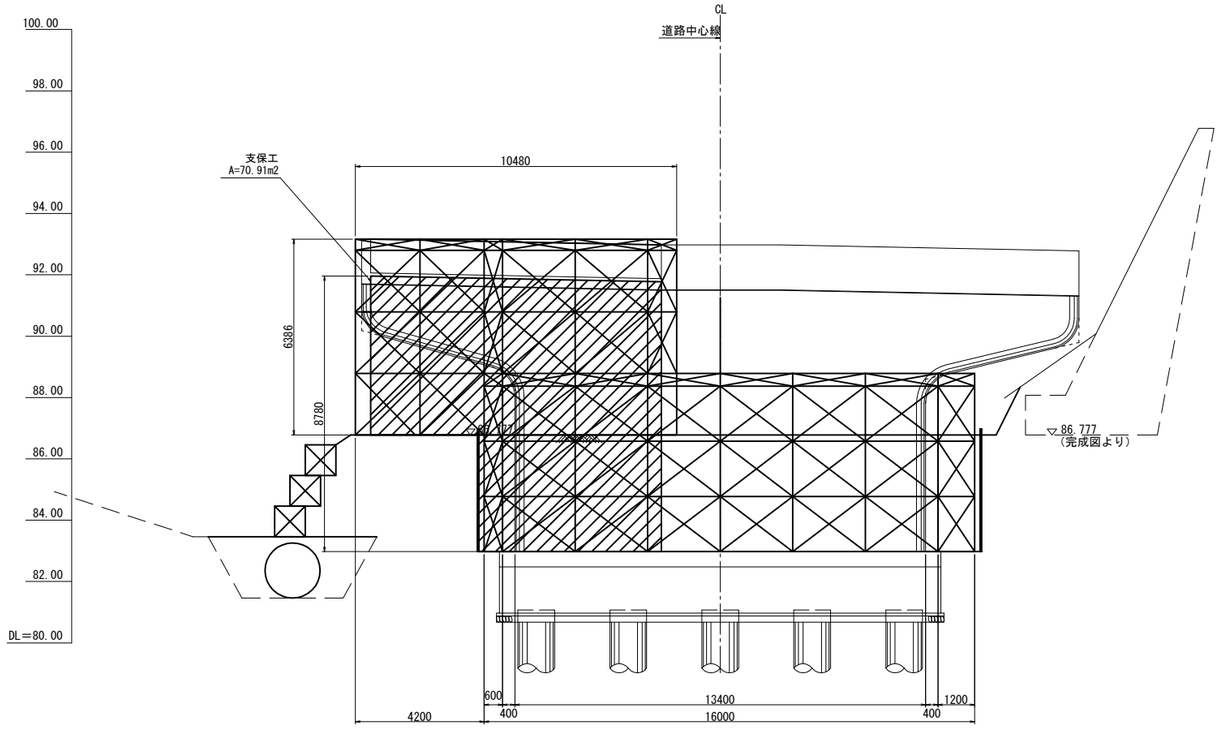
正 面 図（起点側）



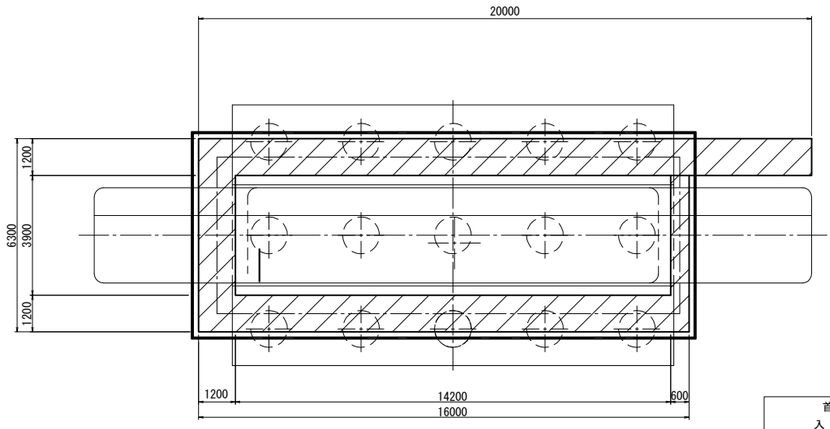
断 面 図



正 面 図（終点側）



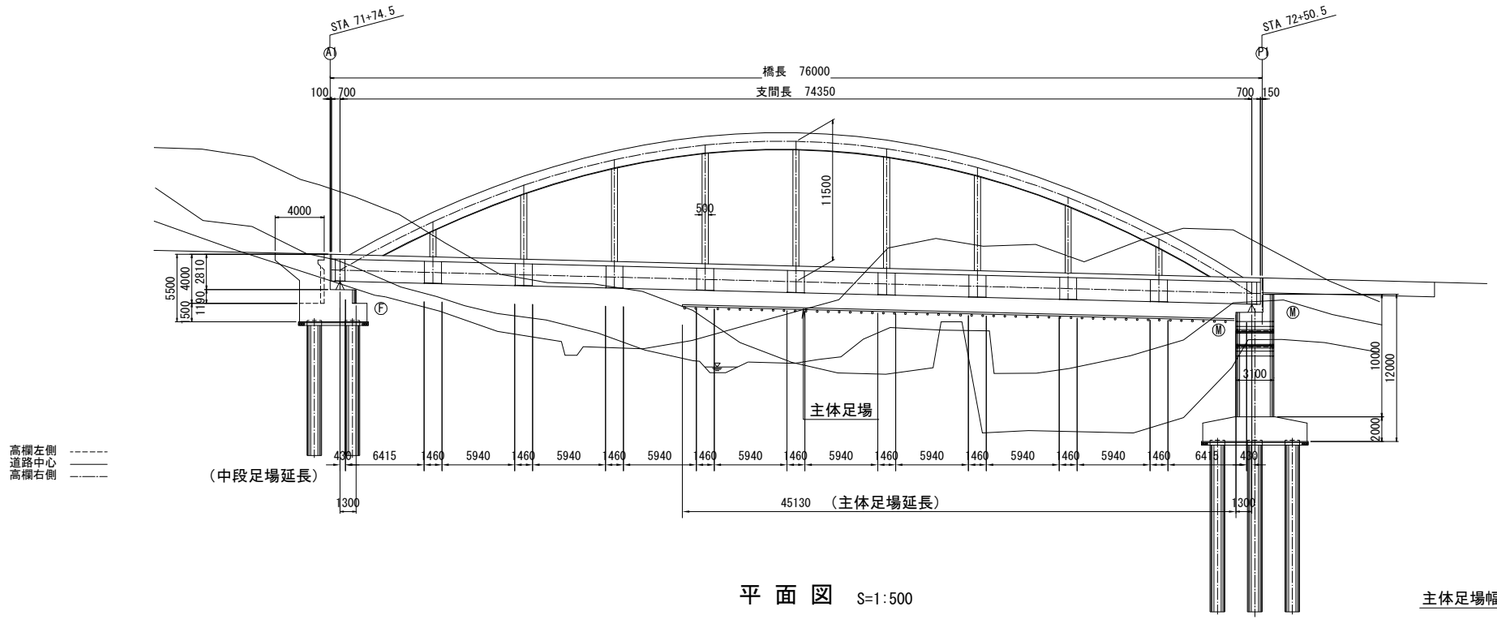
平 面 図



首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 P1橋脚 足場計画図（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

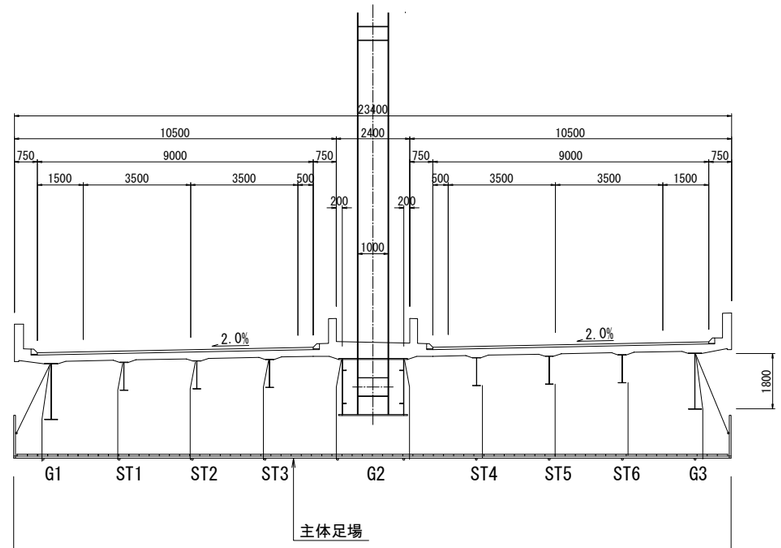
吊足場計画図（参考図）S=図示

側 面 図 S=1:500

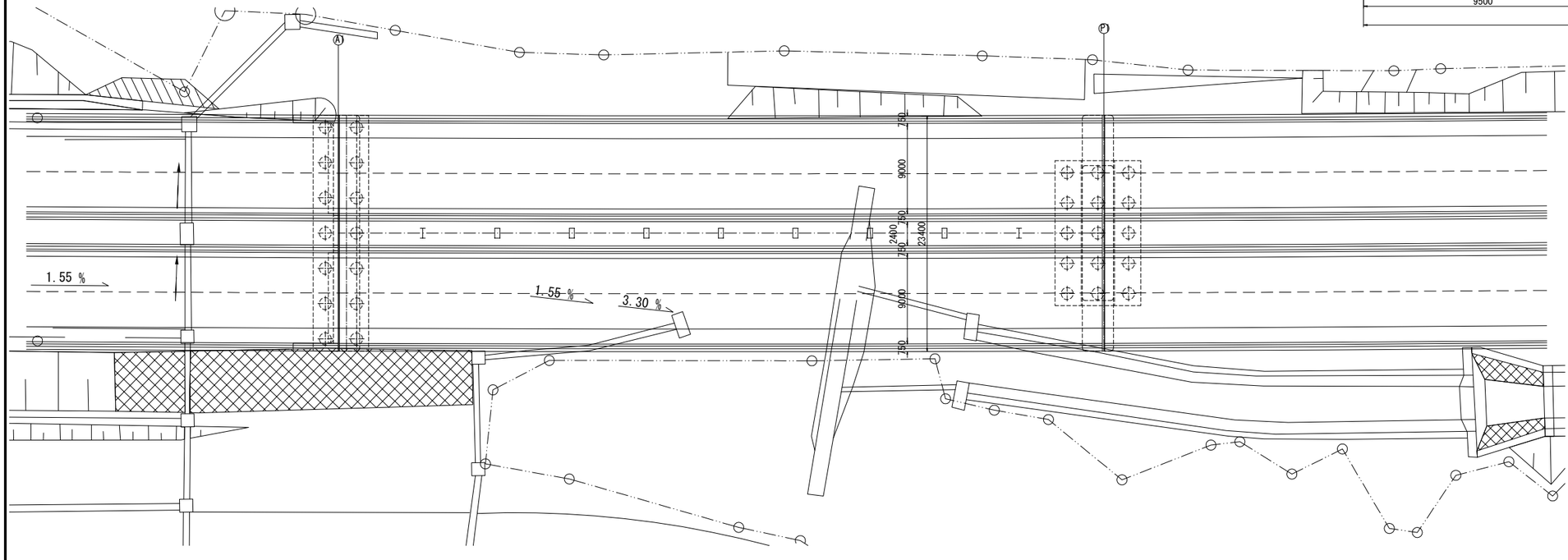


標準断面図 S=1:200

〔重量物用足場〕



平 面 図 S=1:500

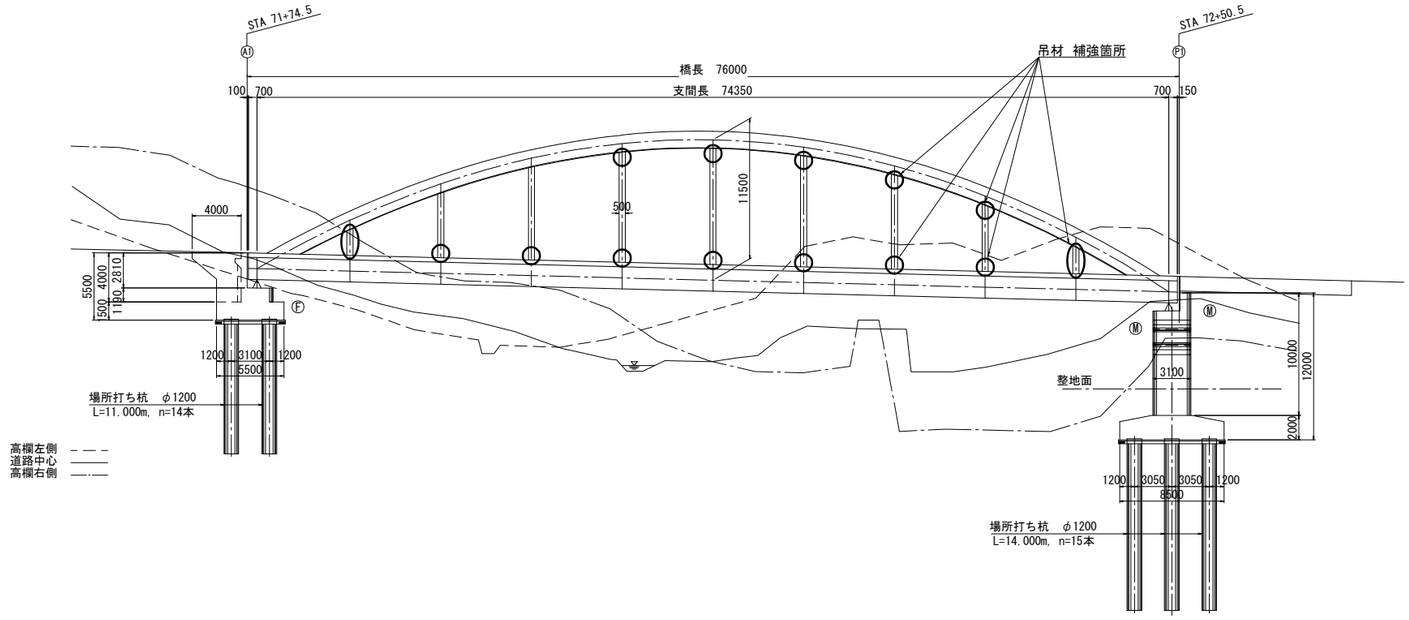


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 吊足場計画図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

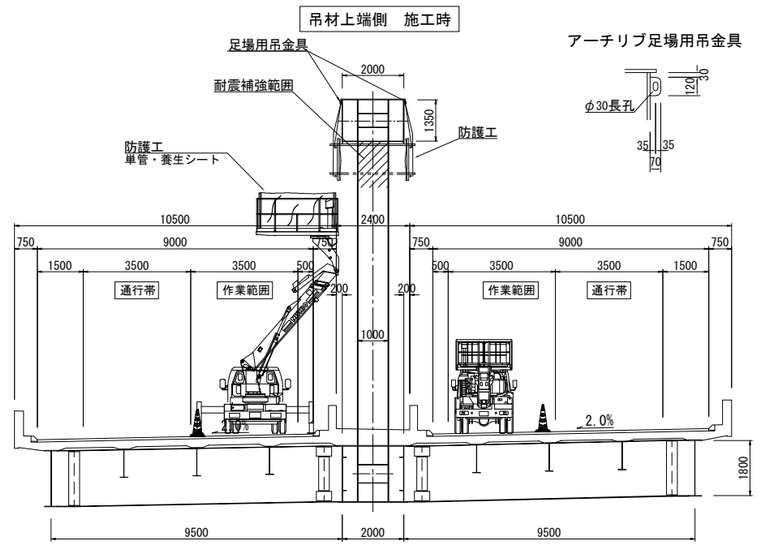
施工要領図（参考図）S=図示

〔吊材補強時　施工計画〕

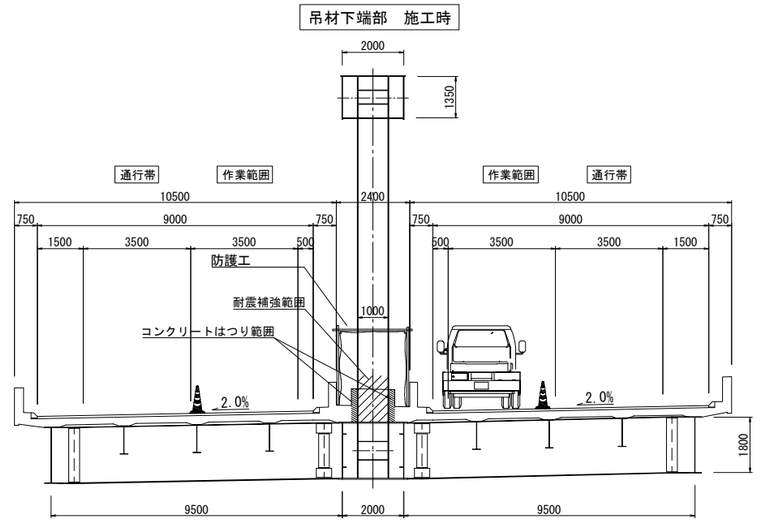
側 面 図 S=1:500



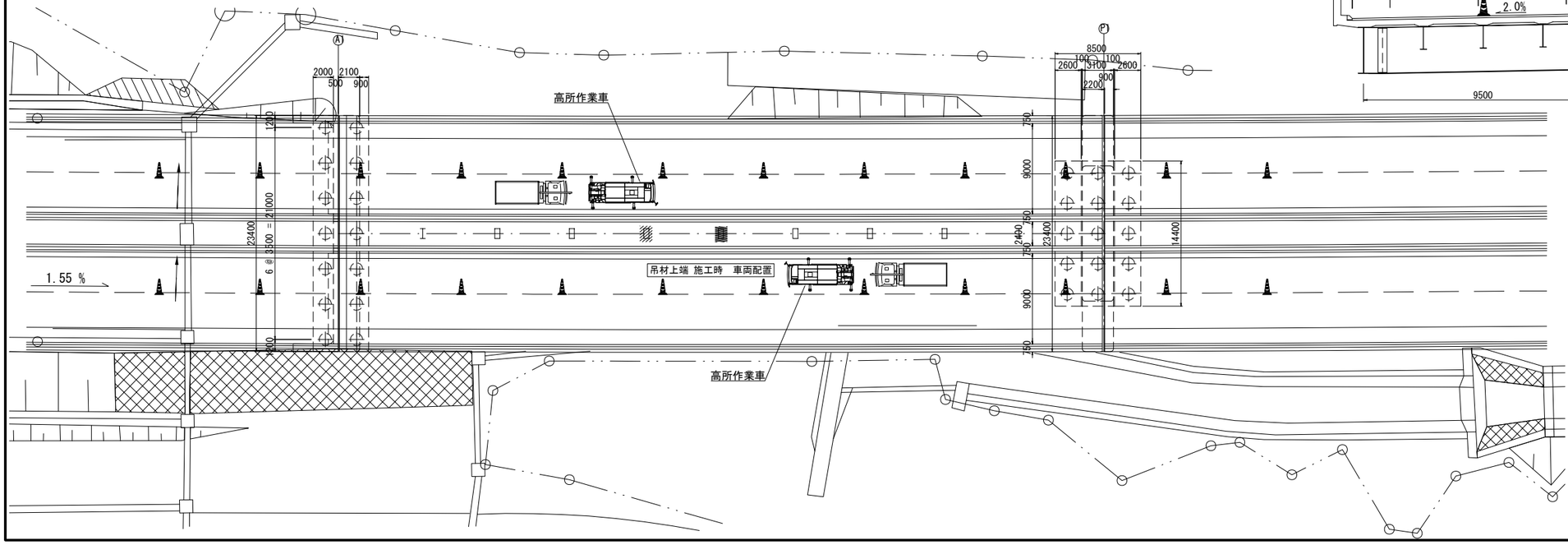
標準断面図 S=1:200



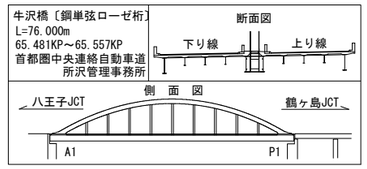
アーチリブ足場用吊金具



平 面 図 S=1:500



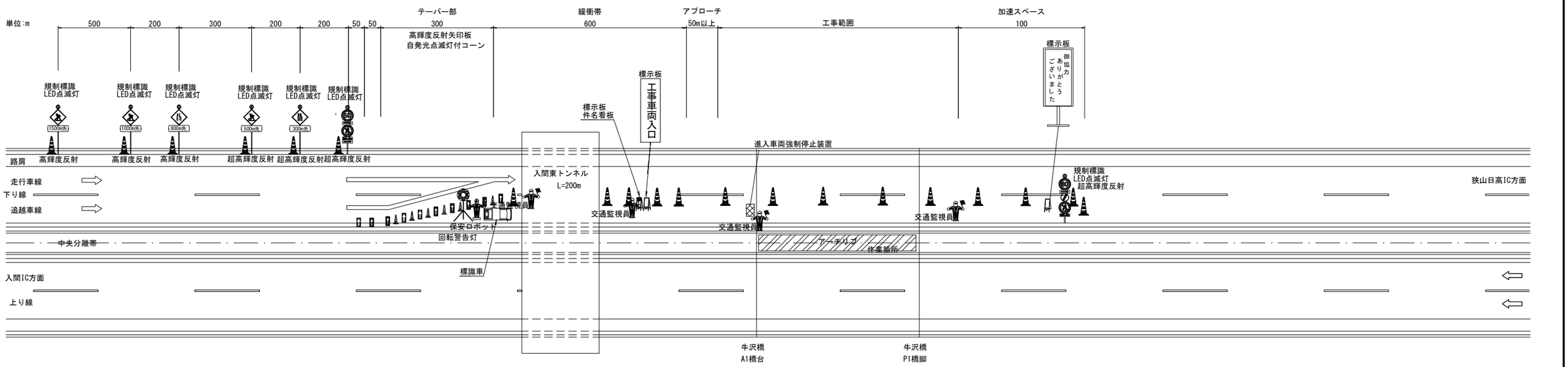
牛沢橋〔鋼単弦ローゼ桁〕
L=76.000m
65.481KP～65.557KP
首都圏中央連絡自動車道
所沢管理事務所



首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 施工要領図（参考図）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

交通規制図（その１）

【 車線規制　A（夜）】
（下り線）



数量表　　1規制当たり

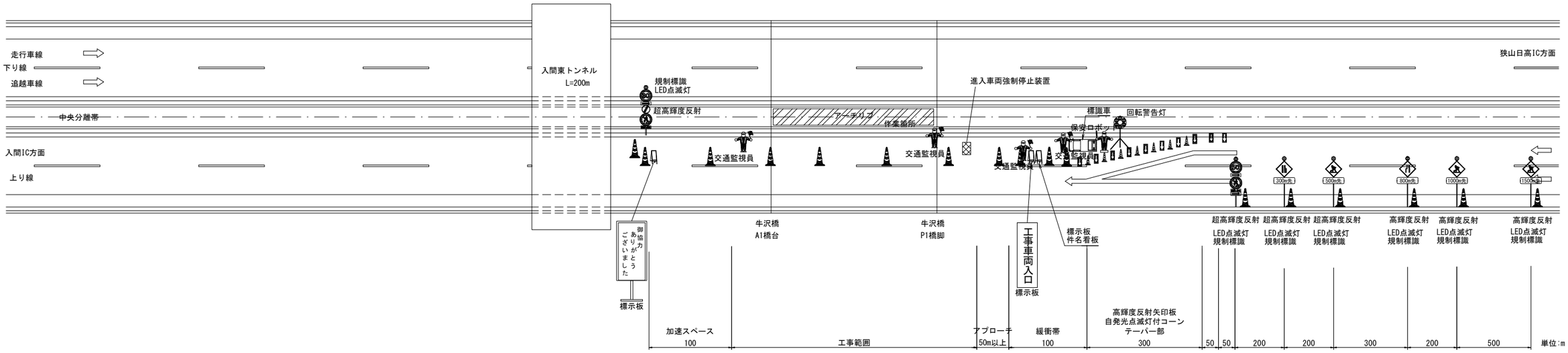
名　　称	数量	単位	備　考
規制標識	7	基	貸与品
ラバーコーン	必要数	本	貸与品
矢印版	必要数	枚	貸与品
保安ロボット	1	台	貸与品
標識等安全施設（標示板）	3	枚	受注者持
標識等安全施設（回転警告灯）	1	台	受注者持
標識等安全施設（進入車両強制停止装置）	1	台	受注者持
標識車	1	台	貸与品
発煙筒（設置・撤去）	6	本	受注者持
交通監視員（テーパー部）	1	人	
交通監視員（工事車両出入口）	1	人	
交通監視員（施工箇所）	1	人	
交通監視員（規制内巡回等）	1	人	

注）
1. 工事個所におけるラバーコーン設置間隔は10m間隔とする。
2. 予告標識及びラバーコーンに設置するLED点滅灯は、必要に応じて追加する。
3. 発煙筒（5分用）使用本数は、各テーパー設置・撤去時3本/箇所とする。（設置時：3本、撤去時：3本）

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 交通規制図（その１）		
縮　尺	－	図面番号	／
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

交通規制図（その２）

【 車線規制　Ａ（夜）】
（上り線）



数量表　　1規制当たり

名　　称	数量	単位	備　考
規制標識	7	基	貸与品
ラバーコーン	必要数	本	貸与品
矢印版	必要数	枚	貸与品
保安ロボット	1	台	貸与品
標識等安全施設（標示板）	3	枚	受注者持
標識等安全施設（回転警告灯）	1	台	受注者持
標識等安全施設（進入車両強制停止装置）	1	台	受注者持
標識車	1	台	貸与品
発煙筒（設置・撤去）	6	本	受注者持
交通監視員（テーパー部）	1	人	
交通監視員（工事車両出入口）	1	人	
交通監視員（施工箇所）	1	人	
交通監視員（規制内巡回等）	1	人	

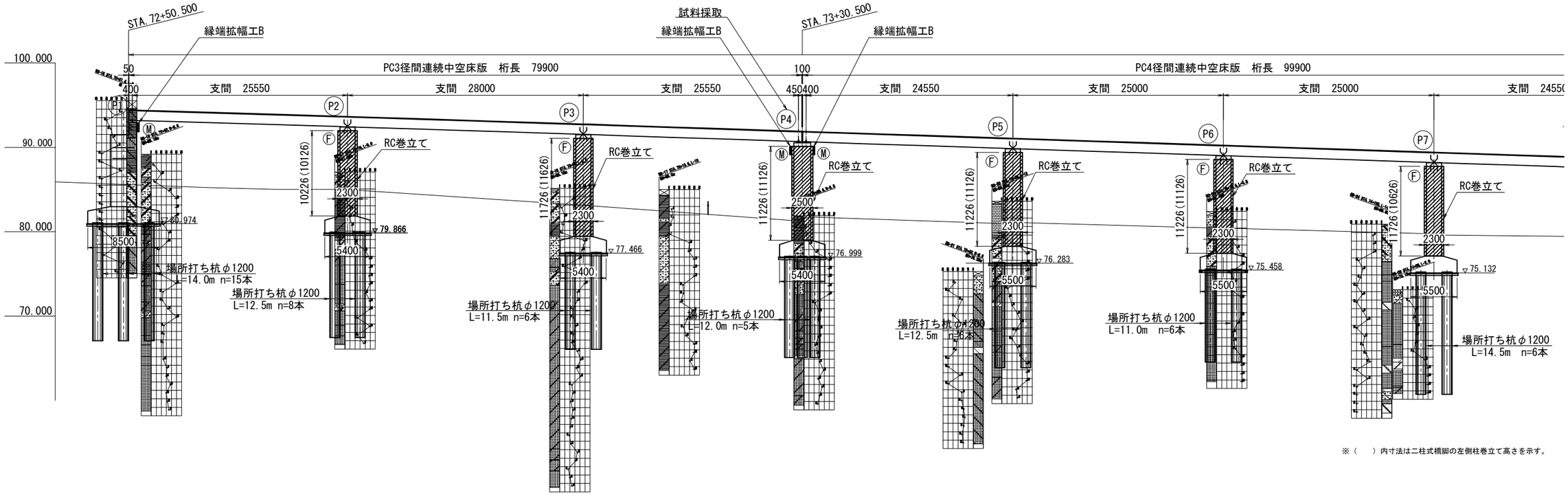
注）
1. 工事個所におけるラバーコーン設置間隔は10m間隔とする。
2. 予告標識及びラバーコーンに設置するLED点滅灯は、必要に応じて追加する。
3. 発煙筒（5分用）使用本数は、各テーパー設置・撤去時3本/箇所とする。（設置時：3本、撤去時：3本）

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	牛沢橋 交通規制図（その２）		
縮　尺	－	図面番号	／
設計会社名	株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

入　間　川　高　架　橋

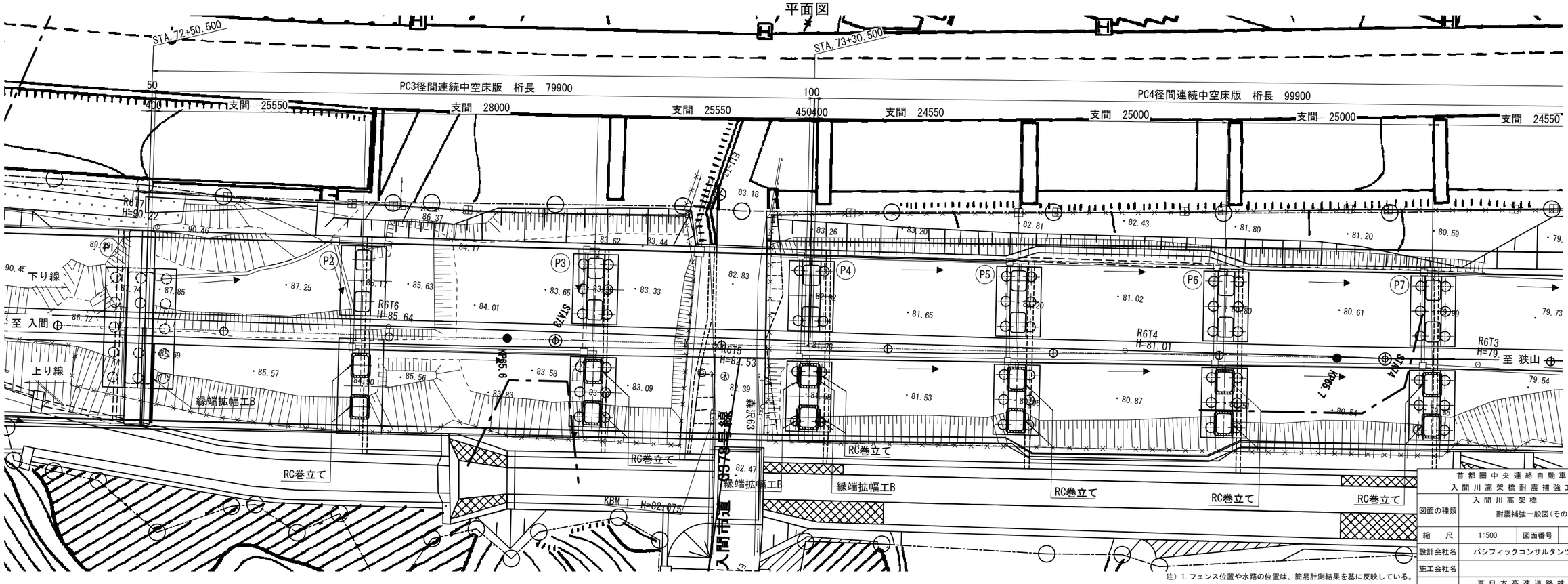
耐震補強一般図（その１） S=1:500

側面図



※（　）内寸法は二柱式橋脚の左側柱巻立て高さを示す。

平面図

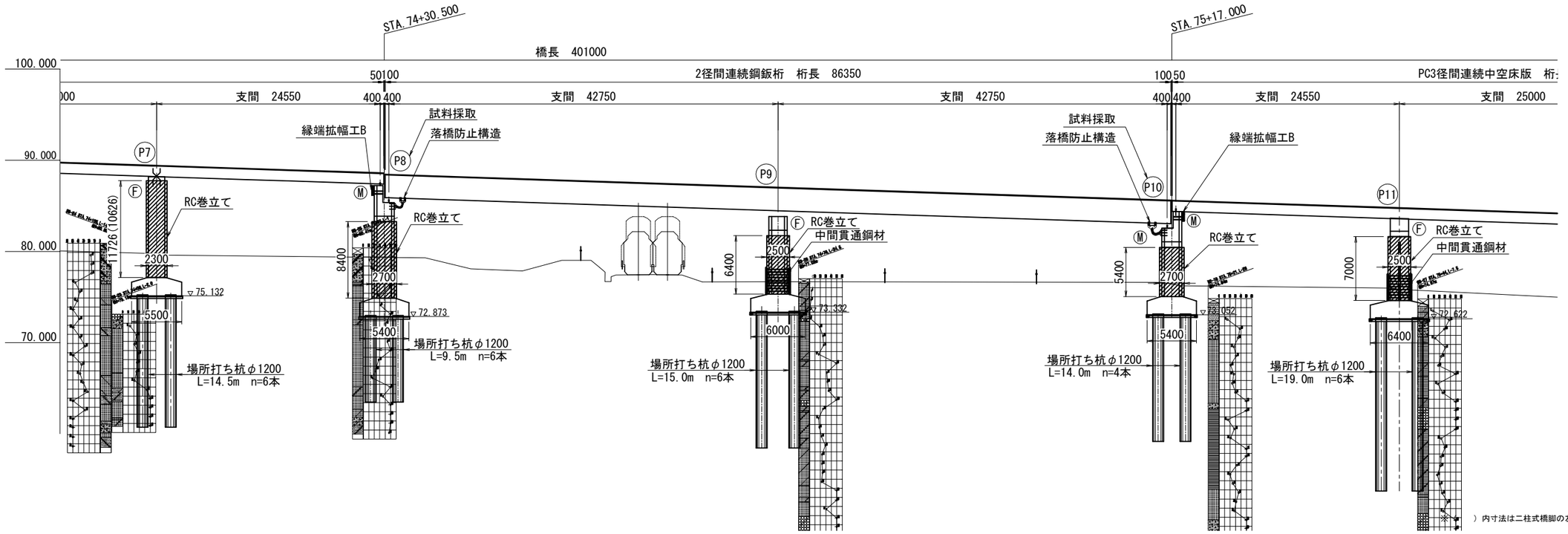


注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その１）
縮　尺	1:500　図面番号　/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

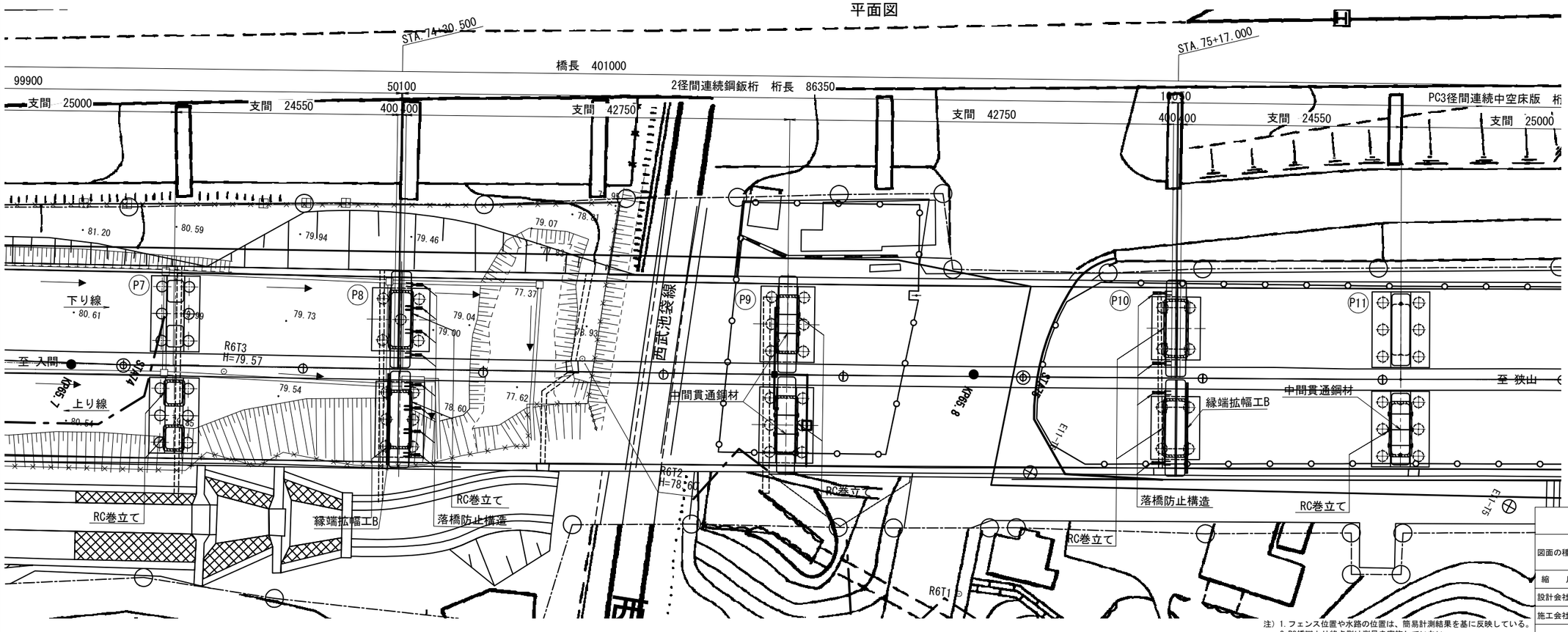
耐震補強一般図（その２） S=1:500

側面図



）内寸法は二柱式橋脚の左側柱巻立て高さを示す。

平面図

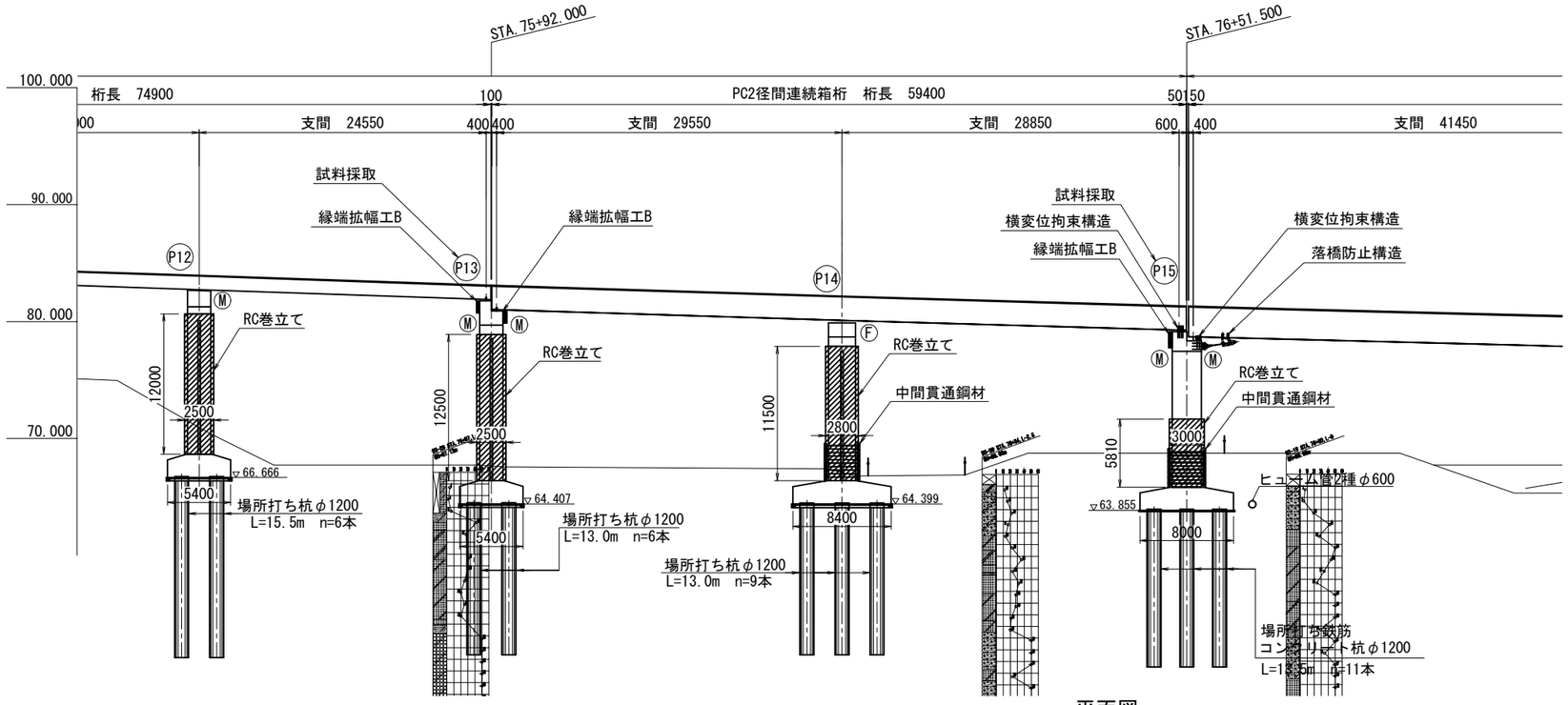


注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

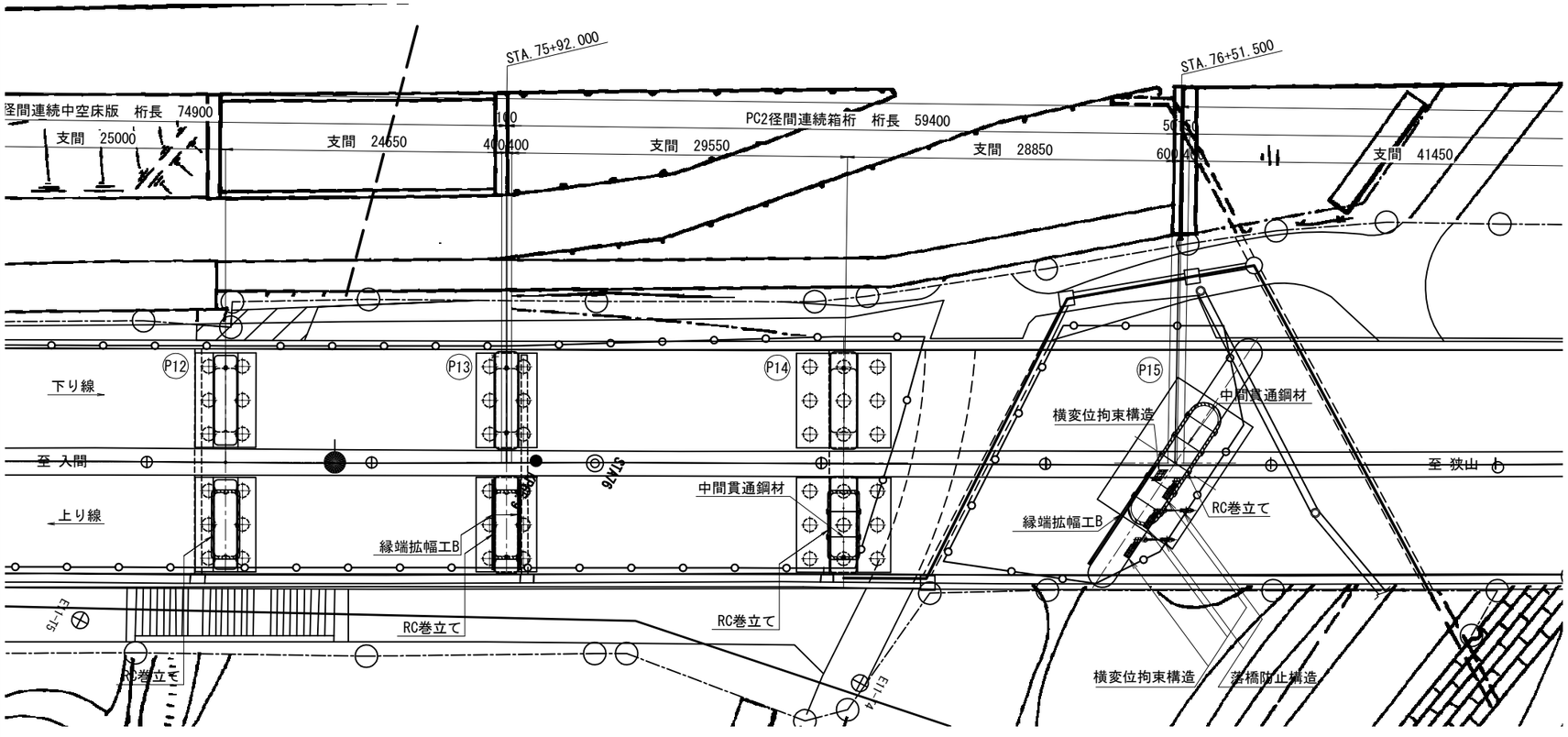
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その２）
縮尺	1:500
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

耐震補強一般図（その３） S=1:500

側面図



平面図

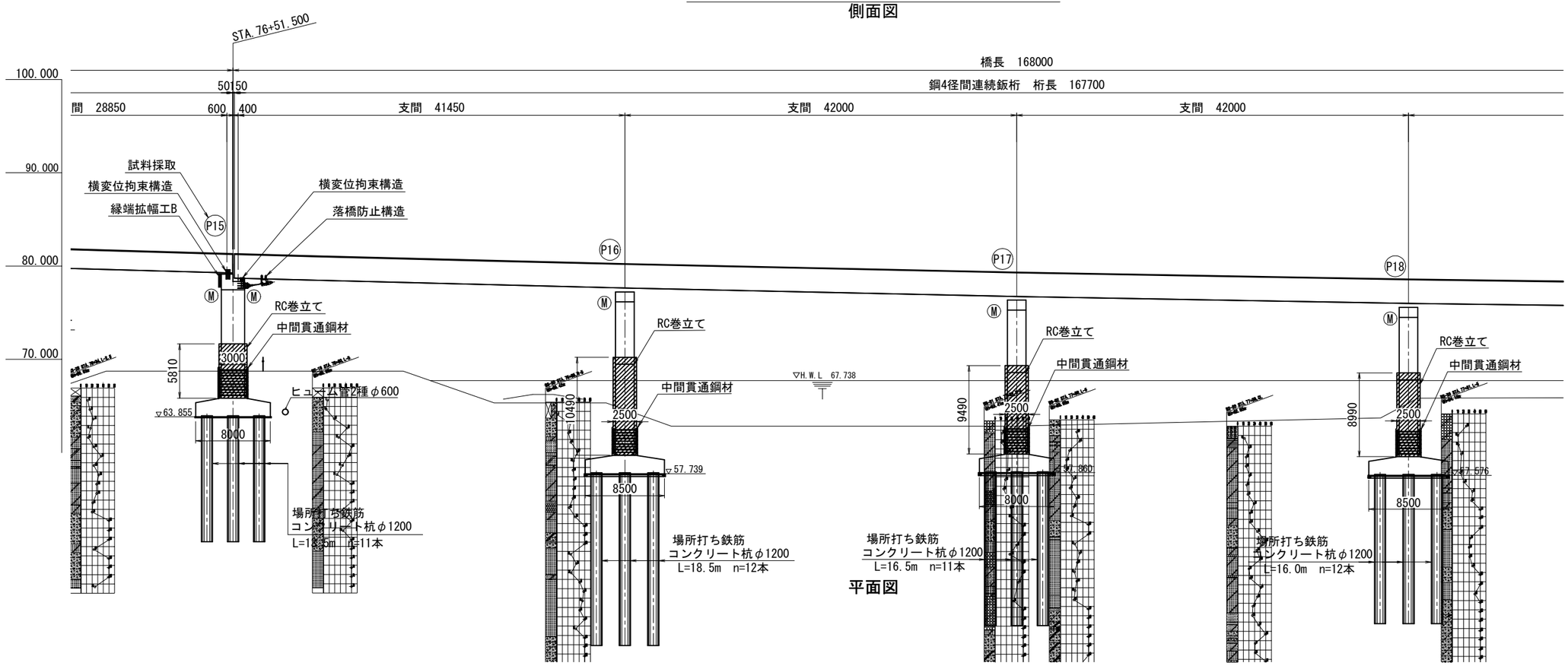


注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

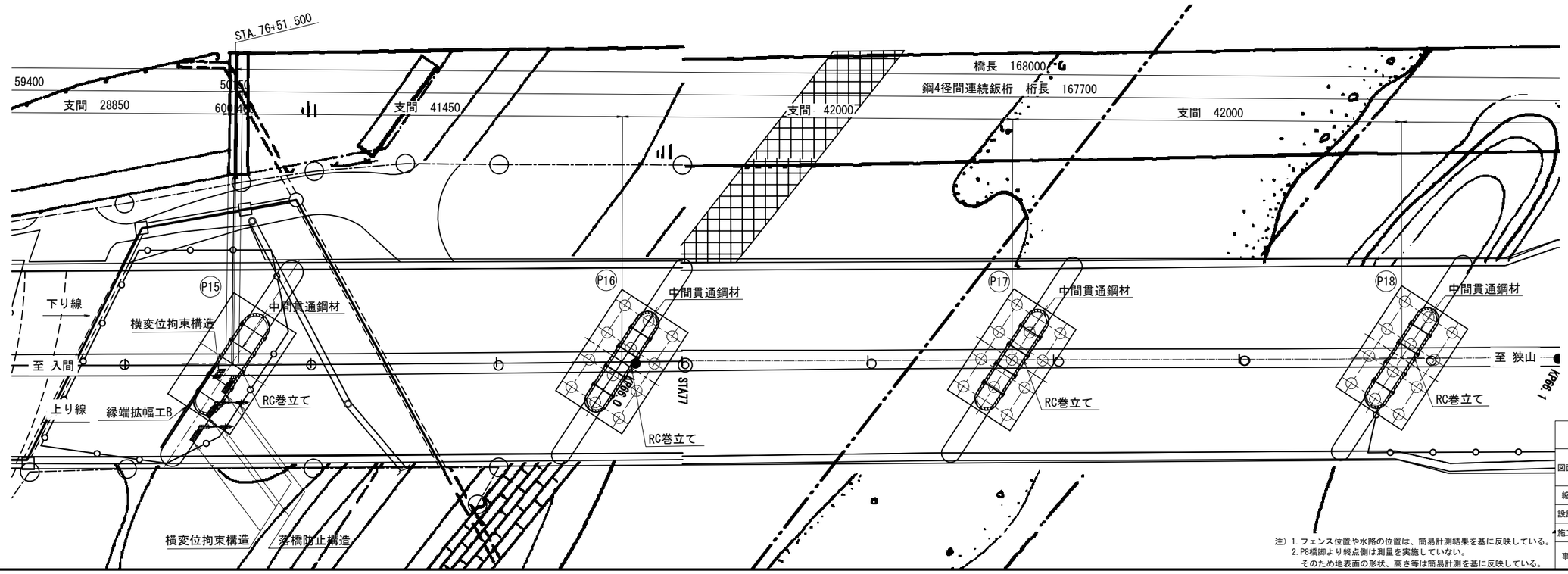
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その３）		
縮尺	1:500	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

耐震補強一般図（その４） S=1:500

側面図



平面図

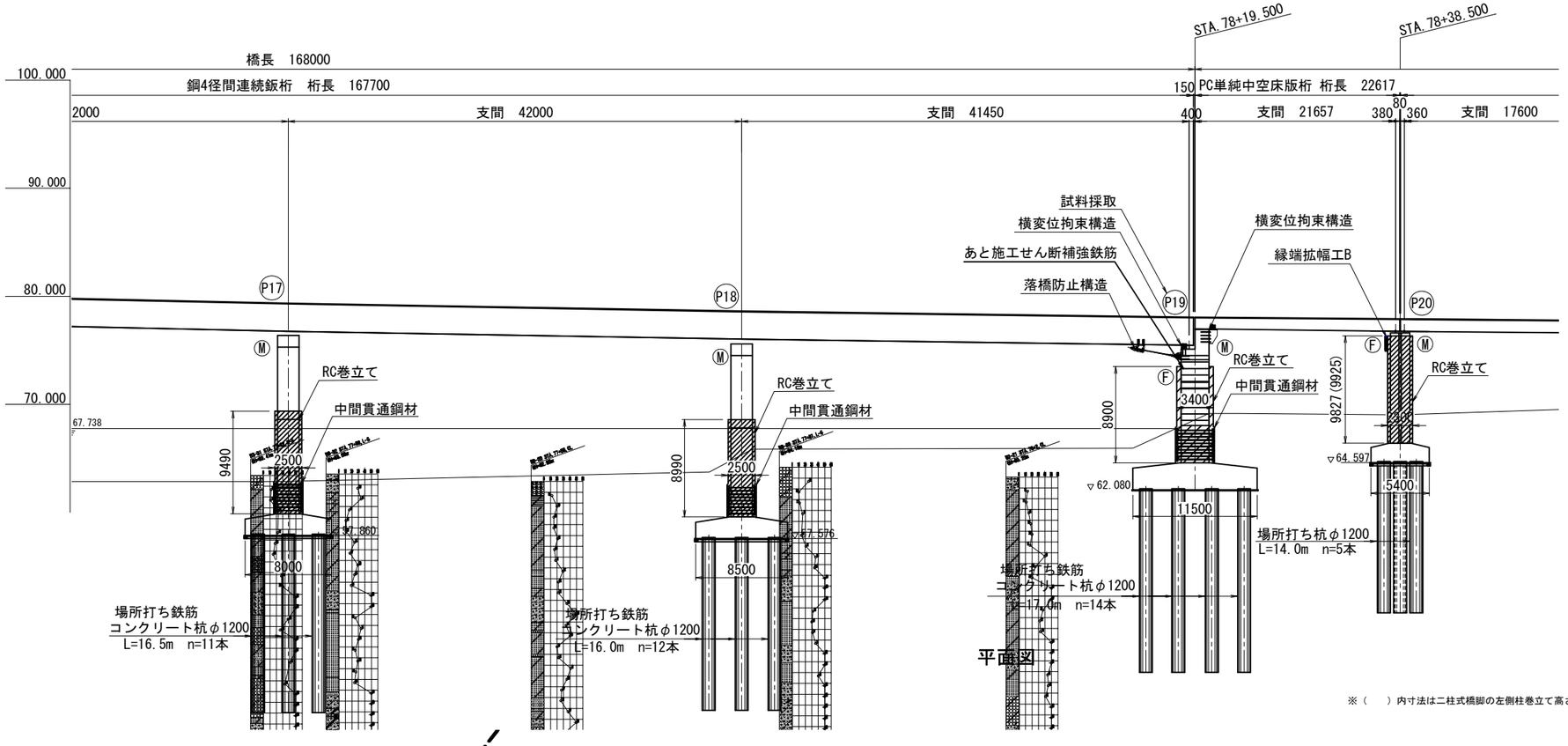


注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

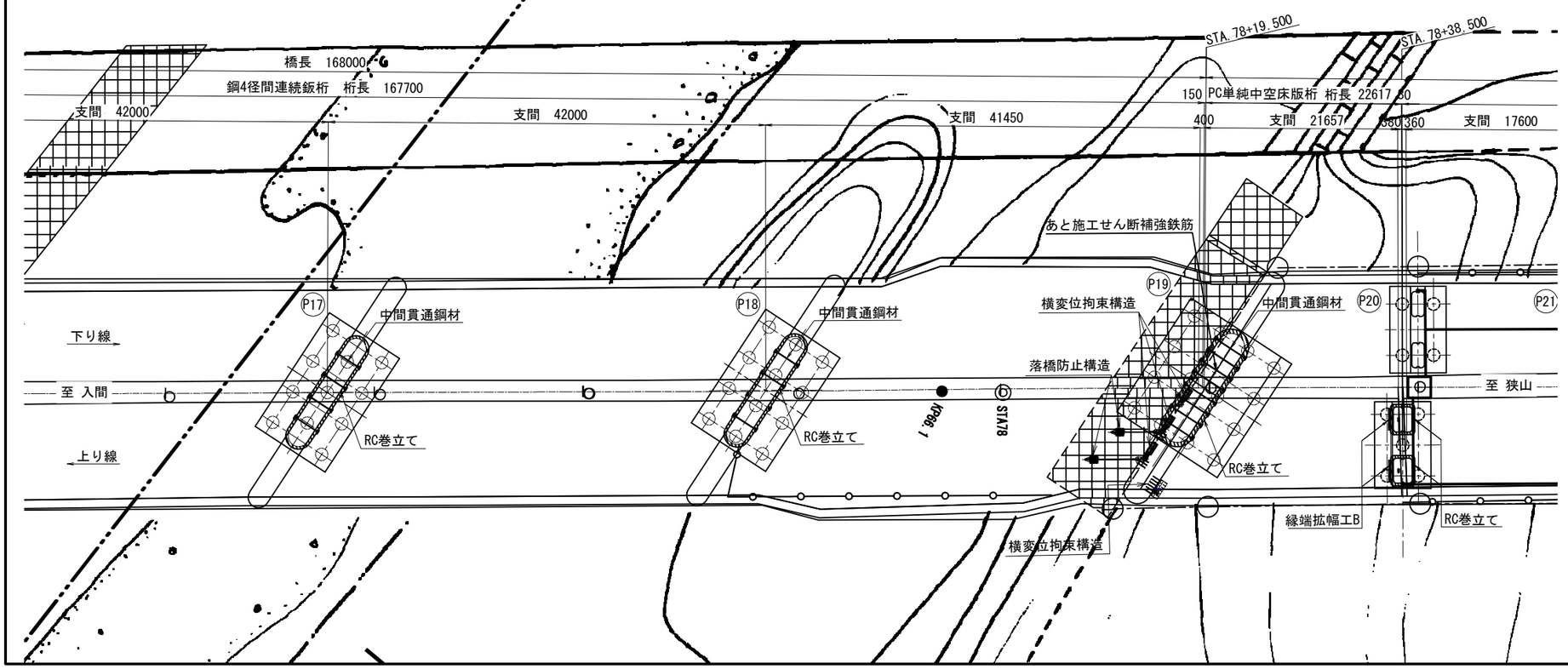
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その４）
縮　尺	1:500
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

耐震補強一般図（その５） S=1:500

側面図



※（ ）内寸法は二柱式橋脚の左側柱巻立て高さを示す。

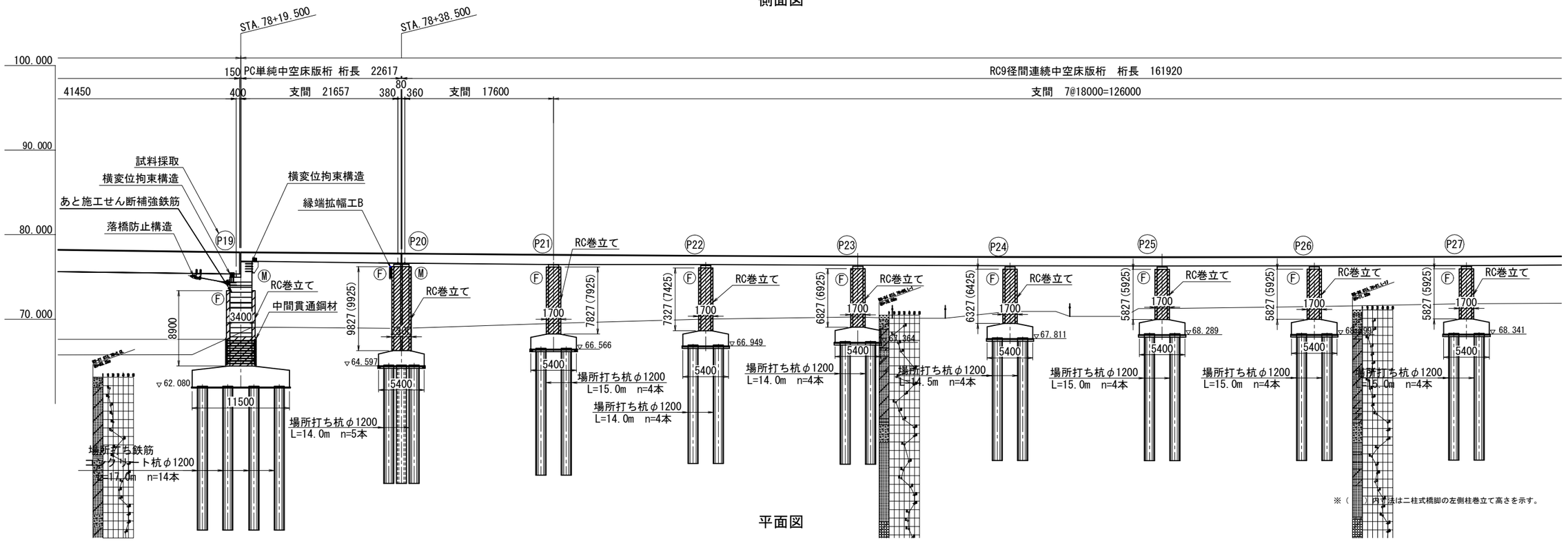


注）
1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
　そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

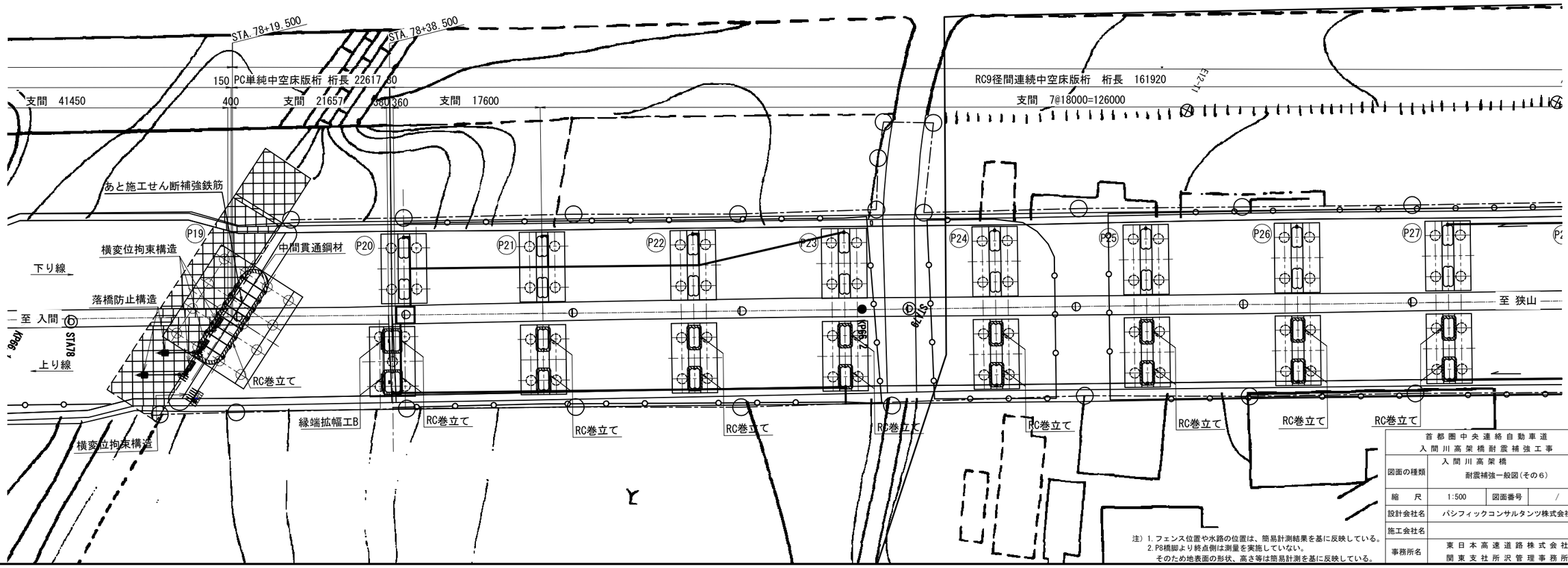
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その５）		
縮　尺	1:500	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

耐震補強一般図（その６） S=1:500

側面図



平面図

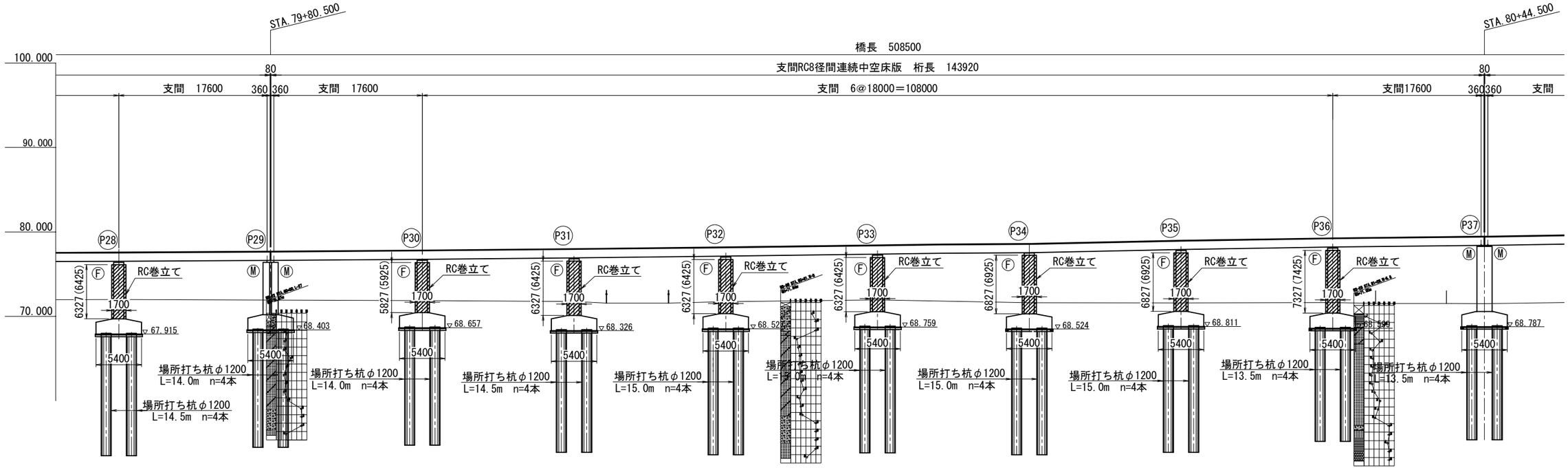


注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その６）		
縮尺	1:500	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

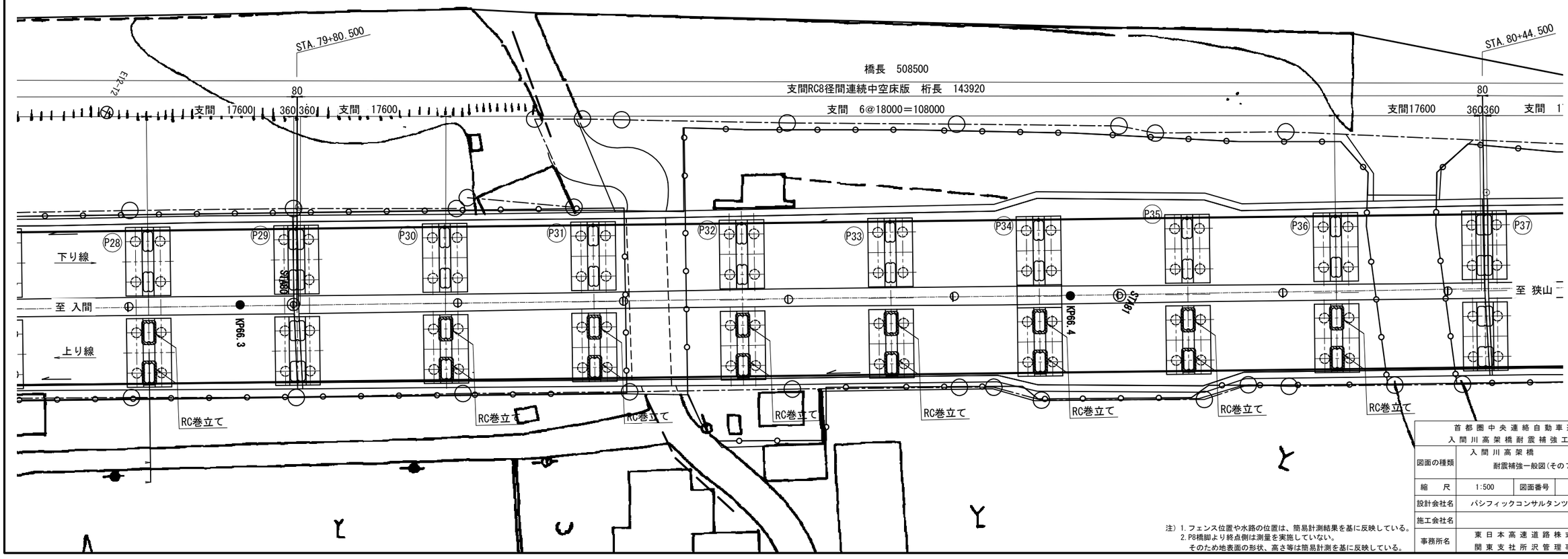
耐震補強一般図（その７） S=1:500

側面図



※（　）内寸法は二柱式橋脚の左側柱巻立て高さを示す。

平面図

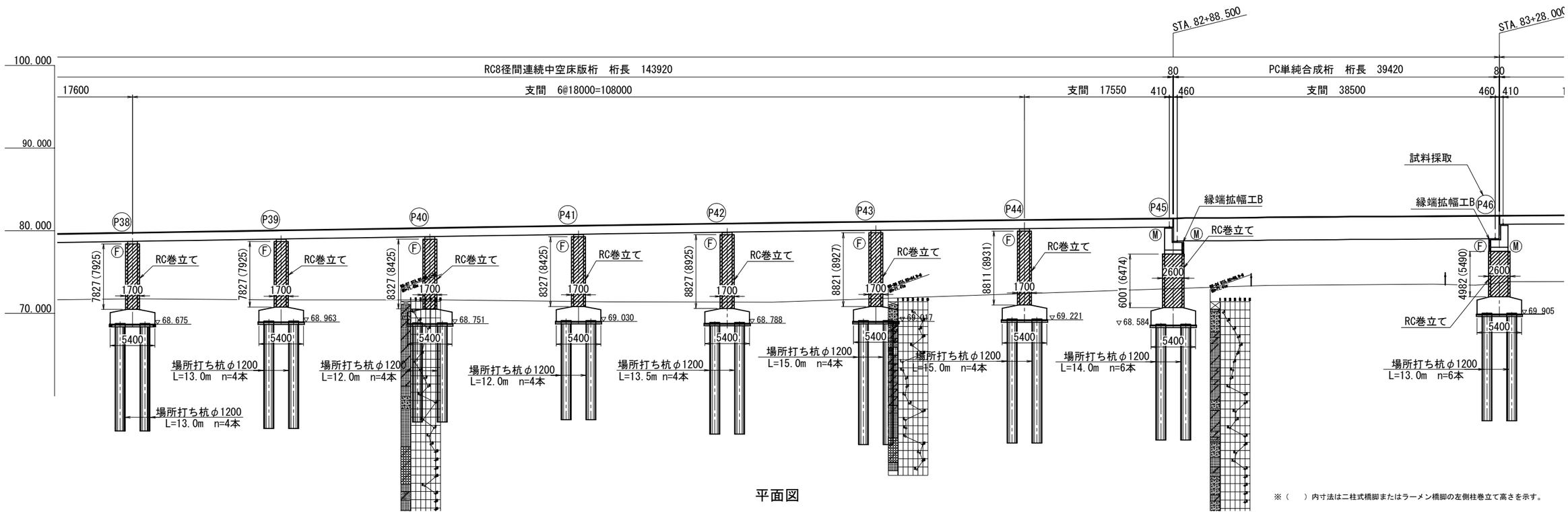


注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

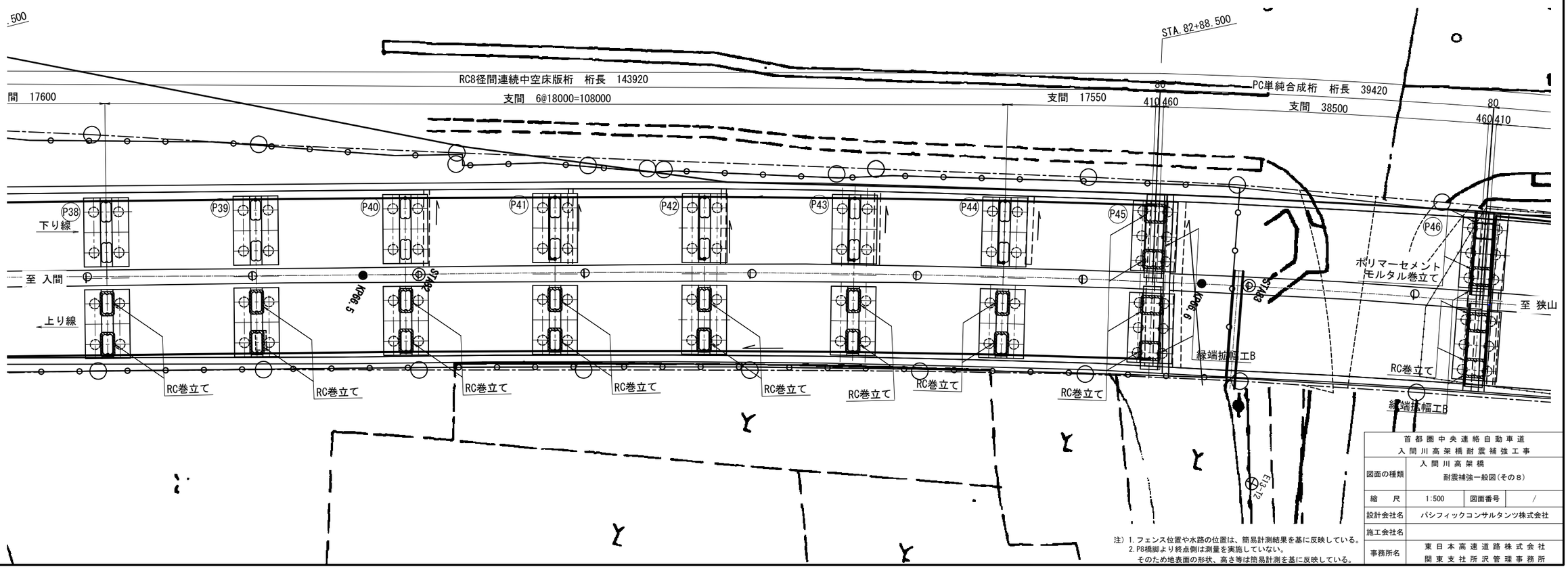
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その７）
縮尺	1:500
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

耐震補強一般図（その８） S=1:500

側面図



平面図

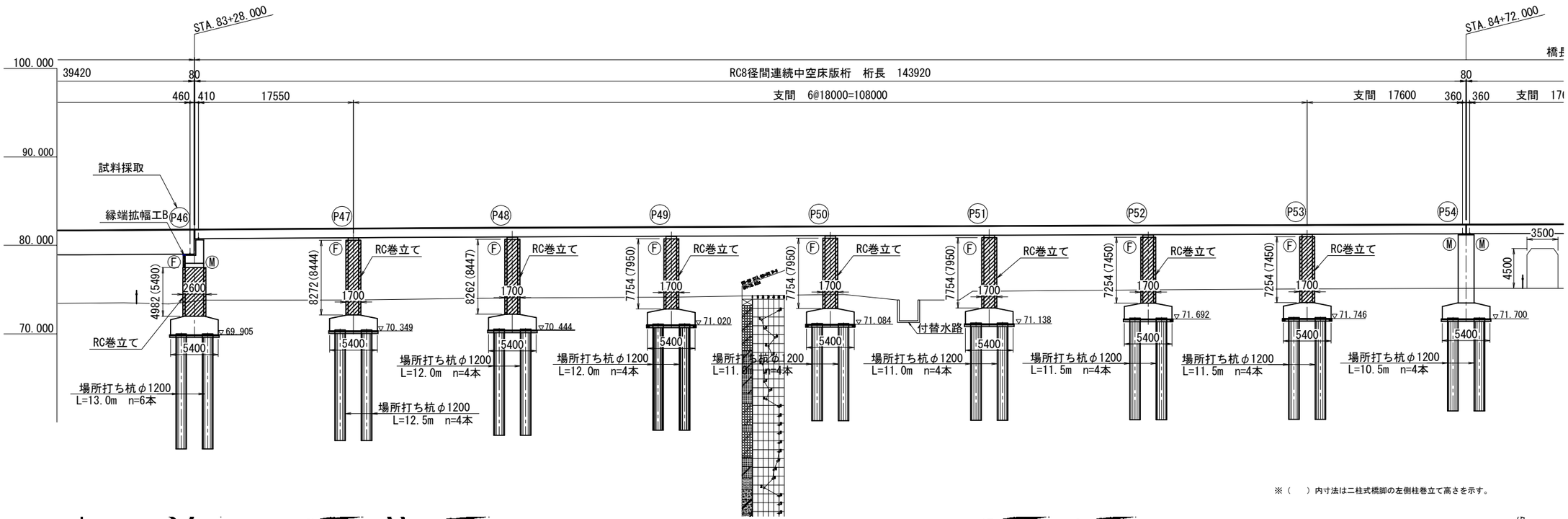


注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その８）		
縮　尺	1:500	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

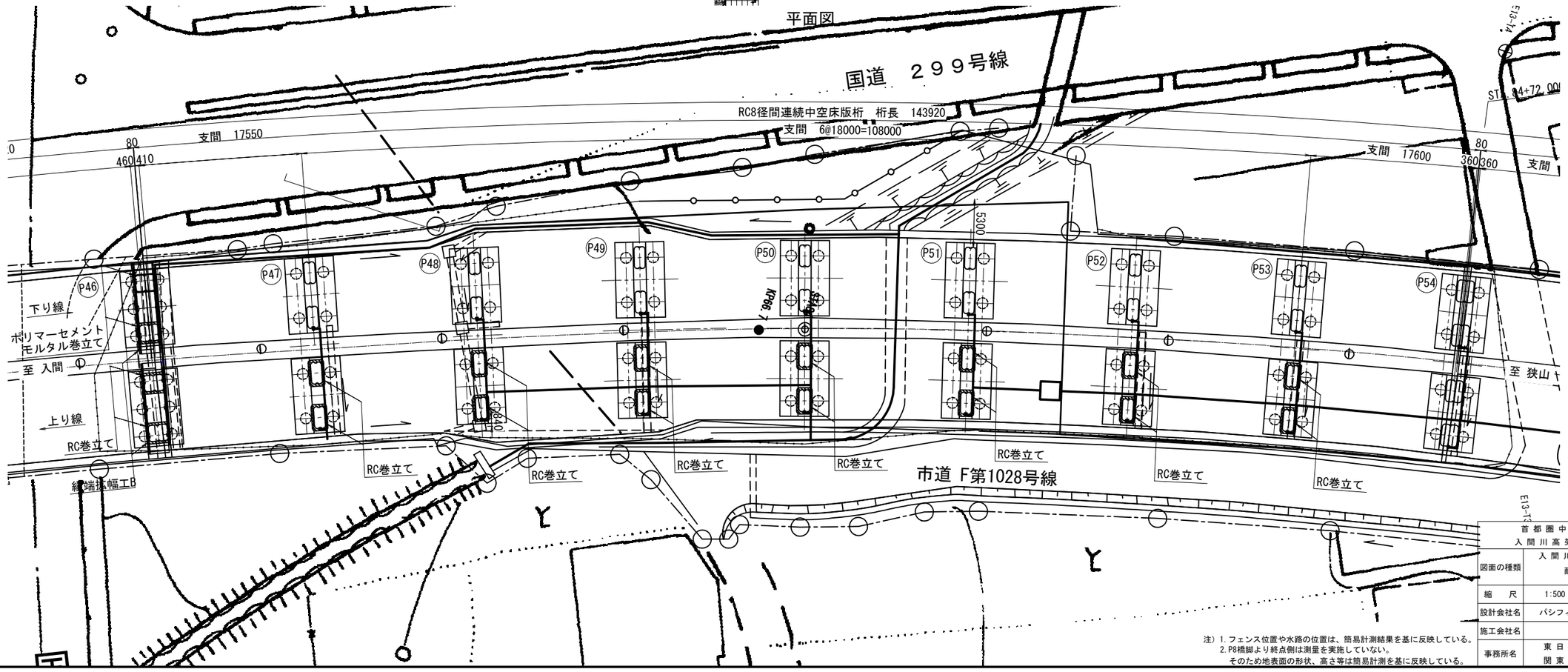
耐震補強一般図（その９） S=1:500

側面図



※（　）内寸法は二柱式橋脚の左側柱巻立て高さを示す。

平面図

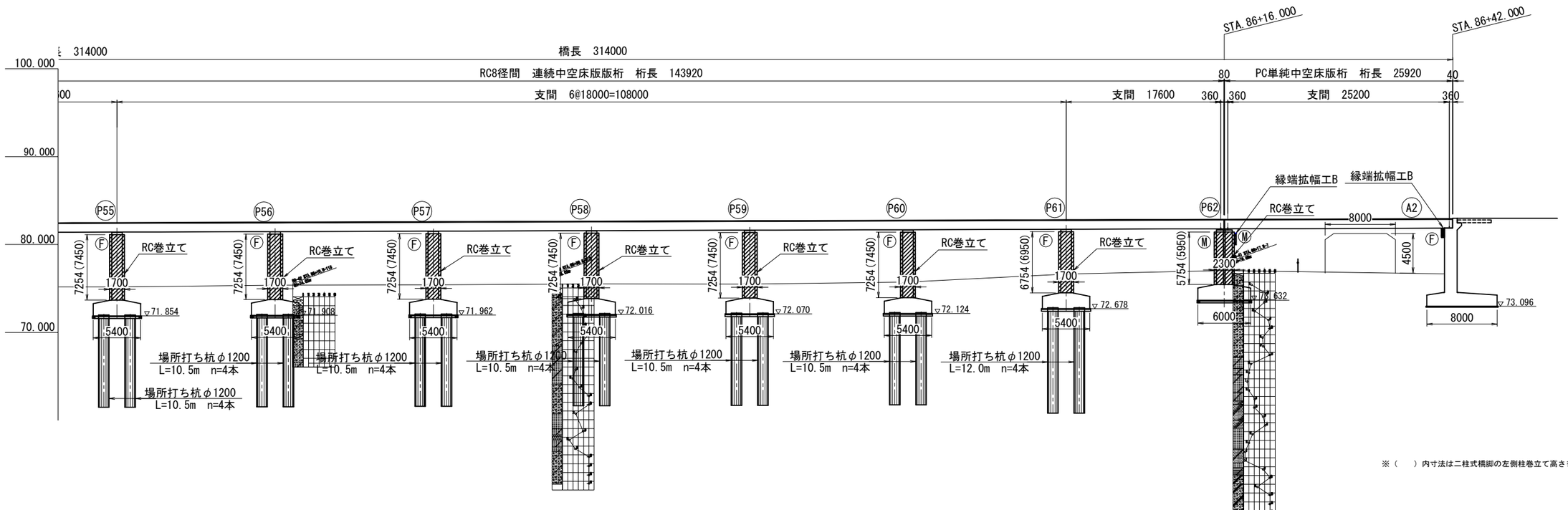


注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その９）		
縮　尺	1:500	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

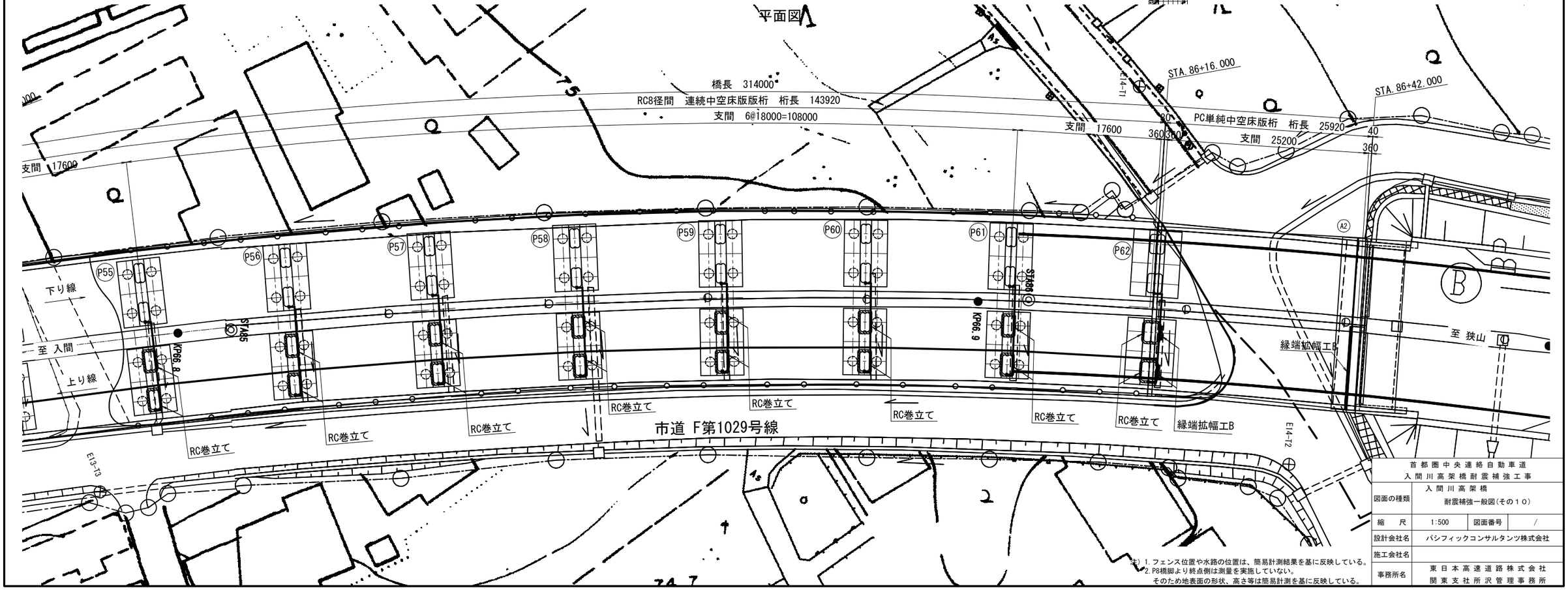
耐震補強一般図（その１０）S=1:500

側面図



※（ ）内寸法は二柱式橋脚の左側柱巻立て高さを示す。

平面図



注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

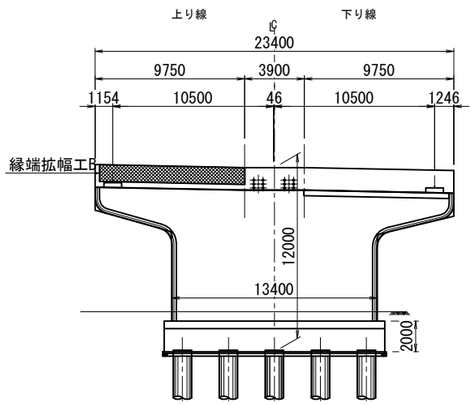
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その１０）
縮尺	1:500
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

耐震補強一般図（その１１）S=1:400

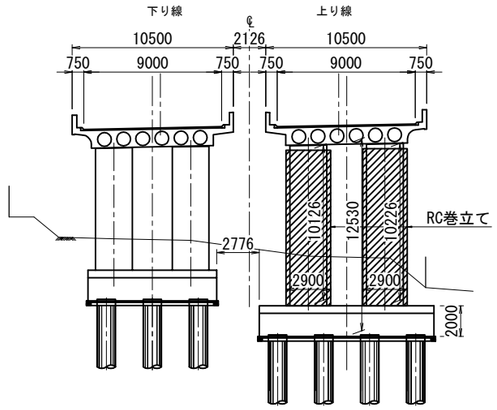
P1橋脚～P9橋脚

断面図

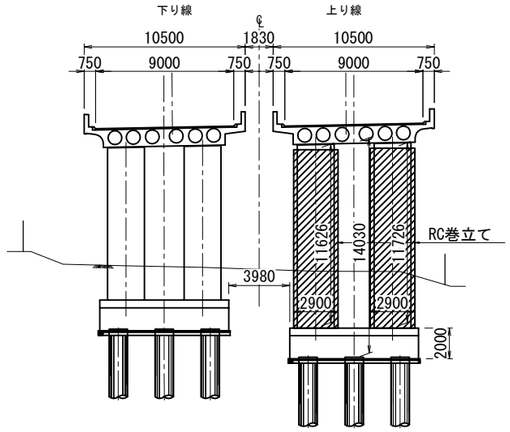
P1橋脚（終点側）



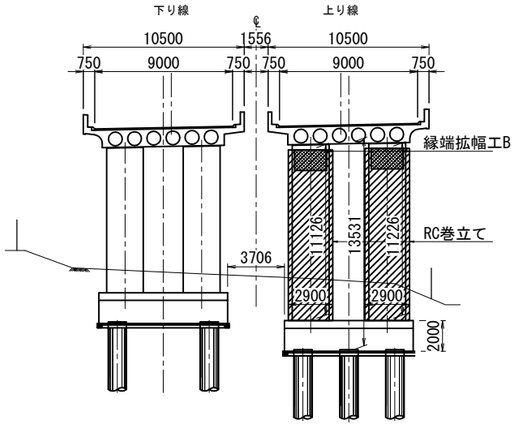
P2橋脚



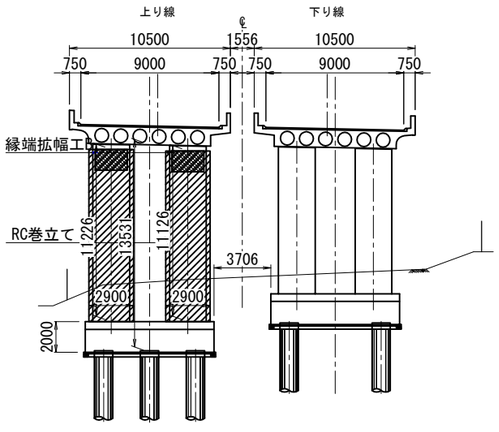
P3橋脚



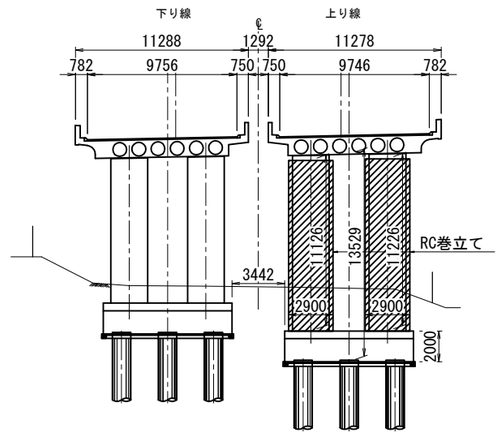
P4橋脚（起点側）



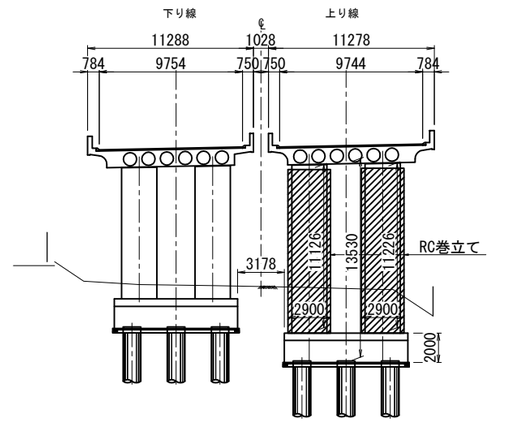
P4橋脚（終点側）



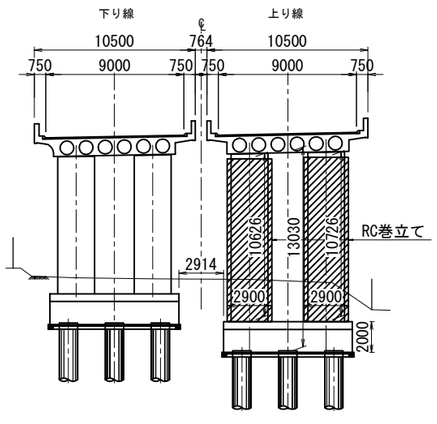
P5橋脚



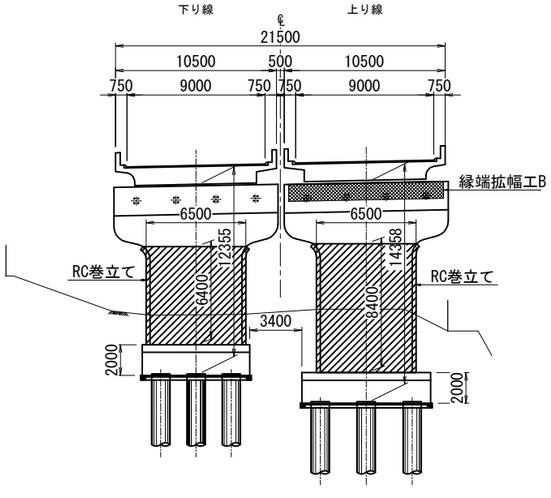
P6橋脚



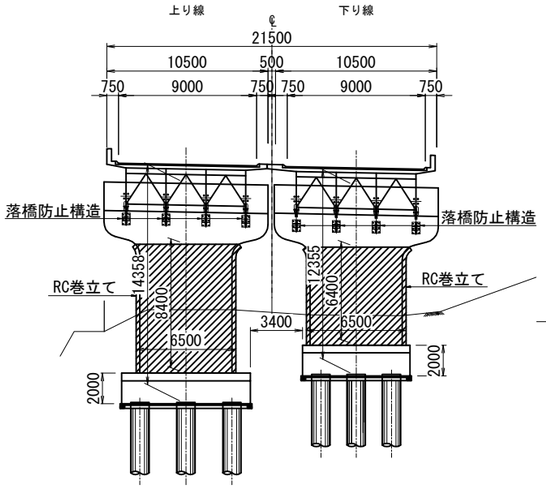
P7橋脚



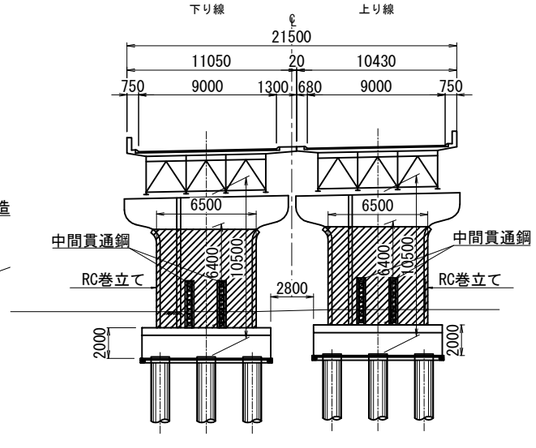
P8橋脚（起点側）



P8橋脚（終点側）



P9橋脚



注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

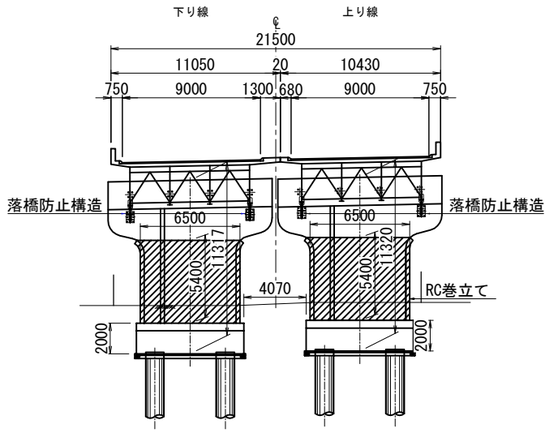
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その１１）		
縮尺	1:400	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

耐震補強一般図（その１２）S=1:400

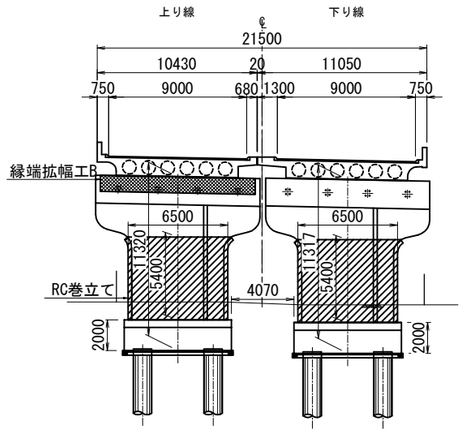
P10橋脚～P15橋脚

断面図

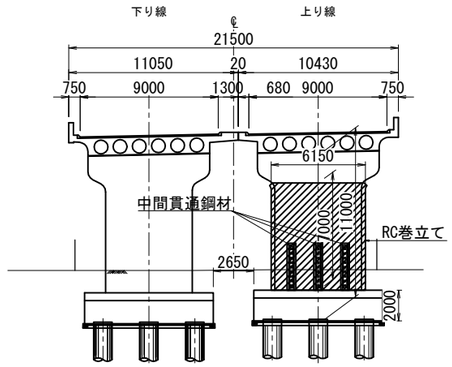
P10橋脚（起点側）



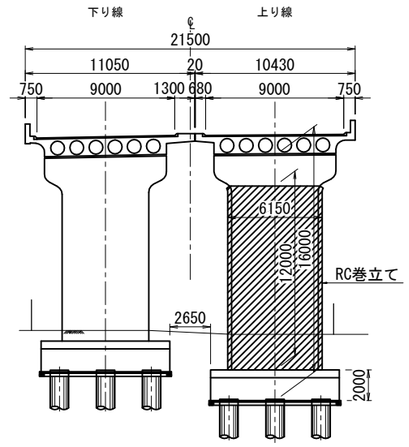
P10橋脚（終点側）



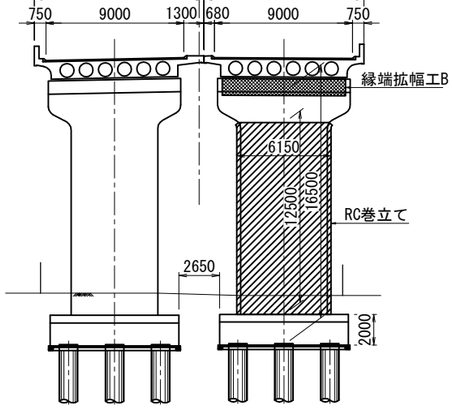
P11橋脚



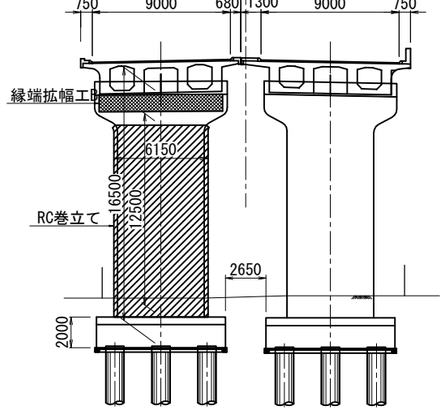
P12橋脚



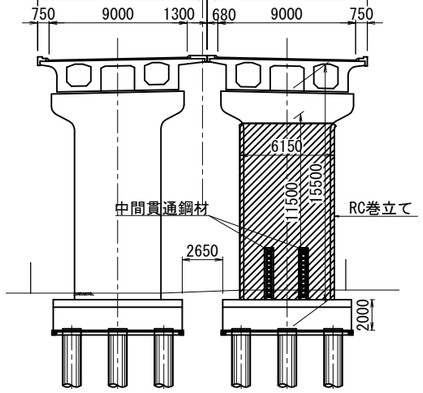
P13橋脚（起点側）



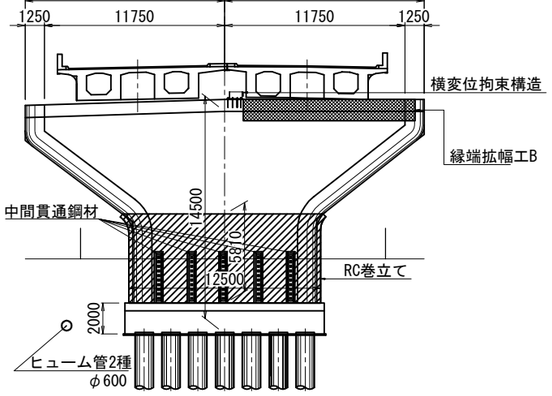
P13橋脚（終点側）



P14橋脚



P15橋脚（起点側）



建設時設計条件　P1橋脚（終点側）～P15橋脚（起点側）

橋長	401.000m	桁長	79.900m + 99.900m + 86.500m + 74.900m + 55.743m
道路規格	第1種　第3級　A規格		
荷重	TL-20・TT-43		
型式	上部工	PC3径間連続中空床版橋 + PC4径間連続中空床版橋 + 鋼2径間連続非合成桁橋 + PC3径間連続中空床版橋 + PC2径間連続箱桁橋	
	下部工	P1、P8～P15橋脚:張出式橋脚 P3～P7橋脚:二柱式橋脚	
支間	25.550m + 28.000m + 25.550m + 24.550m + 25.000m + 25.000m + 24.550m + 42.750m + 42.750m + 24.550m + 25.000m + 24.550m + 29.950m + 25.793m		
有効幅員	9.000m	斜角	90° 00' ～L56° 30' 00"
横断勾配	↙ i=2.000%～0.600% ↘		
縦断勾配	↘ i=3.3%		
地震係数	水平震度 Kh=0.20		
床版コンクリート	圧縮強度 σck=240kg/cm2		
床版鉄筋	材質 SD345 ， 許容引張力度 σsa=1400 kg/cm2		
適用示方書	S55年　道路橋示方書・同解説Ⅰ～Ⅴ、S55年　設計要領第2集		
使用材料	SS41、SM50Y、12T12.4		

今回耐震補強設計条件　P1橋脚（終点側）～P15橋脚（起点側）

設計基準		R6設計要領　第二集　橋梁保全編
		H24道路橋示方書・同解説　Ⅳ下部構造編　H 24道路橋示方書・同解説　V耐震補強編
活荷重		TL-20・TT-43
支承形式		P1終点、P14、P8起点、P10終点、P12、P13、P14、P15起点：ゴム支承 ， アンカーバー P2～P3、P5～P7、P11：メナーゼヒンジ P8終点、P9、P10起点：BP支承
使用材料	コンクリート	σck=30N/mm2
	鉄筋	SD345
補強内容	橋脚	RC巻立て補強(P2～P14)
	上部工	落橋防止構造：ブロック型ゴム被覆チェーン(P8、P10) RC縁端拡幅工B(P1終点、P4、P8起点、P10終点、P13、P15起点) 横変位拘束構造：鋼製突起（P15起点）

注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

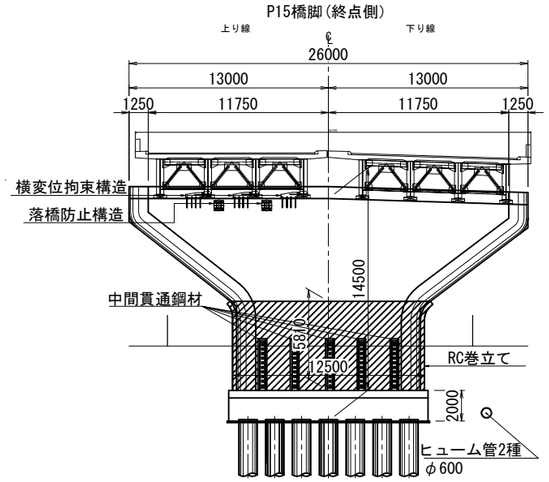
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図(その１２)
縮　尺	1:400
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

耐震補強一般図（その１３）S=1:400

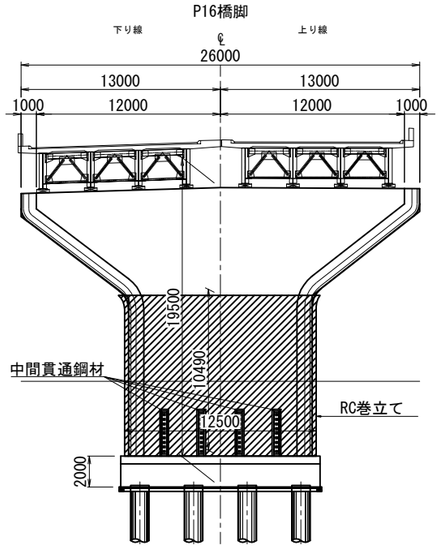
P15橋脚～P19橋脚

断面図

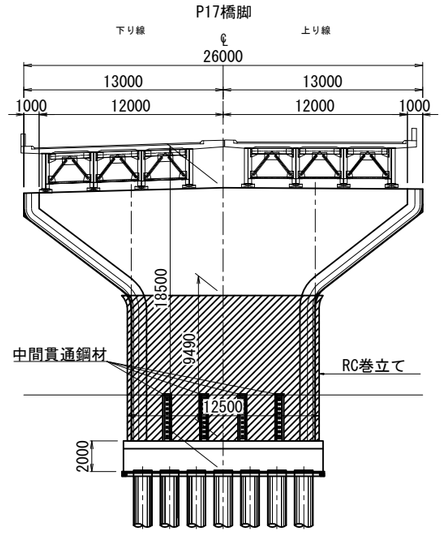
P15橋脚（終点側）



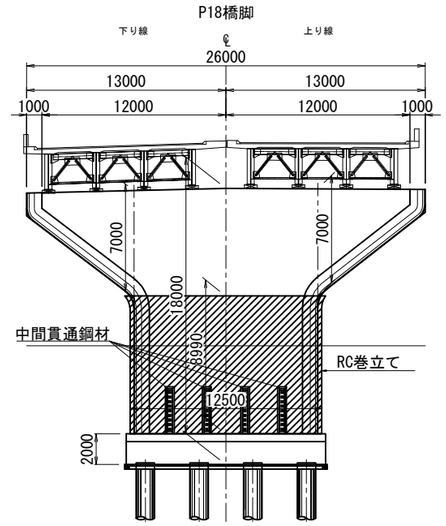
P16橋脚



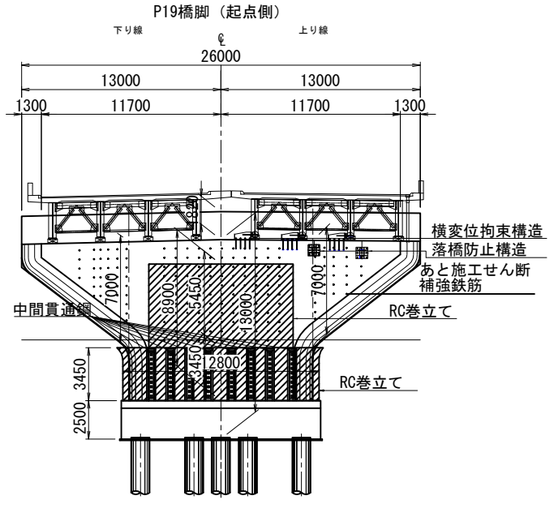
P17橋脚



P18橋脚



P19橋脚（起点側）



建設時設計条件　P15橋脚（終点側）～P19橋脚（起点側）

橋長	168.000m	桁長	167.700m
道路規格	第1種 第3級 A規格		
荷重	TL-20・TT-43		
型式	上部工	4径間連続非合成鋼鈑桁	
	下部工	壁式橋脚	
支間	41.450m + 2@42.000m + 41.450m		
有効幅員	9.000m	斜角	56° 30’ 00”
横断勾配	← i=2.000% →		
縦断勾配	→ i=3.300%		
地震係数	水平震度 Kh=0.18		
床版コンクリート	圧縮強度 σck=240kg/cm2		
床版鉄筋	材質 SD345 ， 許容引張力度 σsa=1400 kg/cm2		
適用示方書	S55年　道路橋示方書・同解説Ⅰ～Ⅴ、S55年　設計要領第2集		
使用材料	SS41 ， SM50Y		

今回耐震補強設計条件　P15橋脚（終点側）～P19橋脚（起点側）

設計基準		R6設計要領　第二集　橋梁保全編
		H24道路橋示方書・同解説　Ⅳ下部構造編　H 24道路橋示方書・同解説　V耐震補強編
活荷重		TL-20・TT-43
支承形式		P15終点、P16、P17、P18、P19起点：BP-A支承
使用材料	コンクリート	σck=30N/mm2
	鉄筋	SD345
補強内容	橋脚	RC巻立て補強(P15、P16、P17、P18、P19)
	上部工	落橋防止構造：PCケーブル(P15、P19) 横変位拘束構造：鋼製突起(P15、P19)

注）1.フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2.P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

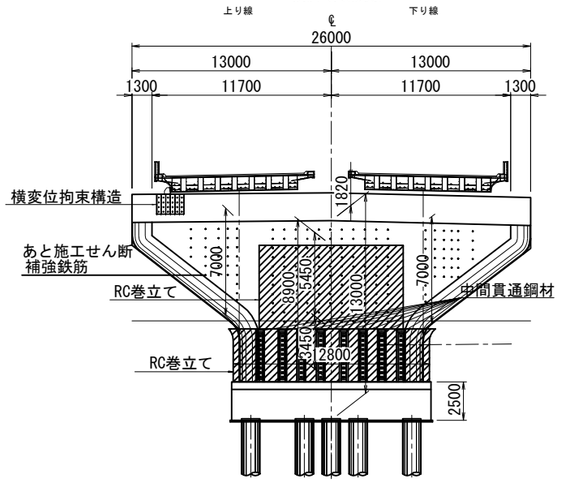
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図(その１３)		
縮　尺	1:400	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

耐震補強一般図（その１４）S=1:400

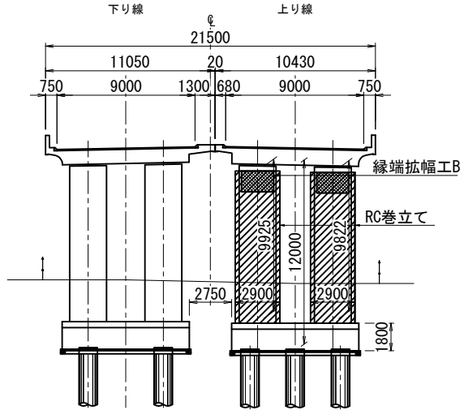
P19橋脚～P27橋脚

断面図

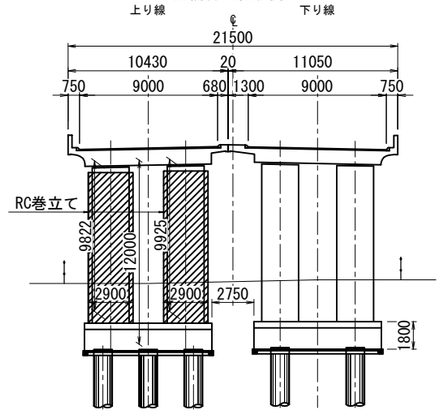
P19橋脚（終点側）



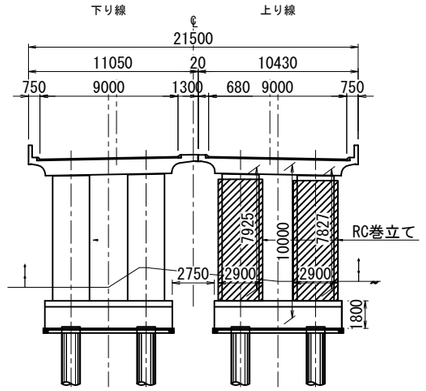
P20橋脚（起点側）



P20橋脚（終点側）



P21橋脚



P22橋脚

P23橋脚

P24橋脚

P25橋脚

P26橋脚

P27橋脚

注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

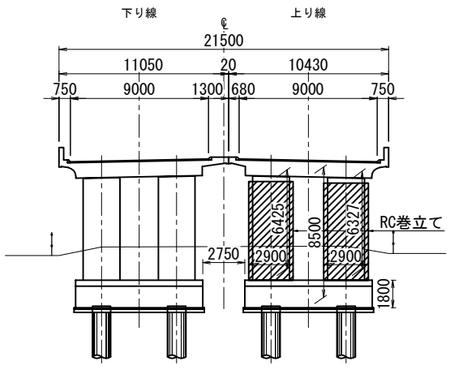
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その１４）		
縮　尺	1:400	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

耐震補強一般図（その１５）S=1:400

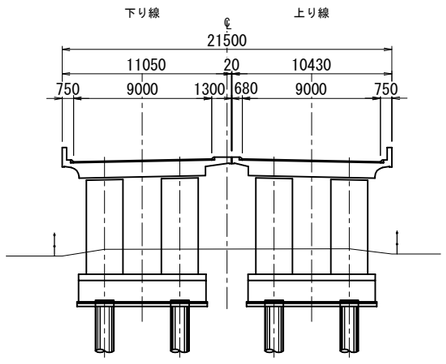
P28橋脚～P36橋脚

断面図

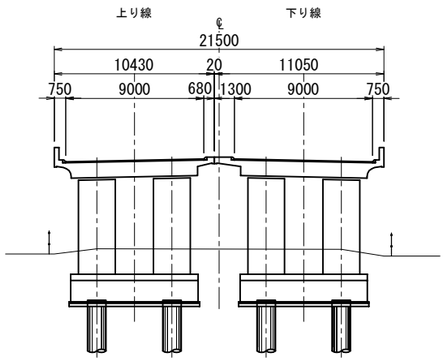
P28橋脚



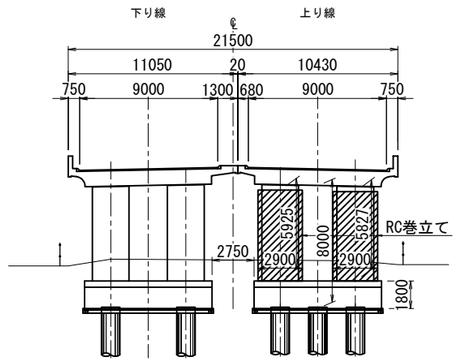
P29橋脚（起点側）



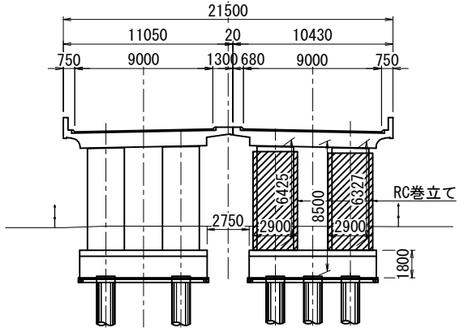
P29橋脚（終点側）



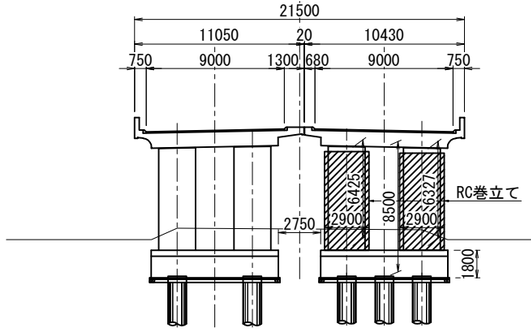
P30橋脚



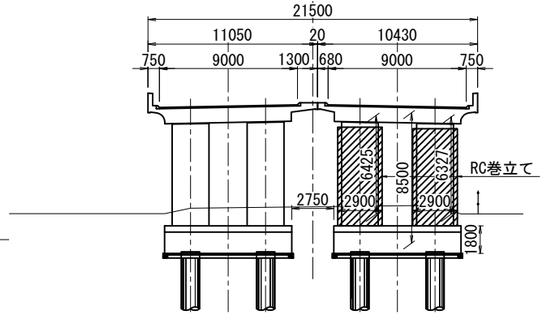
P31橋脚



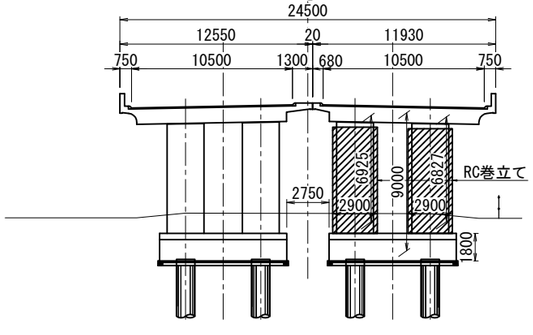
P32橋脚



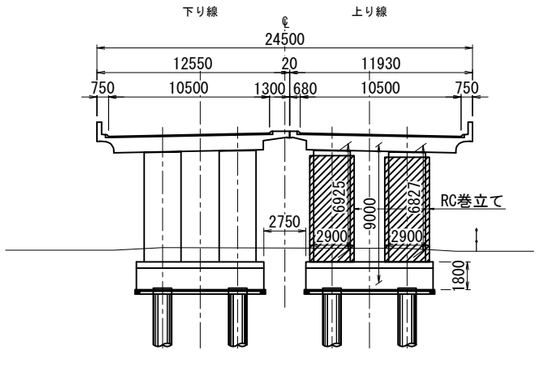
P33橋脚



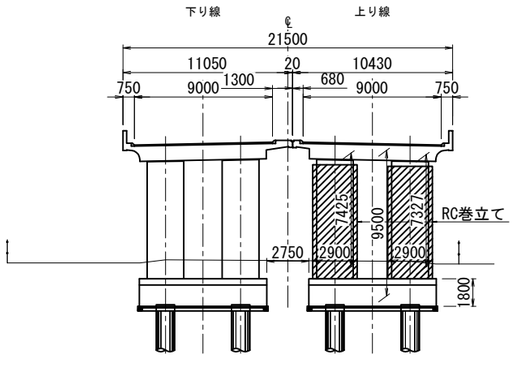
P34橋脚



P35橋脚



P36橋脚



注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

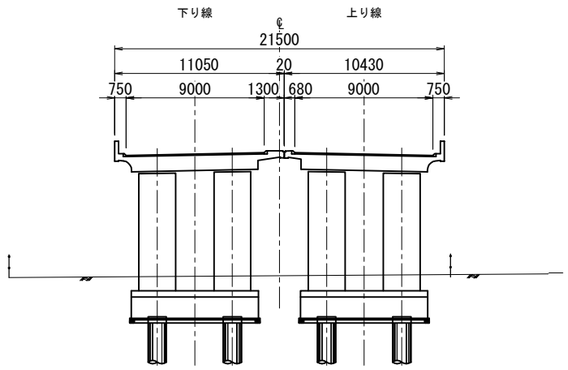
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その１５）		
縮　尺	1:400	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

耐震補強一般図（その１６）S=1:400

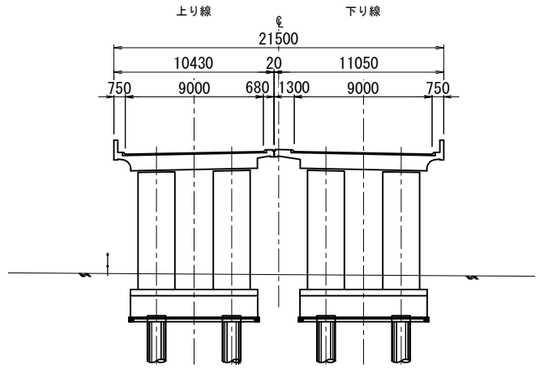
P37橋脚～P45橋脚

断面図

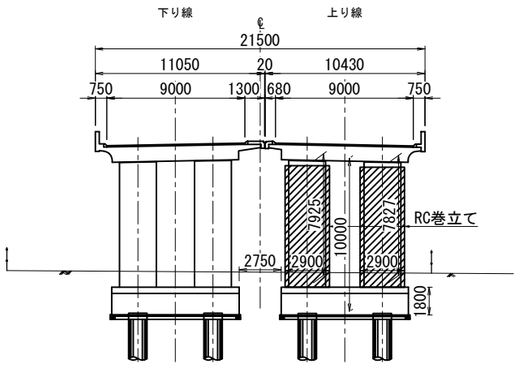
P37橋脚（起点側）



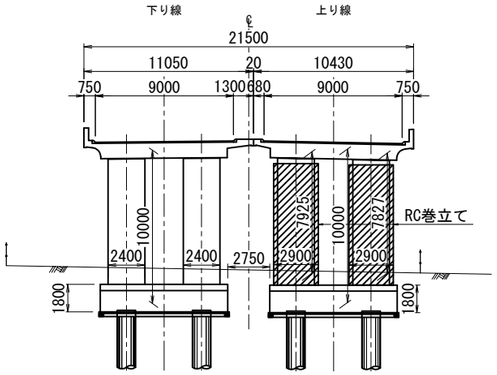
P37橋脚（終点側）



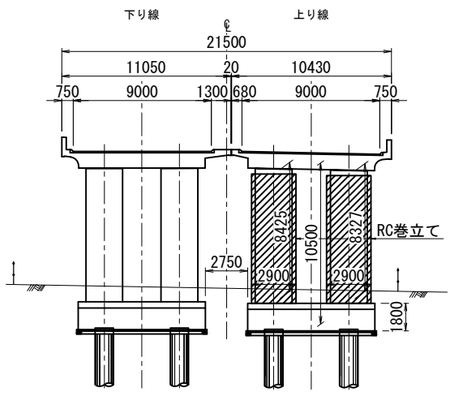
P38橋脚



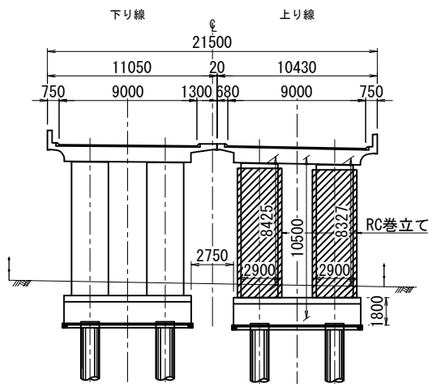
P39橋脚



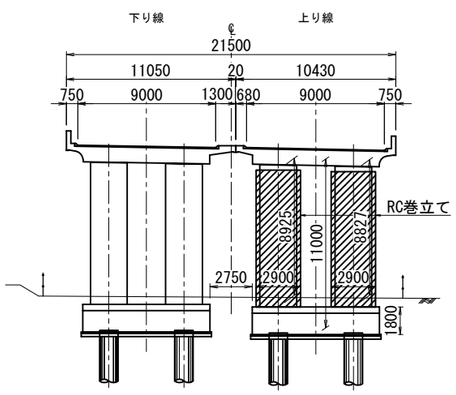
P40橋脚



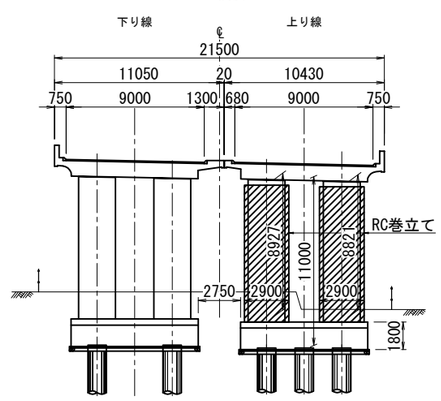
P41橋脚



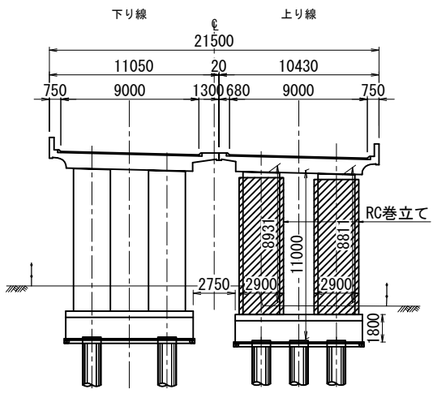
P42橋脚



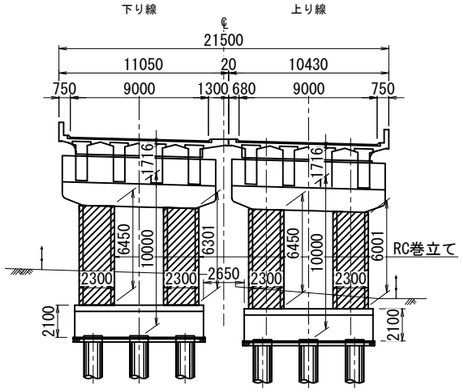
P43橋脚



P44橋脚



P45橋脚（起点側）



注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

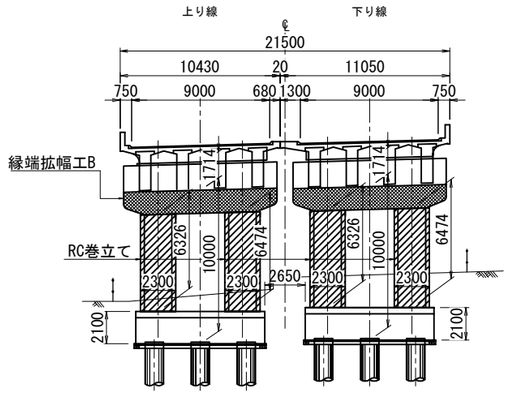
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その１６）		
縮　尺	1:400	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

耐震補強一般図（その１７）S=1:400

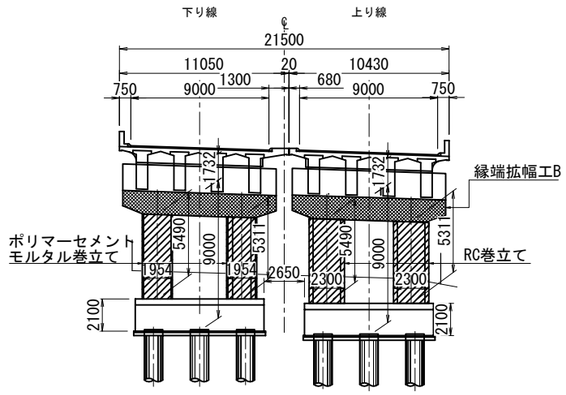
P45橋脚～P46橋脚

断面図

P45橋脚（終点側）



P46橋脚（起点側）



建設時設計条件　P19橋脚（終点側）～P46橋脚（起点側）

橋長	511.691m	桁長	22.617m + 161.920m + 143.920m + 143.651m + 39.223m
道路規格	第1種 第3級 A規格		
荷重	TL-20・TT-43		
型式	上部工	単純PC中空床版橋 + 9径間連続RC中空床版橋 + 8径間連続RC中空床版橋 + 8径間連続RC中空床版橋 + 単純合成桁橋	
	下部工	二柱式橋脚 ， ラーメン式橋脚	
支間	21.657m + 17.600m + 7@18.000m + 17.600m + 17.600m + 6@18.000m + 17.600m + 17.600m + 17.995m + 17.984m + 17.973m + 17.962m + 17.950m + 17.939m + 17.478m + 38.303m		
有効幅員	9.000m ～ 10.500m	斜角	L56° 30’ 00”～90° 00’
横断勾配	i=2.000% ↘ ～ 4.000% ↘		
縦断勾配	i=1.600% → ～ 0.300% →		
地震係数	水平震度 Kh=0.20		
床版コンクリート	圧縮強度 σck=240kg/cm2		
床版鉄筋	材質 SD345 ， 許容引張力度 σsa=1400 kg/cm2		
適用示方書	S55年　道路橋示方書・同解説Ⅰ～Ⅴ、S55年　設計要領第2集		
使用材料	SS41 ， SM50Y		

今回耐震補強設計条件　P19橋脚（終点側）～P46橋脚（起点側）

設計基準		R6設計要領　第二集　橋梁保全編
		H24道路橋示方書・同解説　Ⅳ下部構造編　H 24道路橋示方書・同解説　V耐震補強編
活荷重		TL-20・TT-43
支承形式		P19終点、P20、P29、P37、P45、P46起点：ゴム支承 ， アンカーバー P21～P28、P30～P36、P38～P44：メナーゼヒンジ
使用材料	コンクリート	σck=30N/mm2
	鉄筋	SD345
補強内容	橋脚	RC巻立て補強(P19～P28、P30～P36、P38～P46)
	上部工	RC縁端拡幅工B(P20、P45、P46)

注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

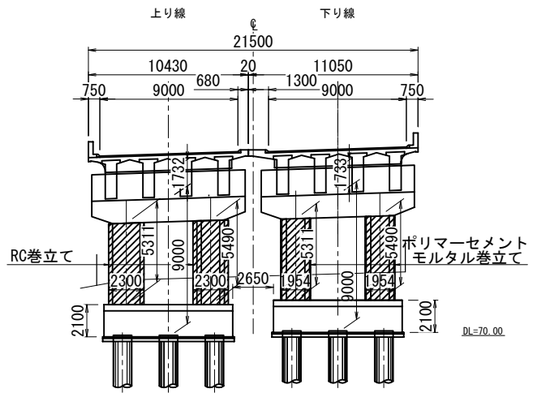
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その１７）		
縮　尺	1:400	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

耐震補強一般図（その１８）S=1:400

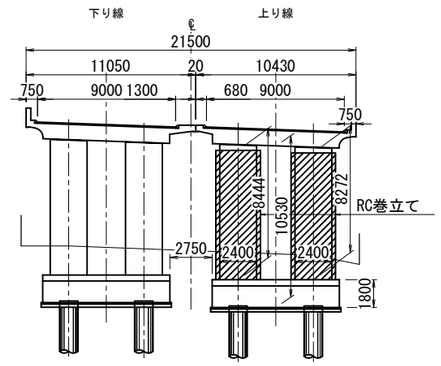
P46橋脚～P55橋脚

断面図

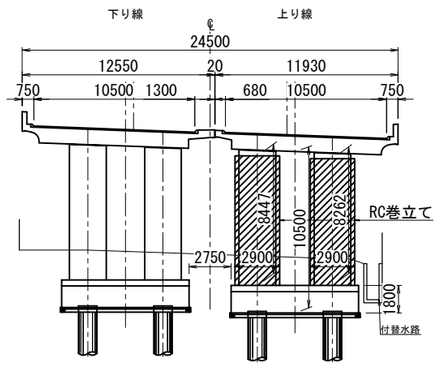
P46橋脚（終点側）



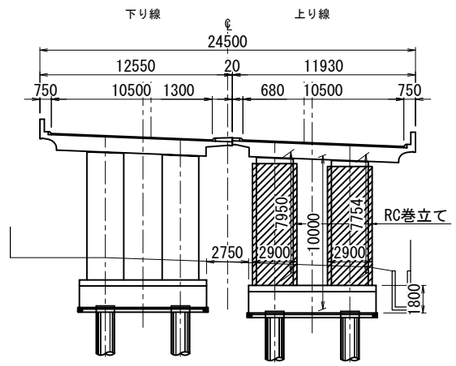
P47橋脚



P48橋脚



P49橋脚



P50橋脚

P51橋脚

P52橋脚

P53橋脚

P54橋脚（起点側）

P54橋脚（終点側）

P55橋脚

注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

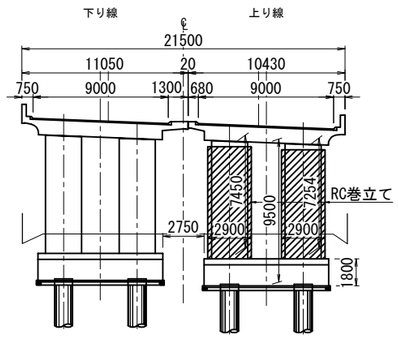
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その１８）		
縮　尺	1:400	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

耐震補強一般図（その１９）S=1:400

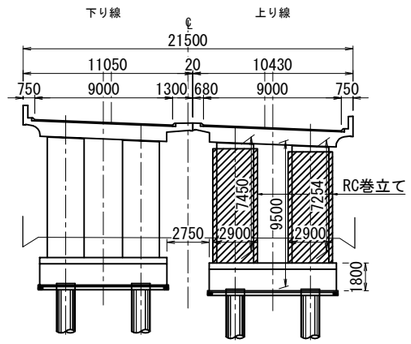
P56橋脚～A2橋台

断面図

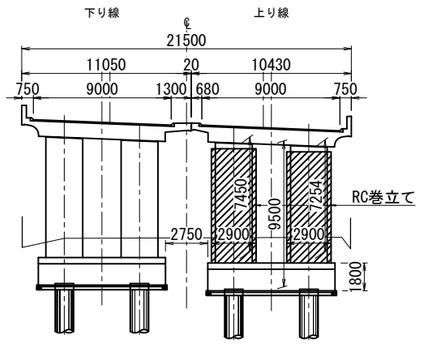
P56橋脚



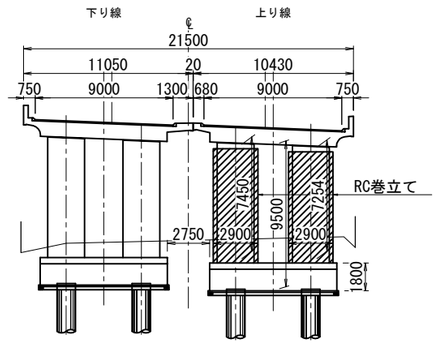
P57橋脚



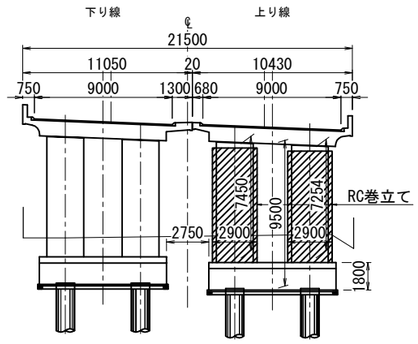
P58橋脚



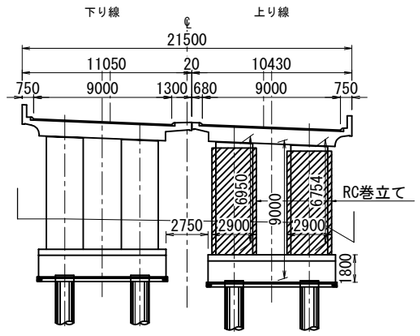
P59橋脚



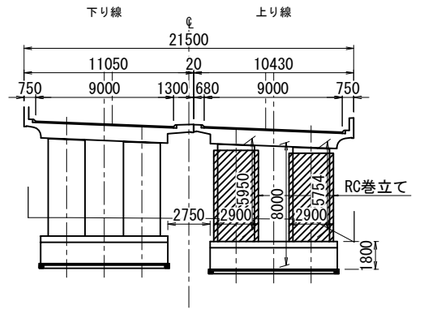
P60橋脚



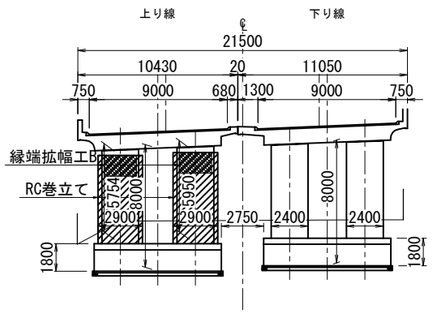
P61橋脚



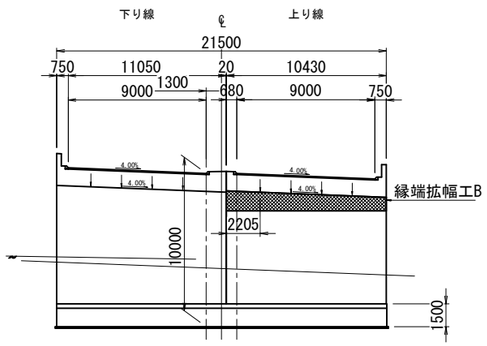
P62橋脚（起点側）



P62橋脚（終点側）



A2橋台



建設時設計条件　P46橋脚（終点側）～A2橋台

橋長	314.000m	桁長	143.920m + 143.920m + 25.920m
道路規格	第1種 第3級 A規格		
荷重	TL-20・TT-43		
型式	上部工	RC8径間連続中空床版桁 + RC8径間連続中空床版桁 + PC単純中空床版桁	
	下部工	二柱式橋脚 ， 逆Ｔ式橋台	
支間	17.550m + 6@18.000m + 17.600m + 17.600m + 6@18.000m + 17.600m + 25.200m		
有効幅員	9.000m	斜角	90° 00′ 00″
横断勾配	i=2.000% ＼～ 4.000% ＼		
縦断勾配	0.30% →		
地震係数	水平震度 Kh=0.20		
床版コンクリート	PC：圧縮強度 σck=350kg/cm2　RC：圧縮強度 σck=240kg/cm2		
床版鉄筋	材質 SD345 ， 許容引張力度 σsa=1400 kg/cm2		
適用示方書	S55年　道路橋示方書・同解説Ⅰ～Ⅴ、S55年　設計要領第2集		
使用材料	PC鋼材：12-φ12.4（SWPR 7A）		

P46橋脚（終点側）～A2橋台

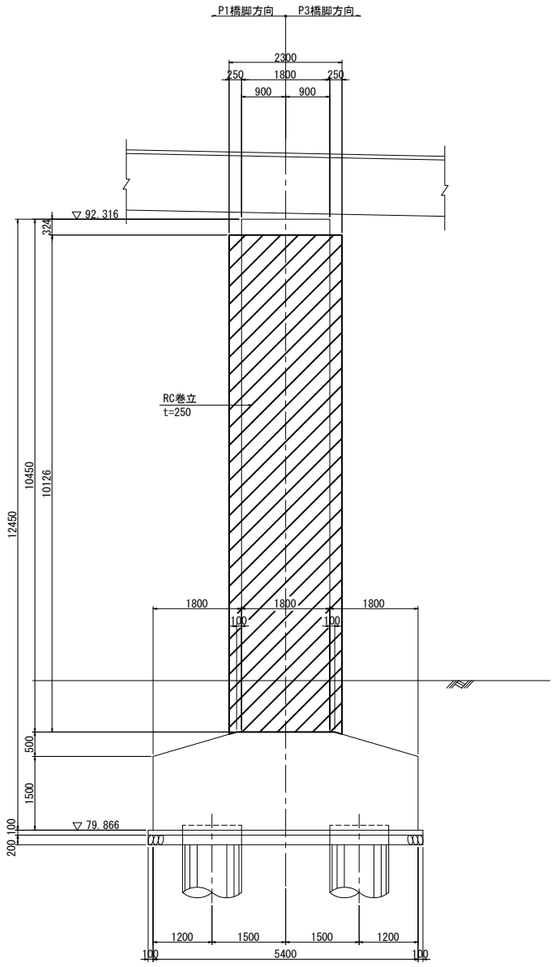
設計基準		R6設計要領　第二集　橋梁保全編
		H24道路橋示方書・同解説　Ⅳ下部構造編　H 24道路橋示方書・同解説　Ⅴ耐震補強編
活荷重		TL-20・TT-43
支承形式		P46終点、P54起点・終点、P62起点・終点、A2：ゴム支承 ， アンカーバー P47～P53、P55～P61：メナーゼヒンジ
使用材料	コンクリート	σck=30N/mm2
	鉄筋	SD345
補強内容	橋脚	RC巻立て補強(P47～P53、P55～P62)
	上部工	RC縁端拡幅工B(P62、A2)

注）1. フェンス位置や水路の位置は、簡易計測結果を基に反映している。
2. P8橋脚より終点側は測量を実施していない。
そのため地表面の形状、高さ等は簡易計測を基に反映している。

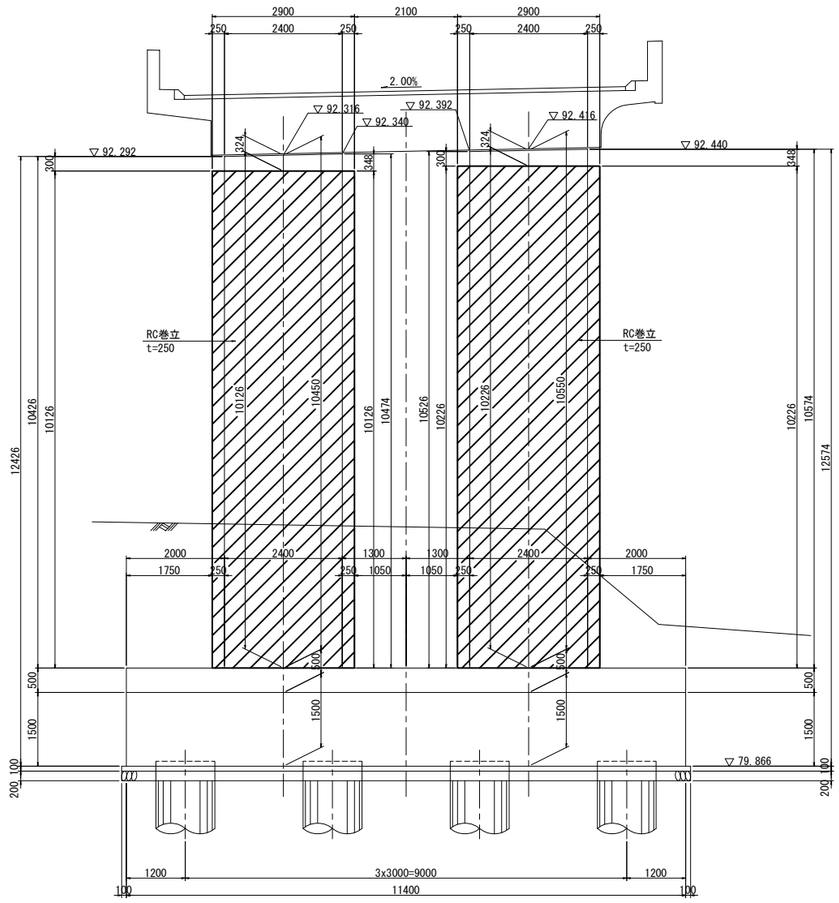
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 耐震補強一般図（その１９）		
縮　尺	1:400	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P2橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

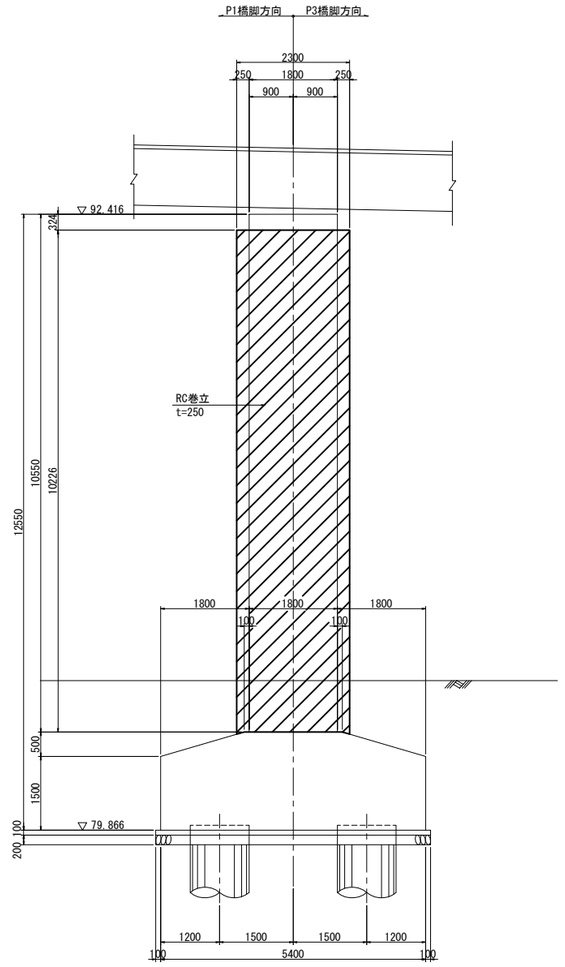
側 面 図 S=1:125



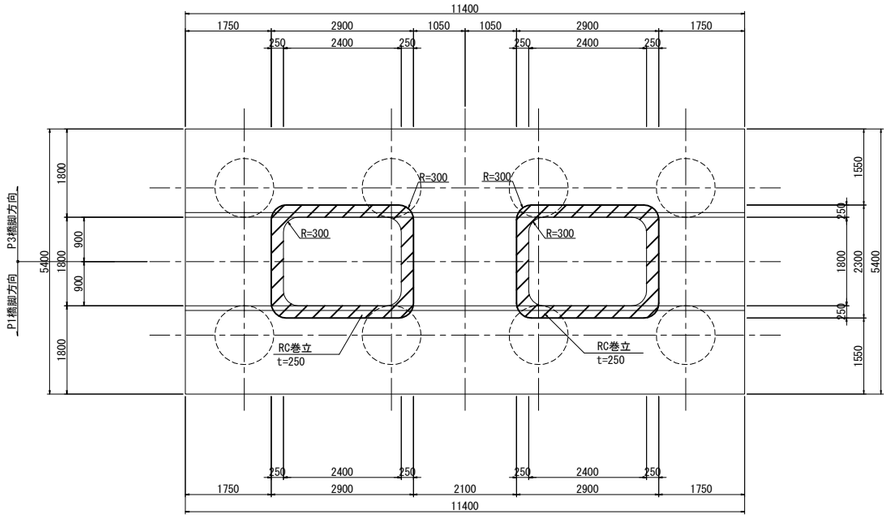
正 面 図 S=1:125



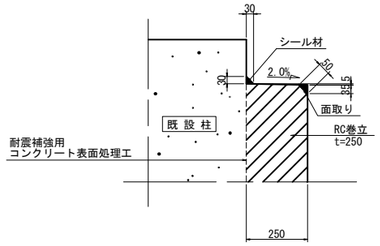
側 面 図 S=1:125



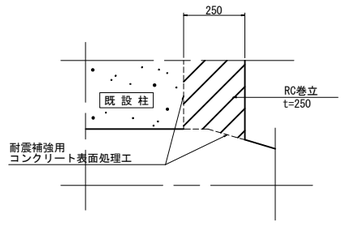
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

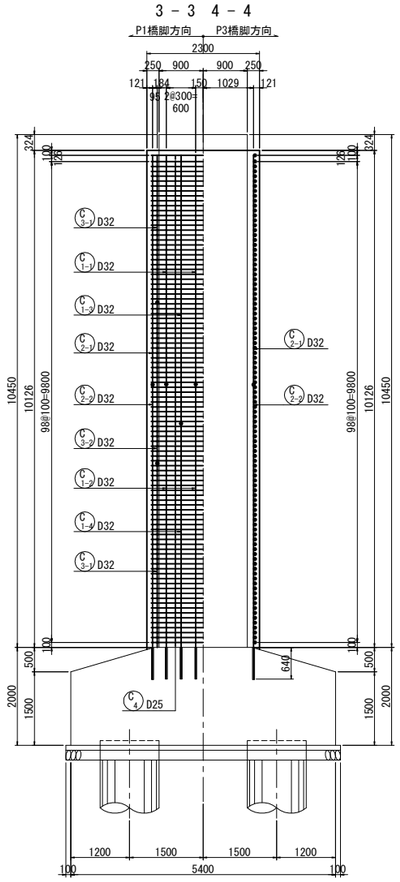
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P2橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P2橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

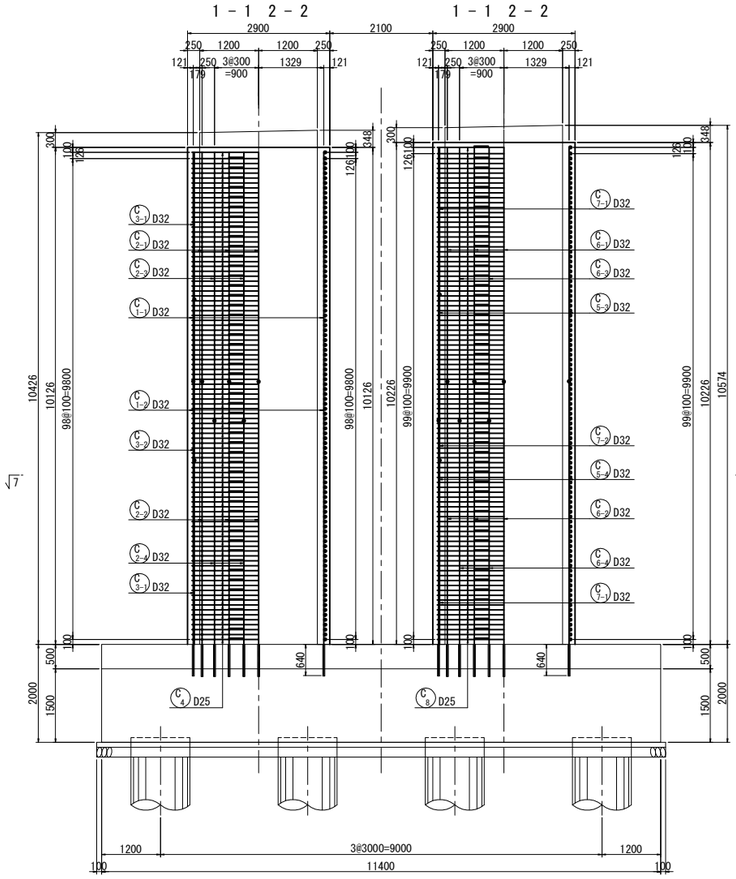
側面図 S=1:125

3－3　4－4



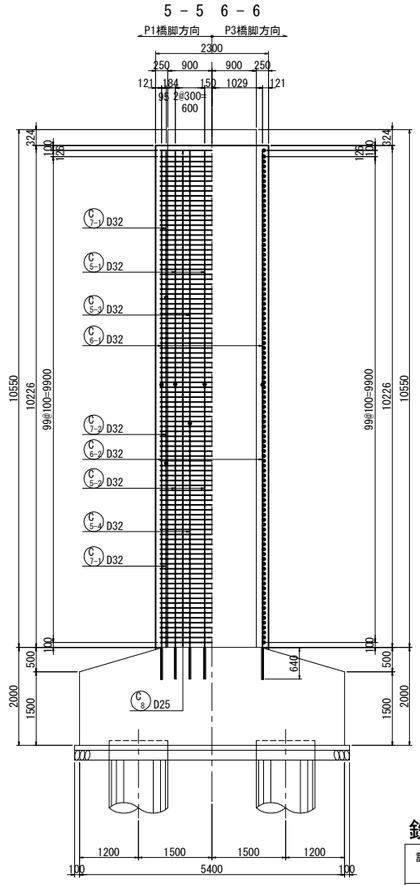
正面図 S=1:125

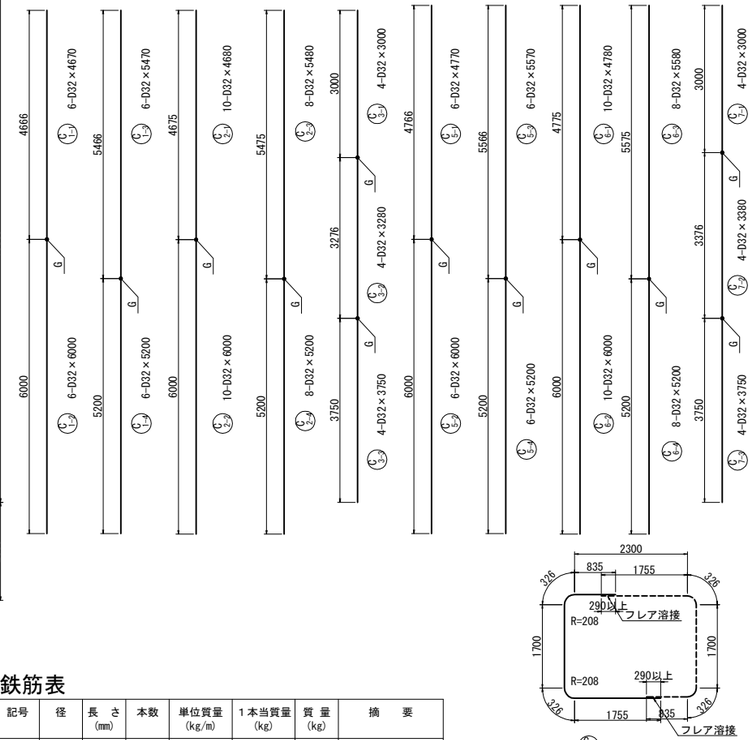
1－1　2－2　　1－1　2－2



側面図 S=1:125

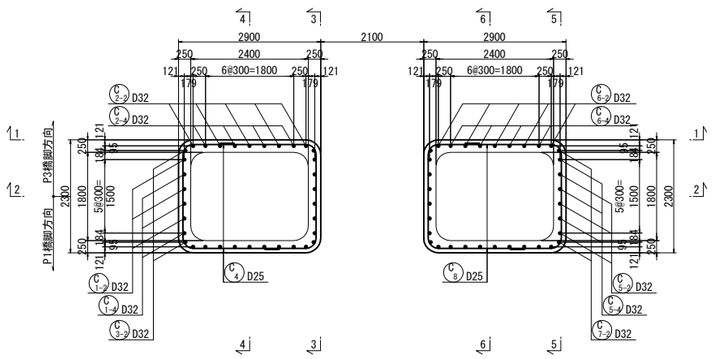
5－5　6－6



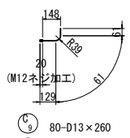


平面図 S=1:125

7－7



組立筋加工図(参考図)　S=1:50

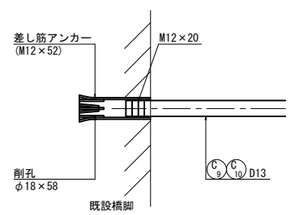


C9 80-D13×260

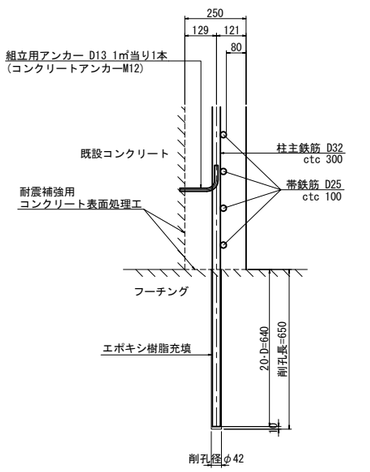
C10 81-D13×260

※1本/約1m2程度、設置する。

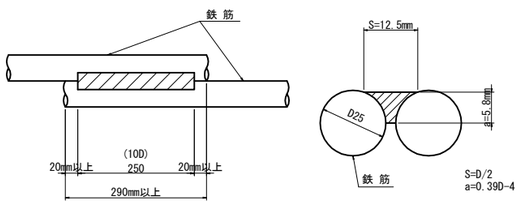
組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



かぶり詳細図　S=1:25



フレア溶接詳細図

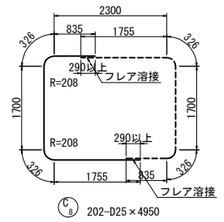


鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D32	4670	6	6.23	29.1	175	
C 1-2	D32	6000	6	6.23	37.4	224	<6>
C 1-3	D32	5470	6	6.23	34.1	205	
C 1-4	D32	5200	6	6.23	32.4	194	<6>
C 2-1	D32	4680	10	6.23	29.2	292	
C 2-2	D32	6000	10	6.23	37.4	374	<10>
C 2-3	D32	5480	8	6.23	34.1	273	
C 2-4	D32	5200	8	6.23	32.4	259	<8>
C 3-1	D32	3000	4	6.23	18.7	75	<4>
C 3-2	D32	3280	4	6.23	20.4	82	
C 3-3	D32	3750	4	6.23	23.4	94	<4>
C 4	D25	4950	200	3.98	19.7	3940	(200)
C 5-1	D32	4770	6	6.23	29.7	178	
C 5-2	D32	6000	6	6.23	37.4	224	<6>
C 5-3	D32	5570	6	6.23	34.7	208	
C 5-4	D32	5200	6	6.23	32.4	194	<6>
C 6-1	D32	4780	10	6.23	29.8	298	
C 6-2	D32	6000	10	6.23	37.4	374	<10>
C 6-3	D32	5580	8	6.23	34.8	278	
C 6-4	D32	5200	8	6.23	32.4	259	<8>
C 7-1	D32	3000	4	6.23	18.7	75	<4>
C 7-2	D32	3380	4	6.23	21.1	84	
C 7-3	D32	3750	4	6.23	23.4	94	<4>
C 8	D25	4950	202	3.98	19.7	3979	(202)
					小計	12432	kg

		フレア箇所	圧接箇所		
D32	4513	kg		<76>	SD345
D25	7919	kg	(402)		SD345
合計	12432	kg	(402)	<76>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	161	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ42,L=650)	60	箇所	
フレア溶接(D25)	402	箇所	

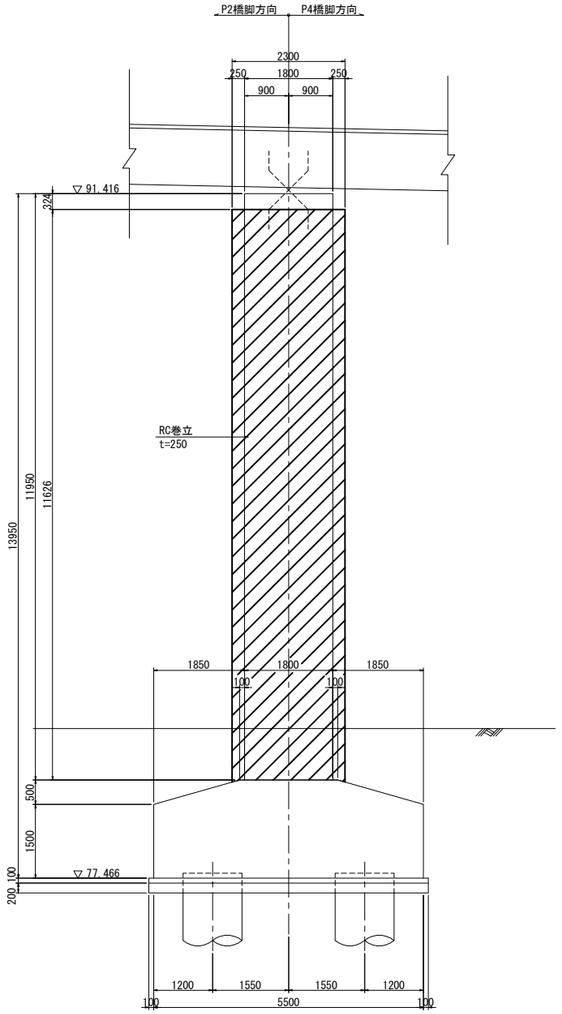


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す

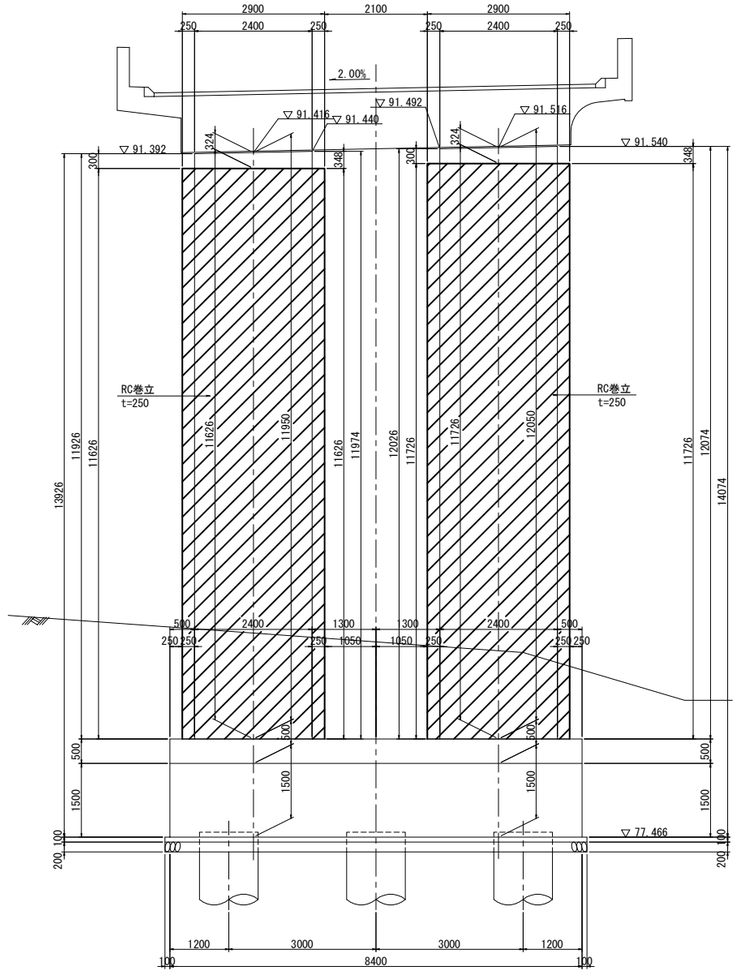
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P2橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）
縮尺	図示 / 図面番号 /
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P3橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

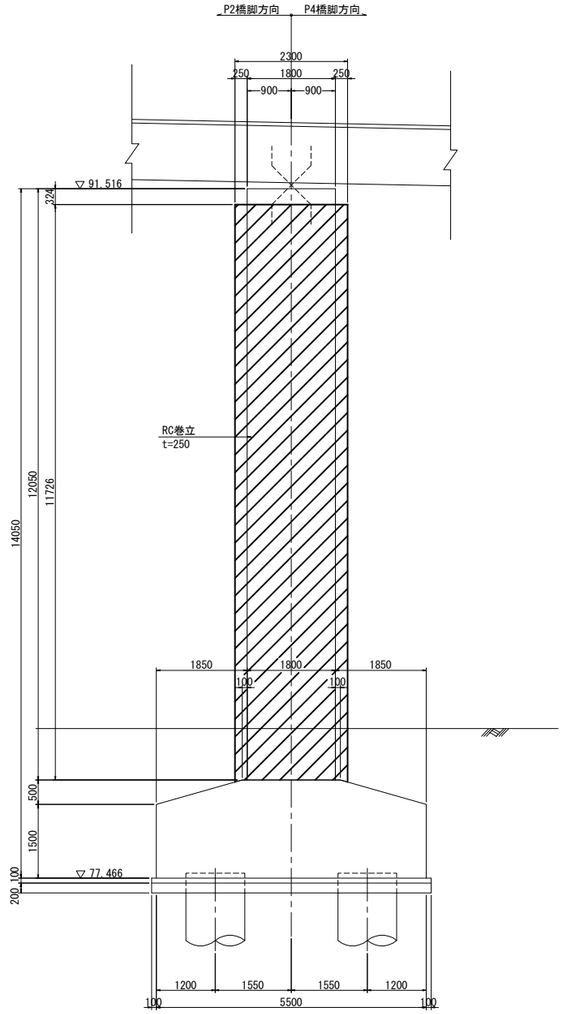
側 面 図 S=1:125



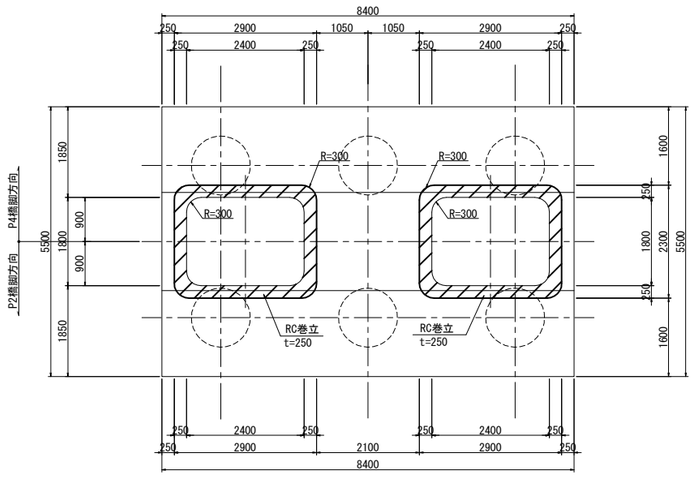
正 面 図 S=1:125



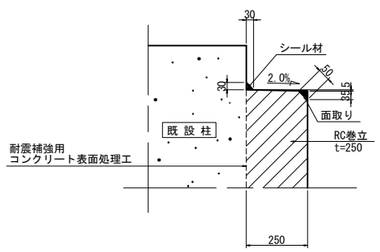
側 面 図 S=1:125



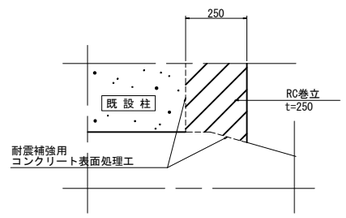
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

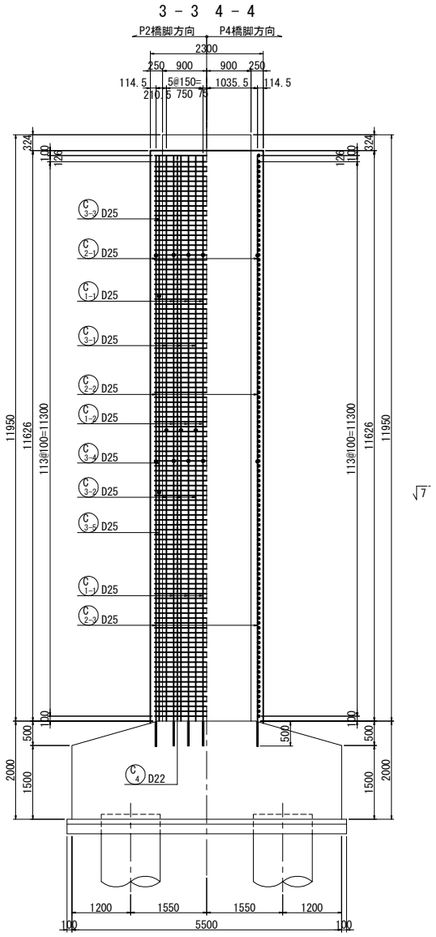
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P3橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P3橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

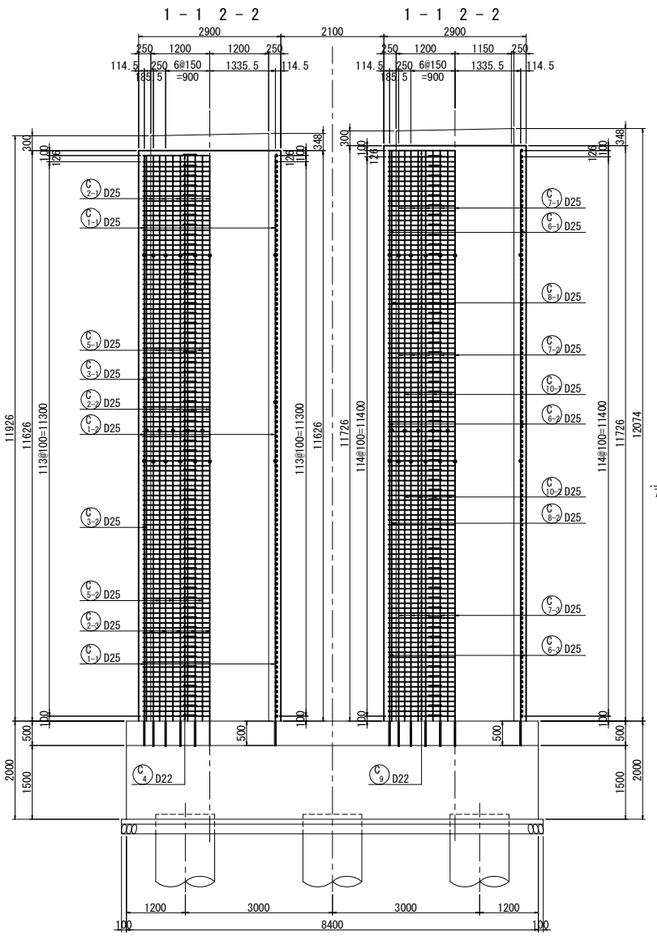
側面図 S=1:125

3 - 3　4 - 4



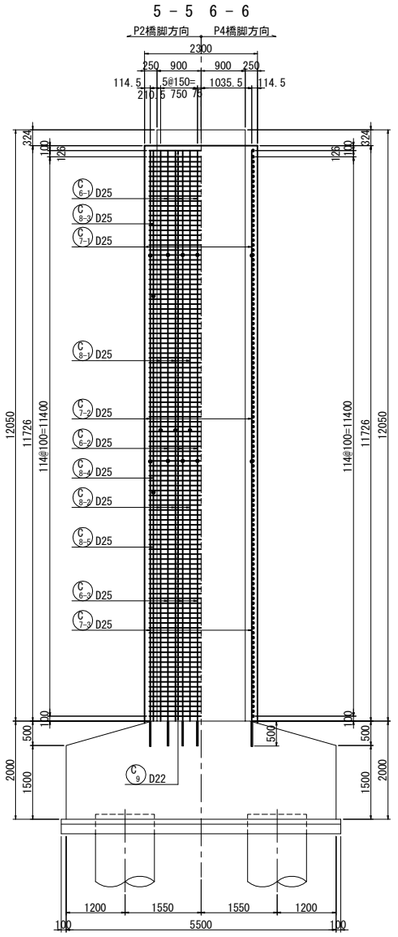
正面図 S=1:125

1 - 1　2 - 2　　1 - 1　2 - 2



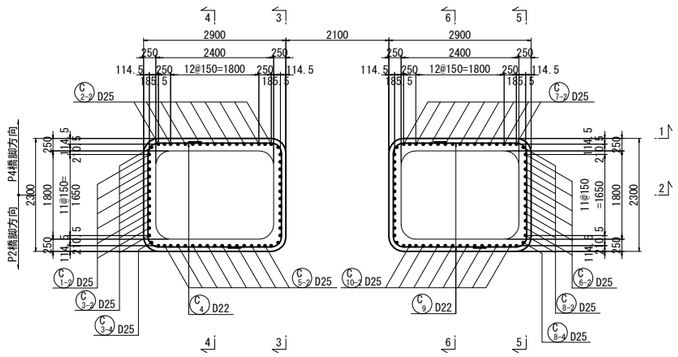
側面図 S=1:125

5 - 5　6 - 6

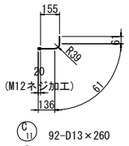


平面図 S=1:125

7 - 7

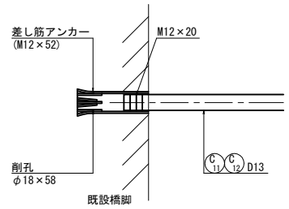


組立筋加工図(参考図)　S=1:50

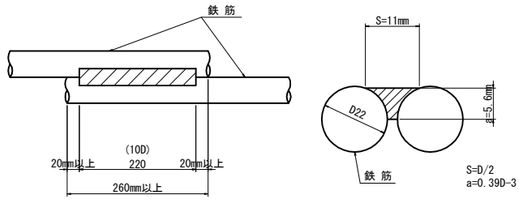


※1本/約1m2程度、設置する。

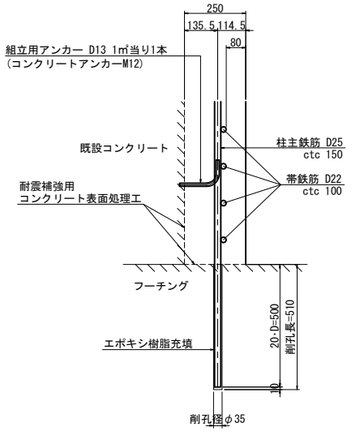
組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5

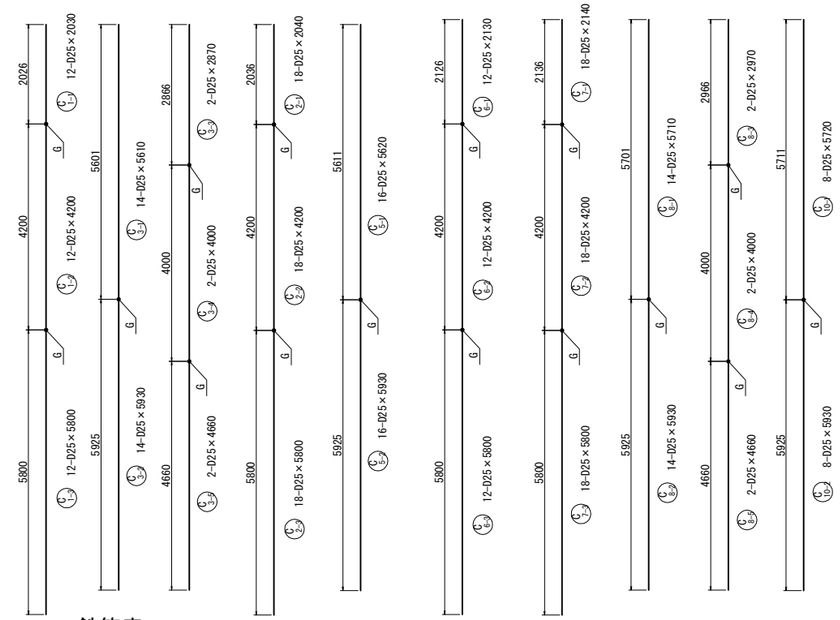


フレア溶接詳細図



かぶり詳細図　S=1:25



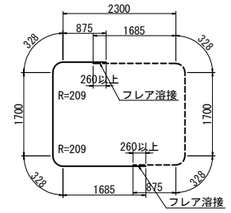


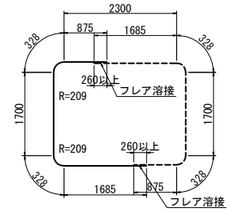
鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D25	2030	12	3.98	8.08	97	<12>
C 1-2	D25	4200	12	3.98	16.7	200	
C 1-3	D25	5800	12	3.98	23.1	277	<12>
C 2-1	D25	2040	18	3.98	8.12	146	<18>
C 2-2	D25	4200	18	3.98	16.7	301	
C 2-3	D25	5800	18	3.98	23.1	416	<18>
C 3-1	D25	5610	14	3.98	22.3	312	<14>
C 3-2	D25	5930	14	3.98	23.6	330	
C 3-3	D25	2870	2	3.98	11.4	23	<2>
C 3-4	D25	4000	2	3.98	15.9	32	
C 3-5	D25	4660	2	3.98	18.5	37	<2>
C 4	D22	4920	230	3.04	15.0	3450	(230)
C 5-1	D25	5620	16	3.98	22.4	358	<16>
C 5-2	D25	5930	16	3.98	23.6	378	
C 6-1	D25	2130	12	3.98	8.48	102	<12>
C 6-2	D25	4200	12	3.98	16.7	200	
C 6-3	D25	5800	12	3.98	23.1	277	<12>
C 7-1	D25	2140	18	3.98	8.52	153	<18>
C 7-2	D25	4200	18	3.98	16.7	301	
C 7-3	D25	5800	18	3.98	23.1	416	<18>
C 8-1	D25	5710	14	3.98	22.7	318	<14>
C 8-2	D25	5930	14	3.98	23.6	330	
C 8-3	D25	2970	2	3.98	11.8	24	<2>
C 8-4	D25	4000	2	3.98	15.9	32	
C 8-5	D25	4660	2	3.98	18.5	37	<2>
C 9	D22	4920	232	3.04	15.0	3480	(232)
C 10-1	D25	5720	8	3.98	22.8	182	<16>
C 10-2	D25	5930	8	3.98	23.6	189	
					小計	12398	kg

			フレア箇所	圧接箇所	
D25	5468	kg		<188>	SD345
D22	6930	kg	(462)		SD345
合計	12398	kg	(462)	<188>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	184	箇所 (参考)
コンクリート削孔(φ35,L=510)	60	箇所
フレア溶接(D22)	462	箇所



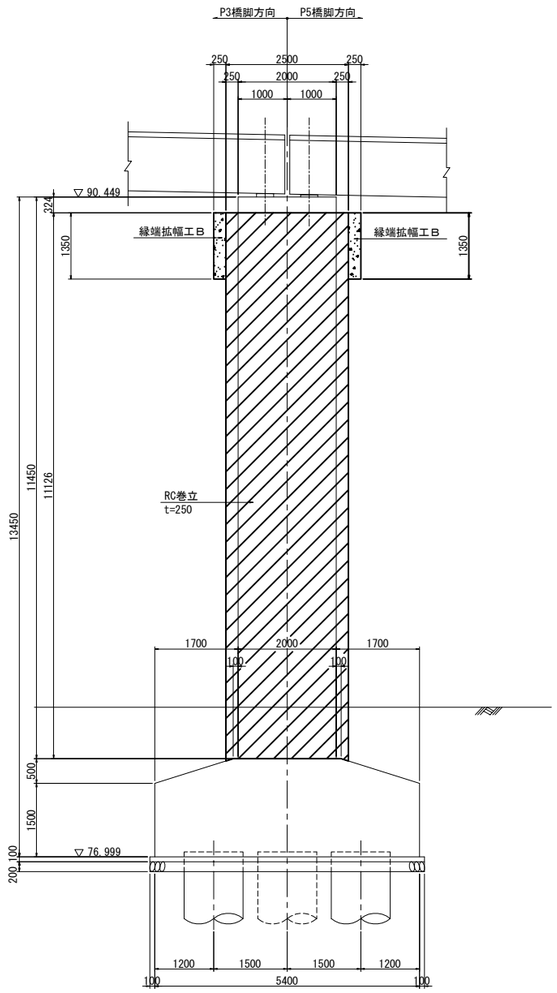


注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す

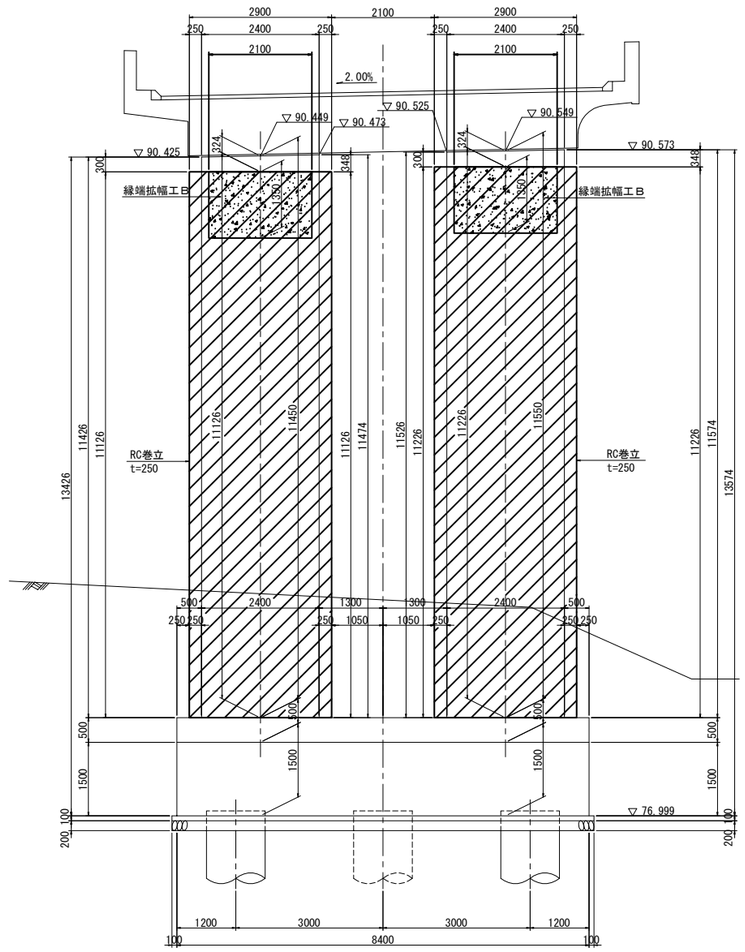
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P3橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P4橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

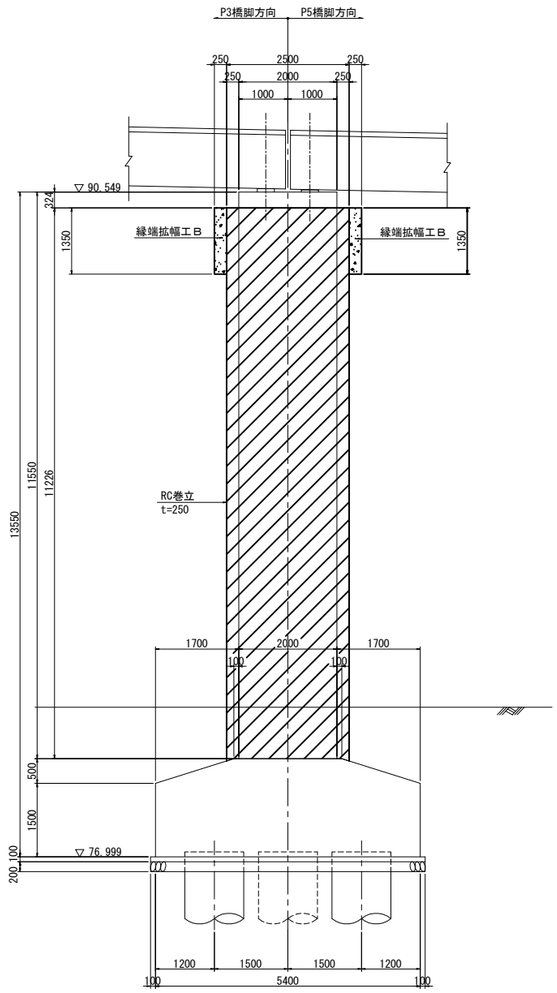
側 面 図 S=1:125



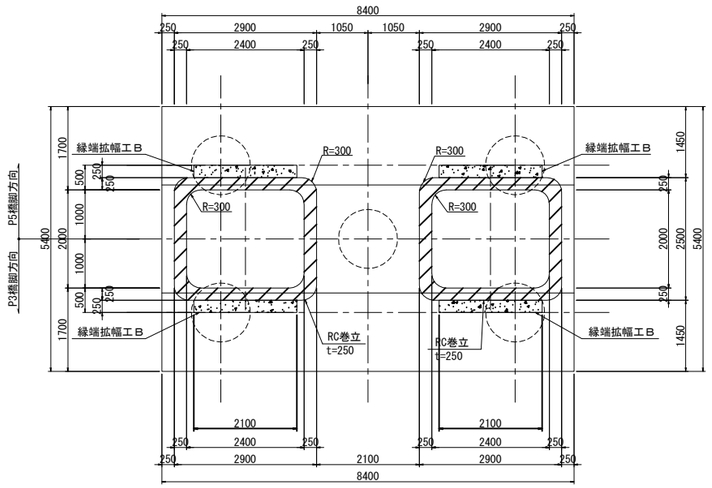
正 面 図 S=1:125



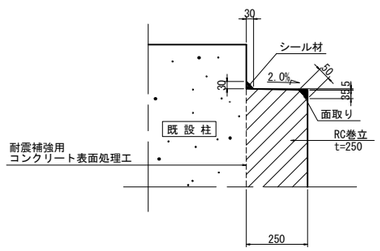
側 面 図 S=1:125



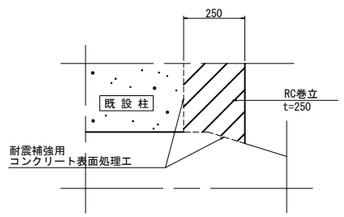
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

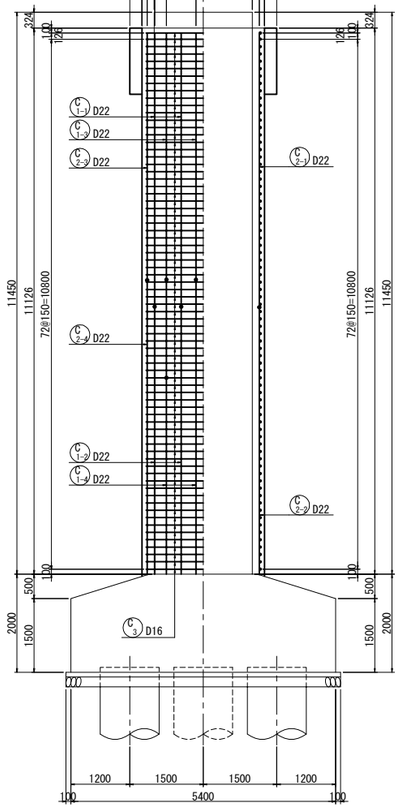
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P4橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P4橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

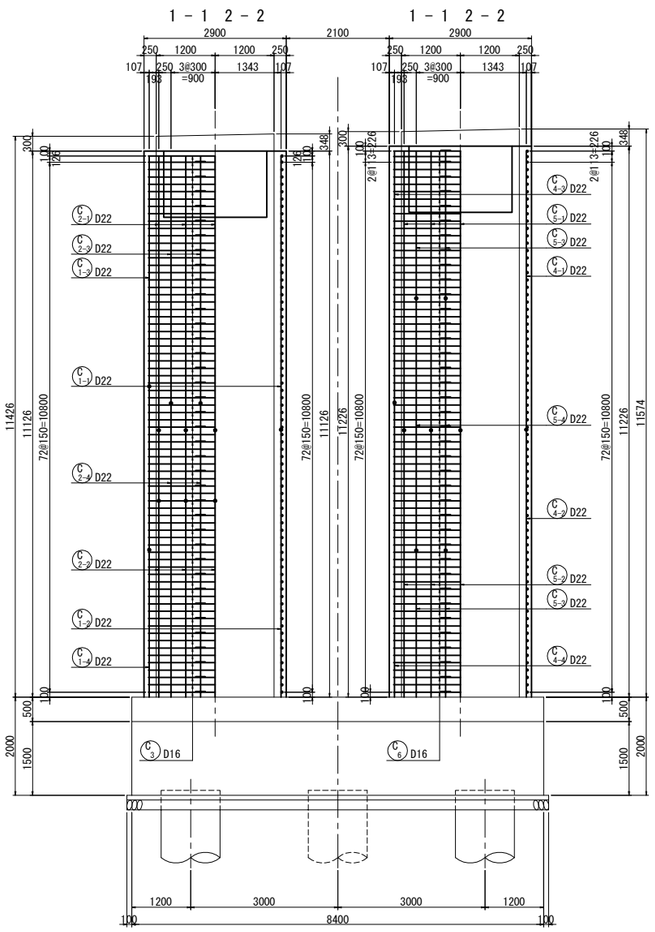
側 面 図 S=1:125

3 - 3　4 - 4



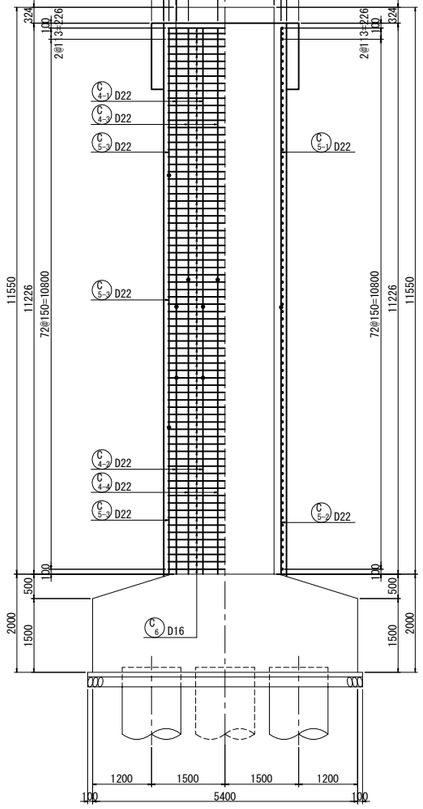
正 面 図 S=1:125

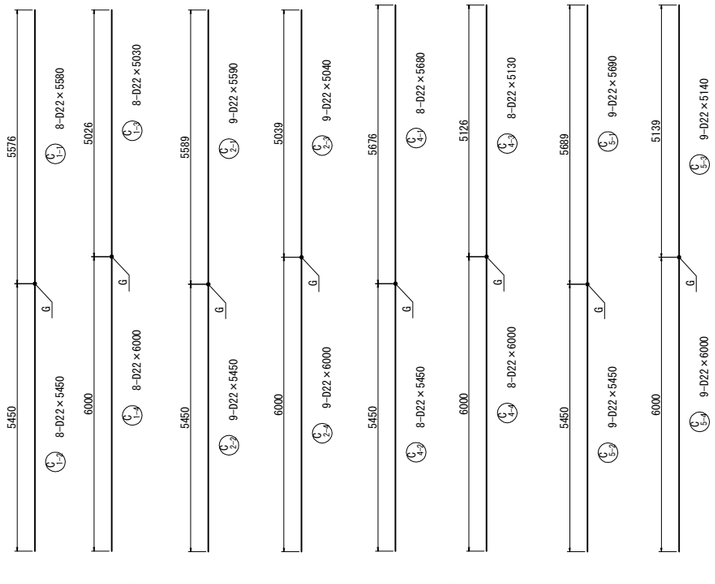
1 - 1　2 - 2　　1 - 1　2 - 2

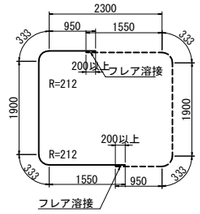


側 面 図 S=1:125

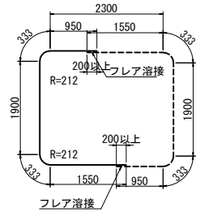
3 - 3　4 - 4





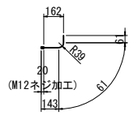


C 3　148-D16×5070



C 6　150-D16×5070

組立筋加工図(参考図)　S=1:50

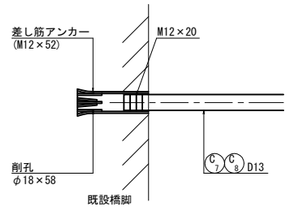


C 7　92-D13×270

C 8　93-D13×270

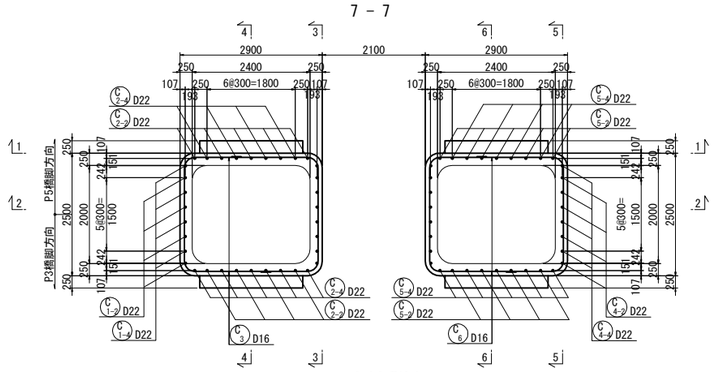
※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5

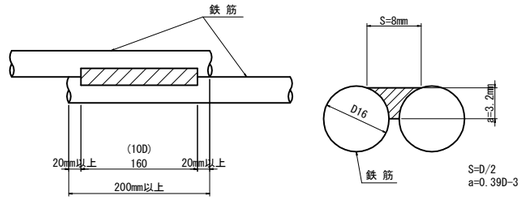


平 面 図 S=1:125

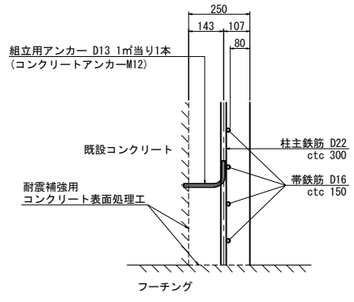
7 - 7



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図　S=1:25



鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	5580	8	3.04	17.0	136	<8>
C 1-2	D22	5450	8	3.04	16.6	133	I
C 1-3	D22	5030	8	3.04	15.3	122	<8>
C 1-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	I
C 2-1	D22	5590	9	3.04	17.0	153	<9>
C 2-2	D22	5450	9	3.04	16.6	149	I
C 2-3	D22	5040	9	3.04	15.3	138	<9>
C 2-4	D22	6000	9	3.04	18.2	164	I
C 3	D16	5070	148	1.56	7.91	1171	(148)
C 4-1	D22	5680	8	3.04	17.3	138	<8>
C 4-2	D22	5450	8	3.04	16.6	133	I
C 4-3	D22	5130	8	3.04	15.6	125	<8>
C 4-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	I
C 5-1	D22	5690	9	3.04	17.3	156	<9>
C 5-2	D22	5450	9	3.04	16.6	149	I
C 5-3	D22	5140	9	3.04	15.6	140	<9>
C 5-4	D22	6000	9	3.04	18.2	164	I
C 6	D16	5070	150	1.56	7.91	1187	(150)
					小計	4650	kg

			フレア箇所	圧接箇所	
D22	2292	kg		<68>	SD345
D16	2358	kg	(298)		SD345
合計	4650	kg	(298)	<68>	SD345

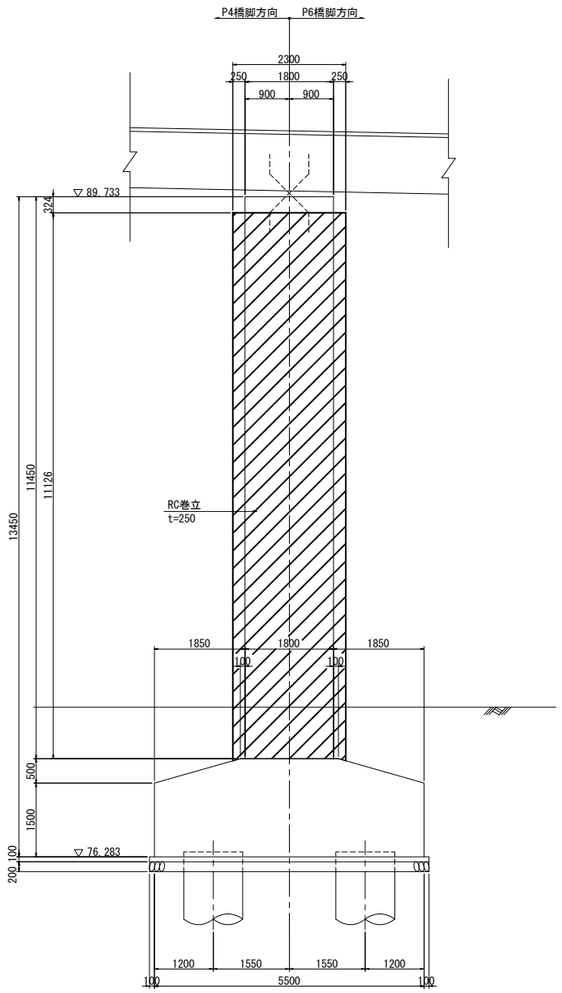
コンクリート削孔(φ18,L=58)	185	箇所　(参考)
フレア溶接(D16)	298	箇所

注)1.施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す

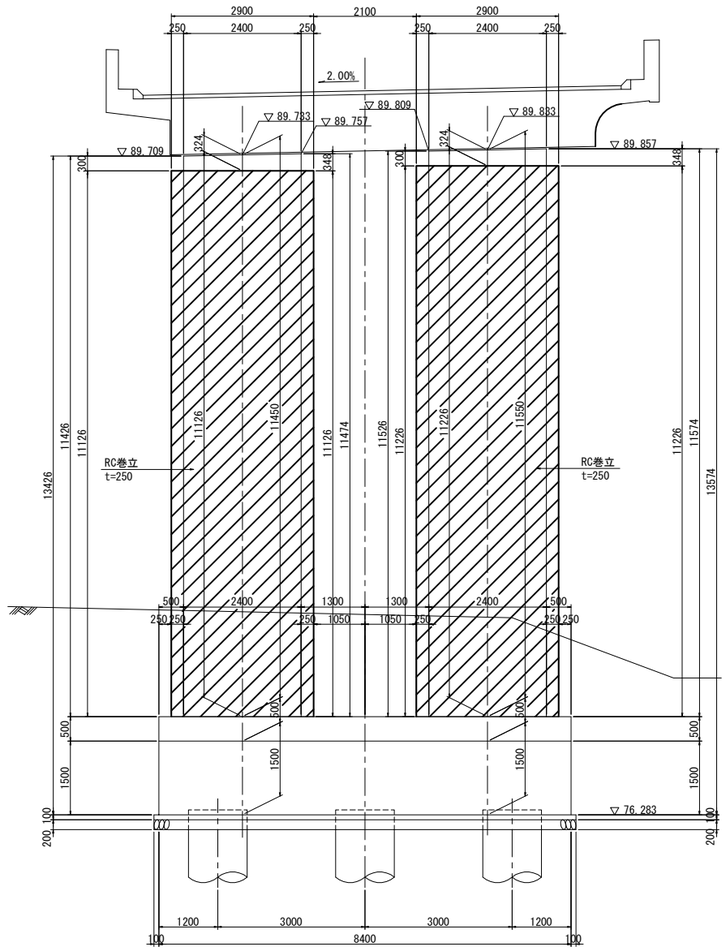
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P4橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P5橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

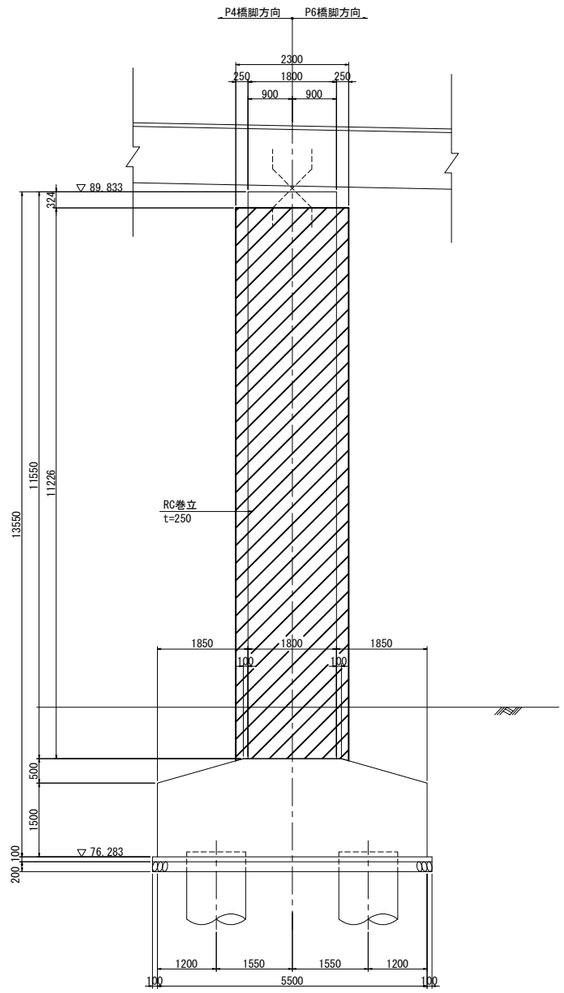
側 面 図 S=1:125



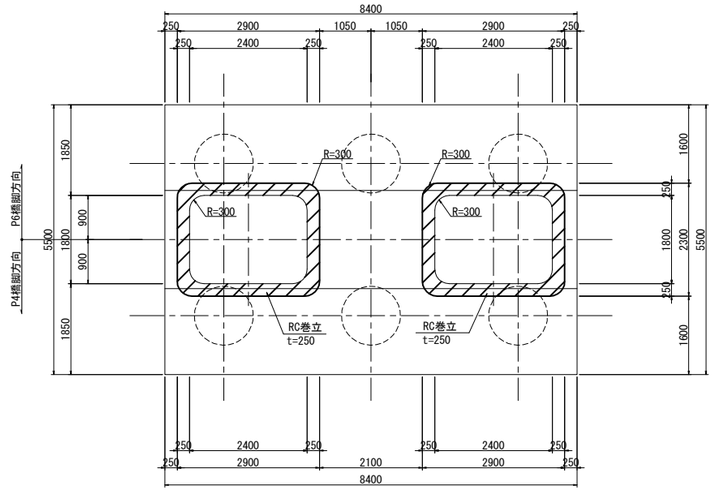
正 面 図 S=1:125



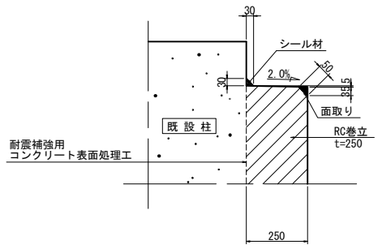
側 面 図 S=1:125



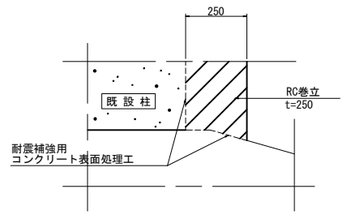
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

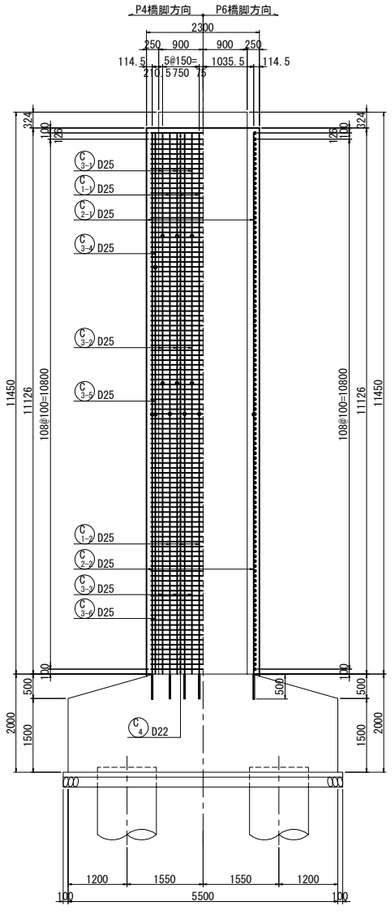
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P5橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P5橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

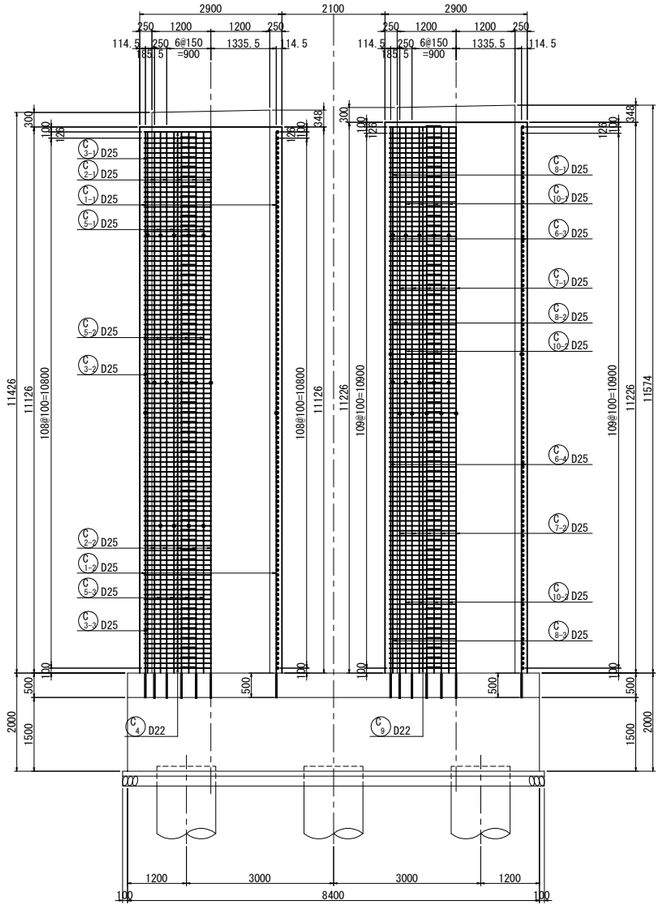
側面図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



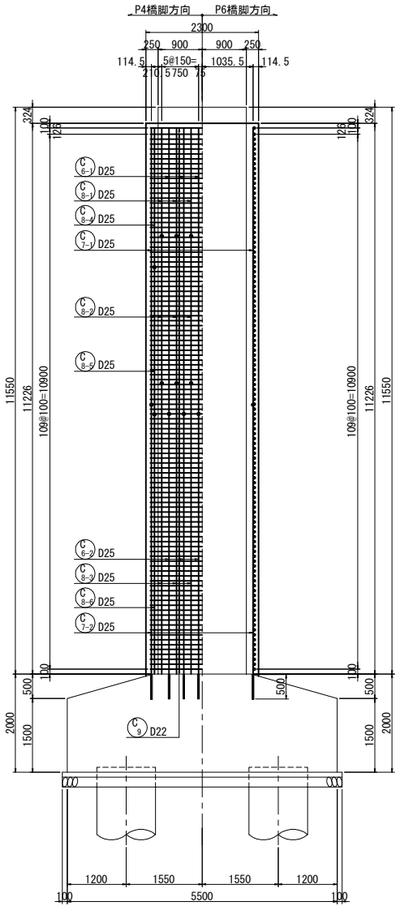
正面図 S=1:125

1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2



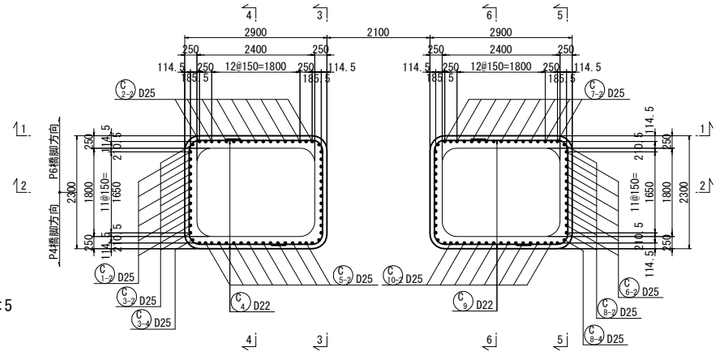
側面図 S=1:125

5 － 5　6 － 6

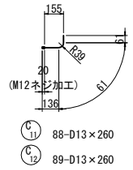


平面図 S=1:125

7 － 7



組立筋加工図（参考図） S=1:50

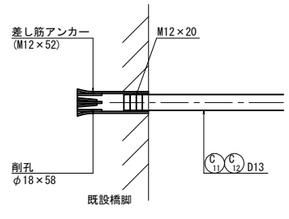


C11 88－D13×260

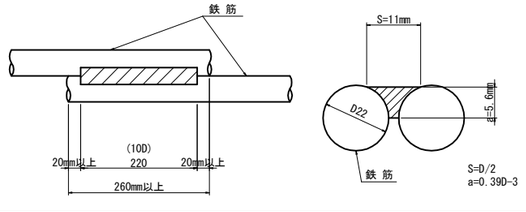
C12 89－D13×260

※1本/約1m2程度、設置する。

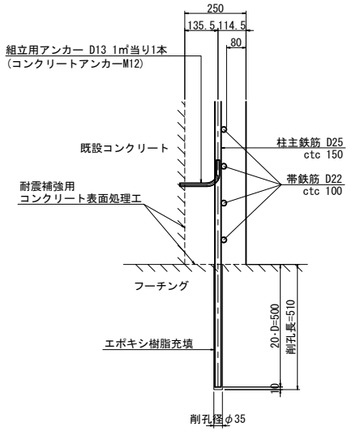
組立て筋アンカー詳細図（参考図） S=1:5

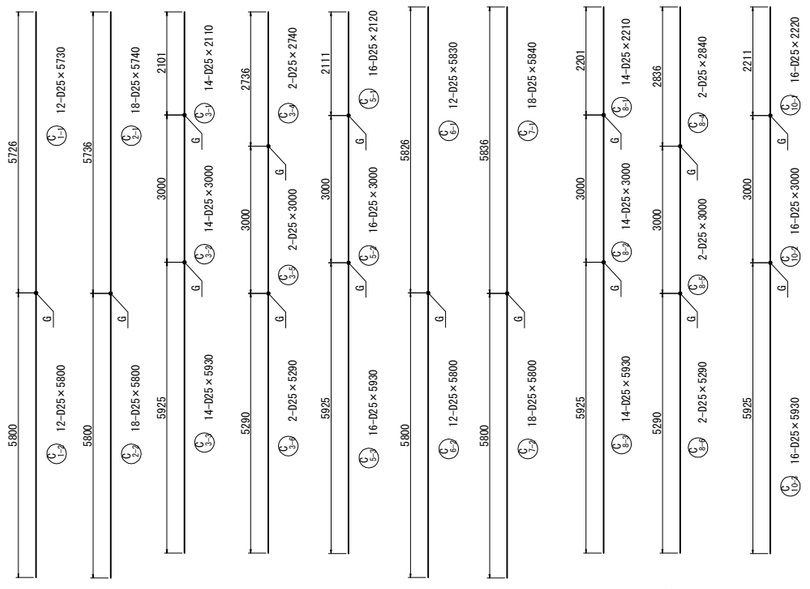


フレア溶接詳細図



かぶり詳細図 S=1:25

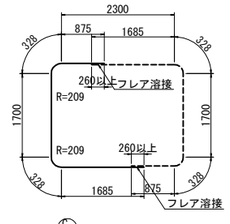




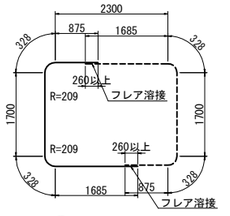
鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D25	5730	12	3.98	22.8	274	〈12〉
C 1-2	D25	5800	12	3.98	23.1	277	〃
C 2-1	D25	5740	18	3.98	22.8	410	〈18〉
C 2-2	D25	5800	18	3.98	23.1	416	〃
C 3-1	D25	2110	14	3.98	8.40	118	〈14〉
C 3-2	D25	3000	14	3.98	11.9	167	〃
C 3-3	D25	5930	14	3.98	23.6	330	〈14〉
C 3-4	D25	2740	2	3.98	10.9	22	〈2〉
C 3-5	D25	3000	2	3.98	11.9	24	〃
C 3-6	D25	5290	2	3.98	21.1	42	〈2〉
C 4	D22	4920	220	3.04	15.0	3300	(220)
C 5-1	D25	2120	16	3.98	8.44	135	〈16〉
C 5-2	D25	3000	16	3.98	11.9	190	〃
C 5-3	D25	5930	16	3.98	23.6	378	〈16〉
C 6-1	D25	5830	12	3.98	23.2	278	〈12〉
C 6-2	D25	5800	12	3.98	23.1	277	〃
C 7-1	D25	5840	18	3.98	23.2	418	〈18〉
C 7-2	D25	5800	18	3.98	23.1	416	〃
C 8-1	D25	2210	14	3.98	8.80	123	〈14〉
C 8-2	D25	3000	14	3.98	11.9	167	〃
C 8-3	D25	5930	14	3.98	23.6	330	〈14〉
C 8-4	D25	2840	2	3.98	11.3	23	〈2〉
C 8-5	D25	3000	2	3.98	11.9	24	〃
C 8-6	D25	5290	2	3.98	21.1	42	〈2〉
C 9	D22	4920	222	3.04	15.0	3330	(222)
C 10-1	D25	2220	16	3.98	8.84	141	〈16〉
C 10-2	D25	3000	16	3.98	11.9	190	〃
C 10-3	D25	5930	16	3.98	23.6	378	〈16〉
					小計	12220	kg

		フレア箇所	圧接箇所		
D25	5590 kg		〈188〉		SD345
D22	6630 kg	(442)			SD345
合計	12220 kg	(442)	〈188〉		SD345
コンクリート削孔(φ18,L=58)		177	箇所	(参考)	
コンクリート削孔(φ35,L=510)		60	箇所		
フレア溶接(D22)		442	箇所		



C4 220-D22×4920



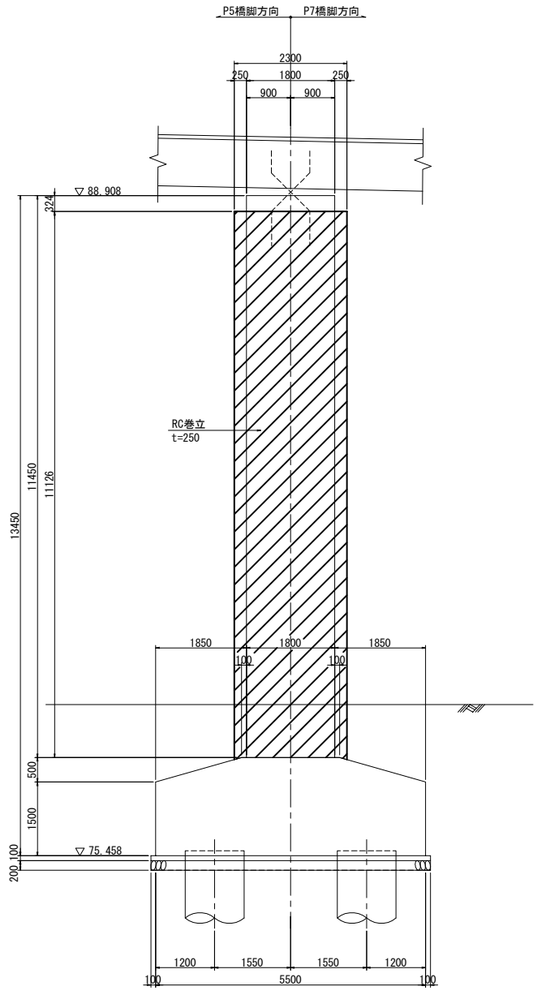
C9 222-D22×4920

注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す

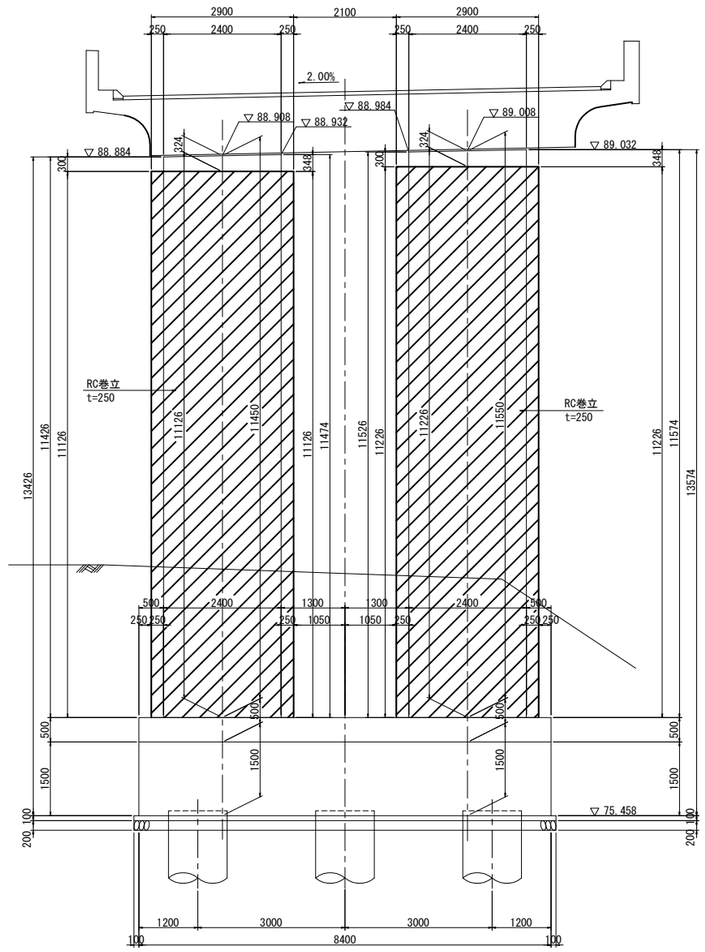
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P5橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P6橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

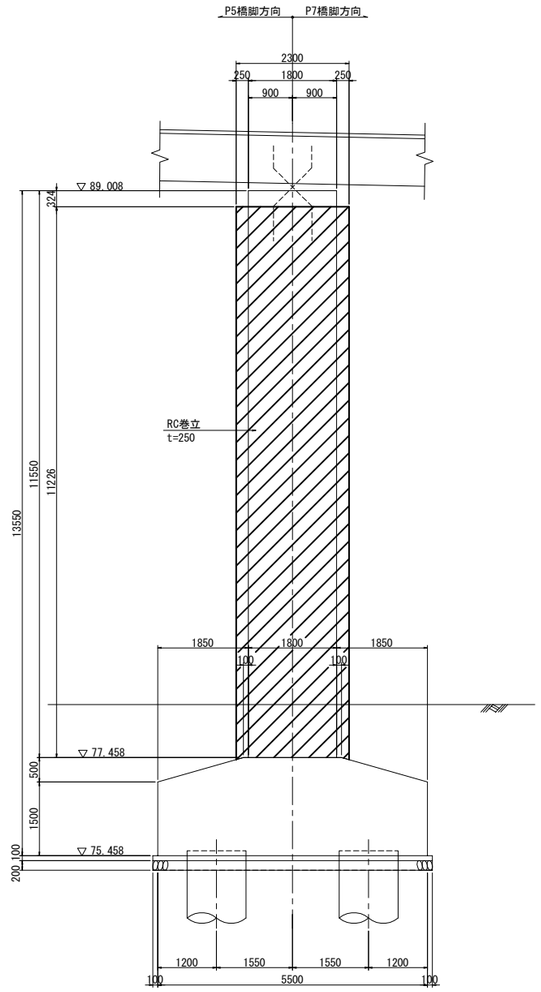
側 面 図 S=1:125



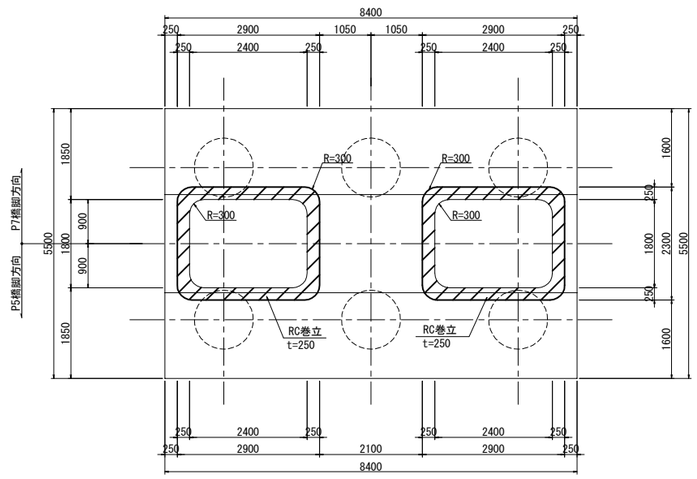
正 面 図 S=1:125



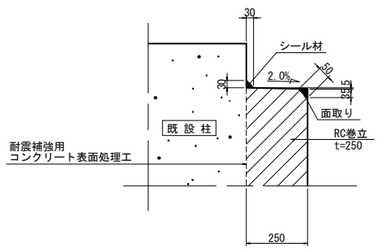
側 面 図 S=1:125



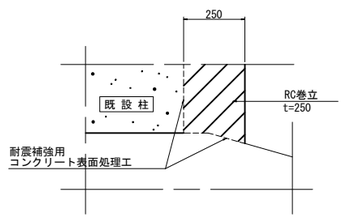
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

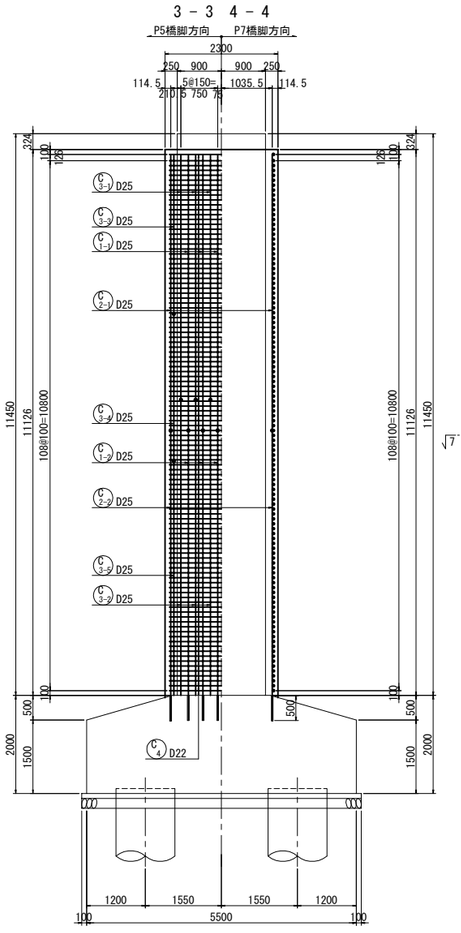
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P6橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P6橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

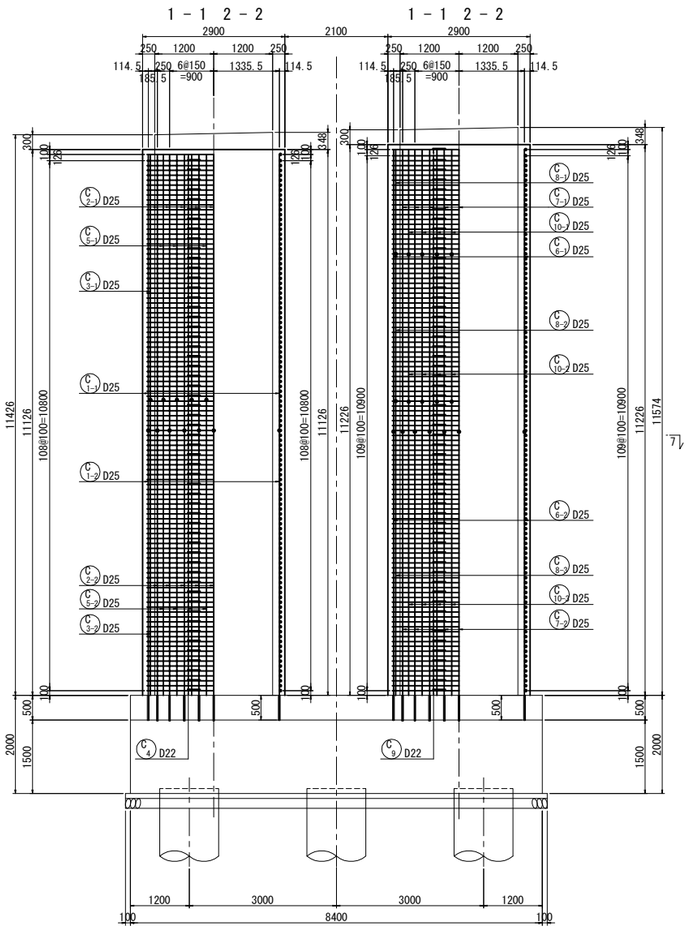
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



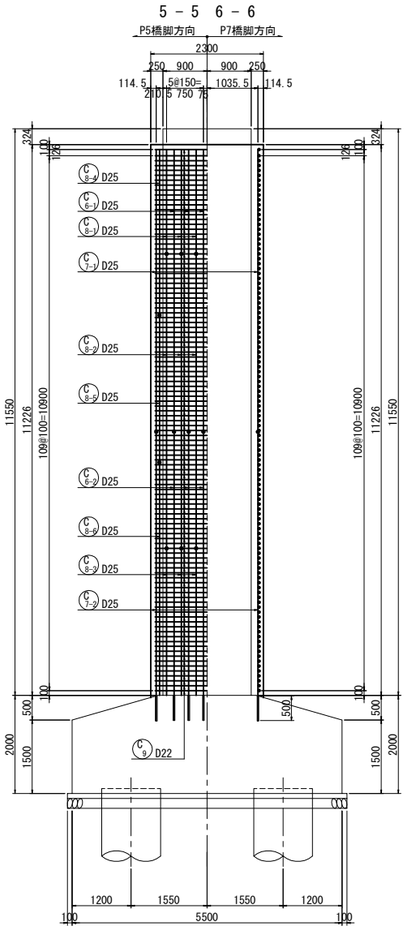
正 面 図 S=1:125

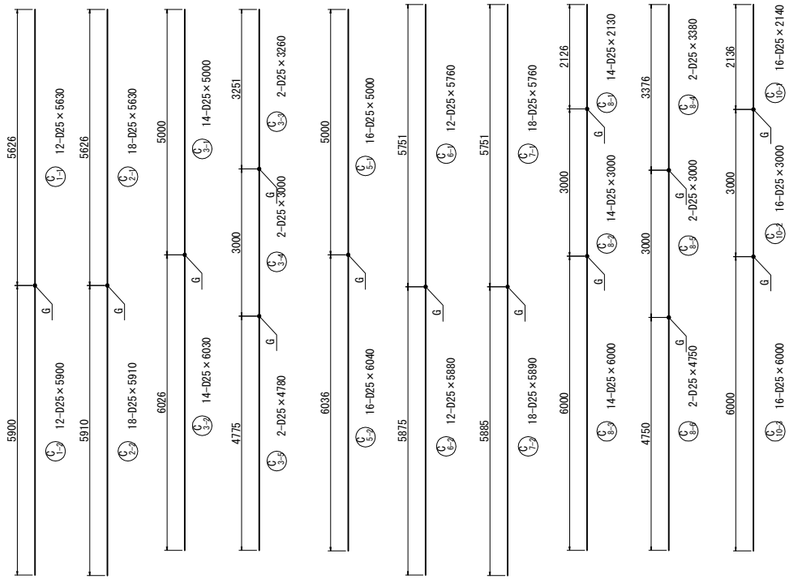
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2



側 面 図 S=1:125

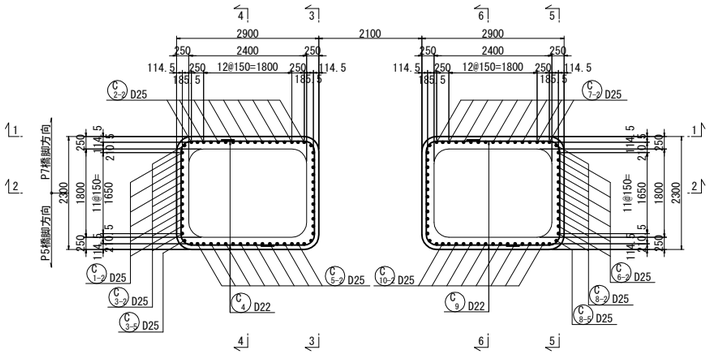
5 － 5　6 － 6



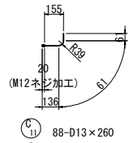


平 面 図 S=1:125

7 － 7



組立筋加工図(参考図)　S=1:50

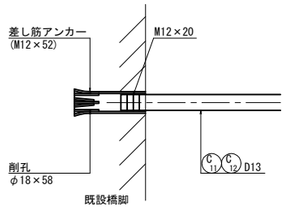


C11 88-D13×260

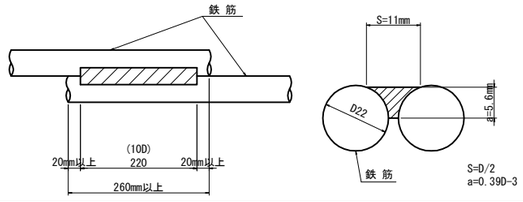
C12 89-D13×260

※1本/約1m2程度、設置する。

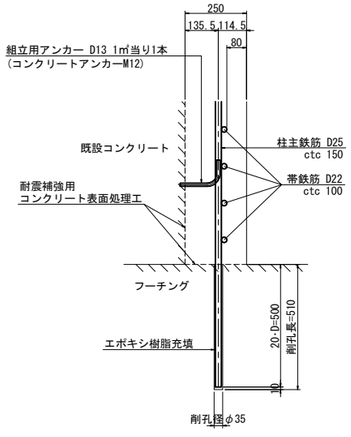
組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



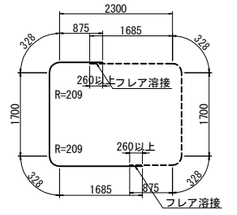
かぶり詳細図　S=1:25



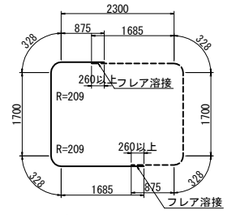
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D25	5630	12	3.98	22.4	269	〈12〉
C 1-2	D25	5900	12	3.98	23.5	282	〃
C 2-1	D25	5630	18	3.98	22.4	403	〈18〉
C 2-2	D25	5910	18	3.98	23.5	423	〃
C 3-1	D25	5000	14	3.98	19.9	279	〈14〉
C 3-2	D25	6030	14	3.98	24.0	336	〃
C 3-3	D25	3260	2	3.98	13.0	26	〈2〉
C 3-4	D25	3000	2	3.98	11.9	24	〃
C 3-5	D25	4780	2	3.98	19.0	38	〈2〉
C 4	D22	4920	220	3.04	15.0	3300	(220)
C 5-1	D25	5000	16	3.98	19.9	318	〈16〉
C 5-2	D25	6040	16	3.98	24.0	384	〃
C 6-1	D25	5760	12	3.98	22.9	275	〈12〉
C 6-2	D25	5880	12	3.98	23.4	281	〃
C 7-1	D25	5760	18	3.98	22.9	412	〈18〉
C 7-2	D25	5890	18	3.98	23.4	421	〃
C 8-1	D25	2130	14	3.98	8.48	119	〈14〉
C 8-2	D25	3000	14	3.98	11.9	167	〃
C 8-3	D25	6000	14	3.98	23.9	335	〈14〉
C 8-4	D25	3380	2	3.98	13.5	27	〈2〉
C 8-5	D25	3000	2	3.98	11.9	24	〃
C 8-6	D25	4750	2	3.98	18.9	38	〈2〉
C 9	D22	4920	222	3.04	15.0	3330	(222)
C 10-1	D25	2140	16	3.98	8.52	136	〈16〉
C 10-2	D25	3000	16	3.98	11.9	190	〃
C 10-3	D25	6000	16	3.98	23.9	382	〈16〉
					小計	12219	kg

フレア箇所			圧接箇所			
D25	5589	kg		〈158〉		SD345
D22	6630	kg	(442)			SD345
合計	12219	kg	(442)	〈158〉		SD345
コンクリート削孔(φ18, L=58)			177	箇所	(参考)	
コンクリート削孔(φ35, L=510)			60	箇所		
フレア溶接(D22)			442	箇所		



C4 220-D22×4920



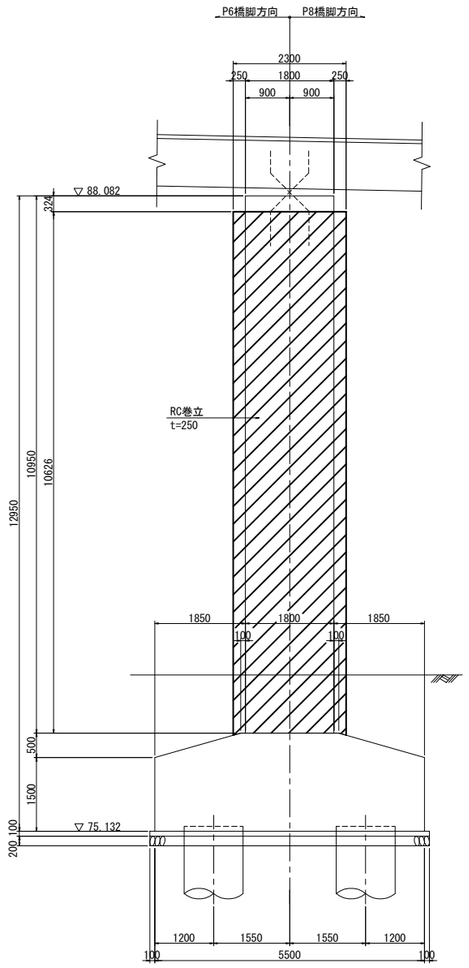
C9 222-D22×4920

注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、
既設構造物の鉄筋を切断しないように
現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等
による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す

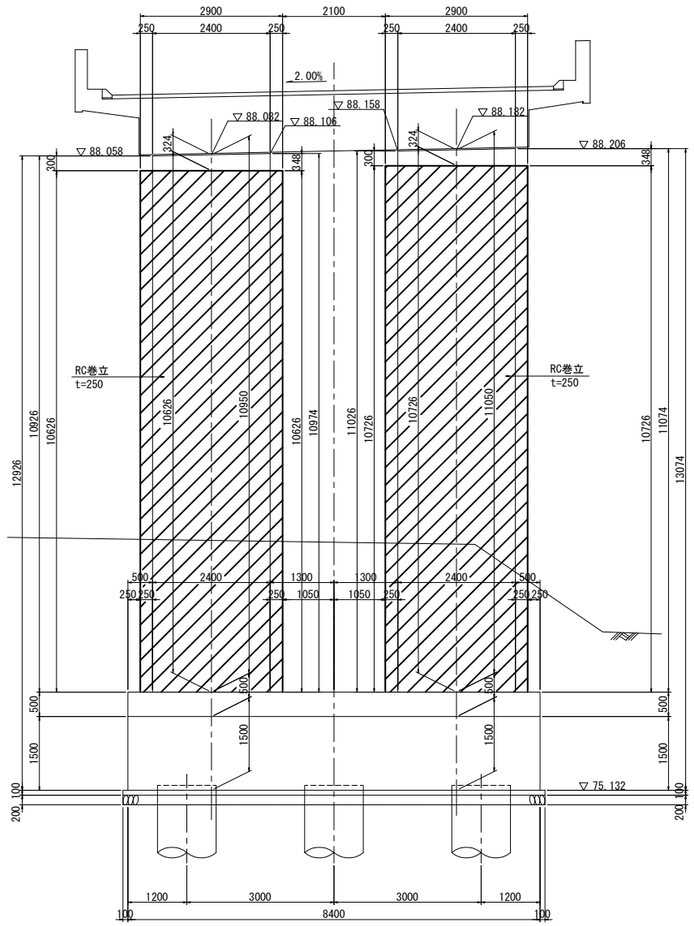
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P6橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P7橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

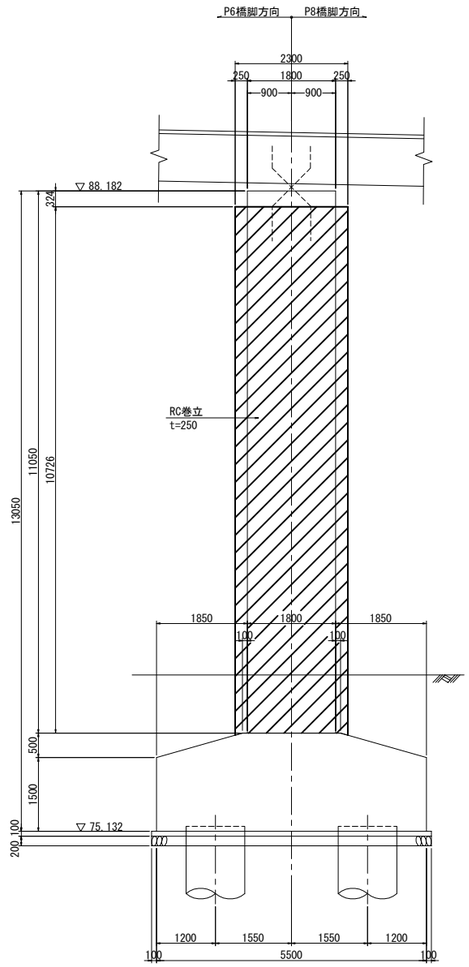
側 面 図 S=1:125



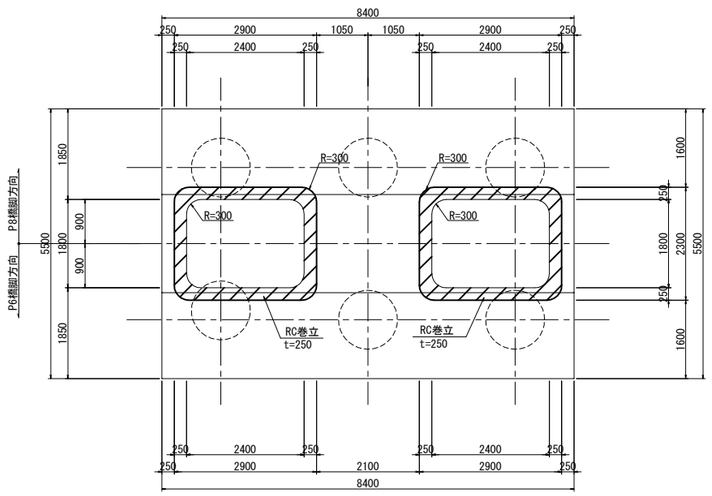
正 面 図 S=1:125



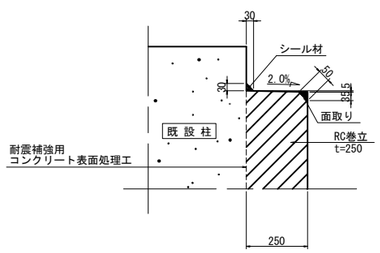
側 面 図 S=1:125



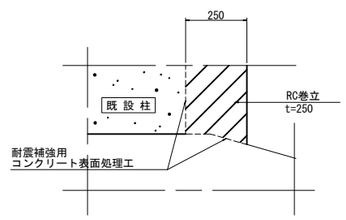
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

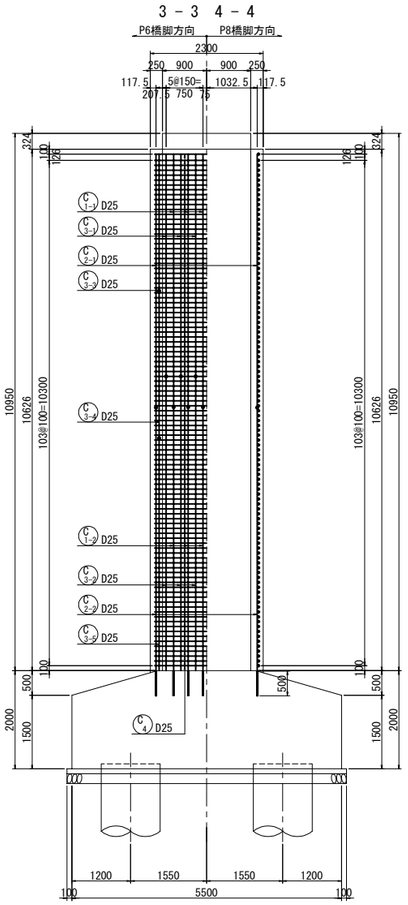
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P7橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P7橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

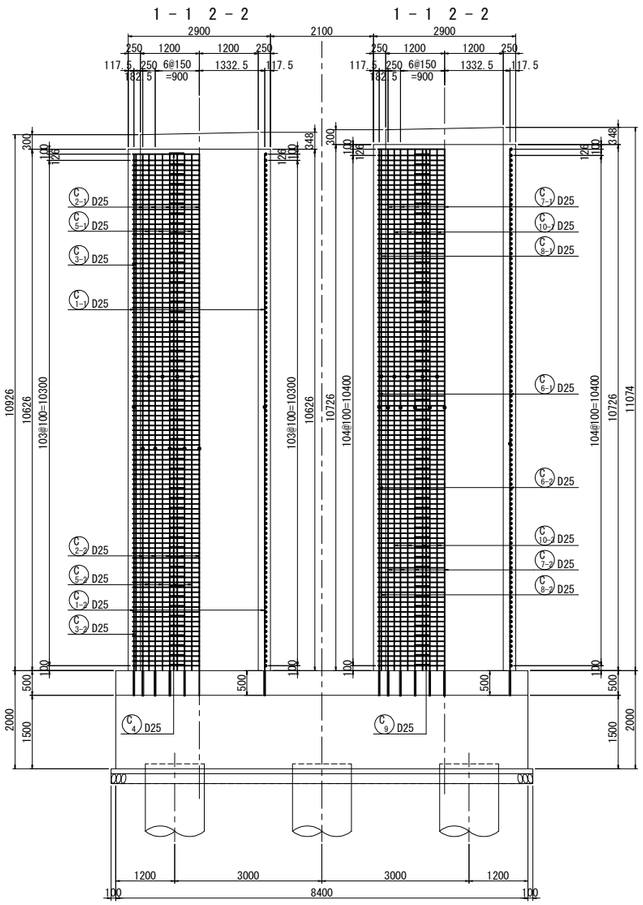
側 面 図 S=1:125

3 - 3　4 - 4



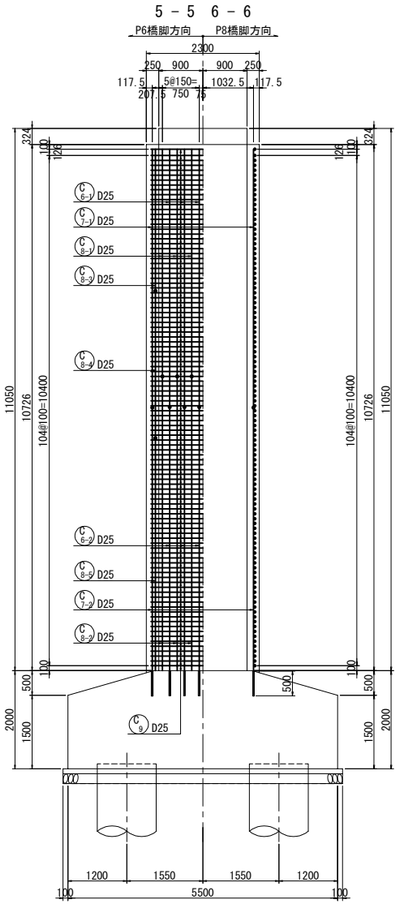
正 面 図 S=1:125

1 - 1　2 - 2　　1 - 1　2 - 2



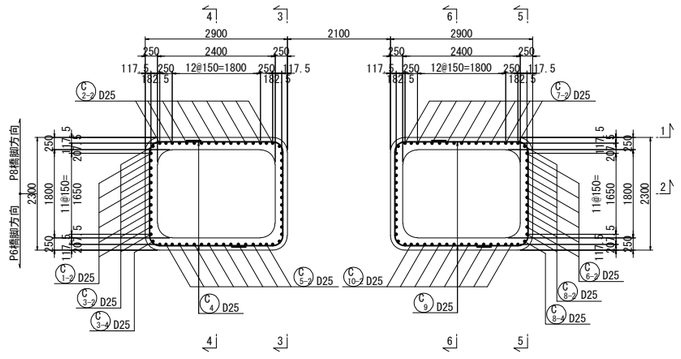
側 面 図 S=1:125

5 - 5　6 - 6

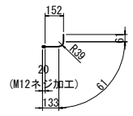


平 面 図 S=1:125

7 - 7



組立筋加工図(参考図)　S=1:50

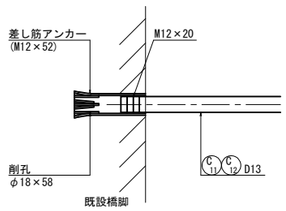


C11 84-D13×260

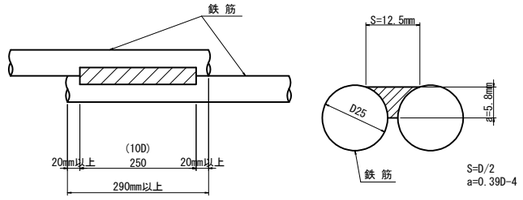
C12 85-D13×260

※1本/約1m2程度、設置する。

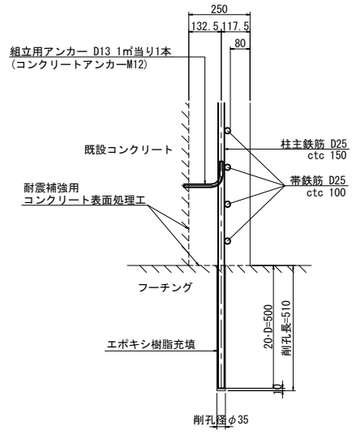
組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5

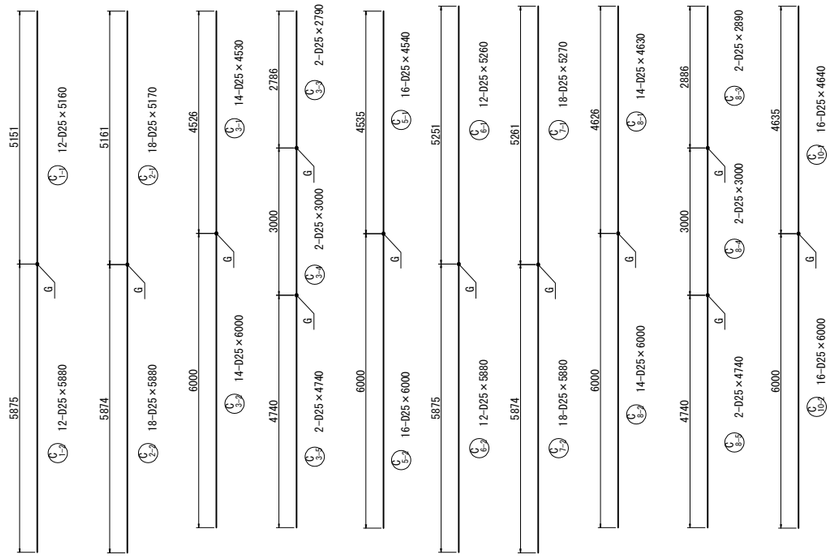


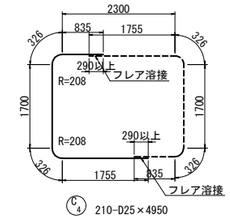
フレア溶接詳細図

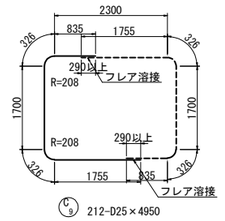


かぶり詳細図　S=1:25









鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D25	5160	12	3.98	20.5	246	↑ <12>
C 1-2	D25	5880	12	3.98	23.4	281	↓
C 2-1	D25	5170	18	3.98	20.6	371	↑ <18>
C 2-2	D25	5880	18	3.98	23.4	421	↓
C 3-1	D25	4530	14	3.98	18.0	252	↑ <14>
C 3-2	D25	6000	14	3.98	23.9	335	↓
C 3-3	D25	2790	2	3.98	11.1	22	↑ <2>
C 3-4	D25	3000	2	3.98	11.9	24	↓
C 3-5	D25	4740	2	3.98	18.9	38	↑ <2>
C 4	D25	4950	210	3.98	19.7	4137	⌐ (210)
C 5-1	D25	4540	16	3.98	18.1	290	↑ <16>
C 5-2	D25	6000	16	3.98	23.9	382	↓
C 6-1	D25	5260	12	3.98	20.9	251	↑ <12>
C 6-2	D25	5880	12	3.98	23.4	281	↓
C 7-1	D25	5270	18	3.98	21.0	378	↑ <18>
C 7-2	D25	5880	18	3.98	23.4	421	↓
C 8-1	D25	4630	14	3.98	18.4	258	↑ <14>
C 8-2	D25	6000	14	3.98	23.9	335	↓
C 8-3	D25	2890	2	3.98	11.5	23	↑ <2>
C 8-4	D25	3000	2	3.98	11.9	24	↓
C 8-5	D25	4740	2	3.98	18.9	38	↑ <2>
C 9	D25	4950	212	3.98	19.7	4176	⌐ (212)
C 10-1	D25	4640	16	3.98	18.5	296	↑ <16>
C 10-2	D25	6000	16	3.98	23.9	382	↓
					小計	13662	kg

			フレア箇所	圧接箇所	
D25	13662	kg	(422)	<128>	SD345
合計	13662	kg	(422)	<128>	SD345

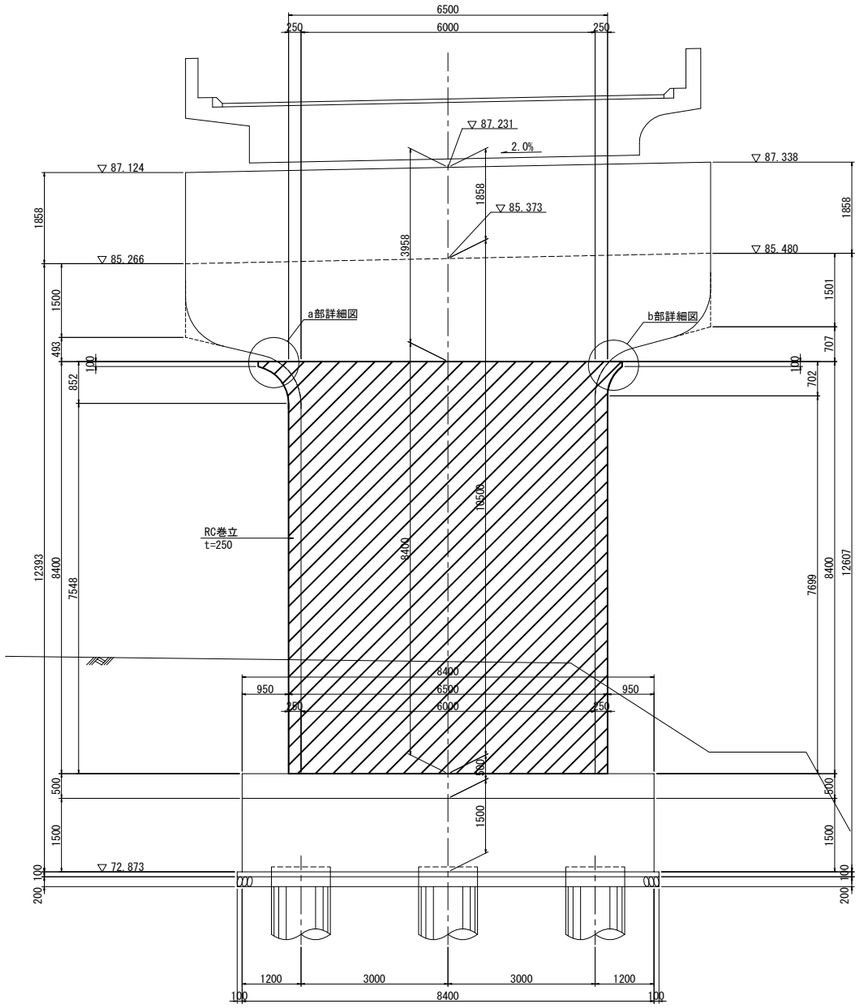
コンクリート削孔(φ18,L=58)	169	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ35,L=510)	60	箇所	
フレア溶接(D25)	422	箇所	

注)1.施工前に既設形状寸法を確認すること。
2.アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3.補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4.Gはガス圧接位置を示す

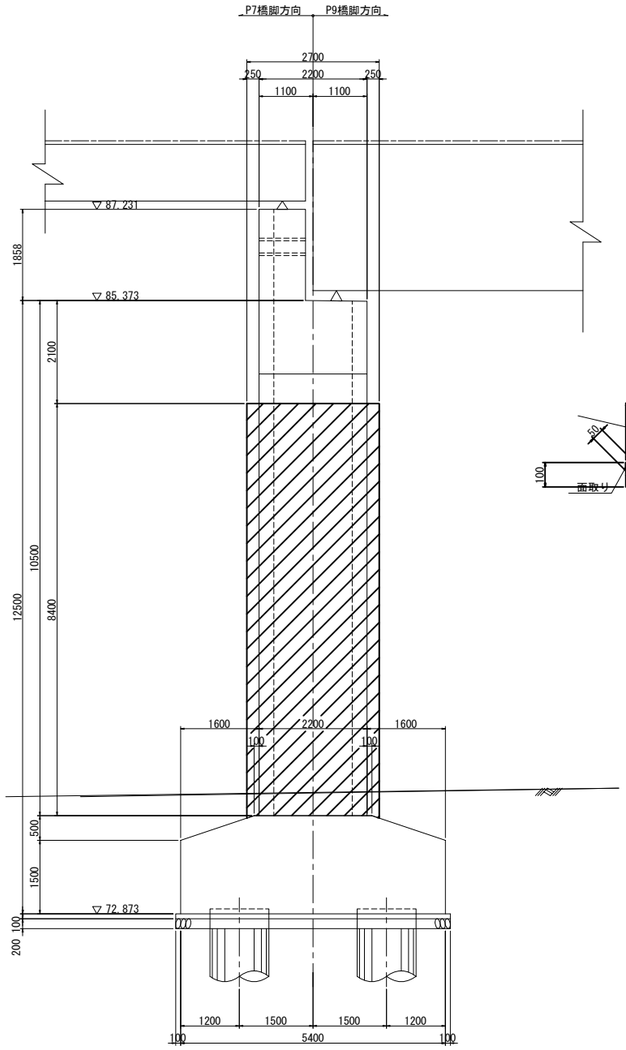
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P7橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P8橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

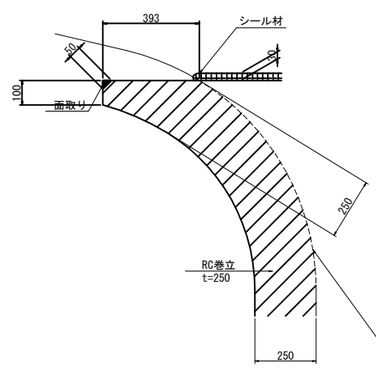
正 面 図 S=1:125



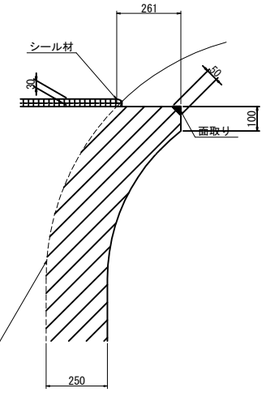
側 面 図 S=1:125



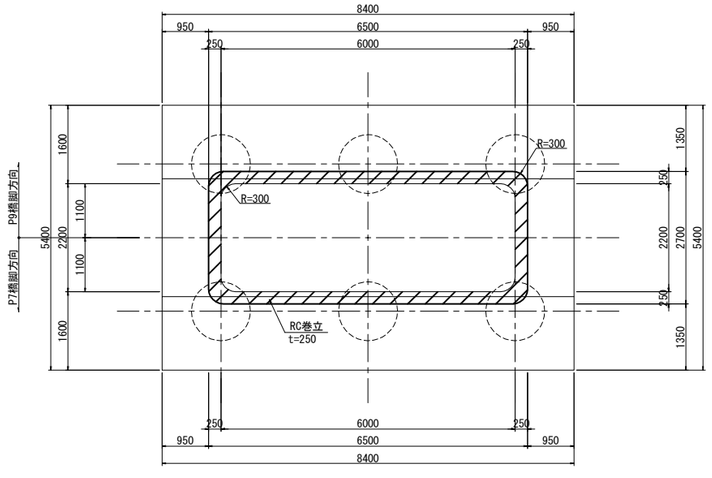
a部詳細図 S=1:25



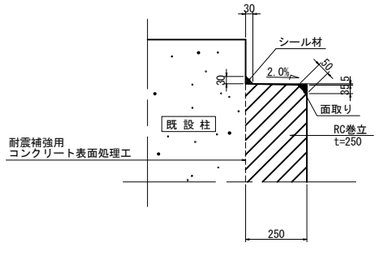
b部詳細図 S=1:25



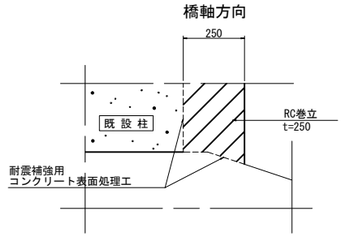
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

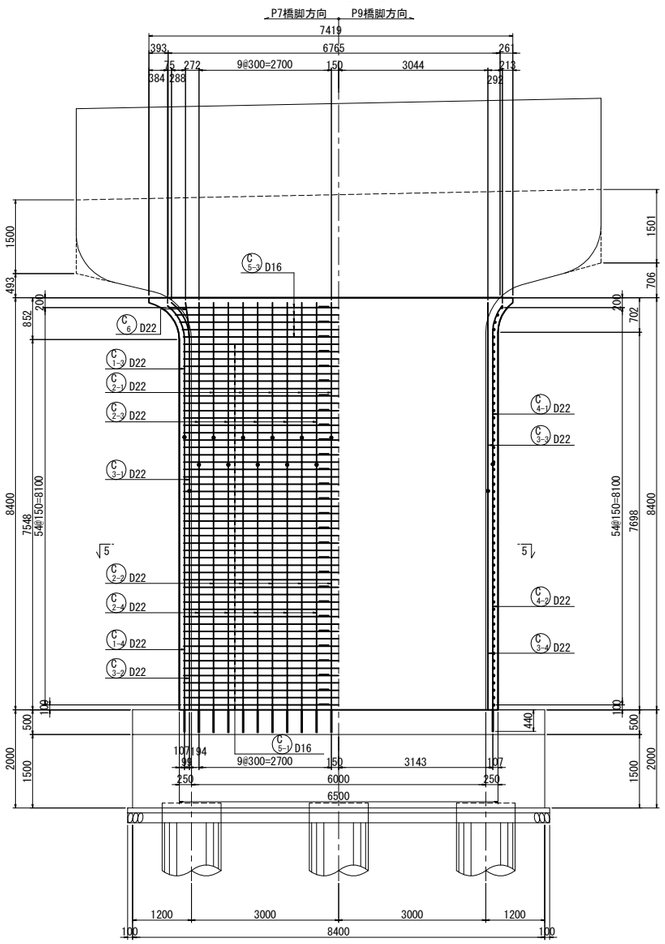
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P8橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P8橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

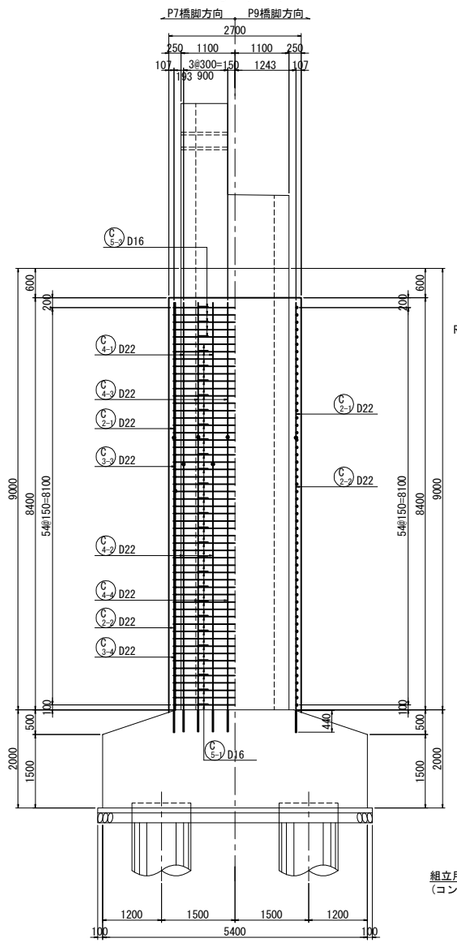
正 面 図 S=1:125

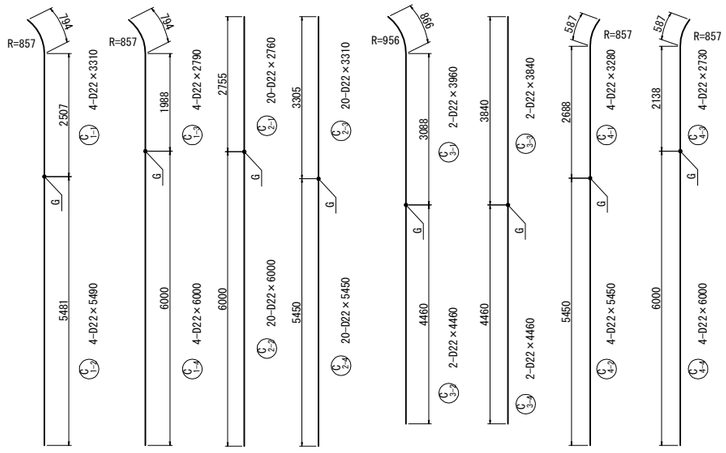
1 － 1　2 － 2

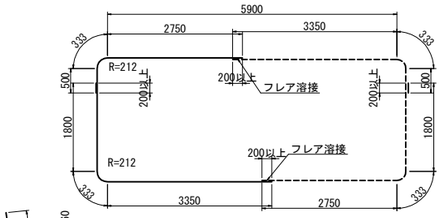


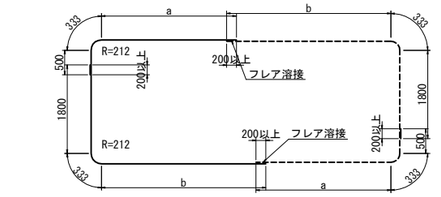
側 面 図 S=1:125

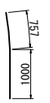
3 － 3　4 － 4

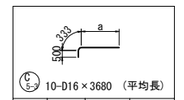




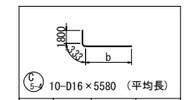






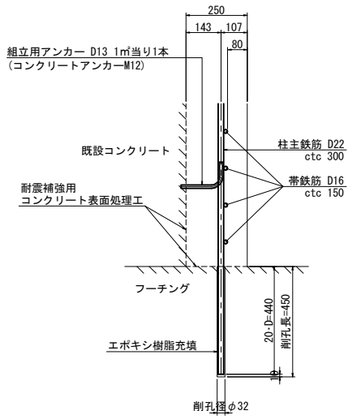


符号	本数	a	L
1	2	2989	3830
2	2	2872	3710
3	2	2801	3640
4	2	2763	3600
5	2	2751	3590
平均長	10		3680



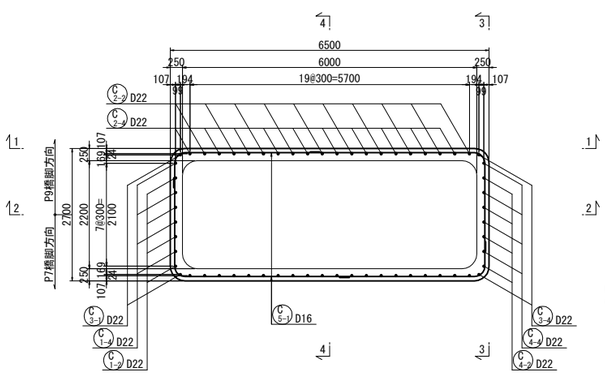
符号	本数	b	L
1	2	3589	5730
2	2	3472	5610
3	2	3401	5540
4	2	3363	5500
5	2	3351	5490
平均長	10		5580

かぶり詳細図　S=1:25

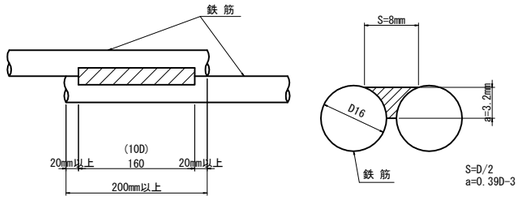


平 面 図 S=1:125

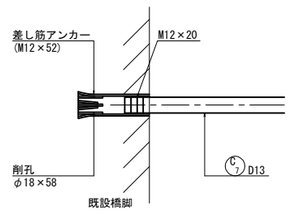
5 － 5



フレア溶接詳細図



組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



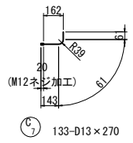
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3310	4	3.04	10.1	40	<4>
C 1-2	D22	5490	4	3.04	16.7	67	
C 1-3	D22	2790	4	3.04	8.48	34	<4>
C 1-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	
C 2-1	D22	2760	20	3.04	8.39	168	<20>
C 2-2	D22	6000	20	3.04	18.2	364	
C 2-3	D22	3310	20	3.04	10.1	202	<20>
C 2-4	D22	5450	20	3.04	16.6	332	
C 3-1	D22	3960	2	3.04	12.0	24	<2>
C 3-2	D22	4460	2	3.04	13.6	27	
C 3-3	D22	3840	2	3.04	11.7	23	<2>
C 3-4	D22	4460	2	3.04	13.6	27	
C 4-1	D22	3280	4	3.04	9.97	40	<4>
C 4-2	D22	5450	4	3.04	16.6	66	
C 4-3	D22	2730	4	3.04	8.30	33	<4>
C 4-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	
C 5-1	D16	3590	100	1.56	5.60	560	(100)
C 5-2	D16	5490	100	1.56	8.56	856	(100)
C 5-3	D16	3680	10	1.56	5.74	57	(10) (平均長)
C 5-4	D16	5580	10	1.56	8.70	87	(10) (平均長)
C 6	D22	1760	2	3.04	5.35	11	
					小計	3164	kg

フレア箇所	圧接箇所				
D22	1604	kg		<60>	SD345
D16	1560	kg	(220)		SD345
合計	3164	kg	(220)	<60>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	133	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	56	箇所	
フレア溶接(D16)	220	箇所	

組立筋加工図(参考図)　S=1:50



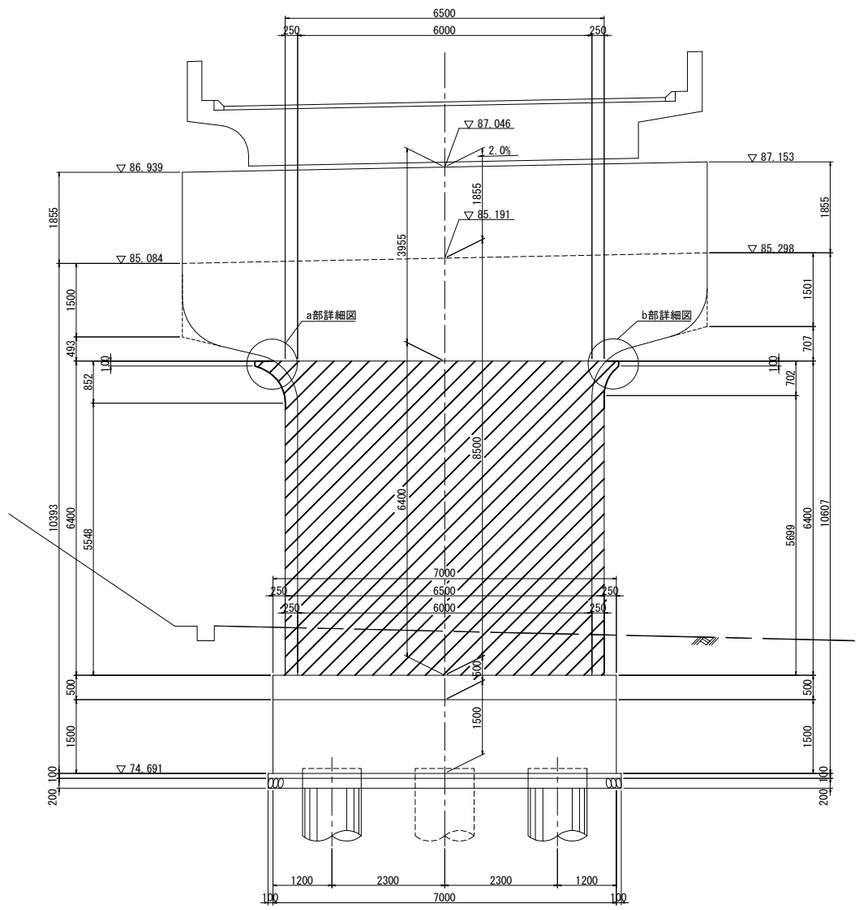
※1本/約1m2程度、設置する。

注)1.施工前に既設形状寸法を確認すること。
2.アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、
既設構造物の鉄筋を切断しないように
現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等
による調査を実施し、確認すること。
3.補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4.GIはガス圧接位置を示す

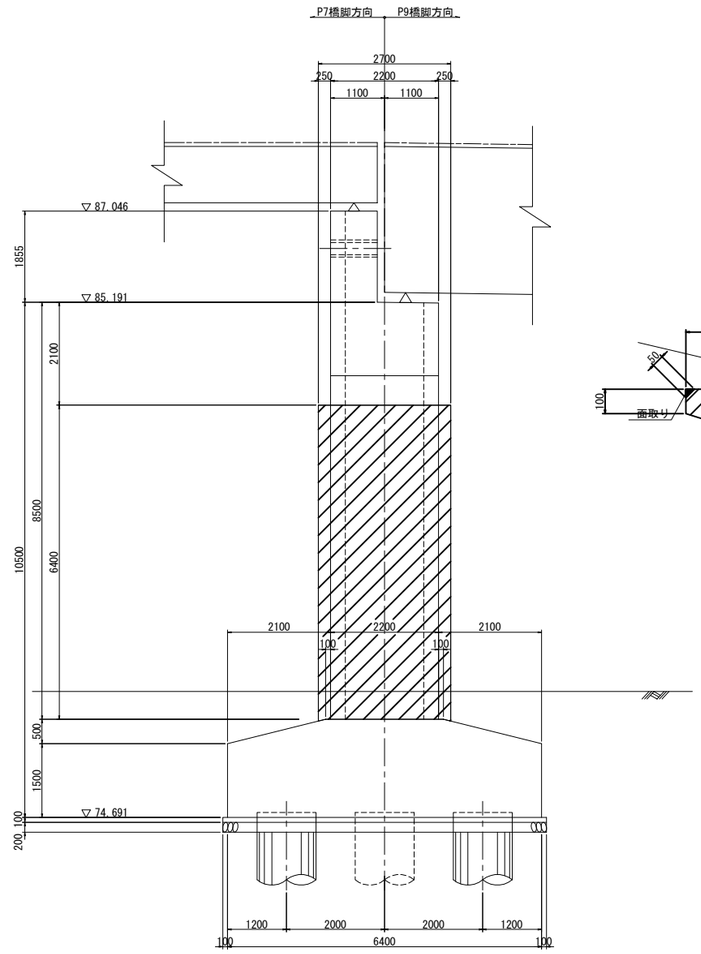
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事				
図面の種類	入間川高架橋 P8橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）			
縮 尺	図示	図面番号	/	
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所			

P8橋脚 RC巻立て補強一般図（下り線）S=図示

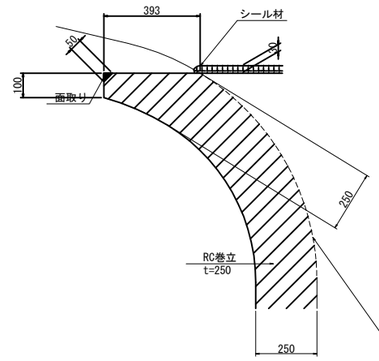
正 面 図 S=1:125



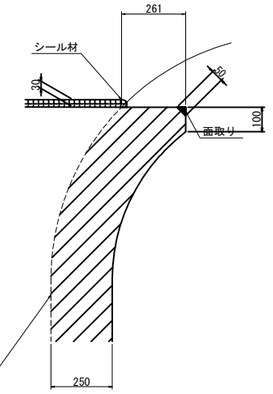
側 面 図 S=1:125



a部詳細図 S=1:25

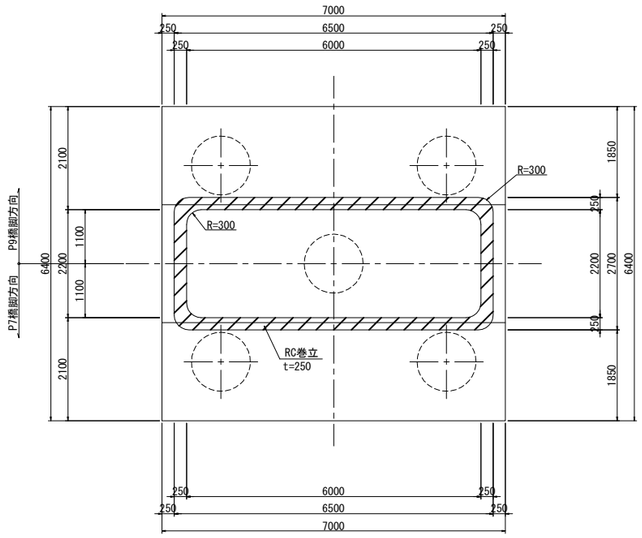


b部詳細図 S=1:25

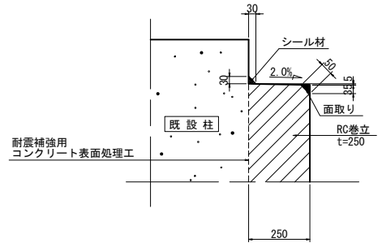


耐震補強用
コンクリート表面処理工

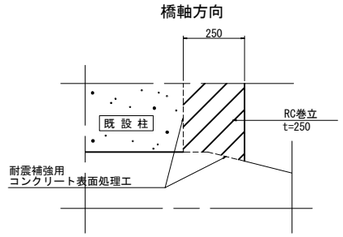
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

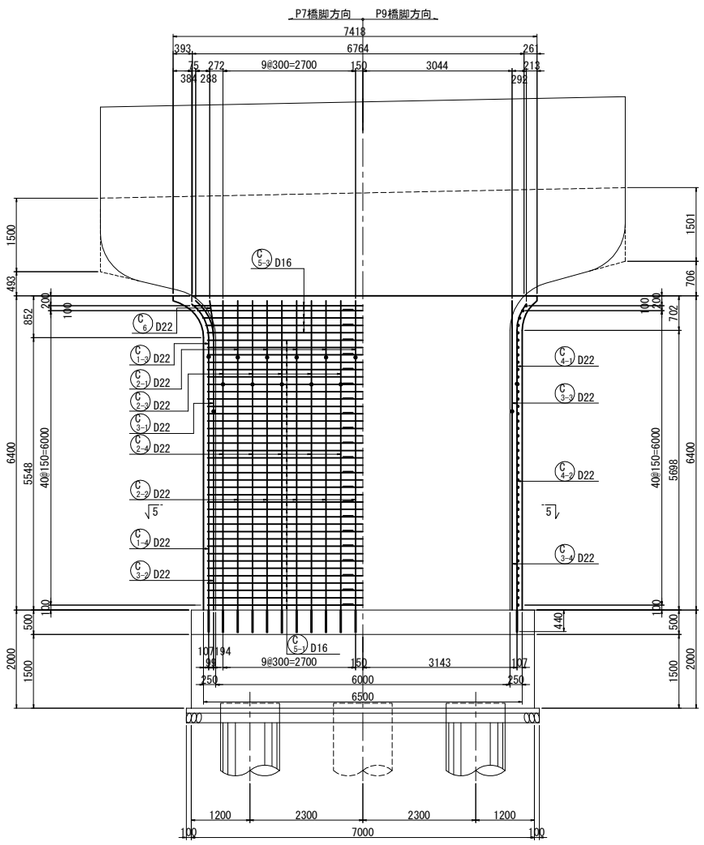
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P8橋脚 RC巻立て補強一般図（下り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P8橋脚 RC巻立て補強配筋図（下り線）S=図示

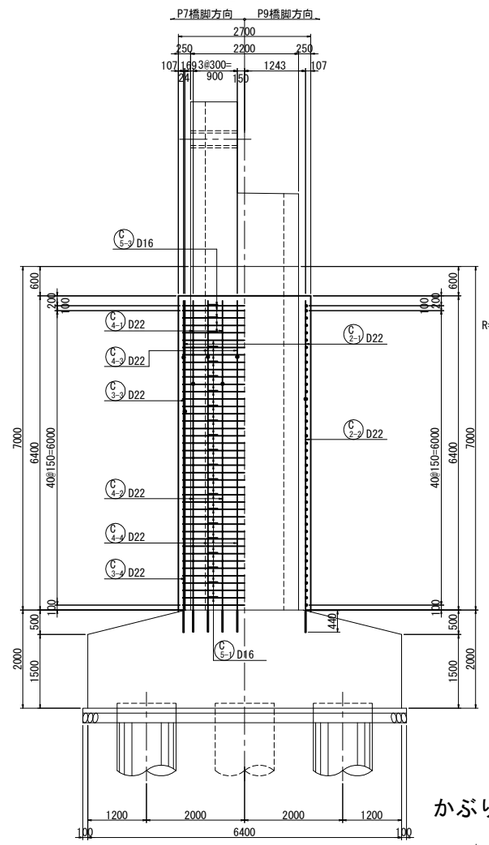
正 面 図 S=1:125

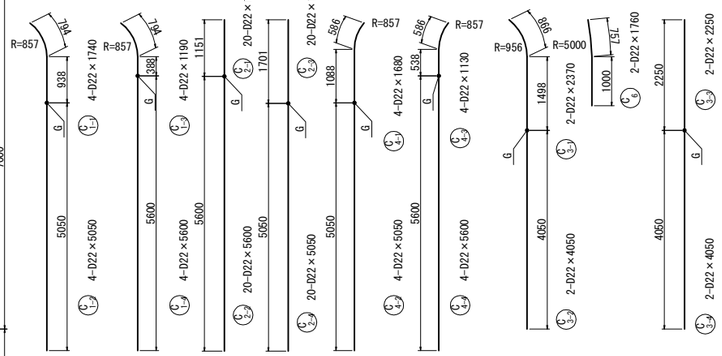
1 － 1　2 － 2

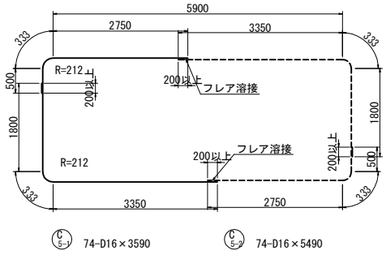


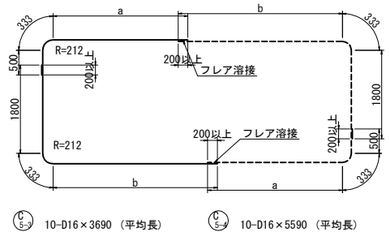
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4









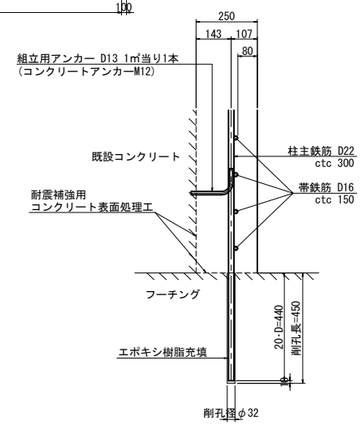


符号	本数	a	L
1	2	2989	3830
2	2	2905	3740
3	2	2821	3660
4	2	2773	3610
5	2	2753	3590
平均長	10		3690



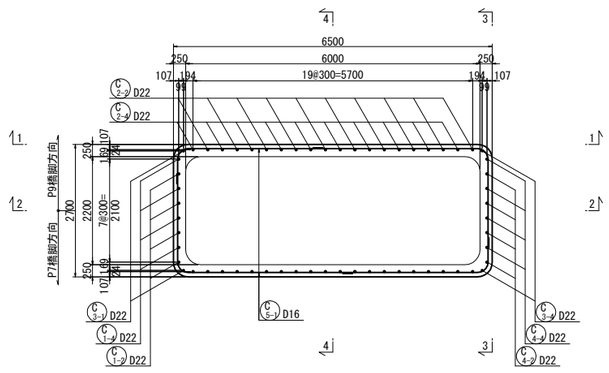
符号	本数	b	L
1	2	3589	5730
2	2	3505	5640
3	2	3421	5560
4	2	3373	5510
5	2	3353	5490
平均長	10		5590

かぶり詳細図　S=1:25

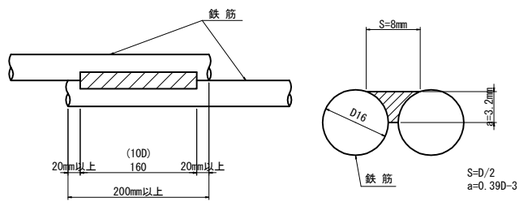


平 面 図 S=1:125

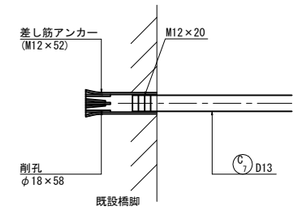
5 － 5



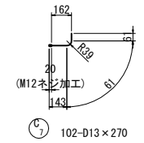
フレア溶接詳細図



組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



組立筋加工図(参考図)　S=1:50



鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	1740	4	3.04	5.29	21	<4>
C 1-2	D22	5050	4	3.04	15.4	62	
C 1-3	D22	1190	4	3.04	3.62	14	<4>
C 1-4	D22	5600	4	3.04	17.0	68	
C 2-1	D22	1160	20	3.04	3.53	71	
C 2-2	D22	5600	20	3.04	17.0	340	<20>
C 2-3	D22	1710	20	3.04	5.20	104	
C 2-4	D22	5050	20	3.04	15.4	308	<20>
C 3-1	D22	2370	2	3.04	7.20	14	<2>
C 3-2	D22	4050	2	3.04	12.3	25	
C 3-3	D22	2250	2	3.04	6.84	14	<2>
C 3-4	D22	4050	2	3.04	12.3	25	
C 4-1	D22	1680	4	3.04	5.11	20	<4>
C 4-2	D22	5050	4	3.04	15.4	62	
C 4-3	D22	1130	4	3.04	3.44	14	<4>
C 4-4	D22	5600	4	3.04	17.0	68	
C 5-1	D16	3590	74	1.56	5.60	414	(74)
C 5-2	D16	5490	74	1.56	8.56	633	(74)
C 5-3	D16	3690	10	1.56	5.76	58	(10) (平均長)
C 5-4	D16	5590	10	1.56	8.72	87	(10) (平均長)
C 6	D22	1760	2	3.04	5.35	11	
					小計	2433	kg

フレア箇所	圧接箇所			
D22	1241	kg	<60>	SD345
D16	1192	kg	(168)	SD345
合計	2433	kg	(168) <60>	SD345
コンクリート削孔(φ18,L=58)	102	箇所	(参考)	
コンクリート削孔(φ32,L=450)	56	箇所		
フレア溶接(D16)	168	箇所		

※1本/約1m2程度、設置する。

注)1.施工前に既設形状寸法を確認すること。

2.アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

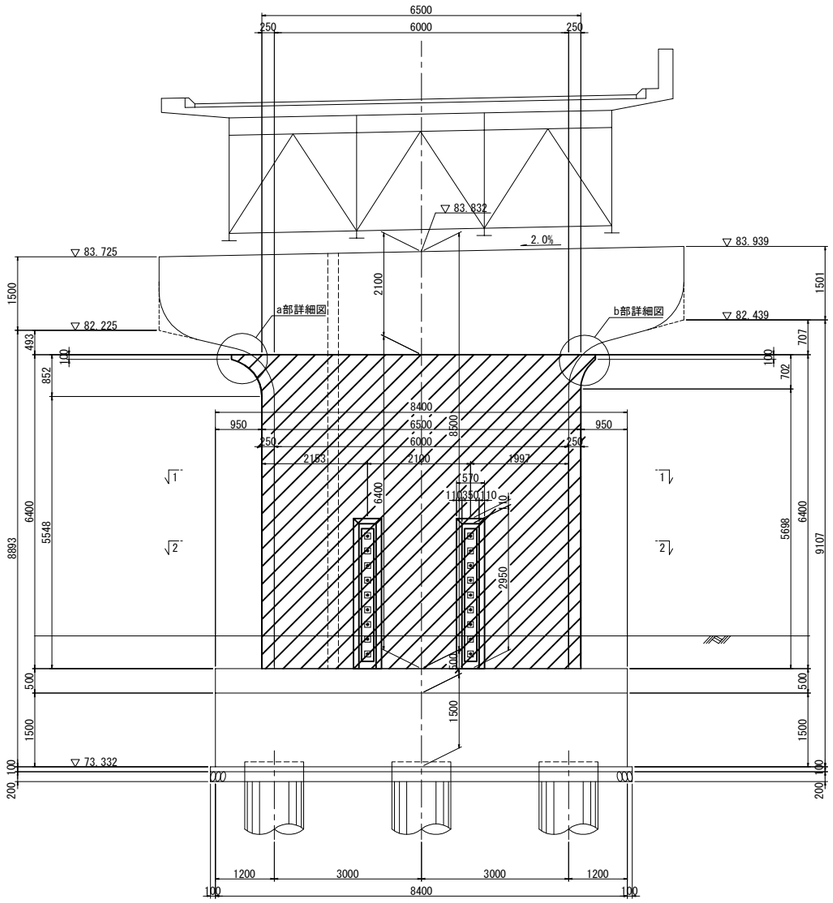
3.補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

4.Gはガス圧接位置を示す

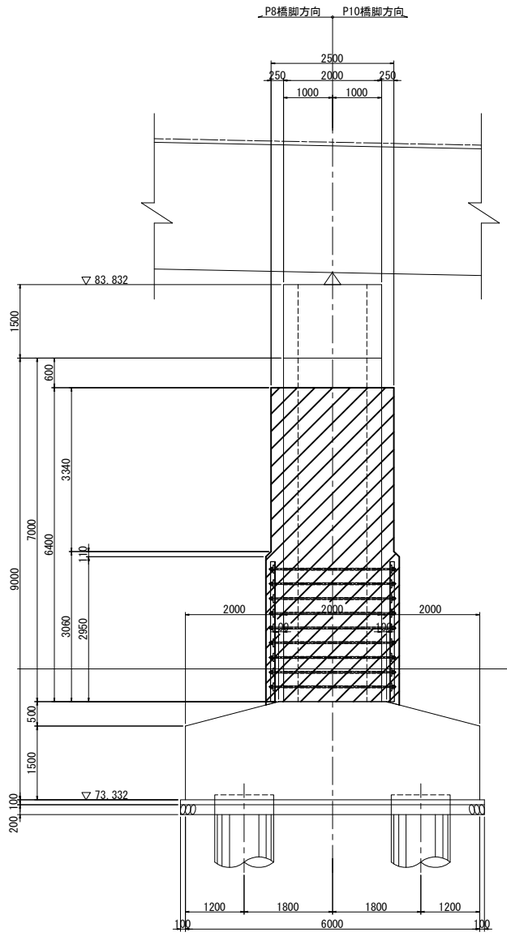
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P8橋脚 RC巻立て補強配筋図（下り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P9橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

正 面 図 S=1:125

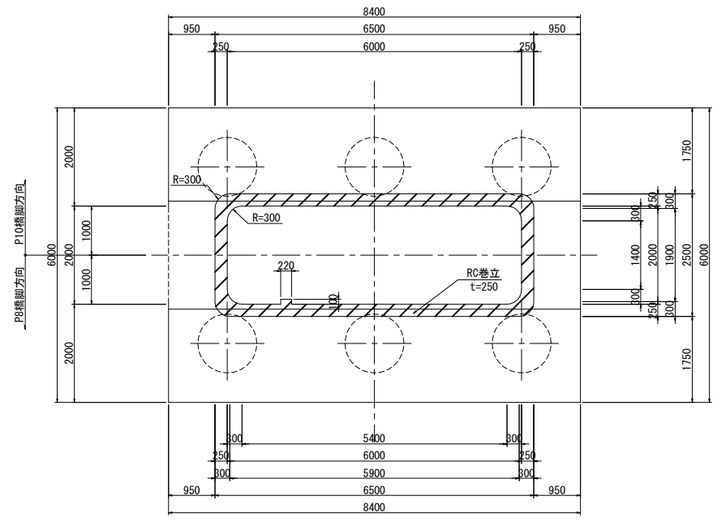


側 面 図 S=1:125

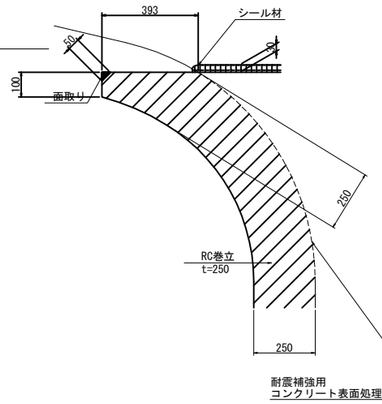


平 面 図 S=1:125

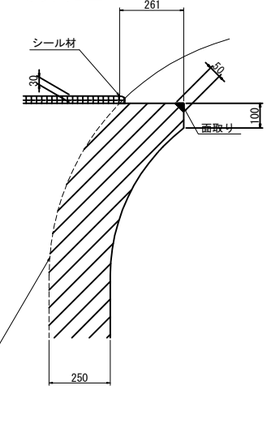
1 － 1



a部詳細図 S=1:25

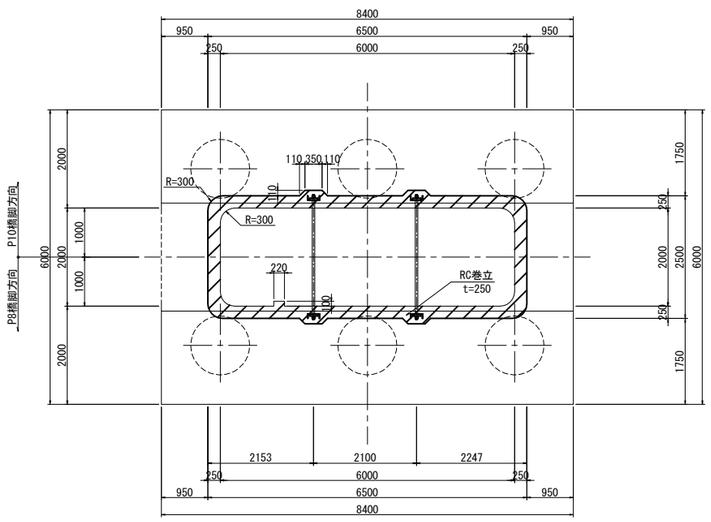


b部詳細図 S=1:25

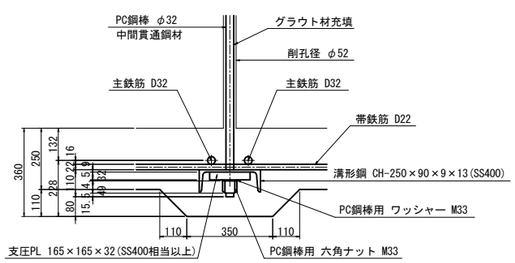


平 面 図 S=1:125

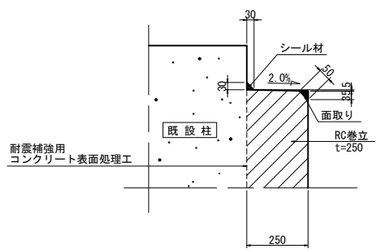
2 － 2



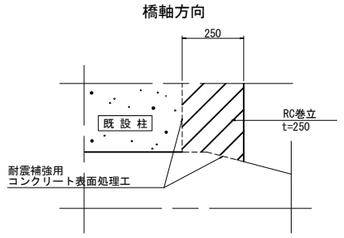
中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工 種		仕 様
既 設 部	コンクリート	24N/mm2
	鉄 筋	SD345
補 強 部	コンクリート	30N/mm2
	鉄 筋	SD345

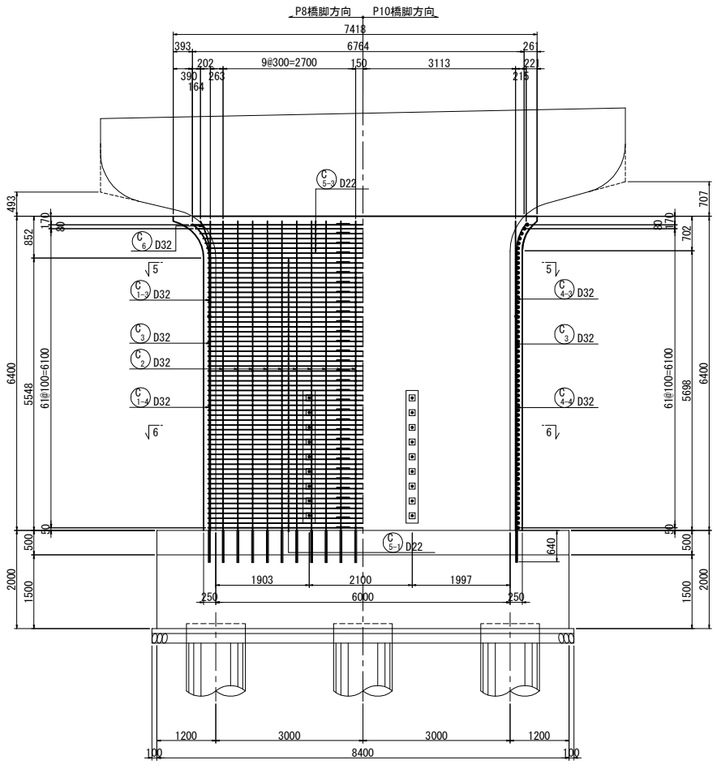
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P9橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P9橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）（その１） S=図示

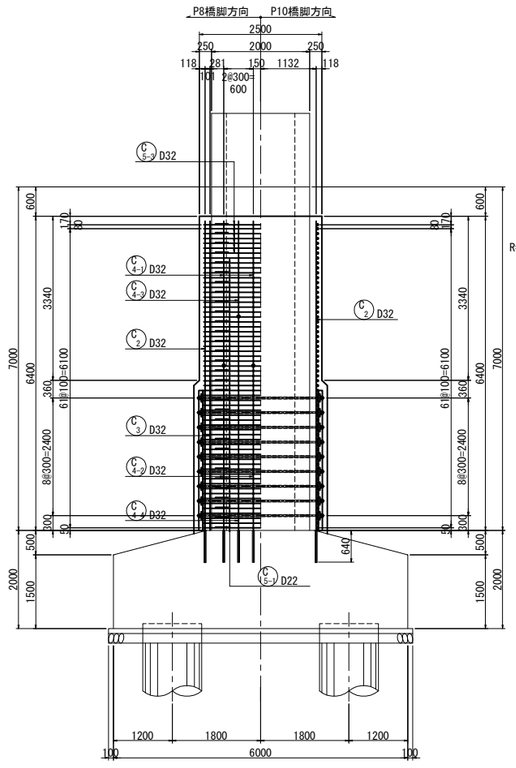
正 面 図 S=1:125

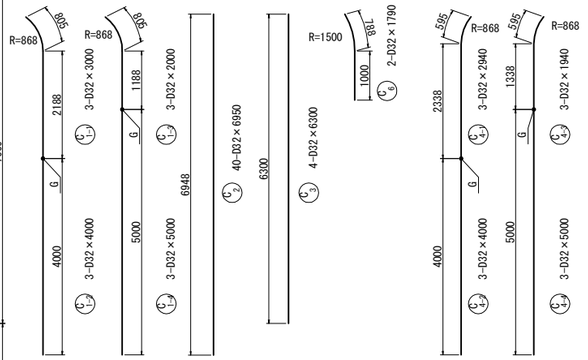
1 － 1　2 － 2

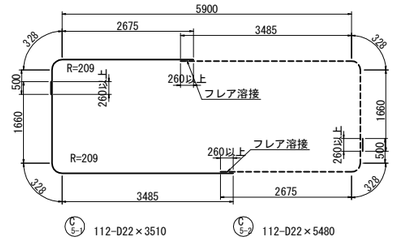


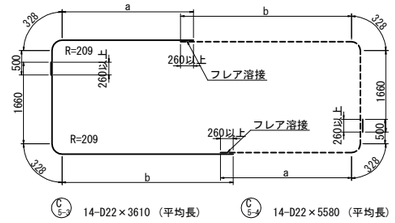
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4







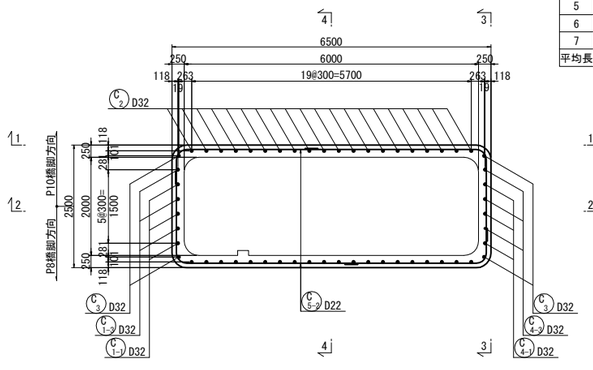


符号	本数	a	L
1	2	2944	3780
2	2	2868	3700
3	2	2797	3630
4	2	2746	3580
5	2	2710	3540
6	2	2688	3520
7	2	2678	3510
平均長	14		3610

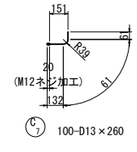
符号	本数	b	L
1	2	3754	5750
2	2	3678	5670
3	2	3607	5600
4	2	3556	5550
5	2	3520	5510
6	2	3498	5490
7	2	3488	5480
平均長	14		5580

平 面 図 S=1:125

5 － 5



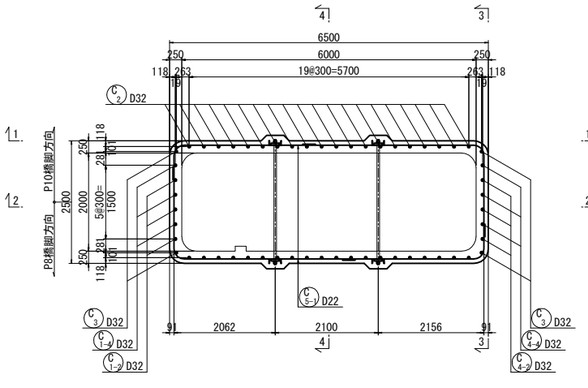
組立筋加工図(参考図) S=1:50



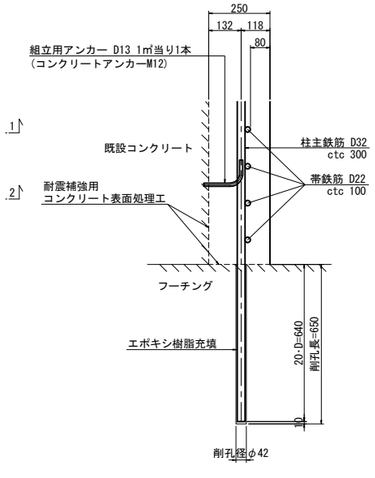
※1本/約1m2程度、設置する。

平 面 図 S=1:125

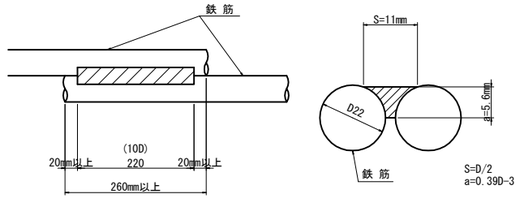
6 － 6



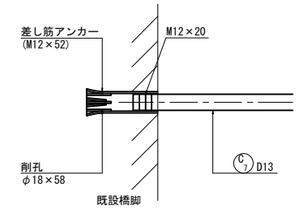
かぶり詳細図 S=1:25



フレア溶接詳細図



組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5

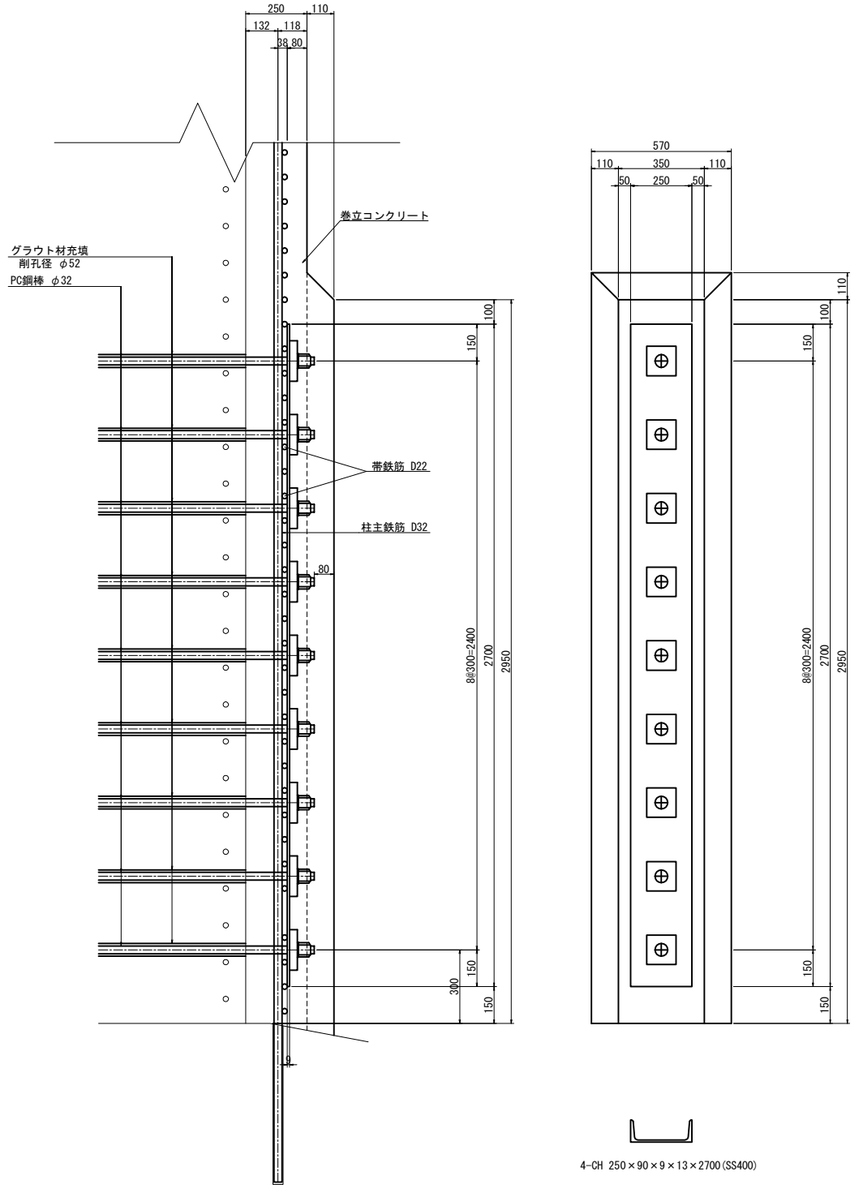


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋と中間貫通鋼材の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す

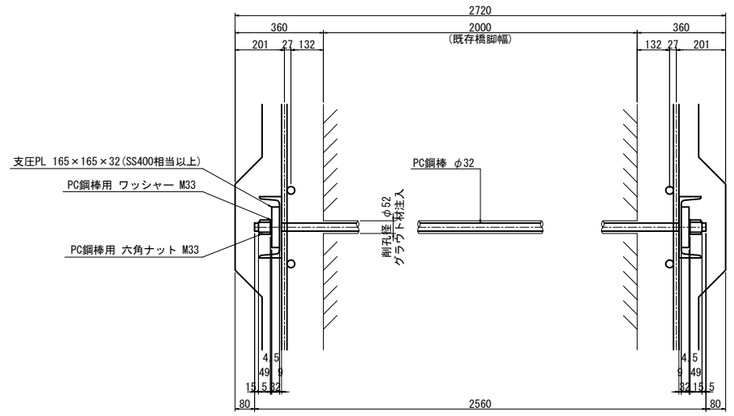
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P9橋脚 RC巻立て補強配筋図 （上り線） （その１）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P9橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）（その２） S=図示

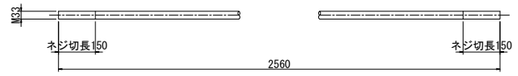
中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



PC鋼棒(中間拘束具)詳細図 S=1:25

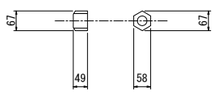


PC鋼棒詳細



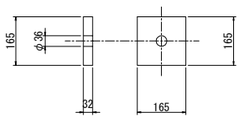
18-PC鋼棒 φ32×2560(SBPR930/1080)

ナット詳細



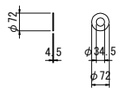
36-ナット M33(S45C)

アンカープレート詳細



36-PL 165×32×165(SS400)

ワッシャー詳細



36-ワッシャー M33(SS400)

鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D32	3000	3	6.23	18.7	56	ヽ
C 1-2	D32	4000	3	6.23	24.9	75	↑ <3>
C 1-3	D32	2000	3	6.23	12.5	38	ヽ
C 1-4	D32	5000	3	6.23	31.2	94	↑ <3>
C 2	D32	6950	40	6.23	43.3	1732	｜
C 3	D32	6300	4	6.23	39.2	157	｜
C 4-1	D32	2940	3	6.23	18.3	55	ｒ
C 4-2	D32	4000	3	6.23	24.9	75	↑ <3>
C 4-3	D32	1940	3	6.23	12.1	36	ｒ
C 4-4	D32	5000	3	6.23	31.2	94	↑ <3>
C 5-1	D22	3510	112	3.04	10.7	1198	⊏ (112)
C 5-2	D22	5480	112	3.04	16.7	1870	⊏ (112)
C 5-3	D22	3610	14	3.04	11.0	154	⊏ (14) (平均長)
C 5-4	D22	5580	14	3.04	17.0	238	⊏ (14) (平均長)
C 6	D32	1790	2	6.23	11.2	22	ヽ
					小計	5894	kg

			フレア箇所	圧接箇所	
D32	2434	kg		<12>	SD345
D22	3460	kg	(252)		SD345
合計	5894	kg	(252)	<12>	SD345

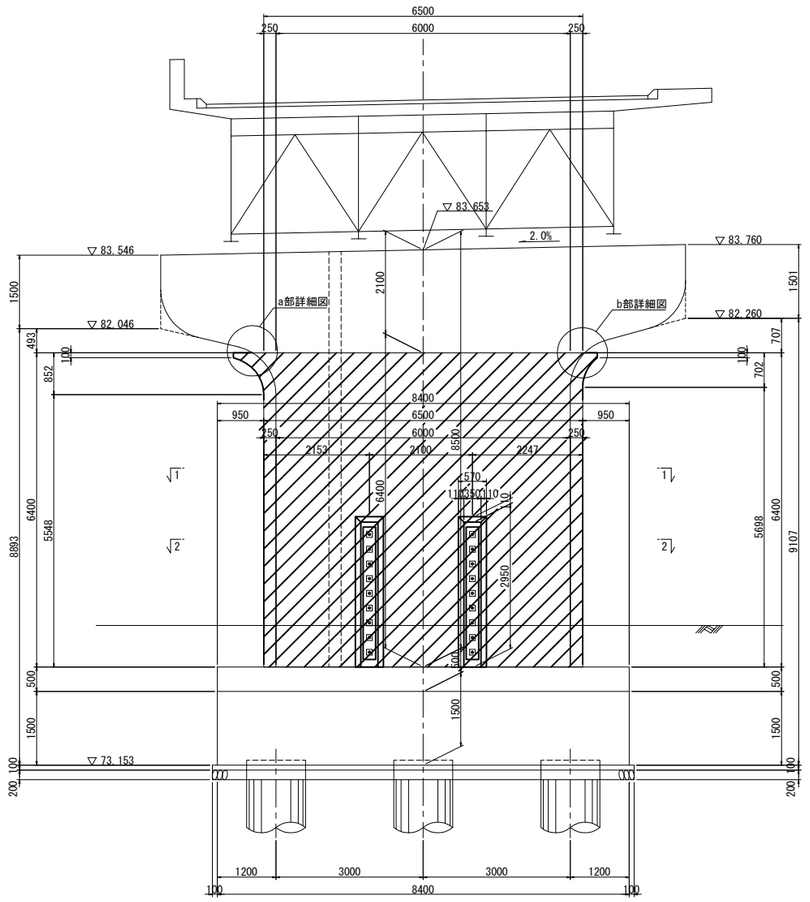
コンクリート削孔(φ18,L=58)	100	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ42,L=650)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	252	箇所	

注)1.施工前に既設形状寸法を確認すること。
2.アンカー定着鉄筋と中間貫通鋼材の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3.補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4.Gはガス圧接位置を示す

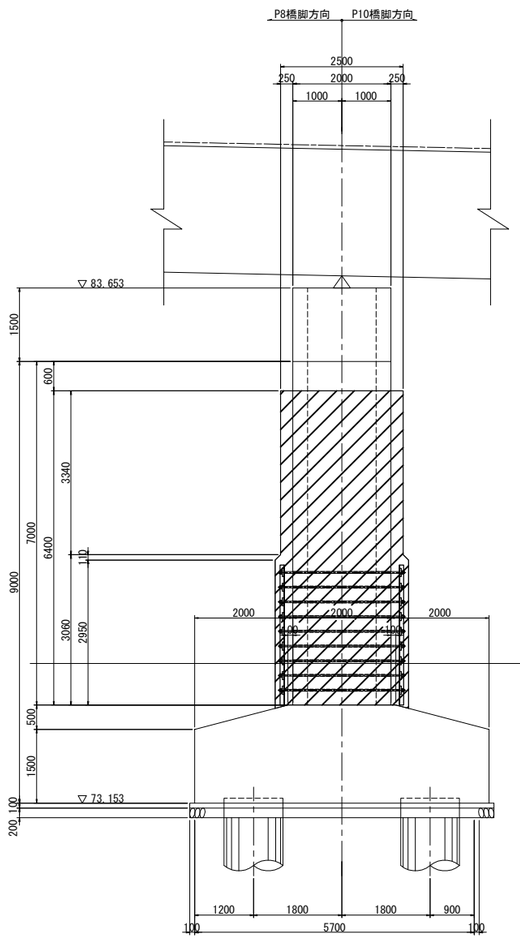
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P9橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線) (その２)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P9橋脚 RC巻立て補強一般図（下り線）S=図示

正 面 図 S=1:125

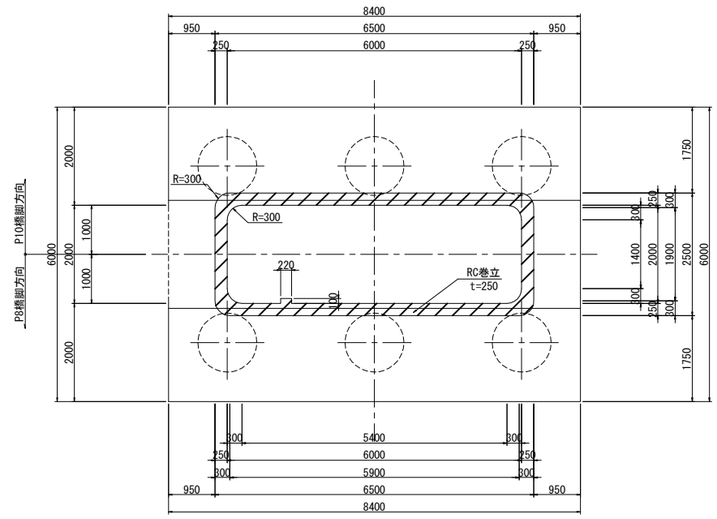


側 面 図 S=1:125

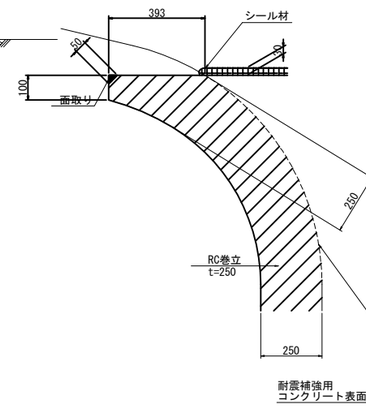


平 面 図 S=1:125

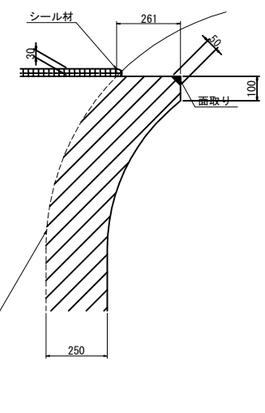
1 － 1



a部詳細図 S=1:25



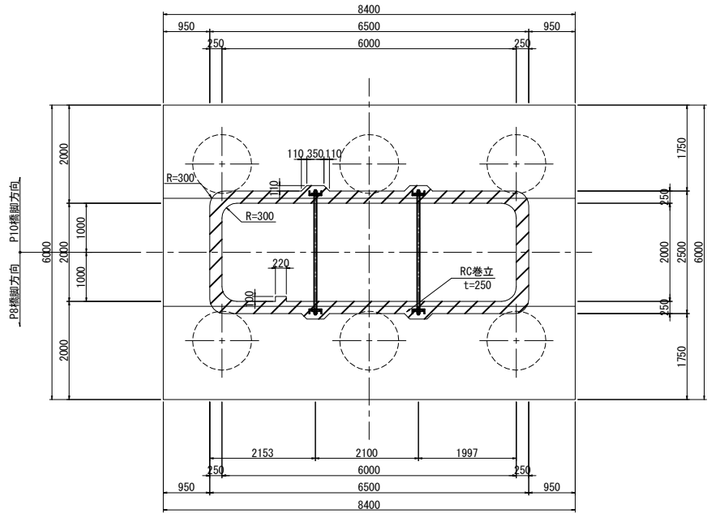
b部詳細図 S=1:25



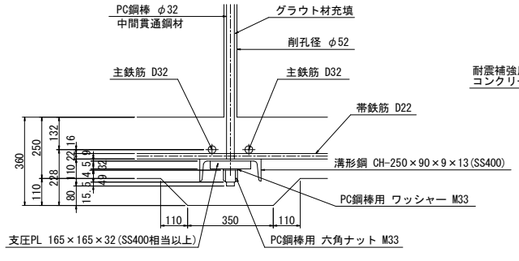
耐震補強用
コンクリート表面処理工

平 面 図 S=1:125

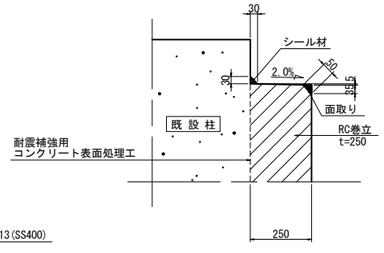
2 － 2



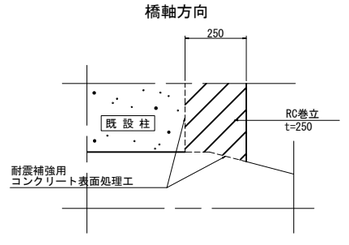
中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

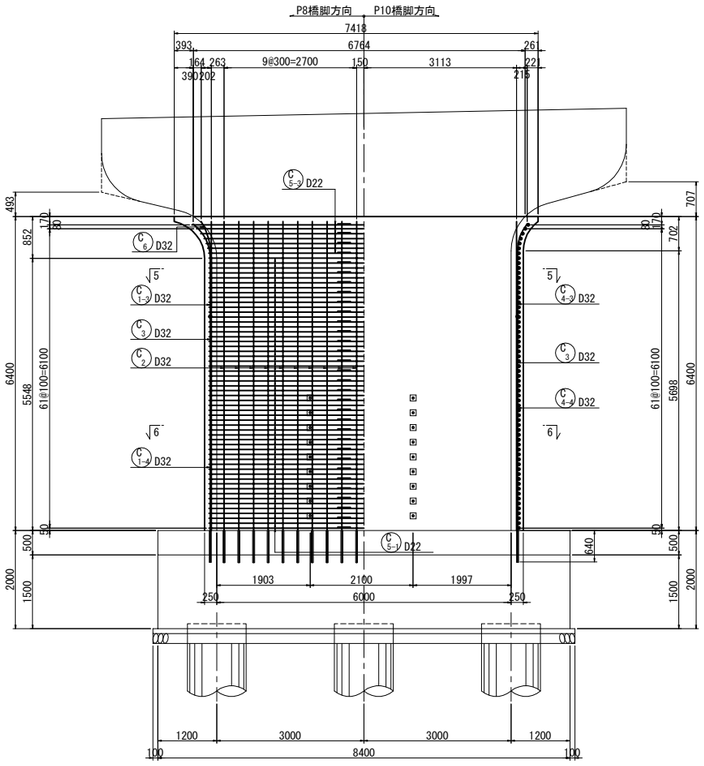
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P9橋脚 RC巻立て補強一般図（下り線）
縮尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P9橋脚 RC巻立て補強配筋図（下り線）（その１） S=図示

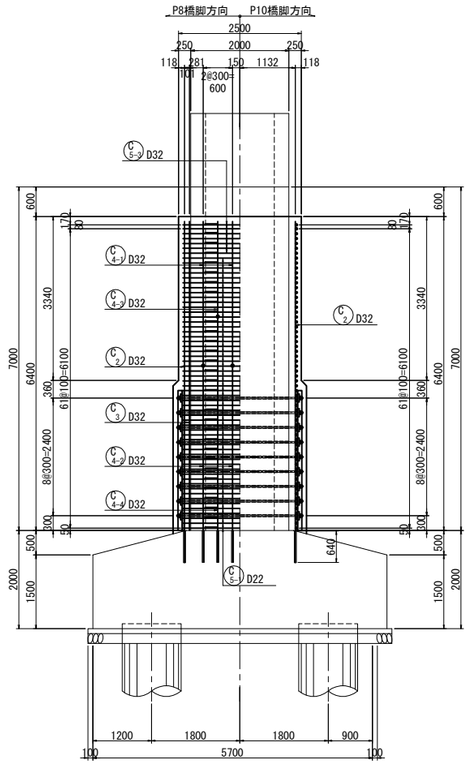
正 面 図 S=1:125

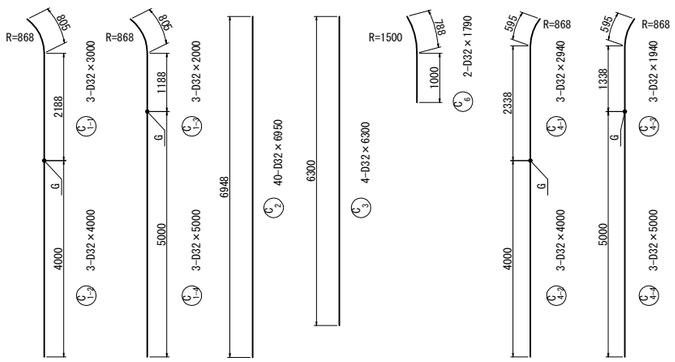
1 － 1　2 － 2

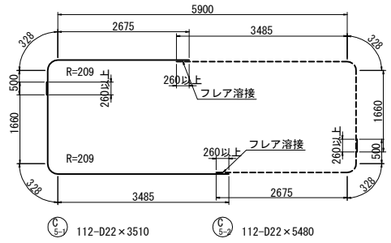


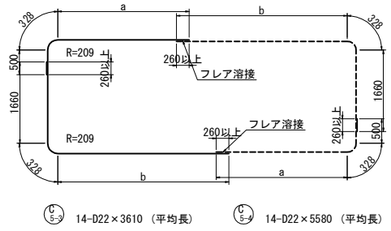
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4









C5-3 14-D16×3610 （平均長）

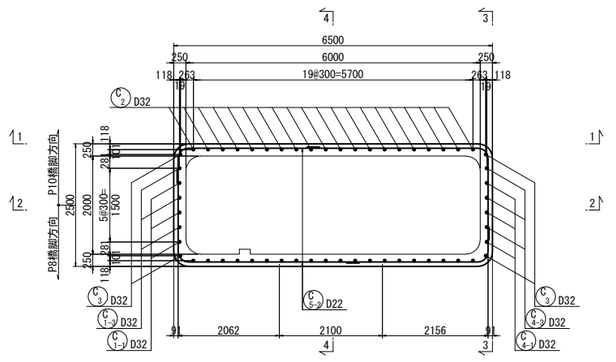
符号	本数	a	L
1	2	2944	3780
2	2	2868	3700
3	2	2797	3630
4	2	2746	3580
5	2	2710	3540
6	2	2688	3520
7	2	2678	3510
平均長	14		3610

C5-4 14-D16×5580 （平均長）

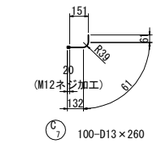
符号	本数	b	L
1	2	3754	5750
2	2	3678	5670
3	2	3607	5600
4	2	3556	5550
5	2	3520	5510
6	2	3498	5490
7	2	3488	5480
平均長	14		5580

平 面 図 S=1:125

5 － 5



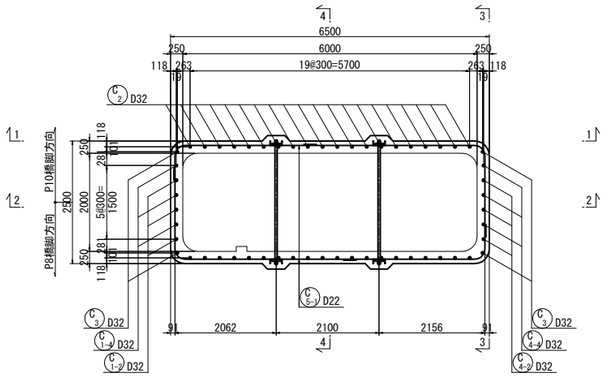
組立筋加工図(参考図) S=1:50



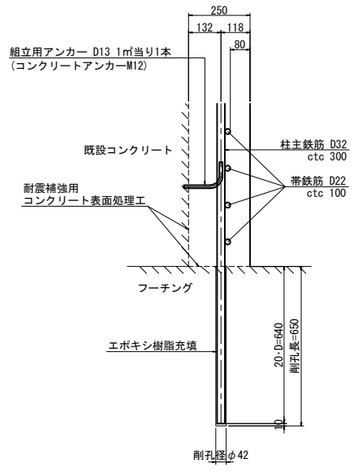
※1本/約1m2程度、設置する。

平 面 図 S=1:125

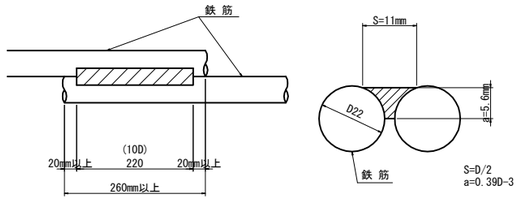
6 － 6



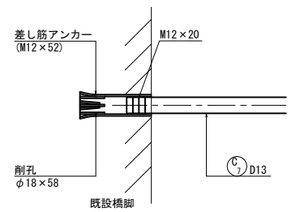
かぶり詳細図 S=1:25



フレア溶接詳細図



組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



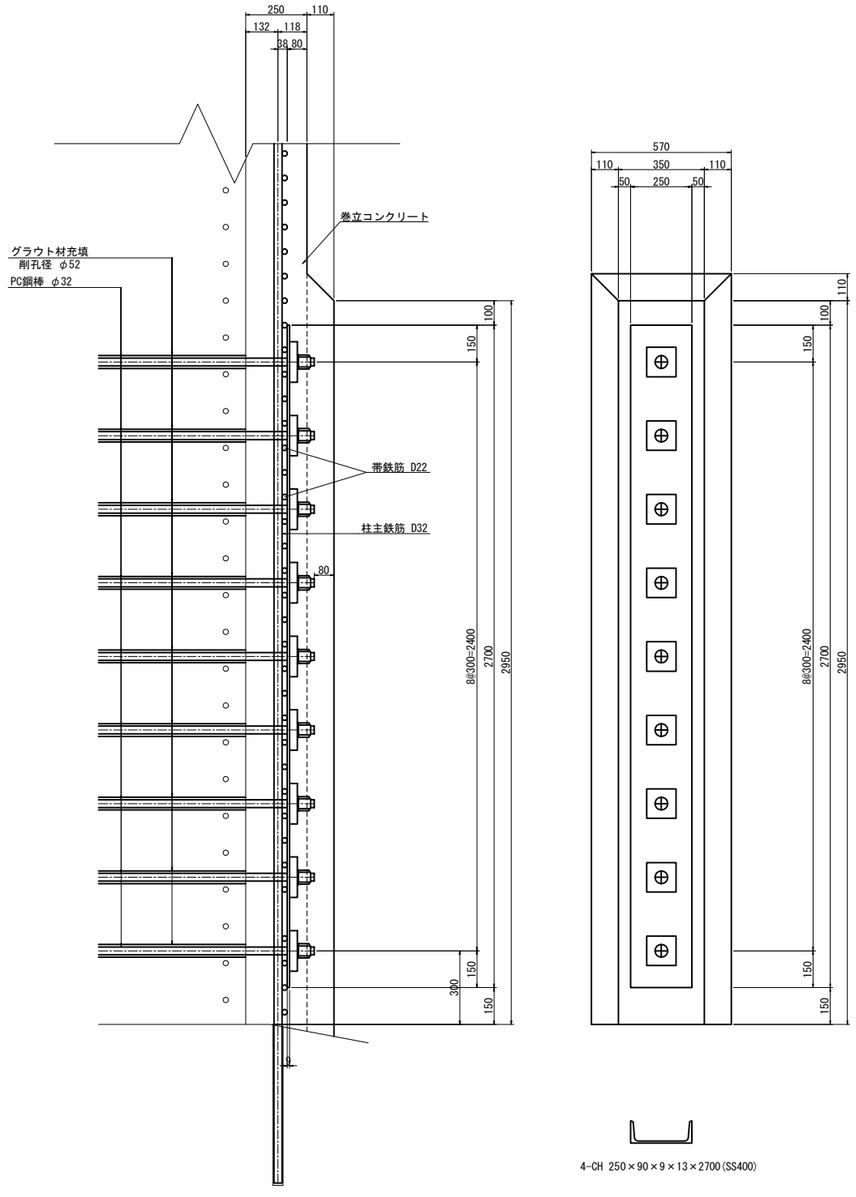
注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋と中間貫通鋼材の削孔にあたっては、
既設構造物の鉄筋を切断しないように
現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等
による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P9橋脚 RC巻立て補強配筋図 （下り線）（その１）
縮　尺	図示　図面番号　/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P9橋脚 RC巻立て補強配筋図（下り線）（その２） S=図示

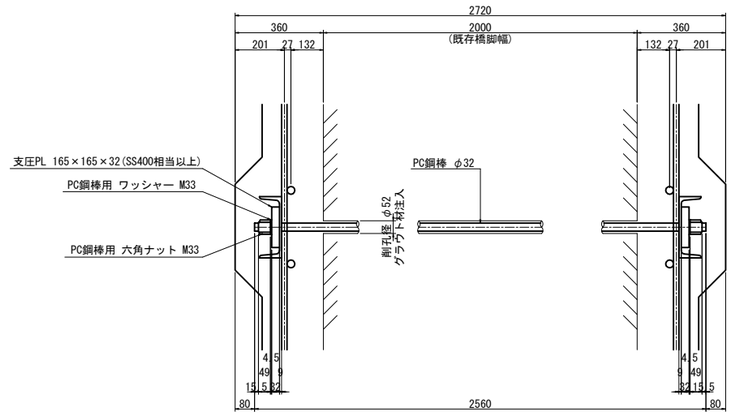
S=1:125

中間貫通鋼材詳細図 S=1:25

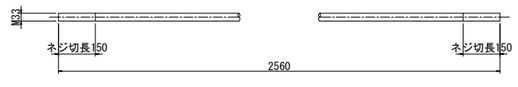


4-CH 250×90×9×13×2700(SS400)

PC鋼棒(中間拘束具)詳細図 S=1:25

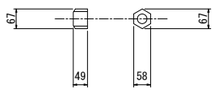


PC鋼棒詳細



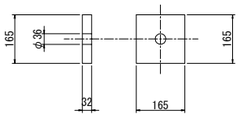
18-PC鋼棒 φ32×2560(SBPR930/1080)

ナット詳細



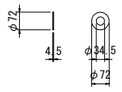
36-ナット M33(S45C)

アンカープレート詳細



36-PL 165×32×165(SS400)

ワッシャー詳細



36-ワッシャー M33(SS400)

鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D32	3000	3	6.23	18.7	56	)
C 1-2	D32	4000	3	6.23	24.9	75	) <3>
C 1-3	D32	2000	3	6.23	12.5	38	)
C 1-4	D32	5000	3	6.23	31.2	94	) <3>
C 2	D32	6950	40	6.23	43.3	1732		
C 3	D32	6300	4	6.23	39.2	157		
C 4-1	D32	2940	3	6.23	18.3	55	(
C 4-2	D32	4000	3	6.23	24.9	75	) <3>
C 4-3	D32	1940	3	6.23	12.1	36	(
C 4-4	D32	5000	3	6.23	31.2	94	) <3>
C 5-1	D22	3510	112	3.04	10.7	1198	⊏ (112)
C 5-2	D22	5480	112	3.04	16.7	1870	⊏ (112)
C 5-3	D22	3610	14	3.04	11.0	154	⊏ (14) (平均長)
C 5-4	D22	5580	14	3.04	17.0	238	⊏ (14) (平均長)
C 6	D32	1790	2	6.23	11.2	22	)
					小計	5894	kg

			フレア箇所	圧接箇所	
D32	2434	kg		<12>	SD345
D22	3460	kg	(252)		SD345
合計	5894	kg	(252)	<12>	SD345

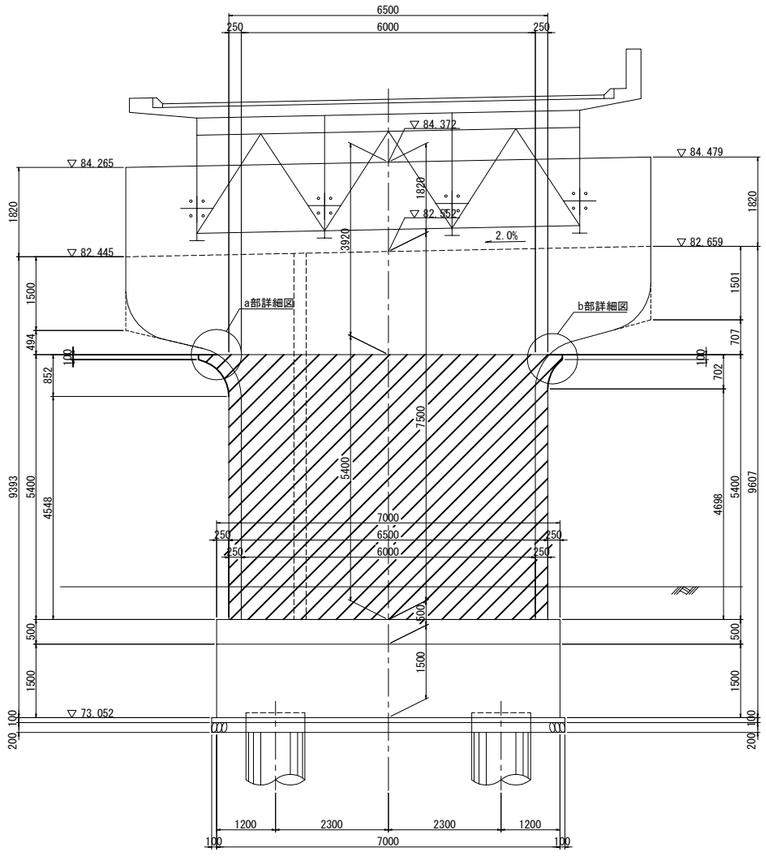
コンクリート削孔(φ18,L=58)	100	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ42,L=650)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	252	箇所	

注)1.施工前に既設形状寸法を確認すること。
2.アンカー定着鉄筋と中間貫通鋼材の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3.補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4.Gはガス圧接位置を示す

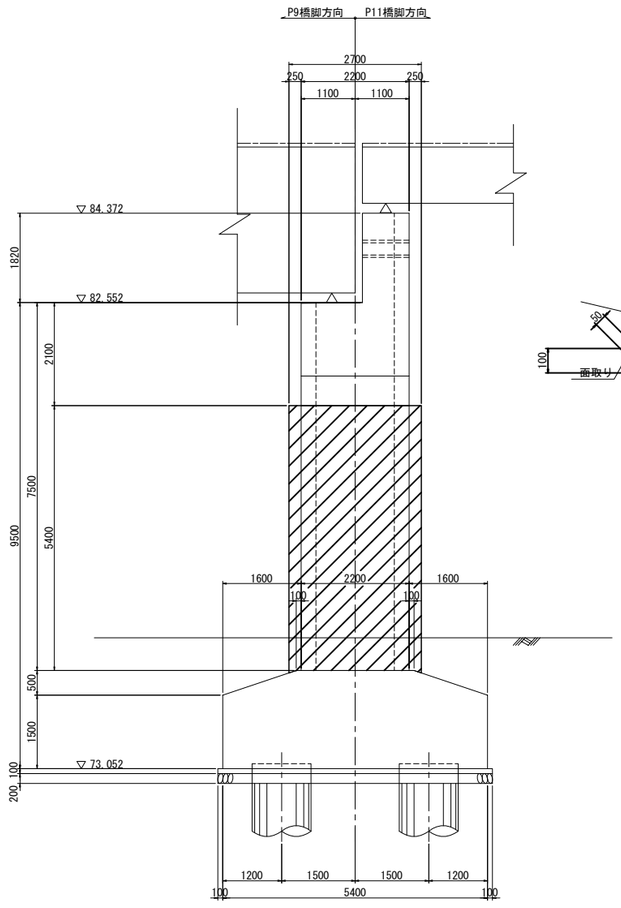
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P9橋脚 RC巻立て補強配筋図 (下り線) (その２)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P10橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

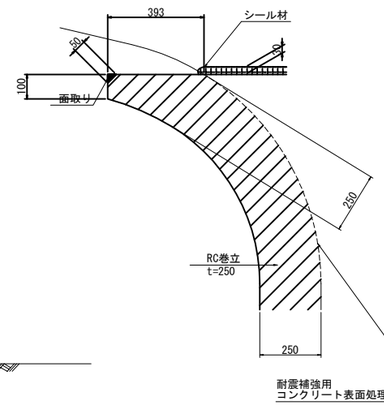
正 面 図 S=1:125



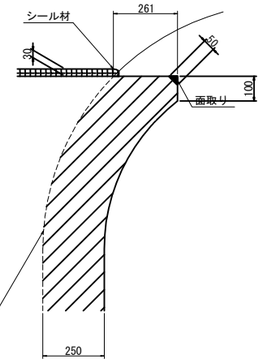
側 面 図 S=1:125



a部詳細図 S=1:25

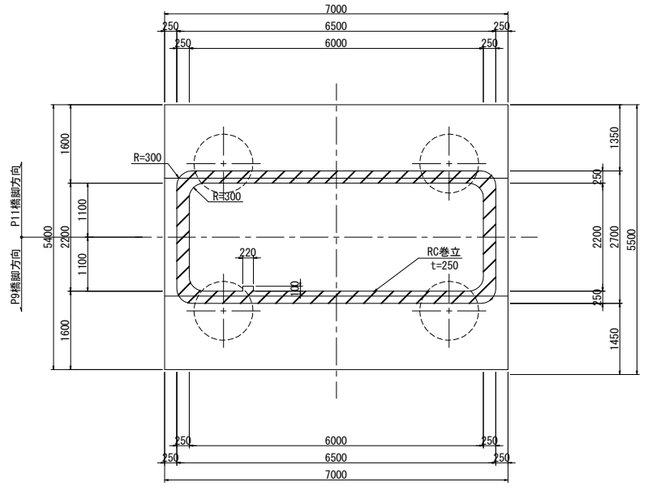


b部詳細図 S=1:25

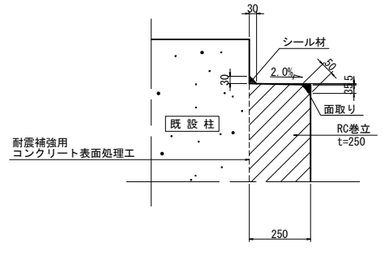


耐震補強用
コンクリート表面処理工

平 面 図 S=1:125

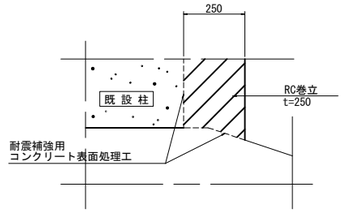


RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



耐震補強用
コンクリート表面処理工

RC巻立て下端詳細図 S=1:25



耐震補強用
コンクリート表面処理工

工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

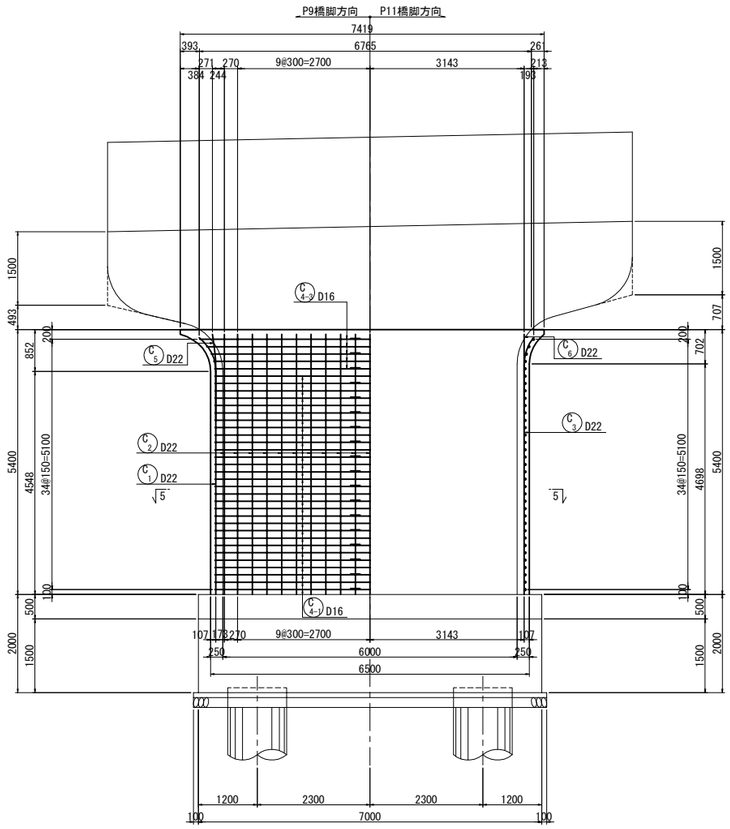
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。
3. 橋脚補強範囲に既設のコンクリートはく落防止シートがある場合は取り除いたうえで施工すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P10橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P10橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

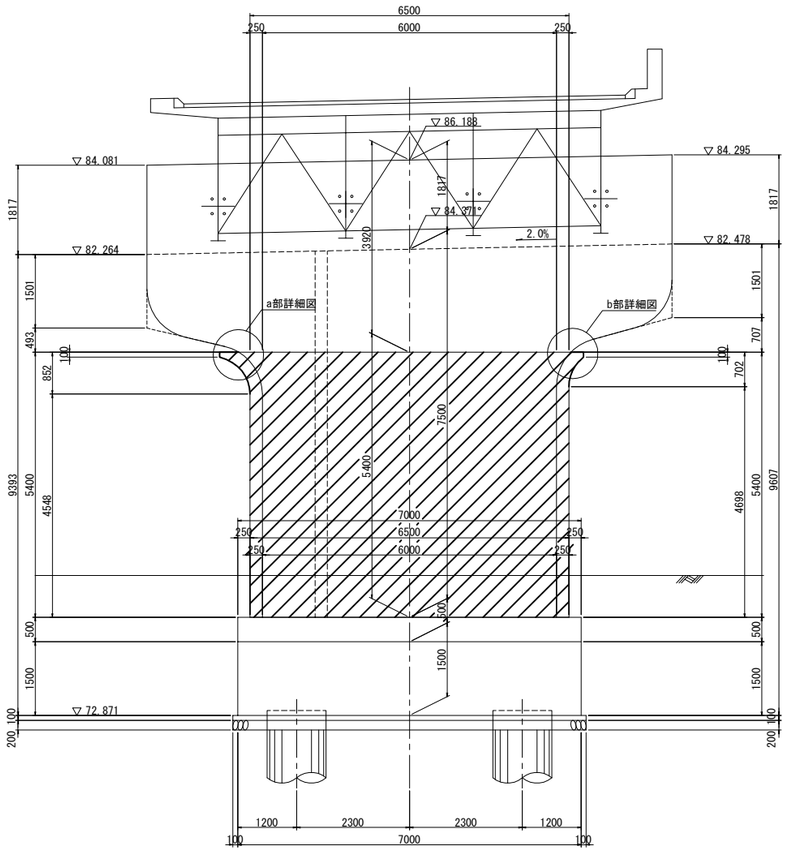
正 面 図 S=1:125

1 － 1　2 － 2

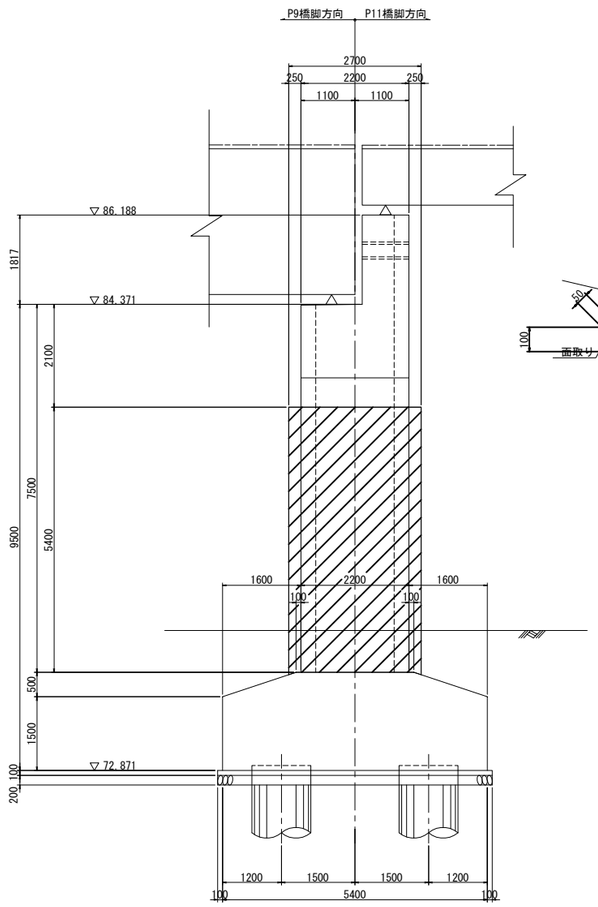

P9橋脚方向
P11橋脚方向
7419
6765
393
26
271
270
9@300=2700
3143
213
384
244
193
C4-3 D16
C5 D22
C6 D22
C2 D22
C3 D22
C1 D22
√5
5
C4-1 D16
107
178
270
9@300=2700
3143
107
250
6000
250
6500
1200
2300
2300
1200
100
7000
100
1500
493
200
852
5400
4548
34@150=5100
100
500
2000
1500
707
702
4698
1200
1200
1200

P10橋脚 RC巻立て補強一般図（下り線）S=図示

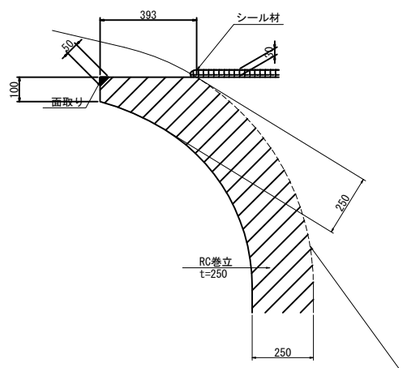
正 面 図 S=1:125



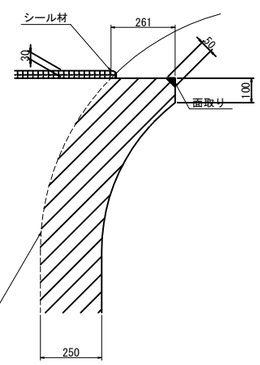
側 面 図 S=1:125



a部詳細図 S=1:25

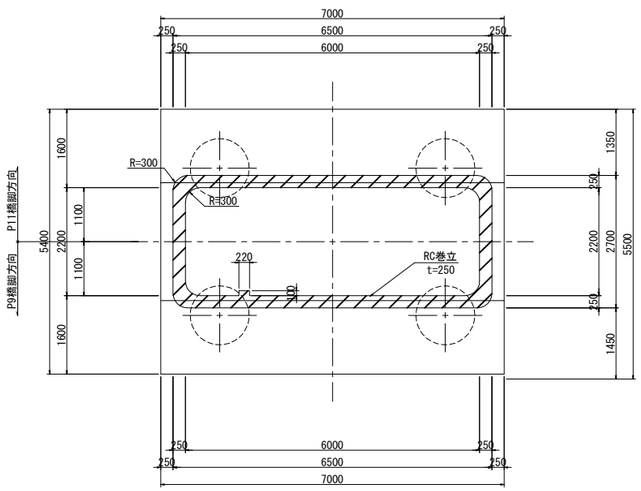


b部詳細図 S=1:25

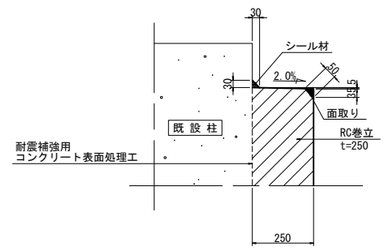


耐震補強用
コンクリート表面処理工

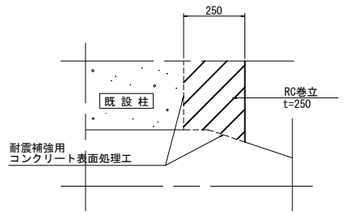
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

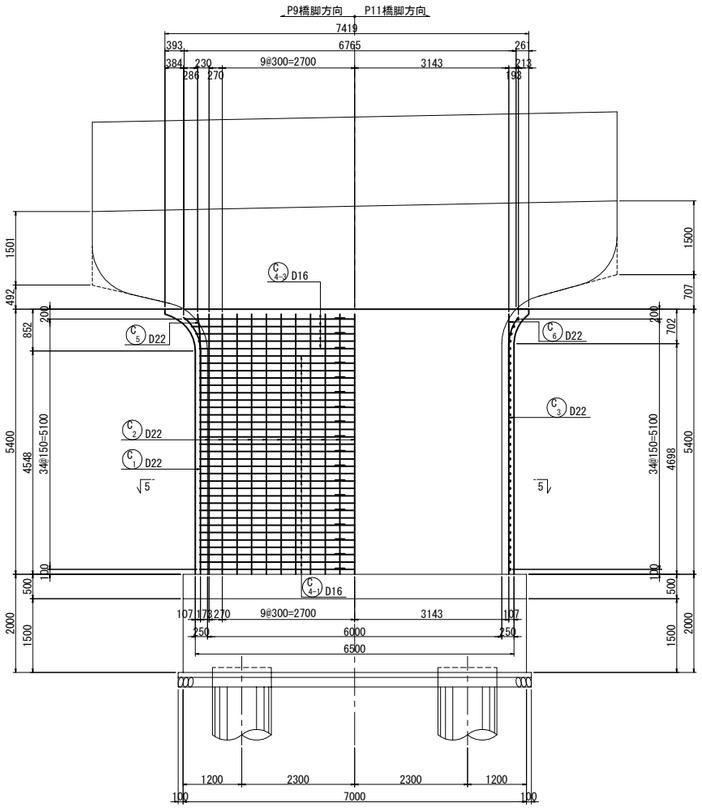
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。
3. 橋脚補強範囲に既設のコンクリートはく落防止シートがある場合は取り除いたうえで施工すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P10橋脚 RC巻立て補強一般図（下り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P10橋脚 RC巻立て補強配筋図（下り線）S=図示

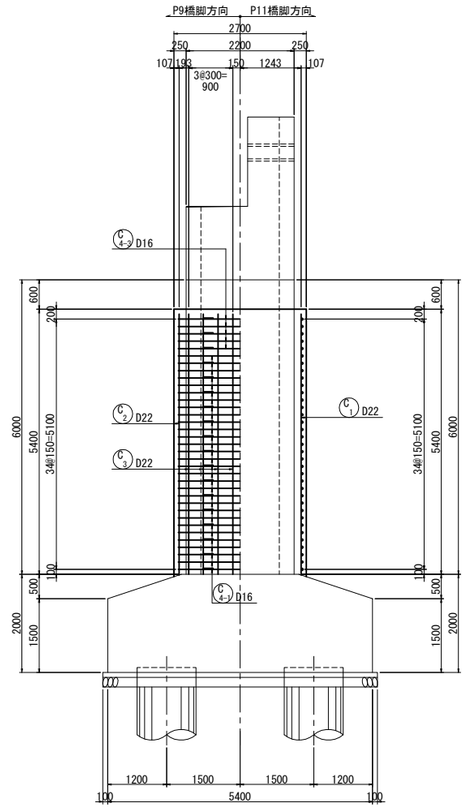
正 面 図 S=1:125

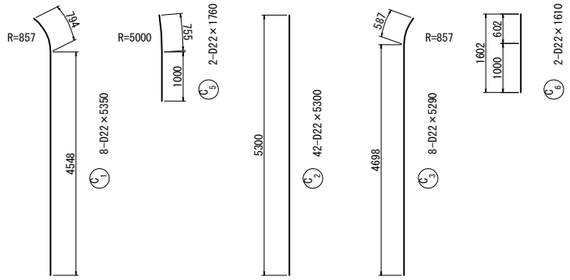
1 － 1　2 － 2

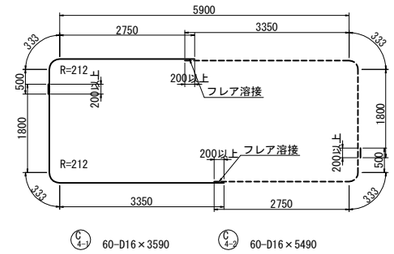


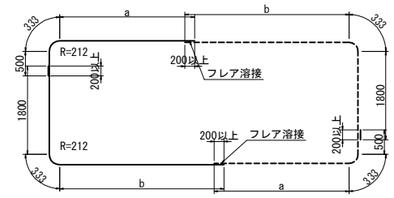
側 面 図 S=1:125

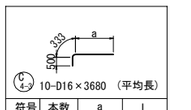
3 － 3　4 － 4



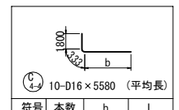








符号	本数	a	L
1	2	2990	3830
2	2	2873	3710
3	2	2801	3640
4	2	2763	3600
5	2	2751	3590
平均長	10		3680



符号	本数	b	L
1	2	3590	5730
2	2	3473	5610
3	2	3401	5540
4	2	3363	5500
5	2	3351	5490
平均長	10		5580

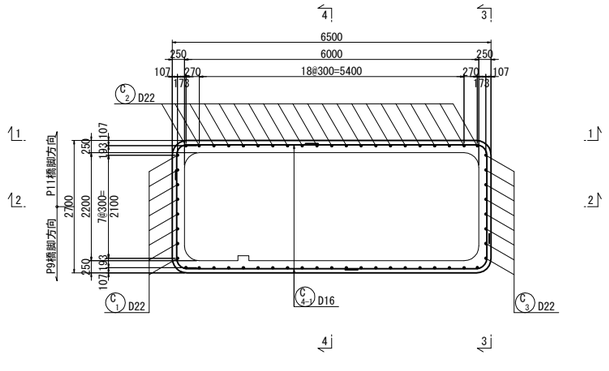
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1	D22	5350	8	3.04	16.3	130	⌉
C 2	D22	5300	42	3.04	16.1	676	｜
C 3	D22	5290	8	3.04	16.1	129	⌈
C 4-1	D16	3590	60	1.56	5.60	336	⊏ (60)
C 4-2	D16	5490	60	1.56	8.56	514	⊏ (60)
C 4-3	D16	3680	10	1.56	5.74	57	⊏ (10) (平均長)
C 4-4	D16	5580	10	1.56	8.70	87	⊏ (10) (平均長)
C 5	D22	1760	2	3.04	5.35	11	⌉
C 6	D22	1610	2	3.04	4.89	10	｜
					小計	1950	kg

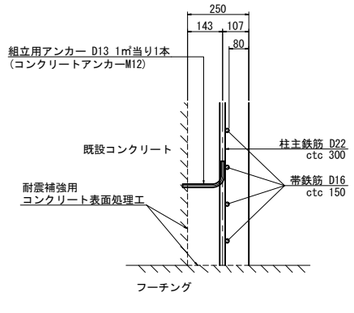
フレア箇所	圧接箇所	
D22	956 kg	SD345
D16	994 kg (140)	SD345
合計	1950 kg (140)	SD345
コンクリート削孔（φ18,L=58）	87 箇所	(参考)
フレア溶接(D16)	140 箇所	

平 面 図 S=1:125

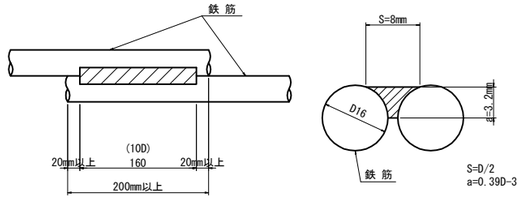
5 － 5



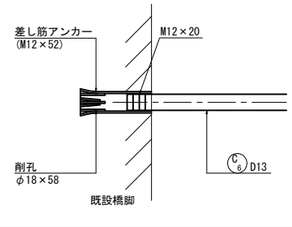
かぶり詳細図 S=1:25



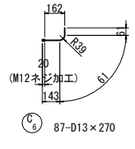
フレア溶接詳細図



組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



組立筋加工図(参考図) S=1:50



※1本/約1m2程度、設置する。

注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。

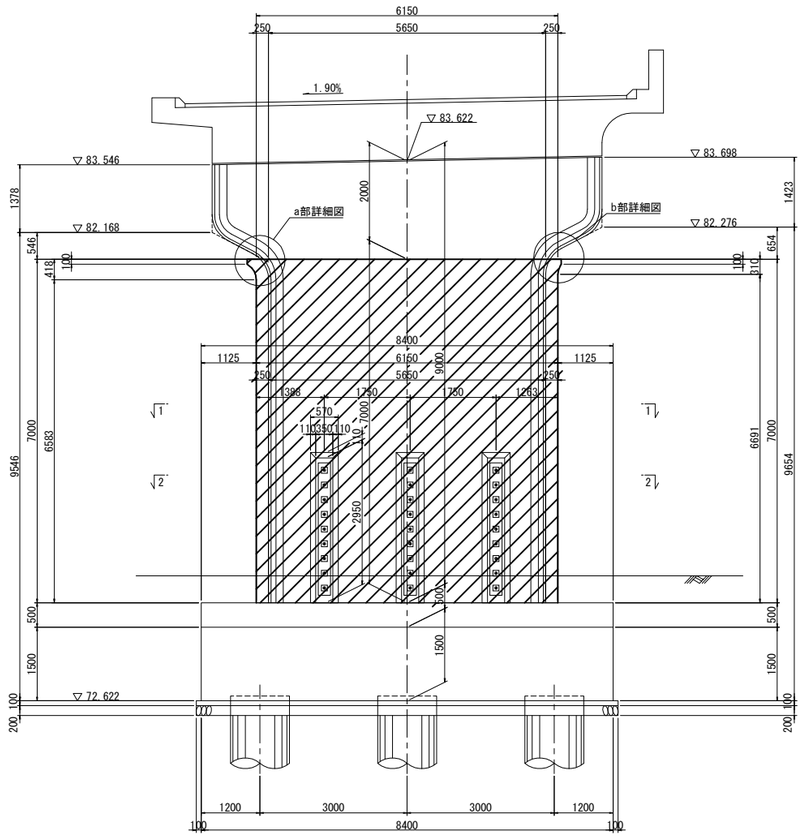
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

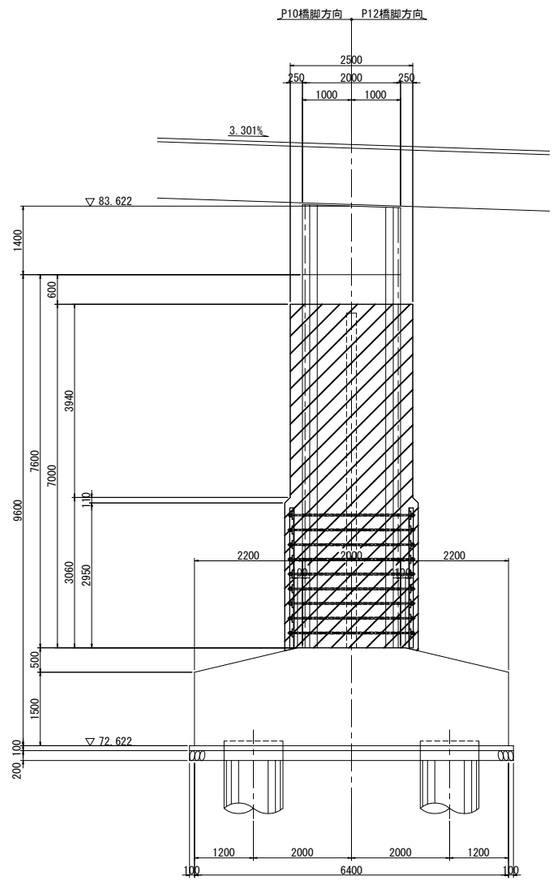
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P10橋脚 RC巻立て補強配筋図（下り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P11橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

正 面 図 S=1:125

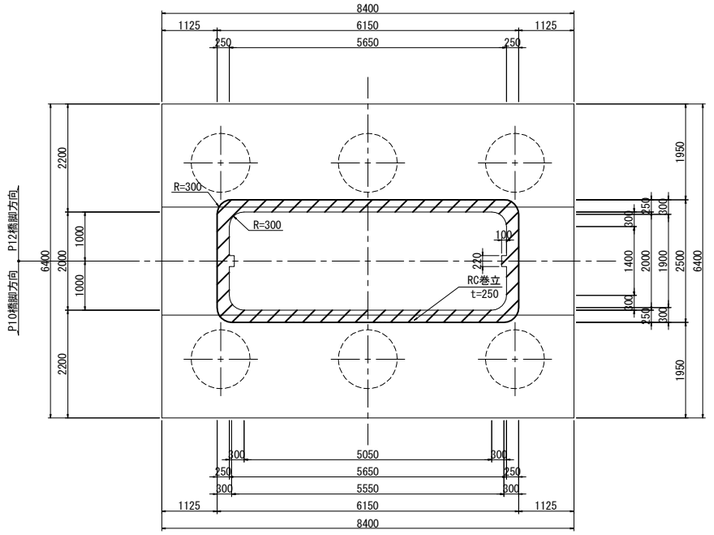


側 面 図 S=1:125

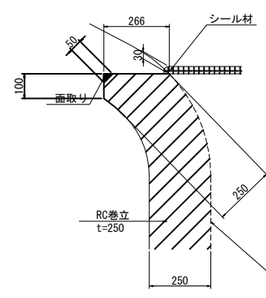


平 面 図 S=1:125

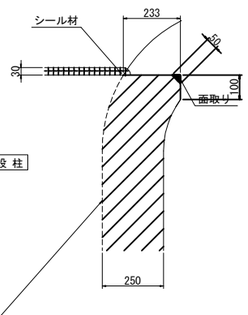
1 － 1



a部詳細図 S=1:25



b部詳細図 S=1:25

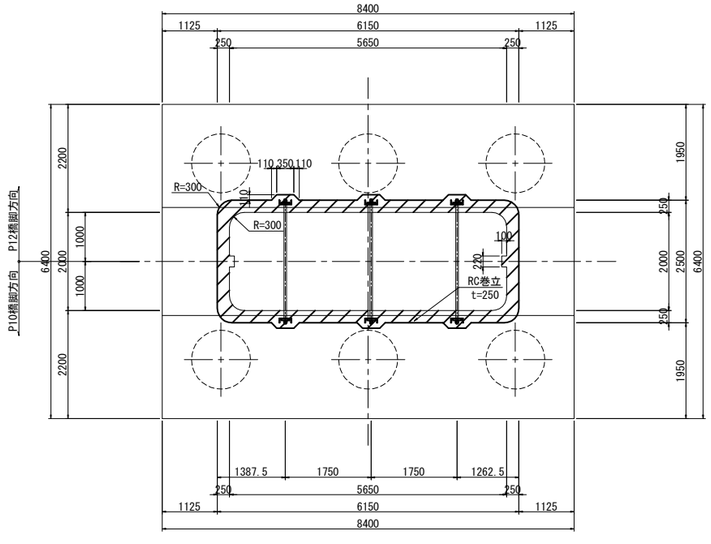


既設柱

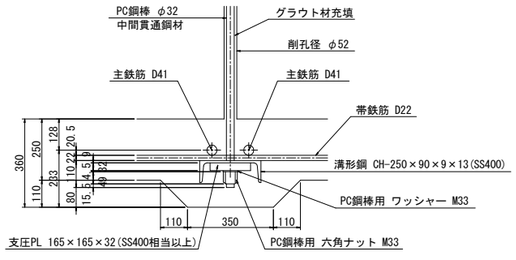
耐震補強用
コンクリート表面処理工

平 面 図 S=1:125

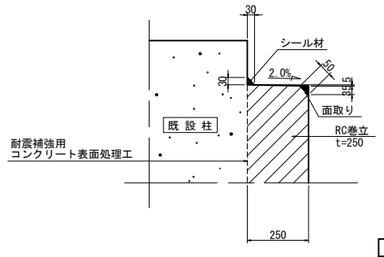
2 － 2



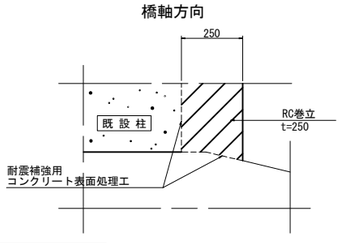
中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

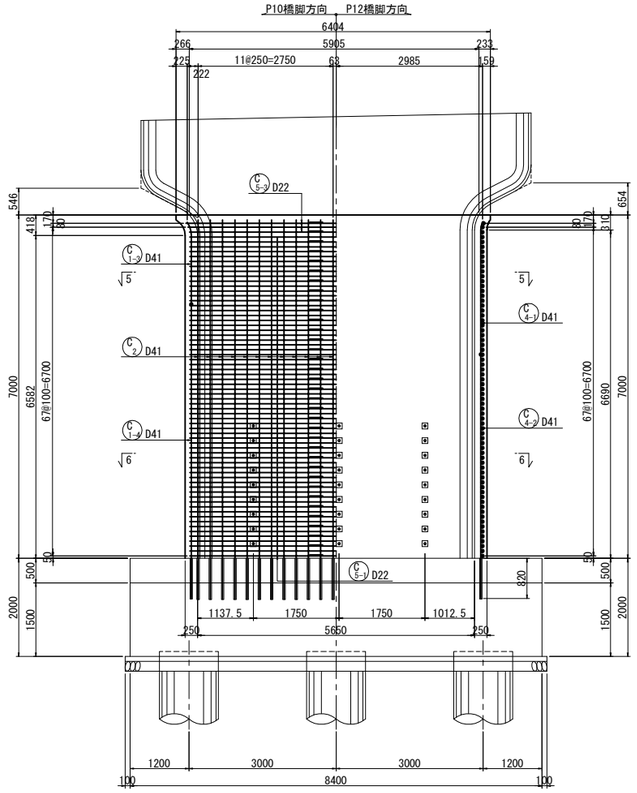
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。
3. 橋脚補強範囲に既設のコンクリートはく落防止シートがある場合は取り除いたうえで施工すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P11橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P11橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）（その１）S=図示

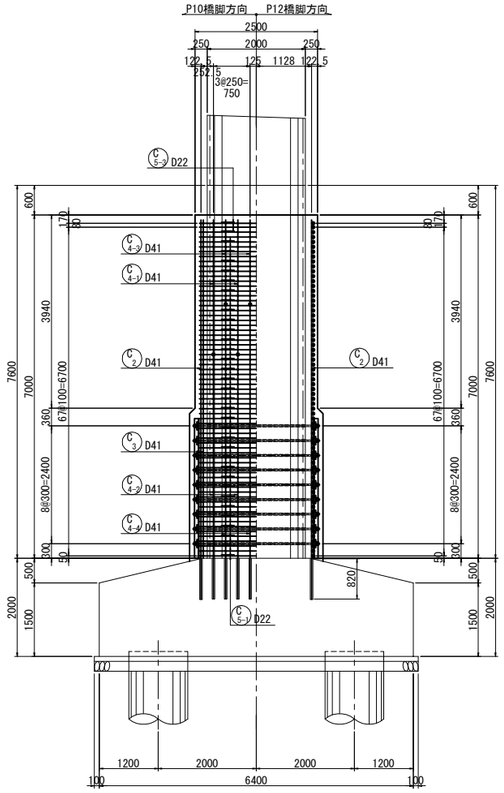
正 面 図 S=1:125

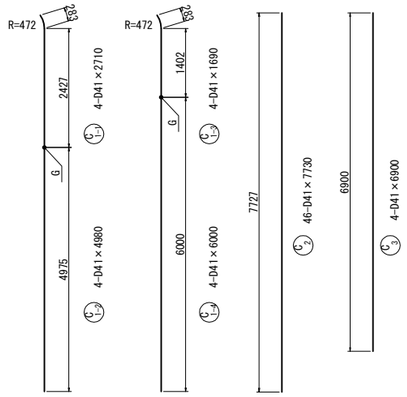
1 － 1　2 － 2

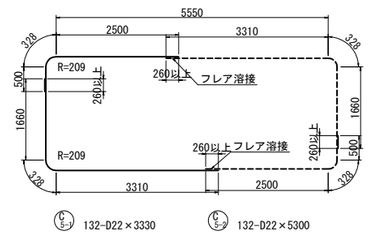


側 面 図 S=1:125

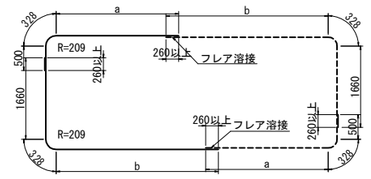
3 － 3　4 － 4



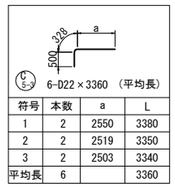




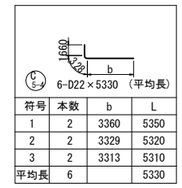
132-D22×3330　　132-D22×5300



6-D22×3360（平均長）　　6-D22×5330（平均長）



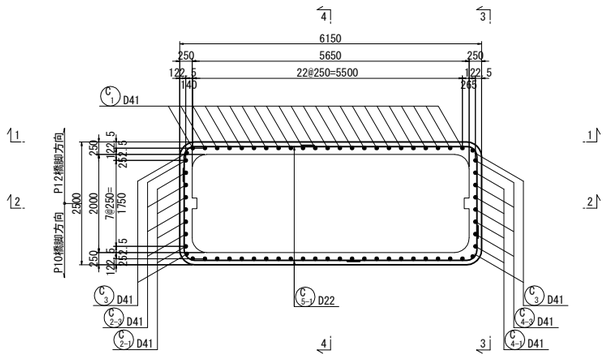
符号	本数	a	L
1	2	2550	3380
2	2	2519	3350
3	2	2503	3340
平均長	6		3360



符号	本数	b	L
1	2	3360	5350
2	2	3329	5320
3	2	3313	5310
平均長	6		5330

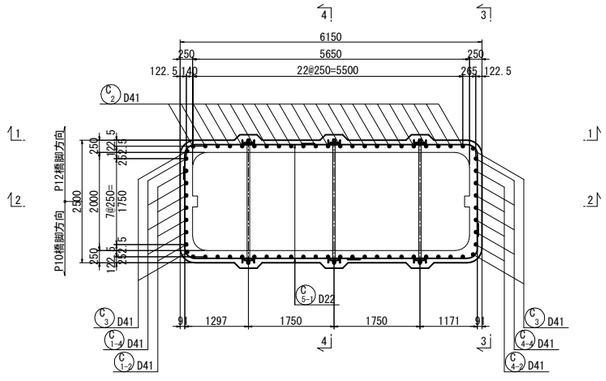
平 面 図 S=1:125

5 － 5

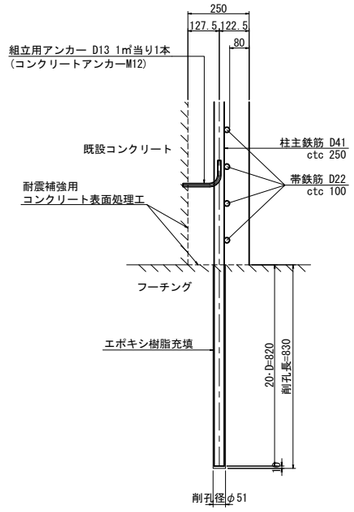


平 面 図 S=1:125

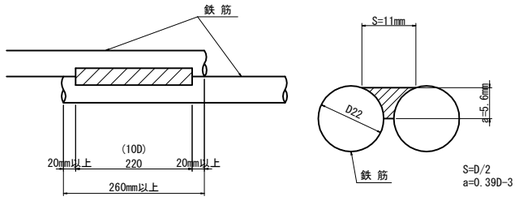
6 － 6



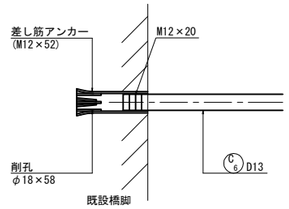
かぶり詳細図　S=1:25



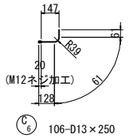
フレア溶接詳細図



組立て筋アンカー詳細図（参考図）　S=1:5



組立筋加工図（参考図）　S=1:50



106-D13×250

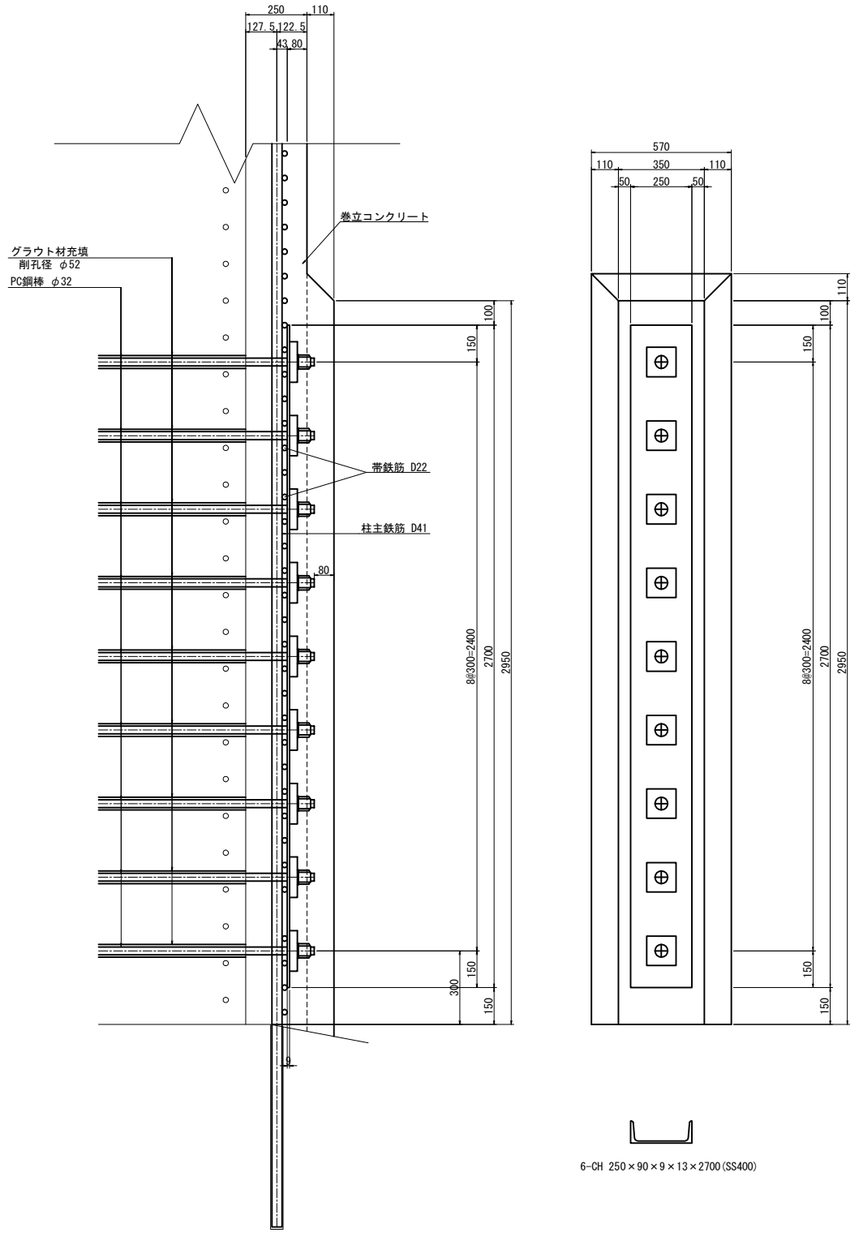
※1本/約1m2程度、設置する。

注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋と中間貫通鋼材の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す

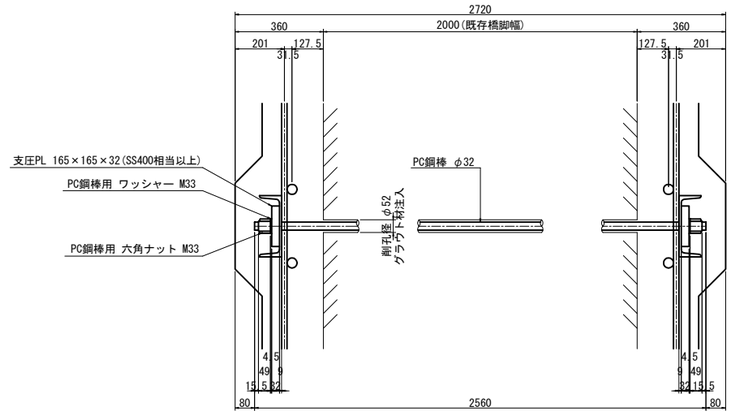
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P11橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）（その１）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P11橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）（その２）S=図示

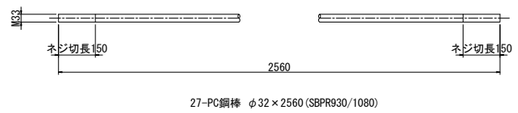
中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



PC鋼棒(中間拘束具)詳細図 S=1:25

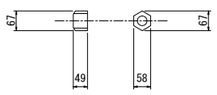


PC鋼棒詳細



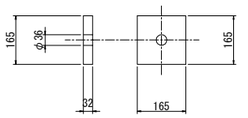
27-PC鋼棒 φ32×2560(SBPR930/1080)

ナット詳細



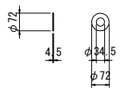
54-ナット M33(S45C)

アンカープレート詳細



54-PL 165×32×165(SS400)

ワッシャー詳細



54-ワッシャー M33(SS400)

鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D41	2710	4	10.5	28.5	114	⌉
C 1-2	D41	4980	4	10.5	52.3	209	⌈ <4>
C 1-3	D41	1690	4	10.5	17.7	71	⌉
C 1-4	D41	6000	4	10.5	63.0	252	⌈ <4>
C 2	D41	7730	46	10.5	81.2	3735		
C 3	D41	6900	4	10.5	72.5	290		
C 4-1	D41	2720	4	10.5	28.6	114	｢
C 4-2	D41	4980	4	10.5	52.3	209	⌈ <4>
C 4-3	D41	1690	4	10.5	17.7	71	｢
C 4-4	D41	6000	4	10.5	63.0	252	⌈ <4>
C 5-1	D22	3330	132	3.04	10.1	1333	⊏ (132)
C 5-2	D22	5300	132	3.04	16.1	2125	⊏ (132)
C 5-3	D22	3360	6	3.04	10.2	61	⊏ (6) (平均長)
C 5-4	D22	5330	6	3.04	16.2	97	⊏ (6) (平均長)
					小計	8933	kg

			フレア箇所	圧接箇所	
D41	5317	kg		<16>	SD345
D22	3616	kg	(276)		SD345
合計	8933	kg	(276)	<16>	SD345

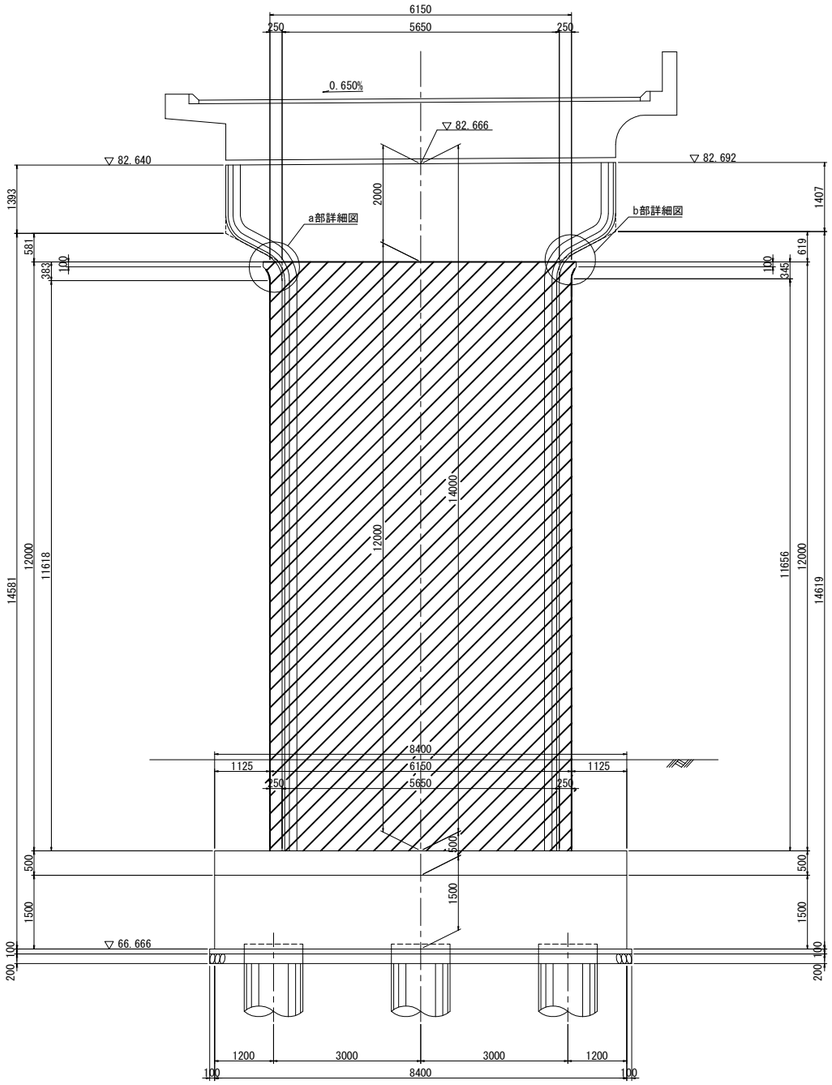
コンクリート削孔(φ18,L=58)	106	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ51,L=830)	62	箇所	
フレア溶接(D22)	276	箇所	

注)1.施工前に既設形状寸法を確認すること。
2.アンカー定着鉄筋と中間貫通鋼材の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3.補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4.Gはガス圧接位置を示す

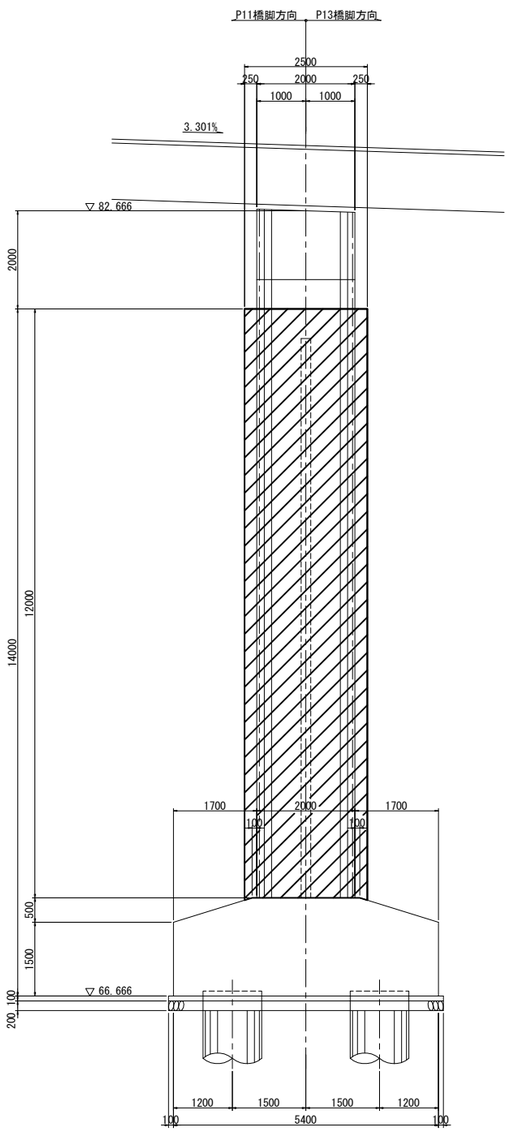
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P11橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)（その２）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P12橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

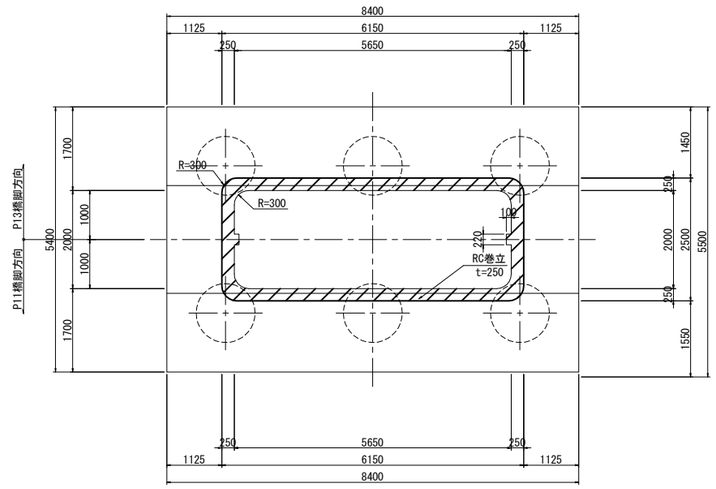
正 面 図 S=1:125



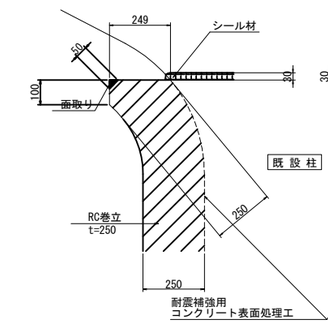
側 面 図 S=1:125



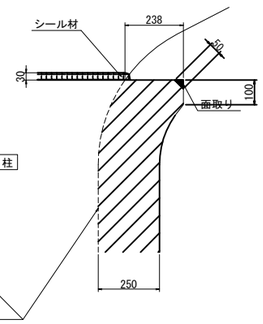
平 面 図 S=1:125



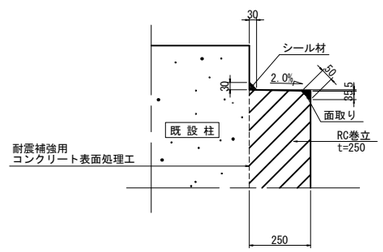
a部詳細図 S=1:25



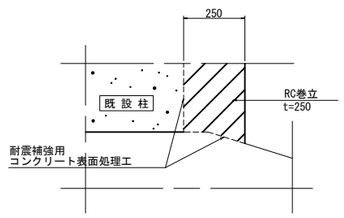
b部詳細図 S=1:25



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

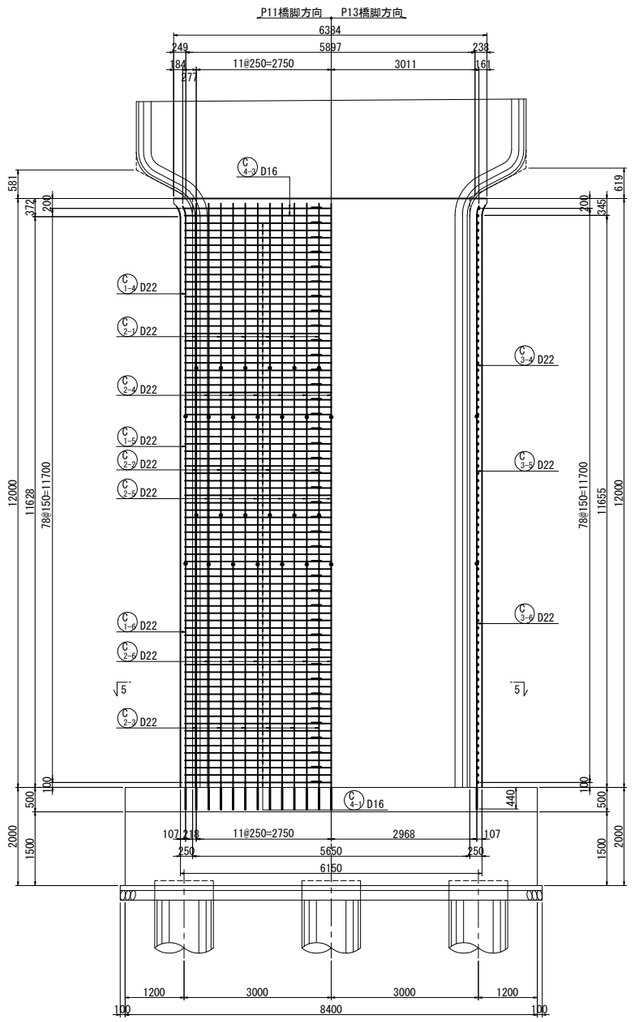
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P12橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P12橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

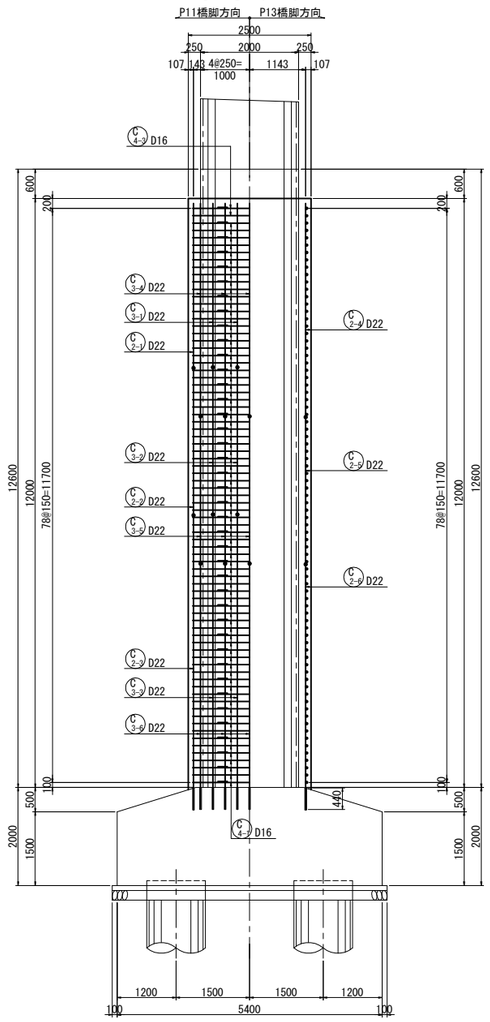
正 面 図 S=1:125

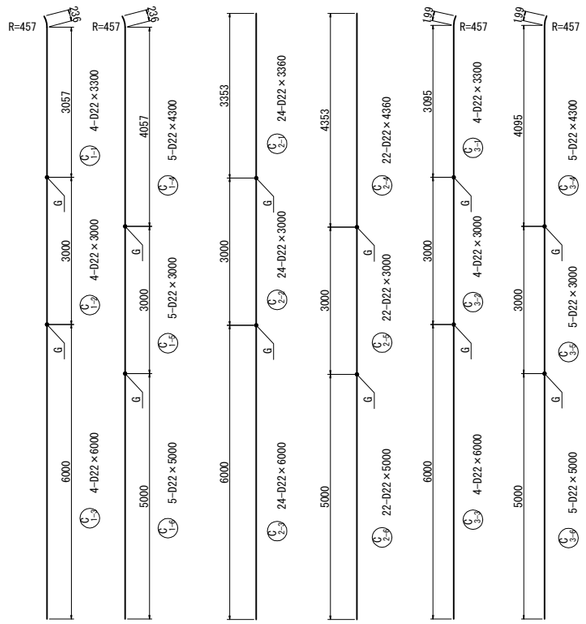
1 － 1　2 － 2

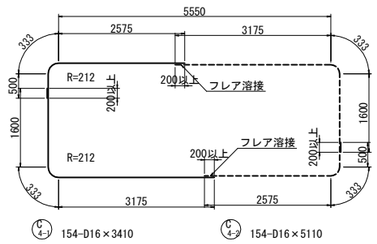


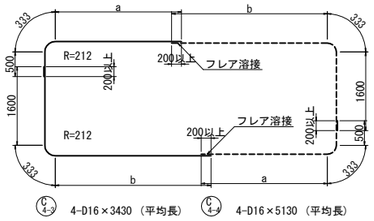
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4









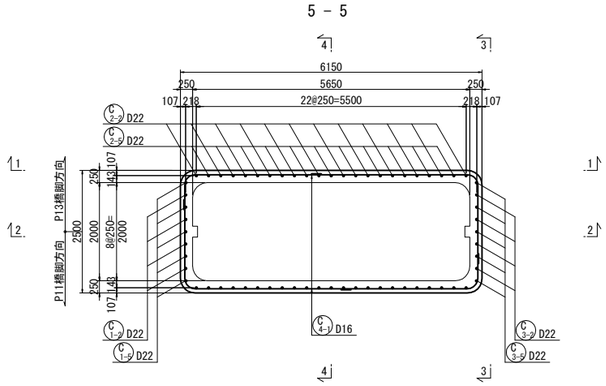
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3300	4	3.04	10.0	40	⅂
C 1-2	D22	3000	4	3.04	9.12	36	↑ <4>
C 1-3	D22	6000	4	3.04	18.2	73	↑ <4>
C 1-4	D22	4300	5	3.04	13.1	66	⅂
C 1-5	D22	3000	5	3.04	9.12	46	↑ <5>
C 1-6	D22	5000	5	3.04	15.2	76	↑ <5>
C 2-1	D22	3360	24	3.04	10.2	245	↑ <24>
C 2-2	D22	3000	24	3.04	9.12	219	｜
C 2-3	D22	6000	24	3.04	18.2	437	↑ <24>
C 2-4	D22	4360	22	3.04	13.3	293	↑ <22>
C 2-5	D22	3000	22	3.04	9.12	201	｜
C 2-6	D22	5000	22	3.04	15.2	334	↑ <22>
C 3-1	D22	3300	4	3.04	10.0	40	｢
C 3-2	D22	3000	4	3.04	9.12	36	↑ <4>
C 3-3	D22	6000	4	3.04	18.2	73	↑ <4>
C 3-4	D22	4300	5	3.04	13.1	66	｢
C 3-5	D22	3000	5	3.04	9.12	46	↑ <5>
C 3-6	D22	5000	5	3.04	15.2	76	↑ <5>
C 4-1	D16	3410	154	1.56	5.32	819	⊏ (154)
C 4-2	D16	5110	154	1.56	7.97	1227	⊏ (154)
C 4-3	D16	3430	4	1.56	5.35	21	⊏ (4) (平均長)
C 4-4	D16	5130	4	1.56	8.00	32	⊏ (4) (平均長)
					小計	4502	kg

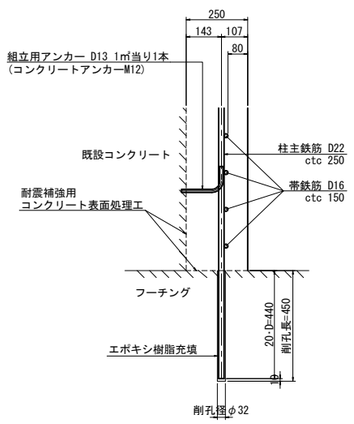
			フレア箇所	圧接箇所	
D22	2403	kg		<128>	SD345
D16	2099	kg	(316)		SD345
合計	4502	kg	(316)	<128>	SD345
コンクリート削孔(φ18, L=58)			182	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32, L=450)			64	箇所	
フレア溶接(D16)			316	箇所	

平 面 図 S=1:125

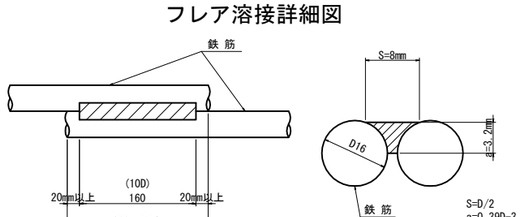
5 － 5

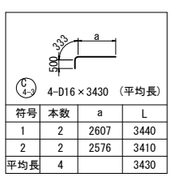


かぶり詳細図 S=1:25

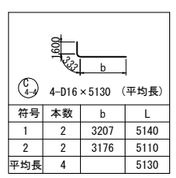


フレア溶接詳細図



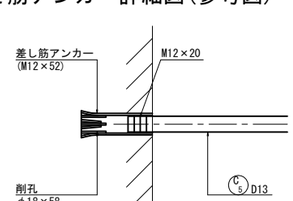


符号	本数	a	L
1	2	2607	3440
2	2	2576	3410
平均長	4		3430

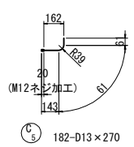


符号	本数	b	L
1	2	3207	5140
2	2	3176	5110
平均長	4		5130

組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



組立筋加工図(参考図) S=1:50



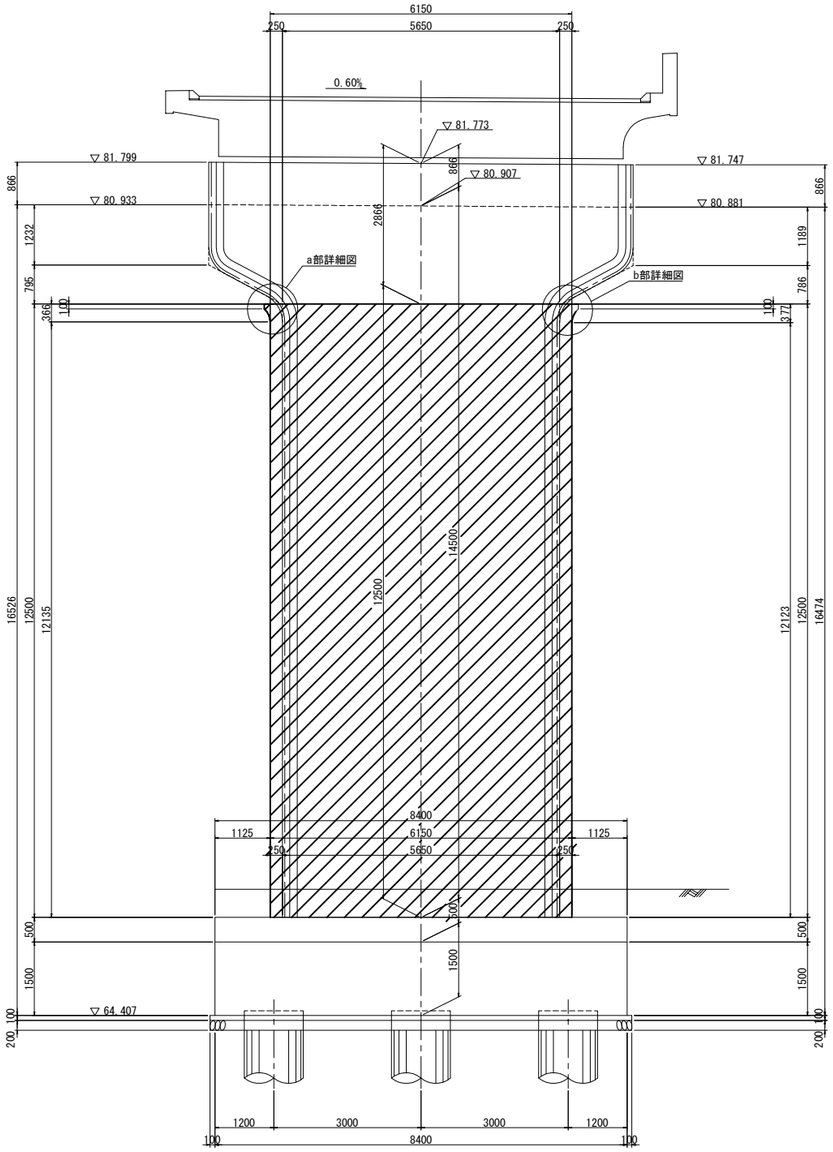
※1本/約1m2程度、設置する。

注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す

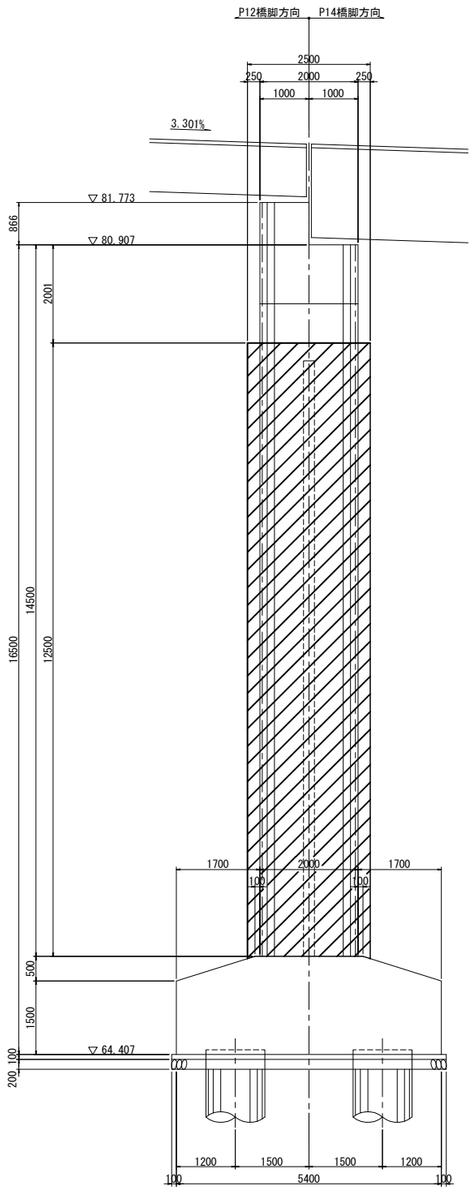
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P12橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P13橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

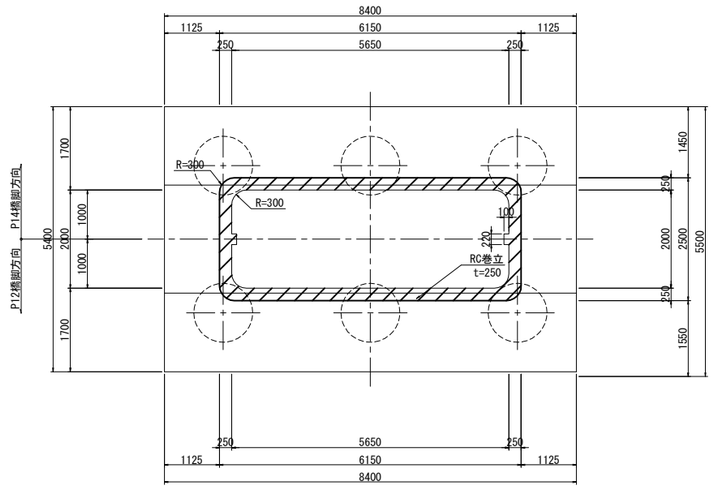
正 面 図 S=1:125



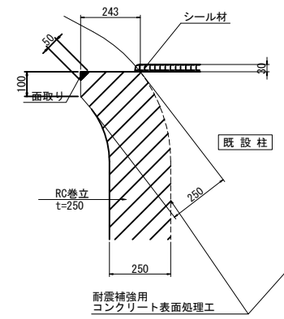
側 面 図 S=1:125



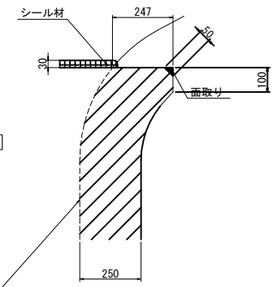
平 面 図 S=1:125



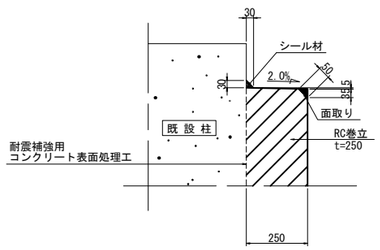
a部詳細図 S=1:25



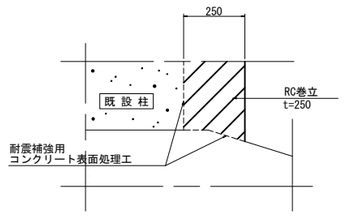
b部詳細図 S=1:25



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

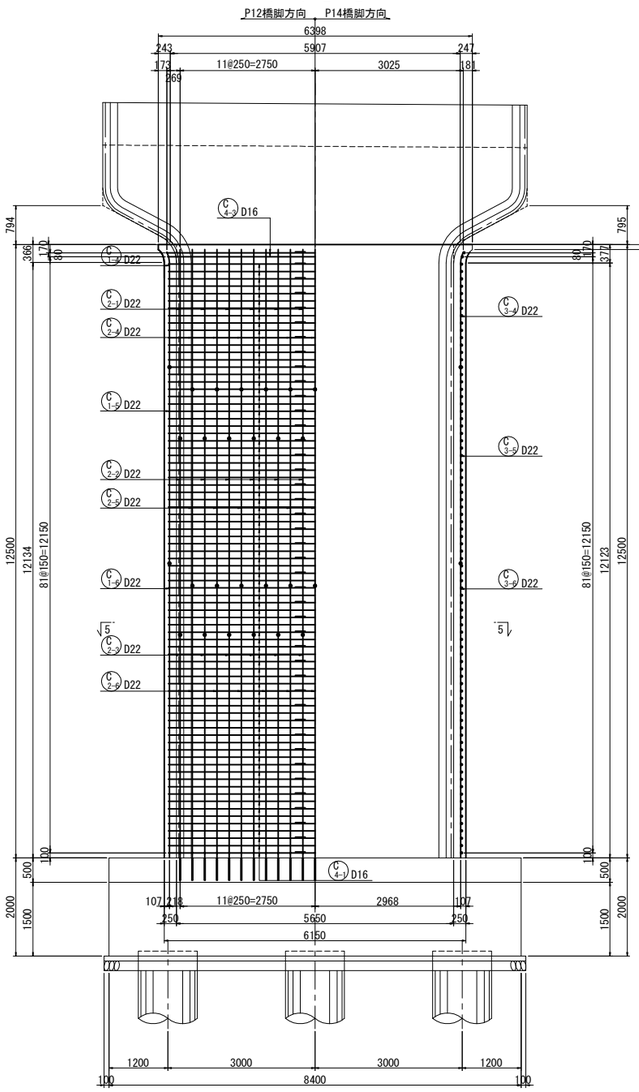
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P13橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P13橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

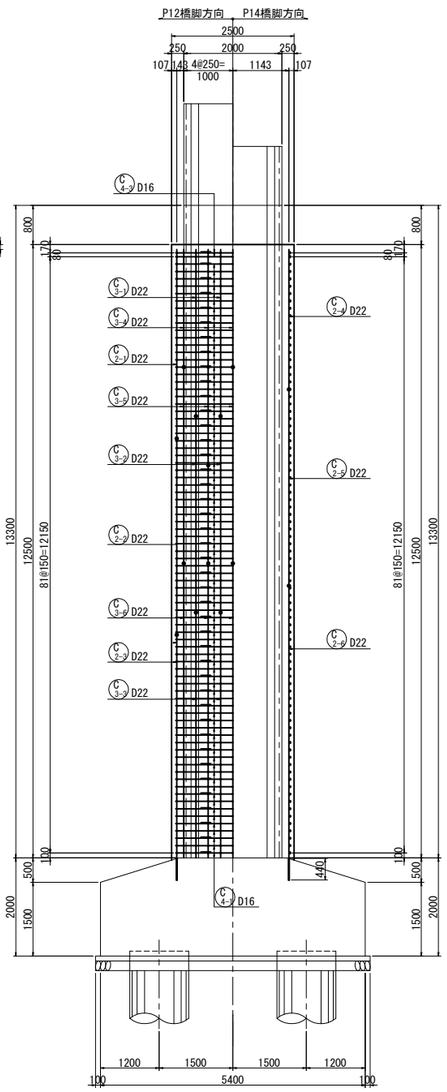
正 面 図 S=1:125

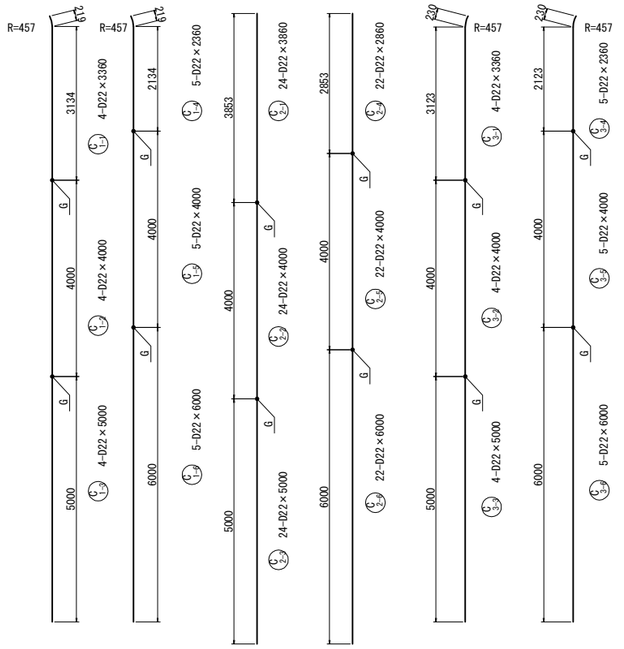
1 － 1　2 － 2



側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



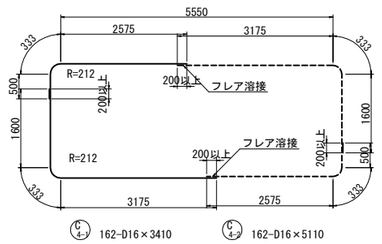


鉄筋表

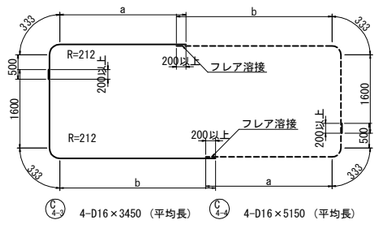
記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3360	4	3.04	10.2	41	
C 1-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	<4>
C 1-3	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 1-4	D22	2360	5	3.04	7.17	36	
C 1-5	D22	4000	5	3.04	12.2	61	<5>
C 1-6	D22	6000	5	3.04	18.2	91	<5>
C 2-1	D22	3860	24	3.04	11.7	281	
C 2-2	D22	4000	24	3.04	12.2	293	<24>
C 2-3	D22	5000	24	3.04	15.2	365	<24>
C 2-4	D22	2860	22	3.04	8.69	191	
C 2-5	D22	4000	22	3.04	12.2	268	<22>
C 2-6	D22	6000	22	3.04	18.2	400	<22>
C 3-1	D22	3360	4	3.04	10.2	41	
C 3-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	<4>
C 3-3	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 3-4	D22	2360	5	3.04	7.17	36	
C 3-5	D22	4000	5	3.04	12.2	61	<5>
C 3-6	D22	6000	5	3.04	18.2	91	<5>
C 4-1	D16	3410	162	1.56	5.32	862	(162)
C 4-2	D16	5110	162	1.56	7.97	1291	(162)
C 4-3	D16	3450	4	1.56	5.38	22	(4) (平均長)
C 4-4	D16	5150	4	1.56	8.03	32	(4) (平均長)
					小計	4683	kg

			フレア箇所	圧接箇所	
	D22	2476 kg		<128>	SD345
	D16	2207 kg	(332)		SD345
	合計	4683 kg	(332)	<128>	SD345

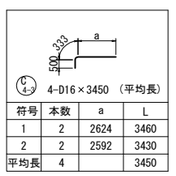
コンクリート削孔(φ18,L=58)	189	箇所 (参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	46	箇所
フレア溶接(D16)	332	箇所



C 4-3 162-D16×3410　C 4-4 162-D16×5110

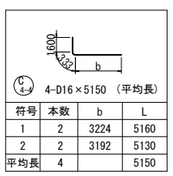


C 4-3 4-D16×3450 (平均長)　C 4-4 4-D16×5150 (平均長)



C 4-3 4-D16×3450 (平均長)

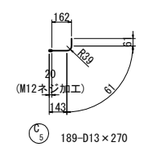
符号	本数	a	L
1	2	2624	3460
2	2	2592	3430
平均長	4		3450



C 4-4 4-D16×5150 (平均長)

符号	本数	b	L
1	2	3224	5160
2	2	3192	5130
平均長	4		5150

組立筋加工図(参考図) S=1:50

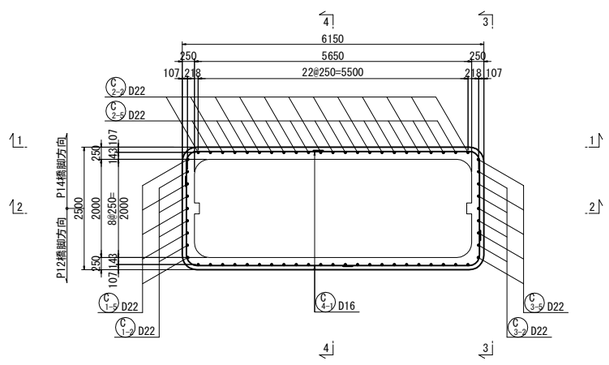


C 5 189-D13×270

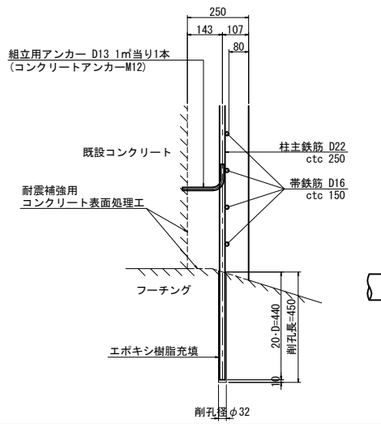
※1本/約1m2程度、設置する。

平 面 図 S=1:125

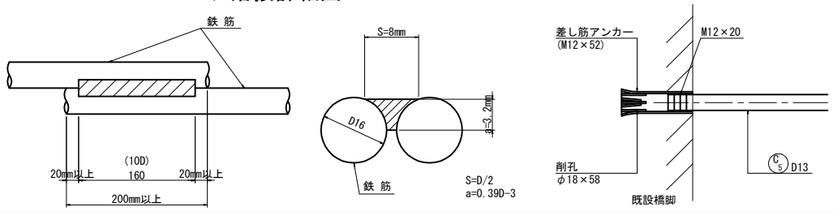
5 － 5



かぶり詳細図 S=1:25



フレア溶接詳細図



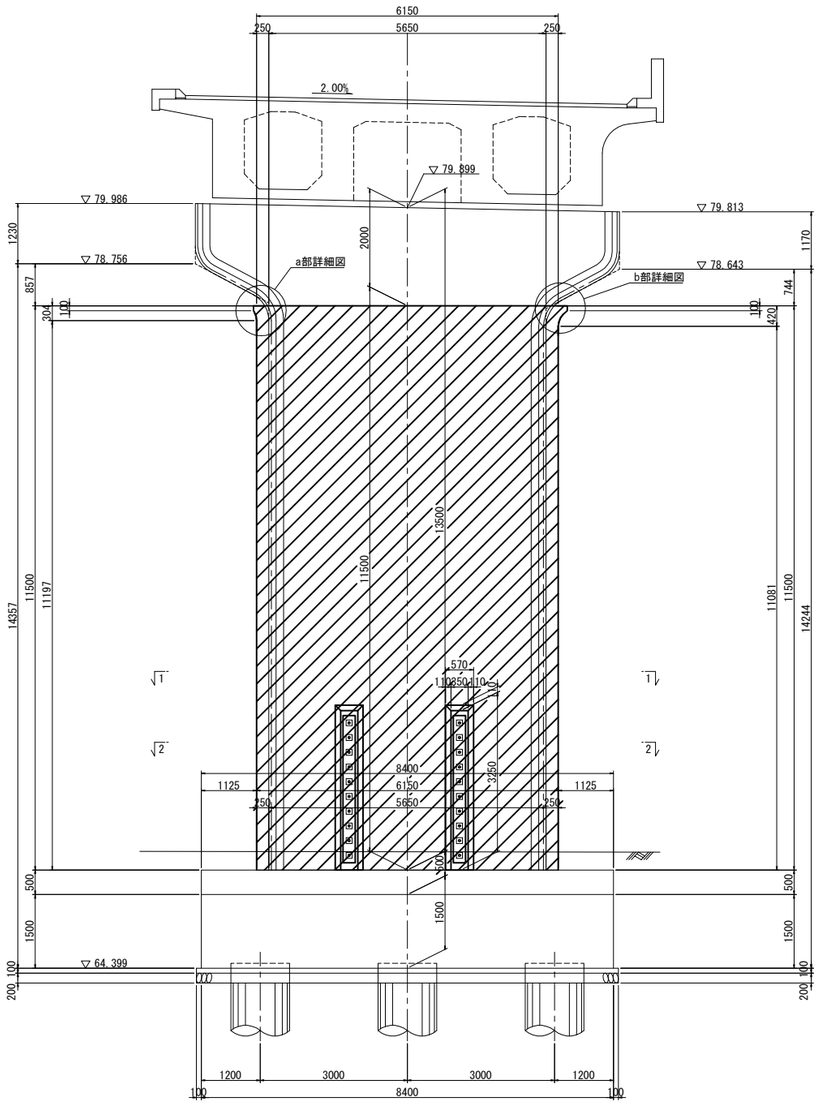
組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5

注)1.施工前に既設形状寸法を確認すること。
2.アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、
既設構造物の鉄筋を切断しないように
現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等
による調査を実施し、確認すること。
3.補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4.Gはガス圧接位置を示す

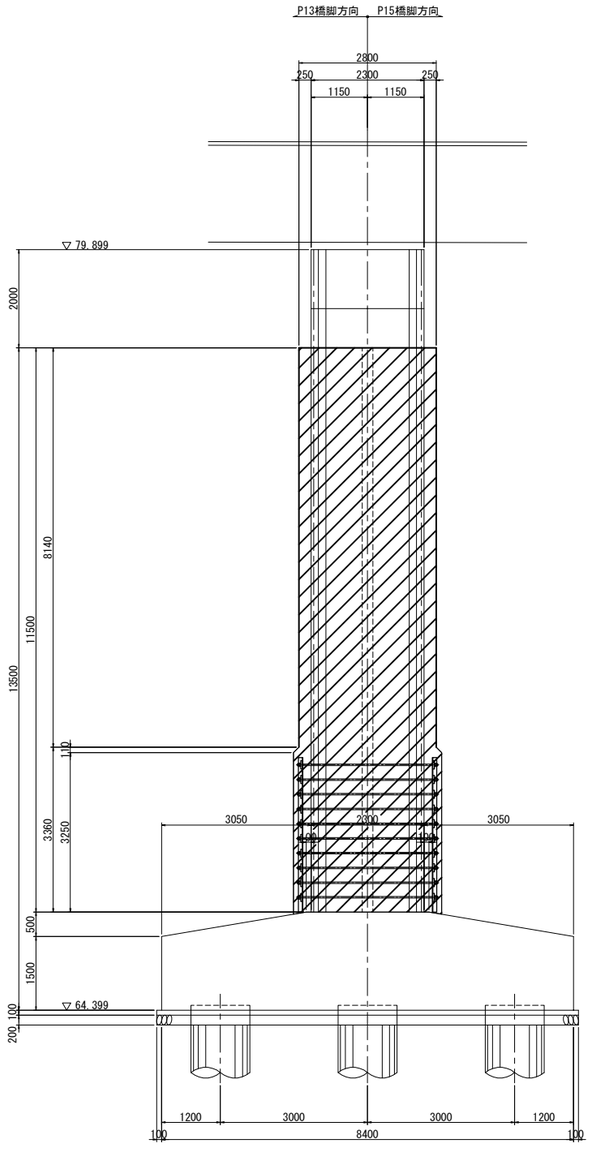
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P13橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P14橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）（その１）S=1:125

正 面 図



側 面 図



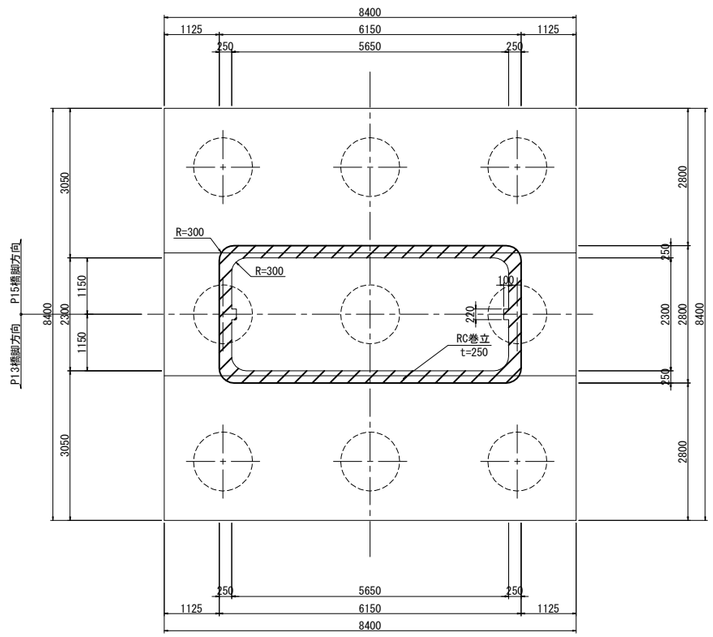
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

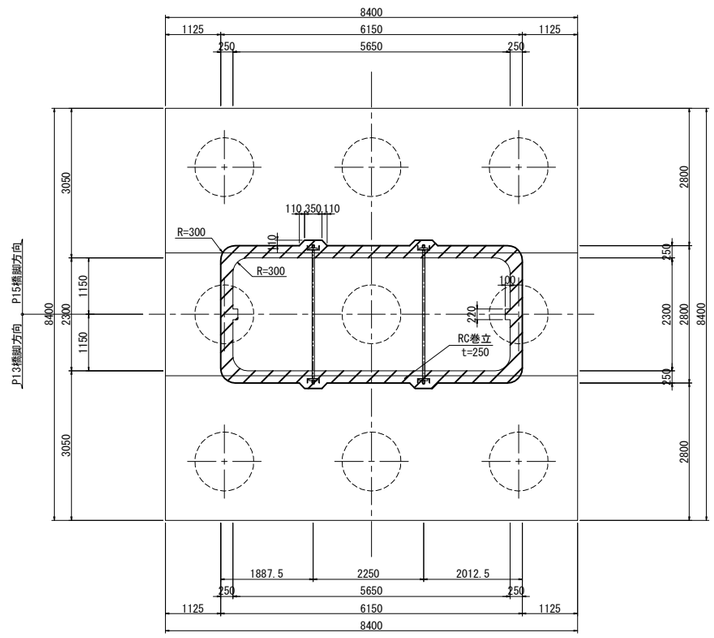
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P14橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）（その１）
縮尺	1:125
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

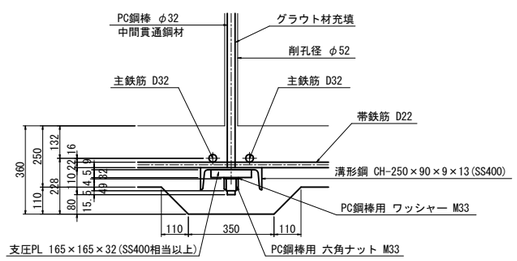
P14橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）（その２）S=図示

平 面 図 S=1:125

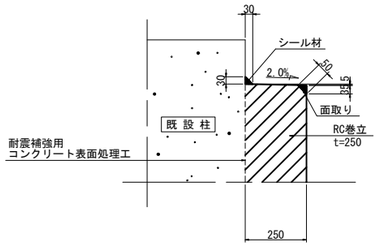




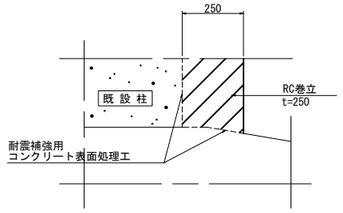
中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



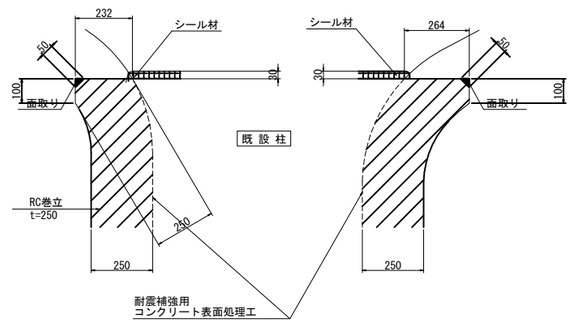
RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



a部詳細図 S=1:25　　b部詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

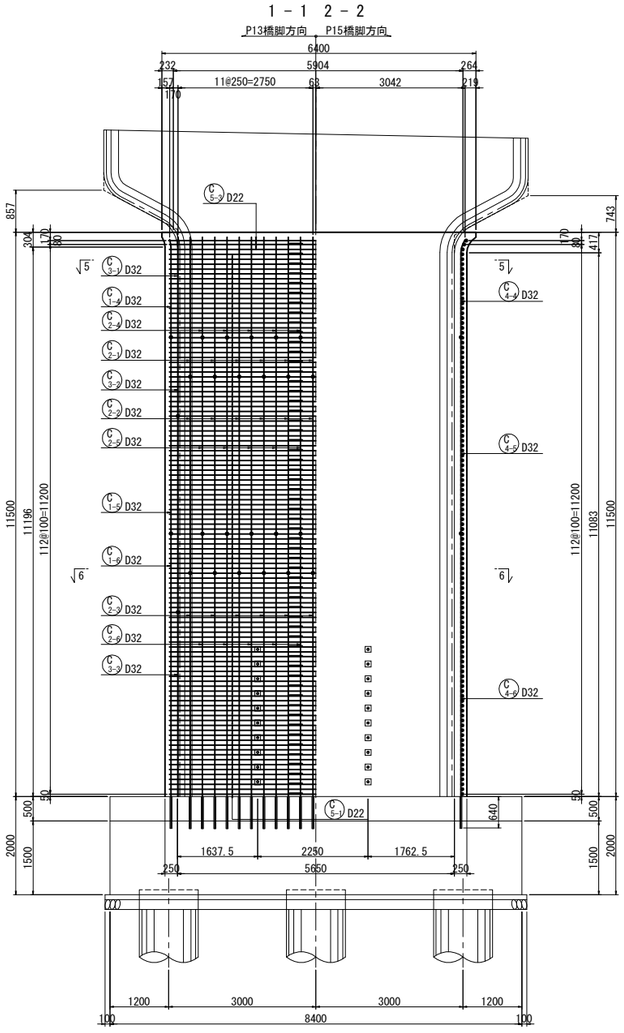
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P14橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）（その２）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P14橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）（その１）S=図示

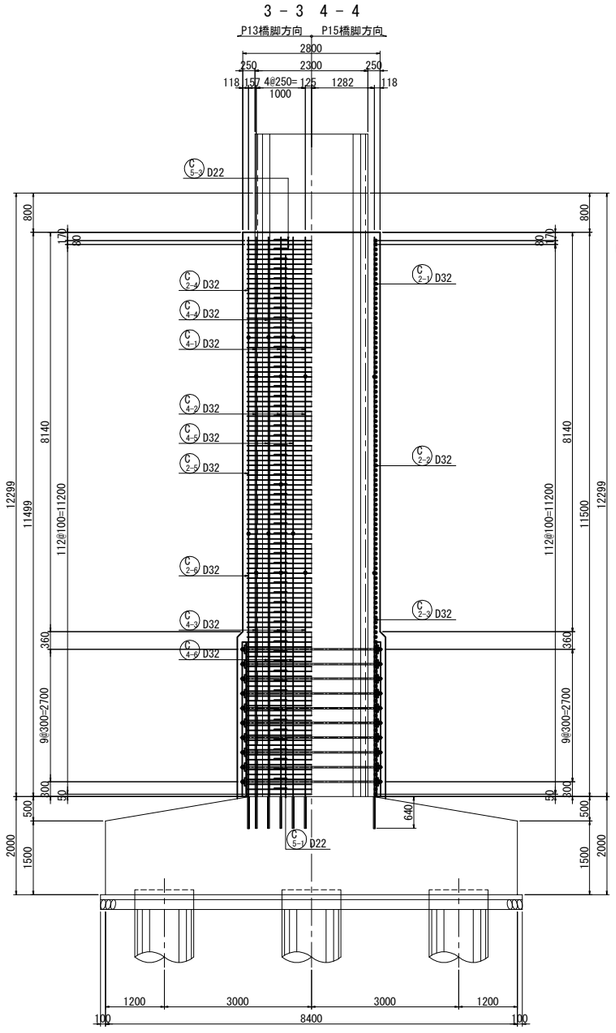
正 面 図 S=1:125

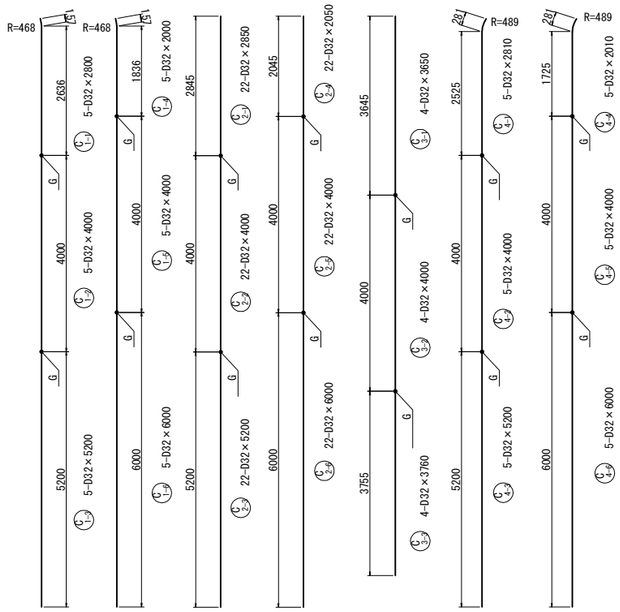
1 - 1　2 - 2

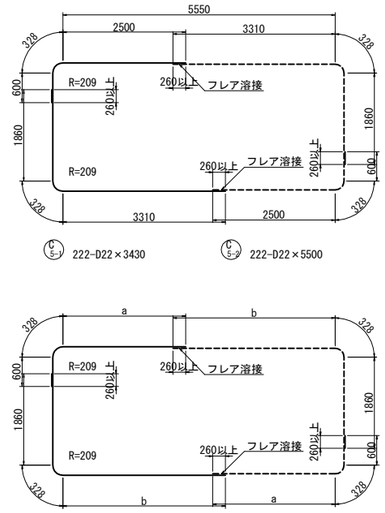


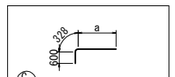
側 面 図 S=1:125

3 - 3　4 - 4

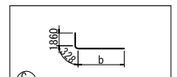








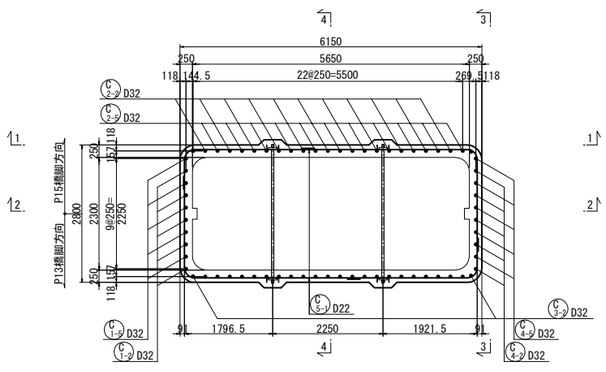
符号	本数	a	L
1	2	2550	3480
2	2	2520	3450
3	2	2504	3440
平均長	6		3460



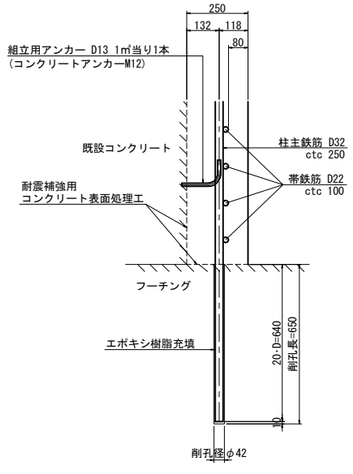
符号	本数	b	L
1	2	3360	5550
2	2	3330	5520
3	2	3314	5510
平均長	6		5530

平 面 図 S=1:125

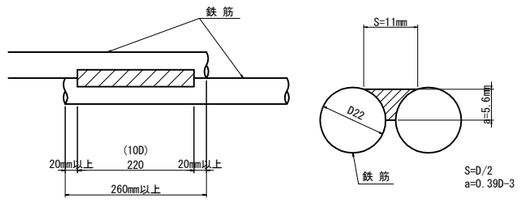
6 - 6



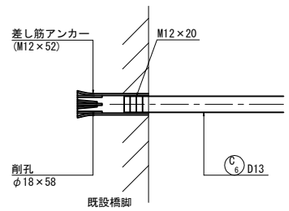
かぶり詳細図 S=1:25



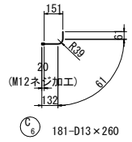
フレア溶接詳細図



組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



組立筋加工図(参考図) S=1:50



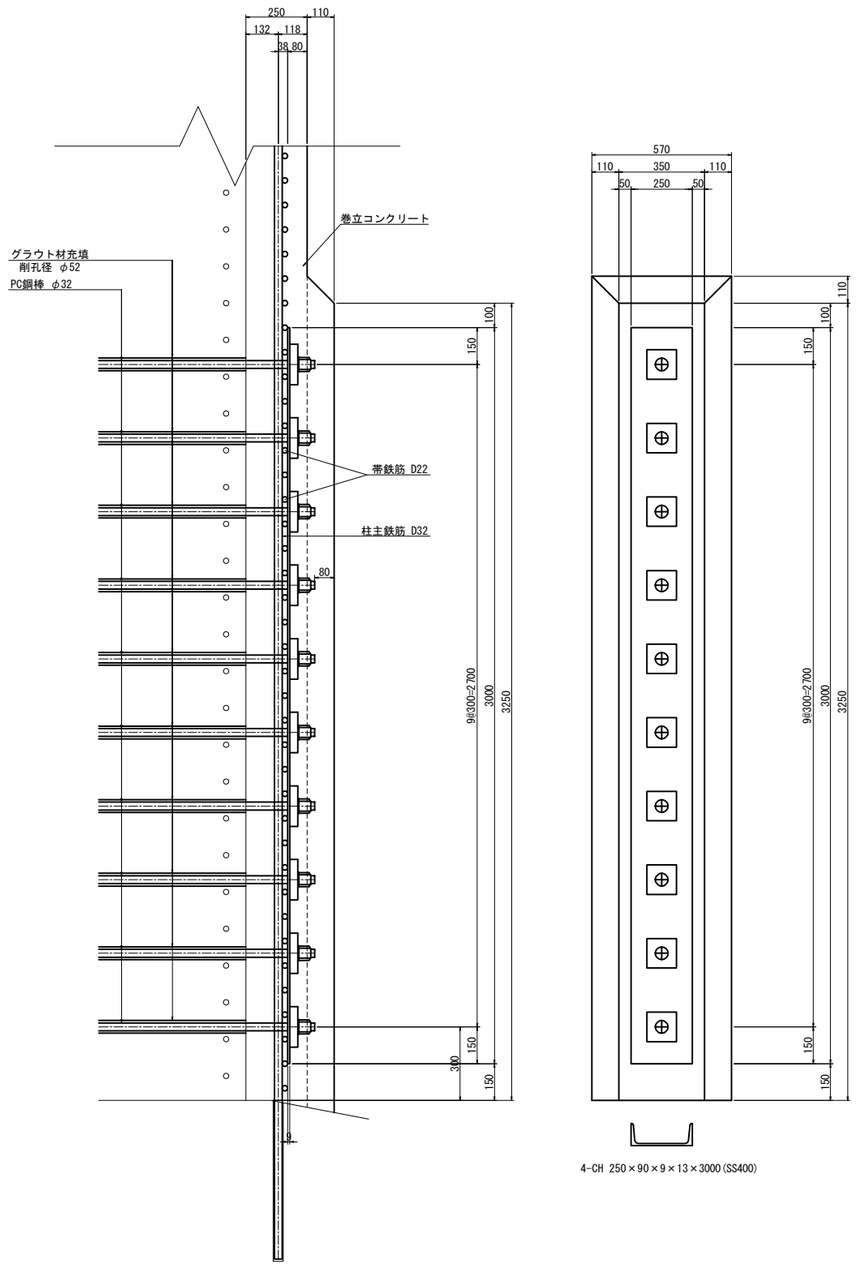
※1本/約1m2程度、設置する。

注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋と中間貫通鋼材の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す

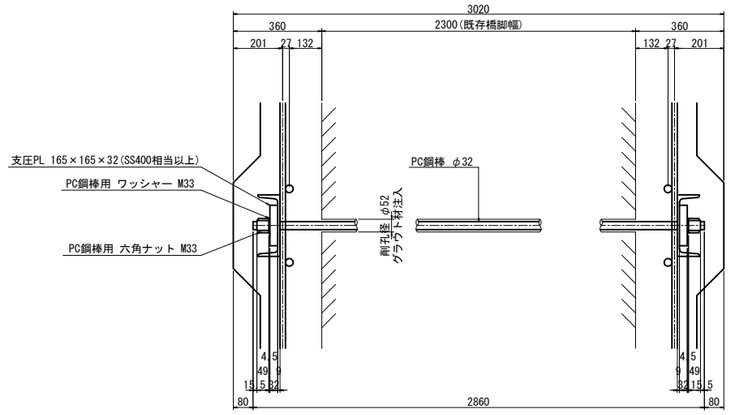
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P14橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）（その１）
縮　尺	図示　図面番号　/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P14橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）（その２）S=図示

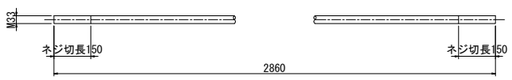
中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



PC鋼棒(中間拘束具)詳細図 S=1:25

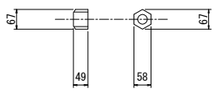


PC鋼棒詳細



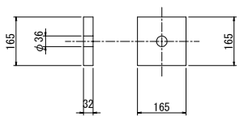
20-PC鋼棒 φ32×2860(SBPR930/1080)

ナット詳細



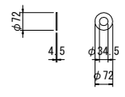
40-ナット M33(S45C)

アンカープレート詳細



40-PL 165×32×165(SS400)

ワッシャー詳細



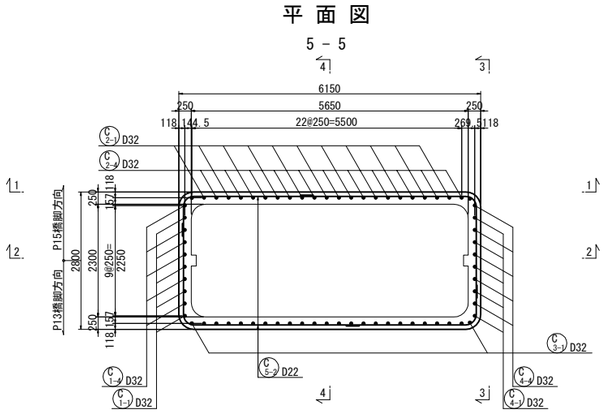
40-ワッシャー M33(SS400)

鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D32	2800	5	6.23	17.4	87	⅂
C 1-2	D32	4000	5	6.23	24.9	125	↑ <5>
C 1-3	D32	5200	5	6.23	32.4	162	↑ <5>
C 1-4	D32	2000	5	6.23	12.5	63	⅂
C 1-5	D32	4000	5	6.23	24.9	125	↑ <5>
C 1-6	D32	6000	5	6.23	37.4	187	↑ <5>
C 2-1	D32	2850	22	6.23	17.8	392	｜
C 2-2	D32	4000	22	6.23	24.9	548	↑ <22>
C 2-3	D32	5200	22	6.23	32.4	713	↑ <22>
C 2-4	D32	2050	22	6.23	12.8	282	｜
C 2-5	D32	4000	22	6.23	24.9	548	↑ <22>
C 2-6	D32	6000	22	6.23	37.4	823	↑ <22>
C 3-1	D32	3650	4	6.23	22.7	91	｜
C 3-2	D32	4000	4	6.23	24.9	100	↑ <4>
C 3-3	D32	3760	4	6.23	23.4	94	↑ <4>
C 4-1	D32	2810	5	6.23	17.5	88	ｒ
C 4-2	D32	4000	5	6.23	24.9	125	↑ <5>
C 4-3	D32	5200	5	6.23	32.4	162	↑ <5>
C 4-4	D32	2010	5	6.23	12.5	63	ｒ
C 4-5	D32	4000	5	6.23	24.9	125	↑ <5>
C 4-6	D32	6000	5	6.23	37.4	187	↑ <5>
C 5-1	D22	3430	222	3.04	10.4	2309	⊏ (222)
C 5-2	D22	5500	222	3.04	16.7	3707	⊏ (222)
C 5-3	D22	3460	6	3.04	10.5	63	⊏ (6) (平均長)
C 5-4	D22	5530	6	3.04	16.8	101	⊏ (6) (平均長)
					小計	11270	kg

フレア箇所		圧接箇所			
D32	5090 kg		<136>		SD345
D22	6180 kg	(456)			SD345
合計	11270 kg	(456)	<136>		SD345
コンクリート削孔(φ18,L=58)			181	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ42,L=650)			64	箇所	
フレア溶接(D22)			(456)	箇所	

平 面 図

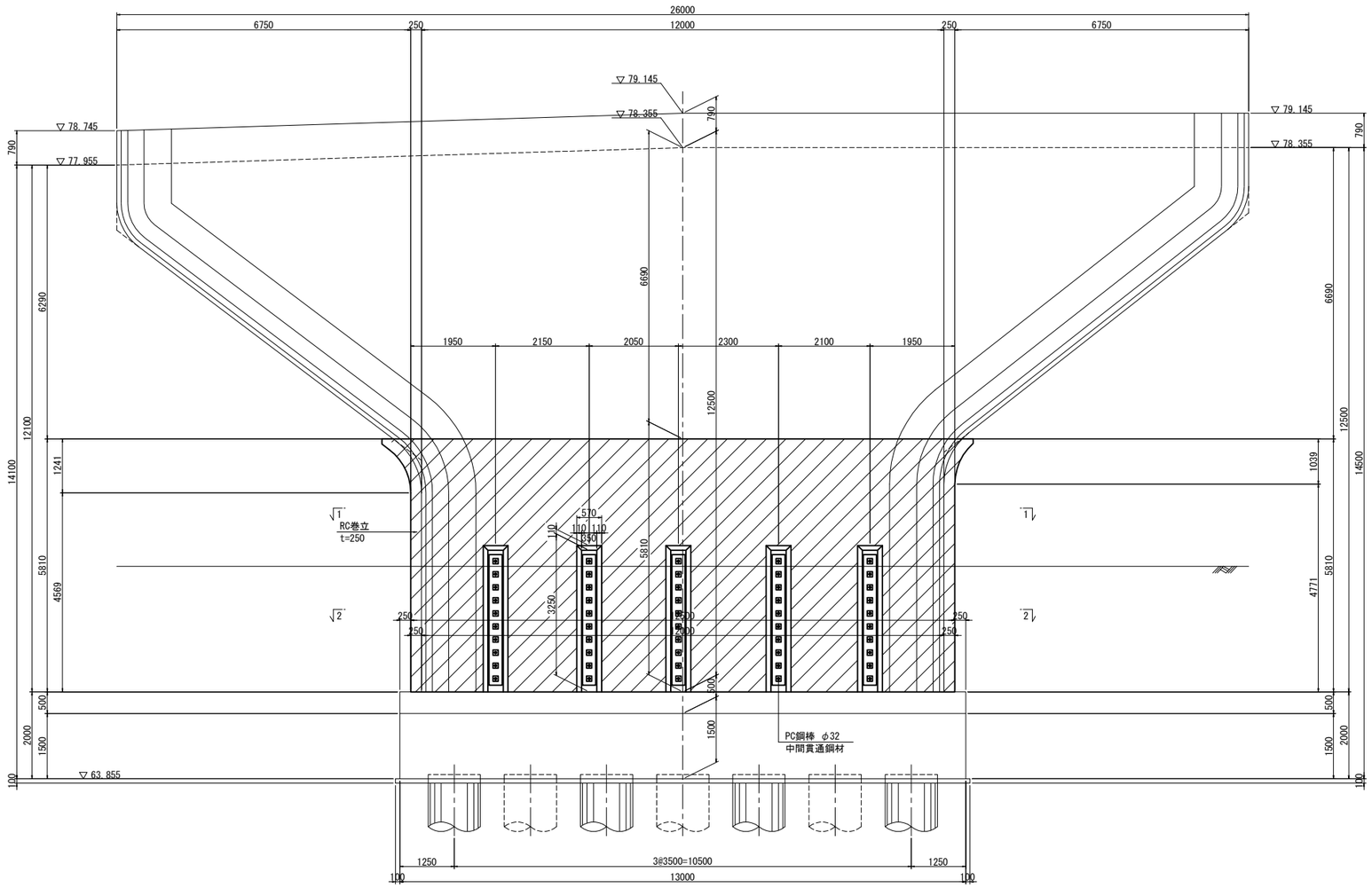


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋と中間貫通鋼材の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す

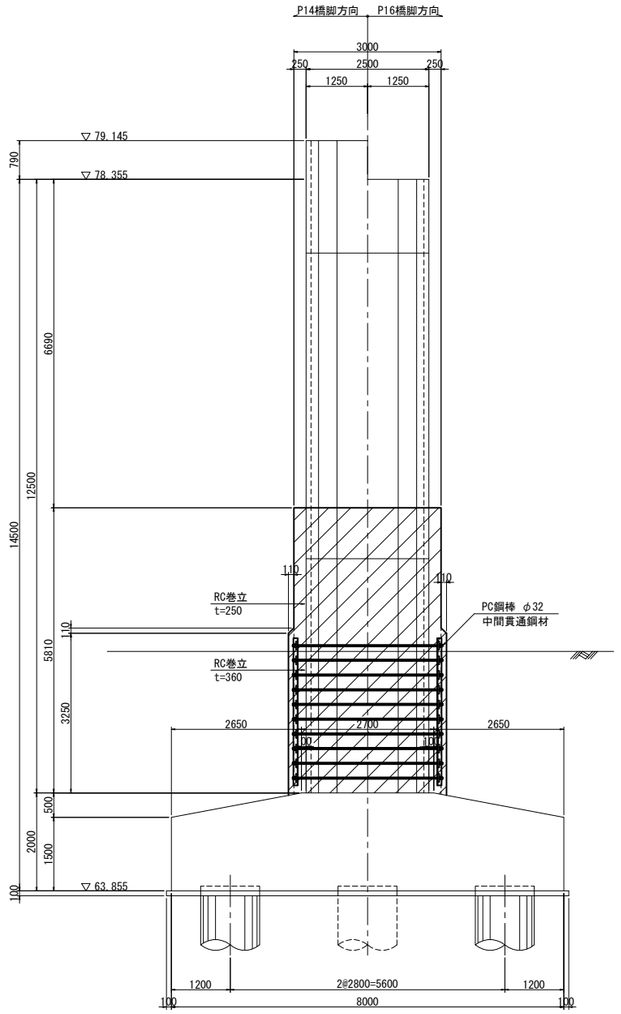
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P14橋脚 RC巻立て補強配筋図 (上り線)（その２）
縮尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P15橋脚 RC巻立て補強一般図（その１）S=1:125

正 面 図



側 面 図



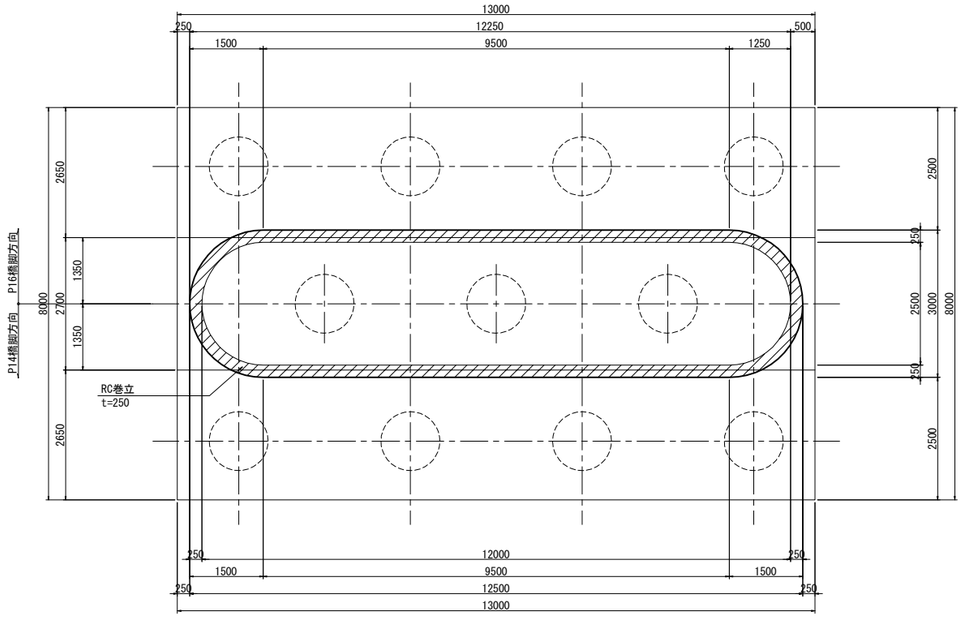
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、
既設構造物の鉄筋を切断しないように
現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等
による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

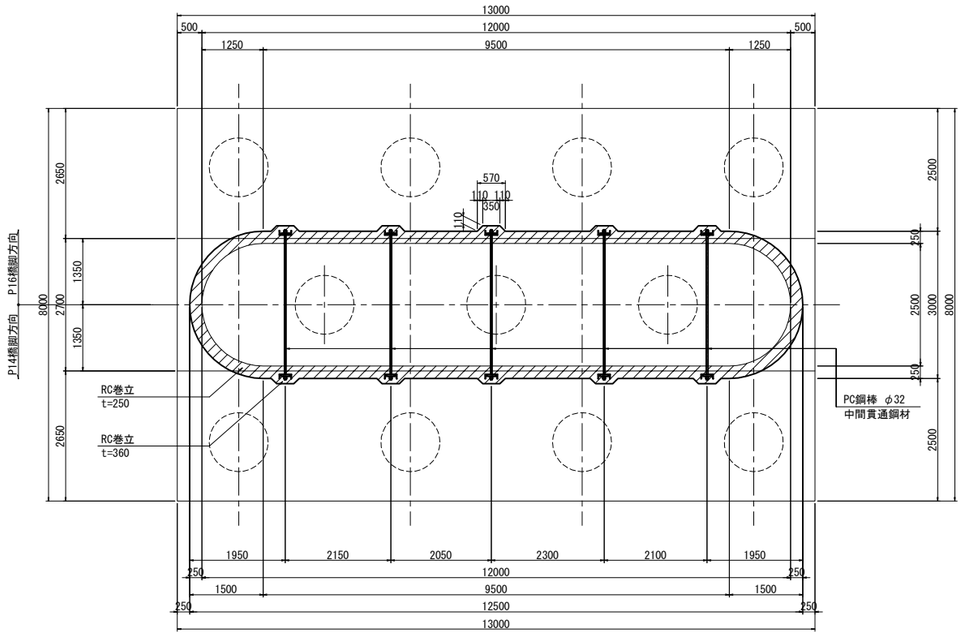
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚 RC巻立て補強一般図（その１）		
縮尺	1:125	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P15橋脚 RC巻立て補強一般図（その２）S=図示

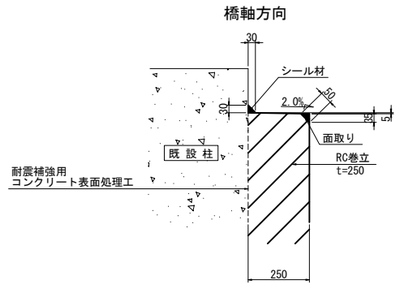
平 面 図 S=1:125



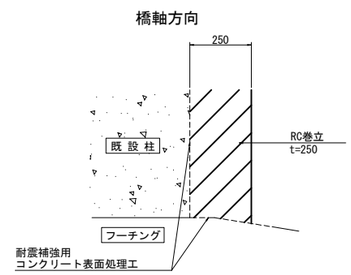
2 － 2

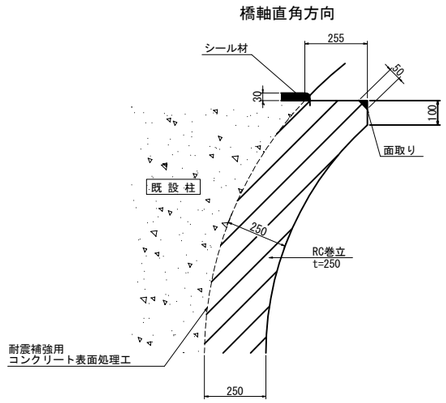


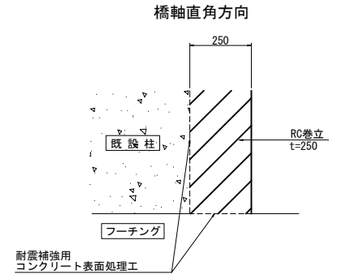
RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



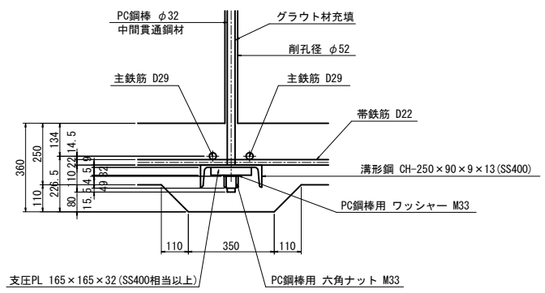
RC巻立て下端詳細図 S=1:25







中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



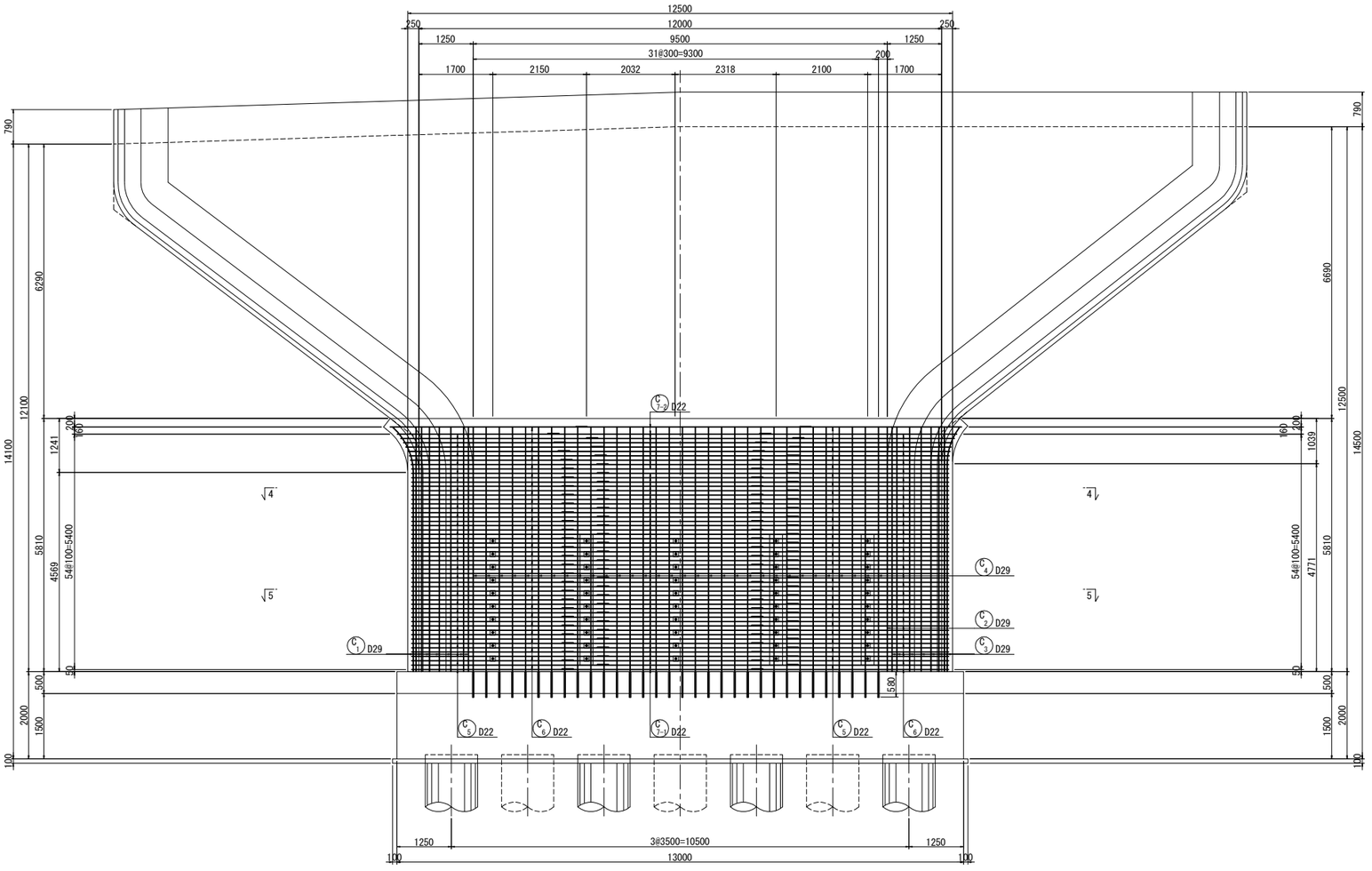
注）
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚 RC巻立て補強一般図（その２）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P15橋脚 RC巻立て補強配筋図（その１）S=1:125

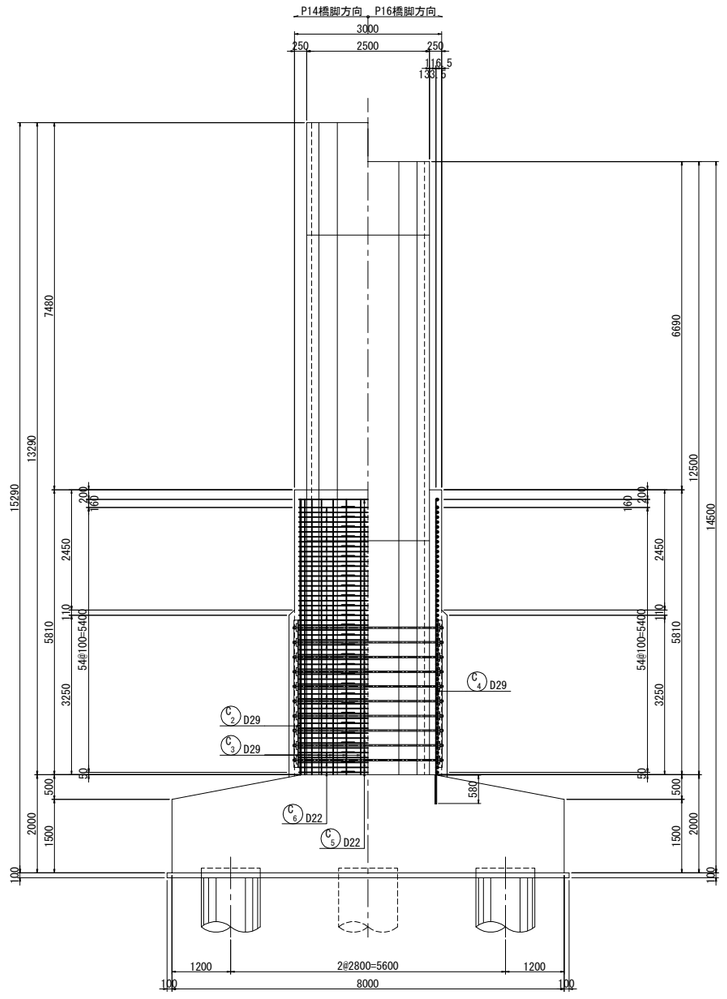
正 面 図

1 － 1



側 面 図

2 － 2　3 － 3



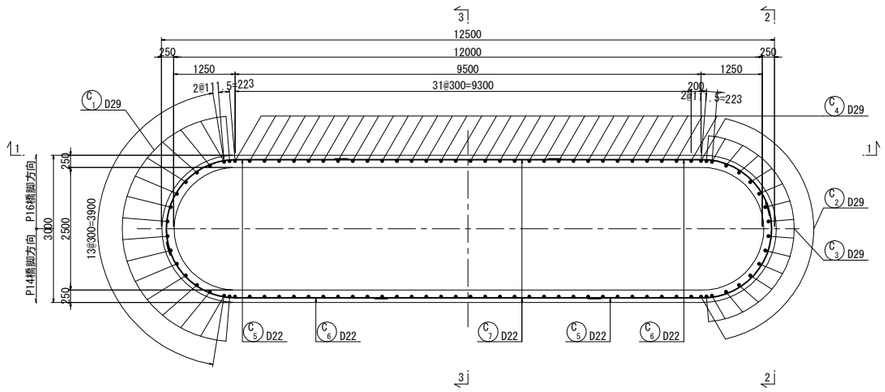
注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに積載可能なものとなるように計画している。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚 RC巻立て補強配筋図（その１）		
縮　尺	1:125	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

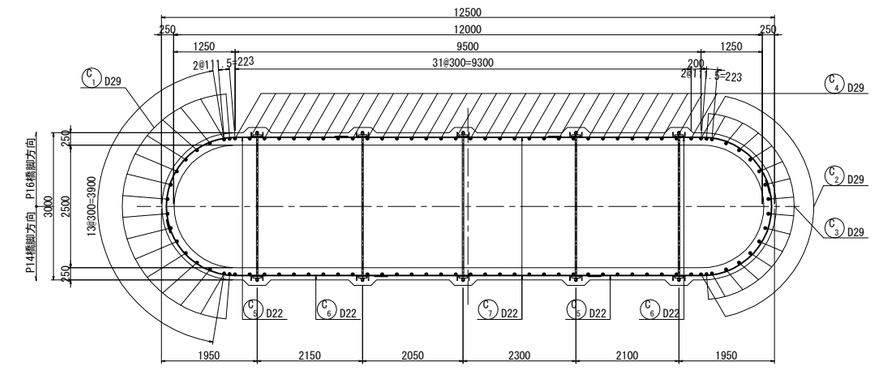
P15橋脚 RC巻立て補強配筋図（その２）S=図示

平 面 図 S=1:125

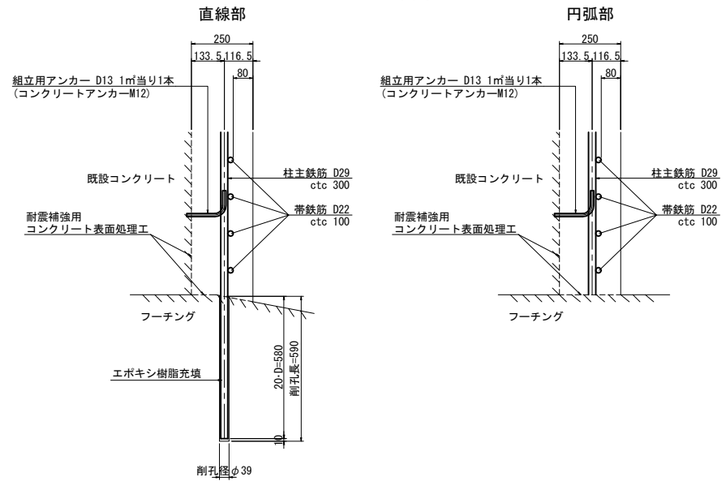
4 － 4



5 － 5

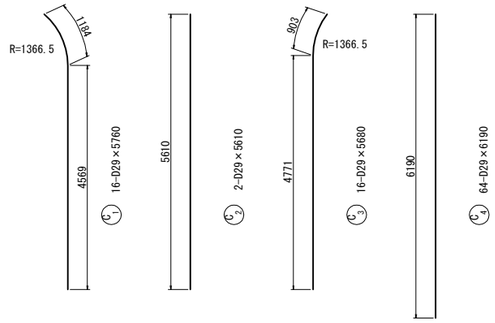


かぶり詳細図 S=1:25

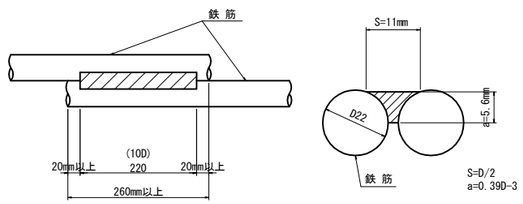


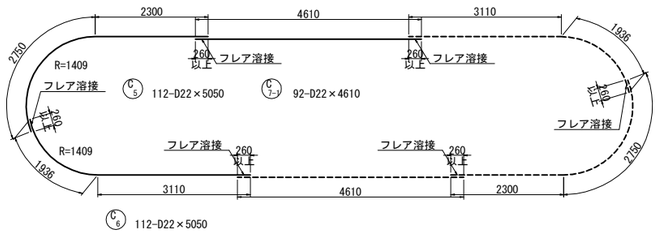
鉄筋表

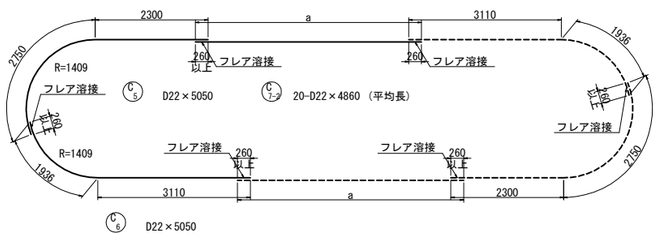
記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1	D29	5760	16	5.04	29.0	464	｜
C 2	D29	5610	2	5.04	28.3	57	｜
C 3	D29	5680	16	5.04	28.6	458	｜
C 4	D29	6190	64	5.04	31.2	1997	｜
C 5	D22	5050	112	3.04	15.4	1725	⌐ (112)
C 6	D22	5050	112	3.04	15.4	1725	⌙ (112)
C 7-1	D22	4610	92	3.04	14.0	1288	― (92)
C 7-2	D22	4860	20	3.04	14.8	296	― (20) (平均長)
					小計	8010	kg
フレア箇所							
	D29	2976	kg				SD345
	D22	5034	kg	(336)			SD345
	合計	8010	kg	(336)			SD345
コンクリート削孔(φ18,L=58)					157	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ39,L=590)					64	箇所	
フレア溶接(D22)					336	箇所	



フレア溶接詳細図



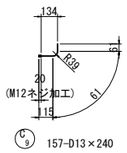




C7-2 20-D22×4860 (平均長)

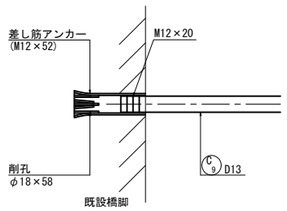
符号	本数	a	L
1	2	4612	4620
2	2	4622	4630
3	2	4642	4650
4	2	4677	4680
5	2	4729	4730
6	2	4797	4800
7	2	4884	4890
8	2	4992	5000
9	2	5125	5130
10	2	5401	5410
平均長	20		4860

組立筋加工図(参考図) S=1:50



※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5

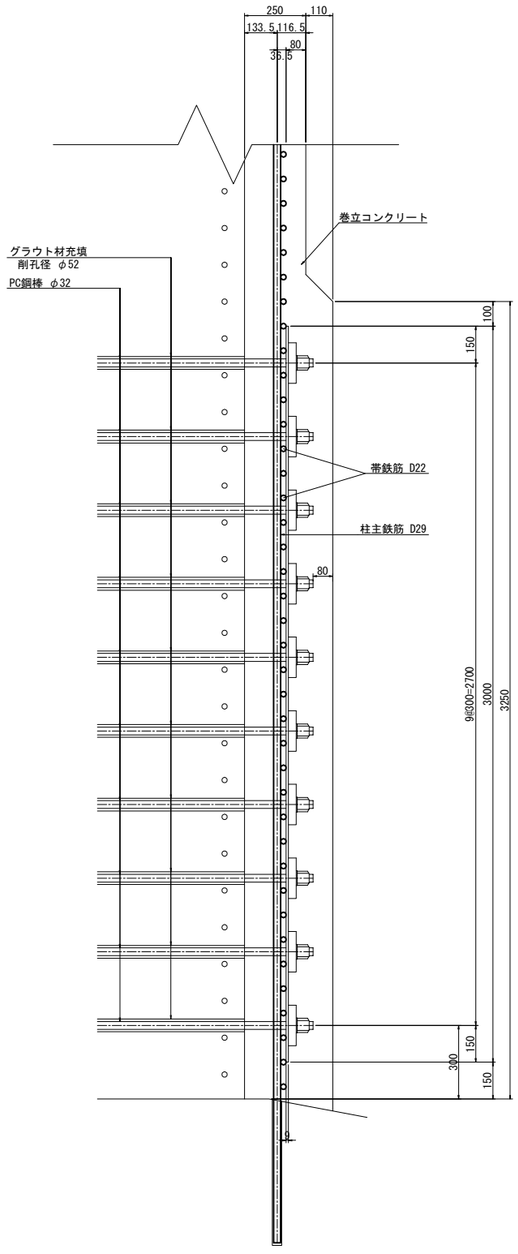


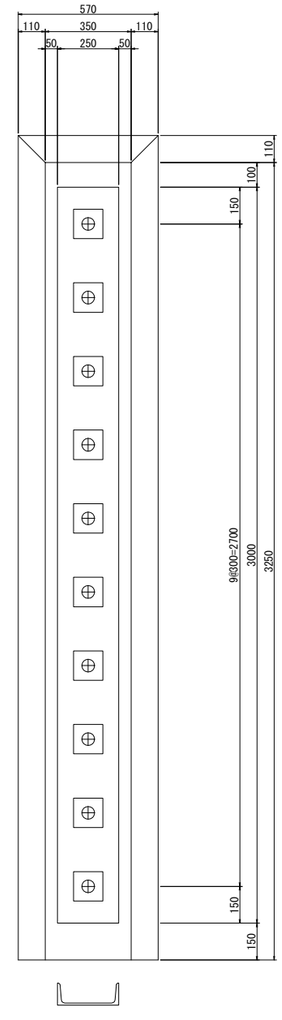
注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに積載可能なものとなるように計画している。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚 RC巻立て補強配筋図（その２）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P15橋脚 RC巻立て補強配筋図（その３）S=1:25

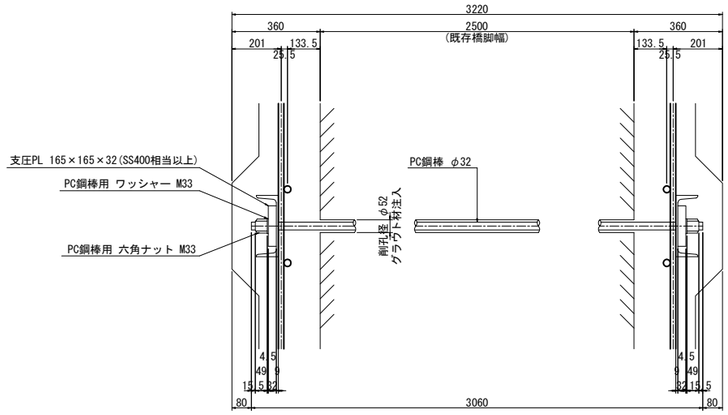
中間貫通鋼材詳細図



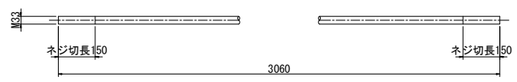


10-CH 250×90×9×13×3000(SS400)

PC鋼棒(中間拘束具)詳細図



PC鋼棒詳細

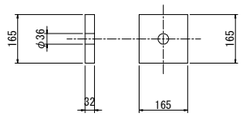


50-PC鋼棒 φ32×3060(SBPR930/1080)

ナット詳細

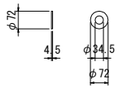
100-ナット M33(S45C)

アンカープレート詳細



100-PL 165×32×165(SS400)

ワッシャー詳細



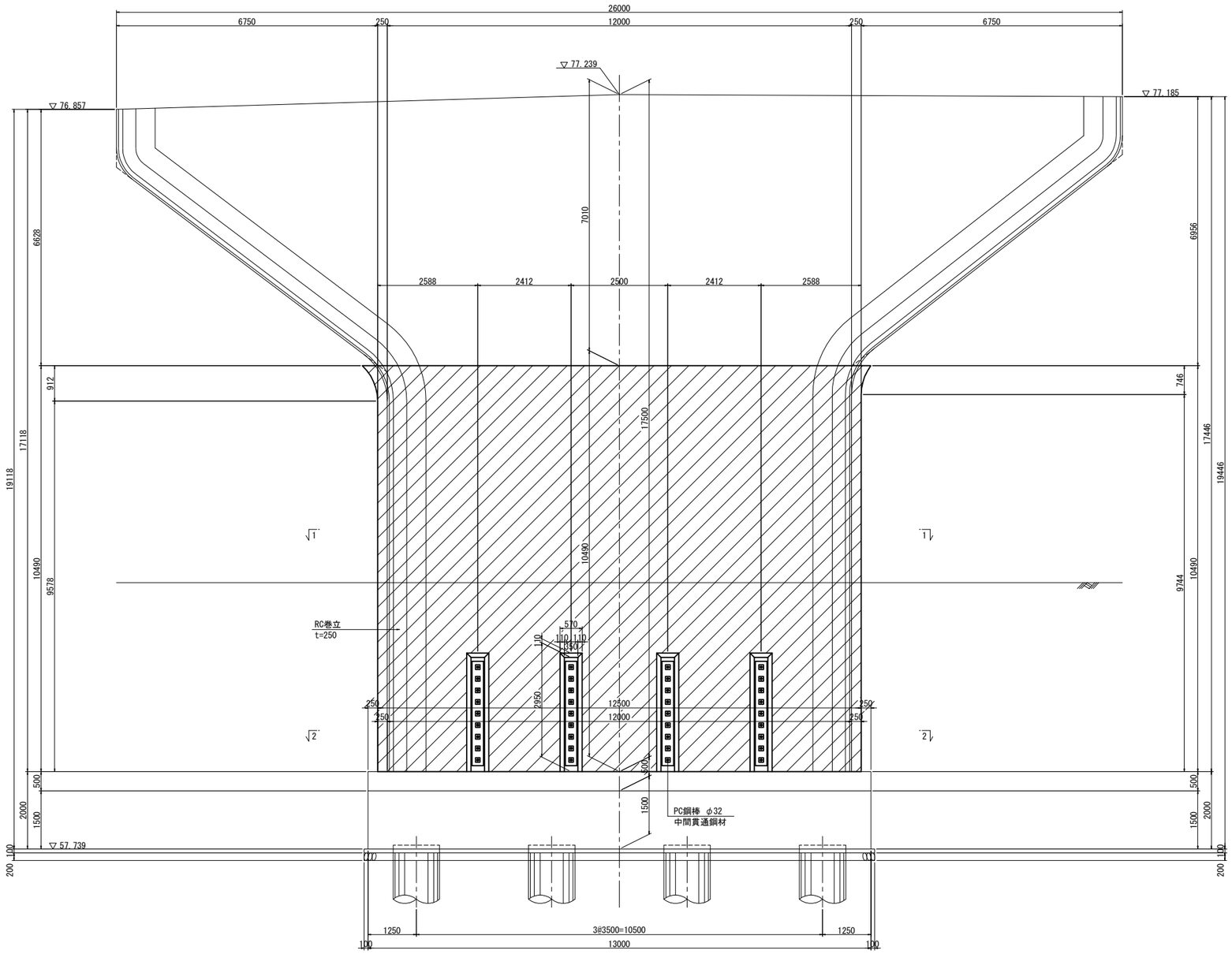
100-ワッシャー M33(SS400)

注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、
既設構造物の鉄筋を切断しないように
現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等
による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに
積載可能なものとなるように計画している。

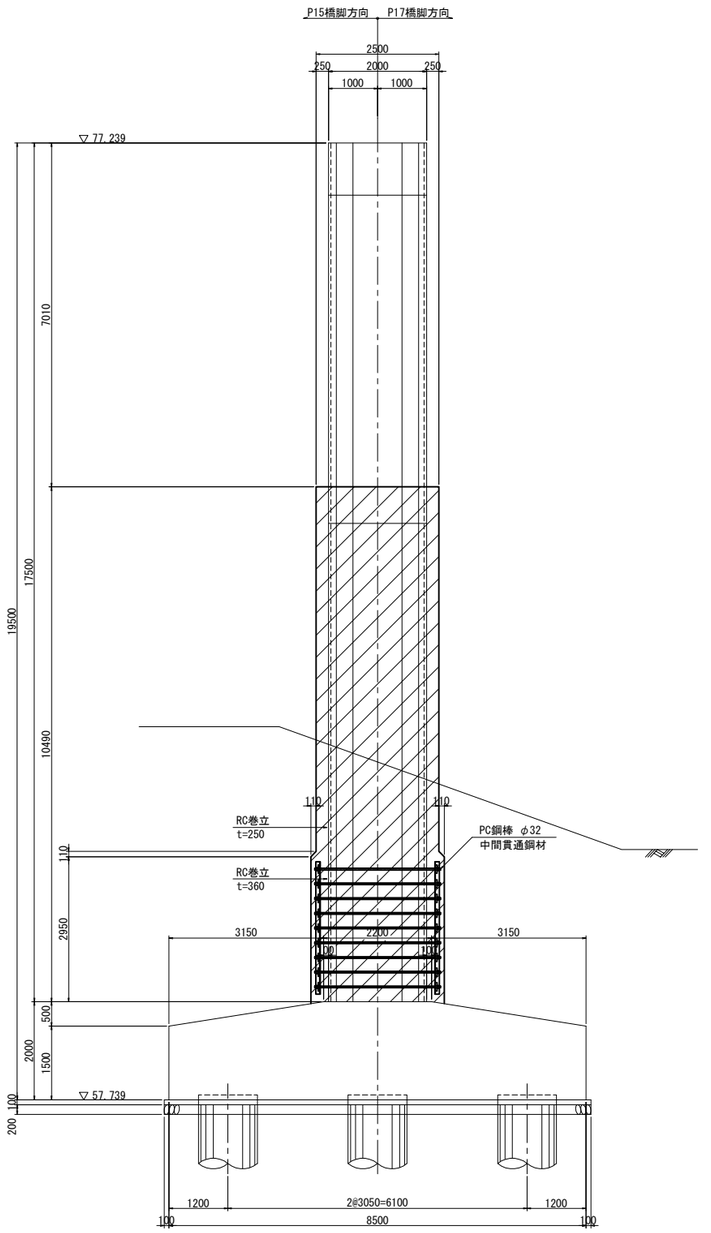
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚 RC巻立て補強配筋図（その３）		
縮　尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P16橋脚 RC巻立て補強一般図（その１）S=1:125

正 面 図



側 面 図



工　　種		仕　　様
既 設 部	コンクリート	24N/mm2
	鉄　　筋	SD345
補 強 部	コンクリート	30N/mm2
	鉄　　筋	SD345

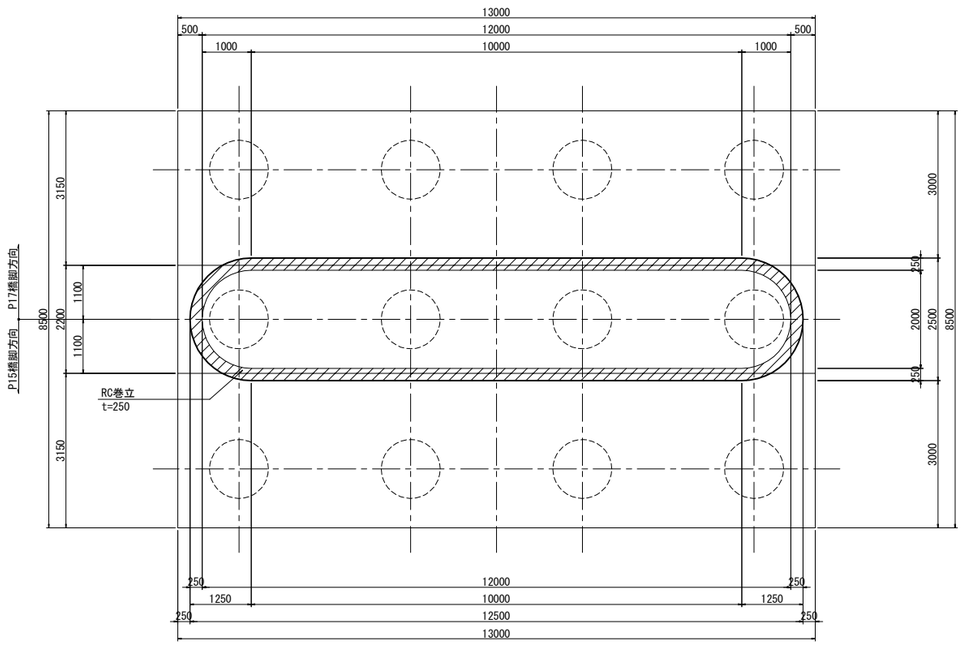
注）
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P16橋脚 RC巻立て補強一般図（その１）		
縮　　尺	1:125	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

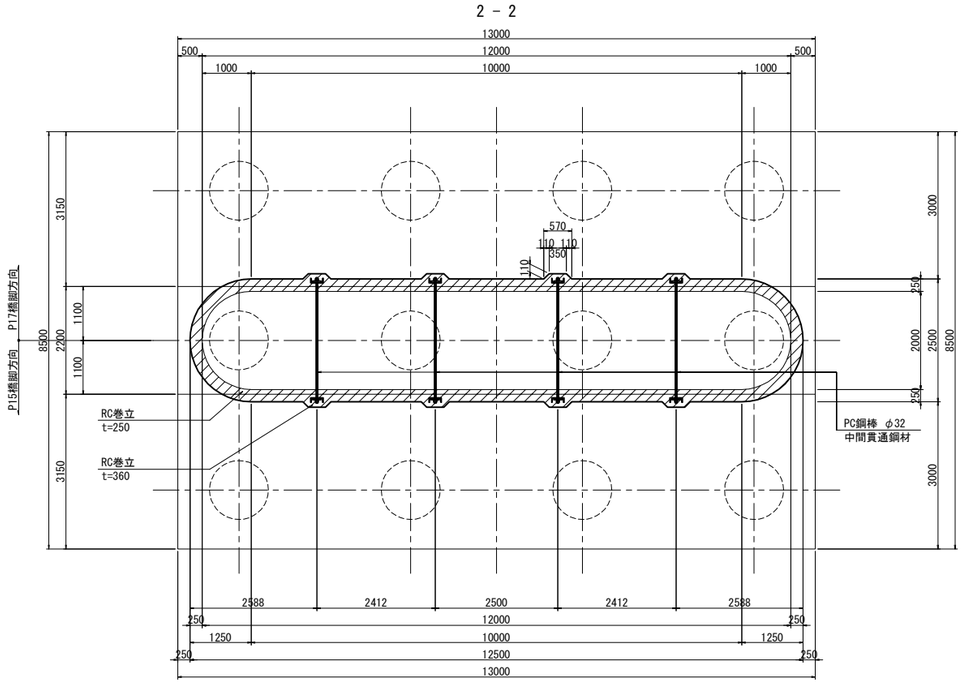
P16橋脚 RC巻立て補強一般図（その２）S=図示

平 面 図 S=1:125

1 － 1

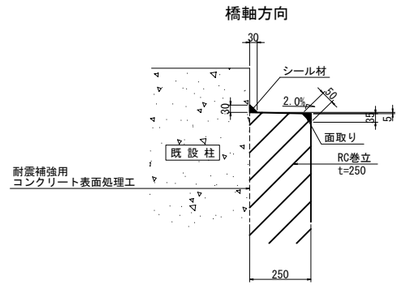


2 － 2

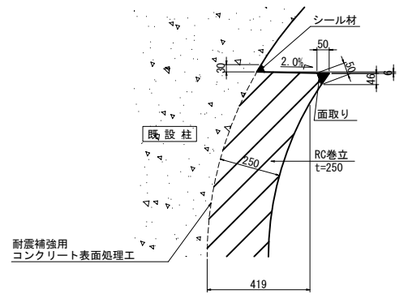


RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25

橋軸方向

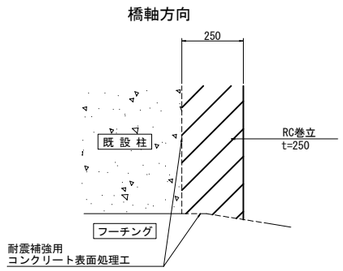


橋軸直角方向

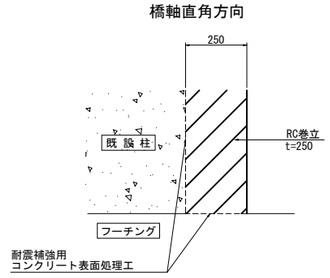


RC巻立て下端詳細図 S=1:25

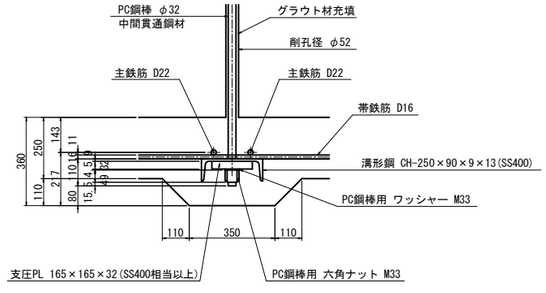
橋軸方向



橋軸直角方向



中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



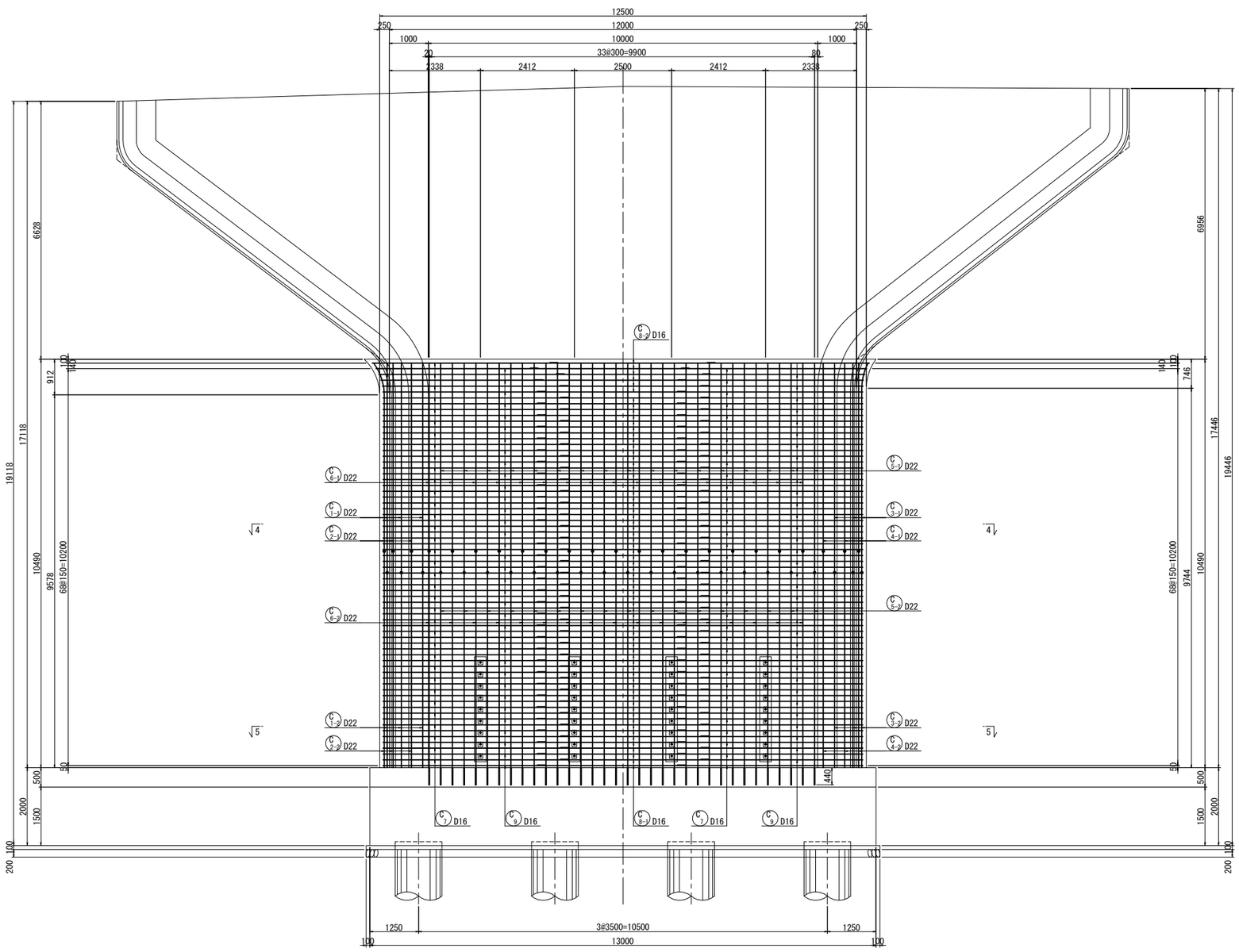
注）
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P16橋脚 RC巻立て補強一般図（その２）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P16橋脚 RC巻立て補強配筋図（その１）S=1:125

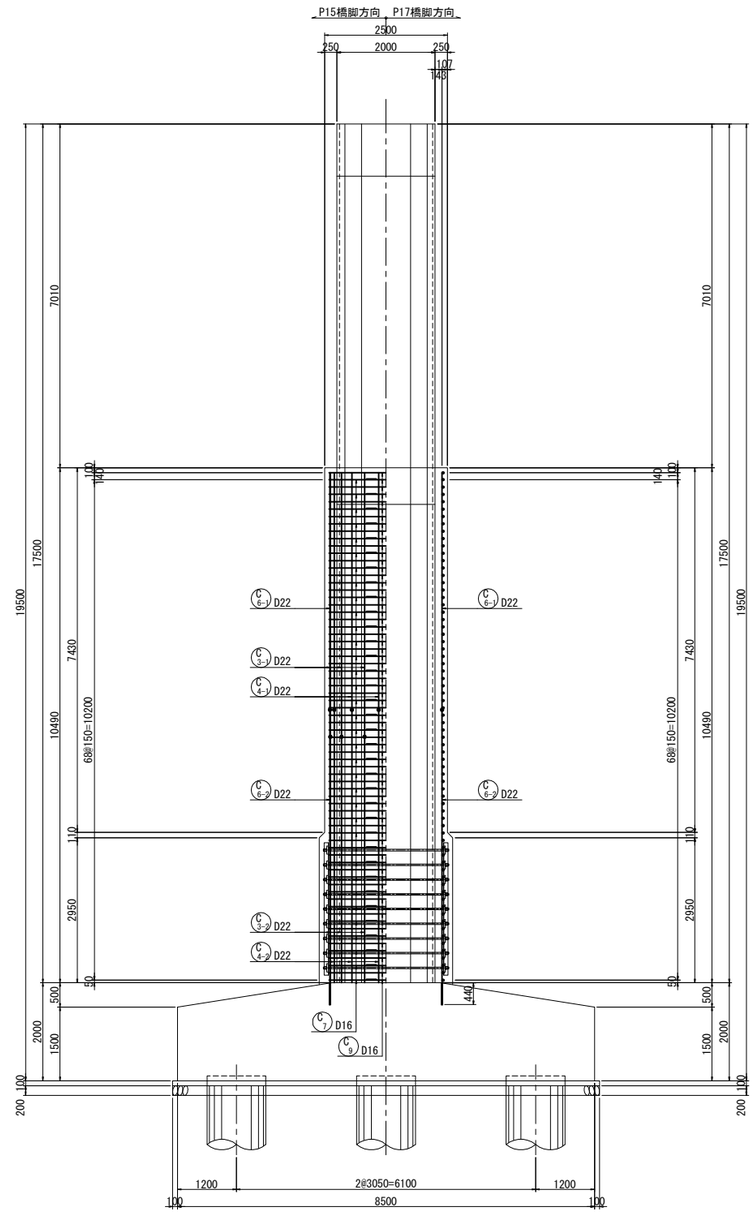
正 面 図

1 － 1



側 面 図

2 － 2　3 － 3



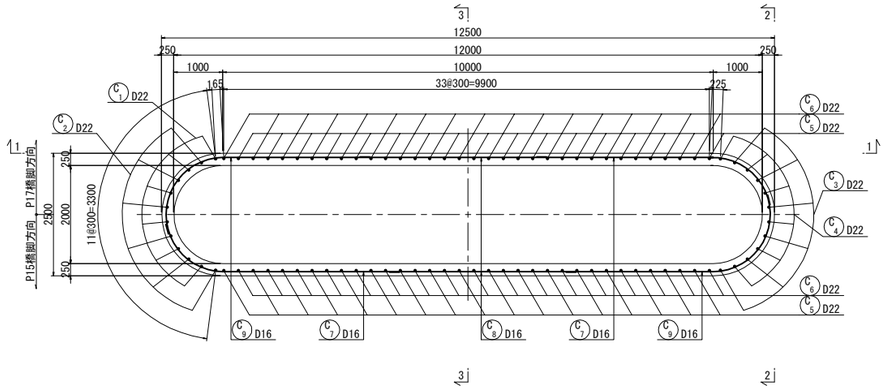
注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに積載可能なものとなるように計画している。
5. Gはガス圧接位置を示す。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P16橋脚 RC巻立て補強配筋図（その１）		
縮　尺	1:125	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

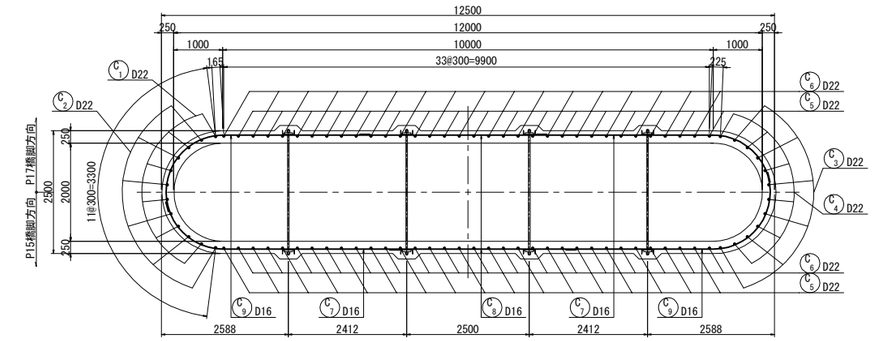
P16橋脚 RC巻立て補強配筋図（その２）S=図示

平 面 図 S=1:125

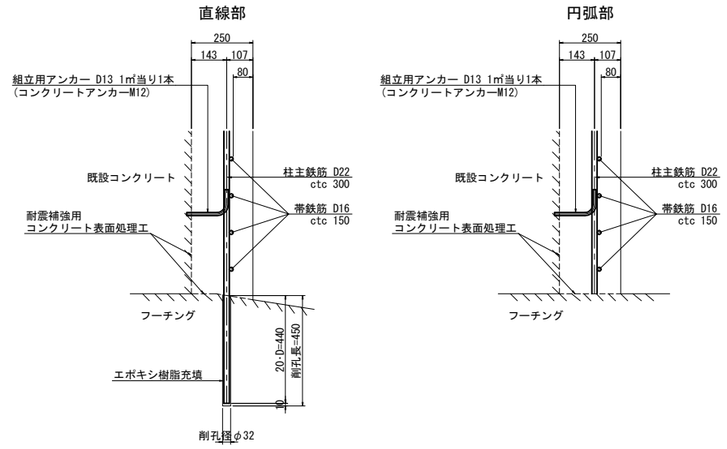
4 － 4



5 － 5



かぶり詳細図 S=1:25

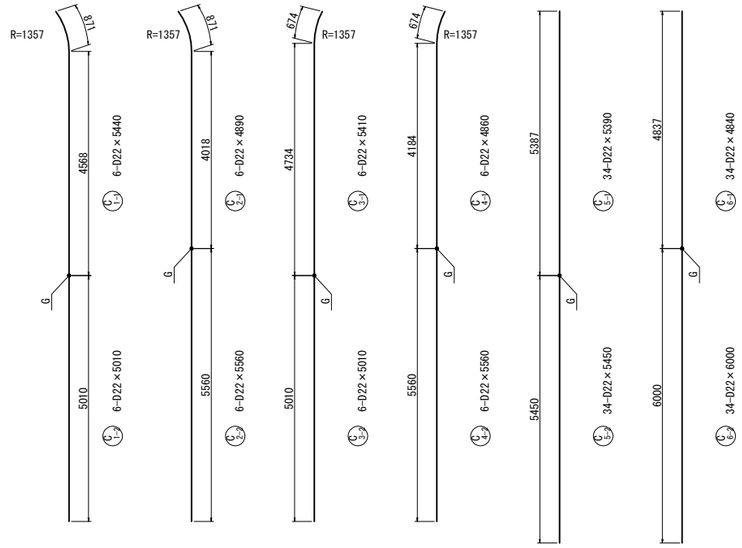


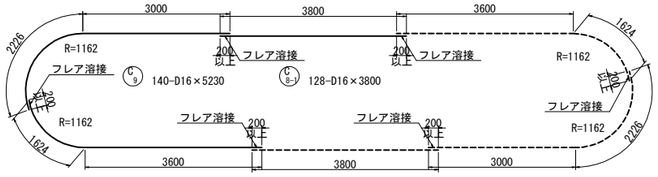
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	5440	6	3.04	16.5	99	I
C 1-2	D22	5010	6	3.04	15.2	91	▼ <6>
C 2-1	D22	4890	6	3.04	14.9	89	I
C 2-2	D22	5560	6	3.04	16.9	101	▼ <6>
C 3-1	D22	5410	6	3.04	16.4	98	I
C 3-2	D22	5010	6	3.04	15.2	91	▼ <6>
C 4-1	D22	4860	6	3.04	14.8	89	I
C 4-2	D22	5560	6	3.04	16.9	101	▼ <6>
C 5-1	D22	5390	34	3.04	16.4	558	I
C 5-2	D22	5450	34	3.04	16.6	564	▼ <34>
C 6-1	D22	4840	34	3.04	14.7	500	I
C 6-2	D22	6000	34	3.04	18.2	619	▼ <34>
C 7	D16	5230	140	1.56	8.16	1142	⊂ (140)
C 8-1	D16	3800	128	1.56	5.93	759	— (128)
C 8-2	D16	3970	12	1.56	6.19	74	— (12) (平均長)
C 9	D16	5230	140	1.56	8.16	1142	⊂ (140)
					小計	6117	kg

			フレア箇所	圧接箇所	
D22	3000	kg		<92>	SD345
D16	3117	kg	(420)		SD345
合計	6117	kg	(420)	<92>	SD345

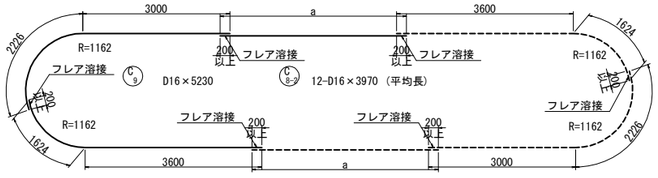
コンクリート削孔(φ18,L=58)	278	箇所 (参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	92	箇所
フレア溶接(D16)	420	箇所



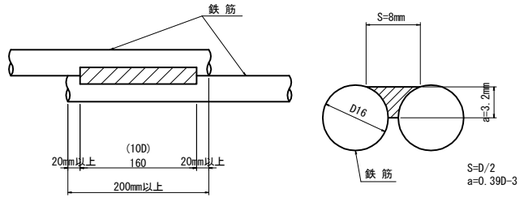


C8-2 12-D16×3970 (平均長)

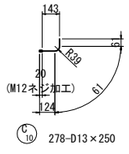
符号	本数	a	L
1	2	3802	3810
2	2	3820	3820
3	2	3869	3870
4	2	3954	3960
5	2	4081	4090
6	2	4241	4250
平均長	12		3970



フレア溶接詳細図

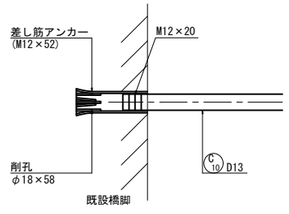


組立筋加工図(参考図) S=1:50



※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5

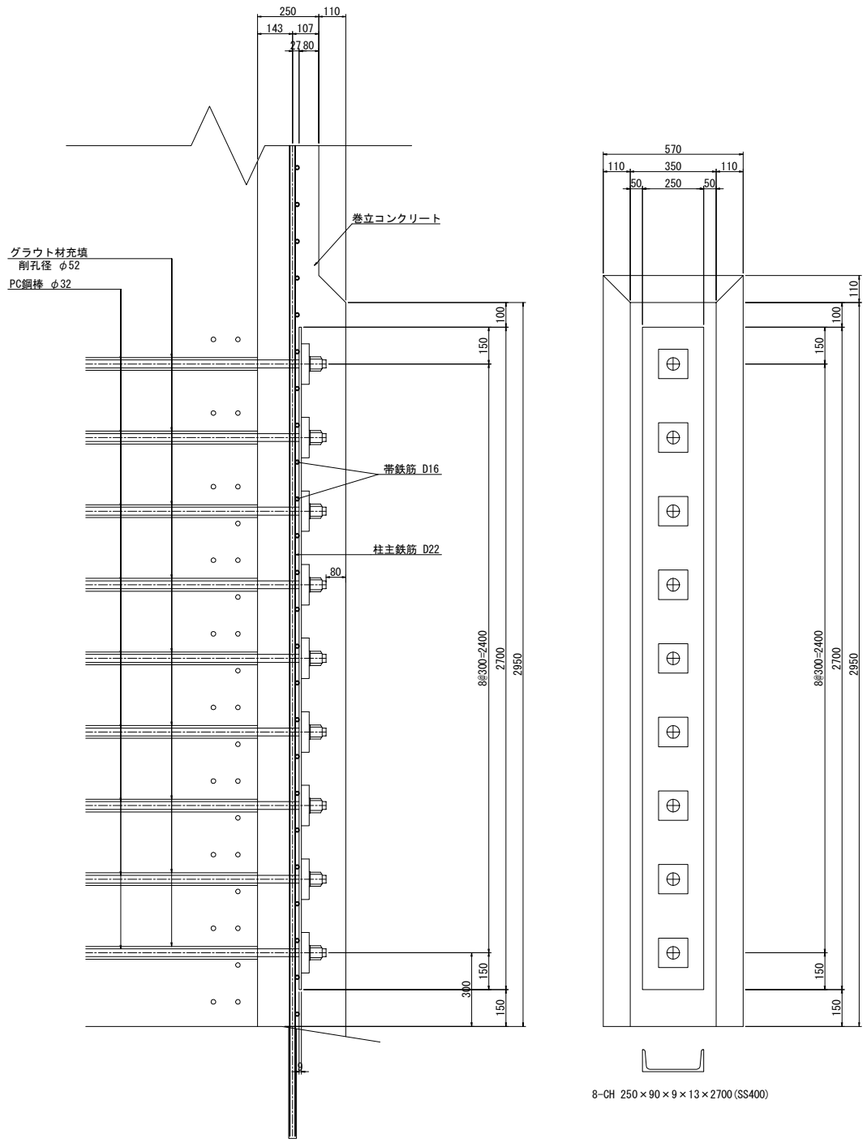


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに積載可能なものとなるように計画している。
5. Gはガス圧接位置を示す。

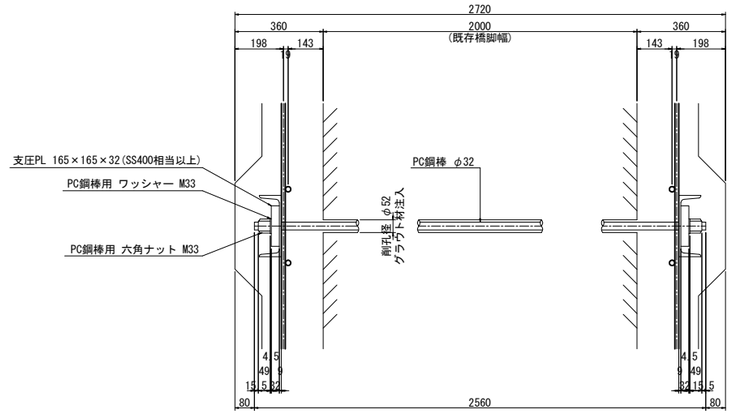
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P16橋脚 RC巻立て補強配筋図（その２）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P16橋脚 RC巻立て補強配筋図（その３）S=1:25

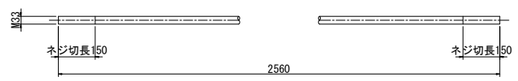
中間貫通鋼材詳細図



PC鋼棒(中間拘束具)詳細図

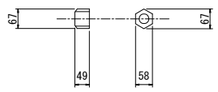


PC鋼棒詳細



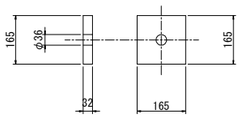
36-PC鋼棒 φ32×2560(SBPR930/1080)

ナット詳細



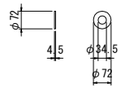
72-ナット M33(S45C)

アンカープレート詳細



72-PL 165×32×165(SS400)

ワッシャー詳細



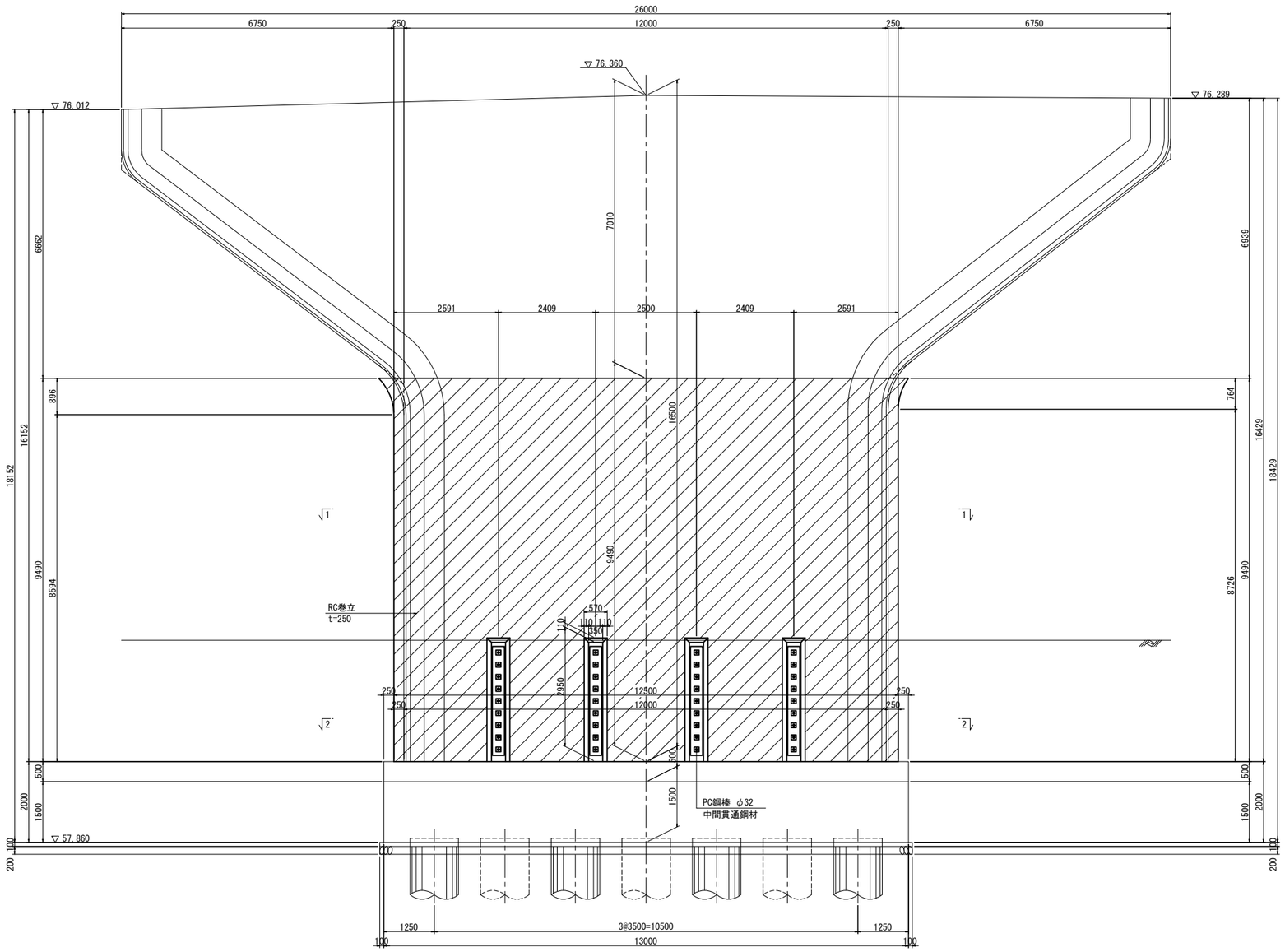
72-ワッシャー M33(SS400)

注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、
既設構造物の鉄筋を切断しないように
現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等
による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに
積載可能なものとなるように計画している。
5. Gはガス圧接位置を示す。

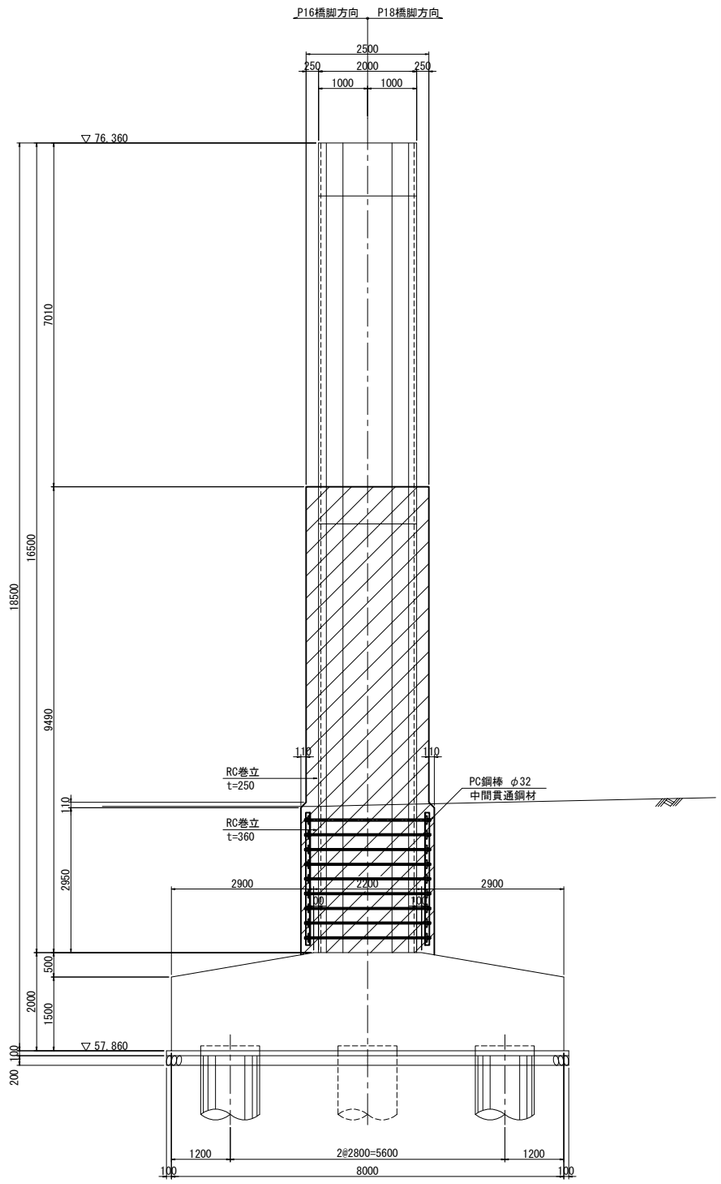
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P16橋脚 RC巻立て補強配筋図（その３）		
縮　尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P17橋脚 RC巻立て補強一般図（その１）S=1:125

正 面 図



側 面 図



工　　種		仕　　様
既 設 部	コンクリート	24N/mm2
	鉄　　筋	SD345
補 強 部	コンクリート	30N/mm2
	鉄　　筋	SD345

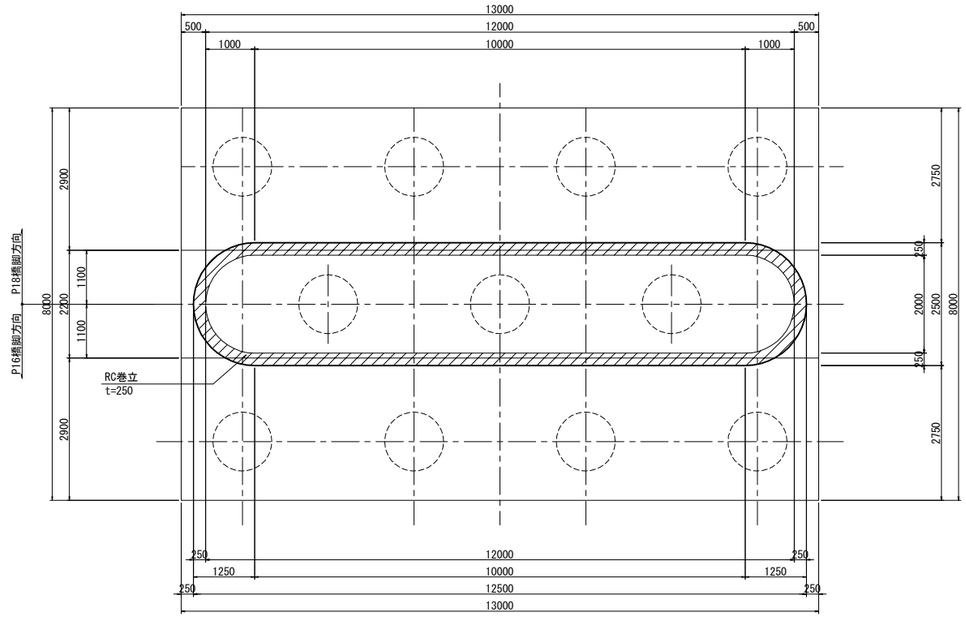
注）
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P17橋脚 RC巻立て補強一般図（その１）		
縮　　尺	1:125	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

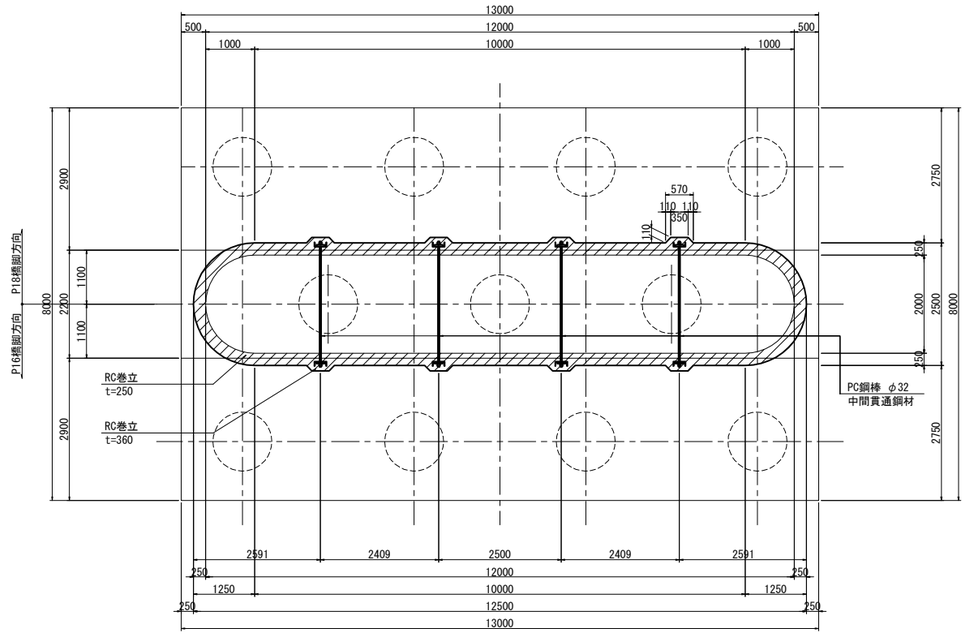
P17橋脚 RC巻立て補強一般図（その２）S=図示

平 面 図 S=1:125

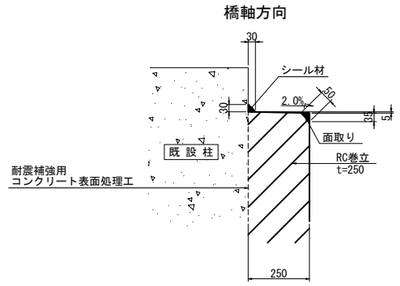
1 － 1

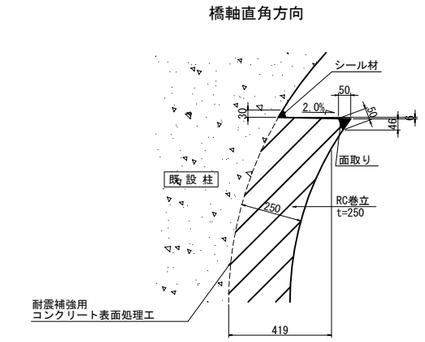


2 － 2

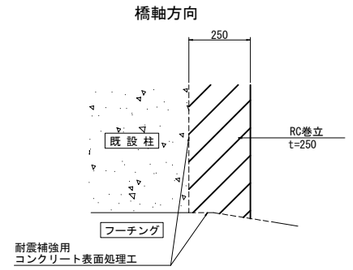


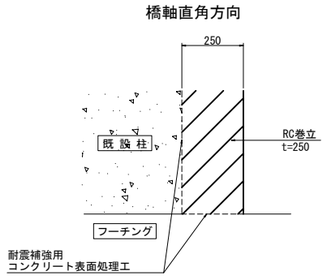
RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



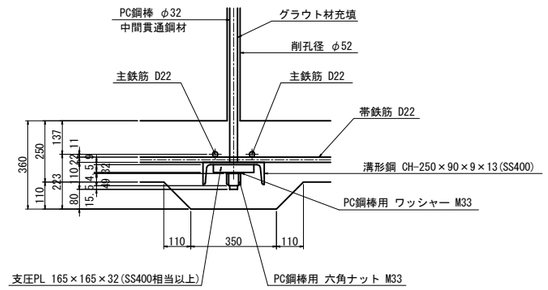


RC巻立て下端詳細図 S=1:25





中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



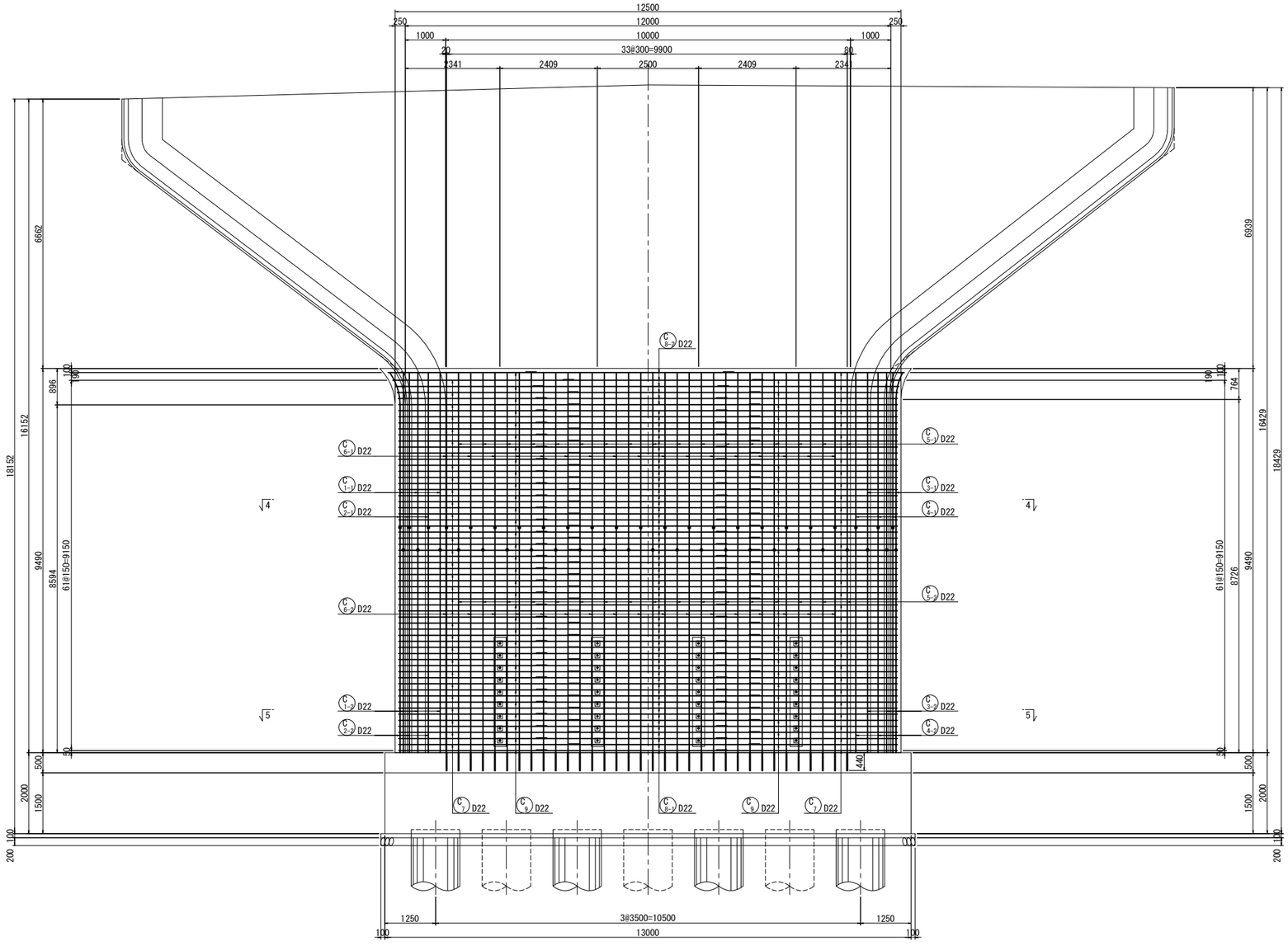
注）
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P17橋脚 RC巻立て補強一般図（その２）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P17橋脚 RC巻立て補強配筋図（その１）S=1:125

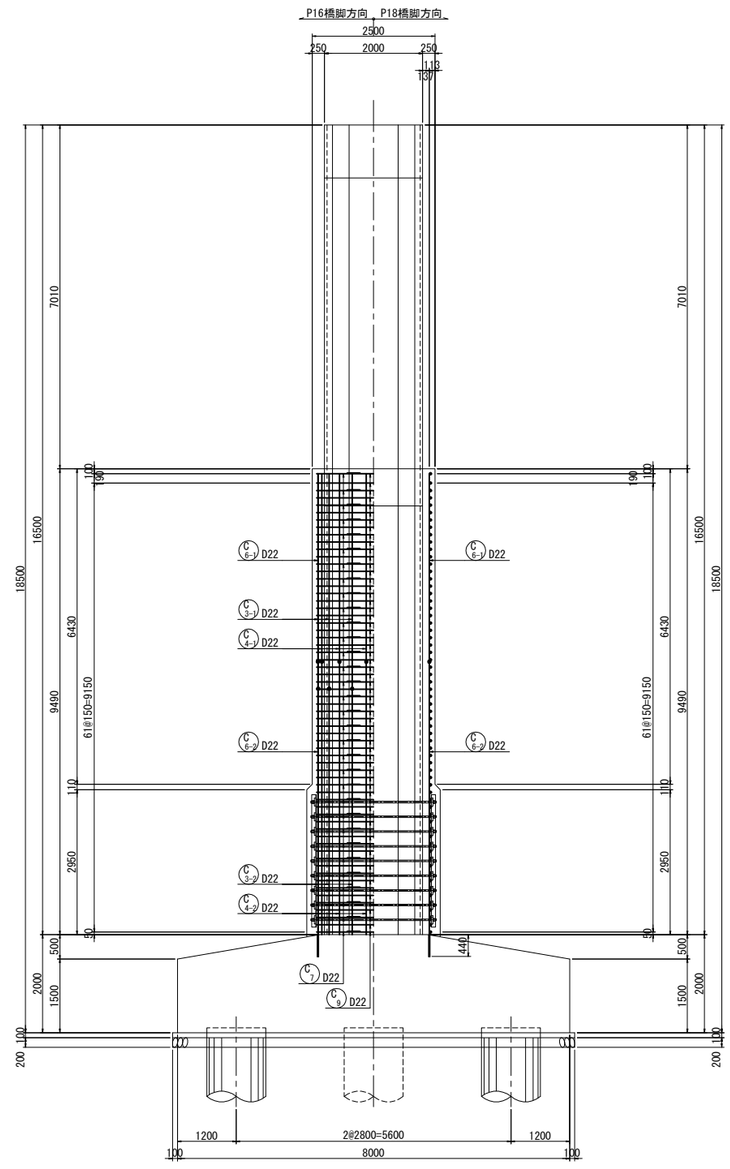
正 面 図

1 － 1



側 面 図

2 － 2　3 － 3



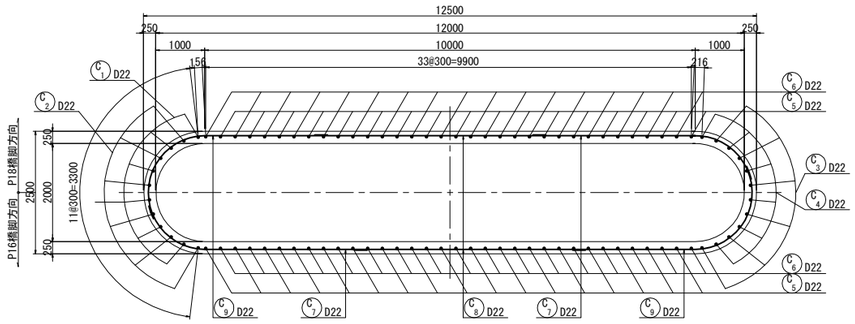
注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに積載可能なものとなるように計画している。
5. Gはガス圧接位置を示す。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P17橋脚 RC巻立て補強配筋図（その１）		
縮　尺	1:125	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

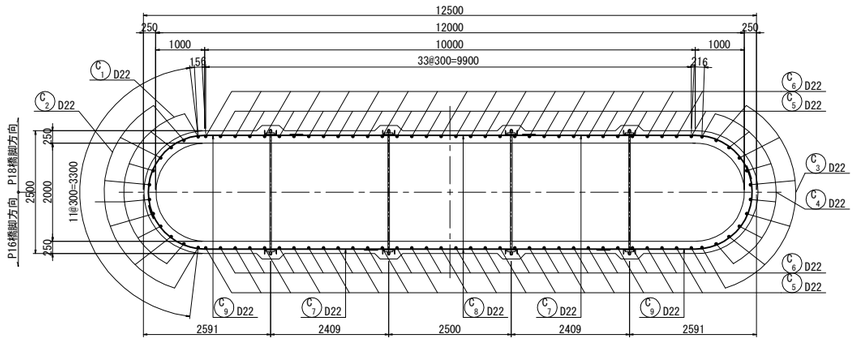
P17橋脚 RC巻立て補強配筋図（その２）S=図示

平 面 図 S=1:125

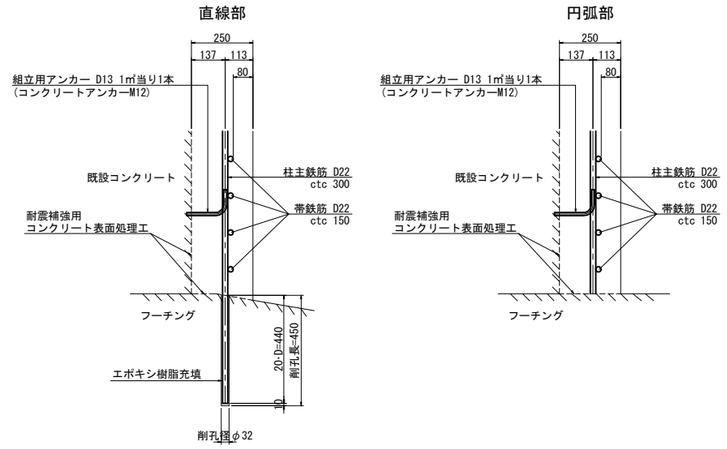
4 － 4



5 － 5



かぶり詳細図 S=1:25

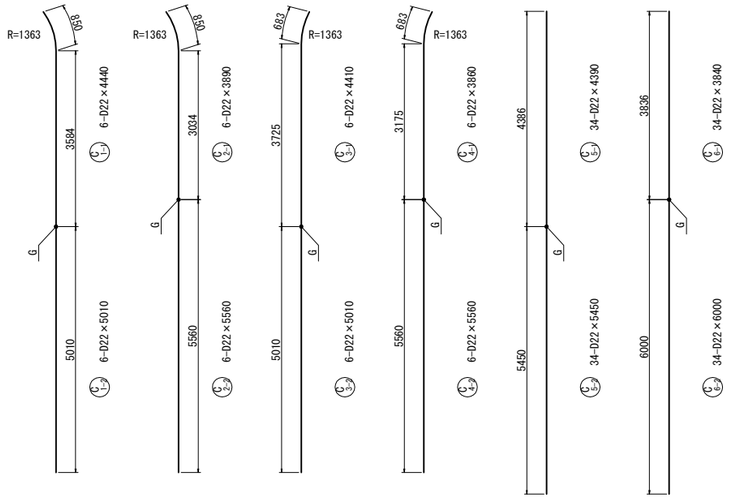


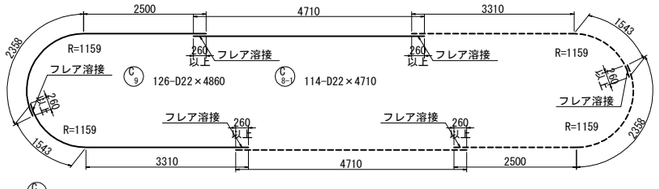
鉄筋表

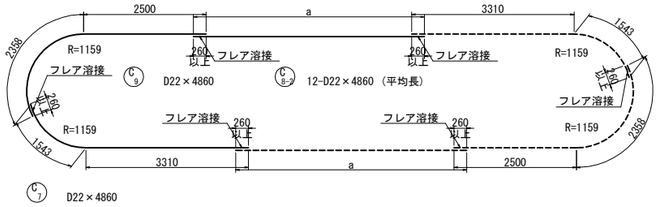
記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	１本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	4440	6	3.04	13.5	81	I
C 1-2	D22	5010	6	3.04	15.2	91	↑ <6>
C 2-1	D22	3890	6	3.04	11.8	71	I
C 2-2	D22	5560	6	3.04	16.9	101	↑ <6>
C 3-1	D22	4410	6	3.04	13.4	80	I
C 3-2	D22	5010	6	3.04	15.2	91	↑ <6>
C 4-1	D22	3860	6	3.04	11.7	70	I
C 4-2	D22	5560	6	3.04	16.9	101	↑ <6>
C 5-1	D22	4390	34	3.04	13.3	452	I
C 5-2	D22	5450	34	3.04	16.6	564	↑ <34>
C 6-1	D22	3840	34	3.04	11.7	398	I
C 6-2	D22	6000	34	3.04	18.2	619	↑ <34>
C 7	D22	4860	126	3.04	14.8	1865	⌐ (126)
C 8-1	D22	4710	114	3.04	14.3	1630	― (114)
C 8-2	D22	4860	12	3.04	14.8	178	― (12) (平均長)
C 9	D22	4860	126	3.04	14.8	1865	⌐ (126)
					小計	8257 kg	

			フレア箇所	圧接箇所	
D22	8257 kg	(378)	<92>	SD345	
合計	8257 kg	(378)	<92>	SD345	

コンクリート削孔(φ18,L=58)	251	箇所 (参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	92	箇所
フレア溶接(D22)	378	箇所



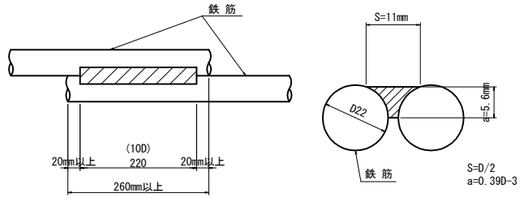




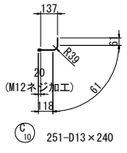


符号	本数	a	L
1	2	4710	4710
2	2	4719	4720
3	2	4756	4760
4	2	4827	4830
5	2	4938	4940
6	2	5142	5150
平均長	12		4860

フレア溶接詳細図

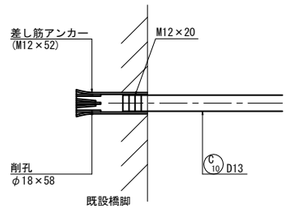


組立筋加工図(参考図) S=1:50



※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5

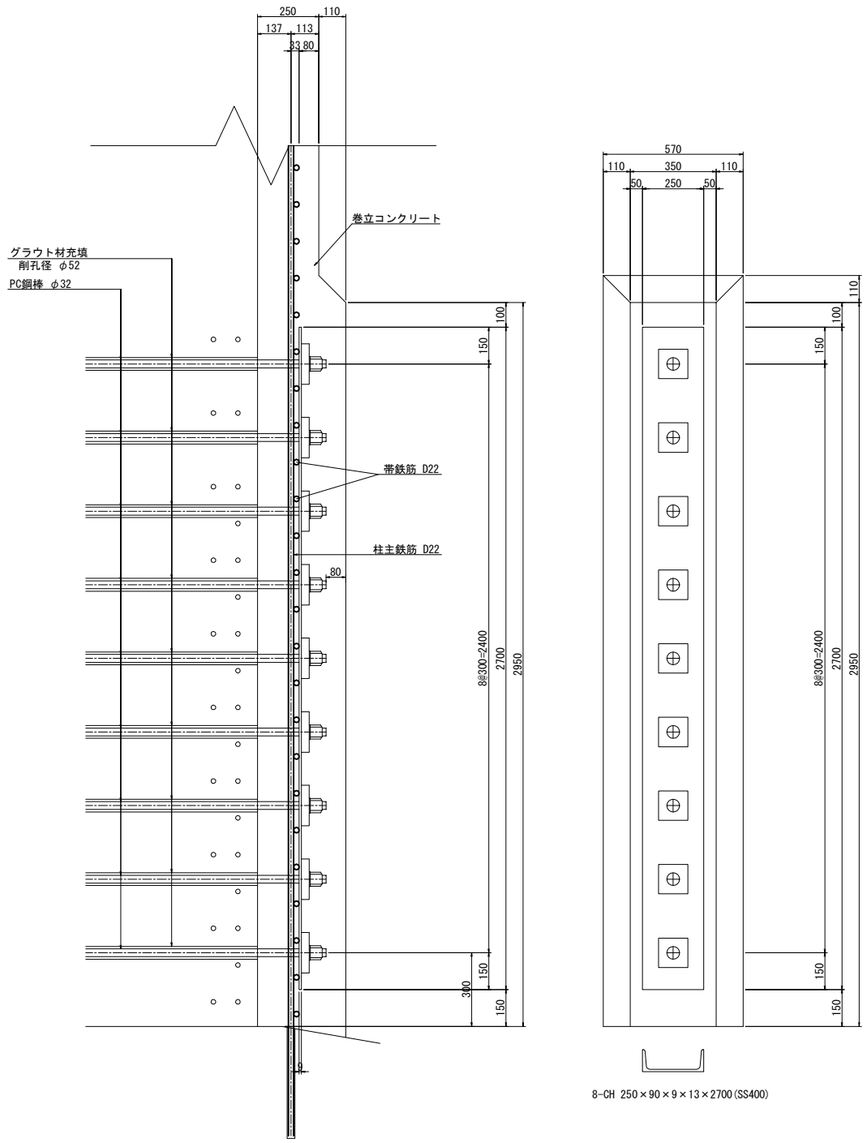


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに積載可能なものとなるように計画している。
5. Gはガス圧接位置を示す。

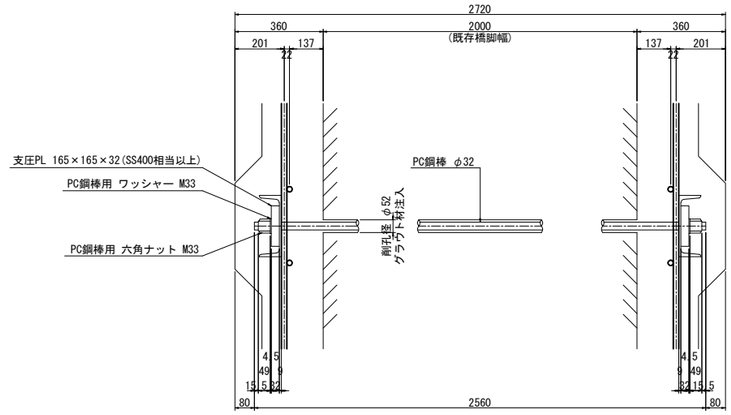
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P17橋脚 RC巻立て補強配筋図（その２）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P17橋脚 RC巻立て補強配筋図（その３）S=1:25

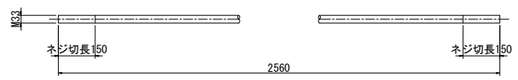
中間貫通鋼材詳細図



PC鋼棒(中間拘束具)詳細図

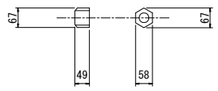


PC鋼棒詳細



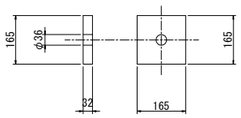
36-PC鋼棒 φ32×2560(SBPR930/1080)

ナット詳細



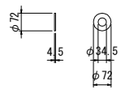
72-ナット M33(S45C)

アンカープレート詳細



72-PL 165×32×165(SS400)

ワッシャー詳細



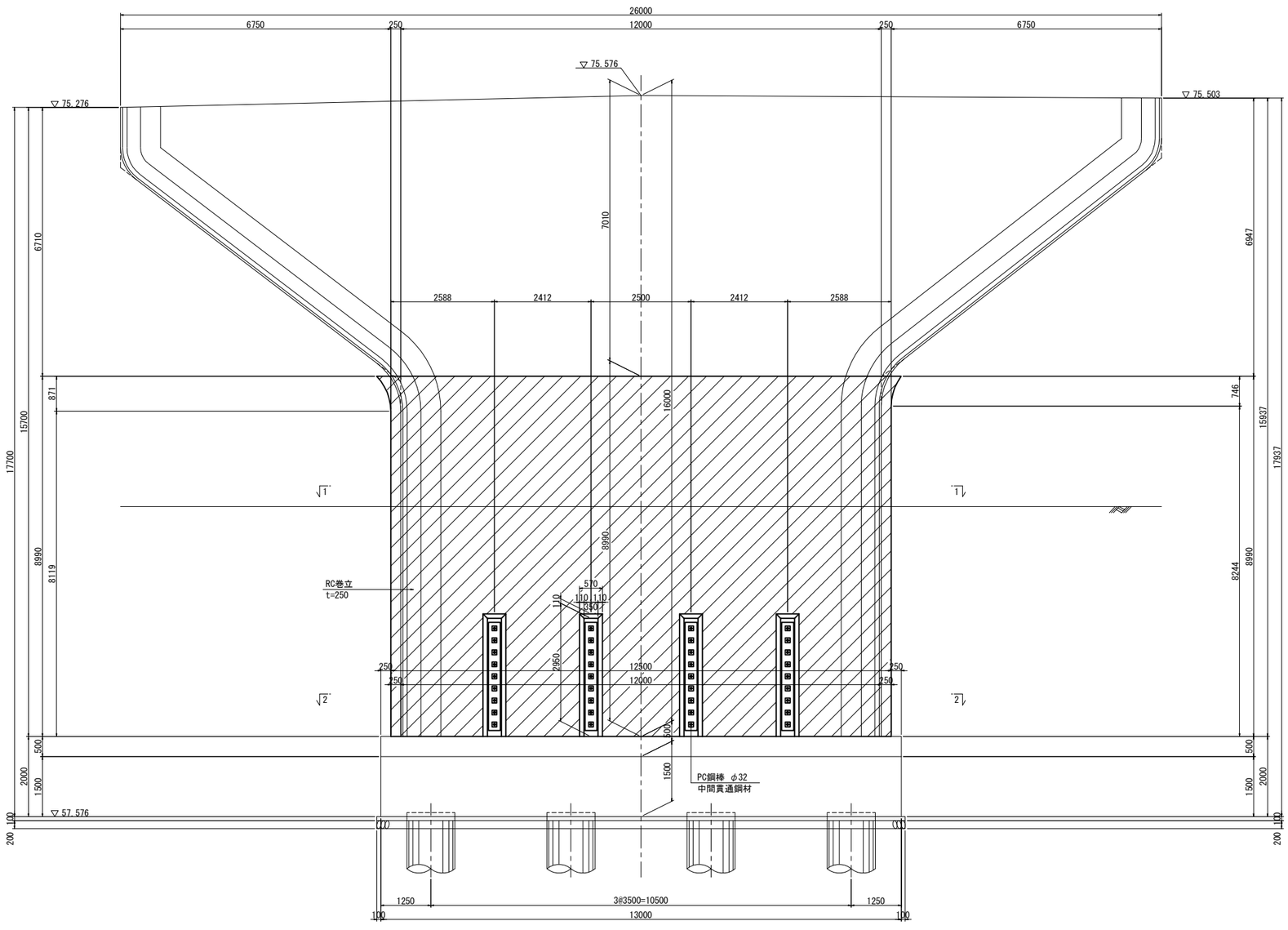
72-ワッシャー M33(SS400)

注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、
既設構造物の鉄筋を切断しないように
現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等
による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに
積載可能なものとなるように計画している。
5. Gはガス圧接位置を示す。

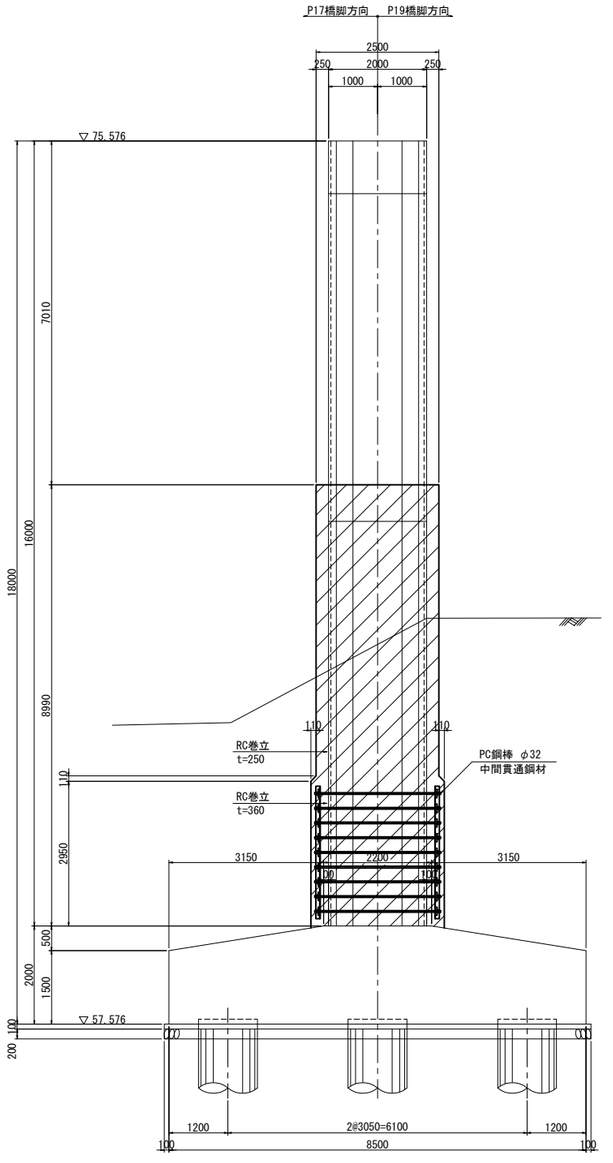
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P17橋脚 RC巻立て補強配筋図（その３）		
縮尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P18橋脚 RC巻立て補強一般図（その１）S=1:125

正 面 図



側 面 図



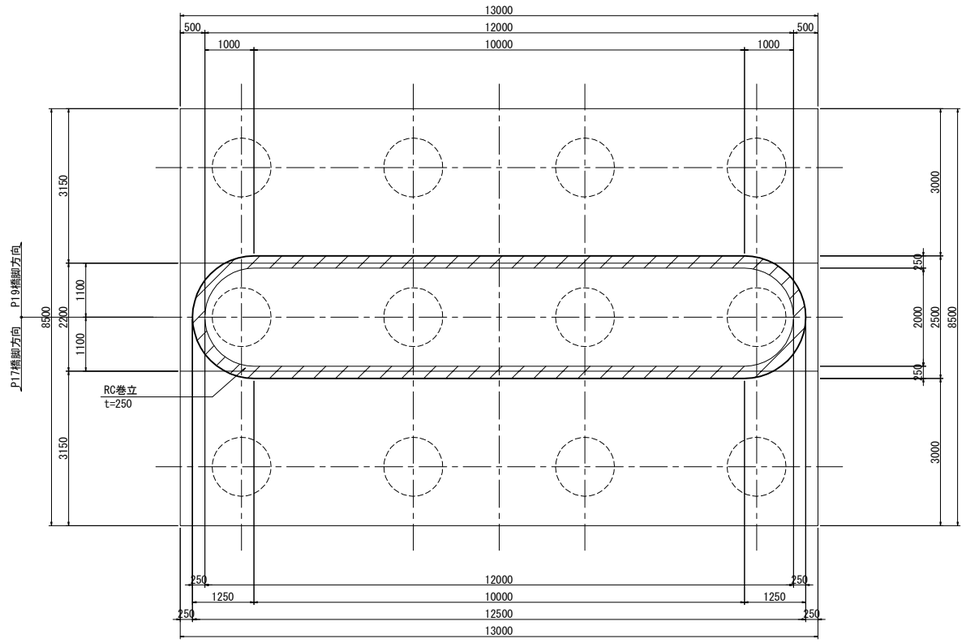
工　　種		仕　　様
既 設 部	コンクリート	24N/mm2
	鉄　　筋	SD345
補 強 部	コンクリート	30N/mm2
	鉄　　筋	SD345

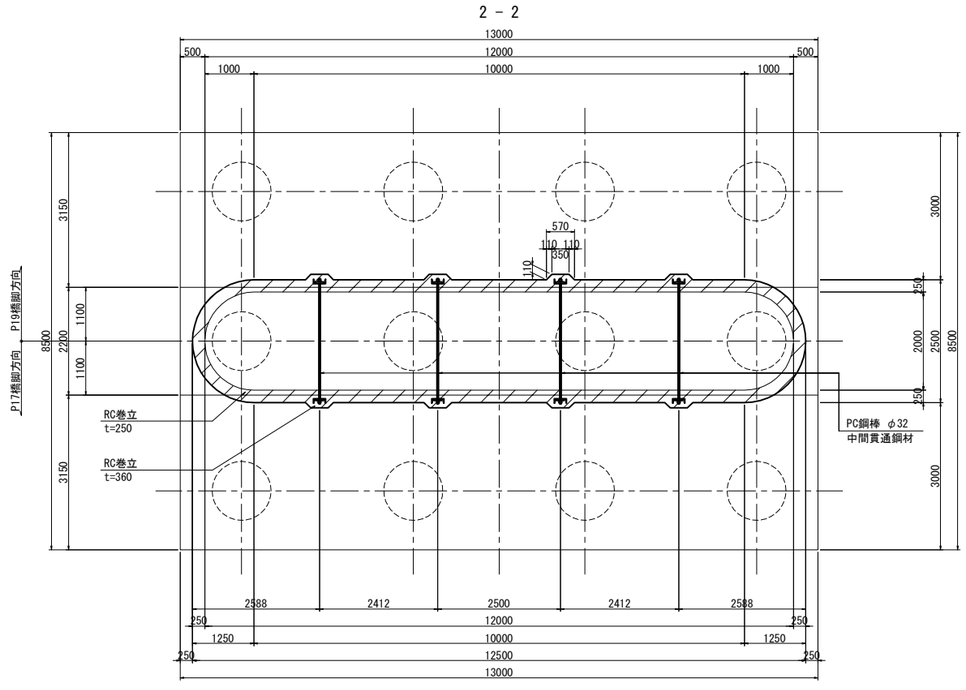
注）
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、
既設構造物の鉄筋を切断しないように
現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等
による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P18橋脚 RC巻立て補強一般図（その１）		
縮　　尺	1:125	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

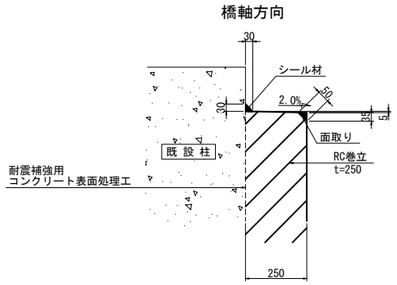
P18橋脚 RC巻立て補強一般図（その２）S=図示

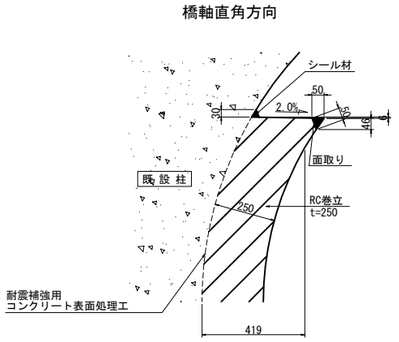
平 面 図 S=1:125



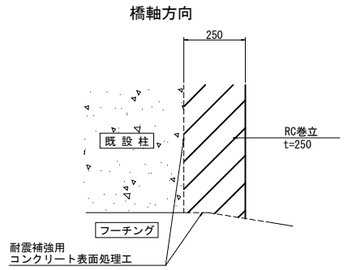


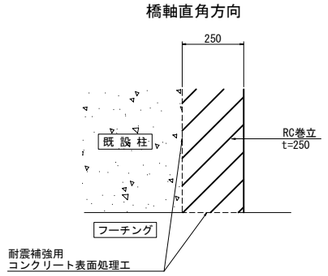
RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



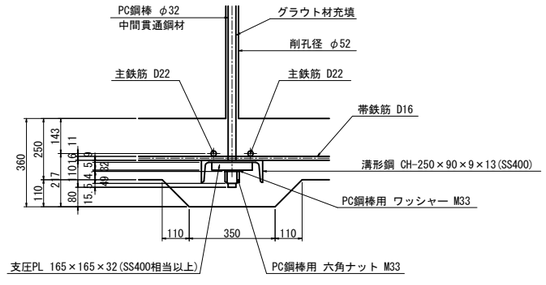


RC巻立て下端詳細図 S=1:25





中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



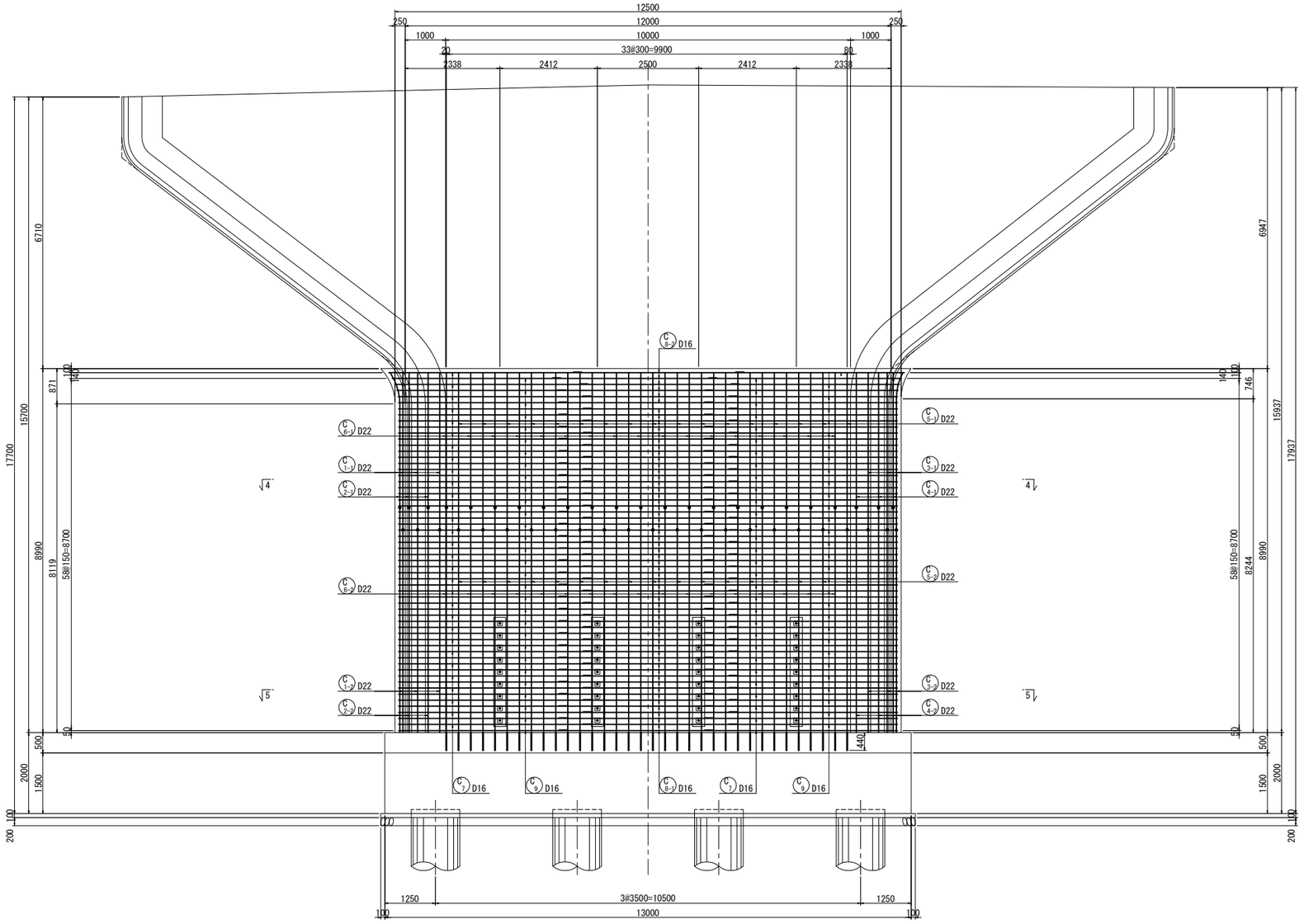
注）
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P18橋脚 RC巻立て補強一般図（その２）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P18橋脚 RC巻立て補強配筋図（その１）S=1:125

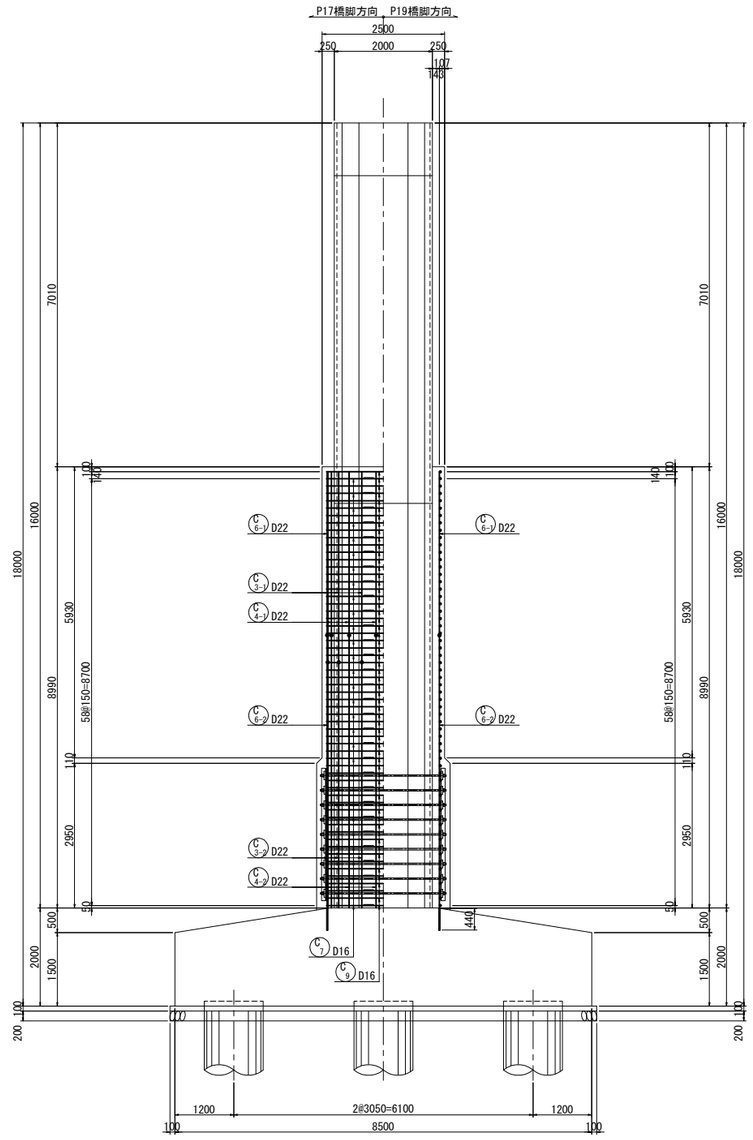
正 面 図

1 － 1



側 面 図

2 － 2　3 － 3



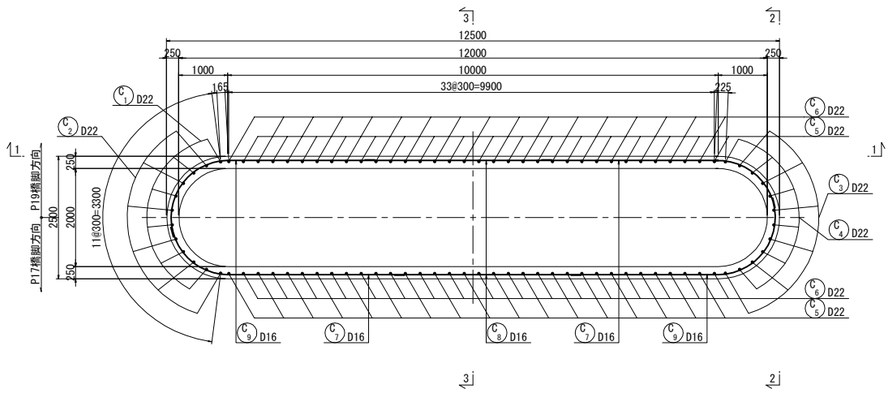
注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに積載可能なものとなるように計画している。
5. Gはガス圧接位置を示す。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P18橋脚 RC巻立て補強配筋図（その１）		
縮　尺	1:125	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

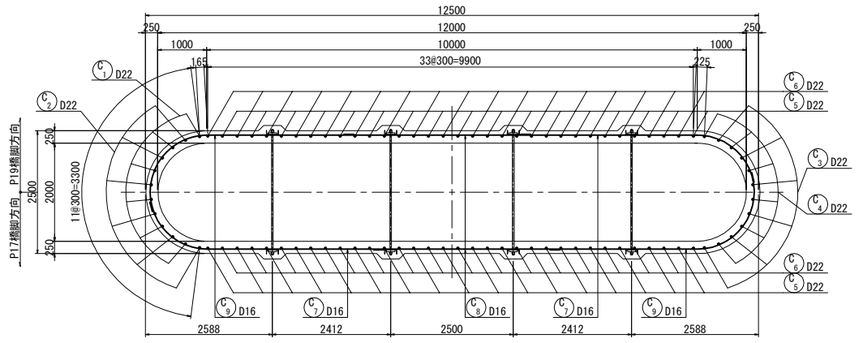
P18橋脚 RC巻立て補強配筋図（その２）S=図示

平 面 図 S=1:125

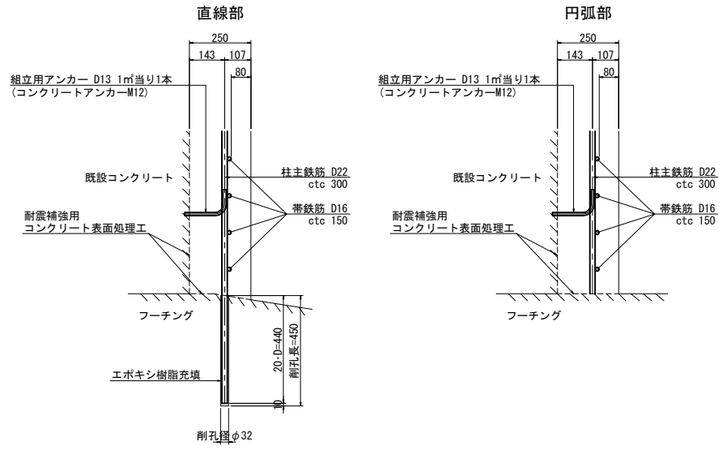
4 － 4



5 － 5



かぶり詳細図 S=1:25

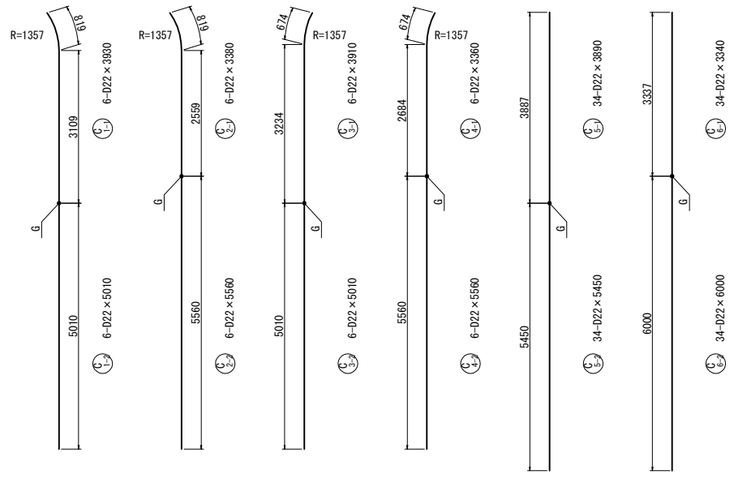


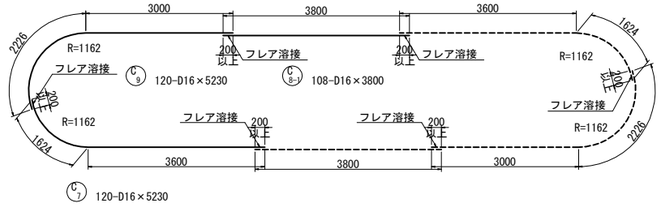
鉄筋表

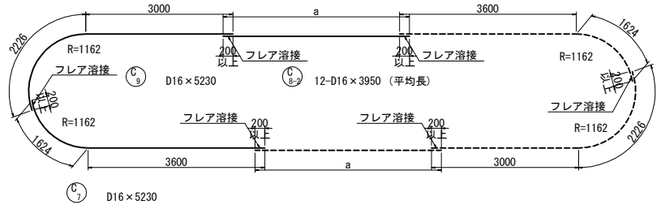
記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3930	6	3.04	11.9	71	I
C 1-2	D22	5010	6	3.04	15.2	91	↑ <6>
C 2-1	D22	3380	6	3.04	10.3	62	I
C 2-2	D22	5560	6	3.04	16.9	101	↑ <6>
C 3-1	D22	3910	6	3.04	11.9	71	I
C 3-2	D22	5010	6	3.04	15.2	91	↑ <6>
C 4-1	D22	3360	6	3.04	10.2	61	I
C 4-2	D22	5560	6	3.04	16.9	101	↑ <6>
C 5-1	D22	3890	34	3.04	11.8	401	I
C 5-2	D22	5450	34	3.04	16.6	564	↑ <34>
C 6-1	D22	3340	34	3.04	10.2	347	I
C 6-2	D22	6000	34	3.04	18.2	619	↑ <34>
C 7	D16	5230	120	1.56	8.16	979	⊂ (120)
C 8-1	D16	3800	108	1.56	5.93	640	— (108)
C 8-2	D16	3950	12	1.56	6.16	74	— (12) (平均長)
C 9	D16	5230	120	1.56	8.16	979	⊂ (120)
					小計	5252	kg

			フレア箇所	圧接箇所	
D22	2580	kg		<92>	SD345
D16	2672	kg	(360)		SD345
合計	5252	kg	(360)	<92>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	238	箇所 (参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	92	箇所
フレア溶接(D16)	360	箇所



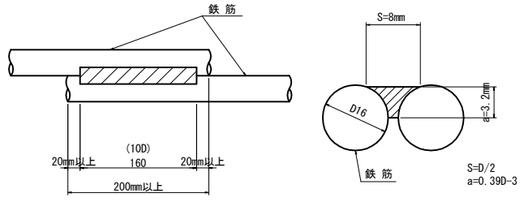




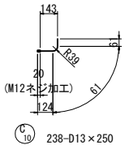
C8-2 12-D16×3950 (平均長)

符号	本数	a	L
1	2	3800	3800
2	2	3813	3820
3	2	3857	3860
4	2	3938	3940
5	2	4057	4060
6	2	4211	4220
平均長	12		3950

フレア溶接詳細図

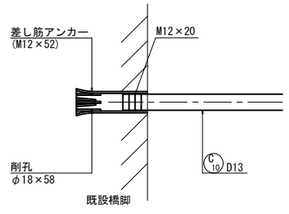


組立筋加工図(参考図) S=1:50



※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5

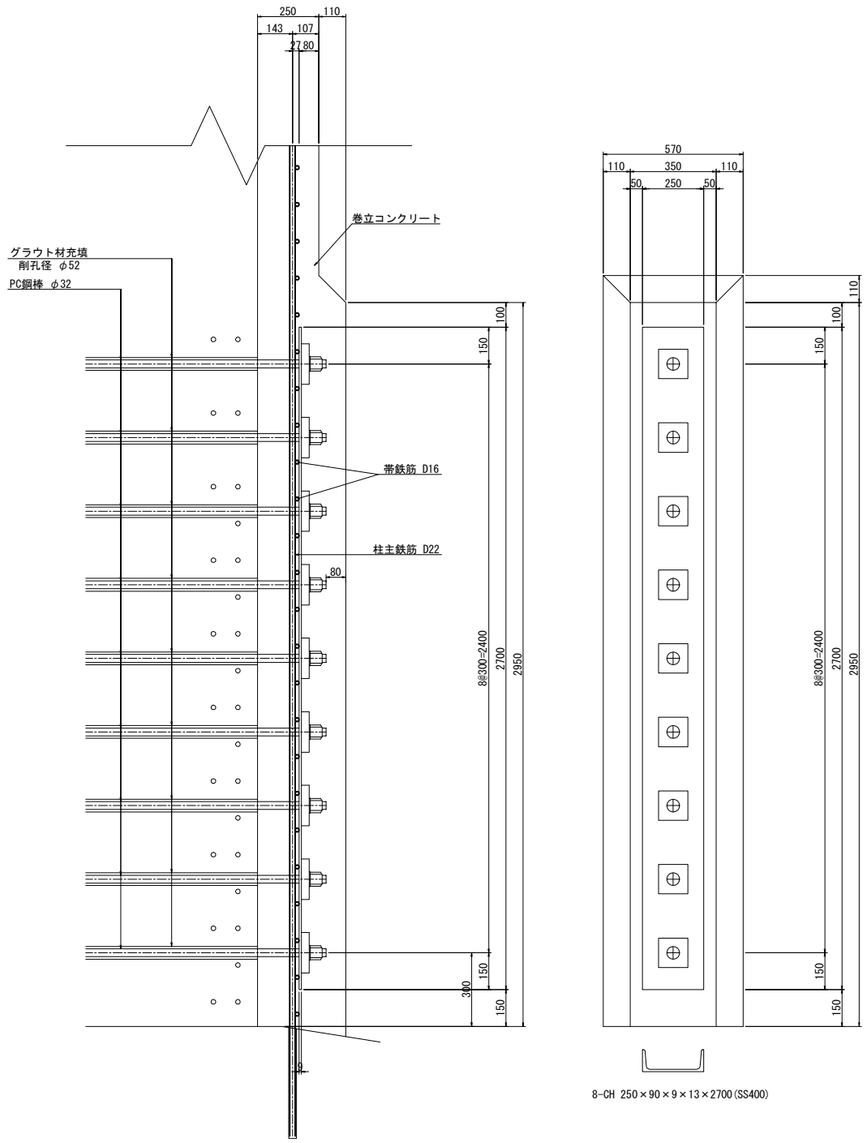


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに積載可能なものとなるように計画している。
5. Gはガス圧接位置を示す。

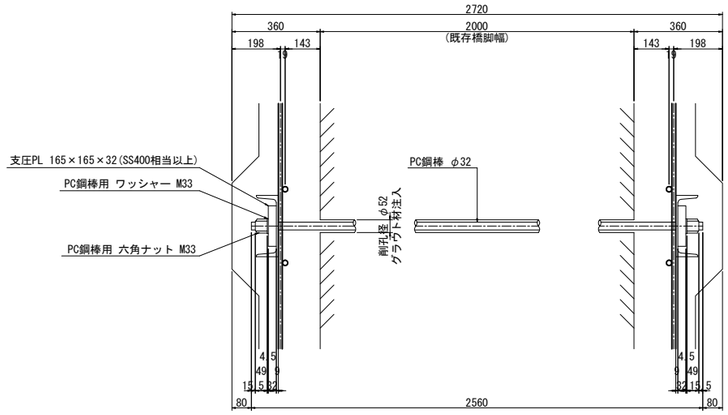
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P18橋脚 RC巻立て補強配筋図（その２）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P18橋脚 RC巻立て補強配筋図（その３）S=1:25

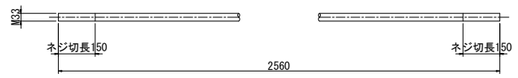
中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



PC鋼棒(中間拘束具)詳細図 S=1:25

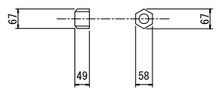


PC鋼棒詳細



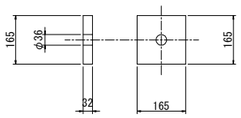
36-PC鋼棒 φ32×2560(SBPR930/1080)

ナット詳細



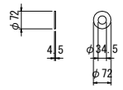
72-ナット M33(S45C)

アンカープレート詳細



72-PL 165×32×165(SS400)

ワッシャー詳細



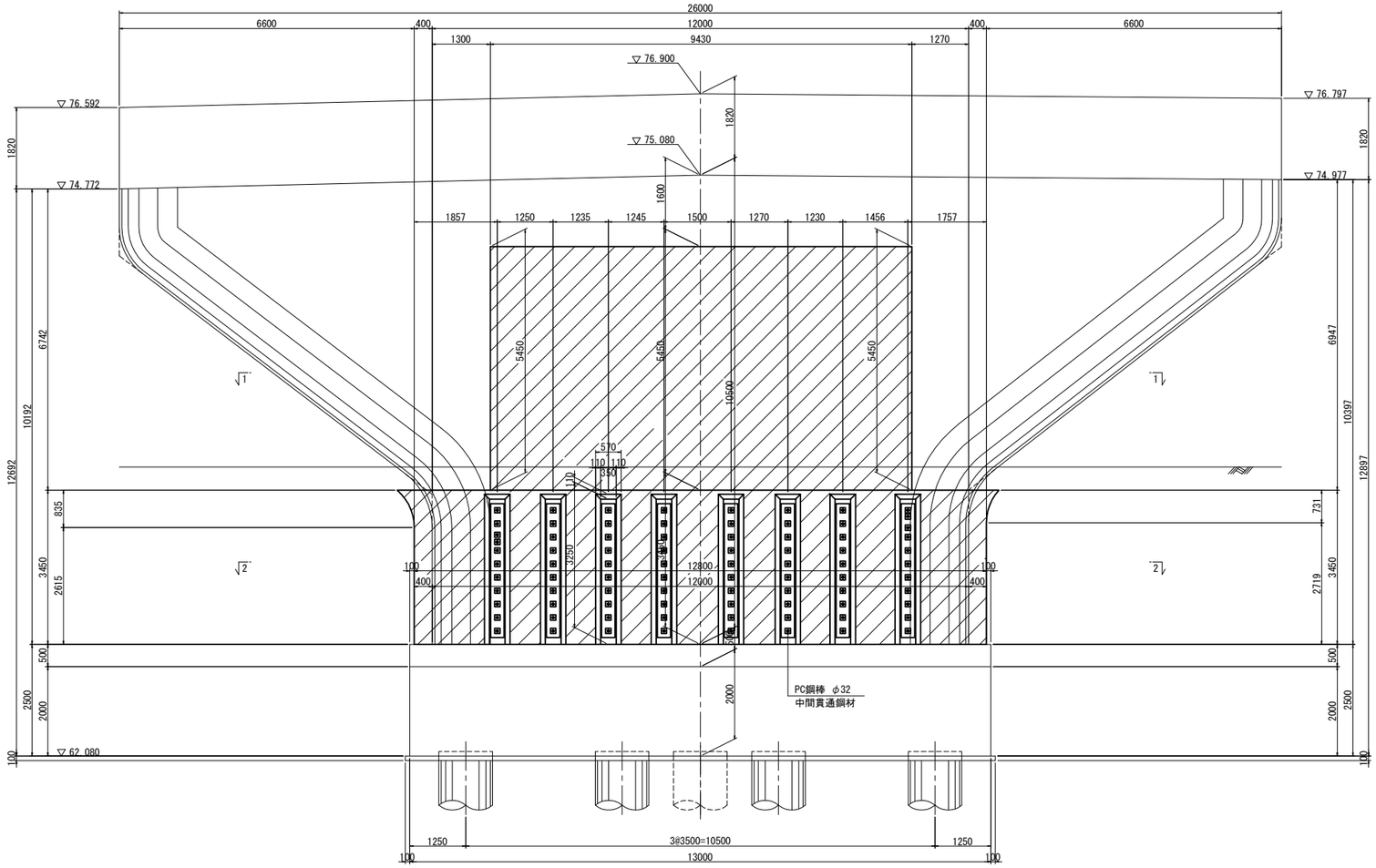
72-ワッシャー M33(SS400)

注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、
既設構造物の鉄筋を切断しないように
現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等
による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに
積載可能なものとなるように計画している。
5. Gはガス圧接位置を示す。

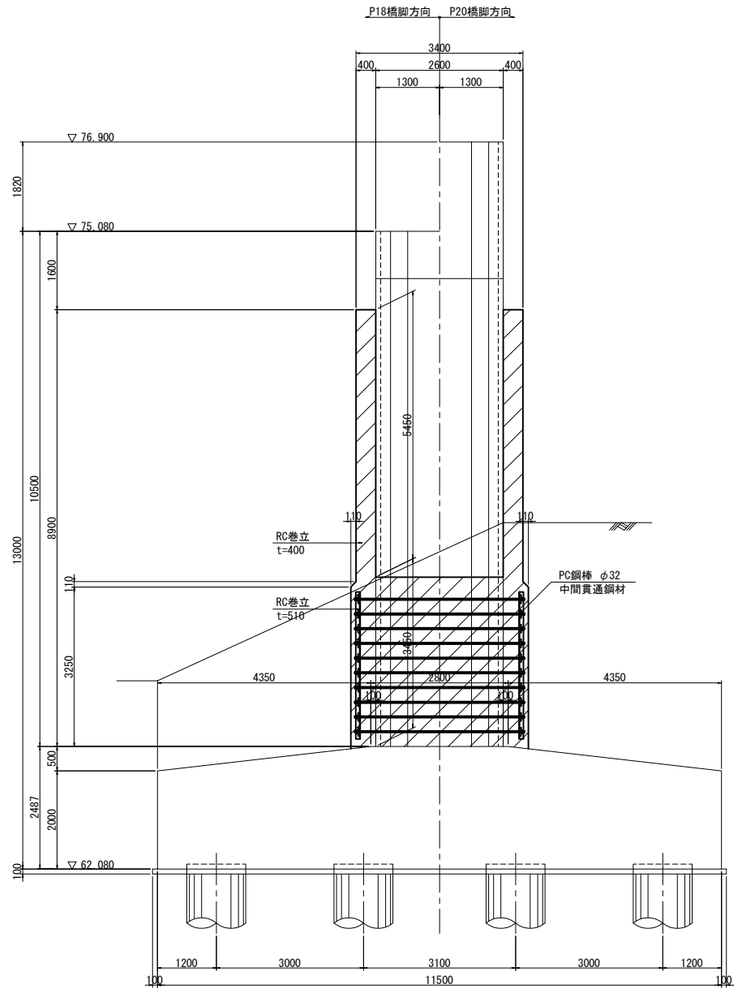
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P18橋脚 RC巻立て補強配筋図（その３）		
縮尺	1:25	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P19橋脚 RC巻立て補強一般図（その１）S=1:125

正 面 図



側 面 図



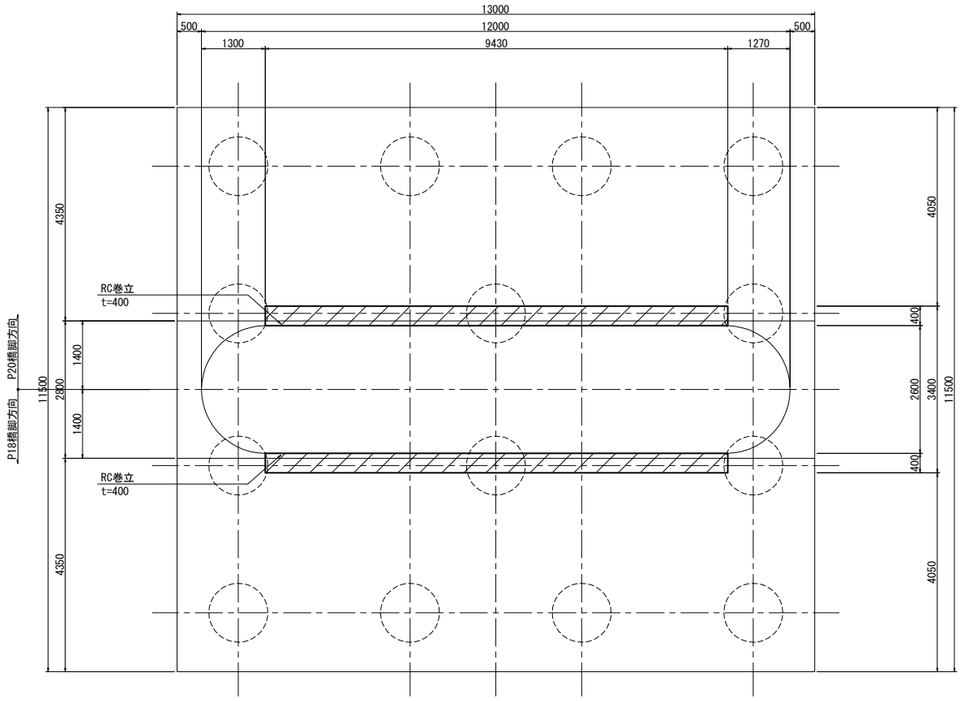
工　　種		仕　　様
既 設 部	コンクリート	24N/mm2
	鉄　　筋	SD345
補 強 部	コンクリート	30N/mm2
	鉄　　筋	SD345

注）
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、
既設構造物の鉄筋を切断しないように
現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等
による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。

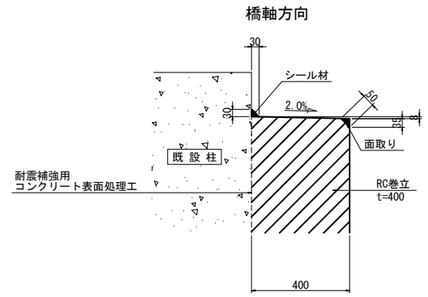
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚 RC巻立て補強一般図（その１）		
縮　　尺	1:125	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P19橋脚 RC巻立て補強一般図（その２）S=図示

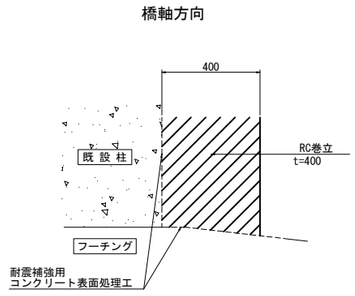
平 面 図 S=1:125



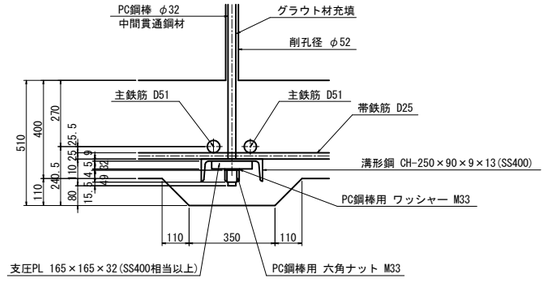
RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



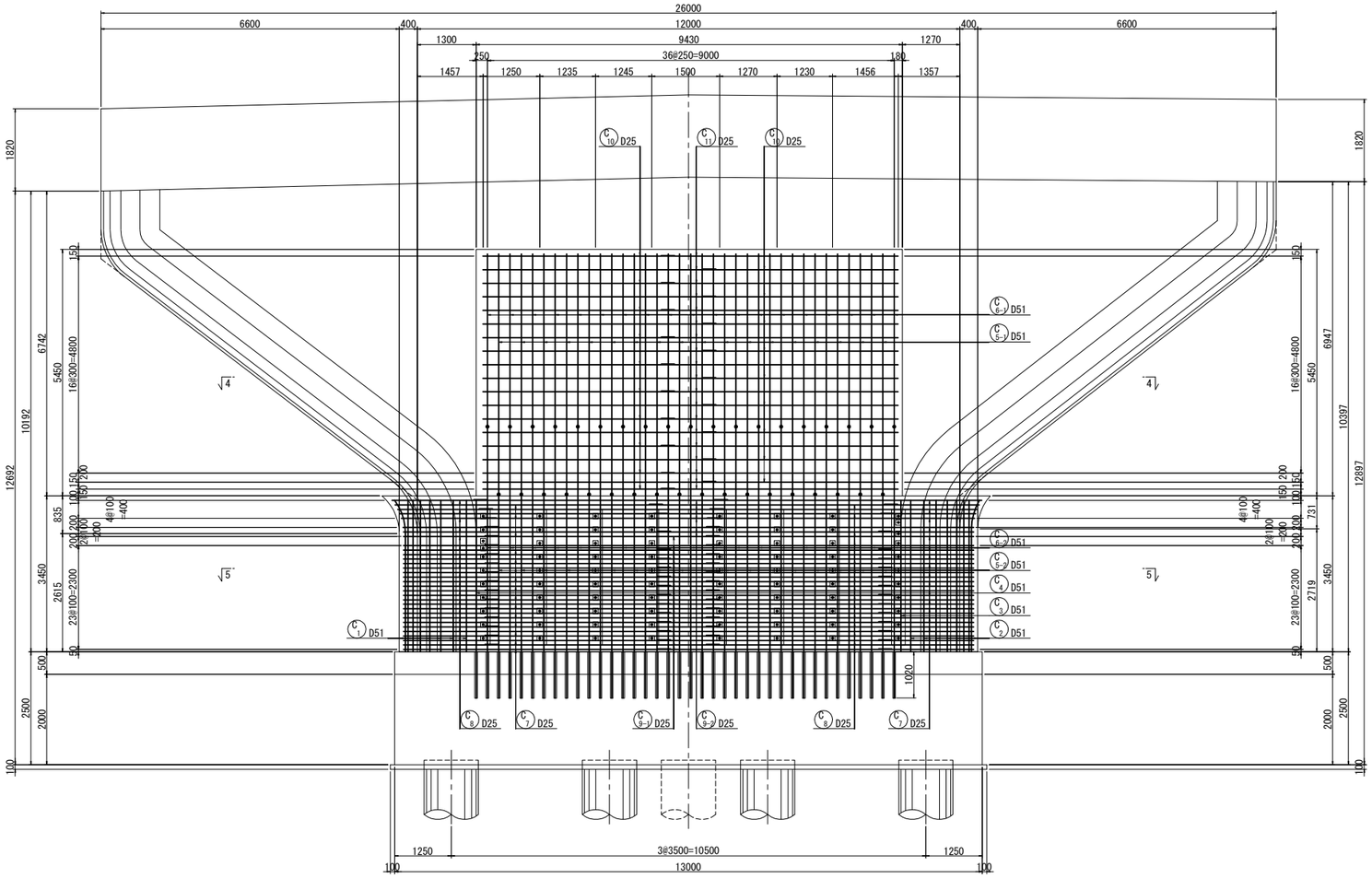
注）
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚 RC巻立て補強一般図（その２）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P19橋脚 RC巻立て補強配筋図（その１）S=1:125

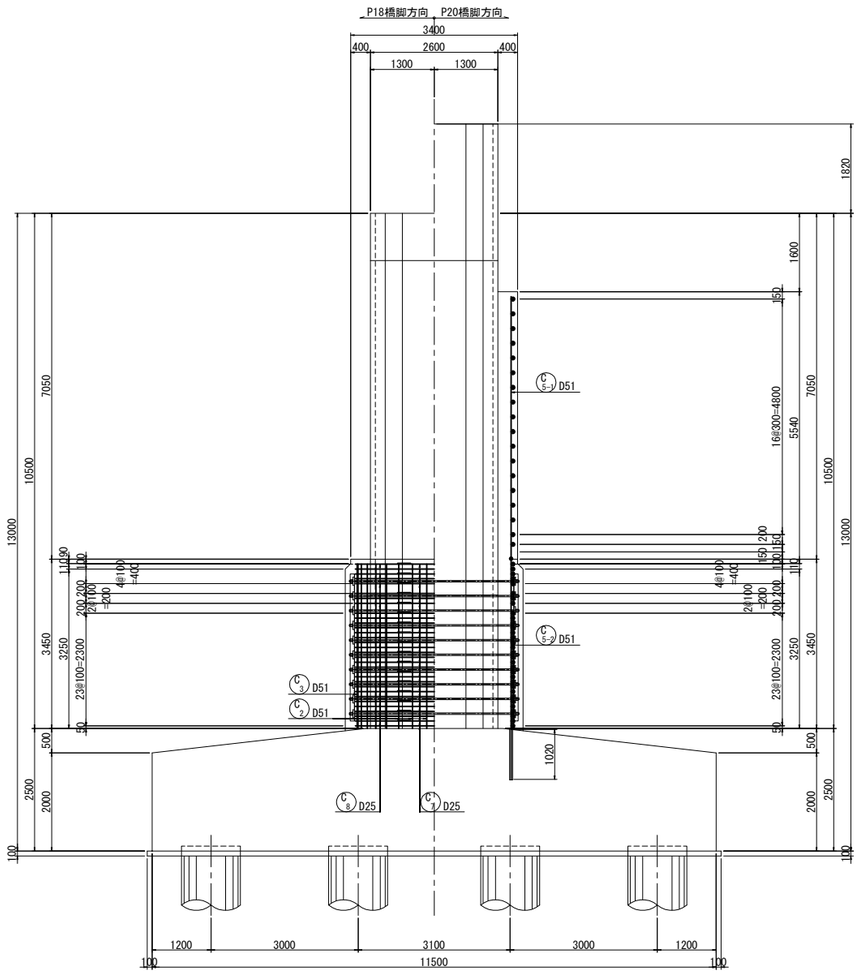
正 面 図

1 － 1



側 面 図

2 － 2　3 － 3



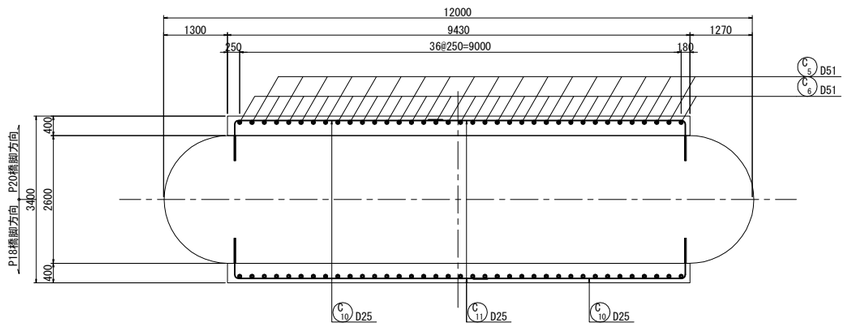
注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、
既設構造物の鉄筋を切断しないように
現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等
による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに
積載可能なものとなるように計画している。
5. Gはガス圧接位置を示す。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚 RC巻立て補強配筋図（その１）		
縮　尺	1:125	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

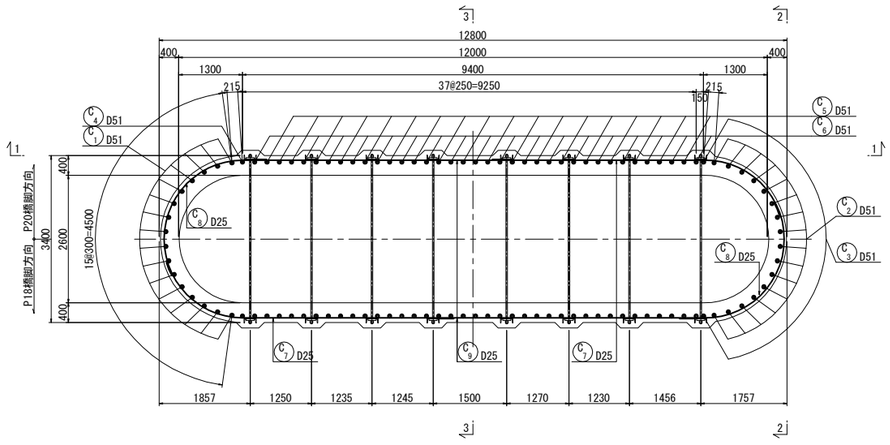
P19橋脚 RC巻立て補強配筋図（その２）S=図示

平 面 図 S=1:125

4 － 4

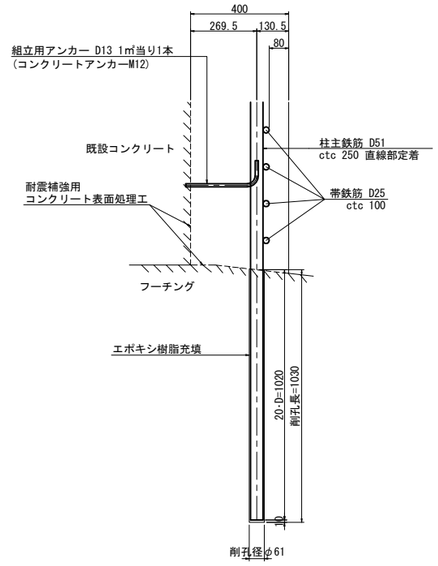


5 － 5

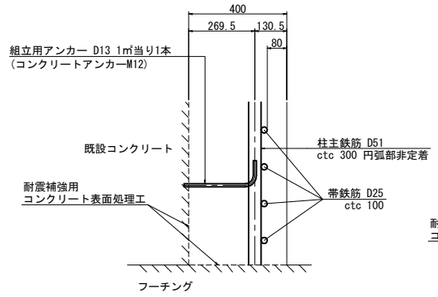


かぶり詳細図 S=1:25

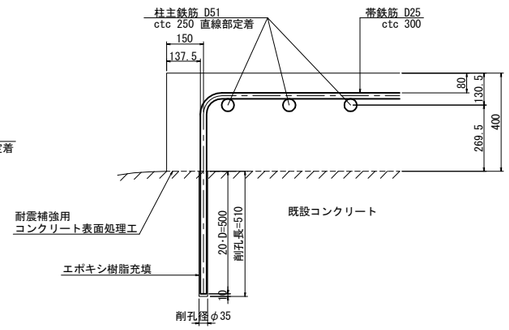
直線部



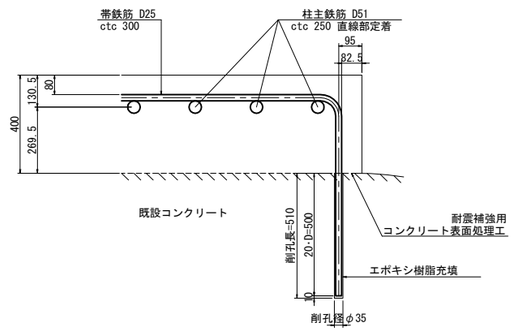
円弧部

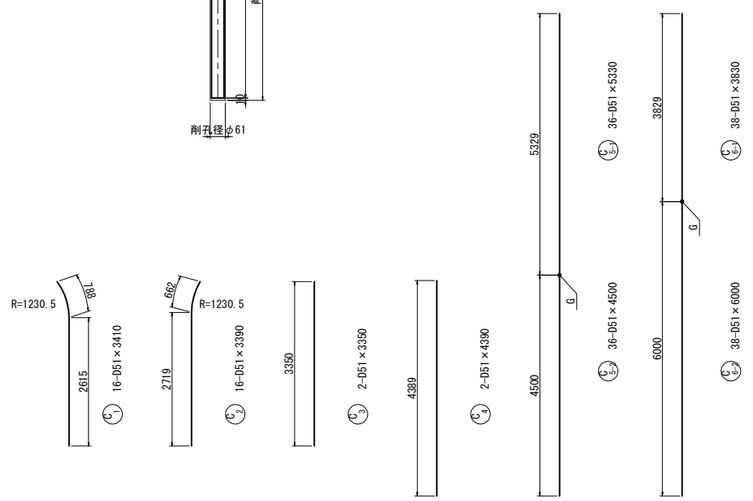


梁部-左側

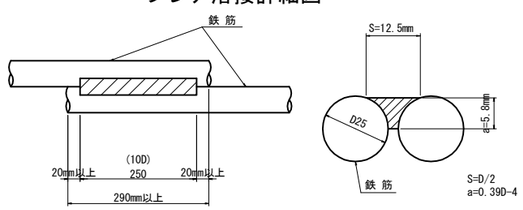


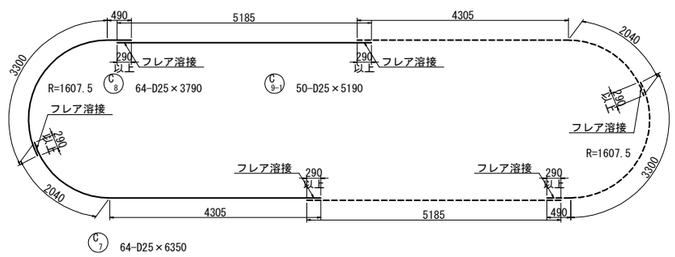
梁部-右側

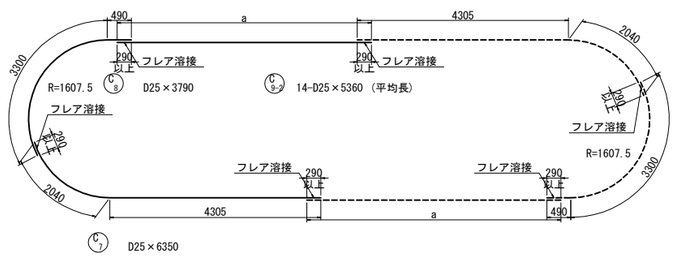




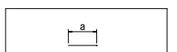
フレア溶接詳細図





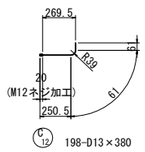






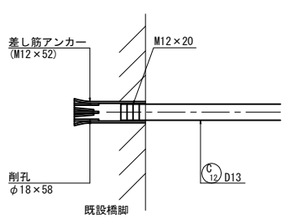
符号	本数	a	L
1	2	5619	5620
2	2	5493	5500
3	2	5392	5400
4	2	5314	5320
5	2	5255	5260
6	2	5193	5200
7	2	5186	5190
平均長	14		5360

組立筋加工図(参考図) S=1:50



※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5

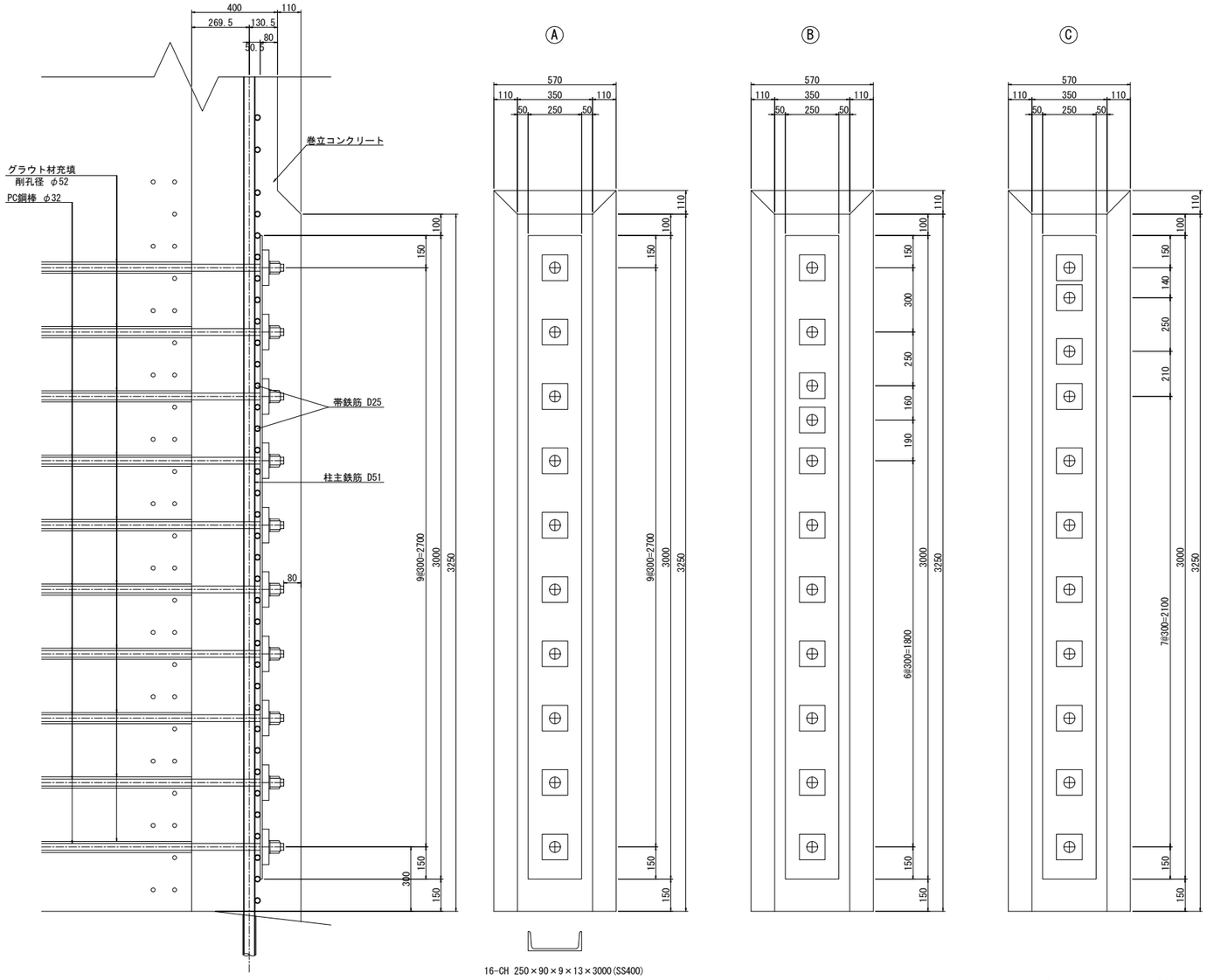


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに積載可能なものとなるように計画している。
5. Gはガス圧接位置を示す。

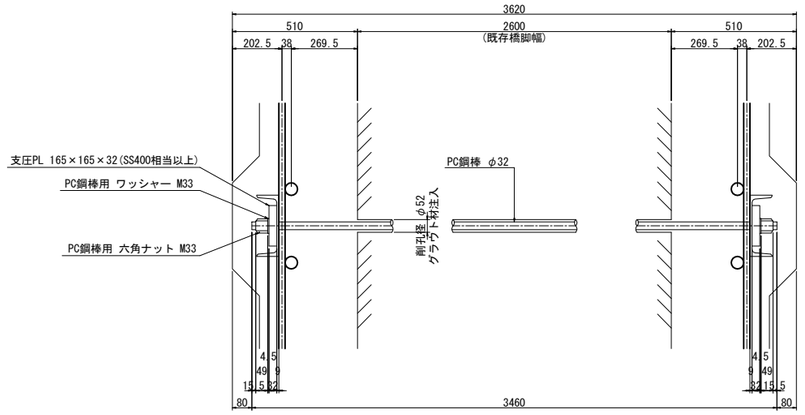
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚 RC巻立て補強配筋図（その２）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P19橋脚 RC巻立て補強配筋図（その３）S=図示

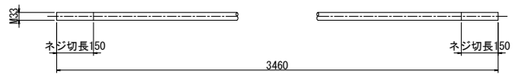
中間貫通鋼材詳細図 S=1:25



PC鋼棒(中間拘束具)詳細図 S=1:25



PC鋼棒詳細



82-PC鋼棒 φ32×3460(SBPR930/1080)

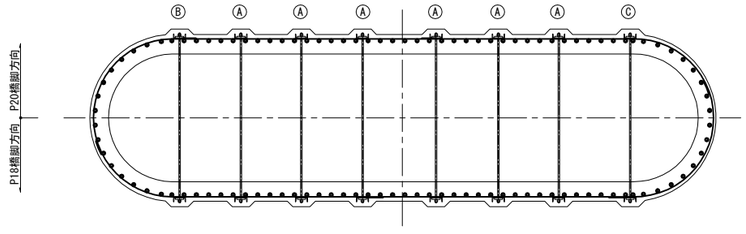
鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1	D51	3410	16	15.9	54.2	867	
C 2	D51	3390	16	15.9	53.9	862	
C 3	D51	3350	2	15.9	53.3	107	
C 4	D51	4390	2	15.9	69.8	140	
C 5-1	D51	5330	36	15.9	84.7	3049	
C 5-2	D51	4500	36	15.9	71.6	2578	<36>
C 6-1	D51	3830	38	15.9	60.9	2314	
C 6-2	D51	6000	38	15.9	95.4	3625	<38>
C 7	D25	6350	64	3.98	25.3	1619	(64)
C 8	D25	3790	64	3.98	15.1	966	(64)
C 9-1	D25	5190	50	3.98	20.7	1035	(50)
C 9-2	D25	5340	14	3.98	21.3	298	(14) (平均長)
C 10	D25	5020	38	3.98	20.0	760	(38)
C 11	D25	6020	38	3.98	24.0	912	
					小計	19132 kg	

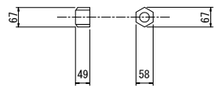
			フレア箇所	圧接箇所	
D51	13542	kg		<74>	SD345
D25	5590	kg	(230)		SD345
合計	19132	kg	(230)	<74>	SD345

コンクリート削孔(φ18, L=58)	198	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ35, L=510)	76	箇所	
コンクリート削孔(φ61, L=1030)	76	箇所	
フレア溶接(D25)	230	箇所	

中間貫通鋼材 配置図 S=1:125

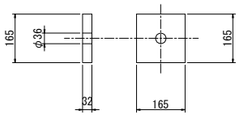


ナット詳細



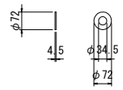
164-ナット M33(S45C)

アンカープレート詳細



164-PL 165×32×165(SS400)

ワッシャー詳細



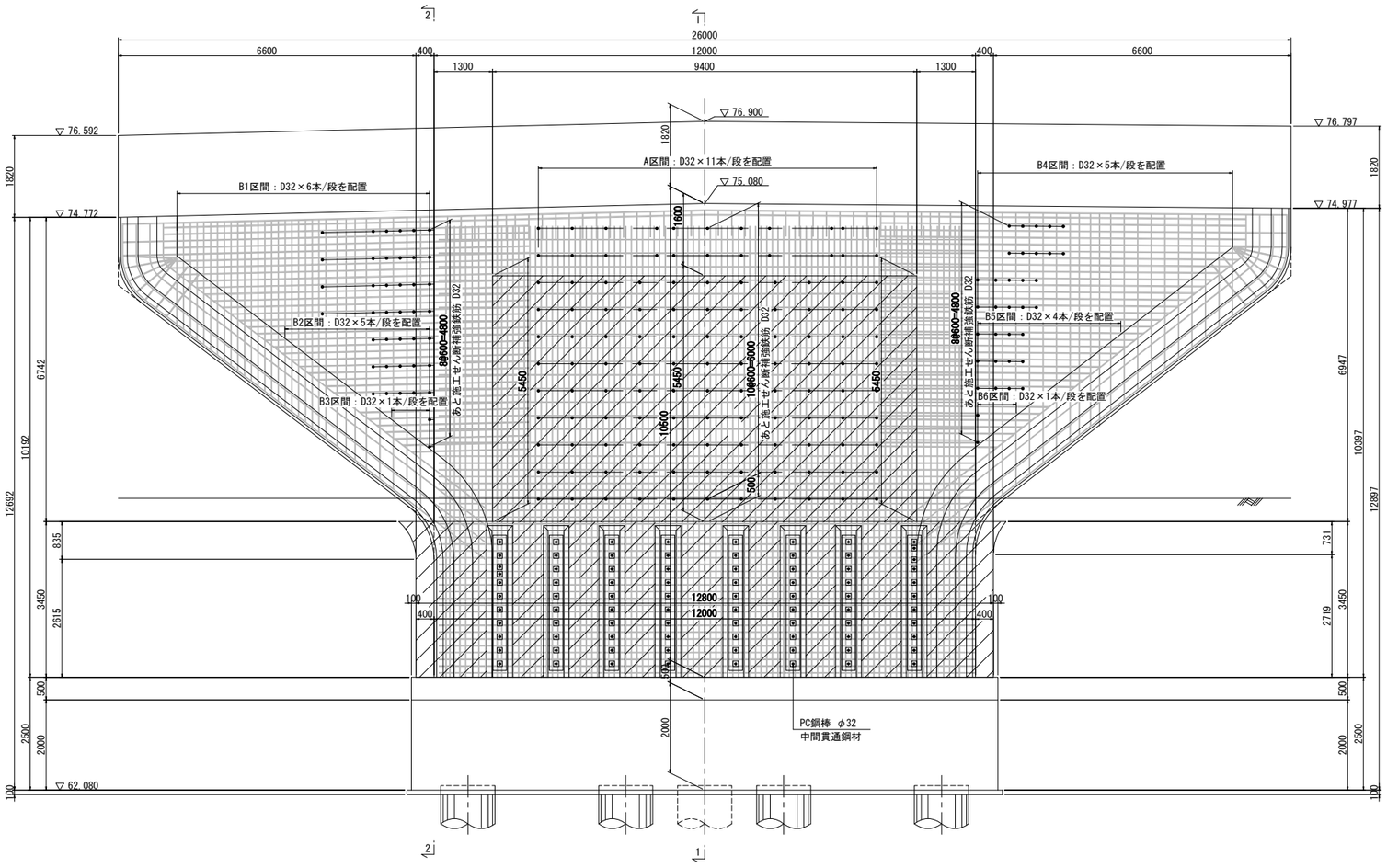
164-ワッシャー M33(SS400)

注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 鉄筋の寸法形状は、高架下から進入可能な4tトラックに積載可能なものとなるように計画している。
5. Gはガス圧接位置を示す。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚 RC巻立て補強配筋図（その３）
縮尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

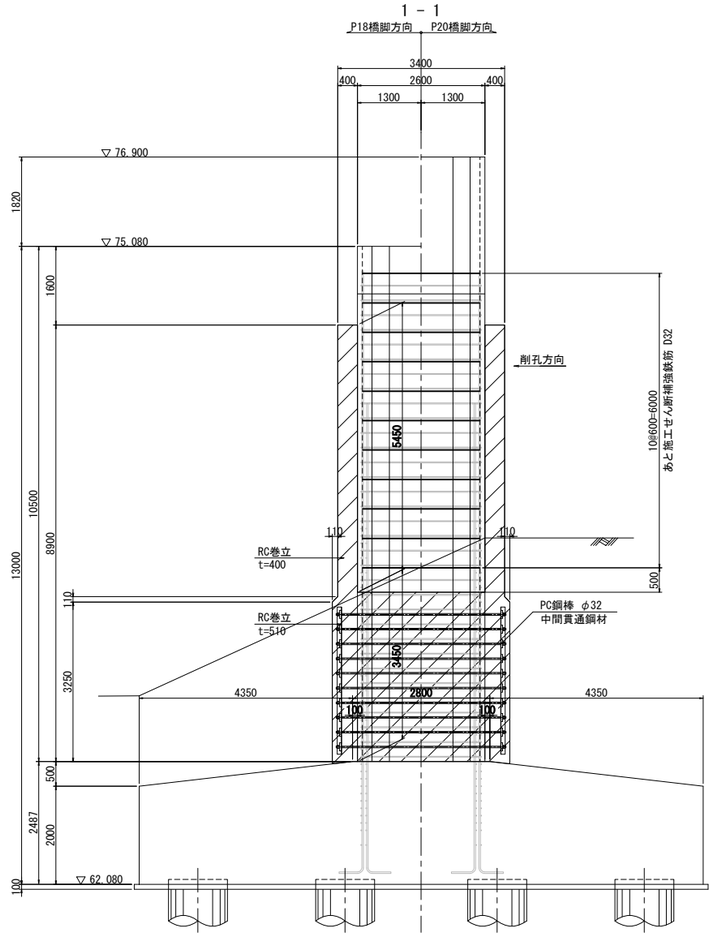
P19橋脚 あと施工せん断補強配筋図 S=図示

正面図



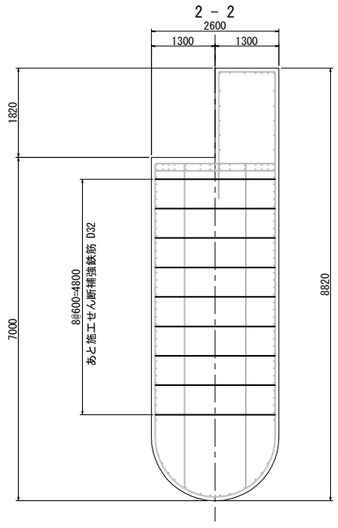
側面図

1 － 1

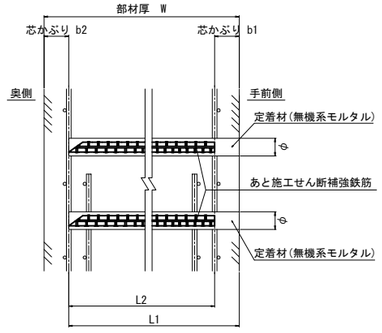


側面図

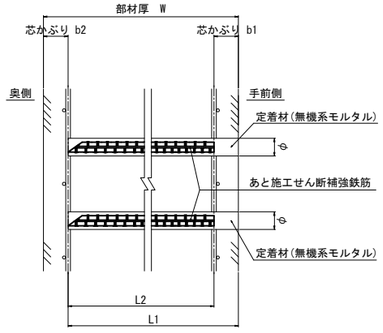
2 － 2



あと施工せん断補強鉄筋かぶり詳細図（参考図）
A区間



あと施工せん断補強鉄筋かぶり詳細図（参考図）
B区間



あと施工せん断補強鉄筋寸法表

単位:mm

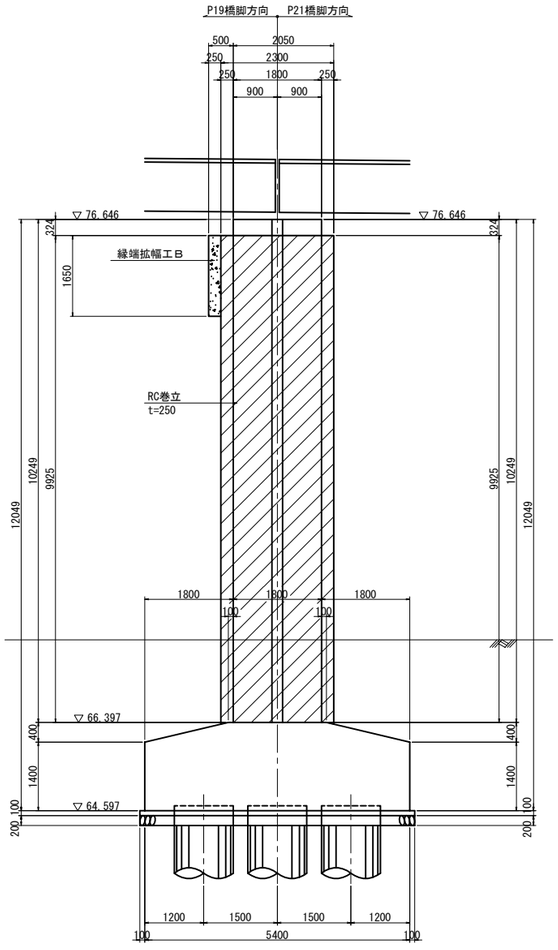
	せん断補強鉄筋				W	L1	L2	φ	b1	b2	備考
	配置		D 呼び径	n 本数	部材厚	削孔長	せん断補強鉄筋長	削孔径	芯かぶり(手前側)	芯かぶり(奥側)	
P19	梁部	A区間	D32	121	2600	2495	2390	42	105	105	SD345
		B1～B6区間	D32	75	2600	2520.5	2441	42	79.5	79.5	SD345

注記）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 削孔前に鉄筋探査を実施し、既設鉄筋を確認の上、既設鉄筋を切断しないように既設鉄筋と干渉しない既設鉄筋を切断しないように既設鉄筋と干渉しない位置に削孔すること。
3. 既設鉄筋との干渉等の理由で鉛直方向の鉄筋位置を変更する場合は、鉄筋間隔が以下のルールとなるように変更すること。
   有効高dの1/2以下、かつ、600mm以下。
   ここに有効高d= 2495mm
   なお、水平方向の鉄筋位置については、各断面で必要な鉄筋本数を確保するように調整すること。

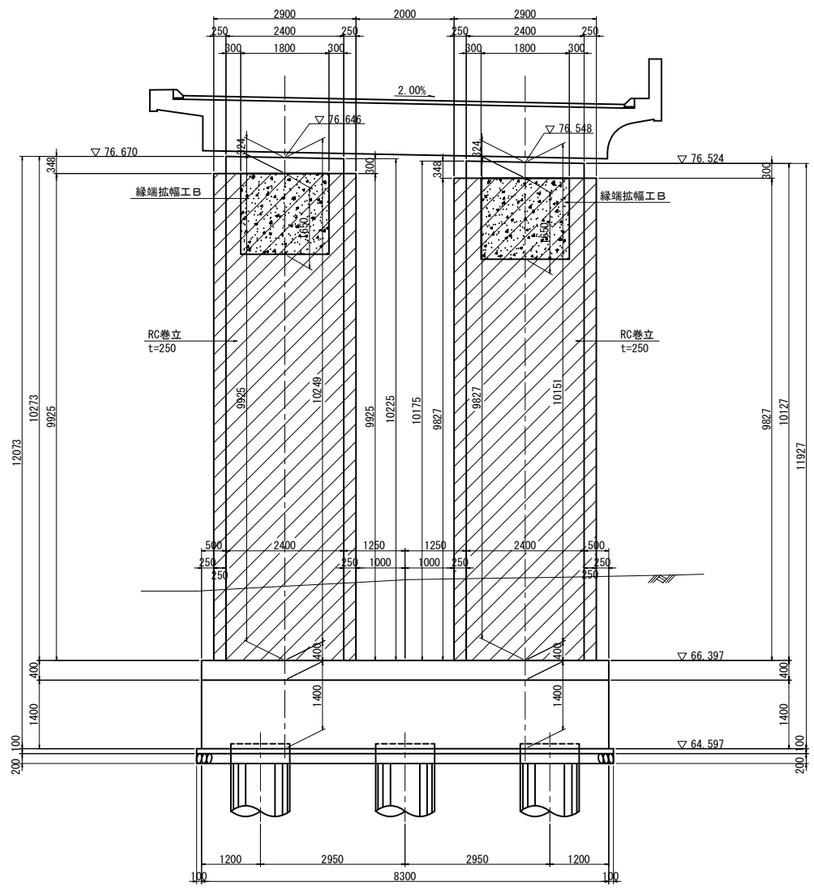
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚 あと施工せん断補強配筋図
縮尺	1:125
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P20橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

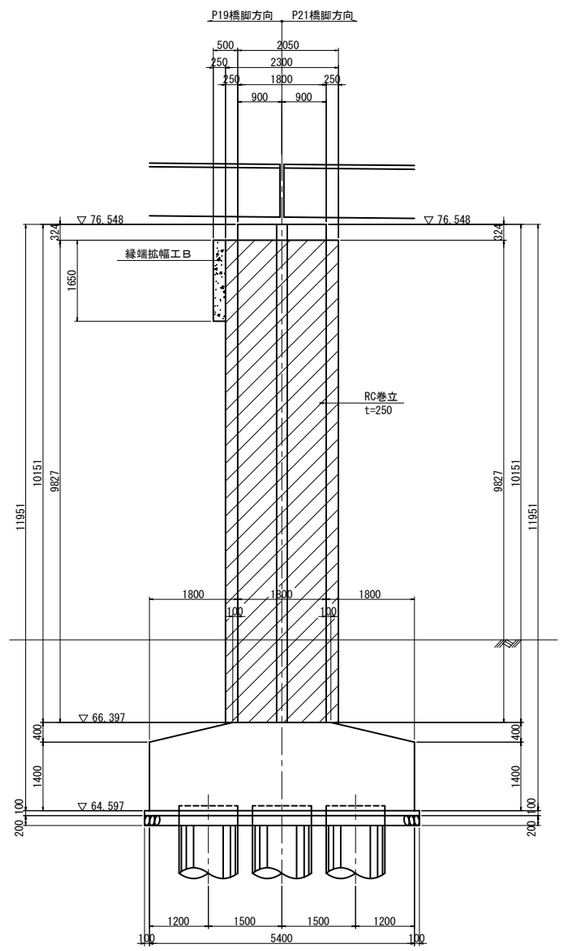
側 面 図 S=1:125



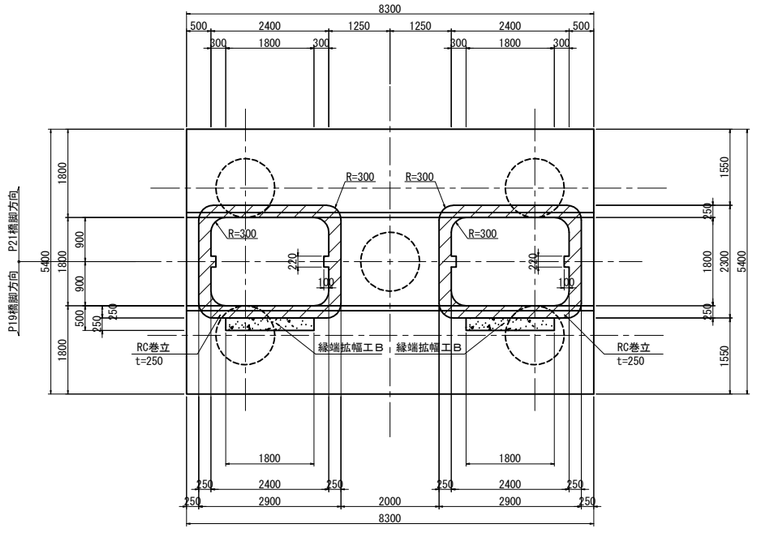
正 面 図 S=1:125



側 面 図 S=1:125

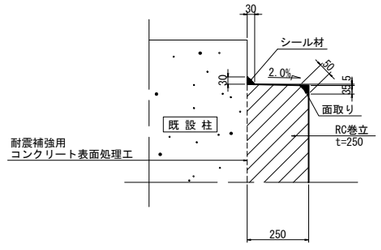


平 面 図 S=1:125

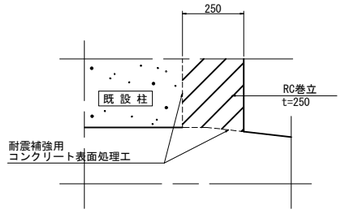


工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



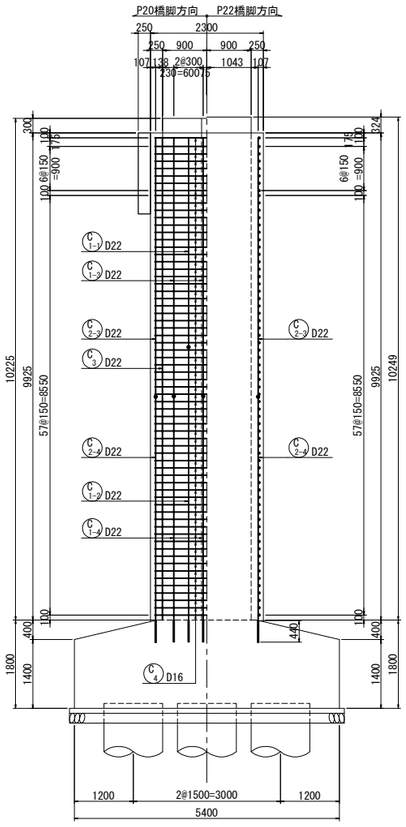
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P20橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P20橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

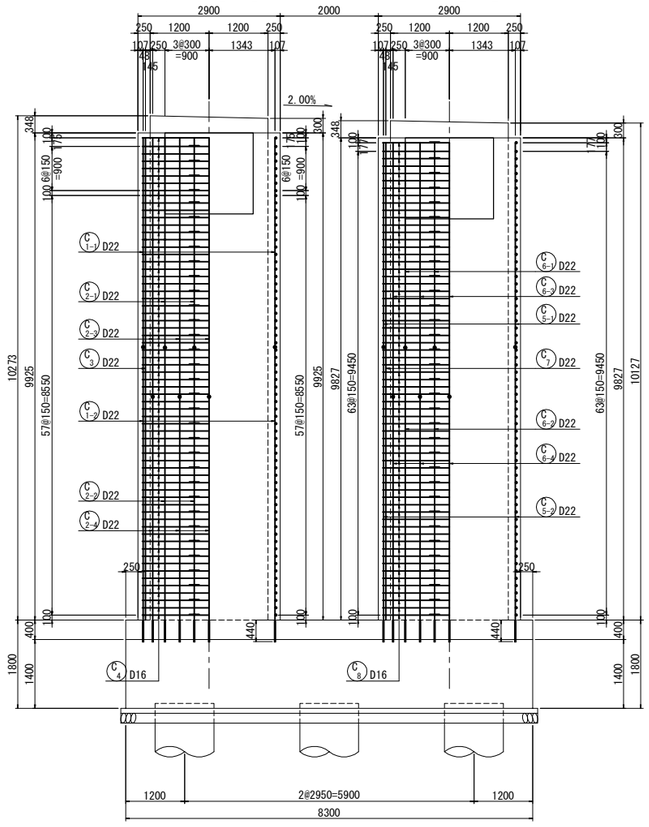
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



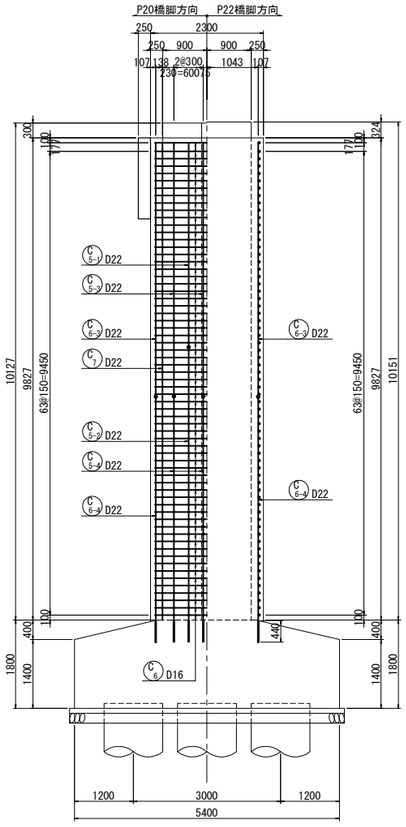
正 面 図 S=1:125

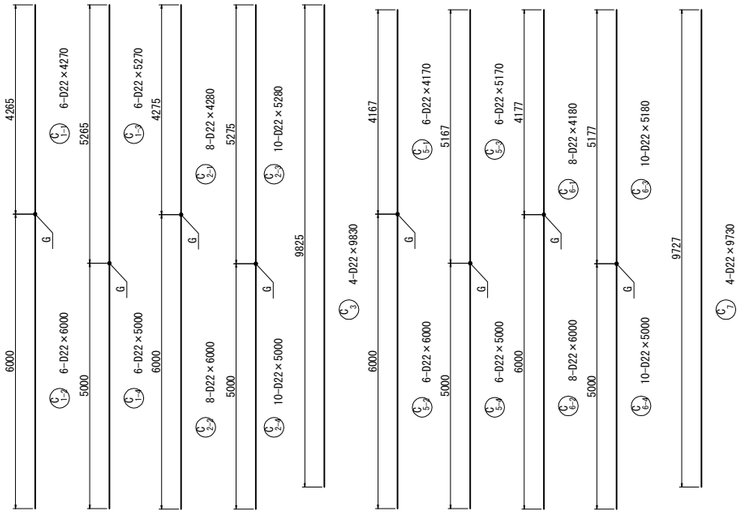
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2



側 面 図 S=1:125

5 － 5　6 － 6





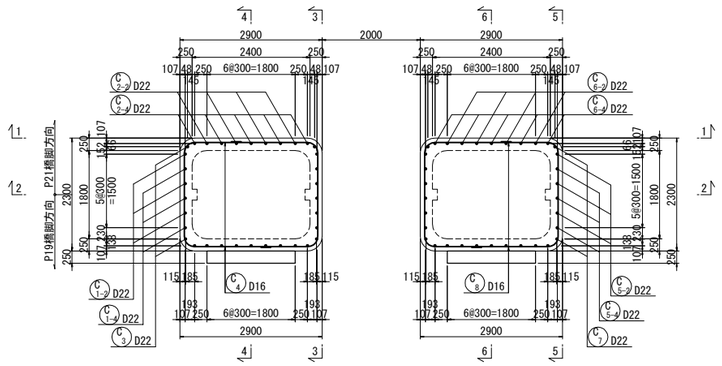
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	4270	6	3.04	13.0	78	
C 1-2	D22	6000	6	3.04	18.2	109	<6>
C 1-3	D22	5270	6	3.04	16.0	96	
C 1-4	D22	5000	6	3.04	15.2	91	<6>
C 2-1	D22	4280	8	3.04	13.0	104	
C 2-2	D22	6000	8	3.04	18.2	146	<8>
C 2-3	D22	5280	10	3.04	16.1	161	
C 2-4	D22	5000	10	3.04	15.2	152	<10>
C 3	D22	9830	4	3.04	29.9	120	
C 4	D16	4870	132	1.56	7.60	1003	(132)
C 5-1	D22	4170	6	3.04	12.7	76	
C 5-2	D22	6000	6	3.04	18.2	109	<6>
C 5-3	D22	5170	6	3.04	15.7	94	
C 5-4	D22	5000	6	3.04	15.2	91	<6>
C 6-1	D22	4180	8	3.04	12.7	102	
C 6-2	D22	6000	8	3.04	18.2	146	<8>
C 6-3	D22	5180	10	3.04	15.7	157	
C 6-4	D22	5000	10	3.04	15.2	152	<10>
C 7	D22	9730	4	3.04	29.6	118	
C 8	D16	4870	130	1.56	7.60	988	(130)
					小計	4093	kg

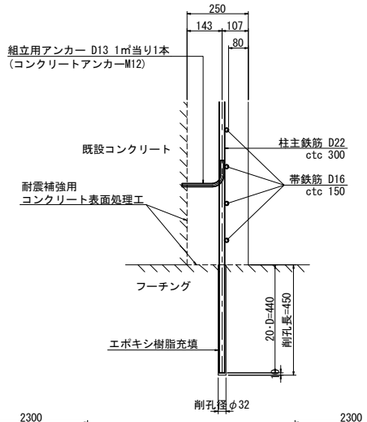
	フレア箇所	圧接箇所			
D22	2102 kg		<60>	SD345	
D16	1991 kg	(262)		SD345	
合計	4093 kg	(262)	<60>	SD345	
コンクリート削孔（φ18, L=58）		155	箇所	(参考)	
コンクリート削孔（φ32, L=450）		60	箇所		
フレア溶接(D16)		262	箇所		

平 面 図 S=1:125

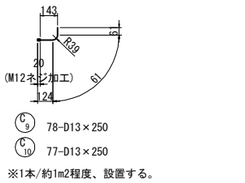
7 － 7



かぶり詳細図 S=1:25

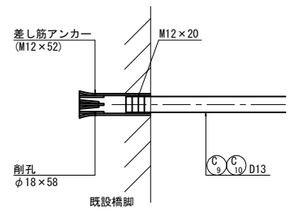


組立筋加工図(参考図) S=1:50

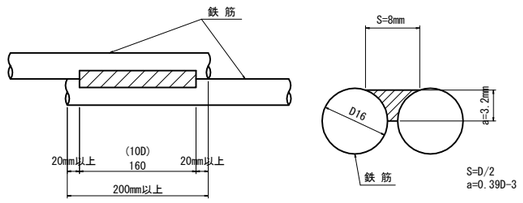


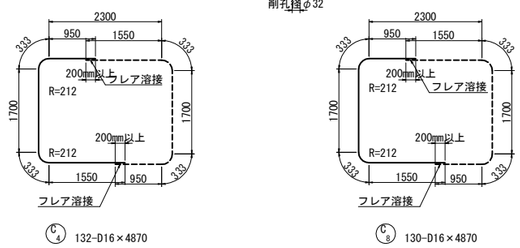
※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



フレア溶接詳細図



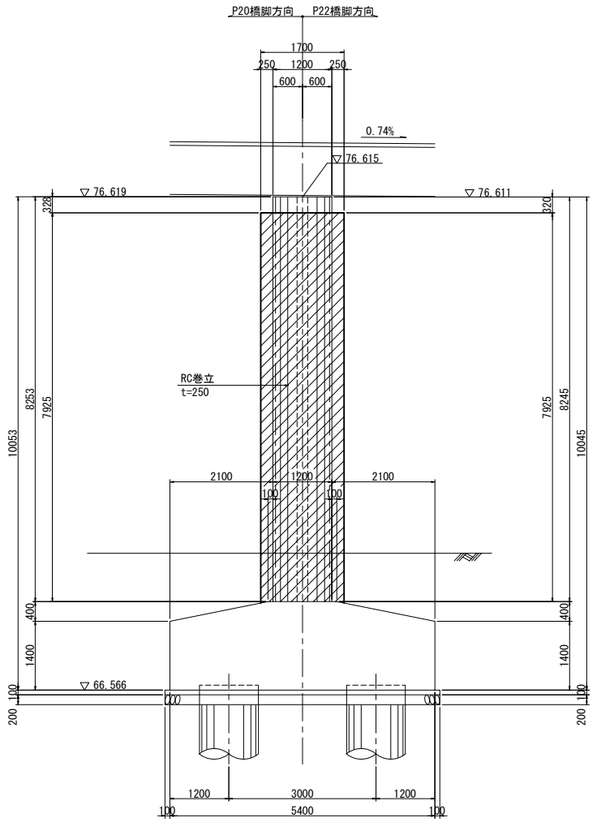


注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

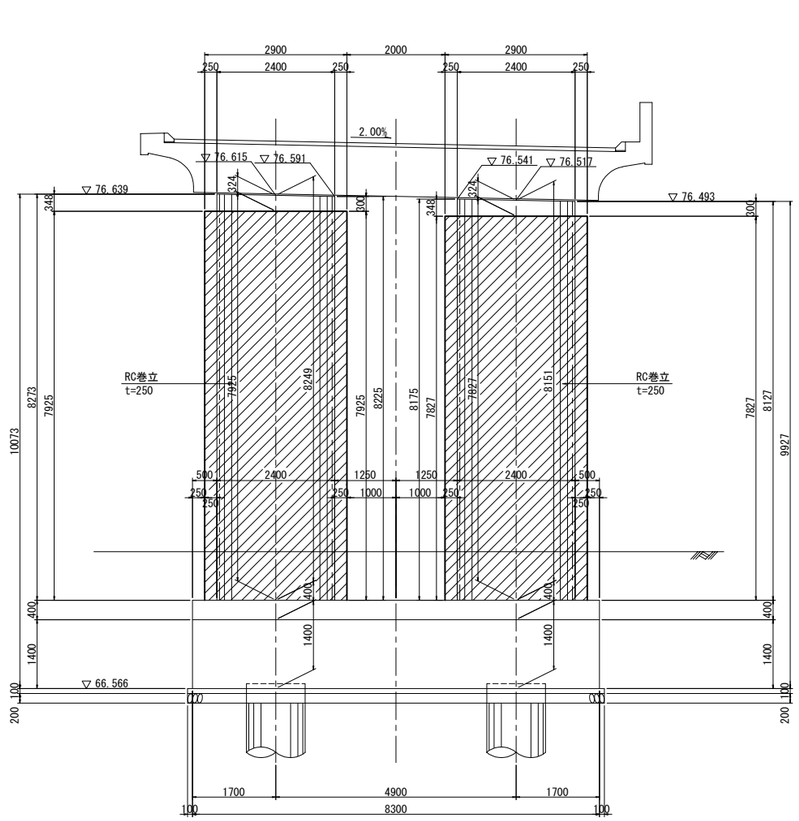
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P20橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）
縮 尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P21橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

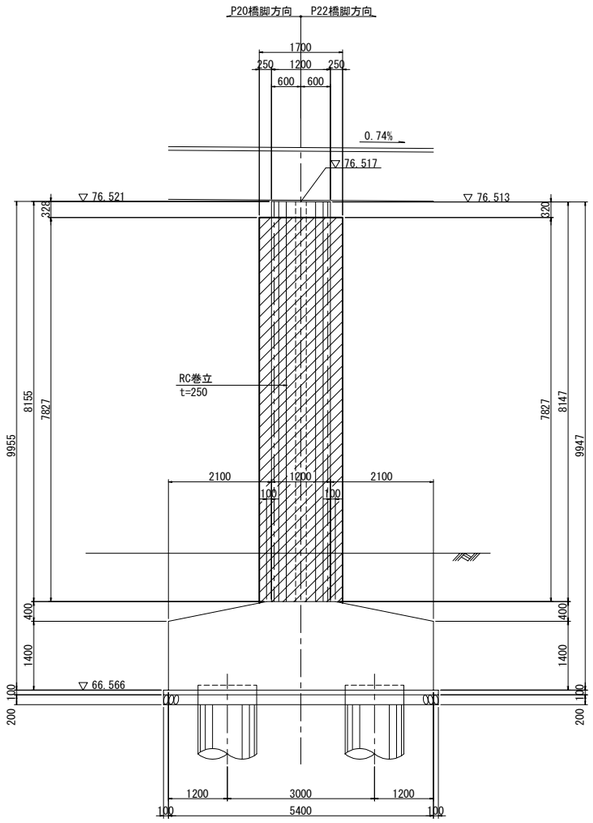
側 面 図 S=1:125



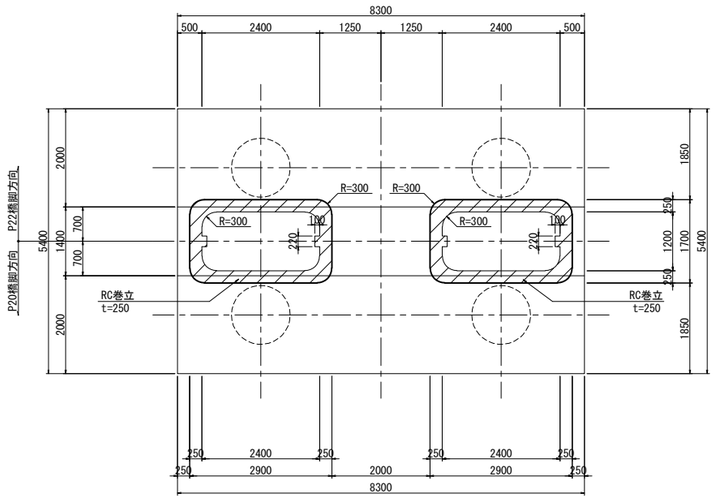
正 面 図 S=1:125



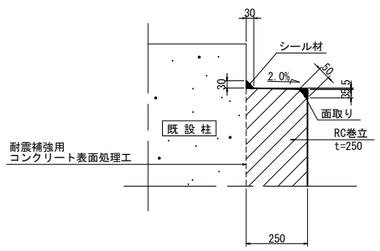
側 面 図 S=1:125



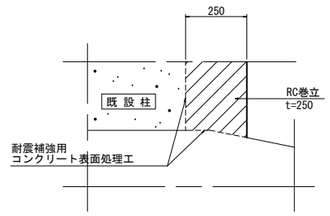
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



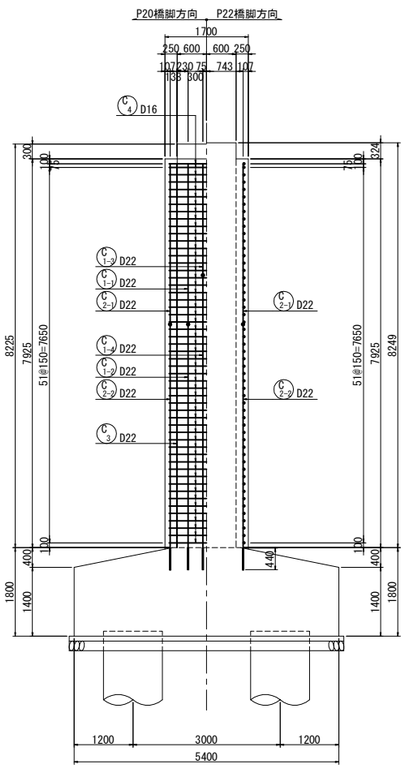
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

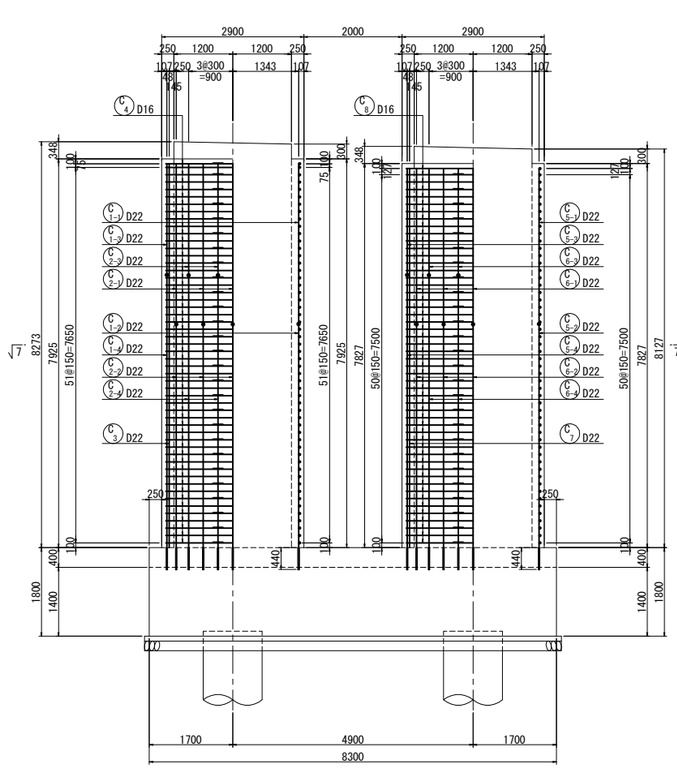
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P21橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P21橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

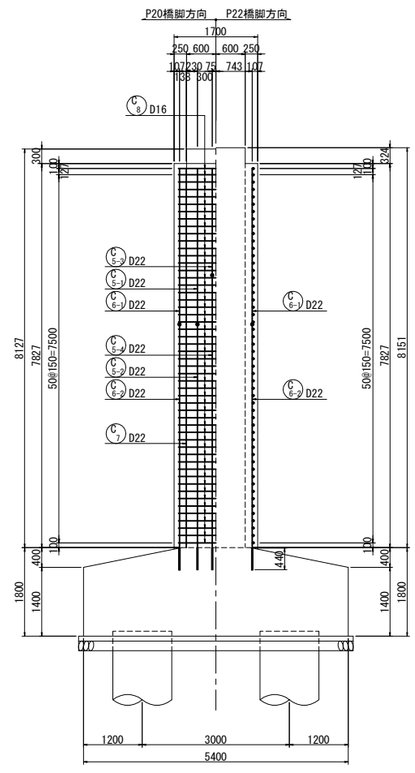
側面図 S=1:125
3－3　4－4

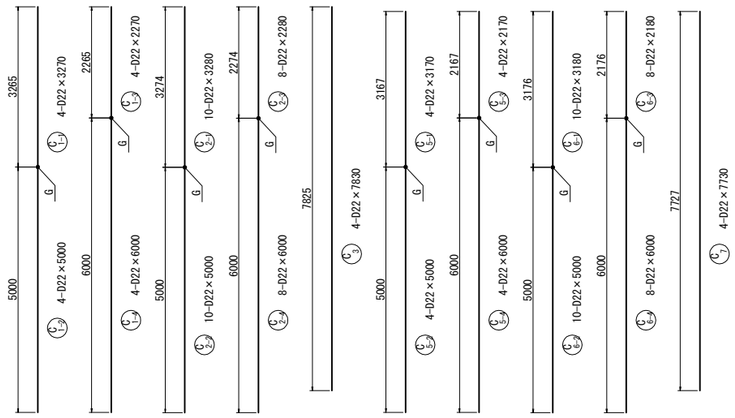


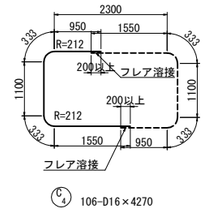
正面図 S=1:125
1－1　2－2

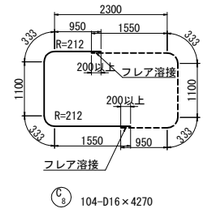


側面図 S=1:125
5－5　6－6

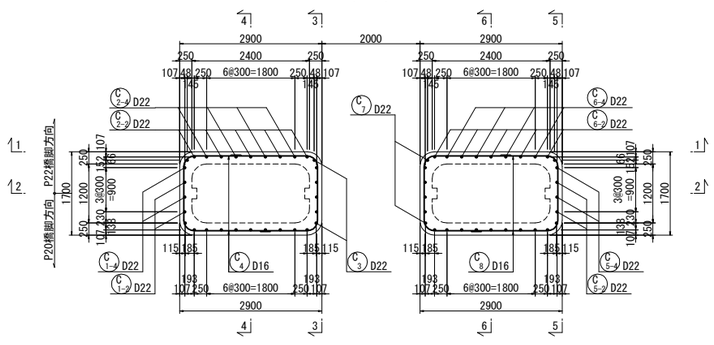








平面図 S=1:125
7－7

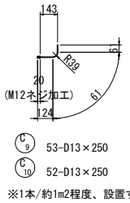


鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	3270	4	3.04	9.94	40	
C 1-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 1-3	D22	2270	4	3.04	6.90	28	
C 1-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	<4>
C 2-1	D22	3280	10	3.04	9.97	100	
C 2-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	<10>
C 2-3	D22	2280	8	3.04	6.93	55	
C 2-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	<8>
C 3	D22	7830	4	3.04	23.8	95	
C 4	D16	4270	106	1.56	6.66	706	(106)
C 5-1	D22	3170	4	3.04	9.64	39	
C 5-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 5-3	D22	2170	4	3.04	6.60	26	
C 5-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	<4>
C 6-1	D22	3180	10	3.04	9.67	97	
C 6-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	<10>
C 6-3	D22	2180	8	3.04	6.63	53	
C 6-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	<8>
C 7	D22	7730	4	3.04	23.5	94	
C 8	D16	4270	104	1.56	6.66	693	(104)
					小計	2890	kg

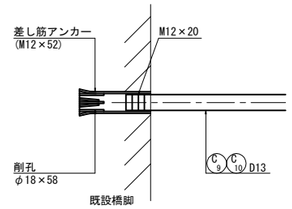
			フレア箇所	圧接箇所		
D22	1491	kg		<52>	SD345	
D16	1399	kg	(210)			
合計	2890	kg	(210)	<52>	SD345	
コンクリート削孔(φ18,L=58)			105	箇所	(参考)	
コンクリート削孔(φ32,L=450)			52	箇所		
フレア溶接(D16)			210	箇所		

組立筋加工図(参考図) S=1:50

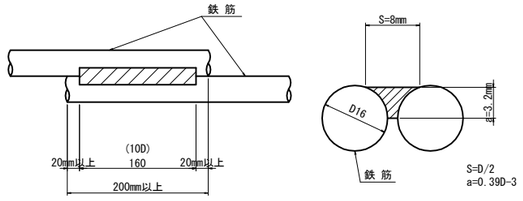


※1本/約1m2程度、設置する。

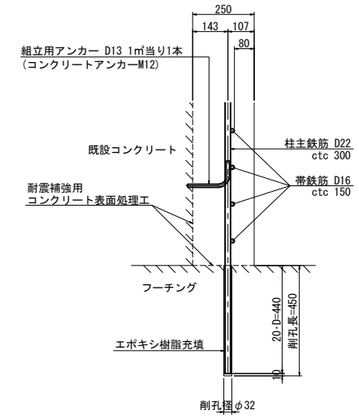
組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図 S=1:25

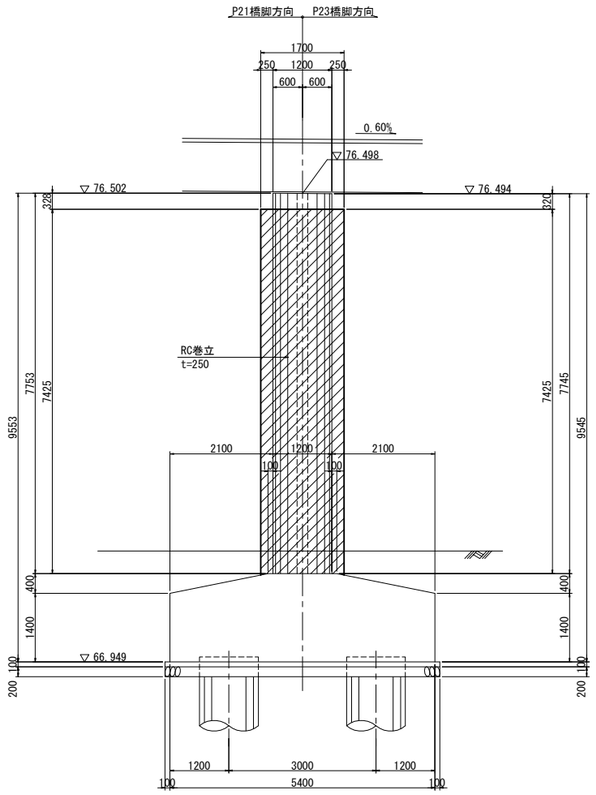


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

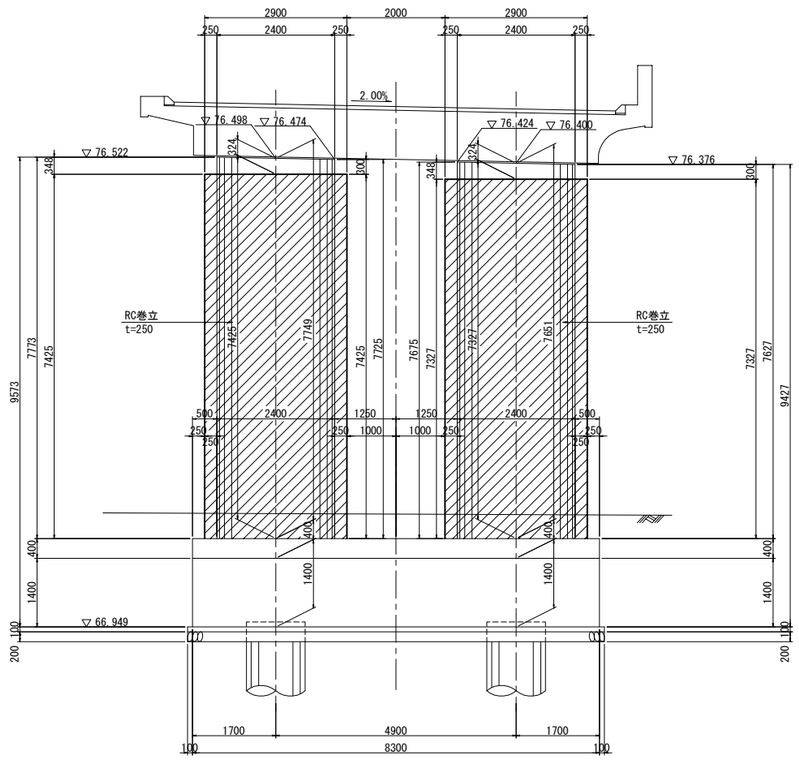
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P21橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P22橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

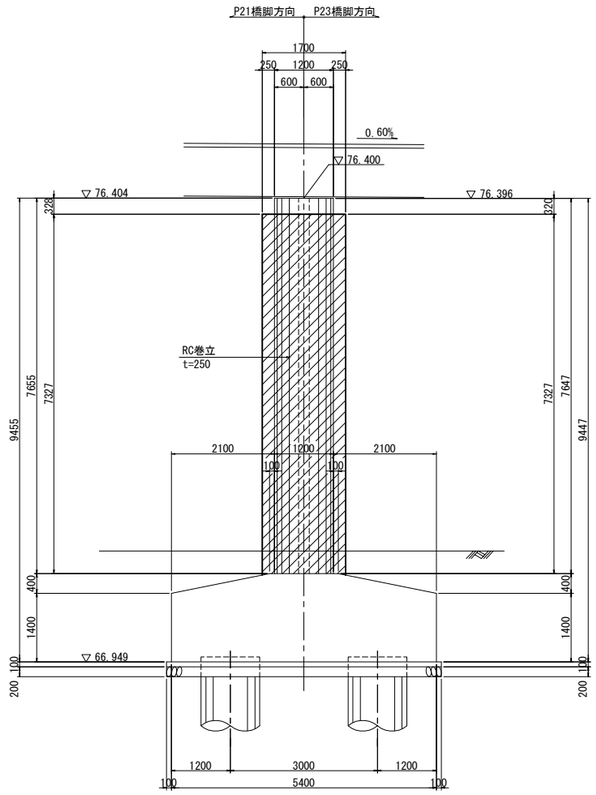
側 面 図 S=1:125



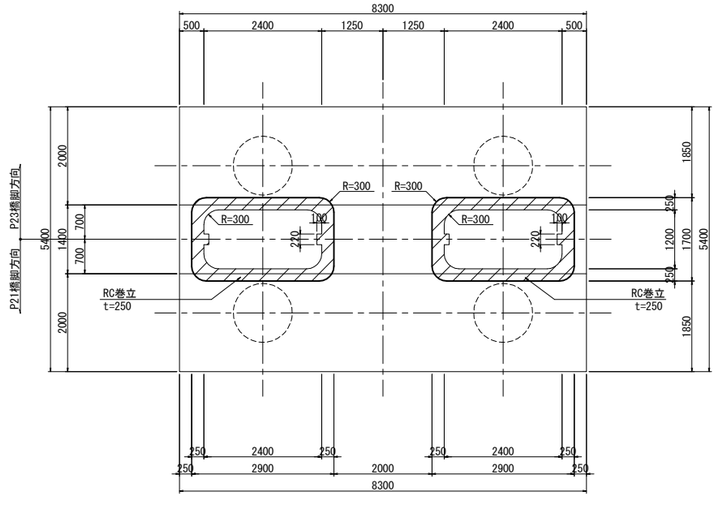
正 面 図 S=1:125



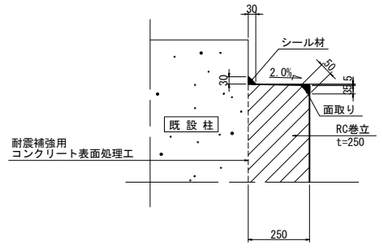
側 面 図 S=1:125



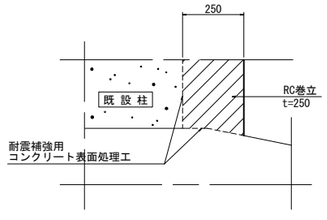
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



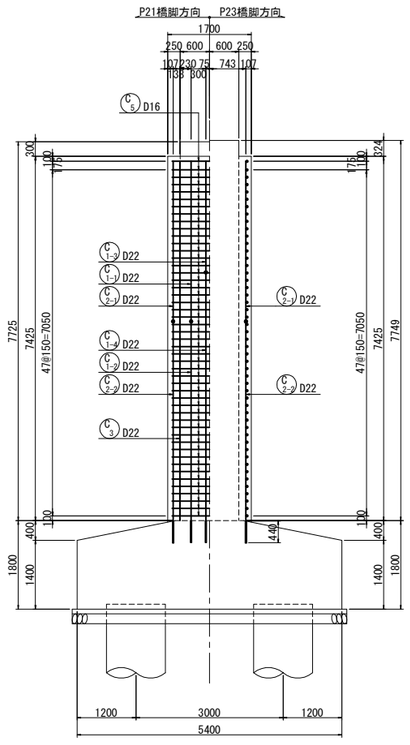
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

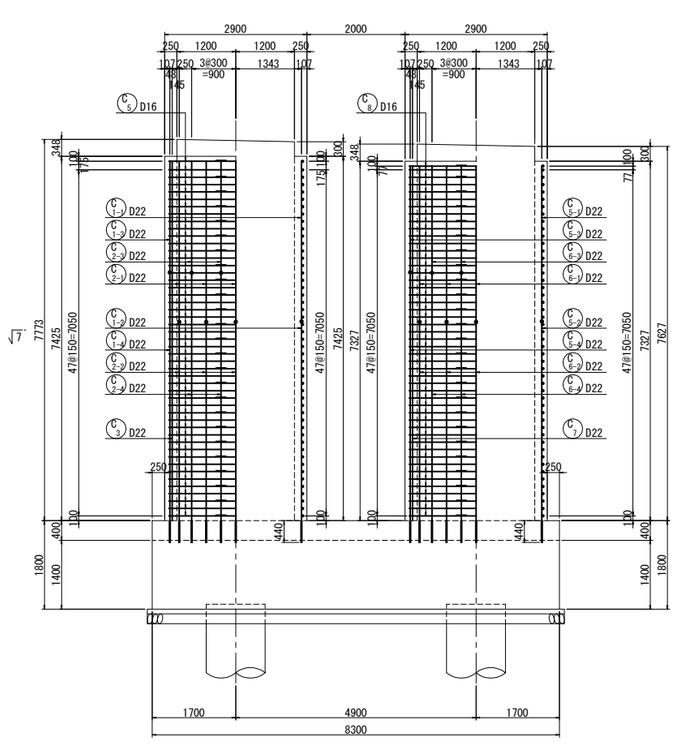
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P22橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P22橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

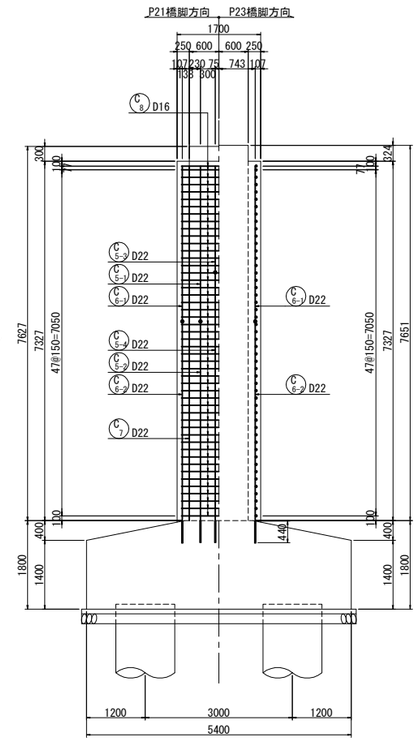
側 面 図 S=1:125
3 - 3　4 - 4

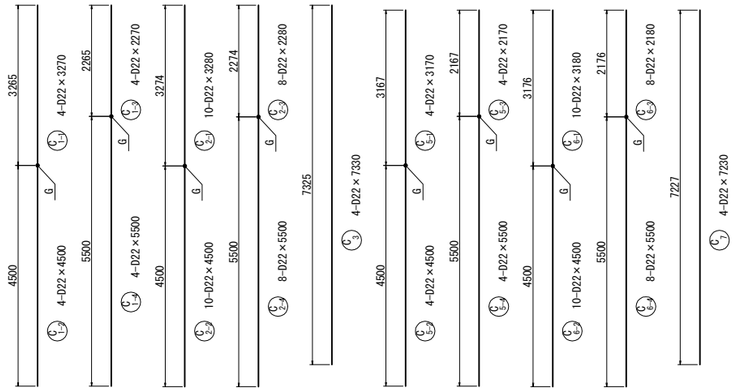


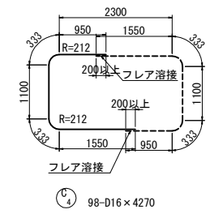
正 面 図 S=1:125
1 - 1　2 - 2　　1 - 1　2 - 2

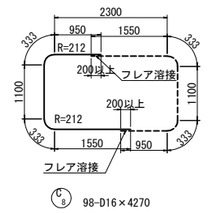


側 面 図 S=1:125
5 - 5　6 - 6

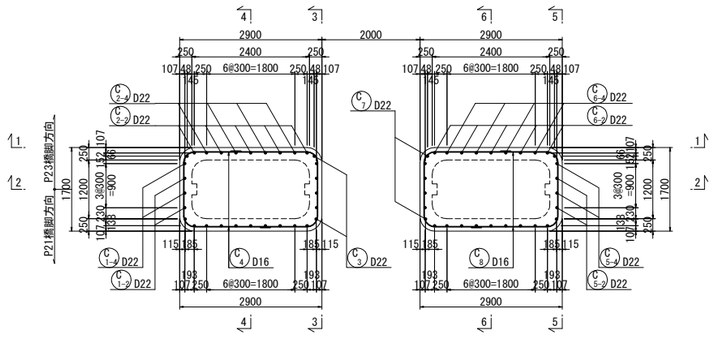




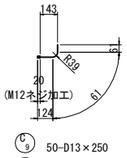




平 面 図 S=1:125
7 - 7

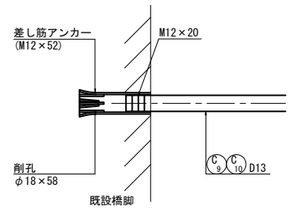


組立筋加工図(参考図) S=1:50

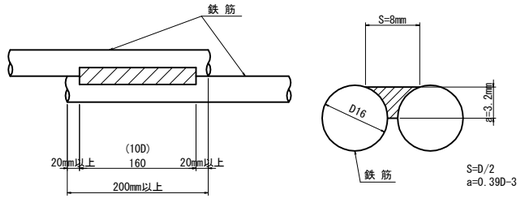


※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



フレア溶接詳細図



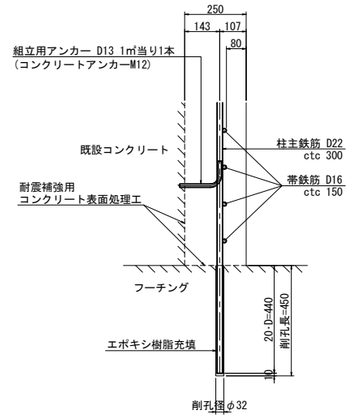
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3270	4	3.04	9.94	40	
C 1-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	<4>
C 1-3	D22	2270	4	3.04	6.90	28	
C 1-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	<4>
C 2-1	D22	3280	10	3.04	9.97	100	
C 2-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	<10>
C 2-3	D22	2280	8	3.04	6.93	55	
C 2-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	<8>
C 3	D22	7330	4	3.04	22.3	89	
C 4	D16	4270	98	1.56	6.66	653	(98)
C 5-1	D22	3170	4	3.04	9.64	39	
C 5-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	<4>
C 5-3	D22	2170	4	3.04	6.60	26	
C 5-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	<4>
C 6-1	D22	3180	10	3.04	9.67	97	
C 6-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	<10>
C 6-3	D22	2180	8	3.04	6.63	53	
C 6-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	<8>
C 7	D22	7230	4	3.04	22.0	88	
C 8	D16	4270	98	1.56	6.66	653	(98)
					小計	2707	kg

			フレア箇所	圧接箇所	
D22	1401	kg		<52>	SD345
D16	1306	kg	(196)		
合計	2707	kg	(196)	<52>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	99	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D16)	196	箇所	

かぶり詳細図 S=1:25

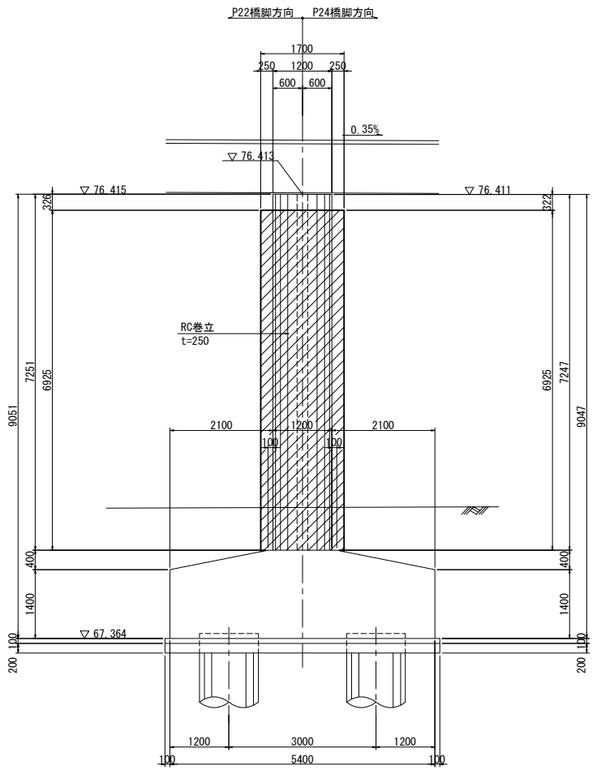


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

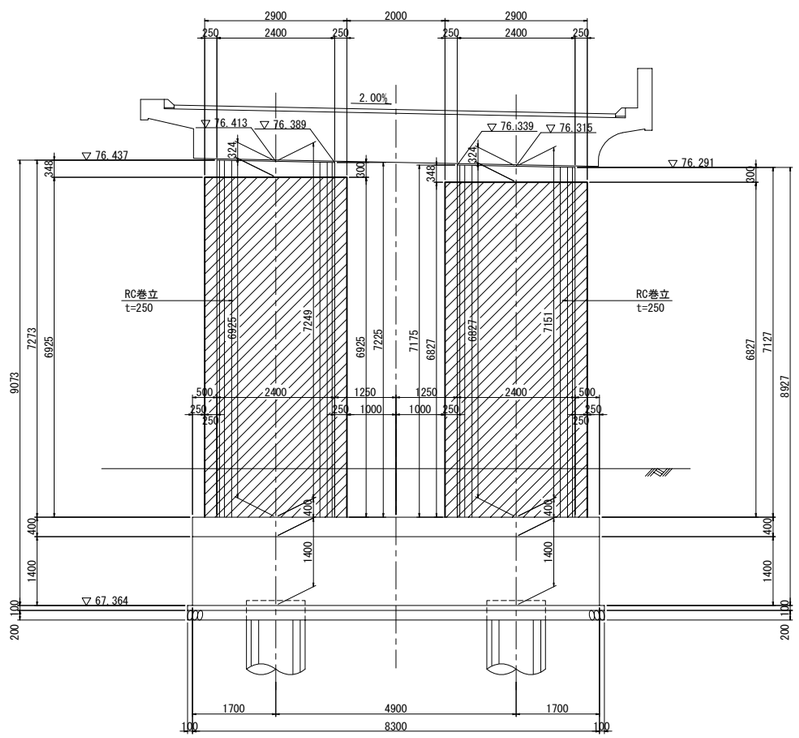
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P22橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P23橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

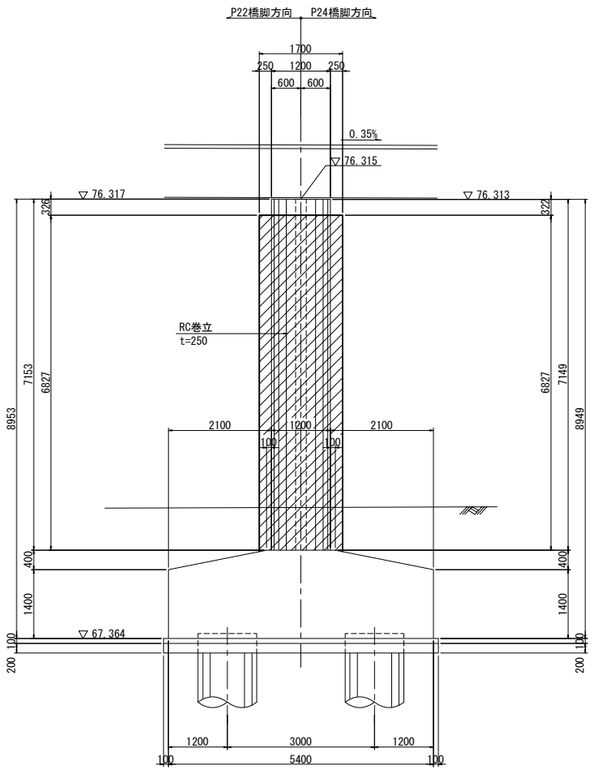
側 面 図 S=1:125



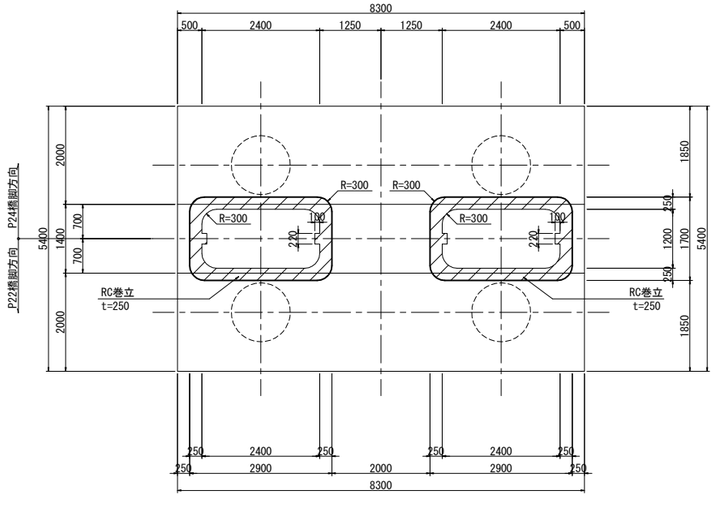
正 面 図 S=1:125



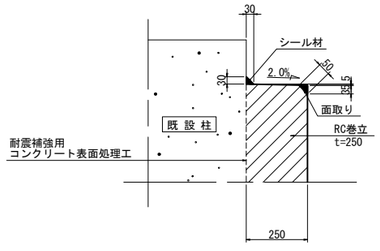
側 面 図 S=1:125



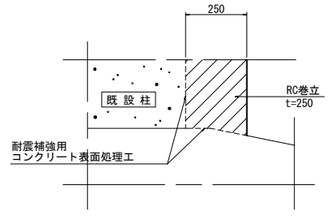
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



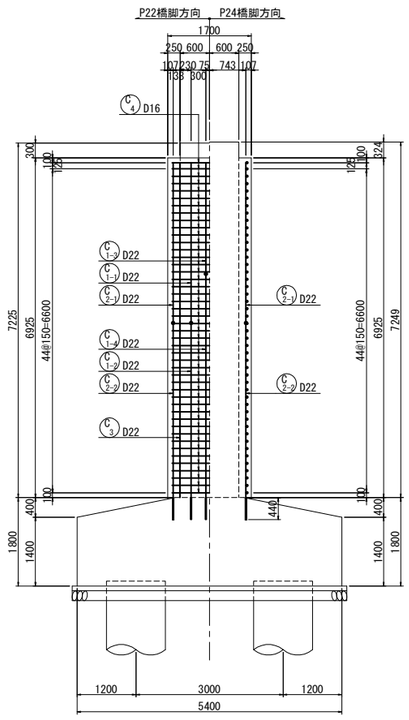
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

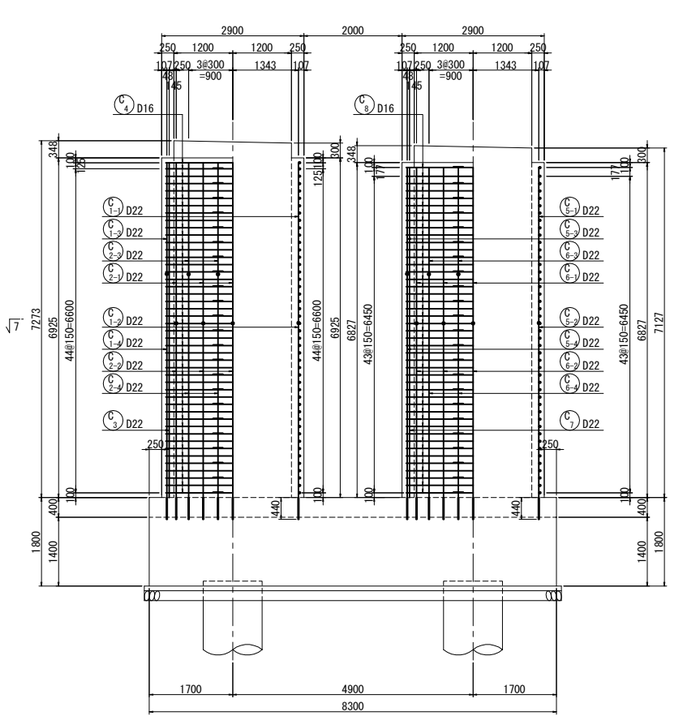
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P23橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P23橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

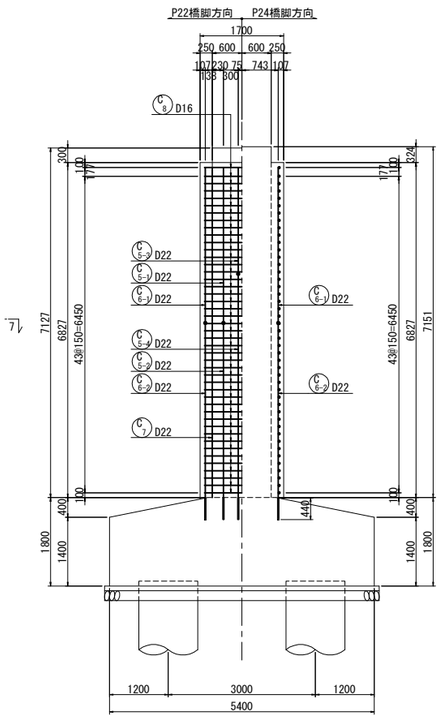
側面図 S=1:125
3－3　4－4

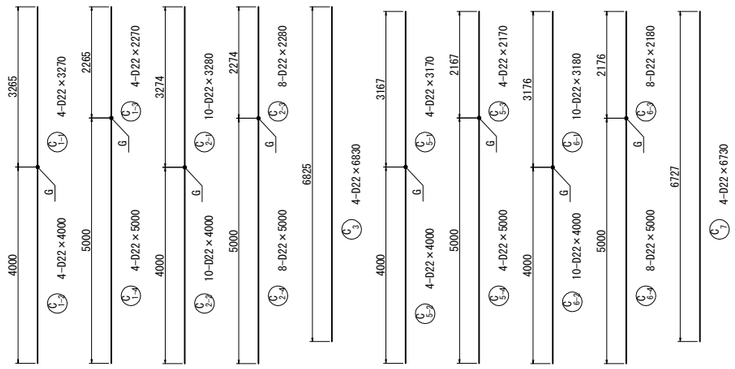


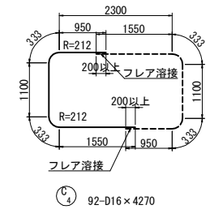
正面図 S=1:125
1－1　2－2

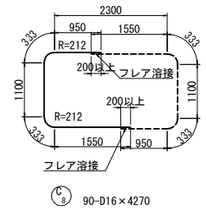


側面図 S=1:125
5－5　6－6









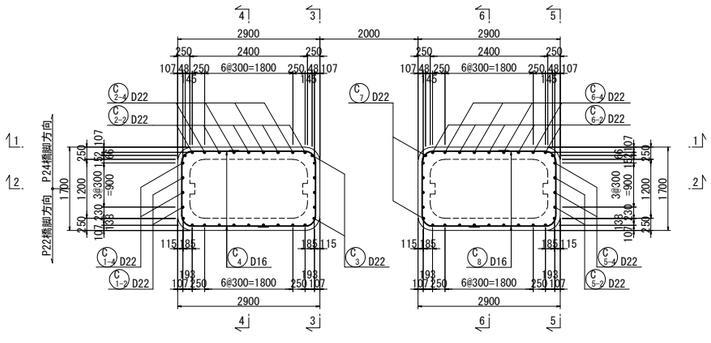
鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	3270	4	3.04	9.94	40	I
C 1-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	↑ <4>
C 1-3	D22	2270	4	3.04	6.90	28	I
C 1-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	↑ <4>
C 2-1	D22	3280	10	3.04	9.97	100	I
C 2-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	↑ <10>
C 2-3	D22	2280	8	3.04	6.93	55	I
C 2-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	↑ <8>
C 3	D22	6830	4	3.04	20.8	83	I
C 4	D16	4270	92	1.56	6.66	613	⊏ (92)
C 5-1	D22	3170	4	3.04	9.64	39	I
C 5-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	↑ <4>
C 5-3	D22	2170	4	3.04	6.60	26	I
C 5-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	↑ <4>
C 6-1	D22	3180	10	3.04	9.67	97	I
C 6-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	↑ <10>
C 6-3	D22	2180	8	3.04	6.63	53	I
C 6-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	↑ <8>
C 7	D22	6730	4	3.04	20.5	82	I
C 8	D16	4270	90	1.56	6.66	599	⊏ (90)
					小計	2523	kg

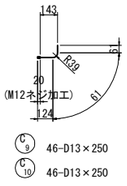
			フレア箇所	圧接箇所	
D22	1311	kg		<52>	SD345
D16	1212	kg	(182)		
合計	2523	kg	(182)	<52>	SD345

コンクリート削孔（φ18, L=58）	92	箇所	(参考)
コンクリート削孔（φ32, L=450）	52	箇所	
フレア溶接 (D16)	182	箇所	

平面図 S=1:125
7－7

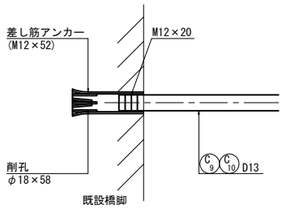


組立筋加工図（参考図） S=1:50

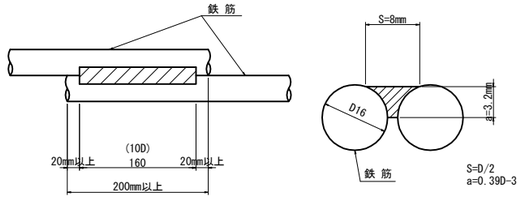


※1本/約1m2程度、設置する。

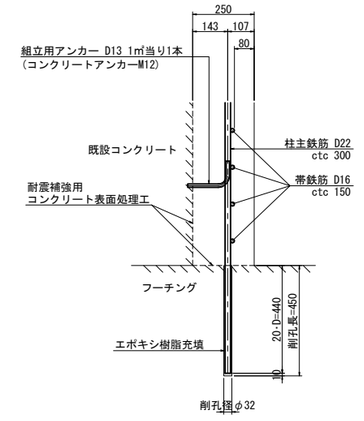
組立て筋アンカー詳細図（参考図） S=1:5



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図 S=1:25

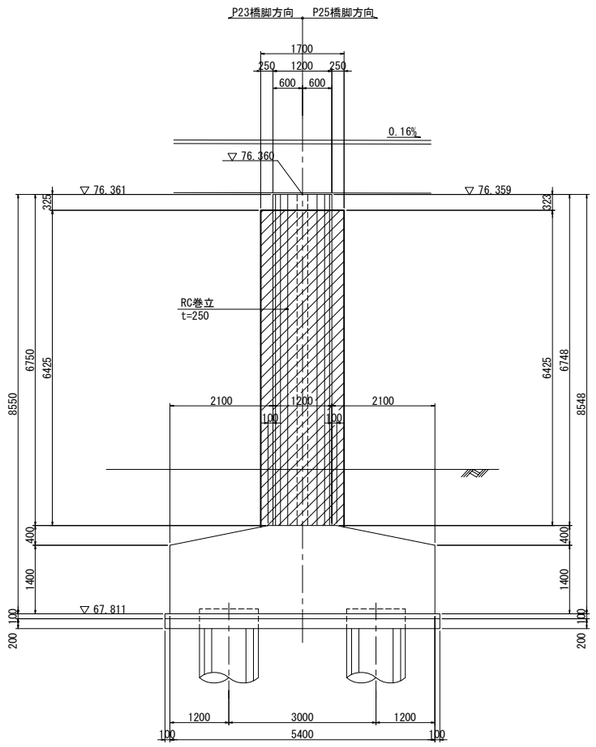


注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

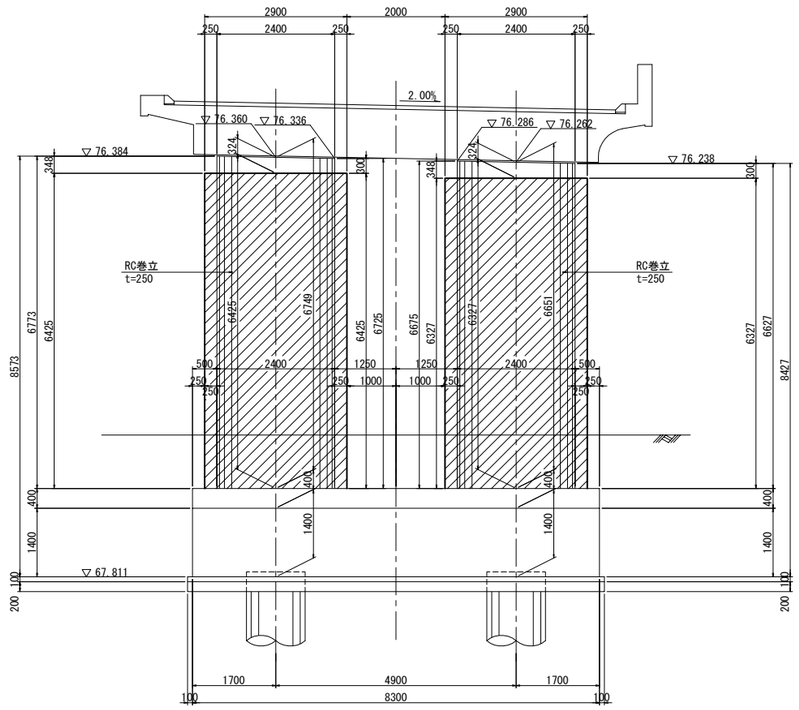
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P23橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P24橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

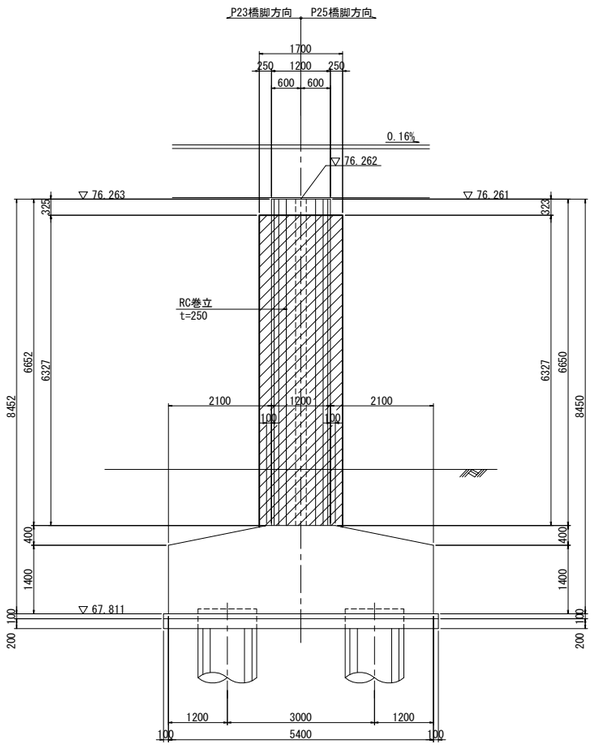
側 面 図 S=1:125



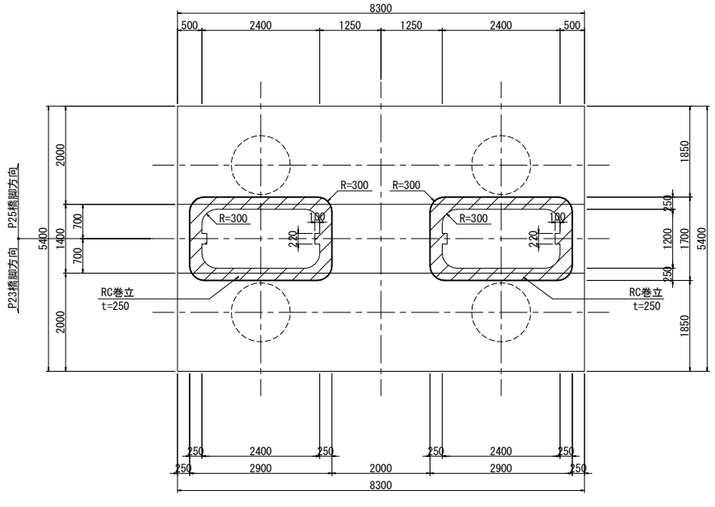
正 面 図 S=1:125



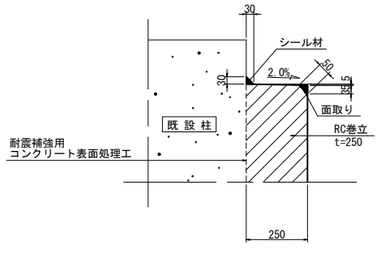
側 面 図 S=1:125



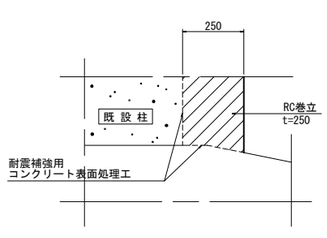
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



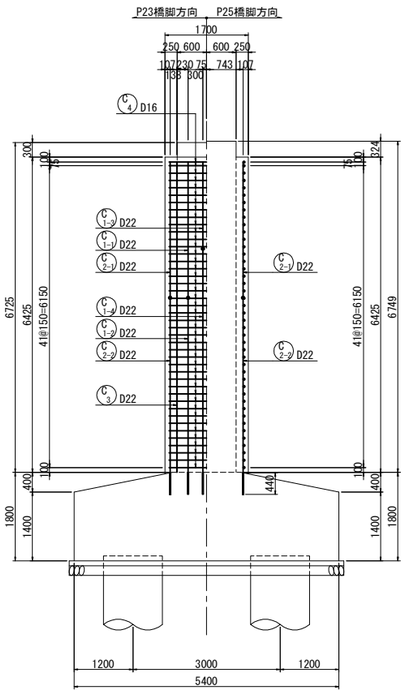
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

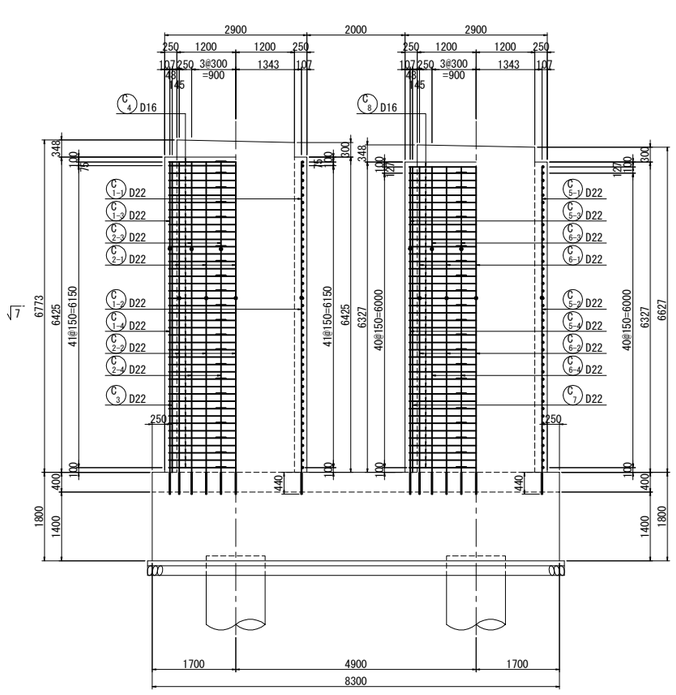
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P24橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P24橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

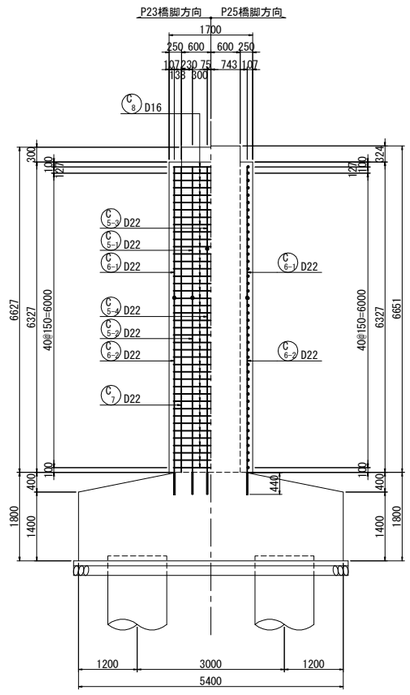
側 面 図 S=1:125
3 - 3　4 - 4

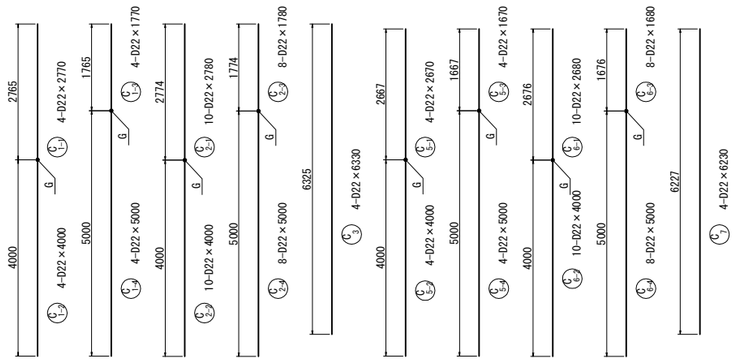


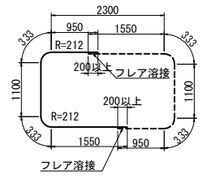
正 面 図 S=1:125
1 - 1　2 - 2　　1 - 1　2 - 2



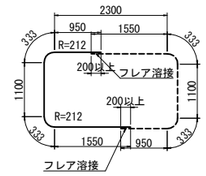
側 面 図 S=1:125
5 - 5　6 - 6







C4 86-D16×4270



C8 84-D16×4270

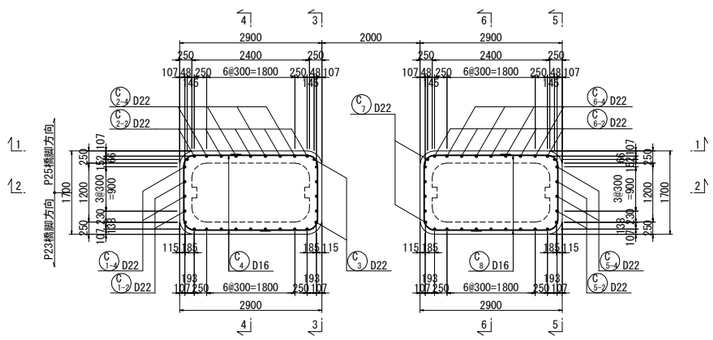
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	2770	4	3.04	8.42	34	
C 1-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	<4>
C 1-3	D22	1770	4	3.04	5.38	22	
C 1-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 2-1	D22	2780	10	3.04	8.45	85	
C 2-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	<10>
C 2-3	D22	1780	8	3.04	5.41	43	
C 2-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	<8>
C 3	D22	6330	4	3.04	19.2	77	
C 4	D16	4270	86	1.56	6.66	573	(86)
C 5-1	D22	2670	4	3.04	8.12	32	
C 5-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	<4>
C 5-3	D22	1670	4	3.04	5.08	20	
C 5-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 6-1	D22	2680	10	3.04	8.15	82	
C 6-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	<10>
C 6-3	D22	1680	8	3.04	5.11	41	
C 6-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	<8>
C 7	D22	6230	4	3.04	18.9	76	
C 8	D16	4270	84	1.56	6.66	559	(84)
					小計	2352	kg

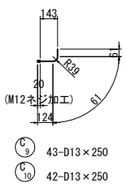
	フレア箇所	圧接箇所	
D22	1220 kg	<52>	SD345
D16	1132 kg	(170)	
合計	2352 kg	(170) <52>	SD345

コンクリート削孔（φ18, L=58）	85	箇所	（参考）
コンクリート削孔（φ32, L=450）	52	箇所	
フレア溶接(D16)	170	箇所	

平 面 図 S=1:125
7 - 7

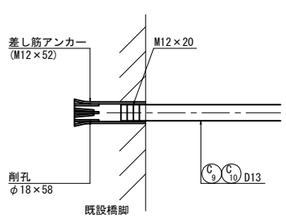


組立筋加工図(参考図) S=1:50

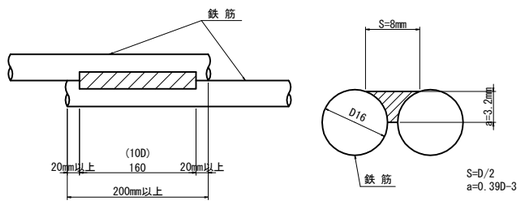


※1本/約1m2程度、設置する。

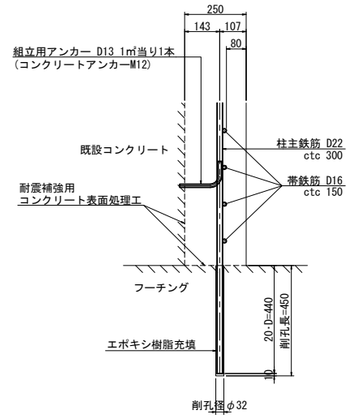
組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図 S=1:25

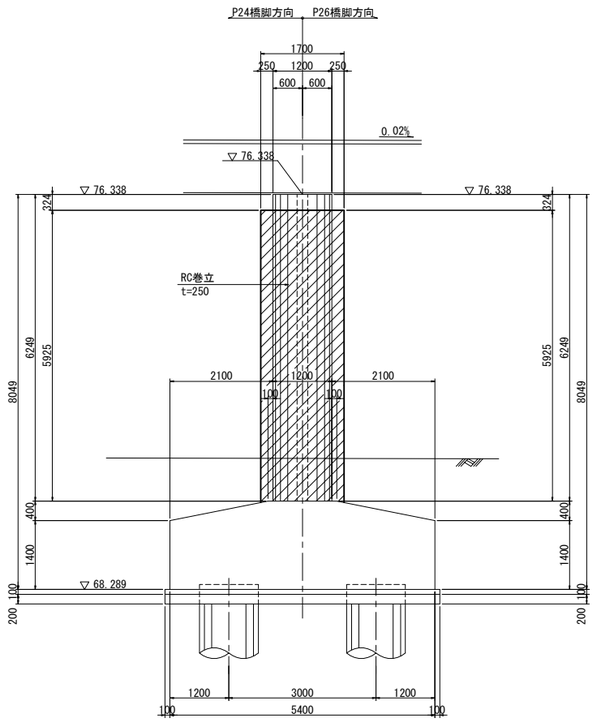


注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

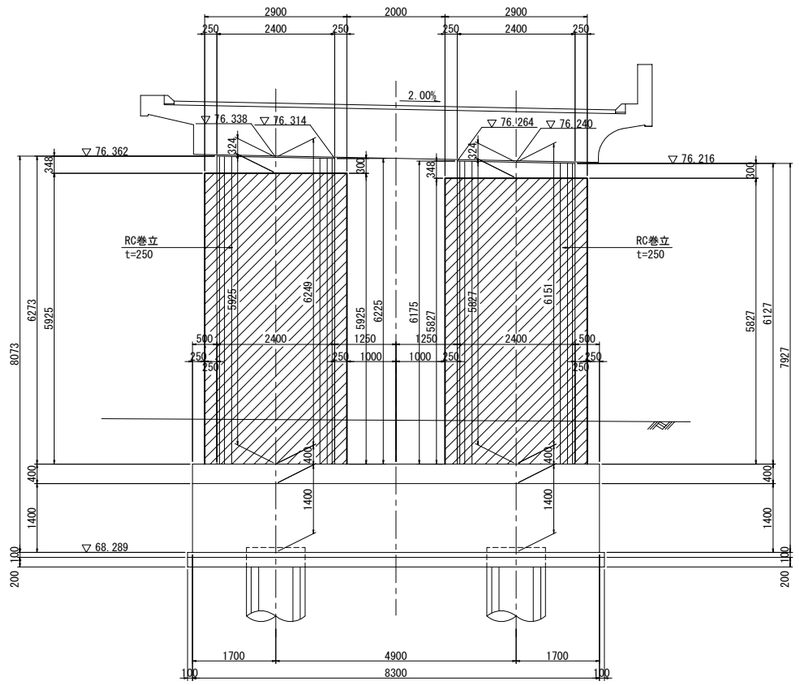
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P24橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P25橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

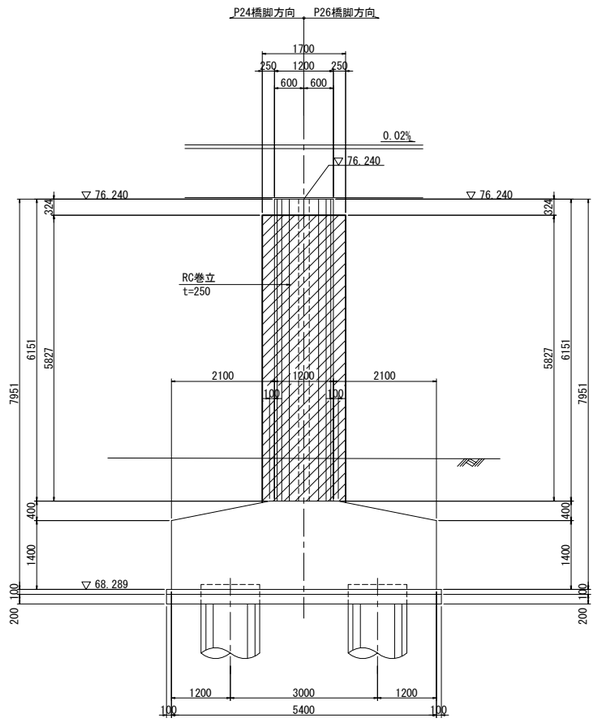
側 面 図 S=1:125



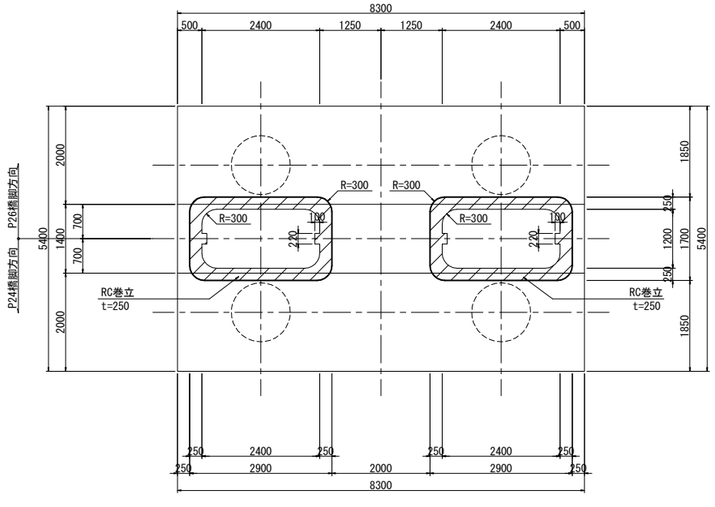
正 面 図 S=1:125



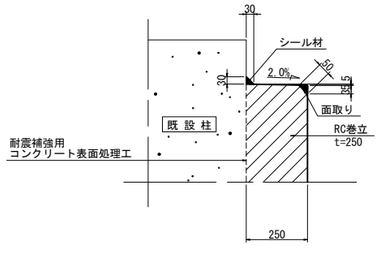
側 面 図 S=1:125



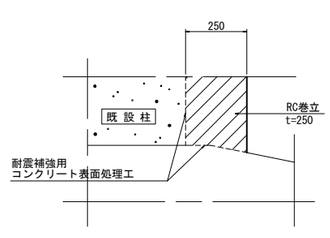
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

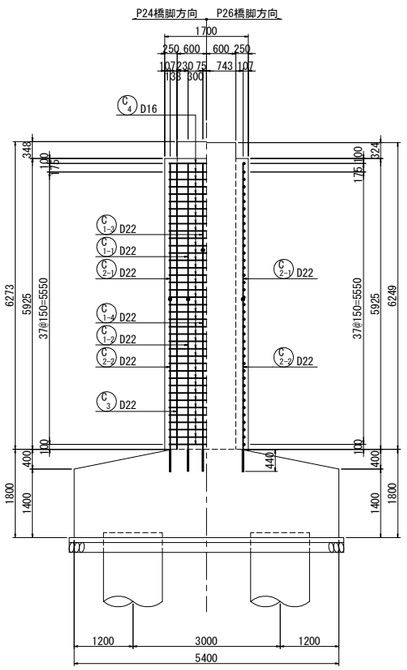
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P25橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P25橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

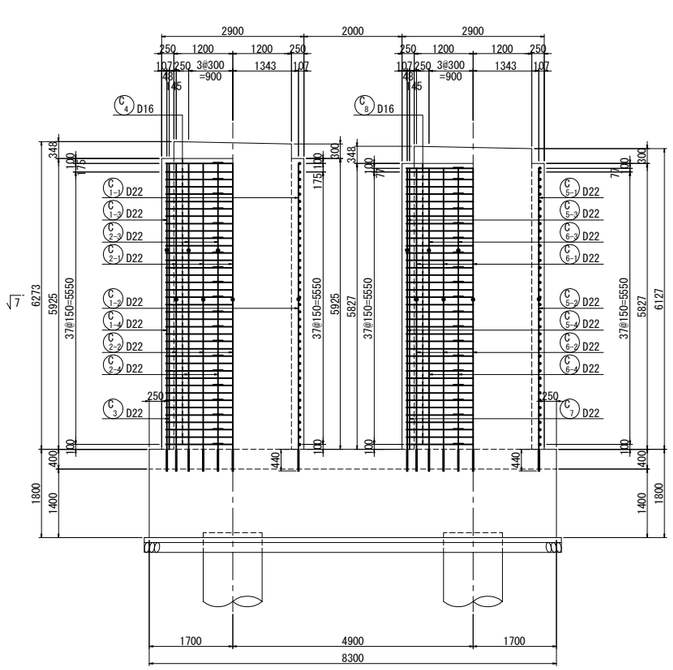
側面図 S=1:125

3－3　4－4



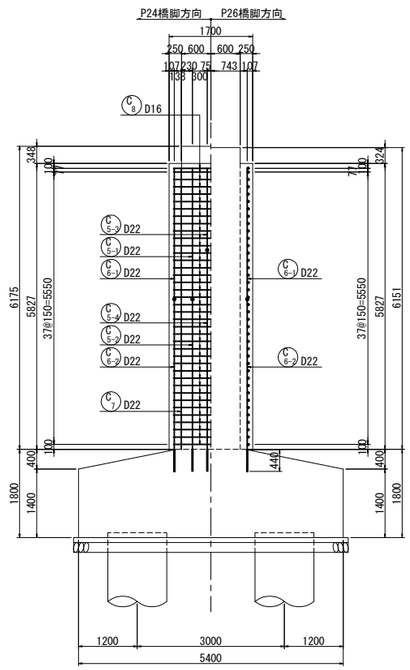
正面図 S=1:125

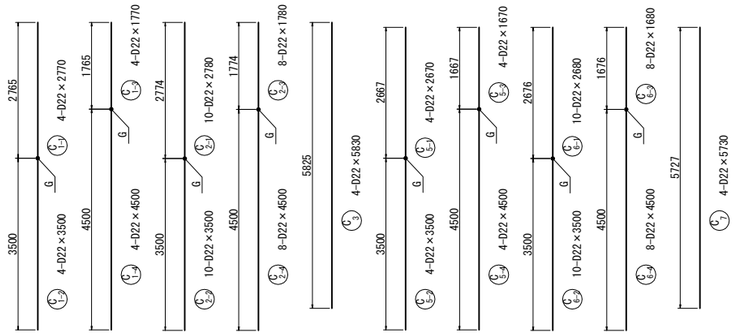
1－1　2－2

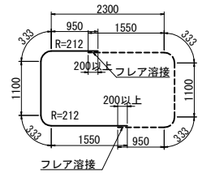


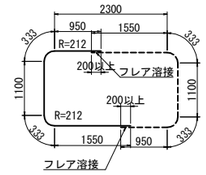
側面図 S=1:125

5－5　6－6



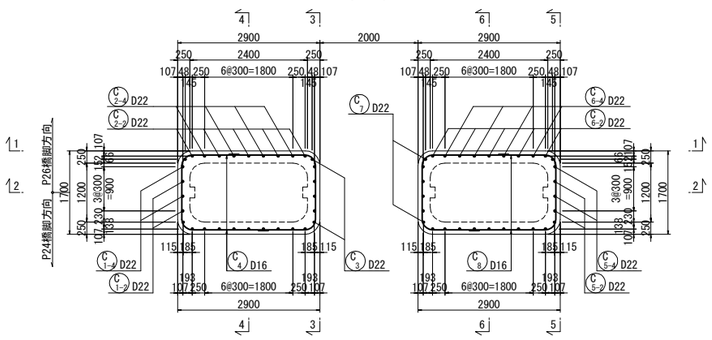




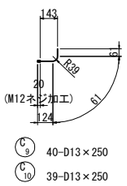


平面図 S=1:125

7－7

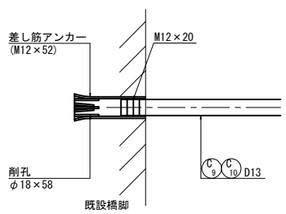


組立筋加工図(参考図) S=1:50

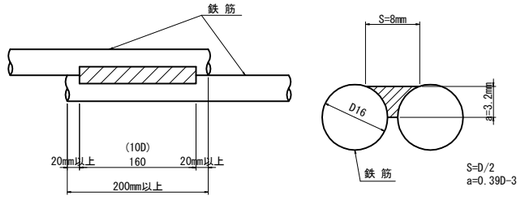


※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



フレア溶接詳細図



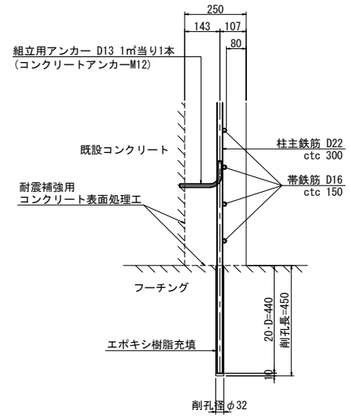
鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2770	4	3.04	8.42	34		
C 1-2	D22	3500	4	3.04	10.6	42	<4>
C 1-3	D22	1770	4	3.04	5.38	22		
C 1-4	D22	4500	4	3.04	13.7	55	<4>
C 2-1	D22	2780	10	3.04	8.45	85		
C 2-2	D22	3500	10	3.04	10.6	106	<10>
C 2-3	D22	1780	8	3.04	5.41	43		
C 2-4	D22	4500	8	3.04	13.7	110	<8>
C 3	D22	5830	4	3.04	17.7	71		
C 4	D16	4270	78	1.56	6.66	519	(78)
C 5-1	D22	2670	4	3.04	8.12	32		
C 5-2	D22	3500	4	3.04	10.6	42	<4>
C 5-3	D22	1670	4	3.04	5.08	20		
C 5-4	D22	4500	4	3.04	13.7	55	<4>
C 6-1	D22	2680	10	3.04	8.15	82		
C 6-2	D22	3500	10	3.04	10.6	106	<10>
C 6-3	D22	1680	8	3.04	5.11	41		
C 6-4	D22	4500	8	3.04	13.7	110	<8>
C 7	D22	5730	4	3.04	17.4	70		
C 8	D16	4270	78	1.56	6.66	519	(78)
					小計	2164	kg

	フレア箇所	圧接箇所	
D22	1126 kg	<52>	SD345
D16	1038 kg	(156)	
合計	2164 kg	(156) <52>	SD345

コンクリート削孔(φ18, L=58)	79	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32, L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D16)	156	箇所	

かぶり詳細図 S=1:25

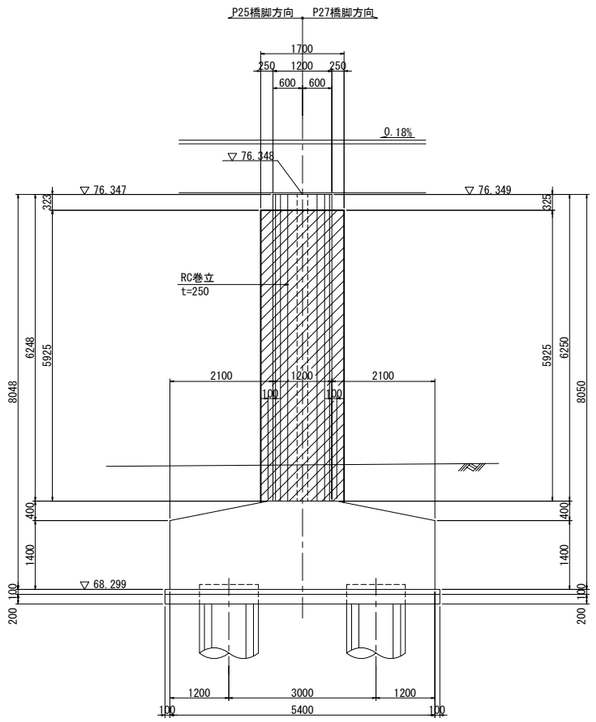


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

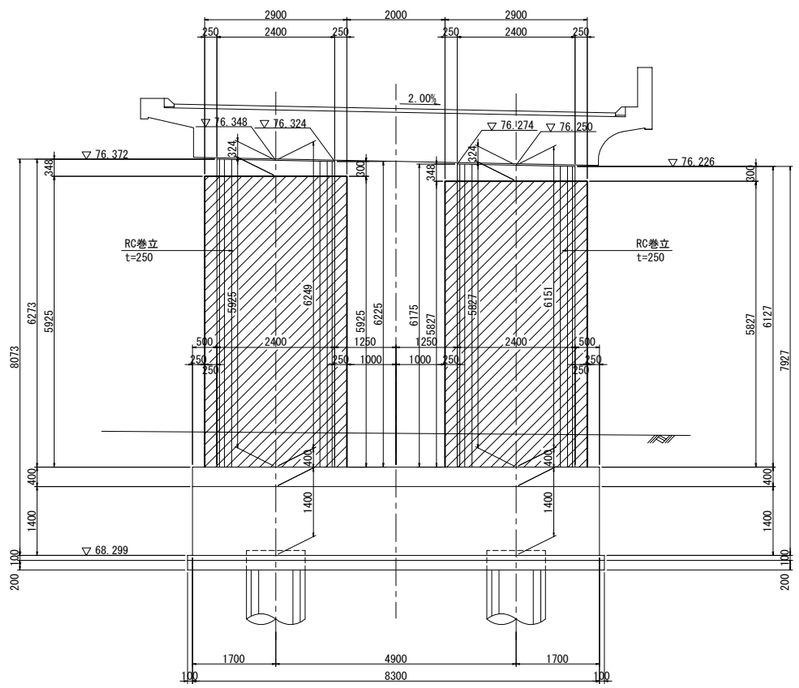
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P25橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P26橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

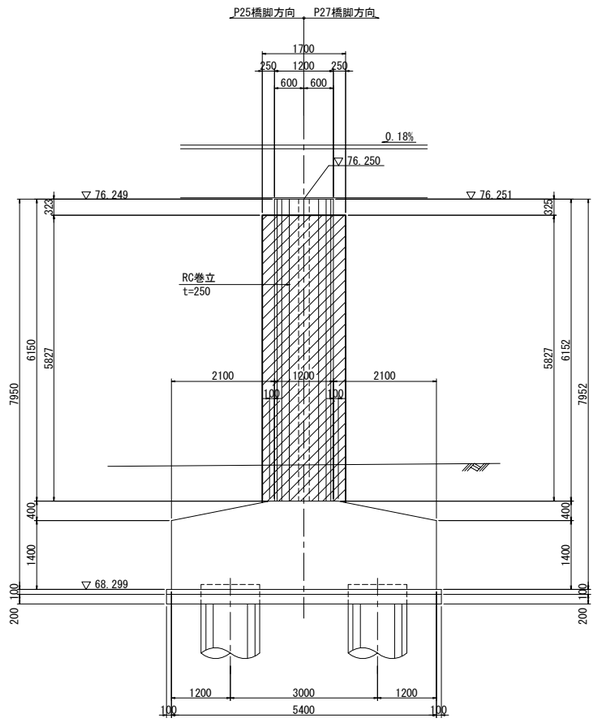
側 面 図 S=1:125



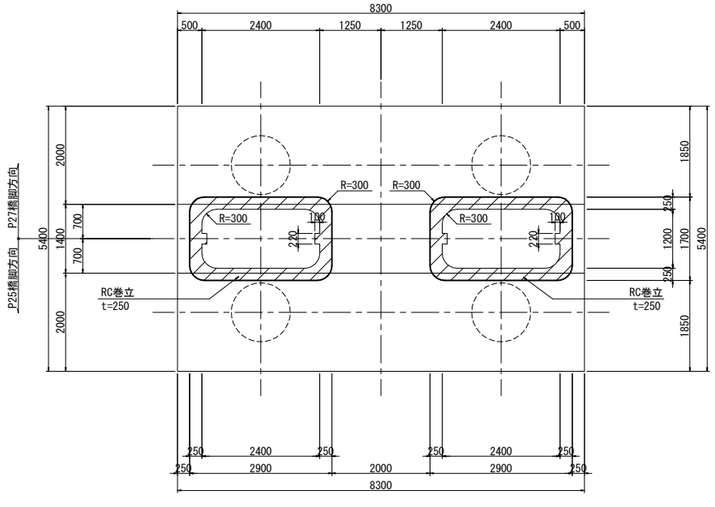
正 面 図 S=1:125



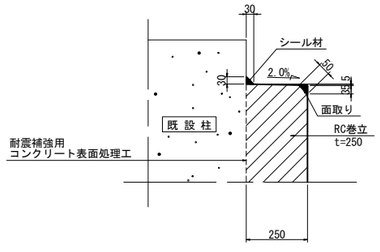
側 面 図 S=1:125



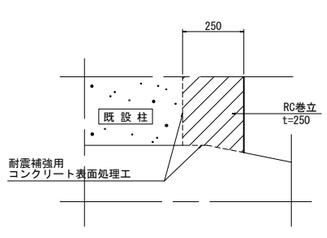
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

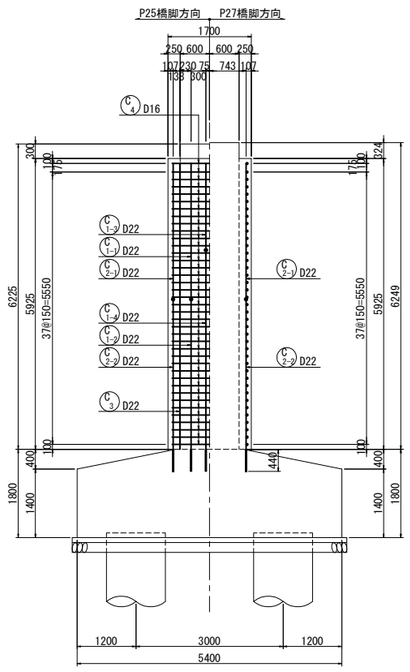
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P26橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P26橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

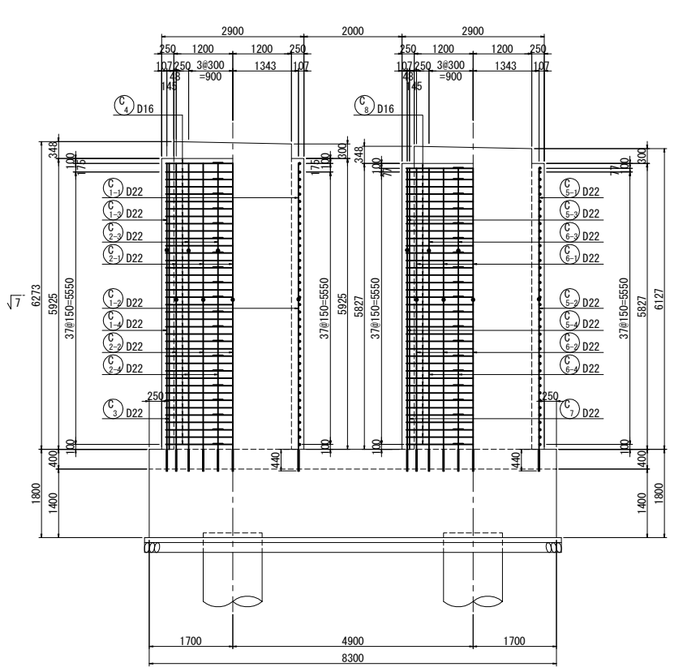
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



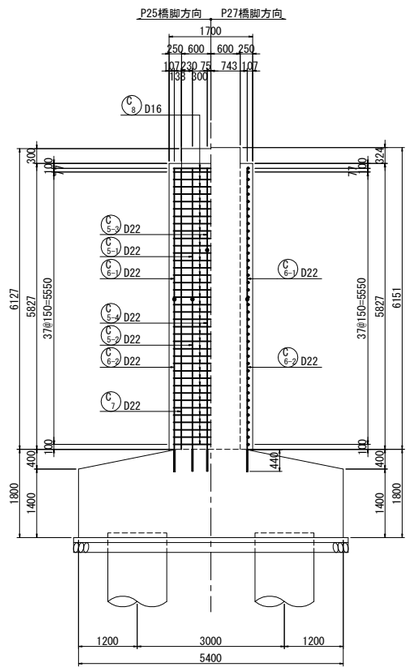
正 面 図 S=1:125

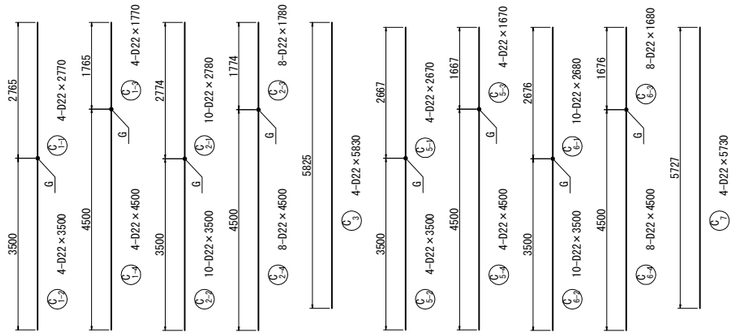
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

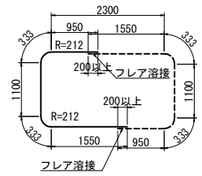


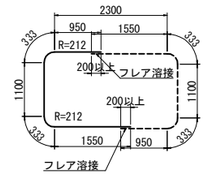
側 面 図 S=1:125

5 － 5　6 － 6









鉄筋表

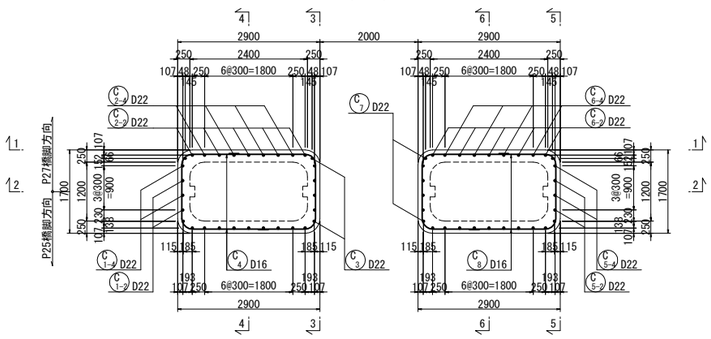
記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	2770	4	3.04	8.42	34	I
C 1-2	D22	3500	4	3.04	10.6	42	↑ <4>
C 1-3	D22	1770	4	3.04	5.38	22	I
C 1-4	D22	4500	4	3.04	13.7	55	↑ <4>
C 2-1	D22	2780	10	3.04	8.45	85	I
C 2-2	D22	3500	10	3.04	10.6	106	↑ <10>
C 2-3	D22	1780	8	3.04	5.41	43	I
C 2-4	D22	4500	8	3.04	13.7	110	↑ <8>
C 3	D22	5830	4	3.04	17.7	71	I
C 4	D16	4270	78	1.56	6.66	519	⊏ (78)
C 5-1	D22	2670	4	3.04	8.12	32	I
C 5-2	D22	3500	4	3.04	10.6	42	↑ <4>
C 5-3	D22	1670	4	3.04	5.08	20	I
C 5-4	D22	4500	4	3.04	13.7	55	↑ <4>
C 6-1	D22	2680	10	3.04	8.15	82	I
C 6-2	D22	3500	10	3.04	10.6	106	↑ <10>
C 6-3	D22	1680	8	3.04	5.11	41	I
C 6-4	D22	4500	8	3.04	13.7	110	↑ <8>
C 7	D22	5730	4	3.04	17.4	70	I
C 8	D16	4270	78	1.56	6.66	519	⊏ (78)
					小計	2164	kg

			フレア箇所	圧接箇所	
D22	1126	kg		<52>	SD345
D16	1038	kg	(156)		
合計	2164	kg	(156)	<52>	SD345

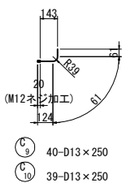
コンクリート削孔（φ18, L=58）	79	箇所	(参考)
コンクリート削孔（φ32, L=450）	52	箇所	
フレア溶接 (D16)	156	箇所	

平 面 図 S=1:125

7 － 7

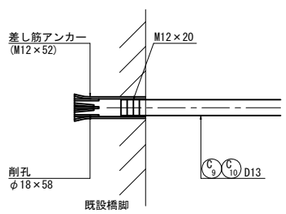


組立筋加工図(参考図) S=1:50

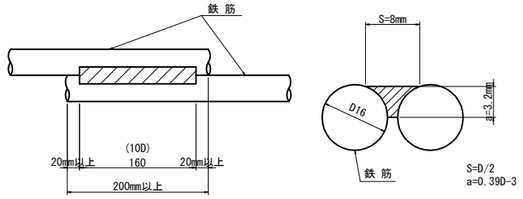


※1本/約1m2程度、設置する。

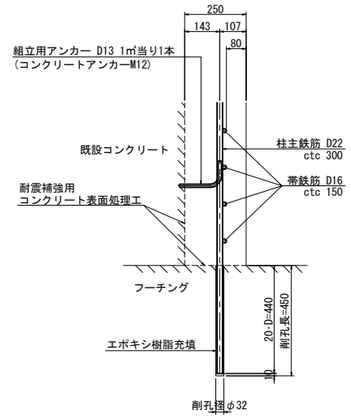
組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図 S=1:25

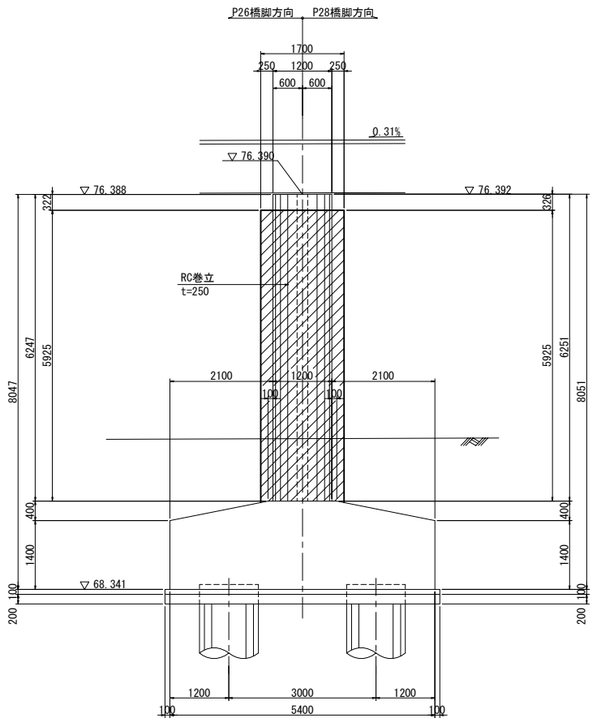


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

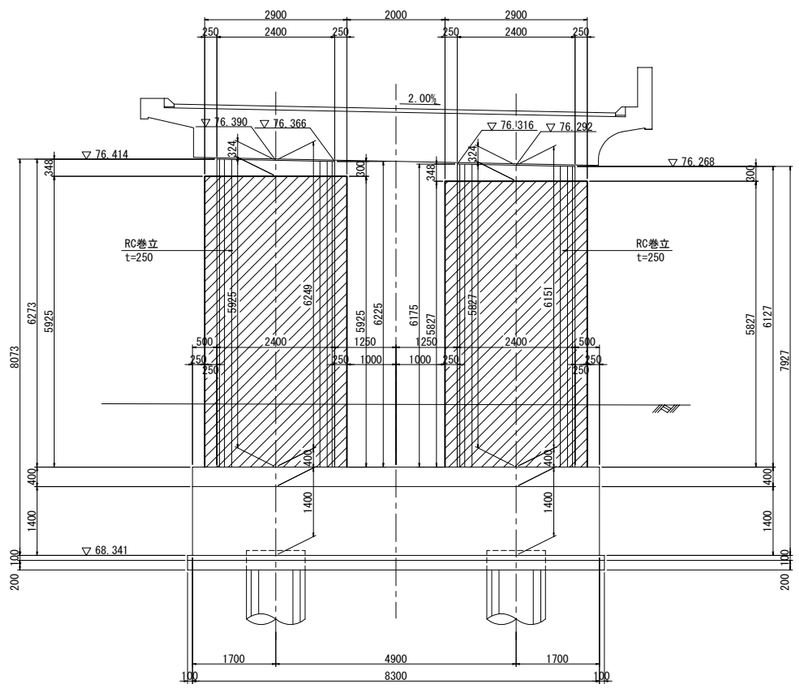
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P26橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P27橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

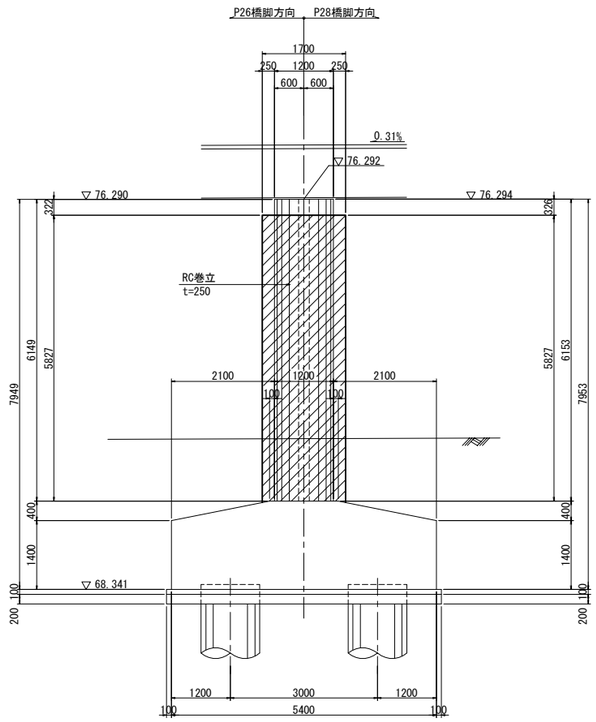
側 面 図 S=1:125



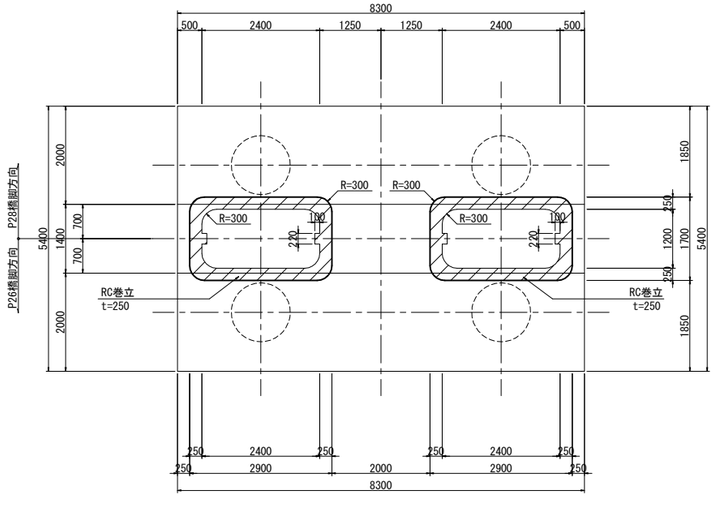
正 面 図 S=1:125



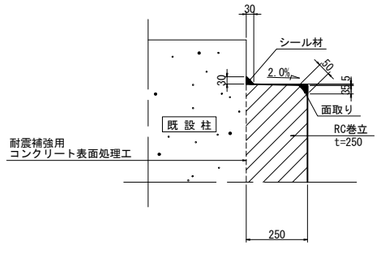
側 面 図 S=1:125



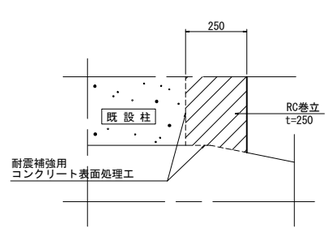
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



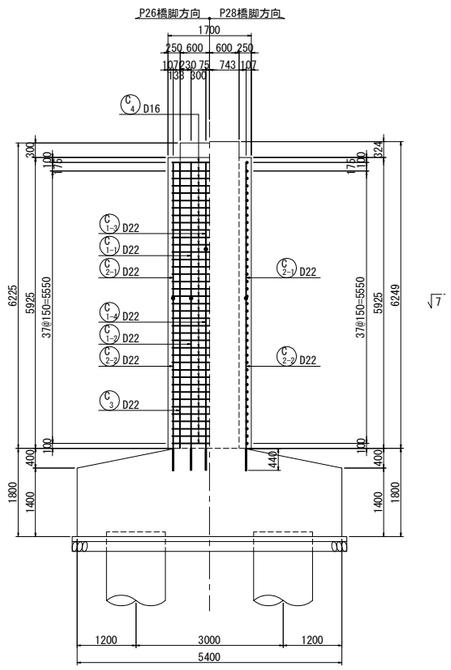
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

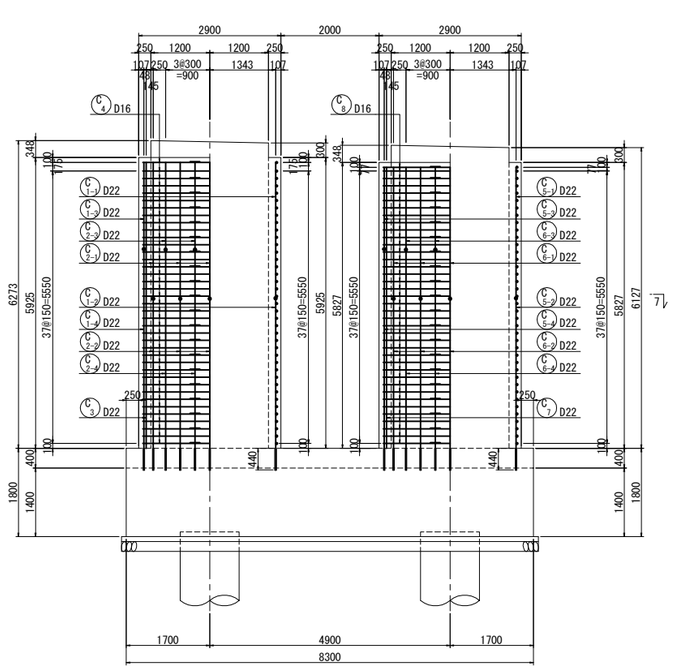
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P27橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P27橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

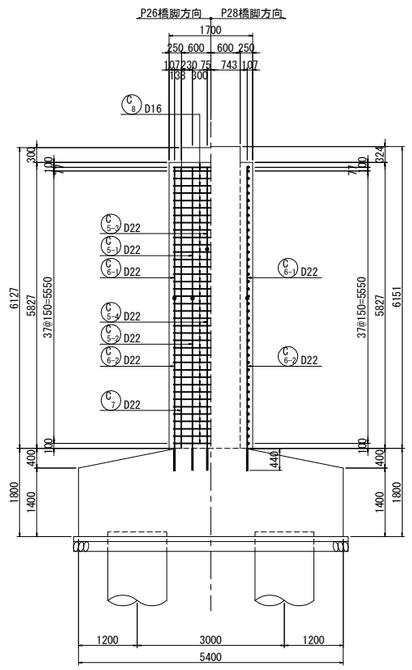
側 面 図 S=1:125
3 - 3　4 - 4

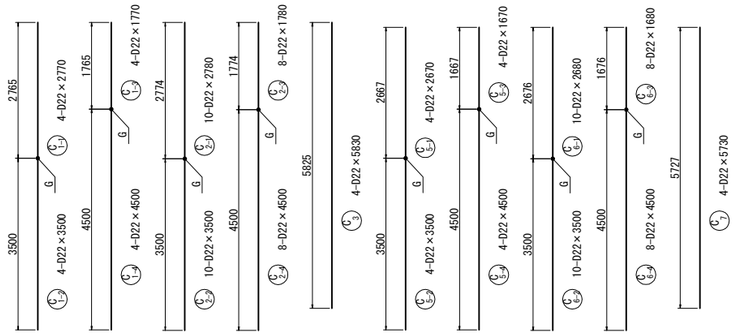


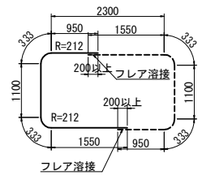
正 面 図 S=1:125
1 - 1　2 - 2　　1 - 1　2 - 2

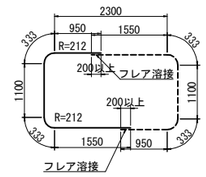


側 面 図 S=1:125
5 - 5　6 - 6

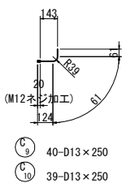






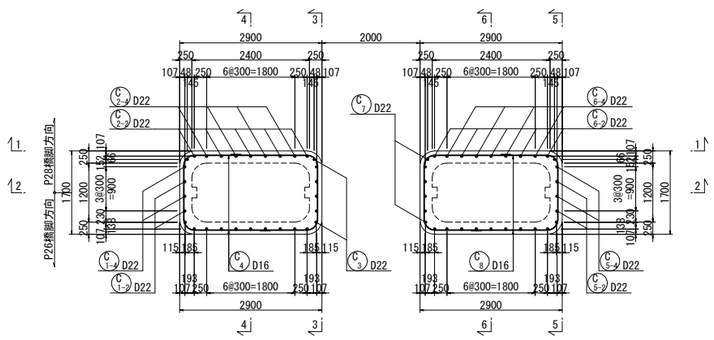


組立筋加工図(参考図)　S=1:50

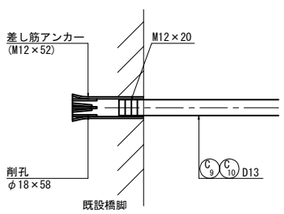


※1本/約1m2程度、設置する。

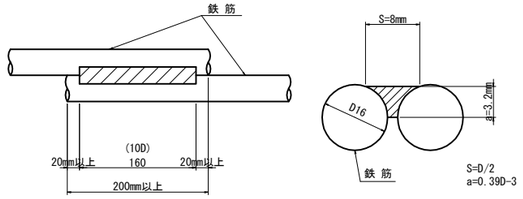
平 面 図 S=1:125
7 - 7



組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



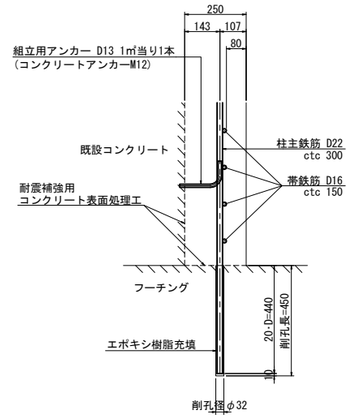
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	2770	4	3.04	8.42	34	I
C 1-2	D22	3500	4	3.04	10.6	42	↑ <4>
C 1-3	D22	1770	4	3.04	5.38	22	I
C 1-4	D22	4500	4	3.04	13.7	55	↑ <4>
C 2-1	D22	2780	10	3.04	8.45	85	I
C 2-2	D22	3500	10	3.04	10.6	106	↑ <10>
C 2-3	D22	1780	8	3.04	5.41	43	I
C 2-4	D22	4500	8	3.04	13.7	110	↑ <8>
C 3	D22	5830	4	3.04	17.7	71	I
C 4	D16	4270	78	1.56	6.66	519	⊏ (78)
C 5-1	D22	2670	4	3.04	8.12	32	I
C 5-2	D22	3500	4	3.04	10.6	42	↑ <4>
C 5-3	D22	1670	4	3.04	5.08	20	I
C 5-4	D22	4500	4	3.04	13.7	55	↑ <4>
C 6-1	D22	2680	10	3.04	8.15	82	I
C 6-2	D22	3500	10	3.04	10.6	106	↑ <10>
C 6-3	D22	1680	8	3.04	5.11	41	I
C 6-4	D22	4500	8	3.04	13.7	110	↑ <8>
C 7	D22	5730	4	3.04	17.4	70	I
C 8	D16	4270	78	1.56	6.66	519	⊏ (78)
					小計	2164	kg

	フレア箇所	圧接箇所	
D22	1126 kg	<52>	SD345
D16	1038 kg	(156)	
合計	2164 kg	(156) <52>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	79	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D16)	156	箇所	

かぶり詳細図　S=1:25

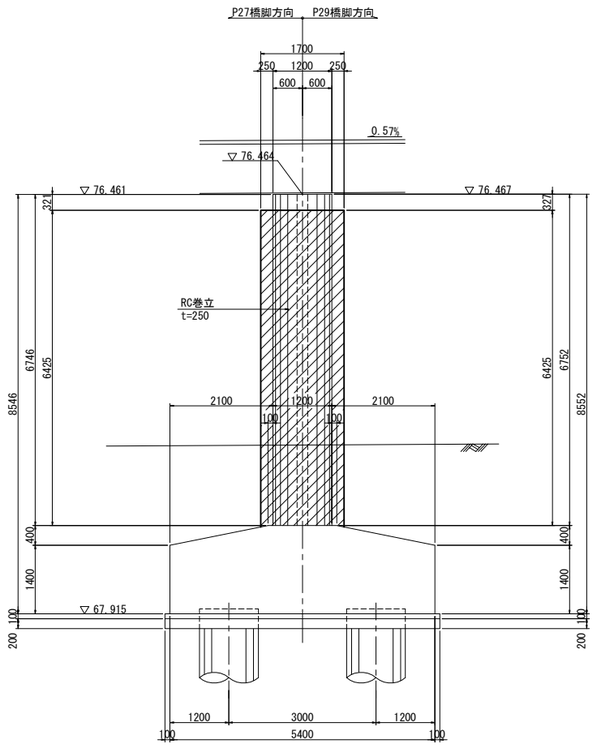


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

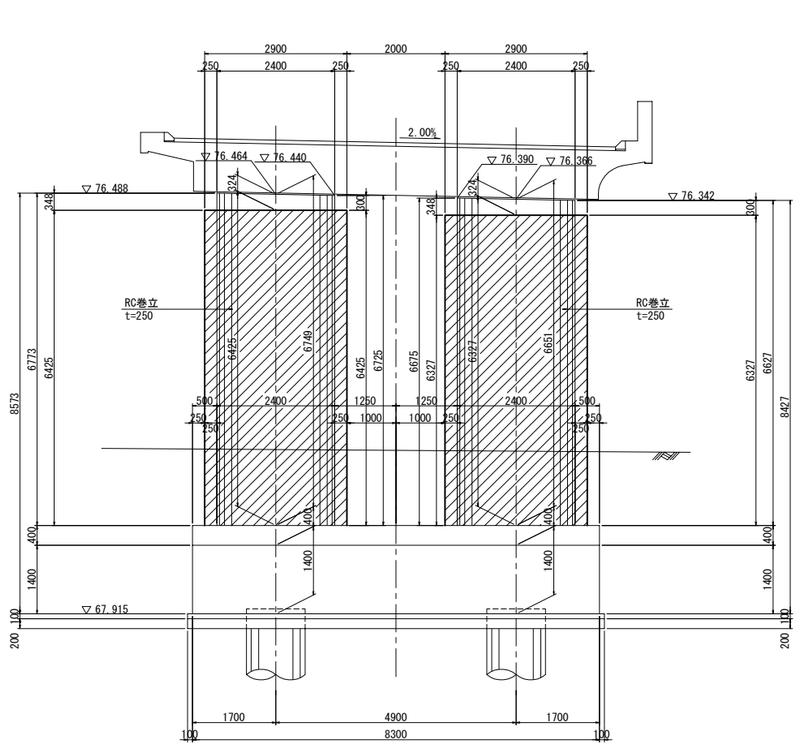
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P27橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P28橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

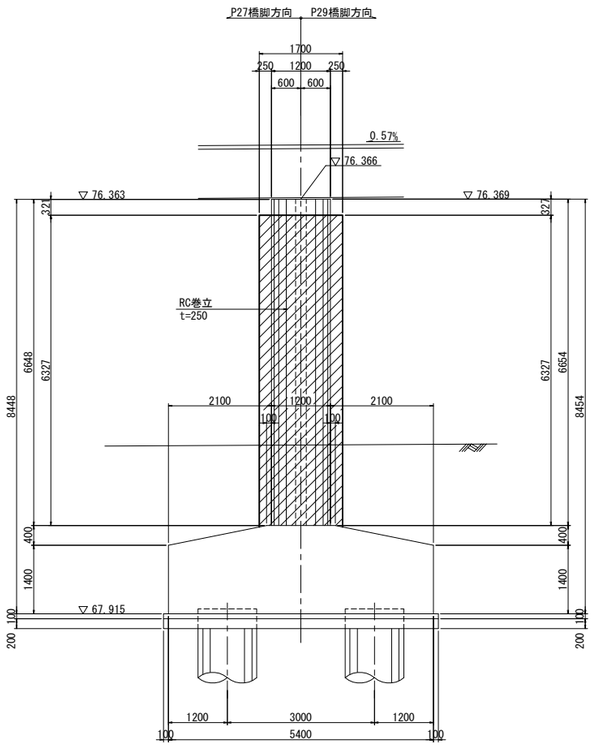
側 面 図 S=1:125



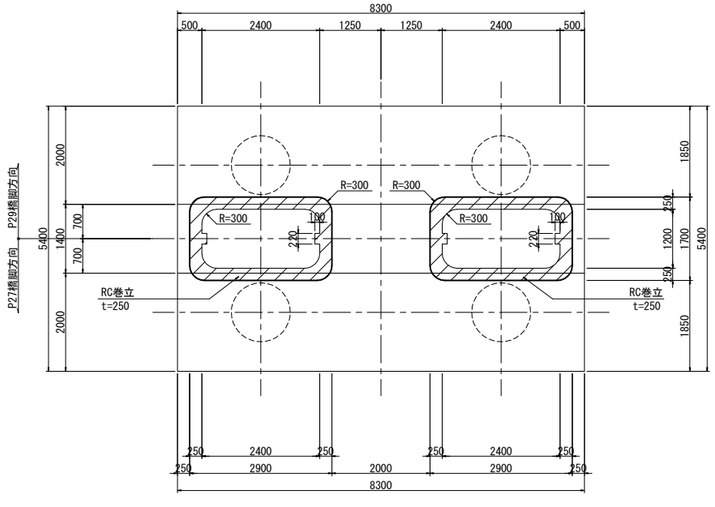
正 面 図 S=1:125



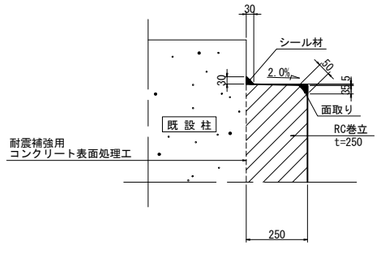
側 面 図 S=1:125



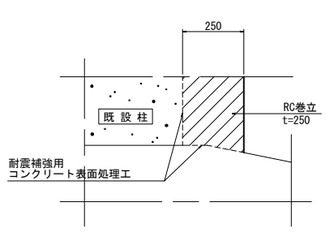
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



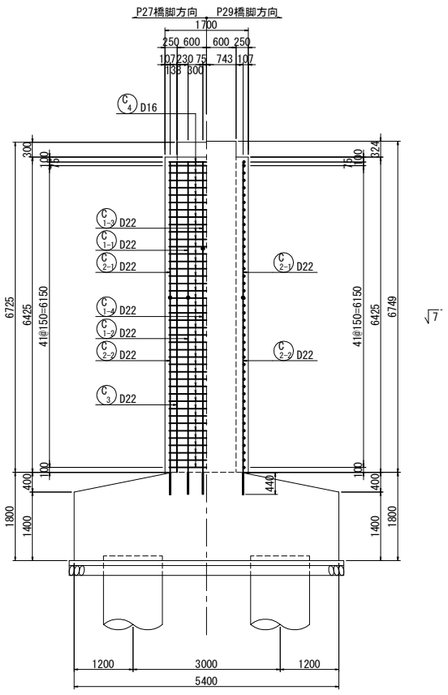
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

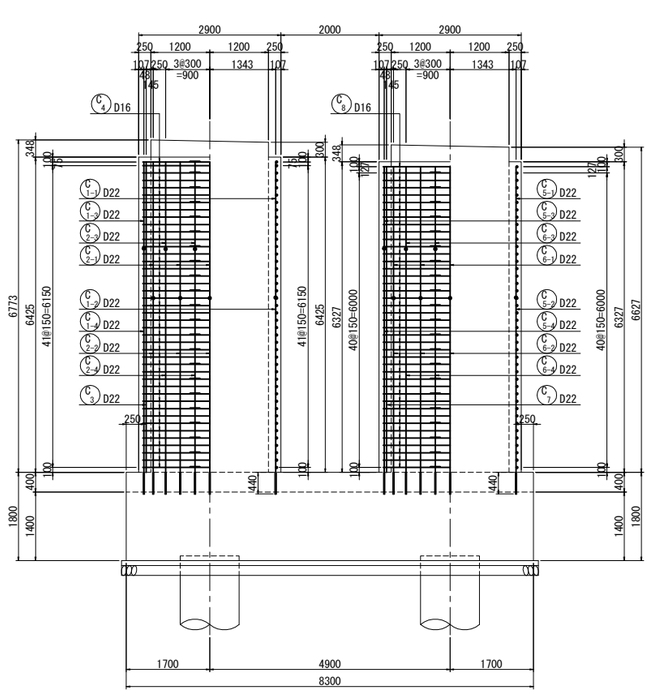
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P28橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P28橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

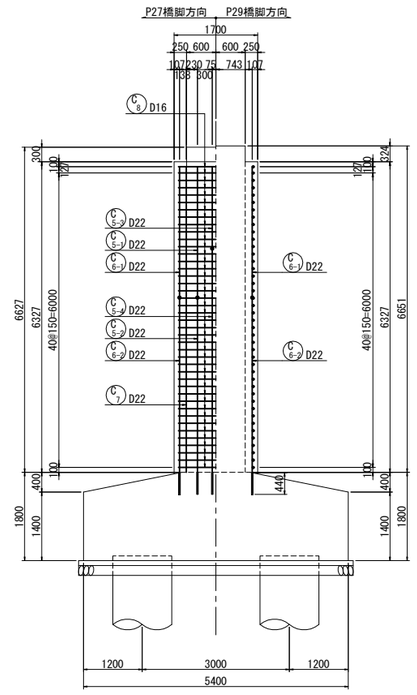
側 面 図 S=1:125
3 - 3　4 - 4

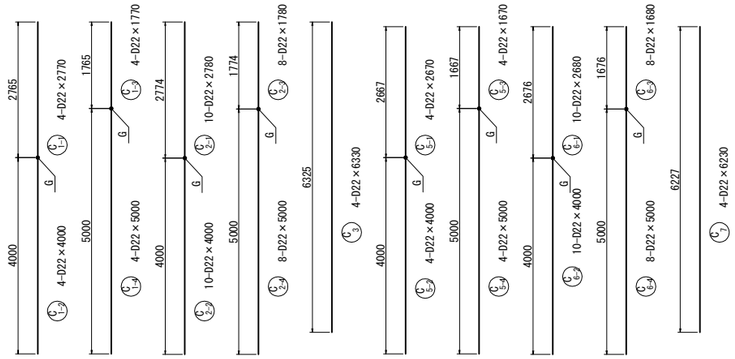


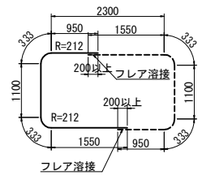
正 面 図 S=1:125
1 - 1　2 - 2　　1 - 1　2 - 2

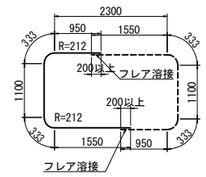


側 面 図 S=1:125
5 - 5　6 - 6







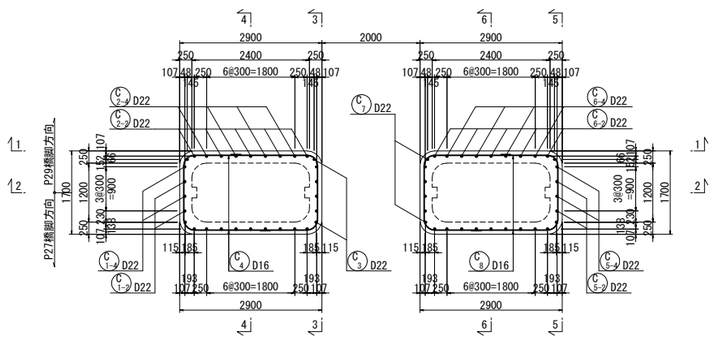


鉄筋表

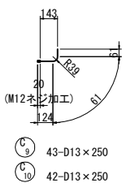
記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	2770	4	3.04	8.42	34	
C 1-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	<4>
C 1-3	D22	1770	4	3.04	5.38	22	
C 1-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 2-1	D22	2780	10	3.04	8.45	85	
C 2-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	<10>
C 2-3	D22	1780	8	3.04	5.41	43	
C 2-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	<8>
C 3	D22	6330	4	3.04	19.2	77	
C 4	D16	4270	86	1.56	6.66	573	(86)
C 5-1	D22	2670	4	3.04	8.12	32	
C 5-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	<4>
C 5-3	D22	1670	4	3.04	5.08	20	
C 5-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 6-1	D22	2680	10	3.04	8.15	82	
C 6-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	<10>
C 6-3	D22	1680	8	3.04	5.11	41	
C 6-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	<8>
C 7	D22	6230	4	3.04	18.9	76	
C 8	D16	4270	84	1.56	6.66	559	(84)
					小計	2352	kg

			フレア箇所	圧接箇所		
D22	1220	kg		<52>	SD345	
D16	1132	kg	(170)			
合計	2352	kg	(170)	<52>	SD345	
コンクリート削孔(φ18, L=58)				85	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32, L=450)				52	箇所	
フレア溶接(D16)				170	箇所	

平 面 図 S=1:125
7 - 7

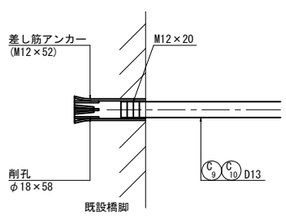


組立筋加工図(参考図) S=1:50

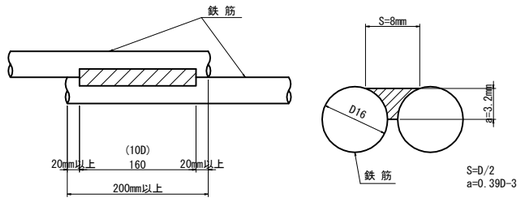


※1本/約1m2程度、設置する。

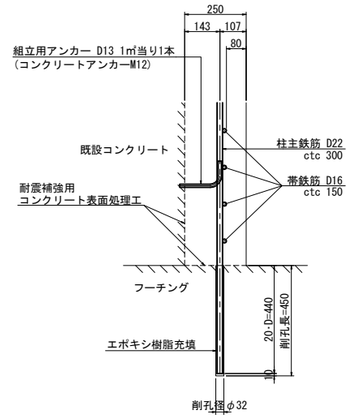
組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図 S=1:25

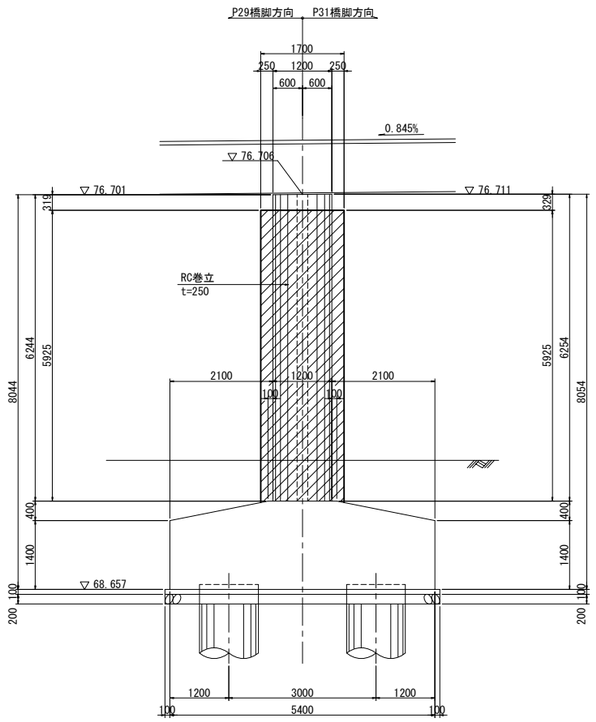


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

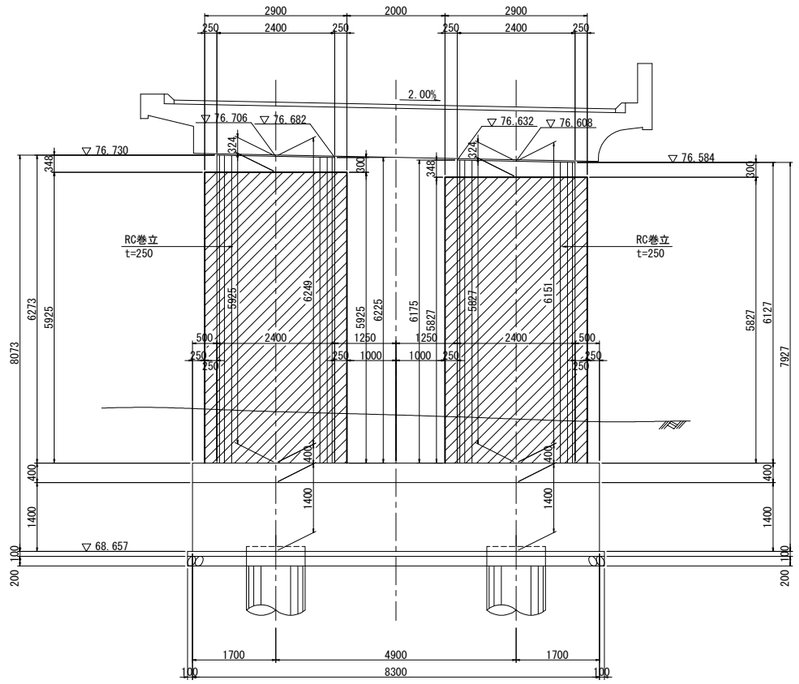
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P28橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P30橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

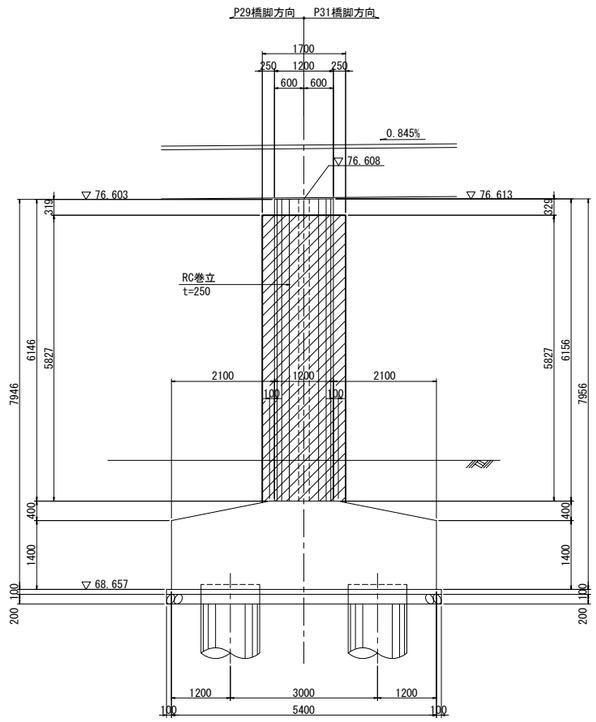
側 面 図 S=1:125



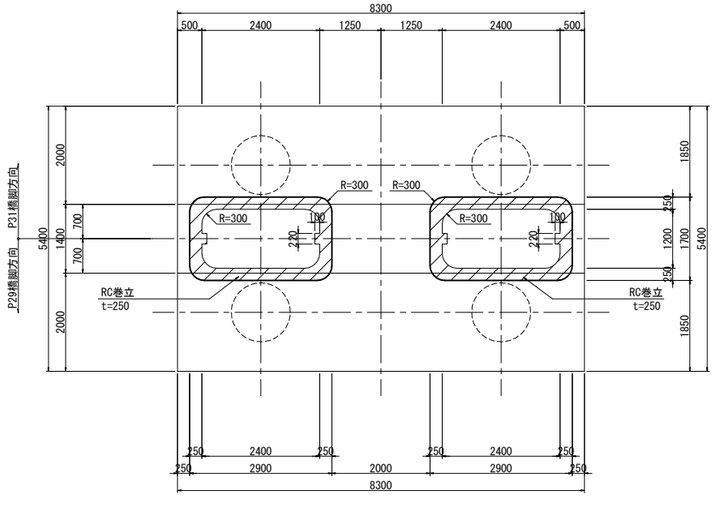
正 面 図 S=1:125



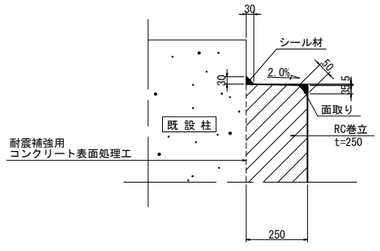
側 面 図 S=1:125



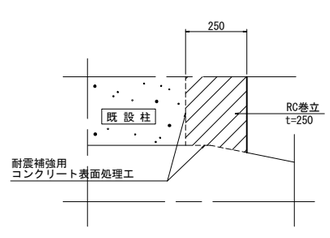
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



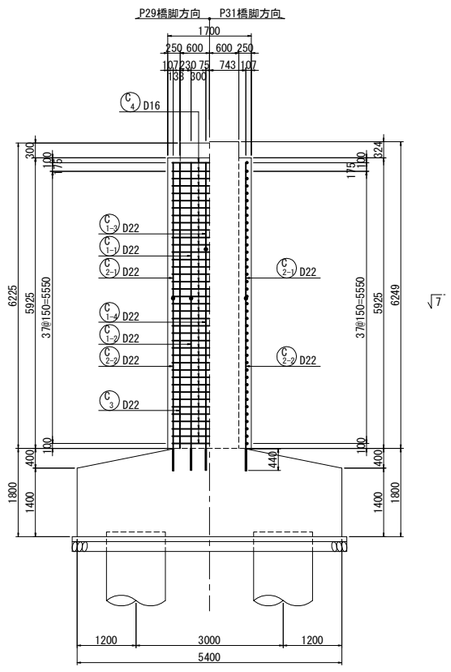
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

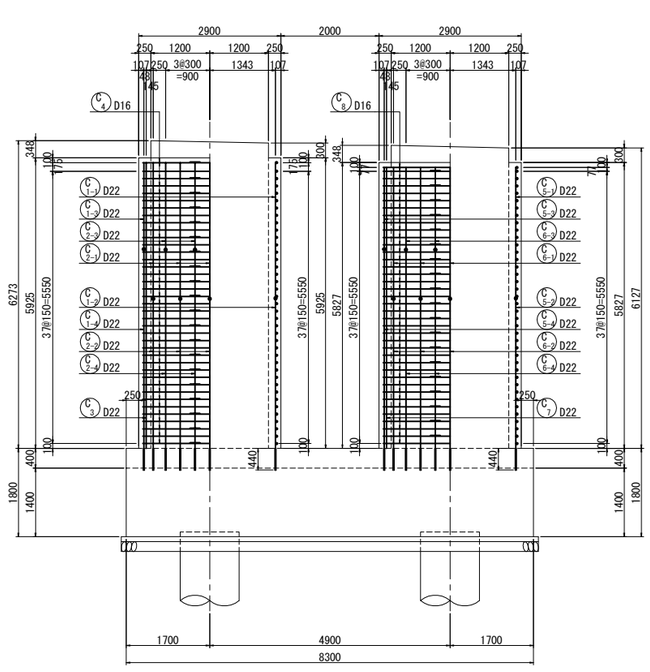
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P30橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P30橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

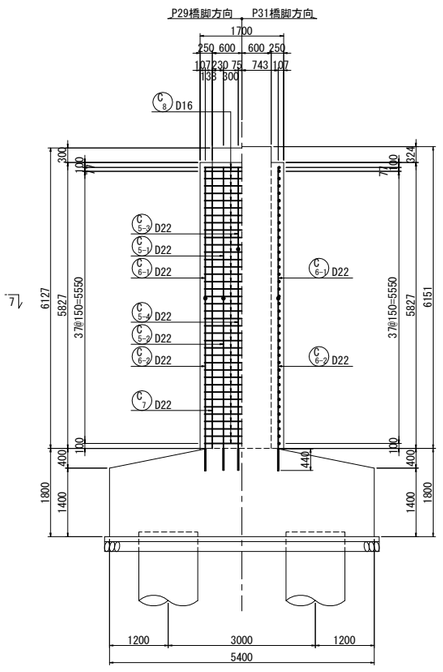
側面図 S=1:125
3－3　4－4

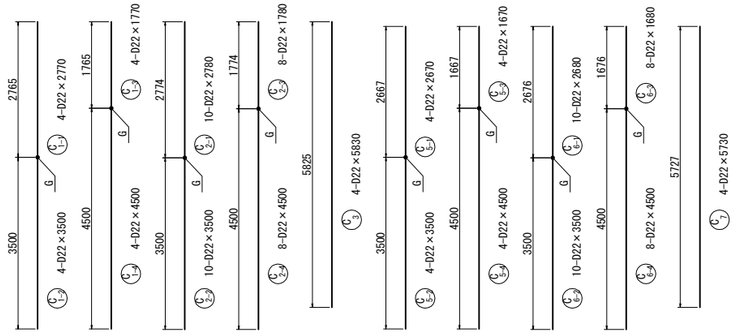


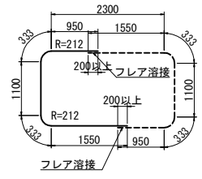
正面図 S=1:125
1－1　2－2　　1－1　2－2

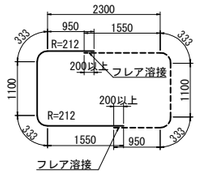


側面図 S=1:125
5－5　6－6

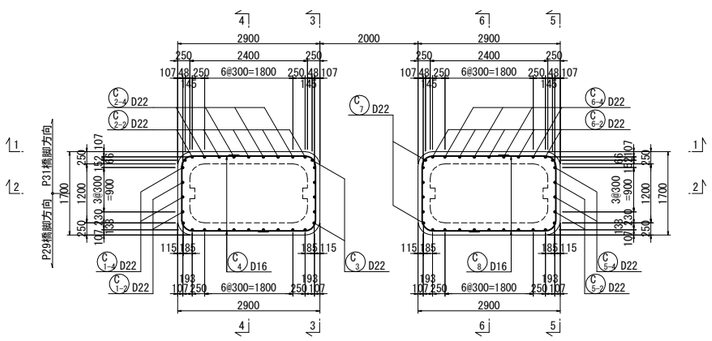




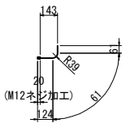




平面図 S=1:125
7－7

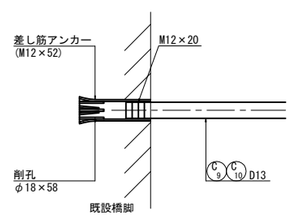


組立筋加工図(参考図) S=1:50

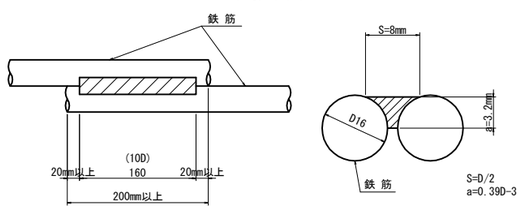


※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



フレア溶接詳細図

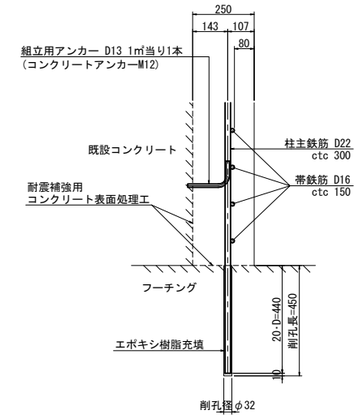


鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2770	4	3.04	8.42	34	I
C 1-2	D22	3500	4	3.04	10.6	42	↑ <4>
C 1-3	D22	1770	4	3.04	5.38	22	I
C 1-4	D22	4500	4	3.04	13.7	55	↑ <4>
C 2-1	D22	2780	10	3.04	8.45	85	I
C 2-2	D22	3500	10	3.04	10.6	106	↑ <10>
C 2-3	D22	1780	8	3.04	5.41	43	I
C 2-4	D22	4500	8	3.04	13.7	110	↑ <8>
C 3	D22	5830	4	3.04	17.7	71	I
C 4	D16	4270	78	1.56	6.66	519	⊏ (78)
C 5-1	D22	2670	4	3.04	8.12	32	I
C 5-2	D22	3500	4	3.04	10.6	42	↑ <4>
C 5-3	D22	1670	4	3.04	5.08	20	I
C 5-4	D22	4500	4	3.04	13.7	55	↑ <4>
C 6-1	D22	2680	10	3.04	8.15	82	I
C 6-2	D22	3500	10	3.04	10.6	106	↑ <10>
C 6-3	D22	1680	8	3.04	5.11	41	I
C 6-4	D22	4500	8	3.04	13.7	110	↑ <8>
C 7	D22	5730	4	3.04	17.4	70	I
C 8	D16	4270	78	1.56	6.66	519	⊏ (78)
					小計	2164 kg	

		フレア箇所	圧接箇所		
D22	1126 kg		<52>	SD345	
D16	1038 kg	(156)			
合計	2164 kg	(156)	<52>	SD345	
コンクリート削孔(φ18, L=58)			79	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32, L=450)			52	箇所	
フレア溶接(D16)			156	箇所	

かぶり詳細図 S=1:25

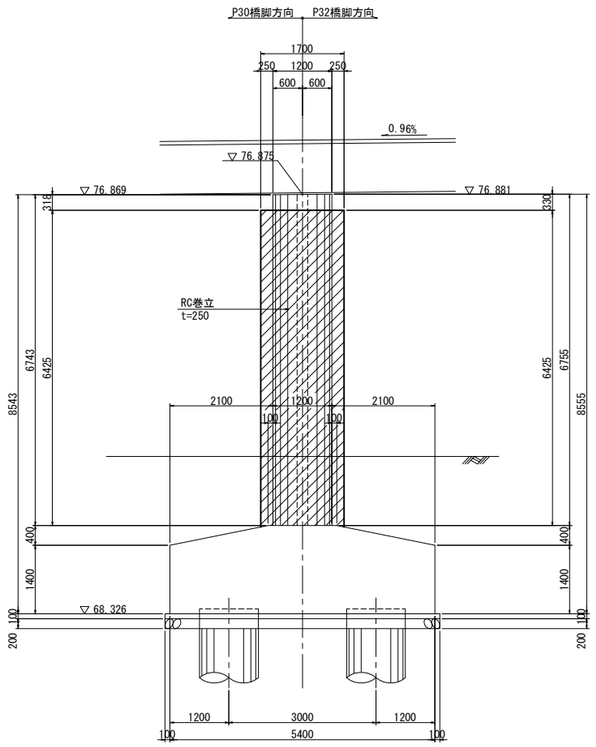


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

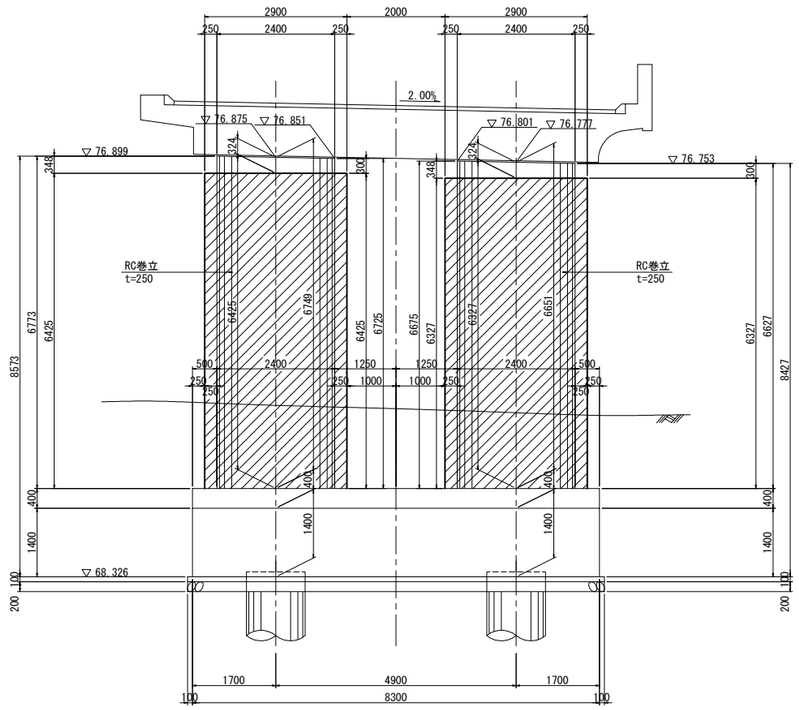
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P30橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P31橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

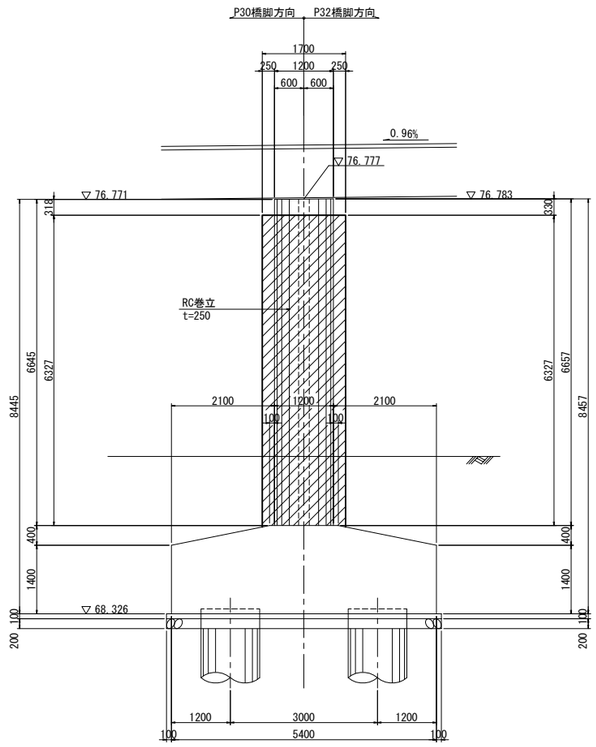
側 面 図 S=1:125



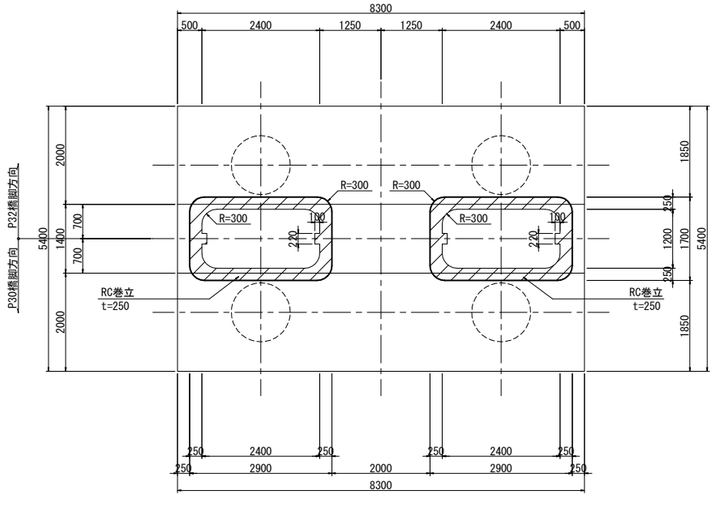
正 面 図 S=1:125



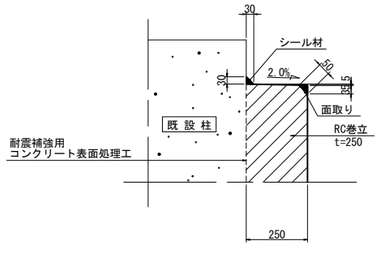
側 面 図 S=1:125



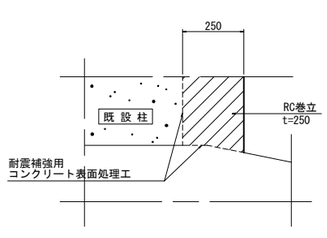
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



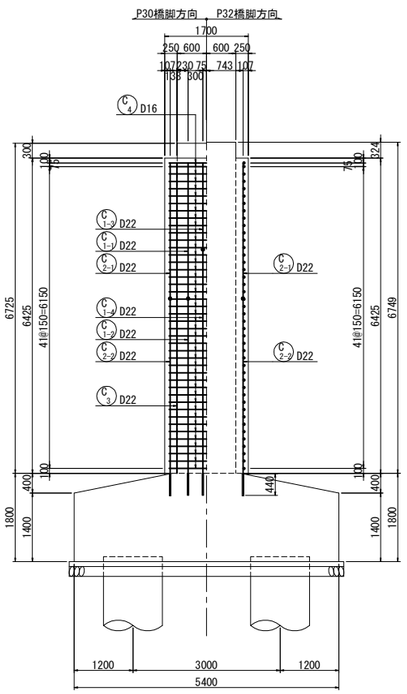
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

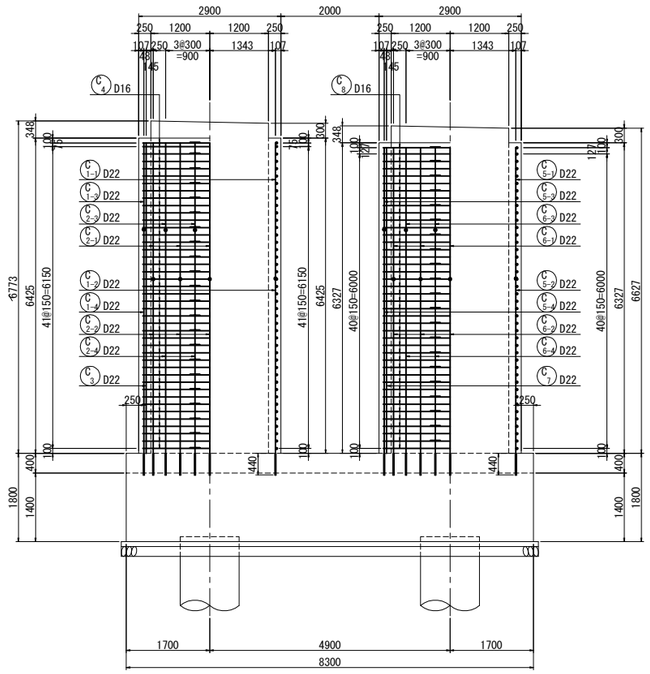
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P31橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P31橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

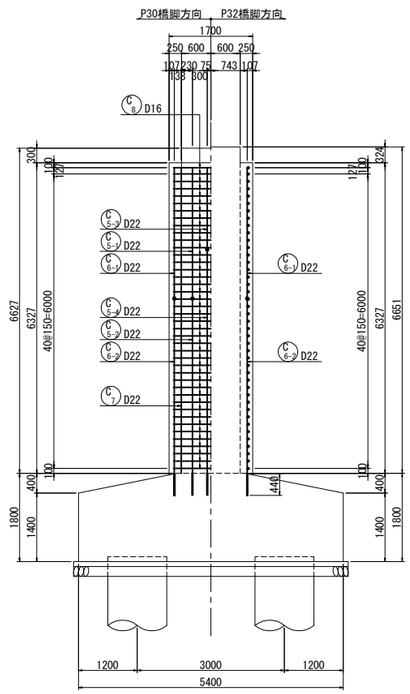
側面図 S=1:125
3－3　4－4

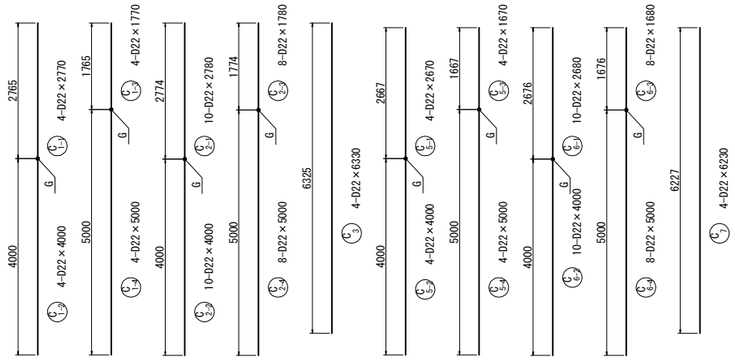


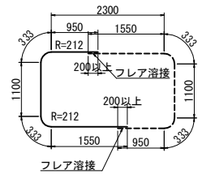
正面図 S=1:125
1－1　2－2　　1－1　2－2

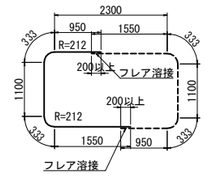


側面図 S=1:125
5－5　6－6









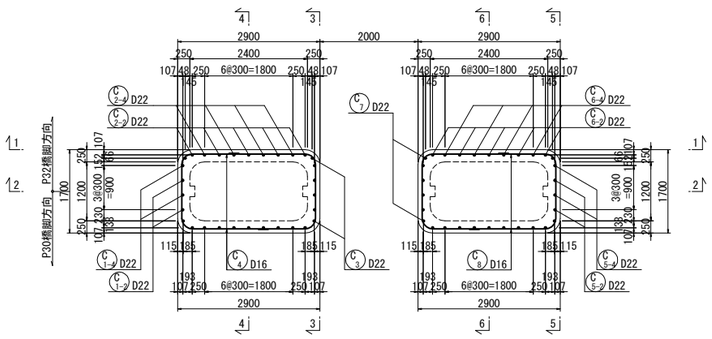
鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2770	4	3.04	8.42	34	
C 1-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	<4>
C 1-3	D22	1770	4	3.04	5.38	22	
C 1-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 2-1	D22	2780	10	3.04	8.45	85	
C 2-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	<10>
C 2-3	D22	1780	8	3.04	5.41	43	
C 2-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	<8>
C 3	D22	6330	4	3.04	19.2	77	
C 4	D16	4270	86	1.56	6.66	573	(86)
C 5-1	D22	2670	4	3.04	8.12	32	
C 5-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	<4>
C 5-3	D22	1670	4	3.04	5.08	20	
C 5-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 6-1	D22	2680	10	3.04	8.15	82	
C 6-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	<10>
C 6-3	D22	1680	8	3.04	5.11	41	
C 6-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	<8>
C 7	D22	6230	4	3.04	18.9	76	
C 8	D16	4270	84	1.56	6.66	559	(84)
					小計	2352	kg

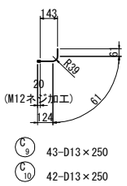
			フレア箇所	圧接箇所	
D22	1220	kg		<52>	SD345
D16	1132	kg	(170)		
合計	2352	kg	(170)	<52>	SD345

コンクリート削孔（φ18, L=58）	85	箇所	(参考)
コンクリート削孔（φ32, L=450）	52	箇所	
フレア溶接(D16)	170	箇所	

平面図 S=1:125
7－7

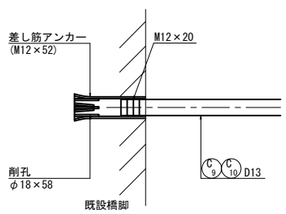


組立筋加工図(参考図) S=1:50

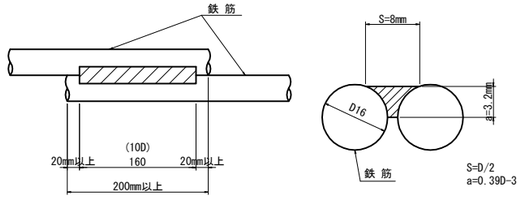


※1本/約1m2程度、設置する。

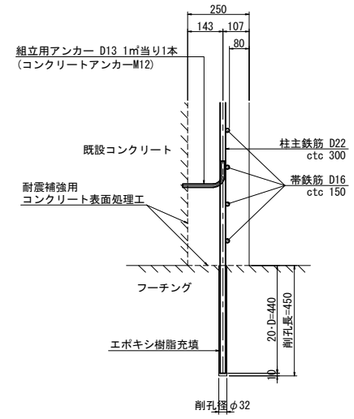
組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図 S=1:25

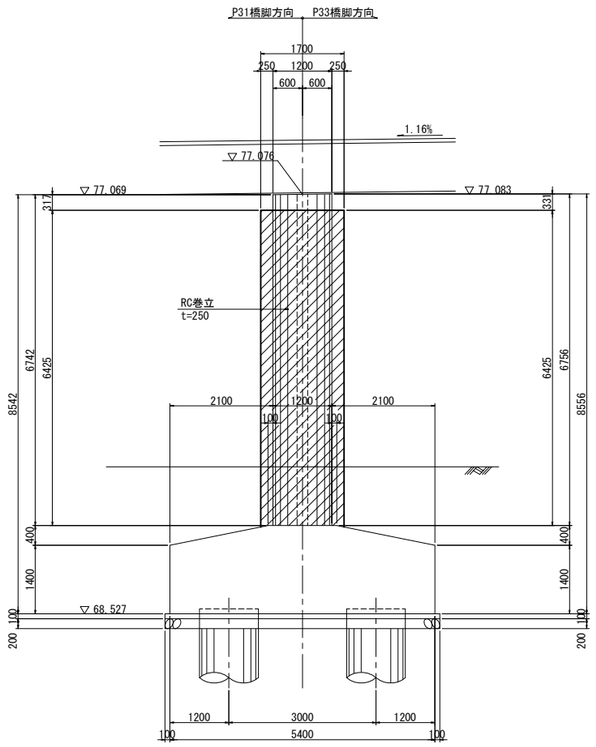


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

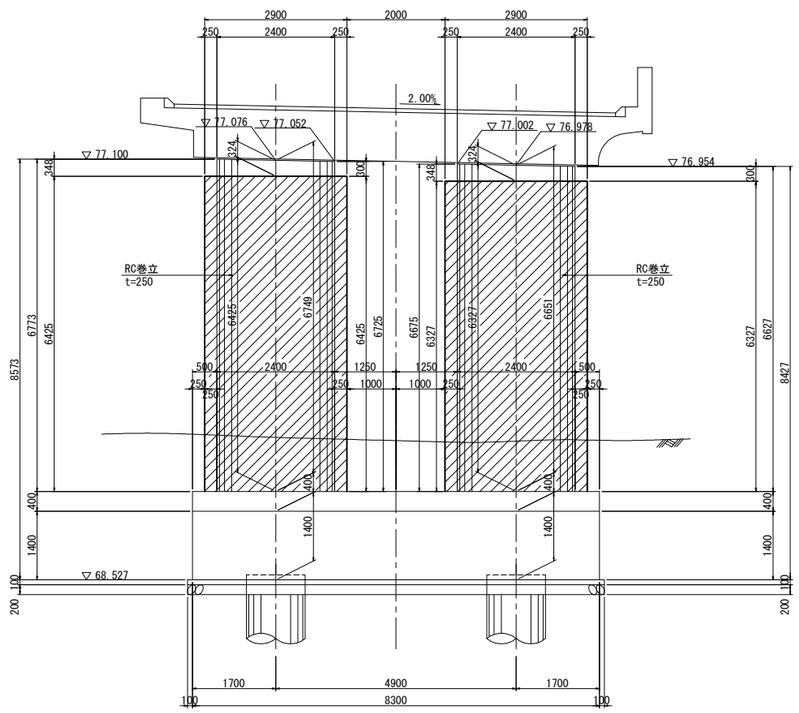
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P31橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P32橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

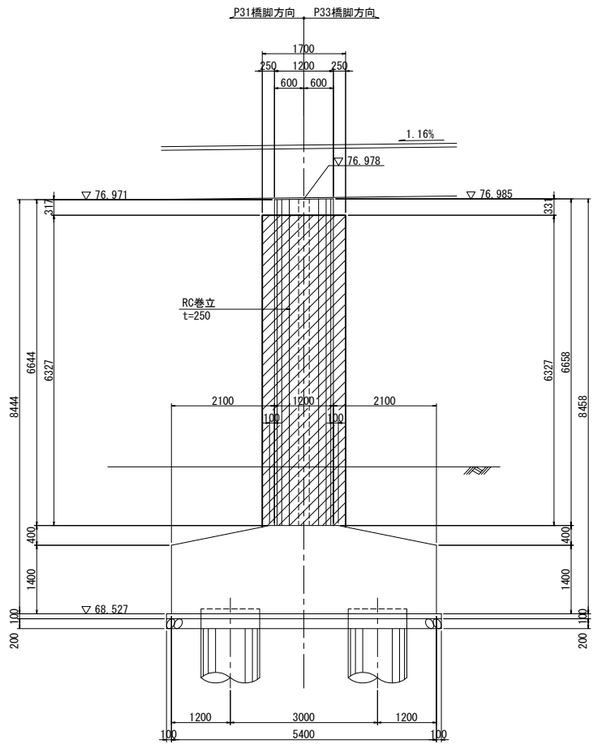
側 面 図 S=1:125



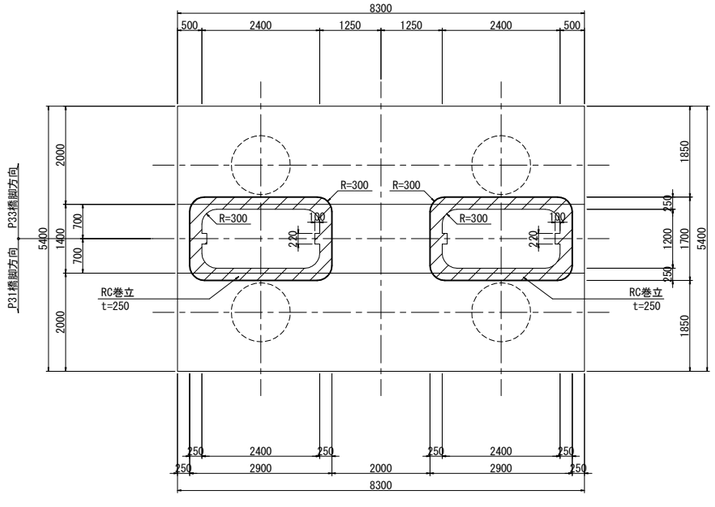
正 面 図 S=1:125



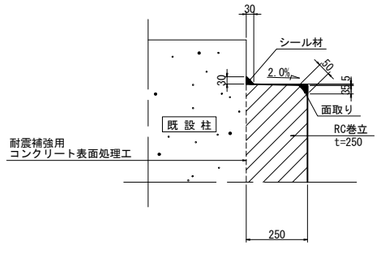
側 面 図 S=1:125



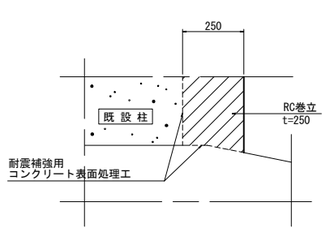
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



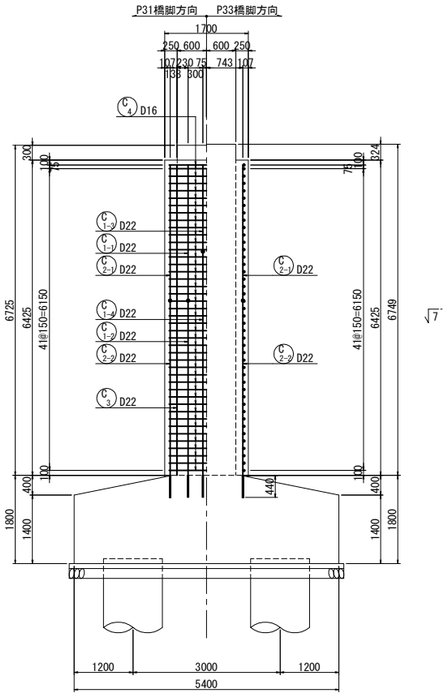
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

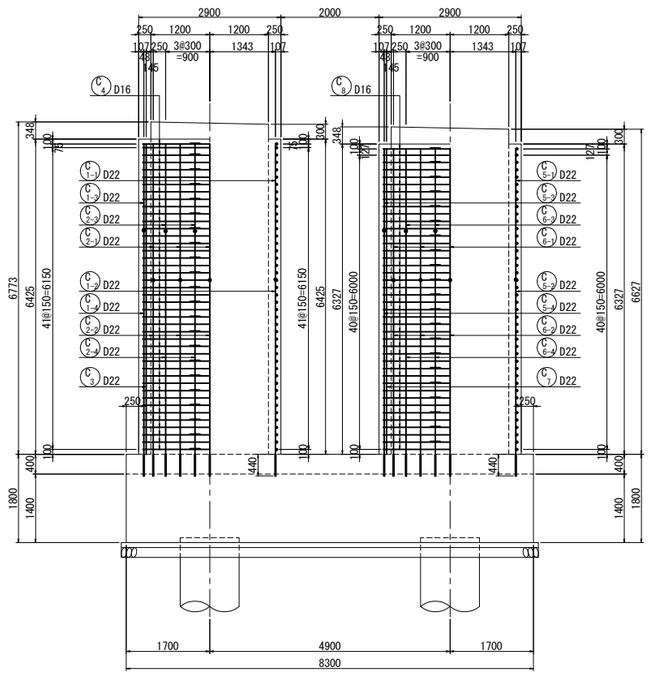
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P32橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P32橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

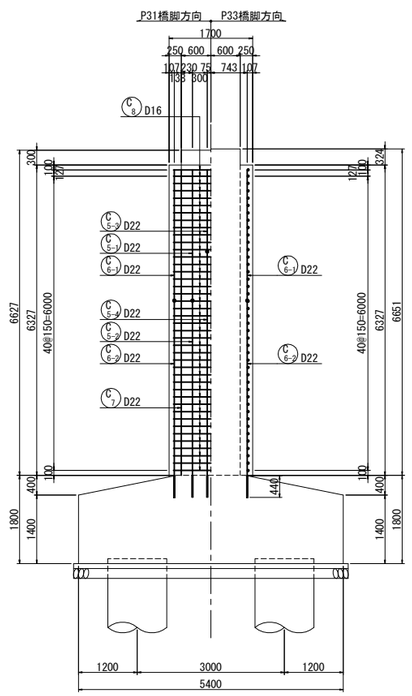
側面図 S=1:125
3－3　4－4

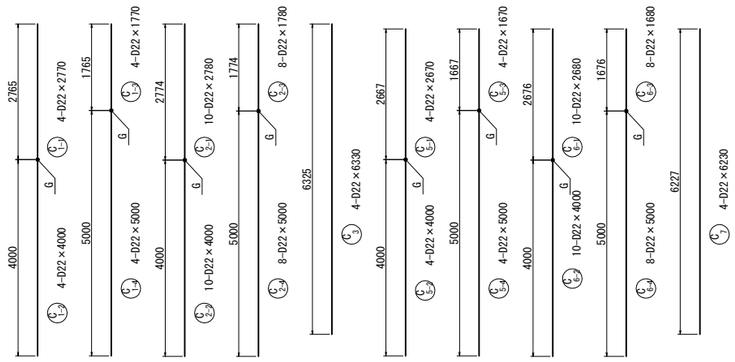


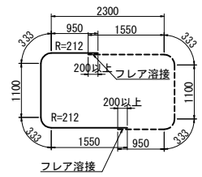
正面図 S=1:125
1－1　2－2

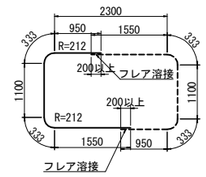


側面図 S=1:125
5－5　6－6









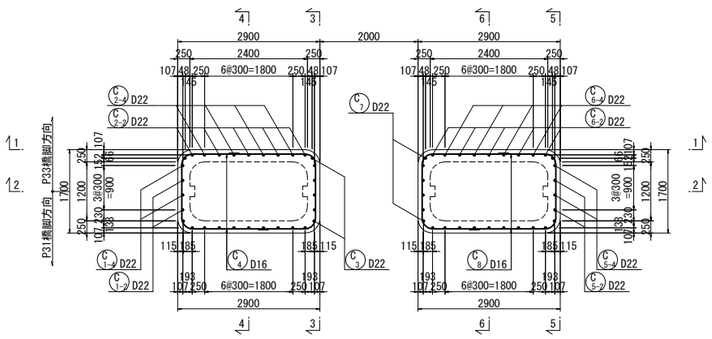
鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2770	4	3.04	8.42	34	I
C 1-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	〈4〉
C 1-3	D22	1770	4	3.04	5.38	22	I
C 1-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	〈4〉
C 2-1	D22	2780	10	3.04	8.45	85	I
C 2-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	〈10〉
C 2-3	D22	1780	8	3.04	5.41	43	I
C 2-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	〈8〉
C 3	D22	6330	4	3.04	19.2	77	I
C 4	D16	4270	86	1.56	6.66	573	(86)
C 5-1	D22	2670	4	3.04	8.12	32	I
C 5-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	〈4〉
C 5-3	D22	1670	4	3.04	5.08	20	I
C 5-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	〈4〉
C 6-1	D22	2680	10	3.04	8.15	82	I
C 6-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	〈10〉
C 6-3	D22	1680	8	3.04	5.11	41	I
C 6-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	〈8〉
C 7	D22	6230	4	3.04	18.9	76	I
C 8	D16	4270	84	1.56	6.66	559	(84)
					小計	2352	kg

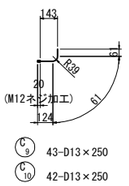
			フレア箇所	圧接箇所	
D22	1220	kg		〈52〉	SD345
D16	1132	kg	(170)		
合計	2352	kg	(170)	〈52〉	SD345

コンクリート削孔(φ18, L=58)	85	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32, L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D16)	170	箇所	

平面図 S=1:125
7－7

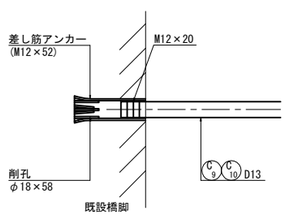


組立筋加工図(参考図) S=1:50

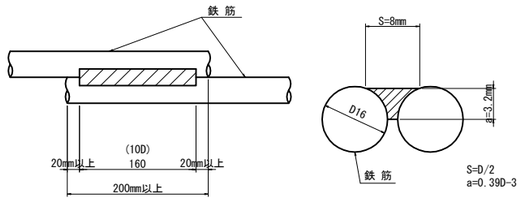


※1本/約1m2程度、設置する。

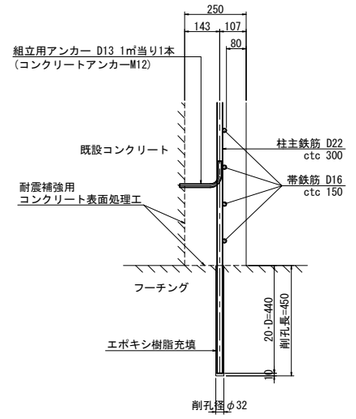
組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図 S=1:25

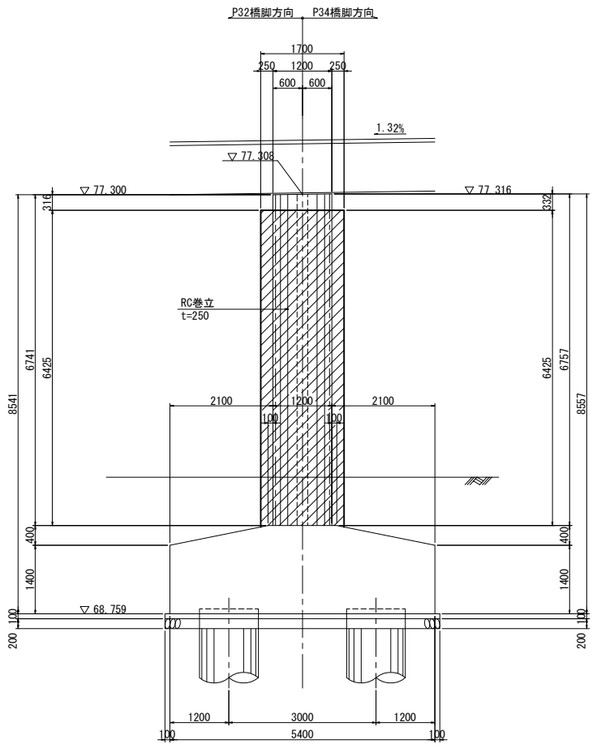


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

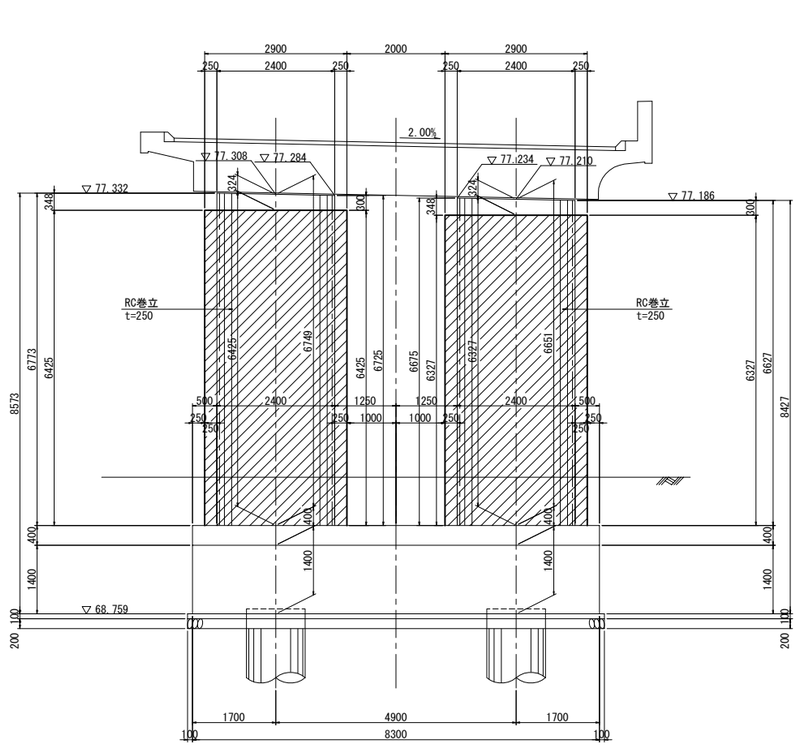
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P32橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P33橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

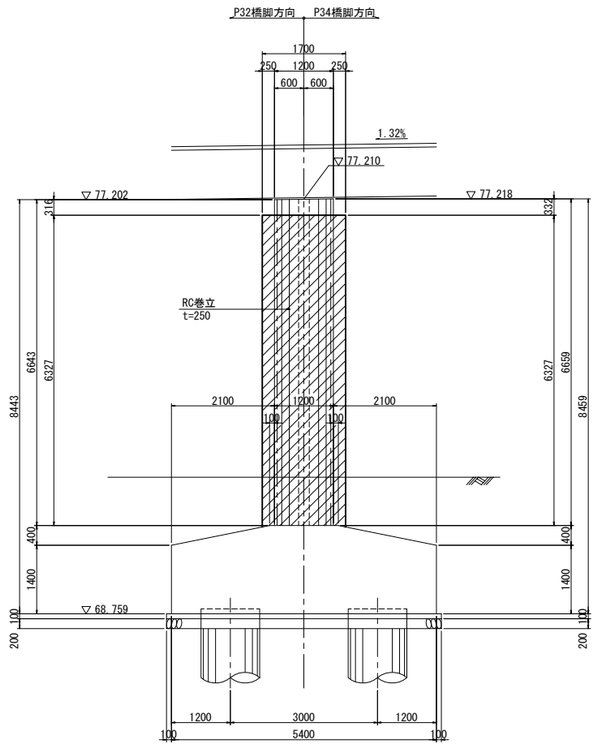
側 面 図 S=1:125



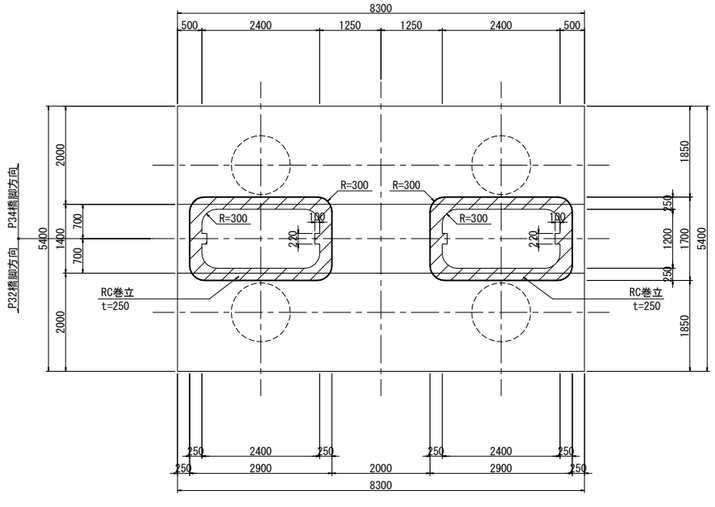
正 面 図 S=1:125



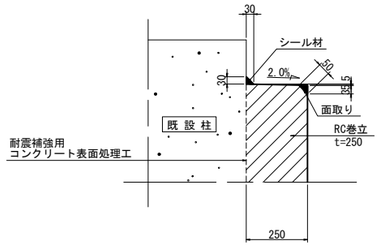
側 面 図 S=1:125



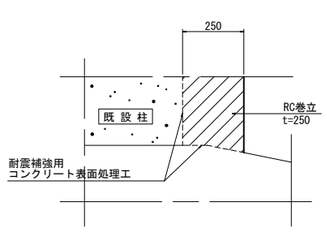
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



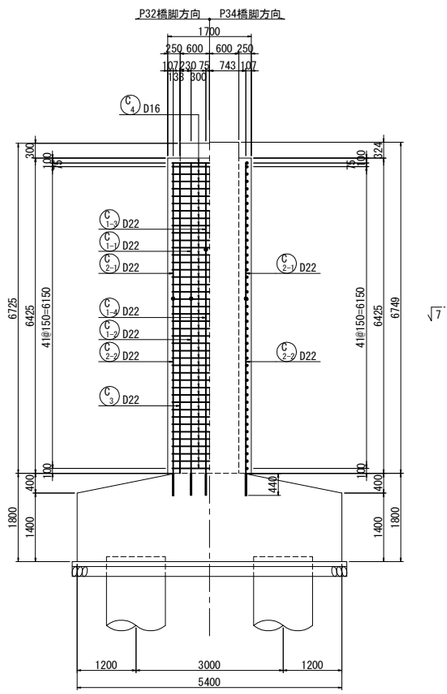
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

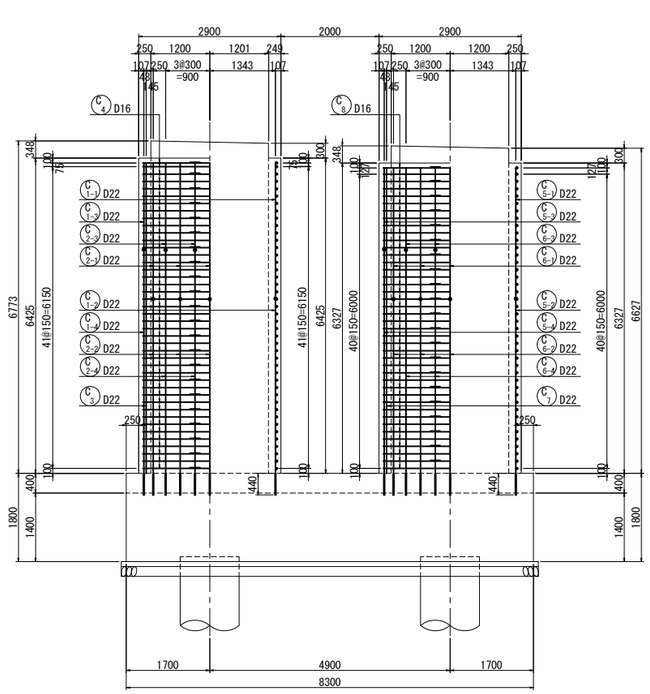
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P33橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P33橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

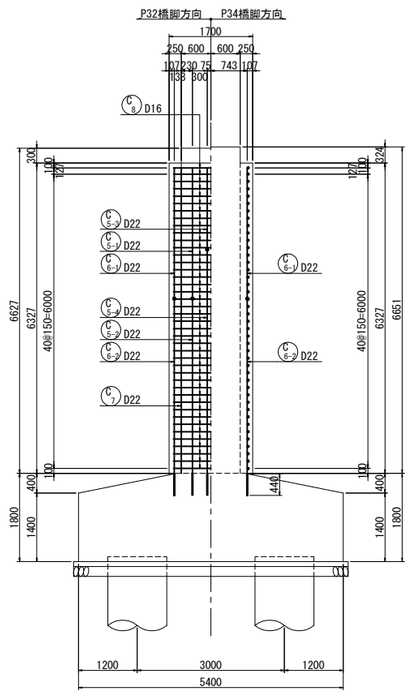
側 面 図 S=1:125
3 － 3　4 － 4

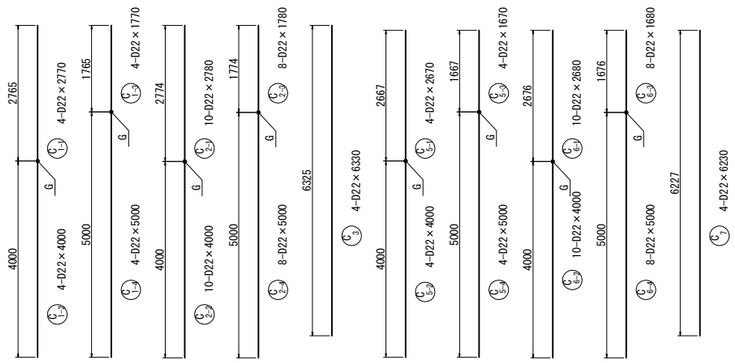


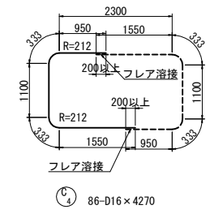
正 面 図 S=1:125
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

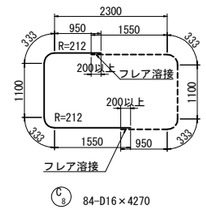


側 面 図 S=1:125
5 － 5　6 － 6









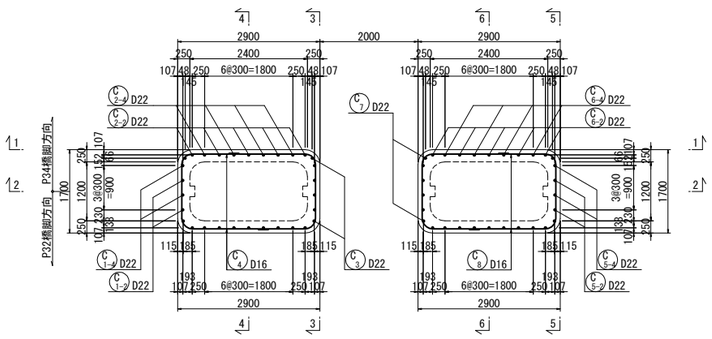
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	2770	4	3.04	8.42	34	
C 1-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	<4>
C 1-3	D22	1770	4	3.04	5.38	22	
C 1-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 2-1	D22	2780	10	3.04	8.45	85	
C 2-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	<10>
C 2-3	D22	1780	8	3.04	5.41	43	
C 2-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	<8>
C 3	D22	6330	4	3.04	19.2	77	
C 4	D16	4270	86	1.56	6.66	573	(86)
C 5-1	D22	2670	4	3.04	8.12	32	
C 5-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	<4>
C 5-3	D22	1670	4	3.04	5.08	20	
C 5-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 6-1	D22	2680	10	3.04	8.15	82	
C 6-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	<10>
C 6-3	D22	1680	8	3.04	5.11	41	
C 6-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	<8>
C 7	D22	6230	4	3.04	18.9	76	
C 8	D16	4270	84	1.56	6.66	559	(84)
					小計	2352	kg

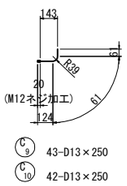
			フレア箇所	圧接箇所	
D22	1220	kg		<52>	SD345
D16	1132	kg	(170)		
合計	2352	kg	(170)	<52>	SD345

コンクリート削孔（φ18, L=58）	85	箇所	(参考)
コンクリート削孔（φ32, L=450）	52	箇所	
フレア溶接(D16)	170	箇所	

平 面 図 S=1:125
7 － 7

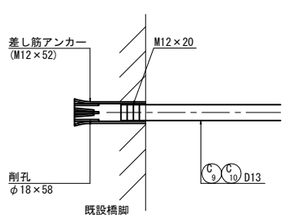


組立筋加工図(参考図)　S=1:50

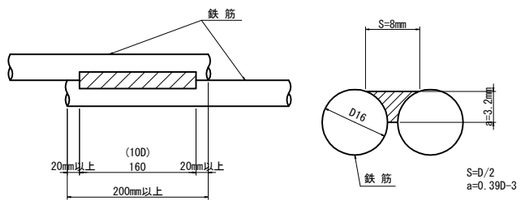


※1本/約1m2程度、設置する。

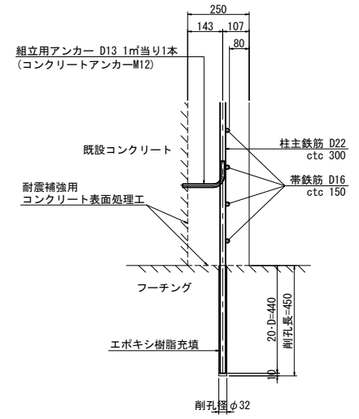
組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図　S=1:25

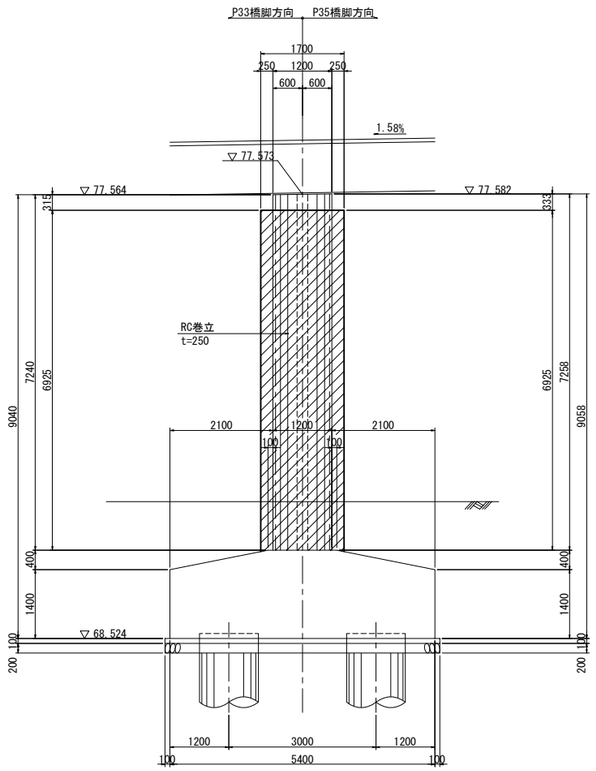


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

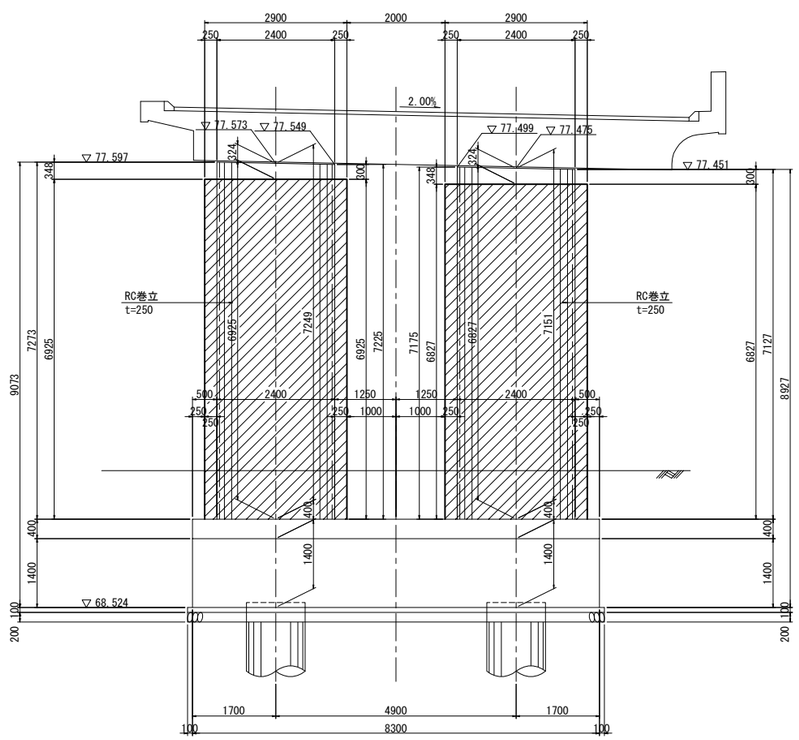
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P33橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P34橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

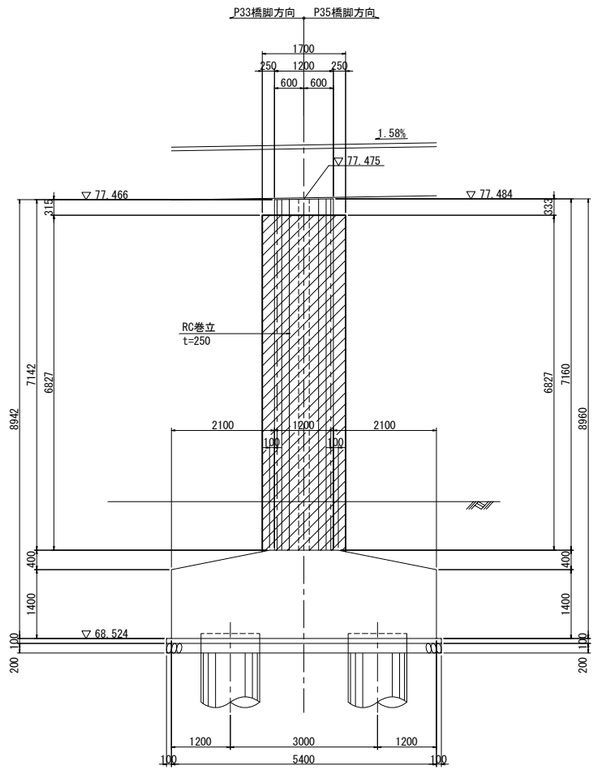
側 面 図 S=1:125



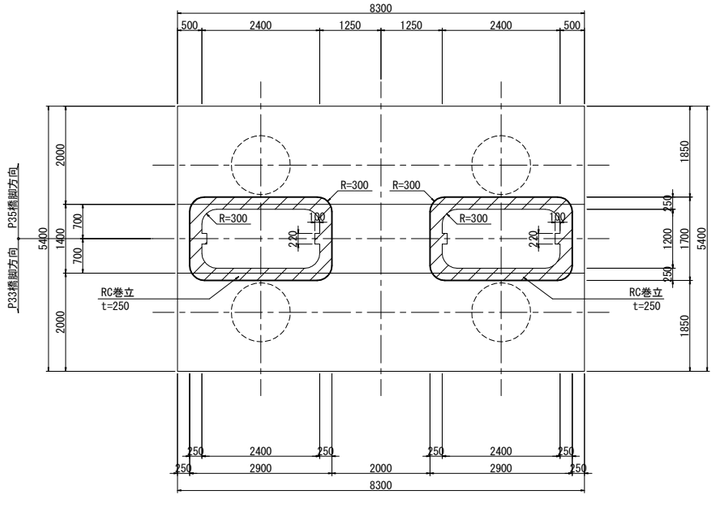
正 面 図 S=1:125



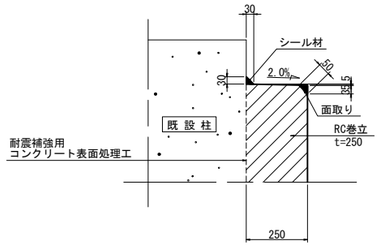
側 面 図 S=1:125



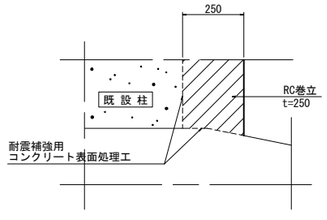
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



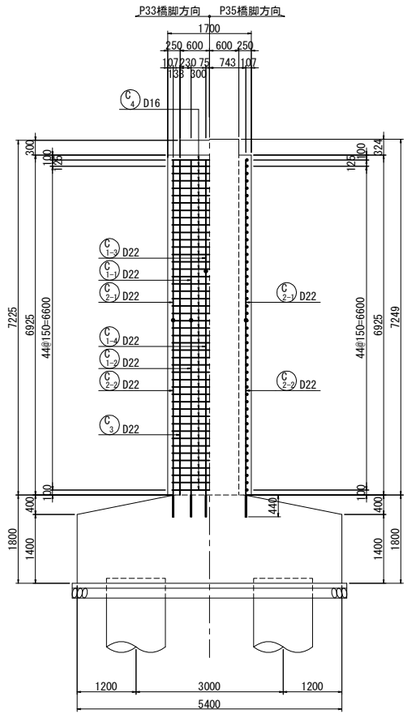
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

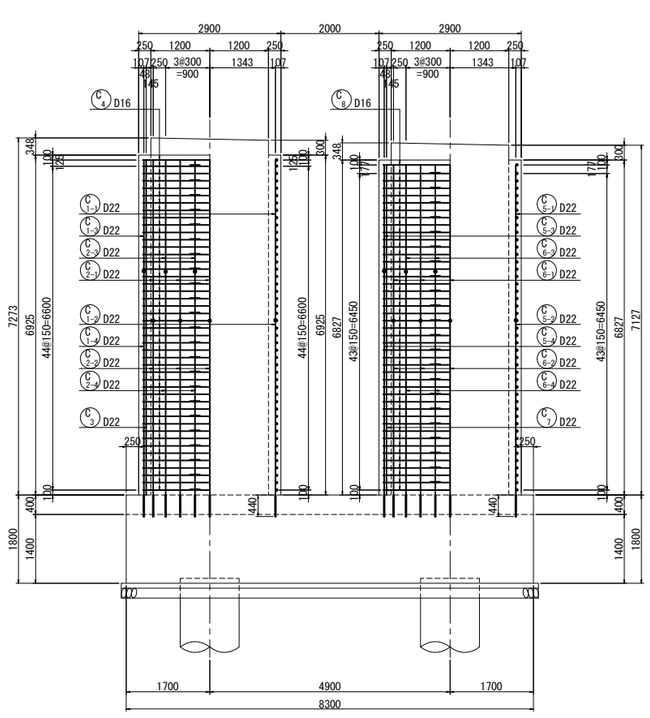
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P34橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P34橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

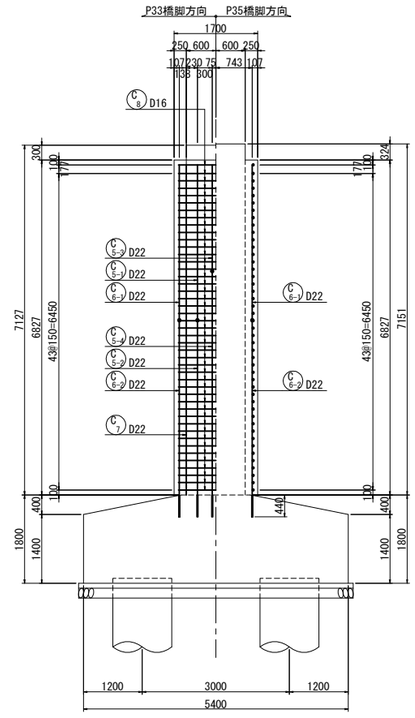
側面図 S=1:125
3－3　4－4

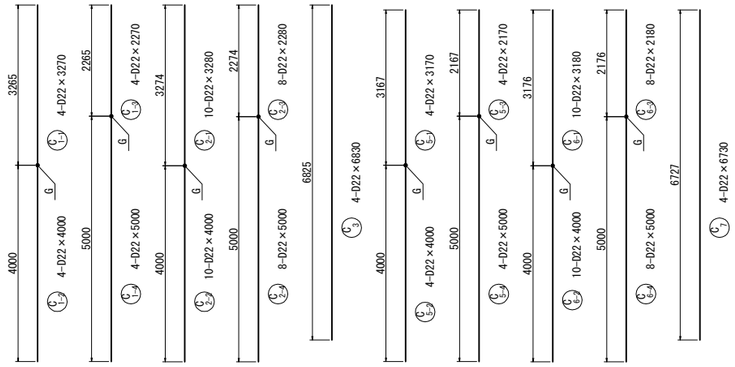


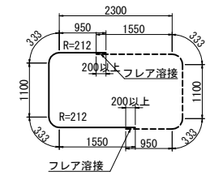
正面図 S=1:125
1－1　2－2　　1－1　2－2

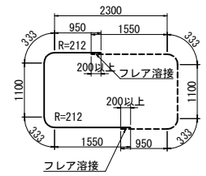


側面図 S=1:125
5－5　6－6









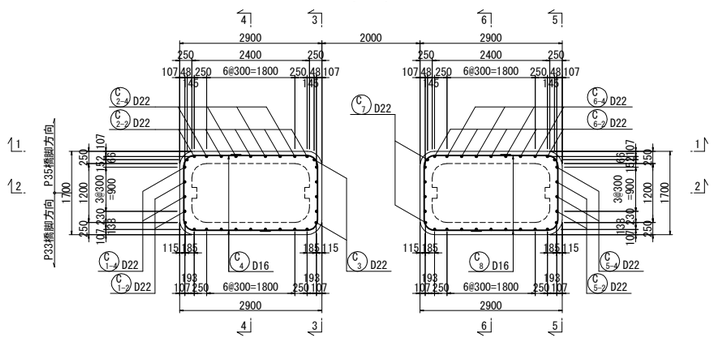
鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	3270	4	3.04	9.94	40	I
C 1-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	〈4〉
C 1-3	D22	2270	4	3.04	6.90	28	I
C 1-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	〈4〉
C 2-1	D22	3280	10	3.04	9.97	100	I
C 2-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	〈10〉
C 2-3	D22	2280	8	3.04	6.93	55	I
C 2-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	〈8〉
C 3	D22	6830	4	3.04	20.8	83	I
C 4	D16	4270	92	1.56	6.66	613	(92)
C 5-1	D22	3170	4	3.04	9.64	39	I
C 5-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	〈4〉
C 5-3	D22	2170	4	3.04	6.60	26	I
C 5-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	〈4〉
C 6-1	D22	3180	10	3.04	9.67	97	I
C 6-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	〈10〉
C 6-3	D22	2180	8	3.04	6.63	53	I
C 6-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	〈8〉
C 7	D22	6730	4	3.04	20.5	82	I
C 8	D16	4270	90	1.56	6.66	599	(90)
					小計	2523	kg

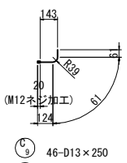
			フレア箇所	圧接箇所	
D22	1311	kg		〈52〉	SD345
D16	1212	kg	(182)		
合計	2523	kg	(182)	〈52〉	SD345

コンクリート削孔（φ18, L=58）	92	箇所	(参考)
コンクリート削孔（φ32, L=450）	52	箇所	
フレア溶接（D16）	182	箇所	

平面図 S=1:125
7－7

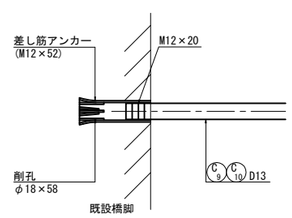


組立筋加工図（参考図） S=1:50

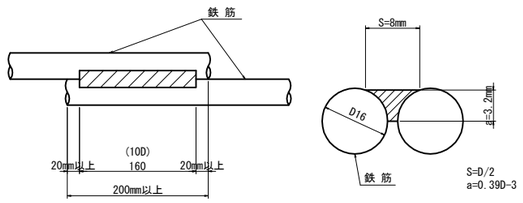


※1本/約1m2程度、設置する。

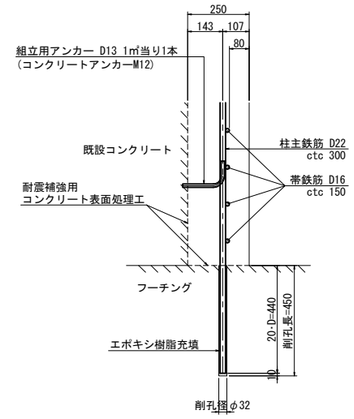
組立て筋アンカー詳細図（参考図） S=1:5



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図 S=1:25

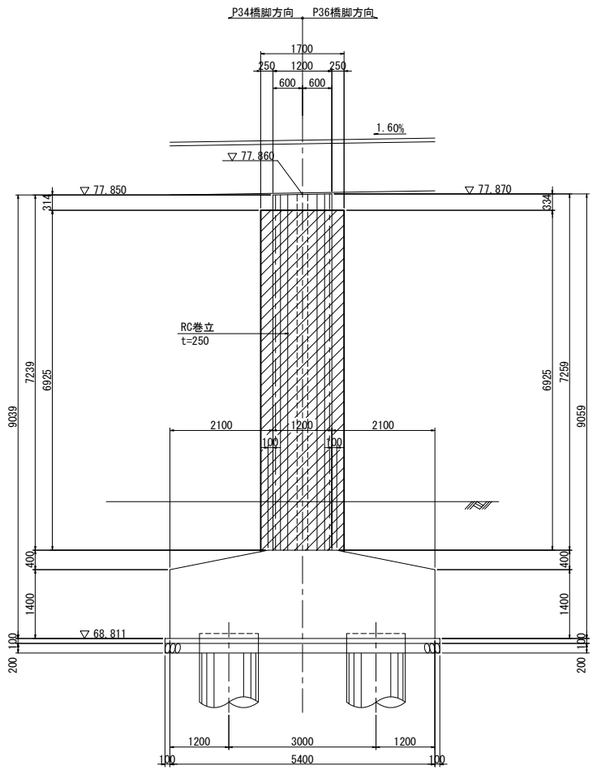


注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

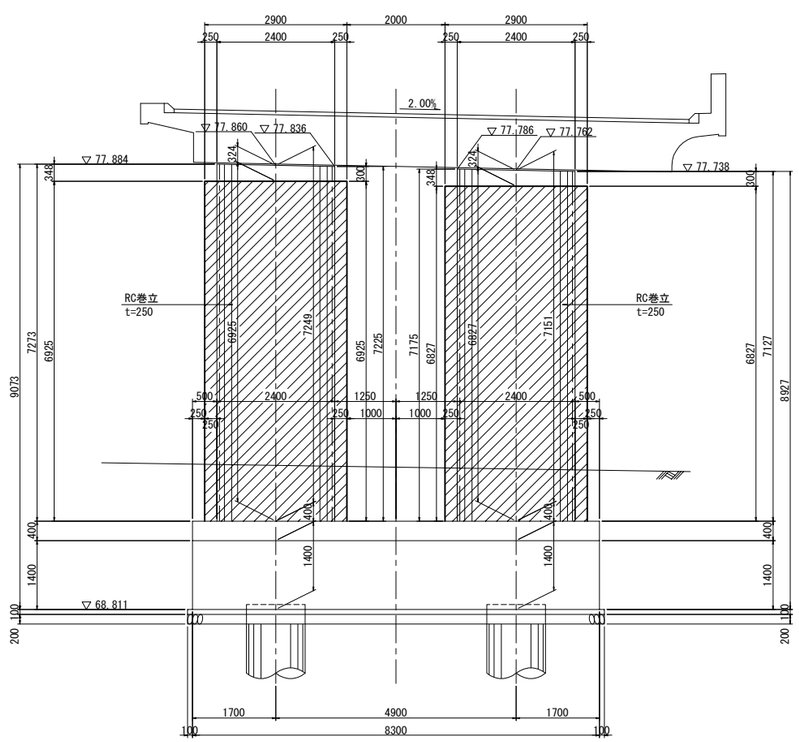
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P34橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P35橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

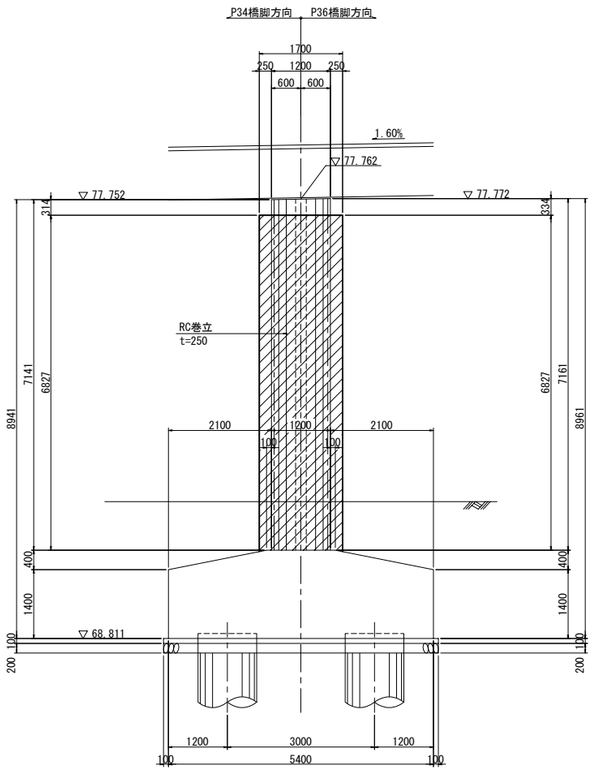
側 面 図 S=1:125



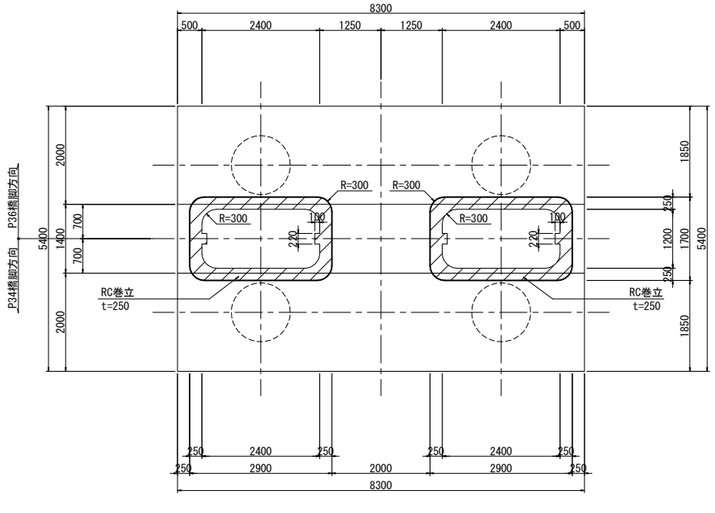
正 面 図 S=1:125



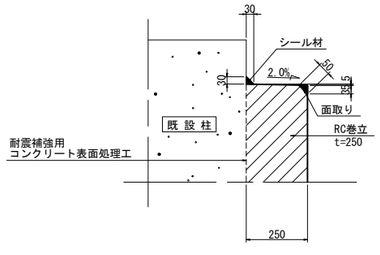
側 面 図 S=1:125



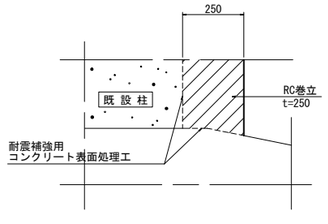
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



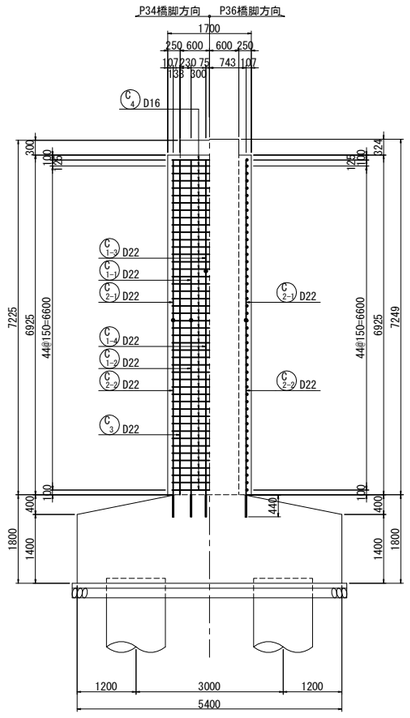
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

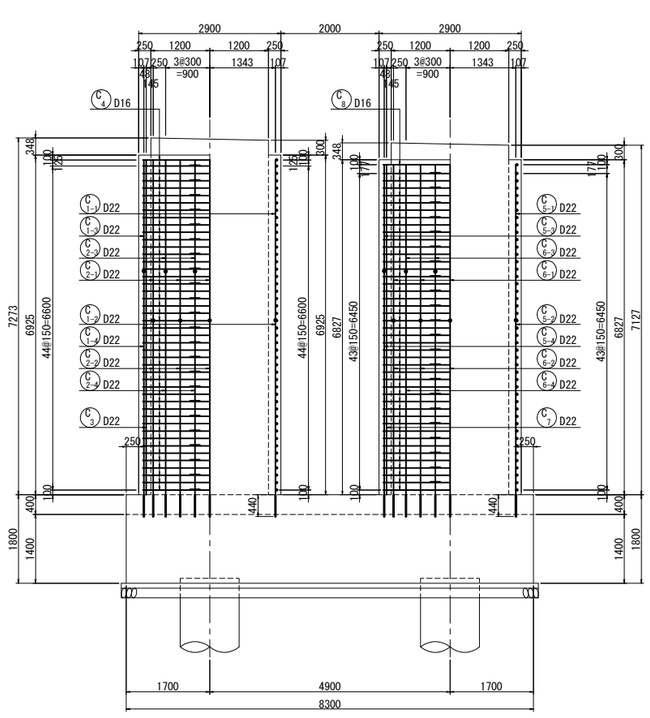
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P35橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P35橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

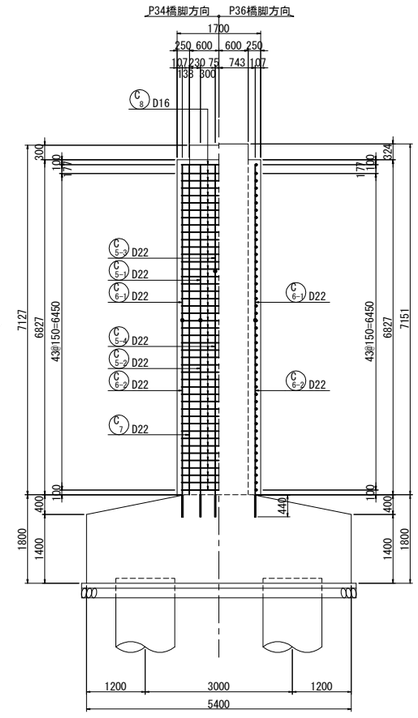
側面図 S=1:125
3－3　4－4

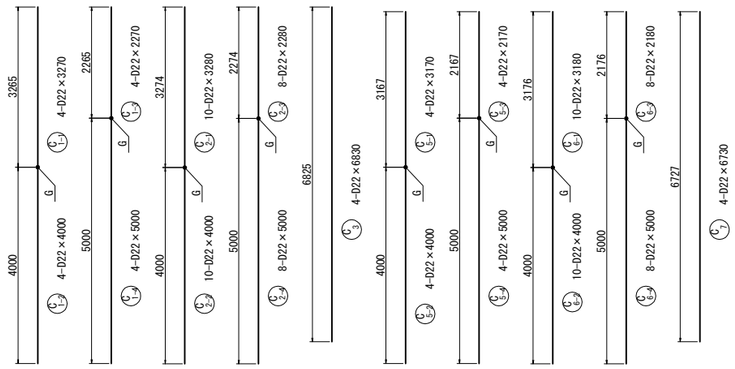


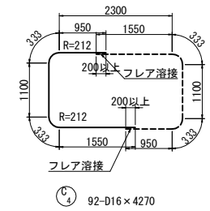
正面図 S=1:125
1－1　2－2　　1－1　2－2

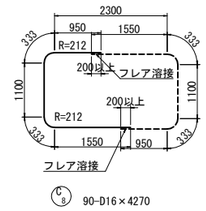


側面図 S=1:125
5－5　6－6









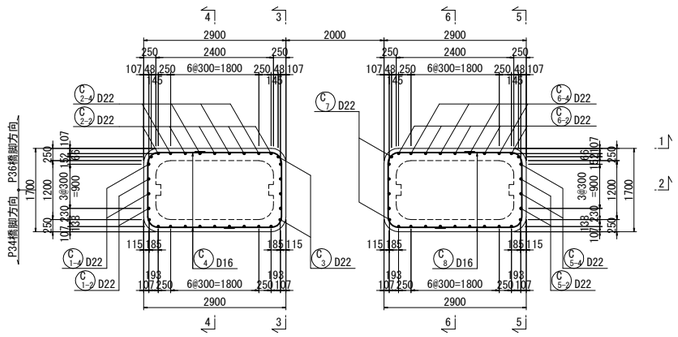
鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	3270	4	3.04	9.94	40	I
C 1-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	↑ <4>
C 1-3	D22	2270	4	3.04	6.90	28	I
C 1-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	↑ <4>
C 2-1	D22	3280	10	3.04	9.97	100	I
C 2-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	↑ <10>
C 2-3	D22	2280	8	3.04	6.93	55	I
C 2-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	↑ <8>
C 3	D22	6830	4	3.04	20.8	83	I
C 4	D16	4270	92	1.56	6.66	613	⊏ (92)
C 5-1	D22	3170	4	3.04	9.64	39	I
C 5-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	↑ <4>
C 5-3	D22	2170	4	3.04	6.60	26	I
C 5-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	↑ <4>
C 6-1	D22	3180	10	3.04	9.67	97	I
C 6-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	↑ <10>
C 6-3	D22	2180	8	3.04	6.63	53	I
C 6-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	↑ <8>
C 7	D22	6730	4	3.04	20.5	82	I
C 8	D16	4270	90	1.56	6.66	599	⊏ (90)
					小計	2523 kg	

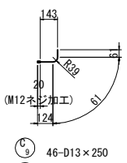
		フレア箇所	圧接箇所	
D22	1311 kg		<52>	SD345
D16	1212 kg	(182)		
合計	2523 kg	(182)	<52>	SD345

コンクリート削孔（φ18, L=58）	92	箇所	(参考)
コンクリート削孔（φ32, L=450）	52	箇所	
フレア溶接（D16）	182	箇所	

平面図 S=1:125
7－7

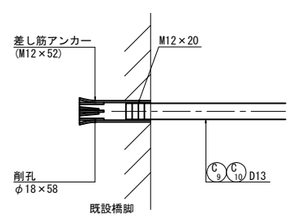


組立筋加工図（参考図） S=1:50

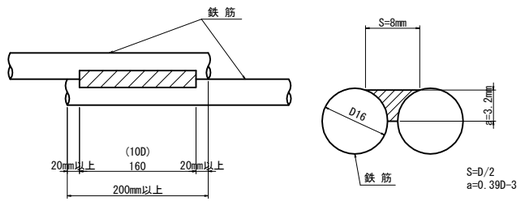


※1本/約1m2程度、設置する。

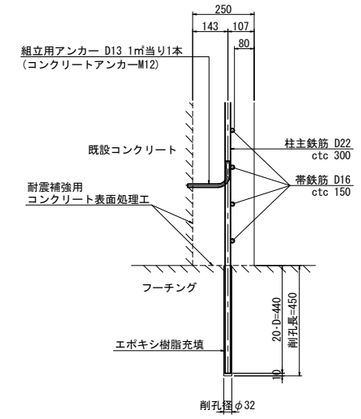
組立て筋アンカー詳細図（参考図） S=1:5



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図 S=1:25

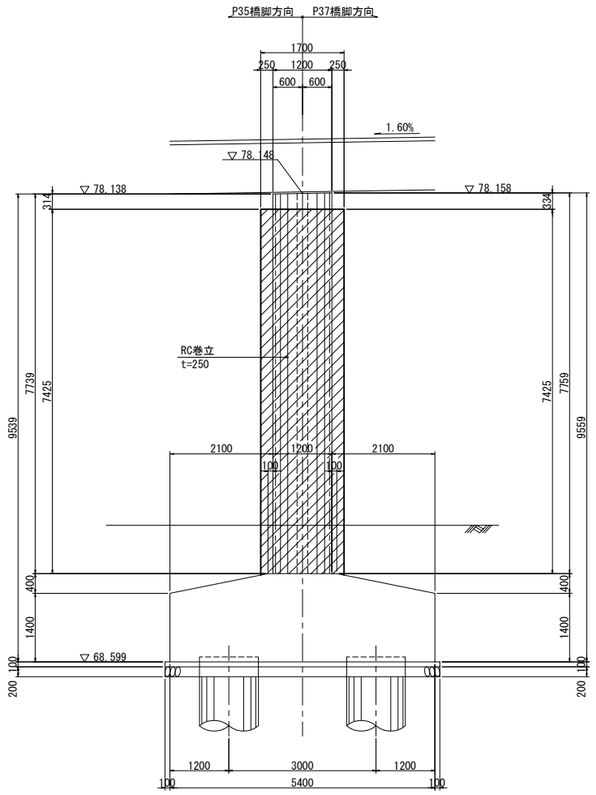


注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

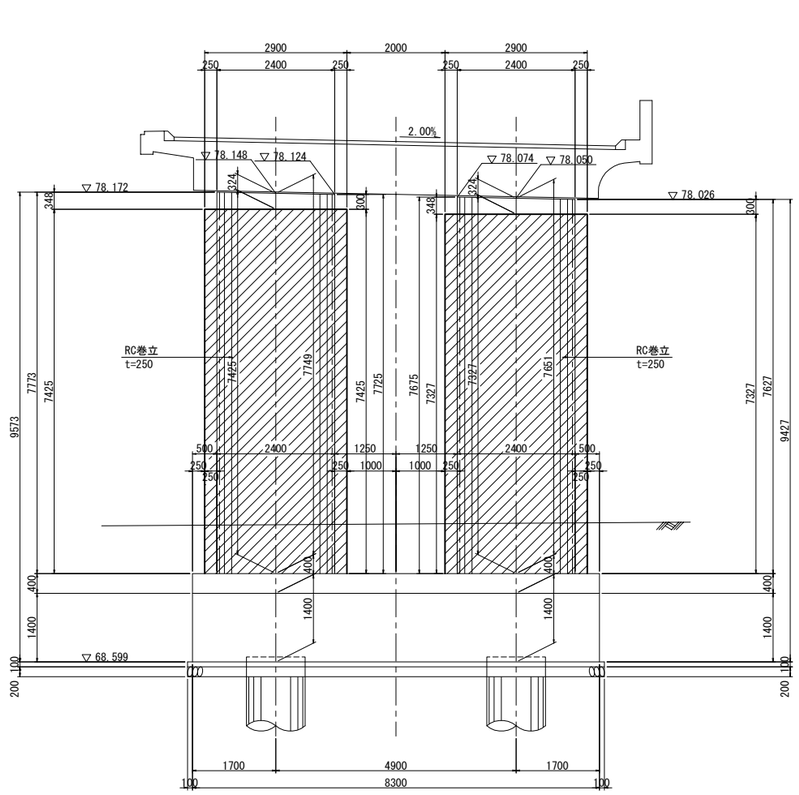
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P35橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P36橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

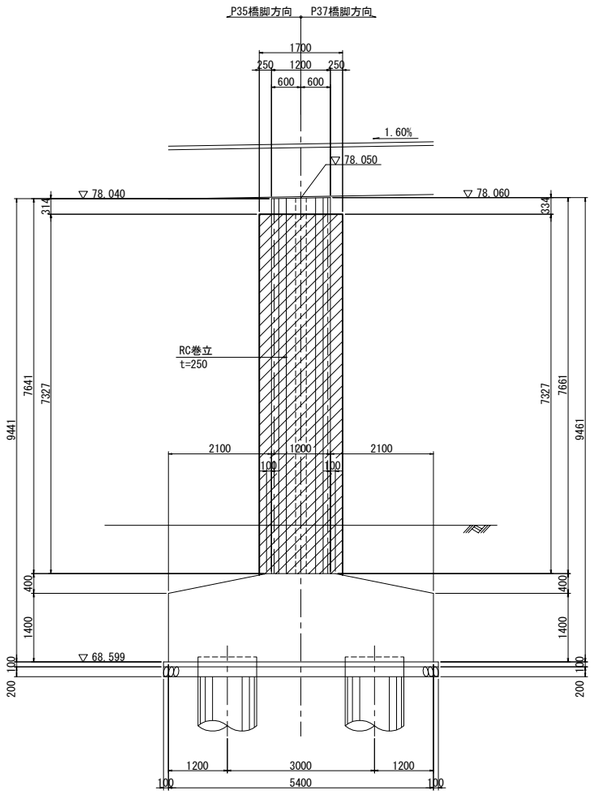
側 面 図 S=1:125



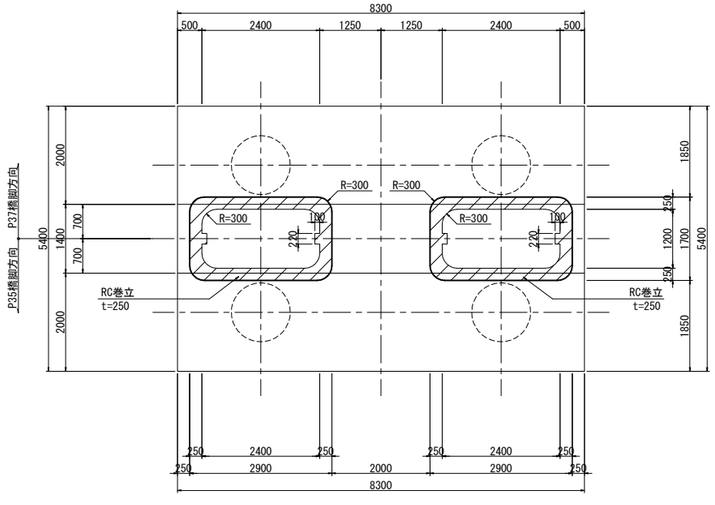
正 面 図 S=1:125



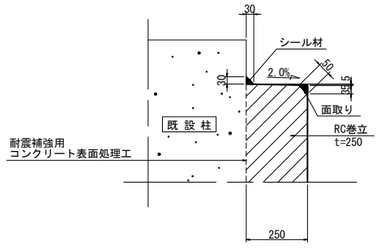
側 面 図 S=1:125



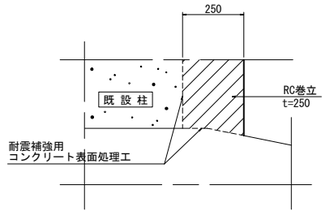
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



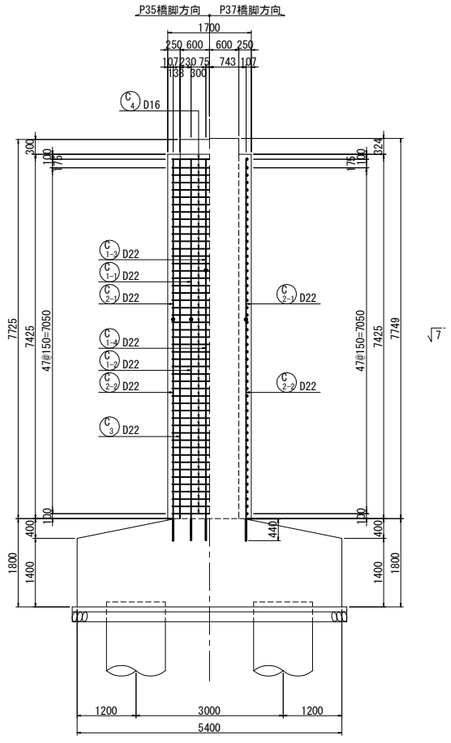
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

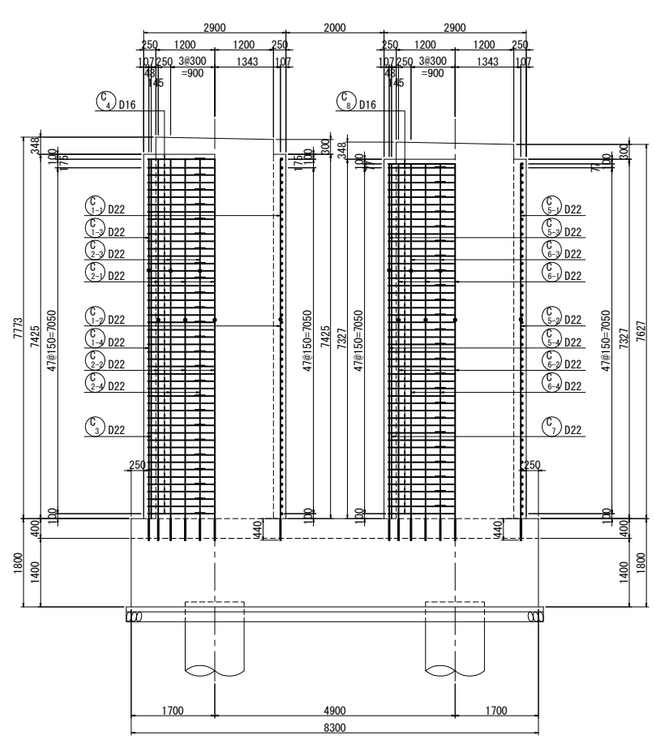
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P36橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P36橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

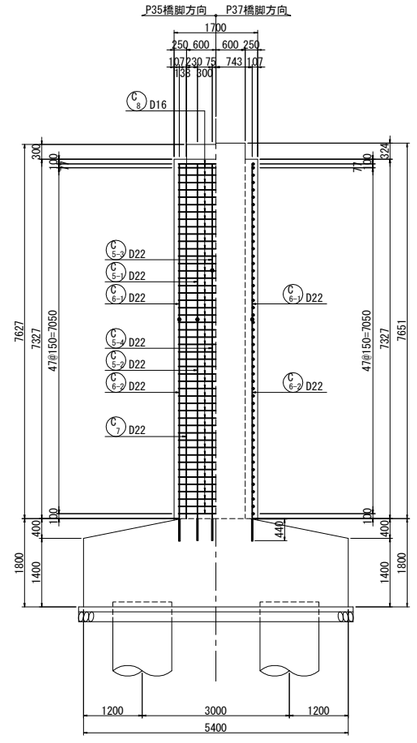
側 面 図 S=1:125
3 － 3　4 － 4

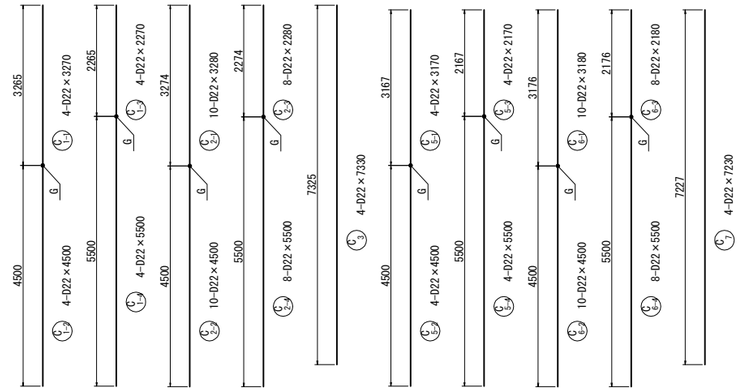


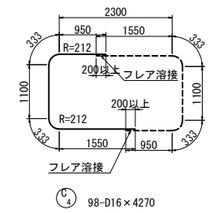
正 面 図 S=1:125
1 － 1　2 － 2

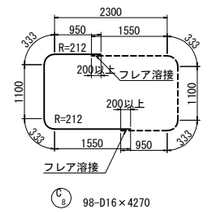


側 面 図 S=1:125
5 － 5　6 － 6

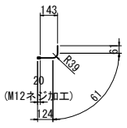






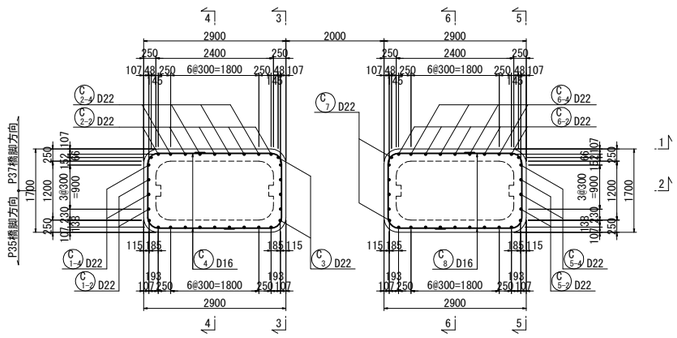


組立筋加工図(参考図) S=1:50



※1本/約1m2程度、設置する。

平 面 図 S=1:125
7 － 7



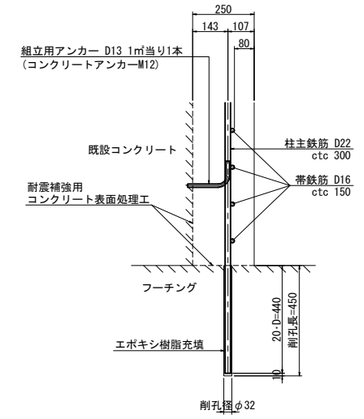
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3270	4	3.04	9.94	40	
C 1-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	<4>
C 1-3	D22	2270	4	3.04	6.90	28	
C 1-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	<4>
C 2-1	D22	3280	10	3.04	9.97	100	
C 2-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	<10>
C 2-3	D22	2280	8	3.04	6.93	55	
C 2-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	<8>
C 3	D22	7330	4	3.04	22.3	89	
C 4	D16	4270	98	1.56	6.66	653	(98)
C 5-1	D22	3170	4	3.04	9.64	39	
C 5-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	<4>
C 5-3	D22	2170	4	3.04	6.60	26	
C 5-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	<4>
C 6-1	D22	3180	10	3.04	9.67	97	
C 6-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	<10>
C 6-3	D22	2180	8	3.04	6.63	53	
C 6-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	<8>
C 7	D22	7230	4	3.04	22.0	88	
C 8	D16	4270	98	1.56	6.66	653	(98)
					小計	2707	kg

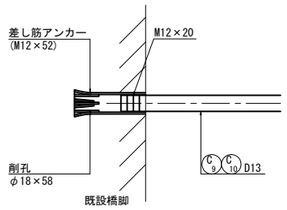
				フレア箇所	圧接箇所	
D22	1401	kg			<52>	SD345
D16	1306	kg		(196)		
合計	2707	kg		(196)	<52>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	99	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D16)	196	箇所	

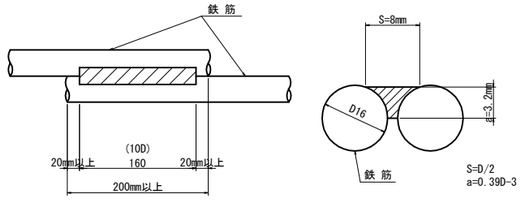
かぶり詳細図 S=1:25



組立て筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



フレア溶接詳細図

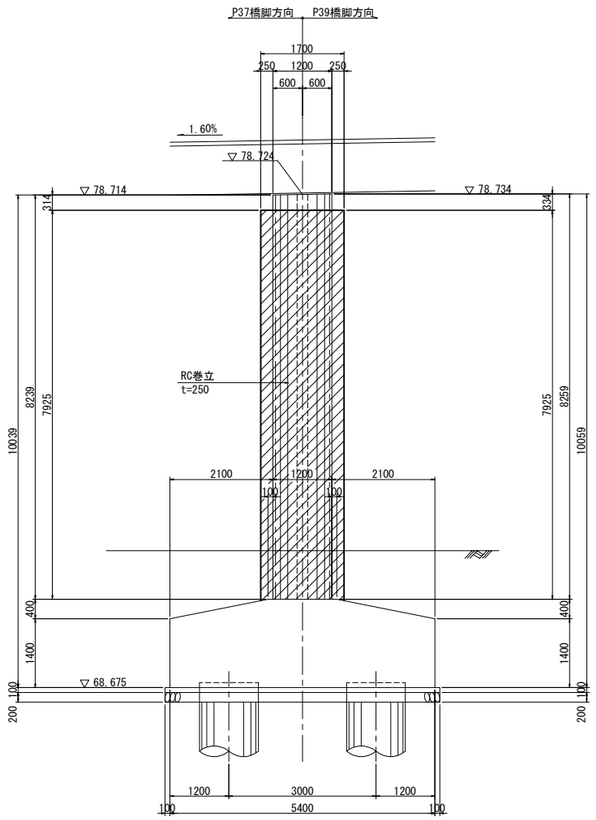


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

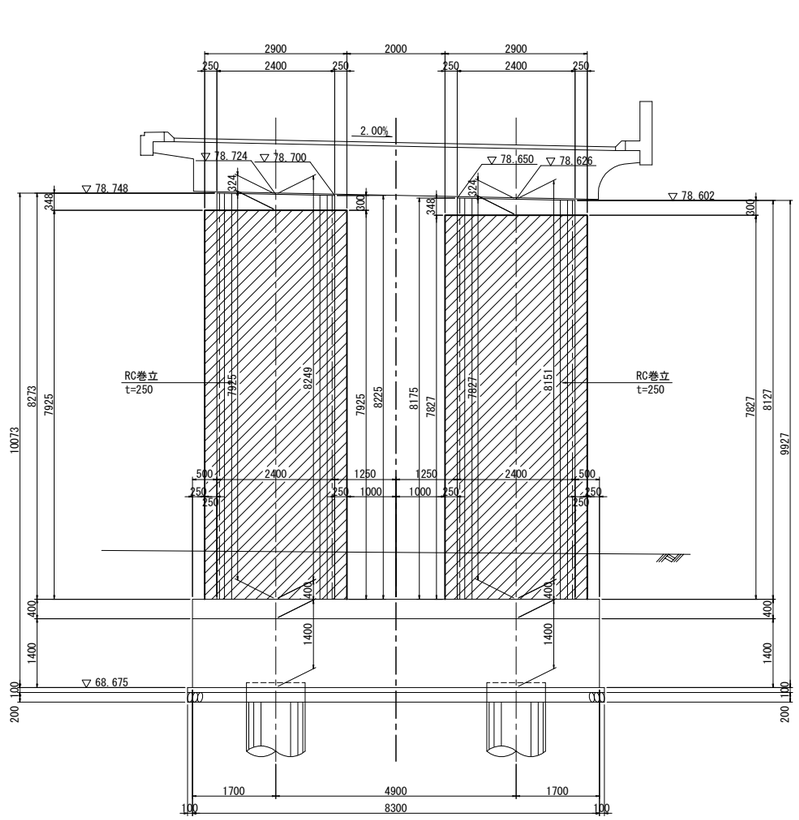
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P36橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P38橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

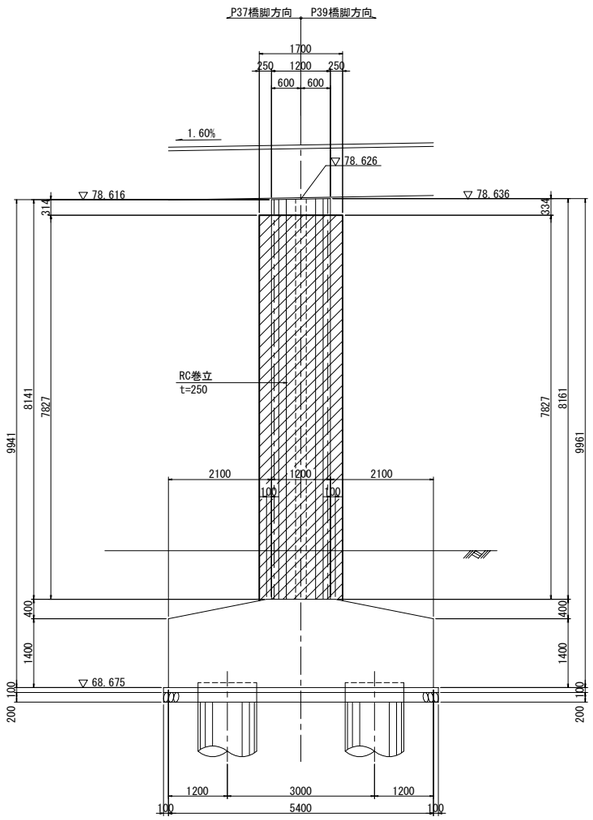
側 面 図 S=1:125



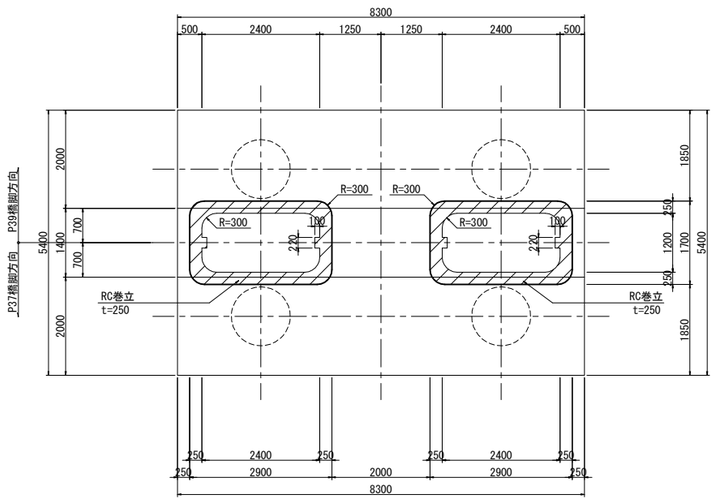
正 面 図 S=1:125



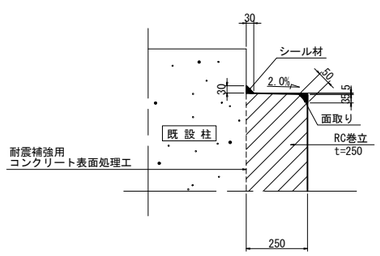
側 面 図 S=1:125



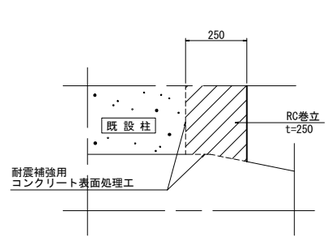
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



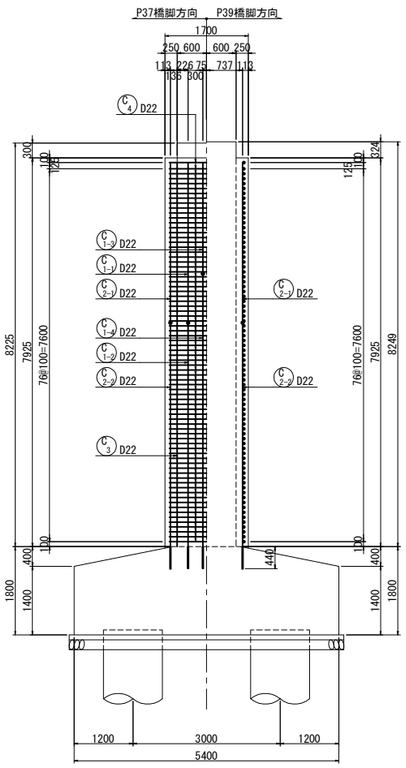
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

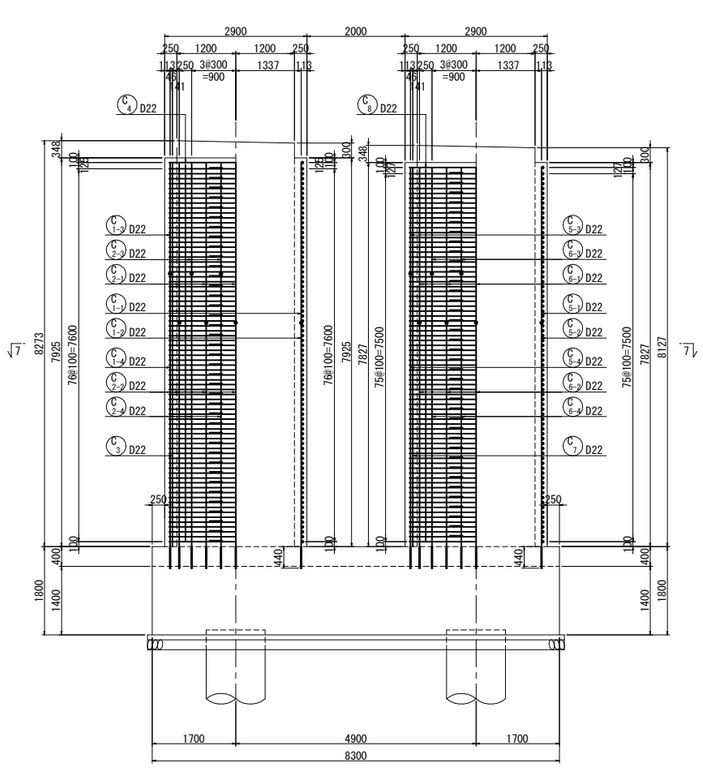
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P38橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P38橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

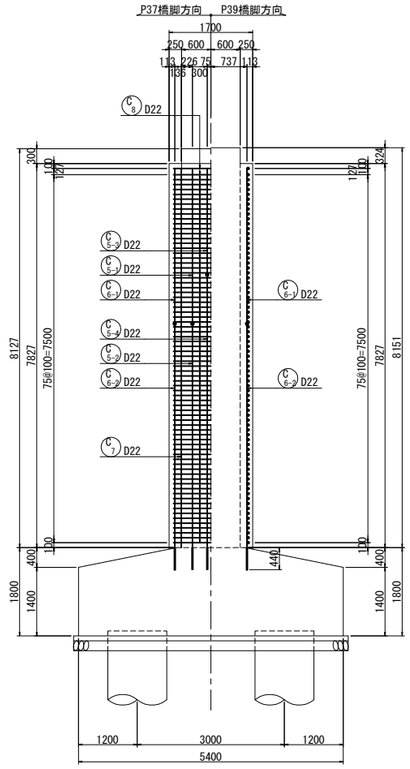
側 面 図 S=1:125
3 - 3　4 - 4

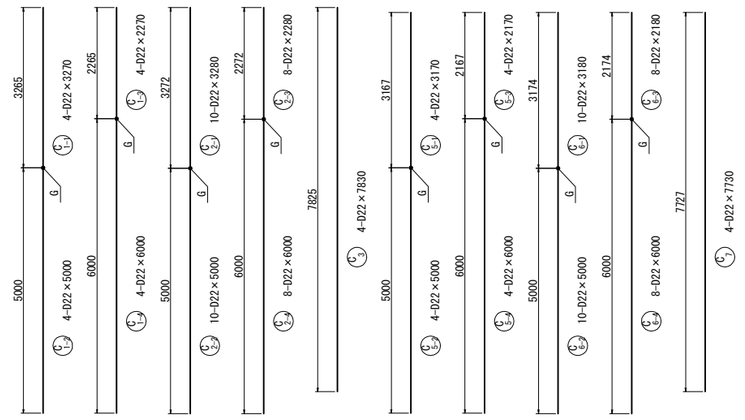


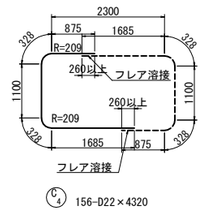
正 面 図 S=1:125
1 - 1　2 - 2

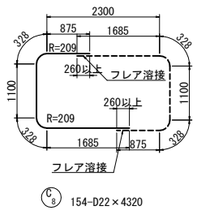


側 面 図 S=1:125
5 - 5　6 - 6

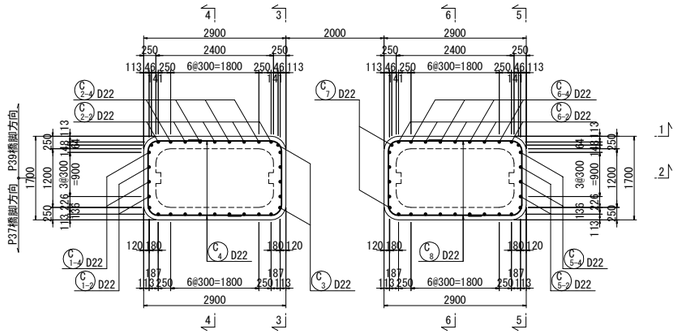




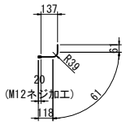




平 面 図 S=1:125
7 - 7



組立筋加工図(参考図)　S=1:50

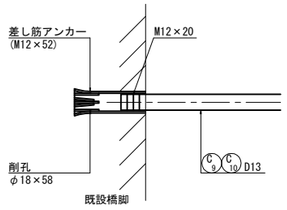


C9 53-D13×240

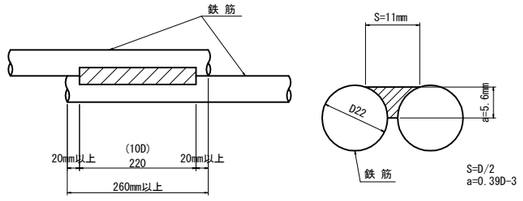
C10 52-D13×240

※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



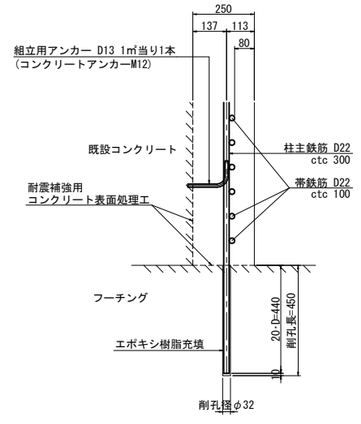
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3270	4	3.04	9.94	40	I
C 1-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	↑ <4>
C 1-3	D22	2270	4	3.04	6.90	28	I
C 1-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	↑ <4>
C 2-1	D22	3280	10	3.04	9.97	100	I
C 2-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	↑ <10>
C 2-3	D22	2280	8	3.04	6.93	55	I
C 2-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	↑ <8>
C 3	D22	7830	4	3.04	23.8	95	I
C 4	D22	4320	156	3.04	13.1	2044	⊏ (156)
C 5-1	D22	3170	4	3.04	9.64	39	I
C 5-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	↑ <4>
C 5-3	D22	2170	4	3.04	6.60	26	I
C 5-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	↑ <4>
C 6-1	D22	3180	10	3.04	9.67	97	I
C 6-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	↑ <10>
C 6-3	D22	2180	8	3.04	6.63	53	I
C 6-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	↑ <8>
C 7	D22	7730	4	3.04	23.5	94	I
C 8	D22	4320	154	3.04	13.1	2017	⊏ (154)
					小計	5552	kg

			フレア箇所	圧接箇所	
D22	5552	kg	(310)	<52>	SD345
合計	5552	kg	(310)	<52>	SD345

コンクリート削孔(φ18, L=58)	105	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32, L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	310	箇所	

かぶり詳細図　S=1:25

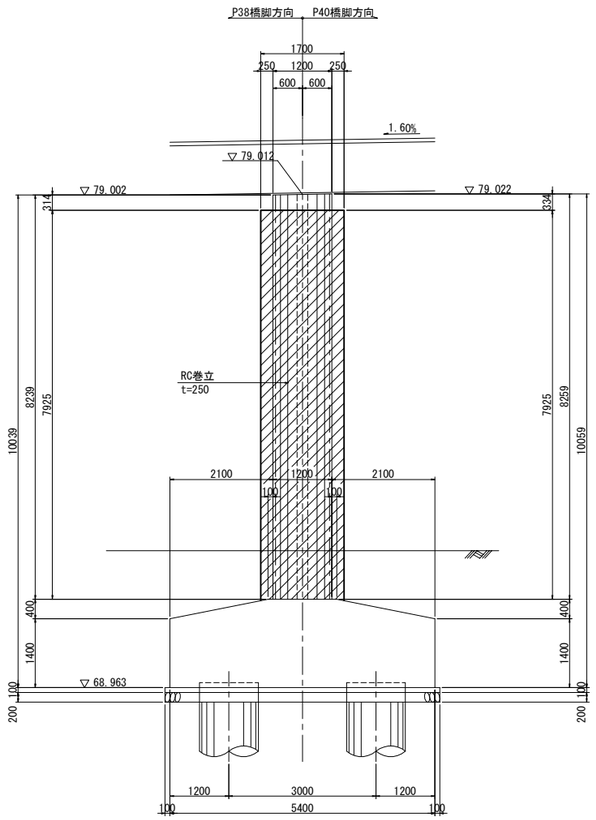


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

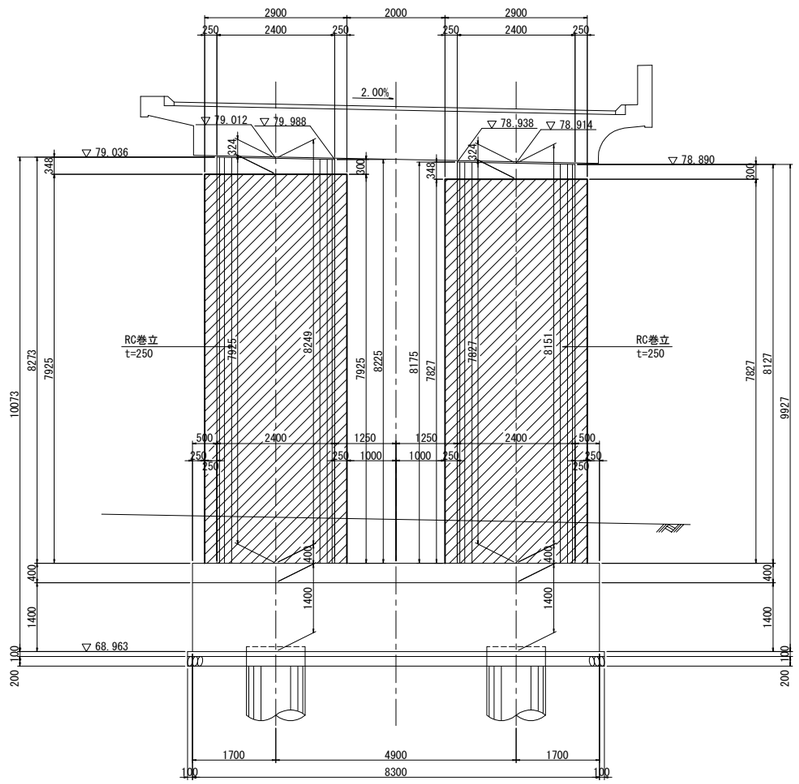
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P38橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P39橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

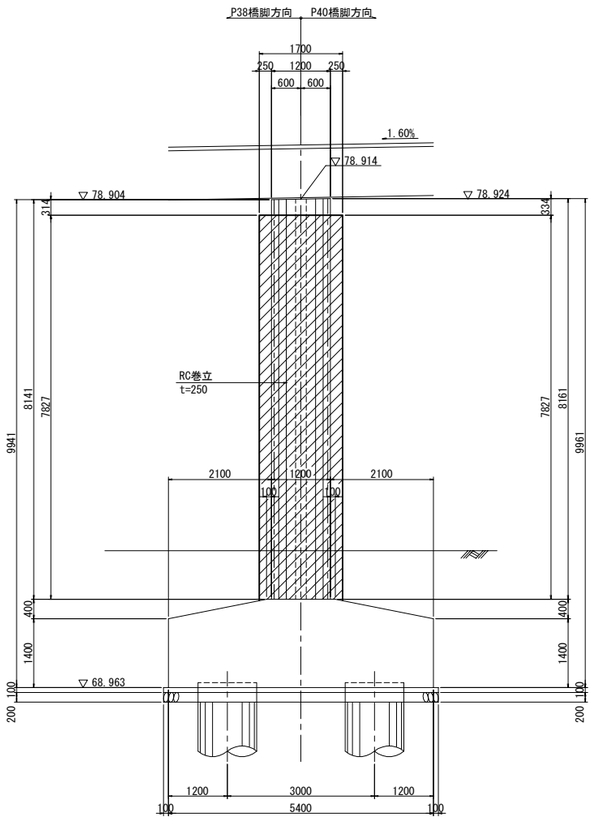
側 面 図 S=1:125



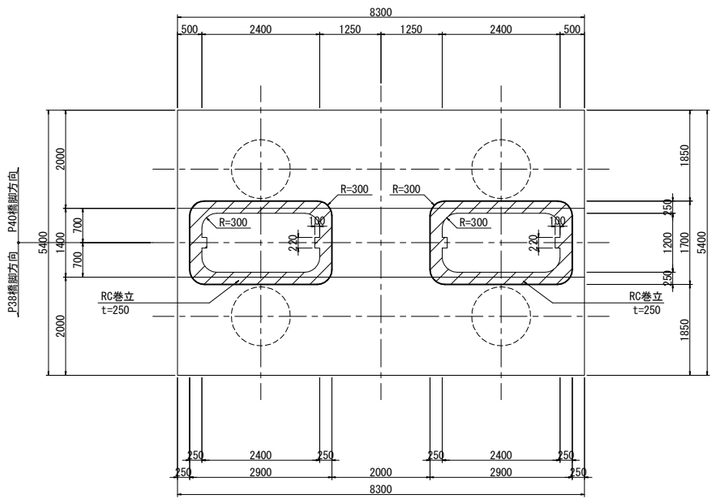
正 面 図 S=1:125



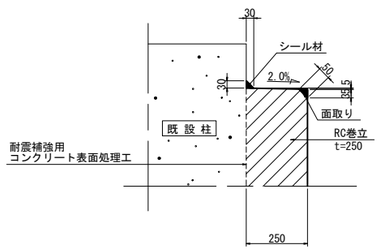
側 面 図 S=1:125



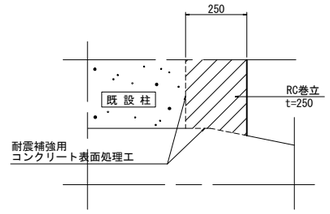
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



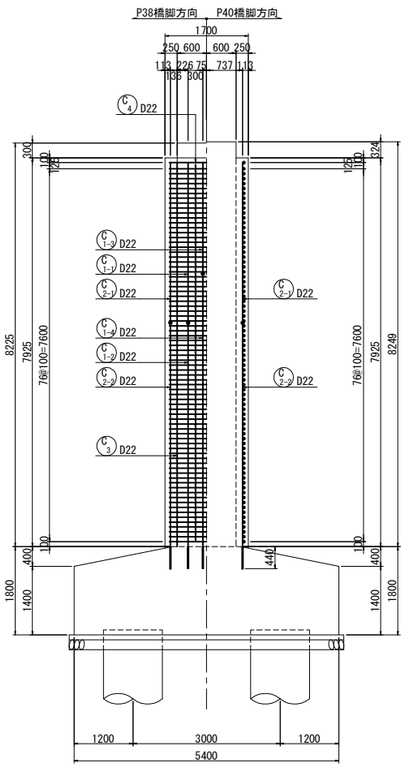
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

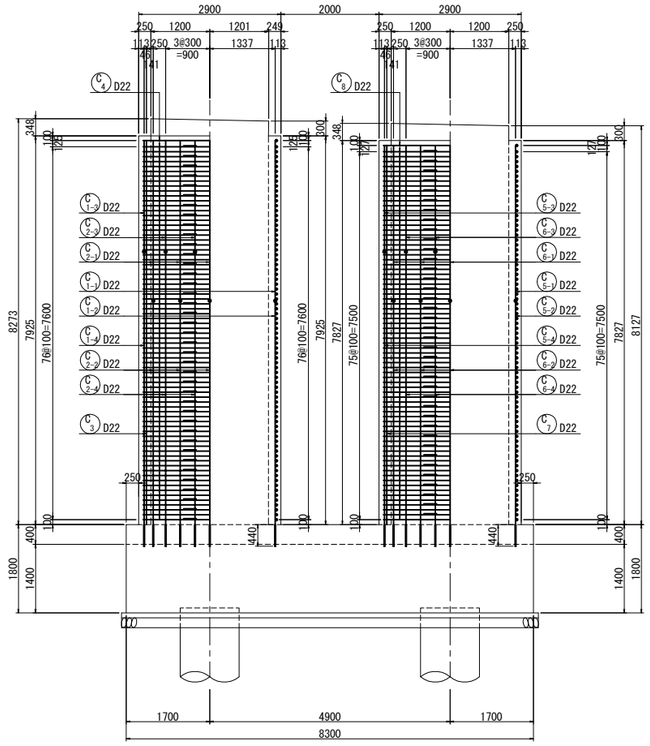
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P39橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）
縮尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P39橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

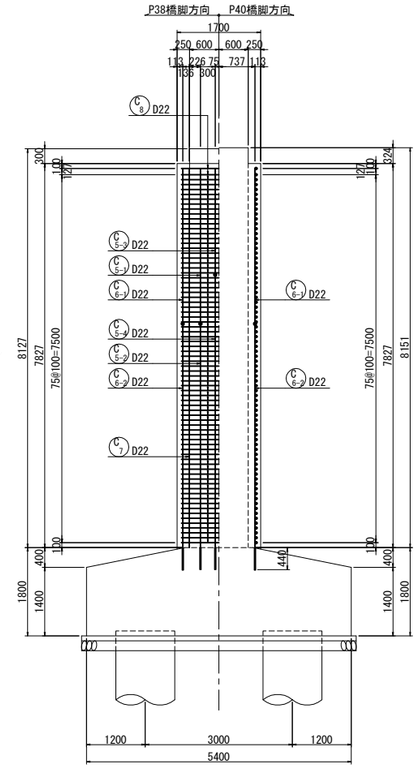
側 面 図 S=1:125
3 - 3　4 - 4

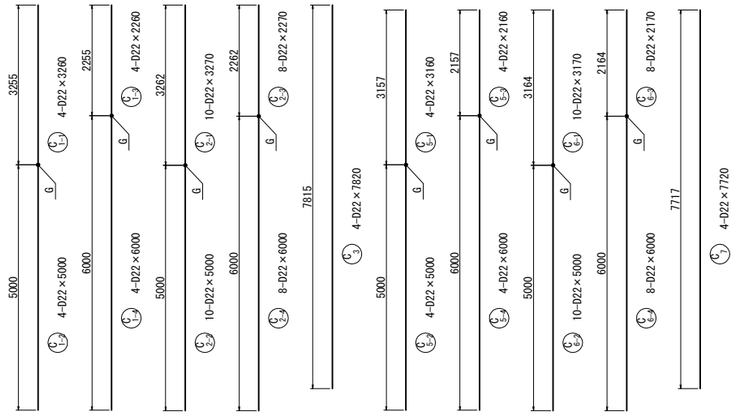


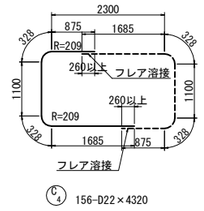
正 面 図 S=1:125
1 - 1　2 - 2

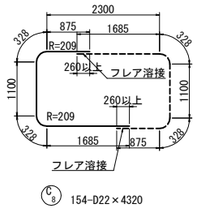


側 面 図 S=1:125
5 - 5　6 - 6

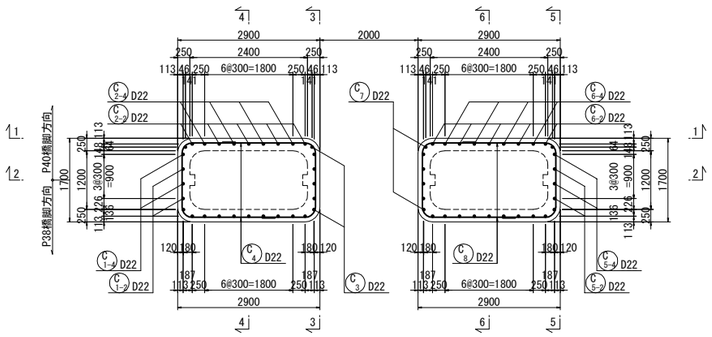




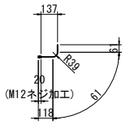




平 面 図 S=1:125
7 - 7

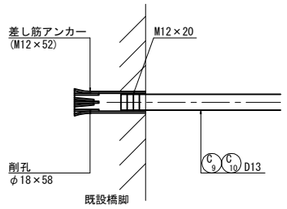


組立筋加工図(参考図)　S=1:50

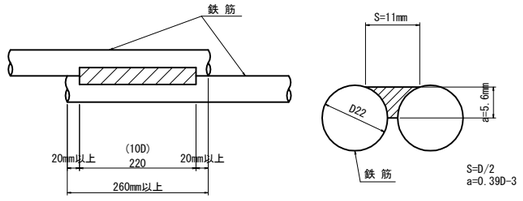


※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



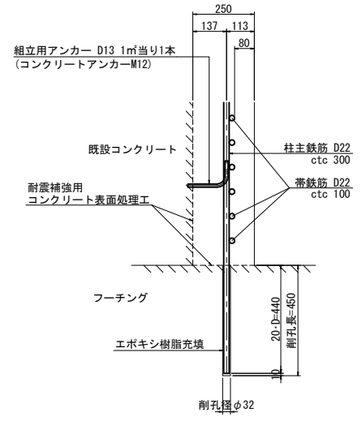
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3260	4	3.04	9.91	40	I
C 1-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	↑ <4>
C 1-3	D22	2260	4	3.04	6.87	27	I
C 1-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	↑ <4>
C 2-1	D22	3270	10	3.04	9.94	99	I
C 2-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	↑ <10>
C 2-3	D22	2270	8	3.04	6.90	55	I
C 2-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	↑ <8>
C 3	D22	7820	4	3.04	23.8	95	I
C 4	D22	4320	156	3.04	13.1	2044	⊏ (156)
C 5-1	D22	3160	4	3.04	9.61	38	I
C 5-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	↑ <4>
C 5-3	D22	2160	4	3.04	6.57	26	I
C 5-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	↑ <4>
C 6-1	D22	3170	10	3.04	9.64	96	I
C 6-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	↑ <10>
C 6-3	D22	2170	8	3.04	6.60	53	I
C 6-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	↑ <8>
C 7	D22	7720	4	3.04	23.5	94	I
C 8	D22	4320	154	3.04	13.1	2017	⊏ (154)
					小計	5548	kg

	フレア箇所		圧接箇所		
D22	5548	kg	(310)	<52>	SD345
合計	5548	kg	(310)	<52>	SD345

コンクリート削孔(φ18, L=58)	105	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32, L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	310	箇所	

かぶり詳細図　S=1:25

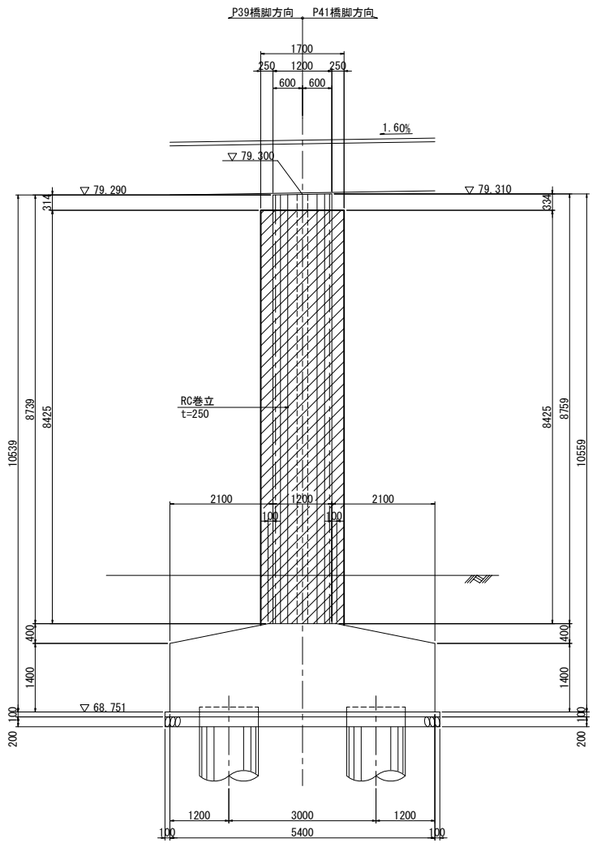


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

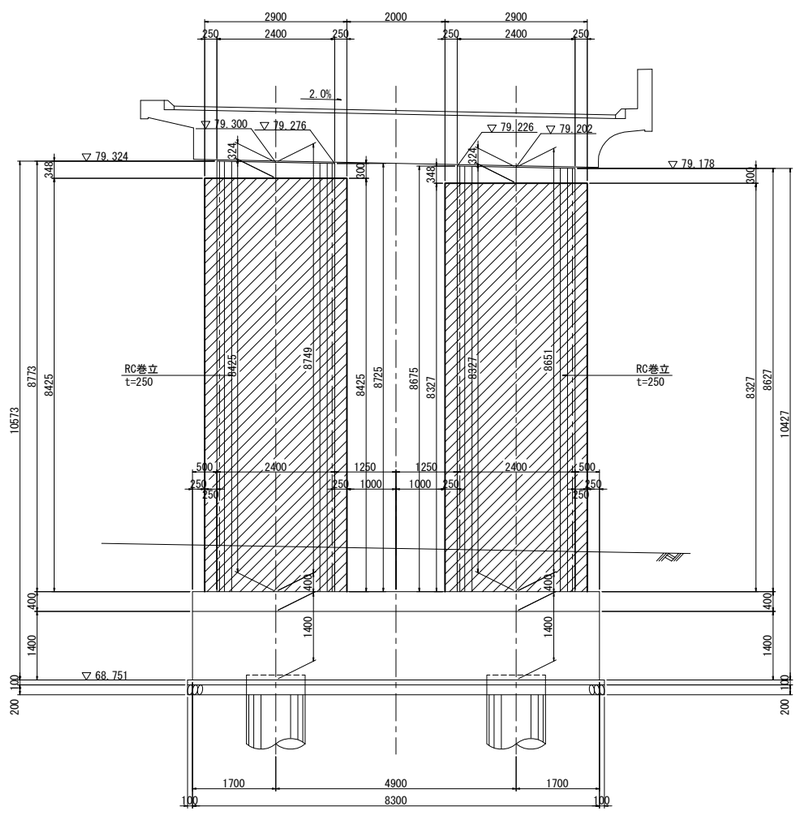
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P39橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P40橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

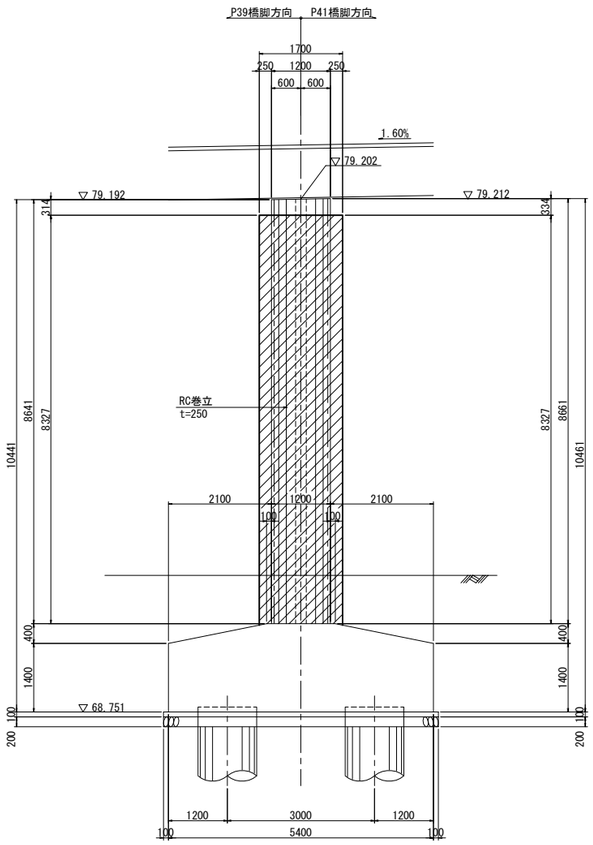
側 面 図 S=1:125



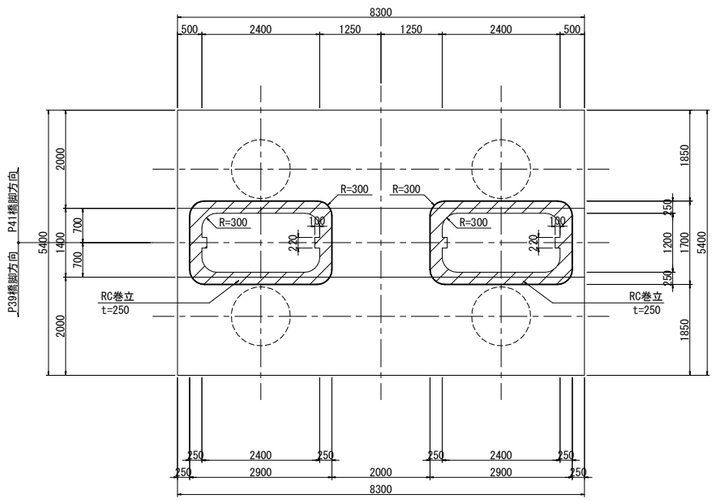
正 面 図 S=1:125



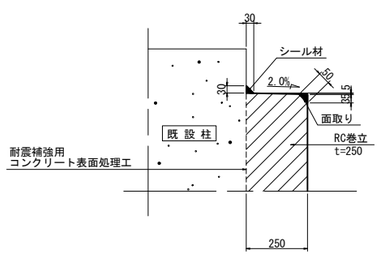
側 面 図 S=1:125



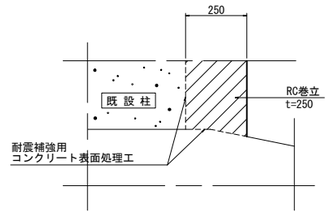
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



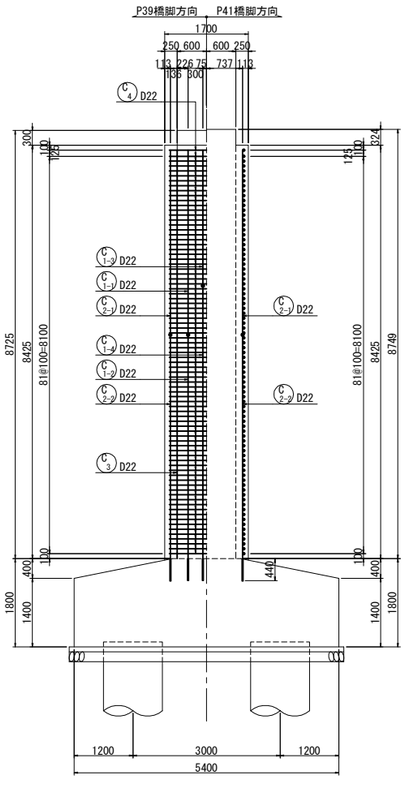
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

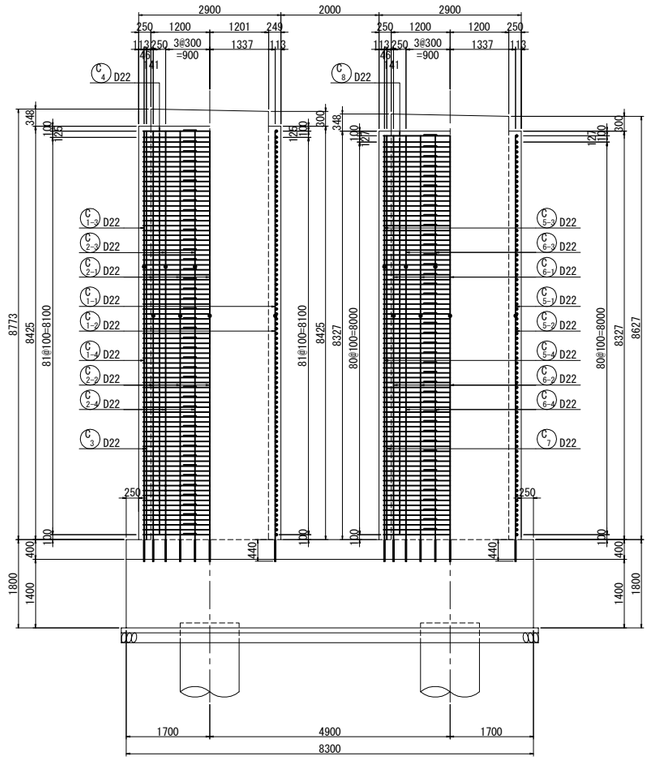
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P40橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P40橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

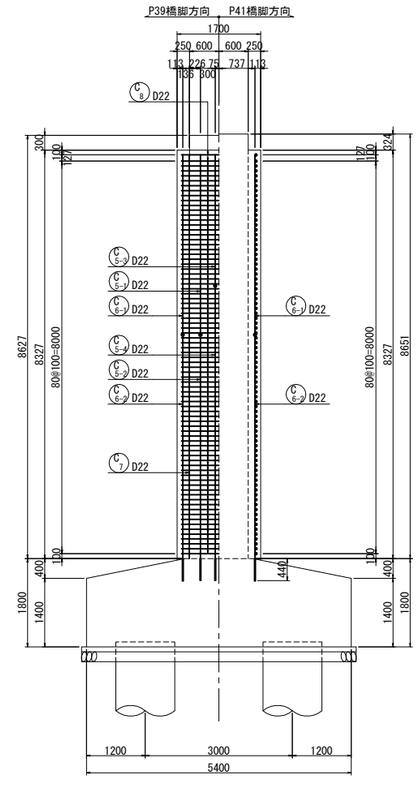
側 面 図 S=1:125
3 － 3　4 － 4

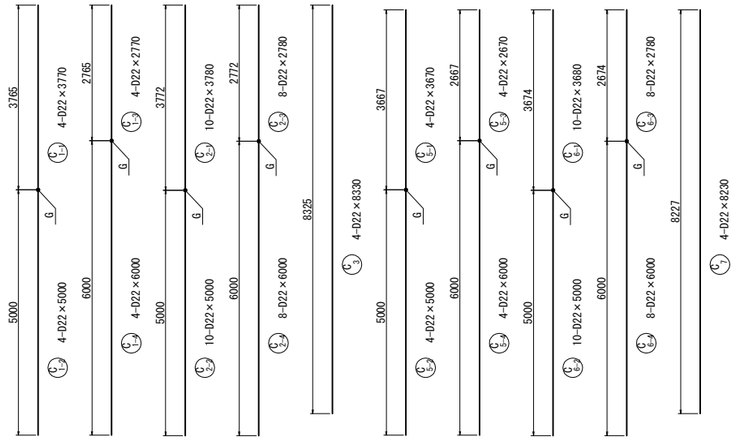


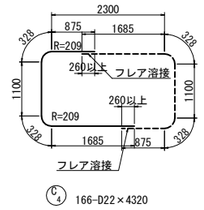
正 面 図 S=1:125
1 － 1　2 － 2

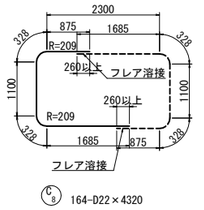


側 面 図 S=1:125
5 － 5　6 － 6

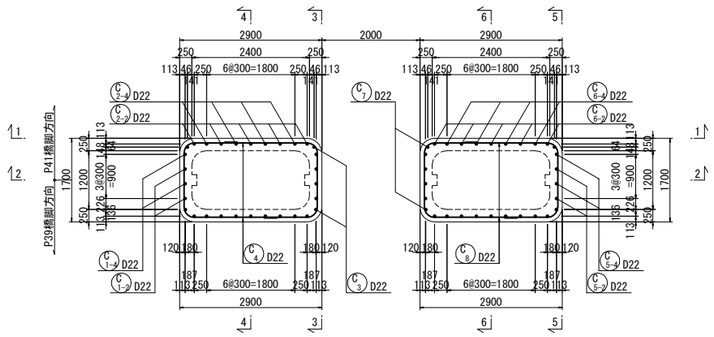




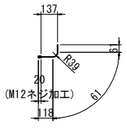




平 面 図 S=1:125
7 － 7

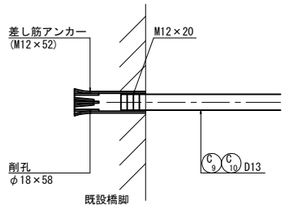


組立筋加工図(参考図)　S=1:50

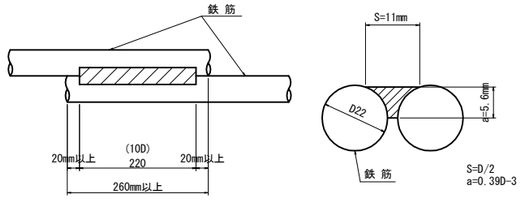


C9 56-D13×240
C10 56-D13×240
※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



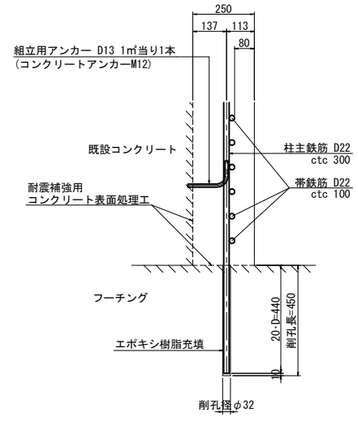
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3770	4	3.04	11.5	46	
C 1-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 1-3	D22	2770	4	3.04	8.42	34	
C 1-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	<4>
C 2-1	D22	3780	10	3.04	11.5	115	
C 2-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	<10>
C 2-3	D22	2780	8	3.04	8.45	68	
C 2-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	<8>
C 3	D22	8330	4	3.04	25.3	101	
C 4	D22	4320	166	3.04	13.1	2175	(166)
C 5-1	D22	3670	4	3.04	11.2	45	
C 5-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 5-3	D22	2670	4	3.04	8.12	32	
C 5-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	<4>
C 6-1	D22	3680	10	3.04	11.2	112	
C 6-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	<10>
C 6-3	D22	2780	8	3.04	8.45	68	
C 6-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	<8>
C 7	D22	8230	4	3.04	25.0	100	
C 8	D22	4320	164	3.04	13.1	2148	(164)
					小計	5908	kg

	フレア箇所	圧接箇所	
D22	5908 kg	(330)	<52> SD345
合計	5908 kg	(330)	<52> SD345

コンクリート削孔(φ18, L=58)	112	箇所 (参考)
コンクリート削孔(φ32, L=450)	52	箇所
フレア溶接(D22)	330	箇所

かぶり詳細図　S=1:25

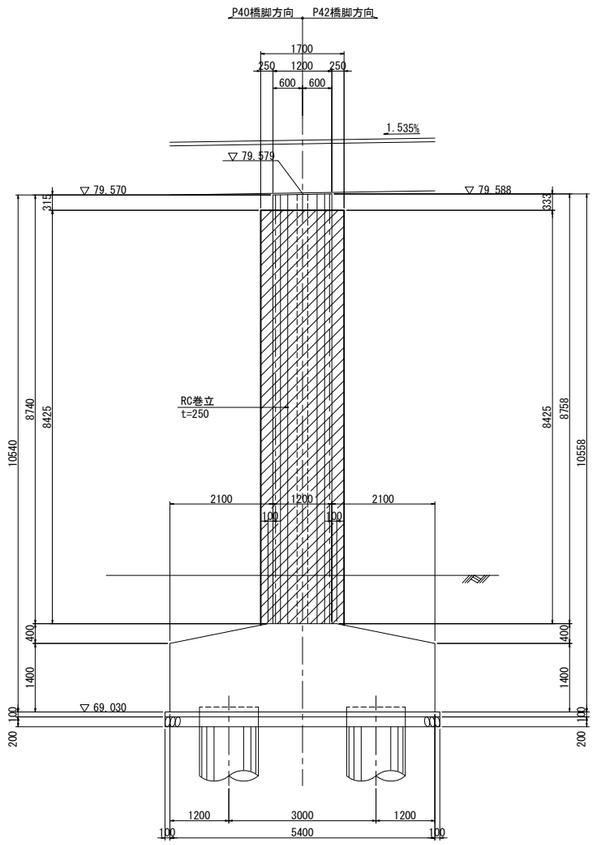


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

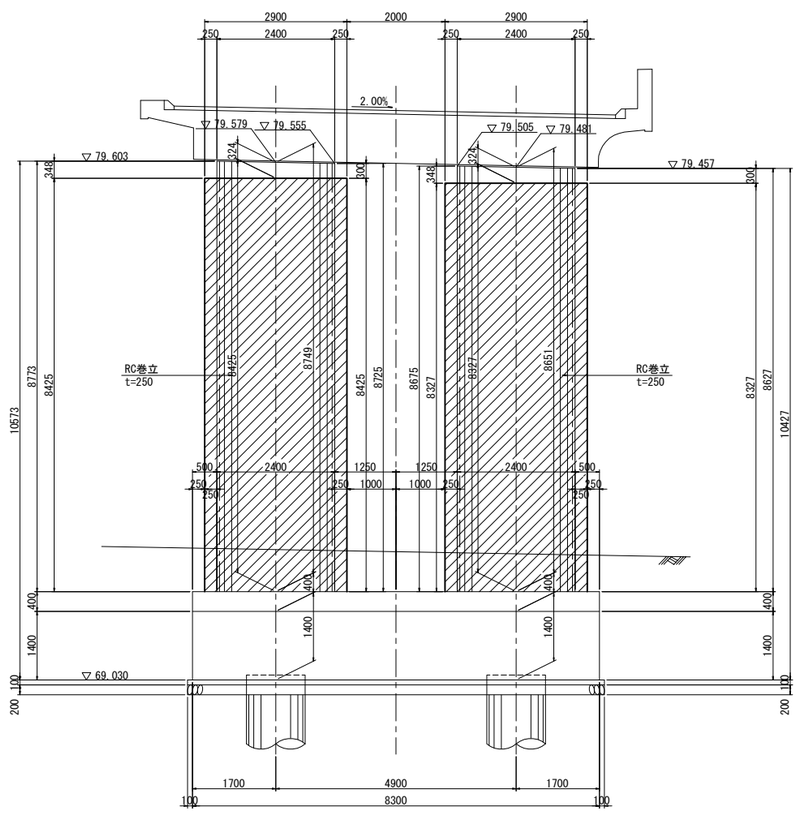
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P40橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P41橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

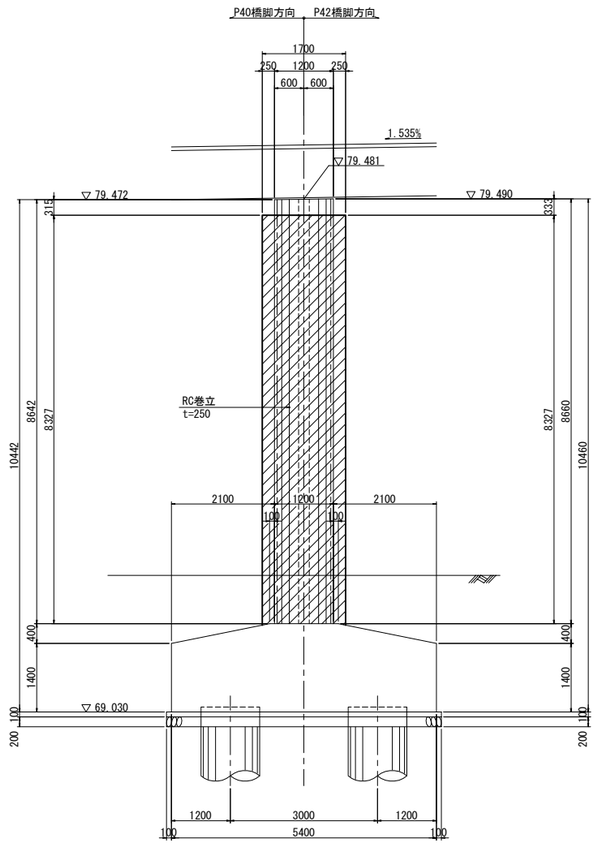
側 面 図 S=1:125



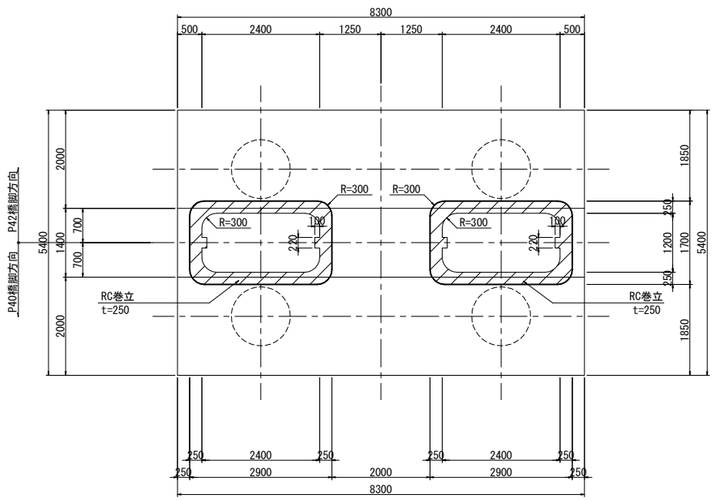
正 面 図 S=1:125



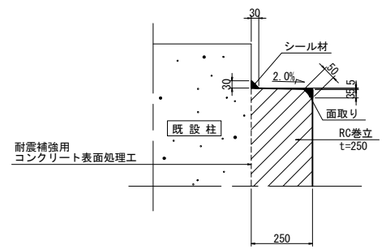
側 面 図 S=1:125



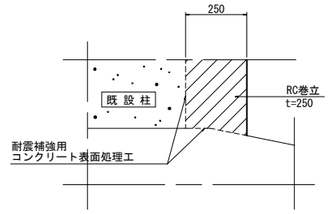
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

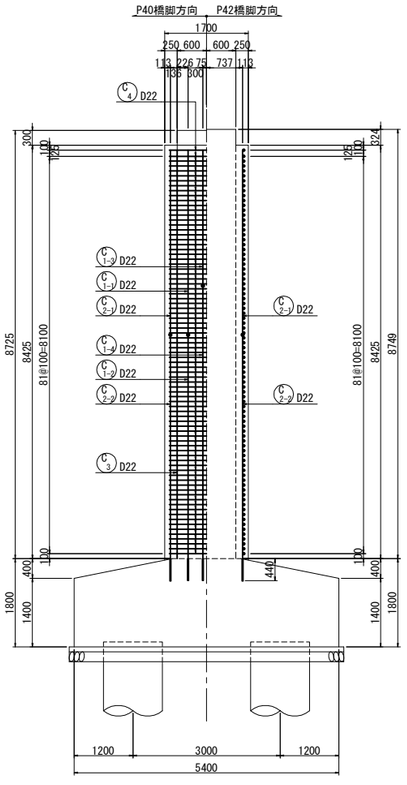
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P41橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P41橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

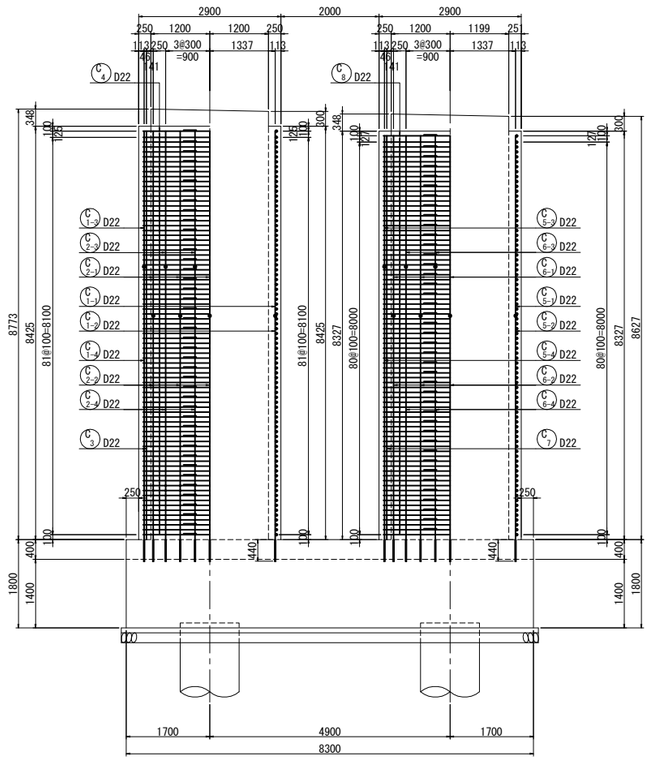
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



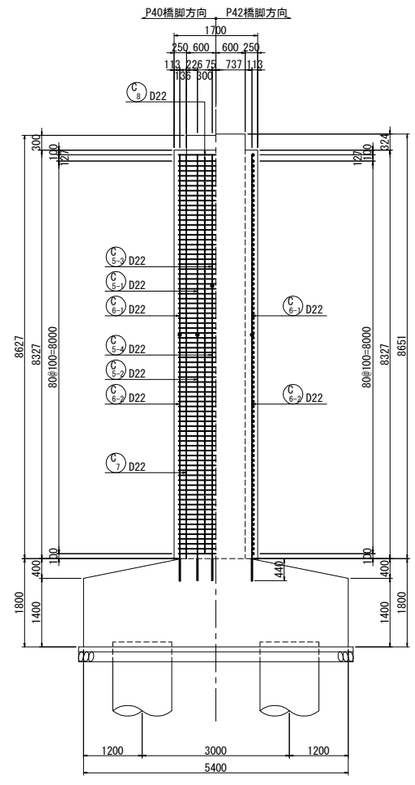
正 面 図 S=1:125

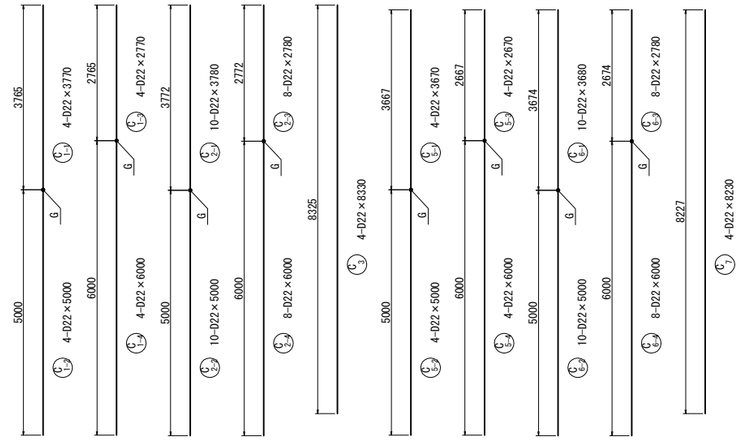
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

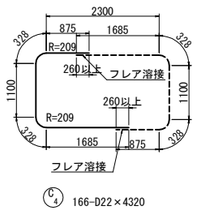


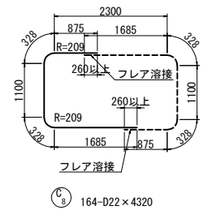
側 面 図 S=1:125

5 － 5　6 － 6



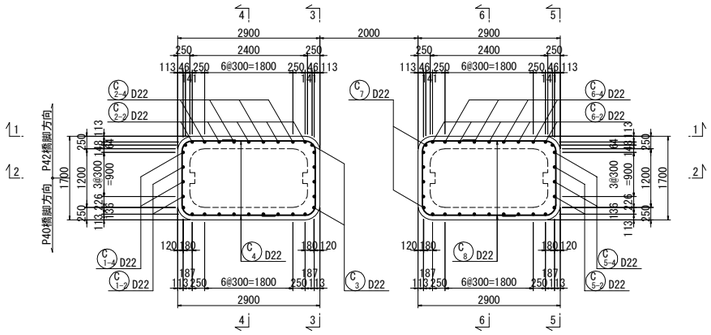




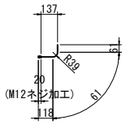


平 面 図 S=1:125

7 － 7



組立筋加工図(参考図)　S=1:50

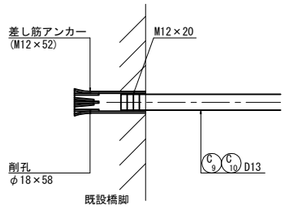


C9 56-D13×240

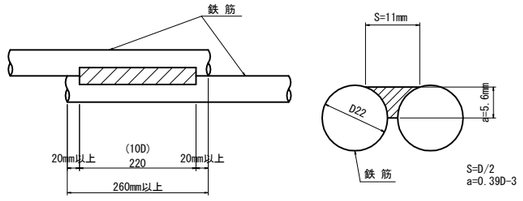
C10 56-D13×240

※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



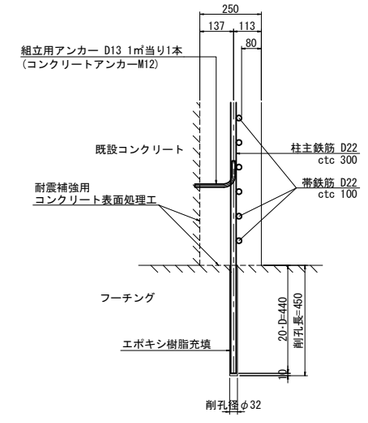
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3770	4	3.04	11.5	46	I
C 1-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	↑ <4>
C 1-3	D22	2770	4	3.04	8.42	34	I
C 1-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	↑ <4>
C 2-1	D22	3780	10	3.04	11.5	115	I
C 2-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	↑ <10>
C 2-3	D22	2780	8	3.04	8.45	68	I
C 2-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	↑ <8>
C 3	D22	8330	4	3.04	25.3	101	I
C 4	D22	4320	166	3.04	13.1	2175	⊏ (166)
C 5-1	D22	3670	4	3.04	11.2	45	I
C 5-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	↑ <4>
C 5-3	D22	2670	4	3.04	8.12	32	I
C 5-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	↑ <4>
C 6-1	D22	3680	10	3.04	11.2	112	I
C 6-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	↑ <10>
C 6-3	D22	2780	8	3.04	8.45	68	I
C 6-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	↑ <8>
C 7	D22	8230	4	3.04	25.0	100	I
C 8	D22	4320	164	3.04	13.1	2148	⊏ (164)
					小計	5908	kg

	フレア箇所	圧接箇所	
D22	5908 kg	(330)	<52> SD345
合計	5908 kg	(330)	<52> SD345

コンクリート削孔(φ18, L=58)	112	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32, L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	330	箇所	

かぶり詳細図　S=1:25

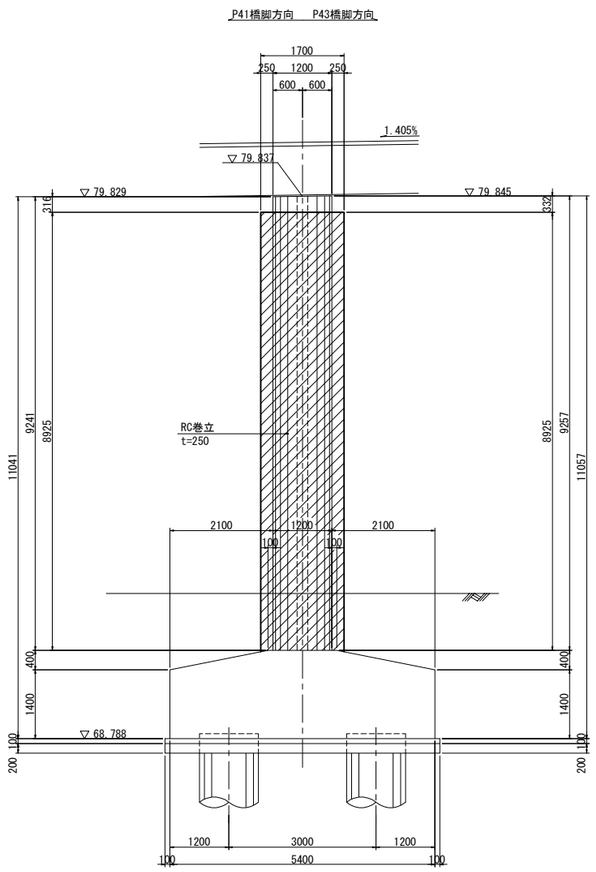


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

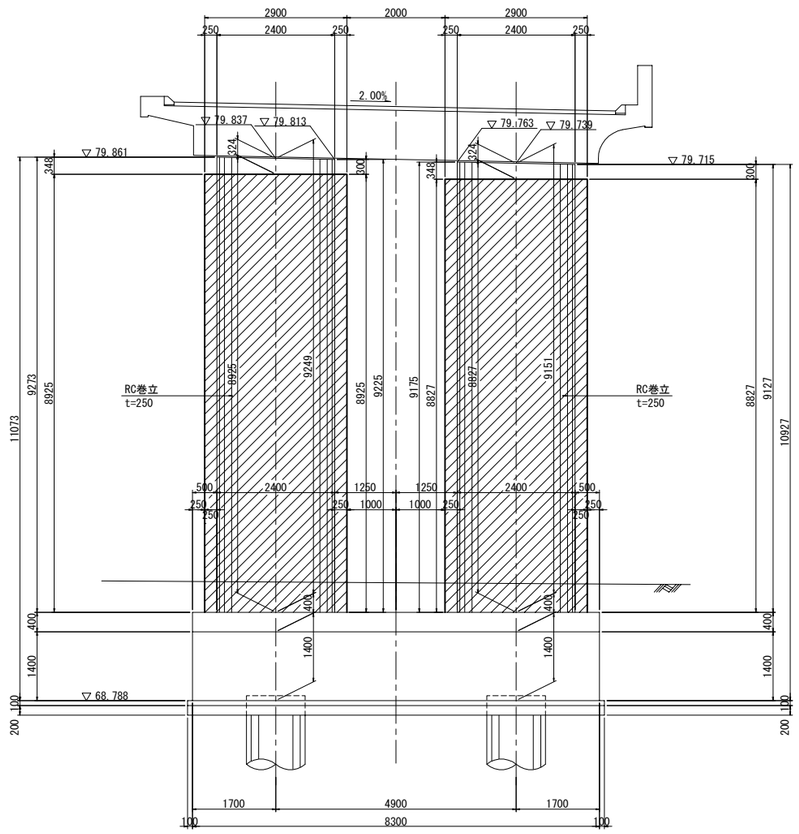
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P41橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P42橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

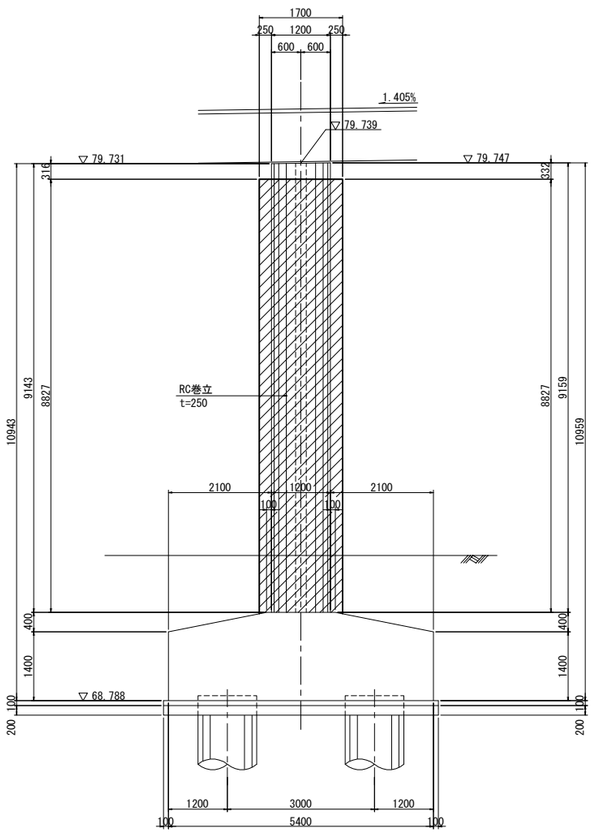
側 面 図 S=1:125



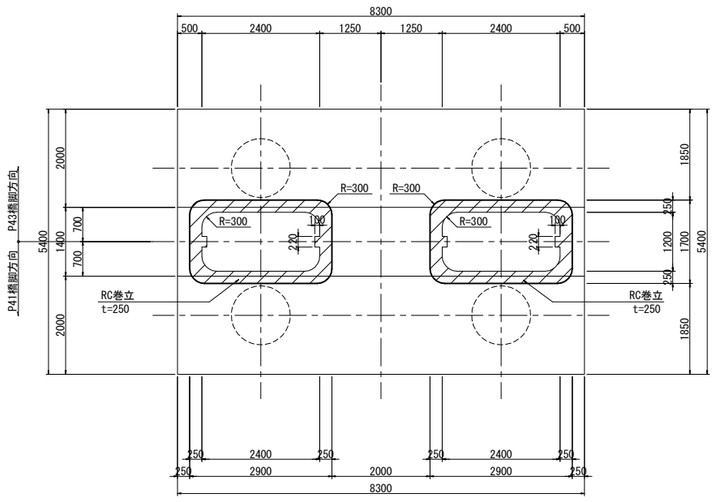
正 面 図 S=1:125



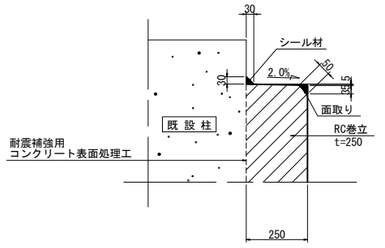
側 面 図 S=1:125



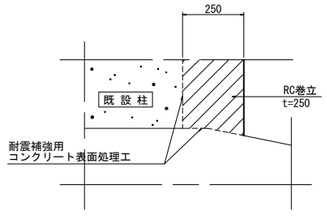
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



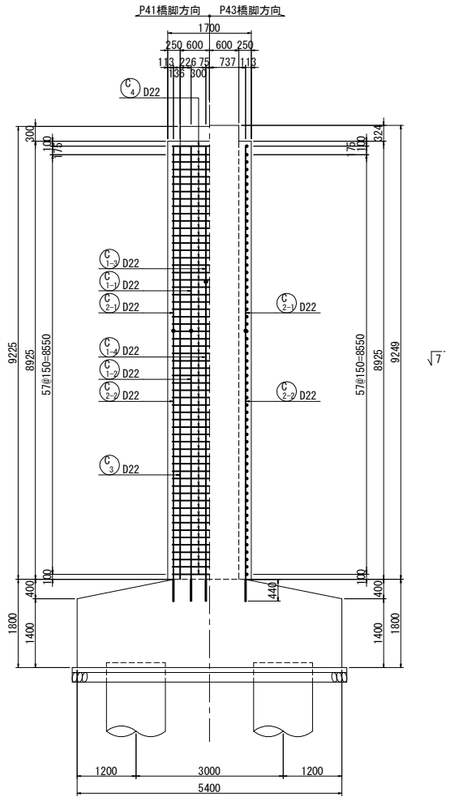
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

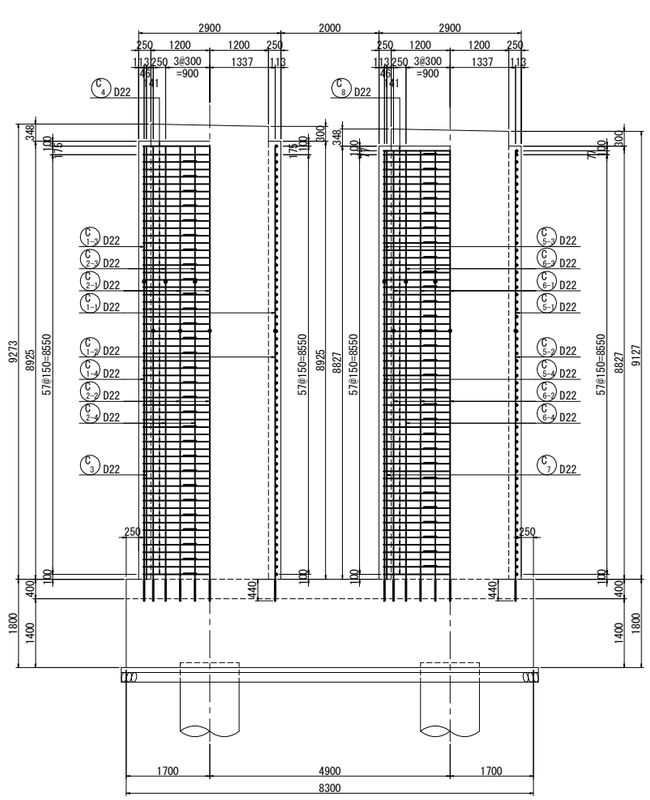
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P42橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P42橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

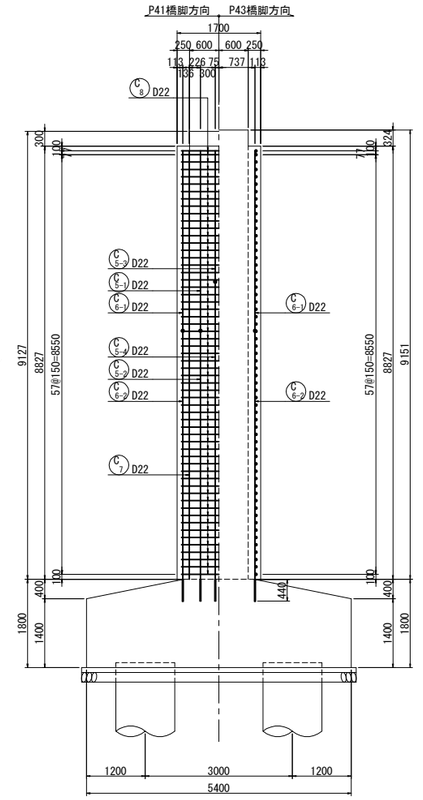
側 面 図 S=1:125
3 - 3　4 - 4

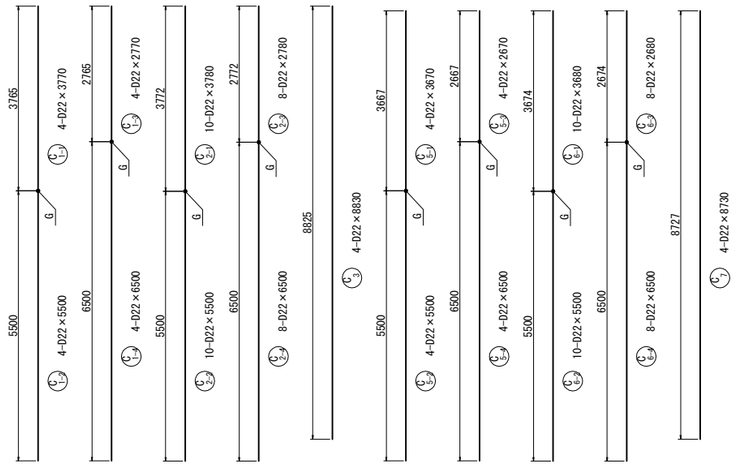


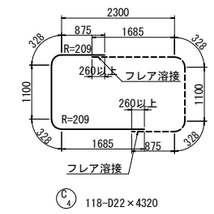
正 面 図 S=1:125
1 - 1　2 - 2　　1 - 1　2 - 2

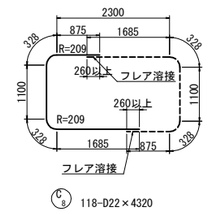


側 面 図 S=1:125
5 - 5　6 - 6

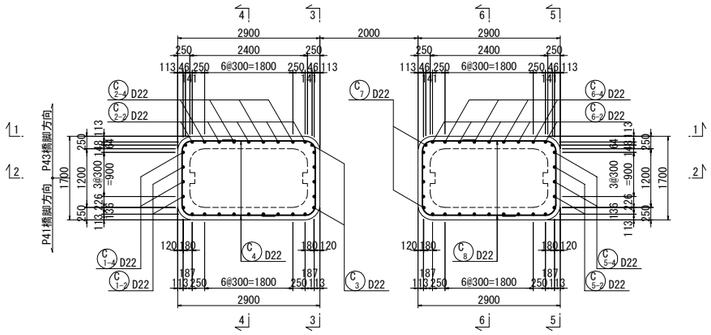




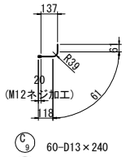




平 面 図 S=1:125
7 - 7

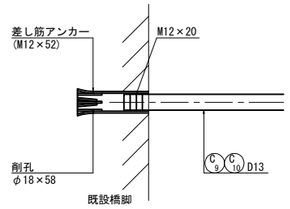


組立筋加工図(参考図)　S=1:50

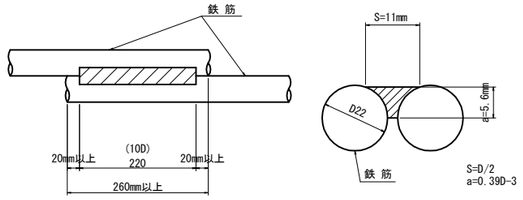


C9 60-D13×240
C10 59-D13×240
※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



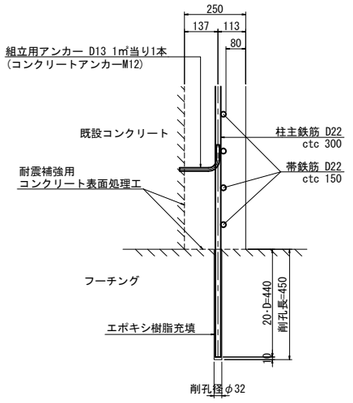
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3770	4	3.04	11.5	46	I
C 1-2	D22	5500	4	3.04	16.7	67	↑ <4>
C 1-3	D22	2770	4	3.04	8.42	34	I
C 1-4	D22	6500	4	3.04	19.8	79	↑ <4>
C 2-1	D22	3780	10	3.04	11.5	115	I
C 2-2	D22	5500	10	3.04	16.7	167	↑ <10>
C 2-3	D22	2780	8	3.04	8.45	68	I
C 2-4	D22	6500	8	3.04	19.8	158	↑ <8>
C 3	D22	8830	4	3.04	26.8	107	I
C 4	D22	4320	118	3.04	13.1	1546	⊏ (118)
C 5-1	D22	3670	4	3.04	11.2	45	I
C 5-2	D22	5500	4	3.04	16.7	67	↑ <4>
C 5-3	D22	2670	4	3.04	8.12	32	I
C 5-4	D22	6500	4	3.04	19.8	79	↑ <4>
C 6-1	D22	3680	10	3.04	11.2	112	I
C 6-2	D22	5500	10	3.04	16.7	167	↑ <10>
C 6-3	D22	2680	8	3.04	8.15	65	I
C 6-4	D22	6500	8	3.04	19.8	158	↑ <8>
C 7	D22	8730	4	3.04	26.5	106	I
C 8	D22	4320	118	3.04	13.1	1546	⊏ (118)
					小計	4764	kg

	フレア箇所	圧接箇所	
D22	4764 kg	(236)	<52> SD345
合計	4764 kg	(236)	<52> SD345

コンクリート削孔(φ18, L=58)		箇所 (参考)
コンクリート削孔(φ32, L=450)	52	箇所
フレア溶接(D22)	236	箇所

かぶり詳細図　S=1:25

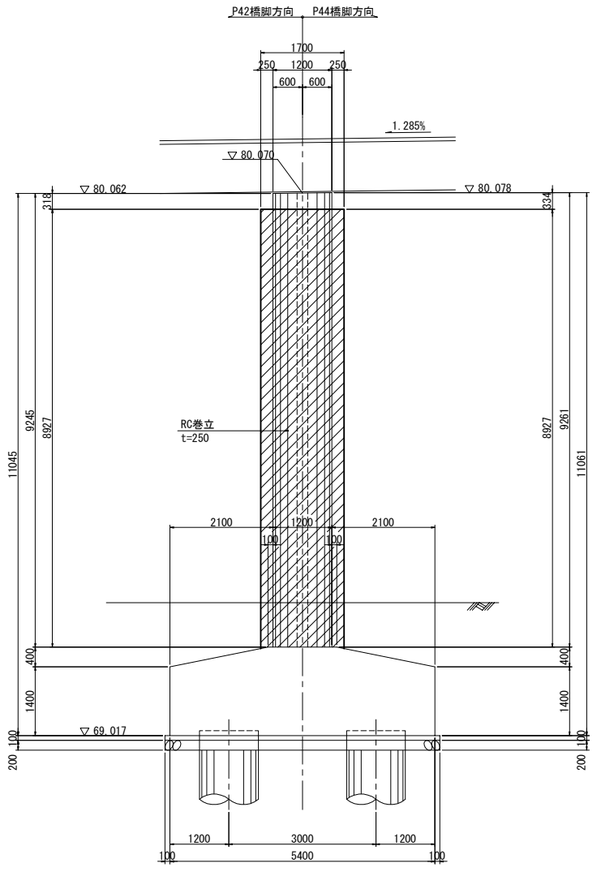


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

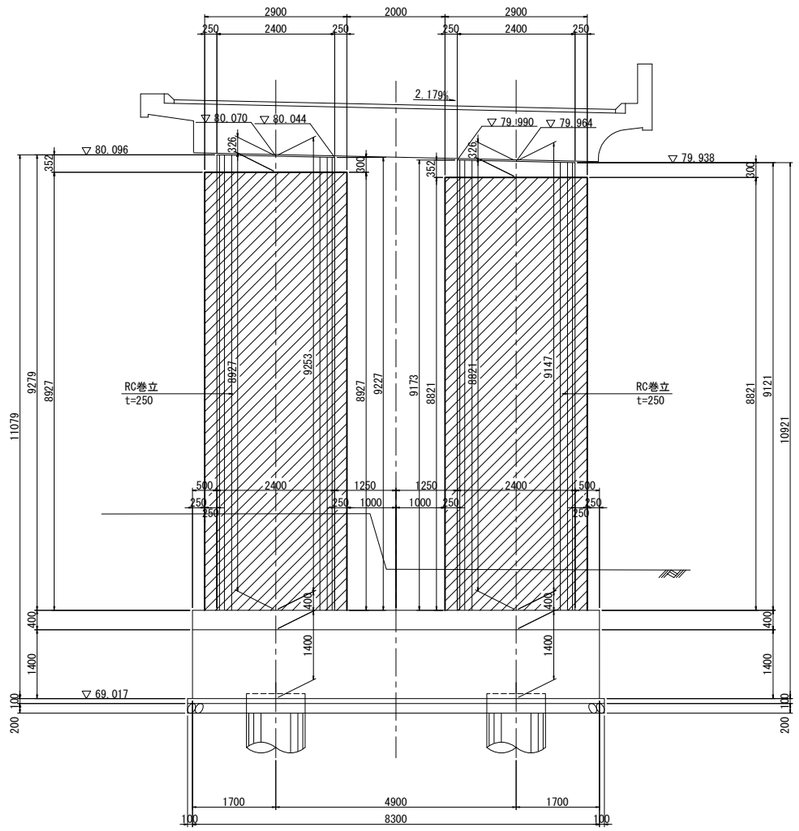
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P42橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P43橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

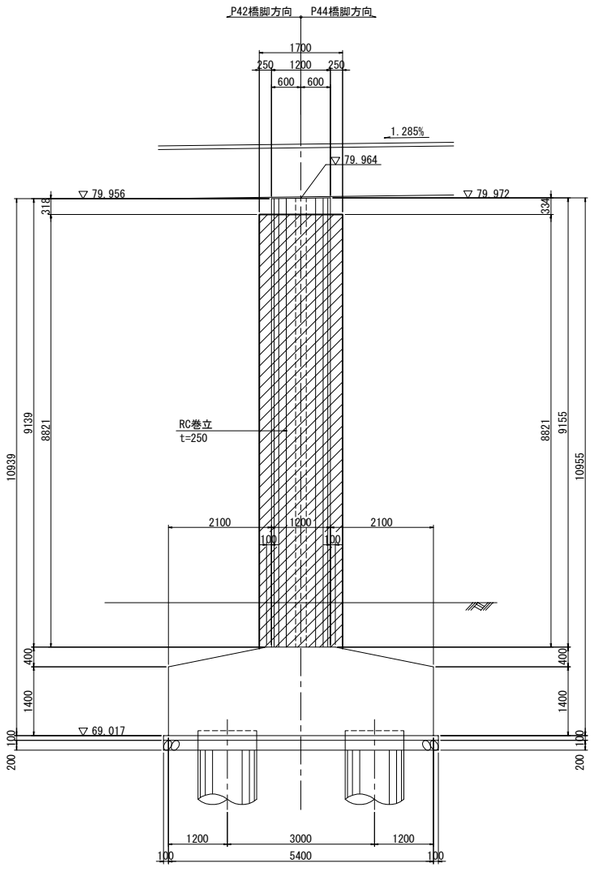
側 面 図 S=1:125



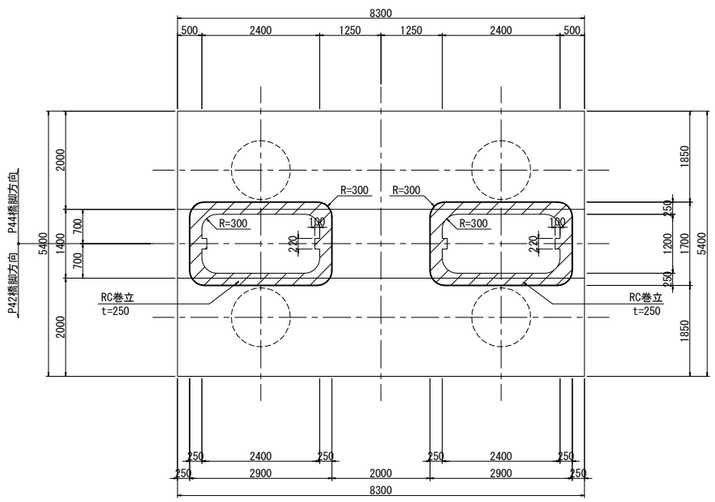
正 面 図 S=1:125



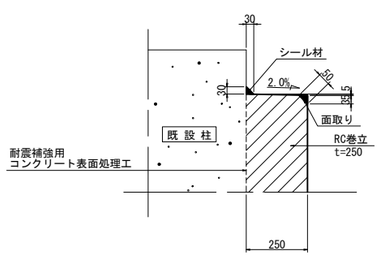
側 面 図 S=1:125



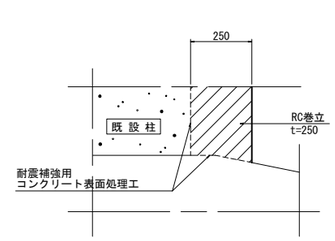
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



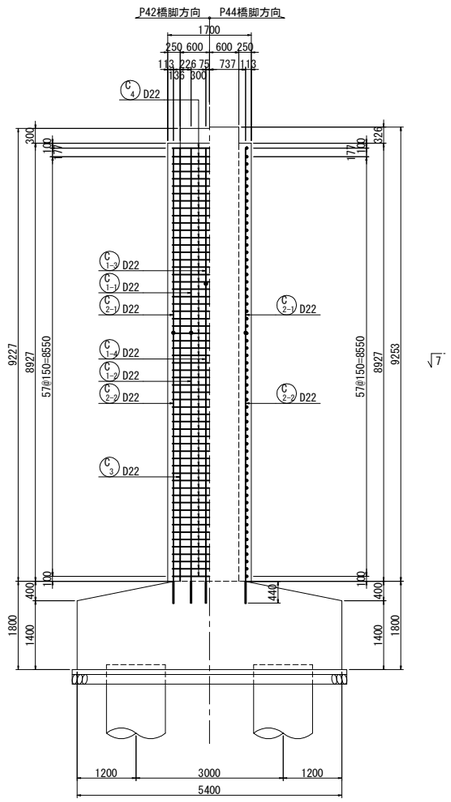
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

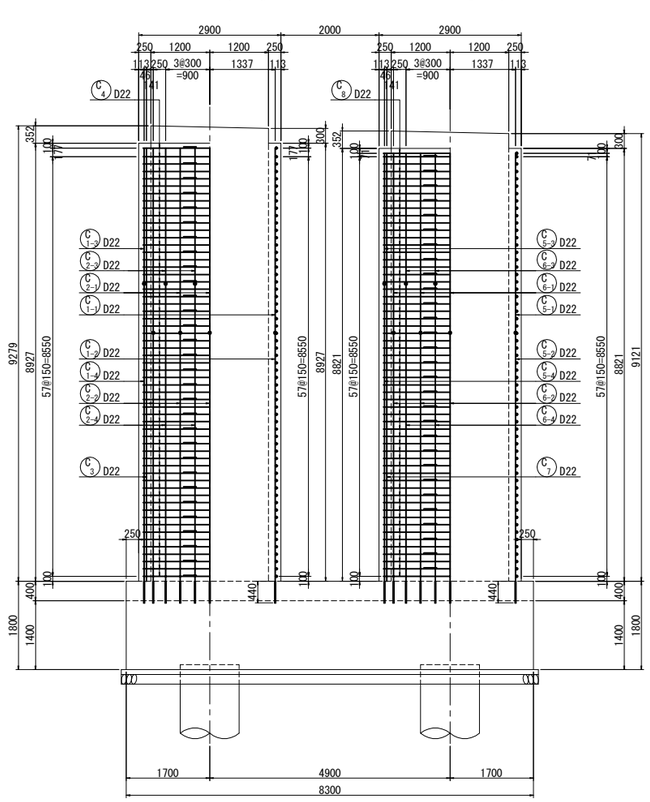
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P43橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P43橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

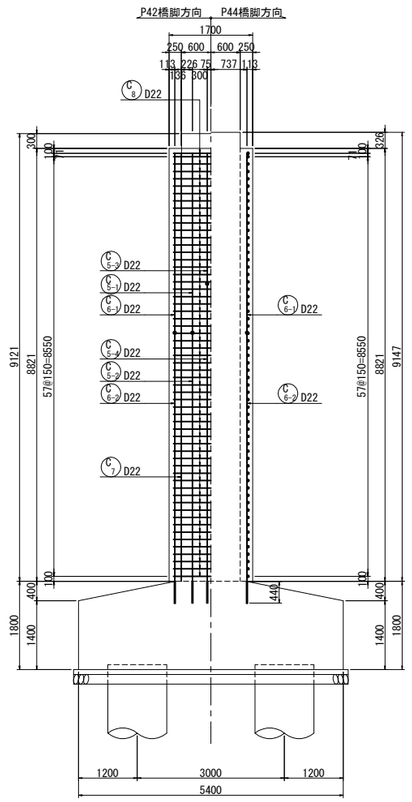
側 面 図 S=1:125
3 - 3　4 - 4

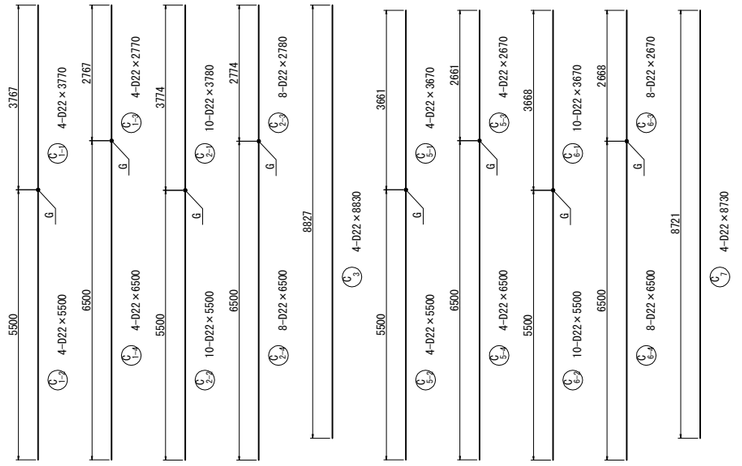


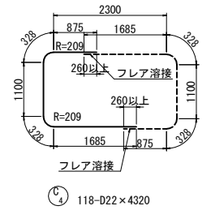
正 面 図 S=1:125
1 - 1　2 - 2　　1 - 1　2 - 2

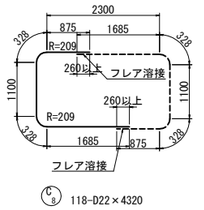


側 面 図 S=1:125
5 - 5　6 - 6

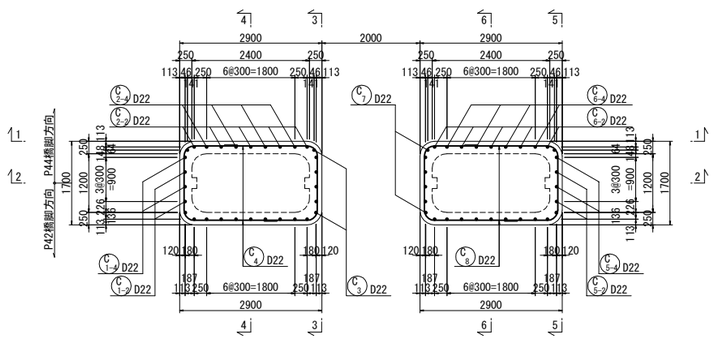




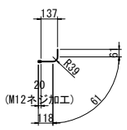




平 面 図 S=1:125
7 - 7



組立筋加工図(参考図)　S=1:50

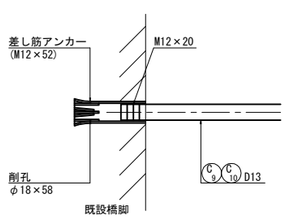


C9 60-D13×240

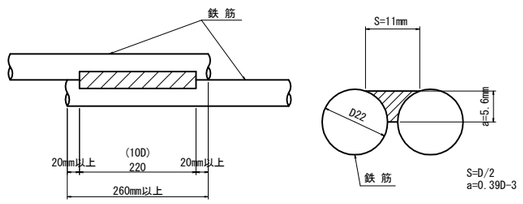
C10 59-D13×240

※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



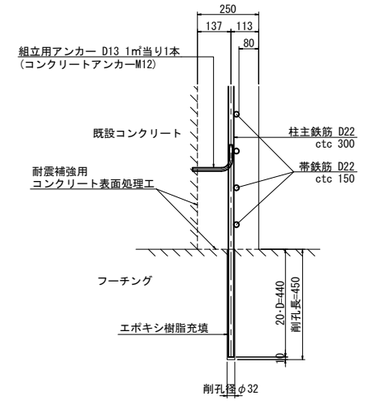
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3770	4	3.04	11.5	46	I
C 1-2	D22	5500	4	3.04	16.7	67	<4>
C 1-3	D22	2770	4	3.04	8.42	34	I
C 1-4	D22	6500	4	3.04	19.8	79	<4>
C 2-1	D22	3780	10	3.04	11.5	115	I
C 2-2	D22	5500	10	3.04	16.7	167	<10>
C 2-3	D22	2780	8	3.04	8.45	68	I
C 2-4	D22	6500	8	3.04	19.8	158	<8>
C 3	D22	8830	4	3.04	26.8	107	I
C 4	D22	4320	118	3.04	13.1	1546	(118)
C 5-1	D22	3670	4	3.04	11.2	45	I
C 5-2	D22	5500	4	3.04	16.7	67	<4>
C 5-3	D22	2670	4	3.04	8.12	32	I
C 5-4	D22	6500	4	3.04	19.8	79	<4>
C 6-1	D22	3670	10	3.04	11.2	112	I
C 6-2	D22	5500	10	3.04	16.7	167	<10>
C 6-3	D22	2670	8	3.04	8.12	65	I
C 6-4	D22	6500	8	3.04	19.8	158	<8>
C 7	D22	8730	4	3.04	26.5	106	I
C 8	D22	4320	118	3.04	13.1	1546	(118)
					小計	4764	kg

	フレア箇所		圧接箇所		
D22	4764	kg	(236)	<52>	SD345
合計	4764	kg	(236)	<52>	SD345

コンクリート削孔(φ18, L=58)	119	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32, L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	236	箇所	

かぶり詳細図　S=1:25

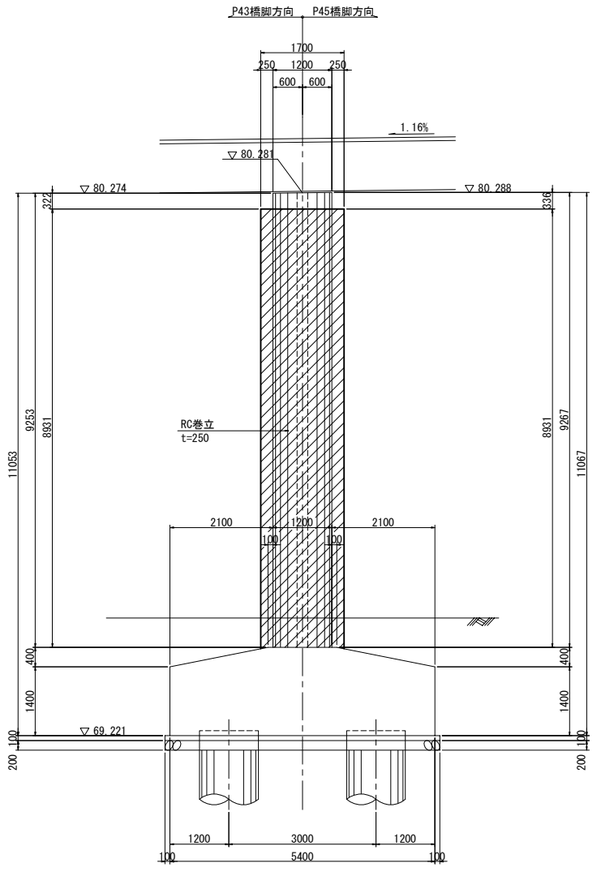


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

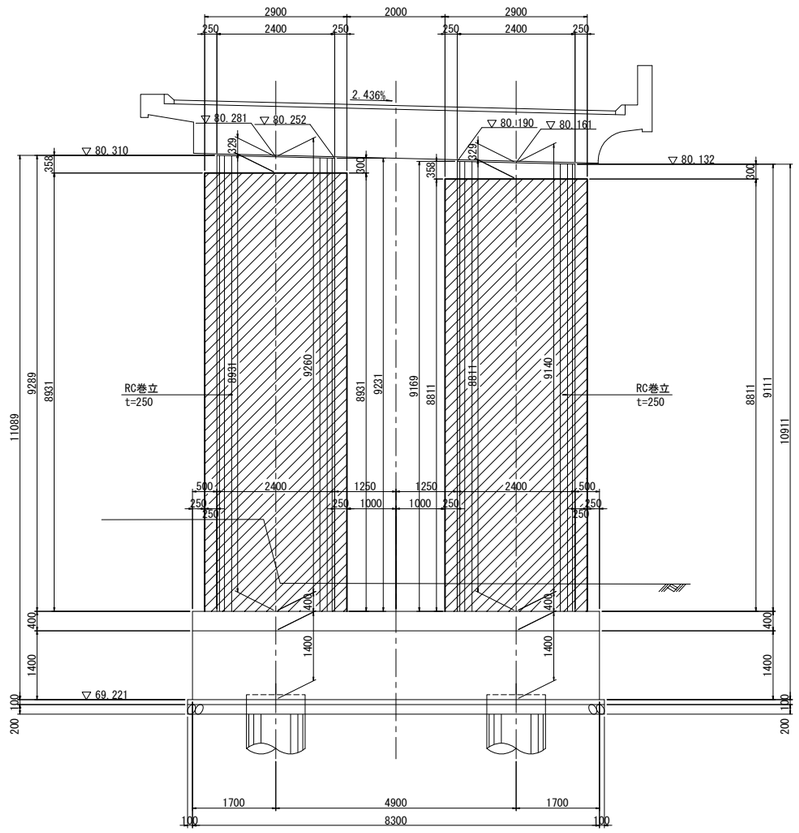
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事				
図面の種類	入間川高架橋 P43橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）			
縮　尺	図示	図面番号	/	
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所			

P44橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

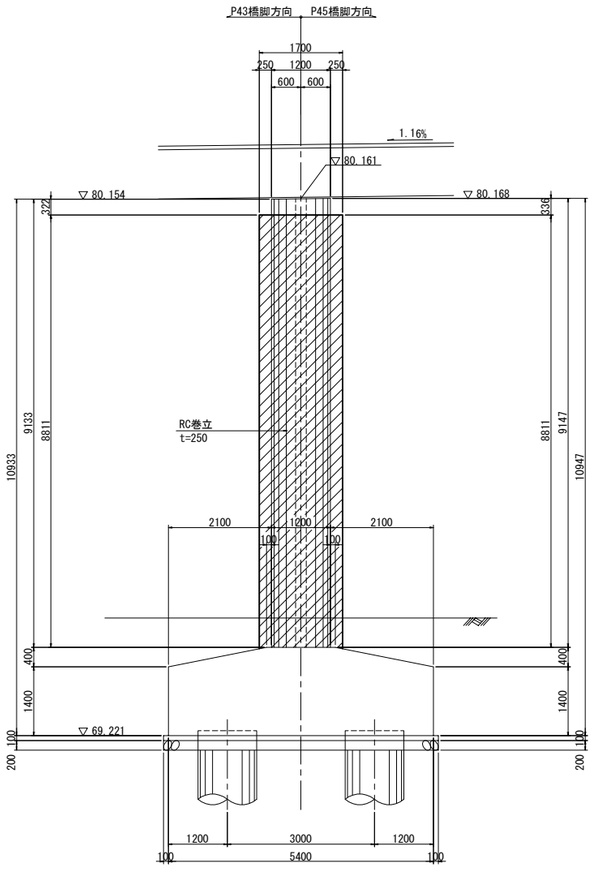
側 面 図 S=1:125



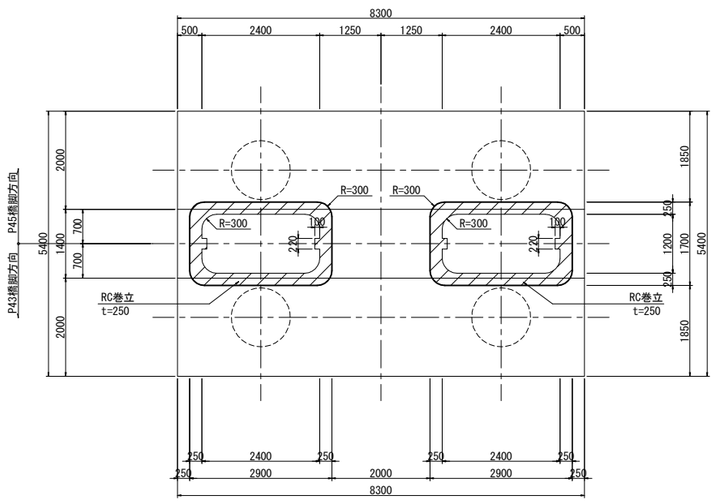
正 面 図 S=1:125



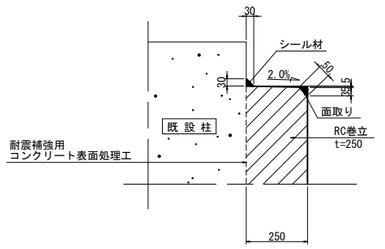
側 面 図 S=1:125



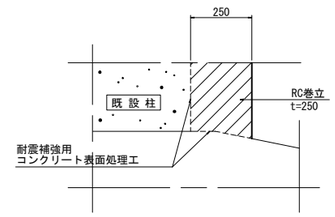
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



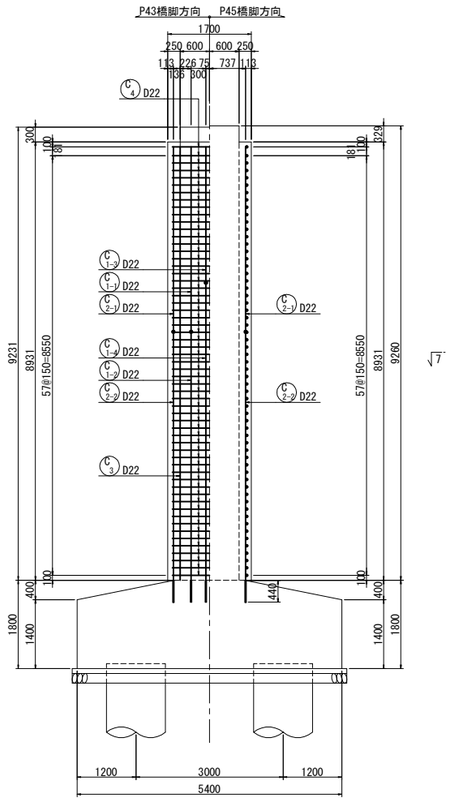
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

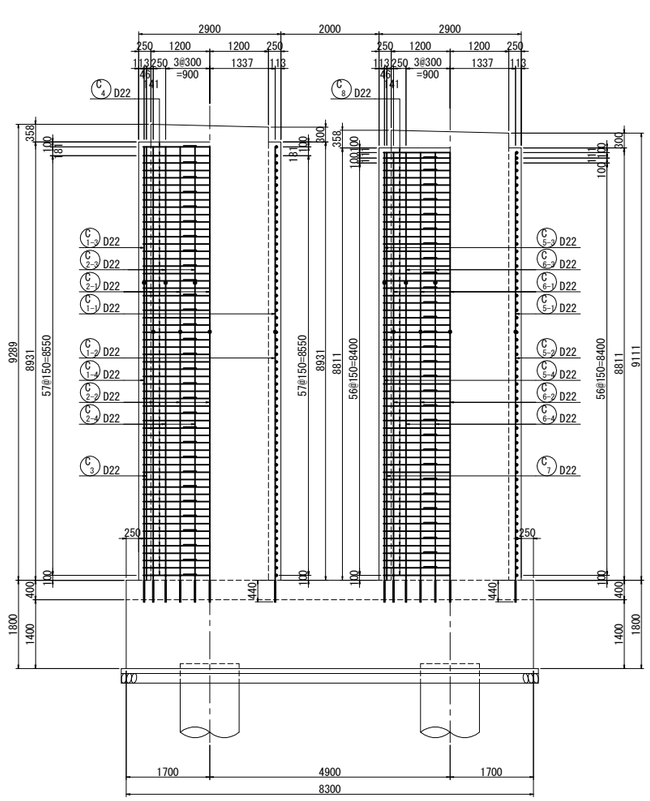
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P44橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P44橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

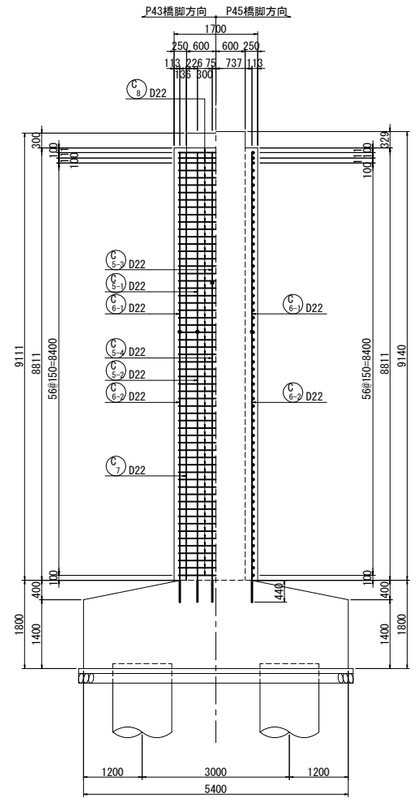
側 面 図 S=1:125
3 - 3　4 - 4

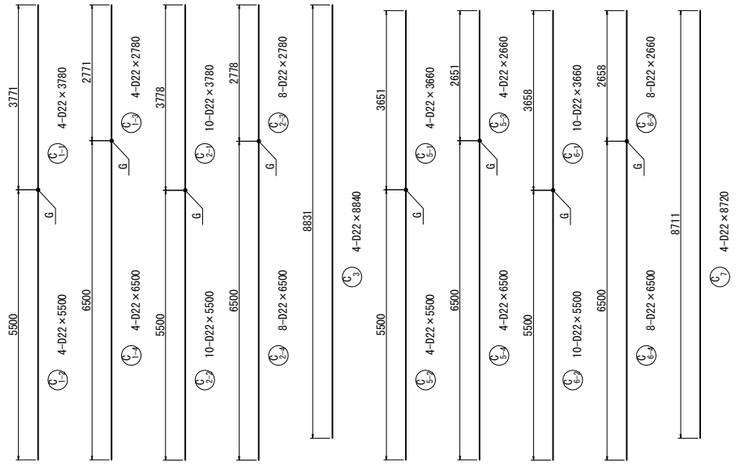


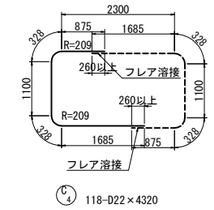
正 面 図 S=1:125
1 - 1　2 - 2　　1 - 1　2 - 2

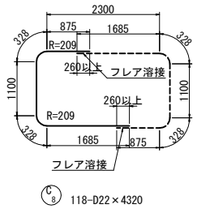


側 面 図 S=1:125
5 - 5　6 - 6

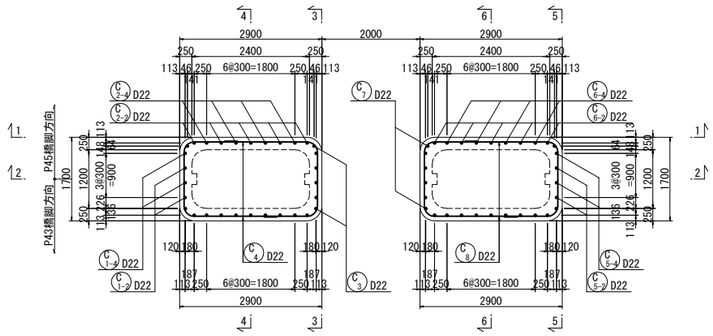




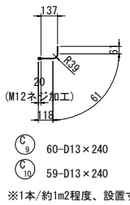




平 面 図 S=1:125
7 - 7

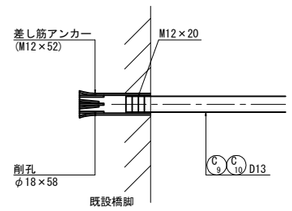


組立筋加工図(参考図)　S=1:50

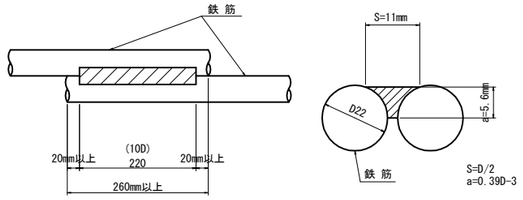


※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



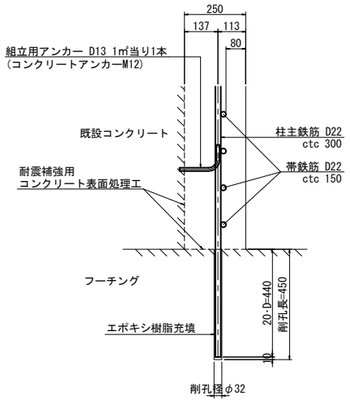
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3780	4	3.04	11.5	46	
C 1-2	D22	5500	4	3.04	16.7	67	<4>
C 1-3	D22	2780	4	3.04	8.45	34	
C 1-4	D22	6500	4	3.04	19.8	79	<4>
C 2-1	D22	3780	10	3.04	11.5	115	
C 2-2	D22	5500	10	3.04	16.7	167	<10>
C 2-3	D22	2780	8	3.04	8.45	68	
C 2-4	D22	6500	8	3.04	19.8	158	<8>
C 3	D22	8840	4	3.04	26.9	108	
C 4	D22	4320	118	3.04	13.1	1546	(118)
C 5-1	D22	3660	4	3.04	11.1	44	
C 5-2	D22	5500	4	3.04	16.7	67	<4>
C 5-3	D22	2660	4	3.04	8.09	32	
C 5-4	D22	6500	4	3.04	19.8	79	<4>
C 6-1	D22	3660	10	3.04	11.1	111	
C 6-2	D22	5500	10	3.04	16.7	167	<10>
C 6-3	D22	2660	8	3.04	8.09	65	
C 6-4	D22	6500	8	3.04	19.8	158	<8>
C 7	D22	8720	4	3.04	26.5	106	
C 8	D22	4320	118	3.04	13.1	1546	(118)
					小計	4763	kg

	フレア箇所	圧接箇所	
D22	4763 kg	(236)	<52> SD345
合計	4763 kg	(236)	<52> SD345

コンクリート削孔(φ18, L=58)	119	箇所 (参考)
コンクリート削孔(φ32, L=450)	52	箇所
フレア溶接(D22)	236	箇所

かぶり詳細図　S=1:25

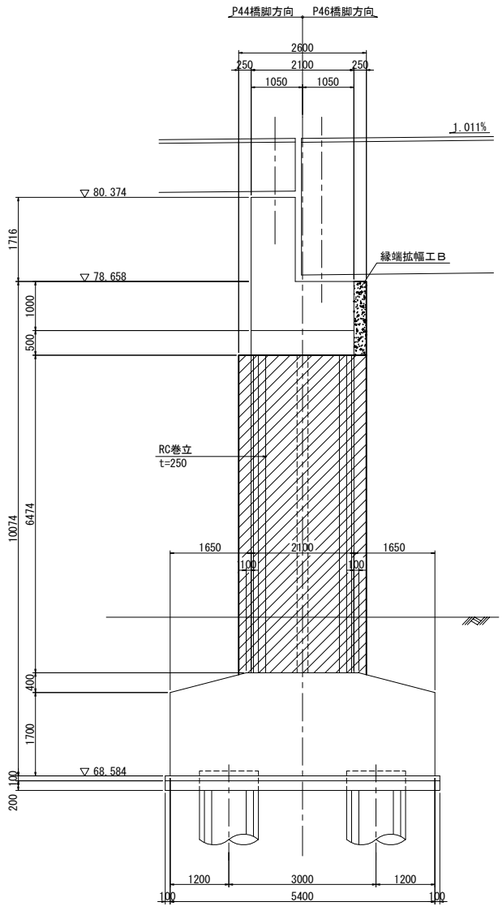


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

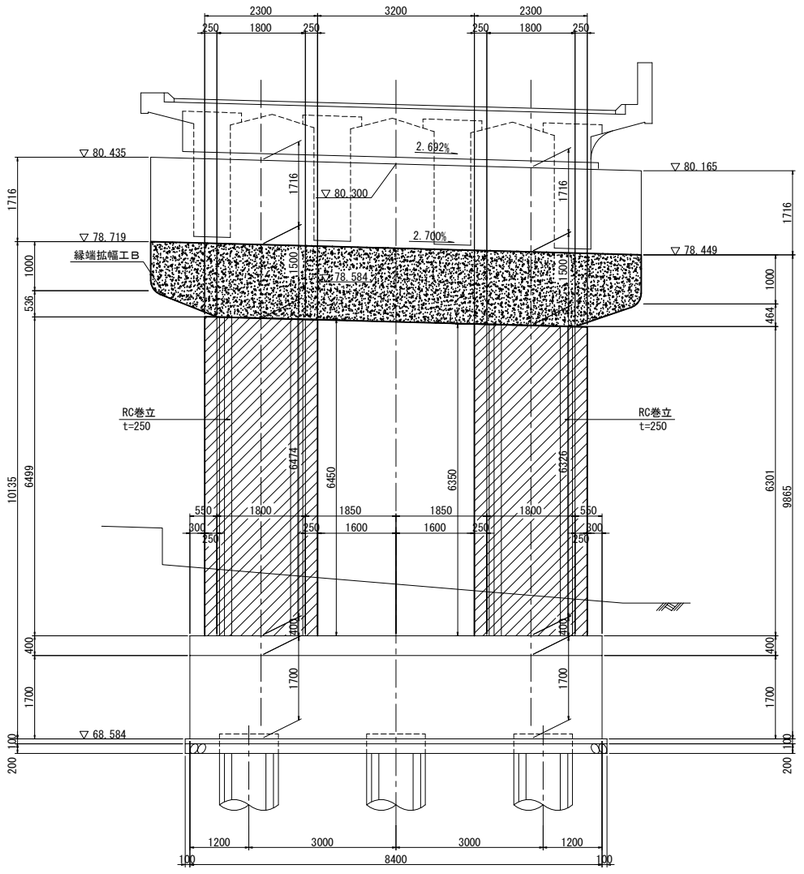
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P44橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）
縮 尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P45橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

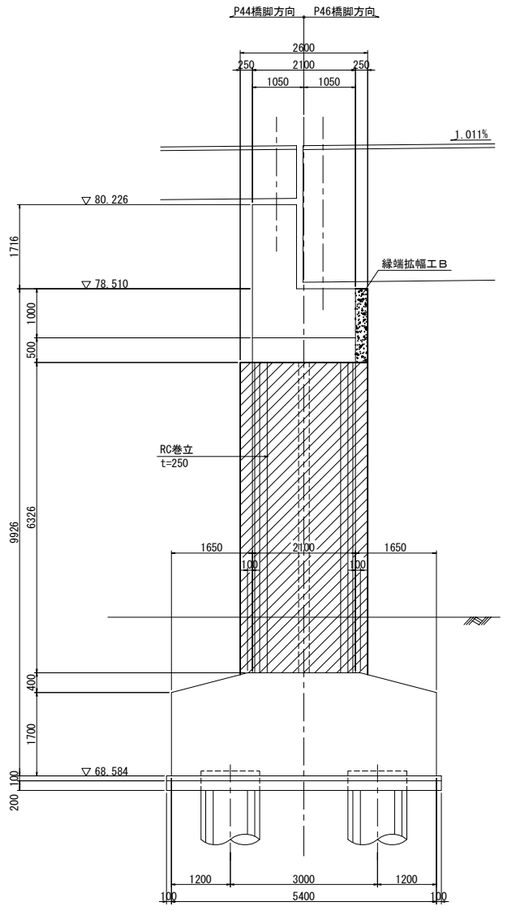
側 面 図 S=1:125



正 面 図 S=1:125

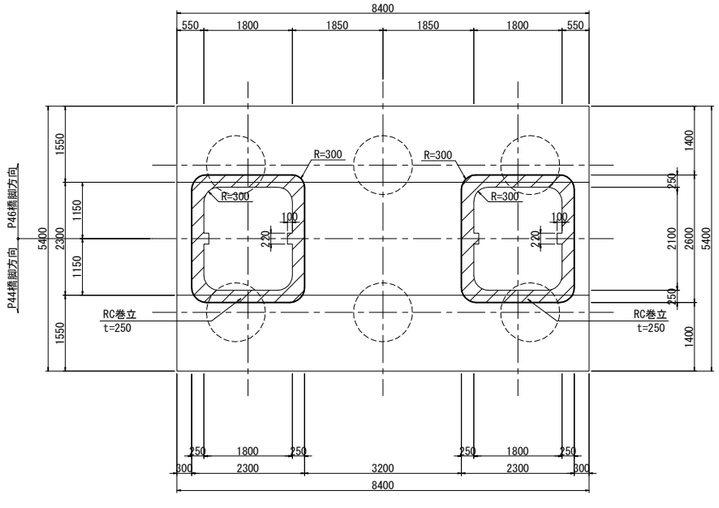


側 面 図 S=1:125

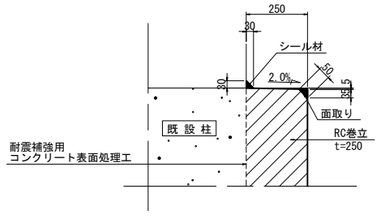


RC巻立範囲

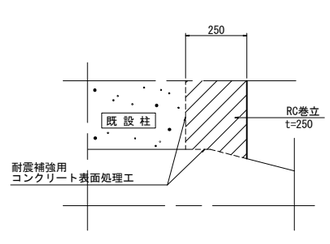
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

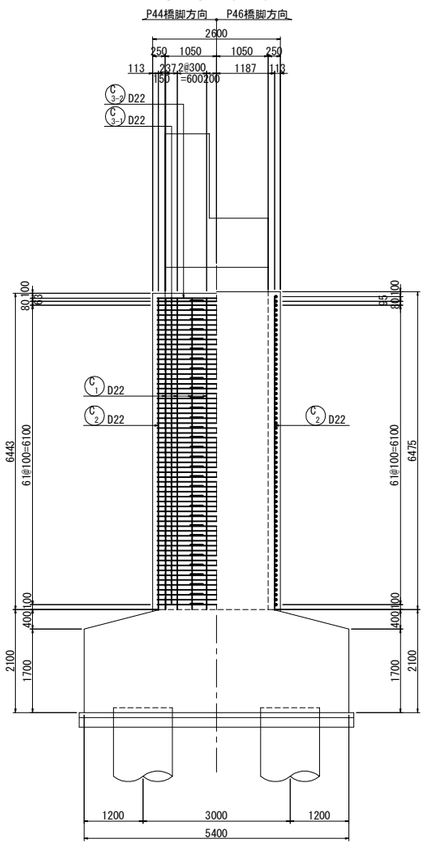
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。
3. 巻立て天端について、梁下をのぞく範囲にシール材および2.0%の勾配を設けること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P45橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P45橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

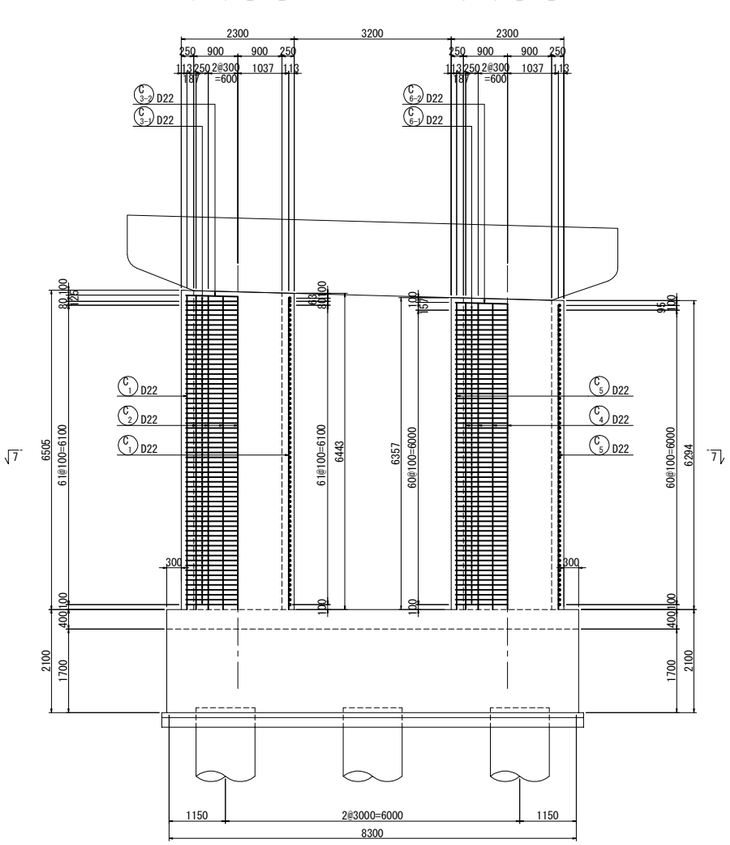
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



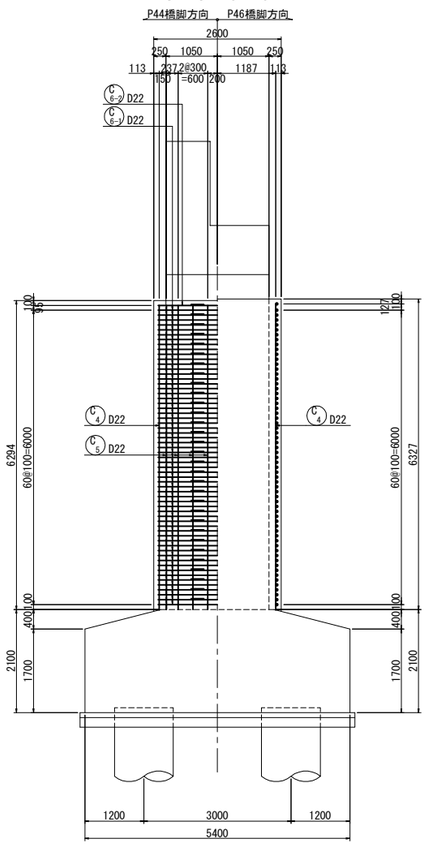
正 面 図 S=1:125

1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2



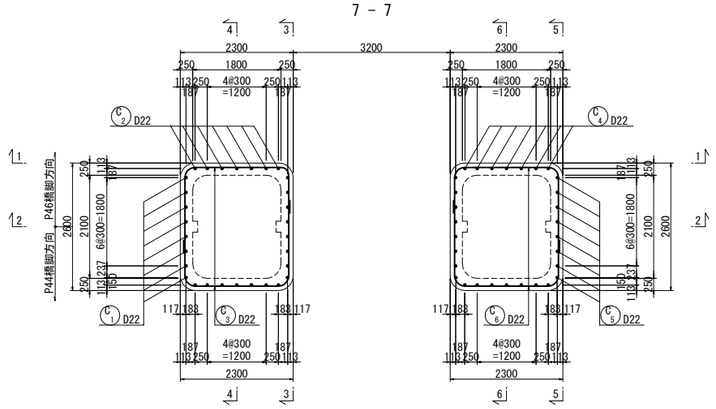
側 面 図 S=1:125

5 － 5　6 － 6



平 面 図 S=1:125

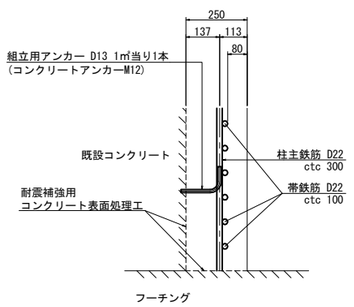
7 － 7



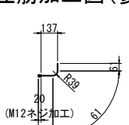
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1	D22	6390	16	3.04	19.4	310	I （平均長）
C 2	D22	6390	14	3.04	19.4	272	I （平均長）
C 3-1	D22	4620	126	3.04	14.0	1764	⊏ (126)
C 3-2	D22	4620	2	3.04	14.0	28	⊏ (2)
C 4	D22	6230	14	3.04	18.9	265	I （平均長）
C 5	D22	6240	16	3.04	19.0	304	I （平均長）
C 6-1	D22	4620	122	3.04	14.0	1708	⊏ (122)
C 6-2	D22	4620	2	3.04	14.0	28	⊏ (2)
					小計	4679	kg
フレア箇所							
	D22	4679	kg	(252)	SD345		
	合計	4679	kg	(252)	SD345		
コンクリート削孔（φ18, L=58）					93	箇所	（参考）
フレア溶接(D22)					252	箇所	

かぶり詳細図　S=1:25



組立筋加工図(参考図)　S=1:50

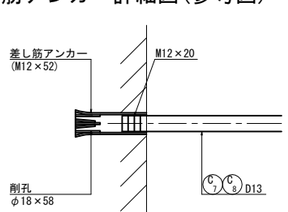


C7 47-D13×240

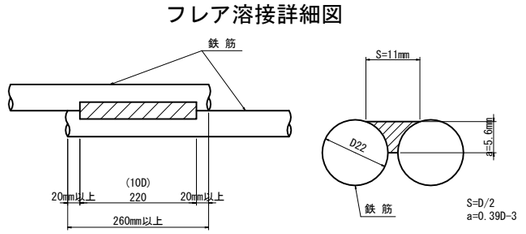
C8 46-D13×240

※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



C1 16-D22×6390 （平均長）

符号	本数	a	L
1	8	6420	6420
2	8	6346	6350
平均長	16		6390

C4 14-D22×6230 （平均長）

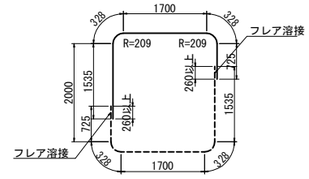
符号	本数	a	L
1	7	6254	6260
2	7	6198	6200
平均長	14		6230

C2 14-D22×6390 （平均長）

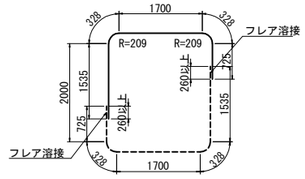
符号	本数	a	L
1	2	6407	6410
2	2	6400	6400
3	2	6392	6400
4	2	6384	6390
5	2	6376	6380
6	2	6368	6370
7	2	6361	6370
平均長	14		6390

C5 16-D22×6240 （平均長）

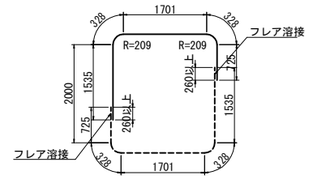
符号	本数	a	L
1	2	6259	6260
2	2	6252	6260
3	2	6244	6250
4	2	6236	6240
5	2	6228	6230
6	2	6220	6220
7	2	6213	6220
8	2		
平均長	16		6240



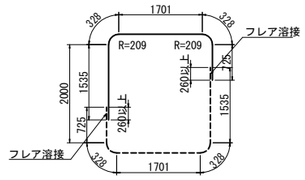
C3-2 126-D22×4620



C6-2 122-D22×4620



C3-1 2-D22×4620



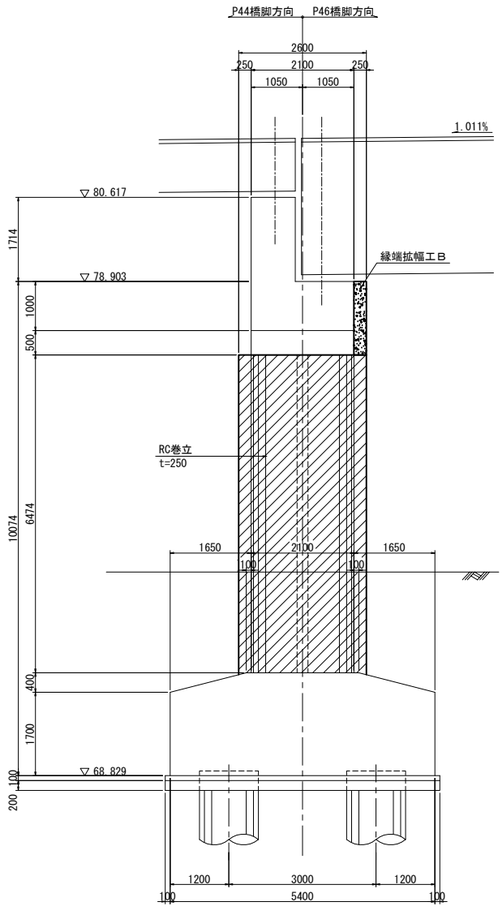
C6-1 2-D22×4620

注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。

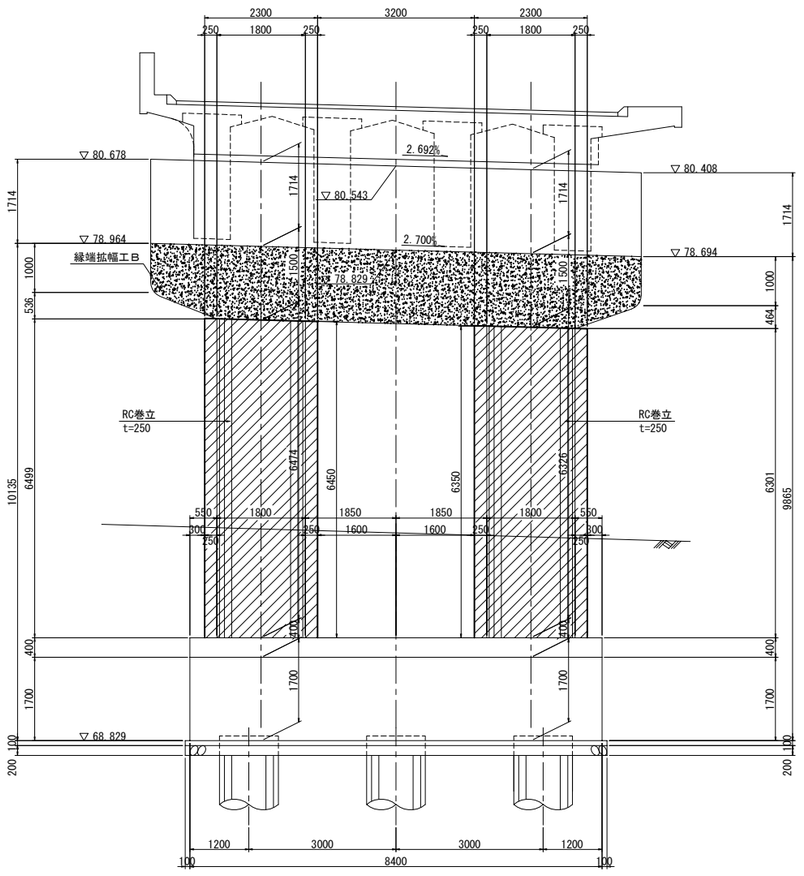
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P45橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P45橋脚 RC巻立て補強一般図（下り線）S=図示

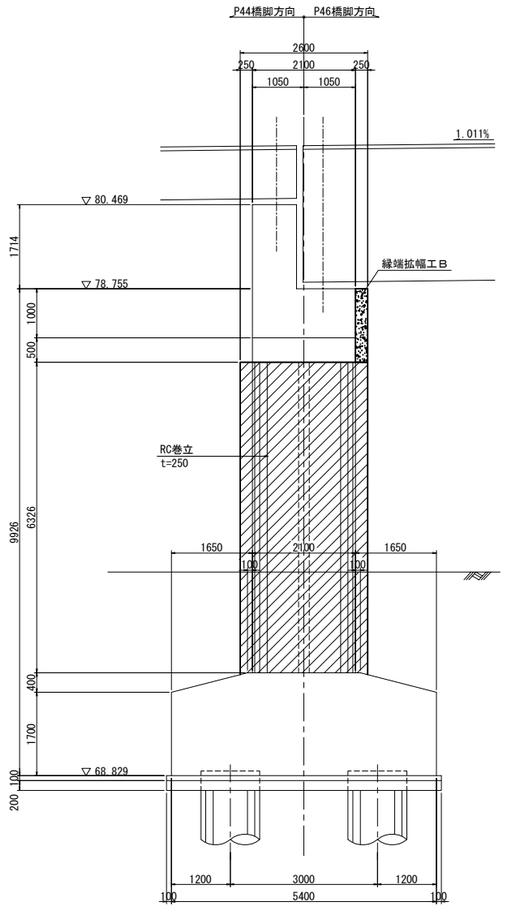
側 面 図 S=1:125



正 面 図 S=1:125

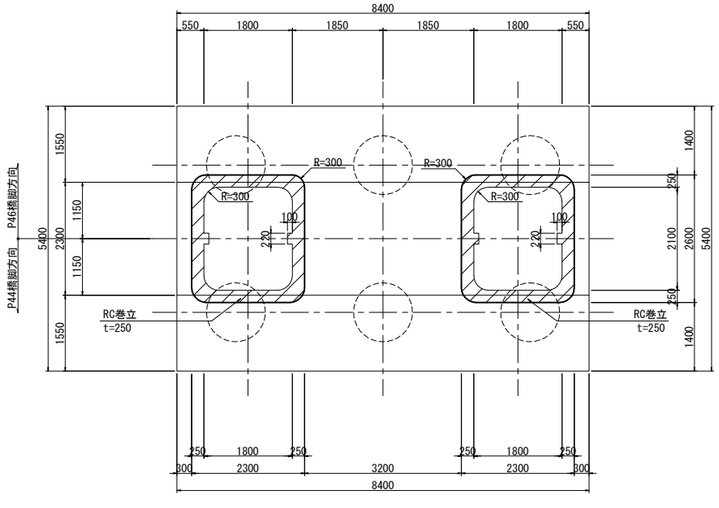


側 面 図 S=1:125

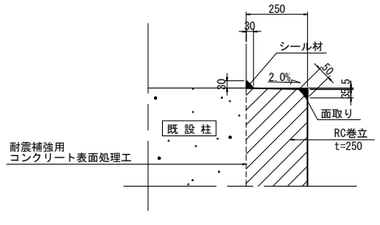


RC巻立範囲

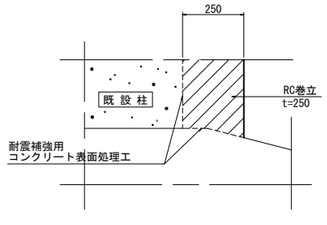
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

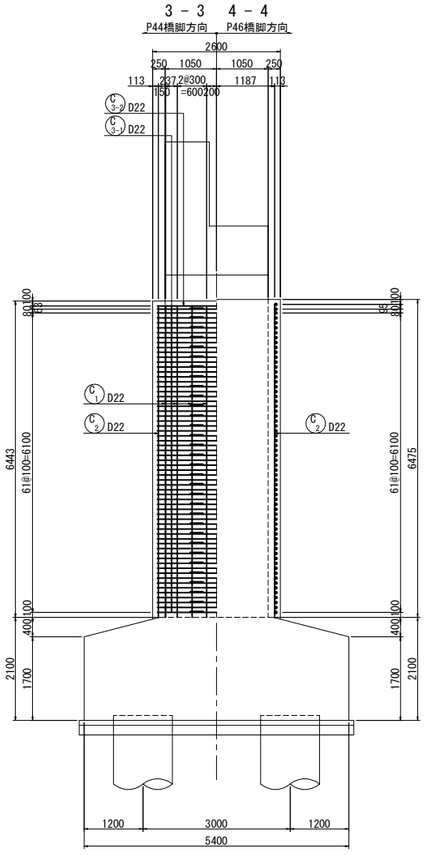
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。
3. 巻立て天端について、梁下をのぞく範囲にシール材および2.0%の勾配を設けること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P45橋脚 RC巻立て補強一般図（下り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P45橋脚 RC巻立て補強配筋図（下り線）S=図示

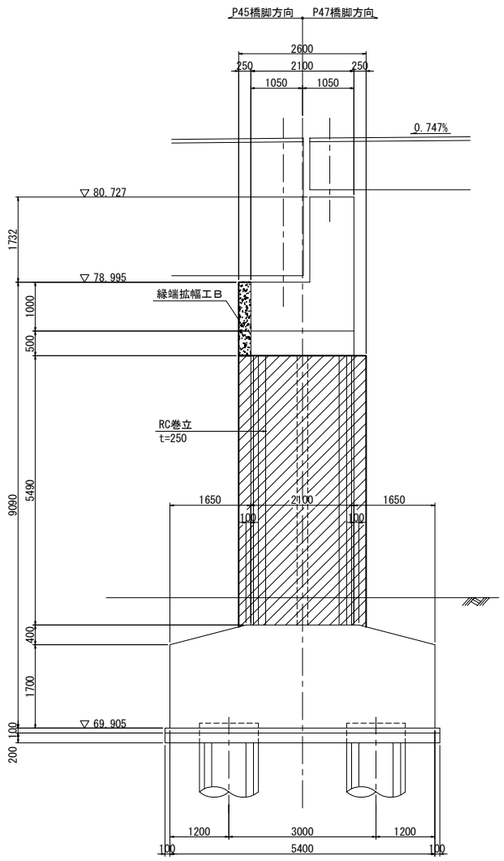
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4

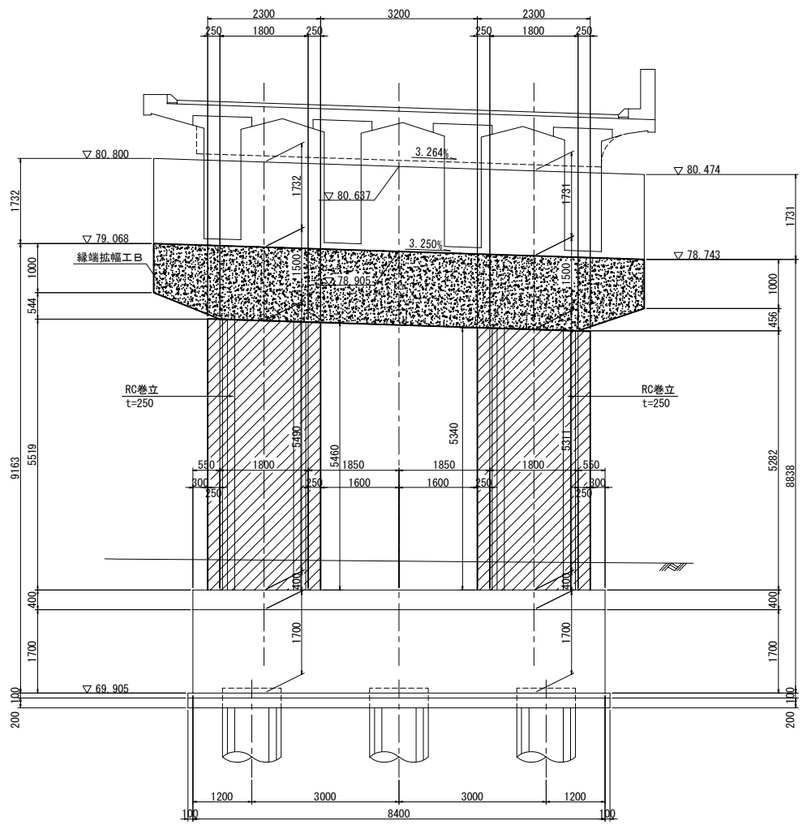

P44橋脚方向
P46橋脚方向
2600
250 1050 1050 250
113 237 2@300 1187 113
150 =600 200
C3-2 D22
C3-1 D22
C1 D22
C2 D22
C2 D22
80 100 100 100

P46橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

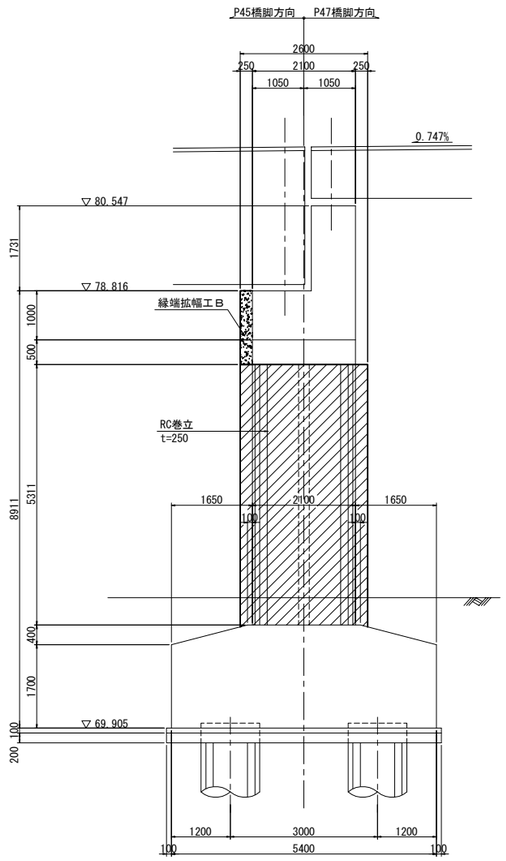
側 面 図 S=1:125



正 面 図 S=1:125

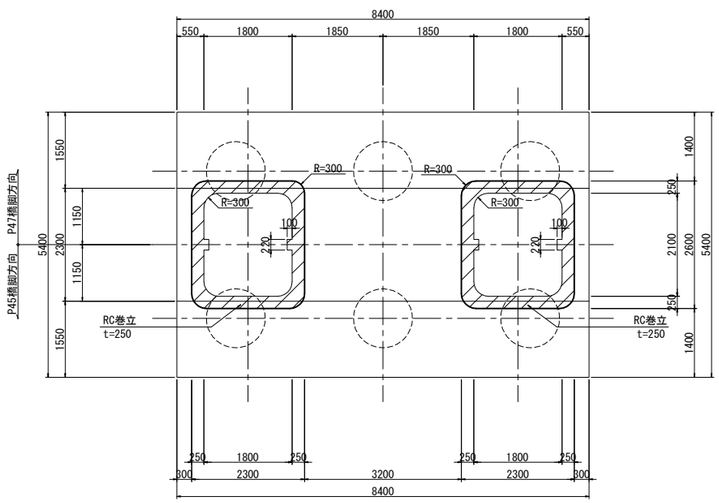


側 面 図 S=1:125

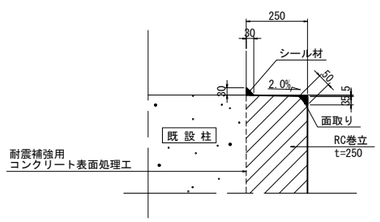


RC巻立範囲

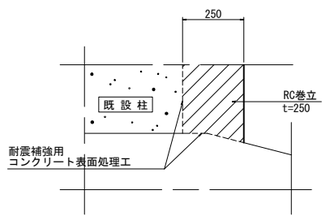
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

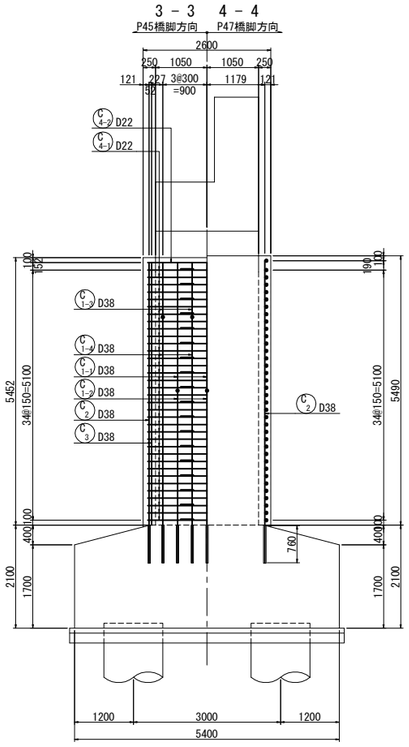
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。
3. 巻立て天端について、梁下をのぞく範囲にシール材および2.0%の勾配を設けること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P46橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P46橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

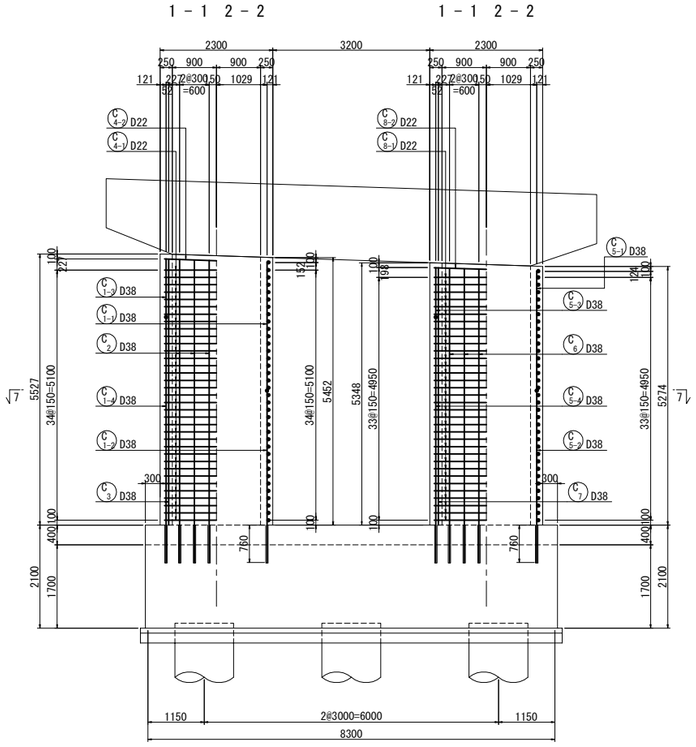
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



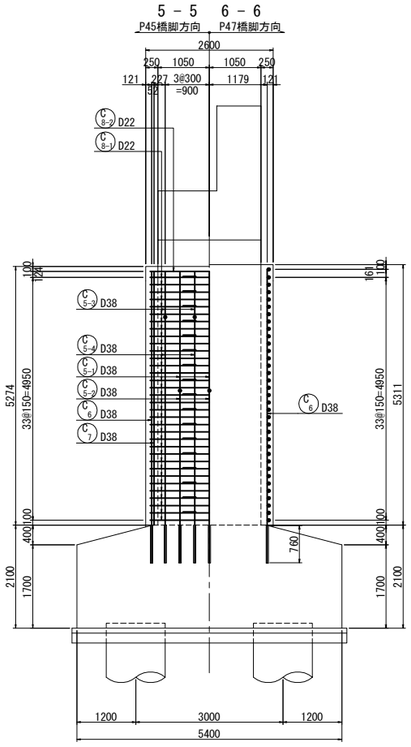
正 面 図 S=1:125

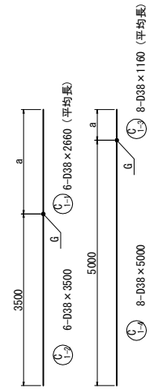
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2



側 面 図 S=1:125

5 － 5　6 － 6





C1-1 6-D38×2660 （平均長）

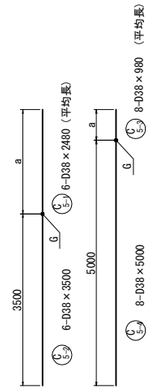
符号	本数	a	L
1	3	2683	2690
2	3	2616	2620
平均長	6		2660

C1-2 8-D38×1160 （平均長）

符号	本数	a	L
1	4	1183	1190
2	4	1116	1120
平均長	8		1160

C2 12-D38×6170 （平均長）

符号	本数	a	L
1	2	6181	6190
2	2	6171	6180
3	2	6162	6170
4	2	6152	6160
5	2	6142	6150
6	2	6132	6140
平均長	12		6170



C1-1 6-D38×2480 （平均長）

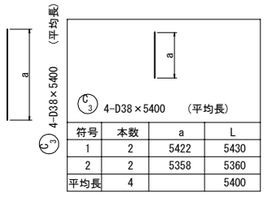
符号	本数	a	L
1	3	2504	2510
2	3	2438	2440
平均長	6		2480

C1-2 8-D38×980 （平均長）

符号	本数	a	L
1	4	1004	1010
2	4	938	940
平均長	8		980

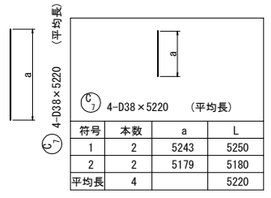
C6 12-D38×5990 （平均長）

符号	本数	a	L
1	2	6002	6010
2	2	5992	6000
3	2	5983	5990
4	2	5973	5980
5	2	5963	5970
6	2	5954	5960
平均長	12		5990



C3 4-D38×5400 （平均長）

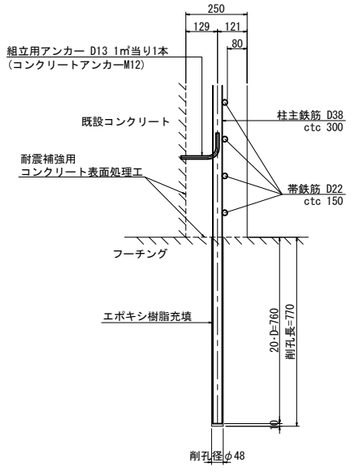
符号	本数	a	L
1	2	5422	5430
2	2	5358	5360
平均長	4		5400



C7 4-D38×5220 （平均長）

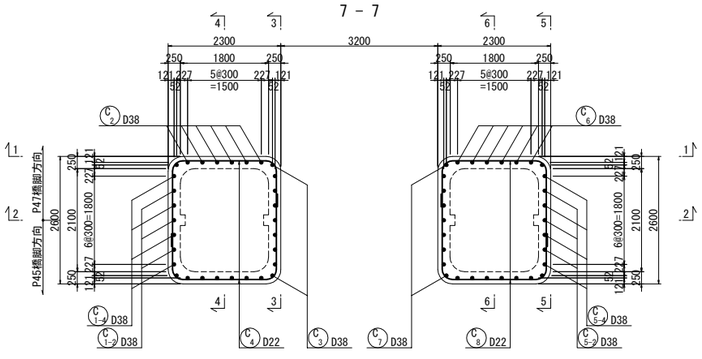
符号	本数	a	L
1	2	5243	5250
2	2	5179	5180
平均長	4		5220

かぶり詳細図　S=1:25



平 面 図 S=1:125

7 － 7

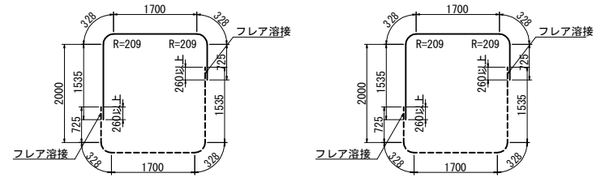


鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D38	2660	6	8.95	23.8	143	（平均長）
C 1-2	D38	3500	6	8.95	31.3	188	<6>
C 1-3	D38	1160	8	8.95	10.4	83	（平均長）
C 1-4	D38	5000	8	8.95	44.8	358	<8>
C 2	D38	6170	12	8.95	55.2	662	（平均長）
C 3	D38	5400	4	8.95	48.3	193	（平均長）
C 4-1	D22	4620	70	3.04	14.0	980	(70)
C 4-2	D22	4620	2	3.04	14.0	28	(2)
C 5-1	D38	2480	6	8.95	22.2	133	（平均長）
C 5-2	D38	3500	6	8.95	31.3	188	<6>
C 5-3	D38	980	8	8.95	8.77	70	（平均長）
C 5-4	D38	5000	8	8.95	44.8	358	<8>
C 6	D38	5990	12	8.95	53.6	643	（平均長）
C 7	D38	5220	4	8.95	46.7	187	（平均長）
C 8-1	D22	4620	68	3.04	14.0	952	(68)
C 8-2	D22	4620	2	3.04	14.0	28	(2)
					小計	5194	kg

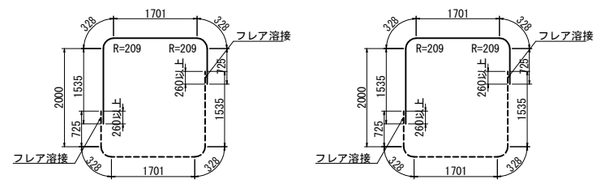
	フレア箇所	圧接箇所	
D38	3206 kg	<28>	SD345
D22	1988 kg (142)	<28>	SD345
合計	5194 kg (142)	<28>	SD345

コンクリート削孔（φ18, L=58）	79	箇所	（参考）
コンクリート削孔（φ48, L=770）	52	箇所	
フレア溶接（D22）	142	箇所	



C4-1 70-D22×4620

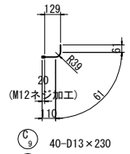
C8-1 68-D22×4620



C4-2 2-D22×4620

C8-2 2-D22×4620

組立筋加工図(参考図)　S=1:50

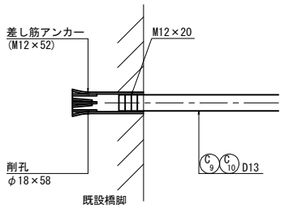


C9 40-D13×230

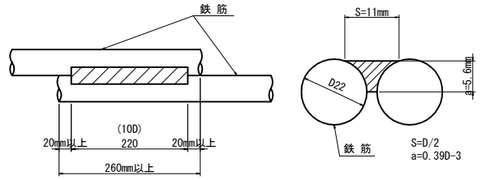
C10 39-D13×230

※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図

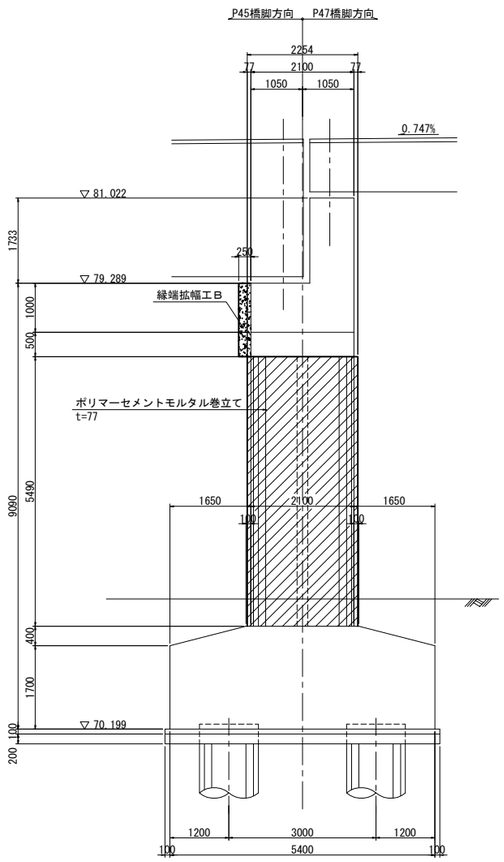


注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

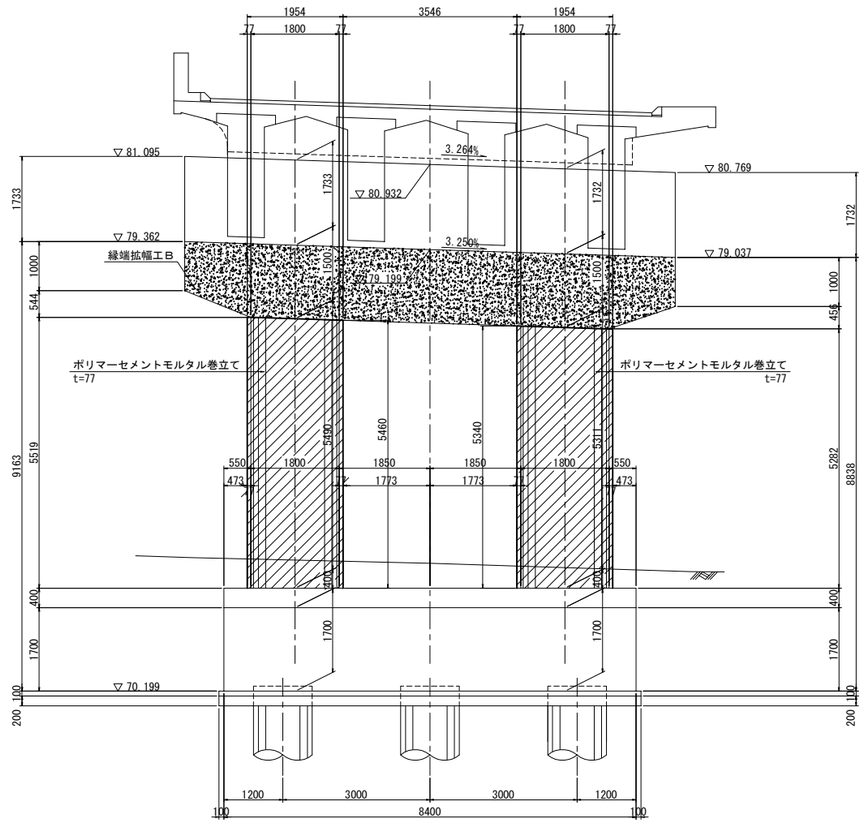
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P46橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P46橋脚 ポリマーセメントモルタル巻立て補強一般図（下り線）S=図示

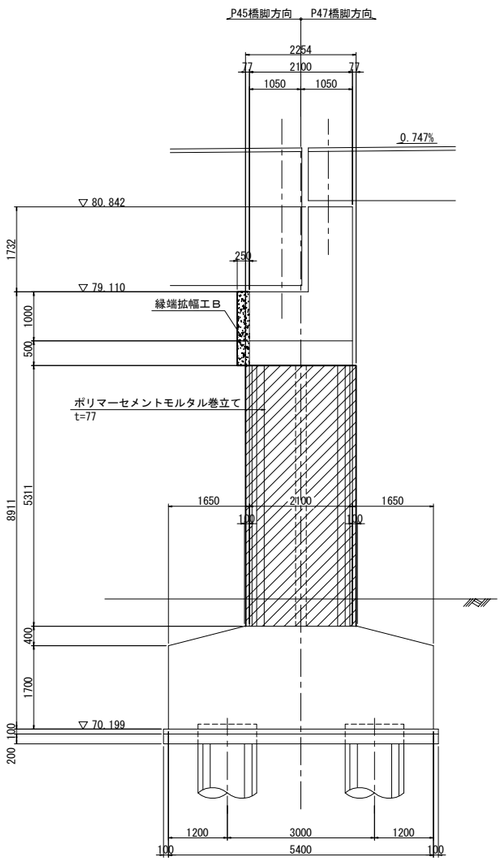
側 面 図 S=1:125



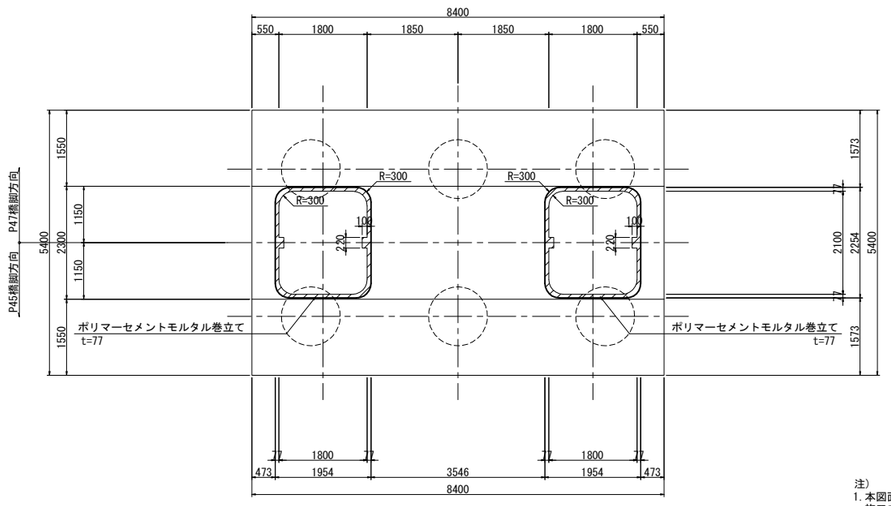
正 面 図 S=1:125



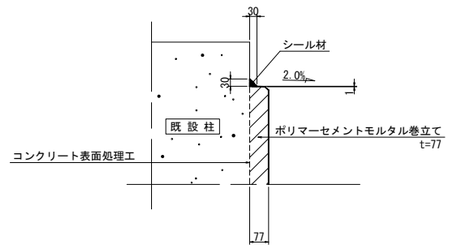
側 面 図 S=1:125



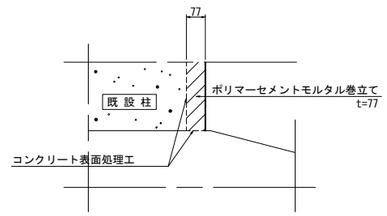
平 面 図 S=1:125



ポリマーセメントモルタル巻立て天端詳細図（参考図） S=1:25



ポリマーセメントモルタル巻立て下端詳細図 S=1:25



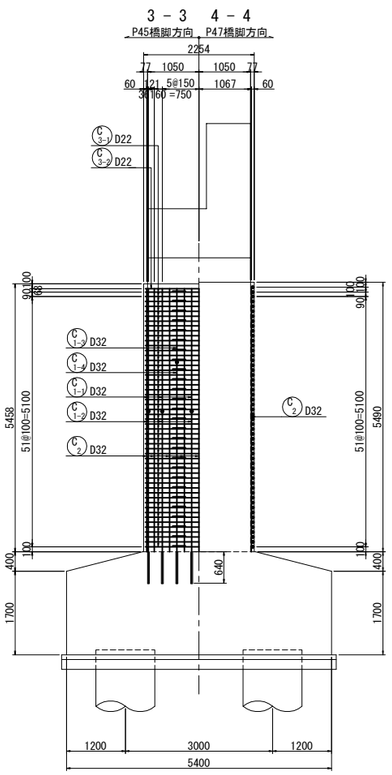
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	ポリマーセメントモルタル	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。
3. 巻立て天端について、梁下をのぞく範囲にシール材および2.0%の勾配を設けること。

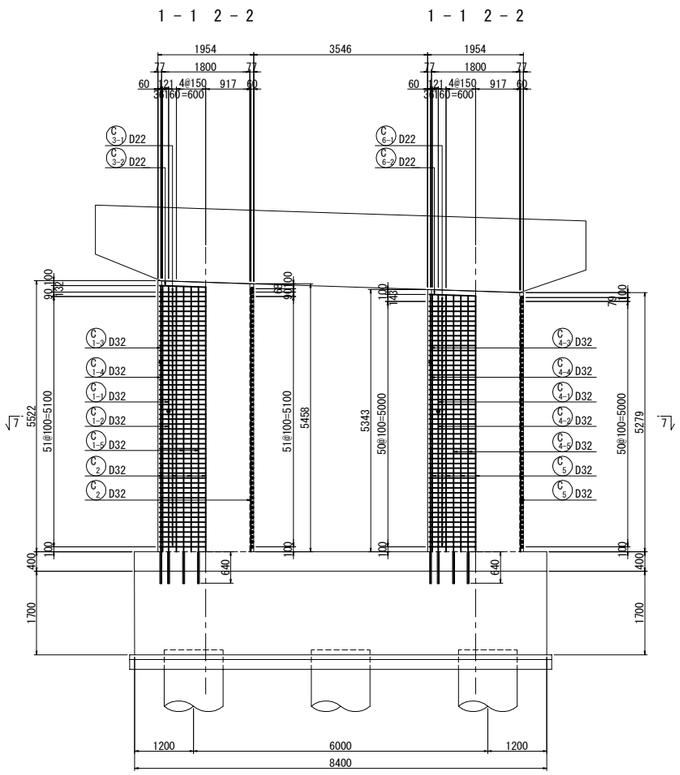
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P46橋脚 ポリマーセメントモルタル巻立て補強一般図（下り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P46橋脚 ポリマーセメントモルタル巻立て補強配筋図（下り線） S=図示

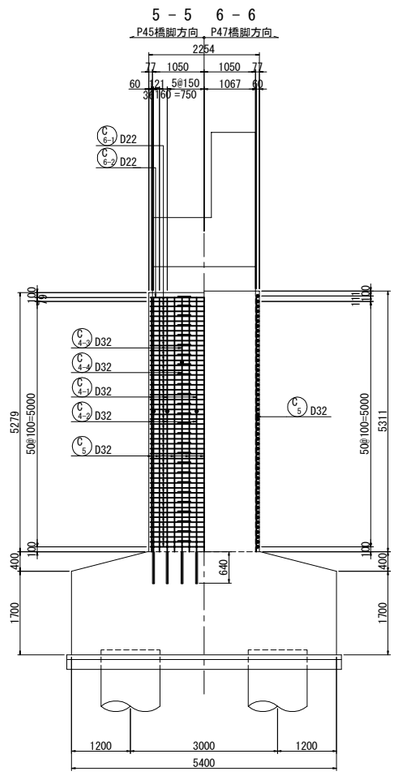
側 面 図 S=1:125

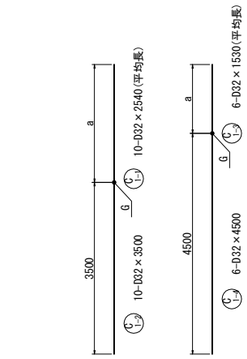


正 面 図 S=1:125



側 面 図 S=1:125





C 1-1	8-D32×6040 (平均長)

符号	本数	a	L
1	2	6044	6050
2	2	6034	6040
3	2	6025	6030
4	2	6015	6020
平均長	8		6040

C 1-2	10-D32×2540 (平均長)

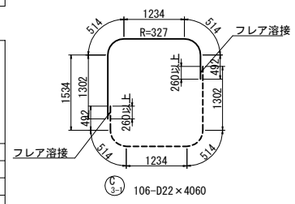
符号	本数	a	L
1	3	2560	2560
2	2	2554	2560
3	2	2505	2510
4	3	2500	2500
平均長	10		2540

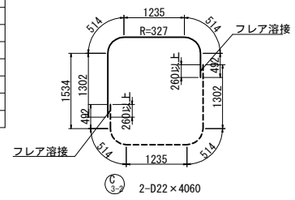
C 1-3	6-D32×1530 (平均長)

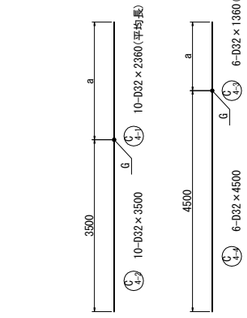
符号	本数	a	L
1	3	1560	1560
2	3	1500	1500
平均長	6		1530

C 2	24-D32×5400 (平均長)

符号	本数	a	L
1	5	5420	5420
2	2	5418	5420
3	2	5409	5410
4	2	5399	5400
5	2	5390	5390
6	2	5380	5380
7	2	5370	5370
8	2	5361	5370
9	5	5360	5360
平均長	24		5400







C 4-1	8-D32×5860 (平均長)

符号	本数	a	L
1	2	5865	5870
2	2	5856	5860
3	2	5846	5850
4	2	5836	5840
平均長	8		5860

C 4-2	10-D32×2360 (平均長)

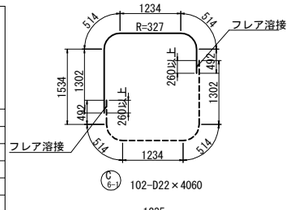
符号	本数	a	L
1	3	2381	2390
2	2	2376	2380
3	2	2326	2330
4	3	2320	2320
平均長	10		2360

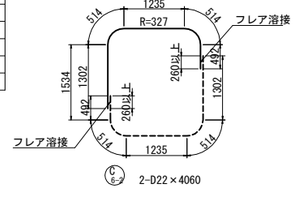
C 4-3	6-D32×1360 (平均長)

符号	本数	a	L
1	3	1381	1390
2	3	1320	1320
平均長	6		1360

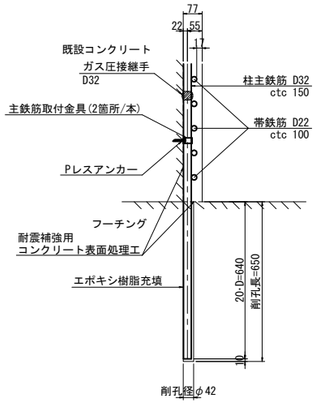
C 5	24-D32×5220 (平均長)

符号	本数	a	L
1	5	5241	5250
2	2	5239	5240
3	2	5230	5230
4	2	5221	5230
5	2	5211	5220
6	2	5201	5210
7	2	5191	5200
8	2	5182	5190
9	5	5181	5190
平均長	24		5220



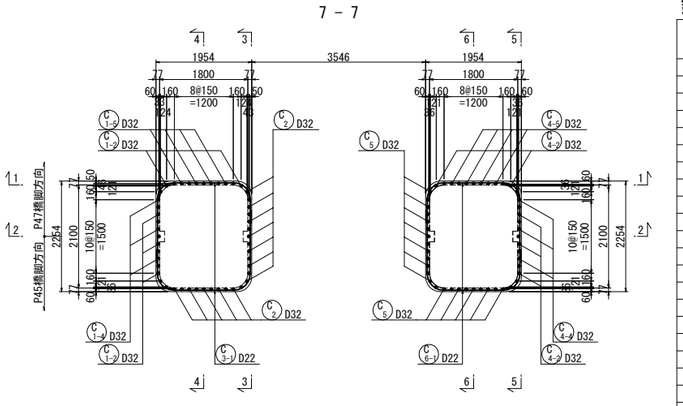


かぶり詳細図　S=1:25



平 面 図 S=1:125

7 － 7



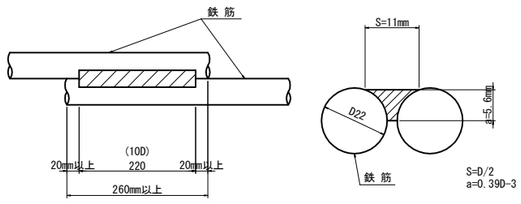
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D32	2540	10	6.23	15.8	158	(平均長)
C 1-2	D32	3500	10	6.23	21.8	218	<10>
C 1-3	D32	1530	6	6.23	9.53	57	(平均長)
C 1-4	D32	4500	6	6.23	28.0	168	<6>
C 1-5	D32	6040	8	6.23	37.6	301	(平均長)
C 2	D32	5400	24	6.23	33.6	806	(平均長)
C 3-1	D22	4060	106	3.04	12.3	1304	(106)
C 3-2	D22	4060	2	3.04	12.3	25	(2)
C 4-1	D32	2360	10	6.23	14.7	147	(平均長)
C 4-2	D32	3500	10	6.23	21.8	218	<10>
C 4-3	D32	1360	6	6.23	8.47	51	(平均長)
C 4-4	D32	4500	6	6.23	28.0	168	<6>
C 4-5	D32	5860	8	6.23	36.5	292	(平均長)
C 5	D32	5220	24	6.23	32.5	780	(平均長)
C 6-1	D22	4060	102	3.04	12.3	1255	(102)
C 6-2	D22	4060	2	3.04	12.3	25	(2)
					小計	5973	kg

			フレア箇所	圧接箇所	
D32	3364	kg		<32>	SD345
D22	2609	kg	(212)		SD345
合計	5973	kg	(212)	<32>	SD345

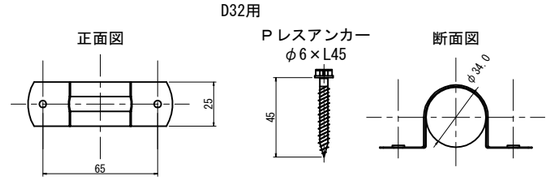
コンクリート削孔(φ42, L=650)	48	箇所
フレア溶接(D22)	212	箇所

フレア溶接詳細図



主筋取付金具詳細図（参考図）

D32用

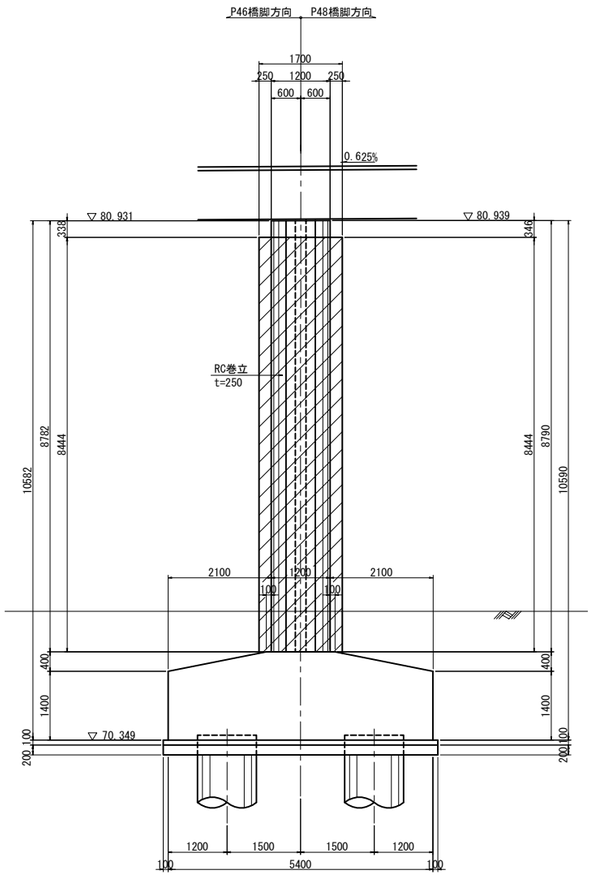


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

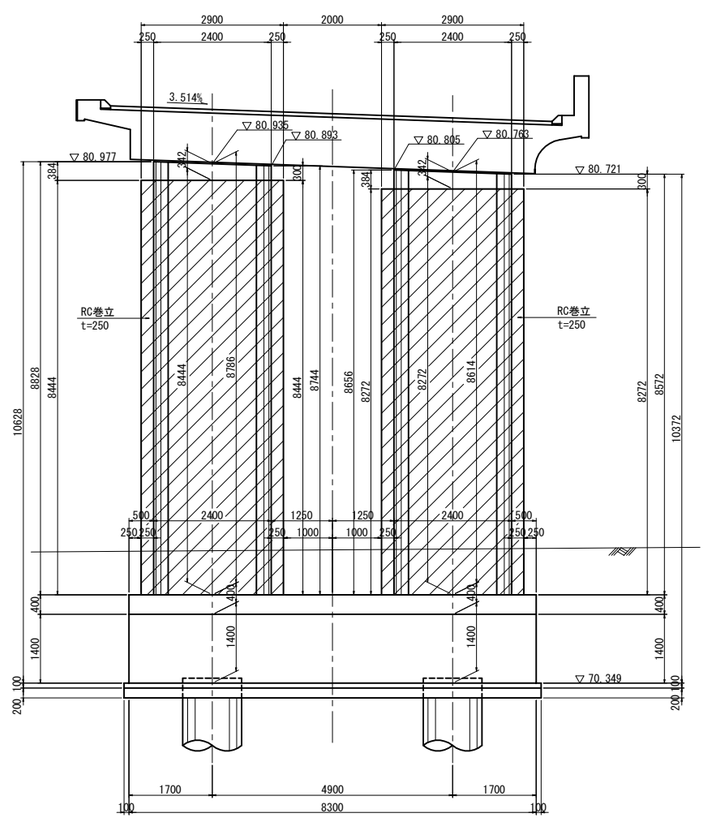
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P46橋脚 ポリマーセメントモルタル巻立て 補強配筋図（下り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P47橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

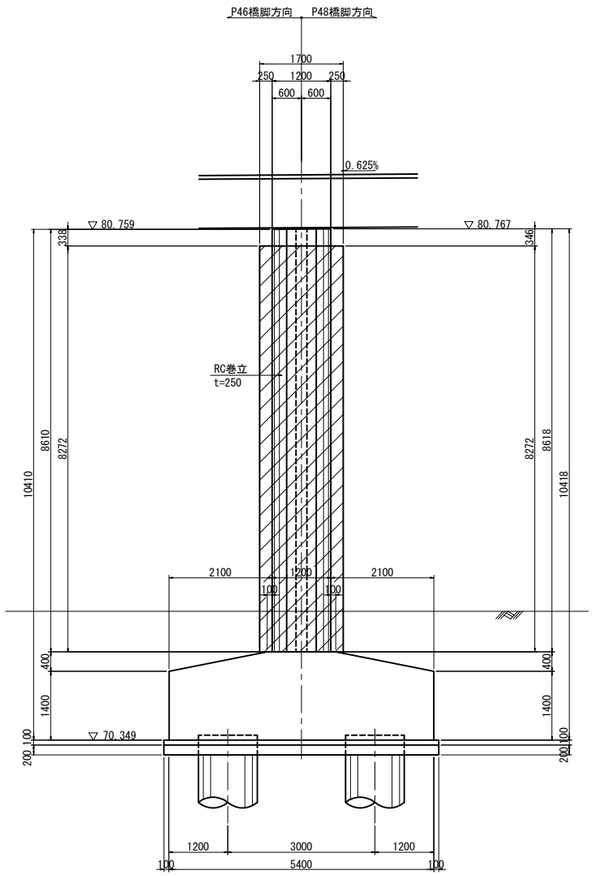
側 面 図 S=1:125



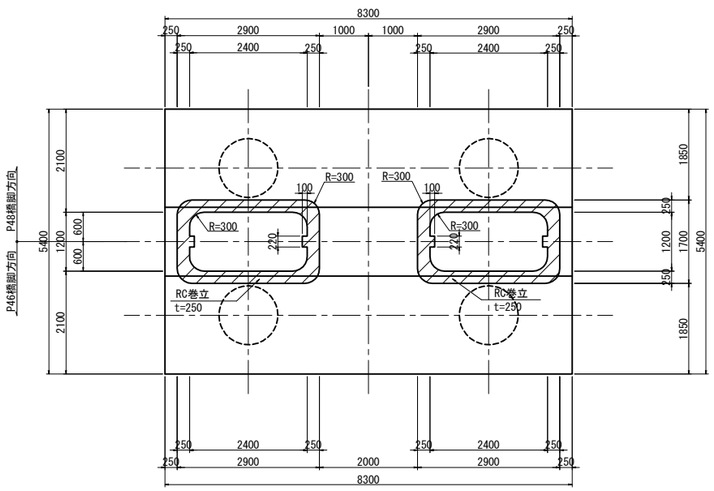
正 面 図 S=1:125



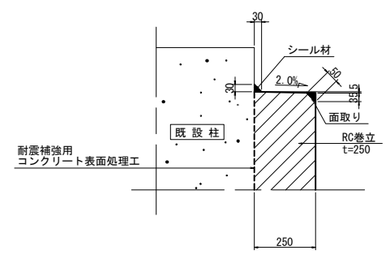
側 面 図 S=1:125



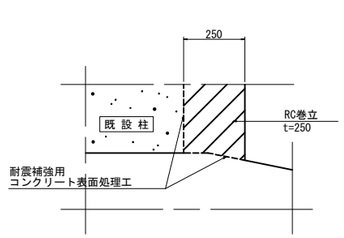
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

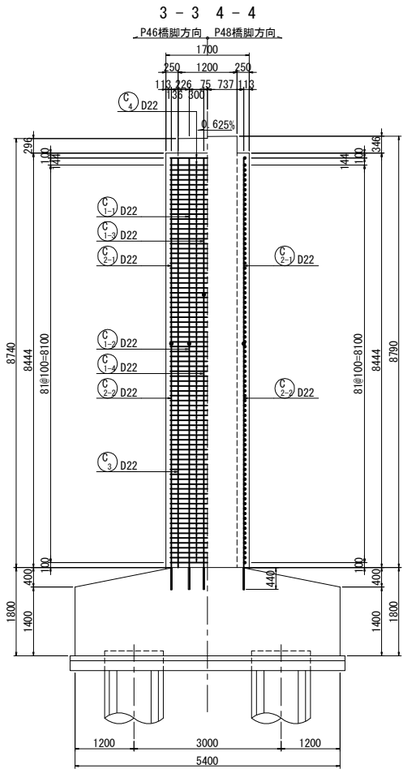
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P47橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P47橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

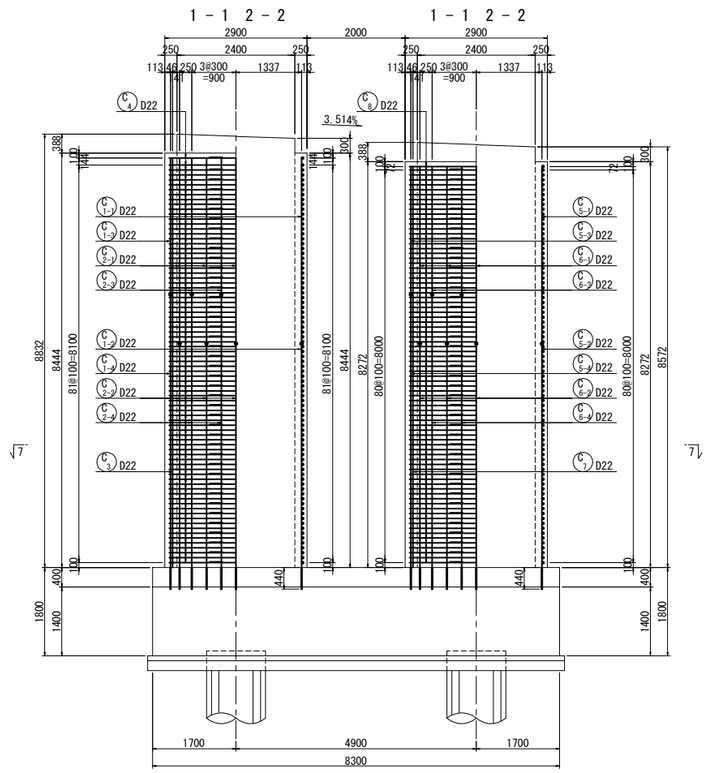
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



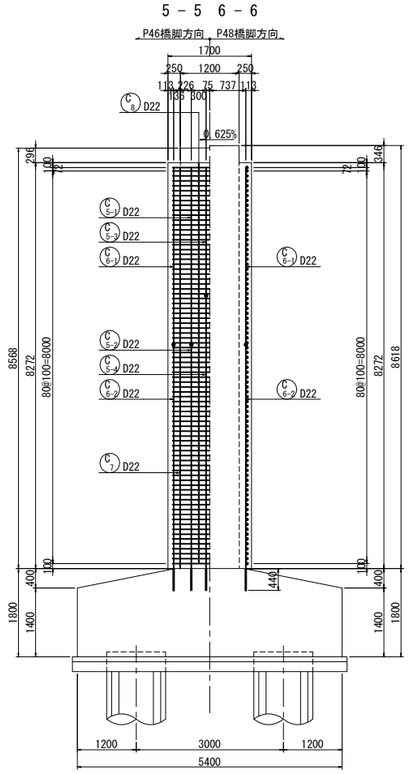
正 面 図 S=1:125

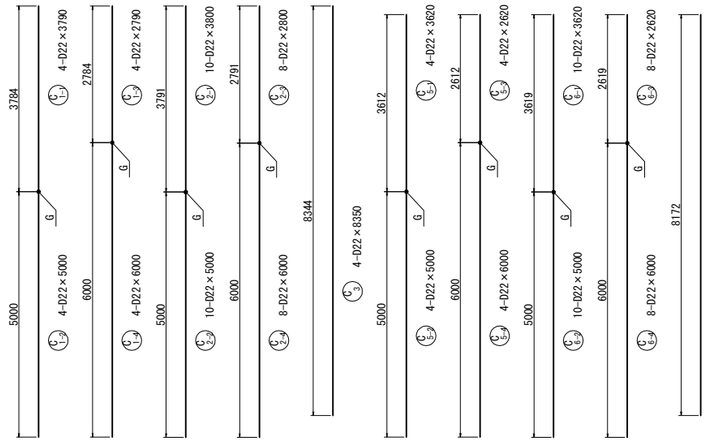
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

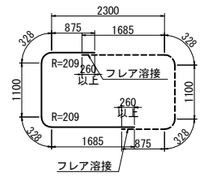


側 面 図 S=1:125

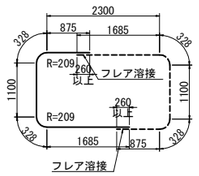
5 － 5　6 － 6







C4 166-D22×4320



C8 164-D22×4320

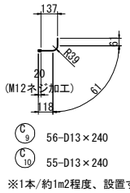
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3790	4	3.04	11.5	46	I
C 1-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	↑ <4>
C 1-3	D22	2790	4	3.04	8.48	34	I
C 1-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	↑ <4>
C 2-1	D22	3800	10	3.04	11.6	116	I
C 2-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	↑ <10>
C 2-3	D22	2800	8	3.04	8.51	68	I
C 2-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	↑ <8>
C 3	D22	8350	4	3.04	25.4	102	I
C 4	D22	4320	166	3.04	13.1	2175	⊏ (166)
C 5-1	D22	3620	4	3.04	11.0	44	I
C 5-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	↑ <4>
C 5-3	D22	2620	4	3.04	7.96	32	I
C 5-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	↑ <4>
C 6-1	D22	3620	10	3.04	11.0	110	I
C 6-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	↑ <10>
C 6-3	D22	2620	8	3.04	7.96	64	I
C 6-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	↑ <8>
C 7	D22	8180	4	3.04	24.9	100	I
C 8	D22	4320	164	3.04	13.1	2148	⊏ (164)
					小計	5903	kg

	フレア箇所	圧接箇所	
D22	5903 kg	(330)	<52> SD345
合計	5903 kg	(330)	<52> SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	111	箇所 (参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所
フレア溶接(D22)	330	箇所

組立筋加工図(参考図)　S=1:50

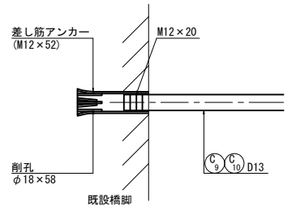


C9 56-D13×240

C10 55-D13×240

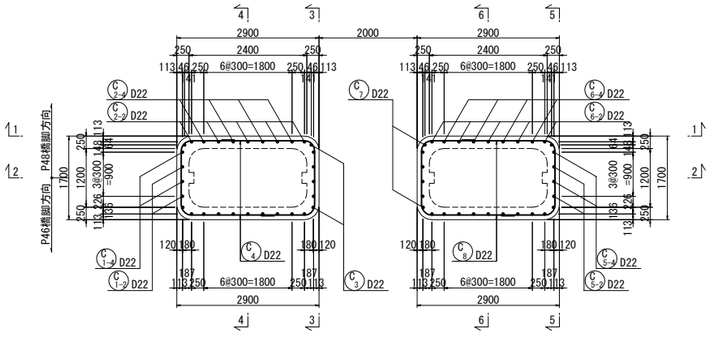
※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5

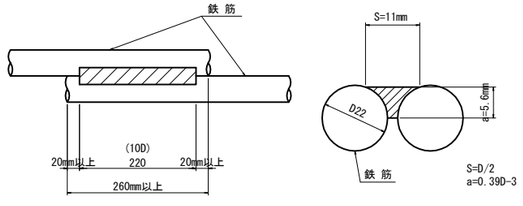


平 面 図 S=1:125

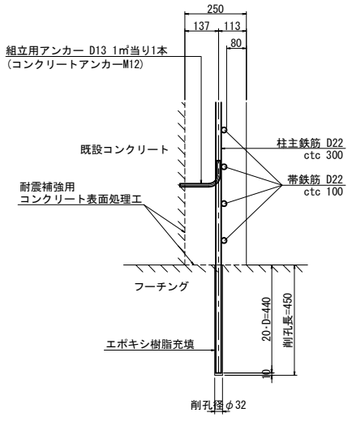
7 － 7



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図　S=1:25

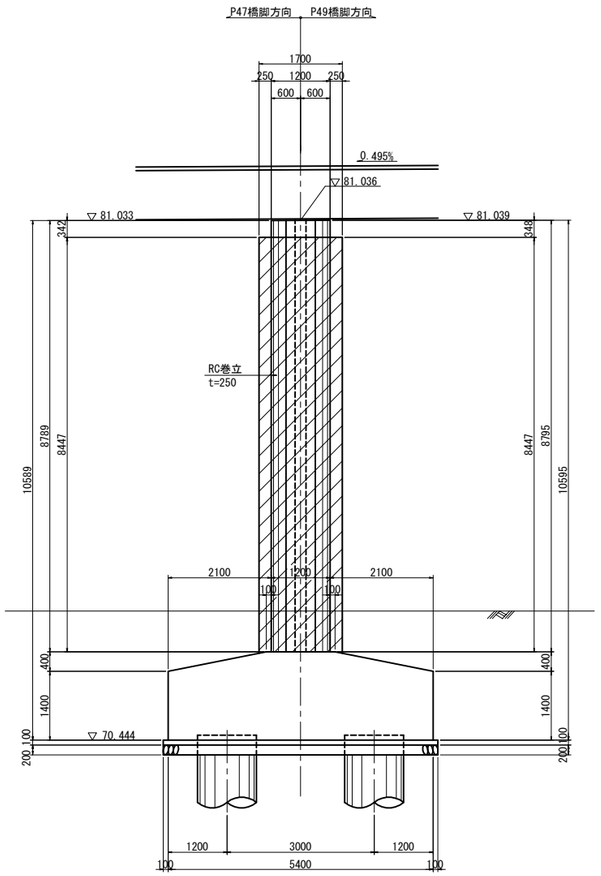


注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

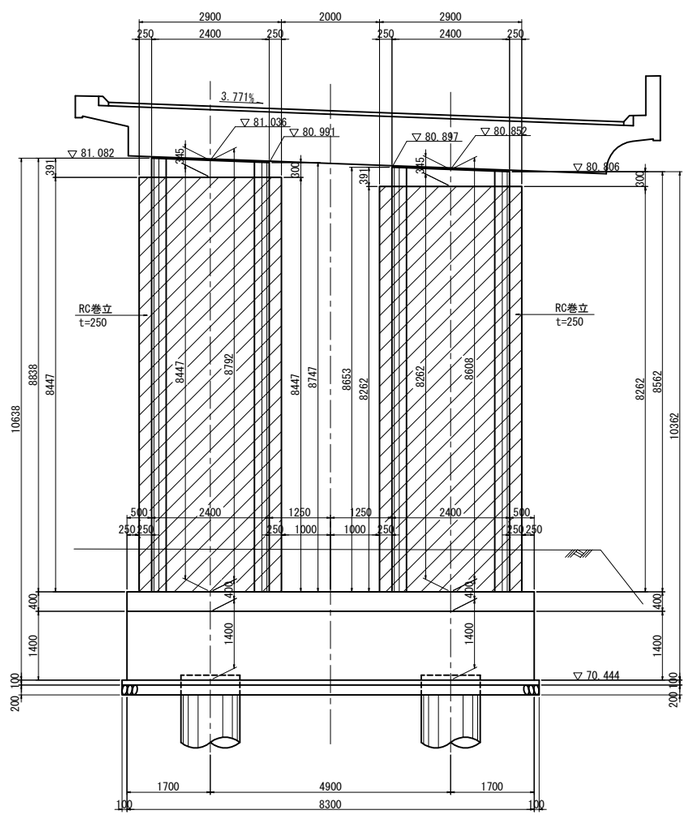
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P47橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P48橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

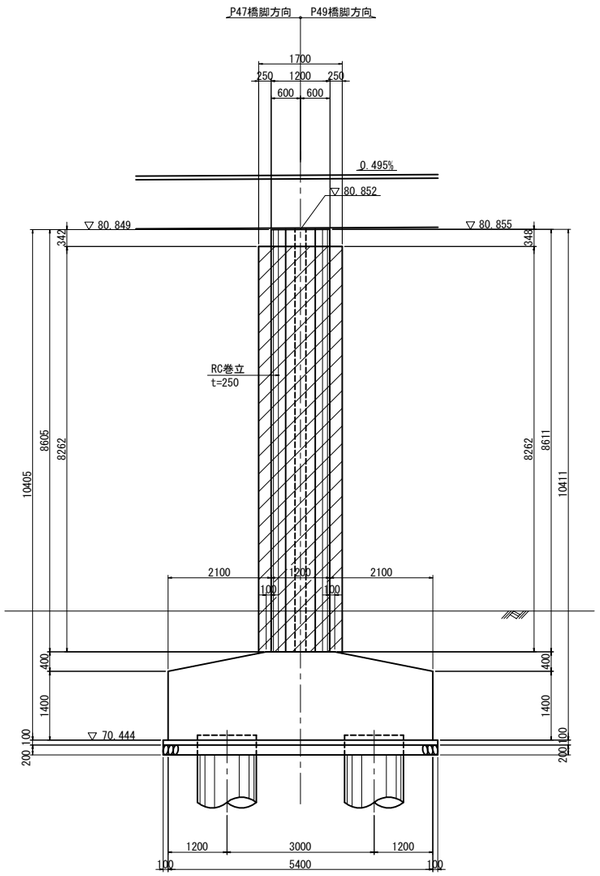
側 面 図 S=1:125



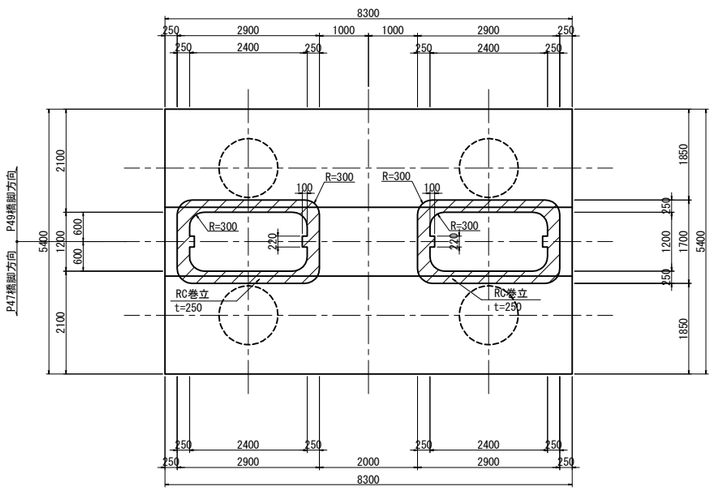
正 面 図 S=1:125



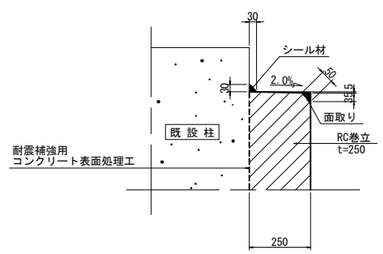
側 面 図 S=1:125



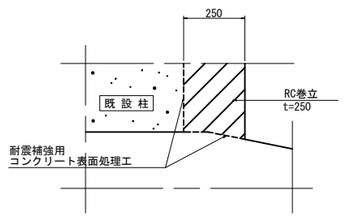
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



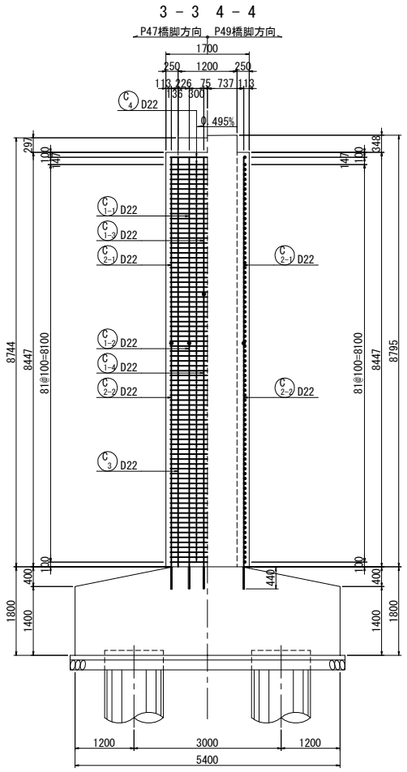
工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

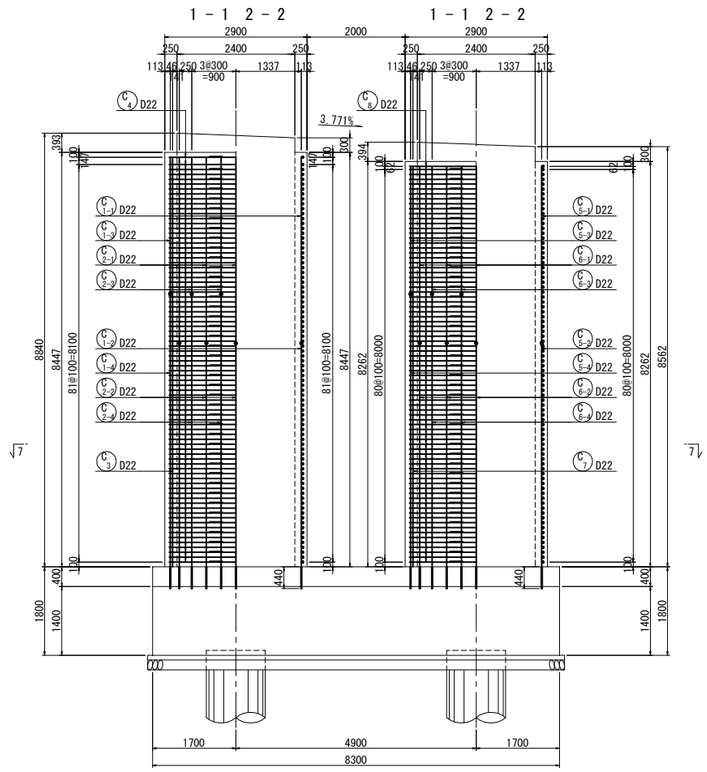
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P48橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P48橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

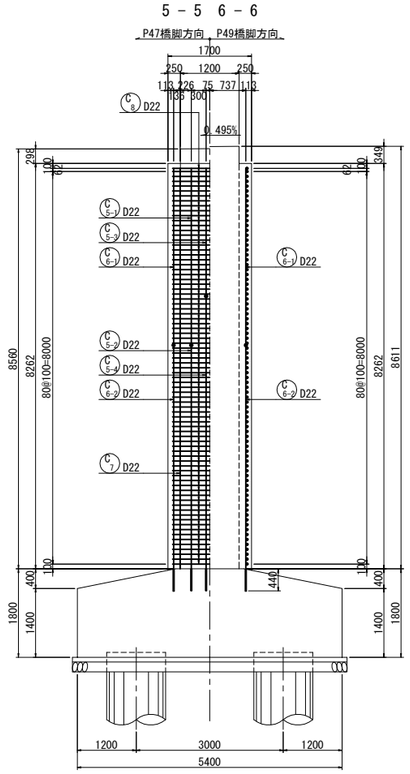
側 面 図 S=1:125

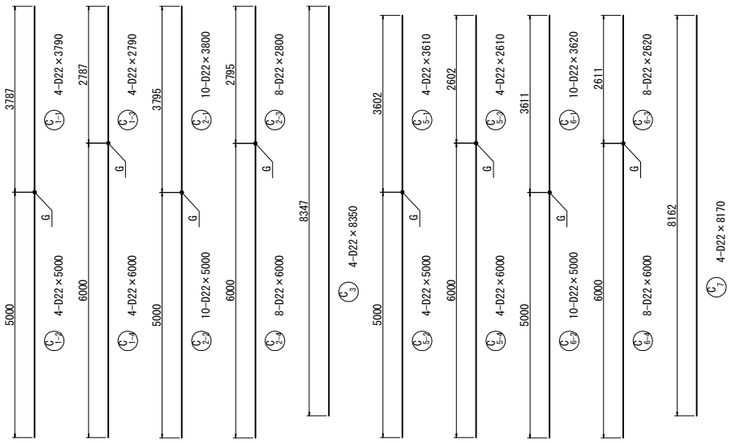


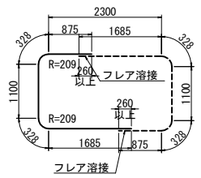
正 面 図 S=1:125



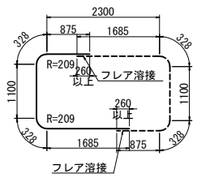
側 面 図 S=1:125







C4 166-D22×4320



C8 164-D22×4320

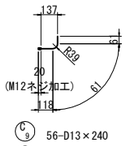
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3790	4	3.04	11.5	46	
C 1-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 1-3	D22	2790	4	3.04	8.48	34	
C 1-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	<4>
C 2-1	D22	3800	10	3.04	11.6	116	
C 2-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	<10>
C 2-3	D22	2800	8	3.04	8.51	68	
C 2-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	<8>
C 3	D22	8350	4	3.04	25.4	102	
C 4	D22	4320	166	3.04	13.1	2175	(166)
C 5-1	D22	3610	4	3.04	11.0	44	
C 5-2	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 5-3	D22	2610	4	3.04	7.93	32	
C 5-4	D22	6000	4	3.04	18.2	73	<4>
C 6-1	D22	3620	10	3.04	11.0	110	
C 6-2	D22	5000	10	3.04	15.2	152	<10>
C 6-3	D22	2620	8	3.04	7.96	64	
C 6-4	D22	6000	8	3.04	18.2	146	<8>
C 7	D22	8170	4	3.04	24.8	99	
C 8	D22	4320	164	3.04	13.1	2148	(164)
					小計	5902	kg

	フレア箇所		圧接箇所		
D22	5902	kg	(330)	<52>	SD345
合計	5902	kg	(330)	<52>	SD345

コンクリート削孔（φ18, L=58）	111	箇所	（参考）
コンクリート削孔（φ32, L=450）	52	箇所	
フレア溶接(D22)	330	箇所	

組立筋加工図（参考図） S=1:50

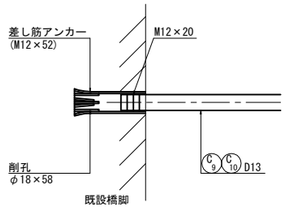


C9 56-D13×240

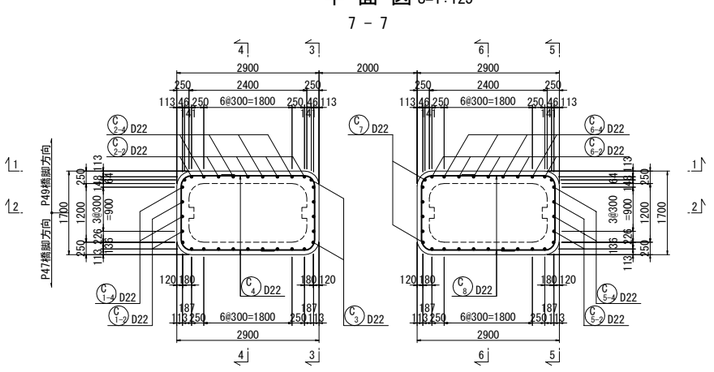
C10 55-D13×240

※1本/約1m2程度、設置する。

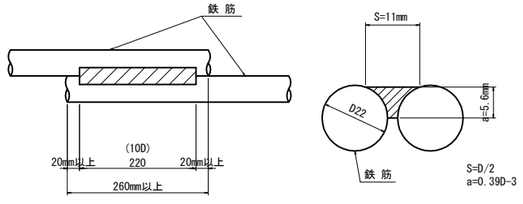
組立て筋アンカー詳細図（参考図） S=1:5



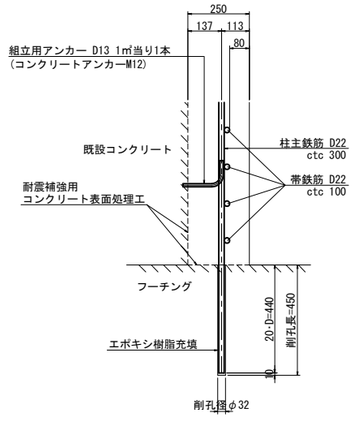
平 面 図 S=1:125



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図 S=1:25

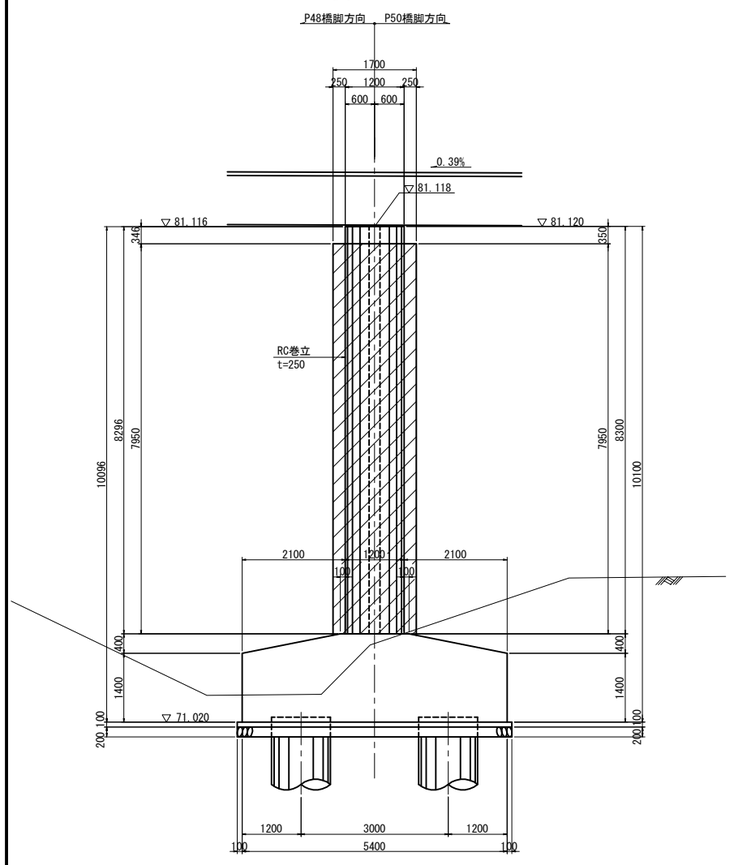


注）1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

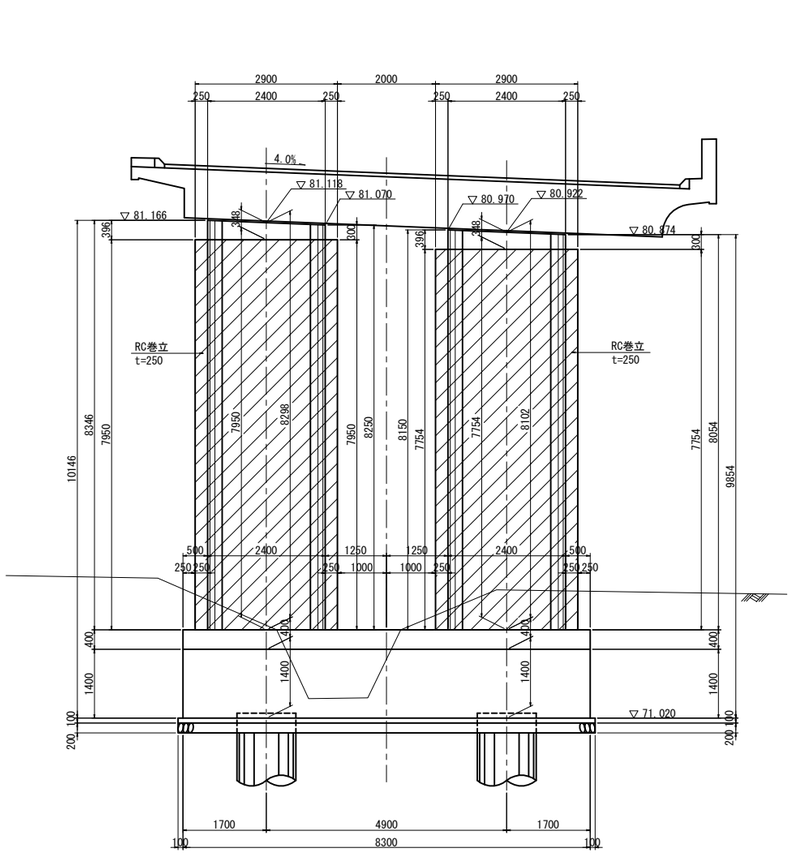
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事				
図面の種類	入間川高架橋 P48橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）			
縮 尺	図示	図面番号	/	
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所			

P49橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

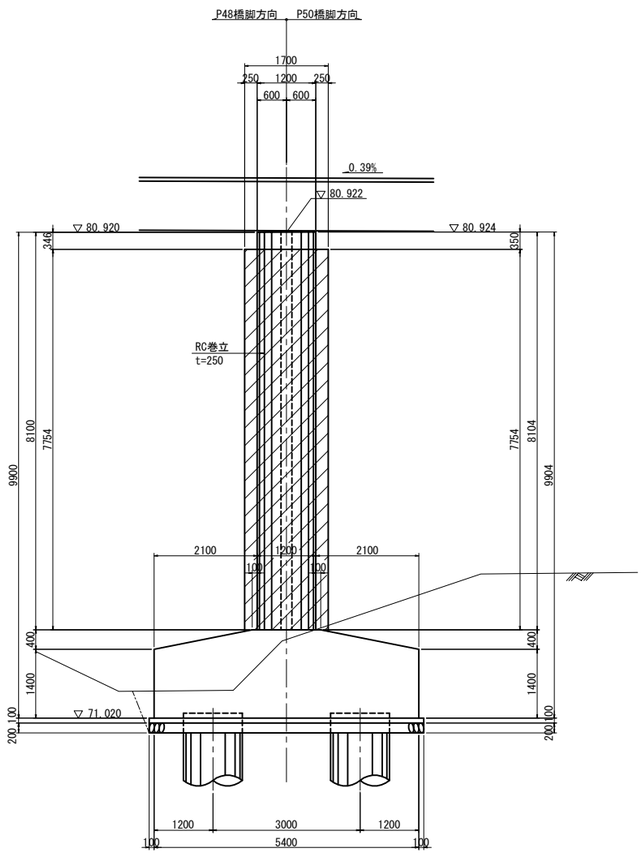
側 面 図 S=1:125



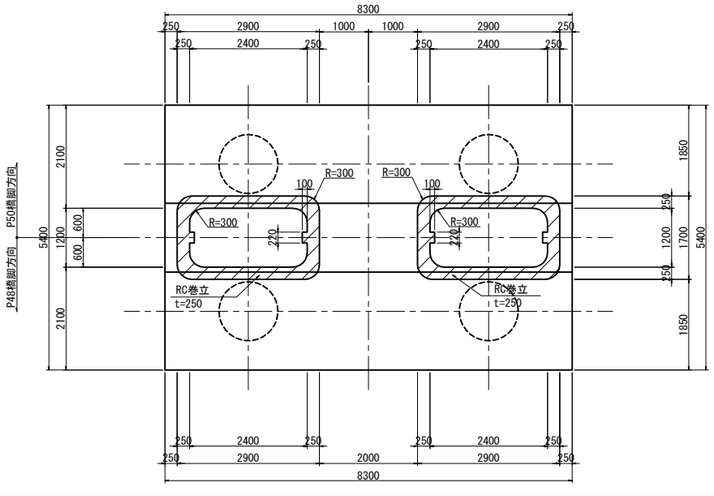
正 面 図 S=1:125



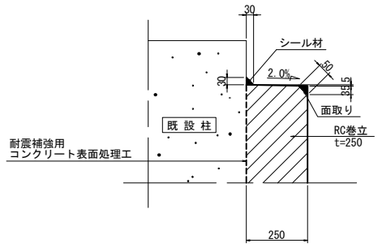
側 面 図 S=1:125



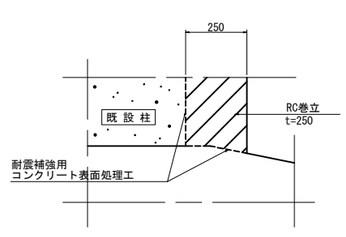
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

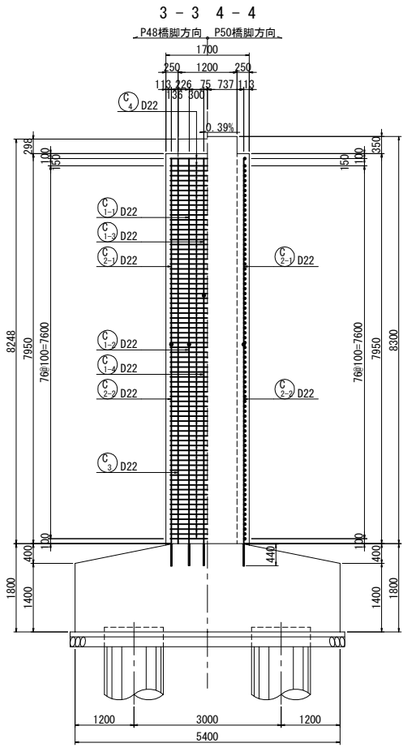
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P49橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P49橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

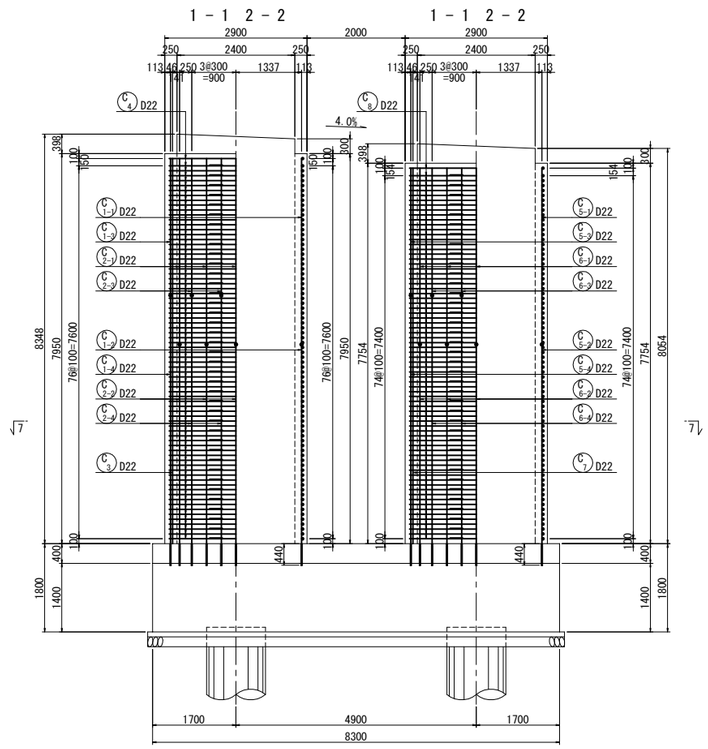
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



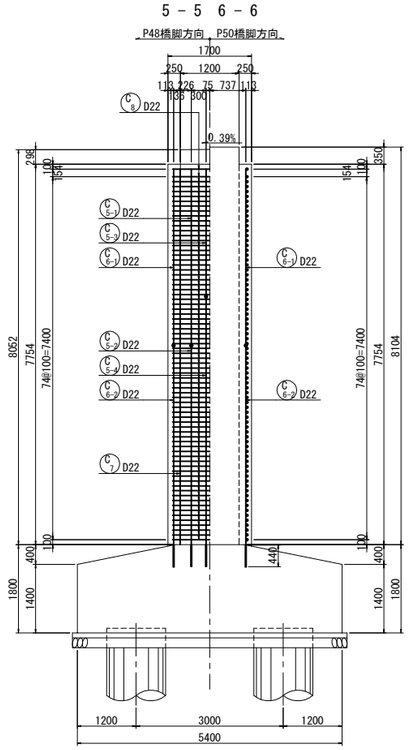
正 面 図 S=1:125

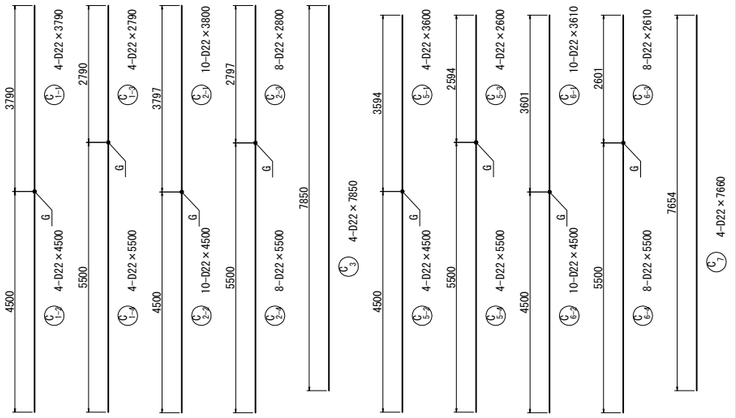
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

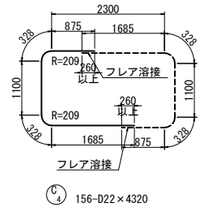


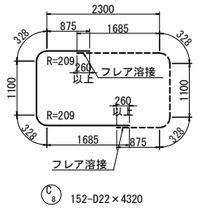
側 面 図 S=1:125

5 － 5　6 － 6









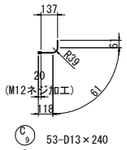
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3790	4	3.04	11.5	46	I
C 1-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	⌇ <4>
C 1-3	D22	2790	4	3.04	8.48	34	I
C 1-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	⌇ <4>
C 2-1	D22	3800	10	3.04	11.6	116	I
C 2-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	⌇ <10>
C 2-3	D22	2800	8	3.04	8.51	68	I
C 2-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	⌇ <8>
C 3	D22	7850	4	3.04	23.9	96	I
C 4	D22	4320	156	3.04	13.1	2044	⊏ (156)
C 5-1	D22	3600	4	3.04	10.9	44	I
C 5-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	⌇ <4>
C 5-3	D22	2600	4	3.04	7.90	32	I
C 5-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	⌇ <4>
C 6-1	D22	3610	10	3.04	11.0	110	I
C 6-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	⌇ <10>
C 6-3	D22	2610	8	3.04	7.93	63	I
C 6-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	⌇ <8>
C 7	D22	7660	4	3.04	23.3	93	I
C 8	D22	4320	152	3.04	13.1	1991	⊏ (152)
					小計	5523	kg

				フレア箇所	圧接箇所	
	D22	5523	kg	(308)	<52>	SD345
	合計	5523	kg	(308)	<52>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	105	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	308	箇所	

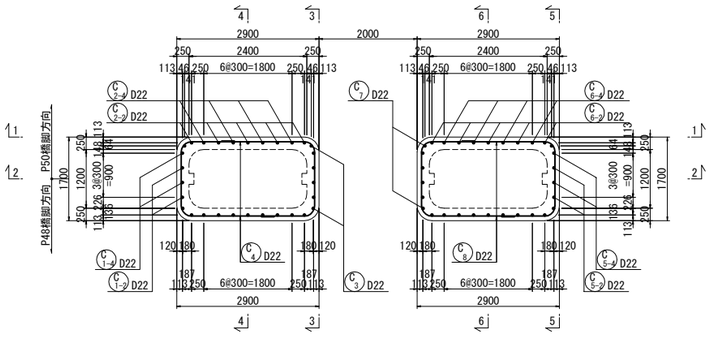
組立筋加工図(参考図)　S=1:50



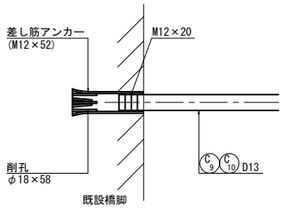
※1本/約1m2程度、設置する。

平 面 図 S=1:125

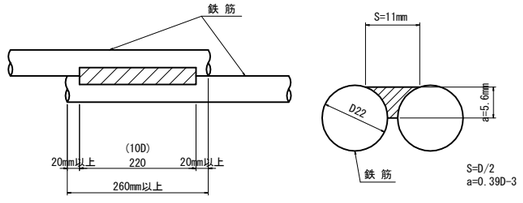
7 － 7



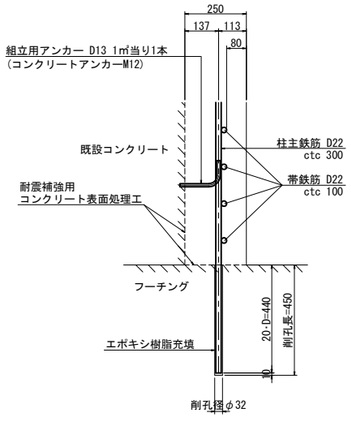
組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図　S=1:25

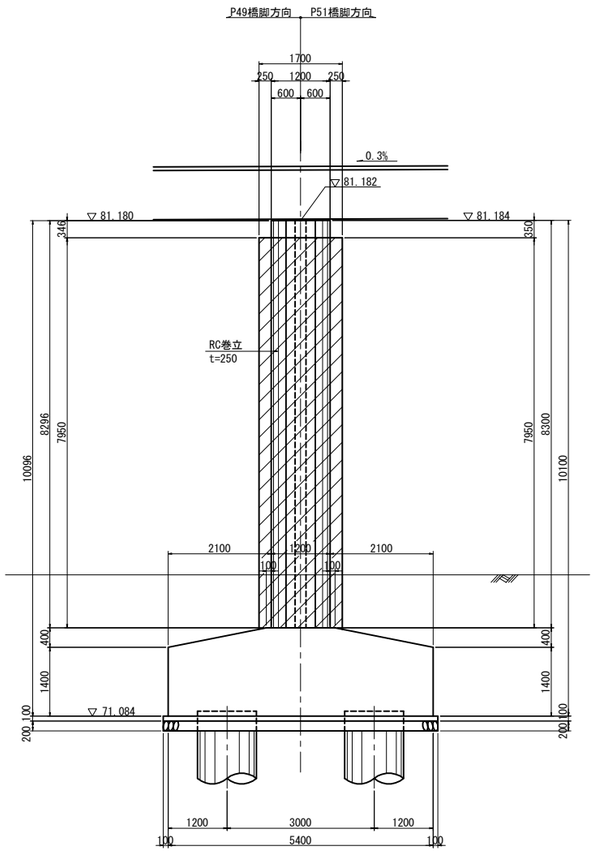


注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

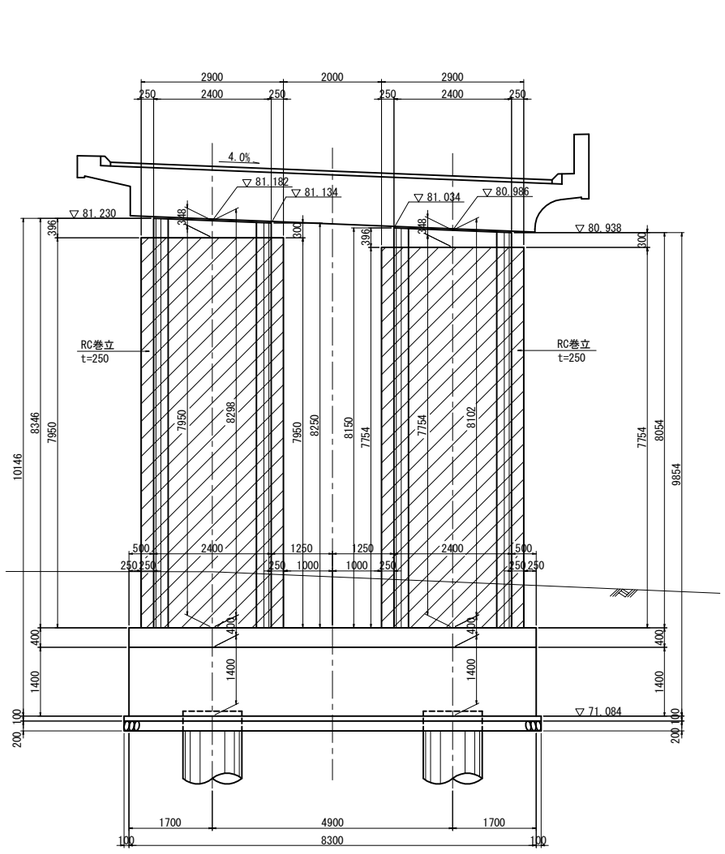
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P49橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P50橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

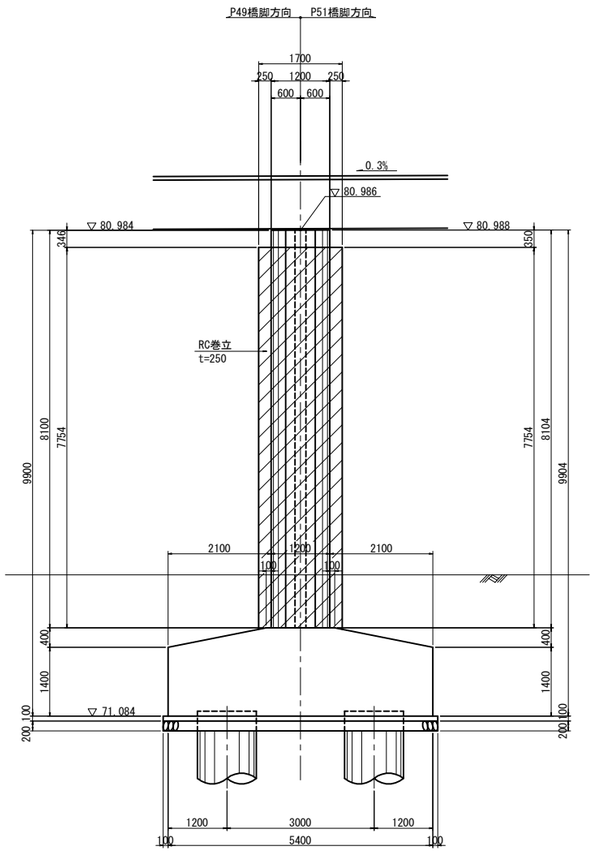
側 面 図 S=1:125



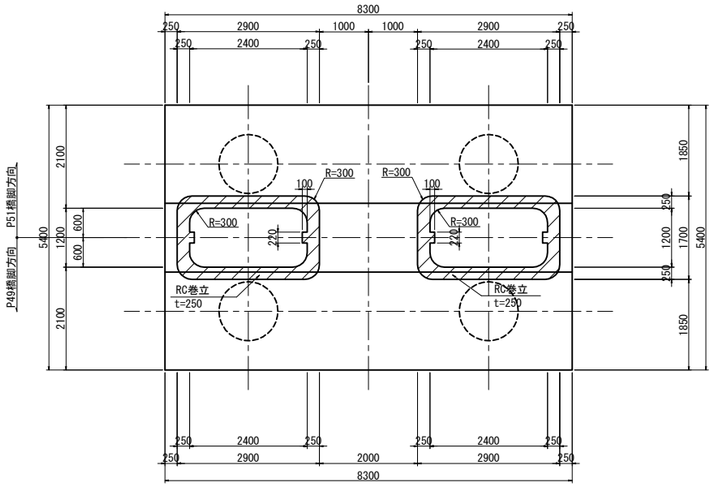
正 面 図 S=1:125



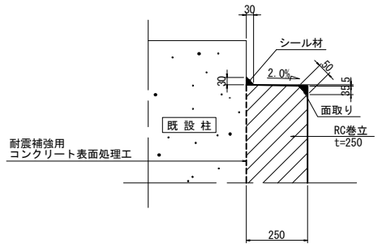
側 面 図 S=1:125



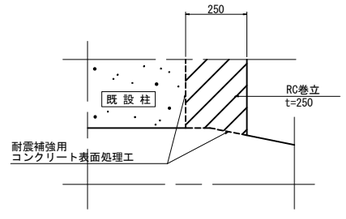
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

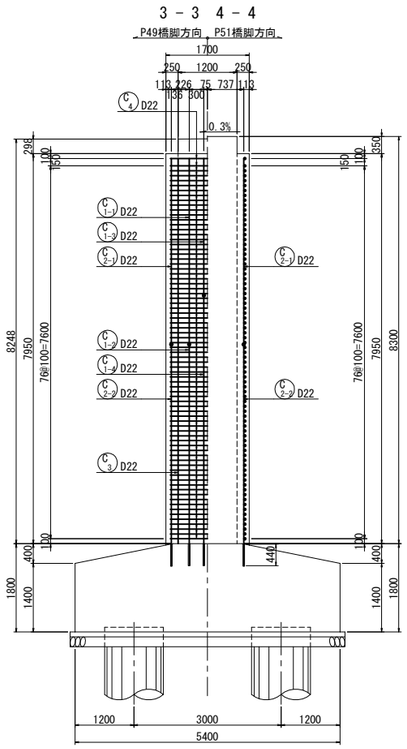
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P50橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P50橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

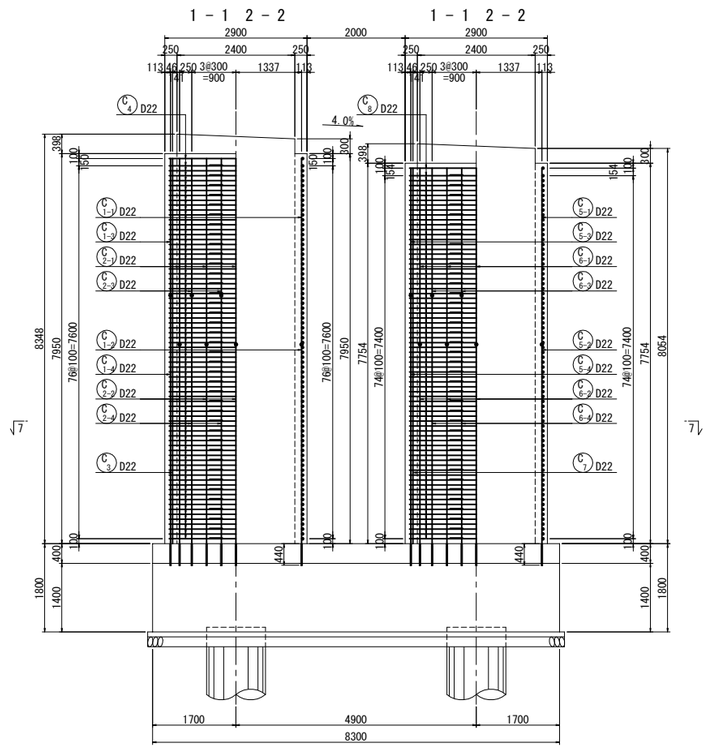
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



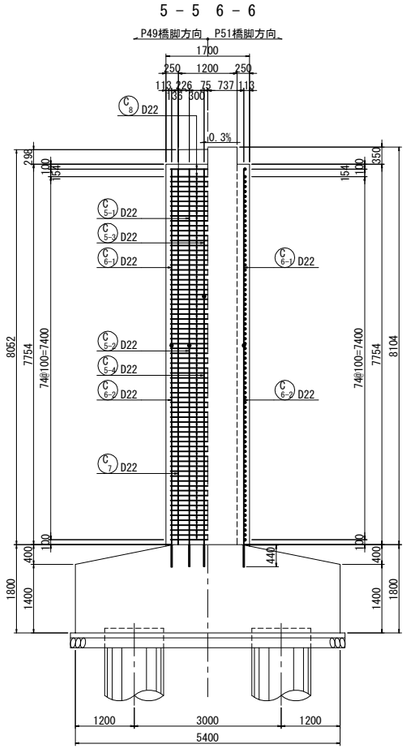
正 面 図 S=1:125

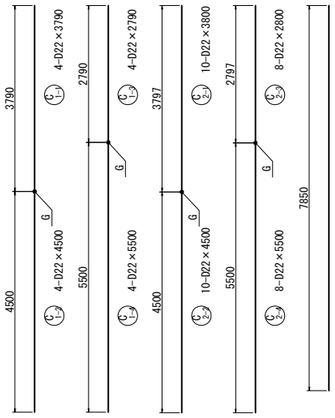
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

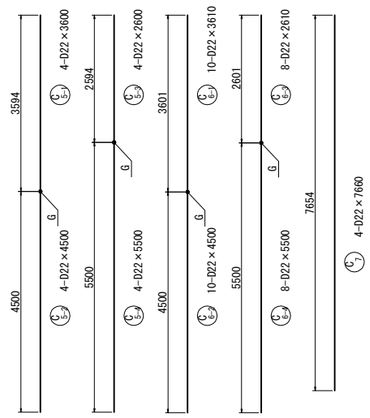


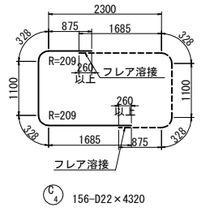
側 面 図 S=1:125

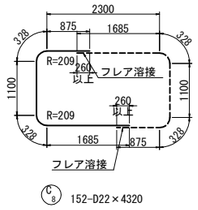
5 － 5　6 － 6











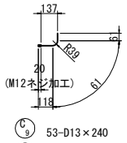
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3790	4	3.04	11.5	46	I
C 1-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 1-3	D22	2790	4	3.04	8.48	34	I
C 1-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 2-1	D22	3800	10	3.04	11.6	116	I
C 2-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 2-3	D22	2800	8	3.04	8.51	68	I
C 2-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 3	D22	7850	4	3.04	23.9	96	I
C 4	D22	4320	156	3.04	13.1	2044	⊏ (156)
C 5-1	D22	3600	4	3.04	10.9	44	I
C 5-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 5-3	D22	2600	4	3.04	7.90	32	I
C 5-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 6-1	D22	3610	10	3.04	11.0	110	I
C 6-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 6-3	D22	2610	8	3.04	7.93	63	I
C 6-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 7	D22	7660	4	3.04	23.3	93	I
C 8	D22	4320	152	3.04	13.1	1991	⊏ (152)
					小計	5523	kg

	フレア箇所		圧接箇所		
D22	5523	kg	(308)	<52>	SD345
合計	5523	kg	(308)	<52>	SD345

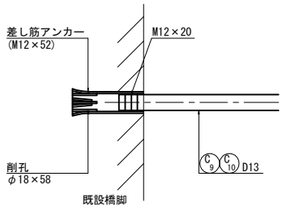
コンクリート削孔(φ18,L=58)	105	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	308	箇所	

組立筋加工図(参考図)　S=1:50



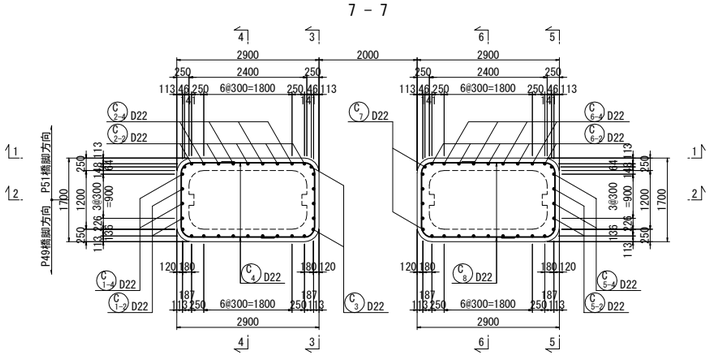
※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5

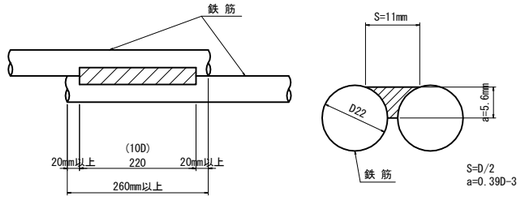


平 面 図 S=1:125

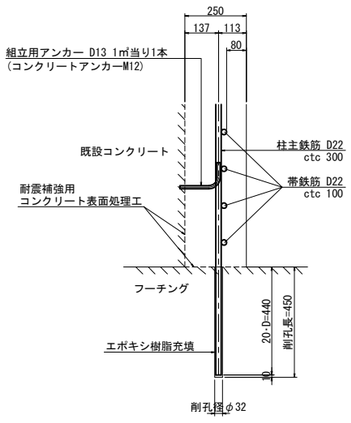
7 － 7



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図　S=1:25

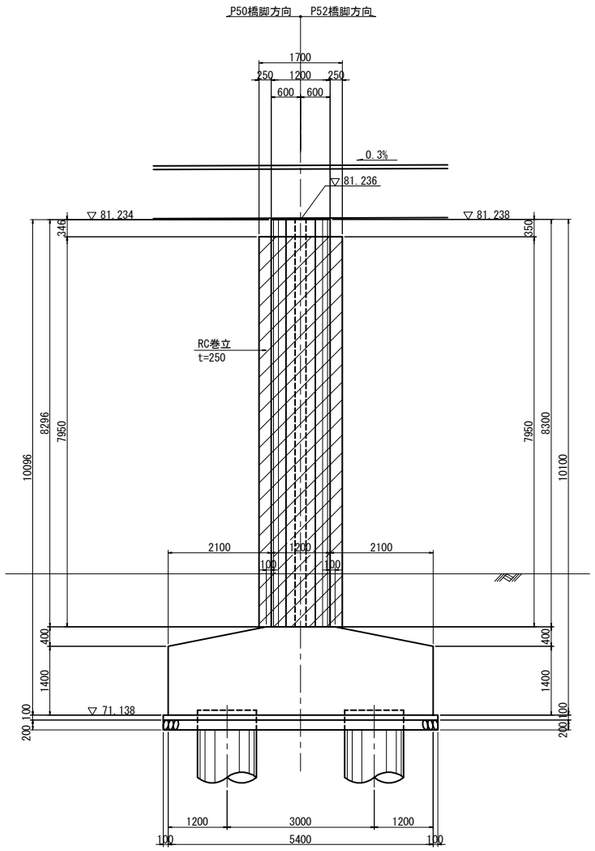


注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

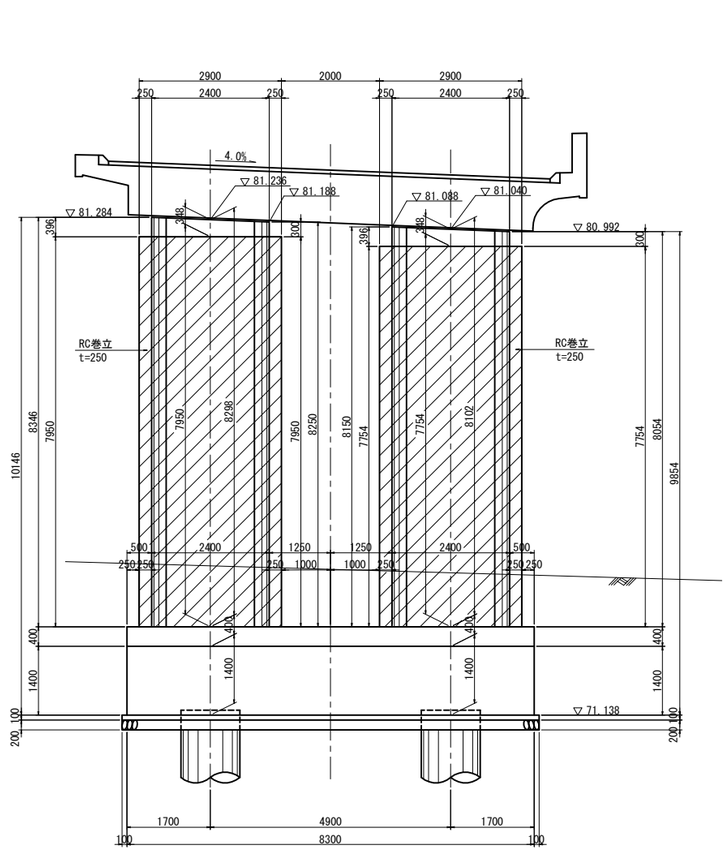
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P50橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P51橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

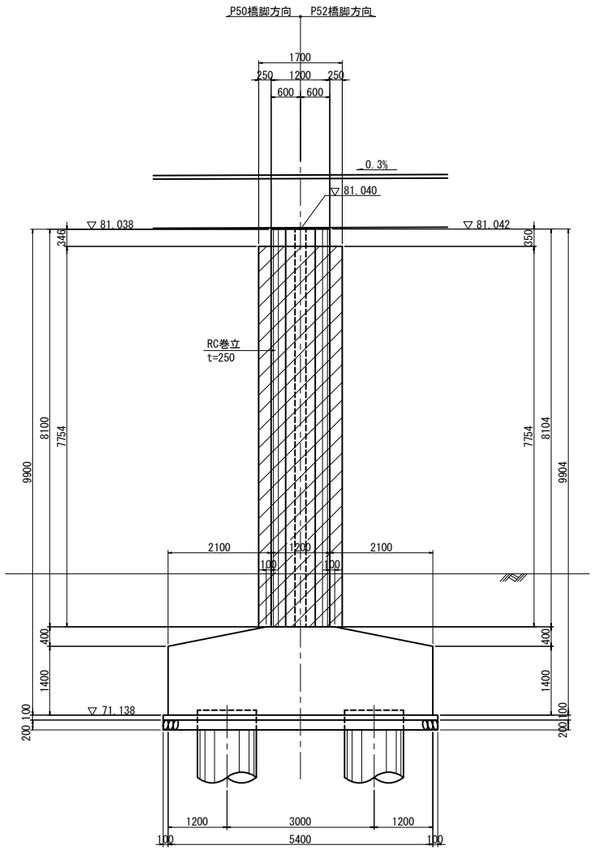
側 面 図 S=1:125



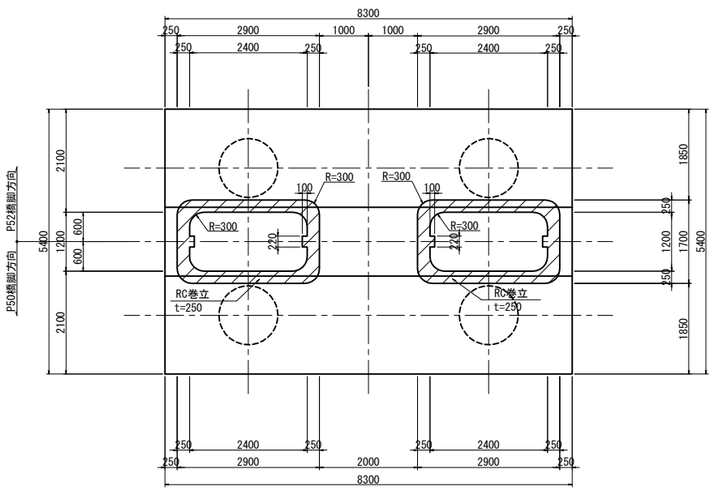
正 面 図 S=1:125



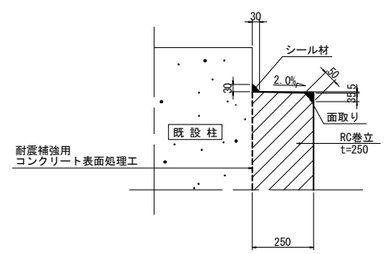
側 面 図 S=1:125



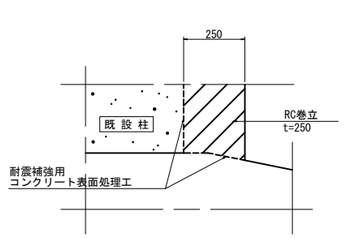
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

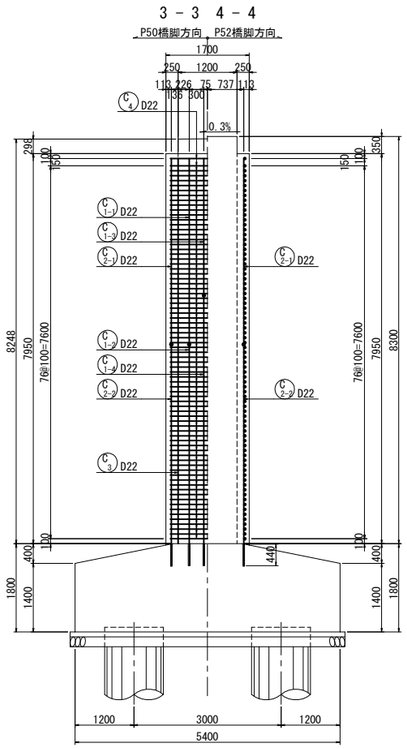
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P51橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P51橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

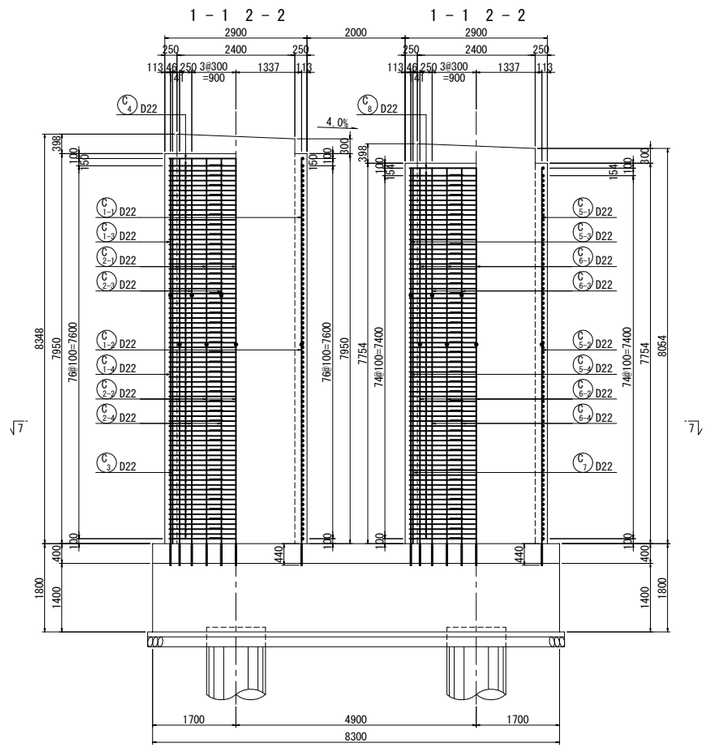
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



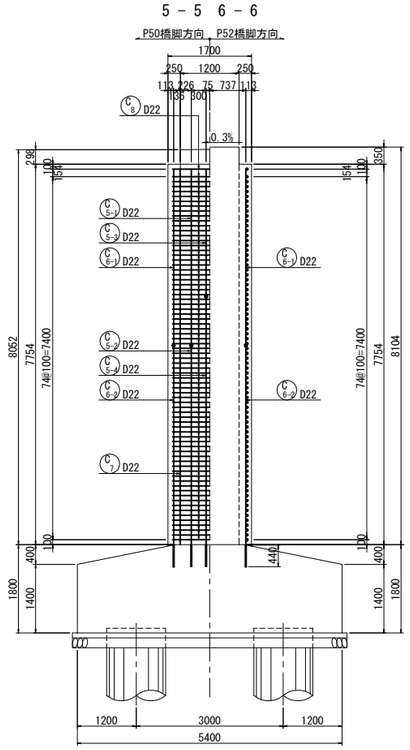
正 面 図 S=1:125

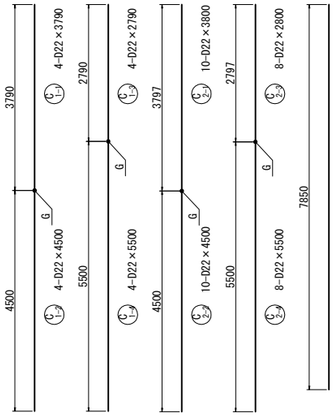
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

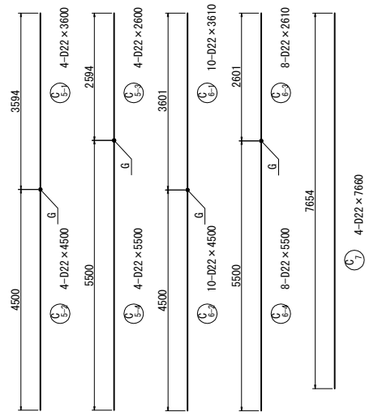


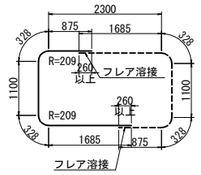
側 面 図 S=1:125

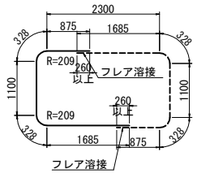
5 － 5　6 － 6









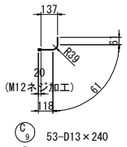


鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3790	4	3.04	11.5	46	I
C 1-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	⌶ <4>
C 1-3	D22	2790	4	3.04	8.48	34	I
C 1-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	⌶ <4>
C 2-1	D22	3800	10	3.04	11.6	116	I
C 2-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	⌶ <10>
C 2-3	D22	2800	8	3.04	8.51	68	I
C 2-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	⌶ <8>
C 3	D22	7850	4	3.04	23.9	96	I
C 4	D22	4320	156	3.04	13.1	2044	⊏ (156)
C 5-1	D22	3600	4	3.04	10.9	44	I
C 5-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	⌶ <4>
C 5-3	D22	2600	4	3.04	7.90	32	I
C 5-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	⌶ <4>
C 6-1	D22	3610	10	3.04	11.0	110	I
C 6-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	⌶ <10>
C 6-3	D22	2610	8	3.04	7.93	63	I
C 6-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	⌶ <8>
C 7	D22	7660	4	3.04	23.3	93	I
C 8	D22	4320	152	3.04	13.1	1991	⊏ (152)
					小計	5523	kg

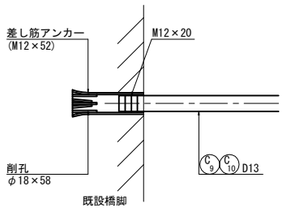
		フレア箇所		圧接箇所	
	D22	5523 kg	(308)	<52>	SD345
	合計	5523 kg	(308)	<52>	SD345
	コンクリート削孔(φ18,L=58)		105	箇所	(参考)
	コンクリート削孔(φ32,L=450)		52	箇所	
	フレア溶接(D22)		308	箇所	

組立筋加工図(参考図)　S=1:50



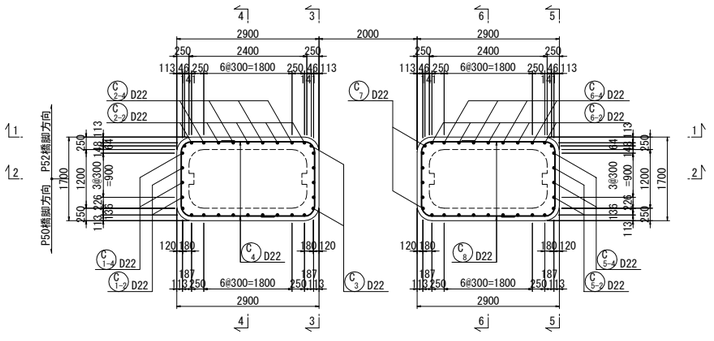
※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5

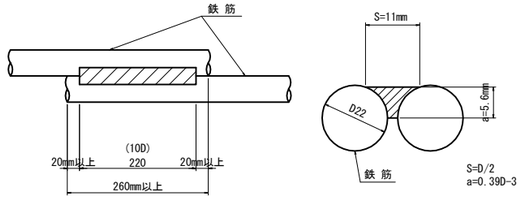


平 面 図 S=1:125

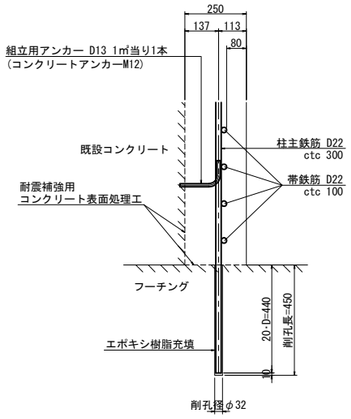
7 － 7



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図　S=1:25

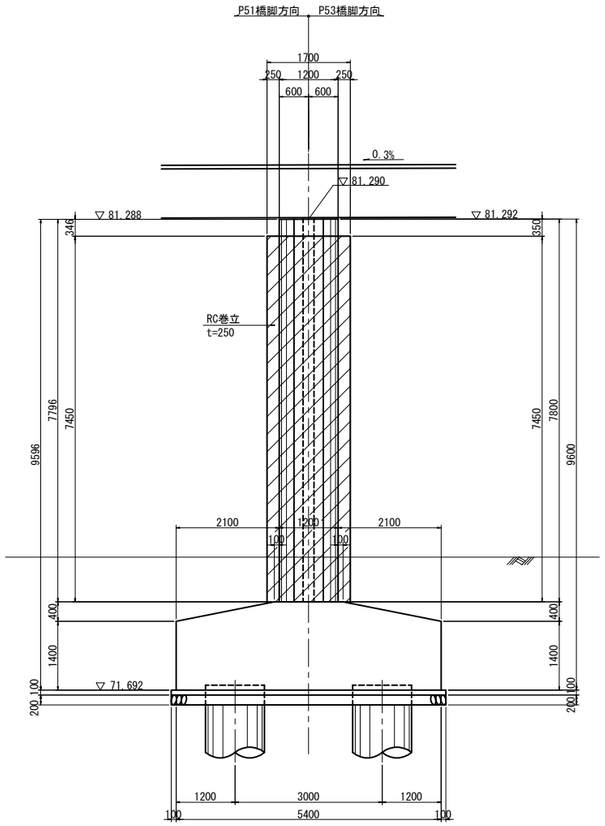


注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

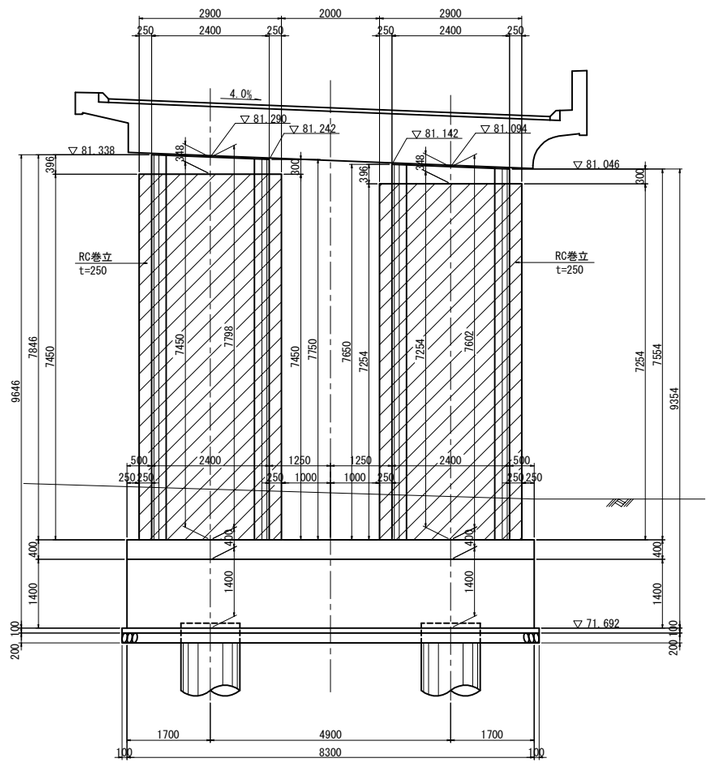
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P51橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P52橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

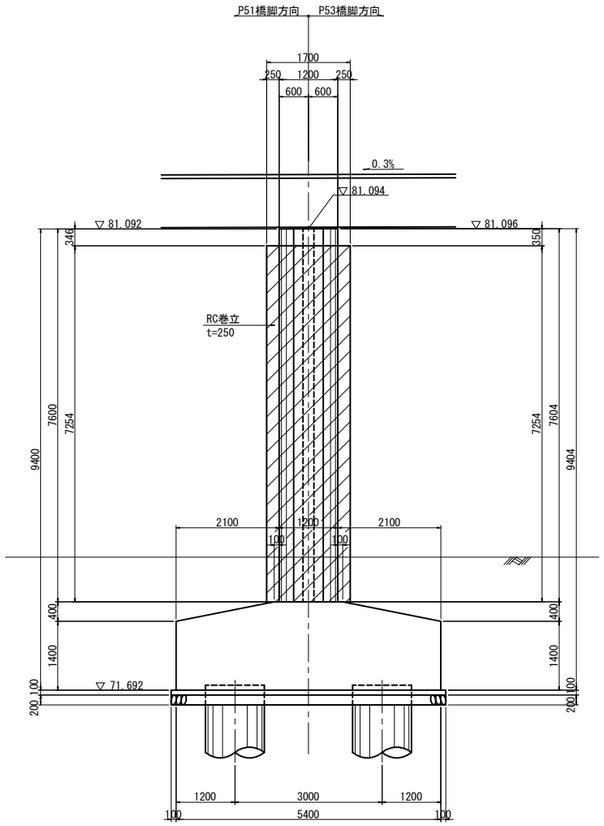
側 面 図 S=1:125



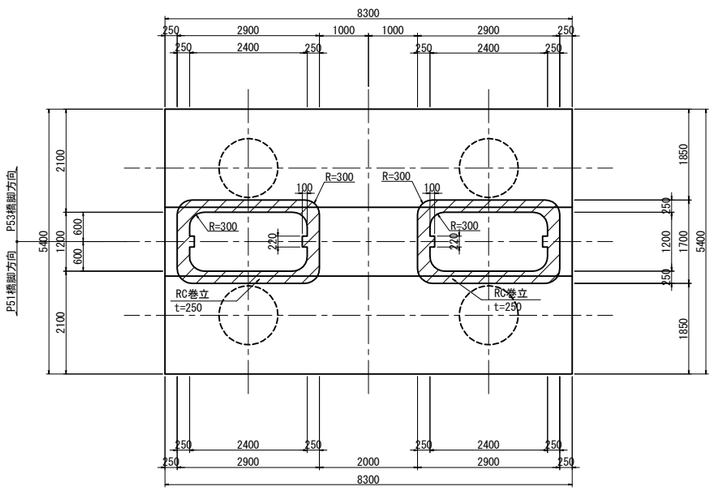
正 面 図 S=1:125



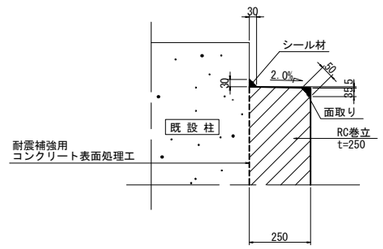
側 面 図 S=1:125



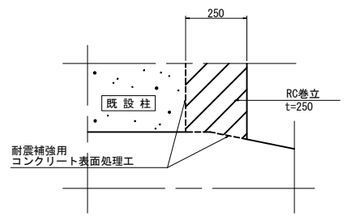
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

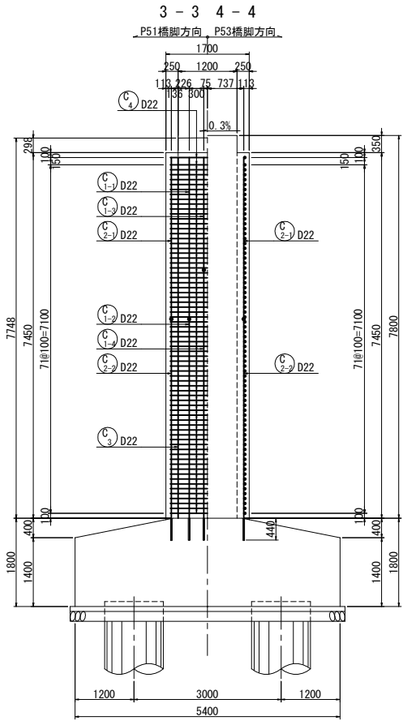
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P52橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P52橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

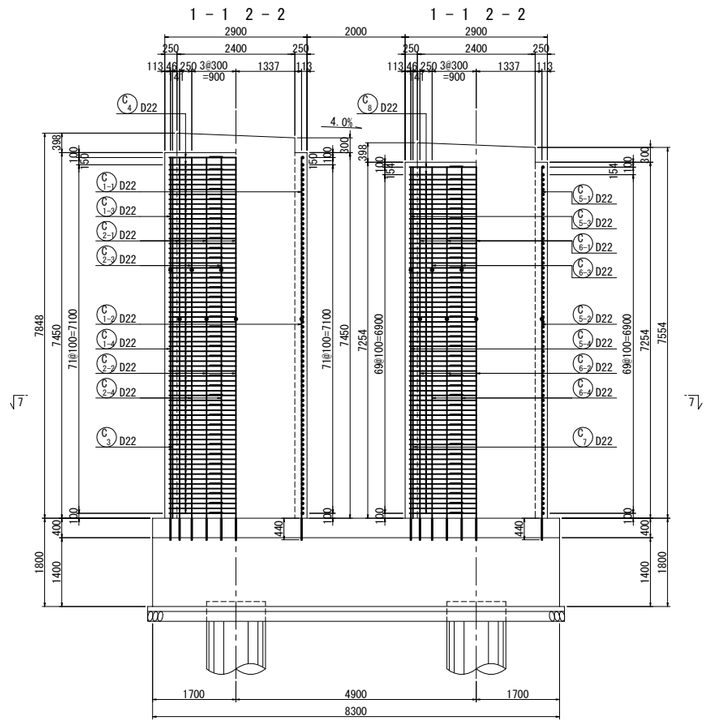
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



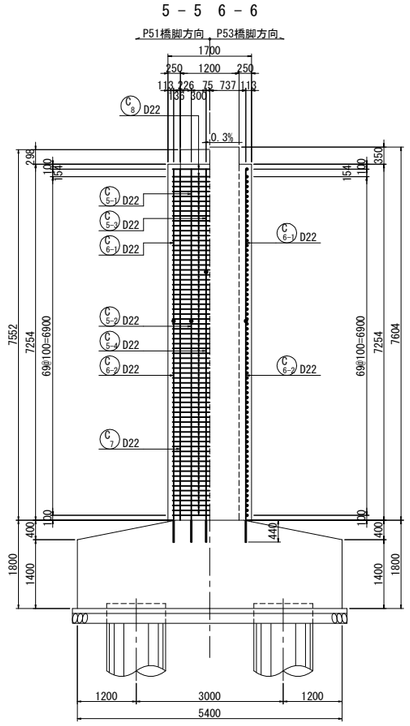
正 面 図 S=1:125

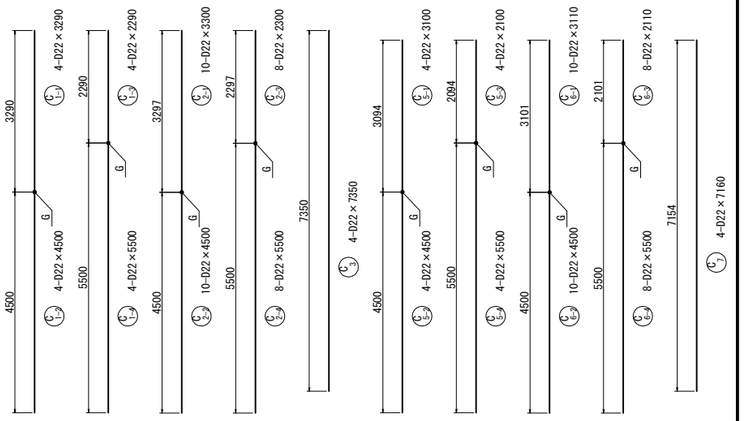
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

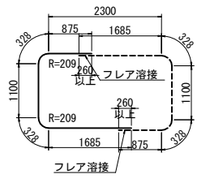


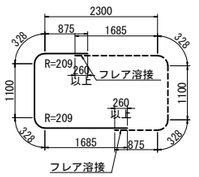
側 面 図 S=1:125

5 － 5　6 － 6





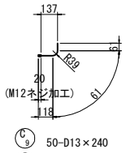




C4 146-D22×4320

C8 142-D22×4320

組立筋加工図(参考図)　S=1:50



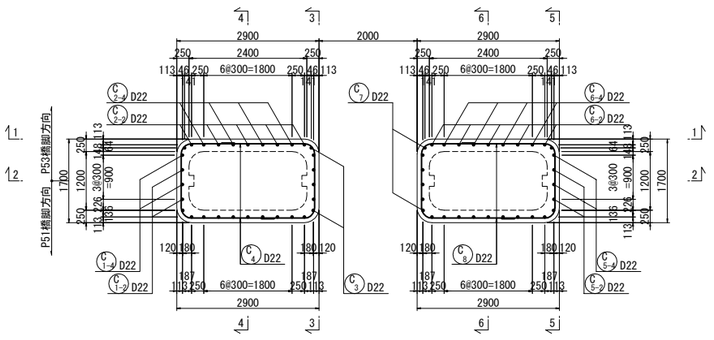
C9 50-D13×240

C10 48-D13×240

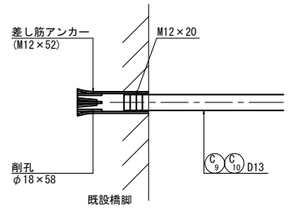
※1本/約1m2程度、設置する。

平 面 図 S=1:125

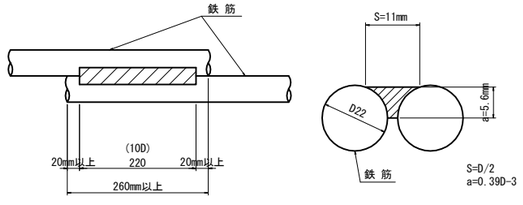
7 － 7



組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



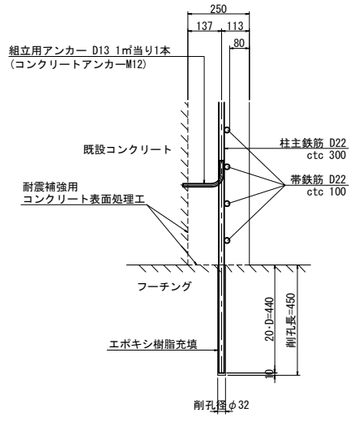
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3290	4	3.04	10.0	40	I
C 1-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 1-3	D22	2290	4	3.04	6.96	28	I
C 1-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 2-1	D22	3300	10	3.04	10.0	100	I
C 2-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 2-3	D22	2300	8	3.04	6.99	56	I
C 2-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 3	D22	7350	4	3.04	22.3	89	I
C 4	D22	4320	146	3.04	13.1	1913	⊏ (146)
C 5-1	D22	3100	4	3.04	9.42	38	I
C 5-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 5-3	D22	2100	4	3.04	6.38	26	I
C 5-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 6-1	D22	3110	10	3.04	9.45	95	I
C 6-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 6-3	D22	2110	8	3.04	6.41	51	I
C 6-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 7	D22	7160	4	3.04	21.8	87	I
C 8	D22	4320	142	3.04	13.1	1860	⊏ (142)
					小計	5169	kg

	フレア箇所		圧接箇所		
D22	5169	kg	(288)	<52>	SD345
合計	5169	kg	(288)	<52>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	98	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	288	箇所	

かぶり詳細図　S=1:25

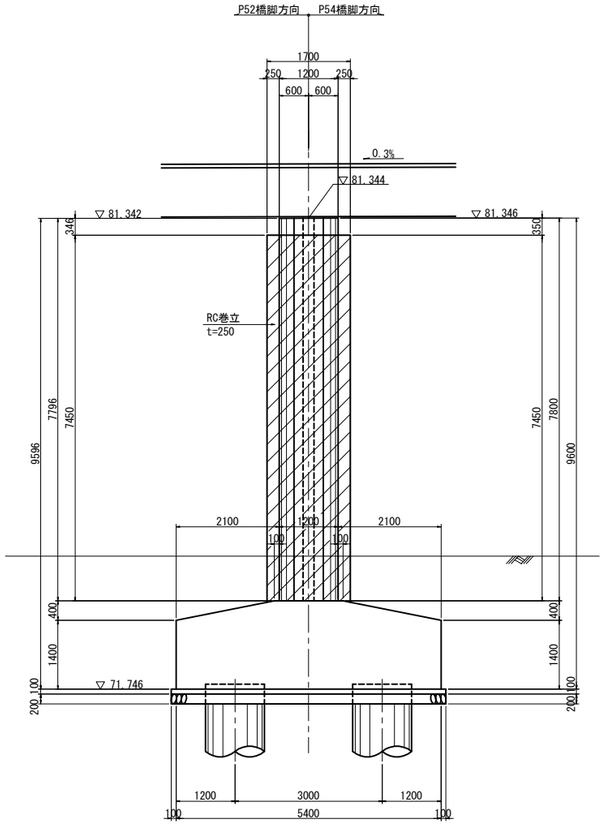


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

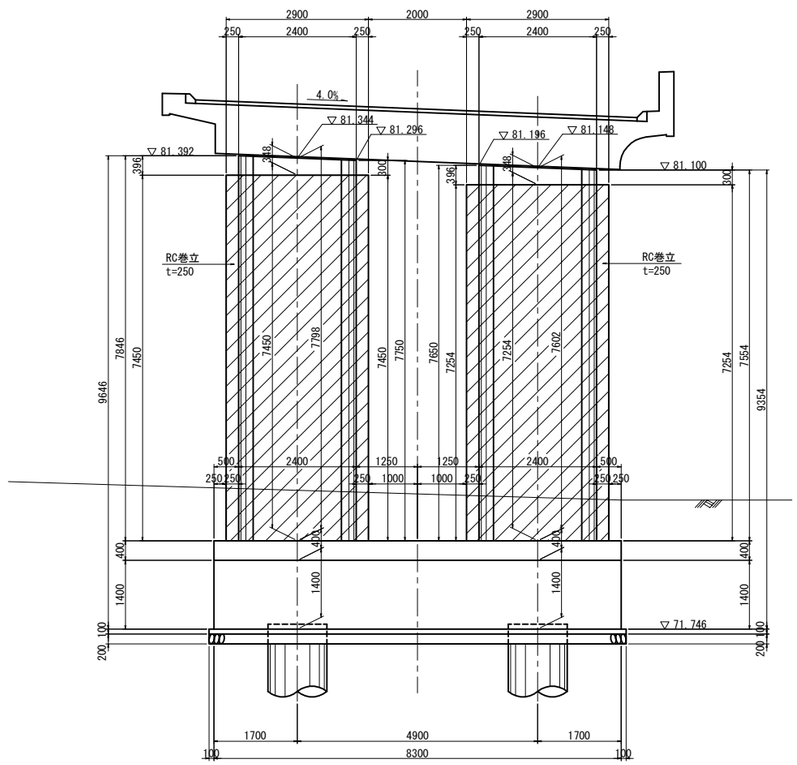
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P52橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P53橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

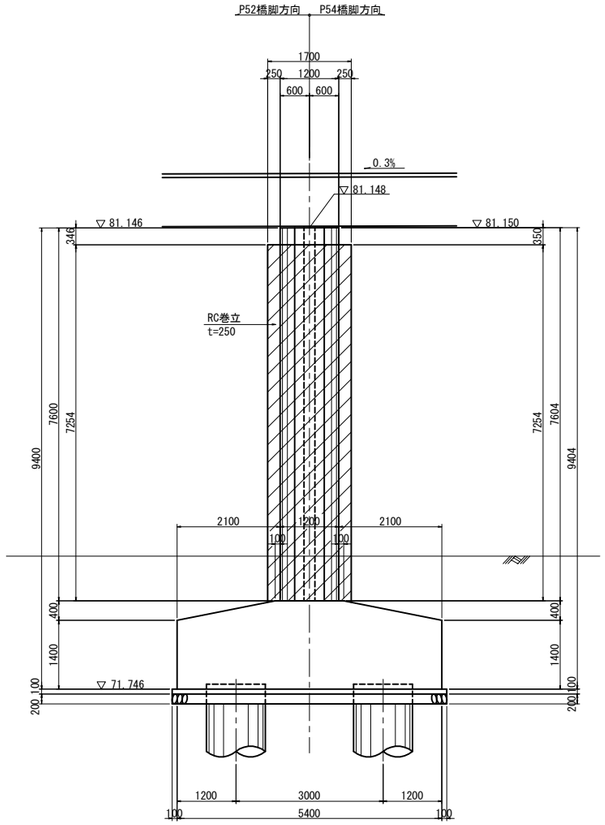
側 面 図 S=1:125



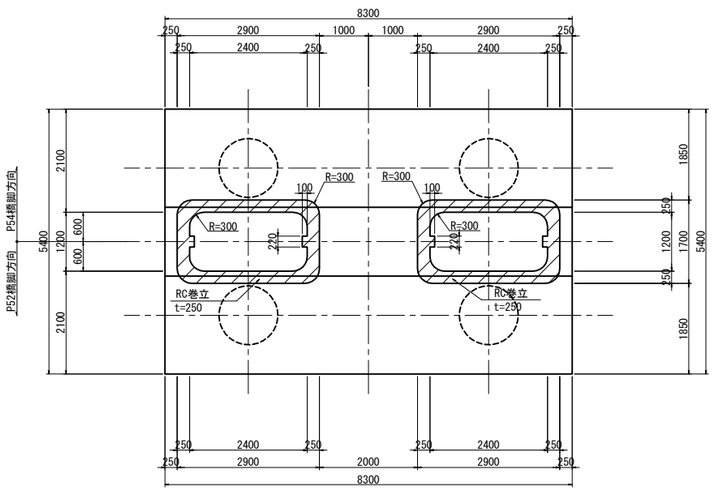
正 面 図 S=1:125



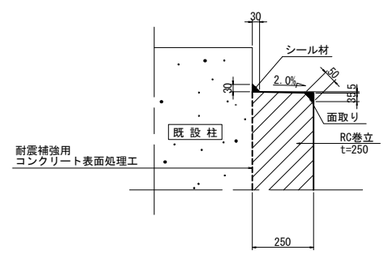
側 面 図 S=1:125



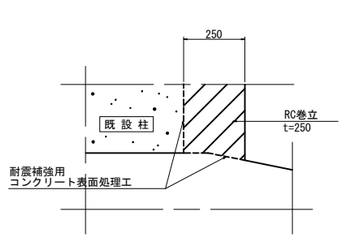
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

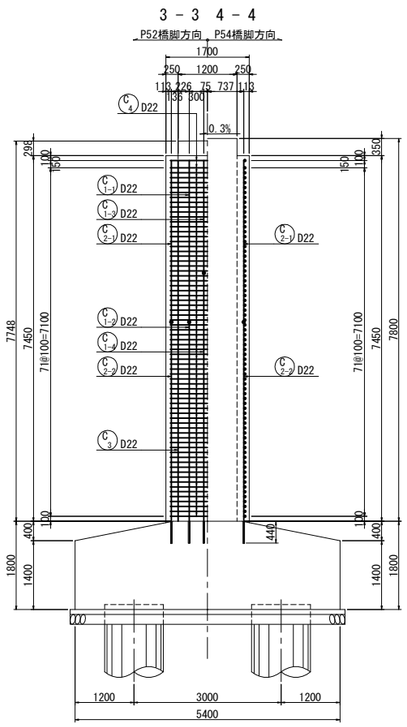
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P53橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P53橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

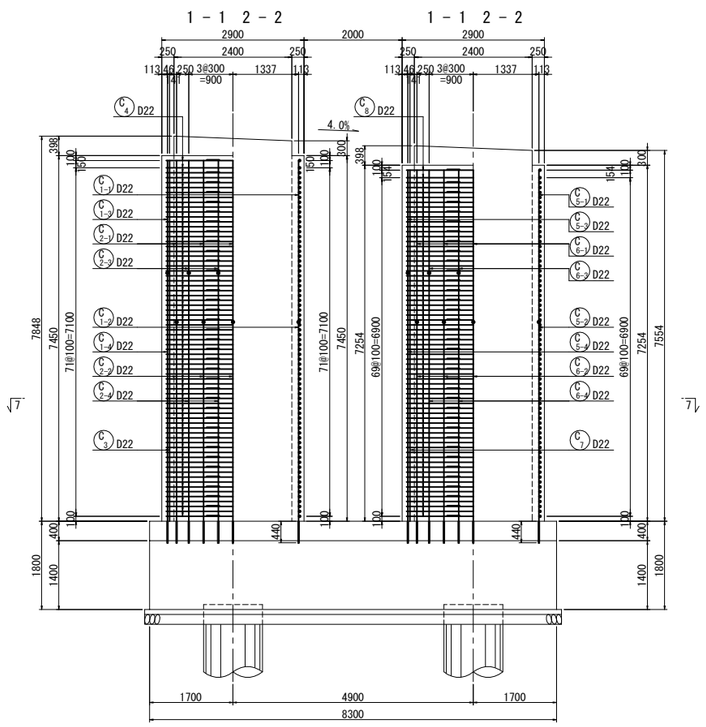
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



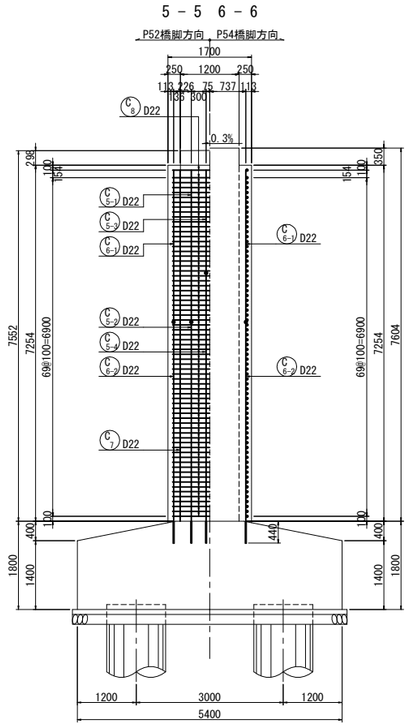
正 面 図 S=1:125

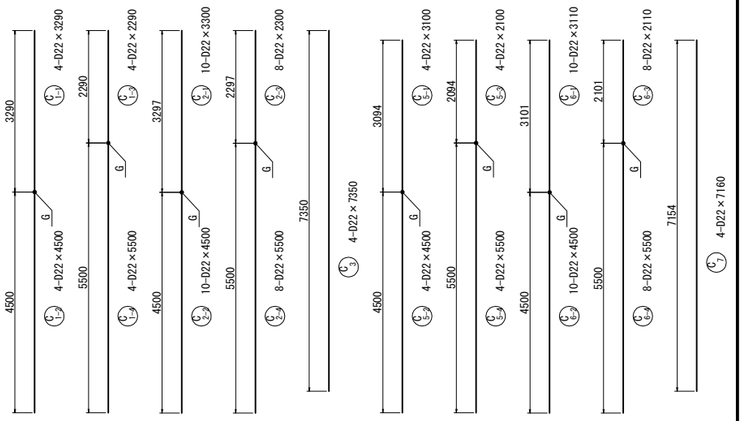
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

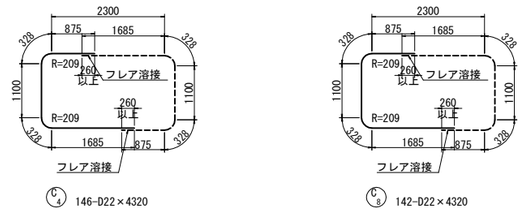


側 面 図 S=1:125

5 － 5　6 － 6







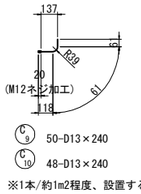
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3290	4	3.04	10.0	40		
C 1-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 1-3	D22	2290	4	3.04	6.96	28		
C 1-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 2-1	D22	3300	10	3.04	10.0	100		
C 2-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 2-3	D22	2300	8	3.04	6.99	56		
C 2-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 3	D22	7350	4	3.04	22.3	89		
C 4	D22	4320	146	3.04	13.1	1913	⊏ (146)
C 5-1	D22	3100	4	3.04	9.42	38		
C 5-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 5-3	D22	2100	4	3.04	6.38	26		
C 5-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 6-1	D22	3110	10	3.04	9.45	95		
C 6-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 6-3	D22	2110	8	3.04	6.41	51		
C 6-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 7	D22	7160	4	3.04	21.8	87		
C 8	D22	4320	142	3.04	13.1	1860	⊏ (142)
					小計	5169	kg

	フレア箇所		圧接箇所		
D22	5169	kg	(288)	<52>	SD345
合計	5169	kg	(288)	<52>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	98	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	288	箇所	

組立筋加工図(参考図)　S=1:50

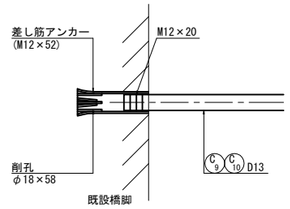


⑨ 50-D13×240

⑩ 48-D13×240

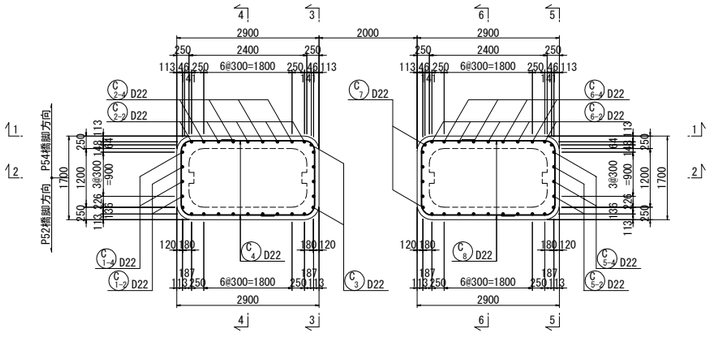
※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5

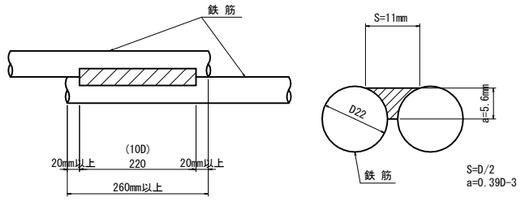


平 面 図 S=1:125

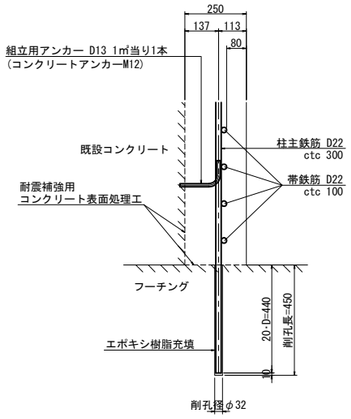
7 － 7



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図　S=1:25

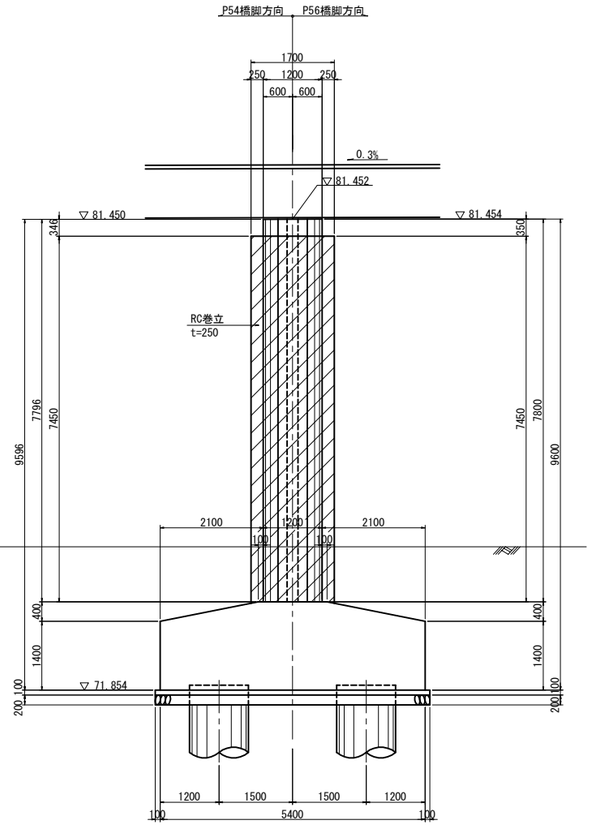


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

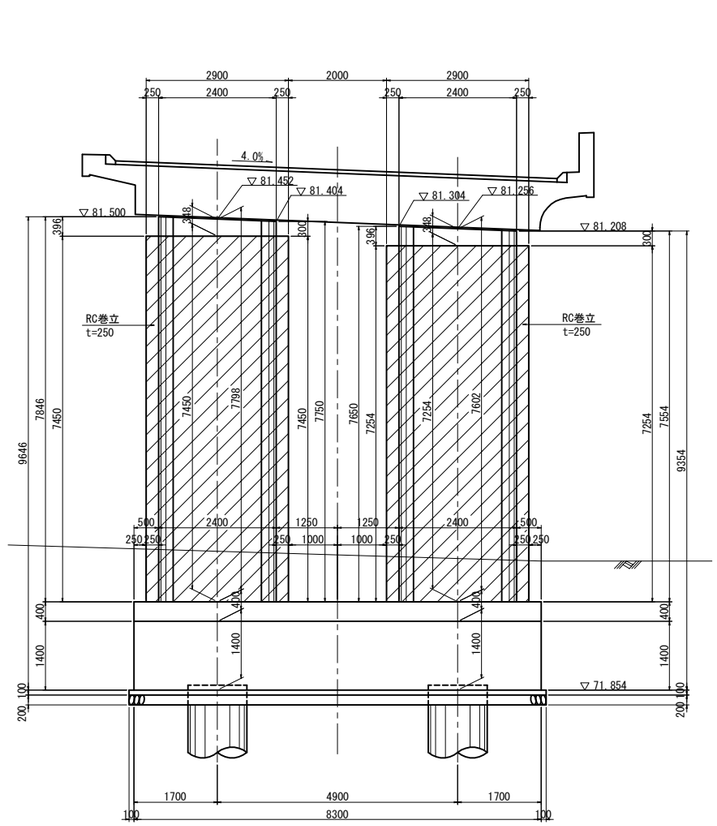
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P53橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）
縮 尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P55橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

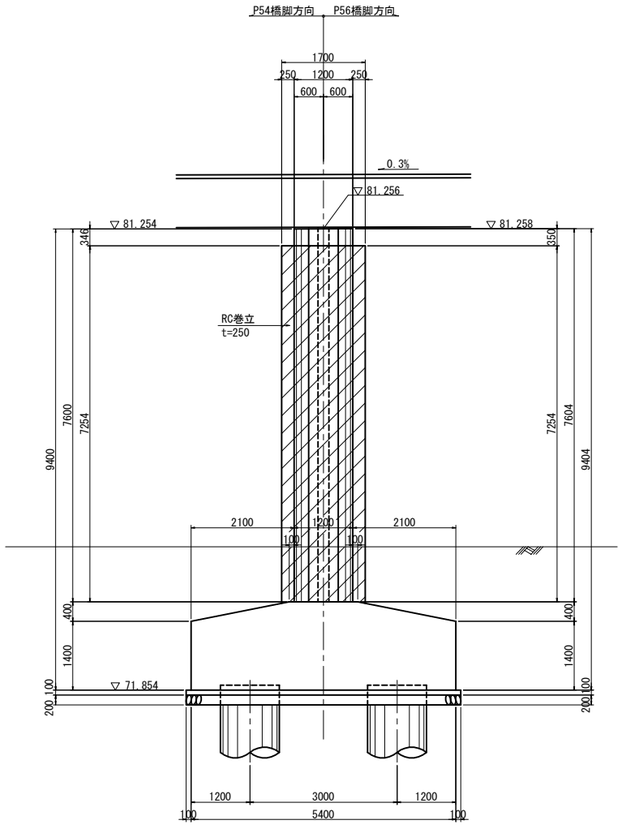
側 面 図 S=1:125



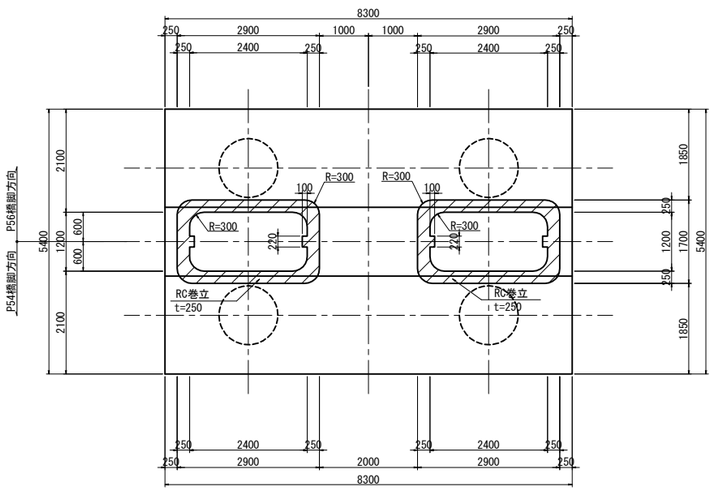
正 面 図 S=1:125



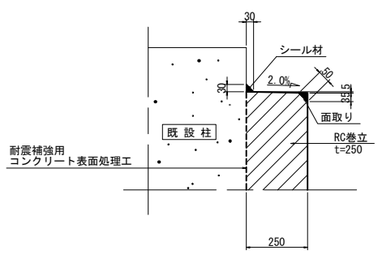
側 面 図 S=1:125



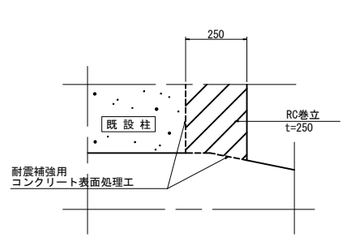
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

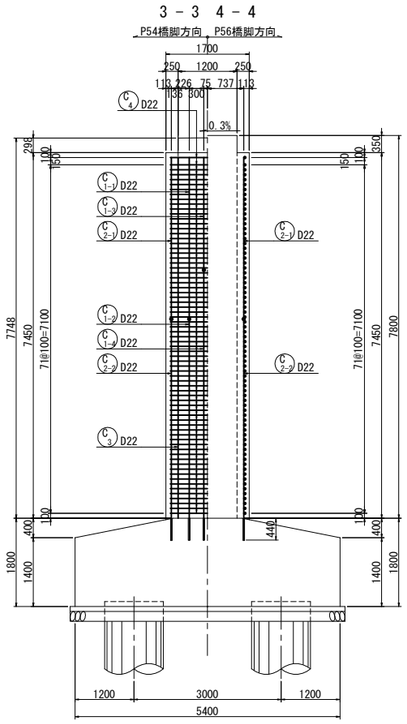
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P55橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P55橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

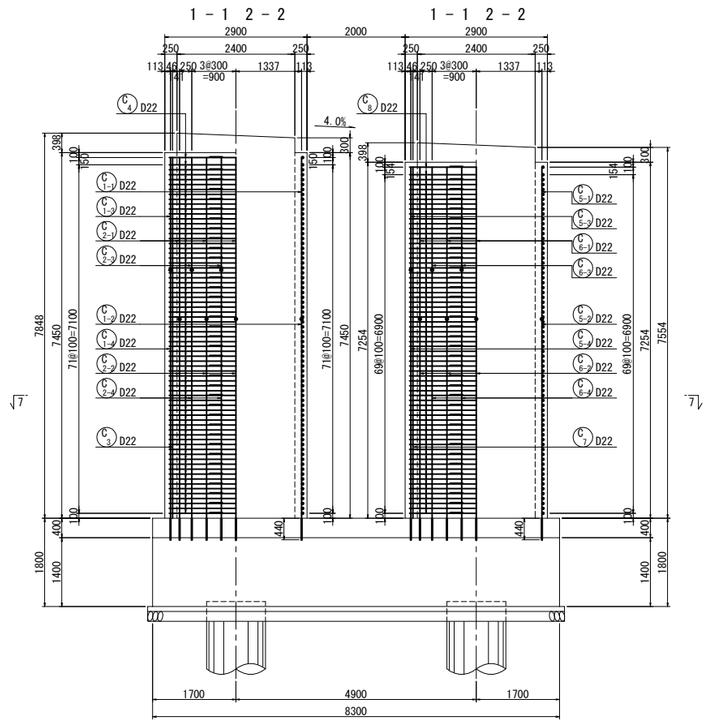
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



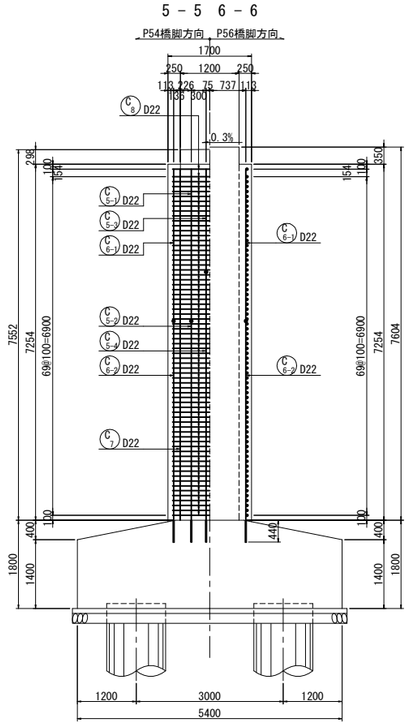
正 面 図 S=1:125

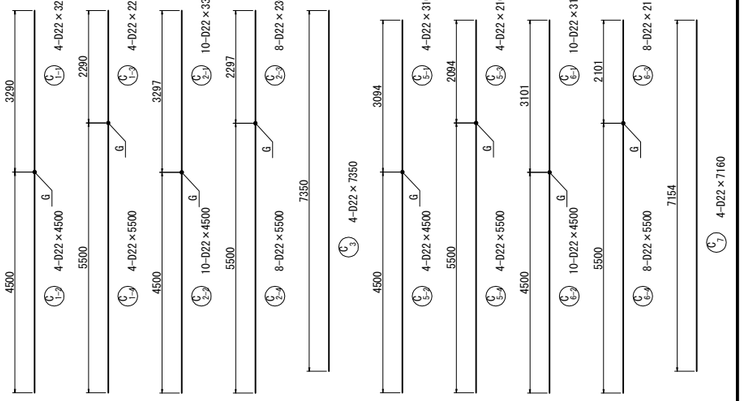
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

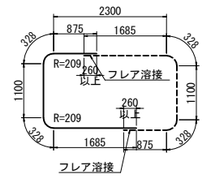


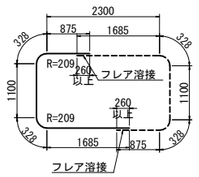
側 面 図 S=1:125

5 － 5　6 － 6









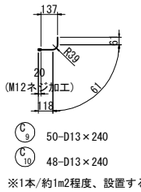
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3290	4	3.04	10.0	40	I
C 1-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 1-3	D22	2290	4	3.04	6.96	28	I
C 1-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 2-1	D22	3300	10	3.04	10.0	100	I
C 2-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 2-3	D22	2300	8	3.04	6.99	56	I
C 2-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 3	D22	7350	4	3.04	22.3	89	I
C 4	D22	4320	146	3.04	13.1	1913	⊏ (146)
C 5-1	D22	3100	4	3.04	9.42	38	I
C 5-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 5-3	D22	2100	4	3.04	6.38	26	I
C 5-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 6-1	D22	3110	10	3.04	9.45	95	I
C 6-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 6-3	D22	2110	8	3.04	6.41	51	I
C 6-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 7	D22	7160	4	3.04	21.8	87	I
C 8	D22	4320	142	3.04	13.1	1860	⊏ (142)
					小計	5169	kg

	フレア箇所		圧接箇所		
D22	5169	kg	(288)	<52>	SD345
合計	5169	kg	(288)	<52>	SD345

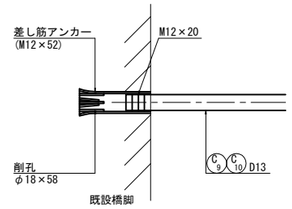
コンクリート削孔(φ18,L=58)	98	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	288	箇所	

組立筋加工図(参考図)　S=1:50



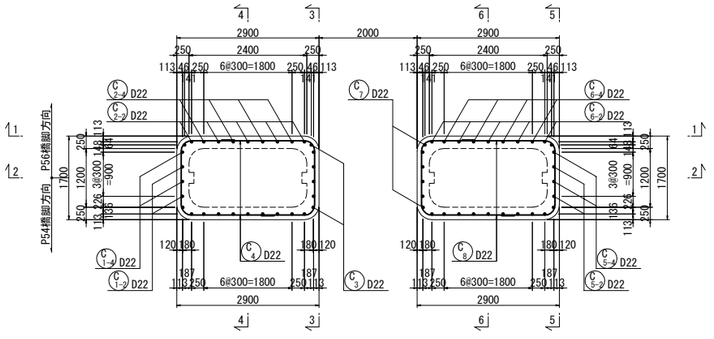
※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5

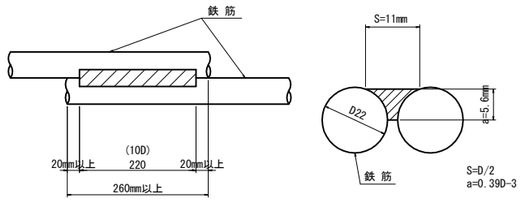


平 面 図 S=1:125

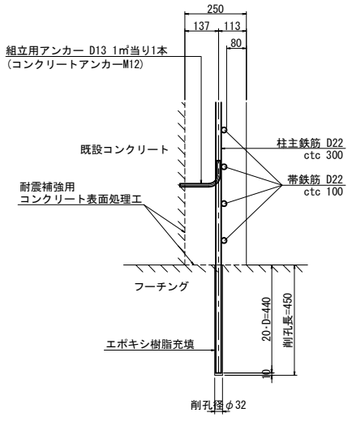
7 － 7



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図　S=1:25

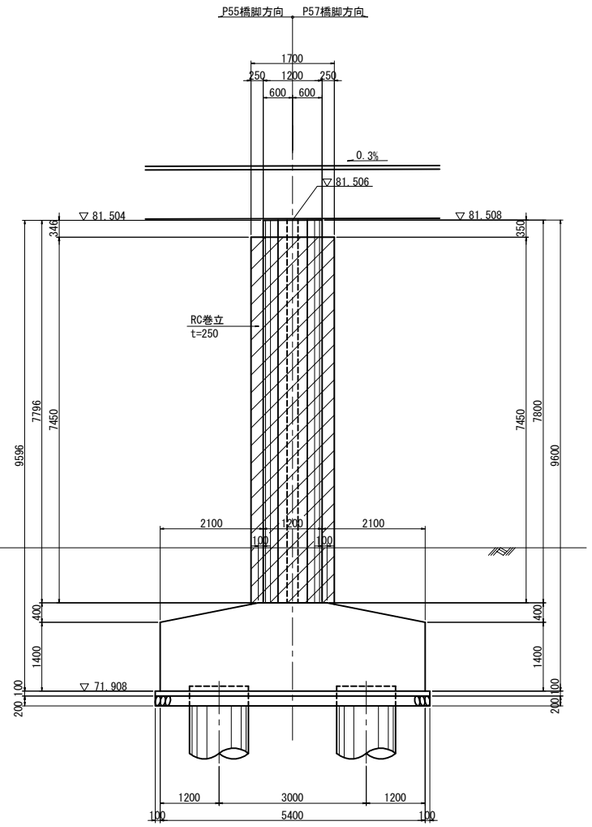


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

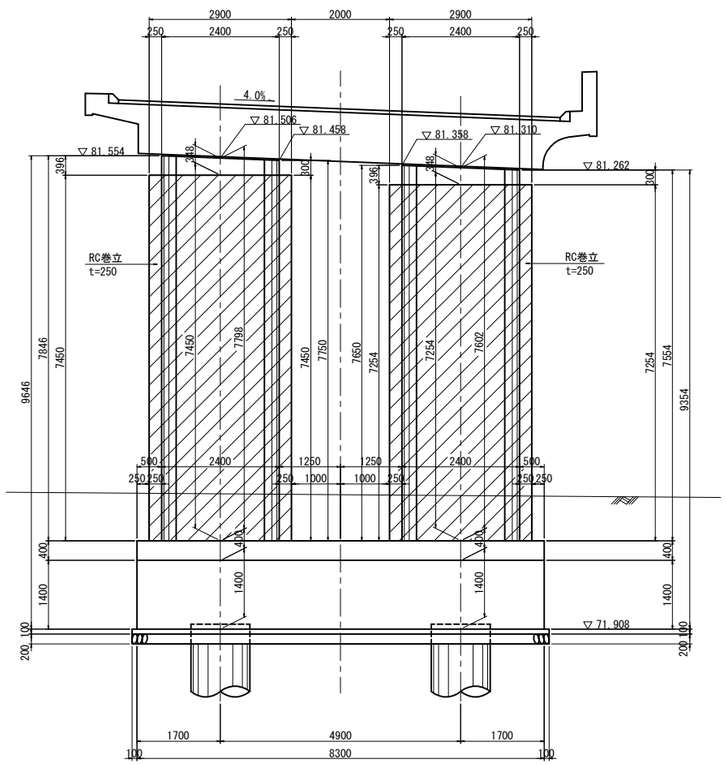
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P55橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）
縮 尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P56橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

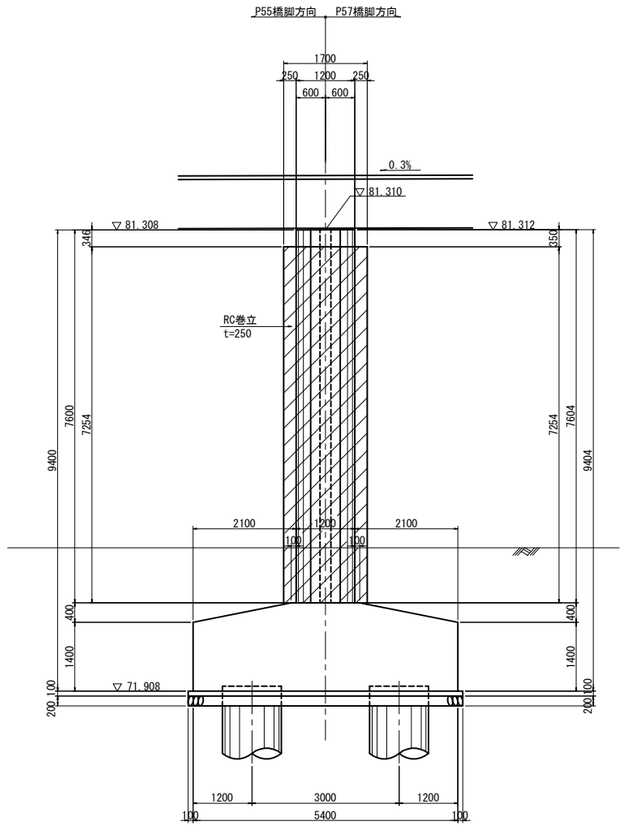
側 面 図 S=1:125



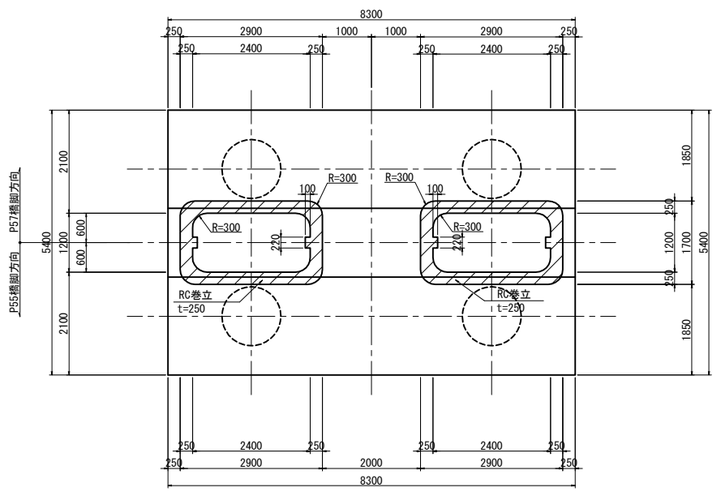
正 面 図 S=1:125



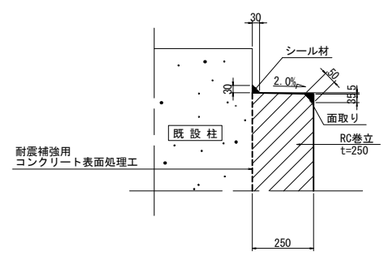
側 面 図 S=1:125



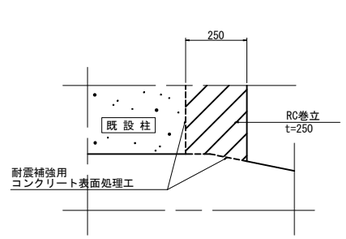
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

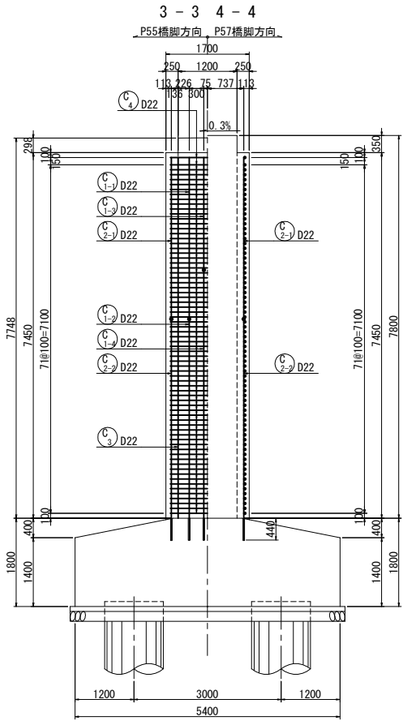
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P56橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P56橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

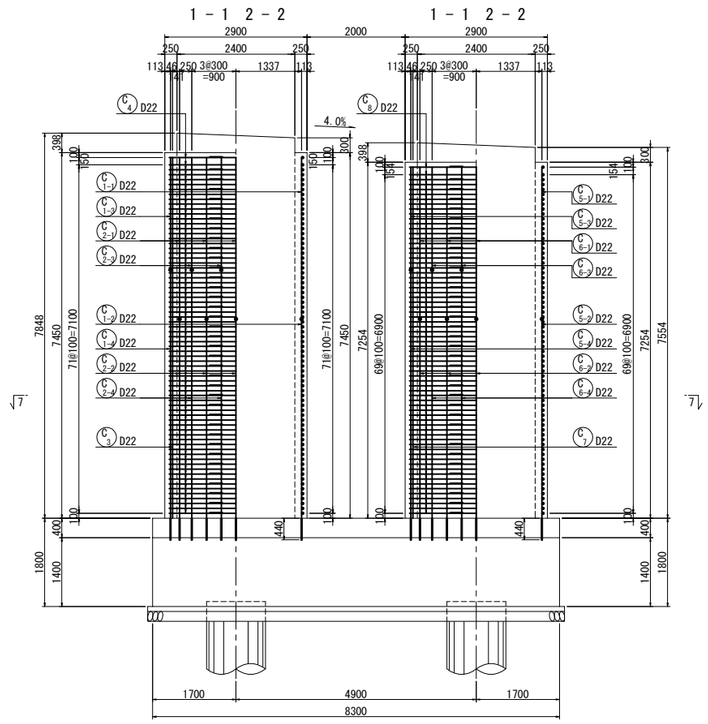
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



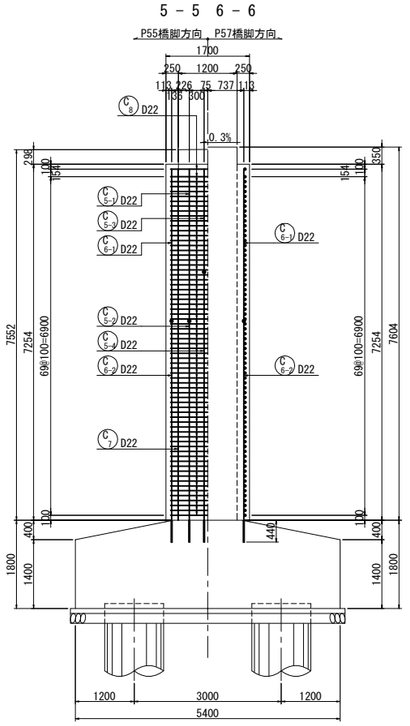
正 面 図 S=1:125

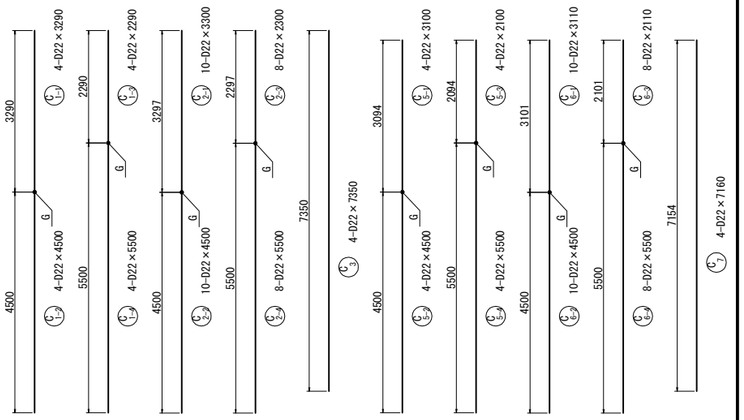
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

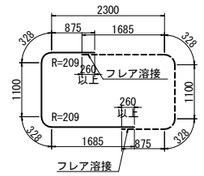


側 面 図 S=1:125

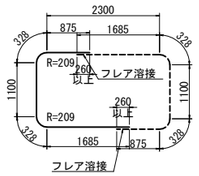
5 － 5　6 － 6







C4 146-D22×4320



C8 142-D22×4320

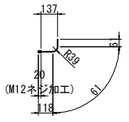
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3290	4	3.04	10.0	40	I
C 1-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	↑ <4>
C 1-3	D22	2290	4	3.04	6.96	28	I
C 1-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	↑ <4>
C 2-1	D22	3300	10	3.04	10.0	100	I
C 2-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	↑ <10>
C 2-3	D22	2300	8	3.04	6.99	56	I
C 2-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	↑ <8>
C 3	D22	7350	4	3.04	22.3	89	I
C 4	D22	4320	146	3.04	13.1	1913	⊏ (146)
C 5-1	D22	3100	4	3.04	9.42	38	I
C 5-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	↑ <4>
C 5-3	D22	2100	4	3.04	6.38	26	I
C 5-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	↑ <4>
C 6-1	D22	3110	10	3.04	9.45	95	I
C 6-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	↑ <10>
C 6-3	D22	2110	8	3.04	6.41	51	I
C 6-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	↑ <8>
C 7	D22	7160	4	3.04	21.8	87	I
C 8	D22	4320	142	3.04	13.1	1860	⊏ (142)
					小計	5169	kg

	フレア箇所		圧接箇所		
D22	5169	kg	(288)	<52>	SD345
合計	5169	kg	(288)	<52>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	98	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	288	箇所	

組立筋加工図(参考図)　S=1:50



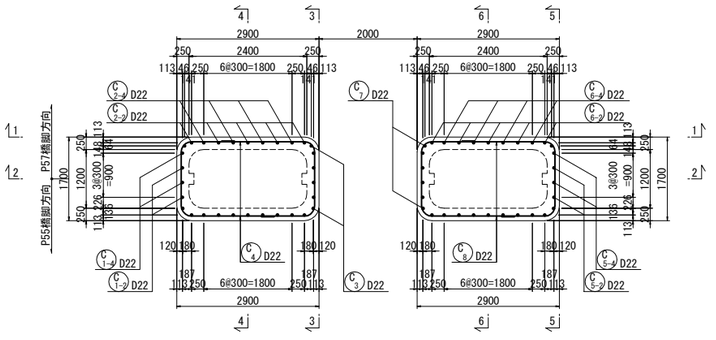
C9 50-D13×240

C10 48-D13×240

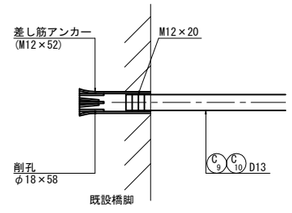
※1本/約1m2程度、設置する。

平 面 図 S=1:125

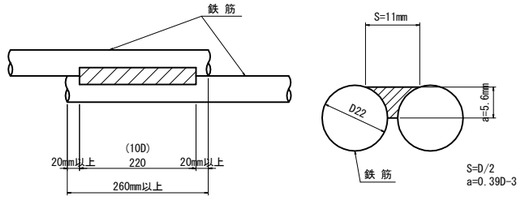
7 － 7



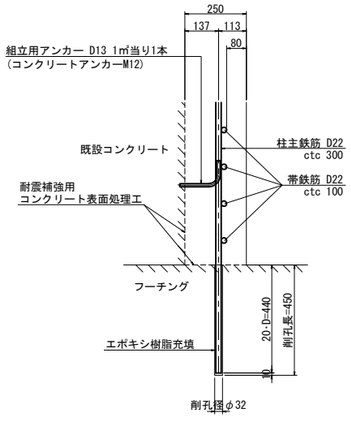
組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図　S=1:25

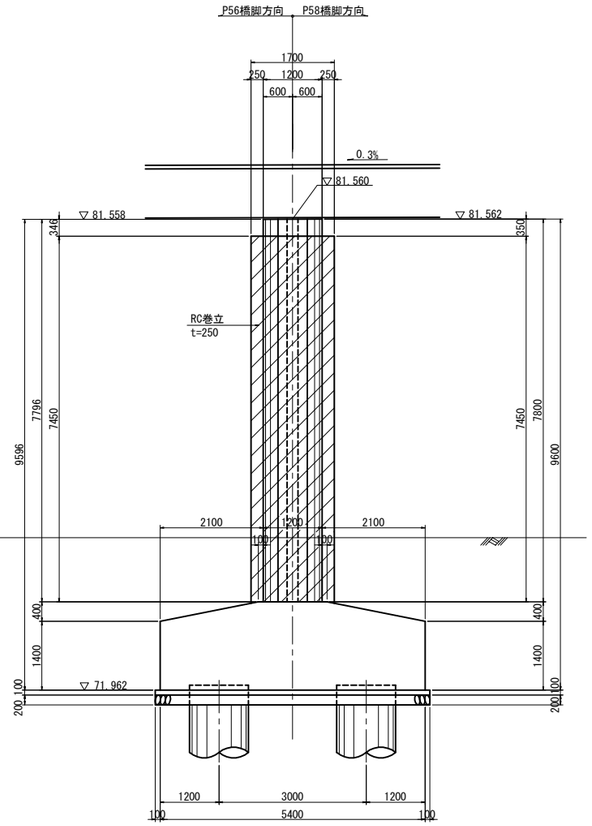


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

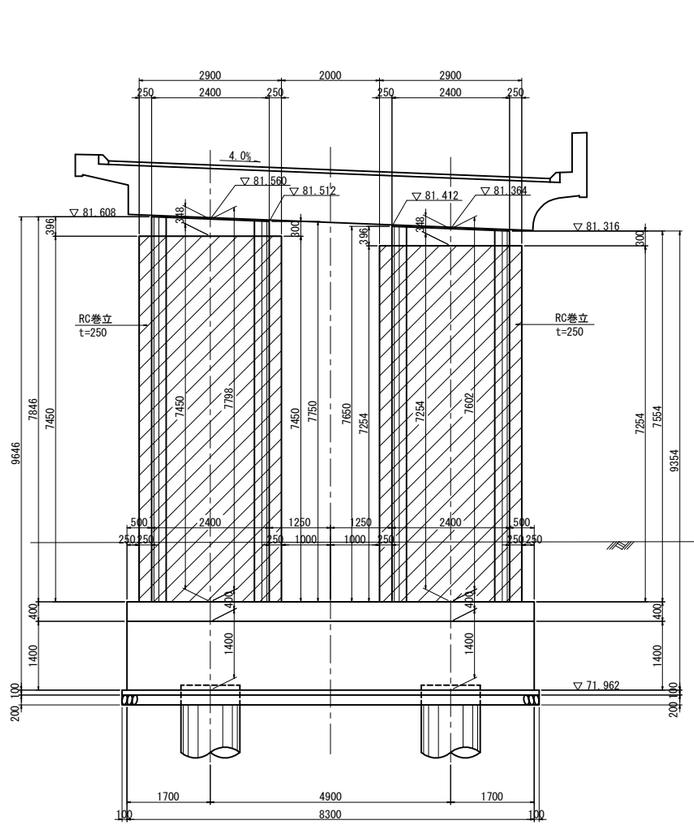
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P56橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）
縮 尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P57橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

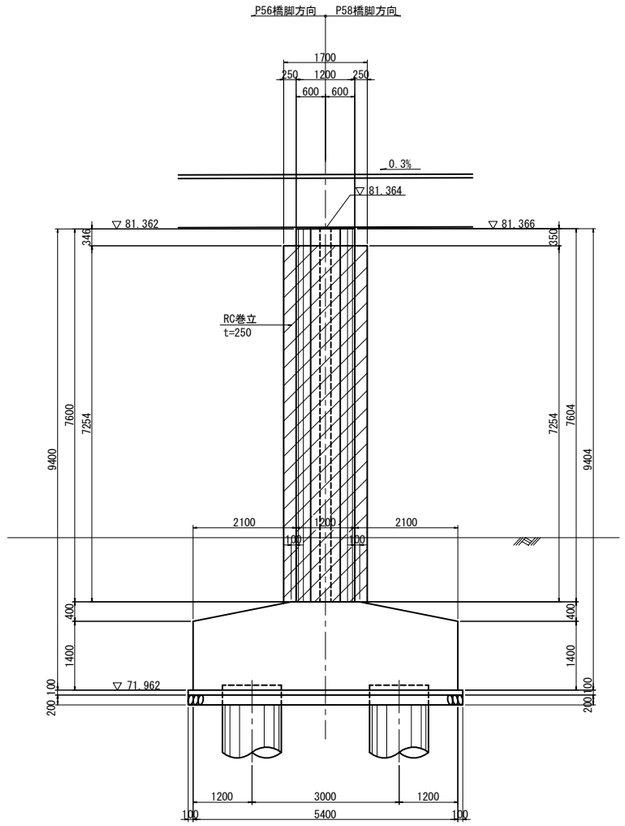
側 面 図 S=1:125



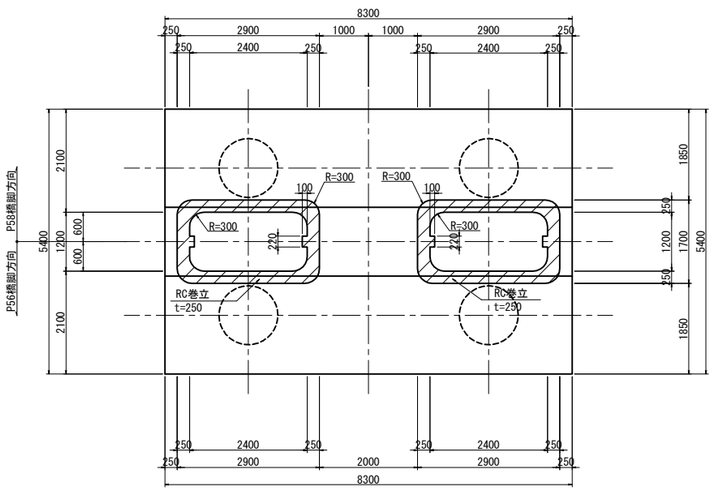
正 面 図 S=1:125



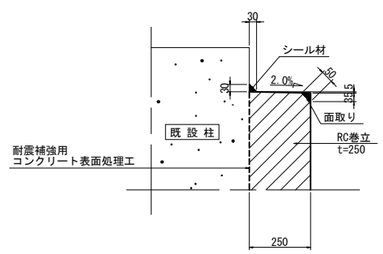
側 面 図 S=1:125



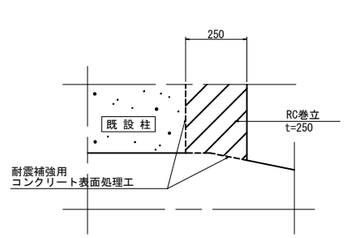
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

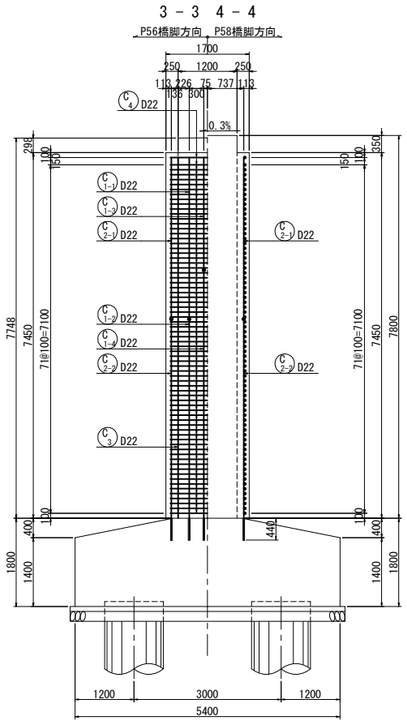
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P57橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P57橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

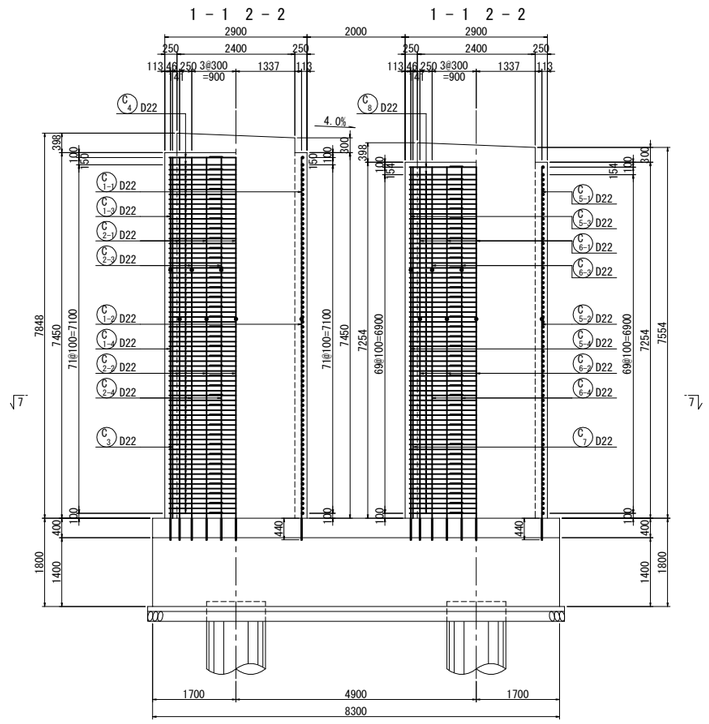
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



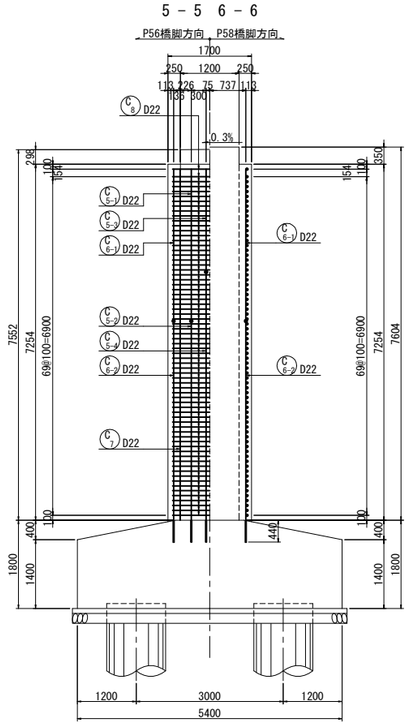
正 面 図 S=1:125

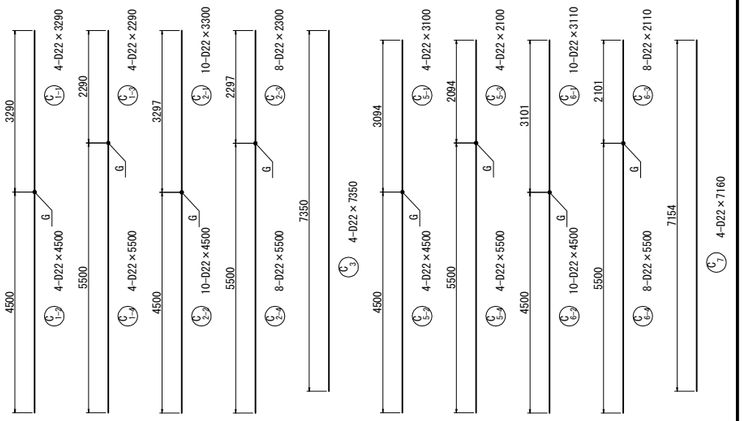
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

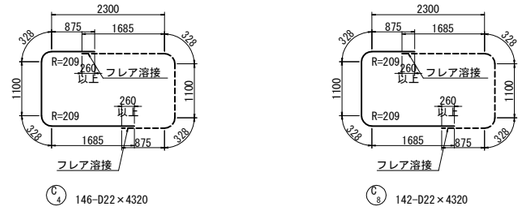


側 面 図 S=1:125

5 － 5　6 － 6







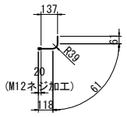
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘　要
C 1-1	D22	3290	4	3.04	10.0	40		
C 1-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 1-3	D22	2290	4	3.04	6.96	28		
C 1-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 2-1	D22	3300	10	3.04	10.0	100		
C 2-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 2-3	D22	2300	8	3.04	6.99	56		
C 2-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 3	D22	7350	4	3.04	22.3	89		
C 4	D22	4320	146	3.04	13.1	1913	⊏ (146)
C 5-1	D22	3100	4	3.04	9.42	38		
C 5-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 5-3	D22	2100	4	3.04	6.38	26		
C 5-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 6-1	D22	3110	10	3.04	9.45	95		
C 6-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 6-3	D22	2110	8	3.04	6.41	51		
C 6-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 7	D22	7160	4	3.04	21.8	87		
C 8	D22	4320	142	3.04	13.1	1860	⊏ (142)
					小計	5169	kg

	フレア箇所		圧接箇所		
D22	5169	kg	(288)	<52>	SD345
合計	5169	kg	(288)	<52>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	98	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	288	箇所	

組立筋加工図(参考図)　S=1:50

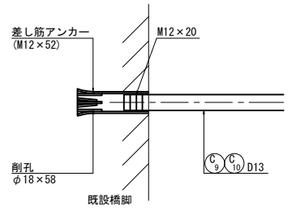


C 9　50-D13×240

C 10　48-D13×240

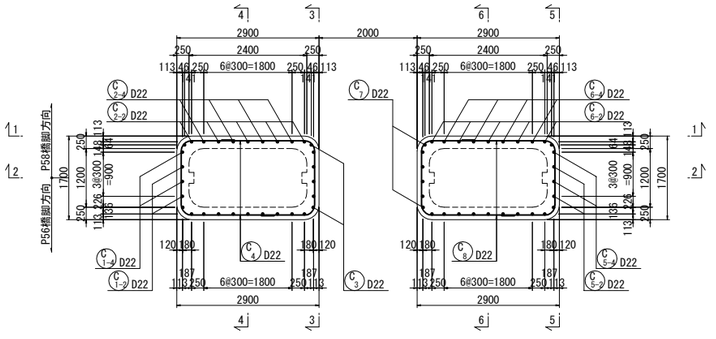
※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5

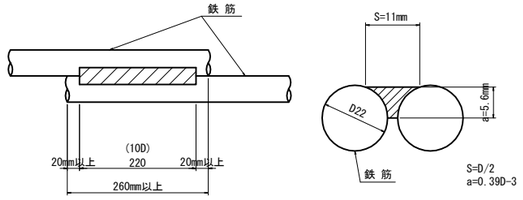


平 面 図 S=1:125

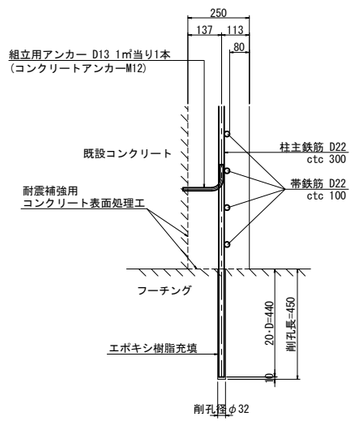
7 － 7



フレア溶接詳細図



かぶり詳細図　S=1:25

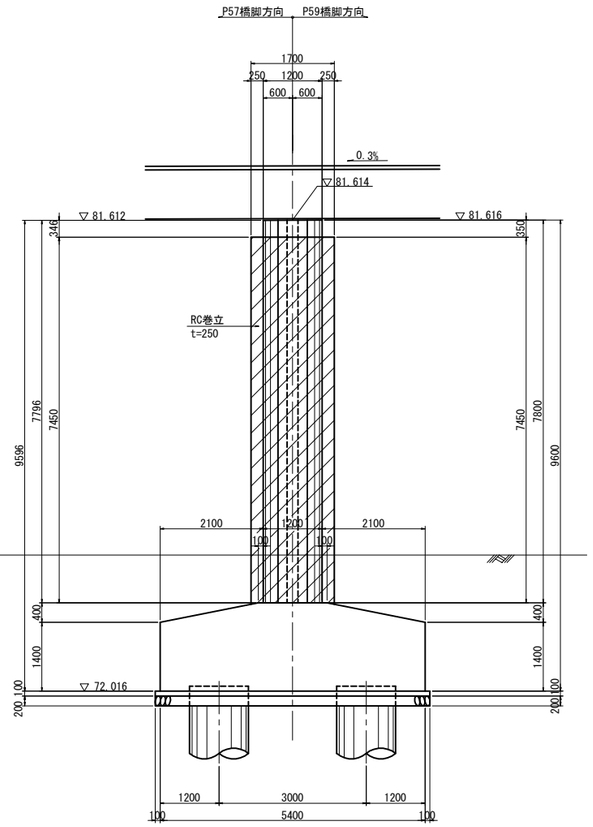


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

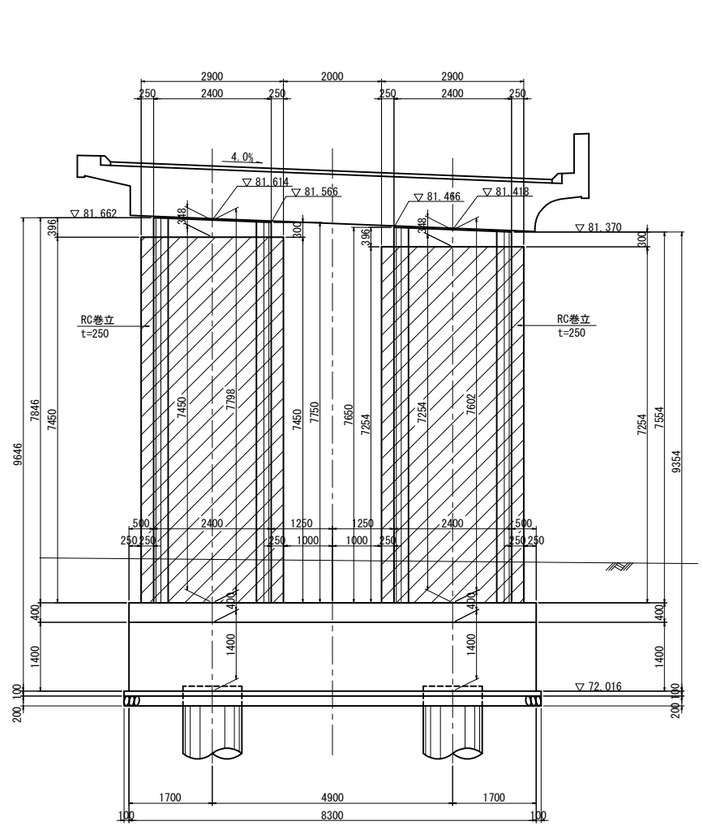
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P57橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P58橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

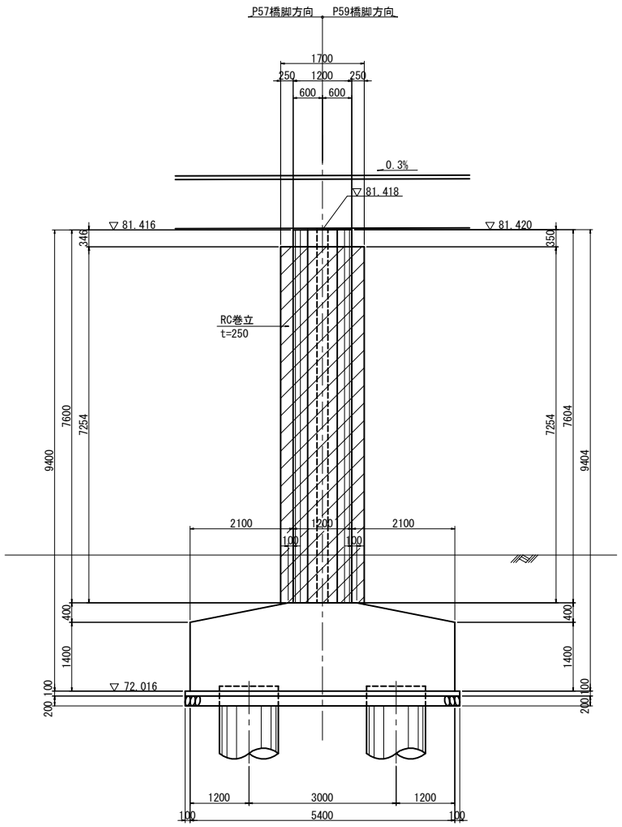
側 面 図 S=1:125



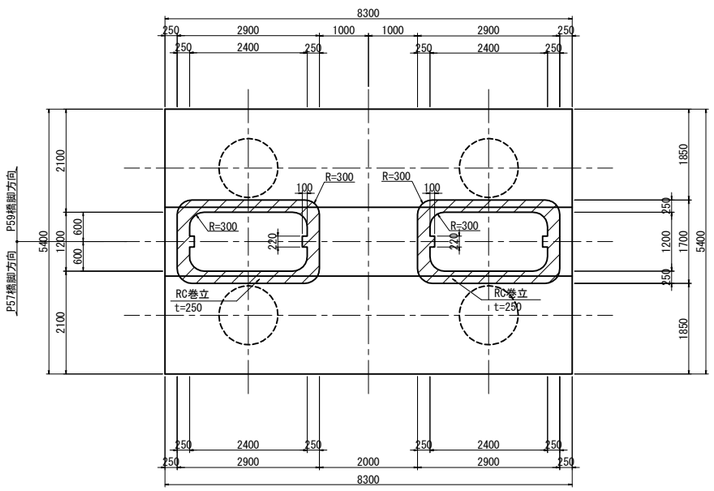
正 面 図 S=1:125



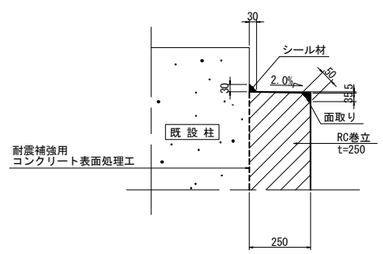
側 面 図 S=1:125



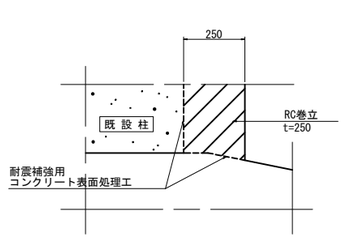
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

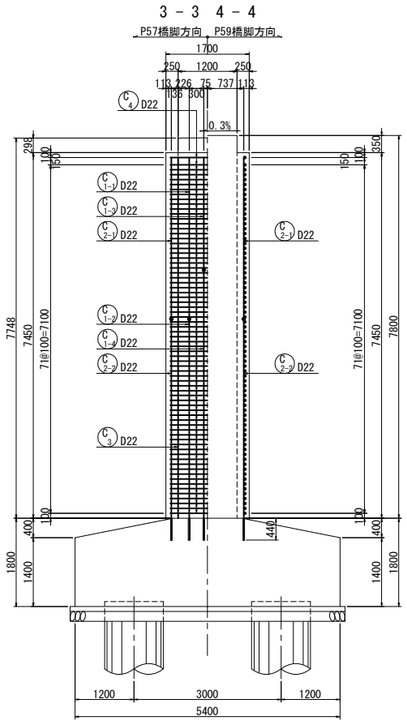
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P58橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P58橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

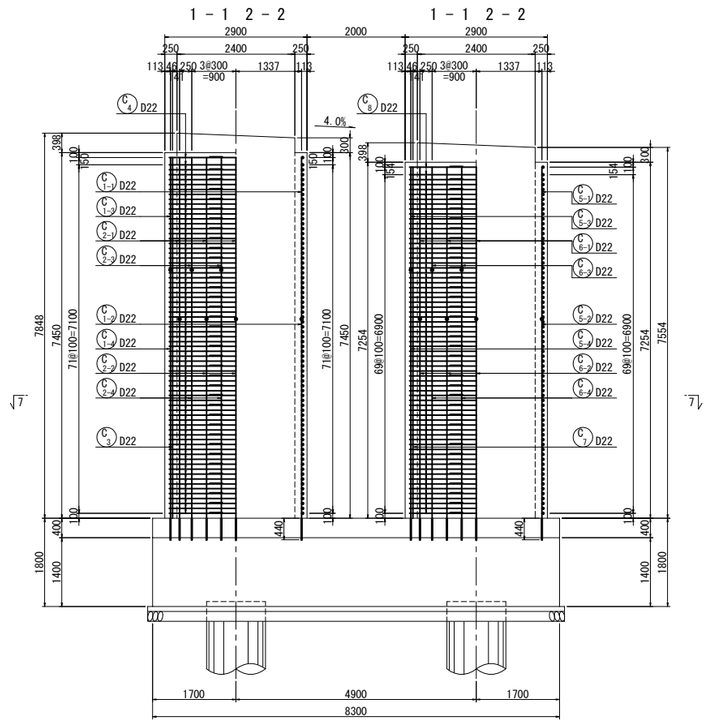
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



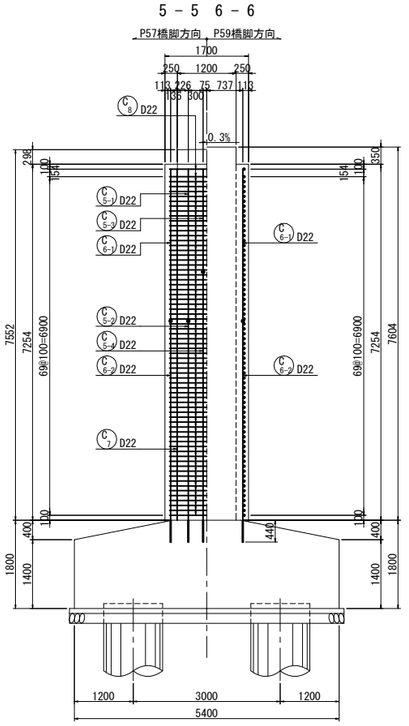
正 面 図 S=1:125

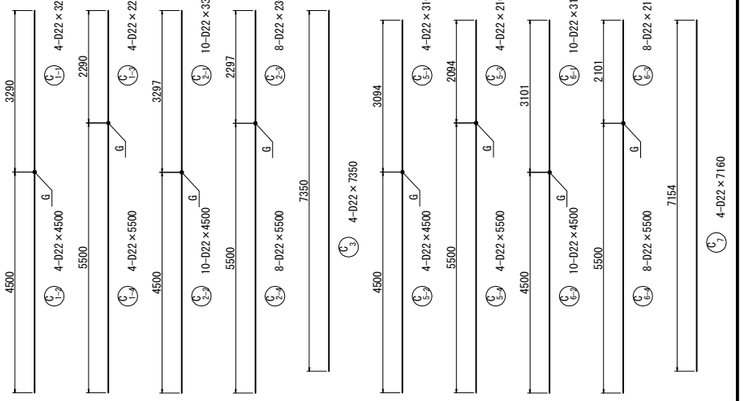
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

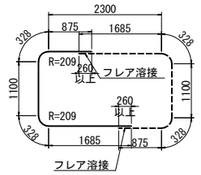


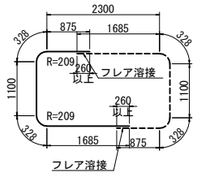
側 面 図 S=1:125

5 － 5　6 － 6



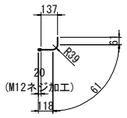






C4 146-D22×4320　　C8 142-D22×4320

組立筋加工図(参考図)　S=1:50



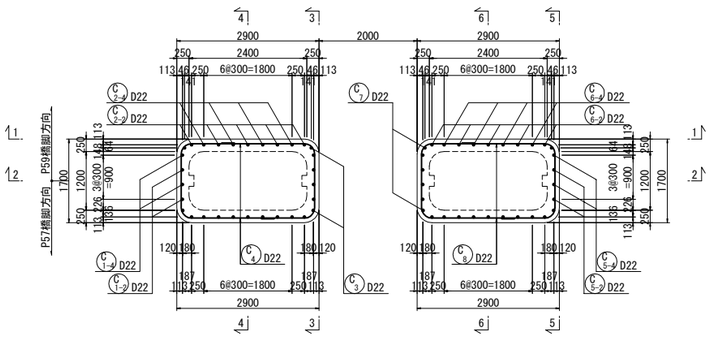
C9 50-D13×240

C10 48-D13×240

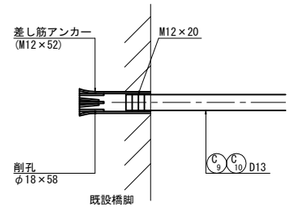
※1本/約1m2程度、設置する。

平 面 図 S=1:125

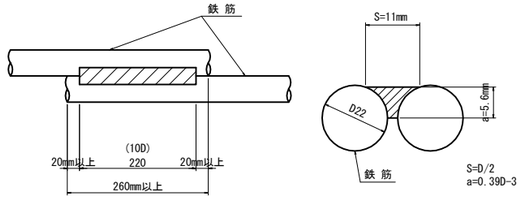
7 － 7



組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



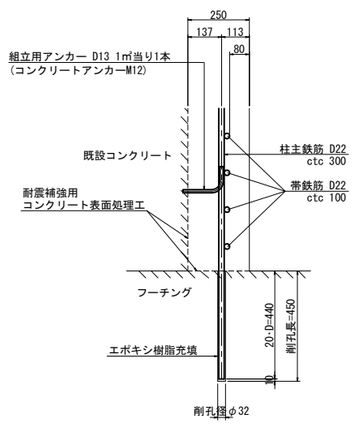
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3290	4	3.04	10.0	40	I
C 1-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 1-3	D22	2290	4	3.04	6.96	28	I
C 1-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 2-1	D22	3300	10	3.04	10.0	100	I
C 2-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 2-3	D22	2300	8	3.04	6.99	56	I
C 2-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 3	D22	7350	4	3.04	22.3	89	I
C 4	D22	4320	146	3.04	13.1	1913	⊏ (146)
C 5-1	D22	3100	4	3.04	9.42	38	I
C 5-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 5-3	D22	2100	4	3.04	6.38	26	I
C 5-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 6-1	D22	3110	10	3.04	9.45	95	I
C 6-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 6-3	D22	2110	8	3.04	6.41	51	I
C 6-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 7	D22	7160	4	3.04	21.8	87	I
C 8	D22	4320	142	3.04	13.1	1860	⊏ (142)
					小計	5169	kg

	フレア箇所		圧接箇所		
D22	5169	kg	(288)	<52>	SD345
合計	5169	kg	(288)	<52>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	98	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	288	箇所	

かぶり詳細図　S=1:25

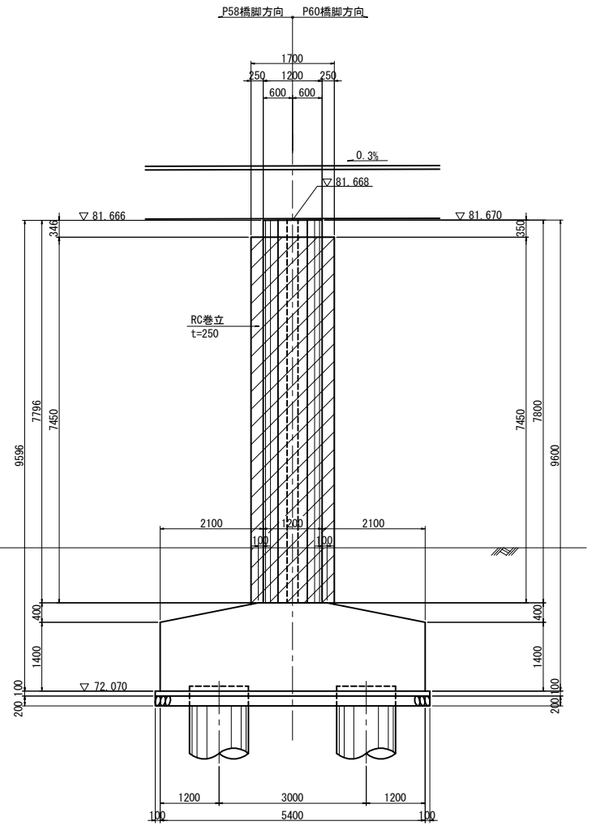


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

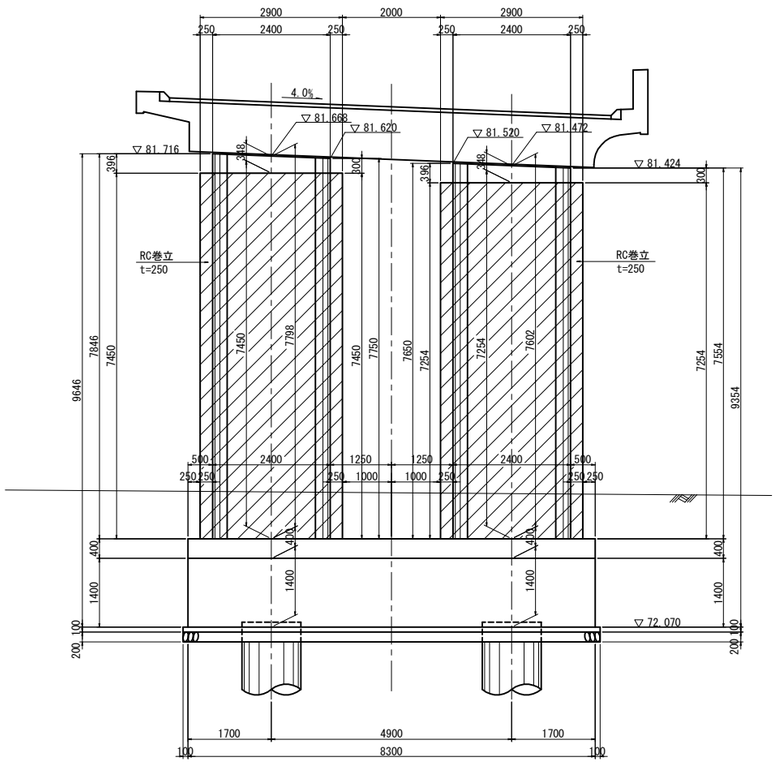
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P58橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）
縮 尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P59橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

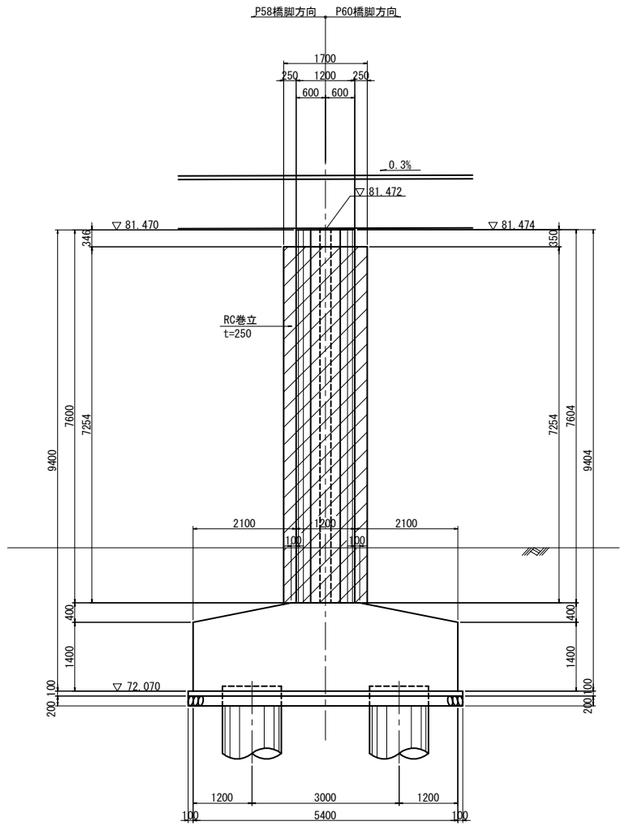
側 面 図 S=1:125



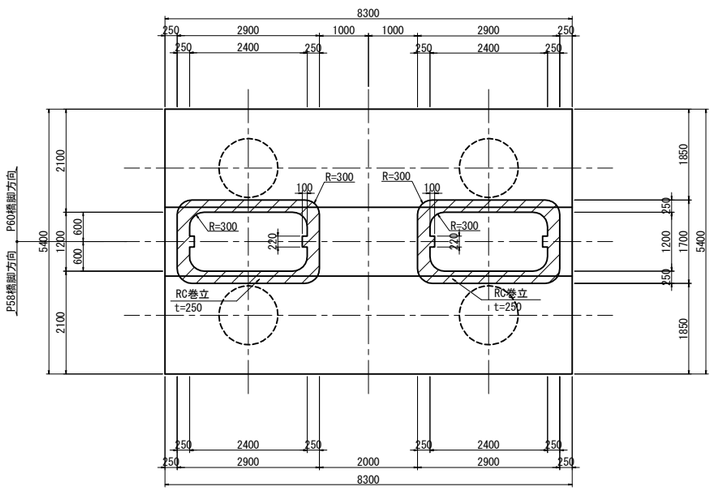
正 面 図 S=1:125



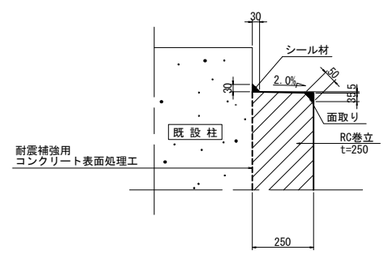
側 面 図 S=1:125



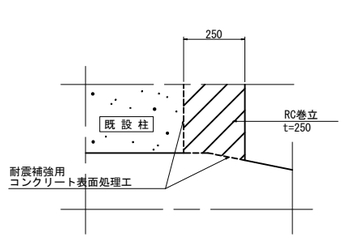
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

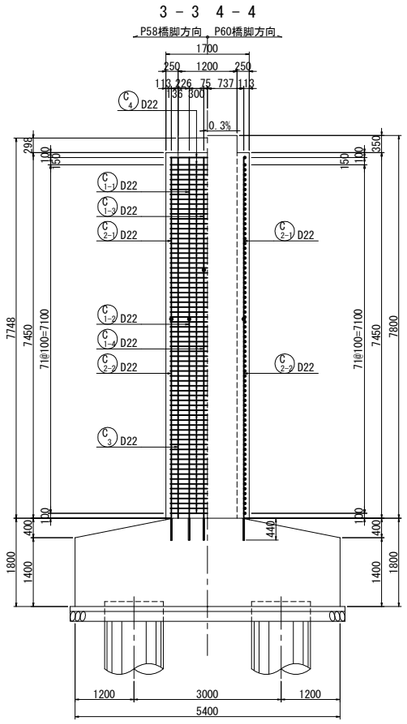
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P59橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P59橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

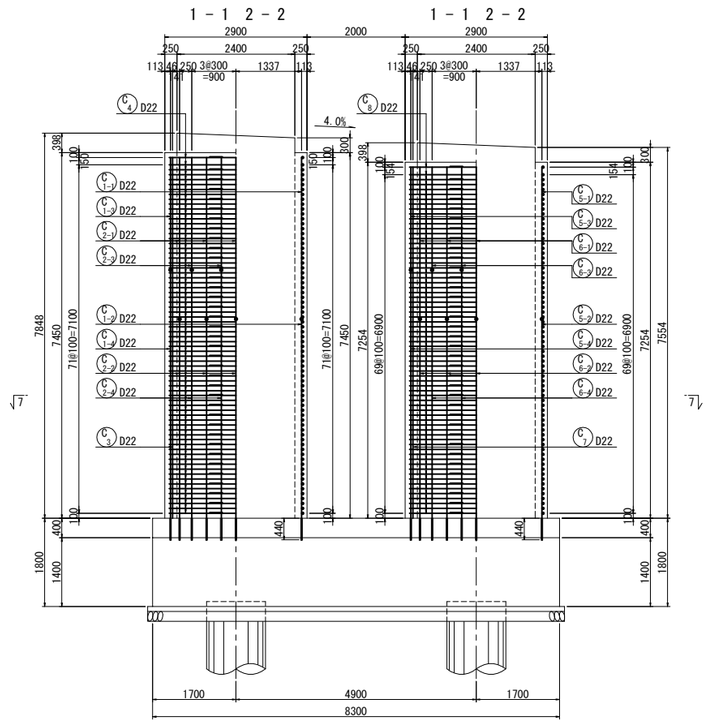
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



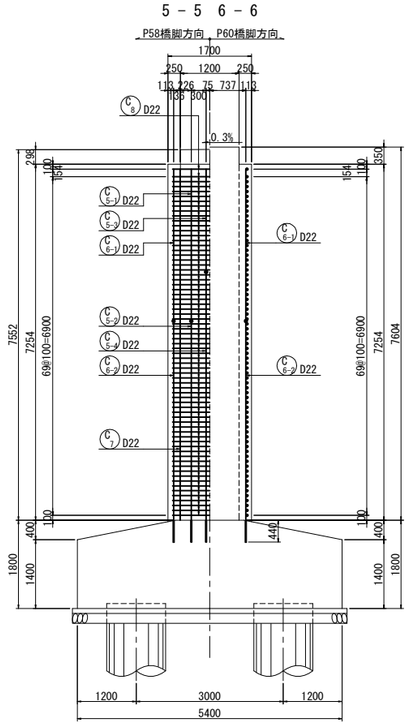
正 面 図 S=1:125

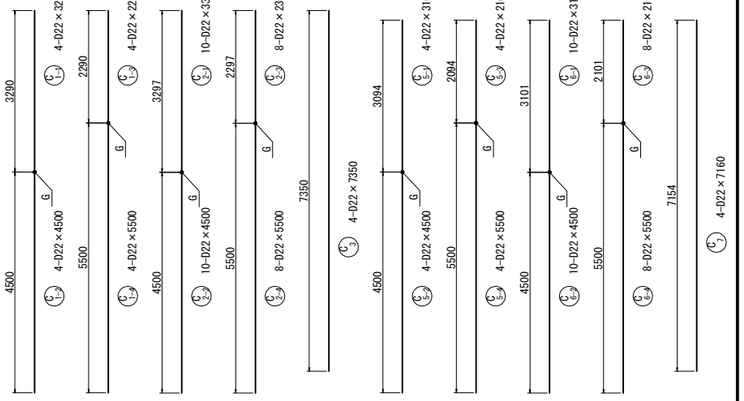
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

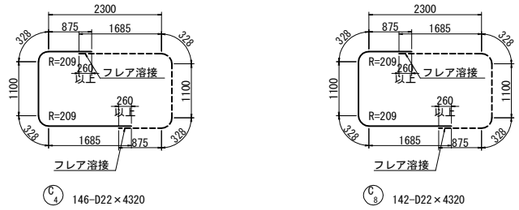


側 面 図 S=1:125

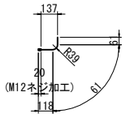
5 － 5　6 － 6







組立筋加工図(参考図)　S=1:50

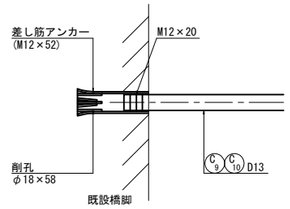


D9　50-D13×240

D10　48-D13×240

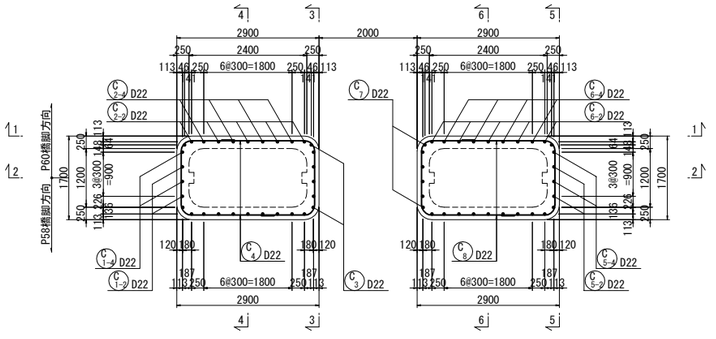
※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5

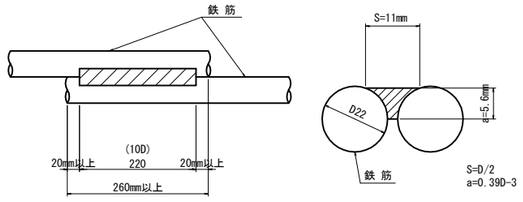


平 面 図 S=1:125

7 － 7



フレア溶接詳細図



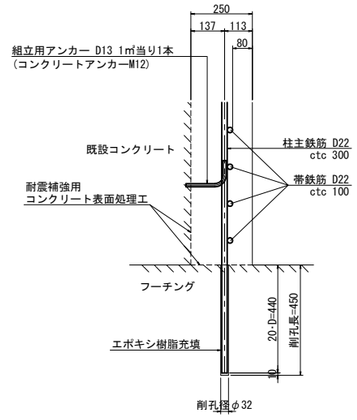
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3290	4	3.04	10.0	40	I
C 1-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 1-3	D22	2290	4	3.04	6.96	28	I
C 1-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 2-1	D22	3300	10	3.04	10.0	100	I
C 2-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 2-3	D22	2300	8	3.04	6.99	56	I
C 2-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 3	D22	7350	4	3.04	22.3	89	I
C 4	D22	4320	146	3.04	13.1	1913	⊏ (146)
C 5-1	D22	3100	4	3.04	9.42	38	I
C 5-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	▼ <4>
C 5-3	D22	2100	4	3.04	6.38	26	I
C 5-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	▼ <4>
C 6-1	D22	3110	10	3.04	9.45	95	I
C 6-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	▼ <10>
C 6-3	D22	2110	8	3.04	6.41	51	I
C 6-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	▼ <8>
C 7	D22	7160	4	3.04	21.8	87	I
C 8	D22	4320	142	3.04	13.1	1860	⊏ (142)
					小計	5169	kg

	フレア箇所		圧接箇所		
D22	5169	kg	(288)	<52>	SD345
合計	5169	kg	(288)	<52>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	98	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	288	箇所	

かぶり詳細図　S=1:25

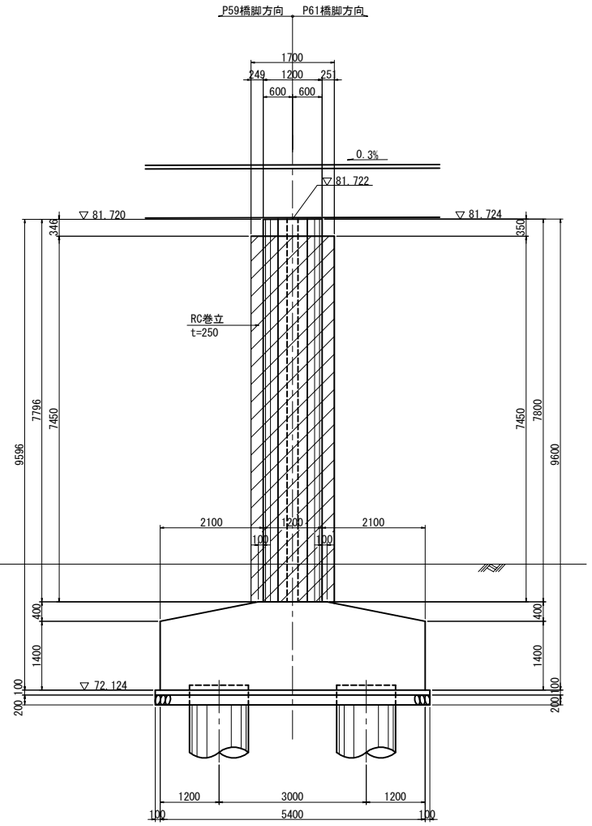


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

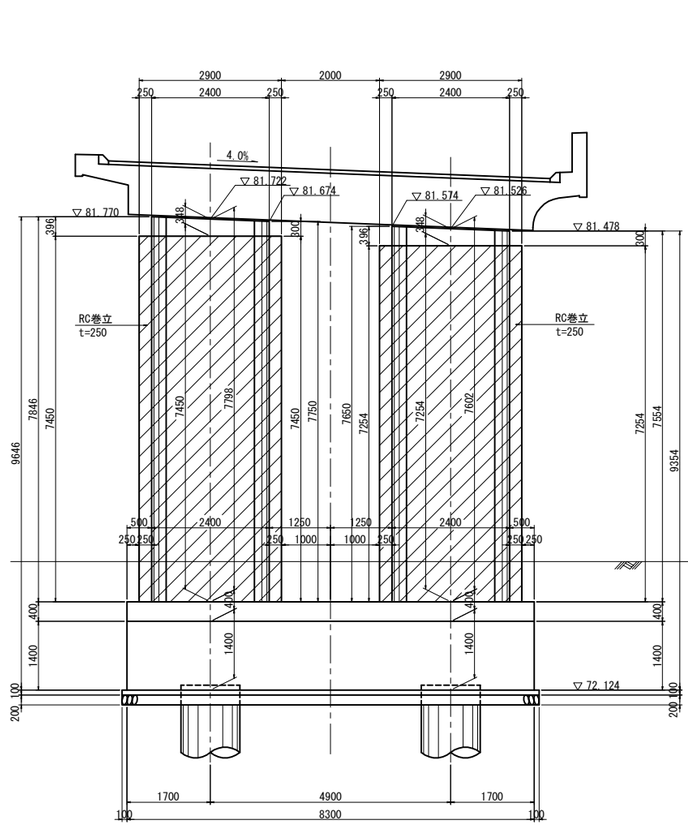
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P59橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）
縮 尺	図示　図面番号 /
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P60橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

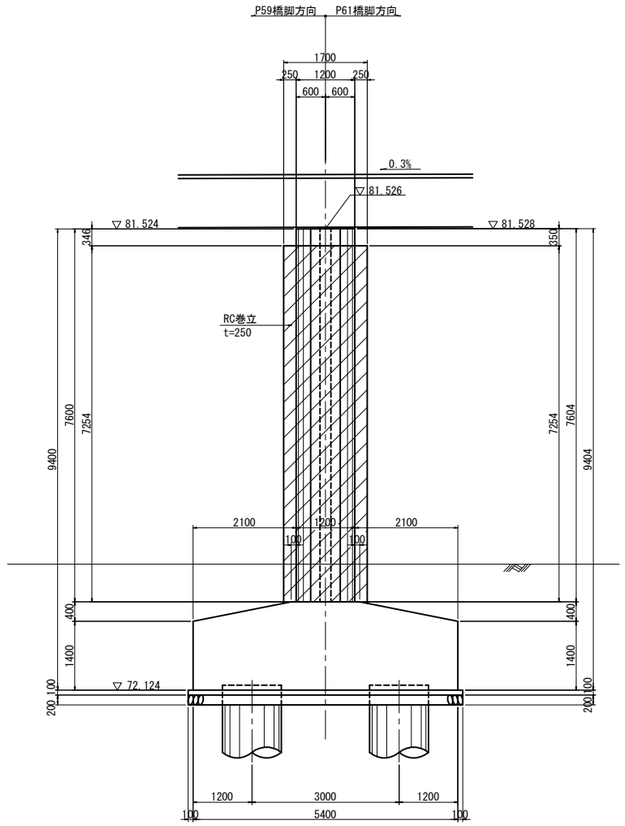
側 面 図 S=1:125



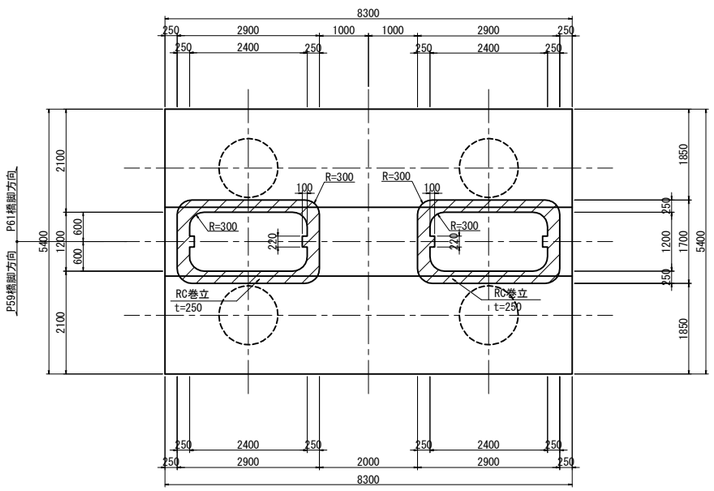
正 面 図 S=1:125



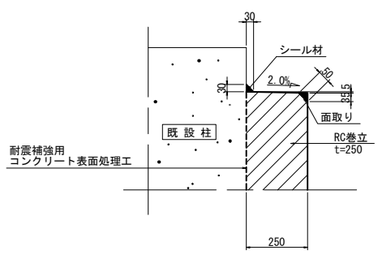
側 面 図 S=1:125



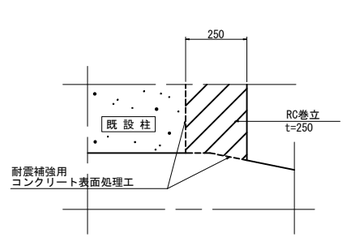
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

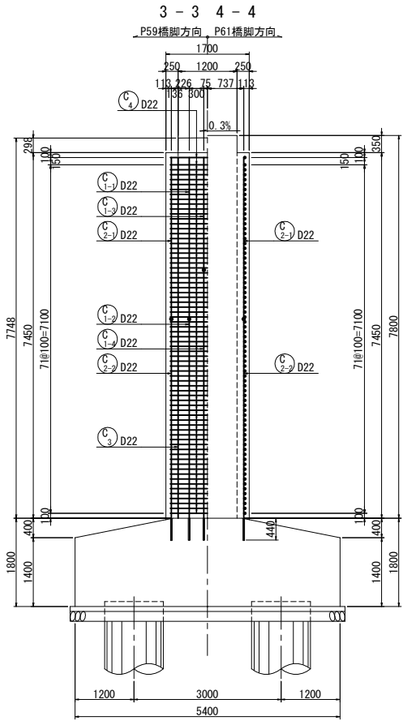
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P60橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P60橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

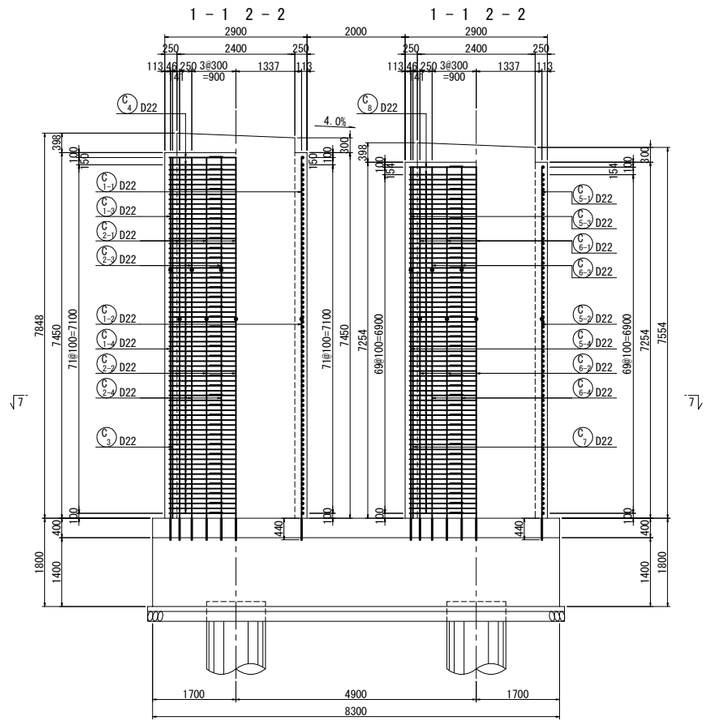
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



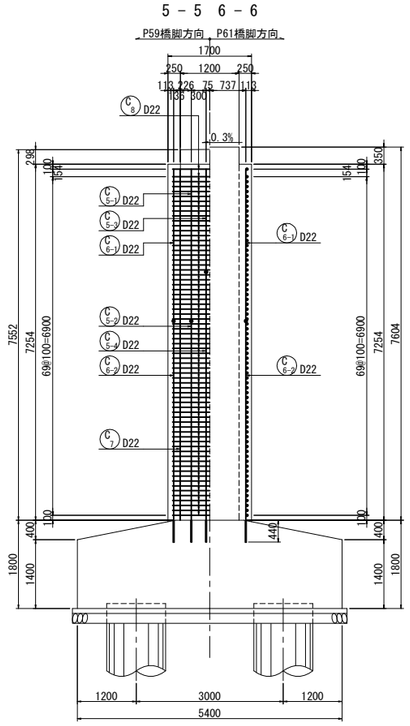
正 面 図 S=1:125

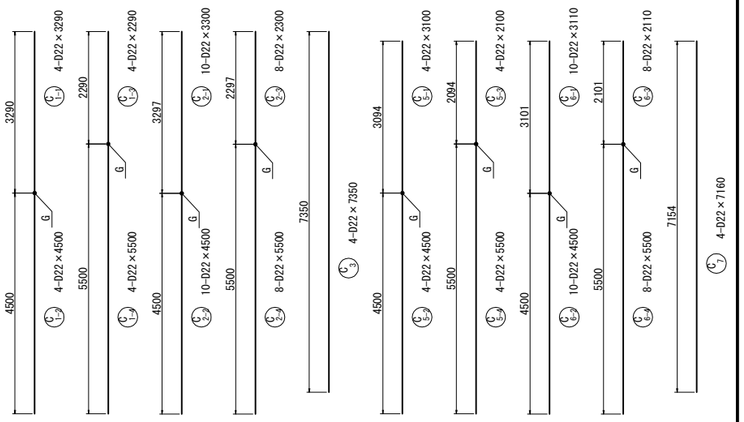
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

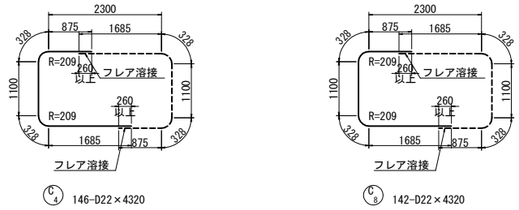


側 面 図 S=1:125

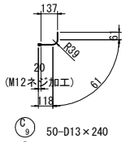
5 － 5　6 － 6







組立筋加工図(参考図)　S=1:50



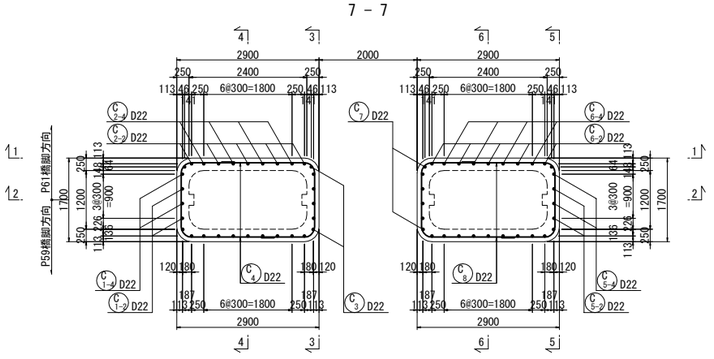
50-D13×240

48-D13×240

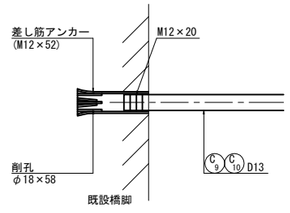
※1本/約1m2程度、設置する。

平 面 図 S=1:125

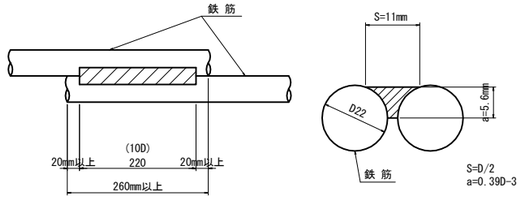
7 － 7



組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図



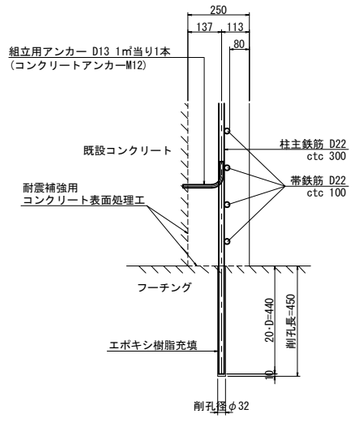
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3290	4	3.04	10.0	40		
C 1-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	<4>
C 1-3	D22	2290	4	3.04	6.96	28		
C 1-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	<4>
C 2-1	D22	3300	10	3.04	10.0	100		
C 2-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	<10>
C 2-3	D22	2300	8	3.04	6.99	56		
C 2-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	<8>
C 3	D22	7350	4	3.04	22.3	89		
C 4	D22	4320	146	3.04	13.1	1913	(146)
C 5-1	D22	3100	4	3.04	9.42	38		
C 5-2	D22	4500	4	3.04	13.7	55	<4>
C 5-3	D22	2100	4	3.04	6.38	26		
C 5-4	D22	5500	4	3.04	16.7	67	<4>
C 6-1	D22	3110	10	3.04	9.45	95		
C 6-2	D22	4500	10	3.04	13.7	137	<10>
C 6-3	D22	2110	8	3.04	6.41	51		
C 6-4	D22	5500	8	3.04	16.7	134	<8>
C 7	D22	7160	4	3.04	21.8	87		
C 8	D22	4320	142	3.04	13.1	1860	(142)
					小計	5169	kg

		フレア箇所		圧接箇所		
	D22	5169	kg	(288)	<52>	SD345
	合計	5169	kg	(288)	<52>	SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	98	箇所	(参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所	
フレア溶接(D22)	288	箇所	

かぶり詳細図　S=1:25

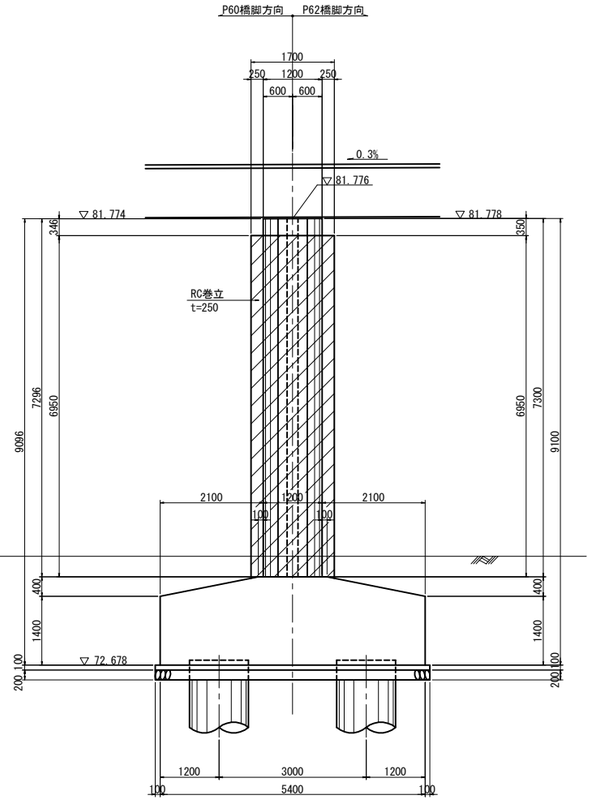


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

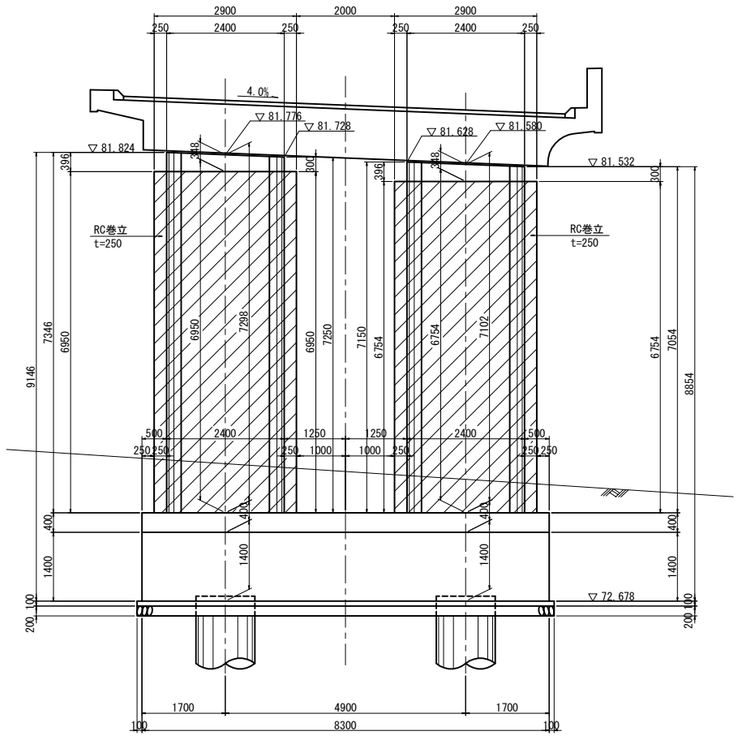
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P60橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）
縮 尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P61橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

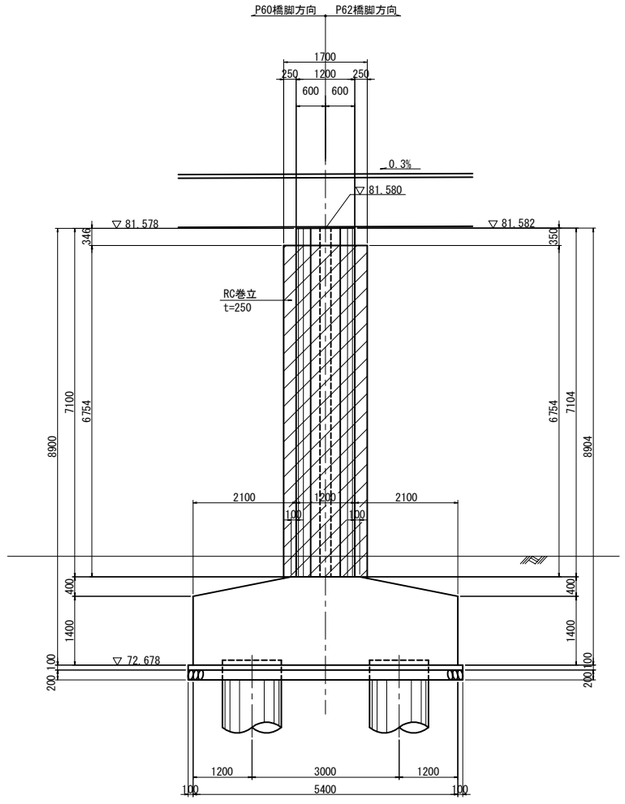
側 面 図 S=1:125



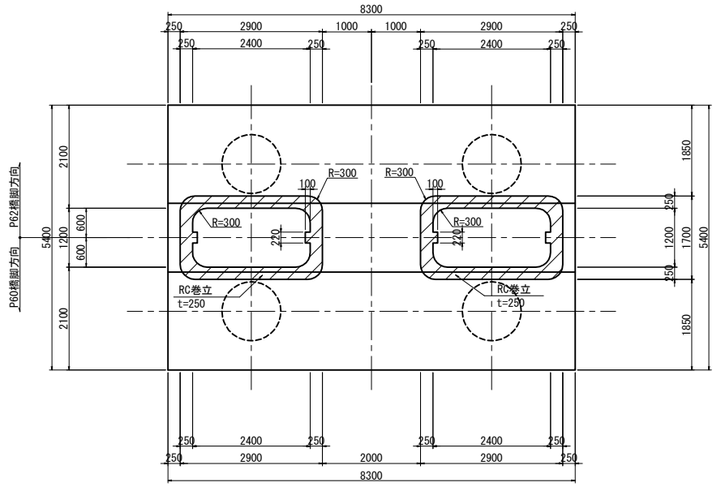
正 面 図 S=1:125



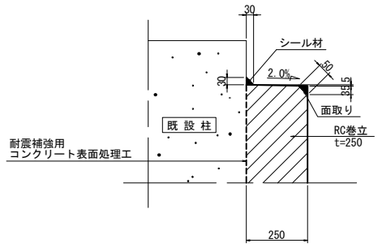
側 面 図 S=1:125



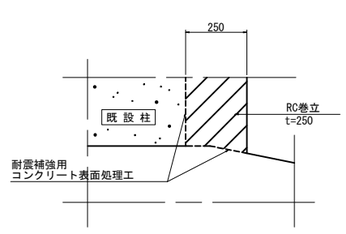
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

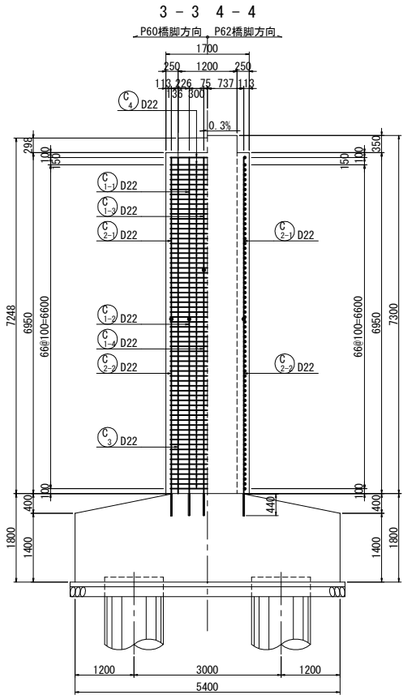
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P61橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P61橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

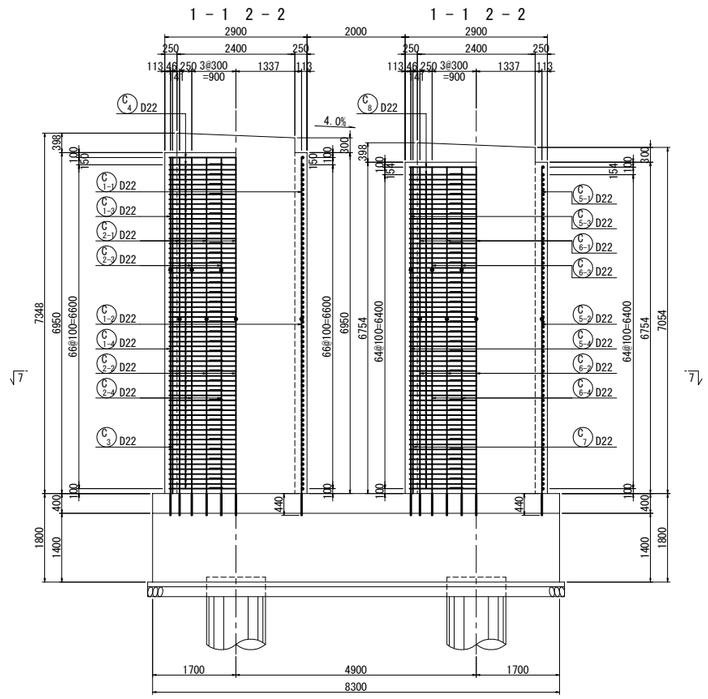
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



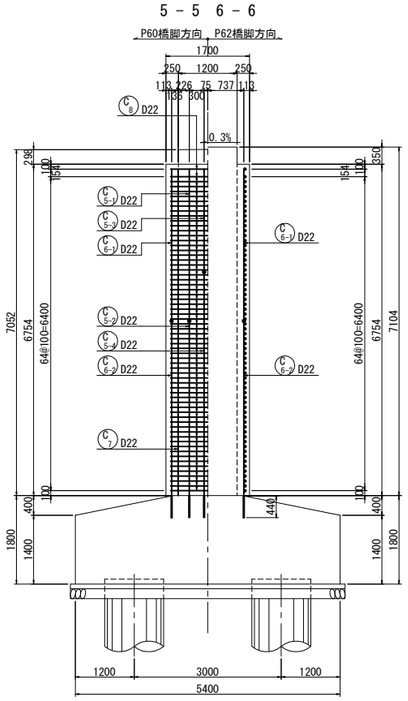
正 面 図 S=1:125

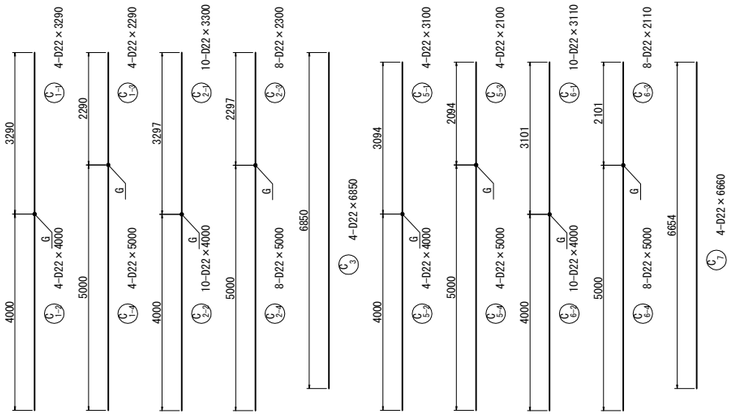
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2

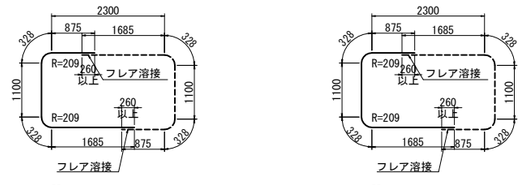


側 面 図 S=1:125

5 － 5　6 － 6

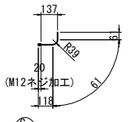






C4 136-D22×4320　　C8 132-D22×4320

組立筋加工図(参考図)　S=1:50

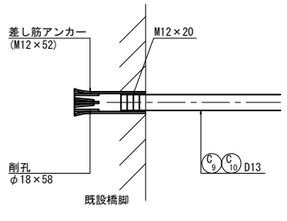


C9 46-D13×240

C10 45-D13×240

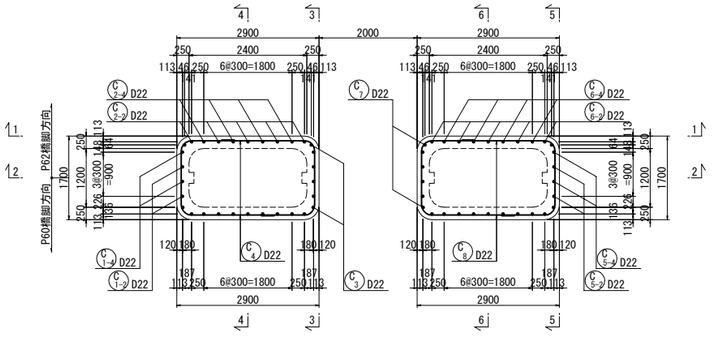
※1本/約1m2程度、設置する。

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5

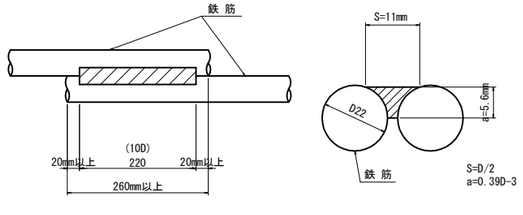


平 面 図 S=1:125

7 － 7



フレア溶接詳細図



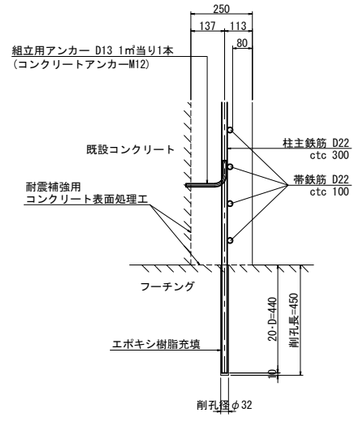
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D22	3290	4	3.04	10.0	40	
C 1-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	<4>
C 1-3	D22	2290	4	3.04	6.96	28	
C 1-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 2-1	D22	3300	10	3.04	10.0	100	
C 2-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	<10>
C 2-3	D22	2300	8	3.04	6.99	56	
C 2-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	<8>
C 3	D22	6850	4	3.04	20.8	83	
C 4	D22	4320	136	3.04	13.1	1782	(136)
C 5-1	D22	3100	4	3.04	9.42	38	
C 5-2	D22	4000	4	3.04	12.2	49	<4>
C 5-3	D22	2100	4	3.04	6.38	26	
C 5-4	D22	5000	4	3.04	15.2	61	<4>
C 6-1	D22	3110	10	3.04	9.45	95	
C 6-2	D22	4000	10	3.04	12.2	122	<10>
C 6-3	D22	2110	8	3.04	6.41	51	
C 6-4	D22	5000	8	3.04	15.2	122	<8>
C 7	D22	6660	4	3.04	20.2	81	
C 8	D22	4320	132	3.04	13.1	1729	(132)
					小計	4817	kg

	フレア箇所	圧接箇所	
D22	4817 kg	(268)	<52> SD345
合計	4817 kg	(268)	<52> SD345

コンクリート削孔(φ18,L=58)	91	箇所 (参考)
コンクリート削孔(φ32,L=450)	52	箇所
フレア溶接(D22)	268	箇所

かぶり詳細図　S=1:25

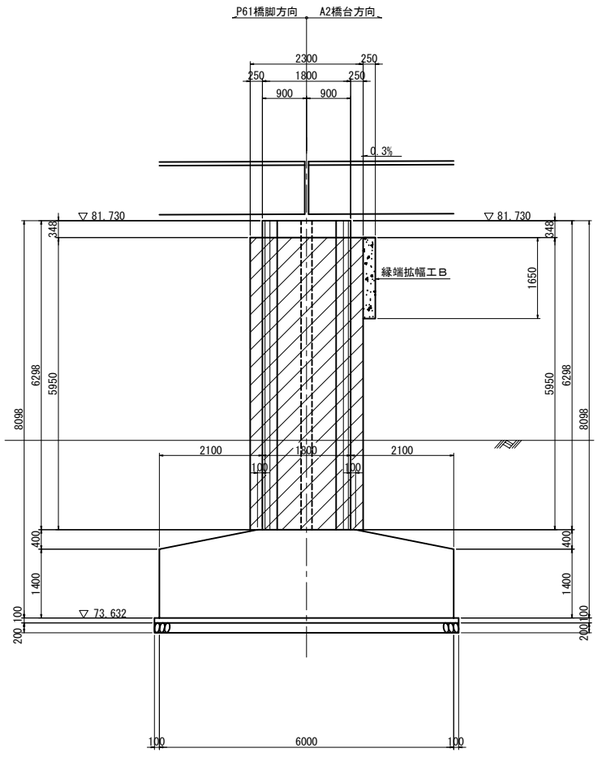


注)1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. Gはガス圧接位置を示す。

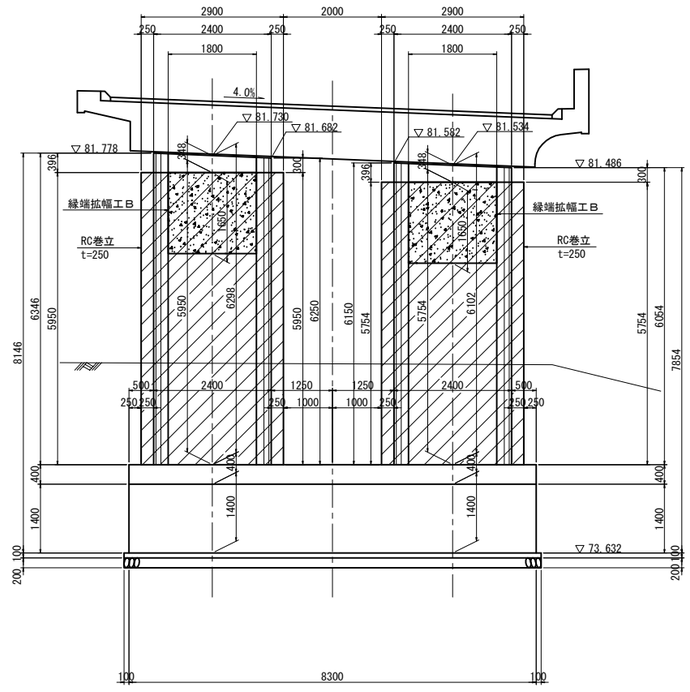
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P61橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P62橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）S=図示

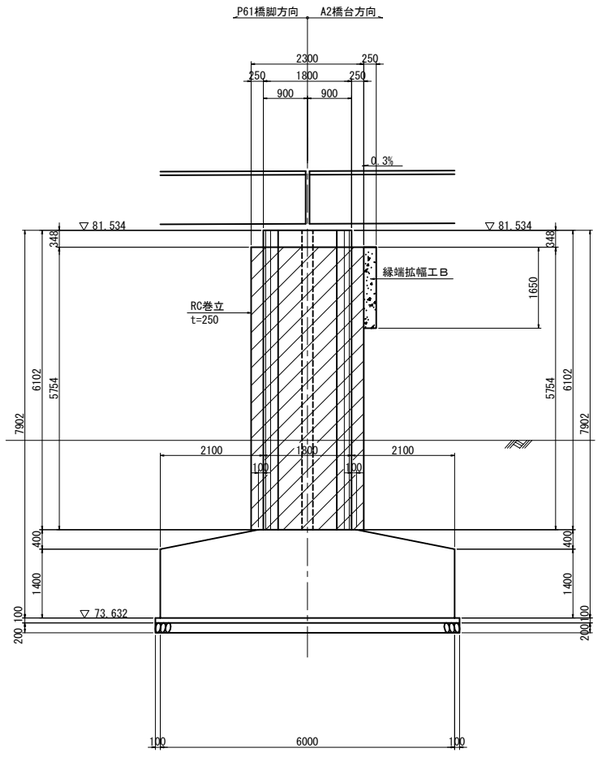
側 面 図 S=1:125



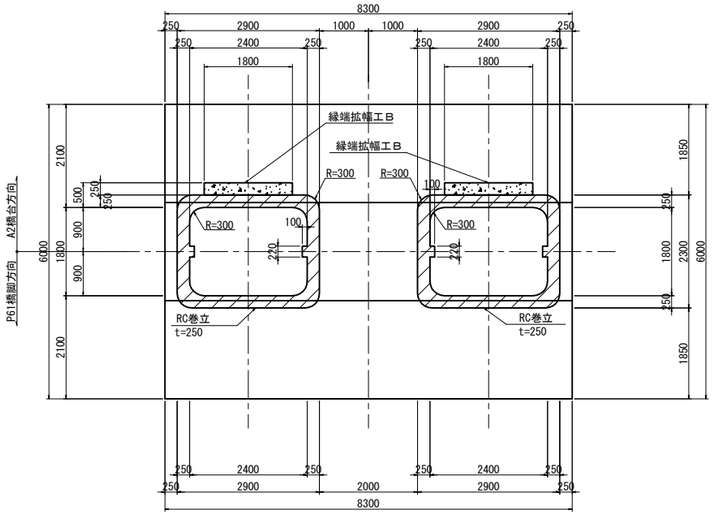
正 面 図 S=1:125



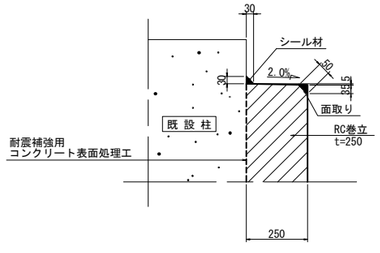
側 面 図 S=1:125



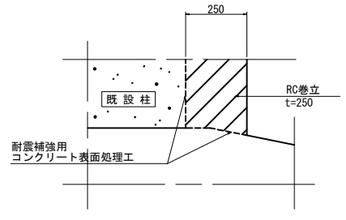
平 面 図 S=1:125



RC巻立て天端詳細図（参考図）S=1:25



RC巻立て下端詳細図 S=1:25



工種		仕様
既設部	コンクリート	24N/mm2
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30N/mm2
	鉄筋	SD345

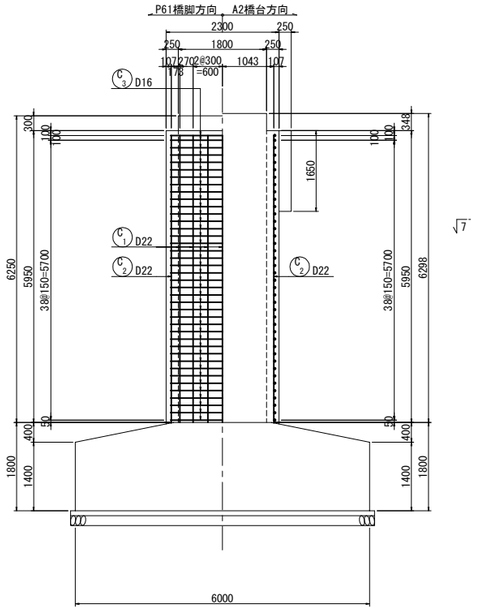
注）
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。
2. 補強部分（既設面）は、WJによるコンクリート表面処理を行う。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P62橋脚 RC巻立て補強一般図（上り線）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P62橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）S=図示

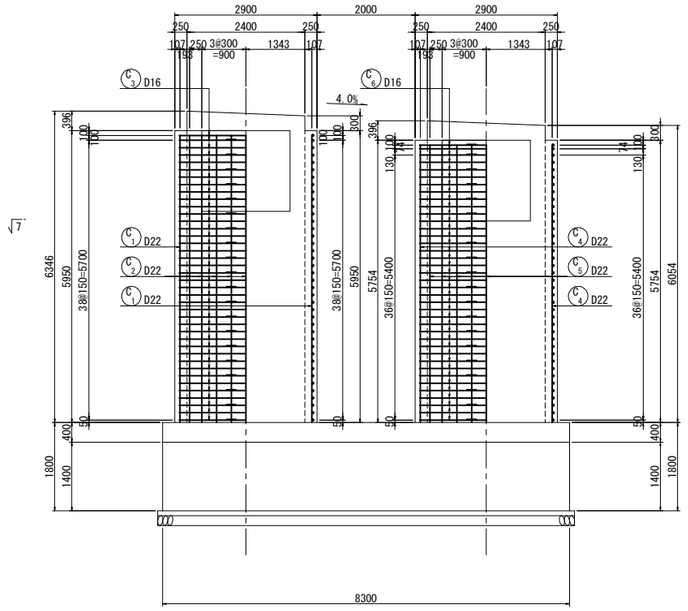
側 面 図 S=1:125

3 － 3　4 － 4



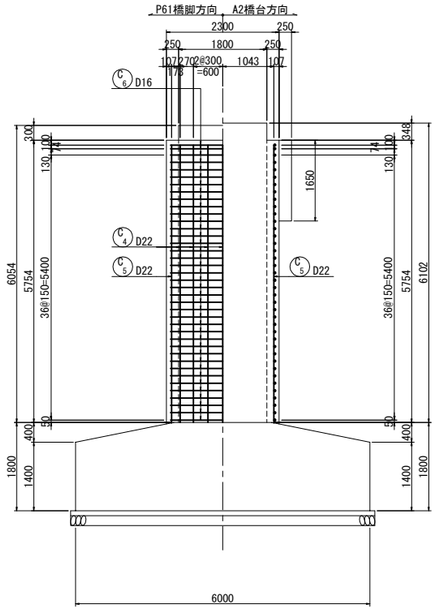
正 面 図 S=1:125

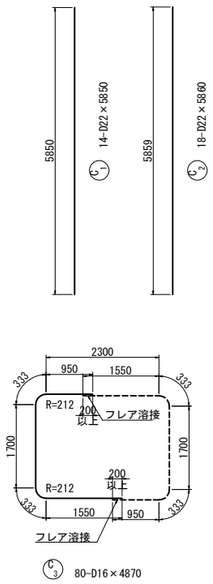
1 － 1　2 － 2　　1 － 1　2 － 2



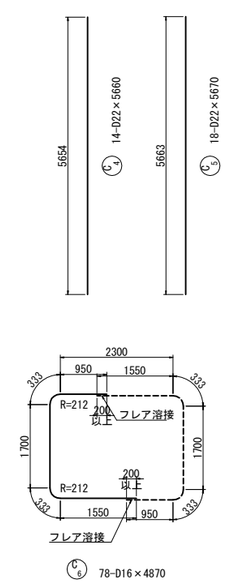
側 面 図 S=1:125

5 － 5　6 － 6



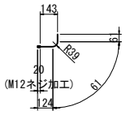


C3 80-D16×4870



C6 78-D16×4870

組立筋加工図(参考図)　S=1:50



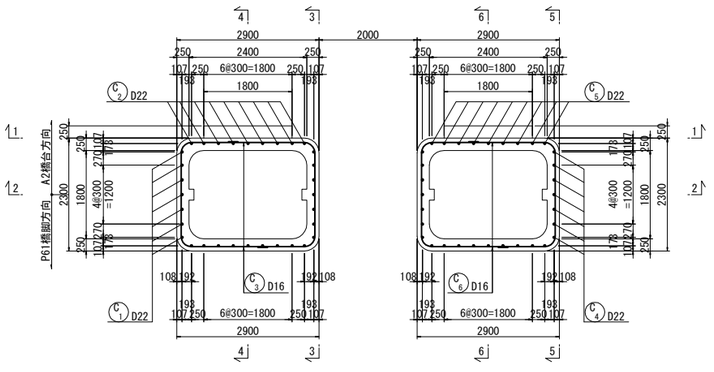
C7 47-D13×250

C8 45-D13×250

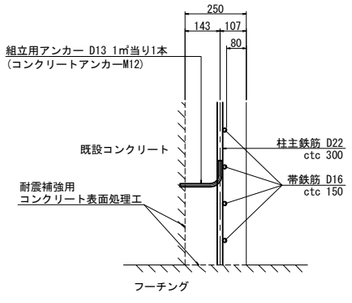
※1本/約1m2程度、設置する。

平 面 図 S=1:125

7 － 7



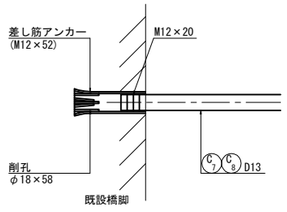
かぶり詳細図　S=1:25



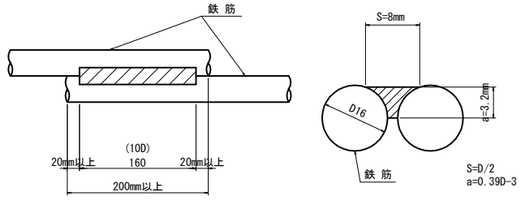
鉄筋表

記号	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘　要
C 1	D22	5850	14	3.04	17.8	249	I
C 2	D22	5860	18	3.04	17.8	320	I
C 3	D16	4870	80	1.56	7.60	608	⊏ (80)
C 4	D22	5660	14	3.04	17.2	241	I
C 5	D22	5670	18	3.04	17.2	310	I
C 6	D16	4870	78	1.56	7.60	593	⊏ (78)
					小計	2321	kg
フレア箇所							
	D22	1120	kg			SD345	
	D16	1201	kg	(158)		SD345	
	合計	2321	kg	(158)		SD345	
コンクリート削孔(φ18,L=58)					92	箇所	(参考)
フレア溶接(D16)					158	箇所	

組立て筋アンカー詳細図(参考図)　S=1:5



フレア溶接詳細図

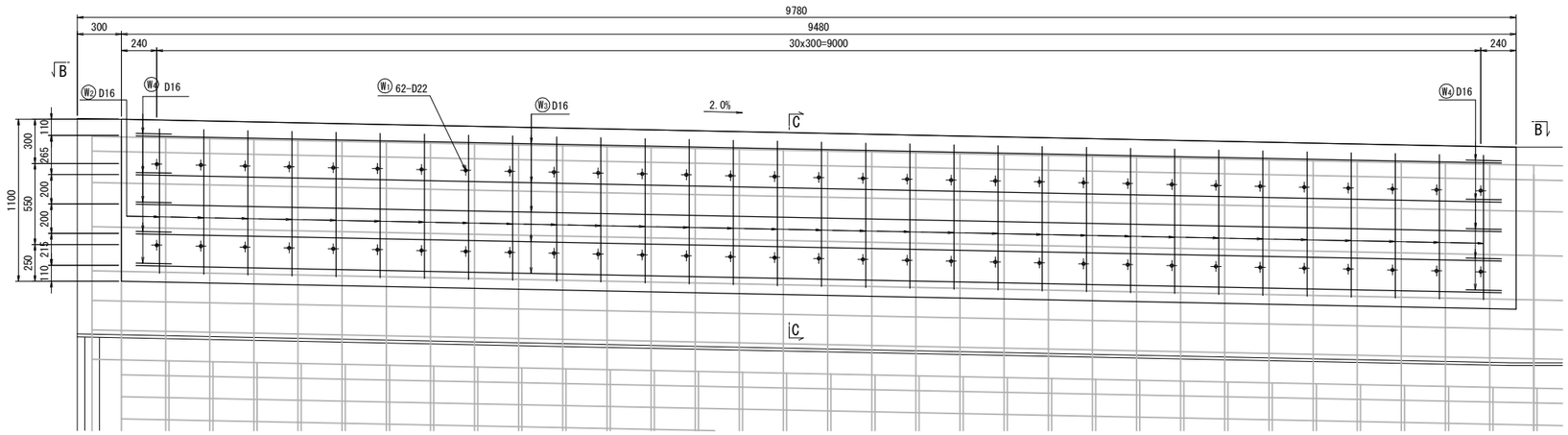


注) 1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。

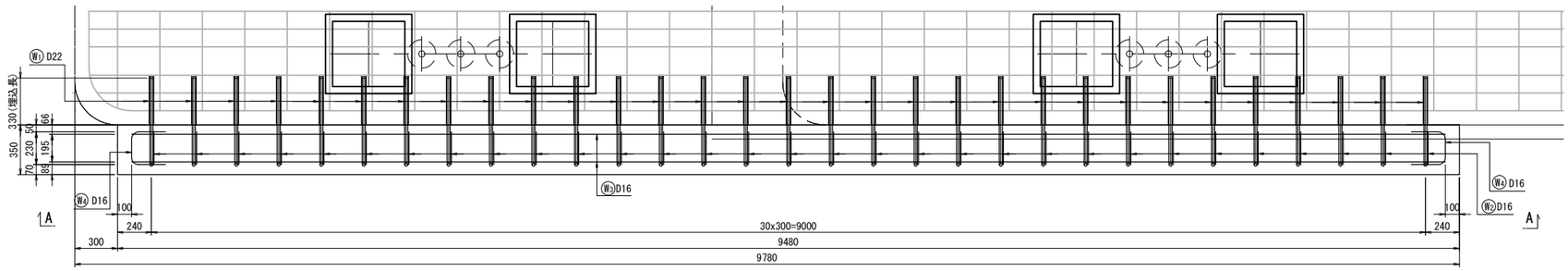
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P62橋脚 RC巻立て補強配筋図（上り線）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P1橋脚(終点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線) S=図示

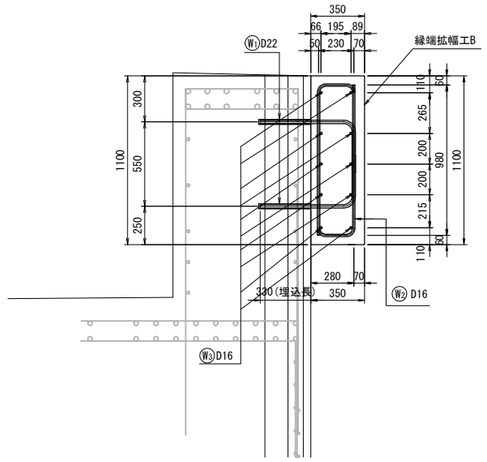
A - A S=1:40



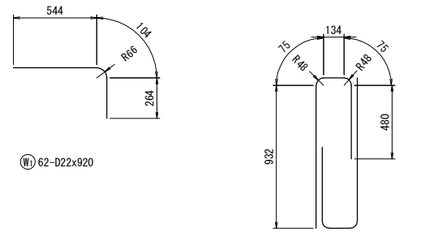
B - B S=1:40



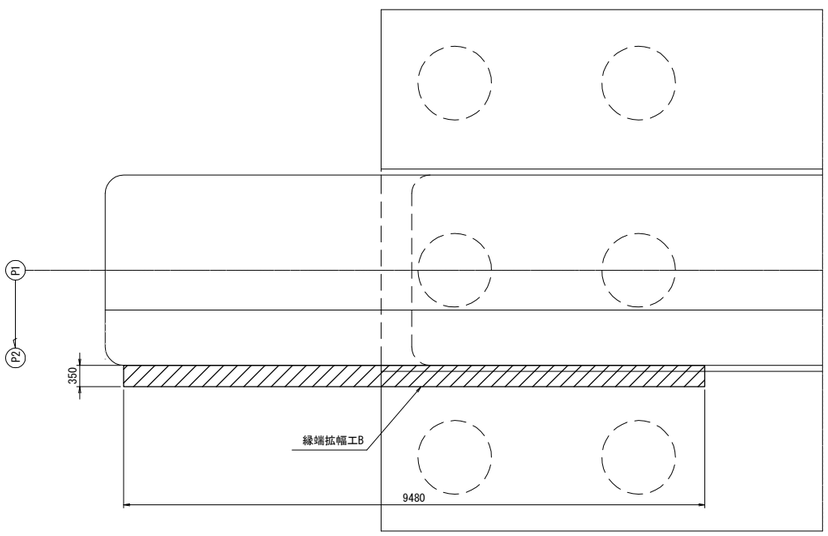
C - C S=1:40



鉄筋加工図 S=1:40

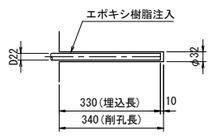


配置図 S=1:100



アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

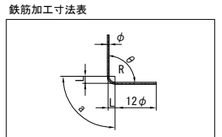
縁端拡幅工 アンカー工φ32･340 (水平方向)



鉄筋質量表 1箇所当り(1箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 22	920	62	3.04	2.80	174	┌─┐
W2	D 16	1700	62	1.56	2.65	164	┌┐
W3-1	D 16	6000	10	1.56	9.36	94	──
W3-2	D 16	3770	10	1.56	5.88	59	──
W4	D 16	670	10	1.56	1.05	11	c
					D16=	328 kg	
					D22=	174 kg	
					合計 =	502 kg	SD345

鉄筋加工寸法表



	主筋 θ=90°			
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D22	66	104	66	28

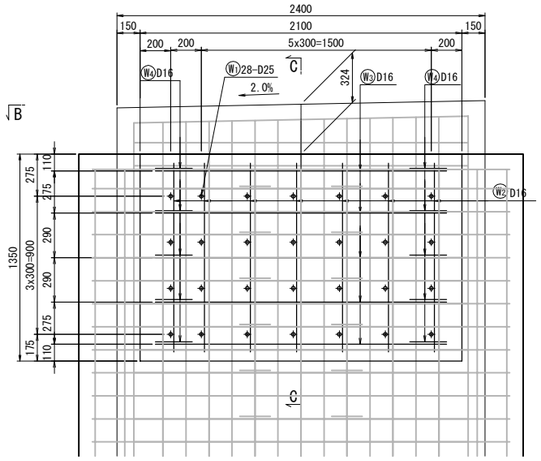
注)

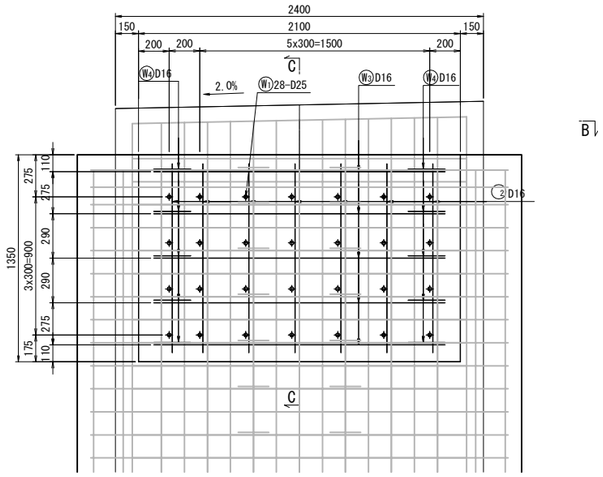
1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P1橋脚(終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
縮尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

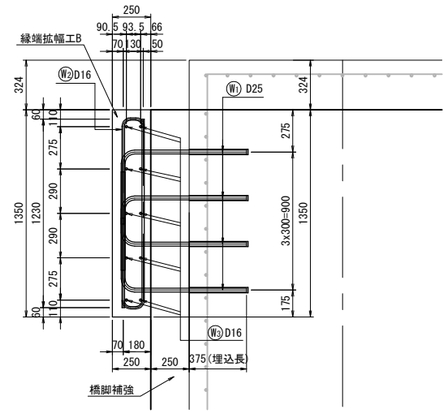
P4橋脚(起点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線) S=図示

A － A S=1:40

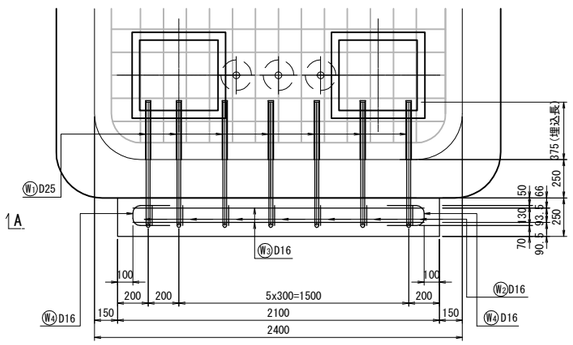


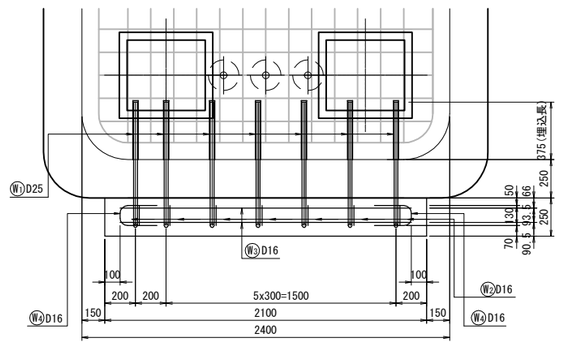


C － C S=1:40



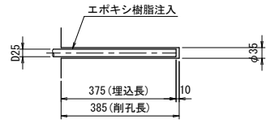
B － B S=1:40



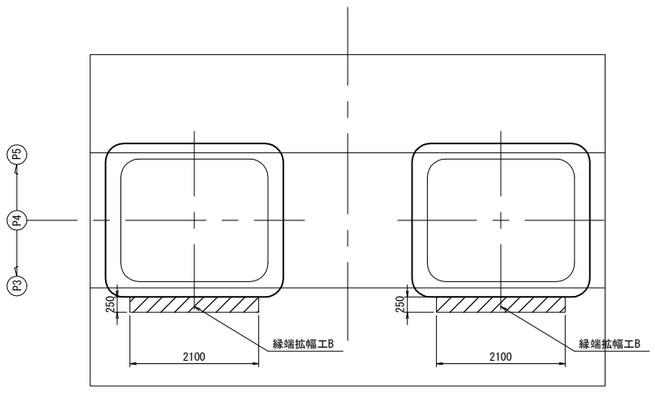


アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

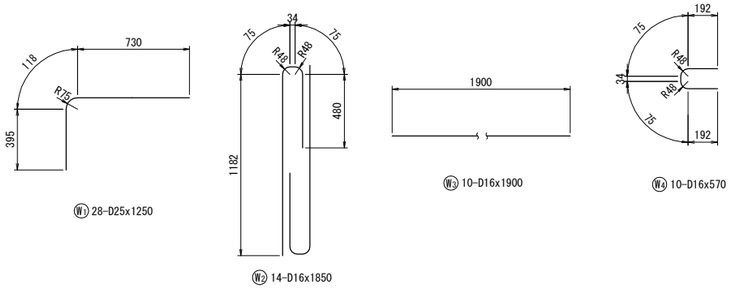
縁端拡幅工 アンカー工φ35･385 (水平方向)



配置図 S=1:100



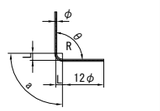
鉄筋加工図



鉄筋質量表 1箇所当り(2箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 25	1250	28	3.98	4.98	139	⌐
W2	D 16	1850	14	1.56	2.89	40	⌐
W3	D 16	1900	10	1.56	2.96	30	—
W4	D 16	570	10	1.56	0.889	9	c
					D16=	79 kg	
					D25=	139 kg	
					合計 =	436 kg	SD345

鉄筋加工寸法表



主 筋

	θ=90°			
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D25	75	118	75	32

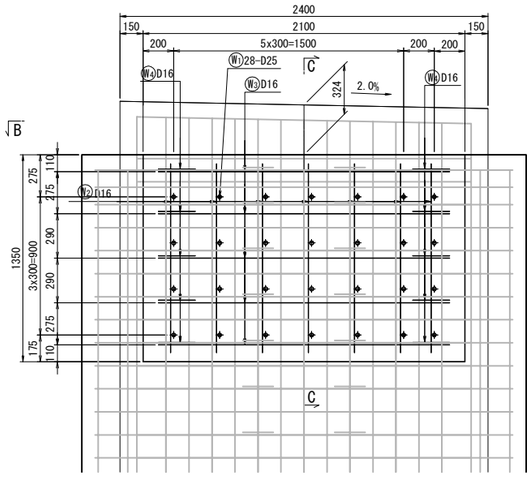
注)

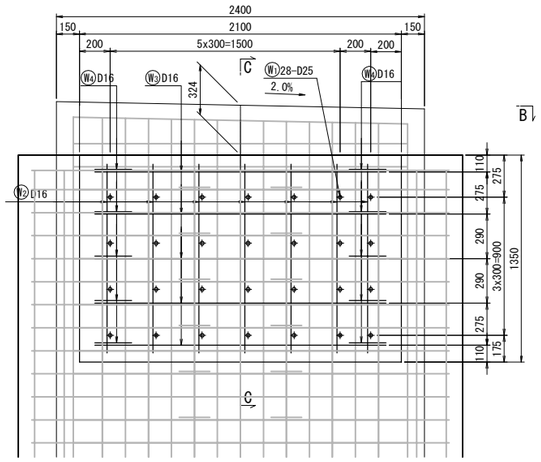
1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P4橋脚(起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
縮尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

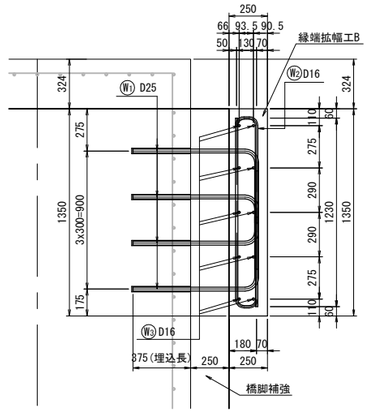
P4橋脚(終点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線) S=図示

A － A S=1:40

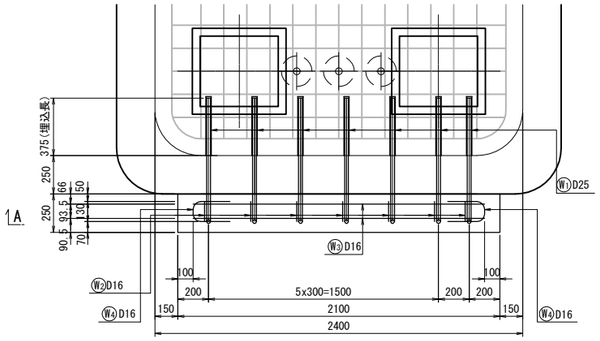


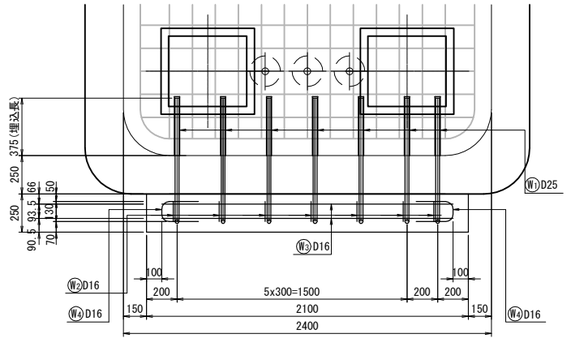


C － C S=1:40



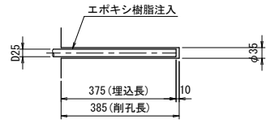
B － B S=1:40



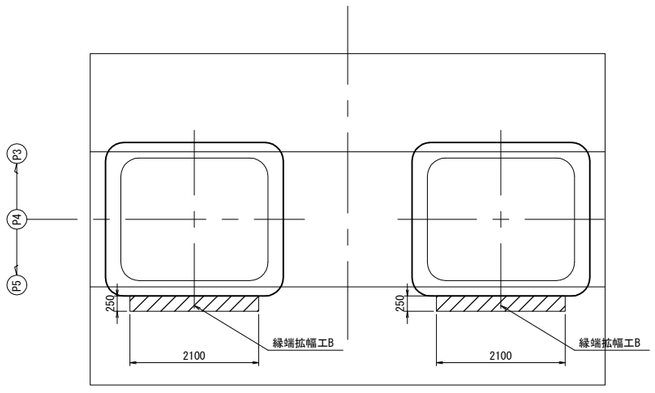


アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

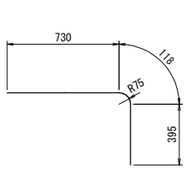
縁端拡幅工 アンカーエφ35･385 (水平方向)



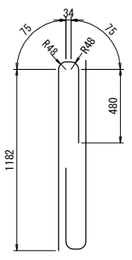
配置図 S=1:100



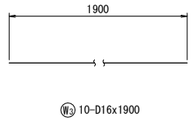
鉄筋加工図 S=1:40



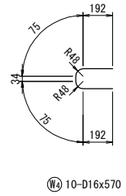
W1 28-D25x1250



W2 14-D16x1850



W3 10-D16x1900

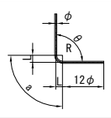


W4 10-D16x570

鉄筋質量表 1箇所当り(2箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 25	1250	28	3.98	4.98	139	⌐
W2	D 16	1850	14	1.56	2.89	40	⌐
W3	D 16	1900	10	1.56	2.96	30	—
W4	D 16	570	10	1.56	0.889	9	c
					D16=	79 kg	
					D25=	139 kg	
					合計 =	436 kg	SD345

鉄筋加工寸法表



主筋				
	θ=90°			
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D25	75	118	75	32

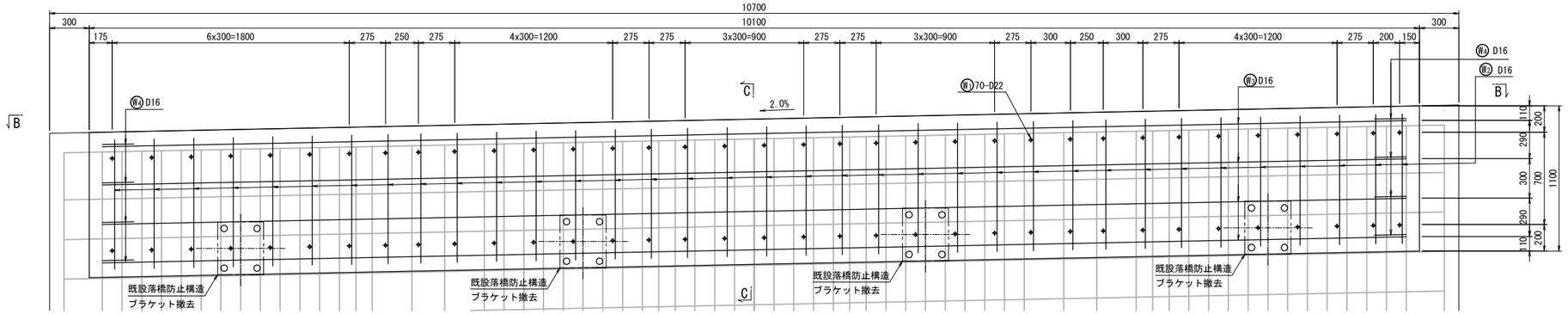
注)

1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

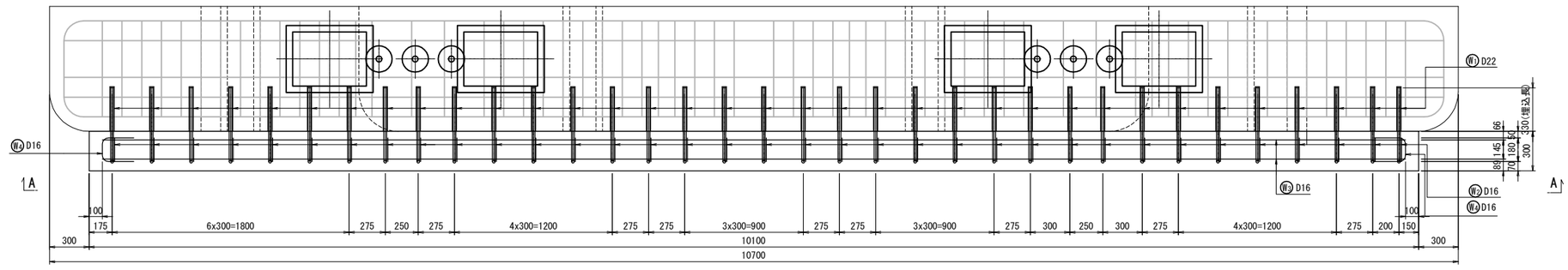
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P4橋脚(終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
縮尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P8橋脚(起点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線) S=図示

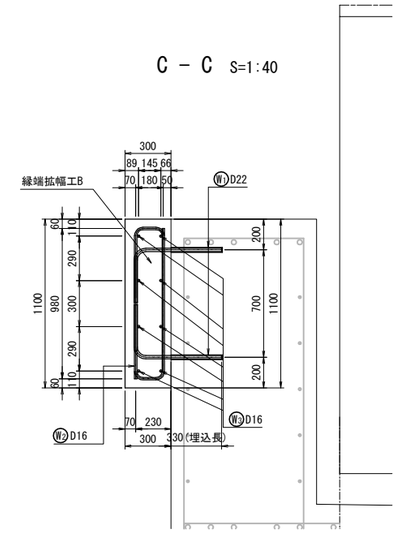
A - A S=1:40



B - B S=1:40

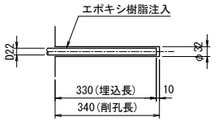


C - C S=1:40

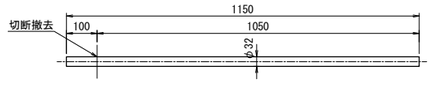


アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

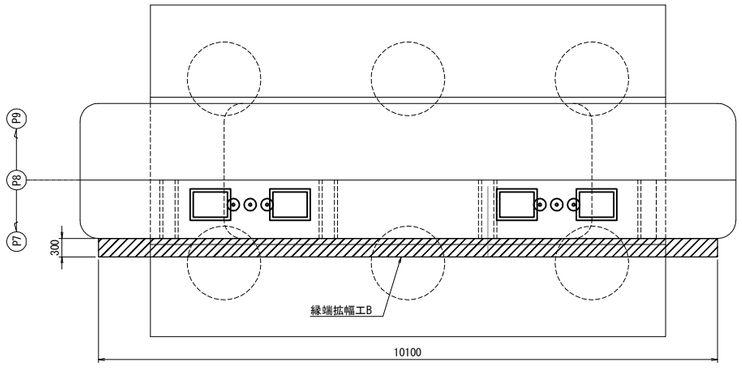
縁端拡幅工 アンカー工 φ32・340 (水平方向)



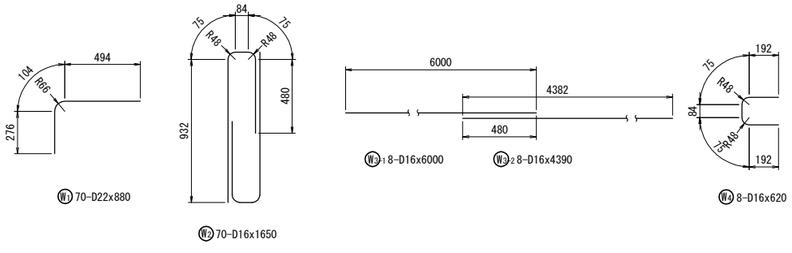
アンカーボルト切断詳細図 S=1:20



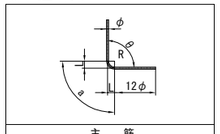
配置図 S=1:100



鉄筋加工図 S=1:40



鉄筋加工寸法表



主筋	θ=90°			
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D22	66	104	66	28

鉄筋質量表 1箇所当り(1箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 22	880	70	3.04	2.68	188	
W2	D 16	1650	70	1.56	2.57	180	
W3-1	D 16	6000	8	1.56	9.36	75	
W3-2	D 16	4390	8	1.56	6.85	55	
W4	D 16	620	8	1.56	0.967	8	c
					D16=	318 kg	
					D22=	188 kg	
					合計 =	506 kg	SD345

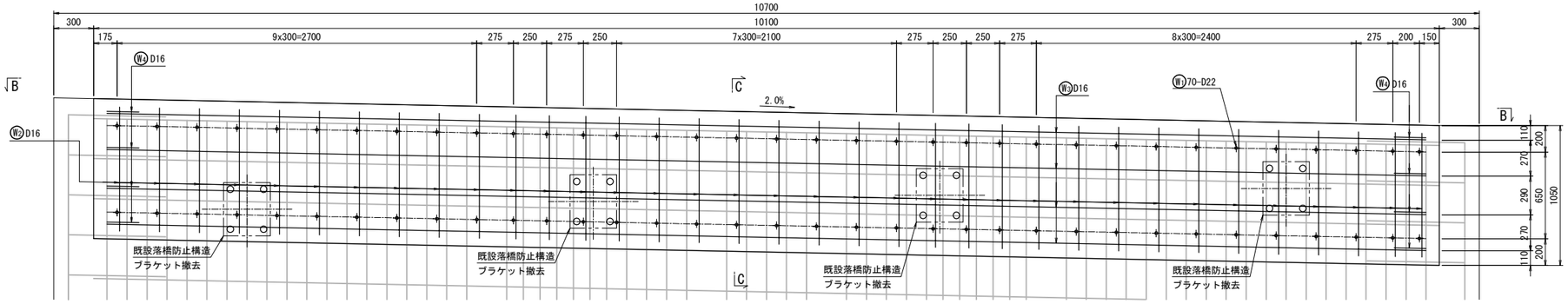
注)

1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

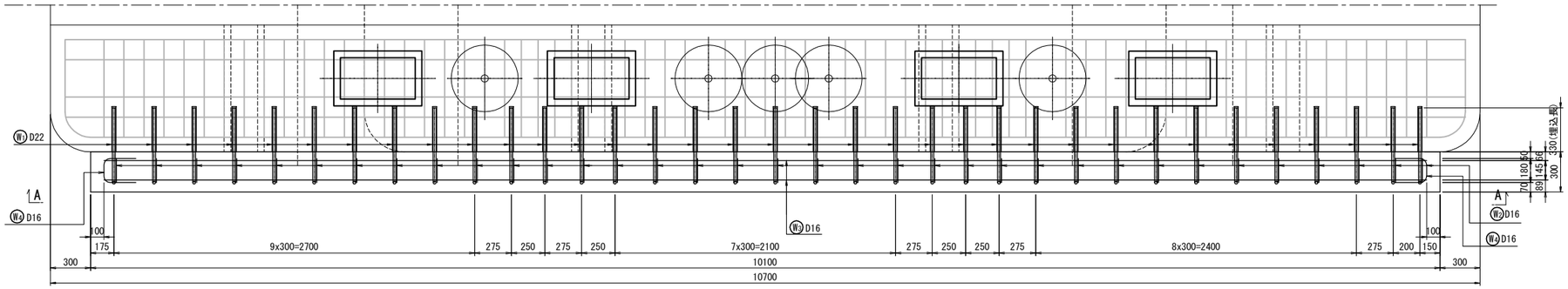
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P8橋脚(起点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P10橋脚(終点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線) S=図示

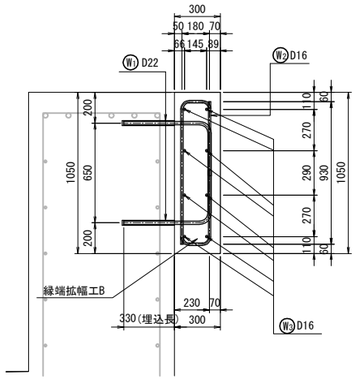
A － A S=1:40



B － B S=1:40

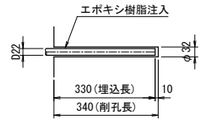


C － C S=1:40

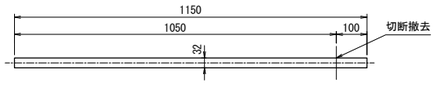


アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

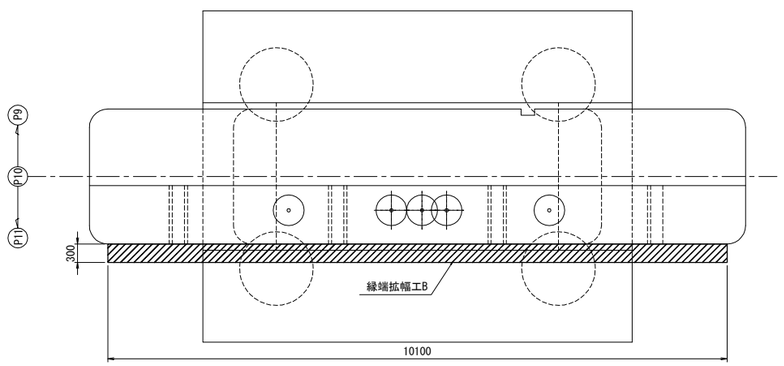
縁端拡幅工 アンカー工φ32･340 (水平方向)



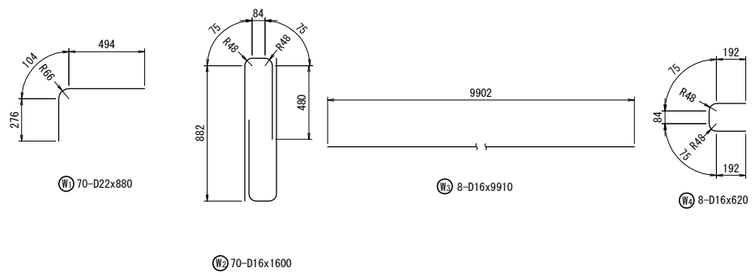
アンカーボルト切断詳細図 S=1:20



配置図 S=1:100



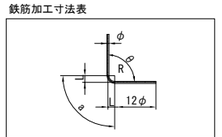
鉄筋加工図 S=1:40



鉄筋質量表 1箇所当り(1箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 22	880	70	3.04	2.80	188	⌐
W2	D 16	1600	70	1.56	2.50	175	∩
W3	D 16	9910	8	1.56	15.5	124	—
W4	D 16	620	8	1.56	0.967	8	c
					D16=	307 kg	
					D22=	188 kg	
					合計 =	495 kg	SD345

鉄筋加工寸法表



主 筋

	θ=90°			
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D22	66	104	66	28

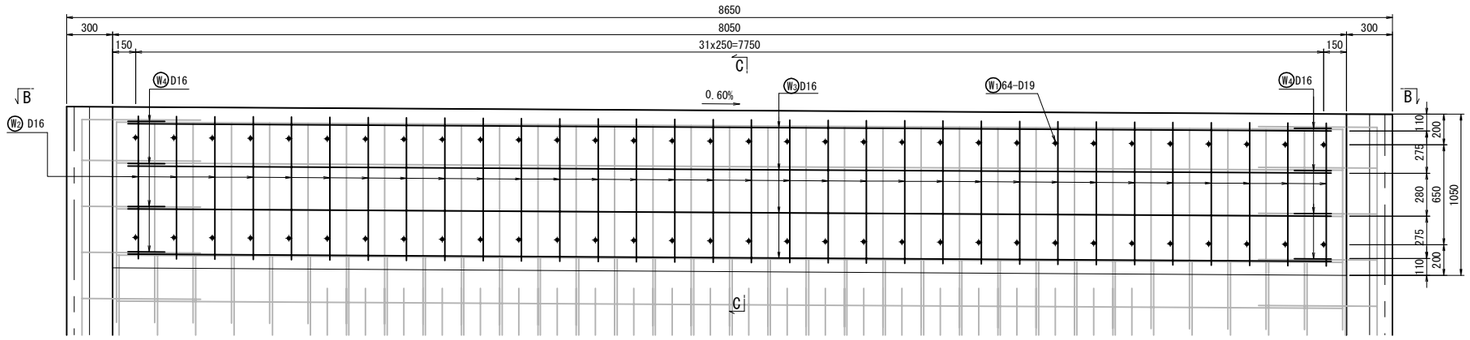
注)

1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

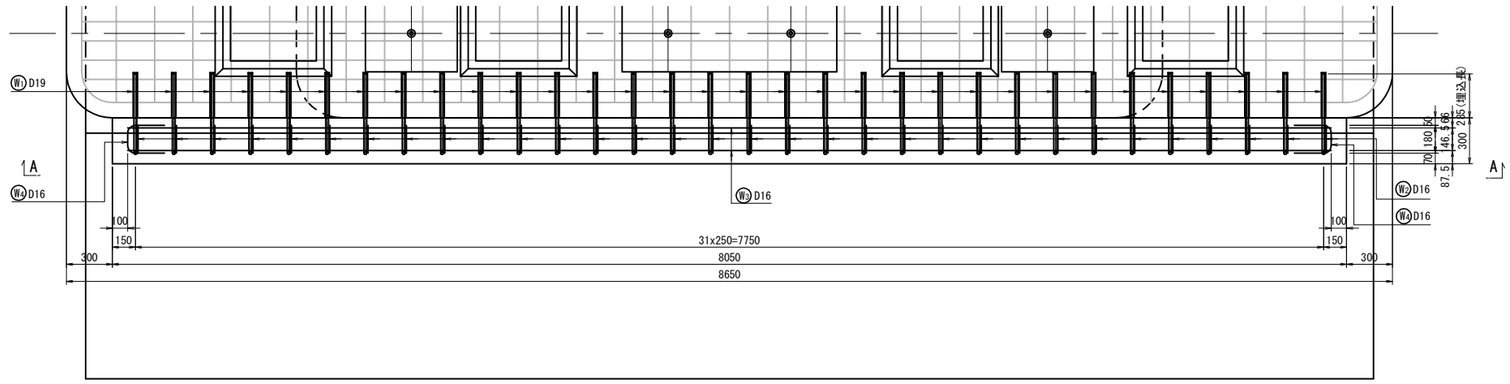
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P10橋脚(終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P13橋脚(起点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線) S=図示

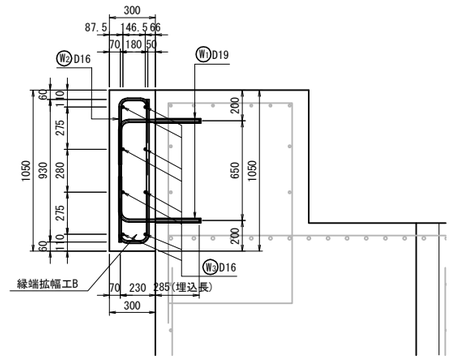
A － A S=1:40



B － B S=1:40

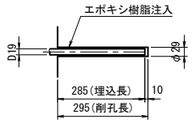


C － C S=1:40

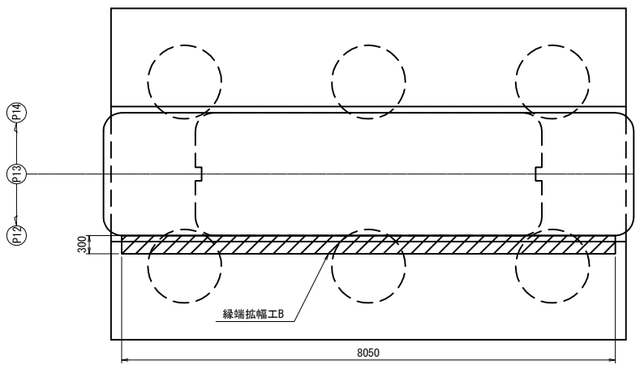


アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

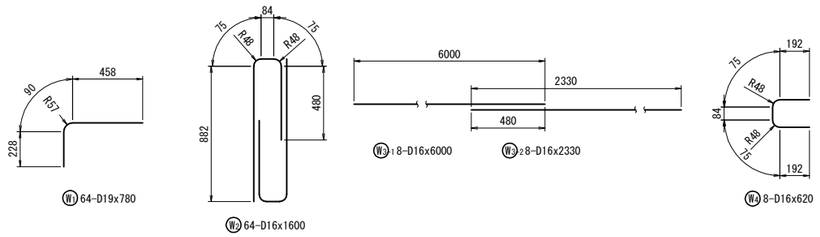
縁端拡幅工 アンカーエφ29･295 (水平方向)



配置図 S=1:100



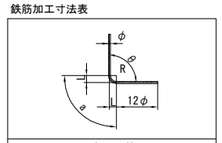
鉄筋加工図 S=1:40



鉄筋数量表 1 箇所当り(1箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 19	780	64	2.25	1.76	113	
W2	D 16	1600	64	1.56	2.50	160	
W3-1	D 16	6000	8	1.56	9.36	75	
W3-2	D 16	2330	8	1.56	3.63	29	
W4	D 16	620	8	1.56	0.967	8	
					D16=	272 kg	
					D19=	113 kg	
					合計 =	385 kg	SD345

鉄筋加工寸法表



主筋	θ=90°			
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D19	57	90	57	24

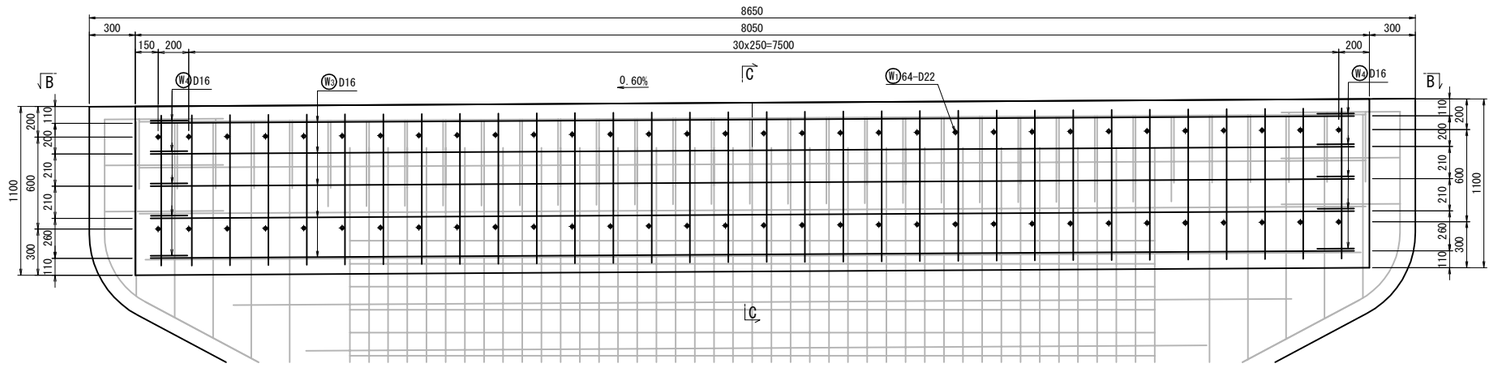
注)

1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

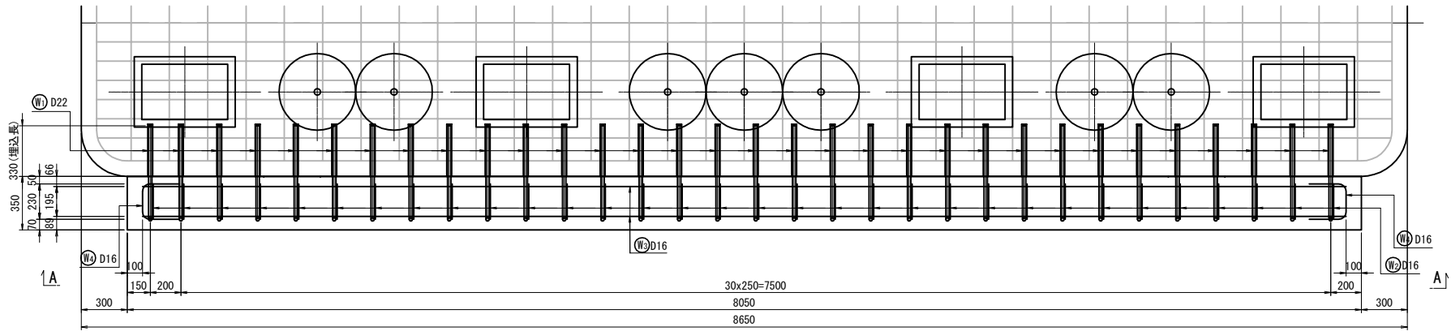
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P13橋脚(起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P13橋脚(終点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線) S=図示

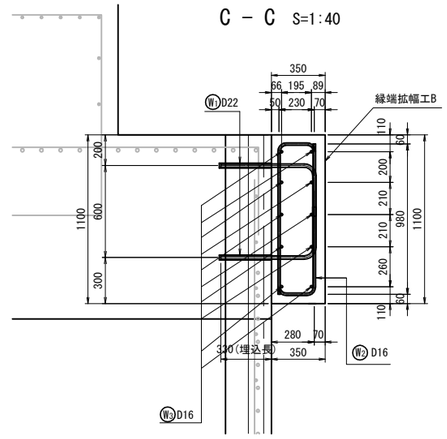
A － A S=1:40



B － B S=1:40

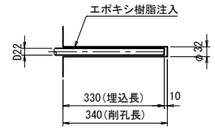


C － C S=1:40

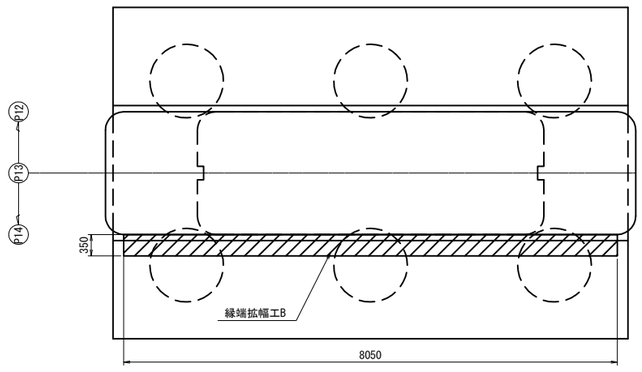


アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

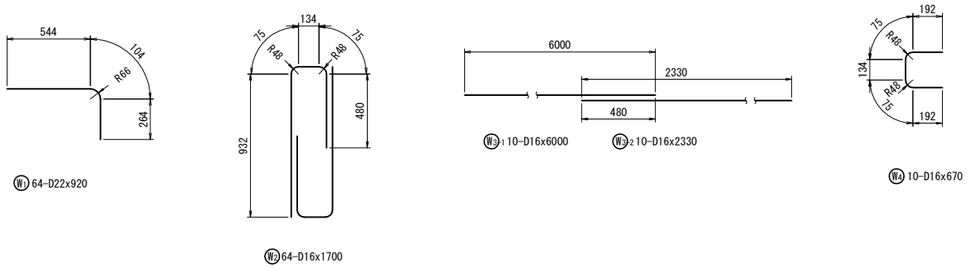
縁端拡幅工 アンカーエφ32･340 (水平方向)



配置図 S=1:100



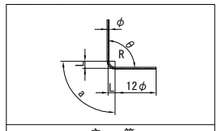
鉄筋加工図 S=1:40



鉄筋質量表１箇所当り(1箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 22	920	64	3.04	2.80	179	┌─
W2	D 16	1700	64	1.56	2.65	170	┌─┐
W3-1	D 16	6000	10	1.56	9.36	94	──
W3-2	D 16	2330	10	1.56	3.63	36	──
W4	D 16	670	10	1.56	1.05	11	c
					D16=	311 kg	
					D22=	179 kg	
					合計 =	490 kg	SD345

鉄筋加工寸法表



	主筋 θ=90°			
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D22	66	104	66	28

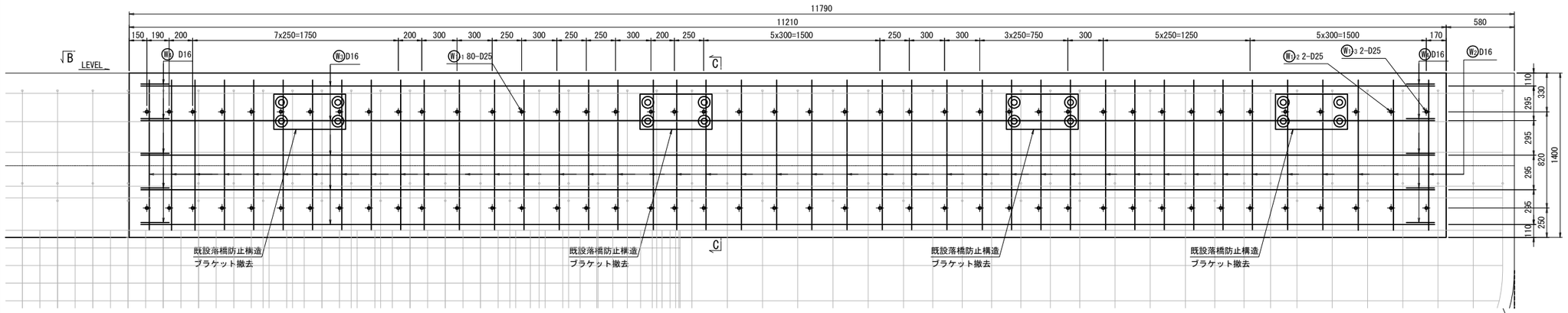
注)

1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

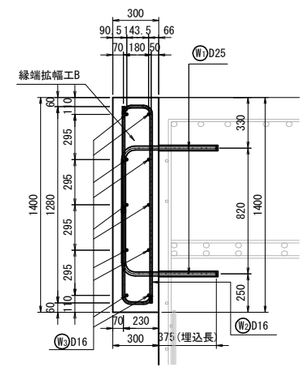
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P13橋脚(終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
縮尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P15橋脚(起点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線) S=図示

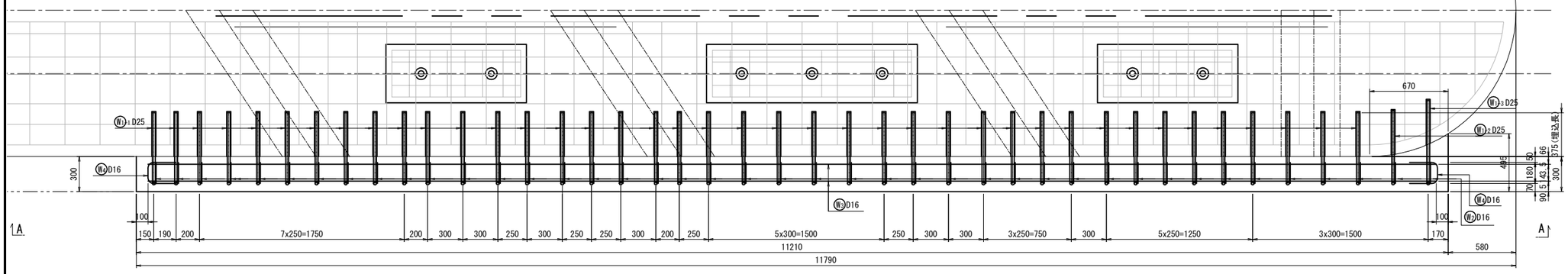
A － A S=1:40



C － C S=1:40

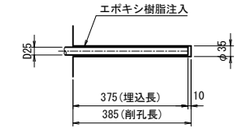


B － B S=1:40

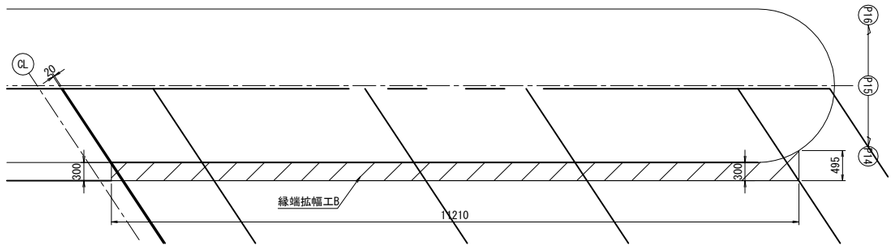


アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

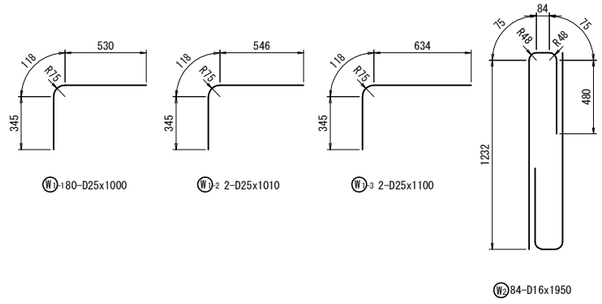
縁端拡幅工 アンカー工φ35･385 (水平方向)

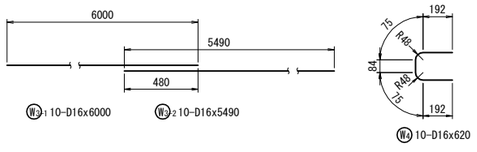


配置図 S=1:100



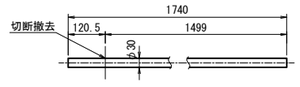
鉄筋加工図 S=1:40



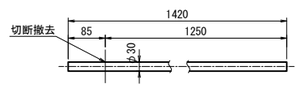


アンカーボルト切断詳細図 S=1:20

G1-G3



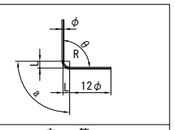
G4



鉄筋質量表 1箇所当り(1箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1-1	D 25	1000	80	3.98	3.98	318	⌐
W1-2	D 25	1010	2	3.98	4.02	8	⌐
W1-3	D 25	1100	2	3.98	4.50	9	⌐
W2	D 16	1950	84	1.56	3.04	255	⌐
W3-1	D 16	6000	10	1.56	9.36	94	—
W3-2	D 16	5490	10	1.56	8.56	86	—
W4	D 16	620	10	1.56	0.967	10	⊏
					D16=	445 kg	
					D25=	335 kg	
					合計 =	780 kg	SD345

鉄筋加工寸法表



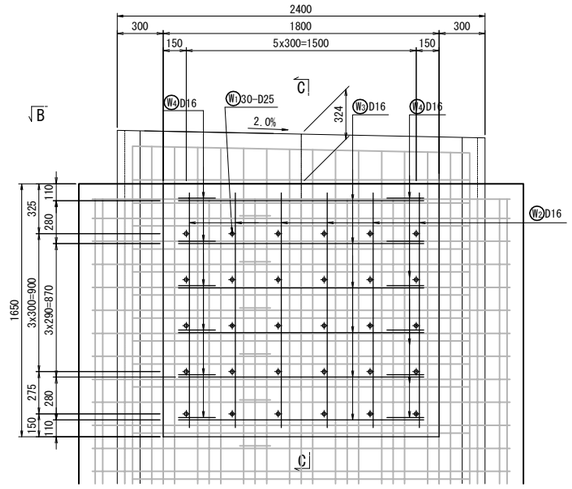
主筋	θ=90°			
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D25	75	118	75	32

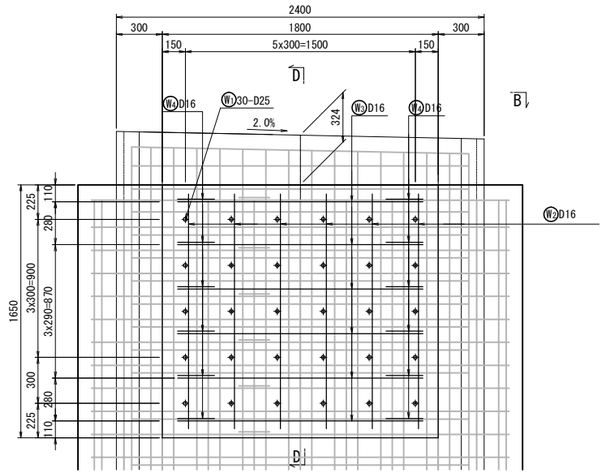
注)
1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚(起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)
縮尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

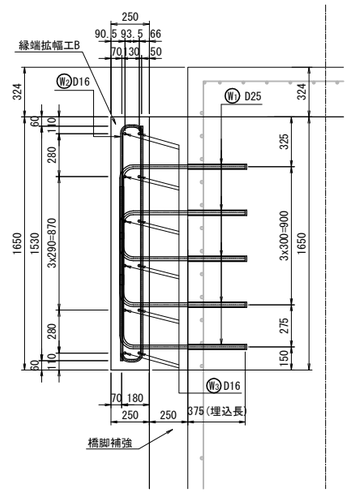
P20橋脚(起点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線) S=図示

A － A S=1:40

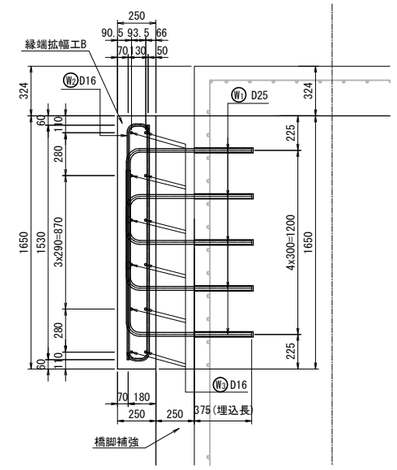




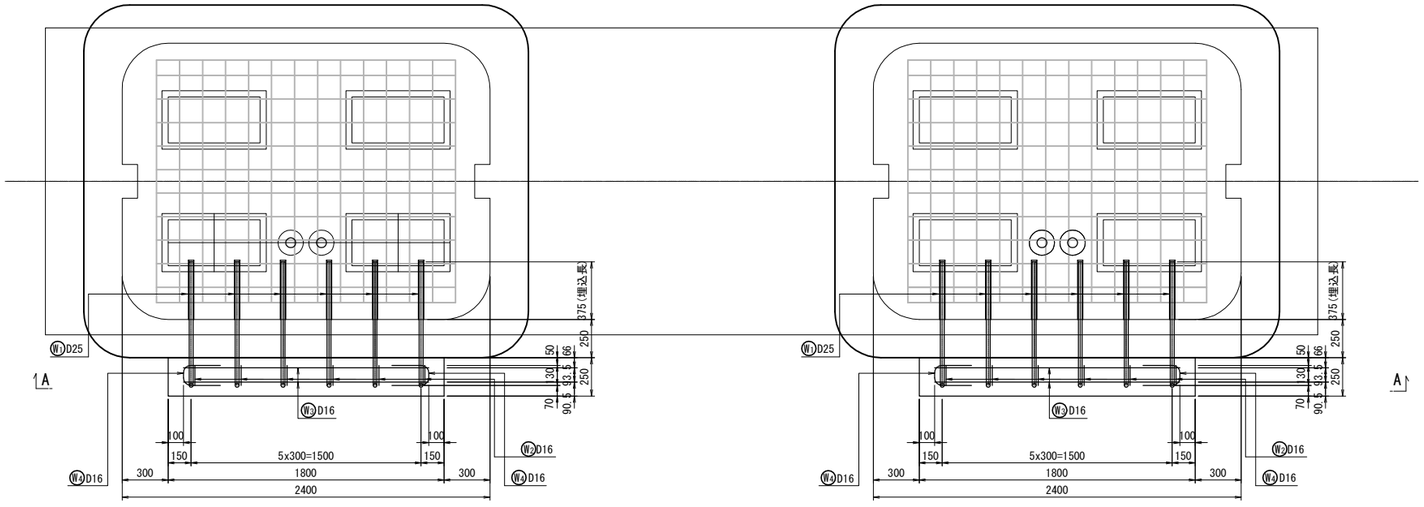
C － C S=1:40



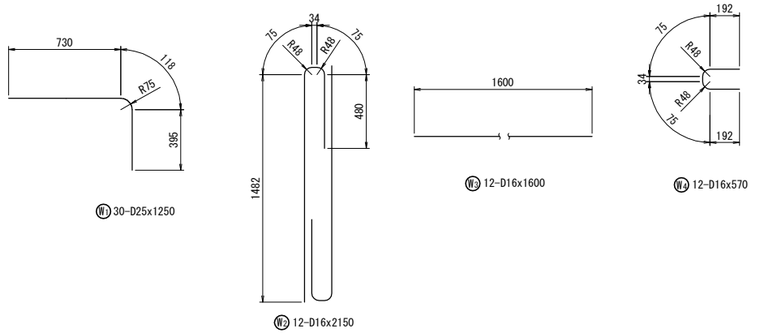
D － D S=1:40



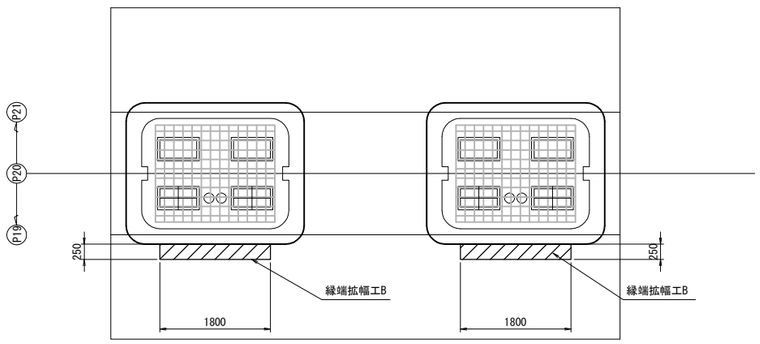
B － B S=1:40



鉄筋加工図 S=1:40

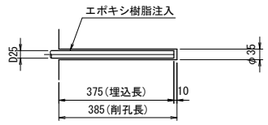


配置図 S=1:100

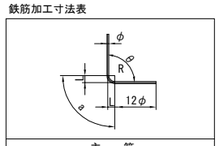


アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

縁端拡幅工 アンカー工φ35-385 (水平方向)



鉄筋加工寸法表



主筋				
	θ=90°			
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D25	75	118	75	32

鉄筋質量表 1箇所当り(2箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 25	1250	30	3.98	4.98	149	⌐
W2	D 16	2150	12	1.56	3.35	40	⌐
W3	D 16	1600	12	1.56	2.50	30	—
W4	D 16	570	12	1.56	0.889	11	⊂
					D16=	81 kg	
					D25=	149 kg	
					合計 =	230 kg	SD345

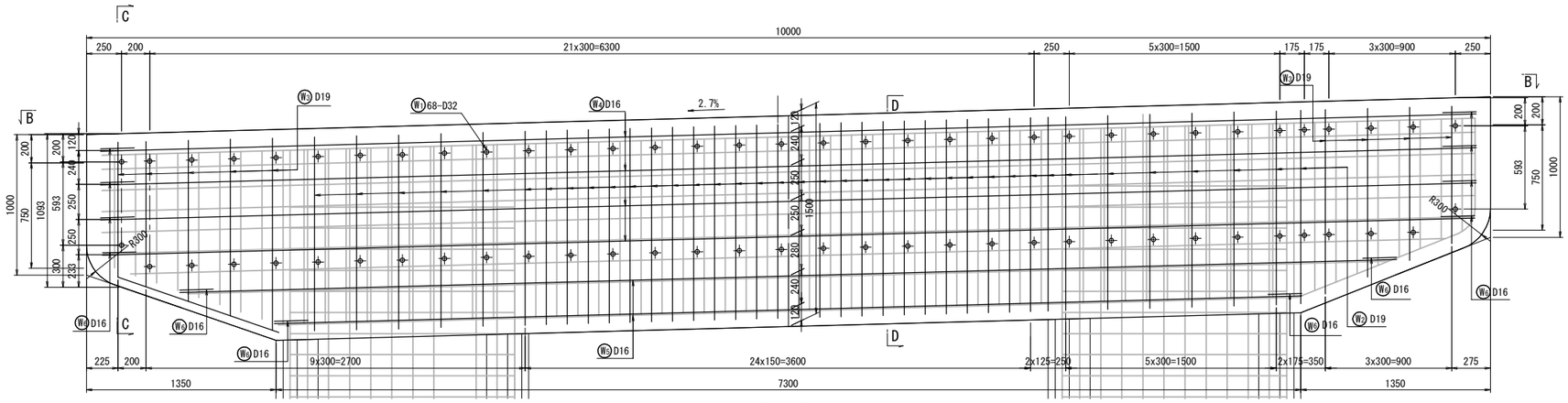
注)

1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

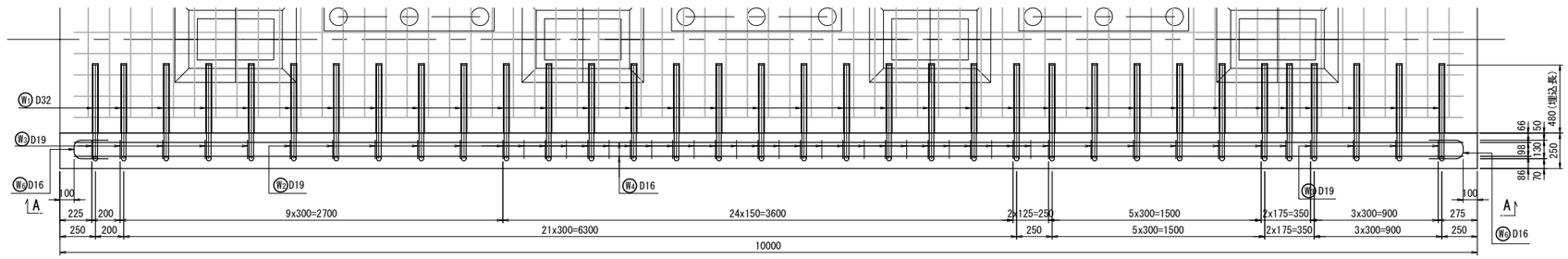
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P20橋脚(起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P45橋脚(終点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線) S=図示

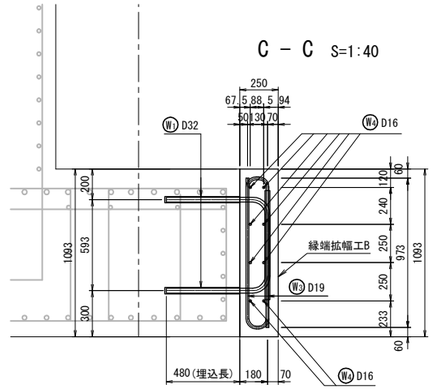
A - A S=1:40



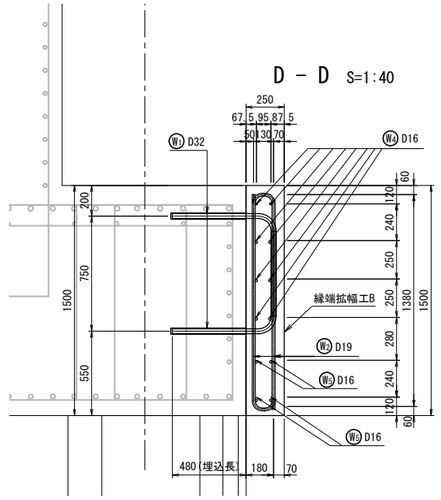
B - B S=1:40



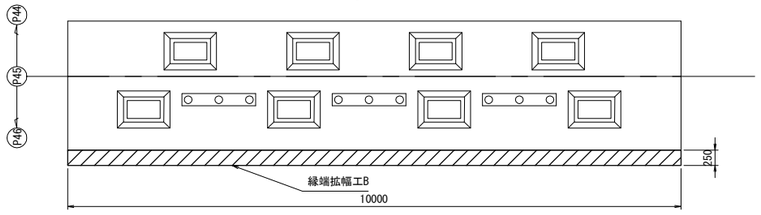
C - C S=1:40



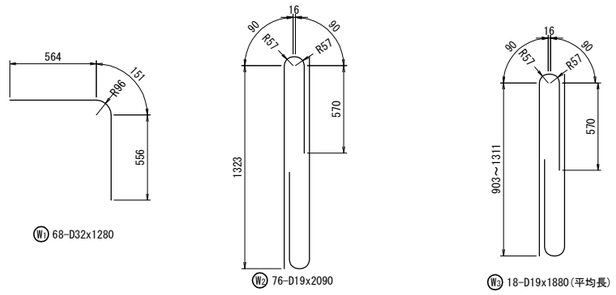
D - D S=1:40



配置図 S=1:100

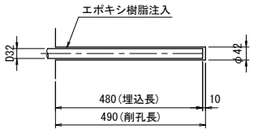


鉄筋加工図 S=1:40



アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

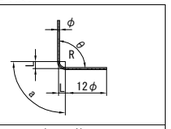
縁端拡幅工 アンカー工φ42・490 (水平方向)



鉄筋質量表 1箇所当り(1箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 32	1280	68	6.23	7.97	542	⌐
W2	D 19	2090	76	2.25	4.70	357	⌐
W3	D 19	1880	18	2.25	4.23	76	⌐
W4	D 16	9810	8	1.56	15.3	122	—
W5	D 16	8000	4	1.56	12.5	50	—
W6	D 16	570	12	1.56	0.889	11	c
					D16=	183 kg	
					D19=	433 kg	
					D32=	542 kg	
					合計 =	1158 kg	SD345

鉄筋加工寸法表



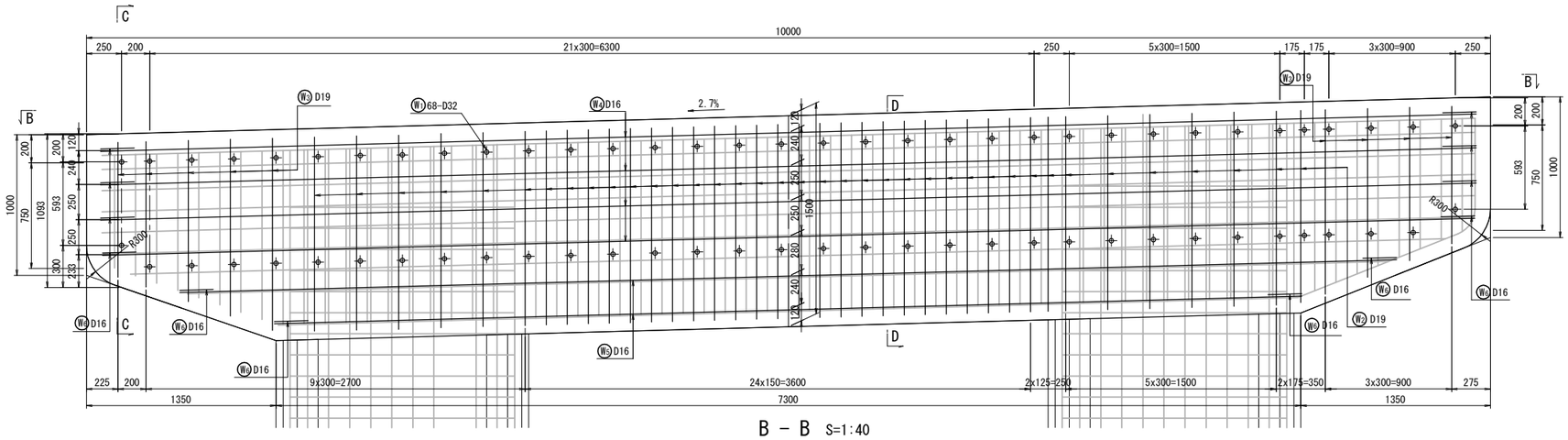
	主筋 θ=90°			
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D19	57	90	57	24
D32	96	151	96	41

注)
1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

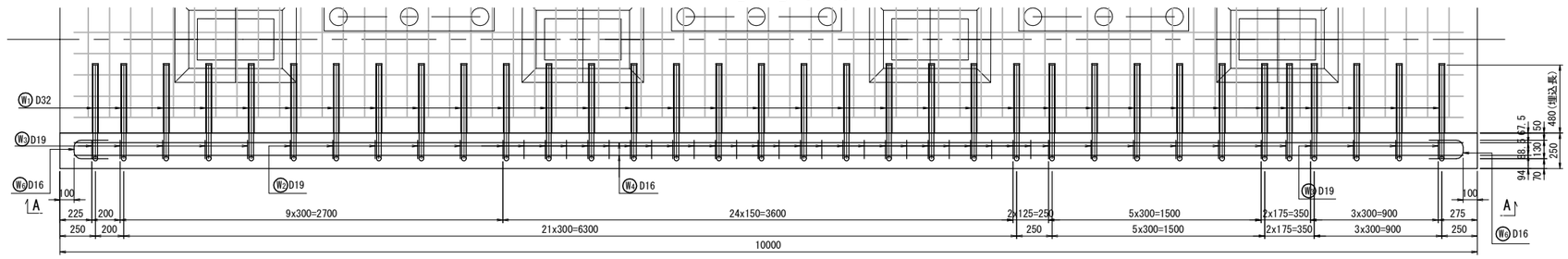
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P45橋脚(終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P45橋脚(終点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (下り線) S=図示

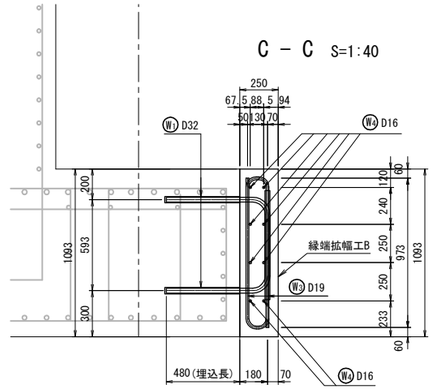
A - A S=1:40



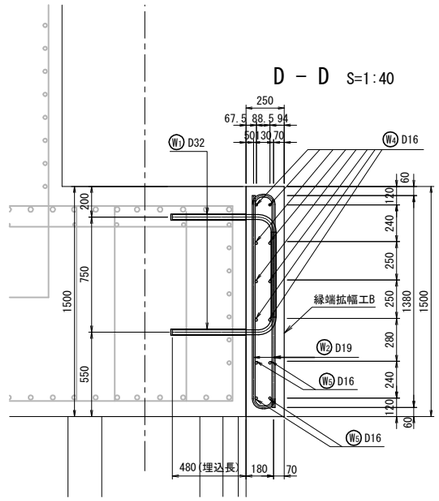
B - B S=1:40



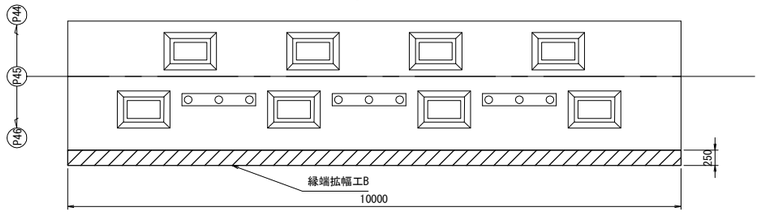
C - C S=1:40



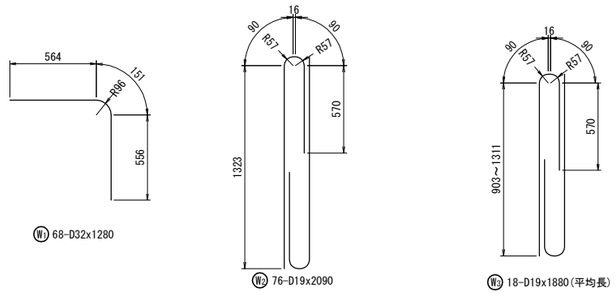
D - D S=1:40



配置図 S=1:100

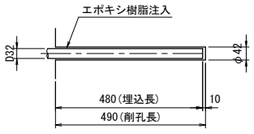


鉄筋加工図 S=1:40



アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

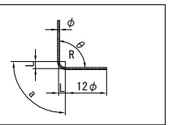
縁端拡幅工 アンカー工φ42・490 (水平方向)



鉄筋質量表 1箇所当り(1箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 32	1280	68	6.23	7.97	542	⌐
W2	D 19	2090	76	2.25	4.70	357	⌐
W3	D 19	1880	18	2.25	4.23	76	⌐
W4	D 16	9810	8	1.56	15.3	122	—
W5	D 16	8000	4	1.56	12.5	50	—
W6	D 16	570	12	1.56	0.889	11	c
					D16=	183 kg	
					D19=	433 kg	
					D32=	542 kg	
					合計 =	1158 kg	SD345

鉄筋加工寸法表



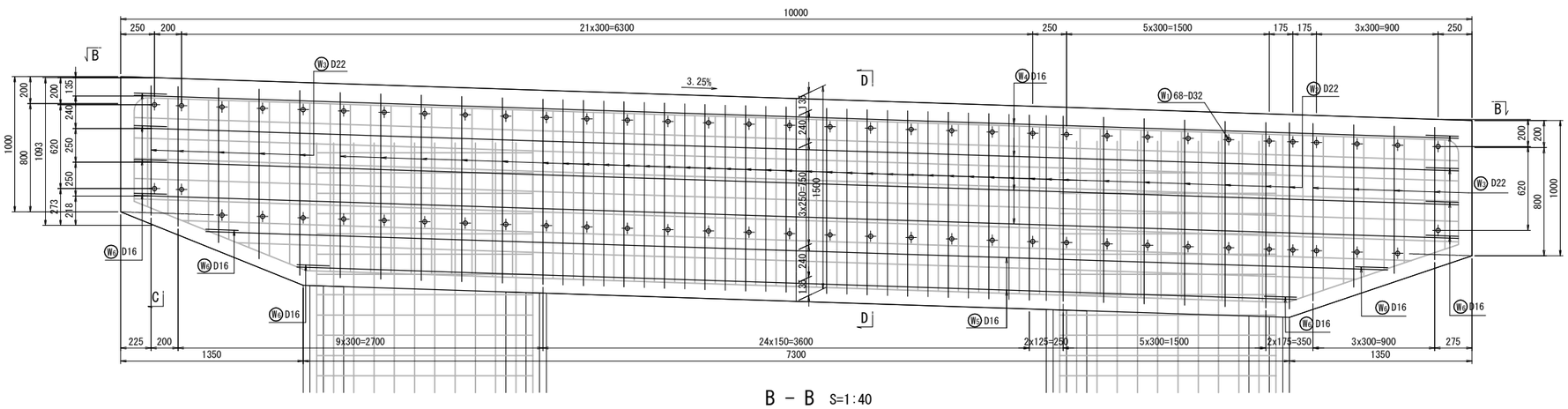
主筋	θ=90°			
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D19	57	90	57	24
D32	96	151	96	41

注)
1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

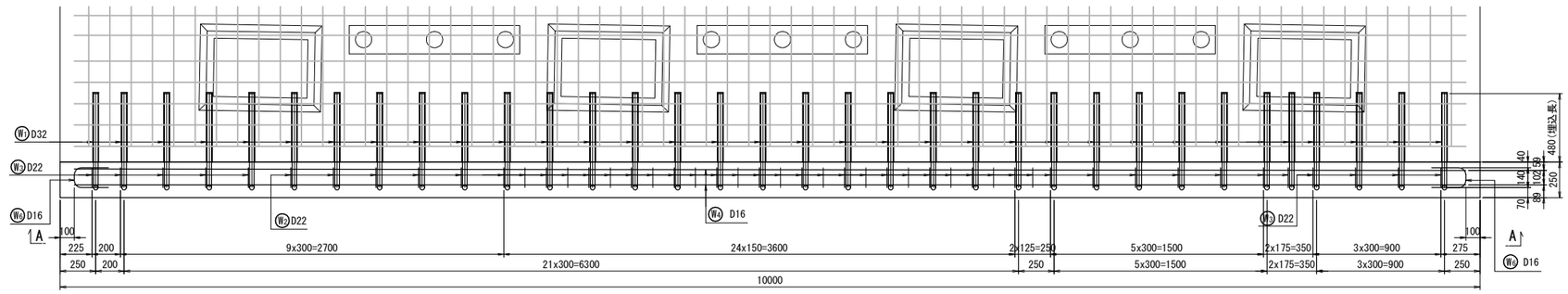
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P45橋脚(終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (下り線)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P46橋脚(起点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線) S=図示

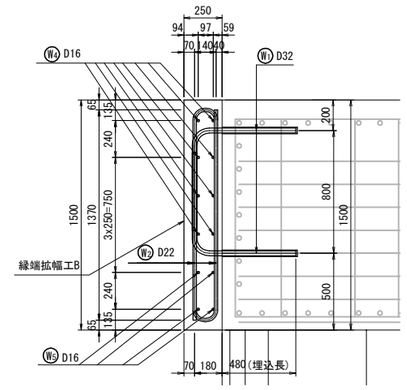
A - A S=1:40



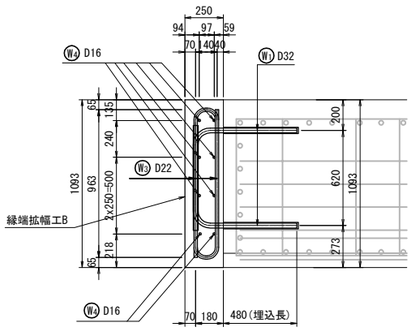
B - B S=1:40



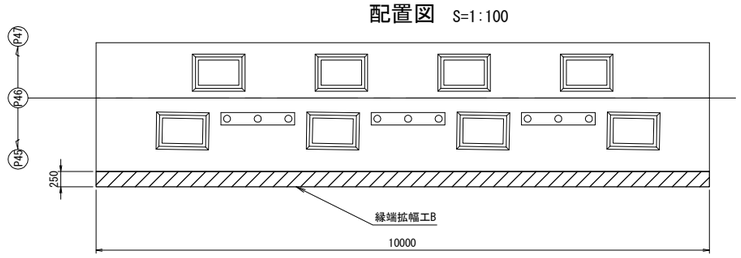
D - D S=1:40



C - C S=1:40



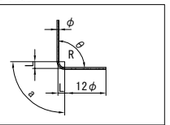
配置図 S=1:100



鉄筋質量表 1箇所当り(1箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 32	1280	68	6.23	7.97	542	⌐
W2	D 22	2180	76	3.04	6.63	504	⌐
W3	D 22	1970	18	3.04	5.99	108	⌐
W4	D 16	9810	8	1.56	15.3	122	—
W5	D 16	8080	4	1.56	12.6	50	—
W6	D 16	580	12	1.56	0.905	11	c
					D16=	183 kg	
					D22=	612 kg	
					D32=	542 kg	
					合計 =	1337 kg	SD345

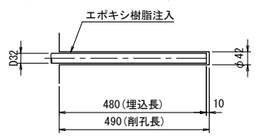
鉄筋加工寸法表



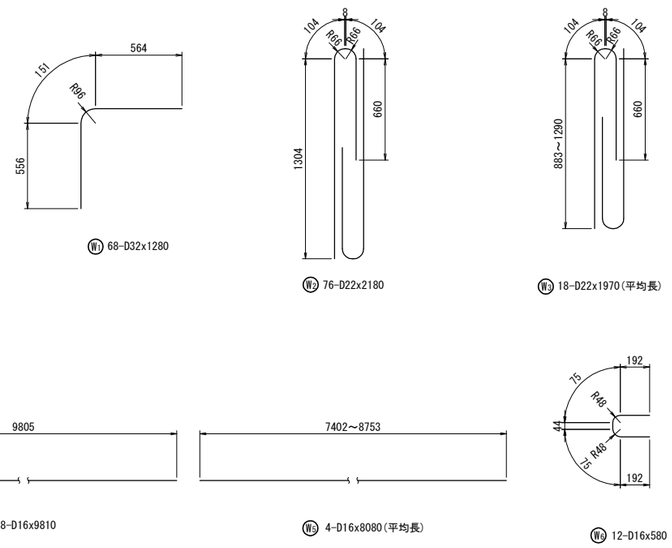
	主筋 θ=90°			
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D22	66	104	66	28
D32	96	151	96	41

アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

縁端拡幅工 アンカー工φ42･490 (水平方向)



鉄筋加工図 S=1:40



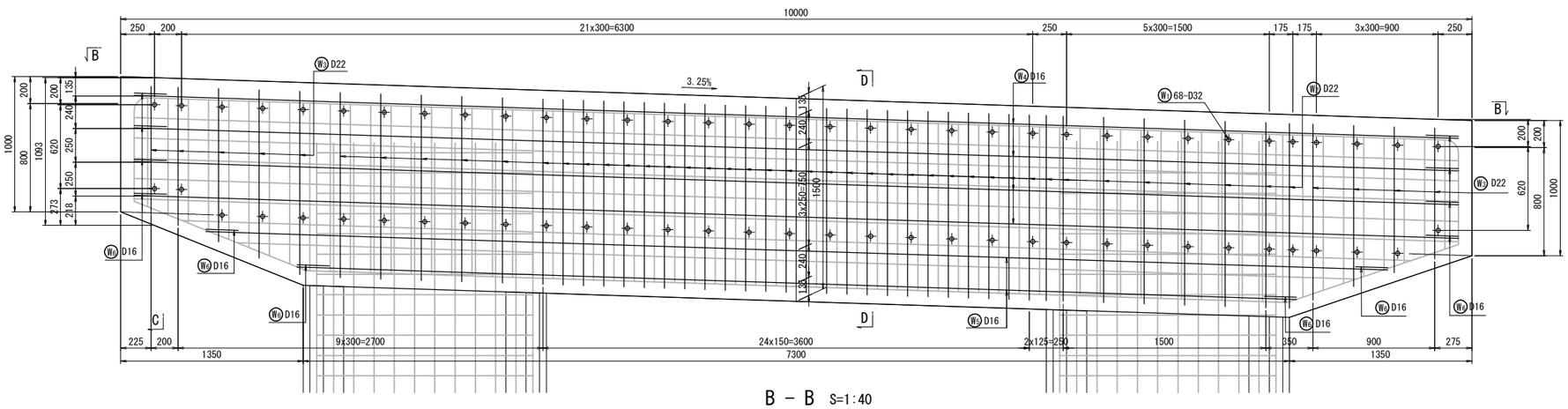
注)

1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

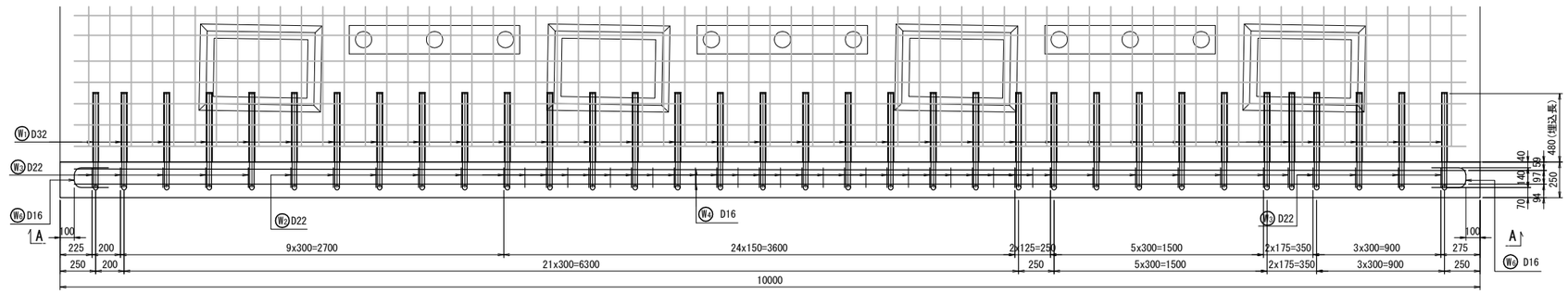
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P46橋脚(起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P46橋脚(起点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (下り線) S=図示

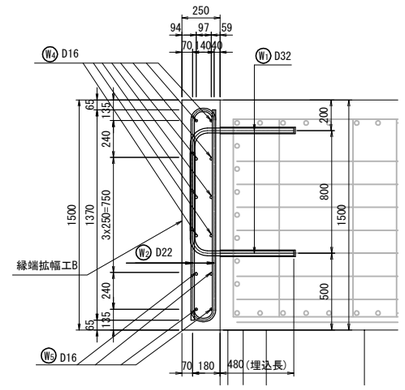
A - A S=1:40



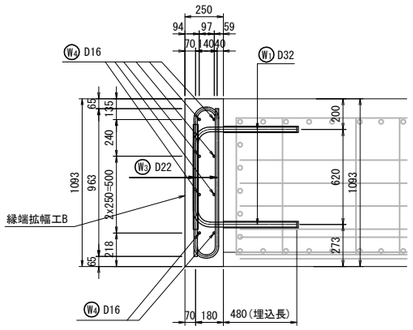
B - B S=1:40



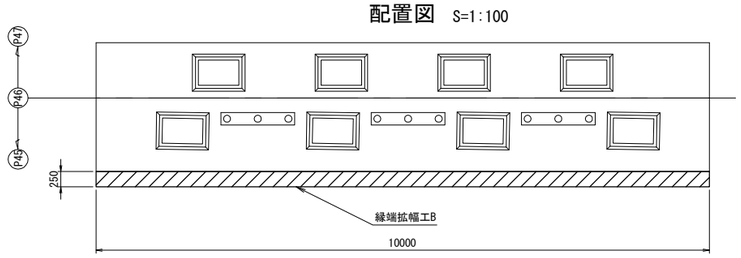
D - D S=1:40



C - C S=1:40



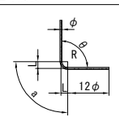
配置図 S=1:100



鉄筋質量表 1箇所当り(1箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 32	1280	68	6.23	7.97	542	⌐
W2	D 22	2180	76	3.04	6.63	504	⌐
W3	D 22	1970	18	3.04	5.99	108	⌐
W4	D 16	9810	8	1.56	15.3	122	—
W5	D 16	8080	4	1.56	12.6	50	—
W6	D 16	580	12	1.56	0.905	11	c
					D16=	183 kg	
					D22=	612 kg	
					D32=	542 kg	
					合計 =	1337 kg	SD345

鉄筋加工寸法表



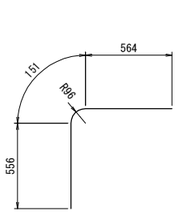
	主筋 θ=90°			
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D22	66	104	66	28
D32	96	151	96	41

アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

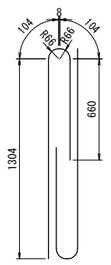
縁端拡幅工 アンカー工φ42-490 (水平方向)



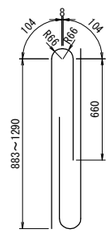
鉄筋加工図 S=1:40



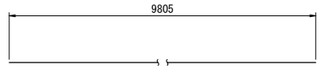
W1 68-D32x1280



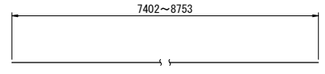
W2 76-D22x2180



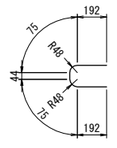
W3 18-D22x1970(平均長)



W4 8-D16x9810



W5 4-D16x8080(平均長)



W6 12-D16x580

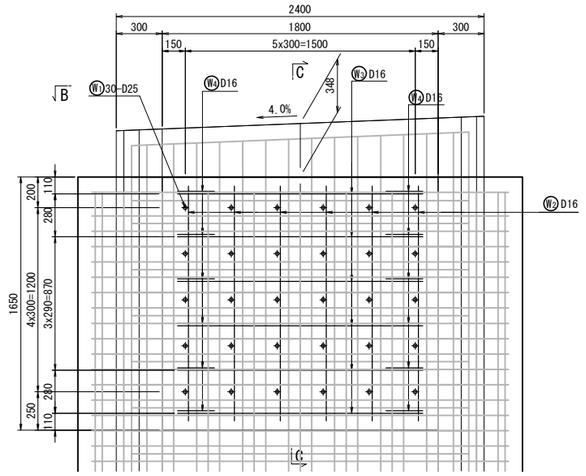
注)

1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

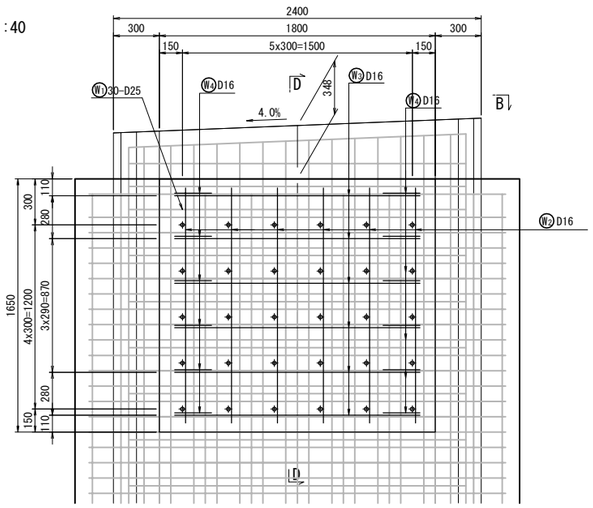
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P46橋脚(起点側)縁端拡幅工B 詳細図 (下り線)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P62橋脚(終点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線) S=図示

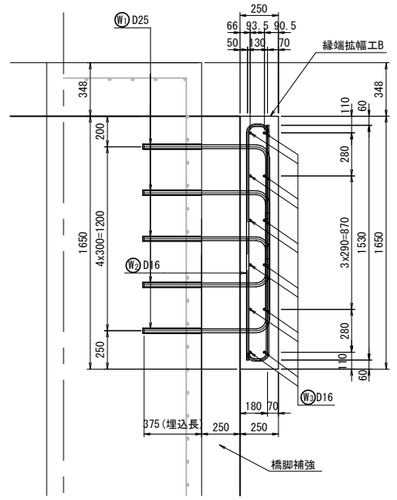
A － A S=1:40



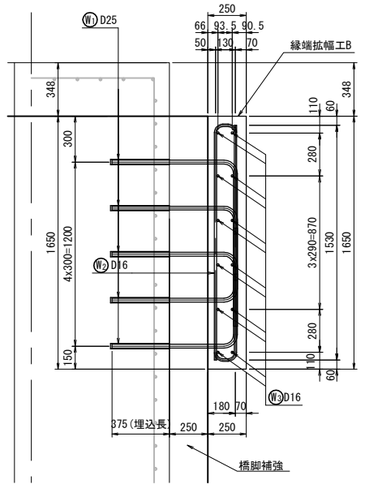
A － A S=1:40



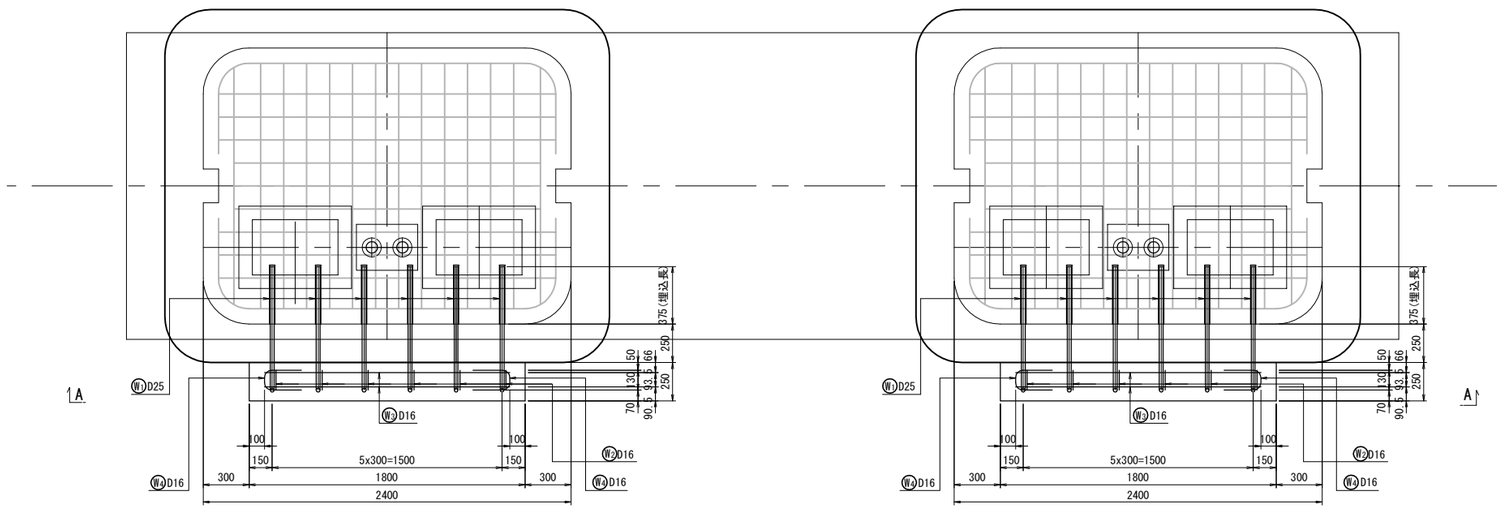
C － C S=1:40



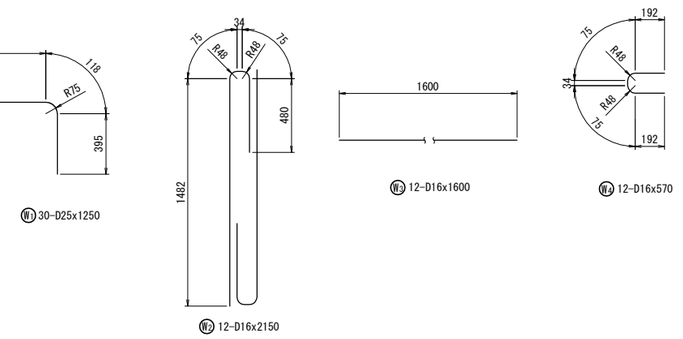
D － D S=1:40



B － B S=1:40

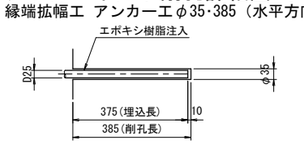


鉄筋加工図 S=1:40

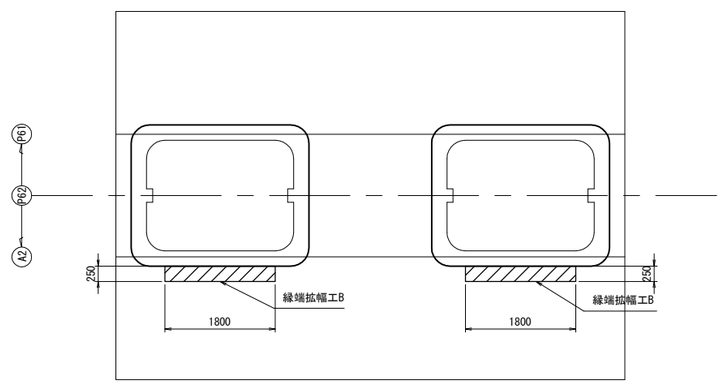


アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

縁端拡幅工 アンカー工φ35･385 (水平方向)



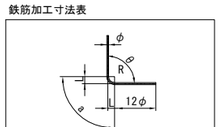
配置図 S=1:100



鉄筋質量表 1箇所当り(2箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 25	1250	30	3.98	4.98	149	
W2	D 16	2150	12	1.56	3.35	40	
W3	D 16	1600	12	1.56	2.50	30	
W4	D 16	570	12	1.56	0.889	11	
					D16=	81 kg	
					D25=	149 kg	
					合計 =	230 kg	SD345

鉄筋加工寸法表



	主筋				
	θ=90°				
	R	a	L	ΔL	
D16	48	75	48	21	
D25	75	118	75	32	

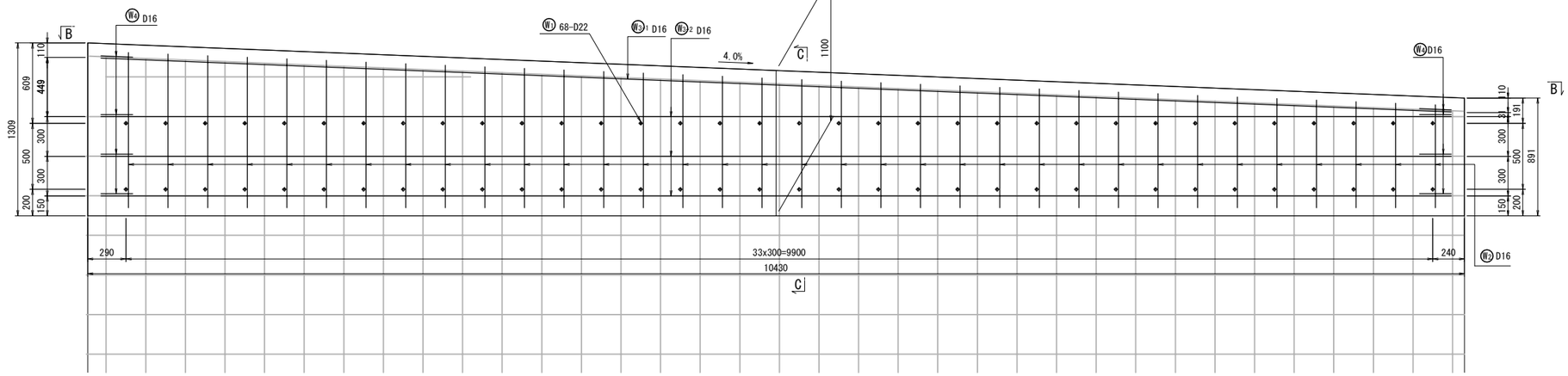
注)

1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

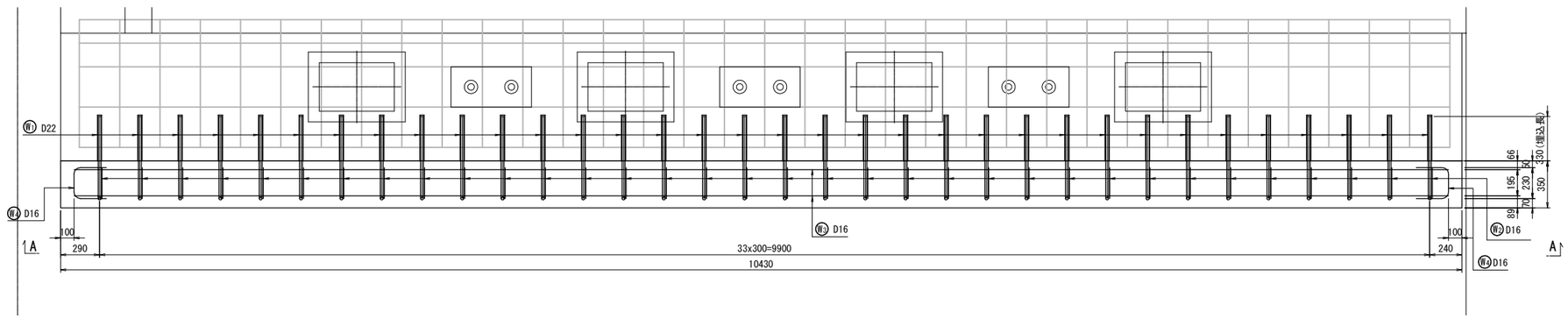
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P62橋脚(終点側)縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

A2橋台(起点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線) S=図示

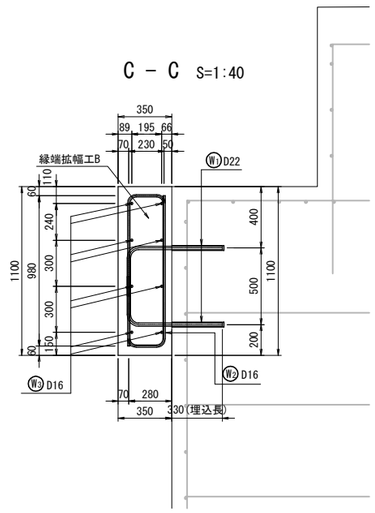
A - A S=1:40



B - B S=1:40

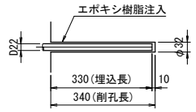


C - C S=1:40

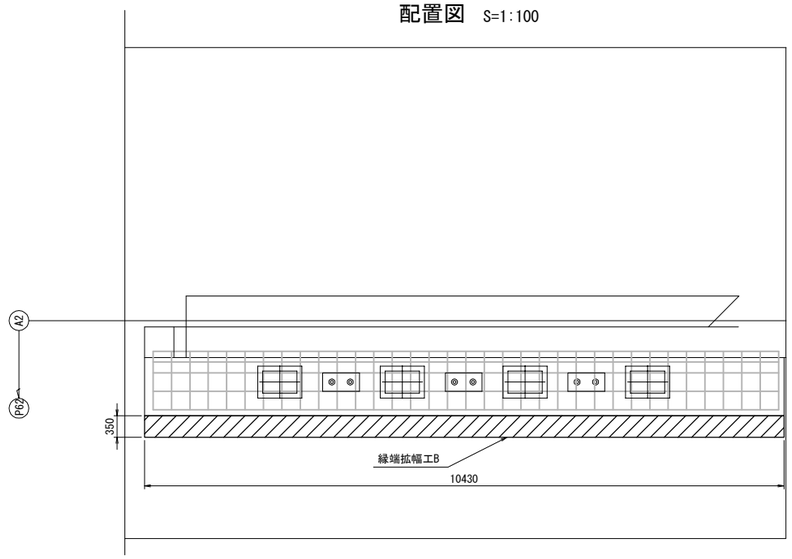


アンカーボルト削孔詳細図 S=1:20

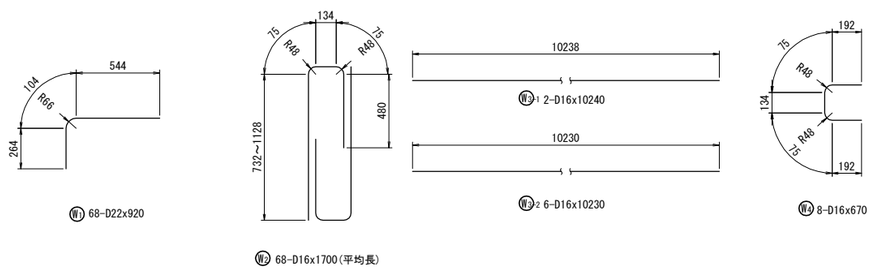
縁端拡幅工 アンカー工φ32･340 (水平方向)



配置図 S=1:100



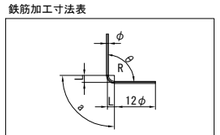
鉄筋加工図 S=1:40



鉄筋質量表 1箇所当り(1箇所)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当質量	質量 (kg)	摘要
W1	D 22	920	68	3.04	2.80	190	┌─┐
W2	D 16	1700	68	1.56	2.65	180	┌─┐
W3-1	D 16	10240	2	1.56	16.0	32	──
W3-2	D 16	10230	6	1.56	16.0	96	──
W4	D 16	670	8	1.56	1.05	8	c
					D16=	316 kg	
					D22=	190 kg	
					合計 =	506 kg	SD345

鉄筋加工寸法表



主筋 θ=90°				
	R	a	L	ΔL
D16	48	75	48	21
D22	66	104	66	28

注)

1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とし、鉄筋はSD345を使用する。
2. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべて竣工図面を基に作図を行なっている。
3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 補強部分 (既設面) は、WJによる表面処理を行うこと。
5. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しないように現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

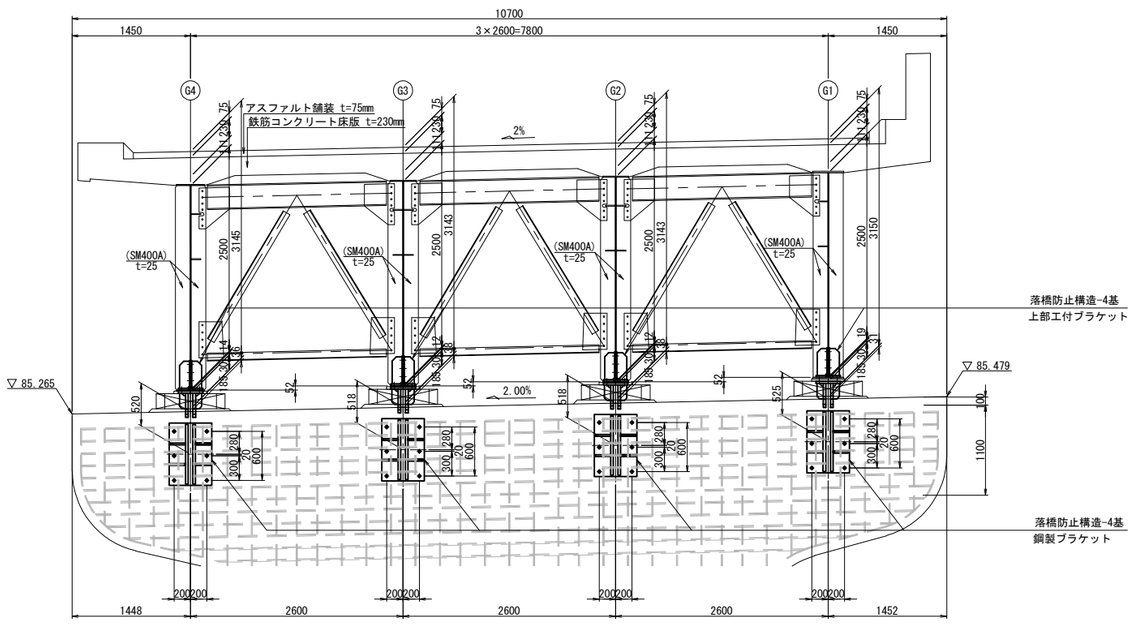
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 A2橋台(起点側) 縁端拡幅工B 詳細図 (上り線)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P8橋脚(終点側) 落橋防止構造C 構造図 (上り線) (その１) S=図示

落橋防止構造 C1-800kN(412.4mm)

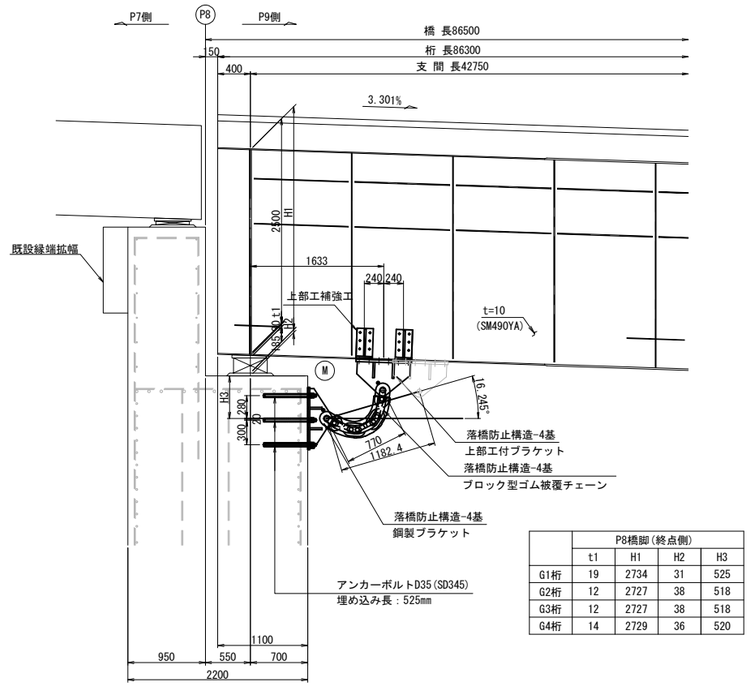
正 面 図 S=1:75

上り線



側 面 図 S=1:75

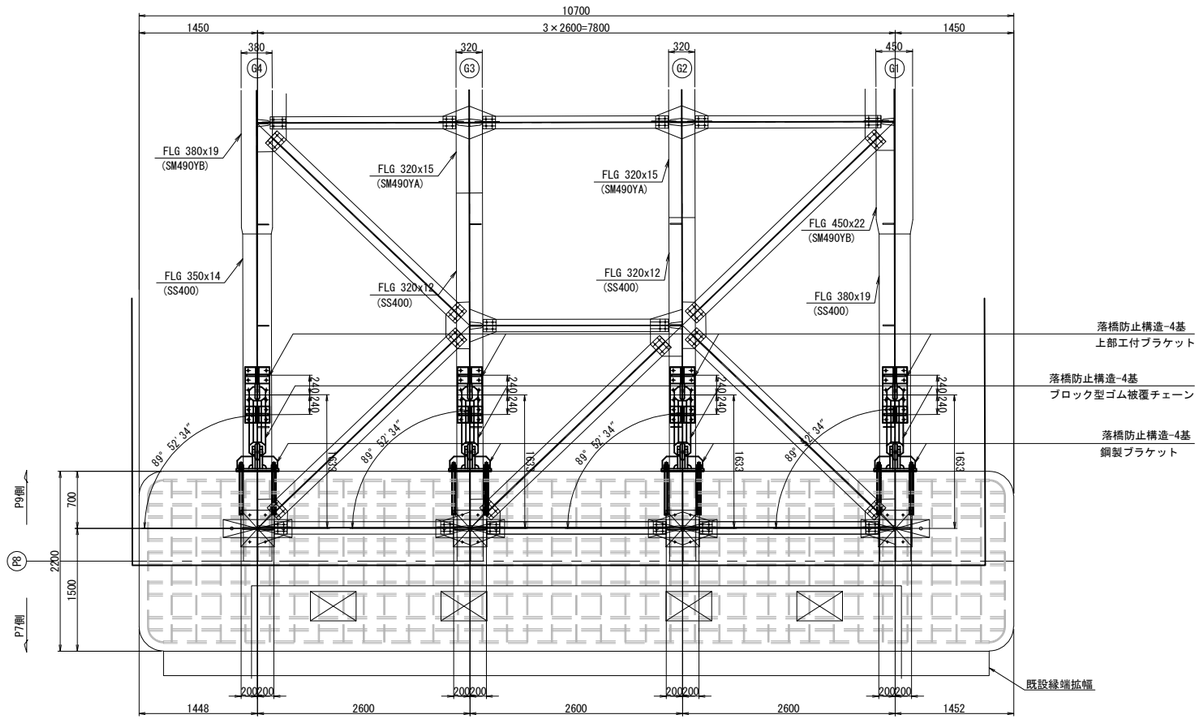
上り線



	P8橋脚(終点側)			
	t1	H1	H2	H3
G1桁	19	2734	31	525
G2桁	12	2727	38	518
G3桁	12	2727	38	518
G4桁	14	2729	36	520

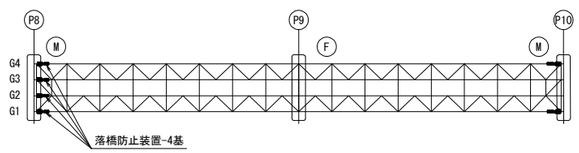
平 面 図 S=1:75

上り線



	単位	数値
死荷重反力	kN	2600
設計水平力	kN	3200
1本あたり引張力	kN	800
設計移動量	mm	412.4

配 置 図 S=1:1000



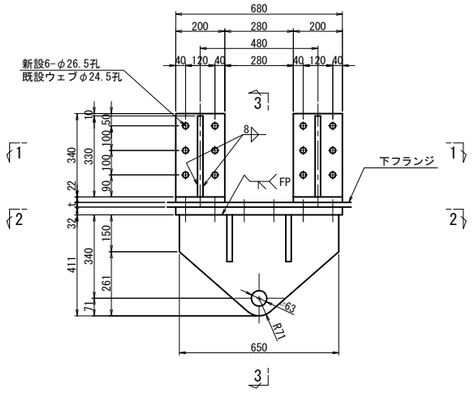
注）
1. 施工にあたっては現地計測を行い、既設構造寸法等を再確認の上、取付構成の細部を精査すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しない様に現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

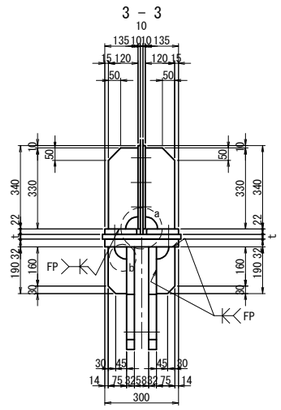
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P8橋脚(終点側) 落橋防止構造C 構造図 (上り線) (その１)
縮 尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

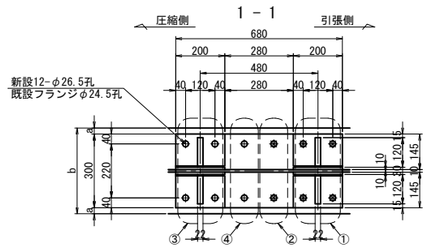
P8橋脚(終点側) 落橋防止構造C 構造図（上り線）（その２） S=図示

落橋防止構造 C1-800kN(412.4mm)

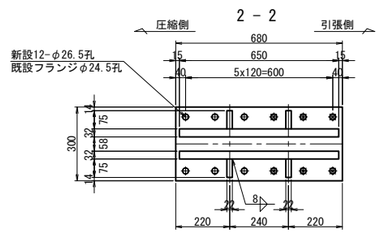
上部工付ブラケット、上部工補強工詳細図 S=1:25



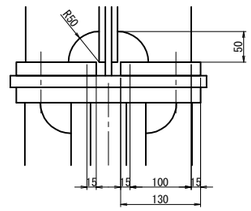




	a	b	t
G1桁	40	380	19
G2桁	10	320	12
G3桁	10	320	12
G4桁	25	350	14



a部詳細図 S=1:10

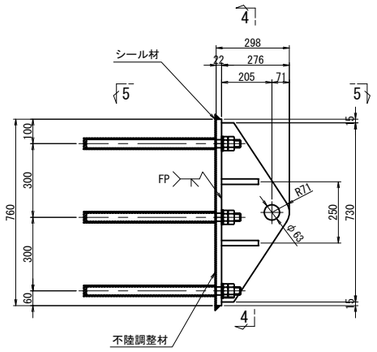


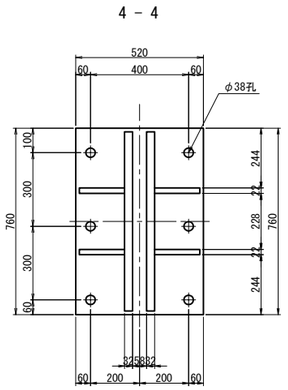
上部工補強工1基当り（製作数：4基）
4-RIB PL 120x22x330(SM400A)
4-BASE PL 200x10x340(SM400A)
4-BASE PL 130x22x200(SM400A)
12-TCB M22x65(S10T)

上部工ブラケット1基当り（製作数：4基）
1-BASE PL 300x32x680
2-RIB PL 411x32x650
4-RIB PL 75x22x190
4-TCB M22xL1(S10T)(2-W付)
2-TCB M22xL2(S10T)(2-W付)
4-TCB M22xL3(S10T)
2-TCB M22xL4(S10T)

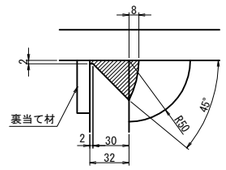
ボルト	①	②	③	④
	L1	L2	L3	L4
G1桁	115	95	110	90
G2桁	110	85	105	80
G3桁	110	85	105	80
G4桁	110	90	105	85

鋼製ブラケット詳細図 S=1:25

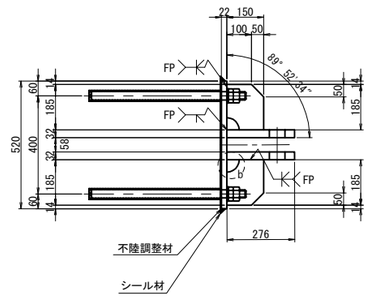




b部詳細図 S=1:5

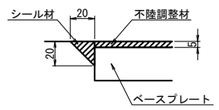


5 - 5

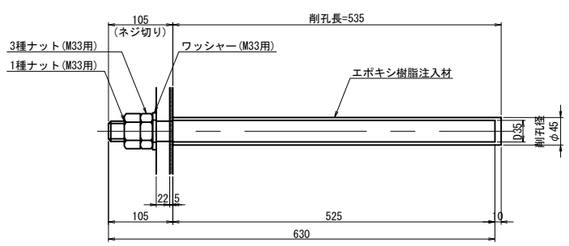


鋼製ブラケット1基当り（製作数：4基）
1-BASE PL 520x22x760
2-RIB PL 276x32x730
4-RIB PL 185x22x150

シール材詳細図（参考図）S=1:5



アンカーボルト詳細図 S=1:10

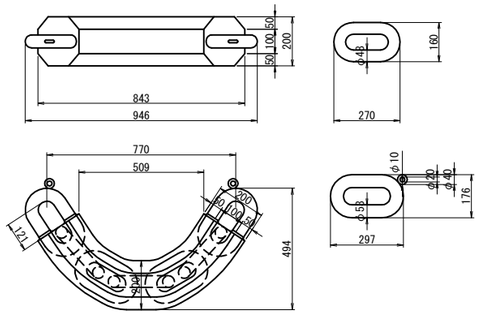


※ アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

ブラケット1基当り（製作数：4基）
6-ANCHOR BOLT D35x630(SD345)(ネジ切りM33x105)
6-NUT M33(1種)(SS400)
6-NUT M33(3種)(SS400)
6-WASHER M33 (SS400)

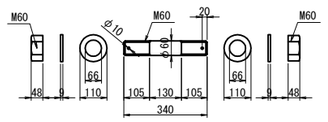
ブロック型ゴム被覆チェーン(参考図)

(7リンクワイド)



*1 調整ﾘﾝｸﾞの溶接は全周隅肉溶接とする。
*2 端末ﾘﾝｸの防錆仕様はHDZT 77とする。
*3 製品計算重量： 90.3 kg

ピン詳細図（参考図） S=1:25



1基当り(製作数:4基)
2-R.B φ60×340(SCM435)
4-Nut M60(1種) (SS400)
4-Washer M60 (SS400)
4-割ピンφ10×90 (SUS304)

注）
1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
4. 鋼製ブラケットの全て下記の通りの溶融亜鉛めっき（JIS H 8641）とする。
   HDZT 77 鋼板
   HDZT 49 アンカーボルト（ナット・ワッシャーを含む）
5. アンカーボルト孔位置は現場実測後決定のこと。
6. ⊕ 印は、トルシア形高力ボルト M22（S10T）を示す。
   ※ 印は、トルシア形高力ボルト M22（S10T）(2-W付)を示す。
   孔は下記の通りとする。
   既設部材 - φ24.5孔
   新設部材 - φ26.5孔
7. チェーンの長さを変更する場合は，強力チェーンのリンク数によって行い，ねじれが発生しないよう偶数倍の増減を行う。
8. チェーンおよびシャックルの材質はSCM鋼または同等材とする。
9. 「FP」の表記のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

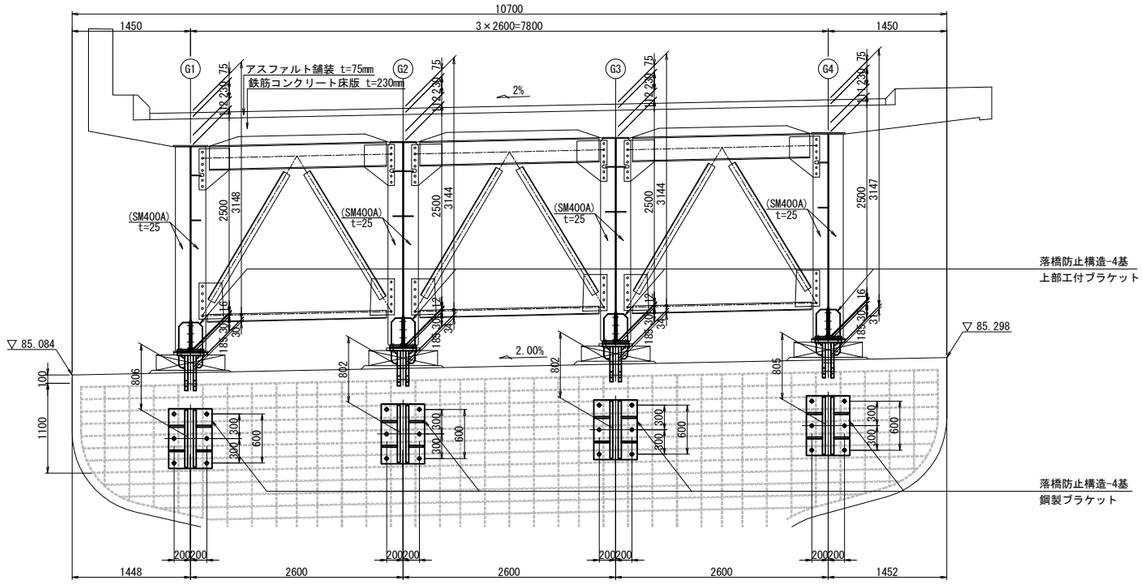
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P8橋脚(終点側) 落橋防止構造C 構造図（上り線）（その２）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P8橋脚(終点側) 落橋防止構造C 構造図 (下り線) (その１) S=図示

落橋防止構造 C1-888kN(493.2mm)

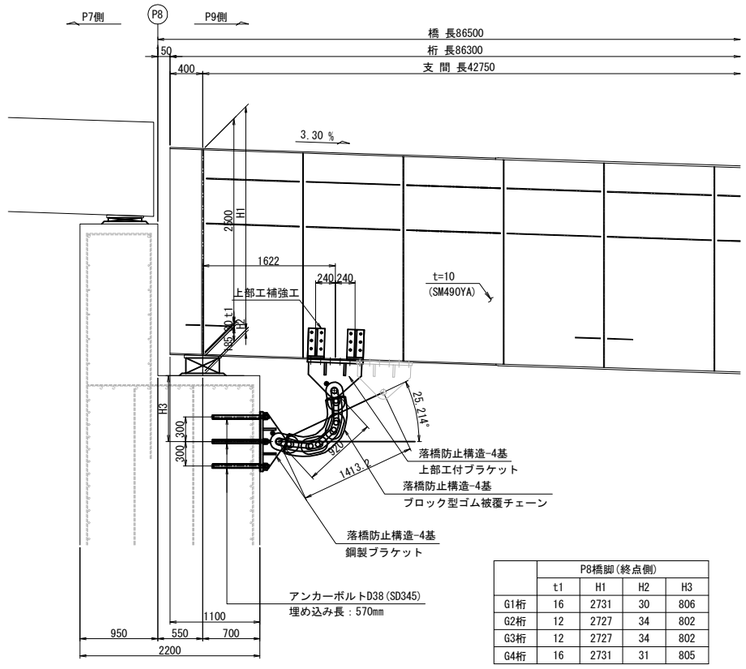
正 面 図 S=1:75

下り線



側 面 図 S=1:75

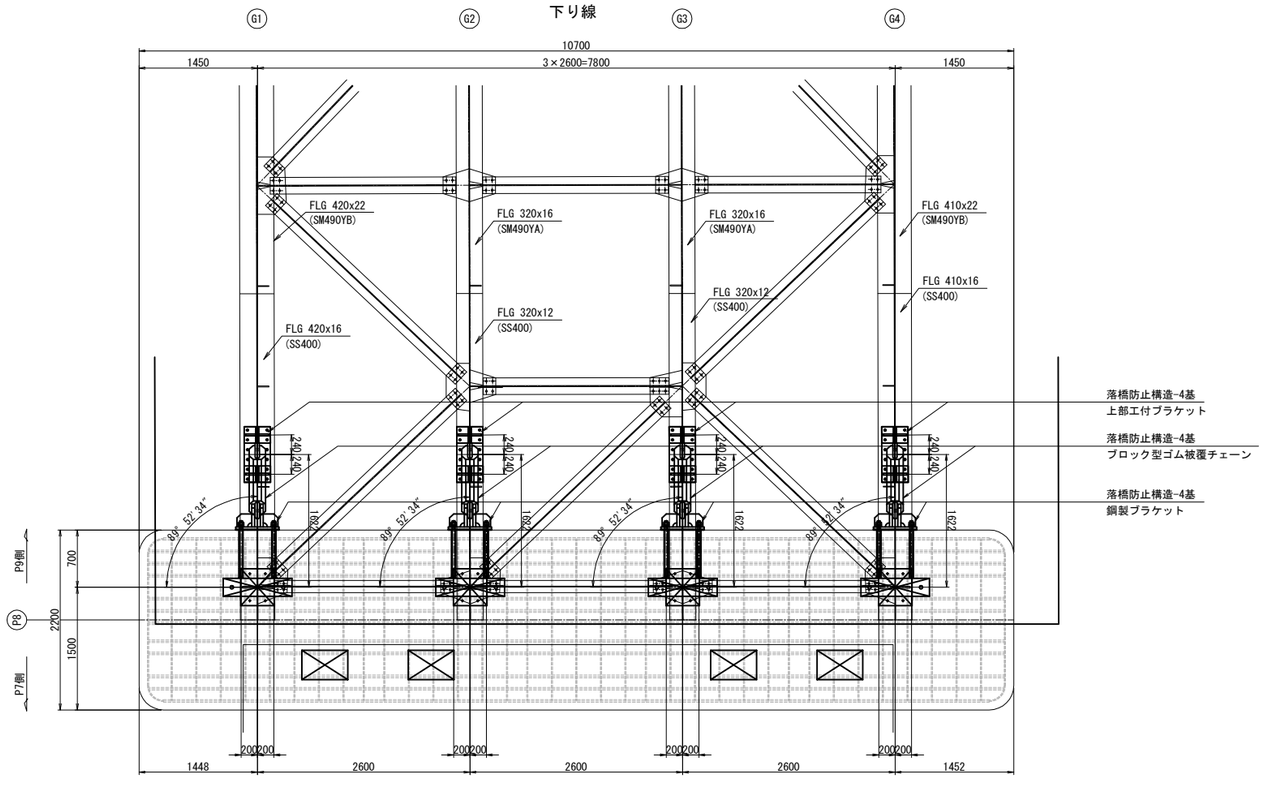
下り線



	P8橋脚(終点側)			
	t1	H1	H2	H3
G1桁	16	2731	30	806
G2桁	12	2727	34	802
G3桁	12	2727	34	802
G4桁	16	2731	31	805

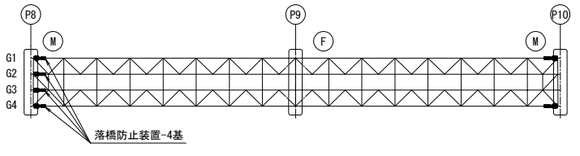
平 面 図 S=1:75

下り線



	単位	数値
死荷重反力	kN	2600
設計水平力	kN	3550
1本あたり引張力	kN	888
設計移動量	mm	493.2

配 置 図 S=1:1000



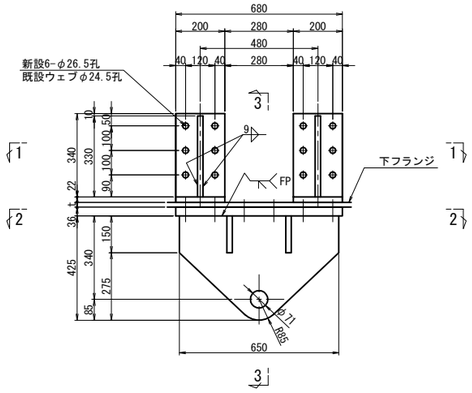
注)
1. 施工にあたっては現地計測を行い、既設構造寸法等を再確認の上、取付構成の細部を精査すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しない様に現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

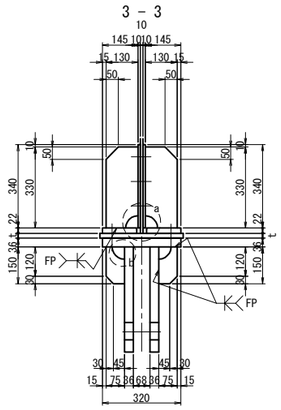
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P8橋脚(終点側) 落橋防止構造C 構造図 (下り線) (その１)
縮 尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P8橋脚(終点側) 落橋防止構造C 構造図（下り線）（その２） S=図示

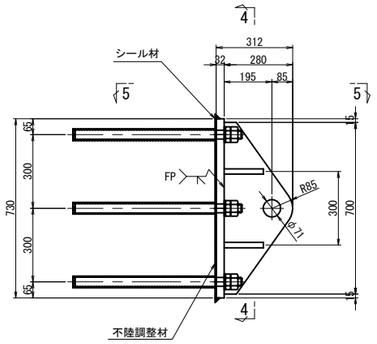
落橋防止構造 C1-888kN(493.2mm)

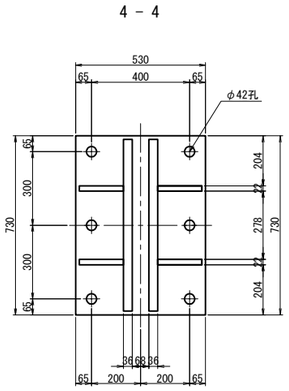
上部工付ブラケット、上部工補強工詳細図 S=1:25

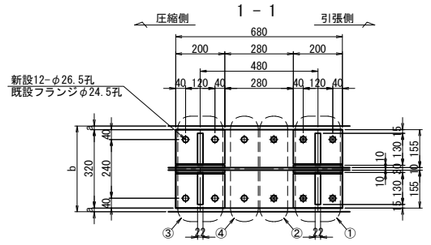




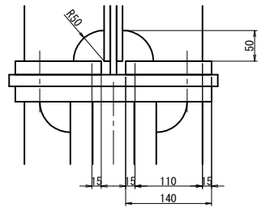
鋼製ブラケット詳細図 S=1:25







a部詳細図 S=1:10



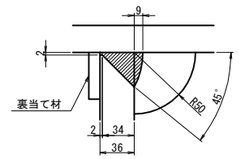
	a	b	t
G1桁	50	420	16
G2桁	0	320	12
G3桁	0	320	12
G4桁	45	410	16

上部工補強工1基当り（製作数：4基）
4-RIB PL 130x22x330(SM400A)
4-BASE PL 200x10x340(SM400A)
4-BASE PL 140x22x200(SM400A)
12-TCB M22x65(S10T)

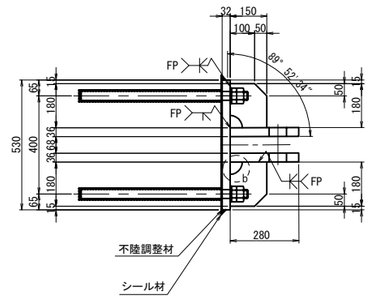
上部工ブラケット1基当り（製作数：4基）
1-BASE PL 320x36x680
2-RIB PL 425x36x650
4-RIB PL 75x22x150
4-TCB M22xL1(S10T)(2-W付)
2-TCB M22xL2(S10T)(2-W付)
4-TCB M22xL3(S10T)
2-TCB M22xL4(S10T)

ボルト	①	②	③	④
	L1	L2	L3	L4
G1桁	115	95	110	90
G2桁	115	90	105	85
G3桁	115	90	105	85
G4桁	115	95	110	90

b部詳細図 S=1:5

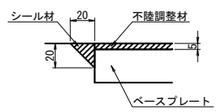


5 － 5

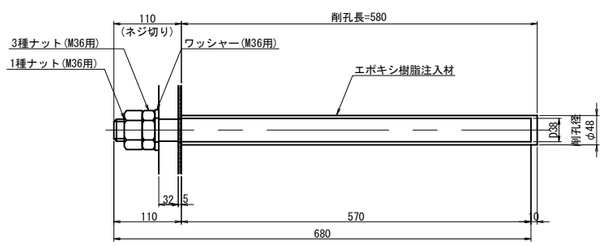


鋼製ブラケット1基当り（製作数：4基）
1-BASE PL 530x32x730
2-RIB PL 280x36x700
4-RIB PL 180x22x150

シール材詳細図（参考図）S=1:5



アンカーボルト詳細図 S=1:10

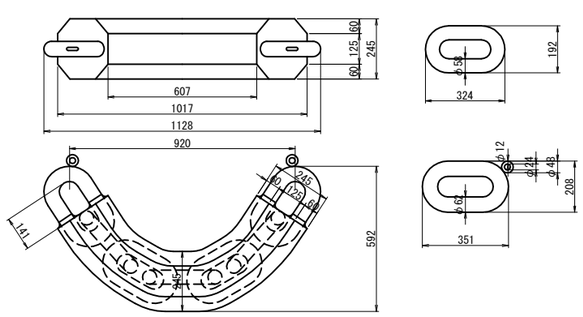


※ アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

ブラケット1基当り（製作数：4基）
6-ANCHOR BOLT D38x680(SD345)(ネジ切りM36x110)
6-NUT M36(1種)(SS400)
6-NUT M36(3種)(SS400)
6-WASHER M36 (SS400)

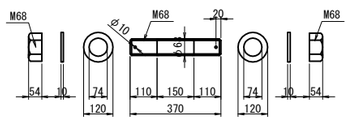
ブロック型ゴム被覆チェーン(参考図)

(7リンクワイド)



*1 調整ﾘﾝｸﾞの溶接は全周隅肉溶接とする。
*2 端末ﾘﾝｸの防錆仕様はHDZT 77とする。
*3 製品計算重量： 158.7 kg

ピン詳細図（参考図）S=1:25



1基当り(製作数:4基)
2-R.B φ68×370(SCM435)
4-Nut M68(1種) (SS400)
4-Washer M68 (SS400)
4-割ピンφ10×100 (SUS304)

注）
1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
4. 鋼製ブラケットの全て下記の通りの溶融亜鉛めっき（JIS H 8641）とする。
   HDZT 77 鋼板
   HDZT 49 アンカーボルト（ナット・ワッシャーを含む）
5. アンカーボルト孔位置は現場実測後決定のこと。
6. ⊕ 印は、トルシア形高力ボルト M22（S10T)を示す。
   ※ 印は、トルシア形高力ボルト M22（S10T）(2-W付)を示す。
   孔は下記の通りとする。
   既設部材 － φ24.5孔
   新設部材 － φ26.5孔
7. チェーンの長さを変更する場合は，強力チェーンのリンク数によって行い，ねじれが発生しないよう偶数倍の増減を行う。
8. チェーンおよびシャックルの材質はSCM鋼または同等材とする。
9. 「FP」の表記のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

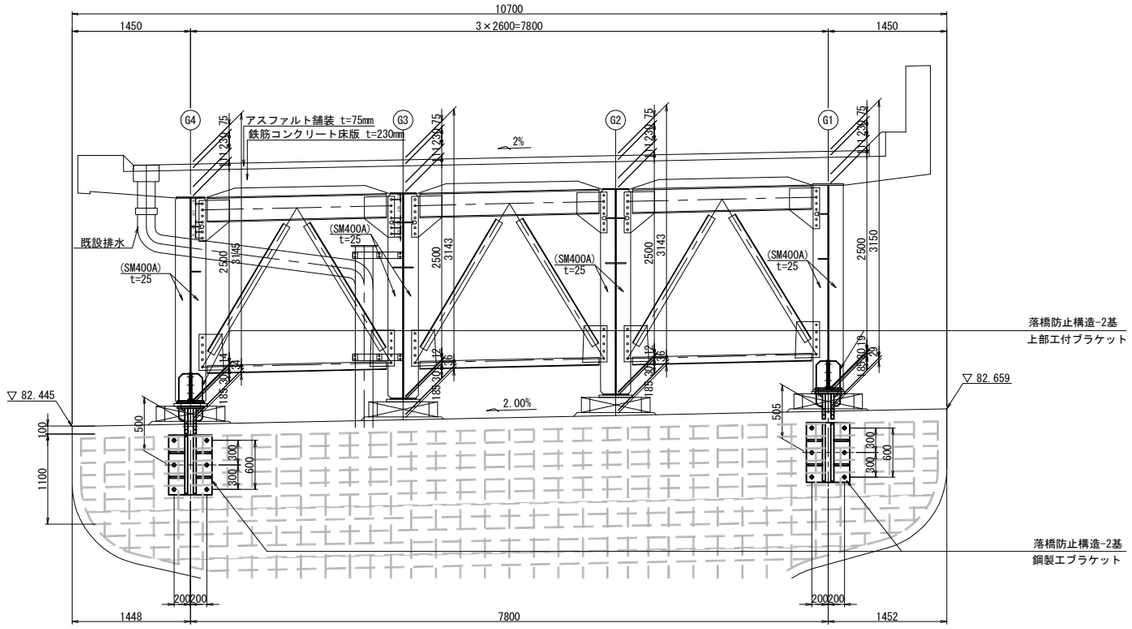
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P8橋脚(終点側) 落橋防止構造C 構造図（下り線）（その２）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P10橋脚(起点側) 落橋防止構造C 構造図 (上り線) (その１) S=図示

落橋防止構造 C1-1175kN(493.2mm)

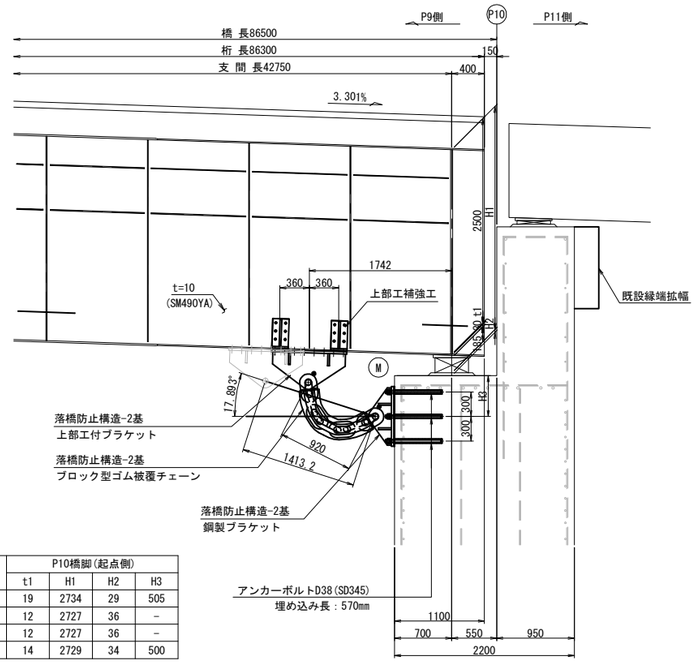
正 面 図 S=1:75

上り線



側 面 図 S=1:75

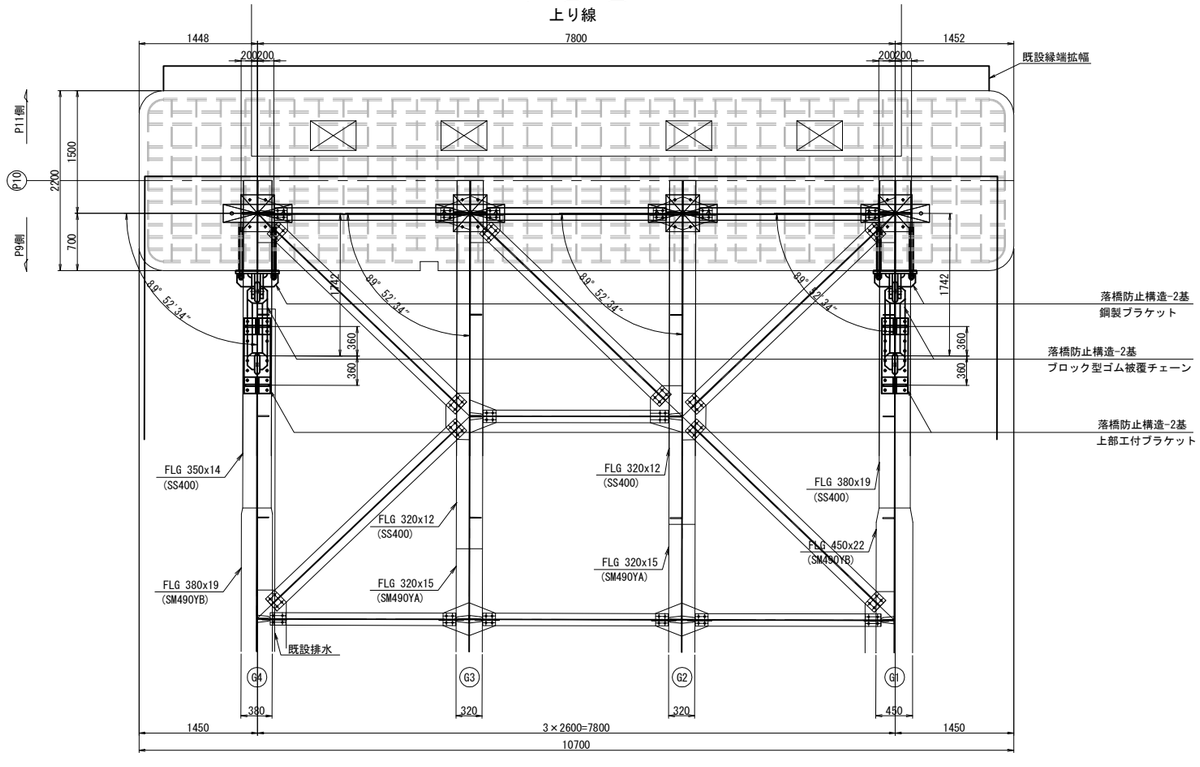
上り線



	P10橋脚(起点側)			
	t1	H1	H2	H3
G1桁	19	2734	29	505
G2桁	12	2727	36	－
G3桁	12	2727	36	－
G4桁	14	2729	34	500

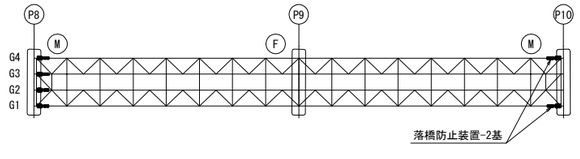
平 面 図 S=1:75

上り線



	単位	数値
死荷重反力	kN	2600
設計水平力	kN	2350
1本あたり引張力	kN	1175
設計移動量	mm	493.2

配 置 図 S=1:1000



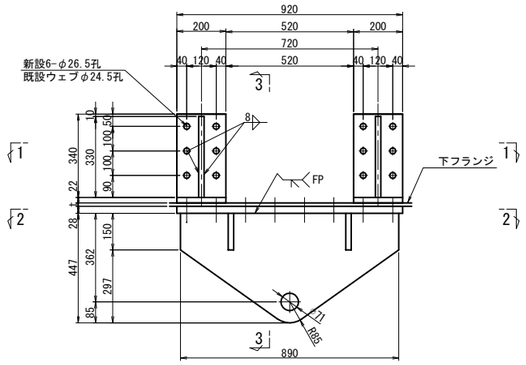
注)
1. 施工にあたっては現地計測を行い、既設構造寸法等を再確認の上、取付構成の細部を精査すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しない様に現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

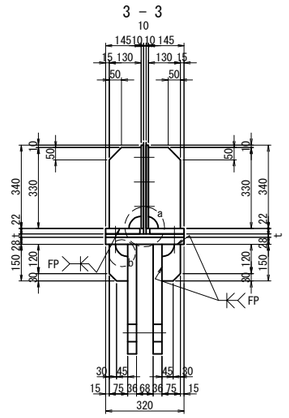
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P10橋脚(起点側) 落橋防止構造C 構造図 (上り線) (その１)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

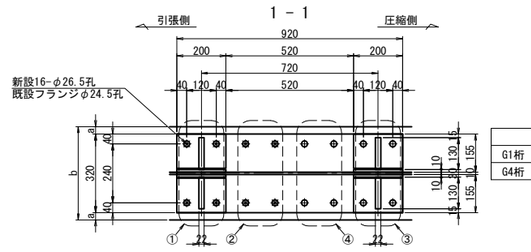
P10橋脚(起点側) 落橋防止構造C 構造図 (上り線) (その２) S=図示

落橋防止構造 C1-1175kN(493.2mm)

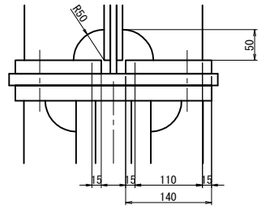
上部工付ブラケット、上部工補強工詳細図 S=1:25







	a	b	t
G1桁	30	380	19
G4桁	15	350	14



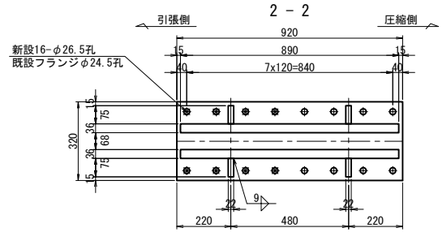
"a"部詳細図 S=1:10

上部工補強工1基当り (製作数：2基)
4-RIB PL 130x22x330(SM400A)
4-BASE PL 200x10x340(SM400A)
4-BASE PL 140x22x200(SM400A)
12-TCB M22x65(S10T)

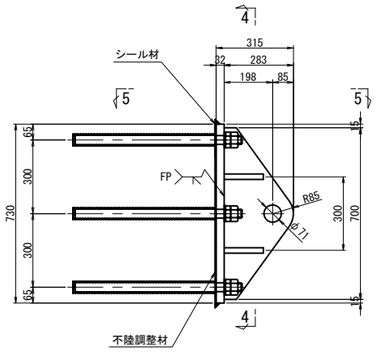
上部工ブラケット1基当り (製作数：2基)
1-BASE PL 320x28x920
2-RIB PL 447x36x890
4-RIB PL 75x22x150
4-TCB M22xL1(S10T)(2-W付)
4-TCB M22xL2(S10T)(2-W付)
4-TCB M22xL3(S10T)
4-TCB M22xL4(S10T)

ボルト	①	②	③	④
	L1	L2	L3	L4
G1桁	110	90	105	85
G4桁	105	85	100	80

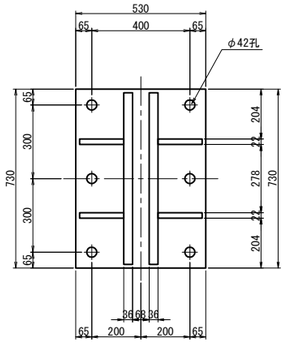
2 － 2



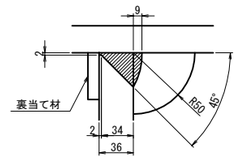
鋼製ブラケット詳細図 S=1:25



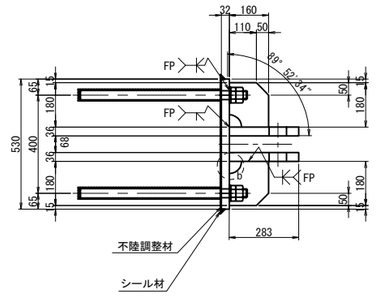
4 － 4



b部詳細図 S=1:5

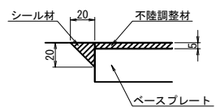


5 － 5

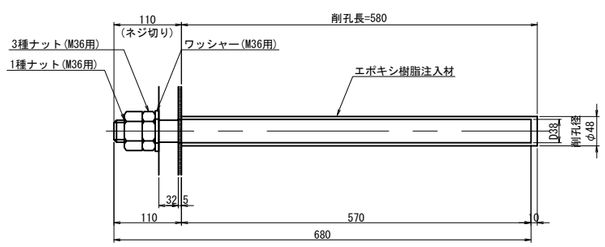


鋼製ブラケット1基当り (製作数：2基)
1-BASE PL 530x32x730
2-RIB PL 283x36x700
4-RIB PL 180x22x160

シール材詳細図 (参考図) S=1:5



アンカーボルト詳細図 S=1:10

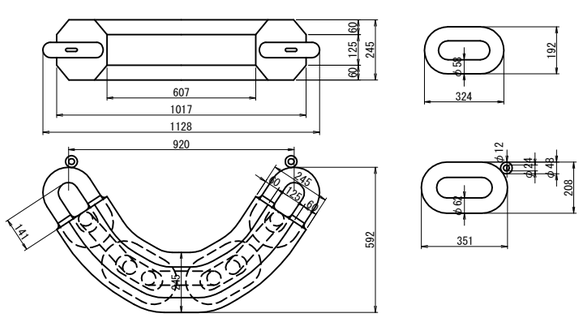


※ アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

ブラケット1基当り (製作数：2基)
6-ANCHOR BOLT D38x680(SD345)(ネジ切りM36x110)
6-NUT M36(1種)(SS400)
6-NUT M36(3種)(SS400)
6-WASHER M36 (SS400)

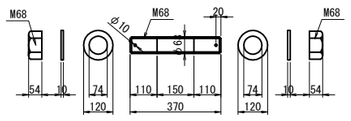
ブロック型ゴム被覆チェーン(参考図)

(7リンクワイド)



*1 調整ﾘﾝｸﾞの溶接は全周隅肉溶接とする。
*2 端末ﾘﾝｸの防錆仕様はHDZT 77とする。
*3 製品計算重量: 158.7 kg

ピン詳細図 (参考図) S=1:25



1基当り(製作数:2基)
2-R.B φ68×370(SCM435)
4-Nut M68(1種) (SS400)
4-Washer M68 (SS400)
4-割ピンφ10×100 (SUS304)

注)
1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
4. 鋼製ブラケットの全て下記の通りの溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
   HDZT 77 鋼板
   HDZT 49 アンカーボルト (ナット・ワッシャーを含む)
5. アンカーボルト孔位置は現場実測後決定のこと。
6. ⊕ 印は、トルシア形高力ボルト M22 (S10T)を示す。
   ※ 印は、トルシア形高力ボルト M22 (S10T) (2-W付)を示す。
   孔は下記の通りとする。
   既設部材 － φ24.5孔
   新設部材 － φ26.5孔
7. チェーンの長さを変更する場合は，強力チェーンのリンク数によって行い，ねじれが発生しないよう偶数倍の増減を行う。
8. チェーンおよびシャックルの材質はSCM鋼または同等材とする。
9. 「FP」の表記のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

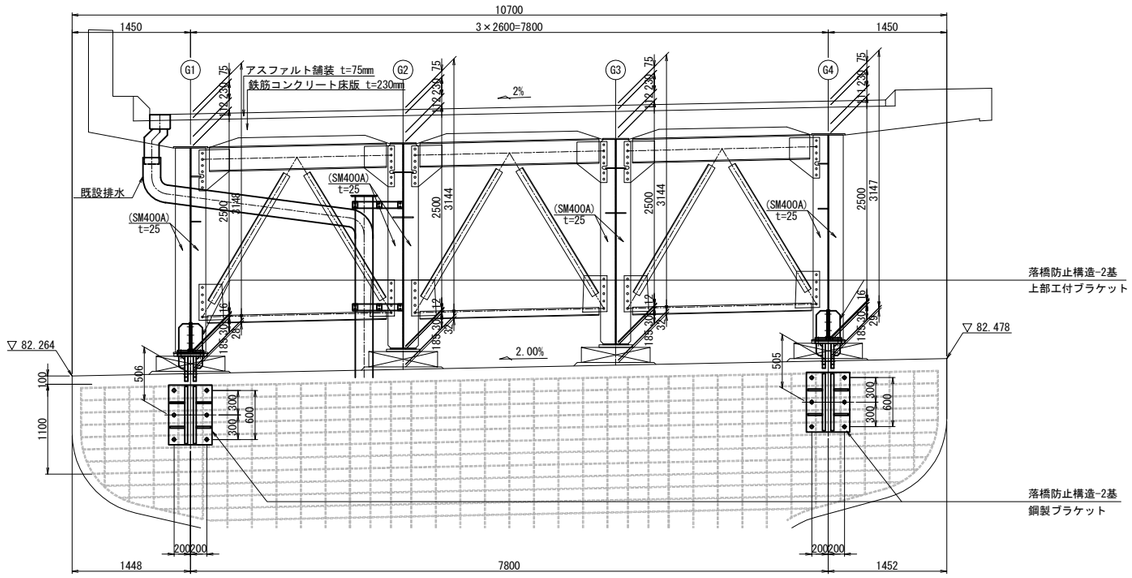
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P10橋脚(起点側) 落橋防止構造C 構造図 (上り線) (その２)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P10橋脚(起点側) 落橋防止構造C 構造図 (下り線) (その１) S=図示

落橋防止構造 C1-1175kN(493.2mm)

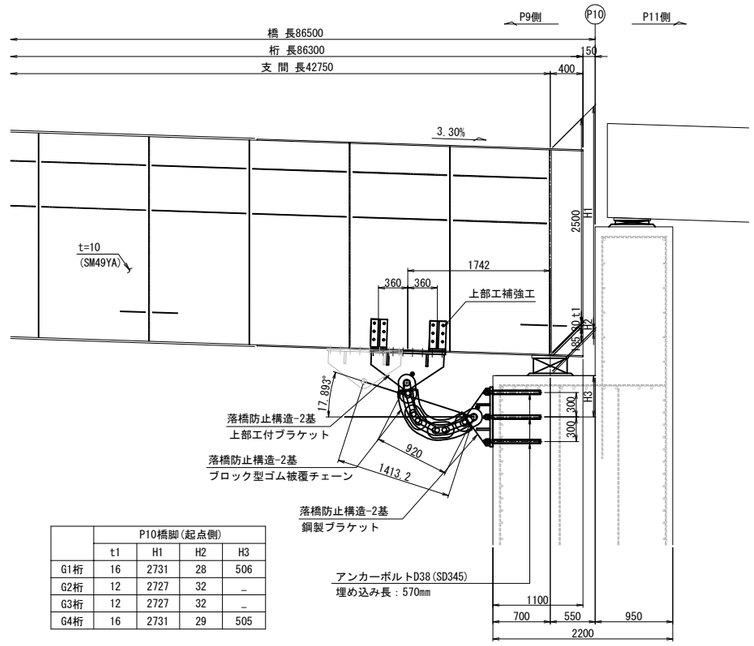
正 面 図 S=1:75

下り線



側 面 図 S=1:75

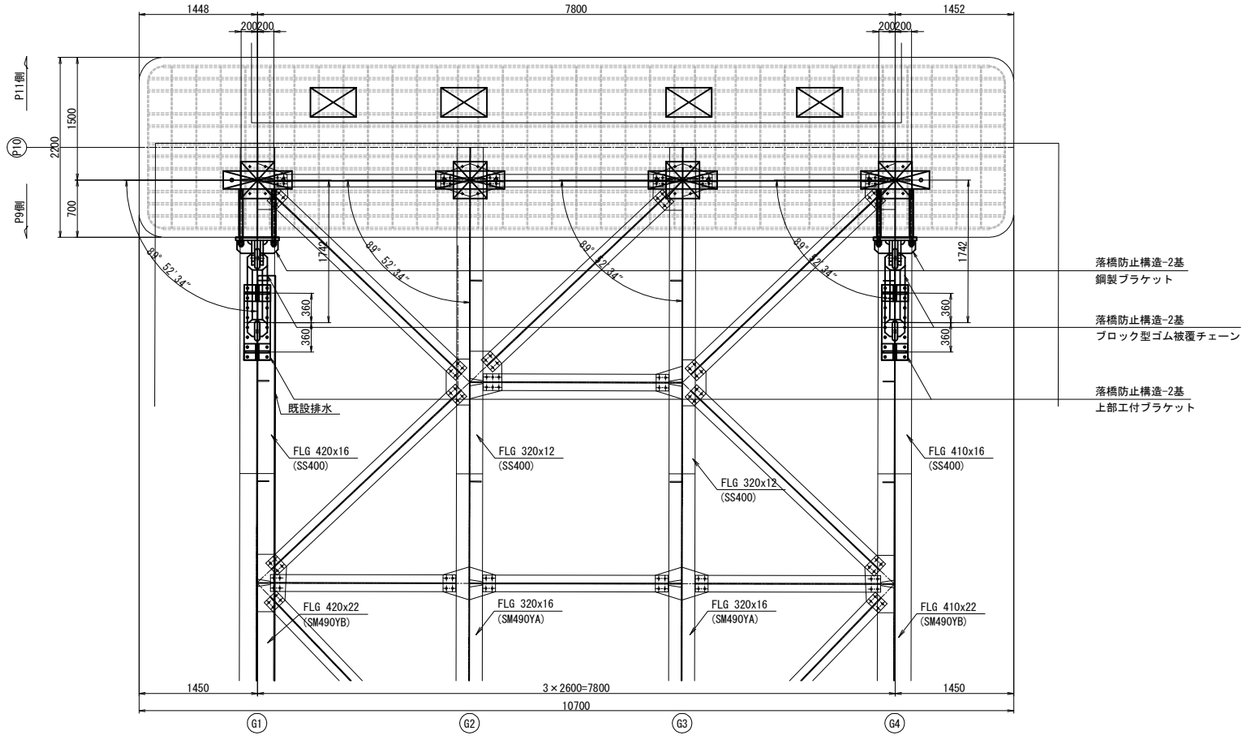
下り線



	P10橋脚(起点側)			
	t1	H1	H2	H3
G1桁	16	2731	28	506
G2桁	12	2727	32	_
G3桁	12	2727	32	_
G4桁	16	2731	29	505

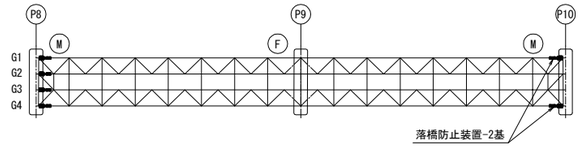
平 面 図 S=1:75

下り線



	単位	数値
死荷重反力	kN	2600
設計水平力	kN	2350
1本あたり引張力	kN	1175
設計移動量	mm	493.2

配 置 図 S=1:1000



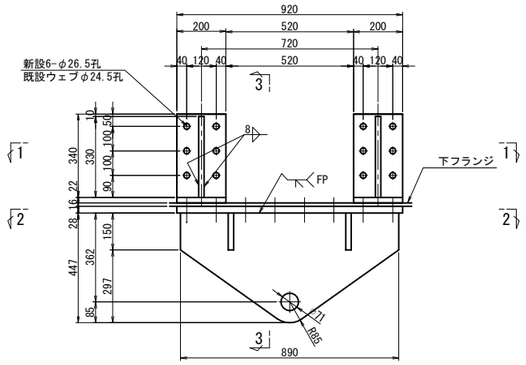
注)
1. 施工にあたっては現地計測を行い、既設構造寸法等を再確認の上、取付構成の細部を精査すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しない様に現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

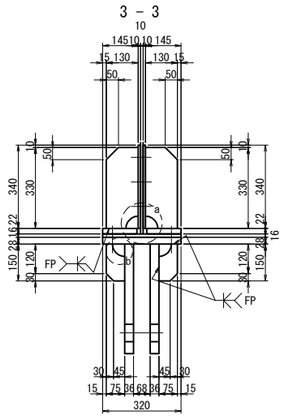
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P10橋脚(起点側) 落橋防止構造C 構造図 (下り線) (その１)
縮 尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

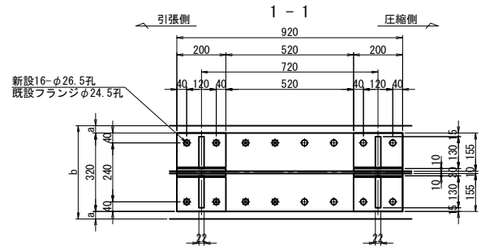
P10橋脚(起点側) 落橋防止構造C 構造図 (下り線) (その２) S=図示

落橋防止構造 C1-1175kN(493.2mm)

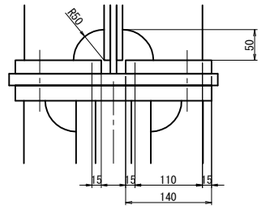
上部工付ブラケット、上部工補強工詳細図 S=1:25



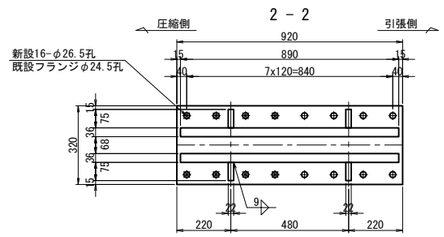




	a	b
G1桁	50	420
G4桁	45	410

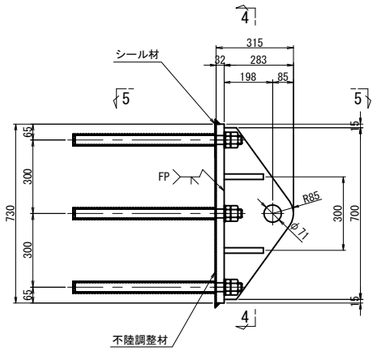


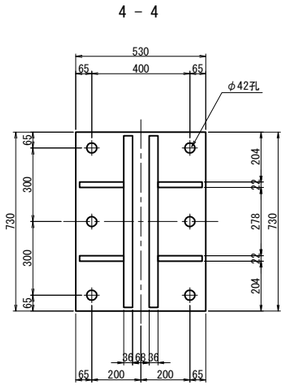
上部工補強工1基当り (製作数：2基)
4-RIB PL 130x22x330(SM400A)
4-BASE PL 200x10x340(SM400A)
4-BASE PL 140x22x200(SM400A)
12-TCB M22x65(S10T)



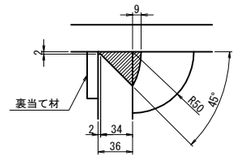
上部工ブラケット1基当り (製作数：2基)
1-BASE PL 320x28x920
2-RIB PL 447x36x890
4-RIB PL 75x22x150
4-TCB M22x110(S10T)(2-W付)
4-TCB M22x85 (S10T)(2-W付)
4-TCB M22x105(S10T)
4-TCB M22x80 (S10T)

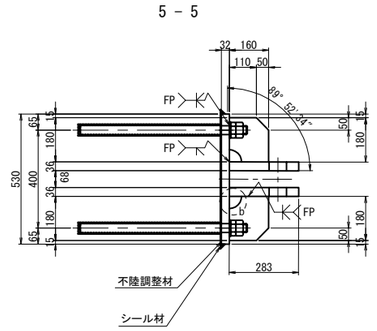
鋼製ブラケット詳細図 S=1:25





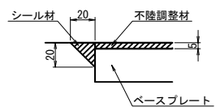
b部詳細図 S=1:5



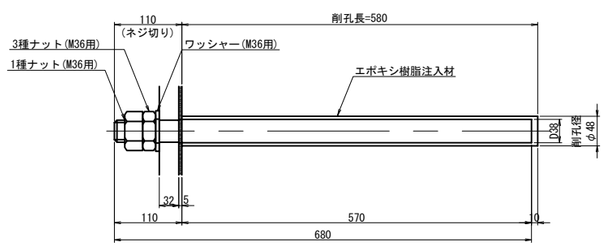


鋼製ブラケット1基当り (製作数：2基)
1-BASE PL 530x32x730
2-RIB PL 283x36x700
4-RIB PL 180x22x160

シール材詳細図 (参考図) S=1:5



アンカーボルト詳細図 S=1:10

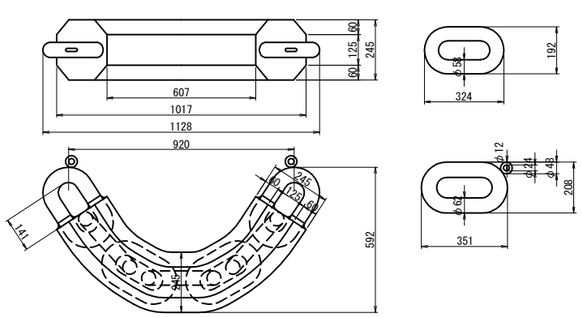


※ アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

ブラケット1基当り (製作数：2基)
6-ANCHOR BOLT D38x680(SD345)(ネジ切りM36x110)
6-NUT M36(1種)(SS400)
6-NUT M36(3種)(SS400)
6-WASHER M36 (SS400)

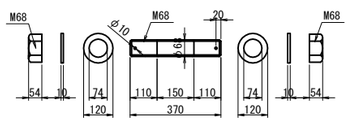
ブロック型ゴム被覆チェーン(参考図)

(7リンクワイド)



*1 調整ﾘﾝｸﾞの溶接は全周隅肉溶接とする。
*2 端末ﾘﾝｸの防錆仕様はHDZT 77とする。
*3 製品計算重量: 158.7 kg

ピン詳細図 (参考図) S=1:25



1基当り(製作数:2基)
2-R.B φ68×370(SCM435)
4-Nut M68(1種) (SS400)
4-Washer M68 (SS400)
4-割ピンφ10×100 (SUS304)

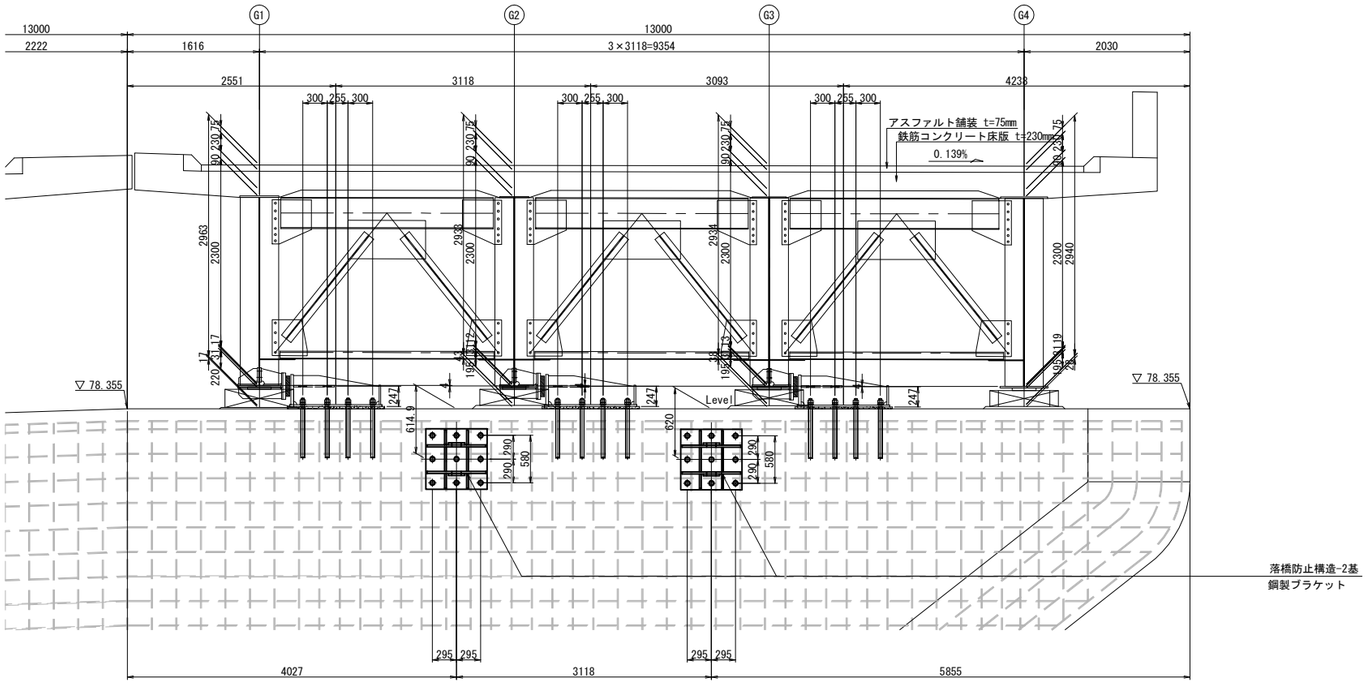
注)
1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
4. 鋼製ブラケットの全て下記の通りの溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
   HDZT 77 鋼板
   HDZT 49 アンカーボルト (ナット・ワッシャーを含む)
5. アンカーボルト孔位置は現場実測後決定のこと。
6. ⊕ 印は、トルシア形高力ボルト M22 (S10T)を示す。
   ※ 印は、トルシア形高力ボルト M22 (S10T) (2-W付)を示す。
   孔は下記の通りとする。
   既設部材 － φ24.5孔
   新設部材 － φ26.5孔
7. チェーンの長さを変更する場合は，強力チェーンのリンク数によって行い，ねじれが発生しないよう偶数倍の増減を行う。
8. チェーンおよびシャックルの材質はSCM鋼または同等材とする。
9. 「FP」の表記のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P10橋脚(起点側) 落橋防止構造C 構造図 (下り線) (その２)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

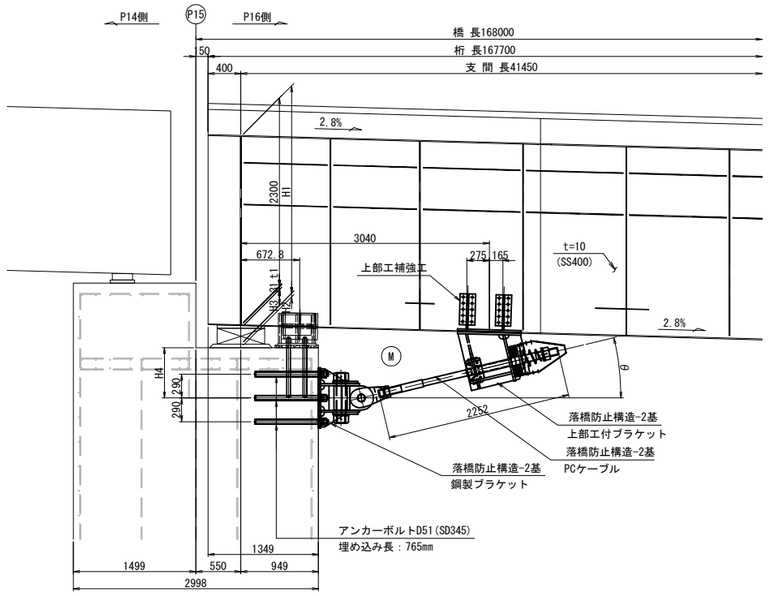
P15橋脚(終点側) 落橋防止構造P 構造図 (上り線) (その１) S=図示

落橋防止構造 P1-1875kN(250mm)

正 面 図 S=1:75

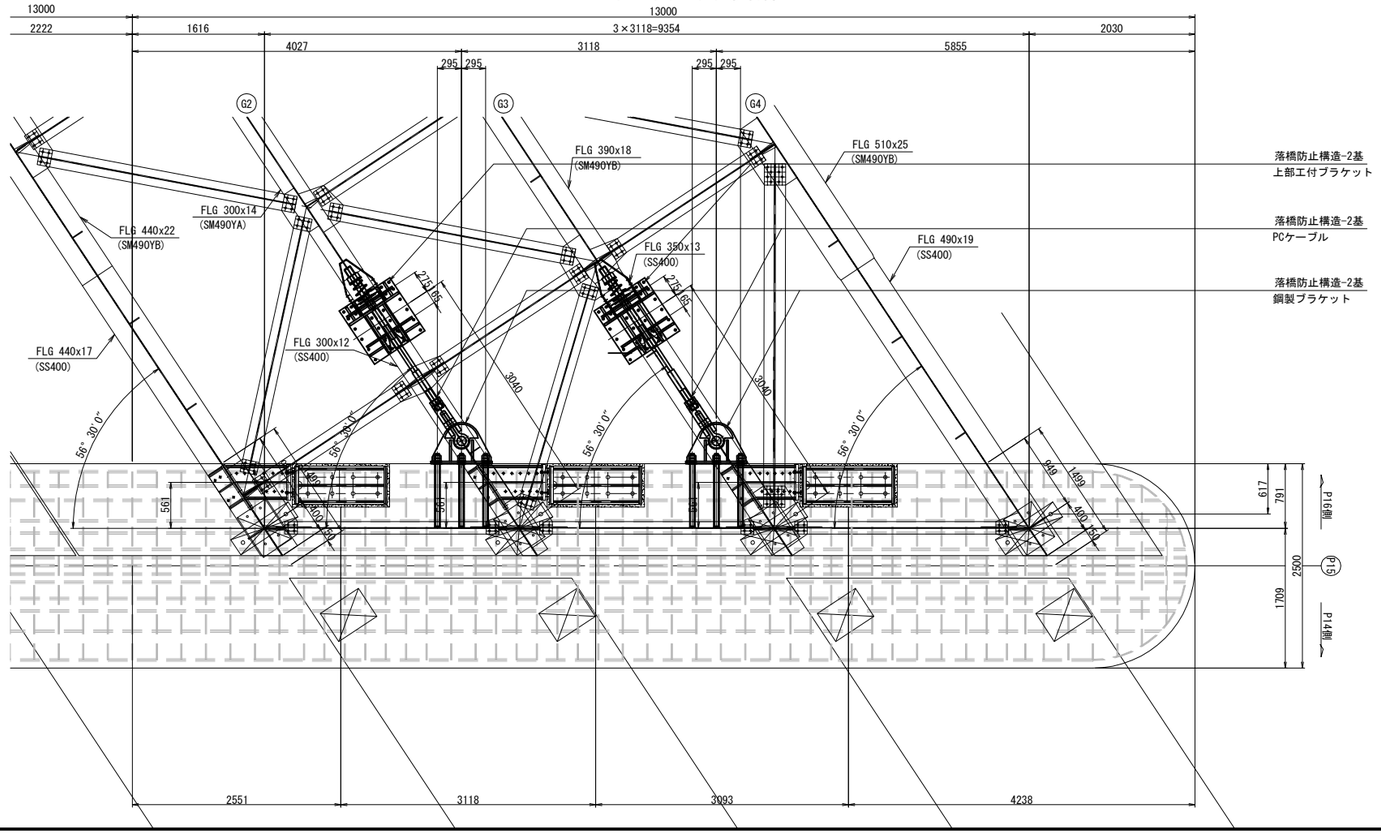


側 面 図 S=1:75

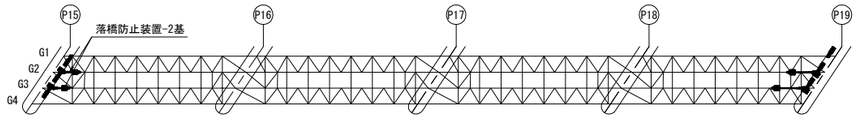


	P15橋脚					
	t1	H1	H2	H3	H4	θ
G1桁	17	2568	17	220	–	–
G2桁	12	2538	43	195	448.5	13° 25′ 58″
G3桁	13	2539	38	195	453.6	13° 25′ 43″
G4桁	19	2545	28	195	–	–

平 面 図 S=1:75



配 置 図 S=1:1000



落橋防止構造

	単位	数値
死荷重反力	kN	2500
設計水平力	kN	3750
1本あたり引張力	kN	1875
設計移動量	mm	250

注)
1. 施工にあたっては現地計測を行い、既設構造寸法等を再確認の上、取付構成の細部を精査すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しない様に現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

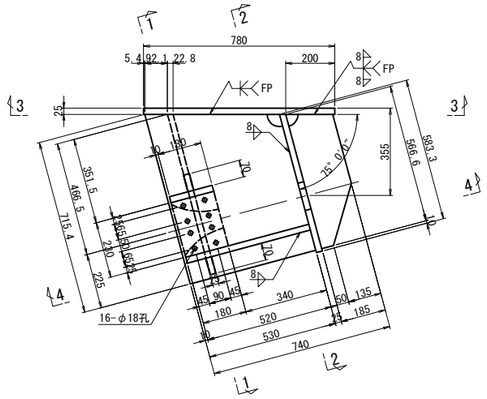
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚(終点側) 落橋防止構造P 構造図 (上り線) (その１)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P15橋脚(終点側) 落橋防止構造P 構造図 (上り線) (その２) S=図示

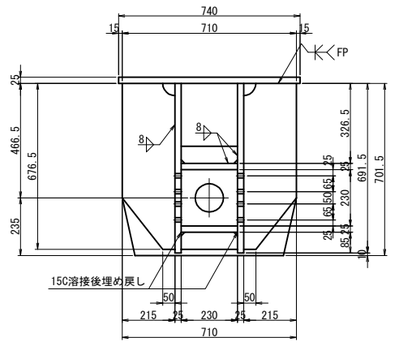
落橋防止構造 P1-1875kN(250mm)

上部工付ブラケット詳細図 S=1:25

側 面 図



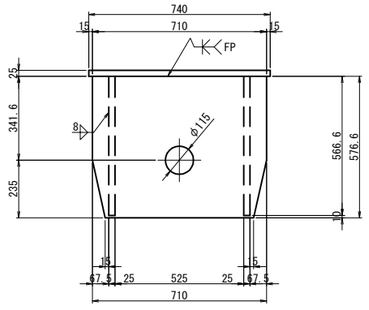
1 － 1



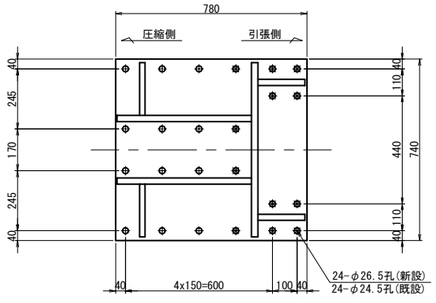
上部工ブラケット1基当り (製作数：2基)
- 2-PL 185x25x567
- 2-PL 530x25x716
- 2-PL 215x22x677
- 2-PL 70x25x230
- 1-PL 230x25x520
- 1-PL 180x25x230
- 1-PL 584x25x710
- 1-PL 740x25x780
- 12-TCB M22x100<105>(S10T) (2-W付)
- 12-TCB M22x 95(S10T)

※＜ ＞内寸法は、G3桁を示す。

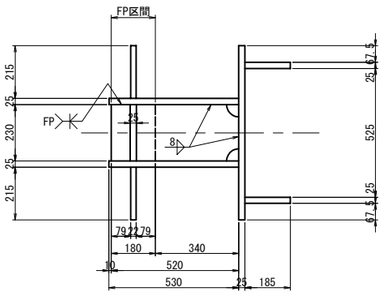
2 － 2



3 － 3

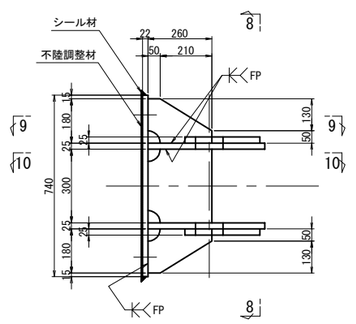


4 － 4

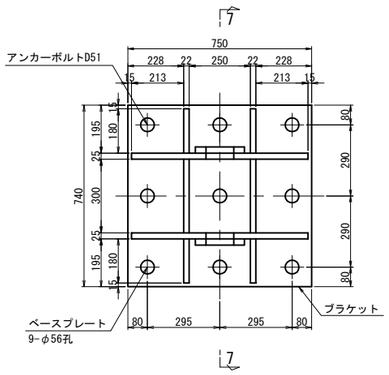


鋼製ブラケット詳細図 S=1:25

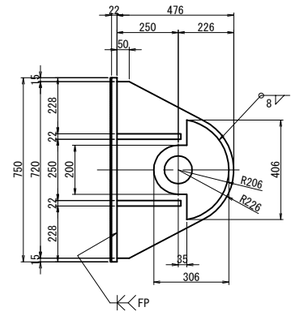
7 － 7



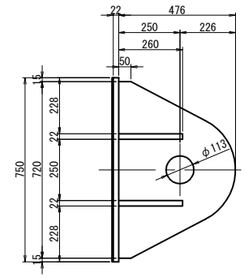
8 － 8



9 － 9

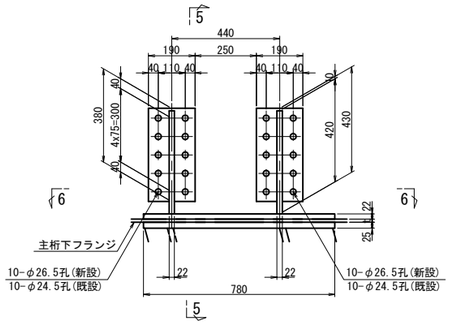


10 － 10

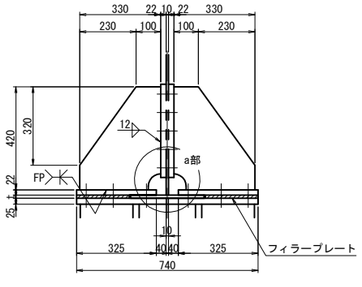


上部工補強工詳細図 S=1:25

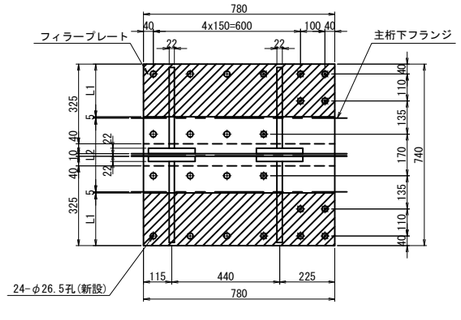
側 面 図



5 － 5



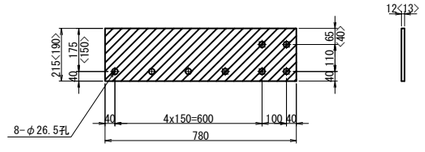
6 － 6



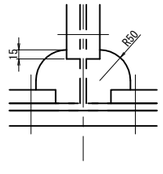
上部工補強工1基当り (製作数：2基)
- 2-PL 325x22x780(SM400A)
- 4-PL 330x22x420(SM400A)
- 4-PL 190x22x380(SM400A)
- 20-TCB M22x90(S10T)
- 2-Fill PL Bxtx780(SS400)

	t	L1	L2	B
G2桁	12	215	300	215
G3桁	13	190	350	190

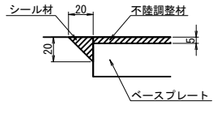
フィラープレート詳細図 S=1:25



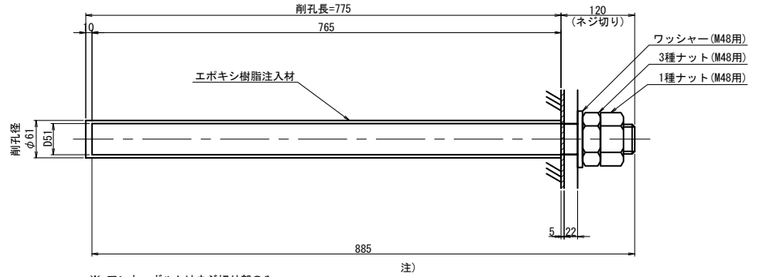
a部詳細図 S=1:10



シール材詳細図（参考図） S=1:5



アンカーボルト詳細図 S=1:10



※ アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

鋼製ブラケット1基当り (製作数：2基)
- 2-PL 306x25x406
- 2-PL 476x25x720
- 4-PL 260x22x180
- 2-PL 260x22x300
- 1-PL 740x22x750
- 9-Anc Bolt D51x885(SD345)
- 9-1種 Nut M48用 (SS400)
- 9-3種 Nut M48用 (SS400)
- 9-Washer M48用 (SS400)

注)
1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
4. 鋼製ブラケットの全て下記の通りの溶融亜鉛めっき (JIS H 8641) とする。
   HDZT 77 鋼板
   HDZT 49 アンカーボルト (ナット・ワッシャーを含む)
5. アンカーボルト孔位置は現場実測後決定のこと。
6. ⊕ 印は、トルシア形高力ボルト M22 (S10T) を示す。
   ※ 印は、トルシア形高力ボルト M22 (S10T) (2-W付) を示す。
   孔は下記の通りとする。
   既設部材 － φ24.5孔
   新設部材 － φ26.5孔
7. 「FP」の表記のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事				
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚(終点側) 落橋防止構造P 構造図 (上り線) (その２)			
縮 尺	図示	図面番号	/	
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所			

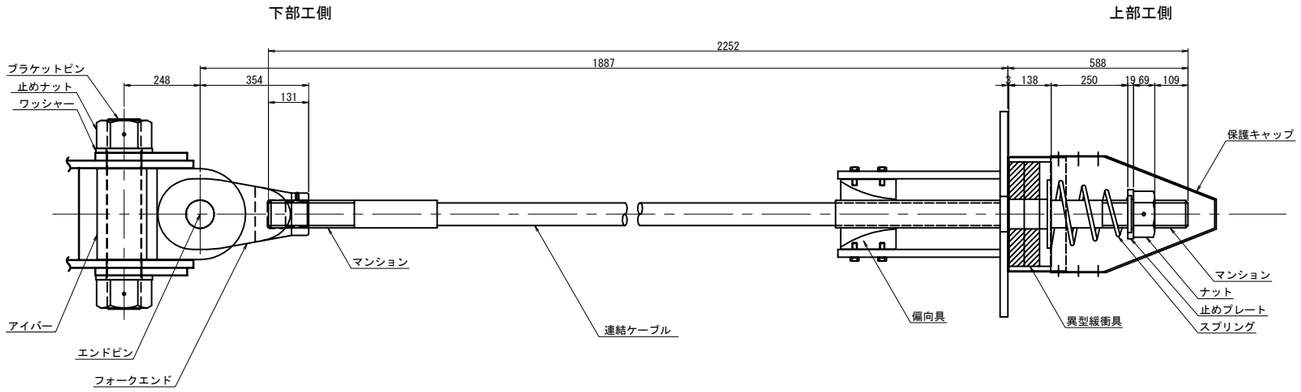
P15橋脚(終点側) 落橋防止構造P 構造図 (上り線) (その3) S=1:20

落橋防止構造 P1-1875kN(250mm)
取付詳細図及び部品図(参考図)

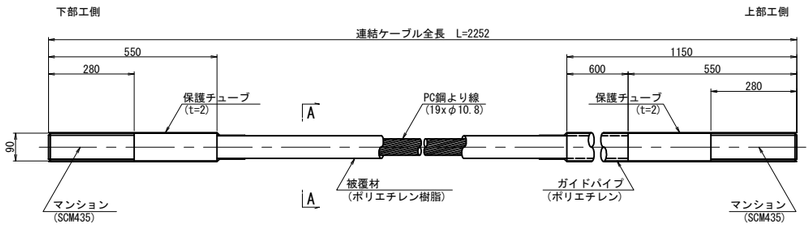
材 料 表 (落橋防止構造1組当たり) 全2組

名　　称	規　　格	単位	数量	摘　　要
連結ケーブル	1938kN型 L=2252mm	本	1	PC鋼より線,ポリエチレン被覆
(マンション)	1938kN型用 標準	個	2	SCM435,ネジきり標準 〈ケーブルに組込〉
(ガイドパイプ)	1938kN型用 600mm	本	1	ポリエチレン 〈ケーブルに組込〉
ナット	1938kN型用	個	1	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)
止めプレート	1938kN型用	個	1	SS400:亜鉛めっき(HDZT77)
スプリング	1938kN型用 L=400	個	1	SW-C:亜鉛めっき,クロメート処理
異型緩衝具	1938kN型用	個	1	SS400:亜鉛めっき(HDZT77) + 合成ゴム
偏向具	1938kN型用	個	1	ポリエチレン
(取付ボルト)	M16x55 1W付	本	16	SS400相当品:亜鉛めっき(HDZT49) 接着剤付
保護キャップ	1938kN型用	組	1	ポリエチレン:6-止めビス付
ブラケットピン	1938kN型用	本	1	SCM435,ダクロダイズド処理,DMコート
止めナット	1938kN型用	個	2	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)
ワッシャー	1938kN型用	個	2	SS400,亜鉛めっき(HDZT77)
アイバー	1938kN型用	個	1	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)
フォークエンド	1938kN型用	個	1	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)
エンドピン (ピン)	1938kN型用	本	1	SCM435,ダクロダイズド処理,DMコート
(止めプレート)	1938kN型用	個	1	SS400,亜鉛めっき(HDZT77)

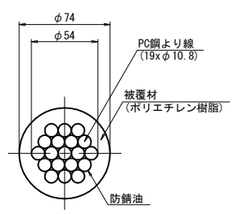
取付詳細図



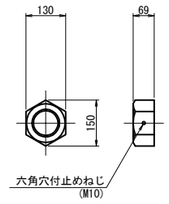
連結ケーブル



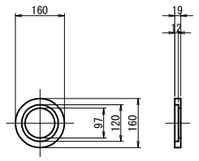
A-A断面図 S=1:5



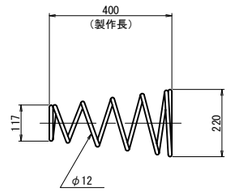
ナット (S45C:亜鉛めっき)



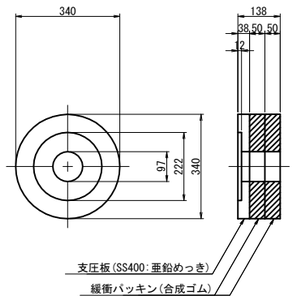
止めプレート (SS400:亜鉛めっき)



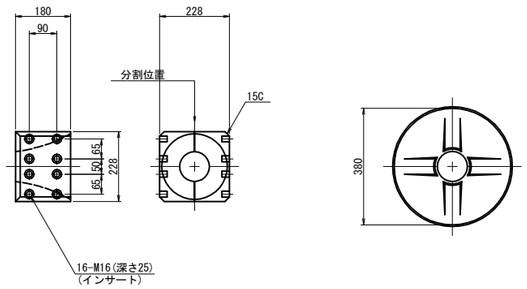
スプリング (SW-C:亜鉛めっき,クロメート処理)



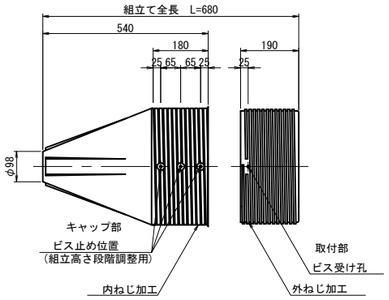
異型緩衝具 (支圧板+緩衝パッキン)



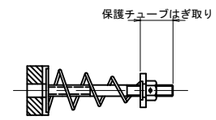
偏 向 具 (ポリエチレン)



保護キャップ (ポリエチレン)

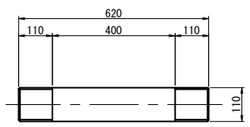


マンション端部処理

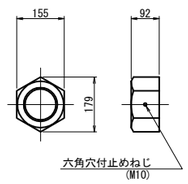


※取付前に保護チューブをはぎ取る。
取付後はマンション先端ねじ部に
防錆処理をおこなうこと。

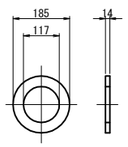
ブラケットピン (SCM435:DMコート)



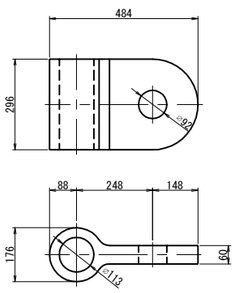
止めナット (S45C:亜鉛めっき)



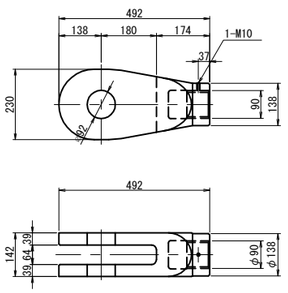
ワッシャー (SS400:亜鉛めっき)



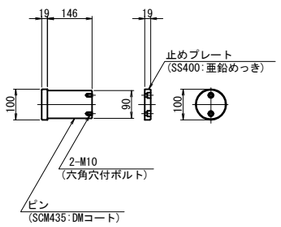
アイバー (S45C:亜鉛めっき)



フォークエンド (S45C:亜鉛めっき)



エンドピン (ピン+止めプレート)



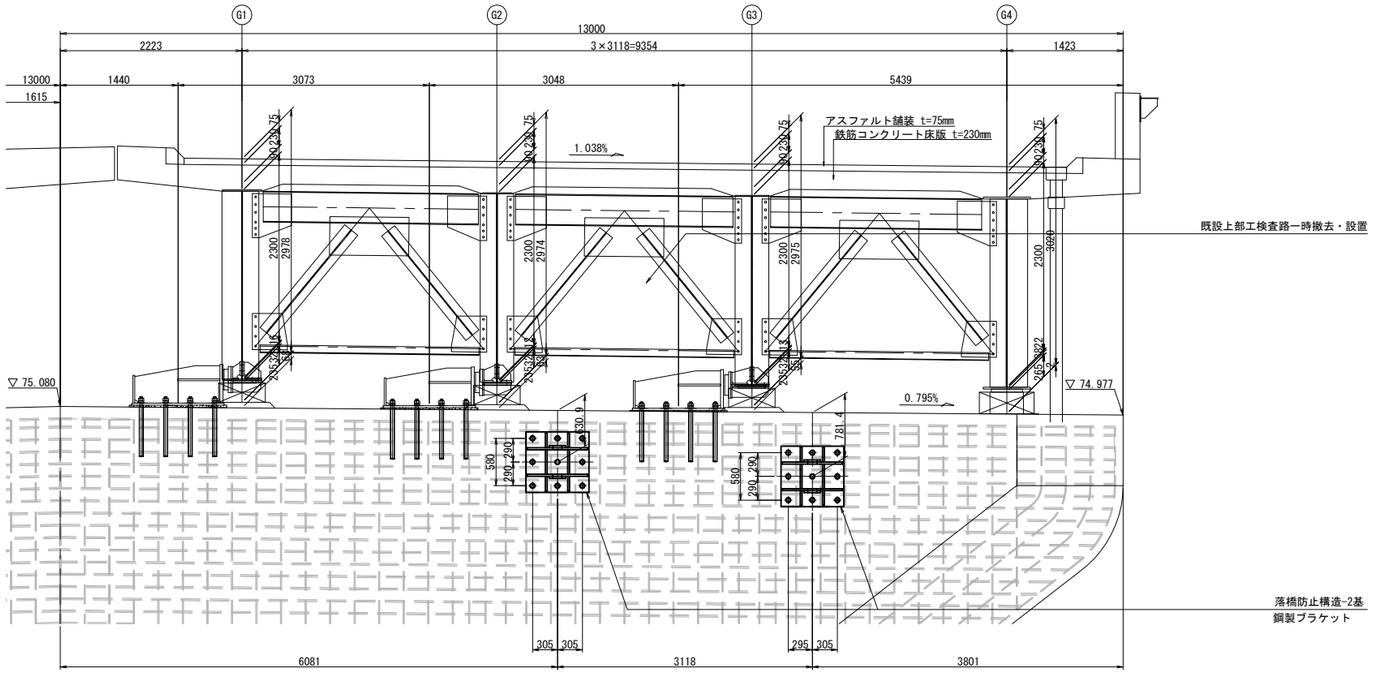
注)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間
距離を確認のうえ、おこなうこと。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚(終点側) 落橋防止構造P 構造図 (上り線) (その3)		
縮　尺	1:20	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

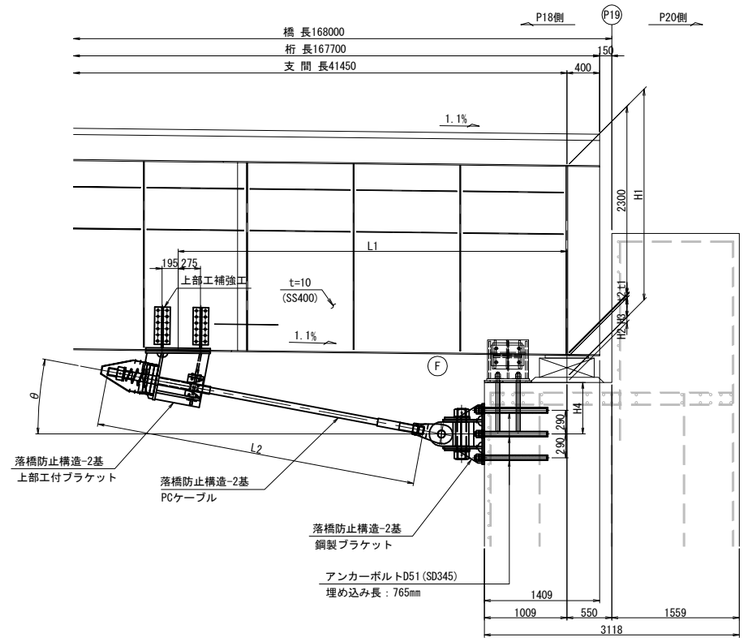
P19橋脚(起点側) 落橋防止構造P 構造図 (上り線) (その１) S=図示

落橋防止構造 P1-2025kN(250mm)

正 面 図 S=1:75

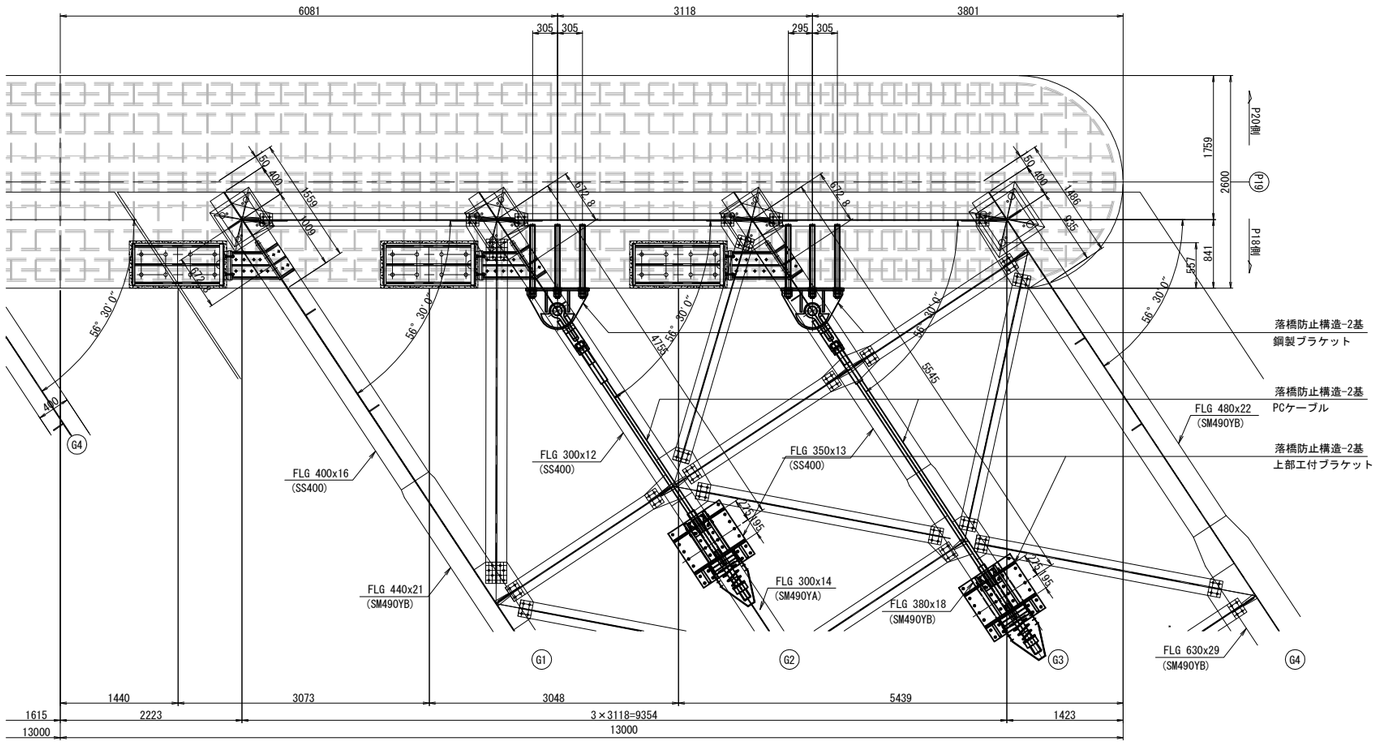


側 面 図 S=1:75

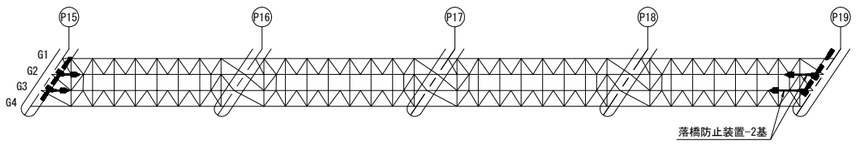


	P19橋脚								
	t1	t2	H1	H2	H3	H4	L1	L2	θ
G1桁	16	32	2583	68	235	–	–	–	–
G2桁	12	32	2579	63	235	630.9	4755	3927	10° 39′ 33″
G3桁	13	32	2580	55	235	781.4	5545	4731	10° 39′ 49″
G4桁	22	38	2625	2	265	–	–	–	–

平 面 図 S=1:75



配 置 図 S=1:1000



注）
1. 施工にあたっては現地計測を行い、既設構造寸法等を再確認の上、取付構成の細部を精査すること。
2. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しない様に現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

落橋防止構造

	単位	数値
死荷重反力	kN	2700
設計水平力	kN	4050
1本あたり引張力	kN	2025
設計移動量	mm	250

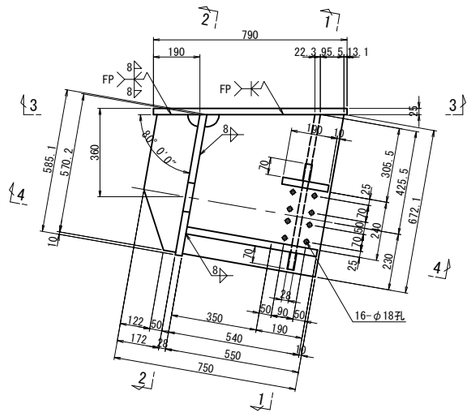
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚(起点側) 落橋防止構造P 構造図 (上り線) (その１)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P19橋脚(起点側) 落橋防止構造P 構造図（上り線）（その２）S=図示

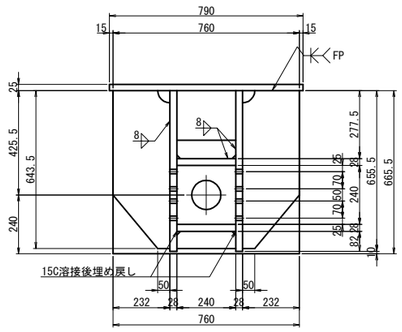
落橋防止構造 P1-2025kN(250mm)

上部工付ブラケット詳細図 S=1:25

側 面 図



1 － 1

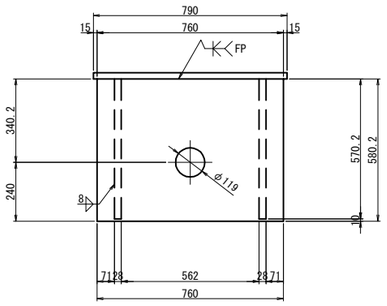


上部工ブラケット1基当り（製作数：2基）

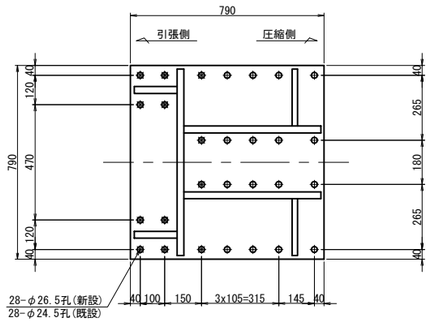
- 2-PL 172x28x571
- 2-PL 550x28x673
- 2-PL 232x22x644
- 2-PL 70x28x240
- 1-PL 240x28x540
- 1-PL 190x28x240
- 1-PL 586x28x760
- 1-PL 790x25x790
- 12-TCB M22x105<110>(S10T)(2-W付)
- 16-TCB M22x100(S10T)

※＜ ＞内寸法は、G3桁を示す。

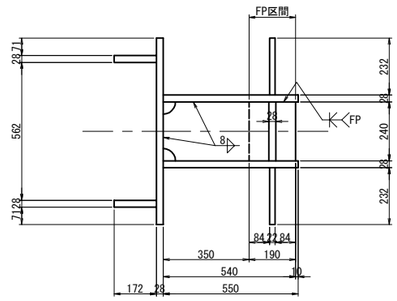
2 － 2



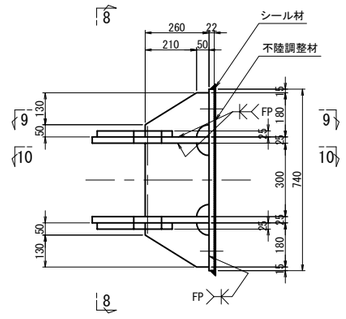
3 － 3



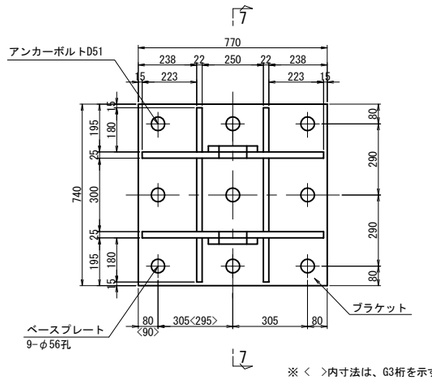
4 － 4



7 － 7

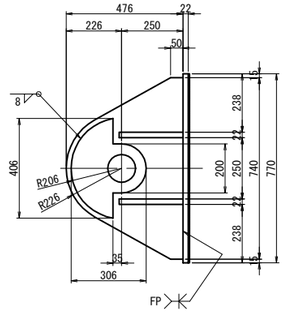


8 － 8

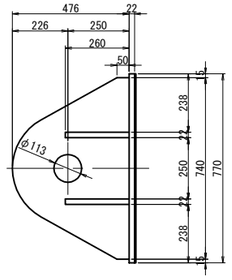


※＜ ＞内寸法は、G3桁を示す。

9 － 9

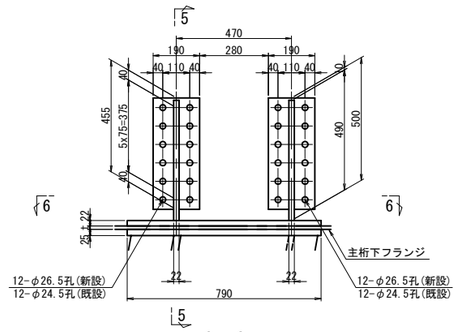


10 － 10

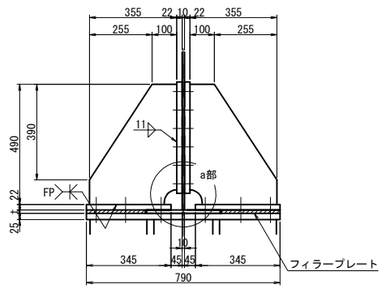


上部工補強工詳細図 S=1:25

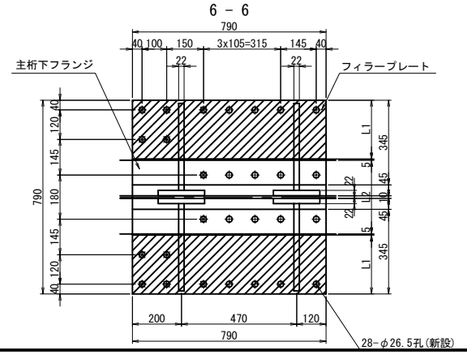
側 面 図



5 － 5



6 － 6

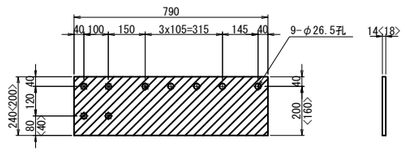


上部工補強工1基当り（製作数：2基）

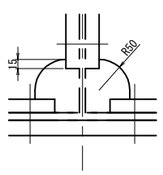
- 2-PL 345x22x790(SM400A)
- 4-PL 355x22x490(SM400A)
- 4-PL 190x22x455(SM400A)
- 24-TCB M22x90(S10T)
- 2-Fill PL Bxtx790(SS400)

	t	L1	L2	B
G2桁	14	240	300	240
G3桁	18	200	380	200

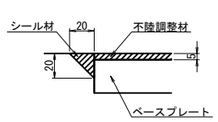
フィラープレート詳細図 S=1:25



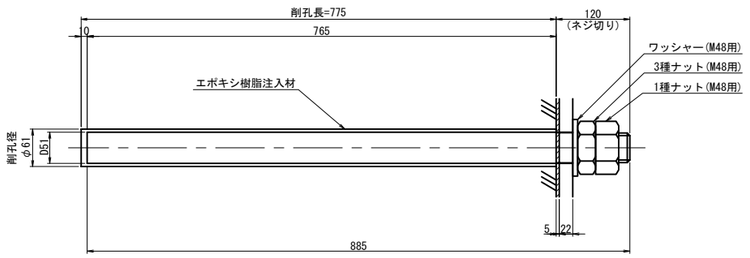
a部詳細図 S=1:10



シール材詳細図（参考図） S=1:5



アンカーボルト詳細図 S=1:10



※ アンカーボルトはネジ切り部のみ
溶融亜鉛めっきを施すものとする。

鋼製ブラケット1基当り（製作数：2基）

- 2-PL 306x25x406
- 2-PL 476x25x740
- 4-PL 260x22x180
- 2-PL 260x22x300
- 1-PL 740x22x770
- 9-Anc Bolt D51x885(SD345)
- 9-1種 Nut M48用 (SS400)
- 9-3種 Nut M48用 (SS400)
- 9-Washer M48用 (SS400)

注）

1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
4. 鋼製ブラケットの全て下記の通りの溶融亜鉛めっき（JIS H 8641）とする。
   HDZT 77 鋼板
   HDZT 49 アンカーボルト（ナット・ワッシャーを含む）
5. アンカーボルト孔位置は現場実測後決定のこと。
6. ⊕ 印は、トルシア形高力ボルト M22（S10T)を示す。
   ❋ 印は、トルシア形高力ボルト M22（S10T）(2-W付)を示す。
   孔は下記の通りとする。
   既設部材 － φ24.5孔
   新設部材 － φ26.5孔
7. 「FP」の表記のある箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚(起点側) 落橋防止構造P 構造図（上り線）（その２）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P19橋脚(起点側) 落橋防止構造P 構造図 (上り線) (その3) S=1:20

落橋防止構造 P1-2025kN(250mm)
取付詳細図及び部品図(参考図)

材 料 表 (落橋防止構造1組当たり)

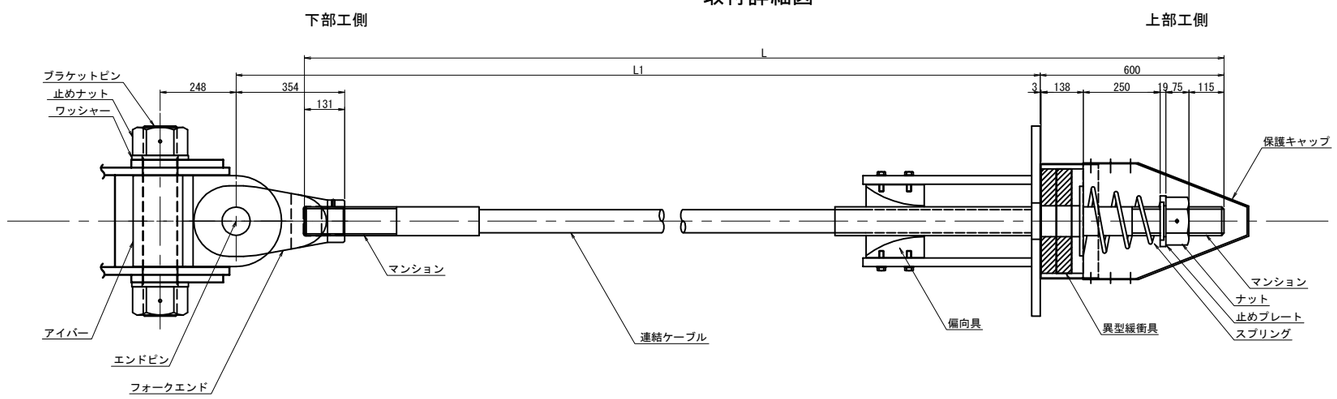
全2組

名　　称	規　　格	単位	数量	摘　　要
連結ケーブル	2242kN型 L	本	1	PC鋼より線,ポリエチレン被覆
(マンション)	2242kN型用 標準	個	2	SCM435,ネジきり標準 〈ケーブルに組込〉
(ガイドパイプ)	2242kN型用 700mm	本	1	ポリエチレン 〈ケーブルに組込〉
ナット	2242kN型用	個	1	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)
止めプレート	2242kN型用	個	1	SS400:亜鉛めっき(HDZT77)
スプリング	2242kN型用 L=400	個	1	SW-C:亜鉛めっき,クロメート処理
異型緩衝具	2242kN型用	個	1	SS400:亜鉛めっき(HDZT77) + 合成ゴム
偏向具	2242kN型用	個	1	ポリエチレン
(取付ボルト)	M16x55 1W付	本	16	SS400相当品:亜鉛めっき(HDZT49) 接着剤付
保護キャップ	2242kN型用	組	1	ポリエチレン:6-止めビス付
ブラケットピン	2242kN型用	本	1	SCM435,ダクロダイズド処理,DMコート
止めナット	2242kN型用	個	2	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)
ワッシャー	2242kN型用	個	2	SS400,亜鉛めっき(HDZT77)
アイバー	2242kN型用	個	1	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)
フォークエンド	2242kN型用	個	1	S45C,亜鉛めっき(HDZT77)
エンドピン (ピン)	2242kN型用	本	1	SCM435,ダクロダイズド処理,DMコート
(止めプレート)	2242kN型用	個	1	SS400,亜鉛めっき(HDZT77)

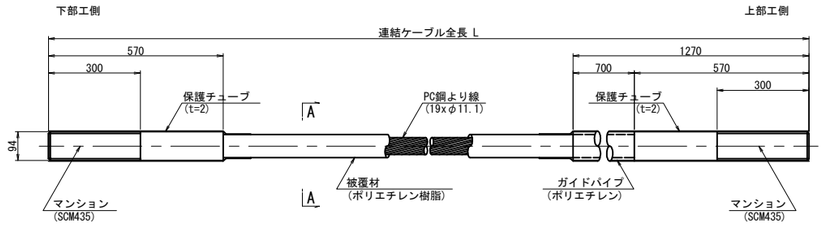
寸法表

	L1	L
G2	3550	3927
G3	4354	4731

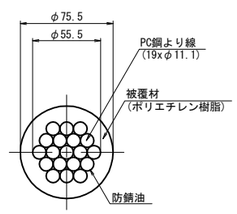
取付詳細図



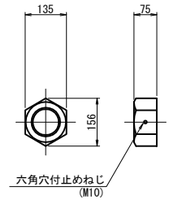
連結ケーブル



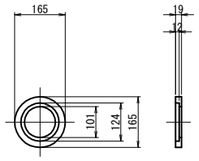
A-A断面図 S=1:5



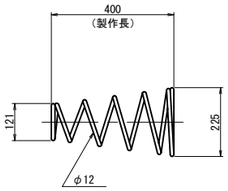
ナット (S45C:亜鉛めっき)



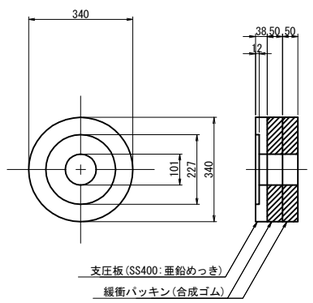
止めプレート (SS400:亜鉛めっき)



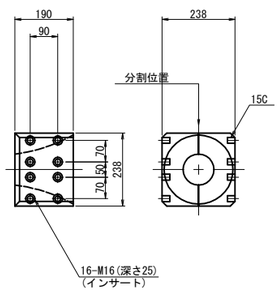
スプリング (SW-C:亜鉛めっき,クロメート処理)

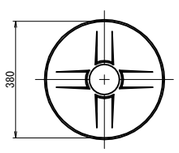


異型緩衝具 (支圧板+緩衝パッキン)

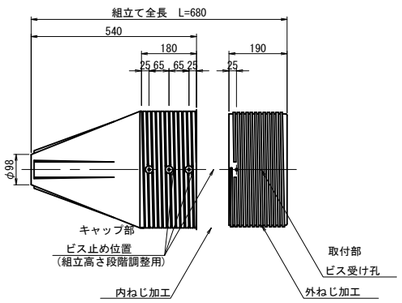


偏 向 具 (ポリエチレン)

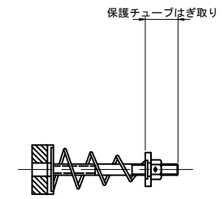




保護キャップ (ポリエチレン)

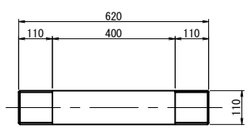


マンション端部処理

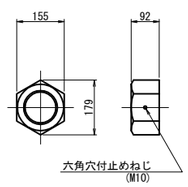


※取付前に保護チューブをはぎ取る。
取付後はマンション先端ねじ部に
防錆処理をおこなうこと。

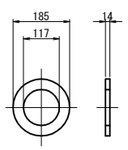
ブラケットピン (SCM435:DMコート)



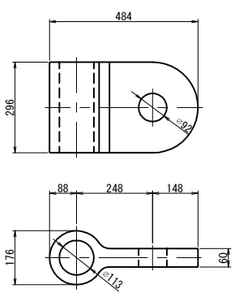
止めナット (S45C:亜鉛めっき)



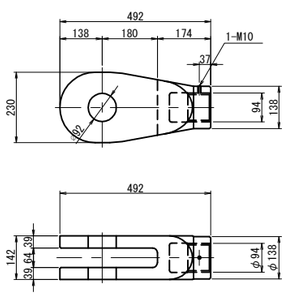
ワッシャー (SS400:亜鉛めっき)



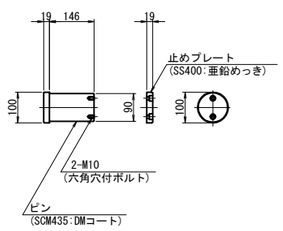
アイバー (S45C:亜鉛めっき)



フォークエンド (S45C:亜鉛めっき)



エンドピン (ピン+止めプレート)

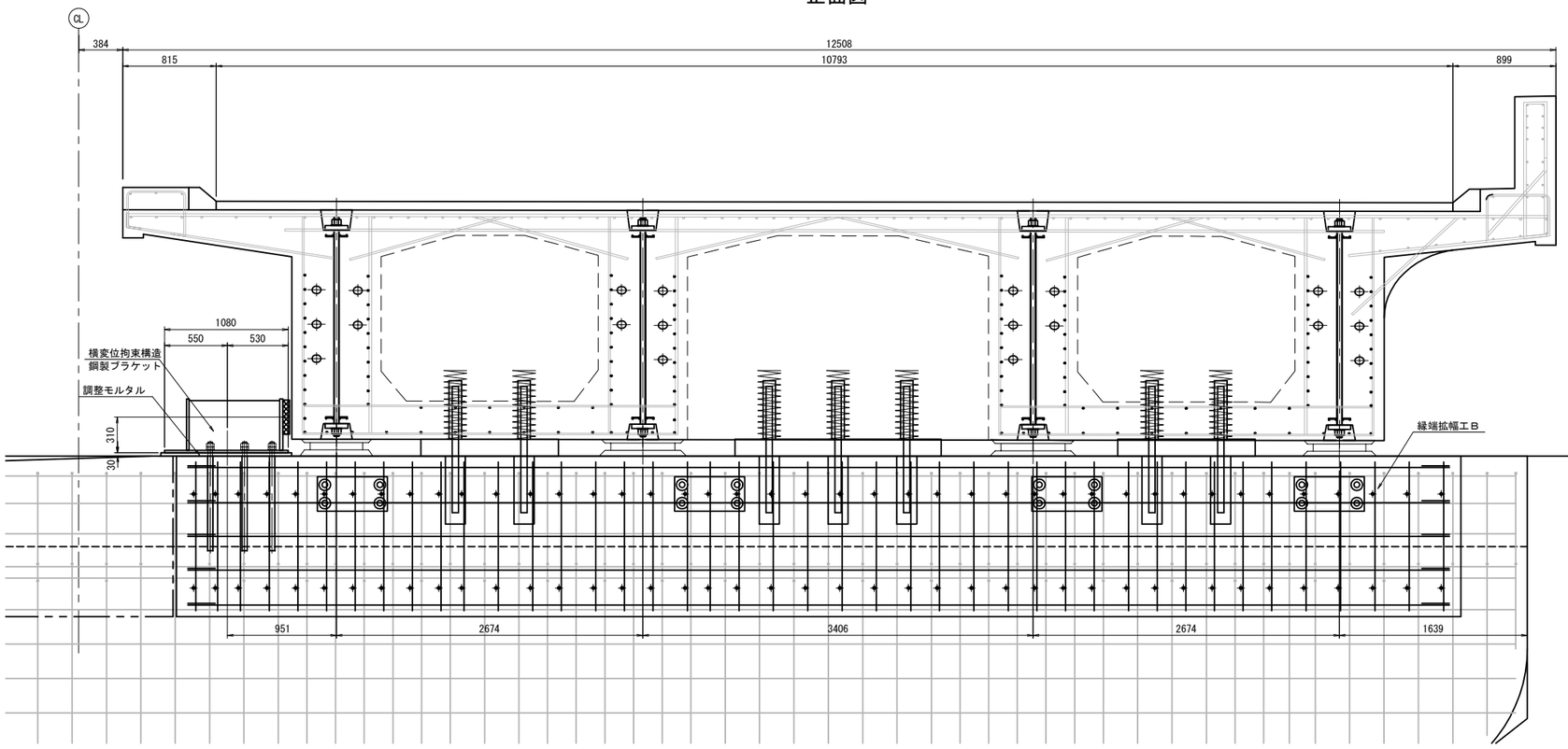


注)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間
距離を確認のうえ、おこなうこと。

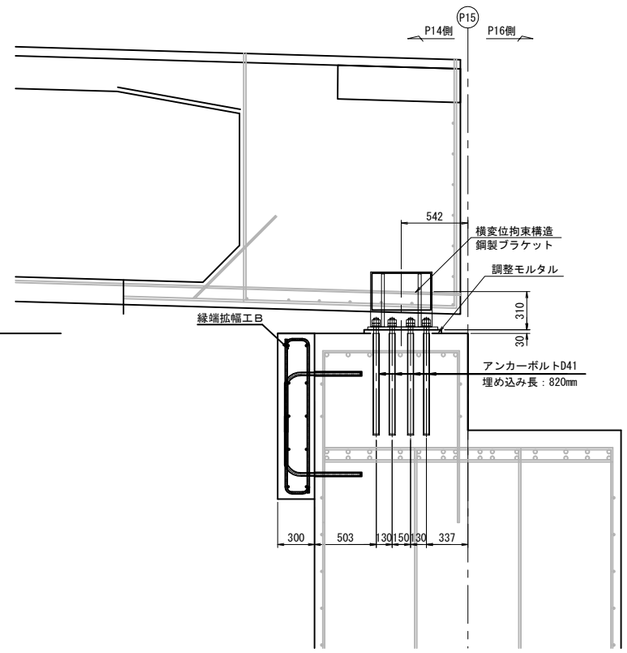
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚(起点側) 落橋防止構造P 構造図 (上り線) (その3)		
縮　尺	1:20	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P15橋脚(起点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その１) S=1:50

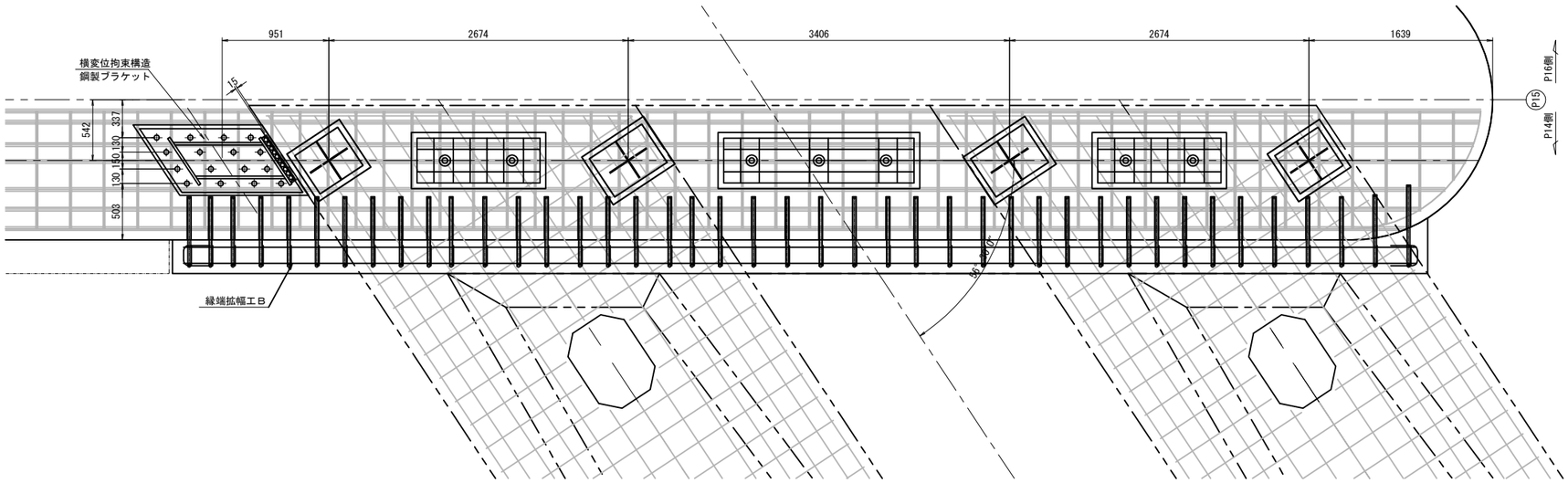
正面図



側面図



平面図



	単位	数値
死荷重反力	kN	2400
設計水平力	kN	1800

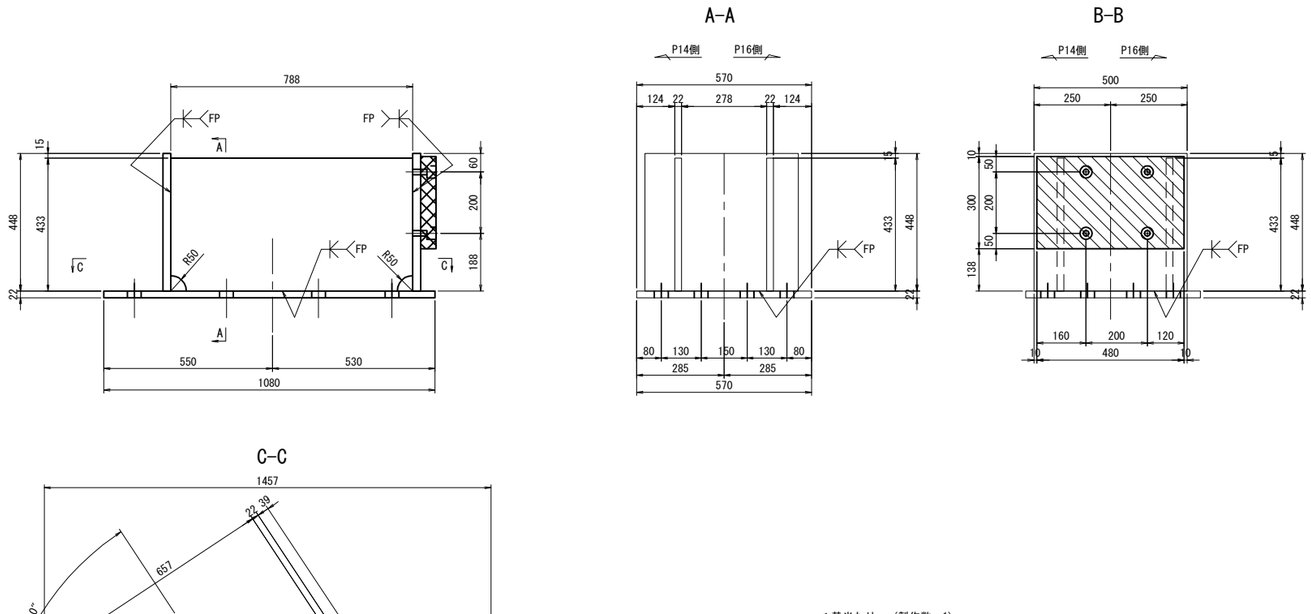
注）

1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべてしゅん功図面を基に作図を行なっている。
2. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
3. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しない様に現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚(起点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その１)		
縮尺	1:50	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

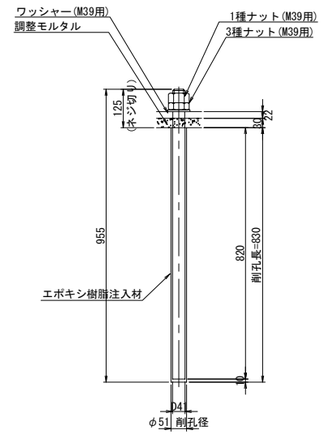
P15橋脚(起点側) 横変位拘束構造M 構造図（上り線）（その２）S=図示

鋼製ブラケット S=1:20



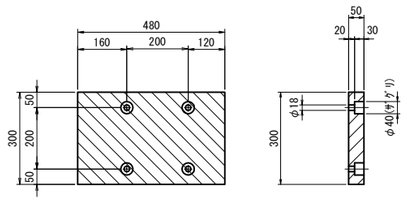
1基当たり （製作数：1）
1-Base PL 570×22×1457(SM400A)
2-FLG PL 500×22×448(SM400A)
2-WEB PL 803×22×433(SM400A)
16-アンカーボルト D41×955(SD345)
16-1種、3種ナット、ワッシャー M39(SS400)

アンカーボルト詳細図 S=1:20



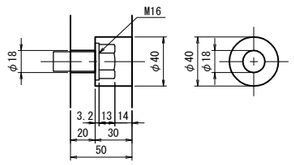
モルタル詳細図 S=1:20

緩衝材詳細図 S=1:20



1基当り(製作数:1)
1-緩衝材 300x50x480(クロロプレンゴム)
4-止めﾎﾞﾙﾄ M16x70(1-Uナット、2-W) (SUS304)

座グリ詳細図 S=1:5

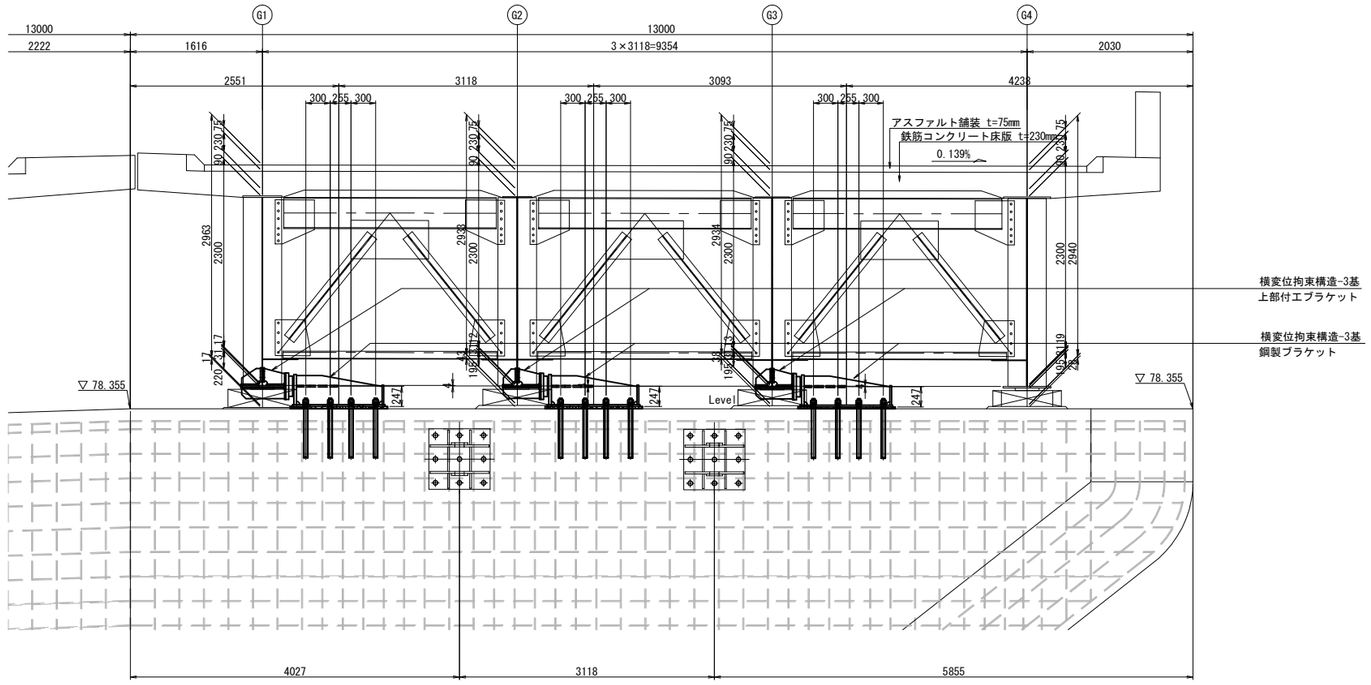


注）
1．ブラケットの製作は、現地調査の上最終決定のこと。
2．特記なき材質はSM400Aとする。
3．特記なきスカーラップは全てR50とする。
4．鋼製ブラケット、およびアンカーボルトネジ切り部は、
下記の通り溶融亜鉛めっき(JIS H 8641)とする。
HDZT 77 鋼板
HDZT 49 アンカーボルト、ナット、ワッシャー
5．「FP」の表記の箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

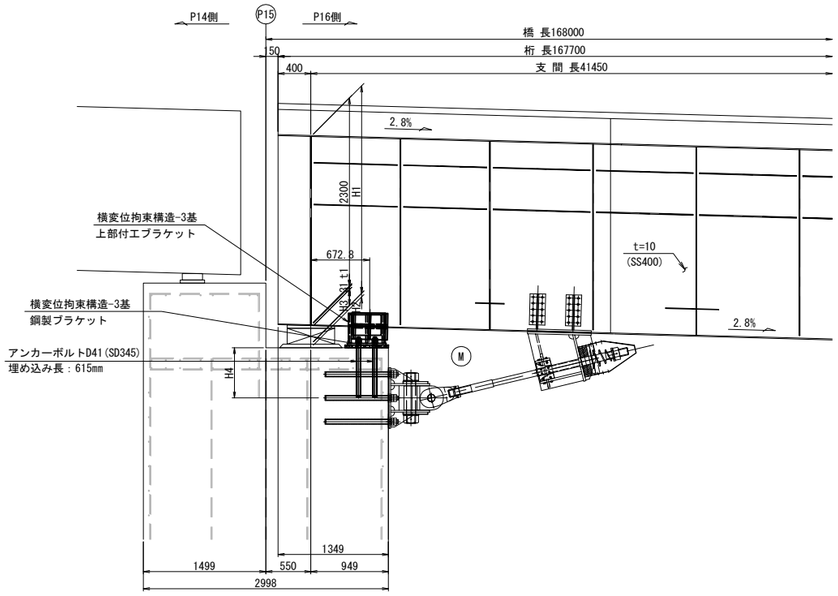
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚(起点側) 横変位拘束構造M 構造図（上り線）（その２）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P15橋脚(終点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その１) S=図示

正 面 図 S=1:75

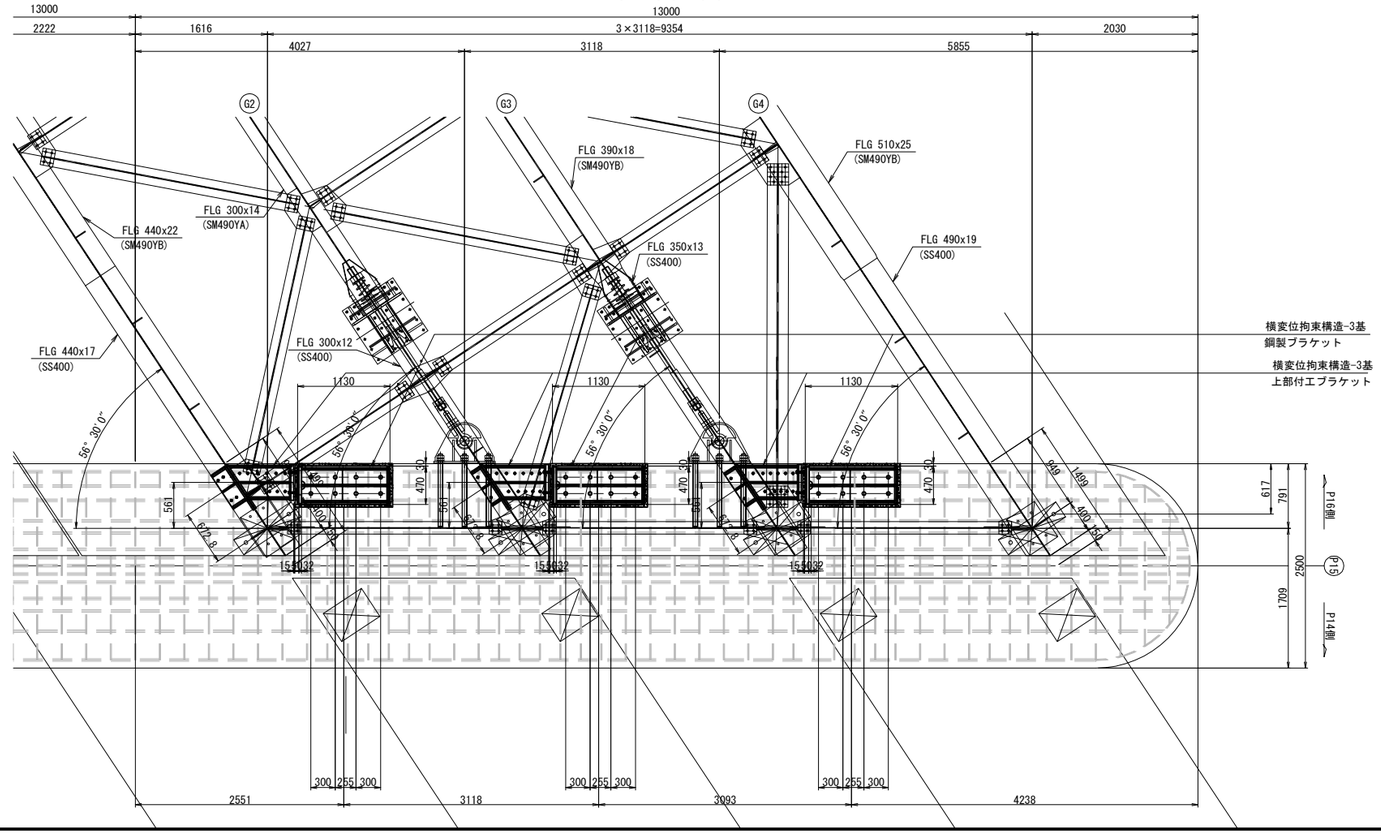


側 面 図 S=1:75

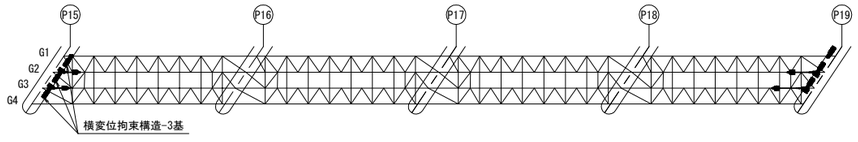


	P15橋脚					
	t1	H1	H2	H3	H4	θ
G1桁	17	2568	17	220	－	－
G2桁	12	2538	43	195	448.5	8° 25′ 58″
G3桁	13	2539	38	195	453.6	8° 25′ 43″
G4桁	19	2545	28	195	－	－

平 面 図 S=1:75



配 置 図 S=1:1000



横変位拘束構造

	単位	数値
死荷重反力	kN	2500
設計水平力	kN	3750

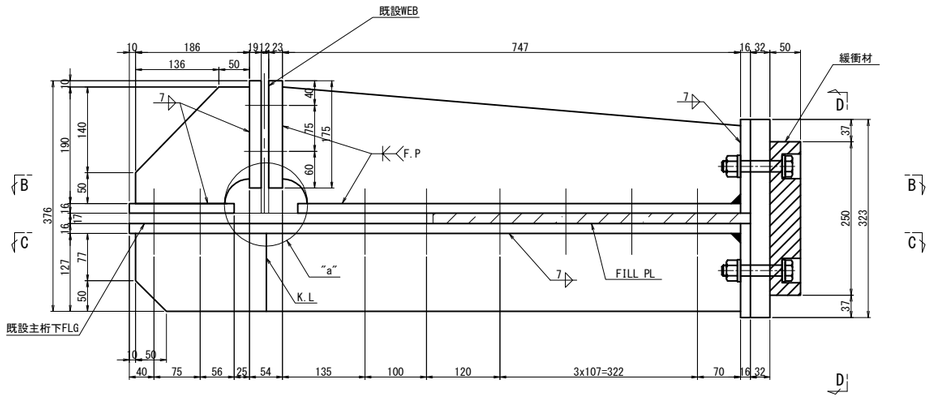
注)
1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべてしゅん功図面を基に作図を行なっている。
2. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
3. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しない様に現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚(終点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その１)
縮 尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

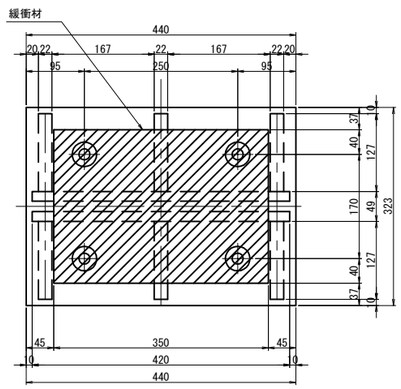
P15橋脚(終点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その２) S=図示

上部工付ブラケットG1

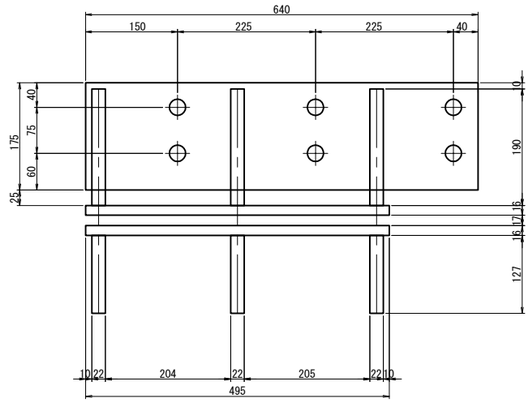
A － A



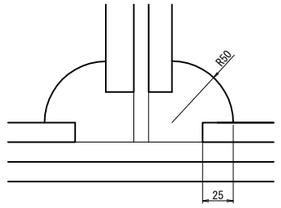
D － D



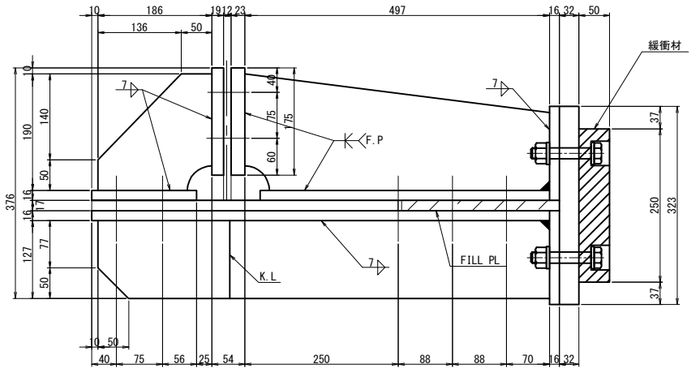
E － E



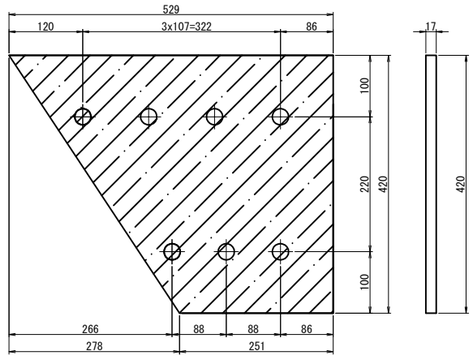
"a"部詳細図 S=1:5



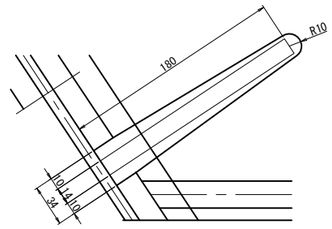
F － F



フィラープレート詳細図 S=1:10



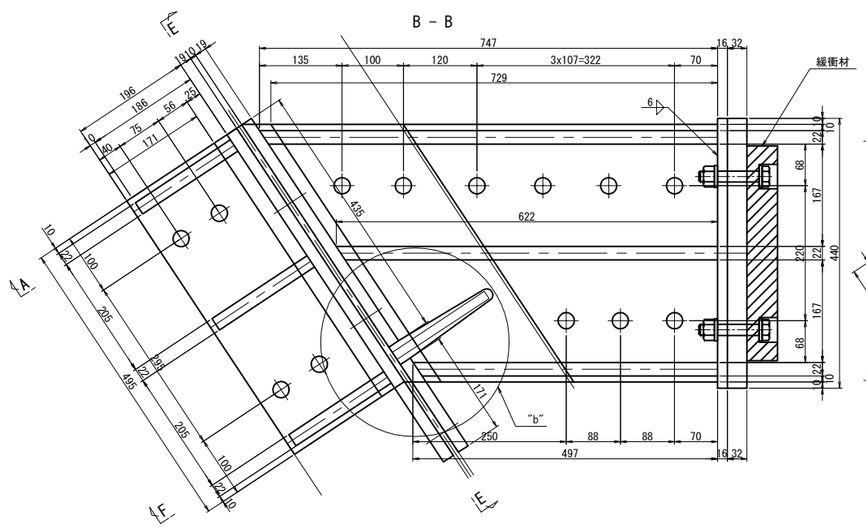
"b"部詳細図 S=1:5



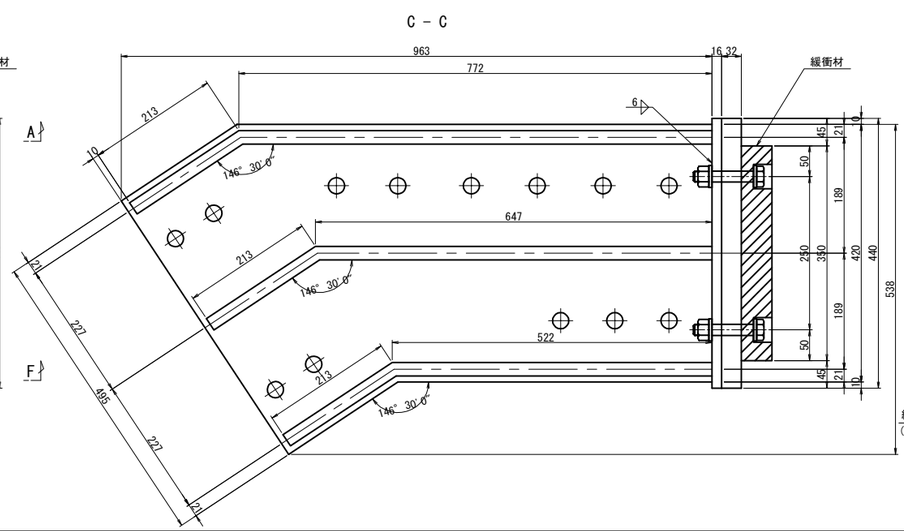
上部工付ブラケット
1組当り(製作数:1組)

1-FLG PL 323x32x440	1-WEB PL 190x22x622	1-FILL PL 420x17x529(SS400)	6-TCB M22x85(S10T)
1-BASE PL 171x16x495	1-WEB PL 190x22x497	1-BASE PL 175x19x435	4-BN M16x95(SUS304)(1-Uナット,2-W付)
1-BASE PL 420x16x729	1-WEB PL 127x22x985	1-BASE PL 175x19x171	1-クロロプレンゴム 350x50x250(硬度55° ±5° 程度)
1-BASE PL 538x16x963	1-WEB PL 127x22x860	1-BASE PL 175x19x640	
3-WEB PL 190x22x186	1-WEB PL 127x22x735	13-TCB M22x85(S10T)	
1-WEB PL 190x22x747	2-SPL PL 153x16x440		

B － B

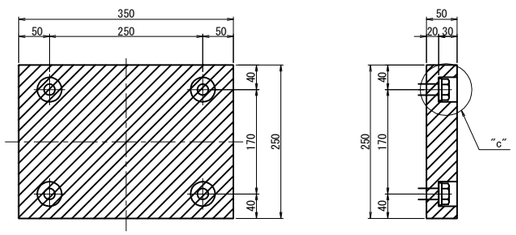


C － C

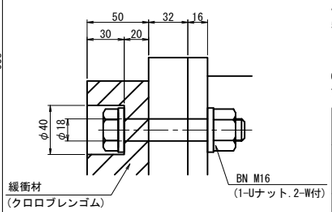


緩衝材詳細図 S=1:10

橋軸直角方向



"c"部詳細図 S=1:5



注)

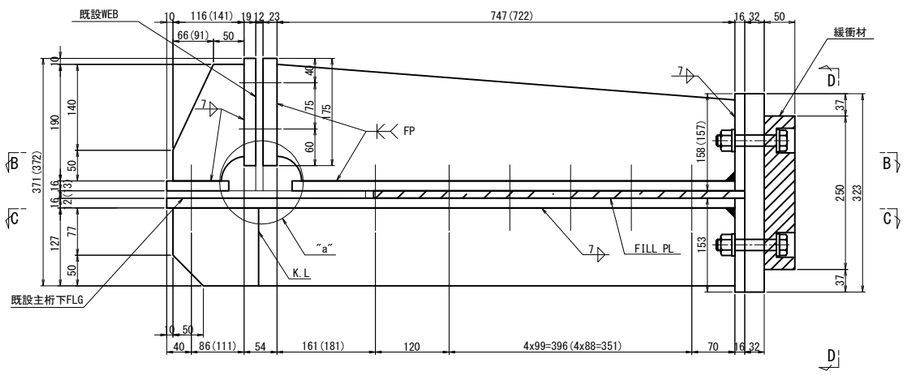
1. 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。
2. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
3. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
4. 溶接交点部は全て溶接後埋戻しとする。
5. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
   TCB M22 →φ24.5 (既設)
   TCB M22 →φ26.5 (新設)
6. K.Lは部材の折れ位置。
7. 「FP」の表記の箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚(終点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その２)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

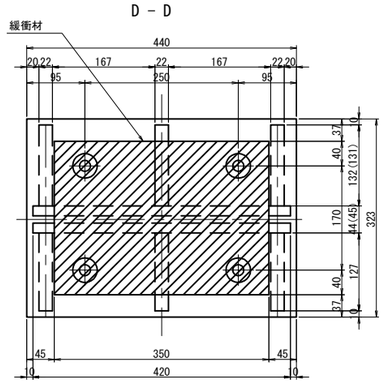
P15橋脚(終点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その３) S=図示

上部工付ブラケットG2(G3)

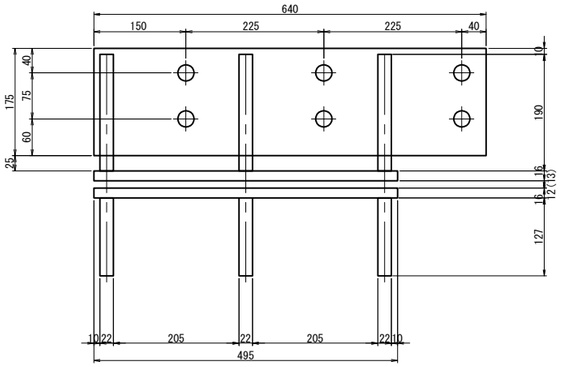
A － A



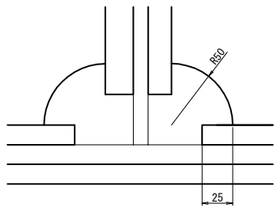
D － D



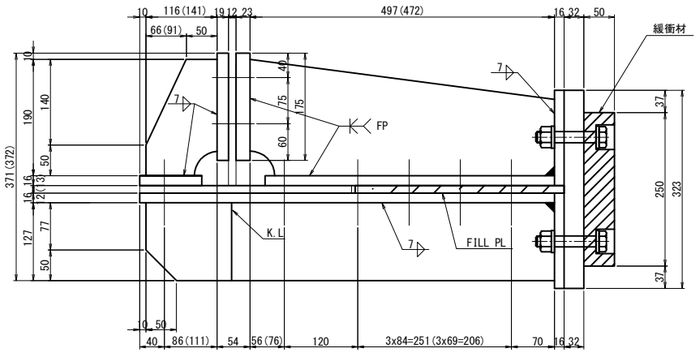
E － E



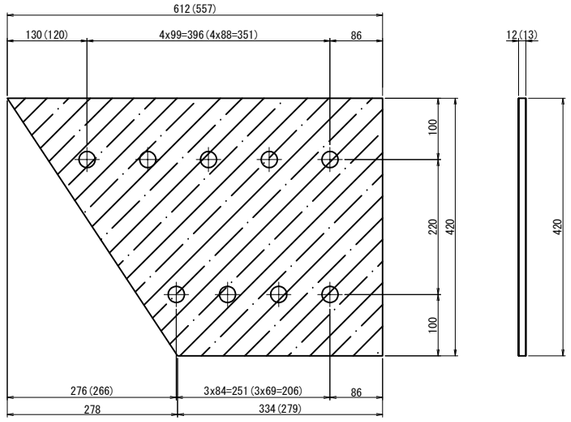
"a"部詳細図 S=1:5



F － F



フィラープレート詳細図 S=1:10



上部工付ブラケットG2
1組当り(製作数:1組)

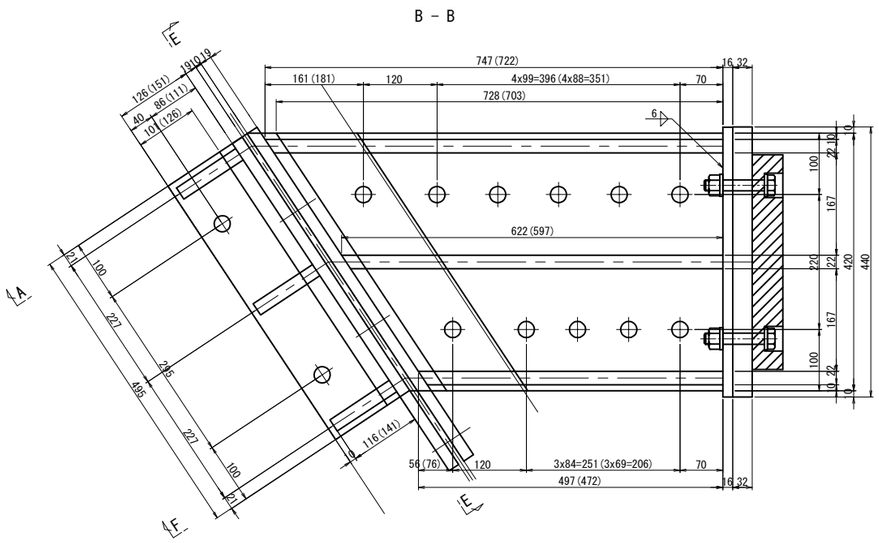
1-FLG	PL 323x32x440
1-BASE	PL 101x16x495
1-BASE	PL 420x16x728
1-BASE	PL 499x16x905
3-WEB	PL 190x22x116
1-WEB	PL 190x22x747
1-WEB	PL 190x22x622
1-WEB	PL 190x22x497
1-WEB	PL 127x22x915
1-WEB	PL 127x22x790
1-WEB	PL 127x22x664
1-SPL	PL 158x16x440
1-SPL	PL 153x16x440
1-FILL	PL 420x12x612(SS400)
2-BASE	PL 175x19x640
13-TCB	M22x80(S10T)
6-TCB	M22x85(S10T)
4-BN	M16x95(SUS304)(1-Uナット,2-W付)
1-クロロプレンゴム	350x50x250(硬度55° ±5° 程度)

上部工付ブラケットG3
1組当り(製作数:1組)

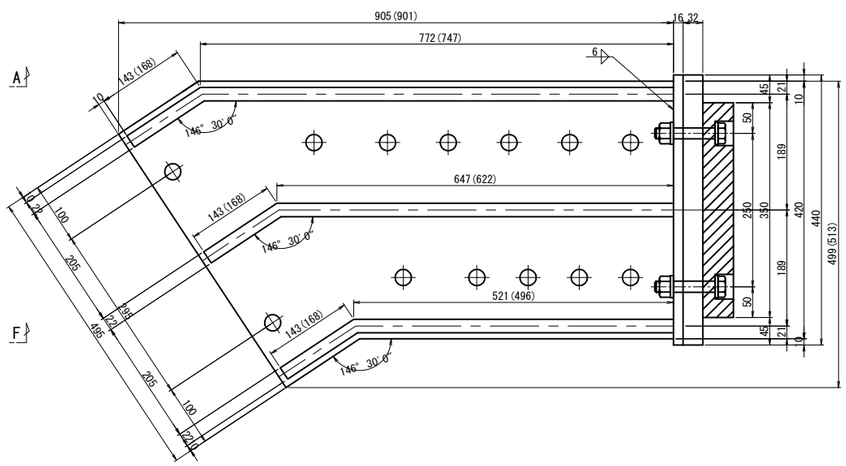
1-FLG	PL 323x32x440
1-BASE	PL 126x16x495
1-BASE	PL 420x16x703
1-BASE	PL 513x16x901
3-WEB	PL 190x22x141
1-WEB	PL 190x22x722
1-WEB	PL 190x22x597
1-WEB	PL 190x22x472
1-WEB	PL 127x22x915
1-WEB	PL 127x22x790
1-WEB	PL 127x22x664
1-SPL	PL 157x16x440
1-SPL	PL 153x16x440
1-FILL	PL 420x13x557(SS400)
2-BASE	PL 175x19x640
13-TCB	M22x80(S10T)
6-TCB	M22x85(S10T)
4-BN	M16x95(SUS304)(1-Uナット,2-W付)
1-クロロプレンゴム	350x50x250(硬度55° ±5° 程度)

緩衝材詳細図 S=1:10

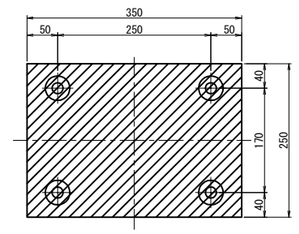
B － B



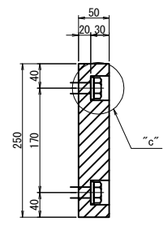
C － C

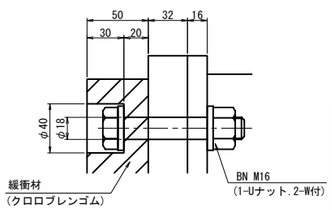


橋軸直角方向



"c"部詳細図 S=1:5



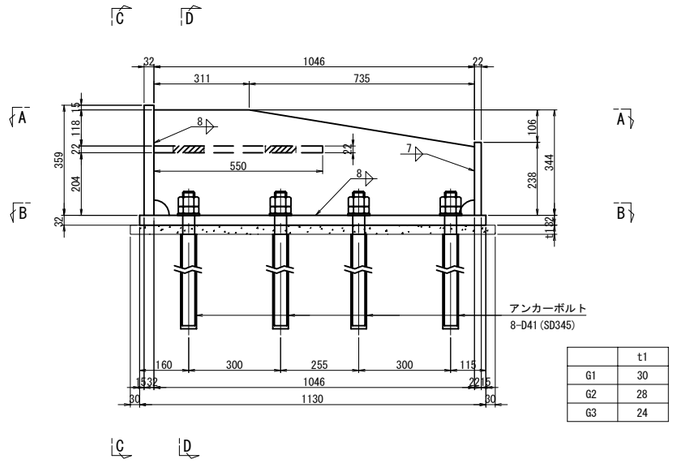


注)
1. 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。
2. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
3. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
4. 溶接交点部は全て溶接後埋戻しとする。
5. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
   TCB M22 →φ24.5 (既設)
   TCB M22 →φ26.5 (新設)
6. ( )内数値はG3を示す。
7. K.Lは部材の折れ位置。
8. 「FP」の表記の箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

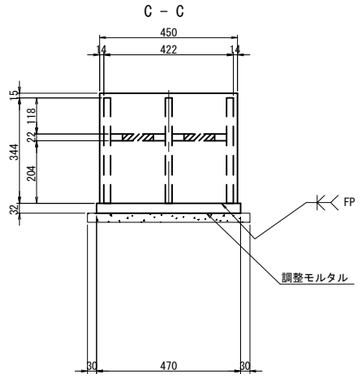
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚(終点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その３)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

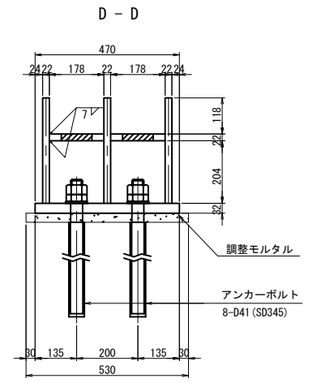
P15橋脚(終点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その４) S=1:20

鋼製ブラケット G1～G3



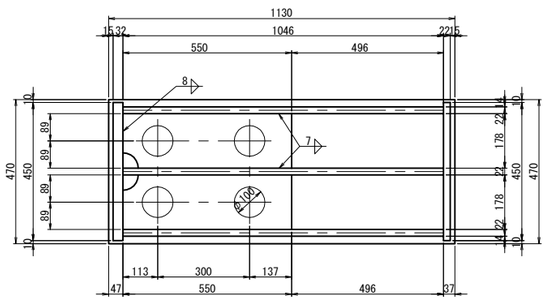
	t1
G1	30
G2	28
G3	24



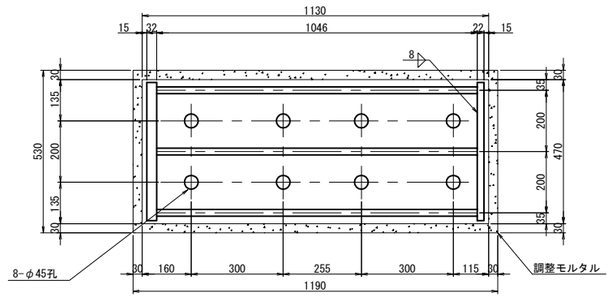


鋼製ブラケット
1組当り(製作数:3組)
- 1-BASE PL 470x32x1130
- 1-FLG PL 359x32x450
- 1-FLG PL 238x22x450
- 3-WEB PL 344x22x1046
- 2-RIB PL 178x22x550
- 8-ANC D41x750(SD345)
- 8-NUT M39(1種)(SS400)
- 8-NUT M39(3種)(SS400)
- 8-WASHER M39(SS400)

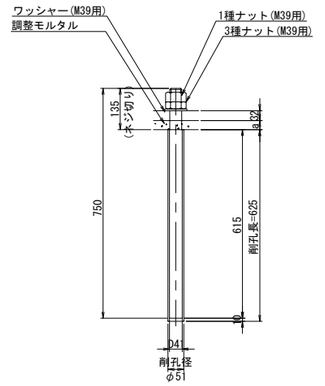
A － A



B － B



アンカーボルト詳細図



	a
G1	30
G2	28
G3	24

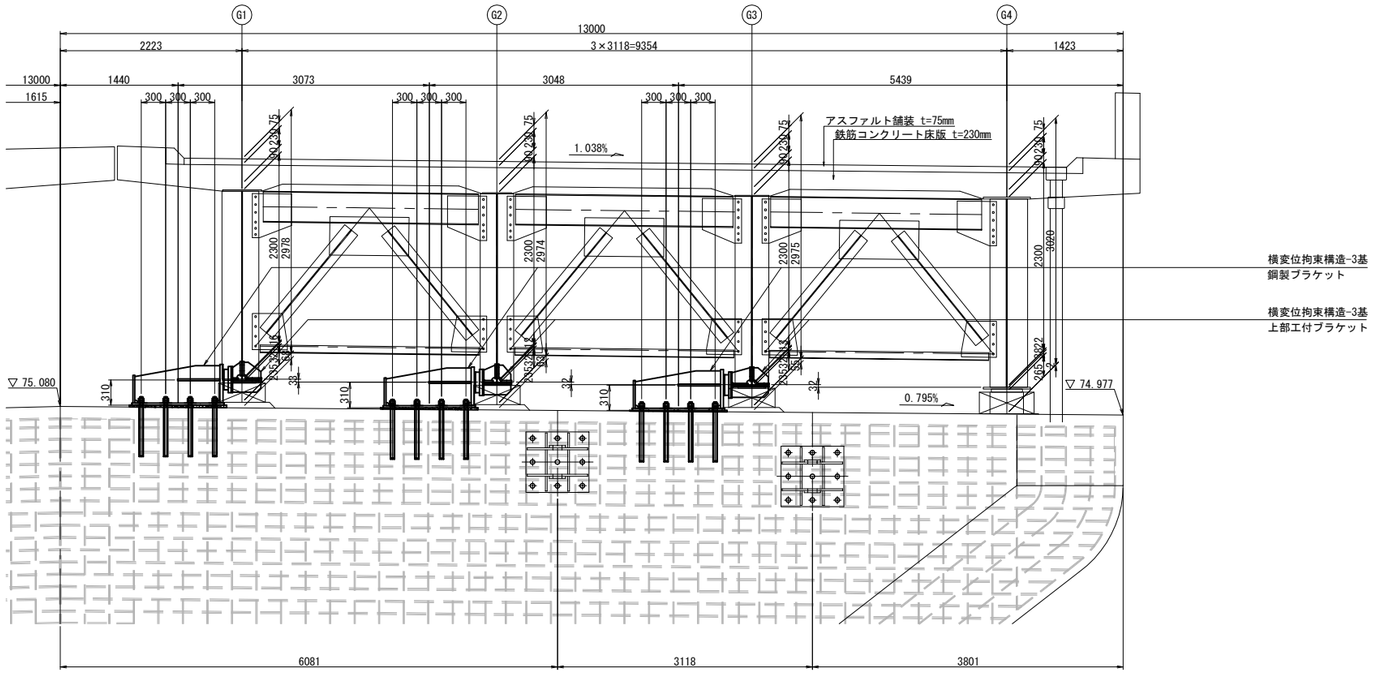
※アンカーボルトはネジ切り部のみ
溶融亜鉛めっきを施すものとする。

注)
1. ブラケットの製作は、現地調査の上最終決定のこと。
2. 特記なき材質はSM400Aとする。
3. 特記なきスカーラップは全てR50とする。
4. 鋼製ブラケット、およびアンカーボルトネジ切り部は、
   下記の通り溶融亜鉛めっき(JIS H 8641)とする。
   - HDZT 77 鋼板
   - HDZT 49 アンカーボルト、ナット、ワッシャー
5. 「FP」の表記の箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

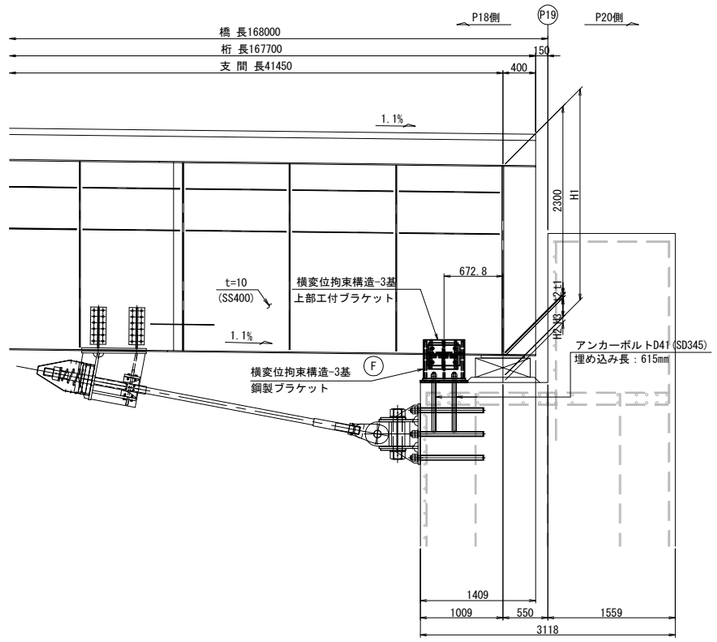
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚(終点側) 横変位拘束構造M 構造図(上り線) (その４)		
縮尺	1:20	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P19橋脚(起点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その１) S=図示

正 面 図 S=1:75

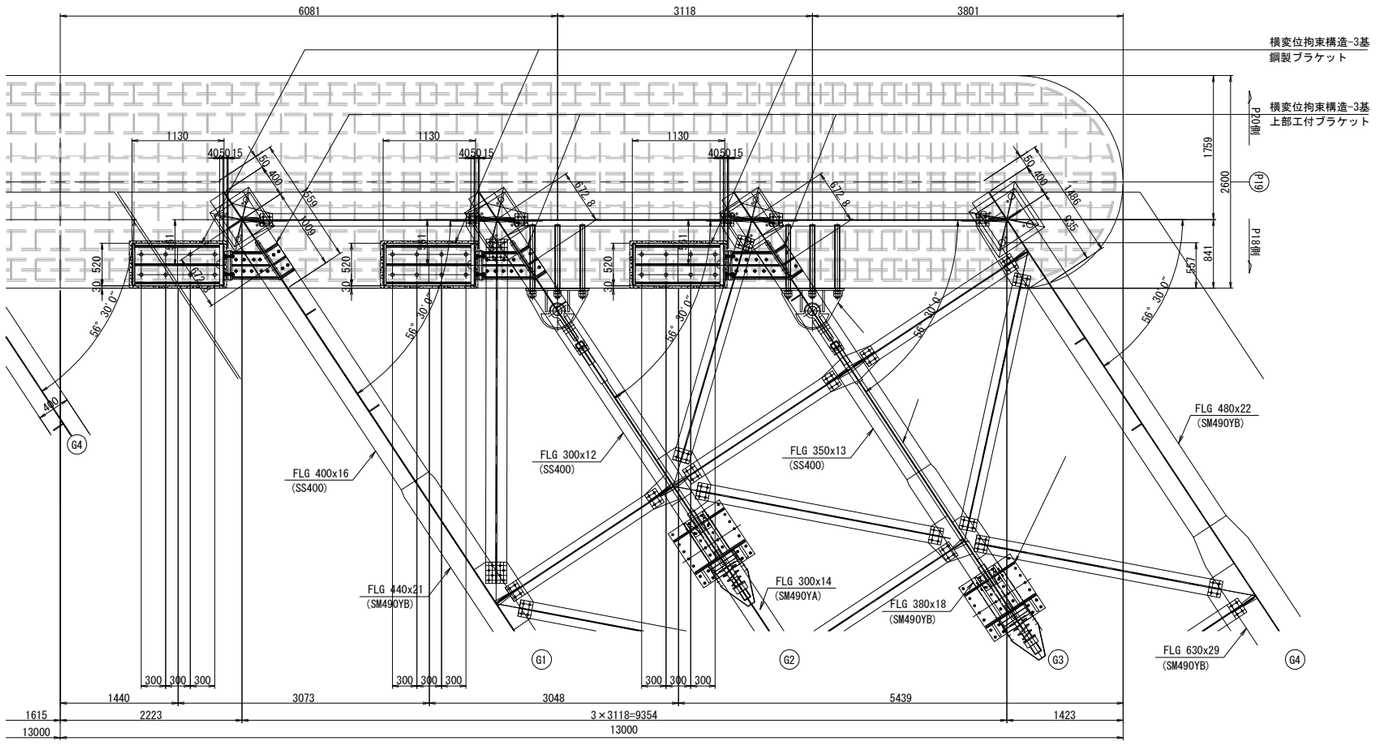


側 面 図 S=1:75

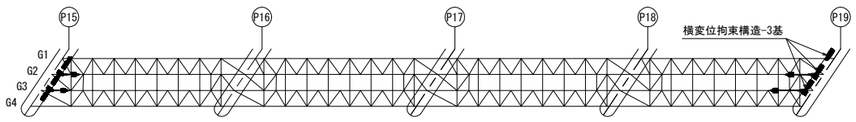


	P19橋脚				
	t1	t2	H1	H2	H3
G1桁	16	32	2583	68	235
G2桁	12	32	2579	63	235
G3桁	13	32	2580	55	235
G4桁	22	38	2625	2	265

平 面 図 S=1:75



配 置 図 S=1:1000



横変位拘束構造

	単位	数値
死荷重反力	kN	2700
設計水平力	kN	4050

注)

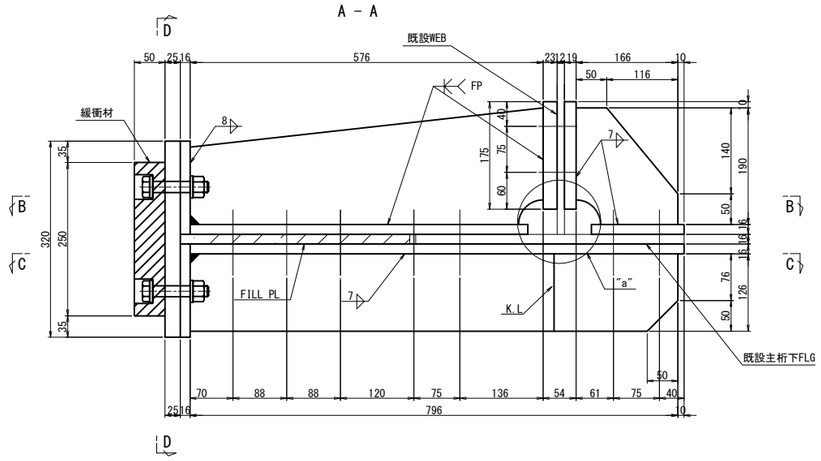
1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべてしゅん功図面を基に作図を行なっている。
2. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
3. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しない様に現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚(起点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その１)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

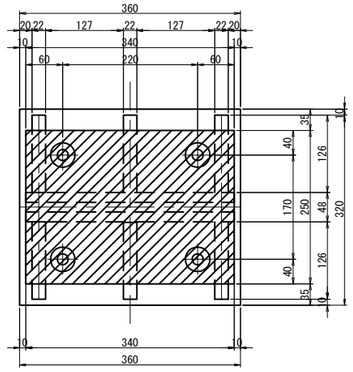
P19橋脚(起点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その２) S=図示

上部エブラケットG1

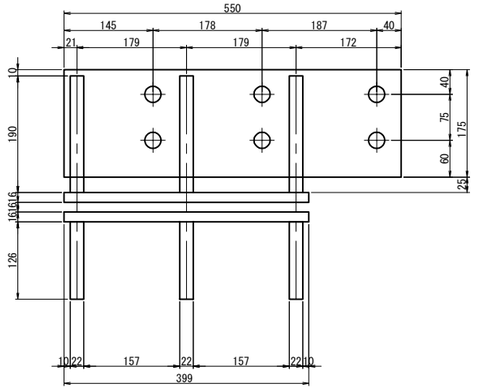
A － A



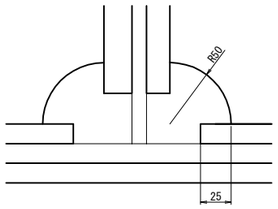
D － D



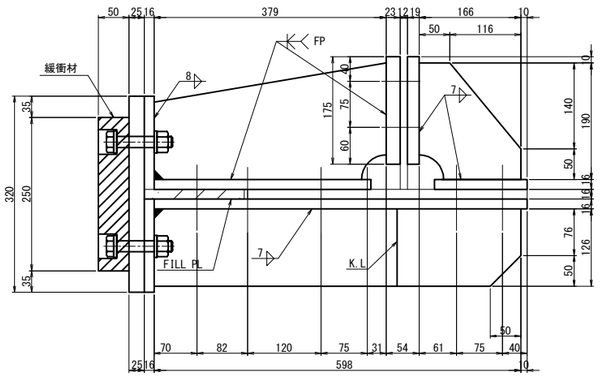
E － E



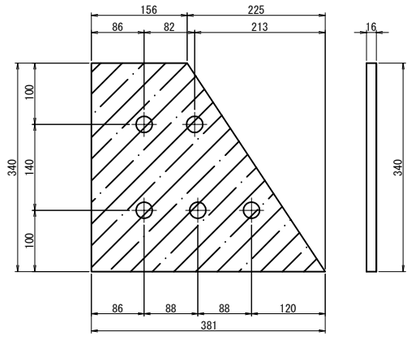
"a"部詳細図 S=1:5



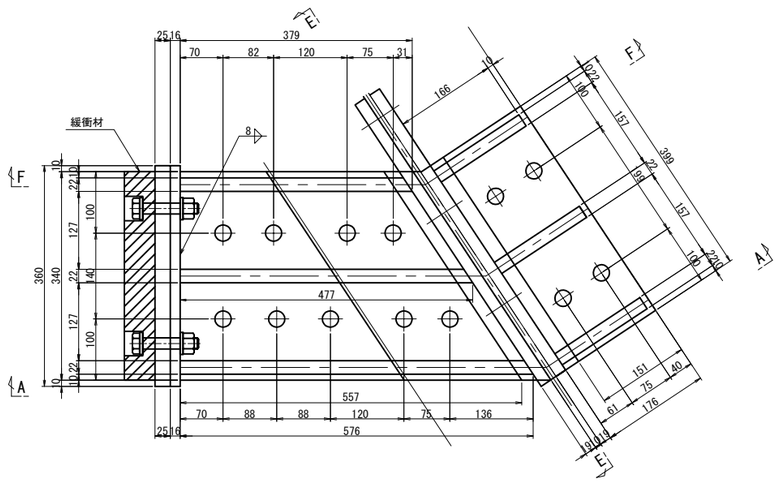
F － F



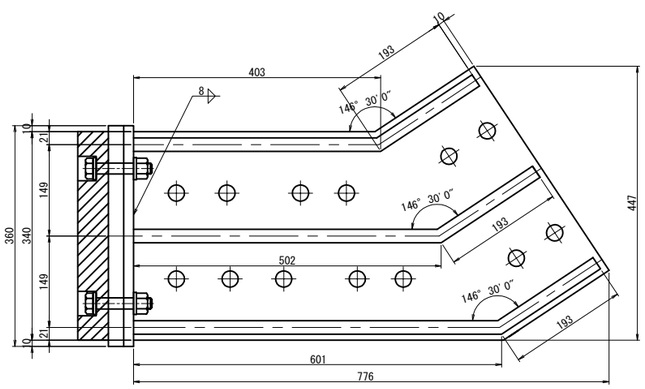
フィラープレート詳細図 S=1:10



B － B



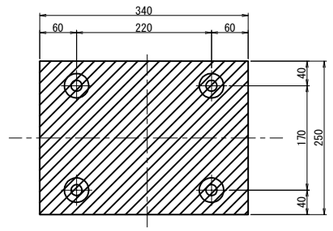
C － C

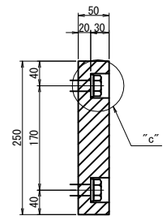


上部工付ブラケット
1組当り(製作数:1組)
1-FLG PL 320x25x360
1-BASE PL 340x16x557
1-BASE PL 151x16x399
1-BASE PL 447x16x776
3-WEB PL 190x22x166
1-WEB PL 190x22x379
1-WEB PL 190x22x477
1-WEB PL 190x22x576
1-WEB PL 126x22x596
1-WEB PL 126x22x695
1-WEB PL 126x22x794
2-SPL PL 152x16x360
1-FILL PL 340x16x381(SS400)
2-BASE PL 175x19x550
13-TCB M22x85(S10T)
6-TCB M22x85(S10T)
4-BN M16x90(SUS304)(1-Uナット.2-W付)
1-クロロプレンゴム 340x50x250(硬度55° ±5° 程度)

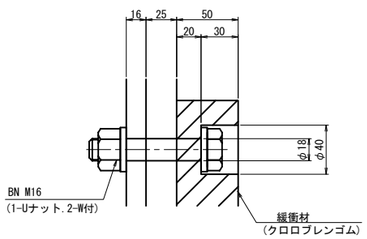
緩衝材詳細図 S=1:10

橋軸直角方向





"c"部詳細図 S=1:5



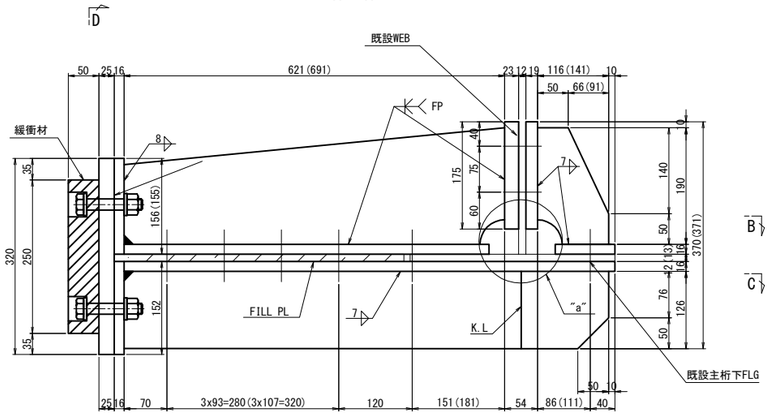
注)
1. 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。
2. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
3. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
4. 溶接交点部は全て溶接後埋戻しとする。
5. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22 →φ24.5 (既設)
TCB M22 →φ26.5 (新設)
6. K.Lは部材の折れ位置。
7. 「FP」の表記の箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚(起点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その２)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

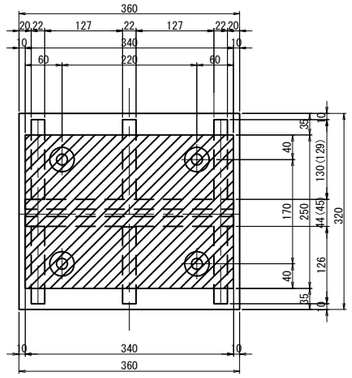
P19橋脚(起点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その３) S=図示

上部工付ブラケットG2(G3)

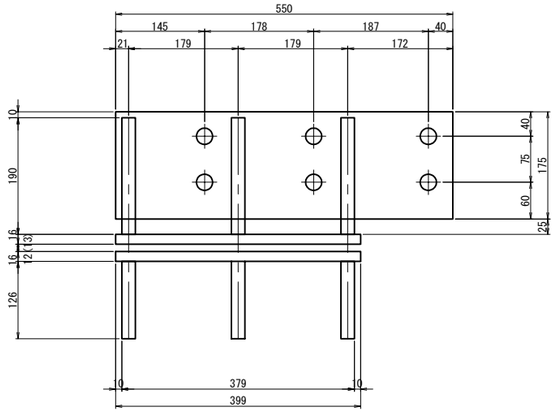
A － A



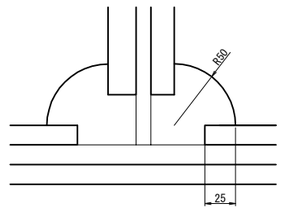
D － D



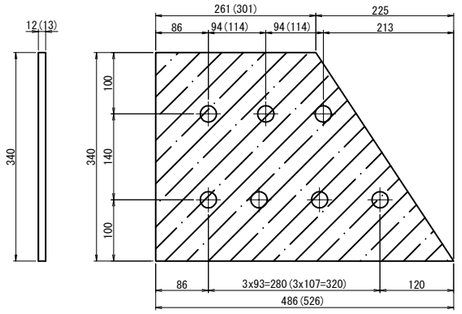
E － E



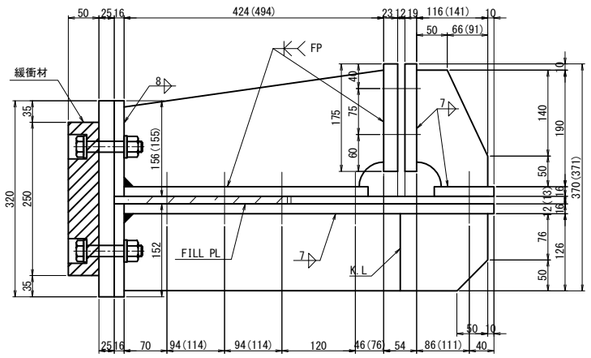
"a"部詳細図 S=1:5



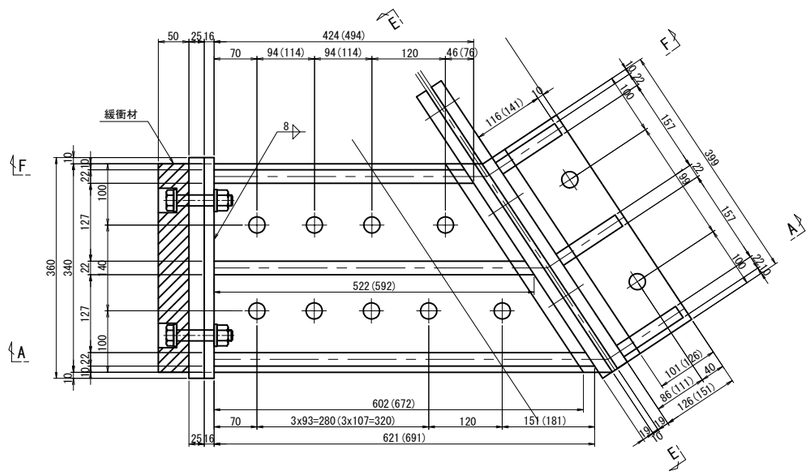
フィラープレート詳細図 S=1:10



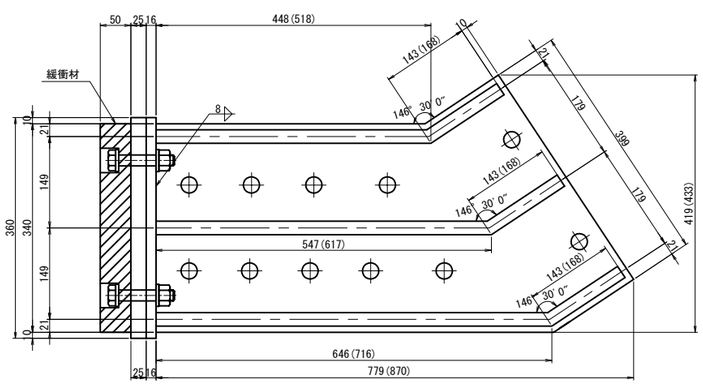
F － F



B － B



C － C

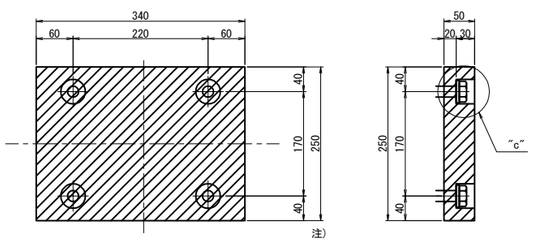


上部工付ブラケットG2
1組当り(製作数:1組)
1-FLG PL 320x25x360
1-BASE PL 340x16x602
1-BASE PL 101x16x399
1-BASE PL 419x16x779
3-WEB PL 190x22x116
1-WEB PL 190x22x621
1-WEB PL 190x22x522
1-WEB PL 190x22x424
1-WEB PL 126x22x591
1-WEB PL 126x22x690
1-WEB PL 126x22x789
1-SPL PL 156x16x360
1-SPL PL 152x16x360
1-FILL PL 340x12x486(SS400)
2-BASE PL 175x19x550
11-TCB M22x80(S10T)
6-TCB M22x85(S10T)
4-BN M16x90(SUS304)(1-Uナット,2-W付)
1-クロロプレンゴム 340x50x250(硬度55° ±5° 程度)

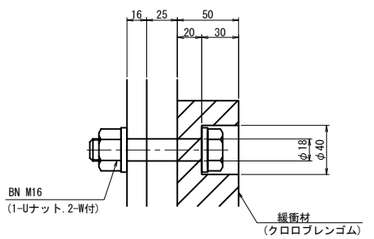
上部工付ブラケットG3
1組当り(製作数:1組)
1-FLG PL 320x25x360
1-BASE PL 340x16x672
1-BASE PL 126x16x399
1-BASE PL 433x16x870
3-WEB PL 190x22x141
1-WEB PL 190x22x691
1-WEB PL 190x22x592
1-WEB PL 190x22x494
1-WEB PL 126x22x686
1-WEB PL 126x22x785
1-WEB PL 126x22x884
1-SPL PL 155x16x360
1-SPL PL 152x16x360
1-FILL PL 340x13x526(SS400)
2-BASE PL 175x19x550
11-TCB M22x80(S10T)
6-TCB M22x85(S10T)
4-BN M16x90(SUS304)(1-Uナット,2-W付)
1-クロロプレンゴム 340x50x250(硬度55° ±5° 程度)

緩衝材詳細図 S=1:10

橋軸直角方向



"c"部詳細図 S=1:5

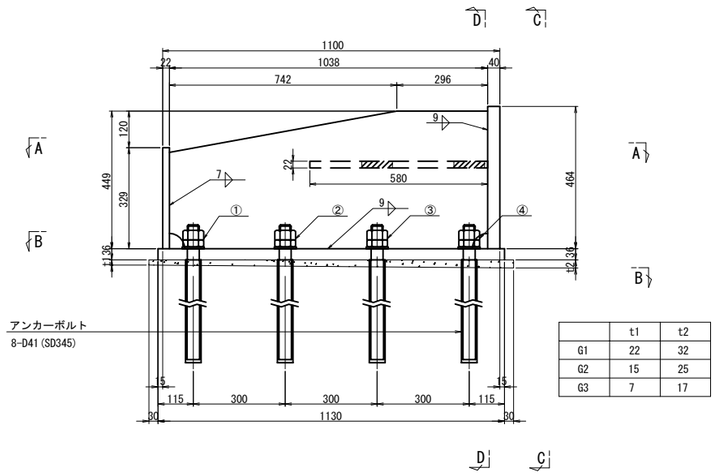


注)
1. 図中詳細寸法は、現地実測の上決定のこと。
2. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
3. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
4. 溶接交点部は全て溶接後埋戻しとする。
5. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
   TCB M22 →φ24.5 (既設)
   TCB M22 →φ26.5 (新設)
6. ( )内数値はG3を示す。
7. K.Lは部材の折れ位置。
8. 「FP」の表記の箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚(起点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その３)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

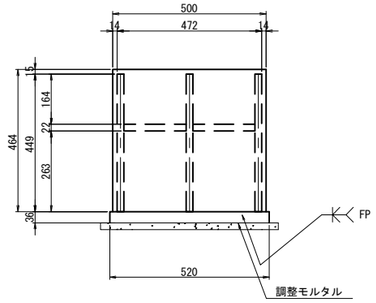
P19橋脚(起点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その４) S=図示

鋼製エブラケット G1～G3

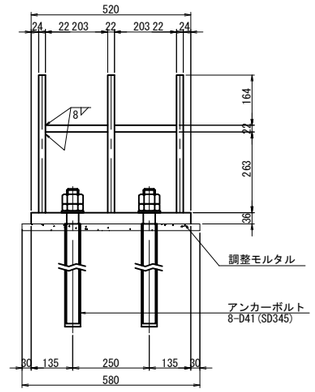


	t1	t2
G1	22	32
G2	15	25
G3	7	17

C － C

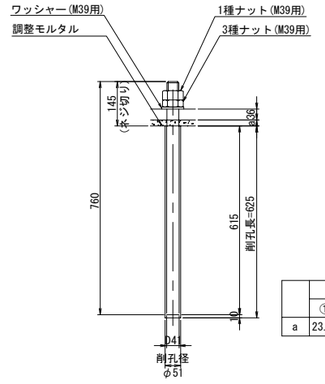


D － D



鋼製ブラケット
1組当り(製作数:3組)
- 1-BASE PL 520x36x1130
- 1-FLG PL 329x22x500
- 1-FLG PL 464x40x500 (SM400B)
- 3-WEB PL 449x22x1038
- 2-RIB PL 203x22x580
- 8-ANC D41x760(SD345)
- 8-NUT M39(1種) (SS400)
- 8-NUT M39(3種) (SS400)
- 8-WASHER M39(SS400)

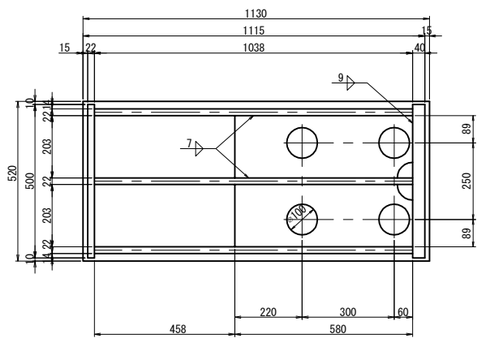
アンカーボルト詳細図



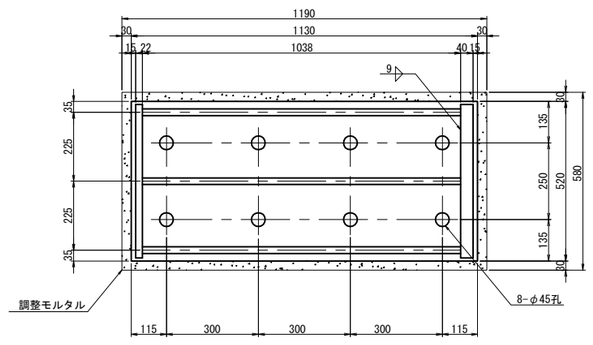
	G1				G2				G3			
	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
a	23.2	25.3	28	30.4	16.6	19	21.4	23.8	8.4	10.7	13.1	15.5

※アンカーボルトはネジ切り部のみ
溶融亜鉛めっきを施すものとする。

A － A



B － B

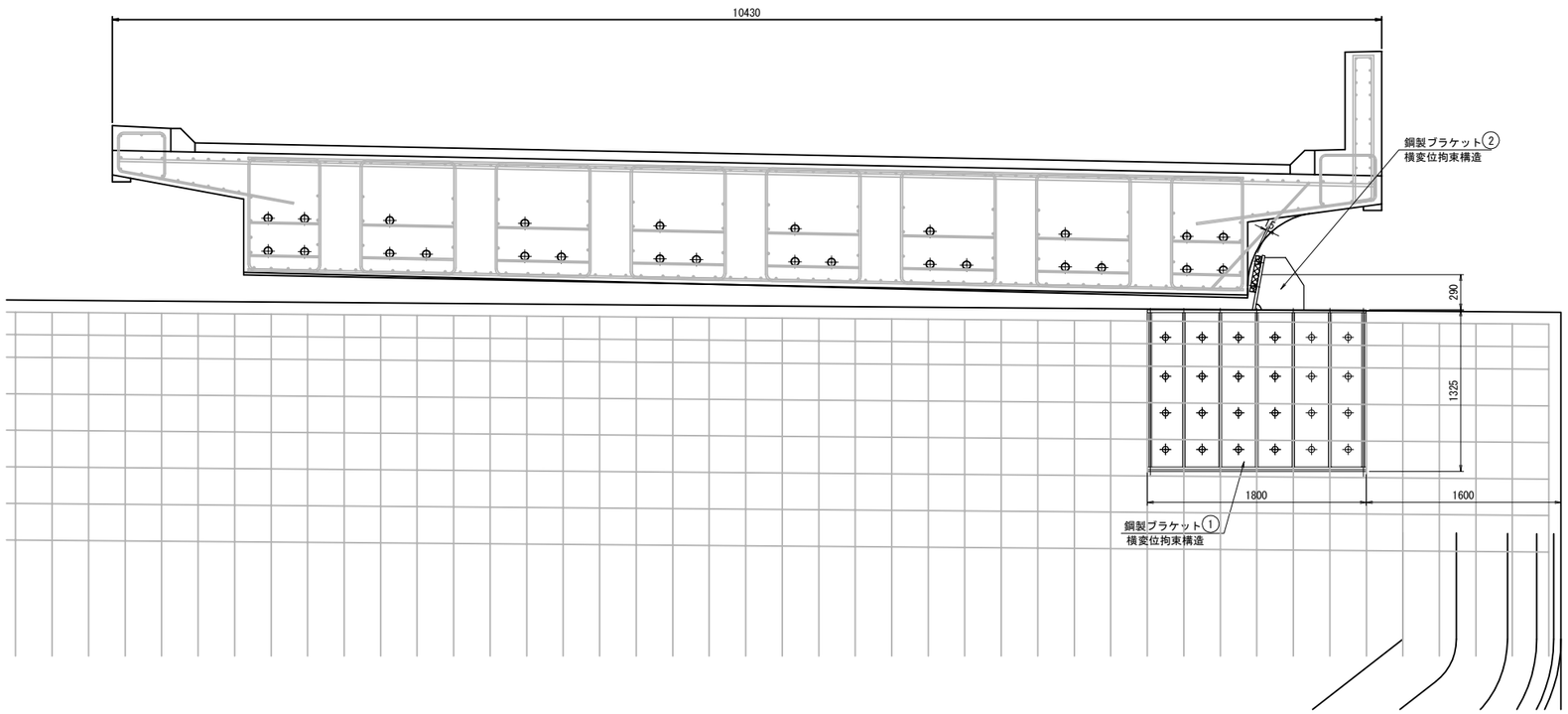


注)
1. ブラケットの製作は、現地調査の上最終決定のこと。
2. 特記なき材質はSM400Aとする。
3. 特記なきスカーラップは全てR50とする。
4. 鋼製ブラケット、およびアンカーボルトネジ切り部は、
   下記の通り溶融亜鉛めっき(JIS H 8641)とする。
   - HDZT 77 鋼板
   - HDZT 49 アンカーボルト、ナット、ワッシャー
5. 「FP」の表記の箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

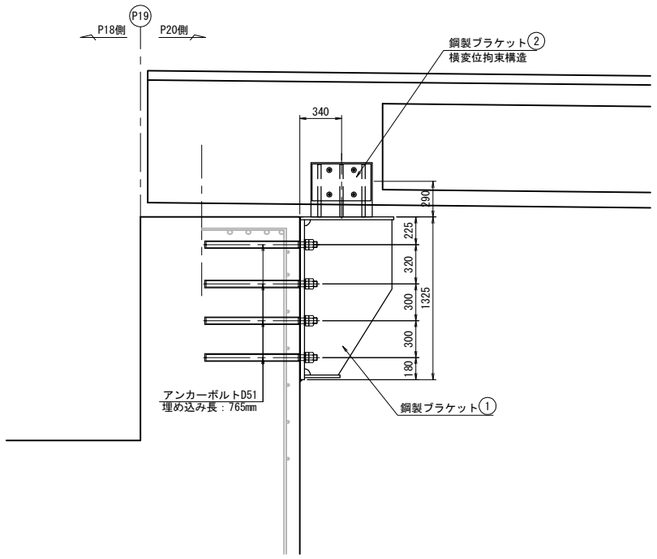
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚(起点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その４)
縮尺	図示 / 図面番号 /
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P19橋脚(終点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その１) S=1:50

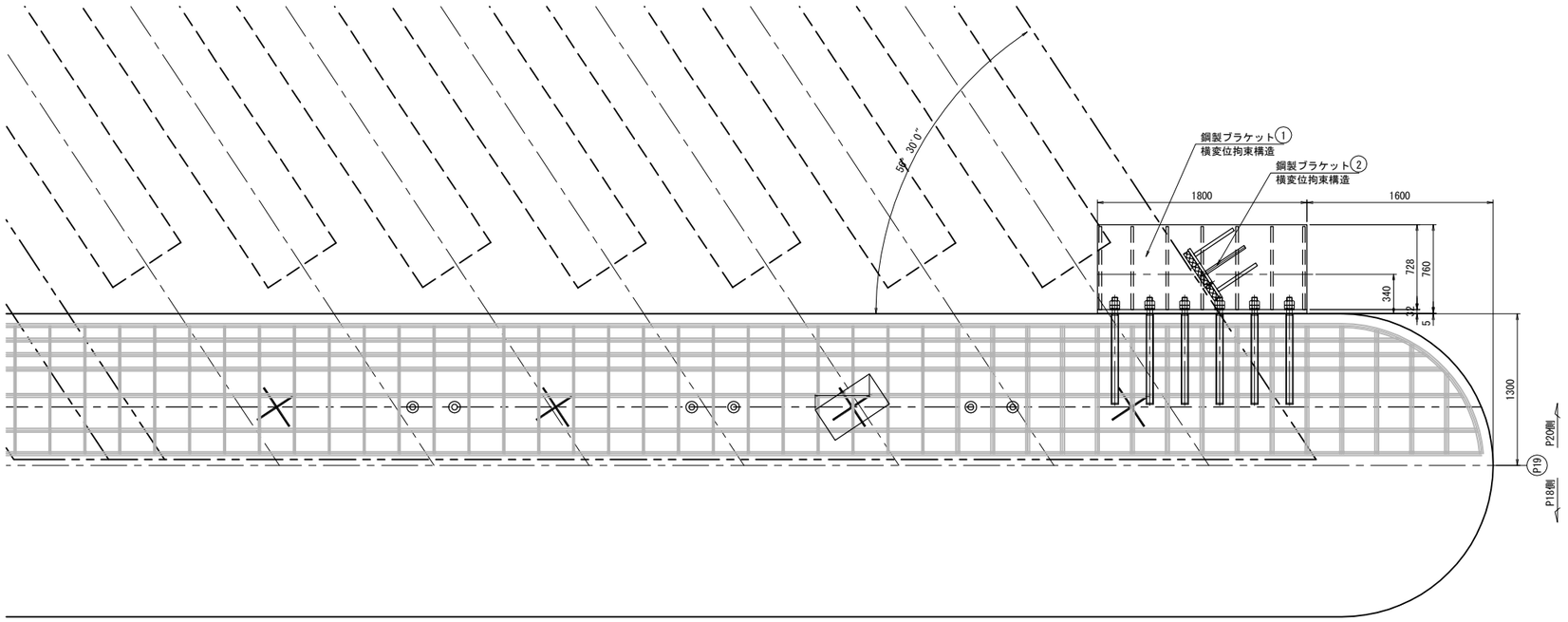
正面図



側面図



平面図



	単位	数値
死荷重反力	kN	3000
設計水平力(橋軸直角方向)	kN	2250
設計水平力(橋軸方向)	kN	1242

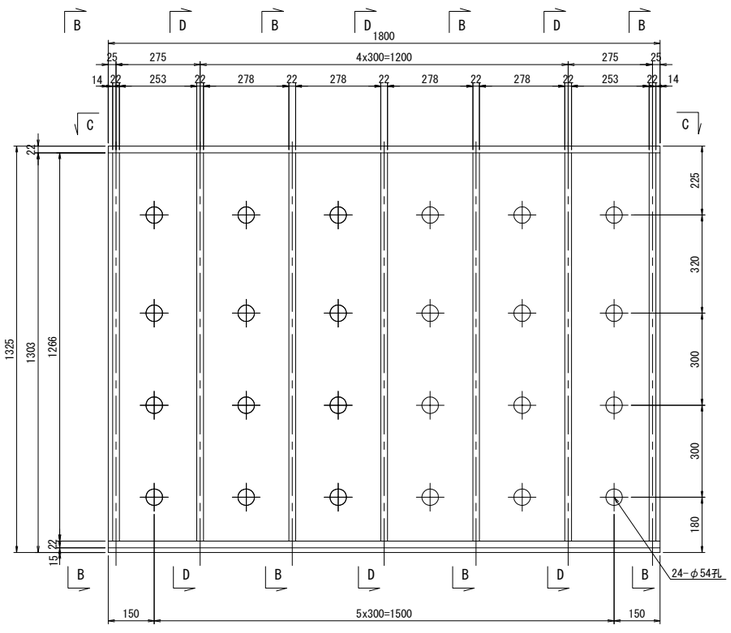
注)
1. 本図の既設構造物の基準寸法・部材寸法などは、すべてしゅん功図面を基に作図を行なっている。
2. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
3. アンカー定着鉄筋の削孔にあたっては、既設構造物の鉄筋を切断しない様に現在の配筋状態を事前に鉄筋探査等による調査を実施し、確認すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚(終点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その１)		
縮尺	1:50	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

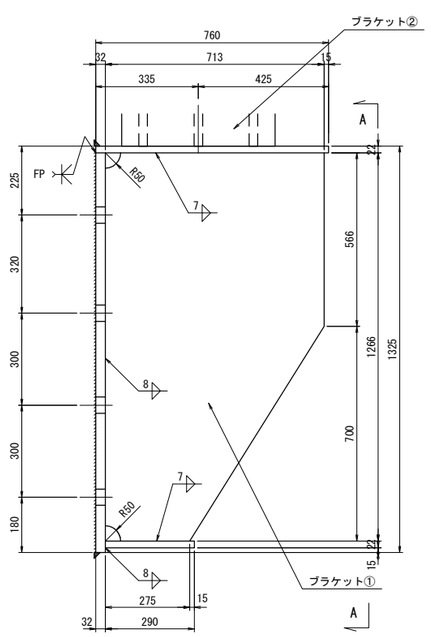
P19橋脚(終点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その２) S=図示

鋼製ブラケット① S=1:20

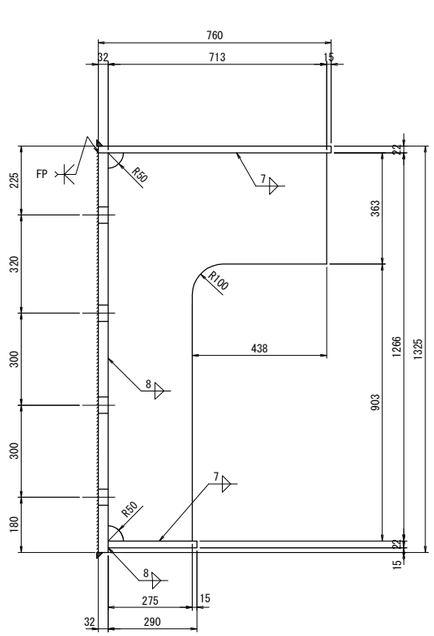
A－A



B－B

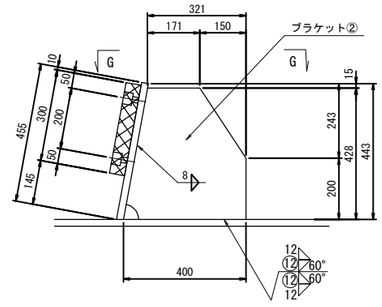


D－D

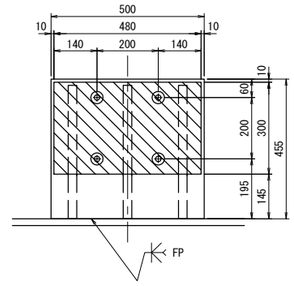


鋼製ブラケット② S=1:20

E－E

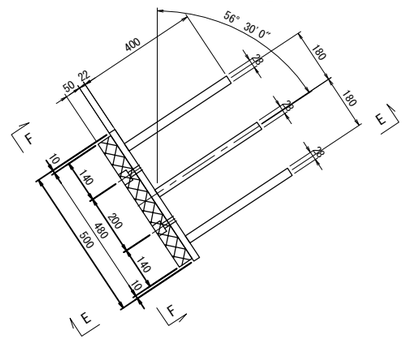


F－F

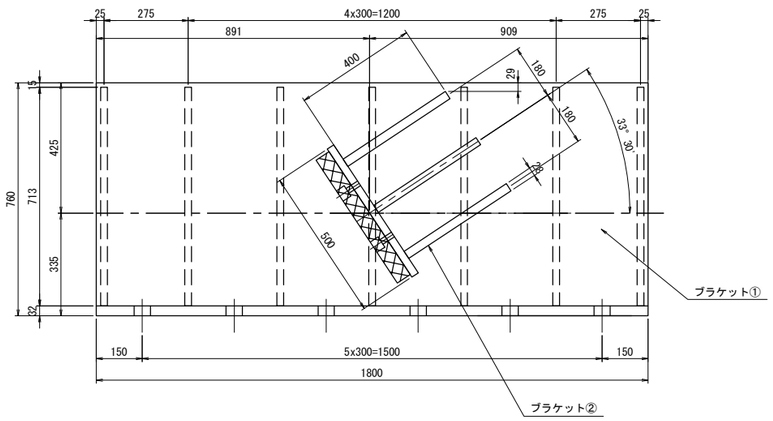


１基当たり (製作数：1)
1-Flg PL 455x22x500
3-Rib PL 400x28x428

G－G



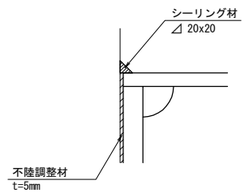
C-C



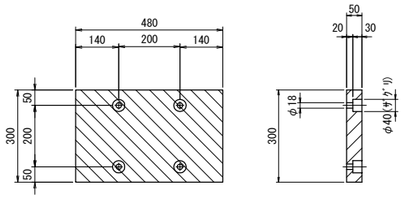
１基当たり (製作数：1)

1-UFlg PL	760x22x1800	
1-LFlg PL	300x22x1800	
1-Base PL	1303x32x1800	
4-Rib PL	713x22x1266	
3-Rib PL	713x22x1266	
24-Anc Bolt	D51x900	(SD345)
24-Nut(1種)	M48	(SS400)
24-Nut(3種)	M48	(SS400)
24-Washer	M48	(SS400)

シーリング材断面図（参考図）S=1:10

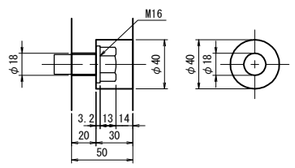


緩衝材詳細図 S=1:20

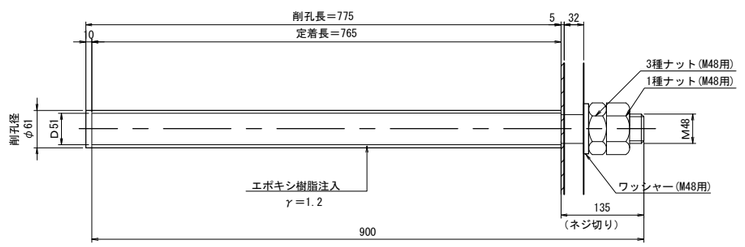


1基当り(製作数:1)
1-緩衝材 300x50x480(クロロプレンゴム)
4-止めﾎﾞﾙﾄ M16x70(1-Uナット、2-W) (SUS304)

座グリ詳細図 S=1:5



アンカーボルト詳細図 S=1:10



※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

注)
1．ブラケットの製作は、現地調査の上最終決定のこと。
2．特記なき材質はSM400Aとする。
3．特記なきスカーラップは全てR50とする。
4．下部工ブラケット、およびアンカーボルトネジ切り部は、下記の通り溶融亜鉛めっき(JIS H 8641)とする。
HDZT 77 鋼板
HDZT 49 アンカーボルト、ナット、ワッシャー
5．「FP」の表記の箇所は、完全溶込み溶接を用いる。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚(終点側) 横変位拘束構造M 構造図 (上り線) (その２)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

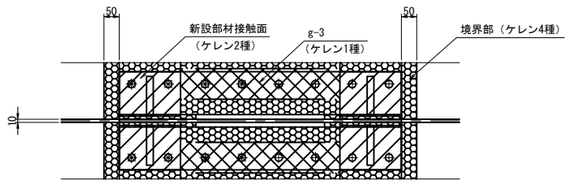
P8・10橋脚 塗分け区分図（上下線）（その１）S=1:20

落橋防止構造

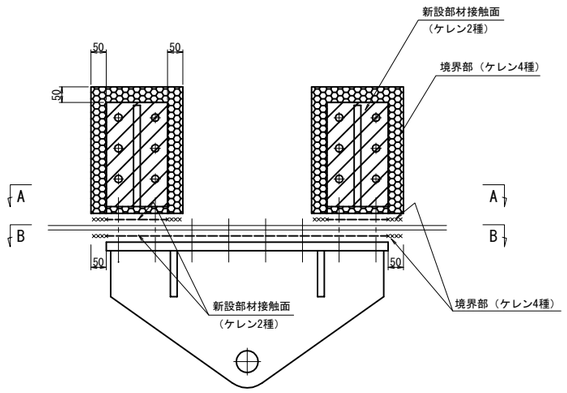
既設構造塗替塗装

A － A 断面図

フランジ上面

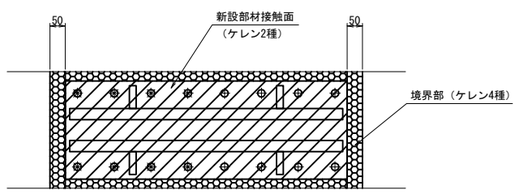


側面



B － B 断面図

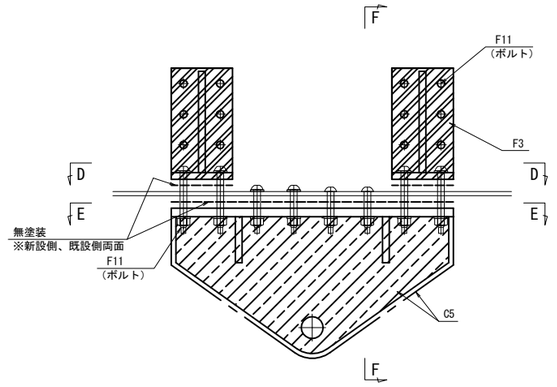
フランジ下面



新設構造塗装区分

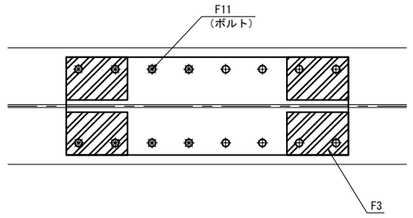
C － C 断面図

側面



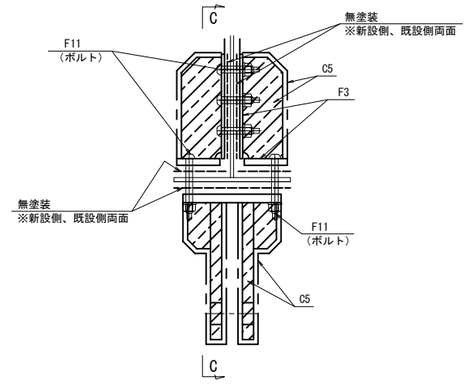
D － D 断面図

（上面）



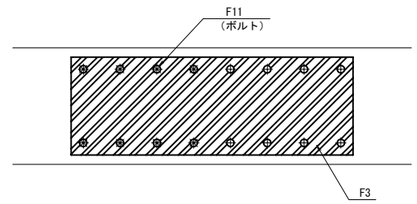
F － F 断面図

正面

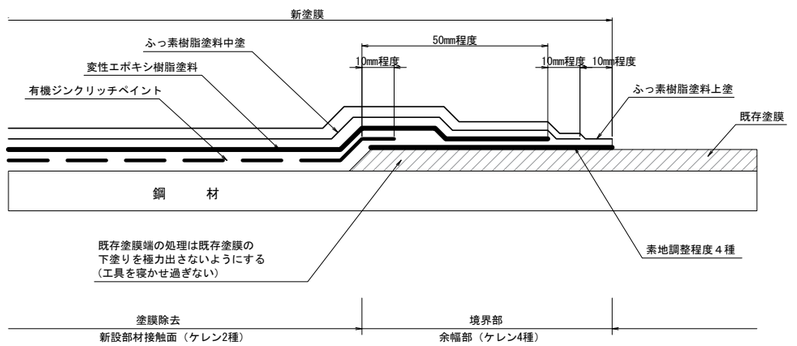


E － E 断面図

（下面）



既存塗膜との境界部の処理



首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P8・10橋脚 塗分け区分図（上下線）（その１）		
縮　尺	1:20	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P8・10橋脚 塗分け区分図（上下線）（その２）

塗 装 仕 様

一般部の塗装系

記 号	工 程		塗料または素地調整程度	標 準 使用量 (g/m2)	塗装間隔	標 準 膜 厚 (μm)
C (C5)	前処理	素地調整	G-a	－		－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚｰ 160	2hr以内 ～ 6ヶ月	15
	工場塗装	２次素地調整	G-a	－		－
		下塗り 第１層	無機ジンクリッチペイント	ｽﾌﾟﾚｰ 600	2hr以内 2～ 10日	75
		ミストコート	エポキシ樹脂塗料下塗りあるいは 厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	ｽﾌﾟﾚｰ 160	1～ 10日	－
		下塗り 第２層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	ｽﾌﾟﾚｰ 540	1～ 10日	120
		中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗り	ｽﾌﾟﾚｰ 170	1～ 10日	30
		上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗り	ｽﾌﾟﾚｰ 140		25

一般部（外面）の塗装系（境界部塗装）

記 号	工 程		塗料または素地調整程度	標 準 使用量 (g/m2)	塗装間隔	標 準 膜 厚 (μm)
境界部	現場塗装 (4種)	素地調整	4種	－	4hr以内	－
		下塗り	変性エポキシ樹脂塗料下塗り	ﾊｹ 200	1～ 10日	60
		中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗り	ﾊｹ 140	1～ 10日	30
		上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗り	ﾊｹ 120		25

高力ボルト接触部および現場溶接部（熱影響部以外）の塗装系

記 号	工 程		塗料または素地調整程度	標 準 使用量 (g/m2)	塗装間隔	標 準 膜 厚 (μm)
F3	前処理	素地調整	G-a	－		－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚｰ 160	2hr以内 ～ 6ヶ月	17
	工場塗装	２次素地調整	G-a	－		－
		下塗り 第１層	有機ジンクリッチペイント	ｽﾌﾟﾚｰ 600	2hr以内 2日 ～ 12ヶ月	75
	現場塗装	ミストコート 下塗り	変性エポキシ樹脂塗料下塗りあるいは 厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	(ｽﾌﾟﾚｰ 160) ﾊｹ 130	1～ 10日	－
		下塗り 第２層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	(ｽﾌﾟﾚｰ 360) ﾊｹ 300	1～ 10日	90
		下塗り 第３層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	(ｽﾌﾟﾚｰ 360) ﾊｹ 300	1～ 10日	90
		中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗り	(ｽﾌﾟﾚｰ 170) ﾊｹ 140	1～ 10日	30
		上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗り	(ｽﾌﾟﾚｰ 140) ﾊｹ 120		25

高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系

記 号	工 程		塗料または素地調整程度	標 準 使用量 (g/m2)	塗装間隔	標 準 膜 厚 (μm)
F11	現場塗装	素地調整	G-c	－		－
		下塗り 第１層	有機ジンクリッチペイント	ﾊｹ 240	2hr以内 1～ 10日	30
		下塗り 第２層	有機ジンクリッチペイント	ﾊｹ 240	1～ 10日	30
		下塗り 第３層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	(ｽﾌﾟﾚｰ 360) ﾊｹ 300	1～ 10日	90
		下塗り 第４層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	(ｽﾌﾟﾚｰ 360) ﾊｹ 300	1～ 10日	90
		中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗り	(ｽﾌﾟﾚｰ 170) ﾊｹ 140	1～ 10日	30
		上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗り	(ｽﾌﾟﾚｰ 140) ﾊｹ 120		25

塗装面積　集計表（落橋防止構造）

項　目	記号	単位	数　量			摘 要
			上り線		合計	
			P8橋脚（終点側）	P10橋脚（起点側）		
新設部材接触面	－	m2	2.3	1.4	3.7	
境界部	－	m2	1.3	0.7	2.0	
一般部外面	C-5	m2	4.7	3.0	7.7	
高力ボルト接合部および現場溶接部（外面）	F3	m2	2.8	1.8	4.6	
高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）（外面）	F11	m2	0.6	0.4	1.0	

塗装面積　集計表（落橋防止構造）

項　目	記号	単位	数　量			摘 要
			下り線		合計	
			P8橋脚（終点側）	P10橋脚（起点側）		
新設部材接触面	－	m2	2.4	1.4	3.8	
境界部	－	m2	1.4	0.8	2.2	
一般部外面	C-5	m2	4.8	3.0	7.8	
高力ボルト接合部および現場溶接部（外面）	F3	m2	2.8	1.8	4.6	
高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）（外面）	F11	m2	0.6	0.4	1.0	

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P8・10橋脚 塗分け区分図（上下線）（その２）		
縮　尺	－	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

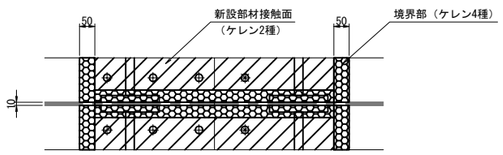
P15・19橋脚 塗分け区分図（上り線）（その１）S=1:20

落橋防止構造

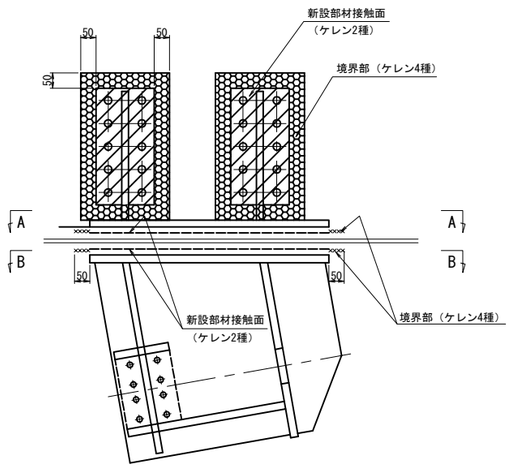
既設構造塗替塗装

A － A 断面図

フランジ上面

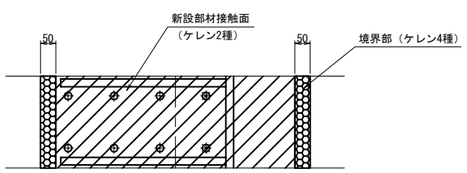


側面



B － B 断面図

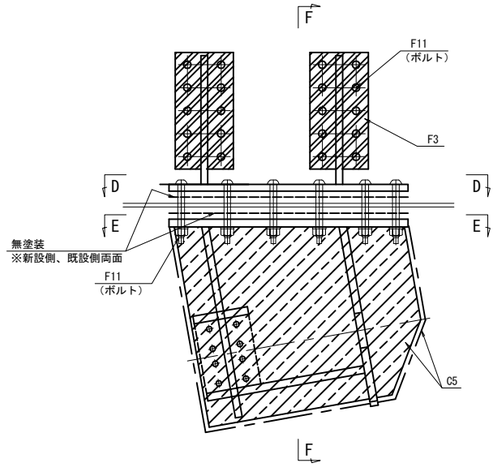
フランジ下面



新設構造塗装区分

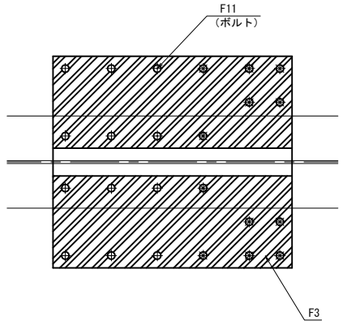
C － C 断面図

側面



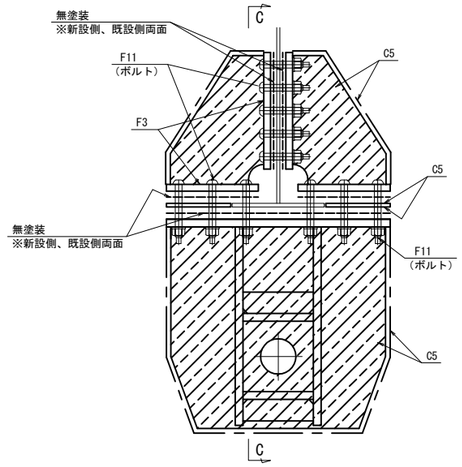
D － D 断面図

（上面）



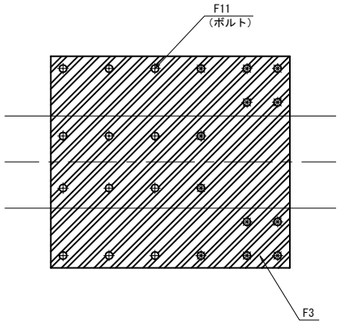
F － F 断面図

正面

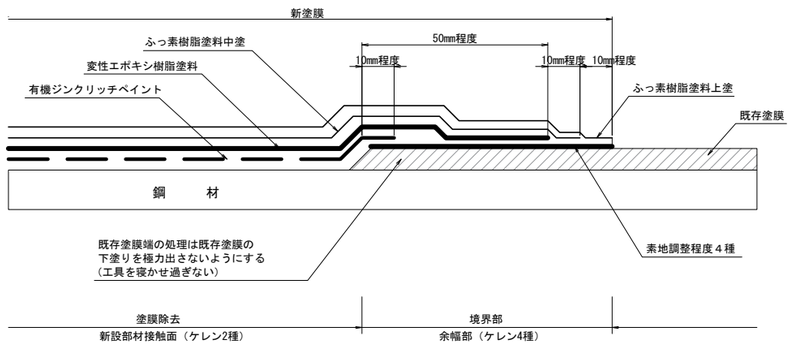


E － E 断面図

（下面）



既存塗膜との境界部の処理



首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15・19橋脚 塗分け区分図（上り線）（その１）		
縮　尺	1:20	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

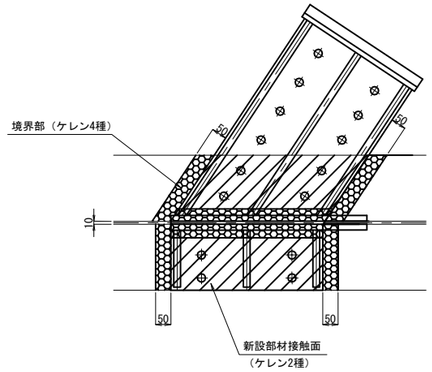
P15・19橋脚 塗分け区分図（上り線）（その２）S=1:20

横変位拘束構造

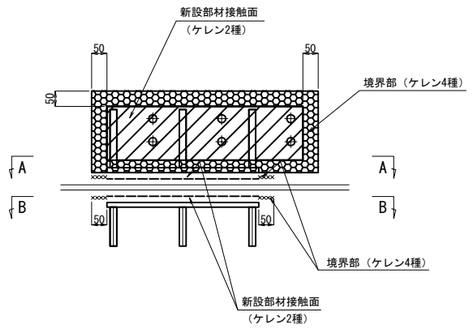
既設構造塗替塗装

A － A 断面図

フランジ上面

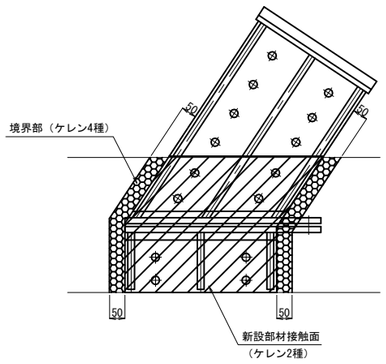


側面



B － B 断面図

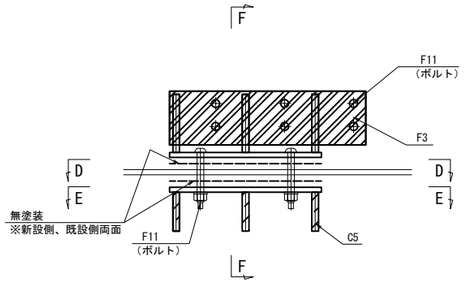
フランジ下面



新設構造塗装区分

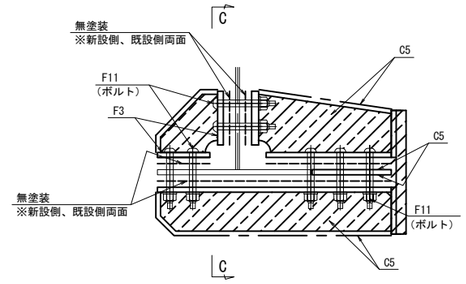
C － C 断面図

側面



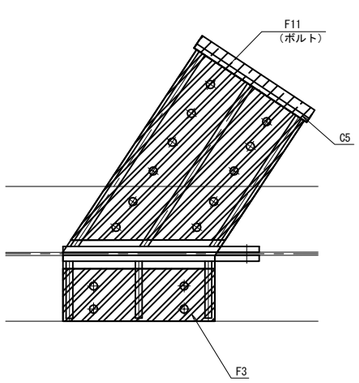
F － F 断面図

正面



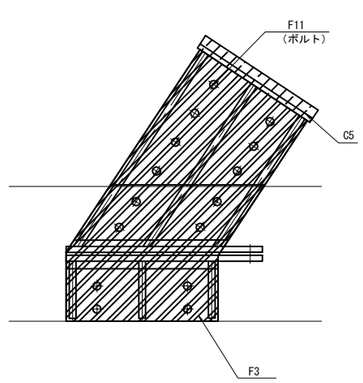
D － D 断面図

（上面）

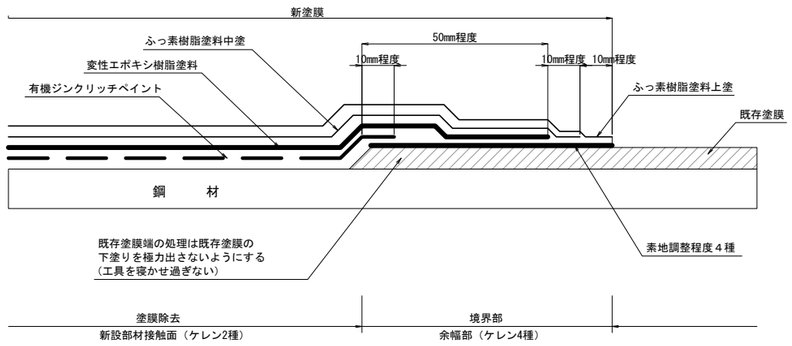


E － E 断面図

（下面）



既存塗膜との境界部の処理



首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15・19橋脚 塗分け区分図（上り線）（その２）		
縮　尺	1:20	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P15・19橋脚 塗分け区分図（上り線）（その３）

塗 装 仕 様

一般部の塗装系

記 号	工 程		塗料または素地調整程度	標 準 使用量 (g/m2)	塗装間隔	標 準 膜 厚 (μm)
C (C5)	前処理	素地調整	G-a	－		－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚｰ 160	2hr以内 ～ 6ヶ月	15
	工場塗装	２次素地調整	G-a	－		－
		下塗り 第１層	無機ジンクリッチペイント	ｽﾌﾟﾚｰ 600	2hr以内 2～ 10日	75
		ミストコート	エポキシ樹脂塗料下塗りあるいは 厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	ｽﾌﾟﾚｰ 160	1～ 10日	－
		下塗り 第２層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	ｽﾌﾟﾚｰ 540	1～ 10日	120
		中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗り	ｽﾌﾟﾚｰ 170	1～ 10日	30
		上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗り	ｽﾌﾟﾚｰ 140		25

一般部（外面）の塗装系（境界部塗装）

記 号	工 程		塗料または素地調整程度	標 準 使用量 (g/m2)	塗装間隔	標 準 膜 厚 (μm)
境界部	現場塗装 (4種)	素地調整	4種	－	4hr以内	－
		下塗り	変性エポキシ樹脂塗料下塗り	ﾊｹ 200	1～ 10日	60
		中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗り	ﾊｹ 140	1～ 10日	30
		上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗り	ﾊｹ 120		25

高力ボルト接触部および現場溶接部（熱影響部以外）の塗装系

記 号	工 程		塗料または素地調整程度	標 準 使用量 (g/m2)	塗装間隔	標 準 膜 厚 (μm)
F3	前処理	素地調整	G-a	－		－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	ｽﾌﾟﾚｰ 160	2hr以内 ～ 6ヶ月	17
	工場塗装	２次素地調整	G-a	－		－
		下塗り 第１層	有機ジンクリッチペイント	ｽﾌﾟﾚｰ 600	2hr以内 2日 ～ 12ヶ月	75
	現場塗装	ミストコート 下塗り	変性エポキシ樹脂塗料下塗りあるいは 厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	(ｽﾌﾟﾚｰ 160) ﾊｹ 130	1～ 10日	－
		下塗り 第２層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	(ｽﾌﾟﾚｰ 360) ﾊｹ 300	1～ 10日	90
		下塗り 第３層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	(ｽﾌﾟﾚｰ 360) ﾊｹ 300	1～ 10日	90
		中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗り	(ｽﾌﾟﾚｰ 170) ﾊｹ 140	1～ 10日	30
		上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗り	(ｽﾌﾟﾚｰ 140) ﾊｹ 120		25

高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系

記 号	工 程		塗料または素地調整程度	標 準 使用量 (g/m2)	塗装間隔	標 準 膜 厚 (μm)
F11	現場塗装	素地調整	G-c	－		－
		下塗り 第１層	有機ジンクリッチペイント	ﾊｹ 240	2hr以内 1～ 10日	30
		下塗り 第２層	有機ジンクリッチペイント	ﾊｹ 240	1～ 10日	30
		下塗り 第３層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	(ｽﾌﾟﾚｰ 360) ﾊｹ 300	1～ 10日	90
		下塗り 第４層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗り（120μm）	(ｽﾌﾟﾚｰ 360) ﾊｹ 300	1～ 10日	90
		中塗り	ふっ素樹脂塗料用中塗り	(ｽﾌﾟﾚｰ 170) ﾊｹ 140	1～ 10日	30
		上塗り	ふっ素樹脂塗料用上塗り	(ｽﾌﾟﾚｰ 140) ﾊｹ 120		25

塗装面積　集計表（落橋防止構造）

項　目	記号	単位	数　量			摘 要
			上り線		合計	
			P15橋脚（終点側）	P19橋脚（起点側）		
新設部材接触面	－	m2	1.5	1.5	3.0	
境界部	－	m2	0.8	0.8	1.6	
一般部外面	C-5	m2	9.0	9.9	18.9	
高力ボルト接合部および現場溶接部（外面）	F3	m2	2.6	3.0	5.6	
高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）（外面）	F11	m2	0.4	0.4	0.8	

塗装面積　集計表（横変位拘束構造）

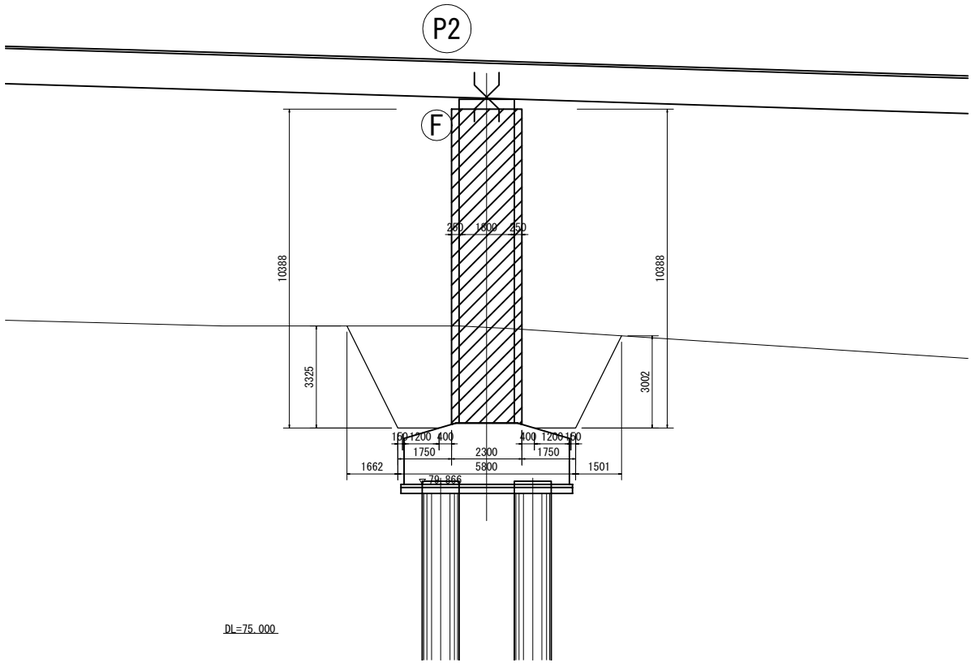
項　目	記号	単位	数　量			摘 要
			上り線		合計	
			P15橋脚（終点側）	P19橋脚（起点側）		
新設部材接触面	－	m2	1.6	1.3	2.9	
境界部	－	m2	0.9	0.9	1.8	
一般部外面	C-5	m2	5.9	4.3	10.2	
高力ボルト接合部および現場溶接部（外面）	F3	m2	2.7	2.4	5.1	
高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）（外面）	F11	m2	0.3	0.3	0.6	

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15・19橋脚 塗分け区分図（上り線）（その３）		
縮　尺	－	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

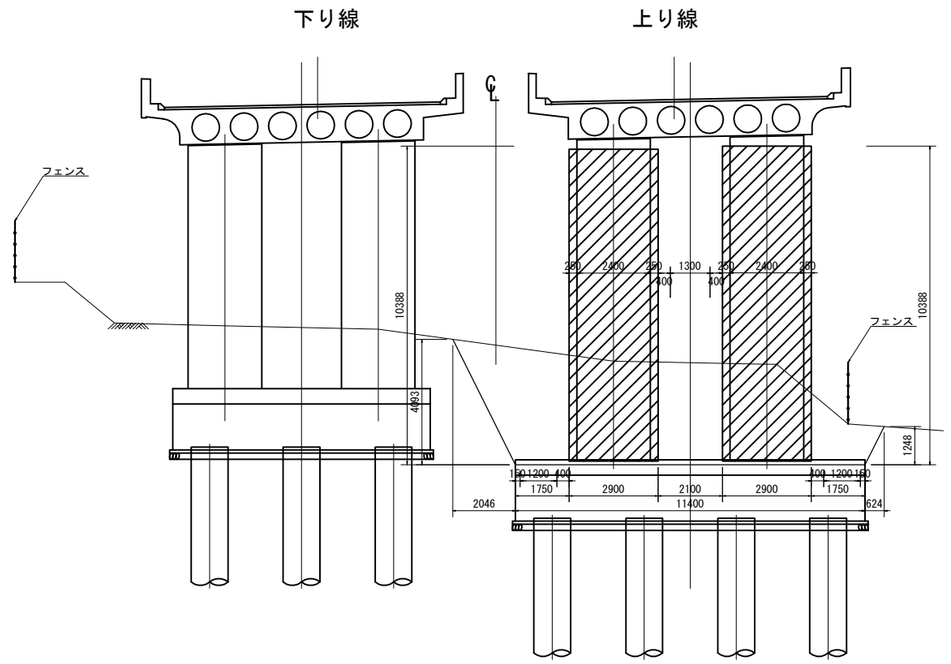
P2橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

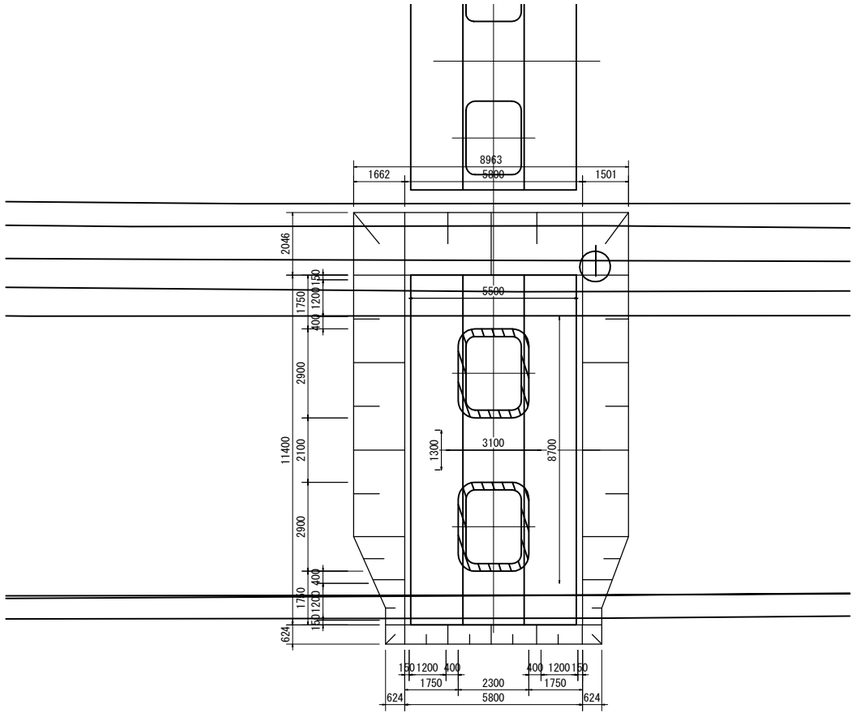
側面図



正面図



平面図



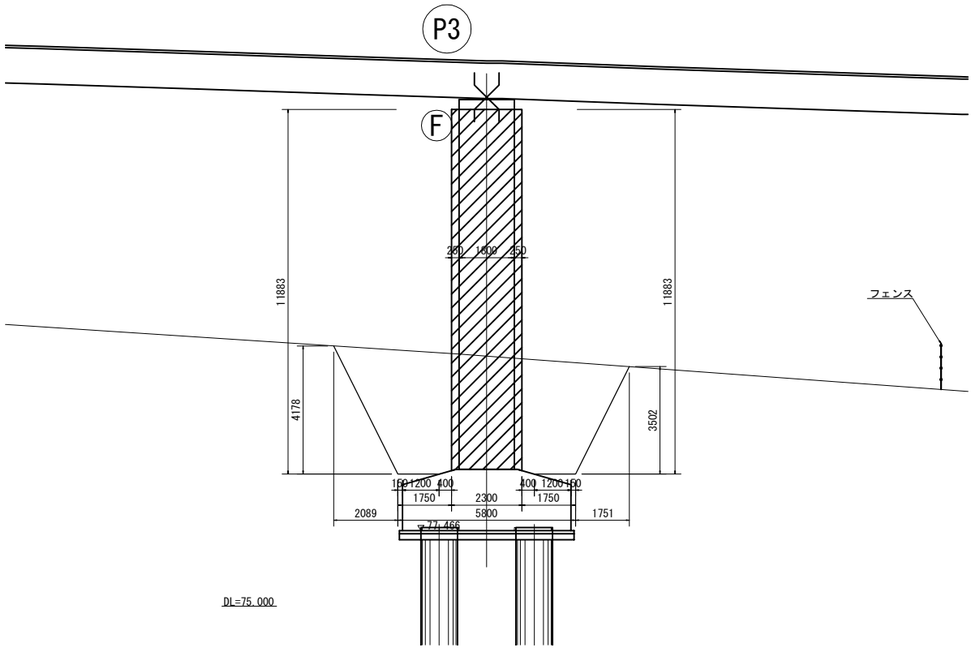
DL=75.000

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P2橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

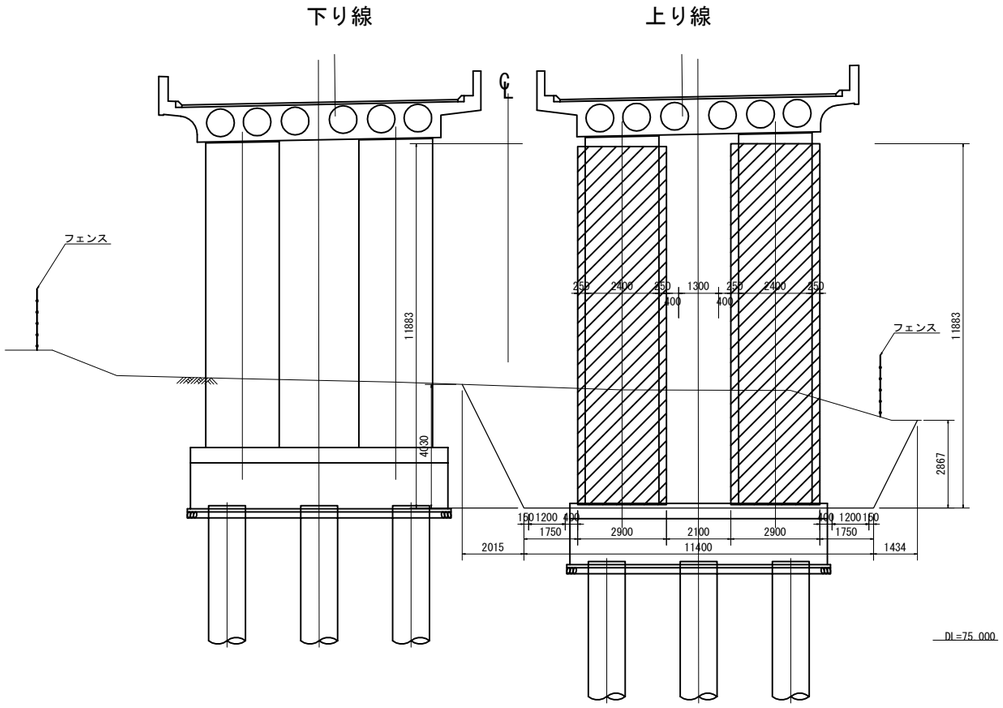
P3橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

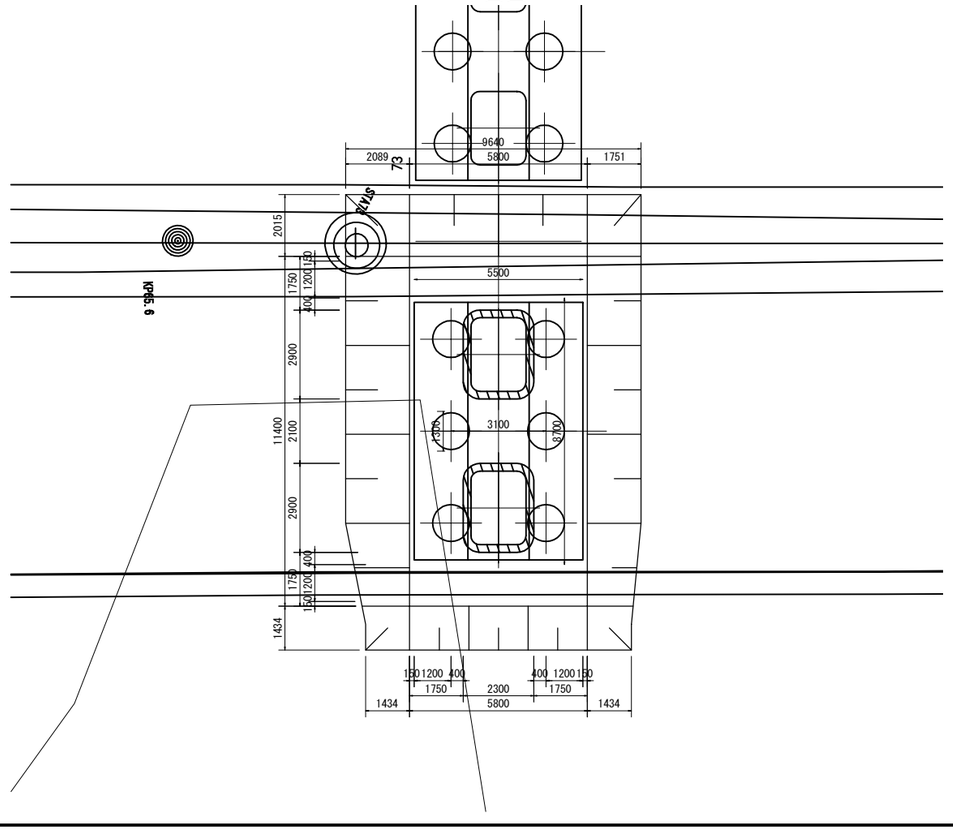
側面図



正面図



平面図

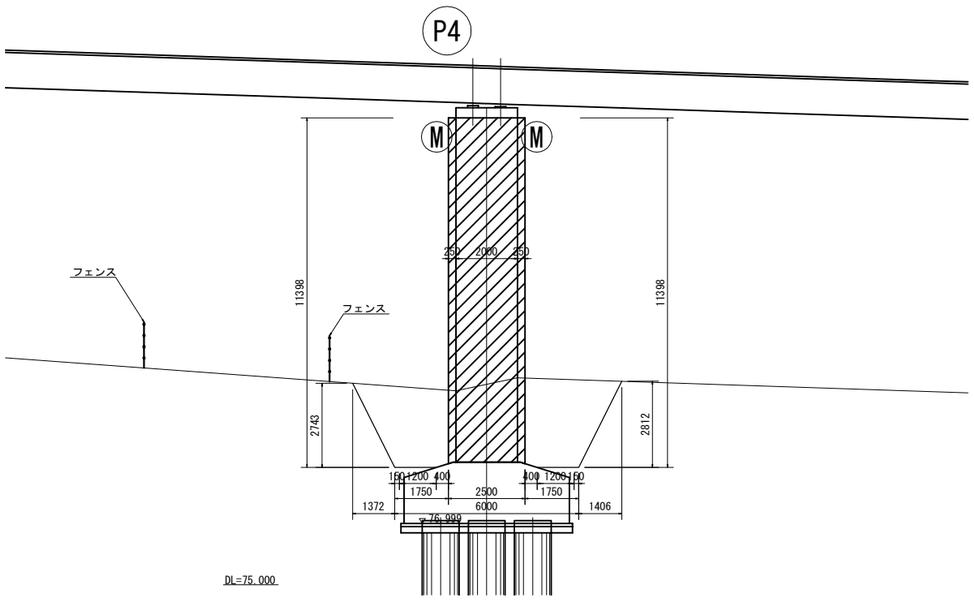


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P3橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

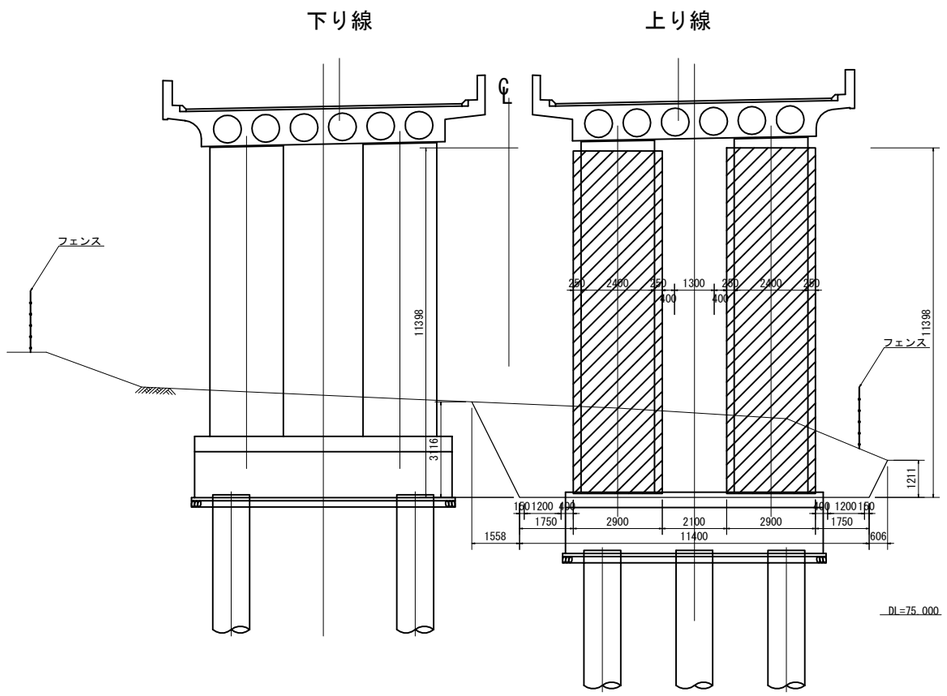
P4橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

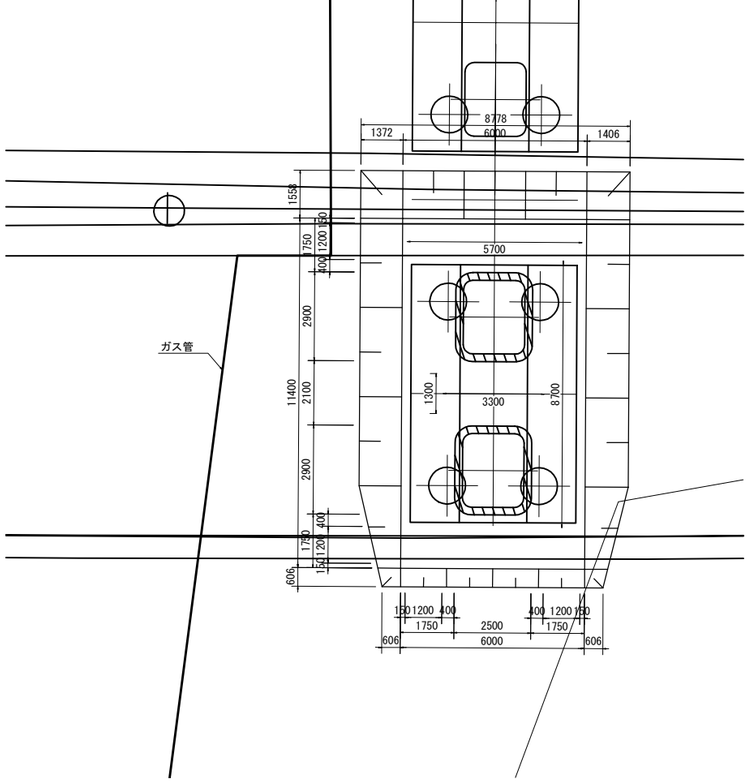
側面図



正面図



平面図

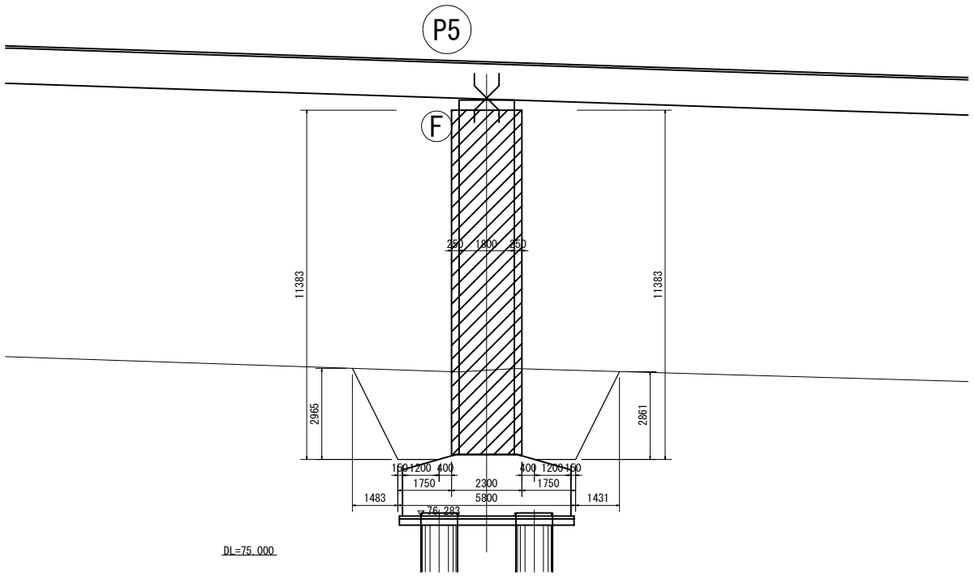


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P4橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

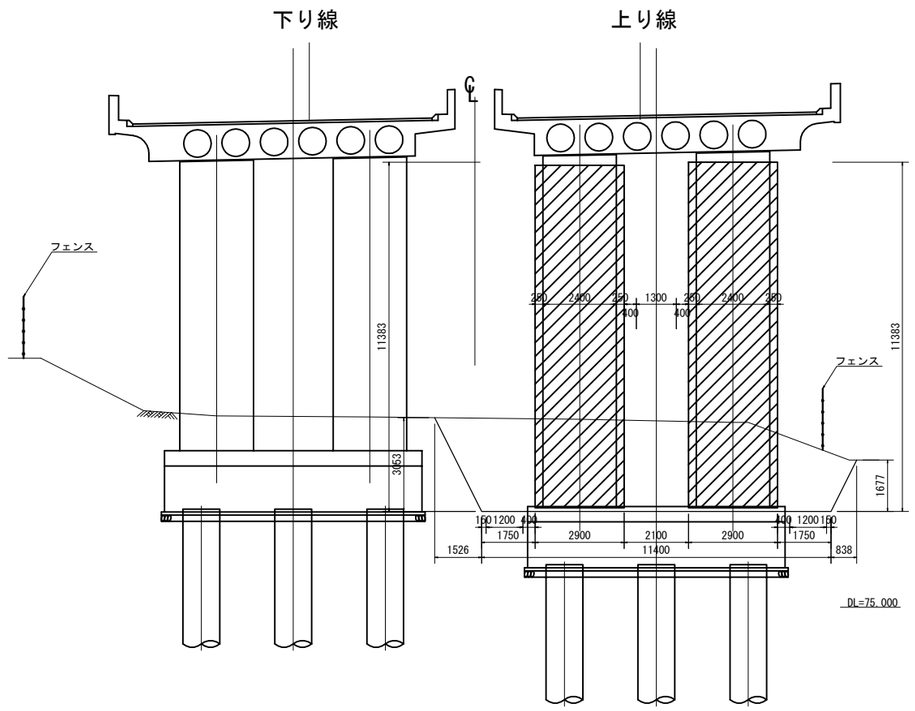
P5橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

側面図



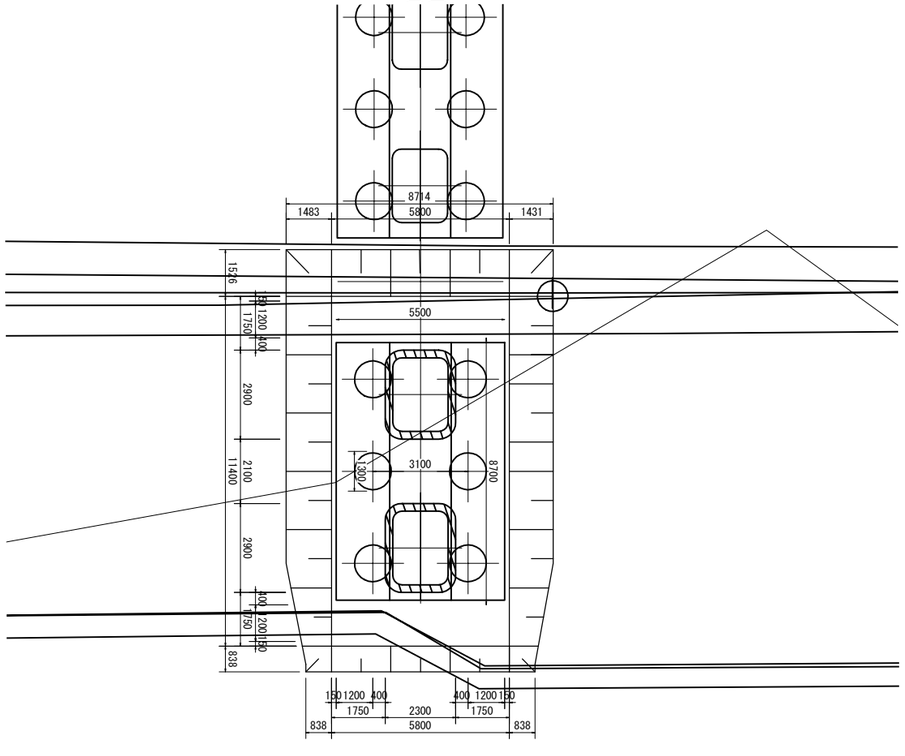
正面図



平面図

下り線

上り線

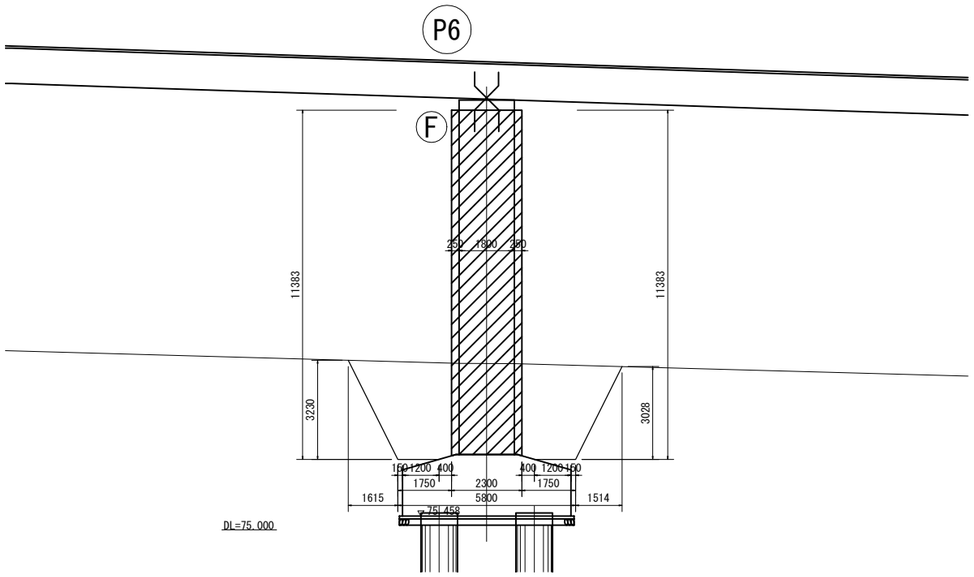


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P5橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

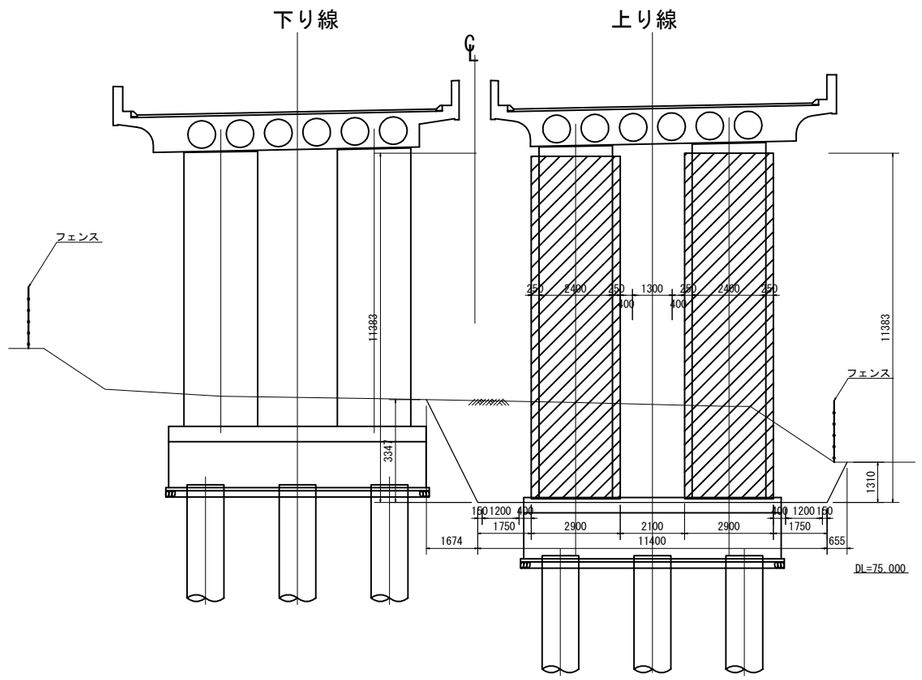
P6橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

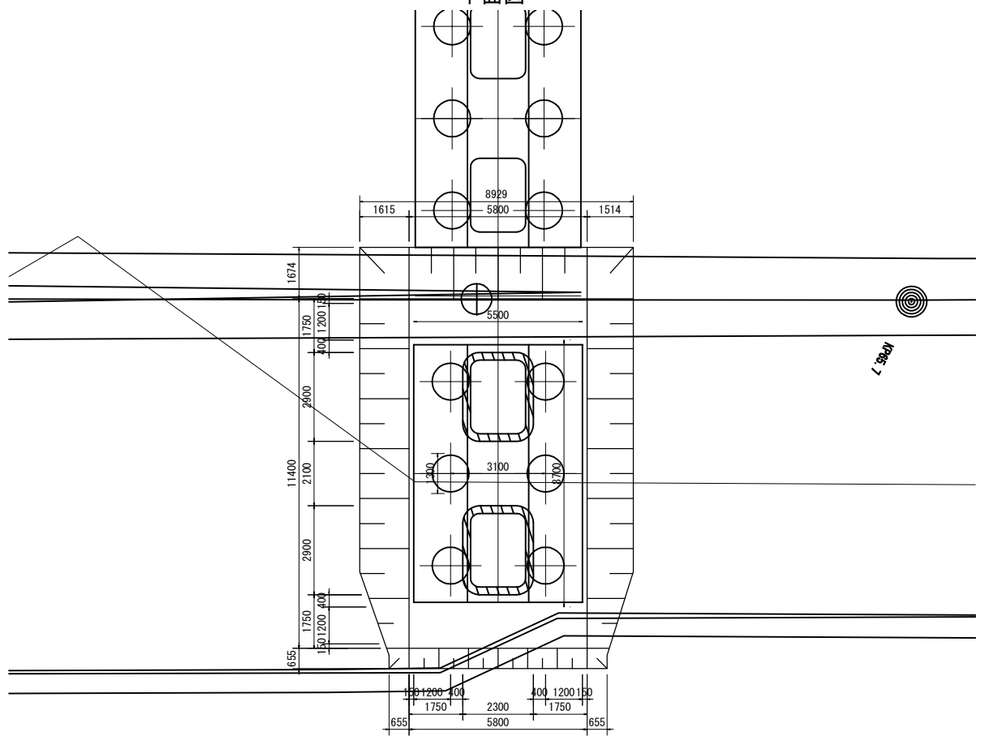
側面図



正面図



平面図

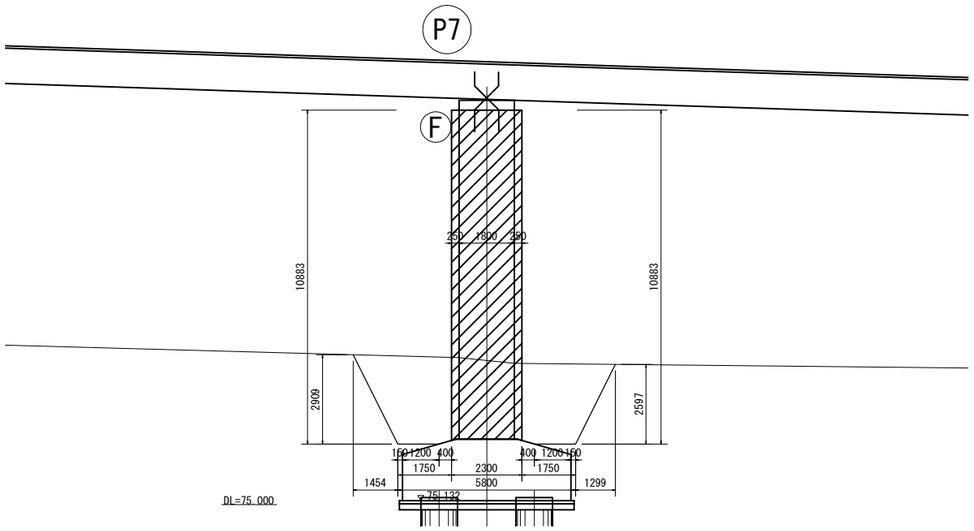


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P6橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

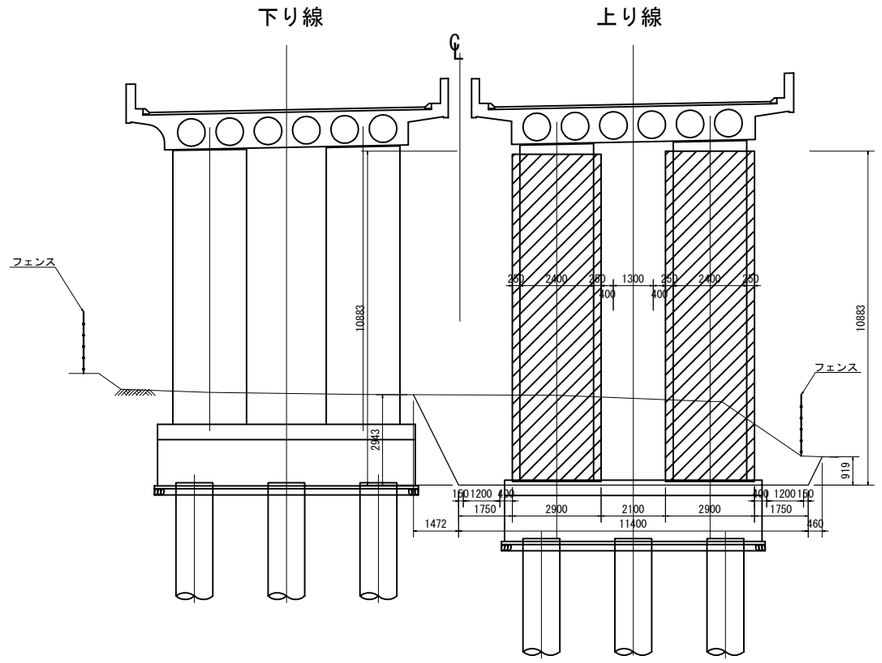
P7橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

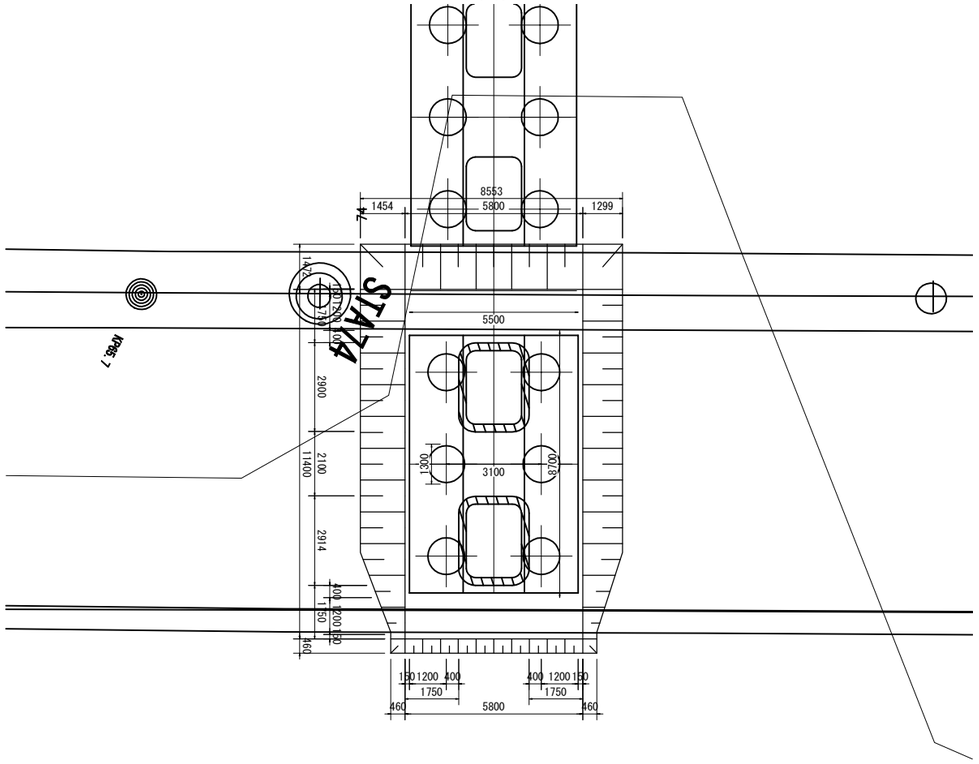
側面図



正面図



平面図

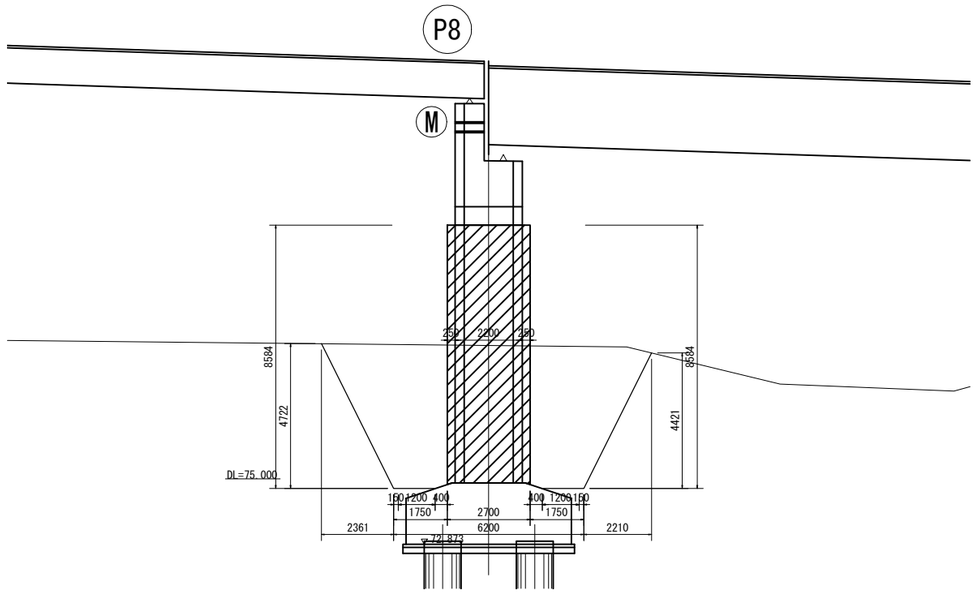


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P7橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

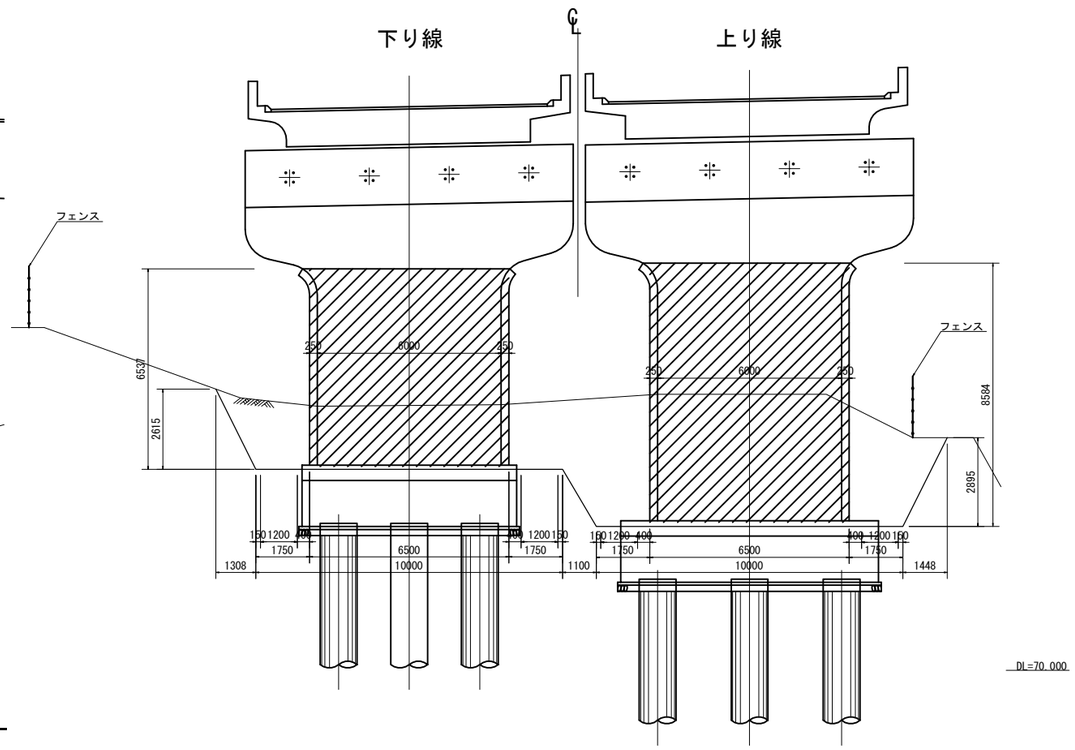
P8橋脚 構造物掘削図（上下線）S=1:200

普通部

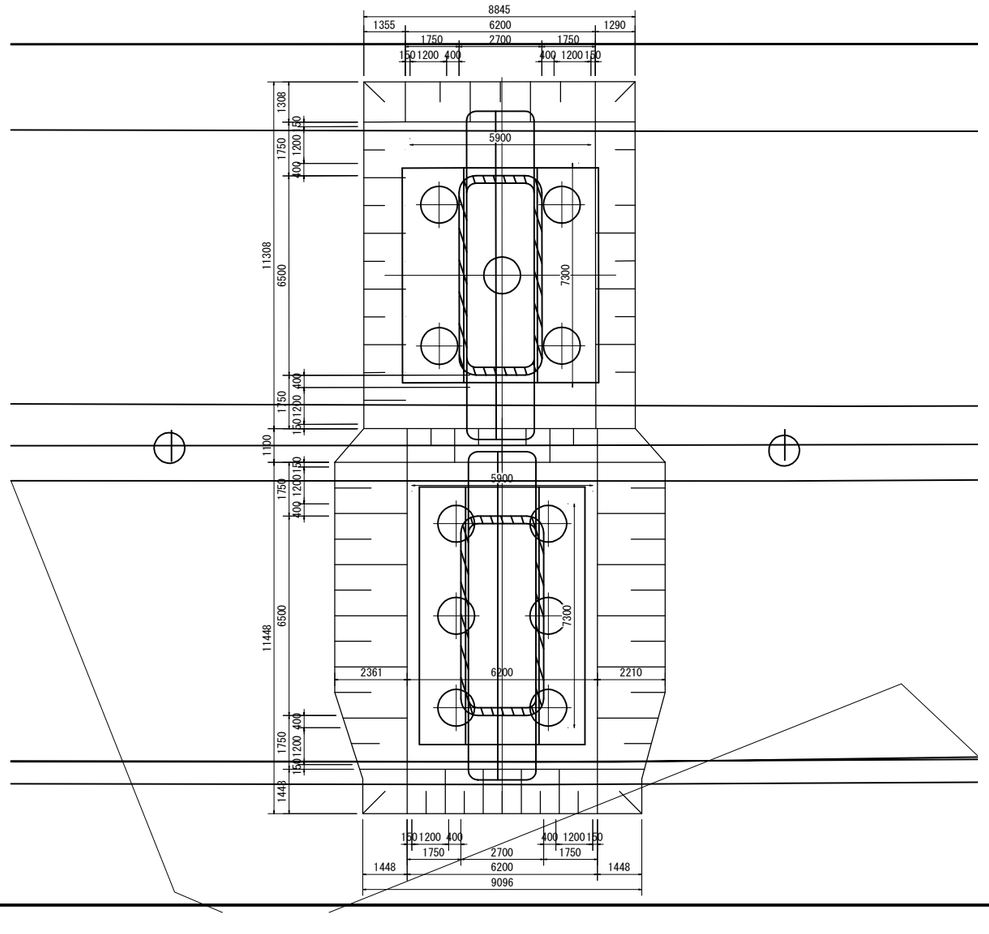
側面図



正面図



平面図



下り線

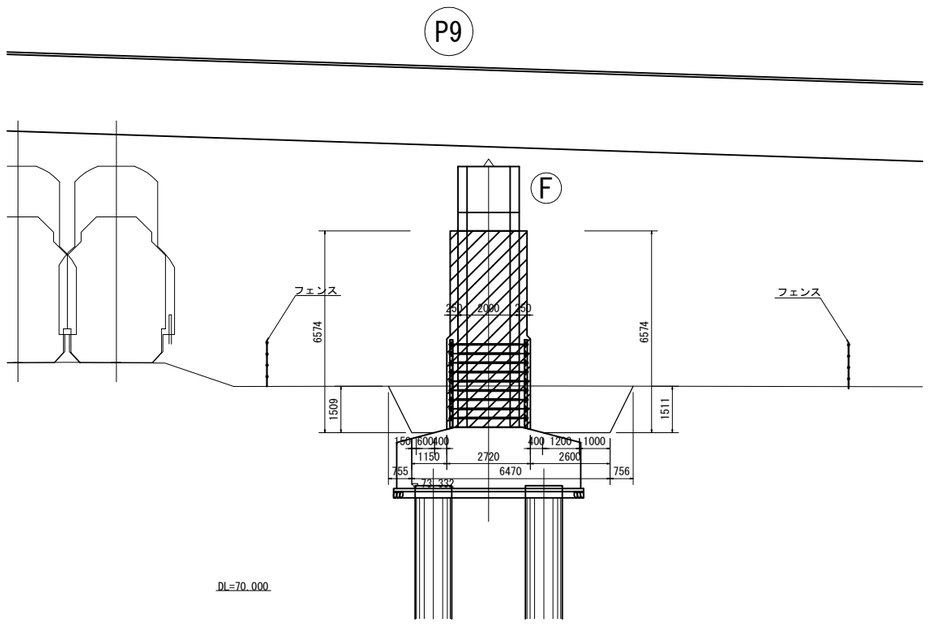
上り線

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P8橋脚 構造物掘削図（上下線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

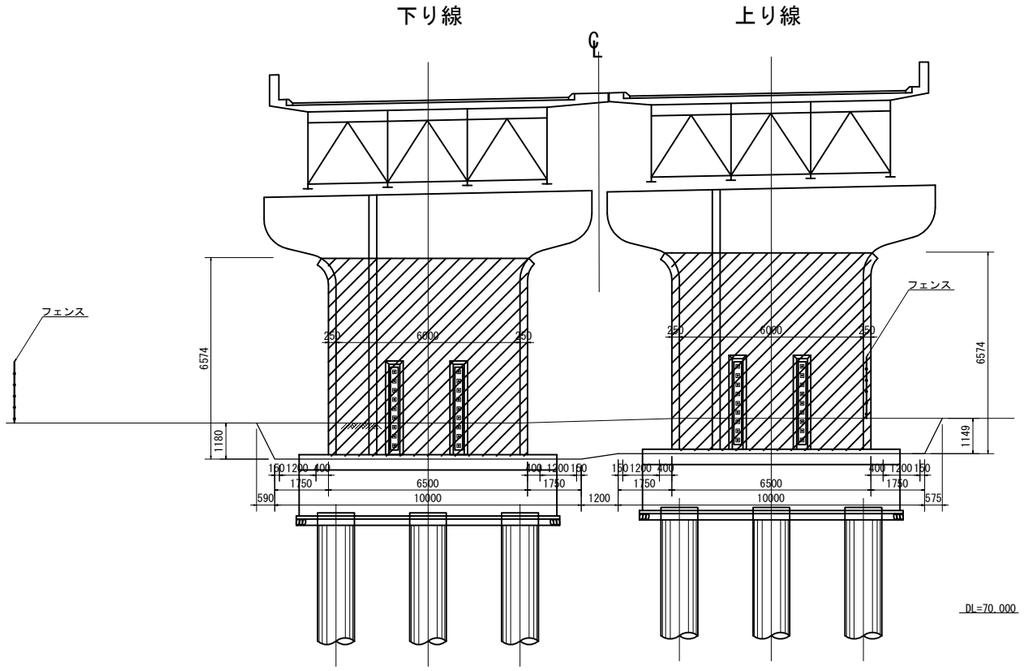
P9橋脚 構造物掘削図（上下線）S=1:200

普通部

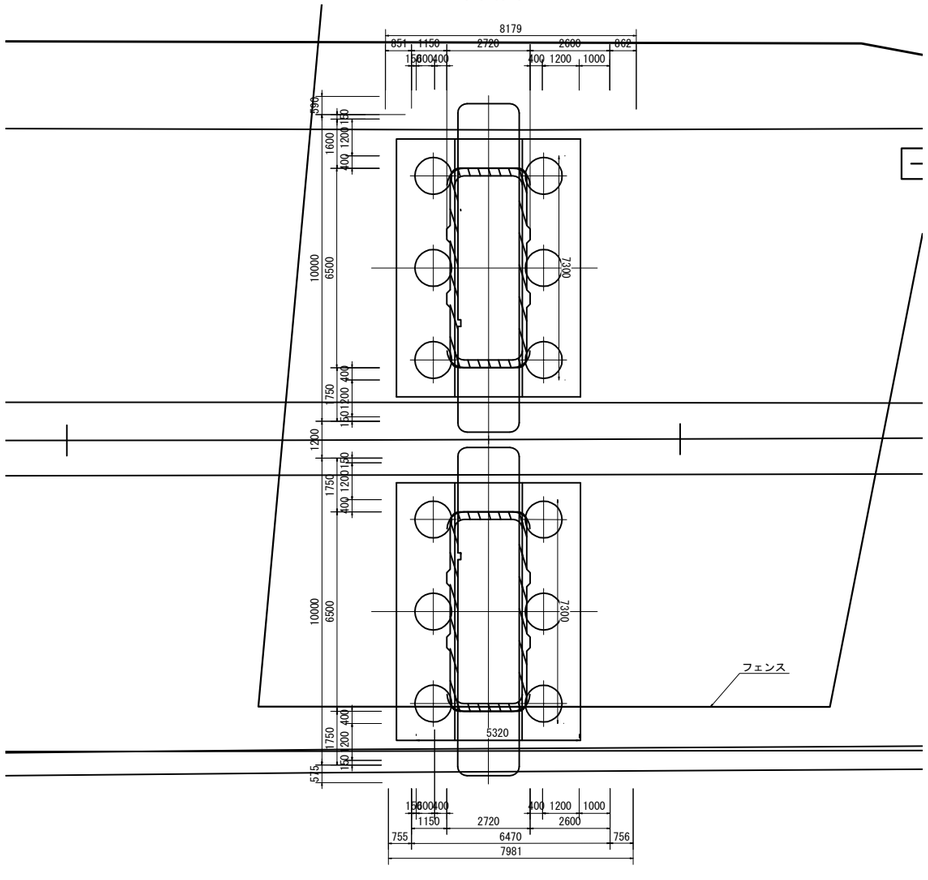
側面図



正面図



平面図

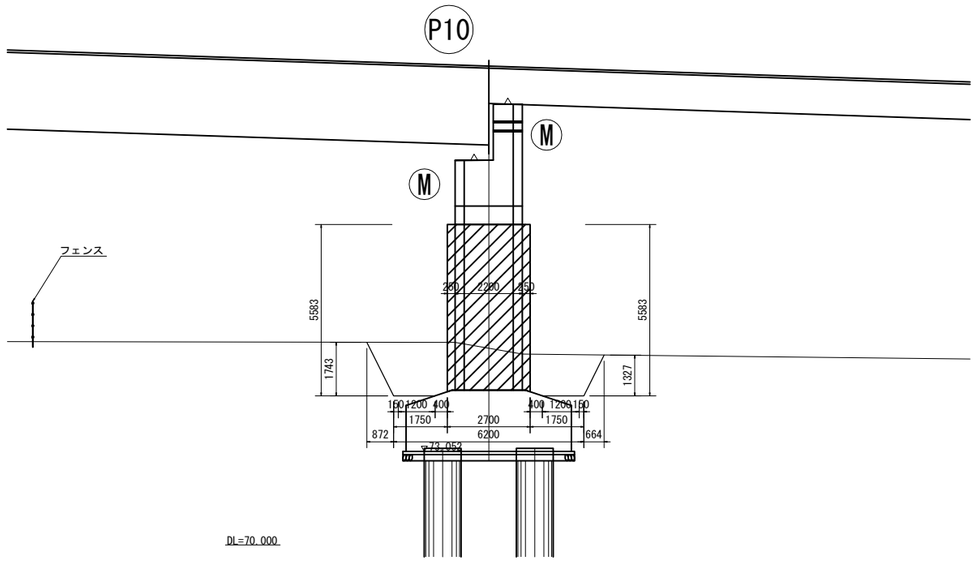


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P9橋脚 構造物掘削図（上下線）
縮尺	1:200 / 図面番号 /
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

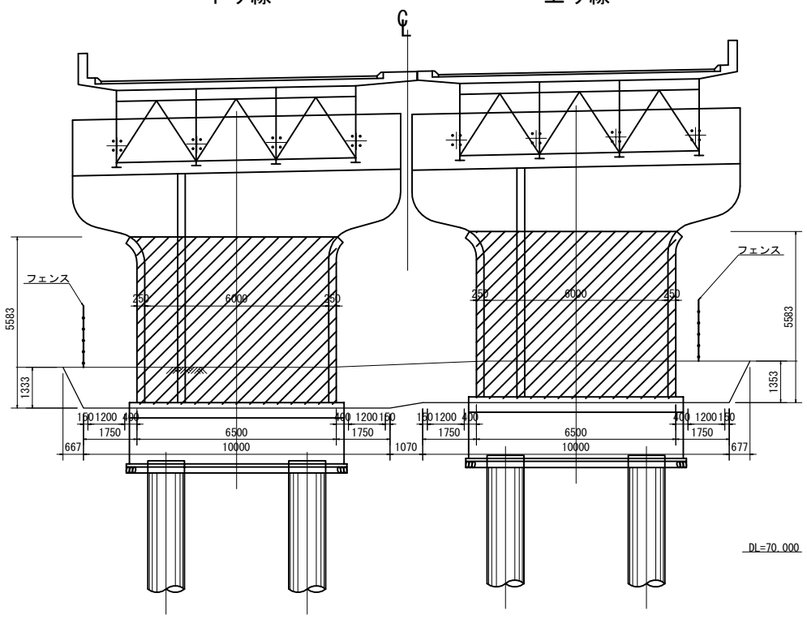
P10橋脚 構造物掘削図（上下線）S=1:200

普通部

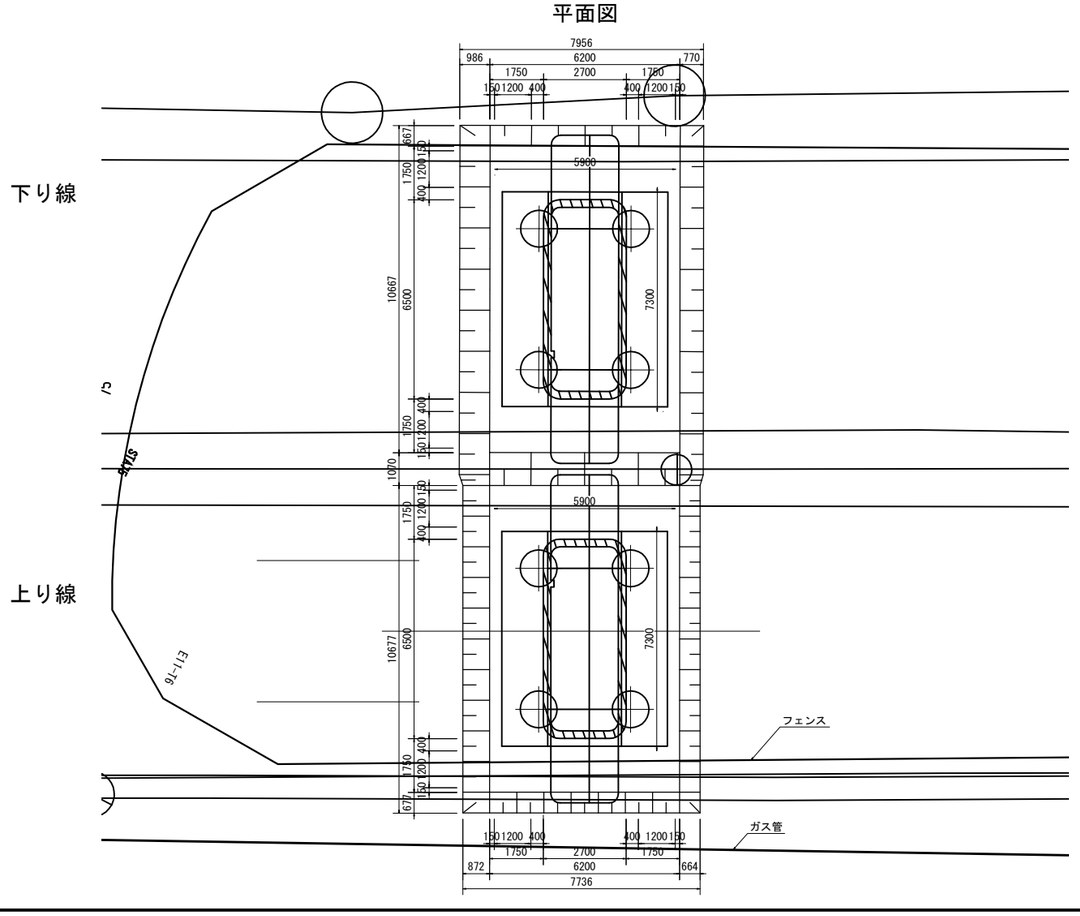
側面図



正面図



平面図

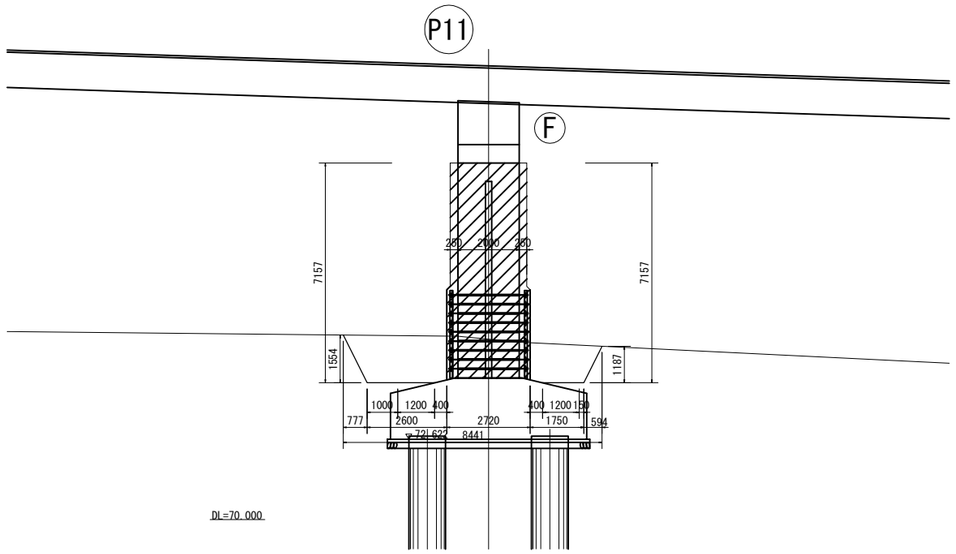


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P10橋脚 構造物掘削図（上下線）
縮尺	1:200
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

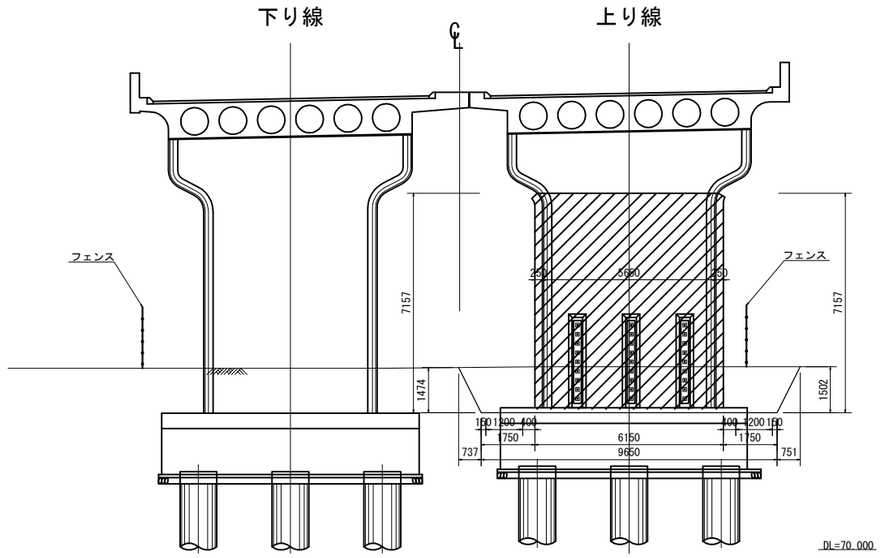
P11橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

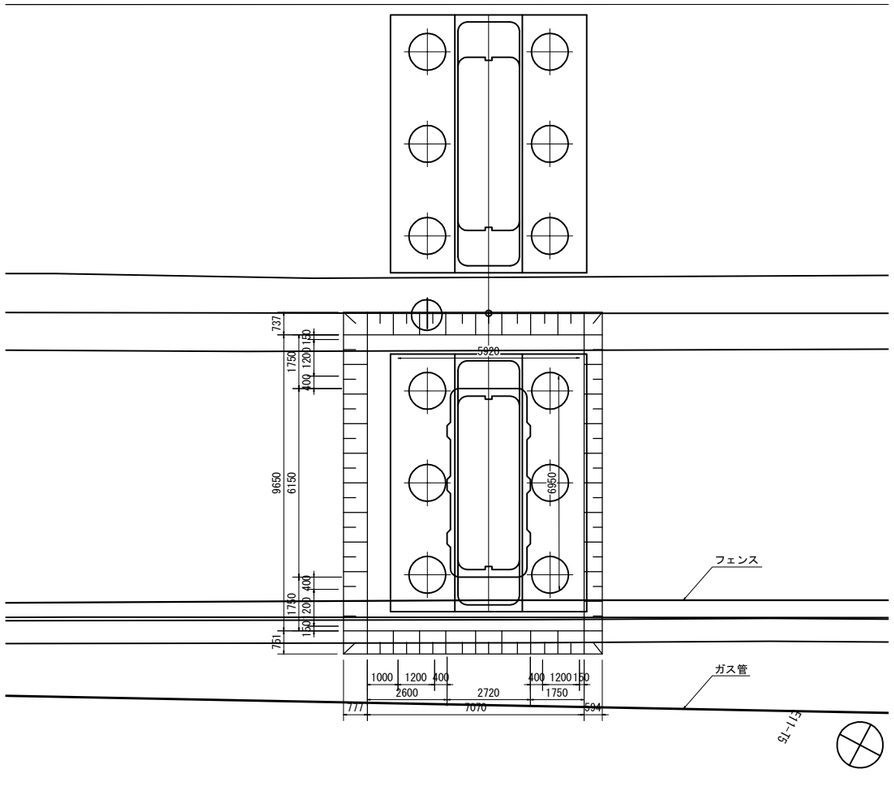
側面図



正面図



平面図

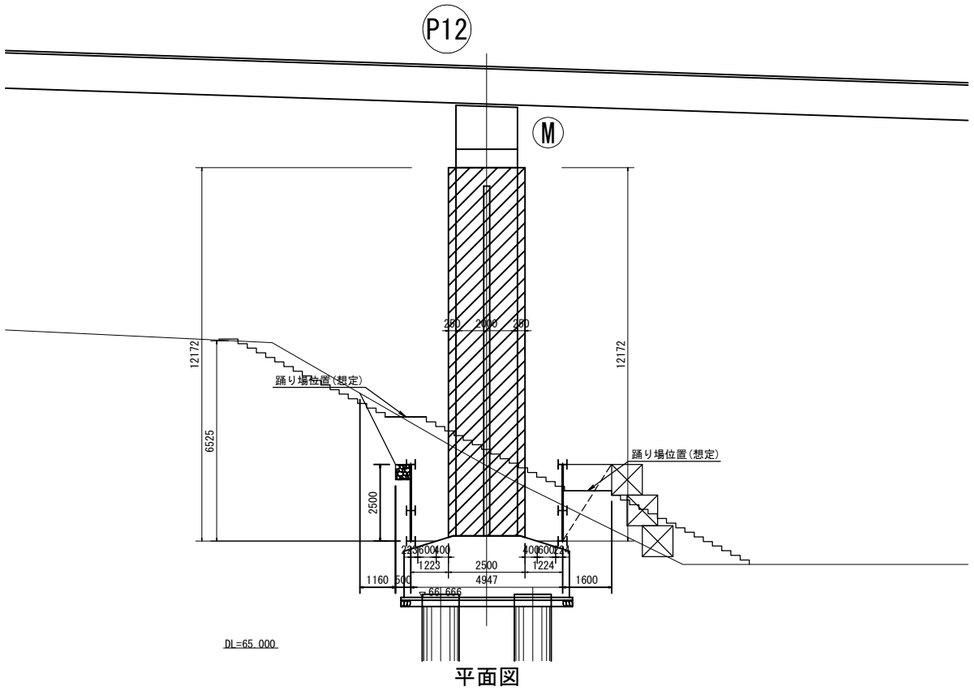


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P11橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

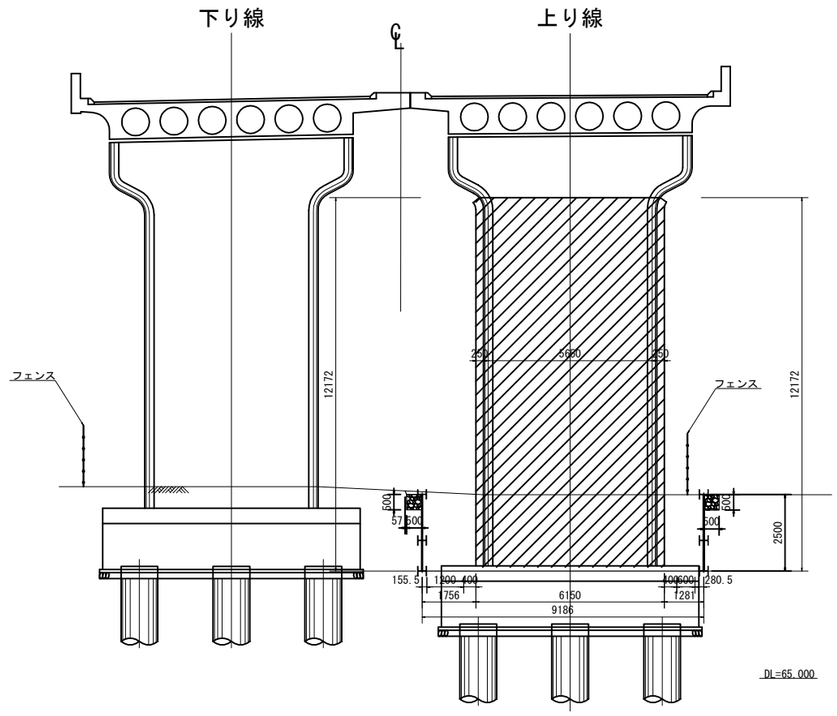
P12橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）S=1:200

特殊部 AP12

側面図



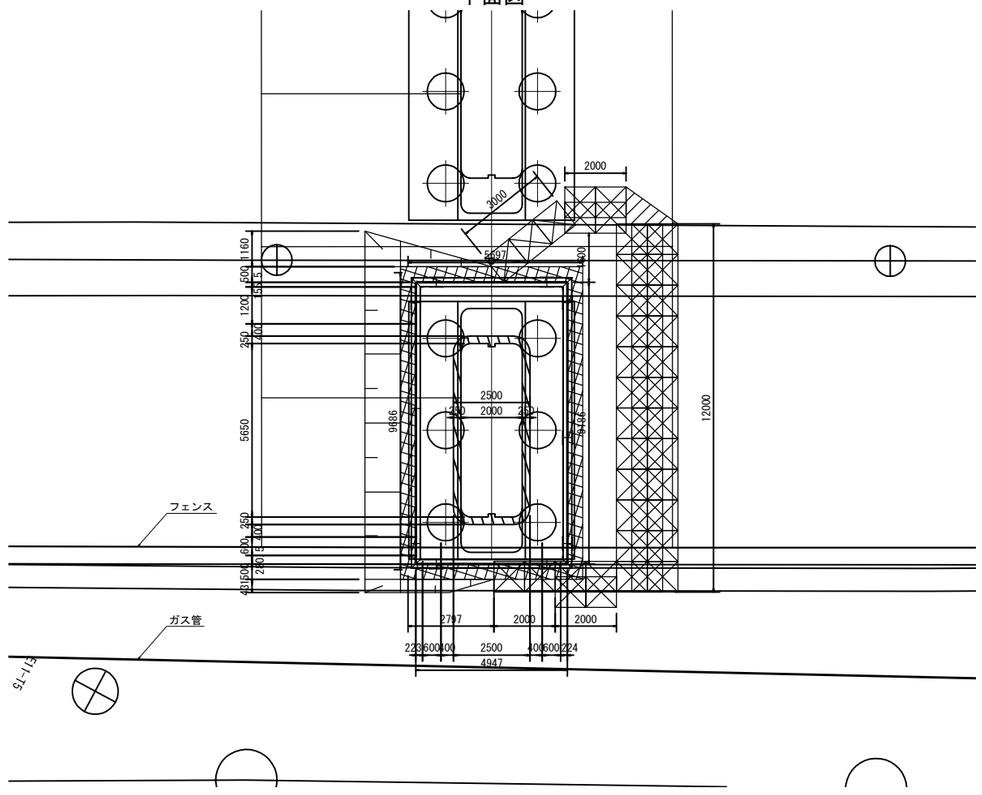
正面図



平面図

下り線

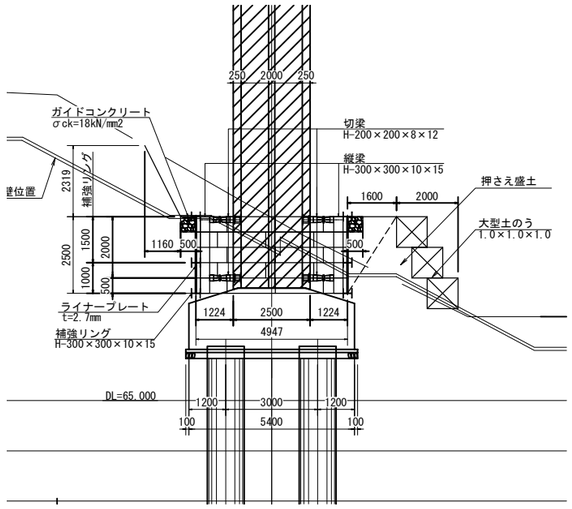
上り線



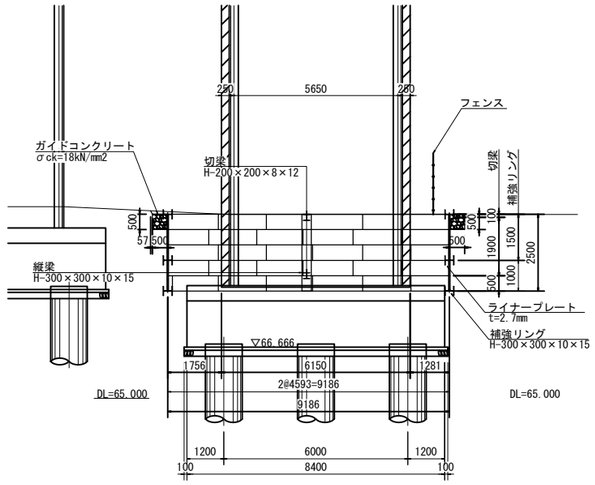
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P12橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P12橋脚 構造物掘削図（上り線）（その２）S=図示

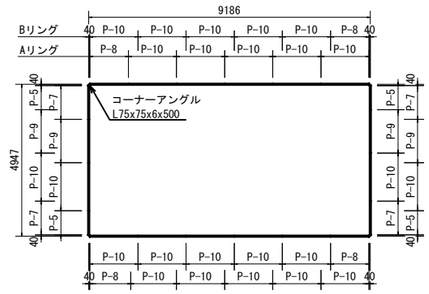
側面図 S=1:200



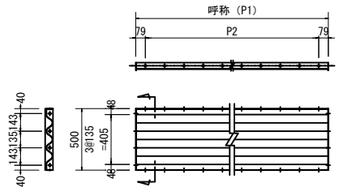
特殊部 AP12
（ライナープレート詳細図）
正面図 S=1:200



ライナープレート構成図 S=1:200

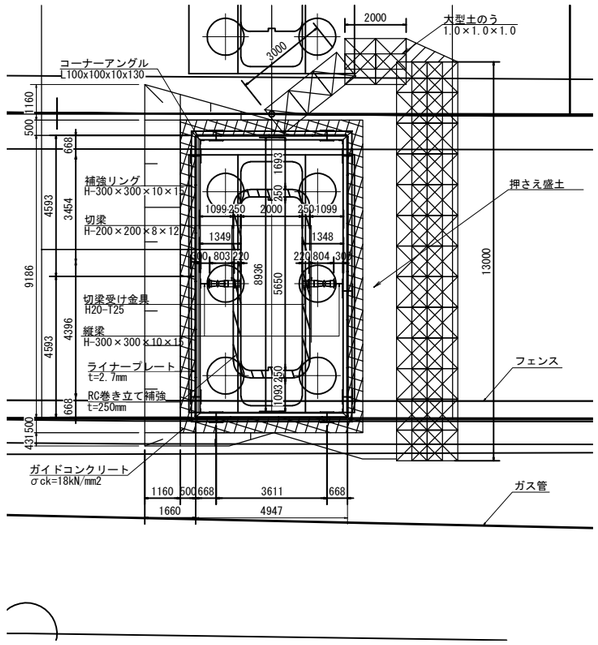


ライナープレート詳細図 S=1:50

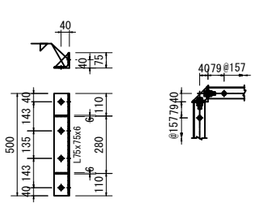


呼称	P1	P2
P-10	1570	9@157= 1413
P-9	1413	8@157= 1256
P-8	1256	7@157= 1099
P-7	1099	6@157= 942
P-5	785	4@157= 628

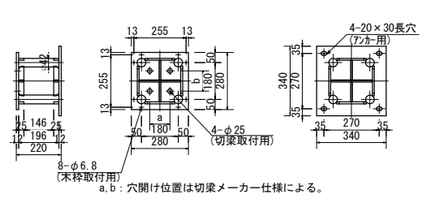
平面図 S=1:200



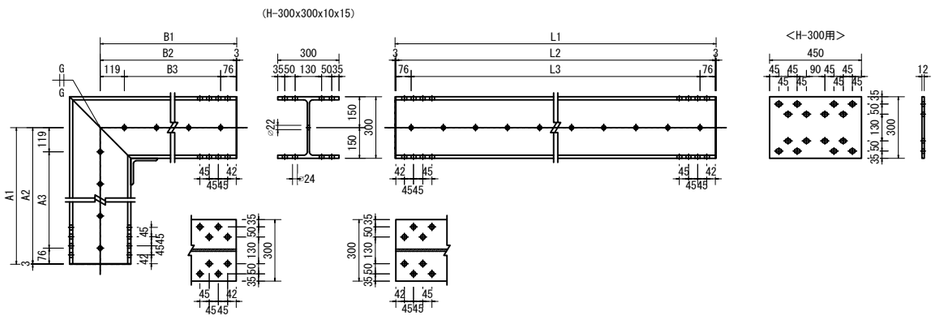
コーナーアングル詳細図(参考図) S=1:30



切梁受け金具詳細図(参考図) S=1:30



補強リング詳細図(参考図) S=1:30



角度部補強リング						
全長	A1	A2	A3	B1	B2	B3
1330	668	665	3 @157= 471	668	665	3 @157= 471

直部補強リング		
L1	L2	L3
3454	3448	21 @157= 3297
3611	3605	22 @157= 3454
4396	4390	27 @157= 4239

材料表

	規 格・寸 法	数量	単位質量 (kg/個)	質量 (kg)	材質	摘 要
ライナープレート	P-10 t=2.7 直材	60	26.0	1,560.0	SS330	黒皮品
	P-9 t=2.7 直材	10	23.6	236.0	SS330	黒皮品
	P-8 t=2.7 直材	10	21.1	211.0	SS330	黒皮品
	P-7 t=2.7 直材	10	18.6	186.0	SS330	黒皮品
	PL-5 t=2.7 直材	10	13.7	137.0	SS330	黒皮品
組立ボルト	M16×30 (4.6)	854	0.137	117.0	JIS B 1180	黒皮品
	M16×45 (8.8 リング用)	534	0.158	84.4	JIS B 1180	黒皮品
	M16×45(8.8 CA用)	160	0.158	25.3	JIS B 1180	黒皮品
コーナーアングル	L75×75×6×500 (PL-6付き)	20	3.630	72.6	SS400	黒皮品
補強リング直材	H-300×300×10×15×4390	6	408.0	2,448.0	SS400	黒皮品
	H-300×300×10×15×3605	6	335.0	2,010.0	SS400	黒皮品
	H-300×300×10×15×3448	6	321.0	1,926.0	SS400	黒皮品
	H-300×300×10×15×1330	12	130.0	1,560.0	SS400	黒皮品
継手板	PL-250×12×450	60	12.7	762.0	SM490	黒皮品
継手ボルト	M20×50(8.8)	960	0.286	274.6	SS400	黒皮品
ロックワッシャー	M20用	480			JIS B 1256	黒皮品
切梁受け金具	H20-T25	4				黒皮品
キリンジャッキ	H-20	4				
合 計				11,609.9		

	規 格・寸 法	数量	単位質量 (kg/個)	質量 (kg)	材質	摘 要
縦梁	H-300×300×10×15×2500	2	232.5	465.0	SS400	
切梁	H-200×200×8×12×199	4	9.9	39.6	SS400	
主部材合計				504.6		
副部材A		504.6	×0.22	111.0		
副部材B		504.6	×0.04	20.2		
合 計				635.8		

	名 称	規 格	単位	数量	摘要
コンクリート	ガイドコンクリート	σck=18kN/mm2	m^3	7.6	
	底版コンクリート	σck=18kN/mm2	m^2	30.1	t=10cm

参考数量表

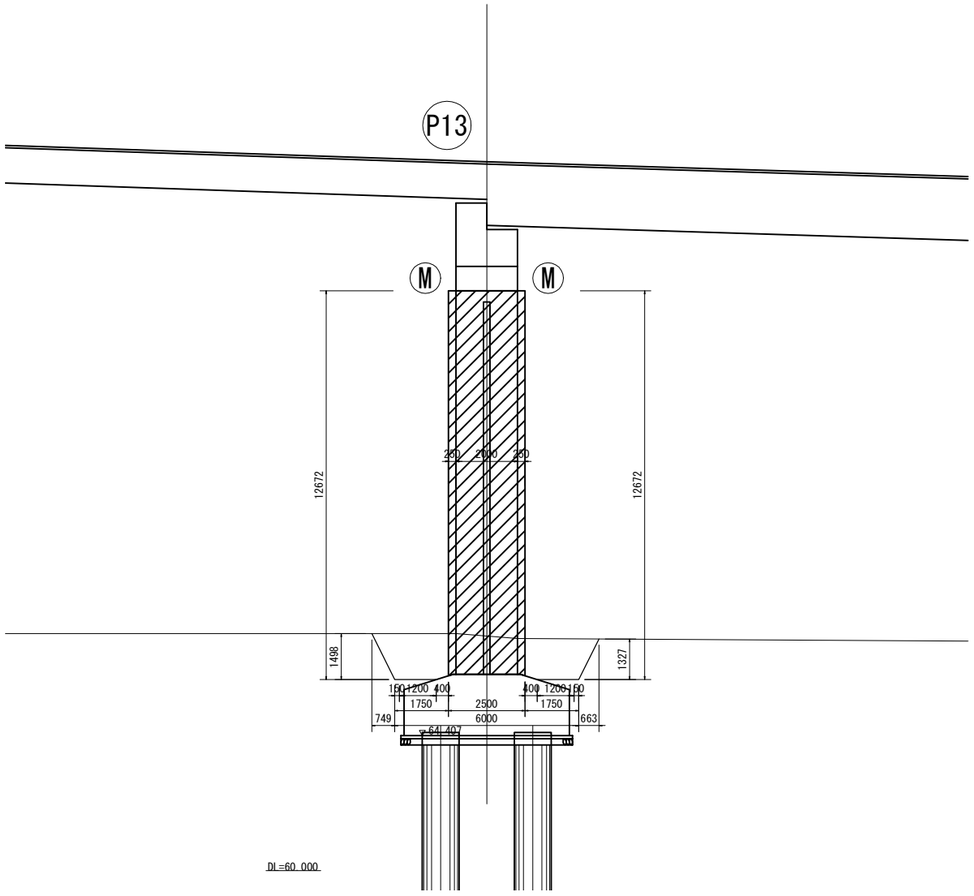
	区分	単位	数量
大型土のう	設置・撤去	袋	49.0
押さえ盛土		m^3	36.1

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P12橋脚 構造物掘削図（上り線）（その２）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

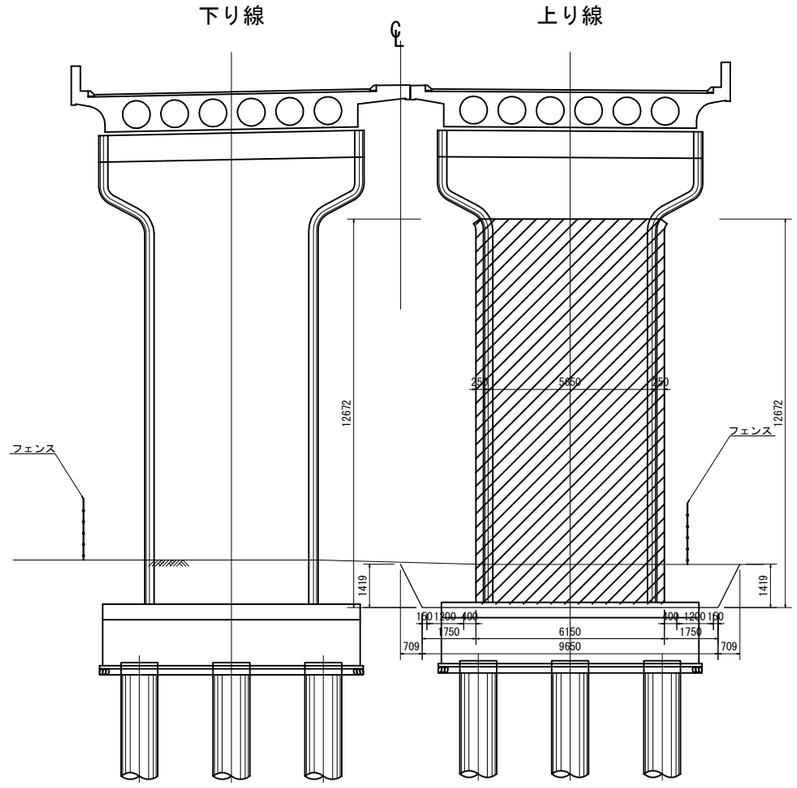
P13橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

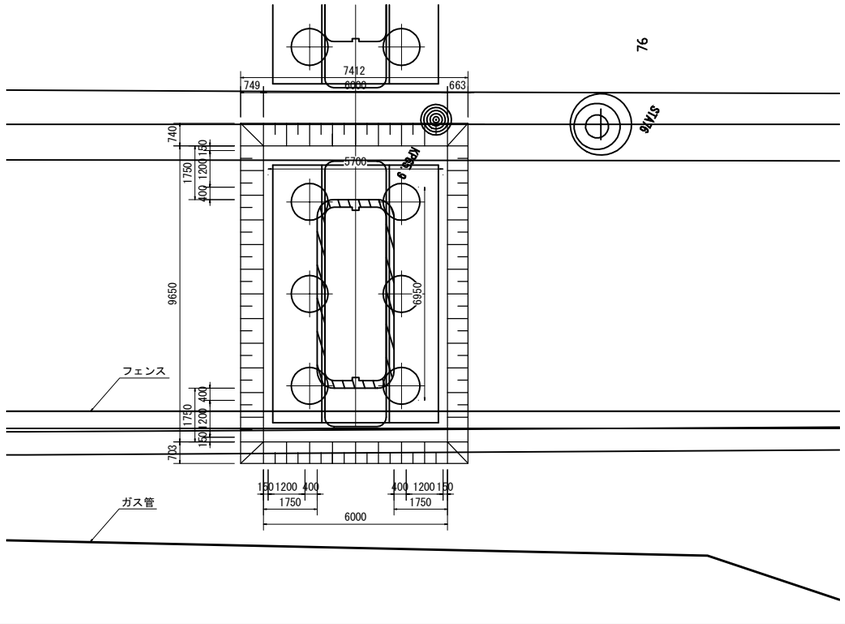
側面図



正面図



平面図

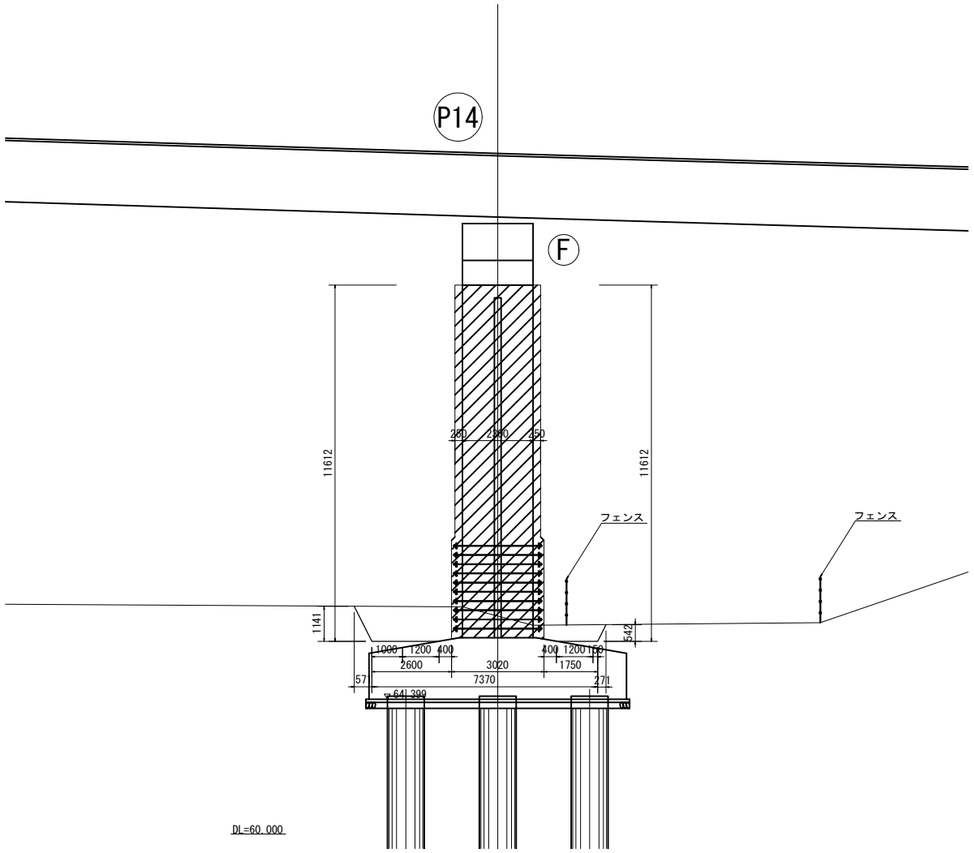


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P13橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

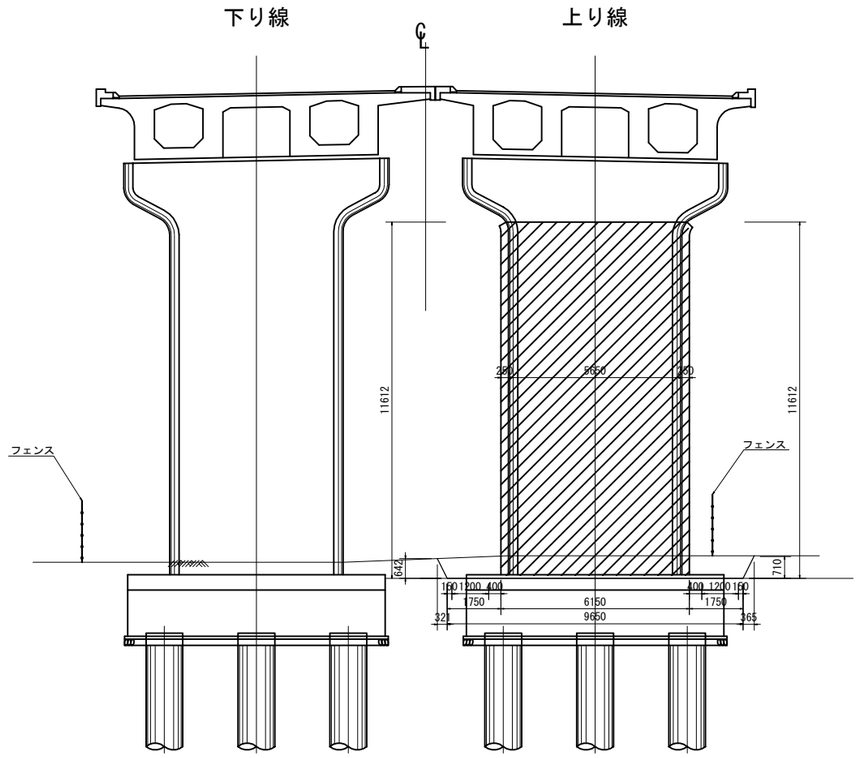
P14橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

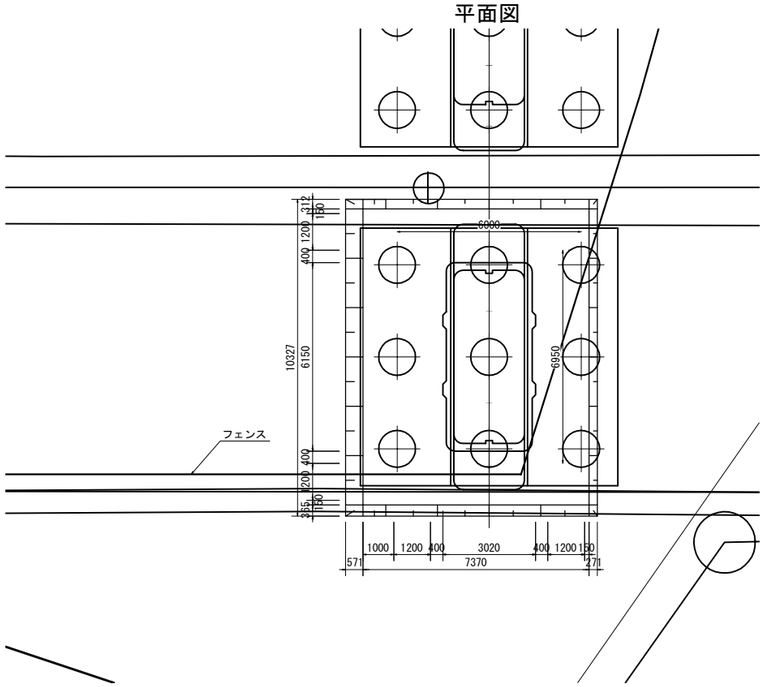
側面図



正面図



平面図

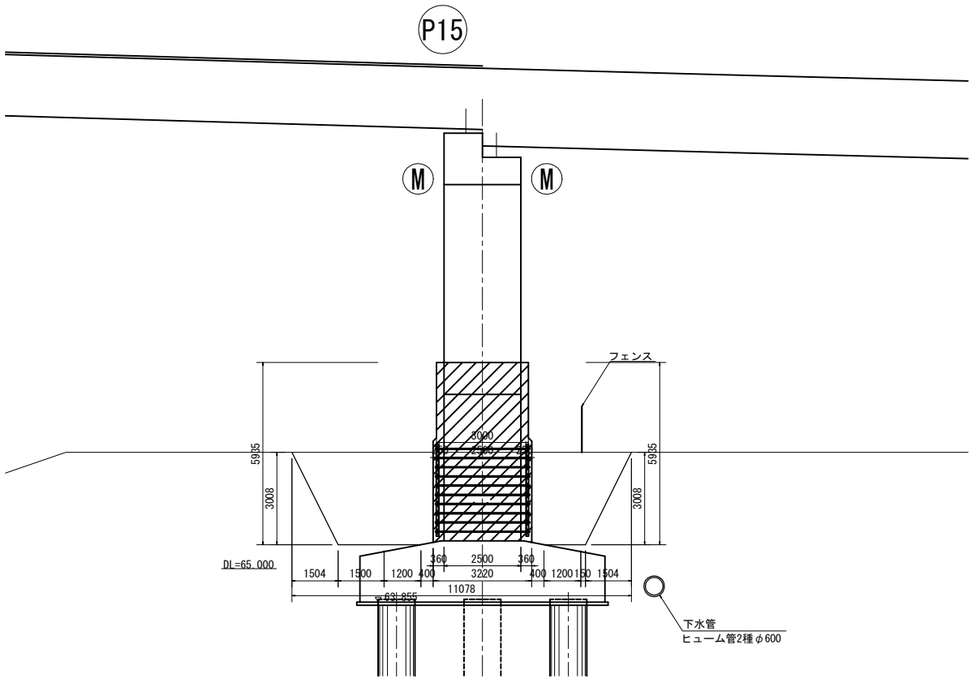


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P14橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

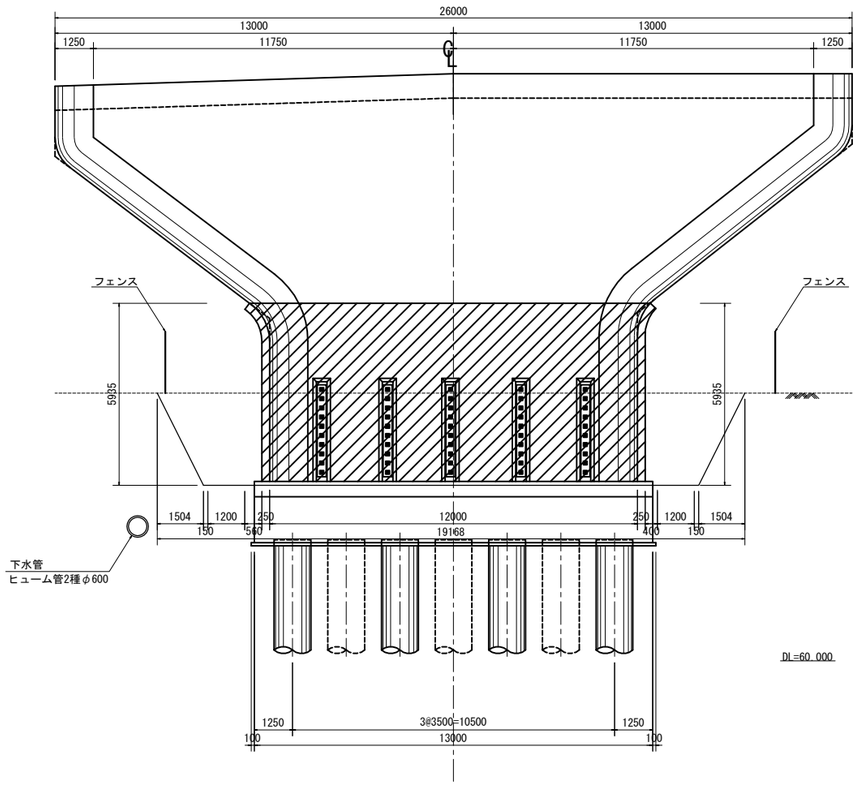
P15橋脚 構造物掘削図 S=1:200

普通部

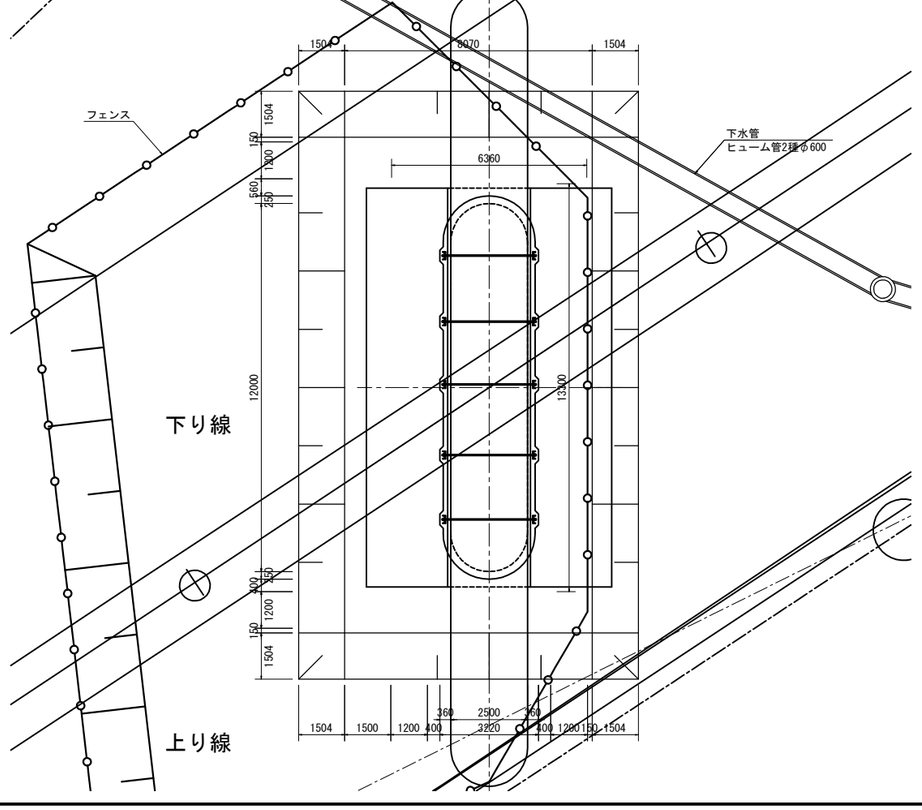
側面図



正面図



平面図

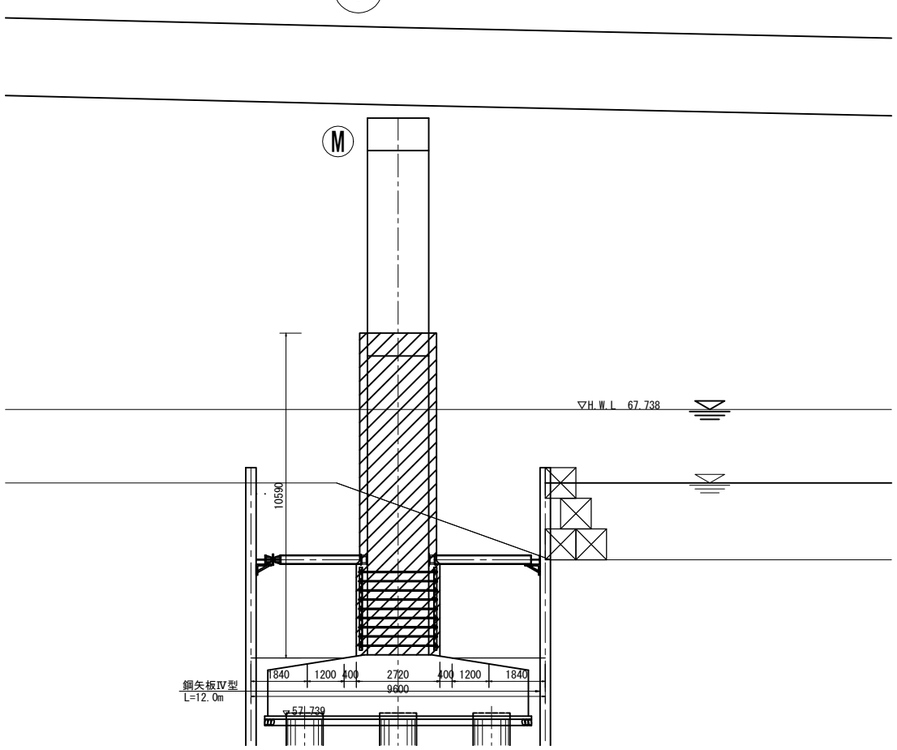


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚 構造物掘削図		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

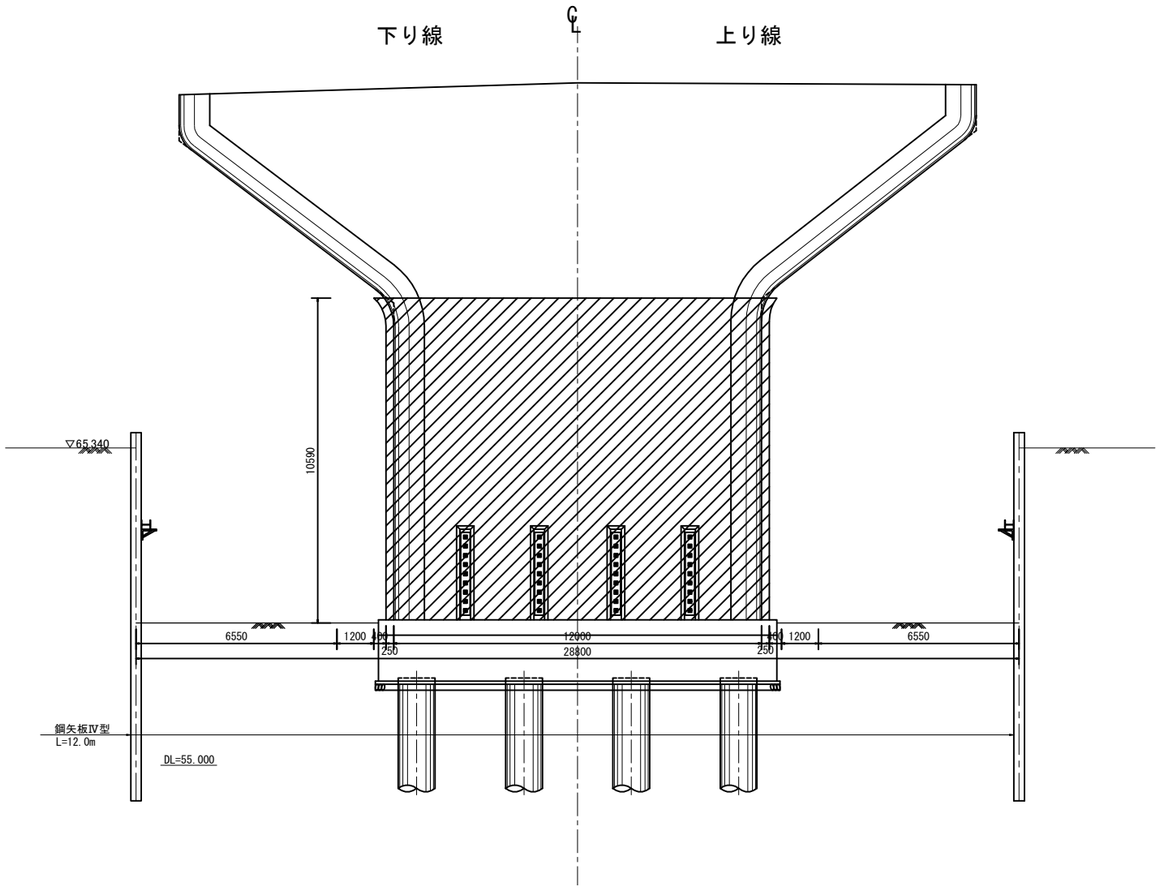
P16橋脚 構造物掘削図（その１）S=1:200

特殊部 BP16

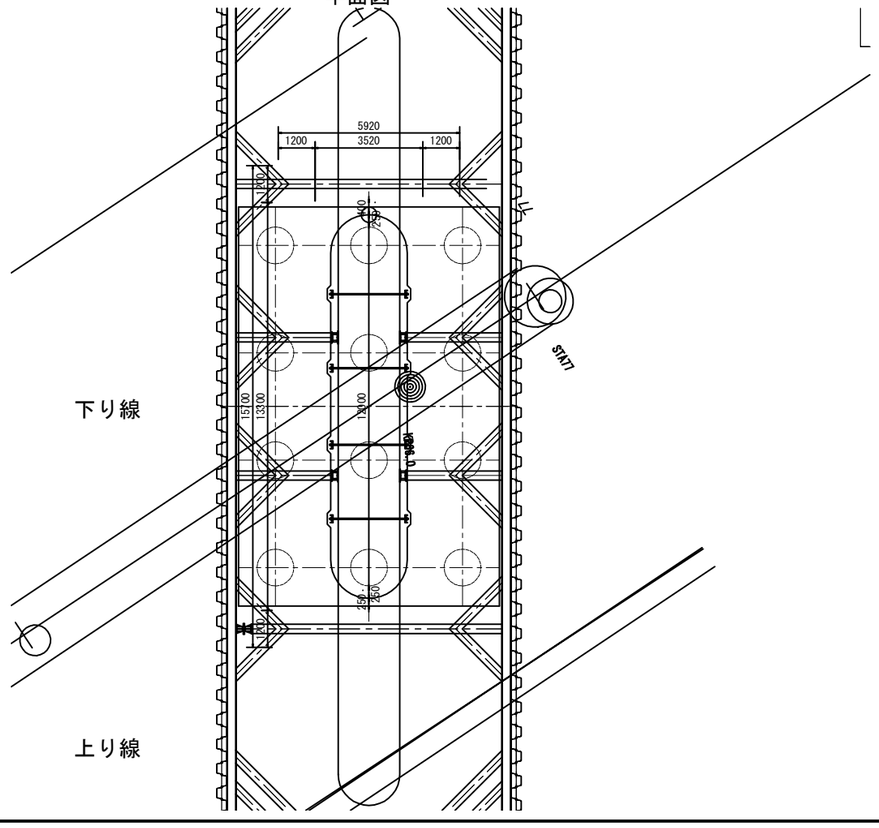
側面図



正面図



平面図

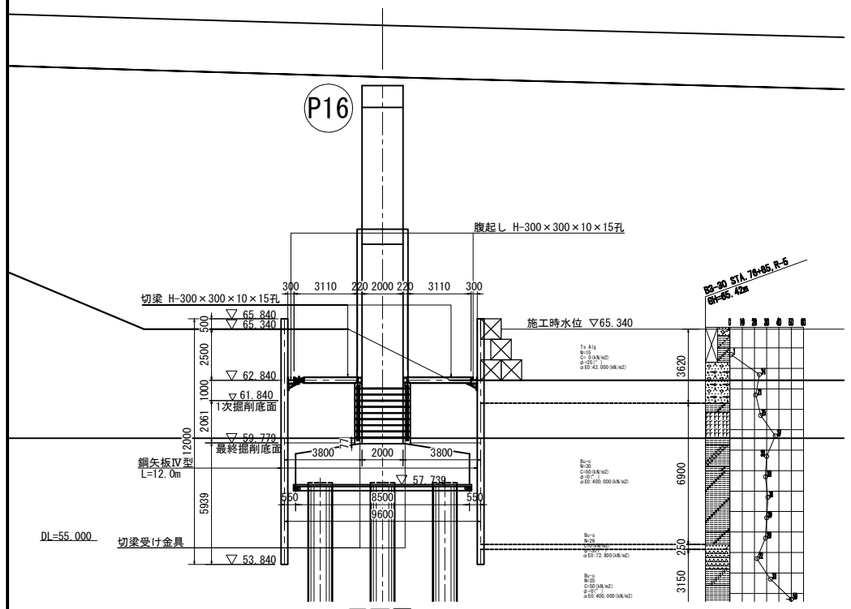


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P16橋脚 構造物掘削図（その１）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

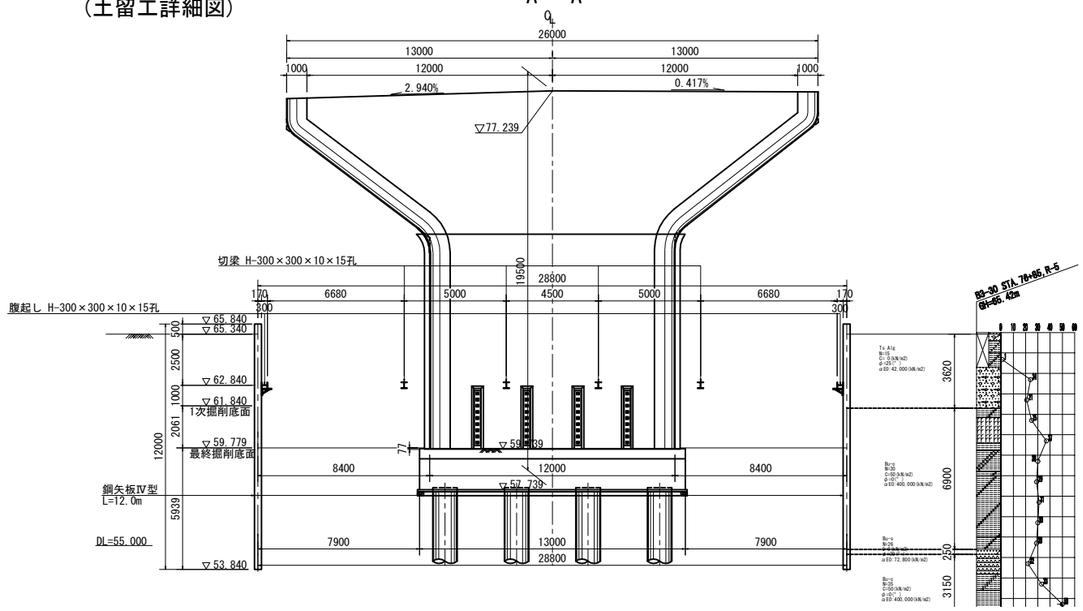
P16橋脚 構造物掘削図（その２）S=図示

特殊部 BP16
（土留工詳細図）

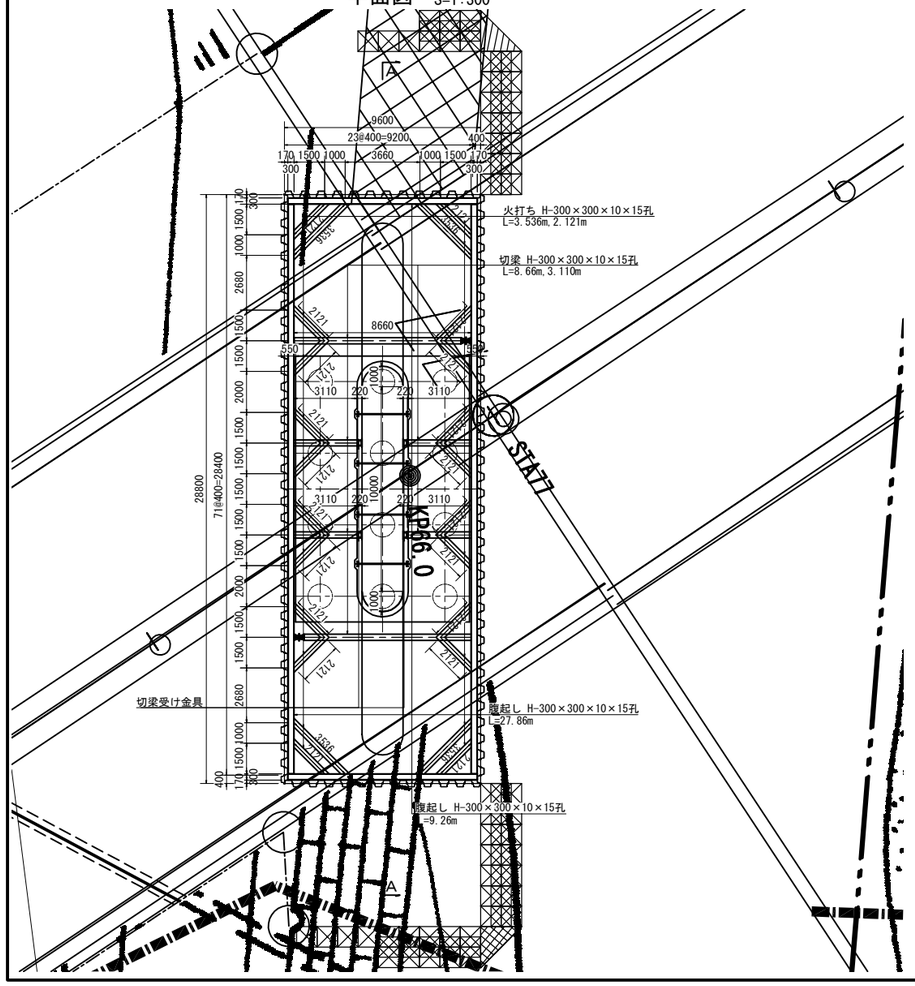
側面図 S=1:300



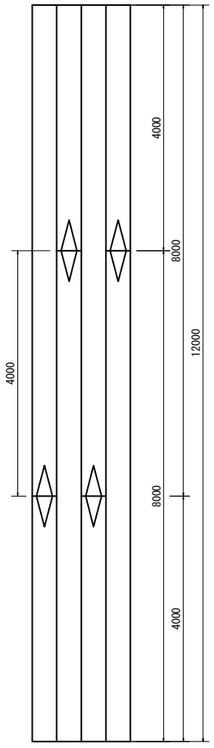
正面図 S=1:300
A － A



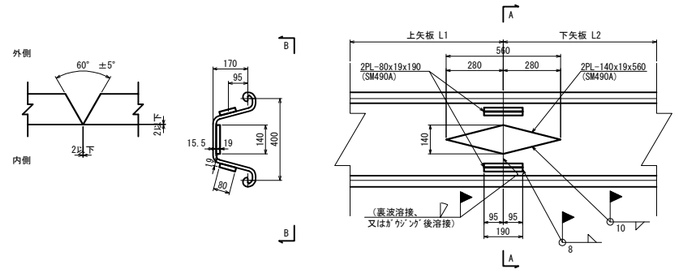
平面図 S=1:300



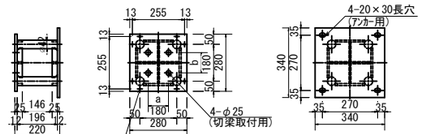
鋼矢板割付図 S=1:100



鋼矢板継手詳細図 S=1:30



切梁受け金具詳細図 S=1:30



a,b：穴開け位置は切梁メーカー仕様による。

材料表

名 称	規 格・寸 法	長 さ (m)	本数 (本)	単位質量	一本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘 要
鋼矢板	Ⅳ型	8.000	188	76.1	608.8	114,454	SY295
	Ⅳ型	4.000	188	76.1	304.4	57,227	SY295
	コーナー矢板Ⅳ型	8.000	4	76.0	608.0	2,432	SY295
	コーナー矢板Ⅳ型	4.000	4	76.0	304.0	1,216	SY295
腹起し	H-300×300×10×15	27.860	2	100.0	2786.0	5,572	(リース材)SS400
	H-300×300×10×15	9.260	2	100.0	926.0	1,852	〃
切梁	H-300×300×10×15	8.660	2	100.0	866.0	1,732	(リース材)SS400
	H-300×300×10×15	3.110	4	100.0	311.0	1,244	(リース材)SS400
	H-300×300×10×15	0.500	6	100.0	50.0	▲ 300	(控除分)
火打ち	H-300×300×10×15	3.536	4	100.0	353.6	1,414	(リース材)SS400
	H-300×300×10×15	2.121	20	100.0	212.1	4,242	〃
	H-300×300×10×15	0.500	48	100.0	50.0	▲ 2,400	(控除分)
切梁受け金具	H30-T25		4				
キリンジャッキ	H30		6				

鋼矢板合計	175,329	kg
継手箇所	134	箇所
支保工合計	13,356	kg
副部材(A)	13,356 ×0.22 ＝ 2,938	kg
副部材(B)	13,356 ×0.04 ＝ 534	kg
合 計	16,829	kg

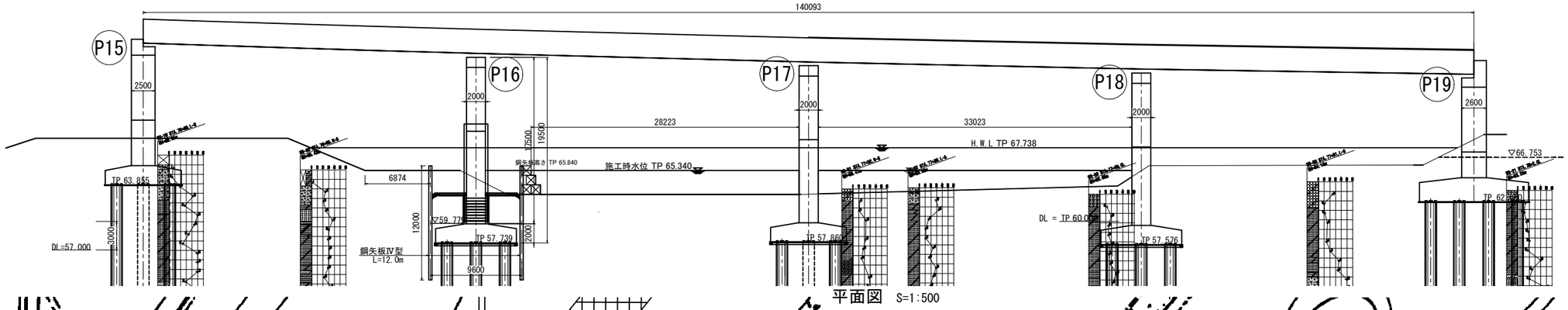
注）
1. 施工に際して、地下埋設物の有無を確認すること。
2. 地下埋設物が施工範囲内に存在することが確認された場合、対処方法について監督員と協議のうえ決定すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P16橋脚 構造物掘削図（その２）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

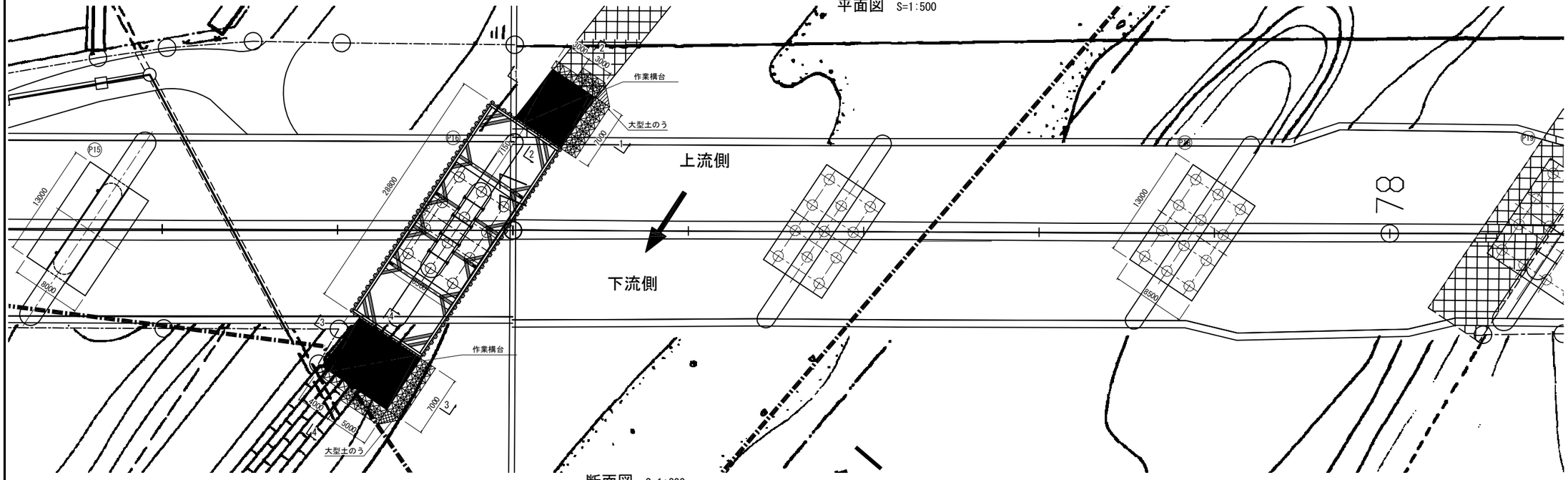
P16橋脚 構造物掘削図（その３）S=図示

特殊部 BP16

側面図 S=1:500

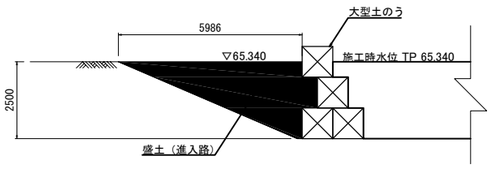


平面図 S=1:500

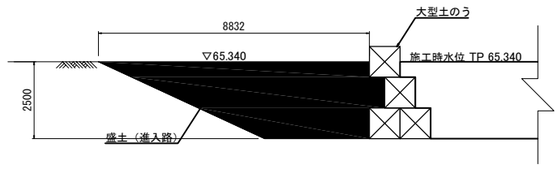


断面図 S=1:200

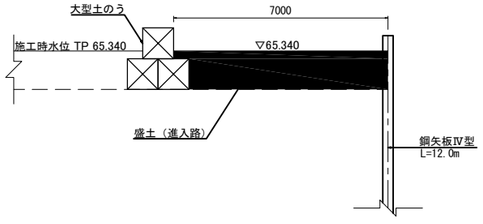
1 － 1



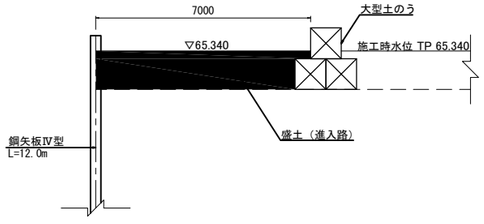
3 － 3



2 － 2



4 － 4



参考数量表

項　　目	区　分	単位	数量	項　　目
作業構台	盛土工	ｍ３	168.0	
	捨土工	ｍ３	168.0	撤去
大型土のう	設置・撤去	袋	87.0	

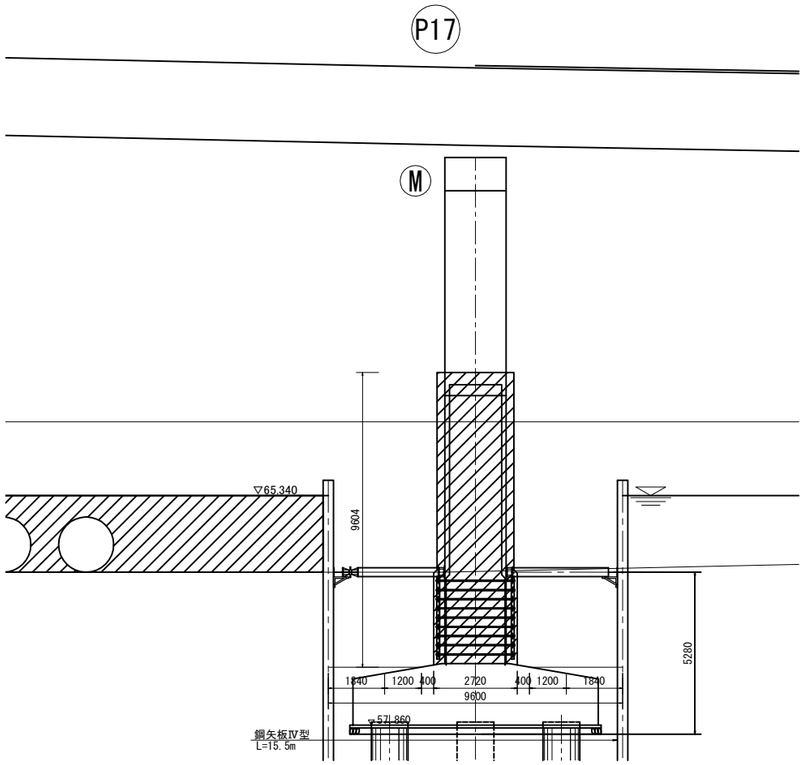
施工凡例
河川・水路　盛　土（進入路）

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P16橋脚 構造物掘削図（その３）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

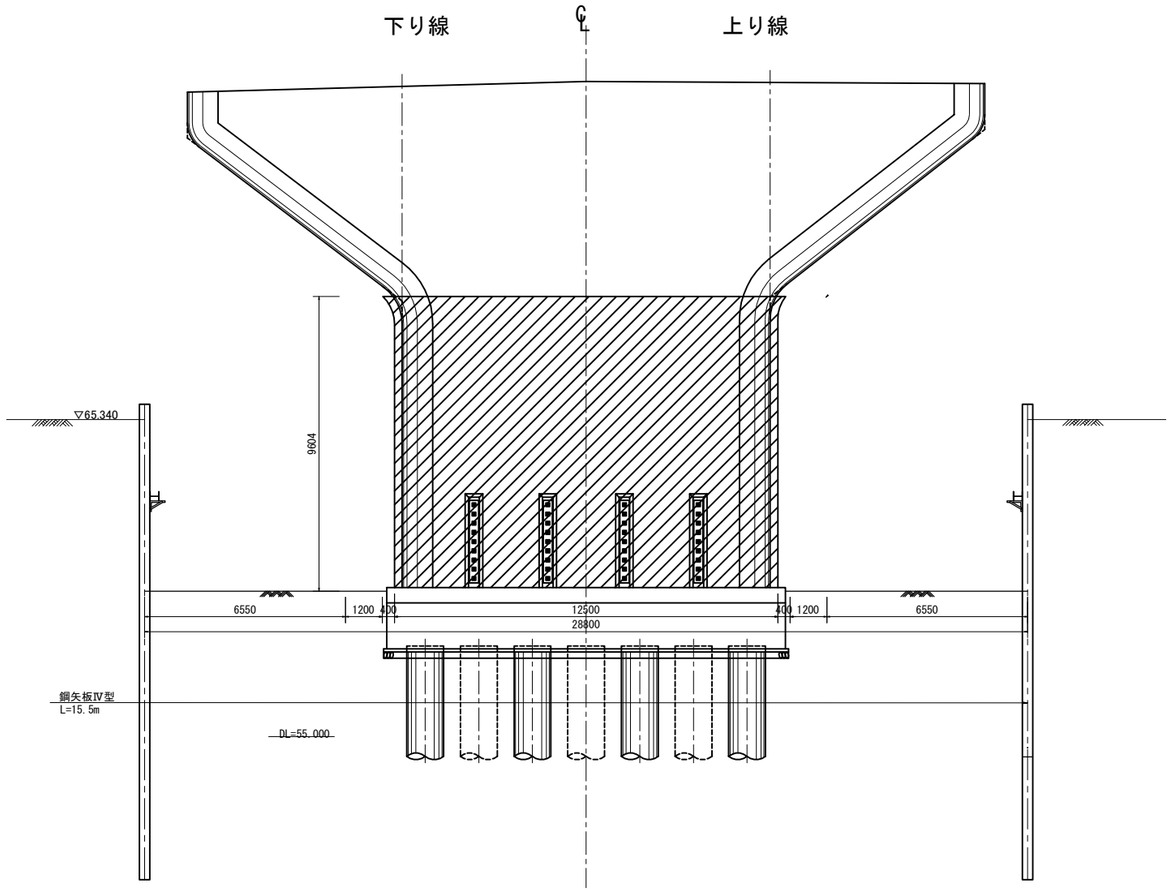
P17橋脚 構造物掘削図（その１）S=1:200

特殊部 BP17

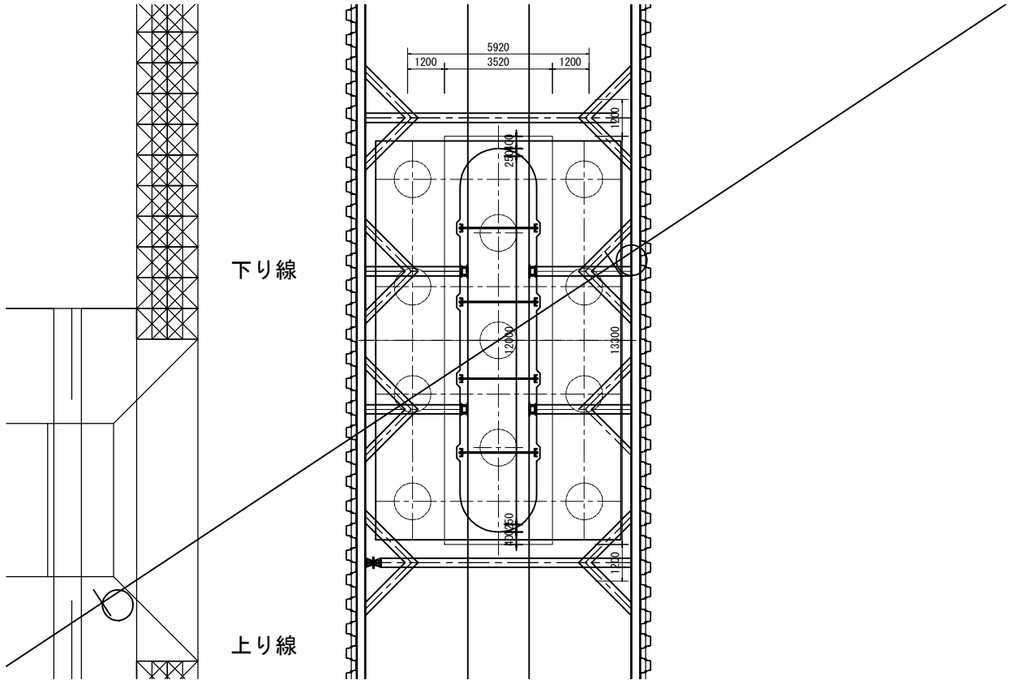
側面図



正面図



平面図

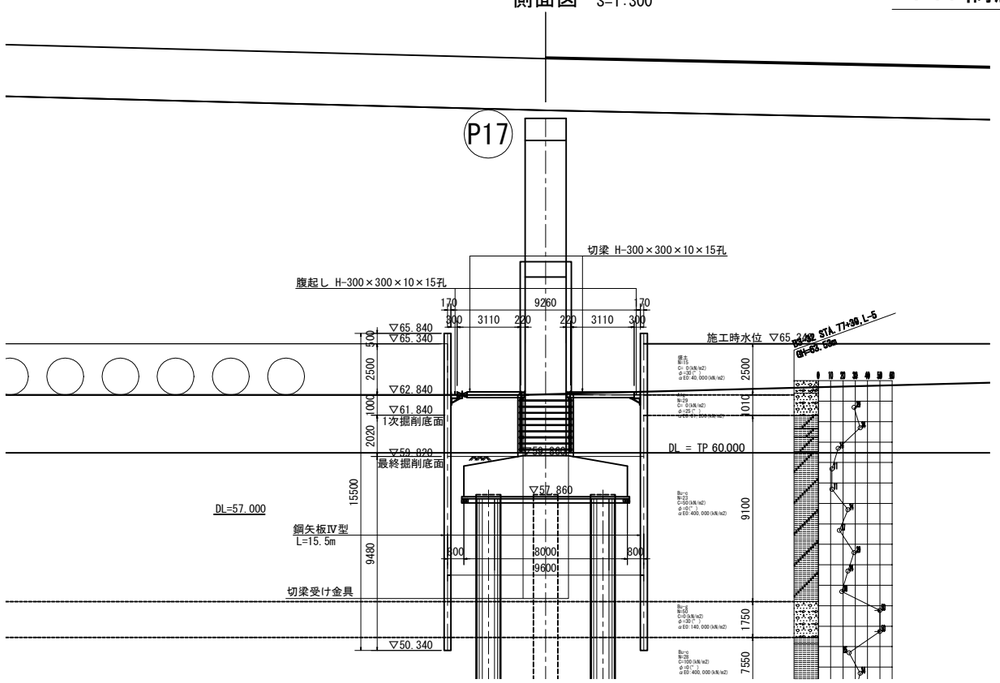


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P17橋脚 構造物掘削図（その１）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

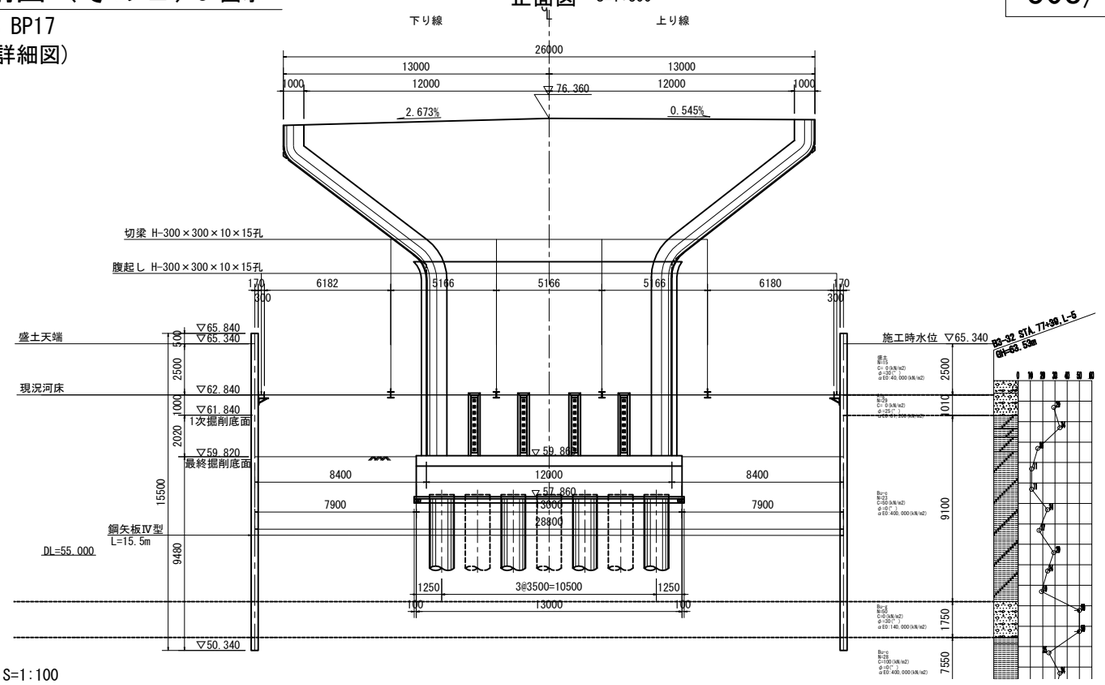
P17橋脚 構造物掘削図（その２）S=図示

特殊部 BP17
（土留工詳細図）

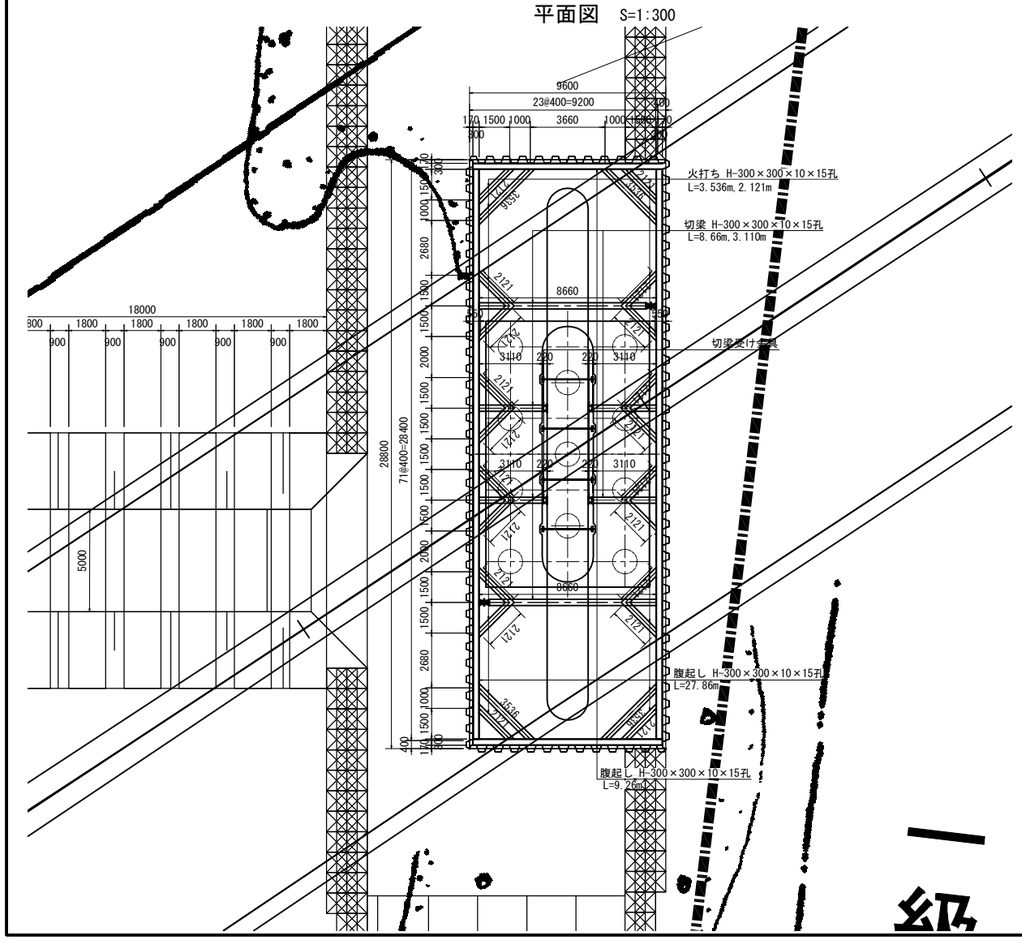
側面図 S=1:300



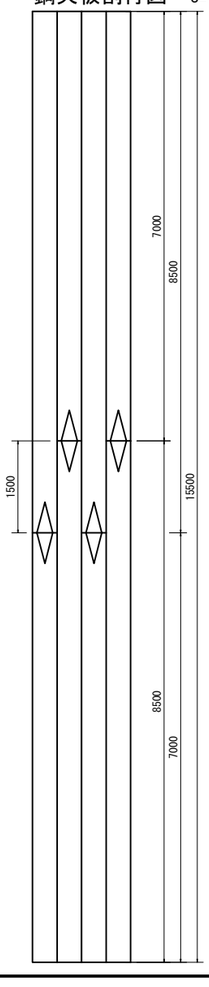
正面図 S=1:300



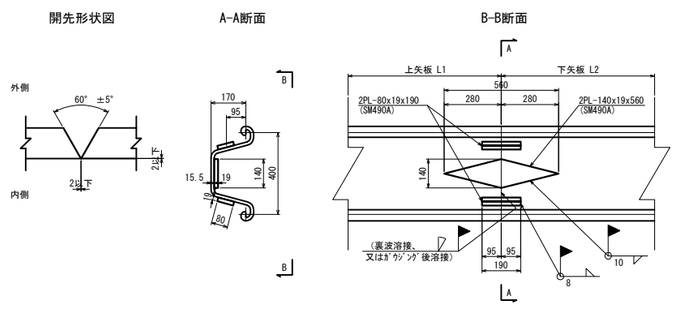
平面図 S=1:300



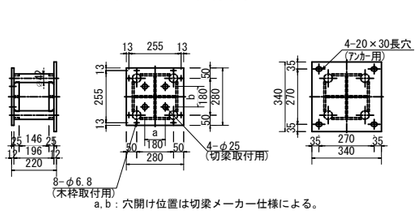
鋼矢板割付図 S=1:100



鋼矢板継手詳細図 S=1:30



切梁受け金具詳細図 S=1:30



材料表

名 称	規 格・寸 法	長 さ (m)	本数 (本)	単位質量	一本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘 要
鋼矢板	Ⅳ型	8.500	188	76.1	646.9	121,617	SY295
	Ⅳ型	7.000	188	76.1	532.7	100,148	SY295
	コーナー矢板Ⅳ型	8.500	4	76.0	646.0	2,584	SY295
	コーナー矢板Ⅳ型	7.000	4	76.0	532.0	2,128	SY295
腹起し	H-300×300×10×15	27.860	2	100.0	2786.0	5,572	(リース材)SS400
	H-300×300×10×15	9.260	2	100.0	926.0	1,852	〃
切梁	H-300×300×10×15	8.660	2	100.0	866.0	1,732	(リース材)SS400
	H-300×300×10×15	3.110	4	100.0	311.0	1,244	〃
	H-300×300×10×15	0.500	6	100.0	50.0	▲ 300	(控除分)
火打ち	H-300×300×10×15	3.536	4	100.0	353.6	1,414	(リース材)SS400
	H-300×300×10×15	2.121	20	100.0	212.1	4,242	〃
	H-300×300×10×15	0.500	48	100.0	50.0	▲ 2,400	(控除分)
切梁受け金具	H30-T25		4				
キリンジャッキ	H30		6				

鋼矢板合計		226,477 kg
継手箇所		141 箇所
支保工合計		13,356 kg
副部材(A)	13,356 ×0.22 ＝	2,938 kg
副部材(B)	13,356 ×0.04 ＝	534 kg
	合 計	16,829 kg

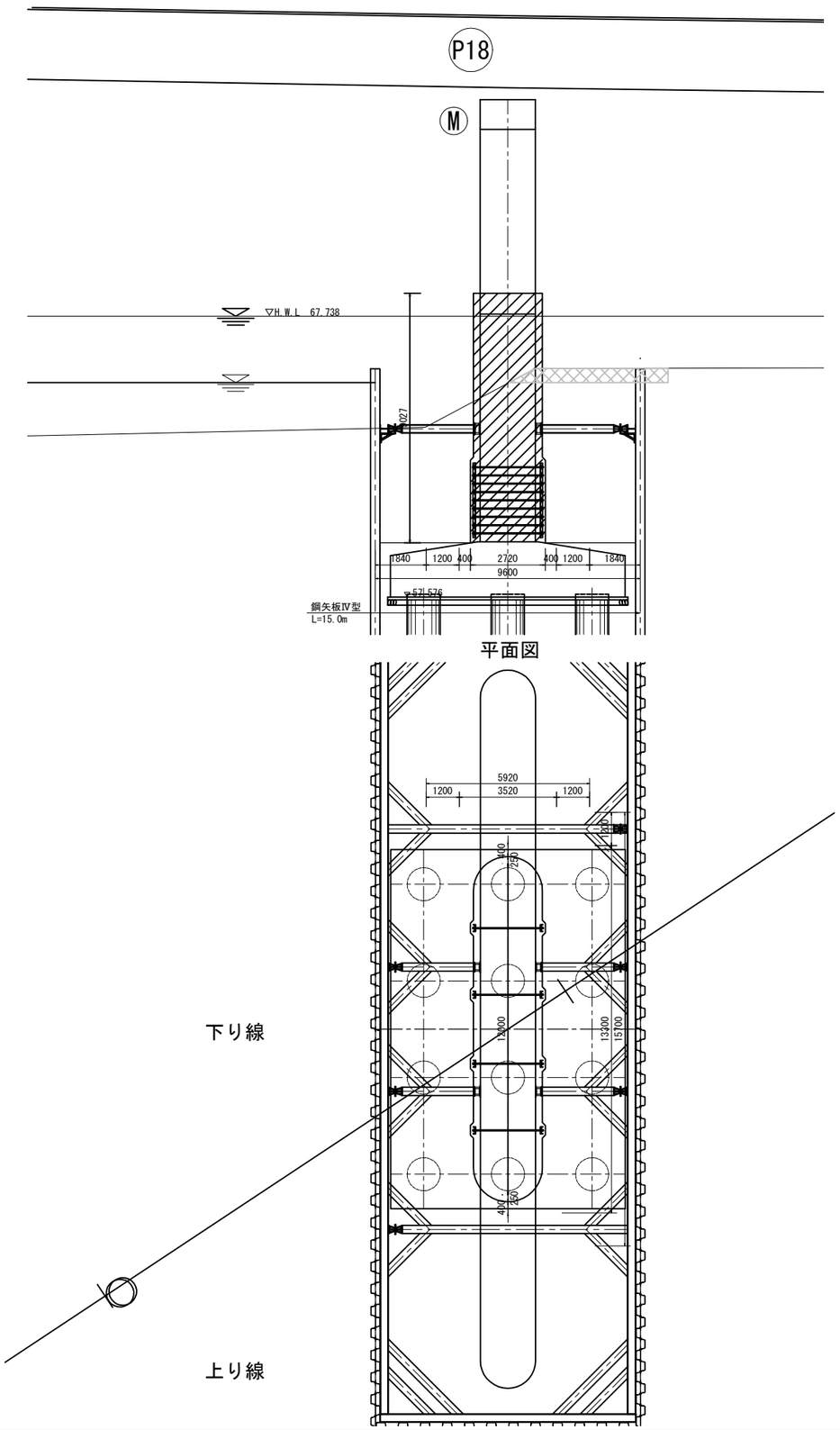
注）
1. 施工に際して、地下埋設物の有無を確認すること。
2. 地下埋設物が施工範囲内に存在することが確認された場合、対処方法について監督員と協議のうえ決定すること。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P17橋脚 構造物掘削図（その２）
縮 尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

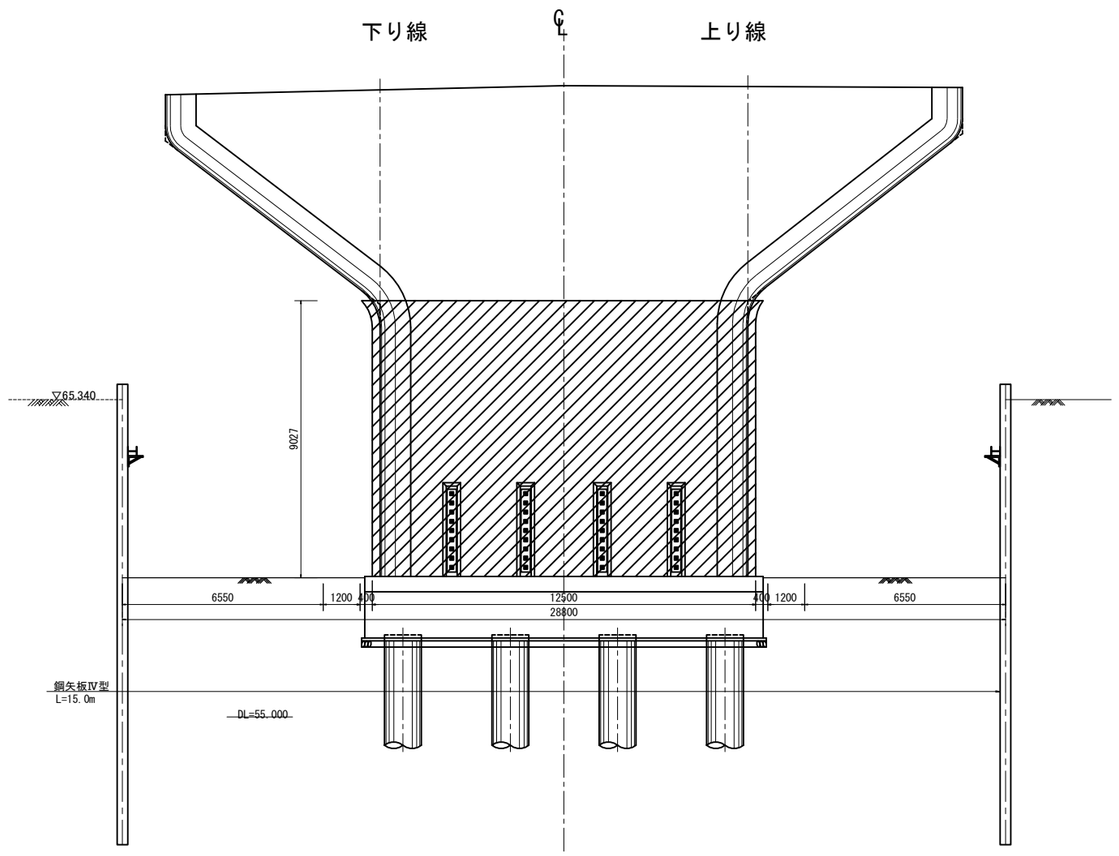
P18橋脚 構造物掘削図（その１）S=1:200

特殊部 BP18

側面図



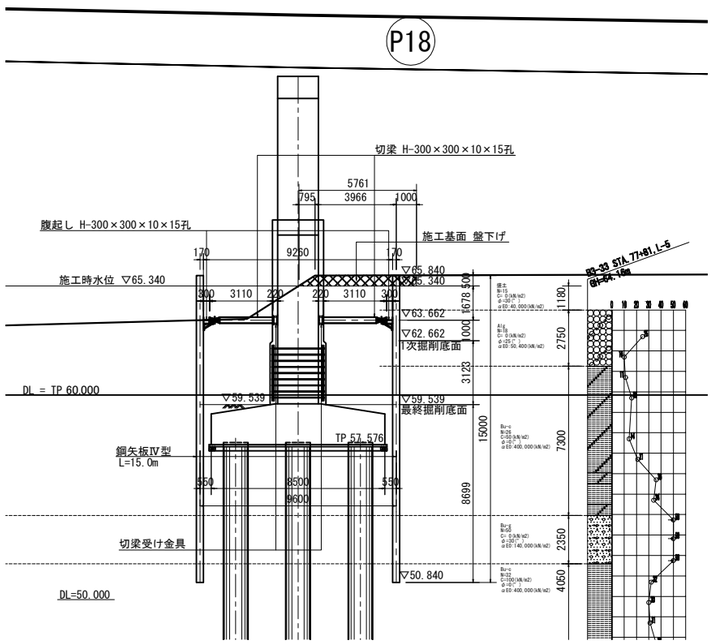
正面図



首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P18橋脚 構造物掘削図（その１）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

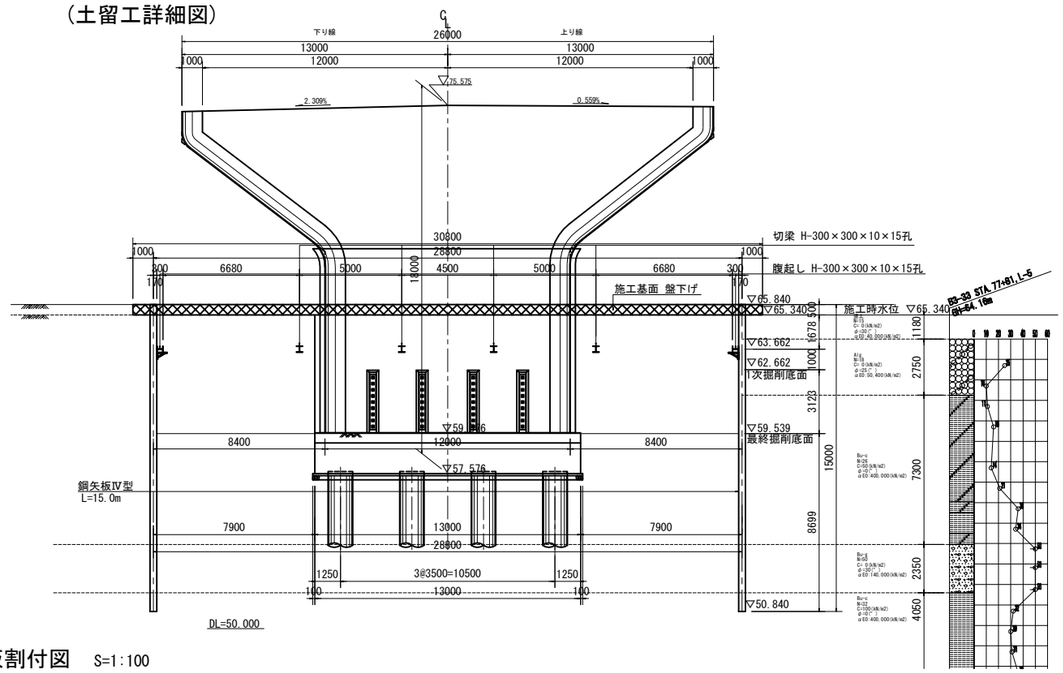
P18橋脚 構造物掘削図（その２）S=図示

側面図 S=1:300

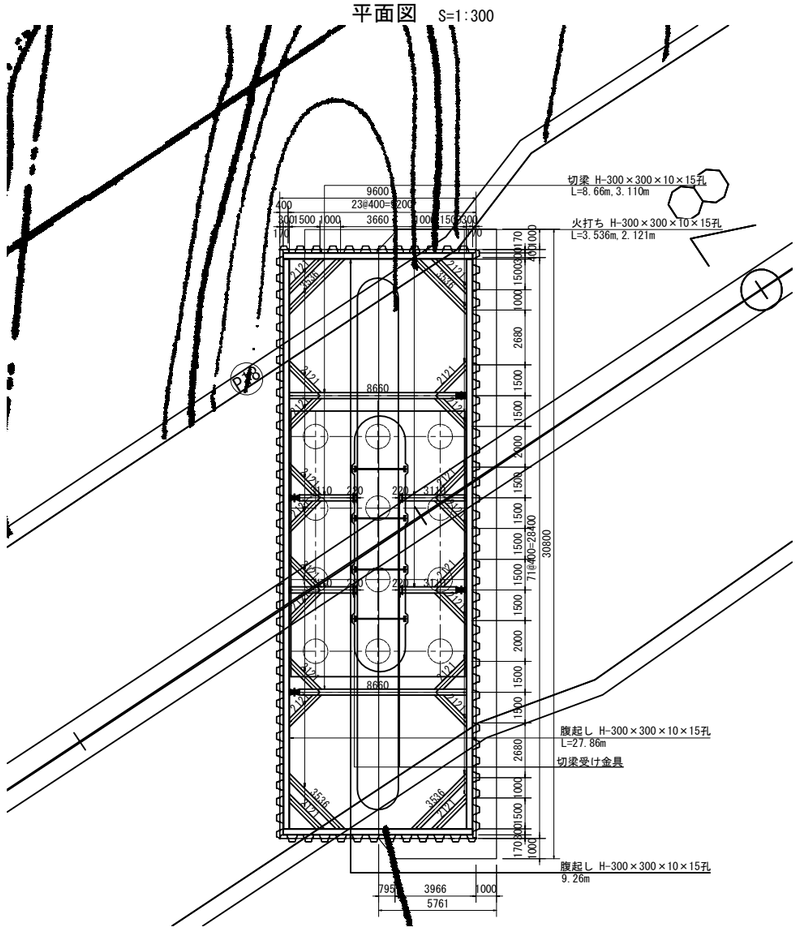


特殊部 BP18
（土留工詳細図）

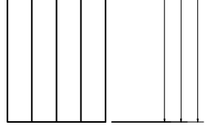
正面図 S=1:300



平面図 S=1:300

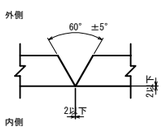


鋼矢板割付図 S=1:100

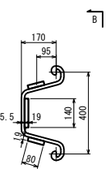


鋼矢板継手詳細図 S=1:30

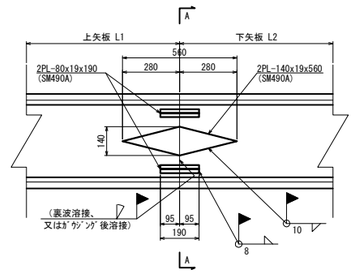
開先形状図



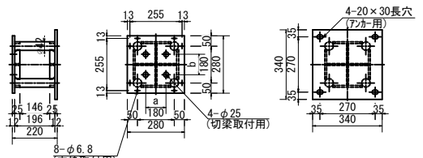
A-A断面



B-B断面



切梁受け金具詳細図 S=1:30



材料表

名 称	規 格･寸 法	長 さ (m)	本数 (本)	単位質量	一本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘 要
鋼矢板	Ⅳ型	8.000	188	76.1	608.8	114,454	SY295
	Ⅳ型	7.000	188	76.1	532.7	100,148	SY295
	コーナー矢板Ⅳ型	8.000	4	76.0	608.0	2,432	SY295
	コーナー矢板Ⅳ型	7.000	4	76.0	532.0	2,128	SY295
腹起し	H-300×300×10×15	27.860	2	100.0	2786.0	5,572	(リース材)SS400
	H-300×300×10×15	9.260	2	100.0	926.0	1,852	〃
切梁	H-300×300×10×15	8.660	2	100.0	866.0	1,732	(リース材)SS400
	H-300×300×10×15	3.110	4	100.0	311.0	1,244	〃
	H-300×300×10×15	0.500	6	100.0	50.0	▲ 300	(控除分)
火打ち	H-300×300×10×15	3.536	4	100.0	353.6	1,414	(リース材)SS400
	H-300×300×10×15	2.121	20	100.0	212.1	4,242	〃
	H-300×300×10×15	0.500	48	100.0	50.0	▲ 2,400	(控除分)
切梁受け金具	H30-T25		4				
キリンジャッキ	H30		6				

鋼矢板合計	219,162	kg
継手箇所	133	箇所
支保工合計	13,356	kg
副部材(A)	13,356 ×0.22 = 2,938	kg
副部材(B)	13,356 ×0.04 = 534	kg
合 計	16,829	kg

注）
1. 施工に際して、地下埋設物の有無を確認すること。
2. 地下埋設物が施工範囲内に存在することが確認された場合、対処方法について監督員と協議のうえ決定すること。

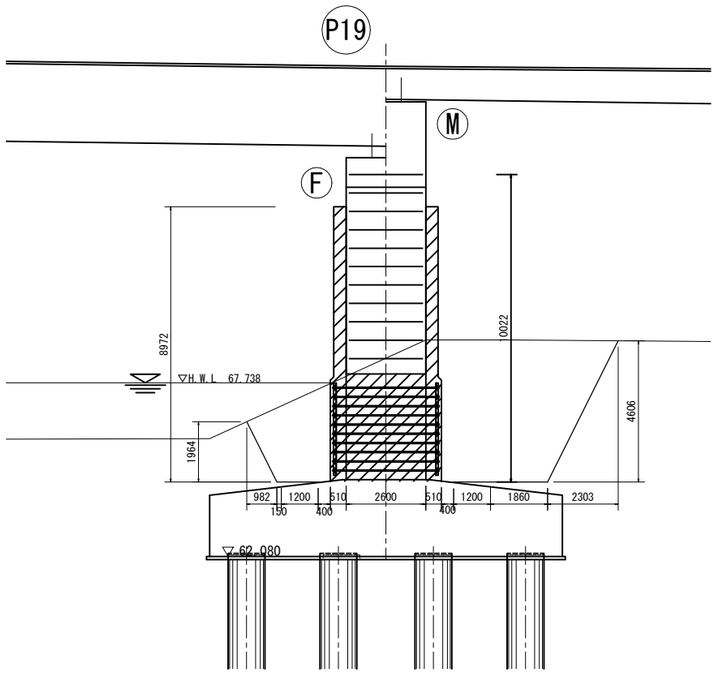
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P18橋脚 構造物掘削図（その２）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P19橋脚 構造物掘削図

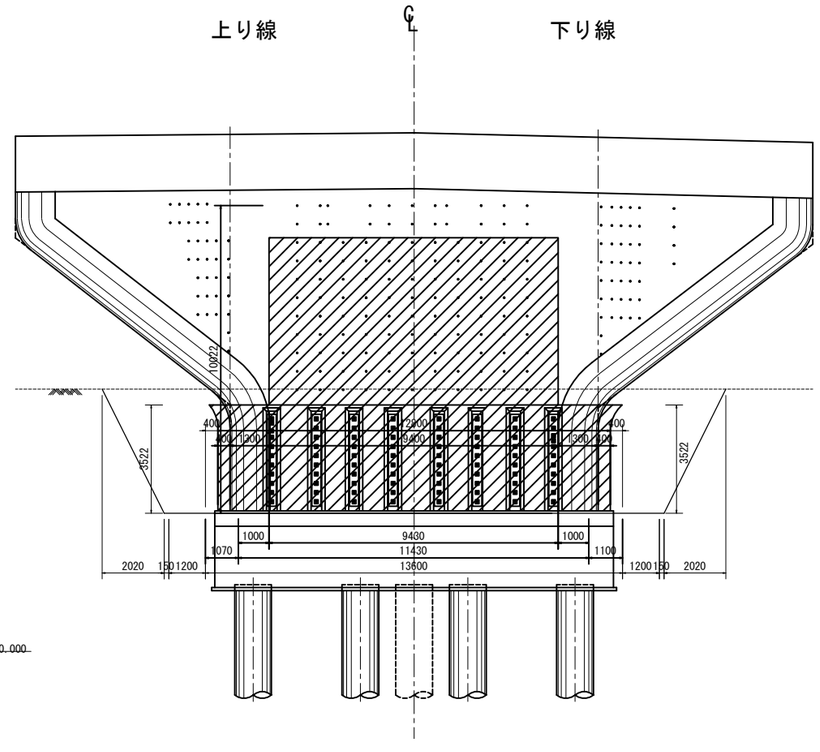
S=1:200

普通部

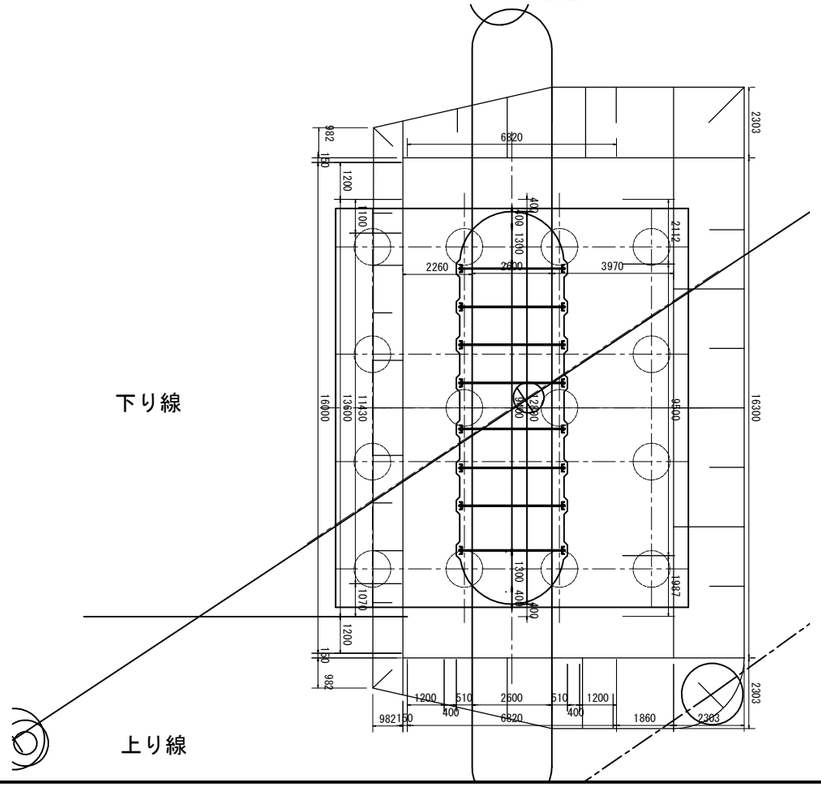
側面図



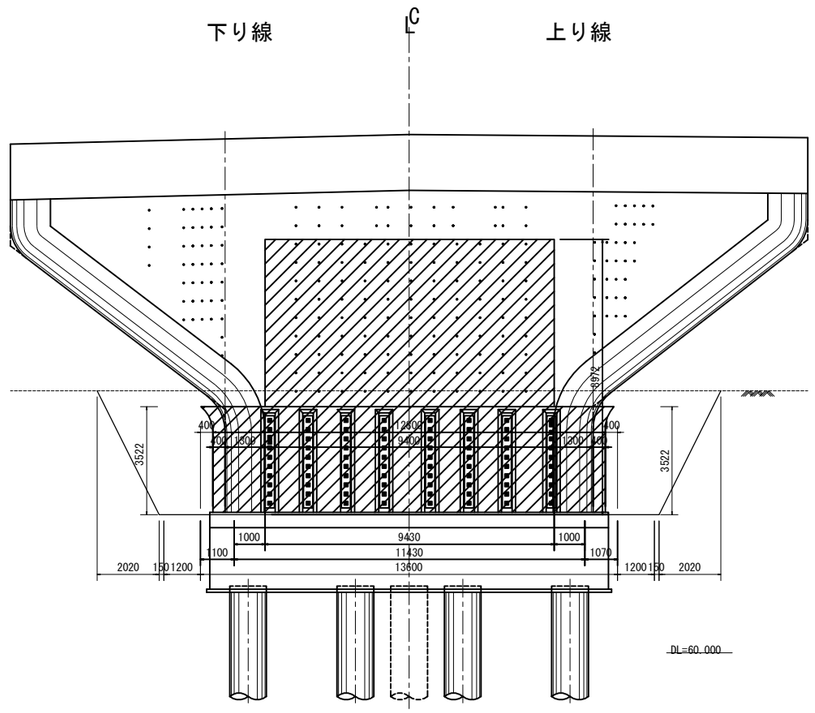
正面図
終点側



平面図



起点側

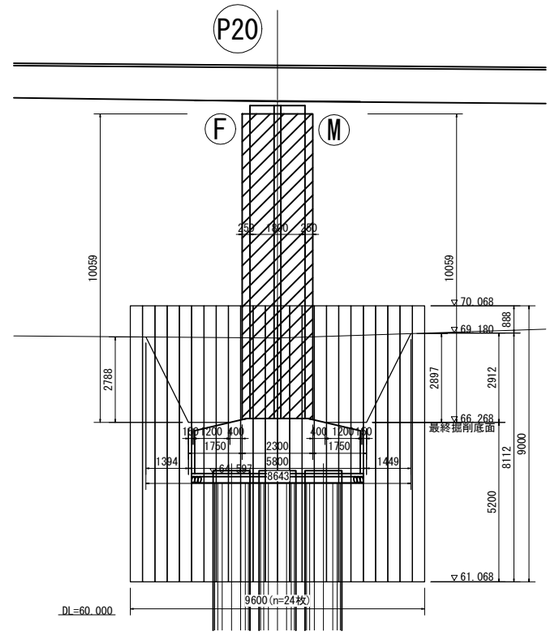


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚 構造物掘削図		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

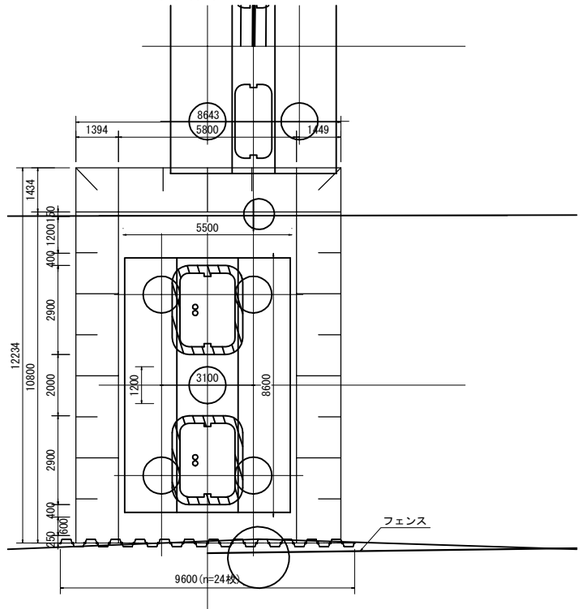
P20橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）S=1:200

特殊部 BP20

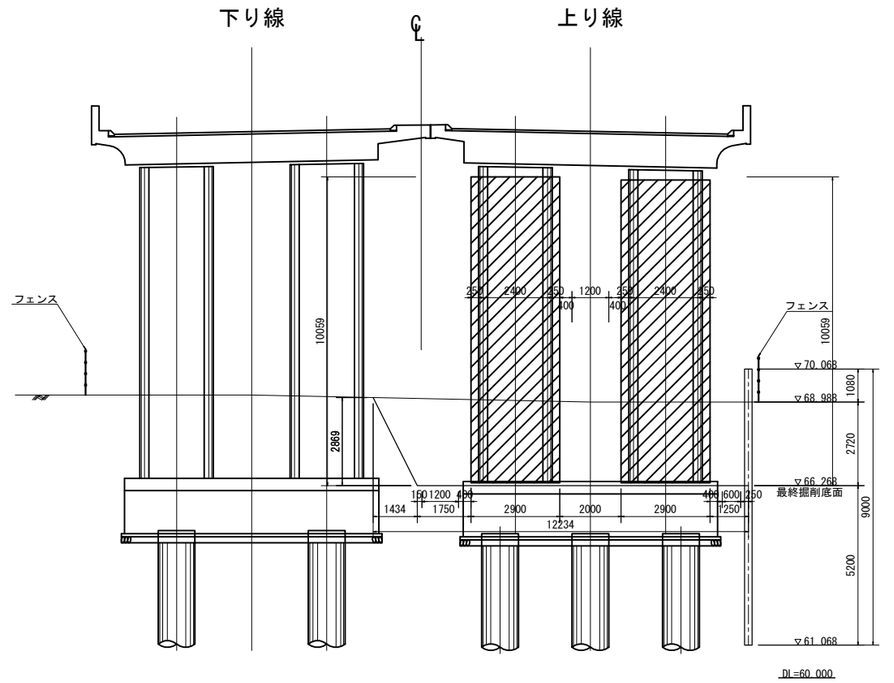
側面図



平面図



正面図



下り線

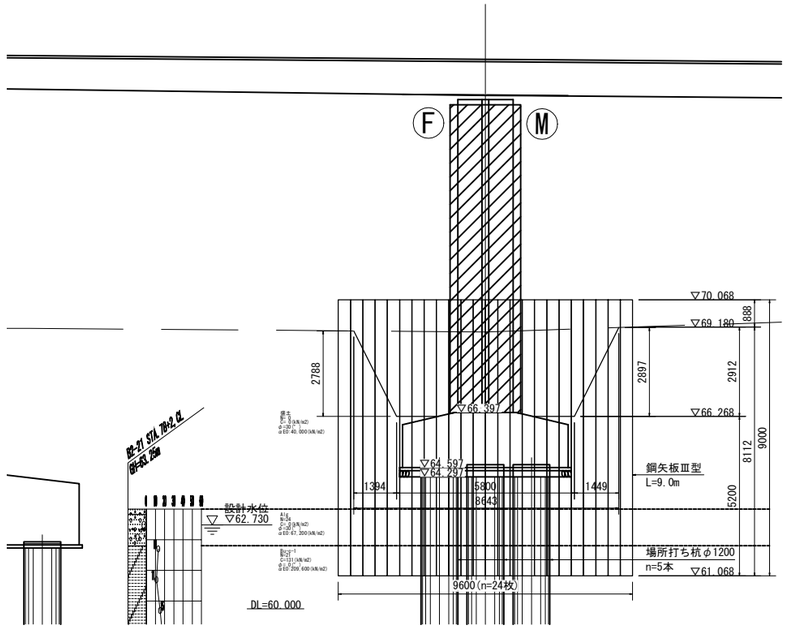
上り線

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P20橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）
縮　尺	1:200　図面番号　/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

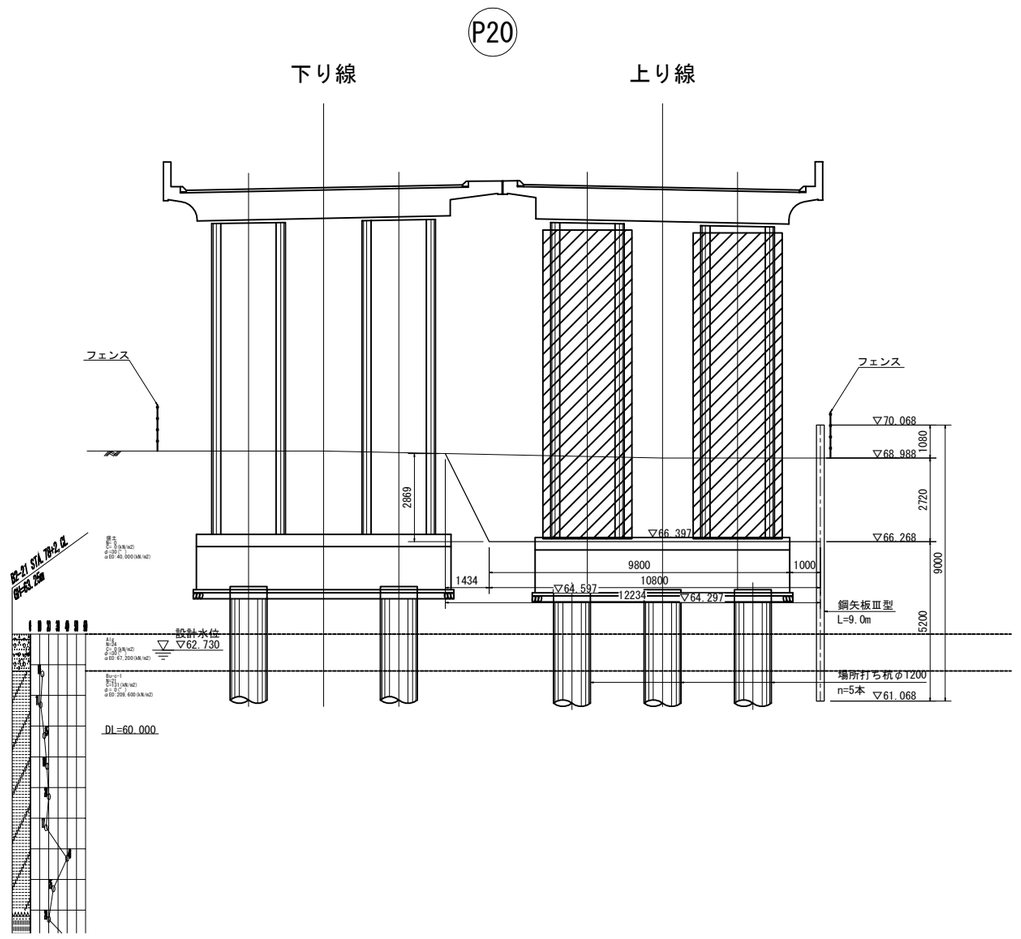
P20橋脚 構造物掘削図（上り線）（その２）S=図示

特殊部 BP20
（土留工詳細図）

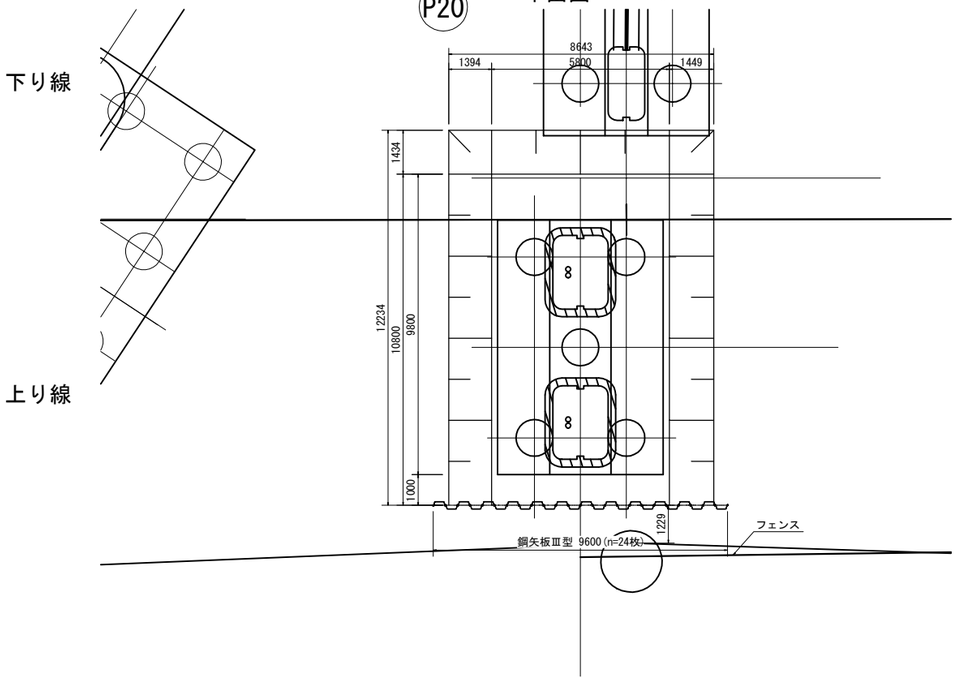
側面図 S=1:200



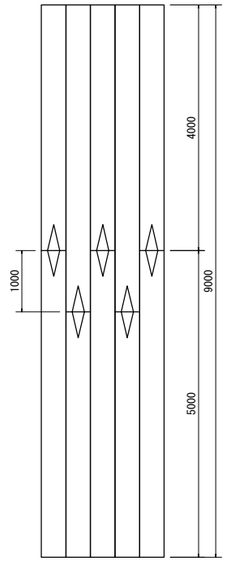
正面図 S=1:200



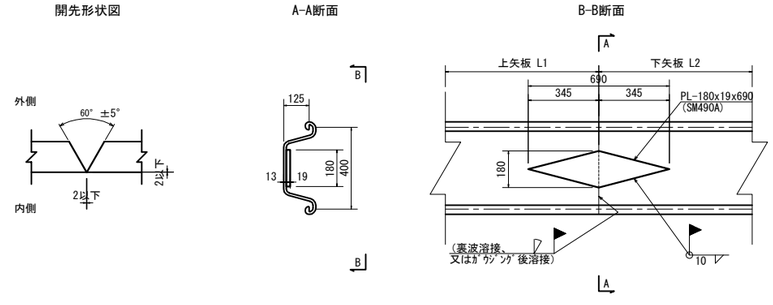
平面図 S=1:200



鋼矢板割付図 S=1:100



鋼矢板継手詳細図 S=1:30



材料表

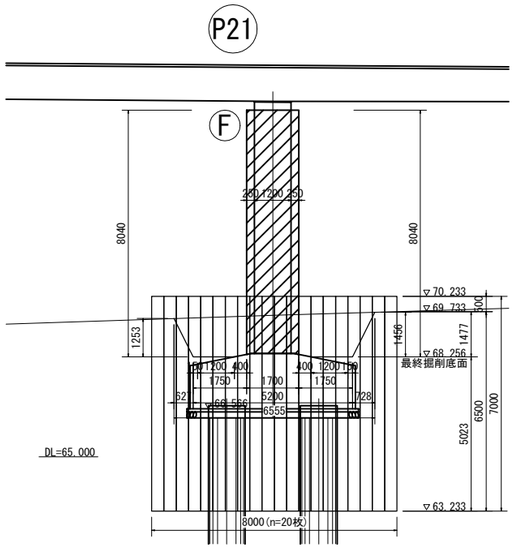
名 称	規 格・寸 法	長 さ (m)	本数 (本)	単位質量	一本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘 要
鋼矢板	Ⅲ型	5.000	24	60.0	300.0	7,200	
	Ⅲ型	4.000	24	60.0	240.0	5,760	
鋼矢板合計						12,960 kg	
継手箇所						24 箇所	

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P20橋脚 構造物掘削図（上り線）（その２）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

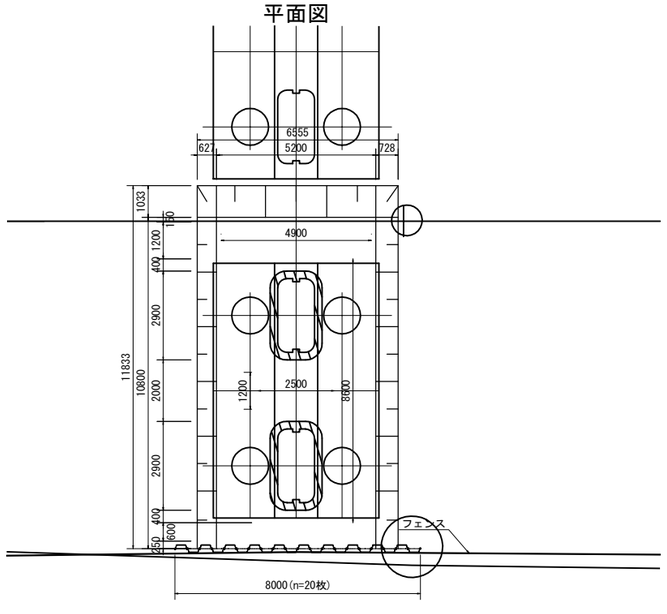
P21橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）S=1:200

特殊部 BP21

側面図



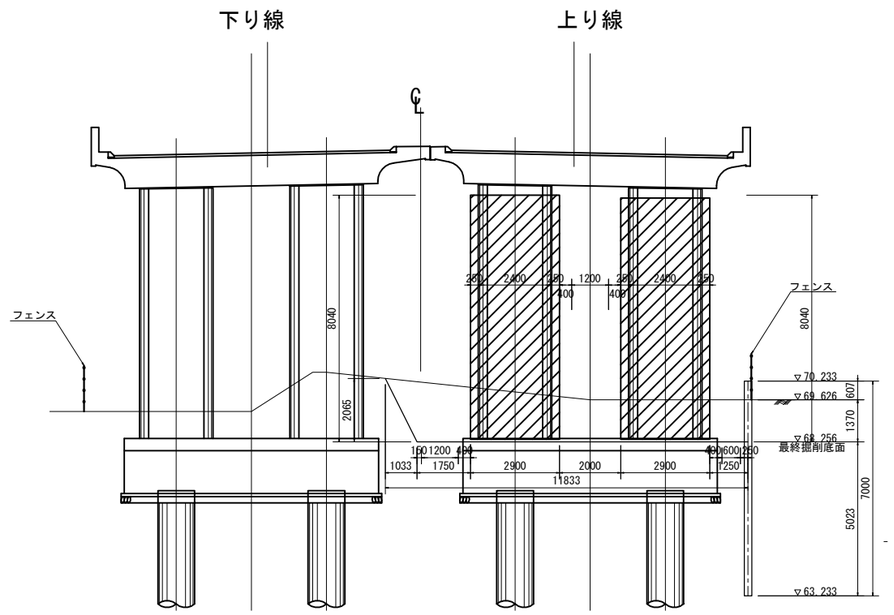
平面図



下り線

上り線

正面図

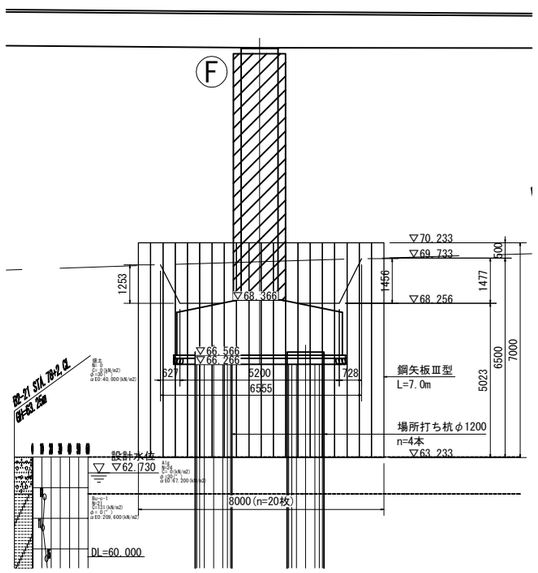


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P21橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

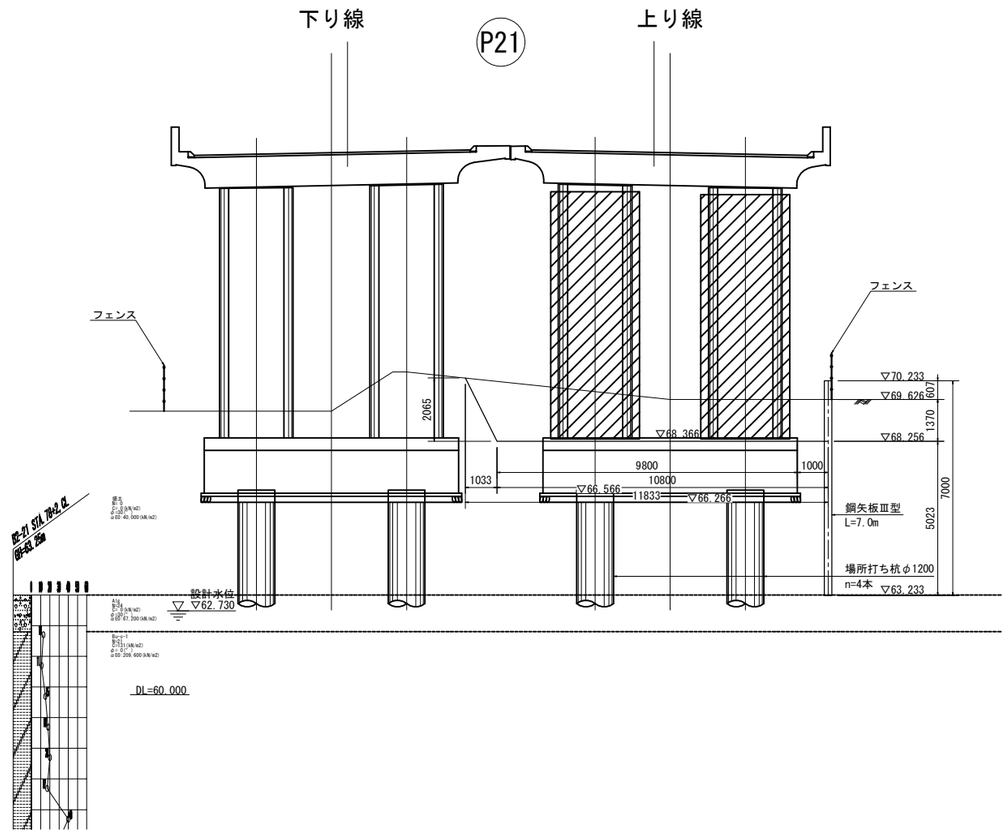
P21橋脚 構造物掘削図（上り線）（その２）S=図示

特殊部 BP21
（土留工詳細図）

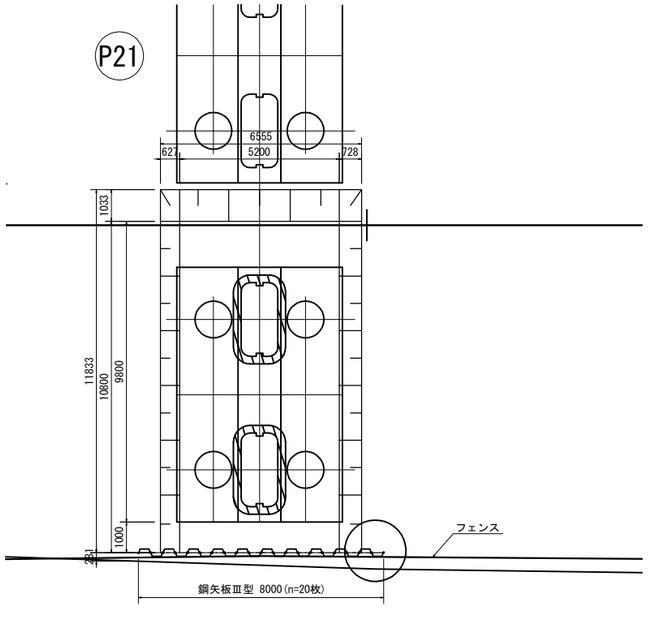
側面図 S=1:200



正面図 S=1:200



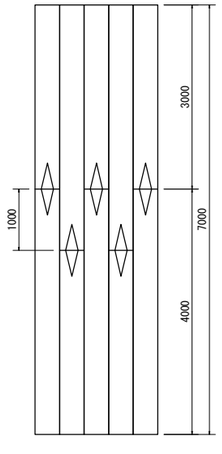
平面図 S=1:200



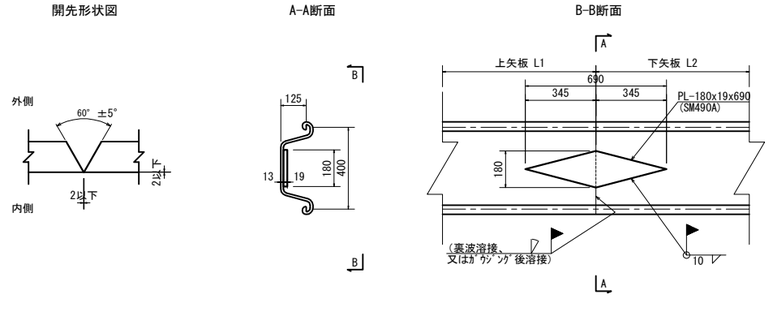
下り線

上り線

鋼矢板割付図 S=1:100



鋼矢板継手詳細図 S=1:30



材料表

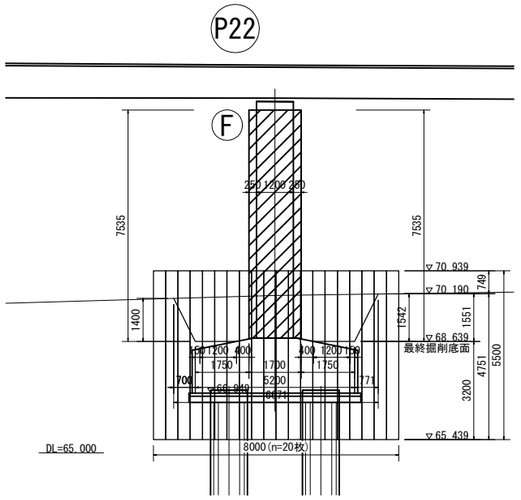
名 称	規 格・寸 法	長 さ (m)	本数 (本)	単位質量	一本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘 要
鋼矢板	Ⅲ型	4.000	20	60.0	240.0	4,800	
	Ⅲ型	3.000	20	60.0	180.0	3,600	
			鋼矢板合計			8,400 kg	
			継手箇所			20 箇所	

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P21橋脚 構造物掘削図（上り線）（その２）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

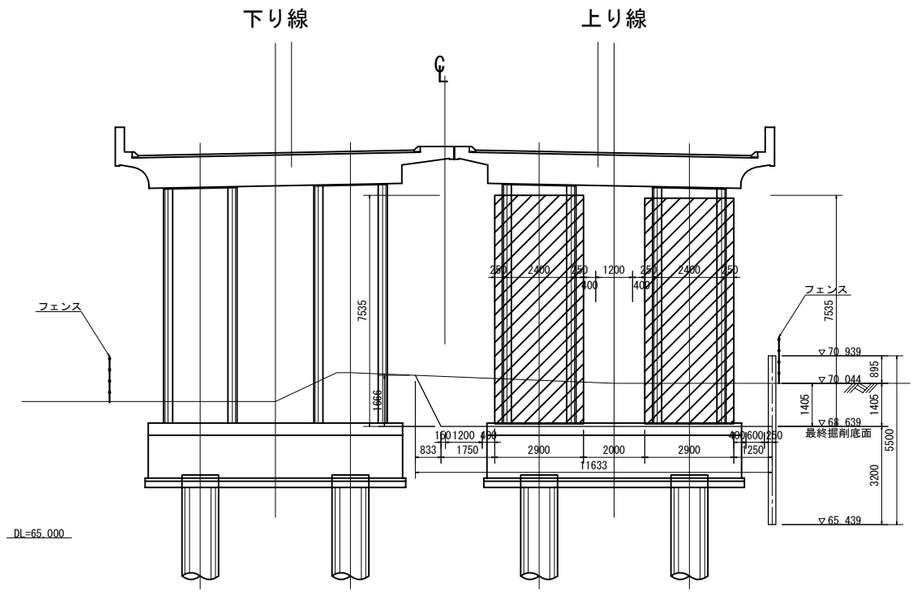
P22橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）S=1:200

特殊部 BP22

側面図



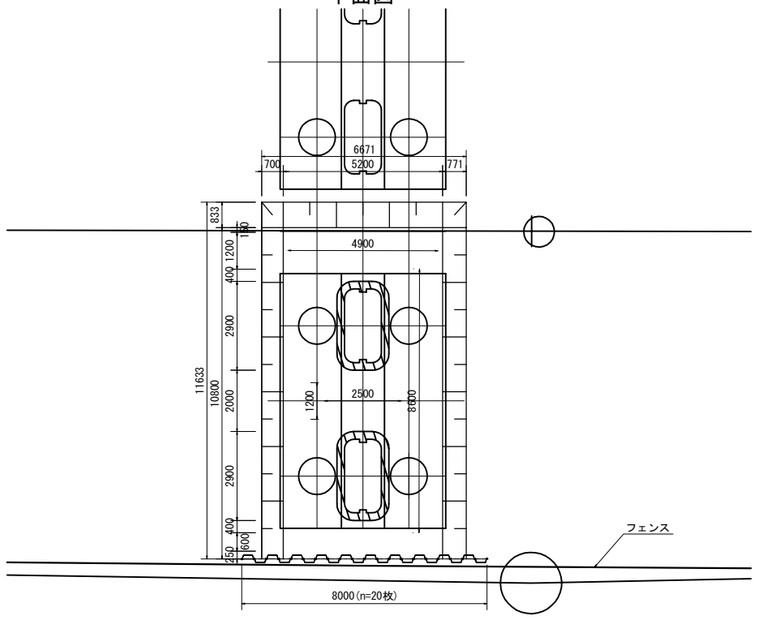
正面図



平面図

下り線

上り線

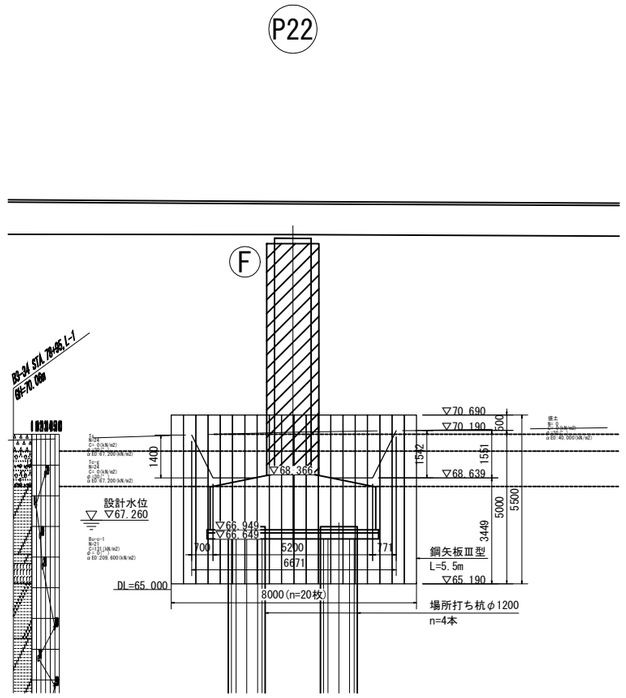


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P22橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

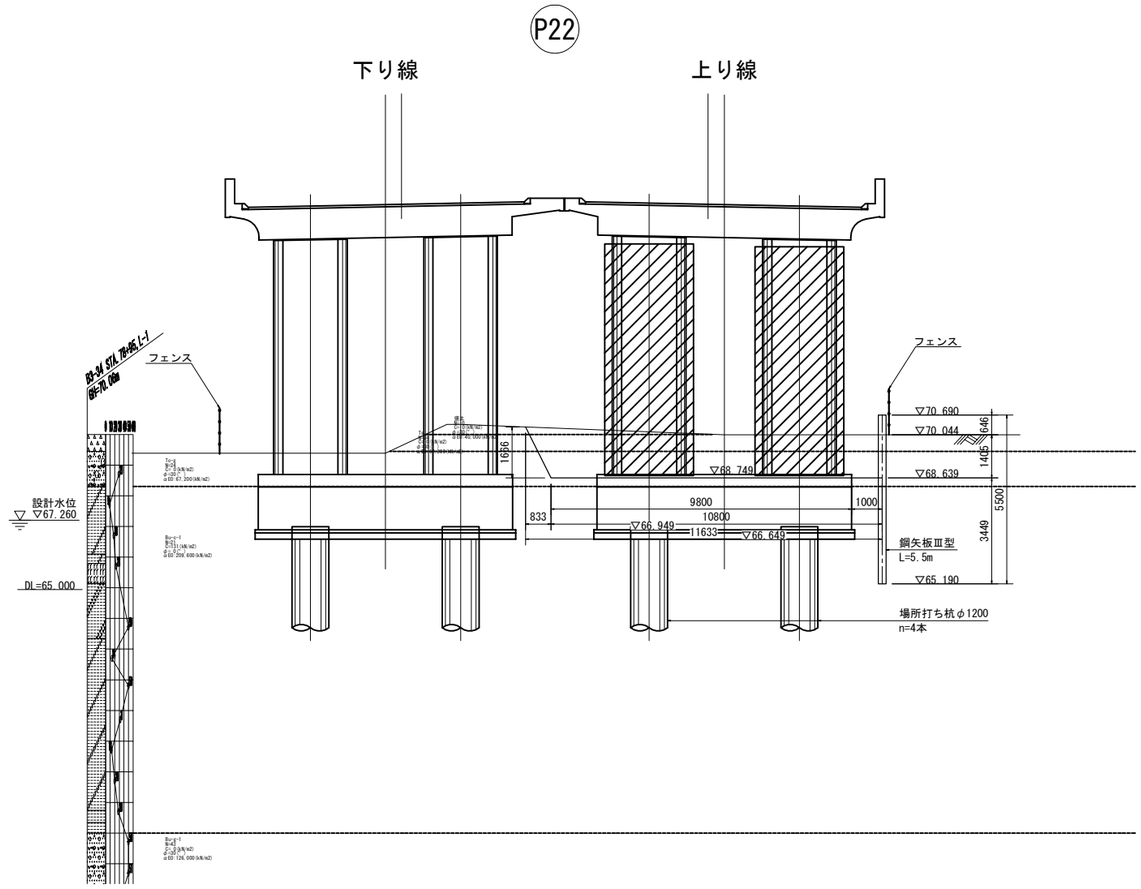
P22橋脚 構造物掘削図（上り線）（その２）S=図示

特殊部 BP22
（土留工詳細図）

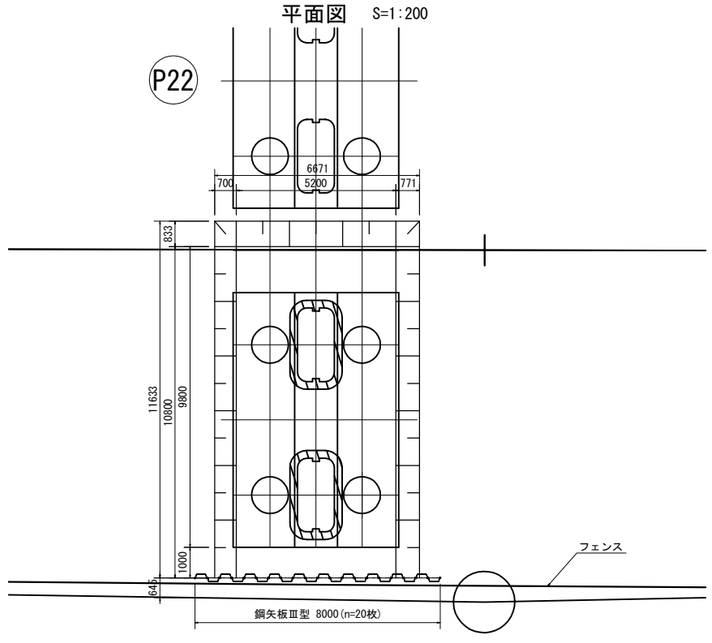
側面図 S=1:200



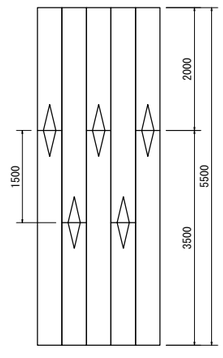
正面図 S=1:200



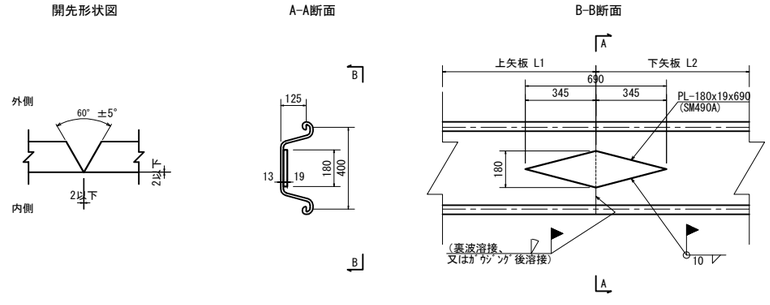
平面図 S=1:200



鋼矢板割付図 S=1:100



鋼矢板継手詳細図 S=1:30



材料表

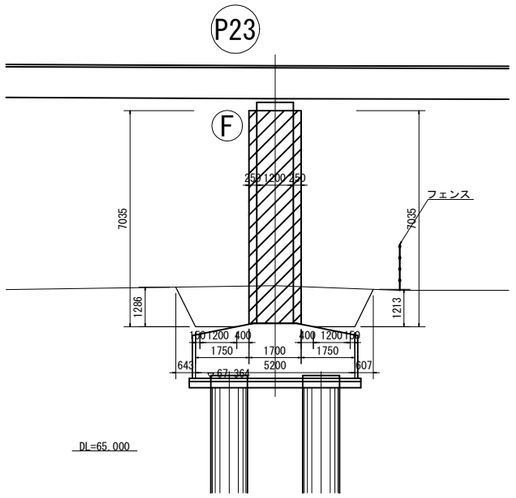
名 称	規 格・寸 法	長 さ (m)	本数 (本)	単位質量	一本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘 要
鋼矢板	Ⅲ型	3.500	20	60.0	210.0	4,200	
	Ⅲ型	2.000	20	60.0	120.0	2,400	
鋼矢板合計						6,600 kg	
継手箇所						20 箇所	

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P22橋脚 構造物掘削図（上り線）（その２）		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

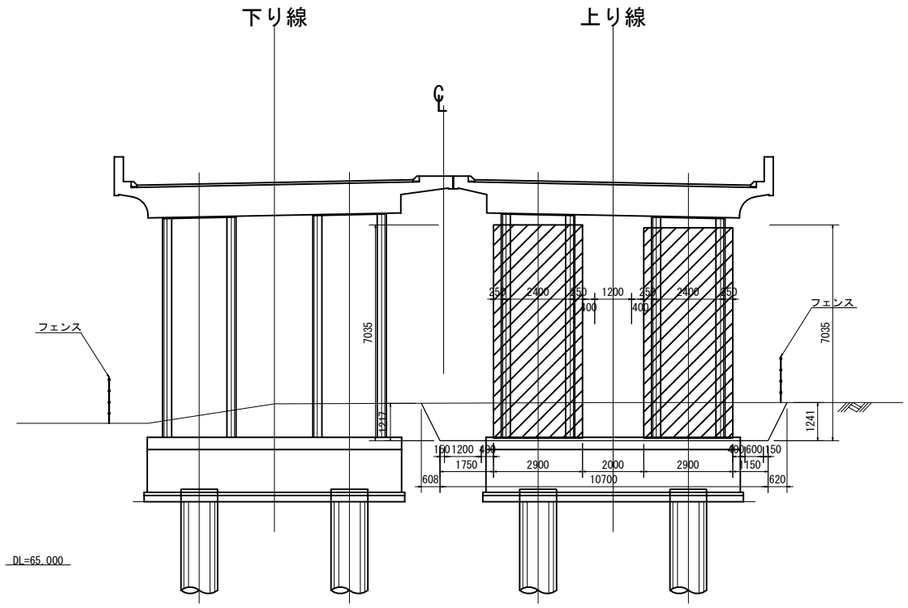
P23橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

側面図



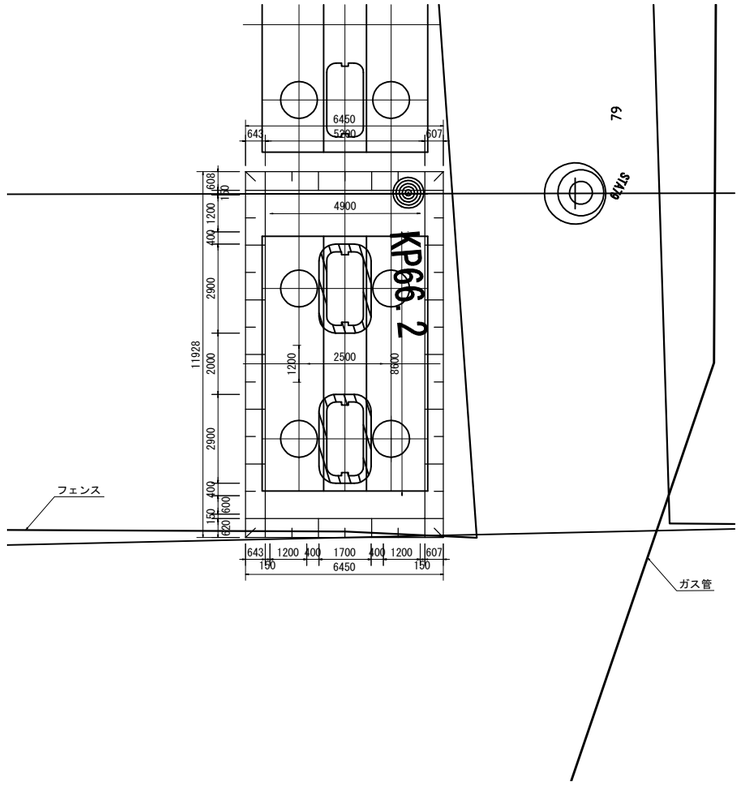
正面図



平面図

下り線

上り線

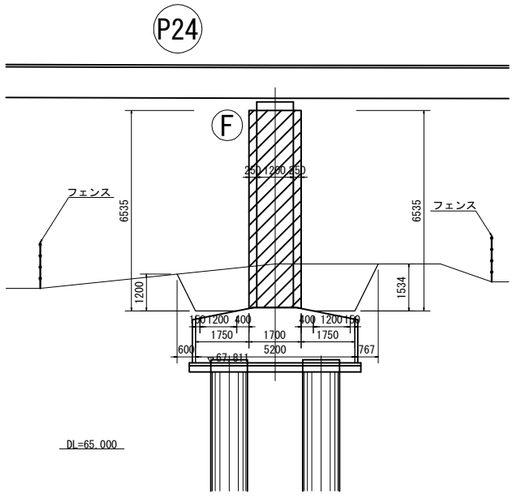


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P23橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

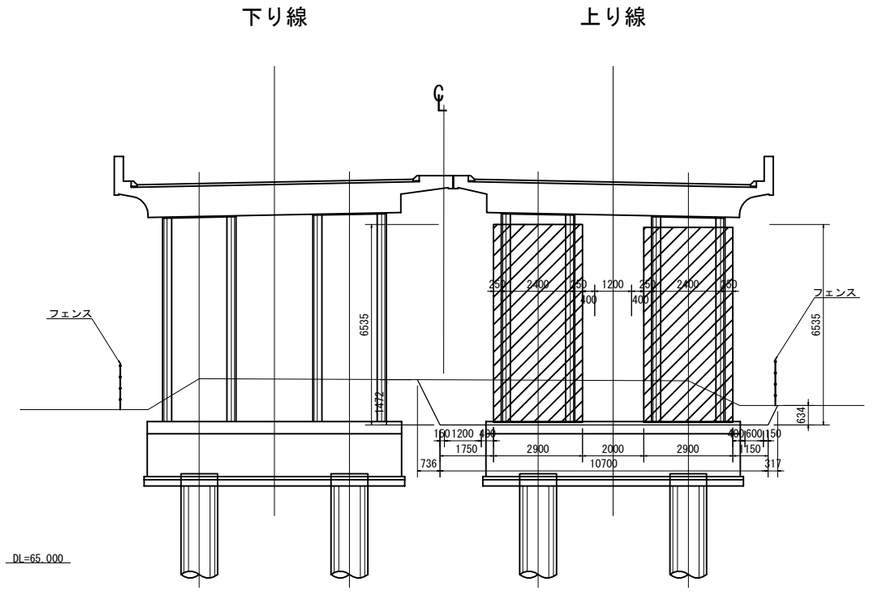
P24橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

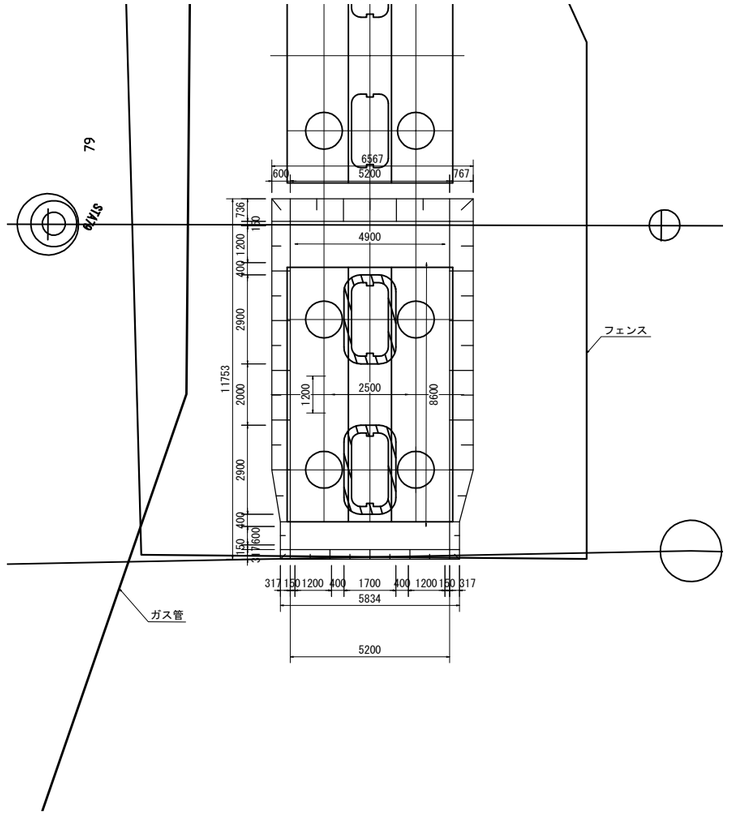
側面図



正面図



平面図

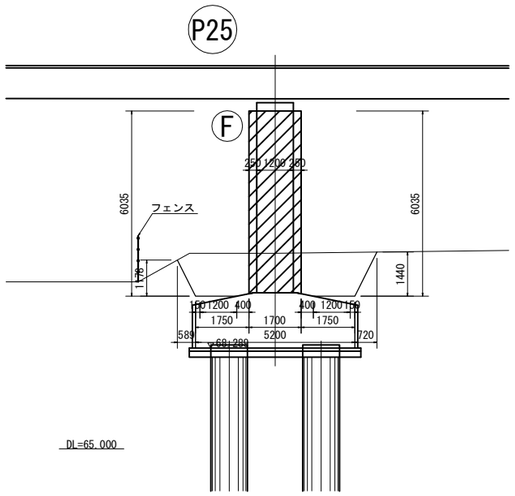


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P24橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

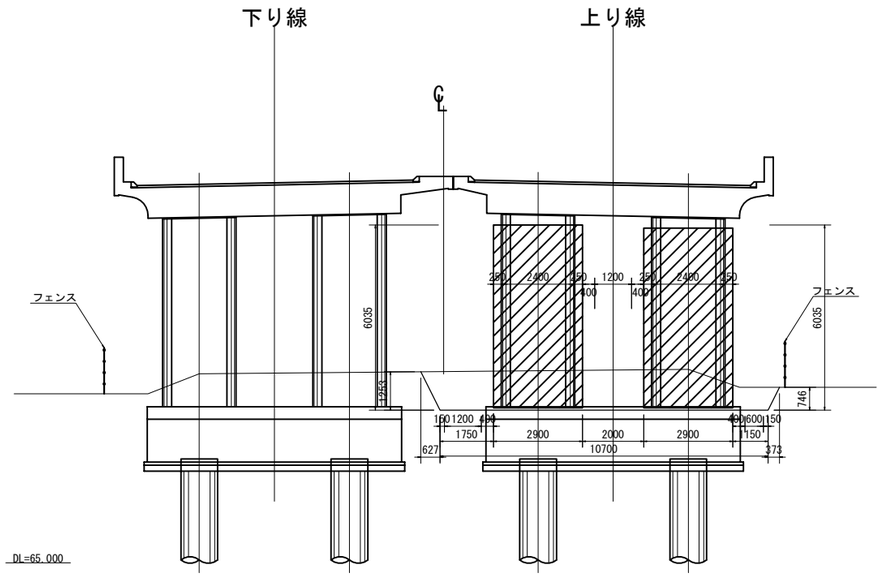
P25橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

側面図



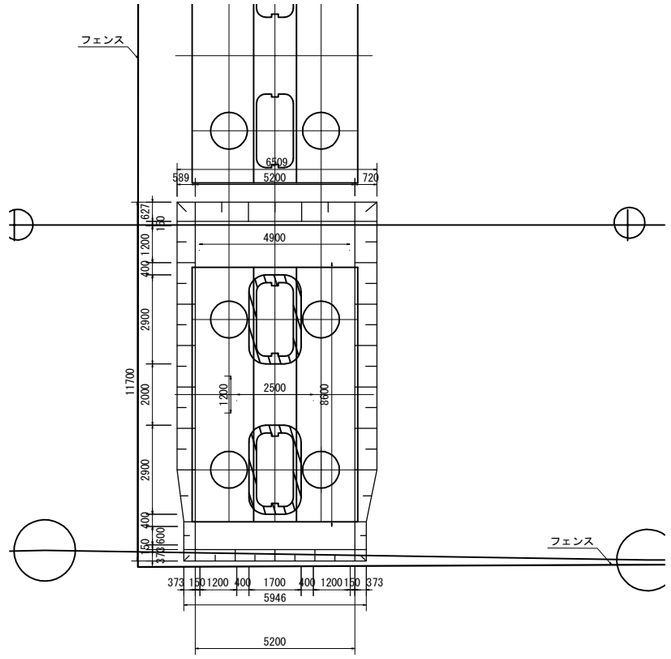
正面図



平面図

下り線

上り線

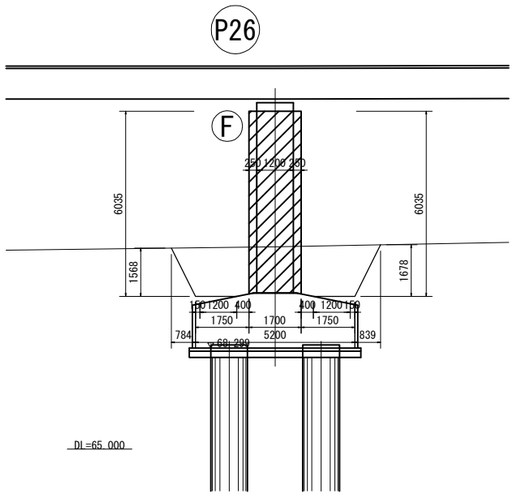


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P25橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

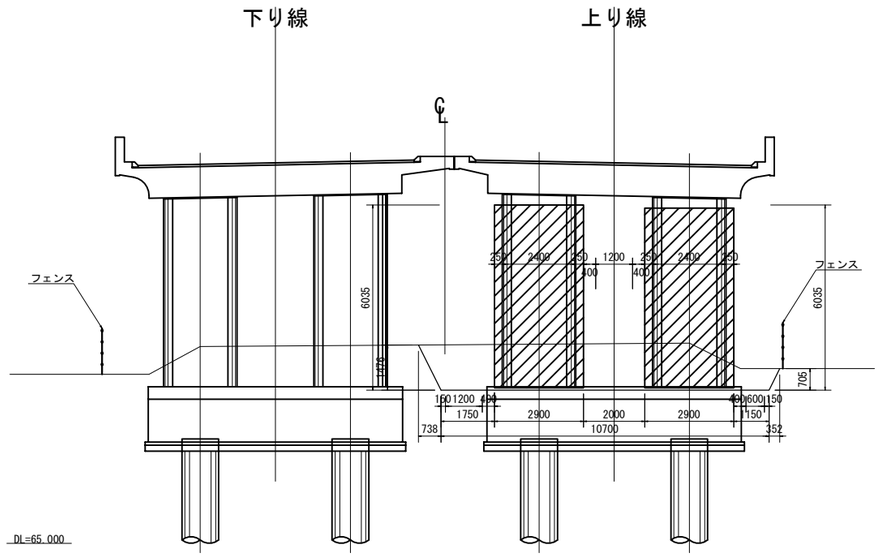
P26橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

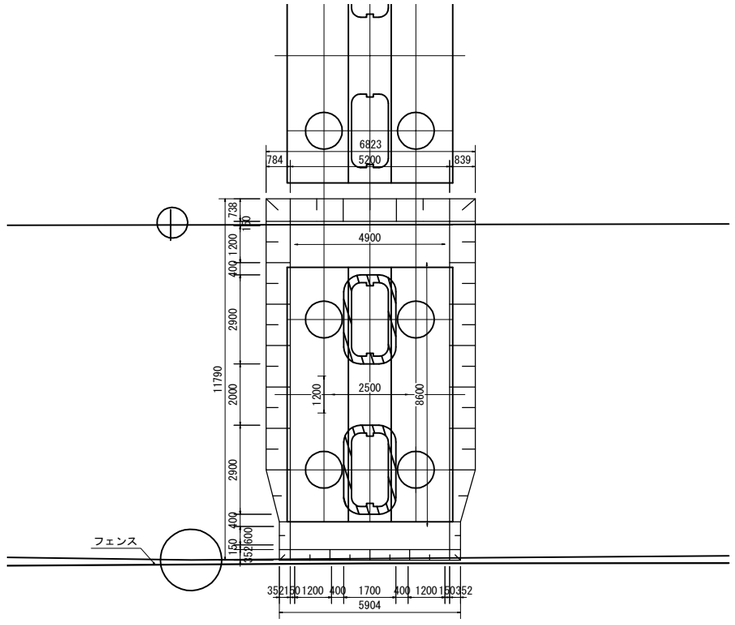
側面図



正面図



平面図

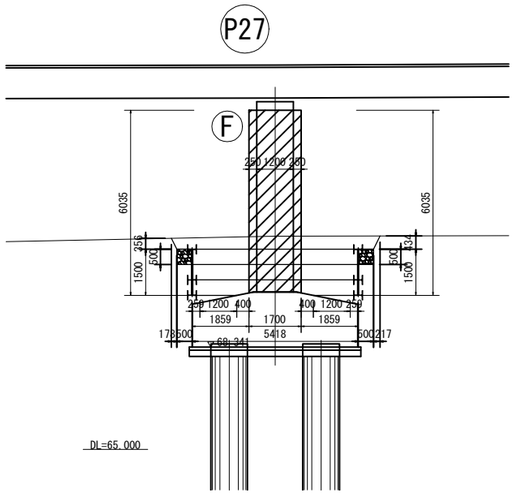


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P26橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

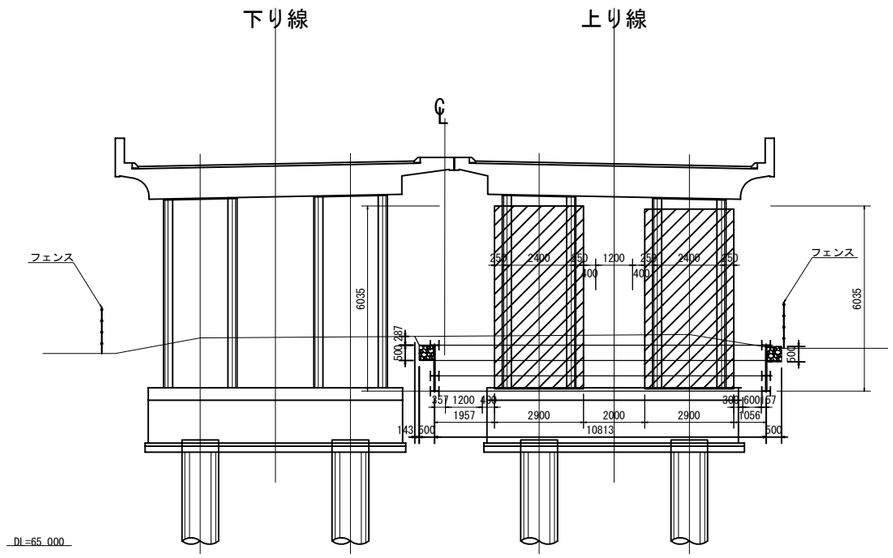
P27橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）S=1:200

特殊部 AP27

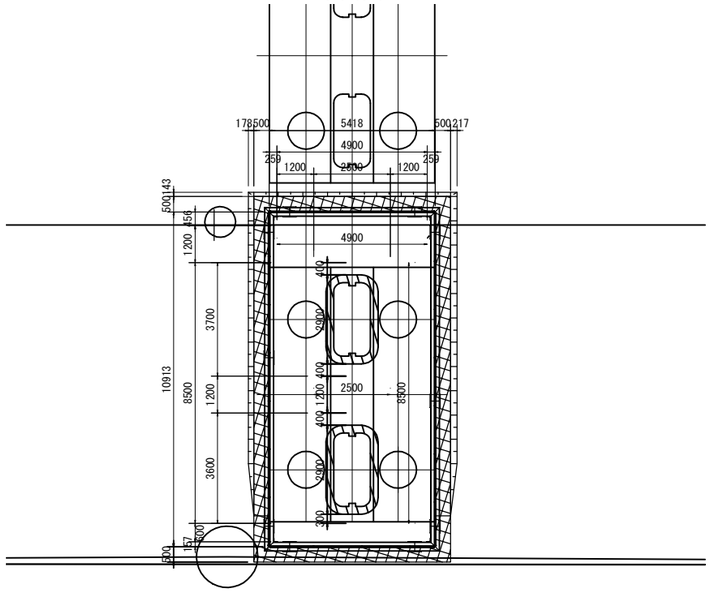
側面図



正面図



平面図

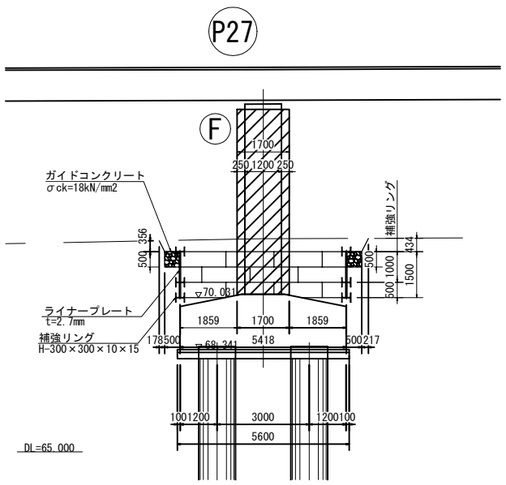


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P27橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

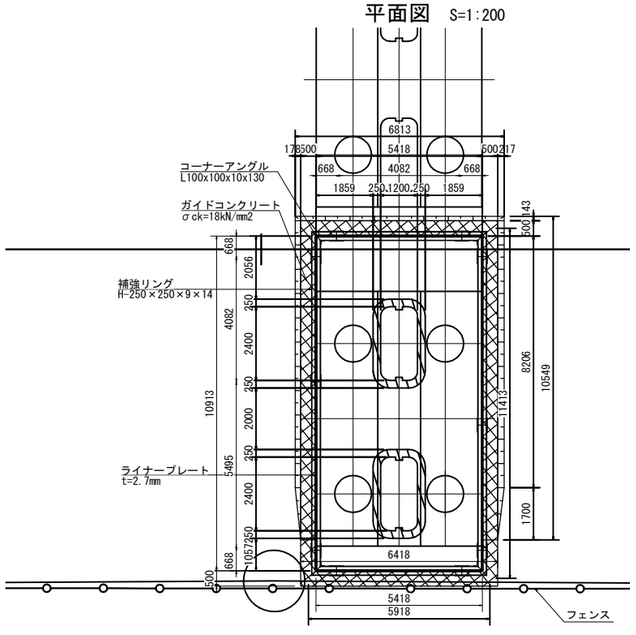
P27橋脚 構造物掘削図（上り線）（その２）S=図示

特殊部 AP27
（ライナープレート詳細図）

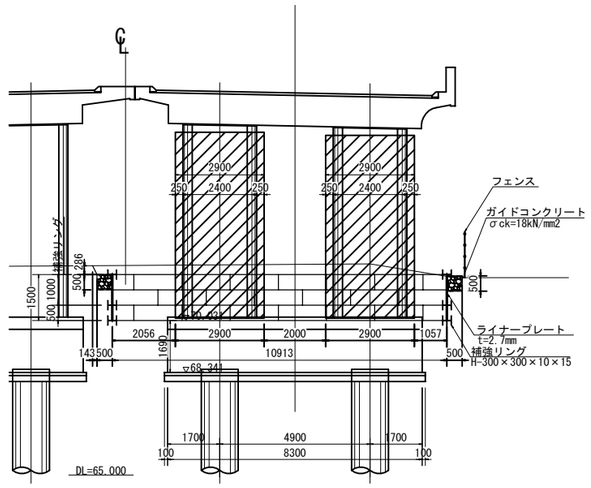
側面図 S=1:200



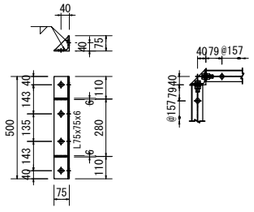
平面図 S=1:200



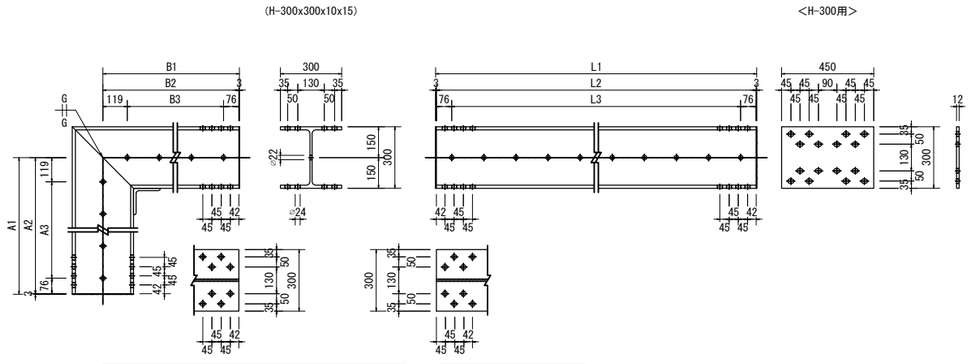
正面図 S=1:200



コーナーアングル詳細図(参考図) S=1:30



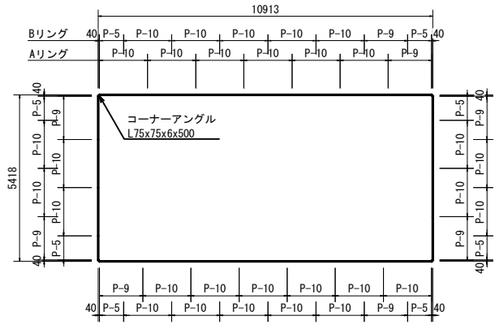
補強リング詳細図(参考図) S=1:30



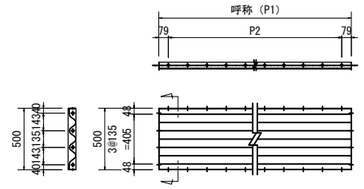
角度部補強リング						
全長	A1	A2	A3	B1	B2	B3
1330	668	665	3 @157= 471	668	665	3 @157= 471

直部補強リング		
L1	L2	L3
4082	4076	25 @157= 3925
5495	5489	34 @157= 5338

ライナープレート構成図 S=1:200



ライナープレート詳細図 S=1:50



呼称	P1	P2
P-10	1570	9 @157=1413
P-9	1413	8 @157=1256
P-5	785	4 @157= 628

材料表

名　称	規　格・寸　法	数量	単位質量 (kg/個)	質量 (kg)	材質	摘　要
ライナープレート	P-10　t=2.7　直材	46	26.0	1,196.0	SS330	黒皮品
	P-9　t=2.7　直材	12	23.6	283.2	SS330	黒皮品
	P-5　t=2.7　直材	10	13.7	137.0	SS330	黒皮品
組立ボルト	M16×30（4.6）	430	0.137	58.9	JIS B 1180	黒皮品
	M16×45（8.8 リング用）	618	0.158	97.6	JIS B 1180	黒皮品
	M16×45(8.8 CA用)	96	0.158	15.2	JIS B 1180	黒皮品
コーナーアングル	L75×75×6×500（PL-6付き）	12	3.630	43.6	SS400	黒皮品
補強ﾘﾝｸﾞ直材	H-300×300×10×15×5489	6	510.0	3,060.0	SS400	黒皮品
	H-300×300×10×15×4076	12	379.0	4,548.0	SS400	黒皮品
	H-300×300×10×15×1330	12	101.0	1,212.0	SS400	黒皮品
継手板	PL-300×12×450	60	12.7	762.0	SM490	黒皮品
継手ボルト	M20×50(8.8)	960	0.286	274.6	SS400	黒皮品
ロックワッシャー	M20用	480			JIS B 1256	黒皮品
合　計				11,688.1		

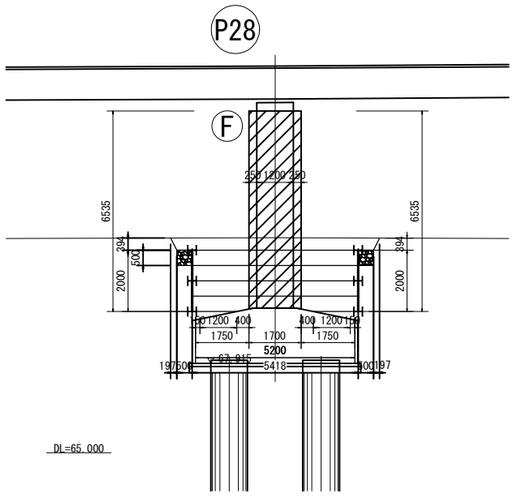
名　称	規　格	単位	数量	摘要
コンクリート	ガイドコンクリート	σck=18kN/mm2	m^3	8.7	

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P27橋脚 構造物掘削図（上り線）（その２）
縮　尺	図示
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

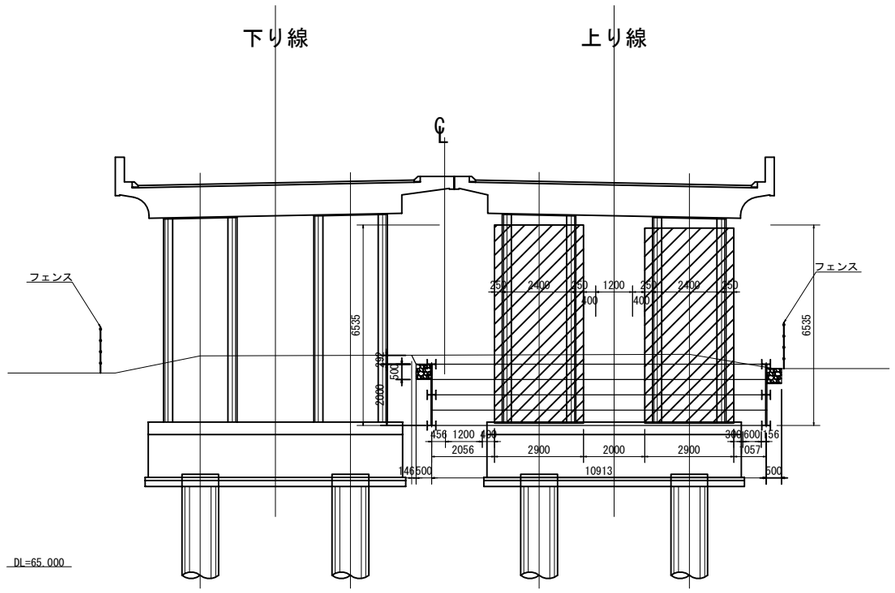
P28橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）S=1:200

特殊部 AP28

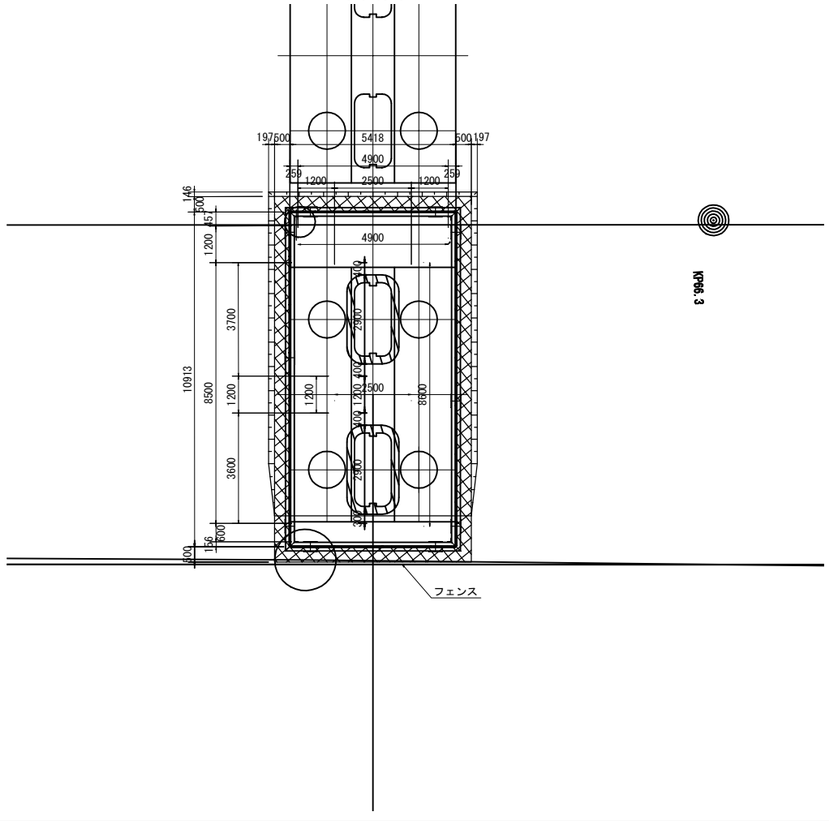
側面図



正面図



平面図

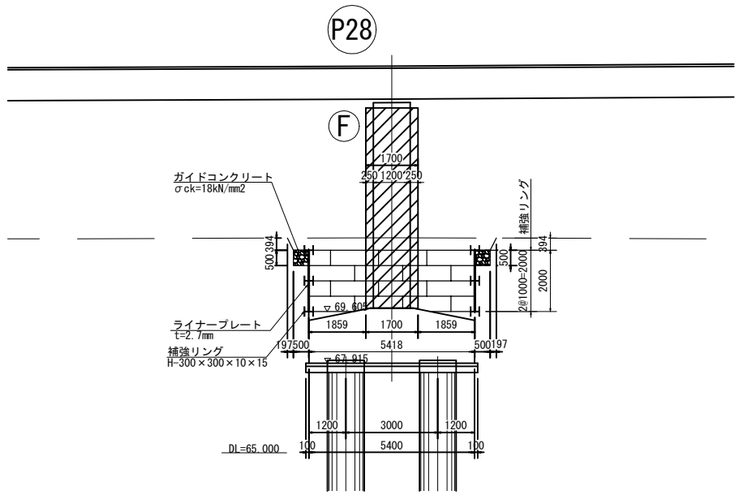


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P28橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

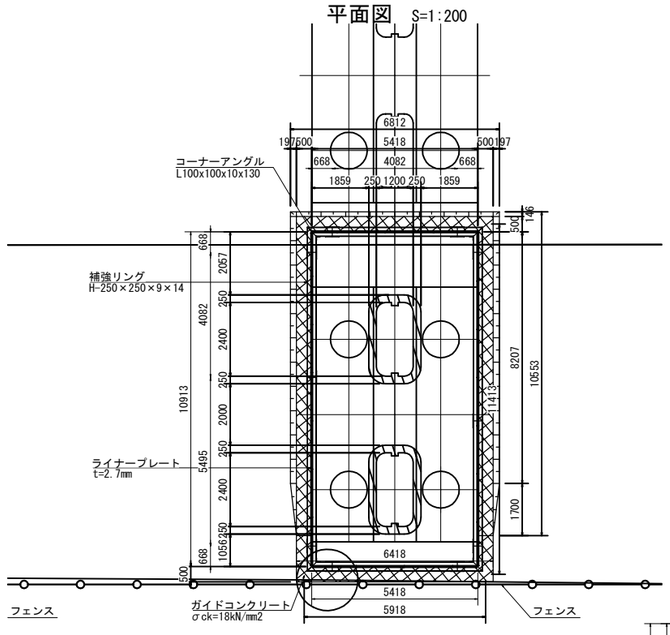
P28橋脚 構造物掘削図（上り線）（その２）S=図示

特殊部 AP28
（ライナープレート詳細図）

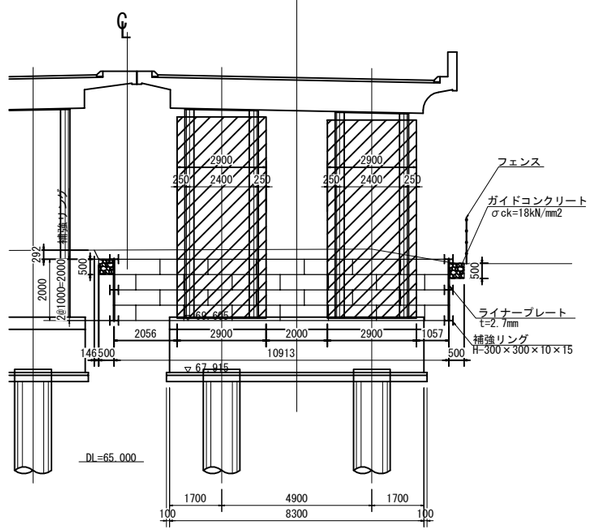
側面図 S=1:200



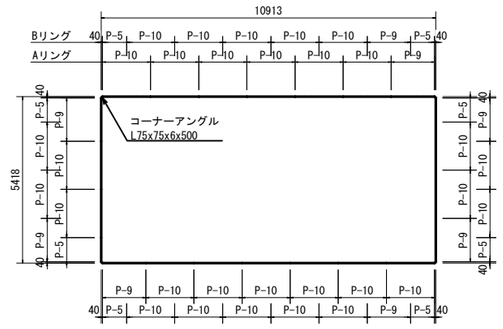
平面図 S=1:200



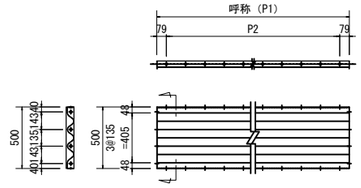
正面図 S=1:200



ライナープレート構成図 S=1:200

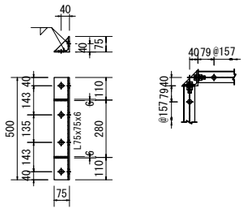


ライナープレート詳細図 S=1:50

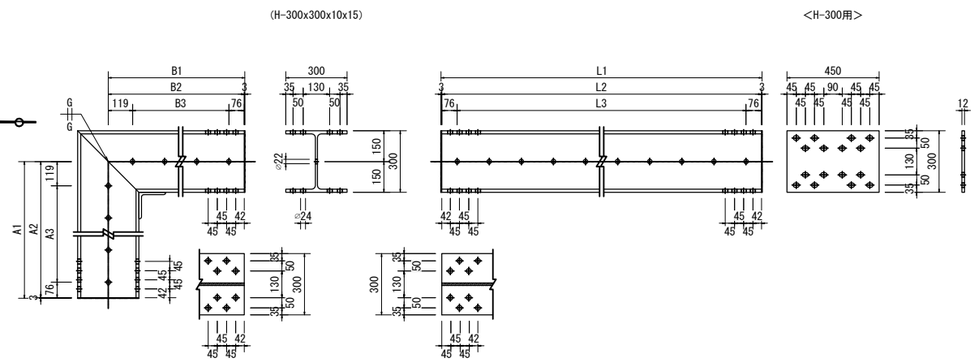


呼称	P1	P2
P-10	1570	9 @157=1413
P-9	1413	8 @157=1256
P-5	785	4 @157= 628

コーナーアングル詳細図(参考図) S=1:30



補強リング詳細図(参考図) S=1:30



角度部補強リング						
全長	A1	A2	A3	B1	B2	B3
1330	668	665	3 @157= 471	668	665	3 @157= 471

直部補強リング		
L1	L2	L3
4082	4076	25 @157= 3925
5495	5489	34 @157= 5338

材料表

名　称	規　格・寸　法	数量	単位質量 (kg/個)	質量 (kg)	材質	摘　要
ライナープレート	P-10　t=2.7　直材	60	26.0	1,560.0	SS330	黒皮品
	P-9　t=2.7　直材	16	23.6	377.6	SS330	黒皮品
	P-5　t=2.7　直材	16	13.7	219.2	SS330	黒皮品
組立ボルト	M16×30（4.6）	716	0.137	98.1	JIS B 1180	黒皮品
	M16×45（8.8 リング用）	618	0.158	97.6	JIS B 1180	黒皮品
	M16×45(8.8 CA用)	128	0.158	20.2	JIS B 1180	黒皮品
コーナーアングル	L75×75×6×500（PL-6付き）	16	3.630	58.1	SS400	黒皮品
補強ﾘﾝｸﾞ直材	H-300×300×10×15×5489	6	510.0	3,060.0	SS400	黒皮品
	H-300×300×10×15×4076	12	379.0	4,548.0	SS400	黒皮品
	H-300×300×10×15×1330	12	130.0	1,560.0	SS400	黒皮品
継手板	PL-300×12×450	60	12.7	762.0	SM490	黒皮品
継手ボルト	M20×50(8.8)	960	0.286	274.6	SS400	黒皮品
ロックワッシャー	M20用	480			JIS B 1256	黒皮品
合　計				12,635.4		

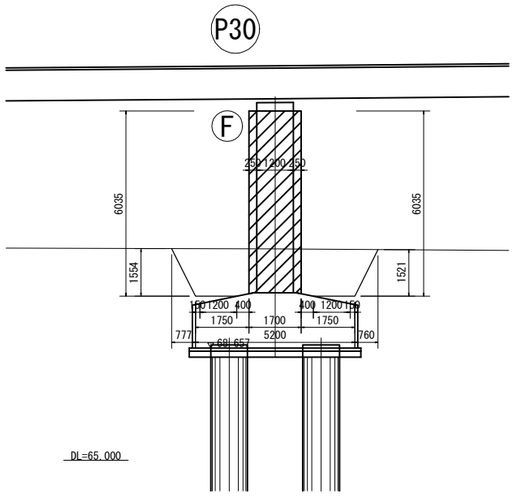
名　称	規　格	単位	数量	摘要
コンクリート	ガイドコンクリート	σck=18kN/mm2	m^3	8.7	

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P4橋脚 構造物掘削図(上り線)
縮　尺	1:200
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

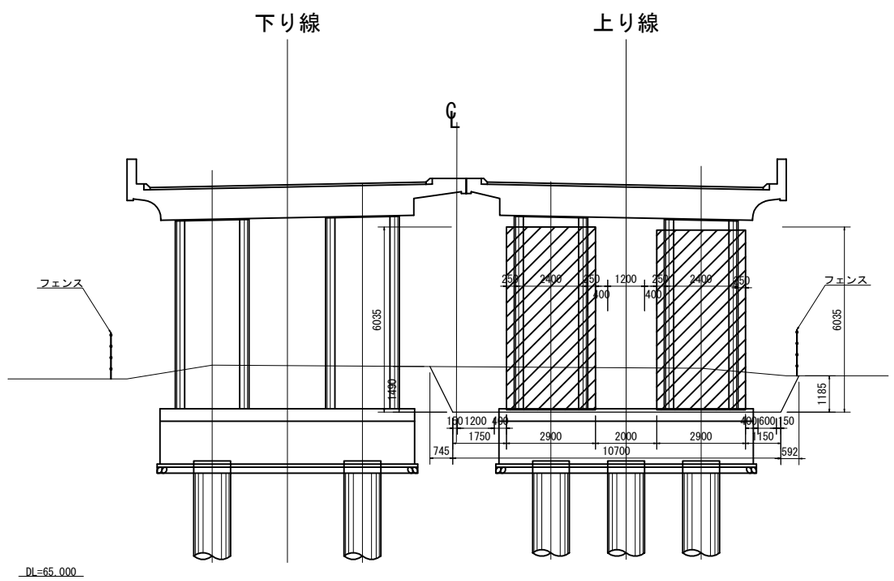
P30橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

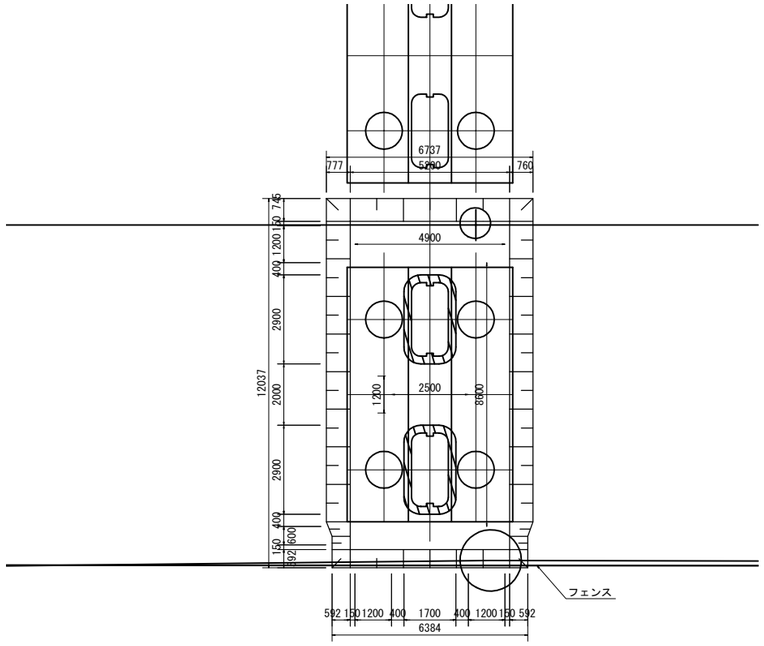
側面図



正面図



平面図

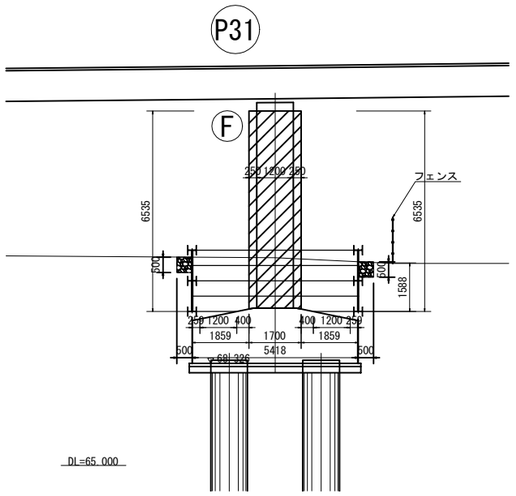


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P30橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

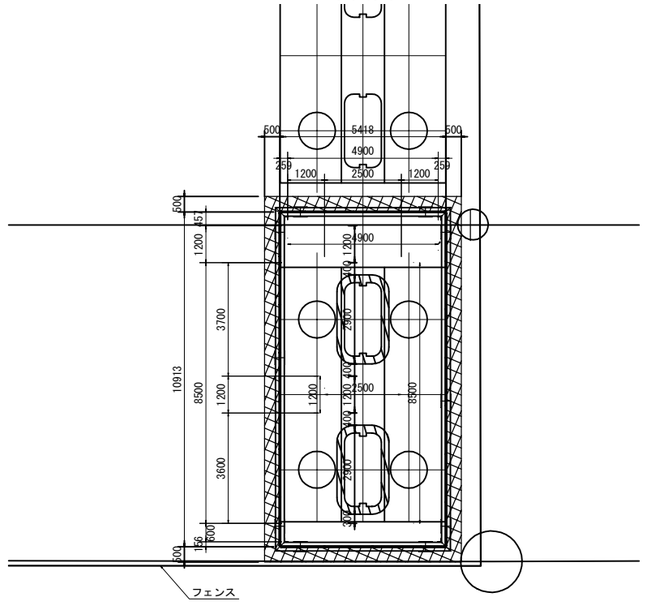
P31橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）S=1:200

特殊部 AP31

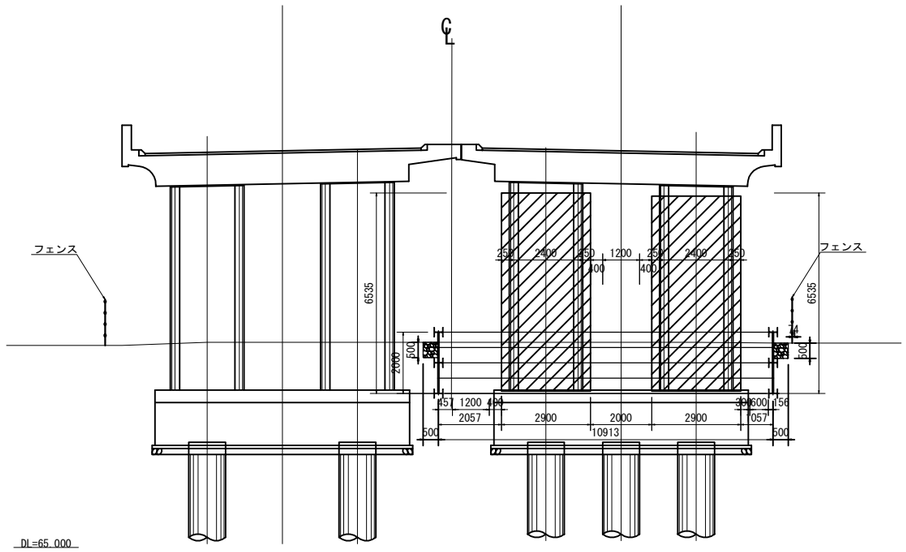
側面図



平面図



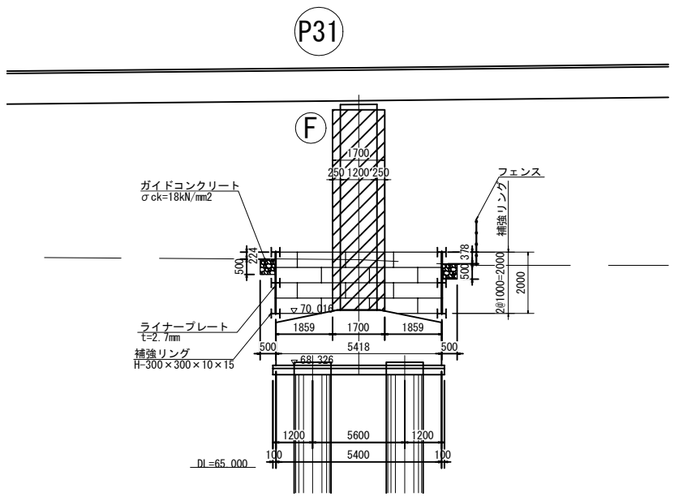
正面図



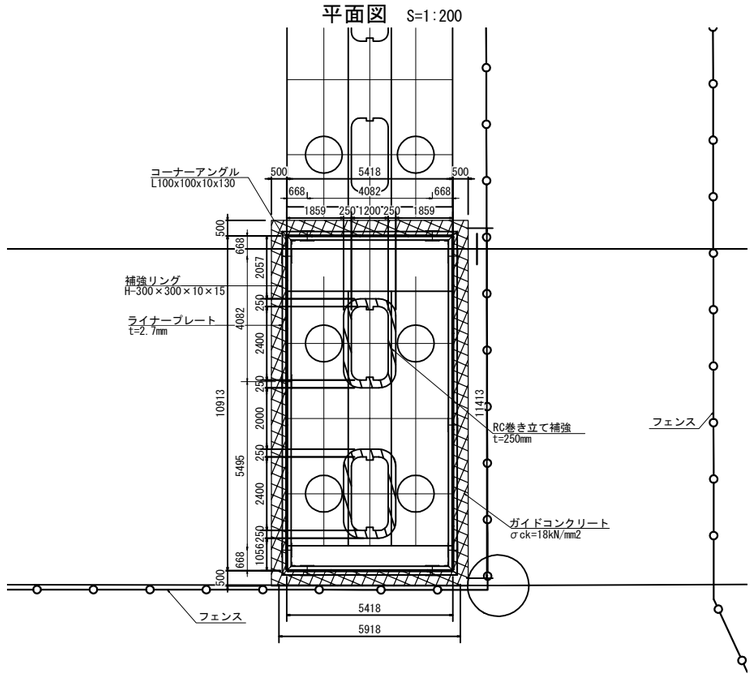
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P31橋脚 構造物掘削図（上り線）（その１）
縮　尺	1:200　図面番号　/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

P31橋脚 構造物掘削図（上り線）（その２）S=図示

側面図 S=1:200

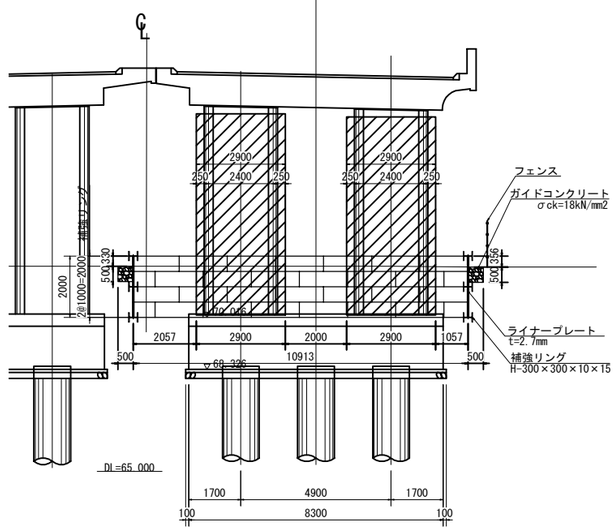


平面図 S=1:200

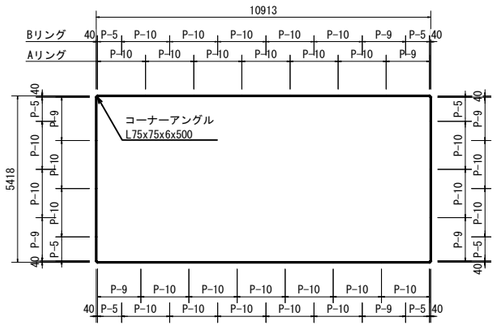


特殊部 AP31
（ライナープレート詳細図）

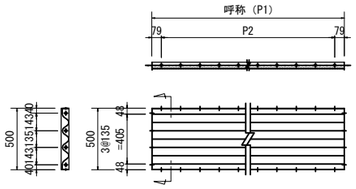
正面図 S=1:200



ライナープレート構成図 S=1:200

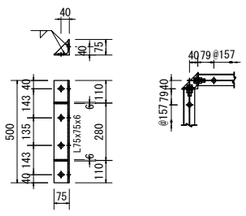


ライナープレート詳細図 S=1:50



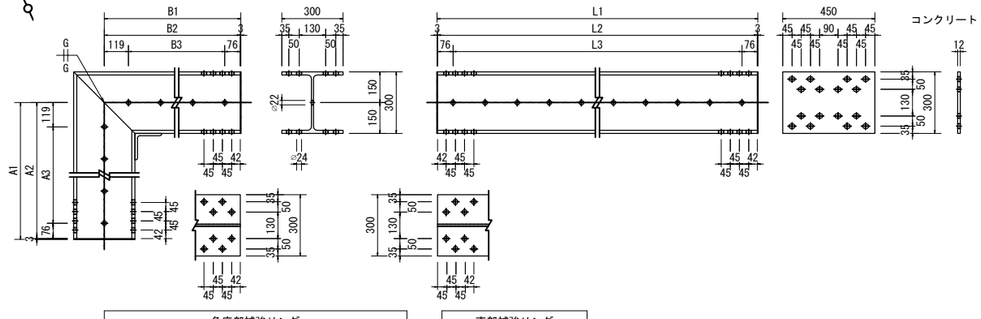
呼称	P1	P2
P-10	1570	9 @157=1413
P-9	1413	8 @157=1256
P-5	785	4 @157=628

コーナーアングル詳細図(参考図) S=1:30



補強リング詳細図(参考図) S=1:30

(H-300x300x10x15)　　<H-300用>



角度部補強リング						
全長	A1	A2	A3	B1	B2	B3
1330	668	665	3 @157= 471	668	665	3 @157= 471

直部補強リング		
L1	L2	L3
4082	4076	25 @157= 3925
5495	5489	34 @157= 5338

材料表

名　称	規　格・寸　法	数量	単位質量 (kg/個)	質量 (kg)	材質	摘　要
ライナープレート	P-10　t=2.7　直材	60	26.0	1,560.0	SS330	黒皮品
	P-9　t=2.7　直材	16	23.6	377.6	SS330	黒皮品
	P-5　t=2.7　直材	16	13.7	219.2	SS330	黒皮品
組立ボルト	M16×30（4.6）	716	0.137	98.1	JIS B 1180	黒皮品
	M16×45（8.8 リング用）	618	0.158	97.6	JIS B 1180	黒皮品
	M16×45(8.8 CA用)	128	0.158	20.2	JIS B 1180	黒皮品
コーナーアングル	L75×75×6×500（PL-6付き）	16	3.630	58.1	SS400	黒皮品
補強ﾘﾝｸﾞ直材	H-300×300×10×15×5489	6	510.0	3,060.0	SS400	黒皮品
	H-300×300×10×15×4076	12	379.0	4,548.0	SS400	黒皮品
	H-300×300×10×15×1330	12	130.0	1,560.0	SS400	黒皮品
継手板	PL-300×12×450	60	12.7	762.0	SM490	黒皮品
継手ボルト	M20×50(8.8)	960	0.286	274.6	SS400	黒皮品
ロックワッシャー	M20用	480			JIS B 1256	黒皮品
合　計				12,635.4		

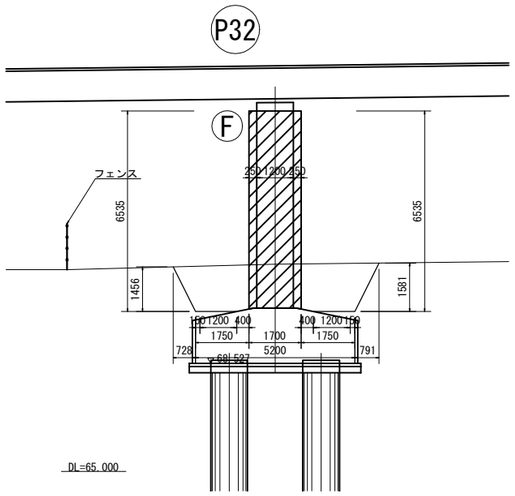
名　称	規　格	単位	数量	摘要
ガイドコンクリート	σck=18kN/mm2	m^3	8.7	

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P4橋脚 構造物掘削図(上り線)
縮　尺	1:200　図面番号 /
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

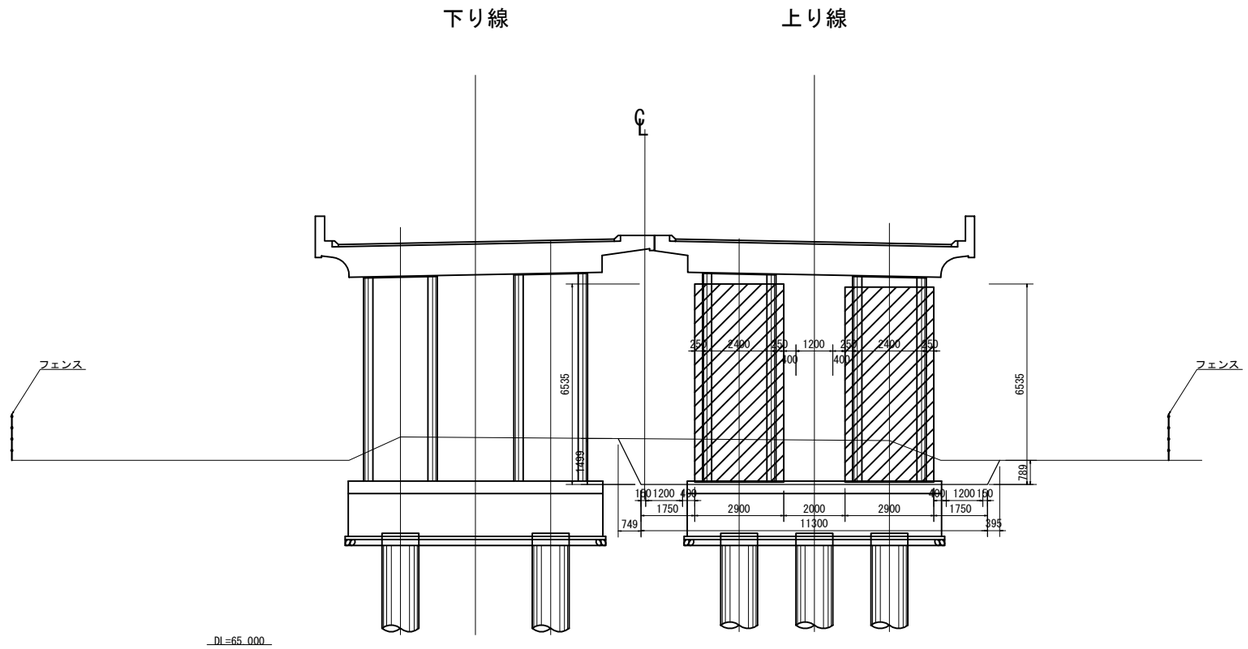
P32橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

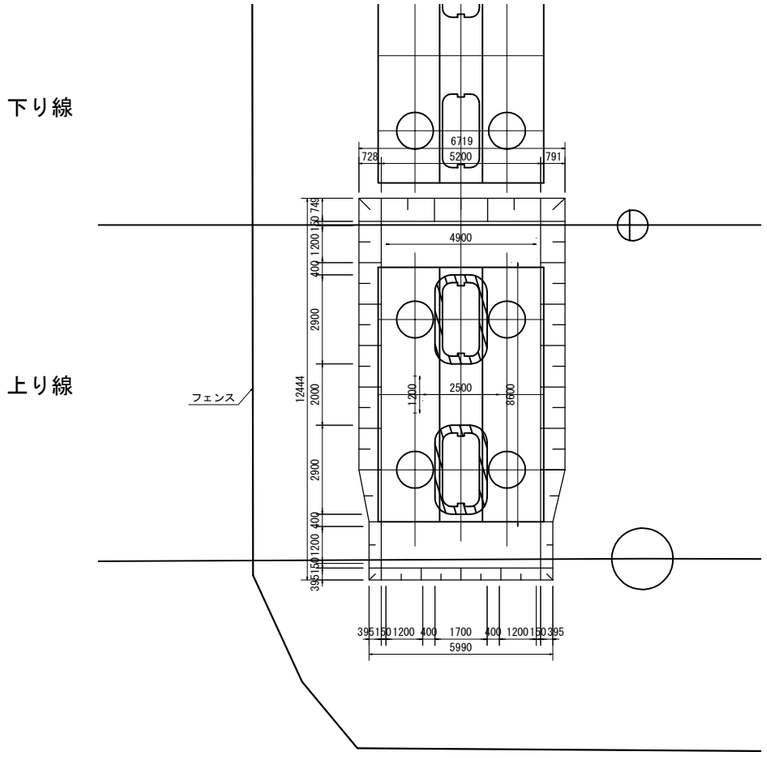
側面図



正面図



平面図

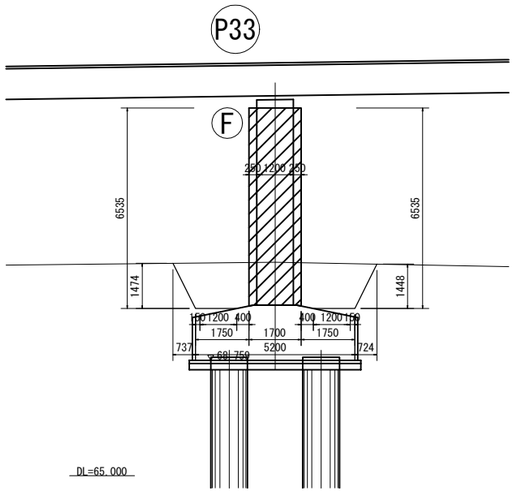


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P32橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

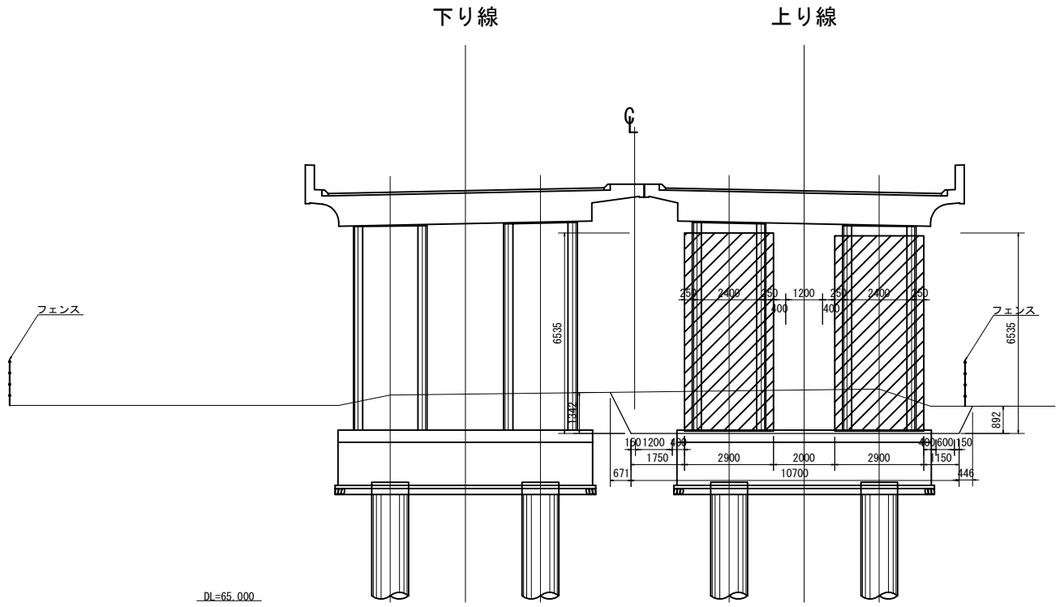
P33橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

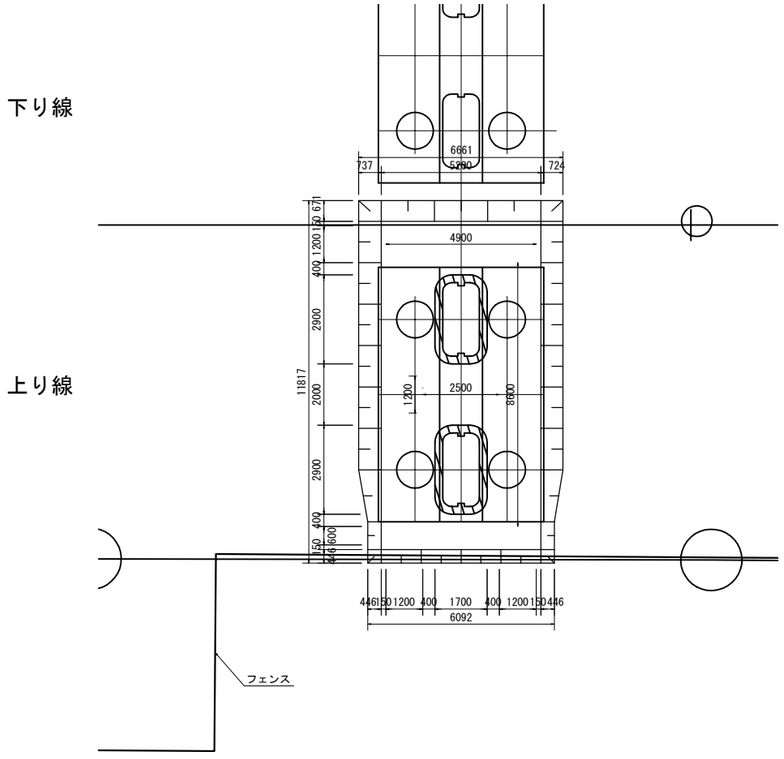
側面図



正面図



平面図

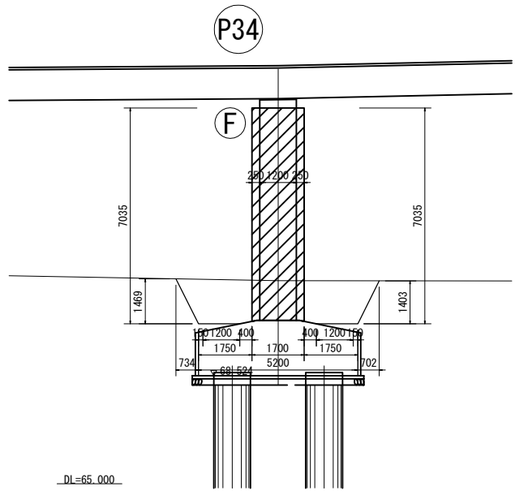


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P33橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

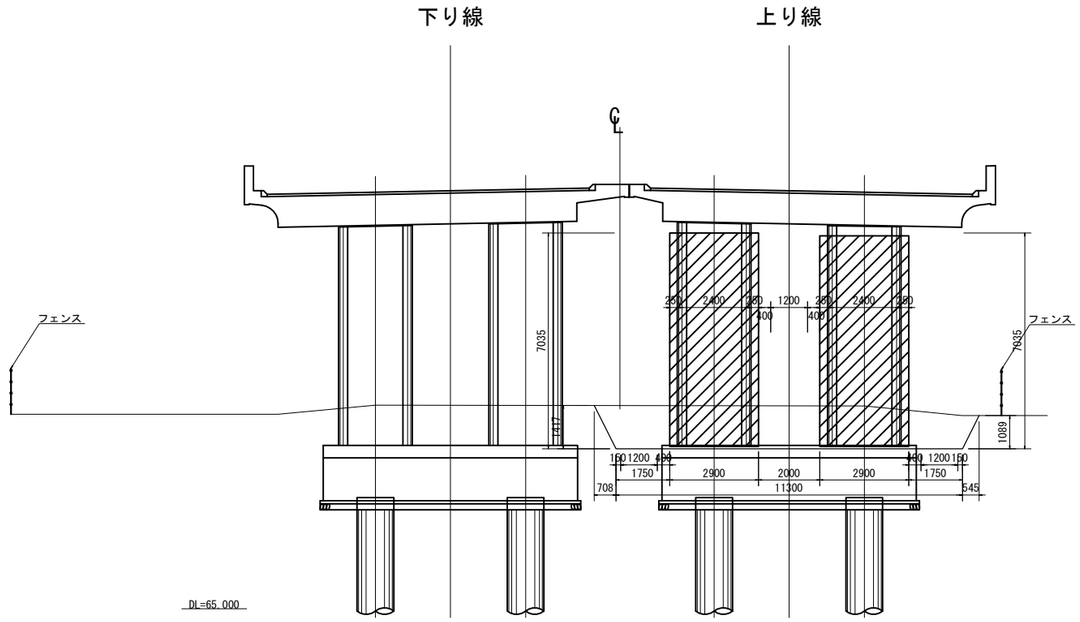
P34橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

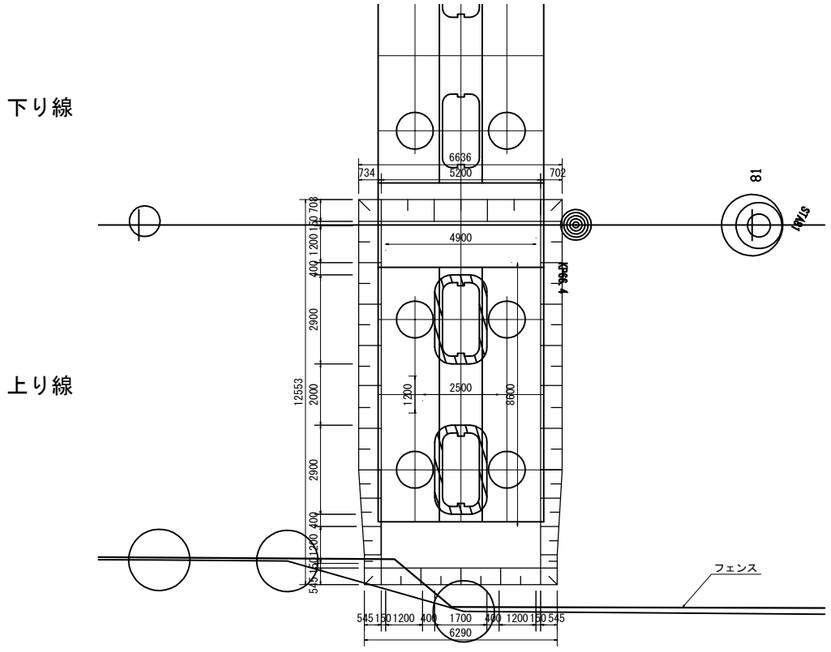
側面図



正面図



平面図

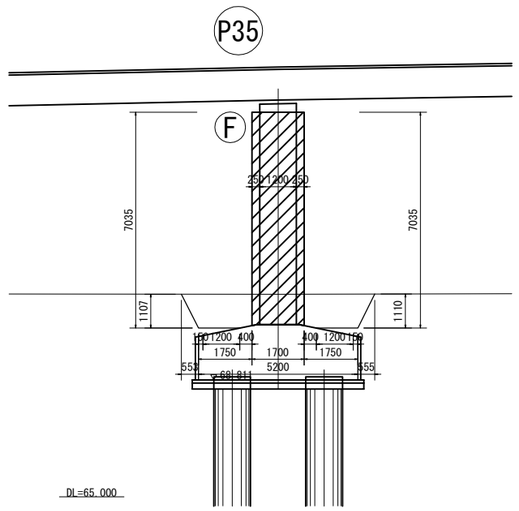


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P34橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

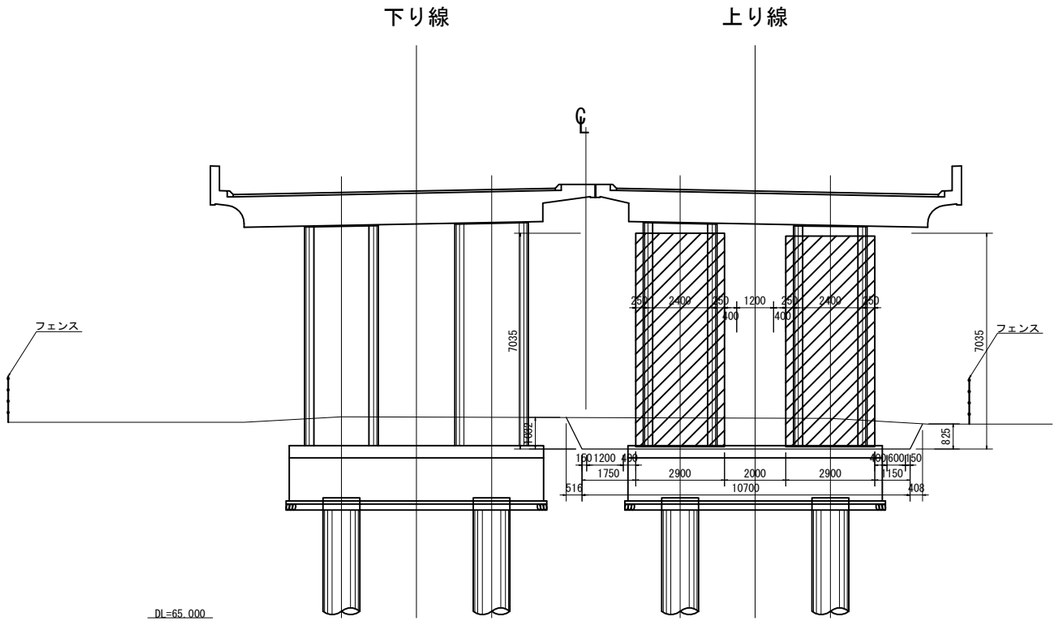
P35橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

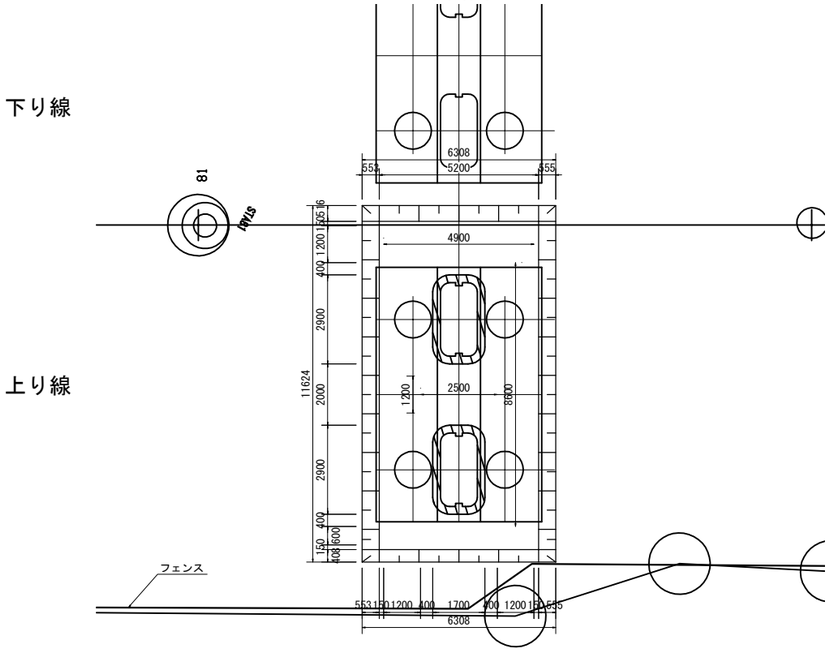
側面図



正面図



平面図

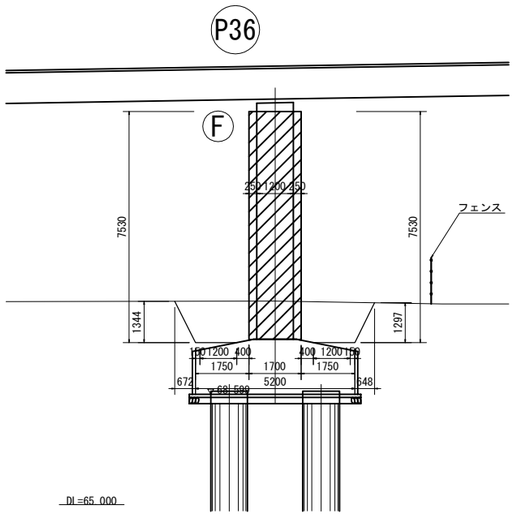


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P35橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

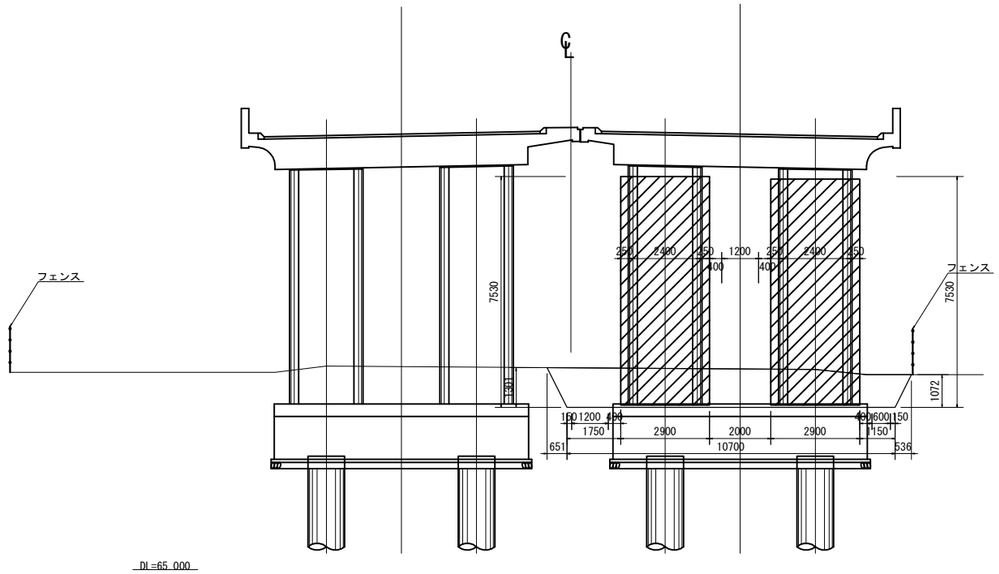
P36橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

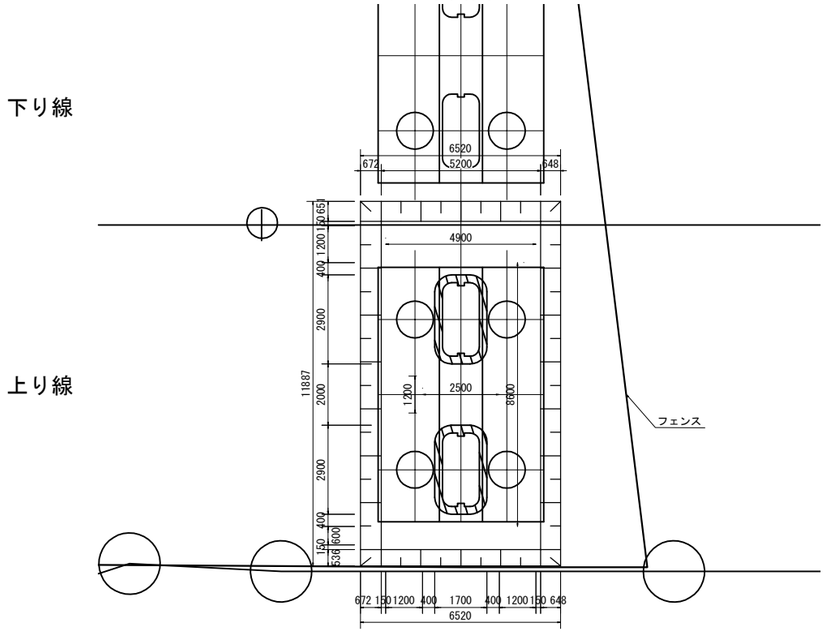
側面図



正面図



平面図

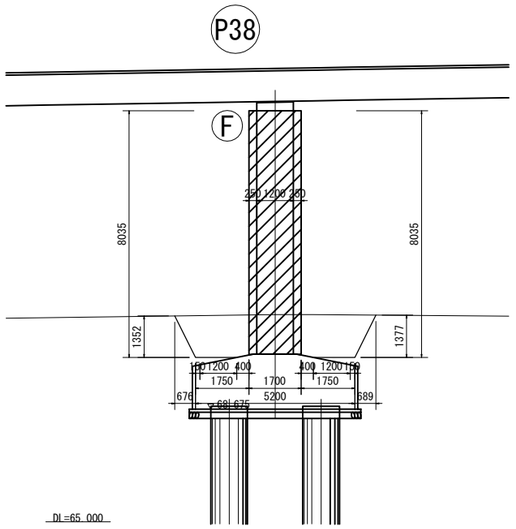


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P36橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

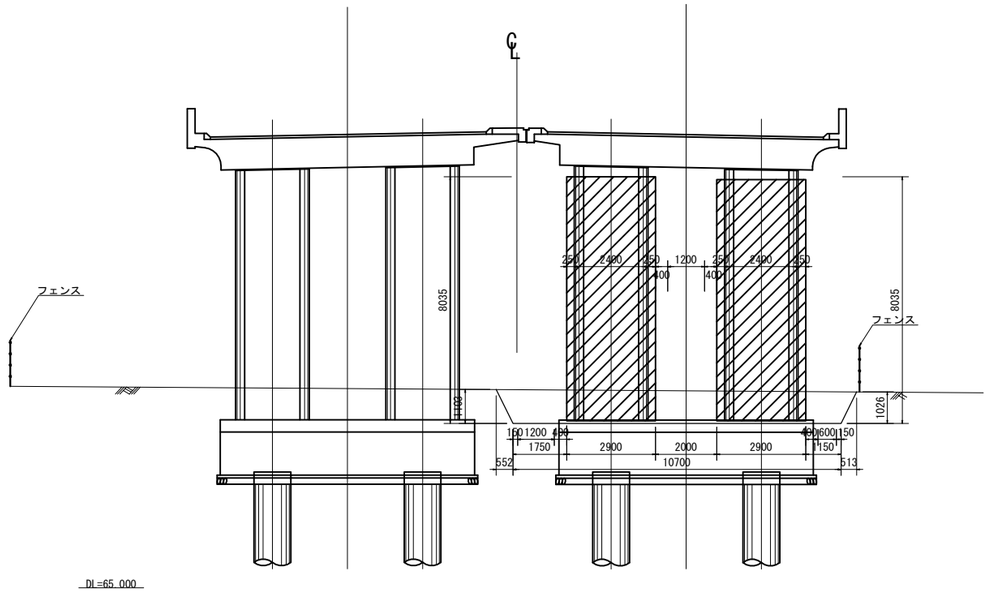
P38橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

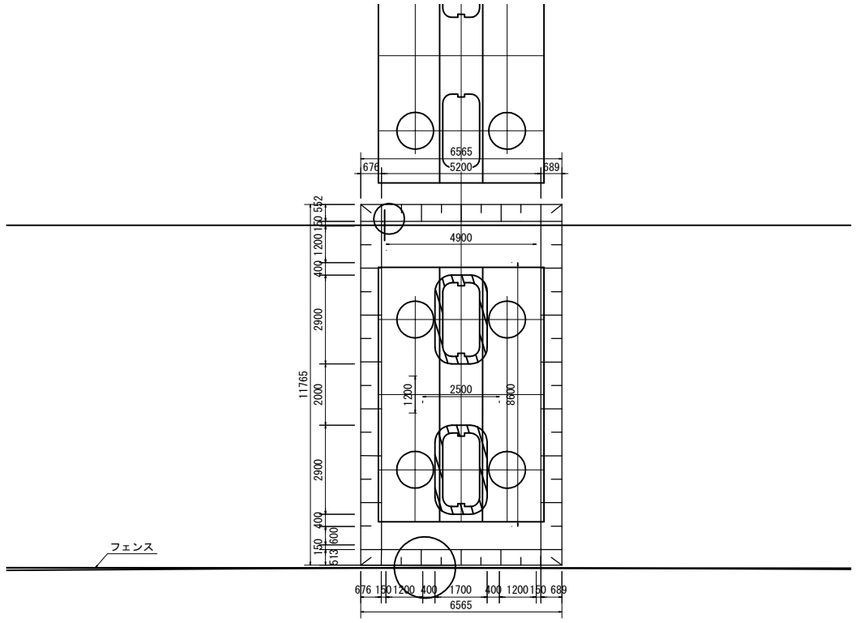
側面図



正面図



平面図

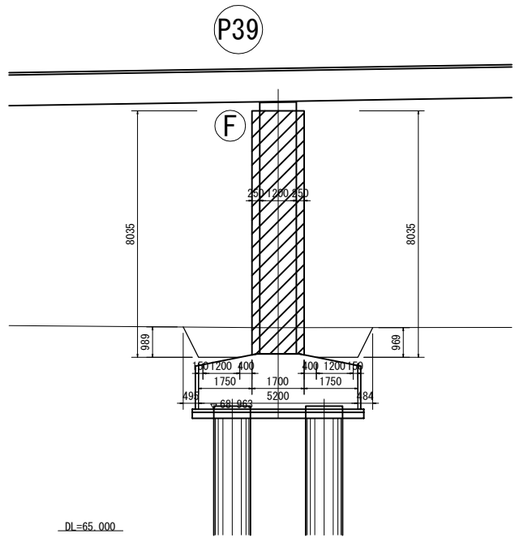


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P38橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

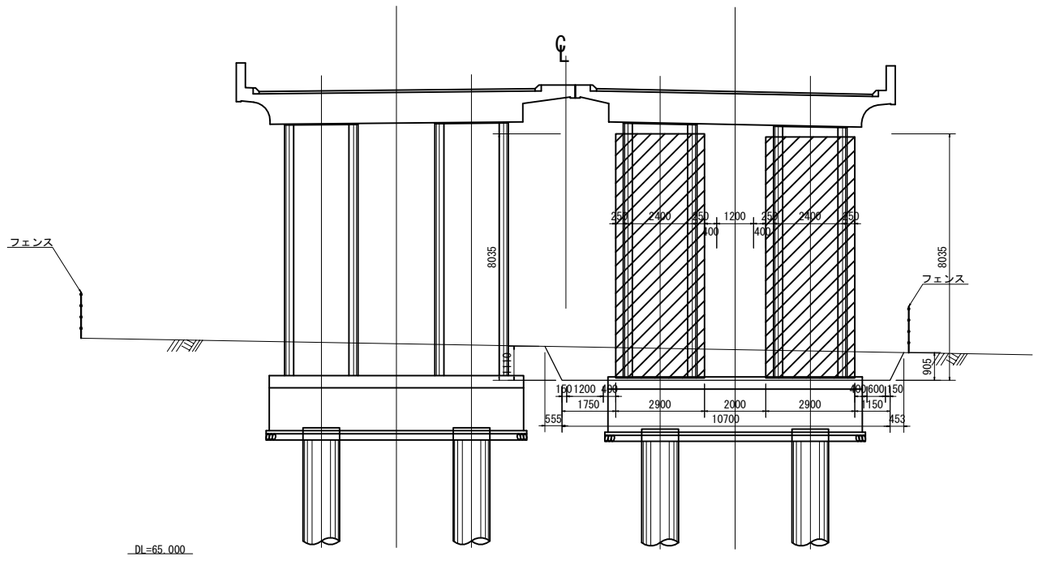
P39橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

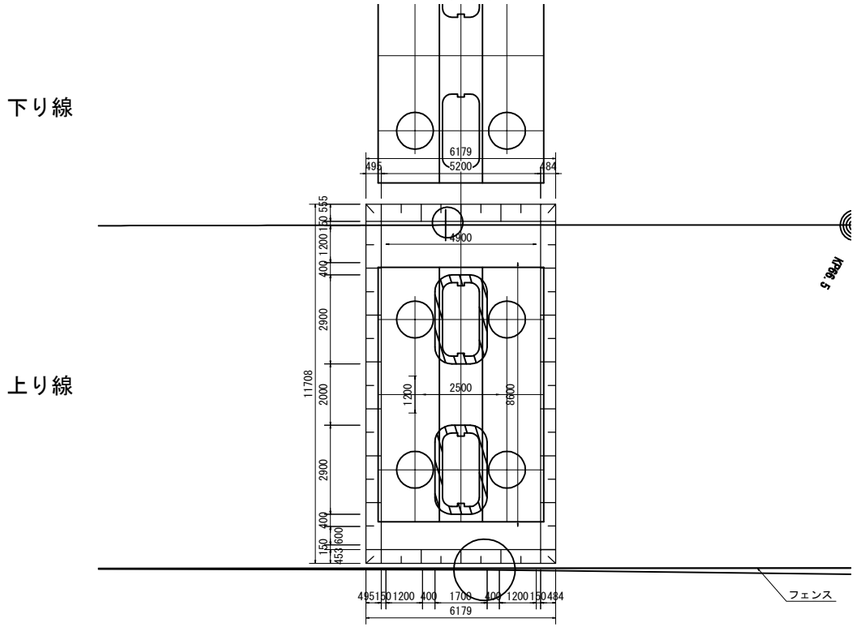
側面図



正面図



平面図

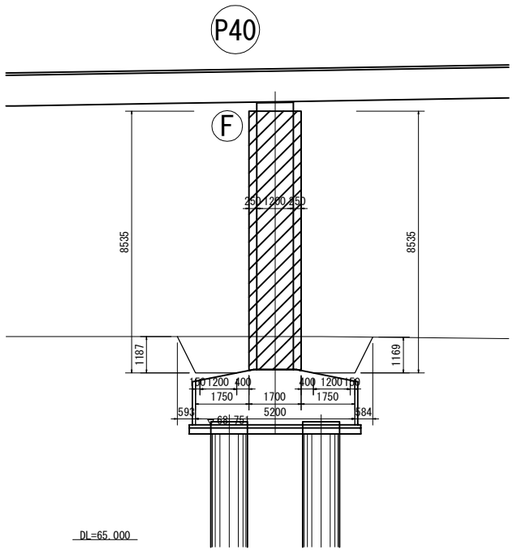


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P39橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

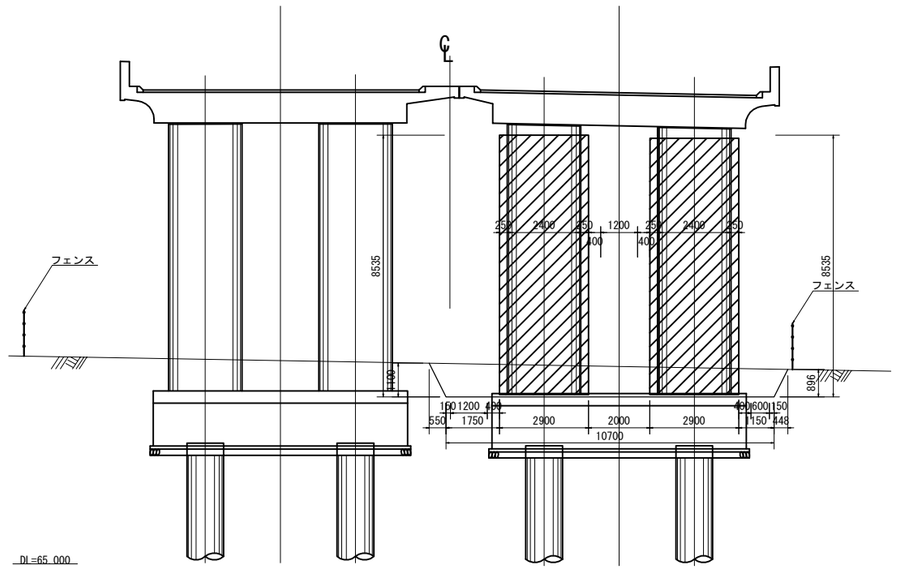
P40橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

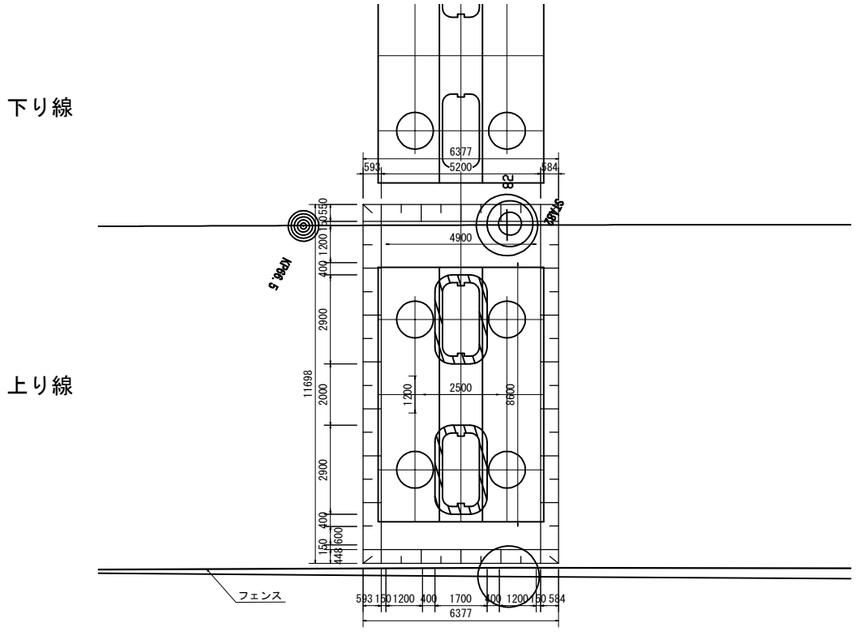
側面図



正面図



平面図

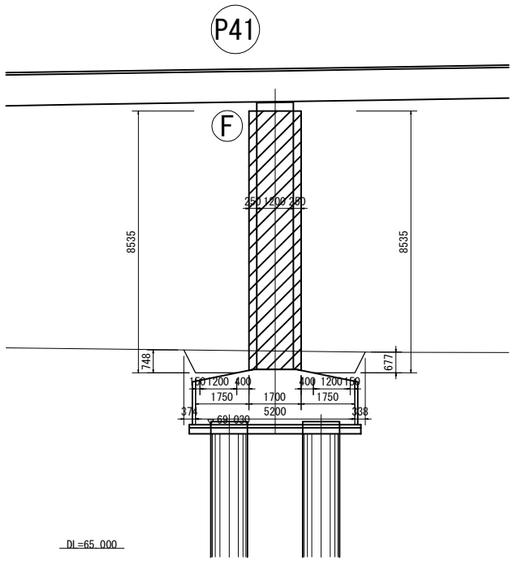


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P40橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

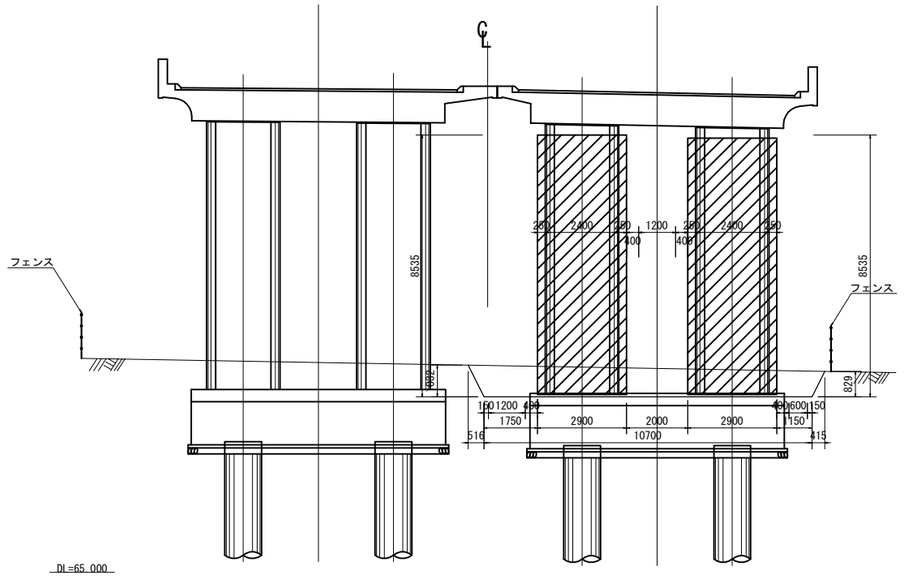
P41橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

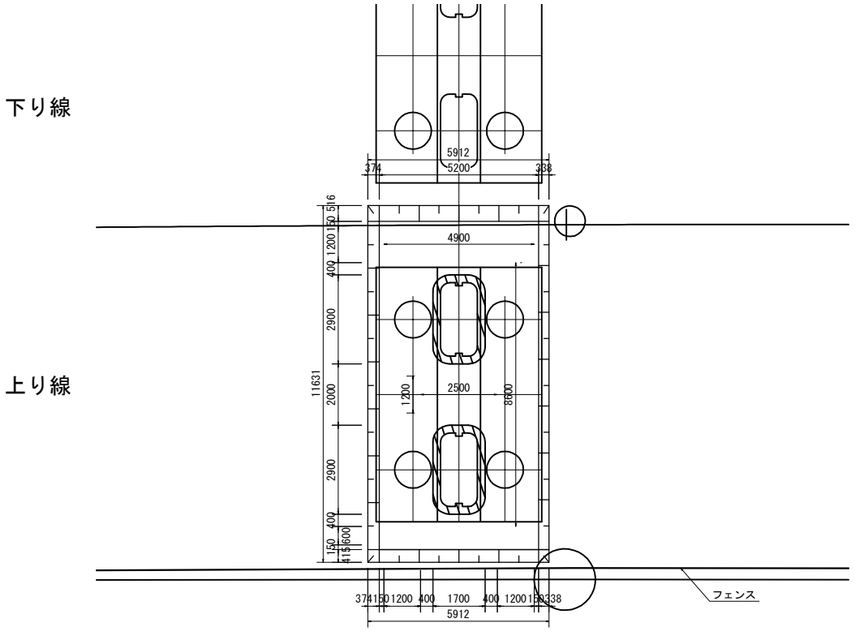
側面図



正面図



平面図

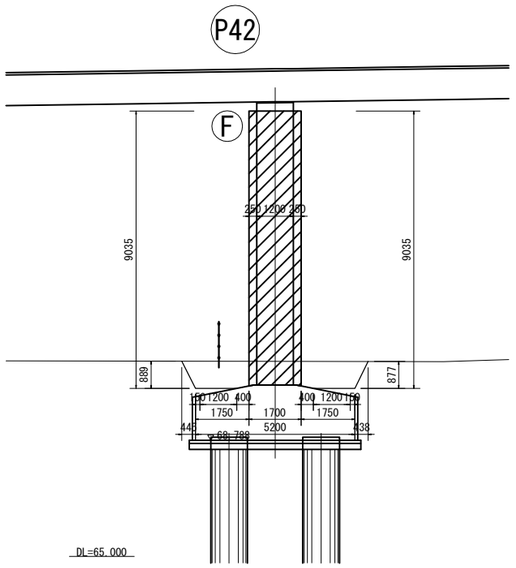


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P41橋脚 構造物掘削図（上り線）
縮尺	1:200
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

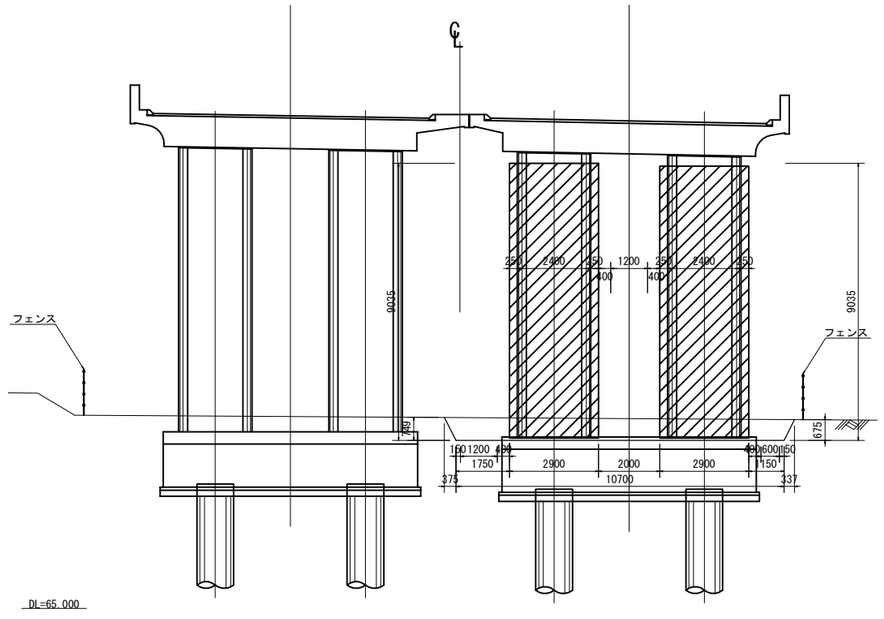
P42橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

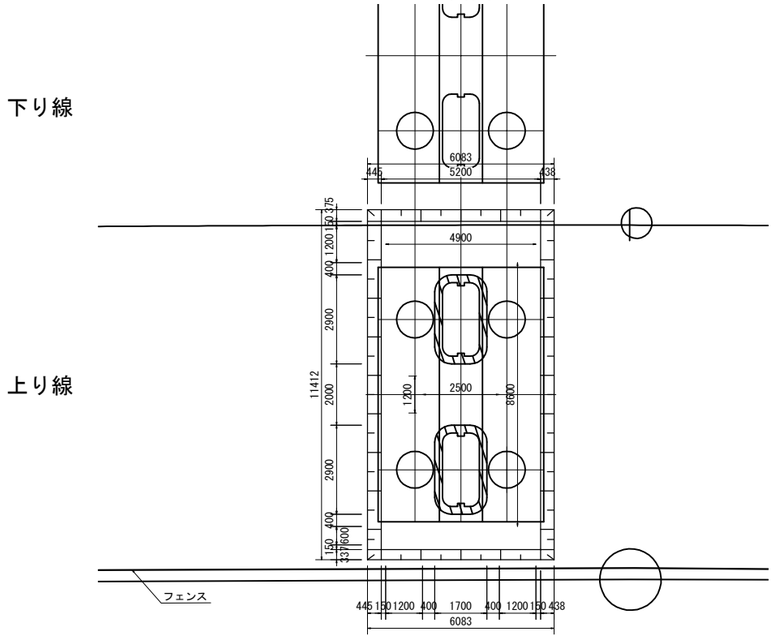
側面図



正面図



平面図

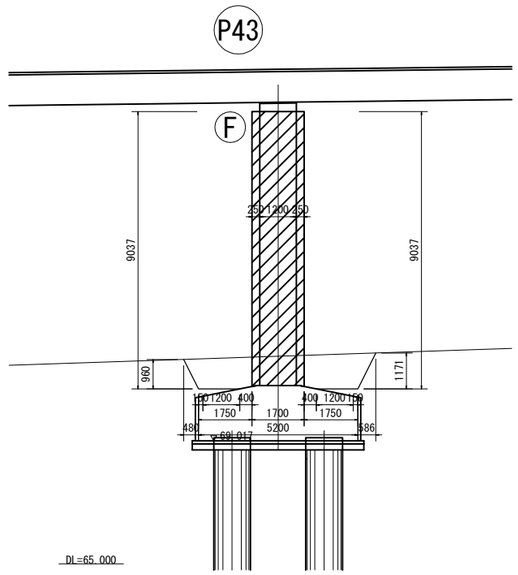


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P42橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P43橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

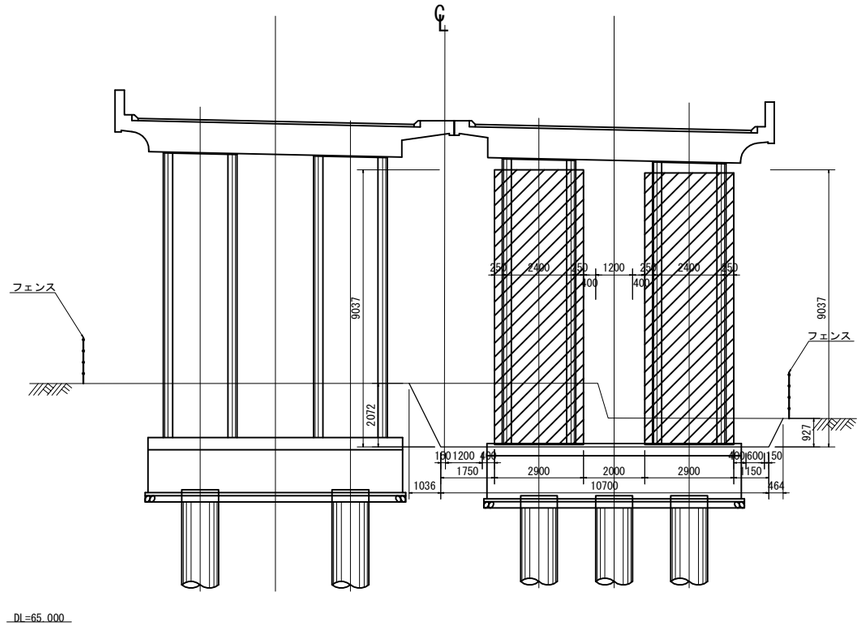
普通部

側面図

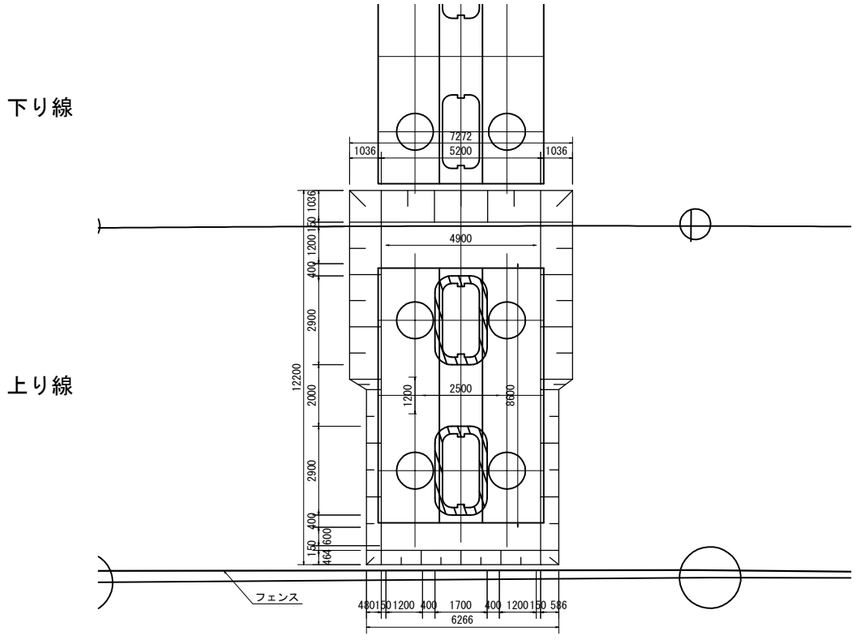


正面図

下り線　　上り線



平面図

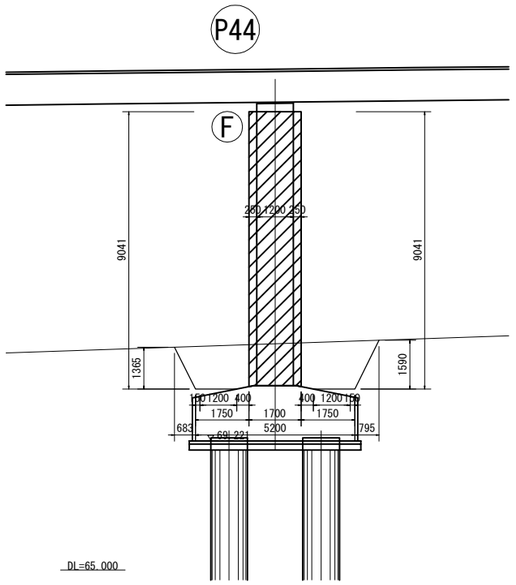


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P43橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P44橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

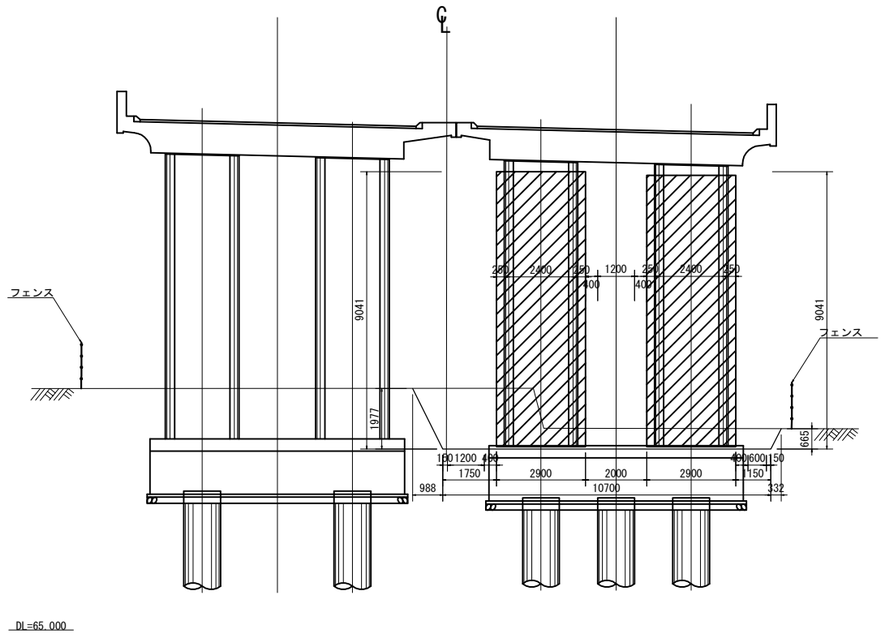
普通部

側面図



正面図

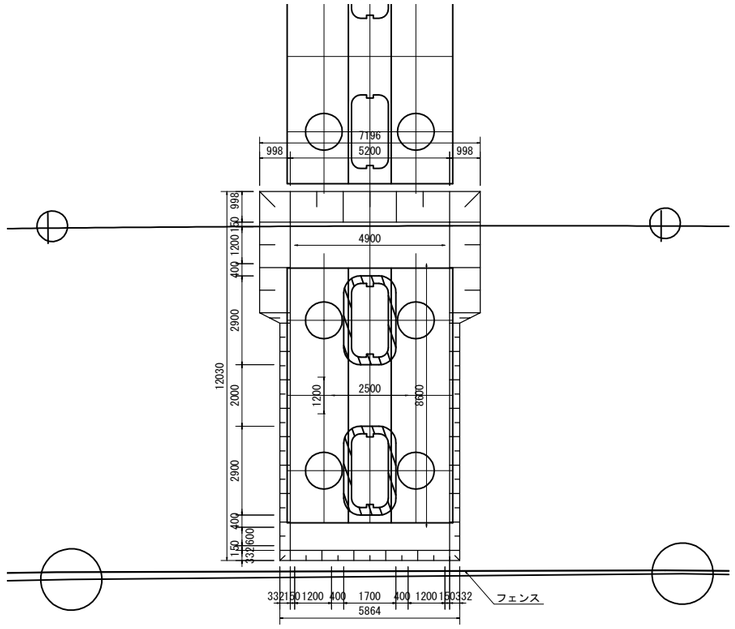
下り線　　上り線



平面図

下り線

上り線

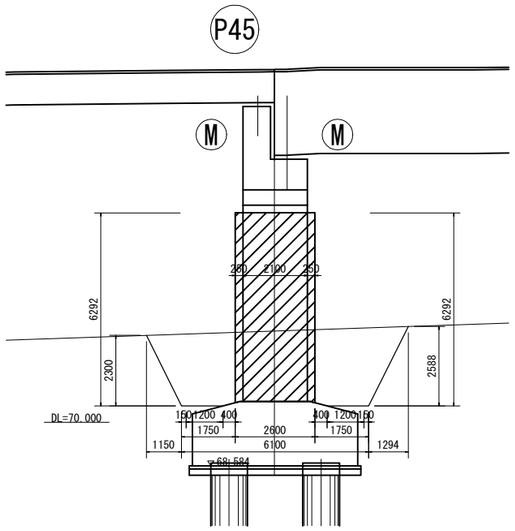


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P44橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

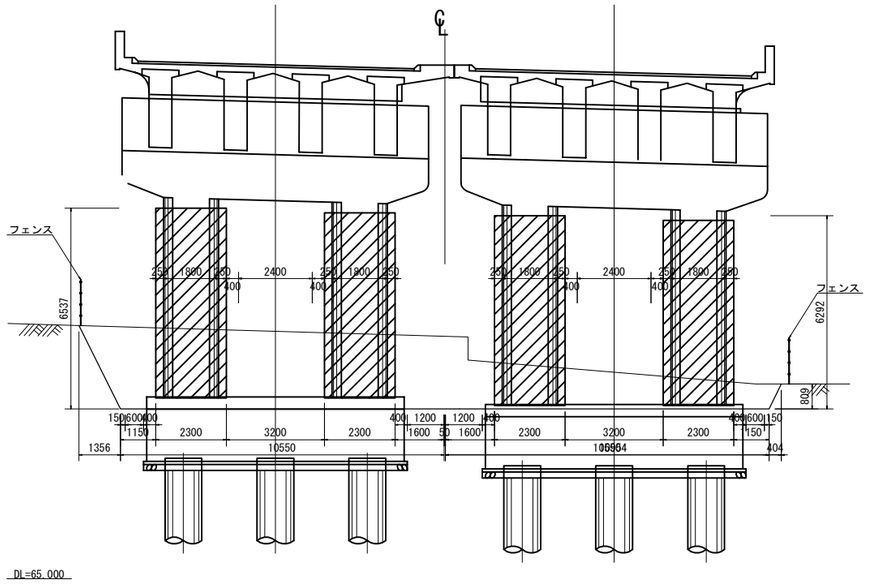
P45橋脚 構造物掘削図（上下線）S=1:200

普通部

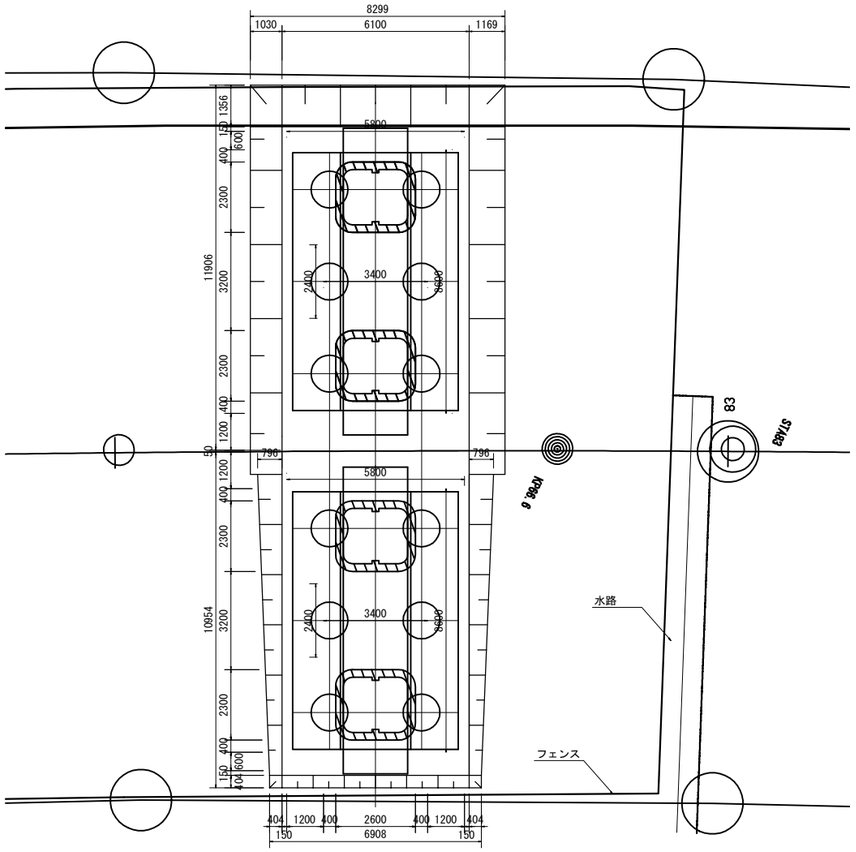
側面図



正面図



平面図

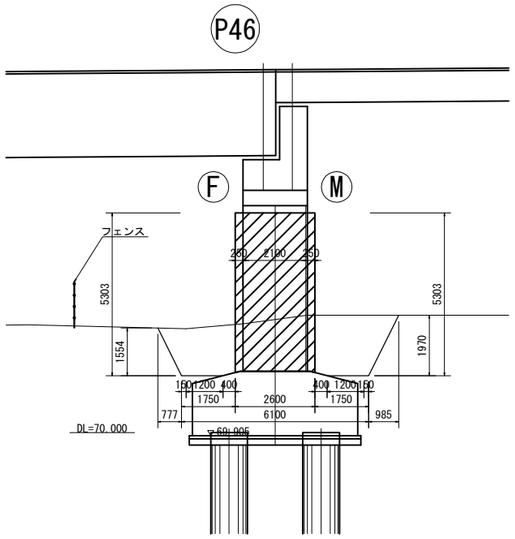


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P45橋脚 構造物掘削図（上下線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

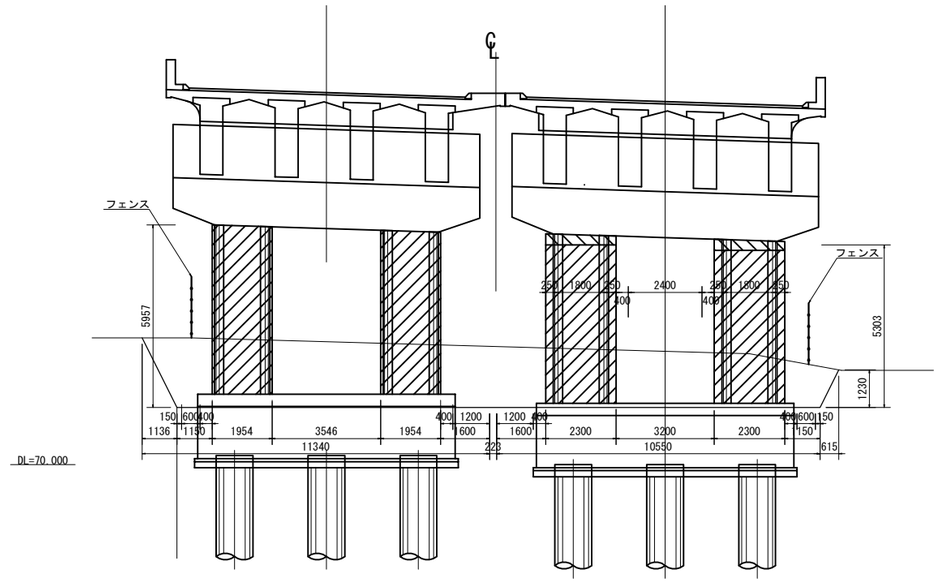
P46橋脚 構造物掘削図（上下線）S=1:200

普通部

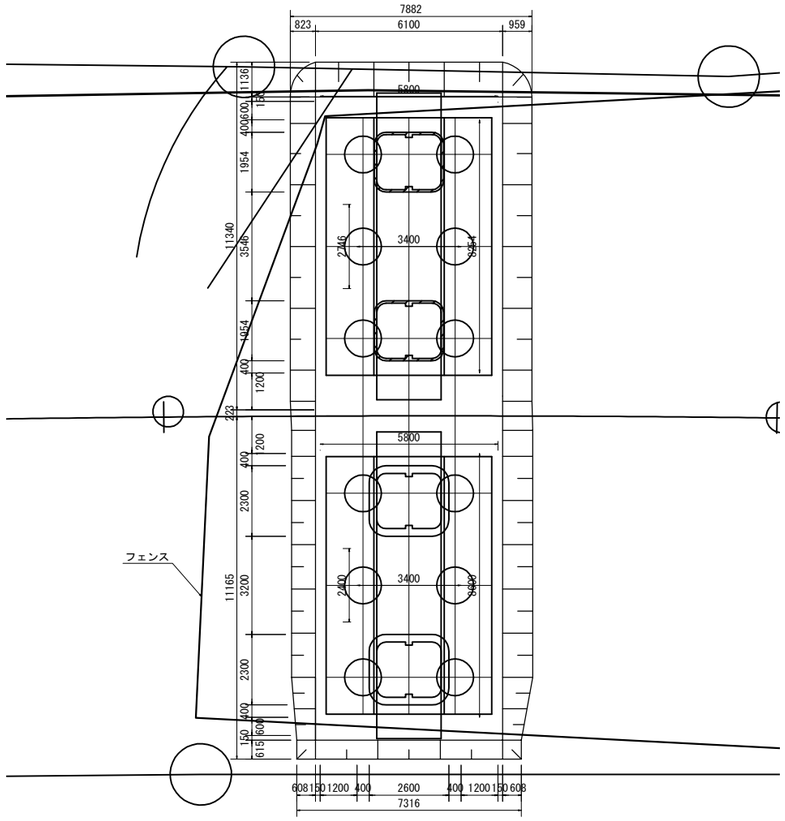
側面図



正面図



平面図



下り線

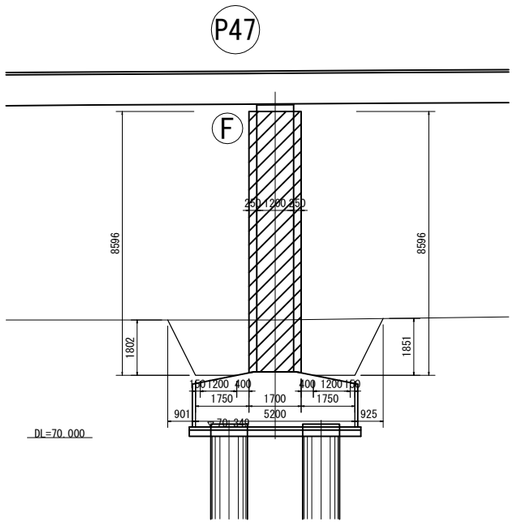
上り線

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P46橋脚 構造物掘削図（上下線）
縮　尺	1:200　図面番号　/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

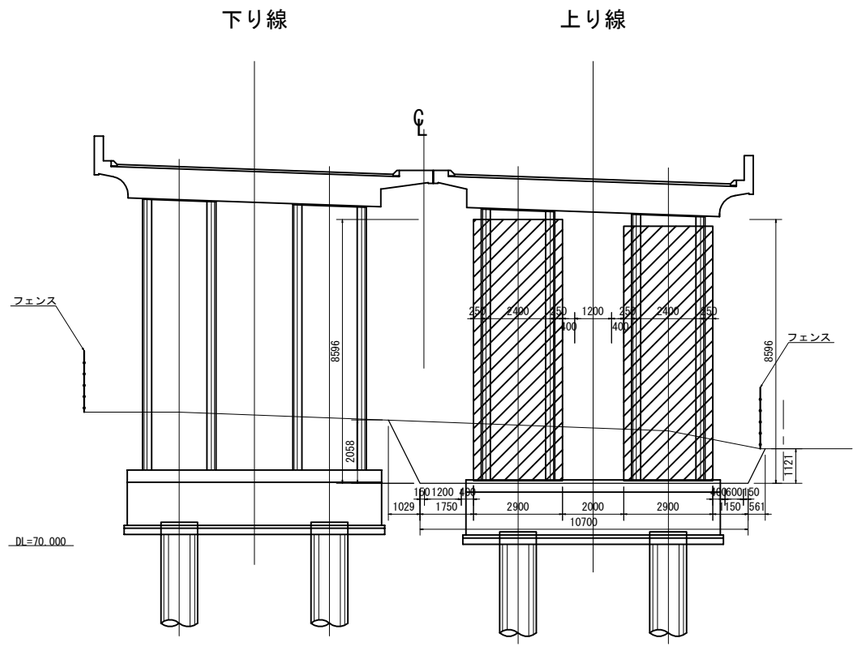
P47橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

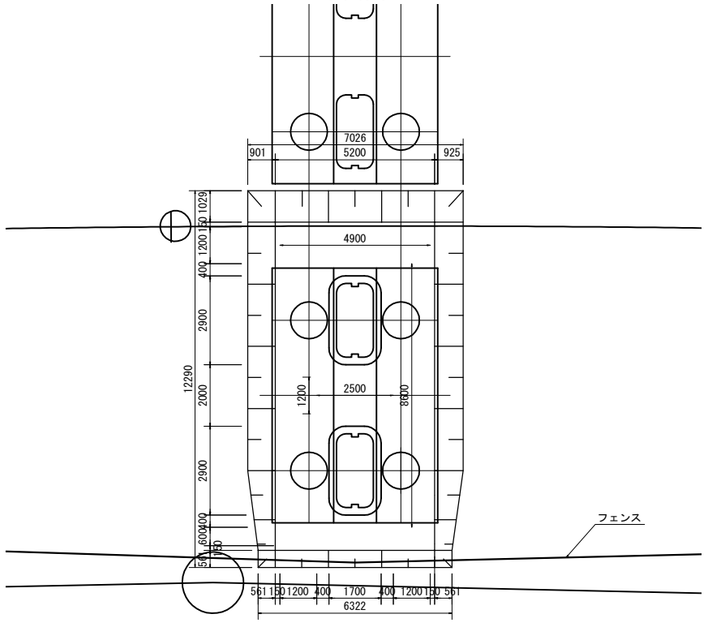
側面図



正面図



平面図

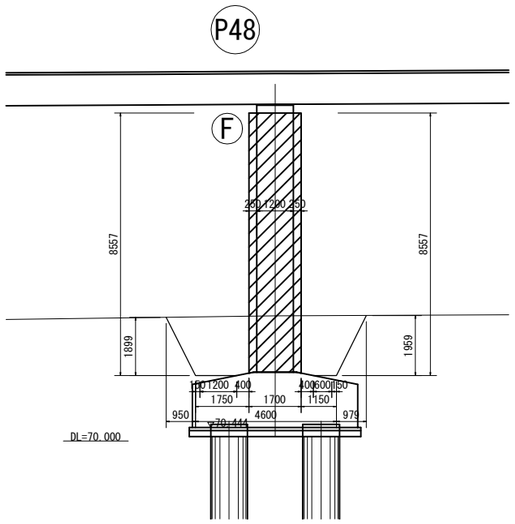


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P47橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

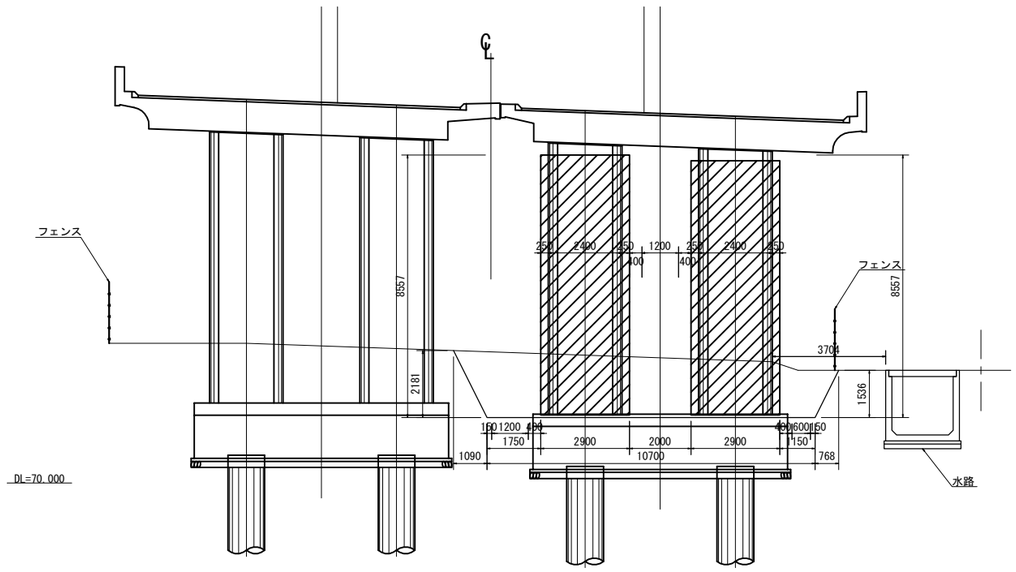
P48橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

側面図



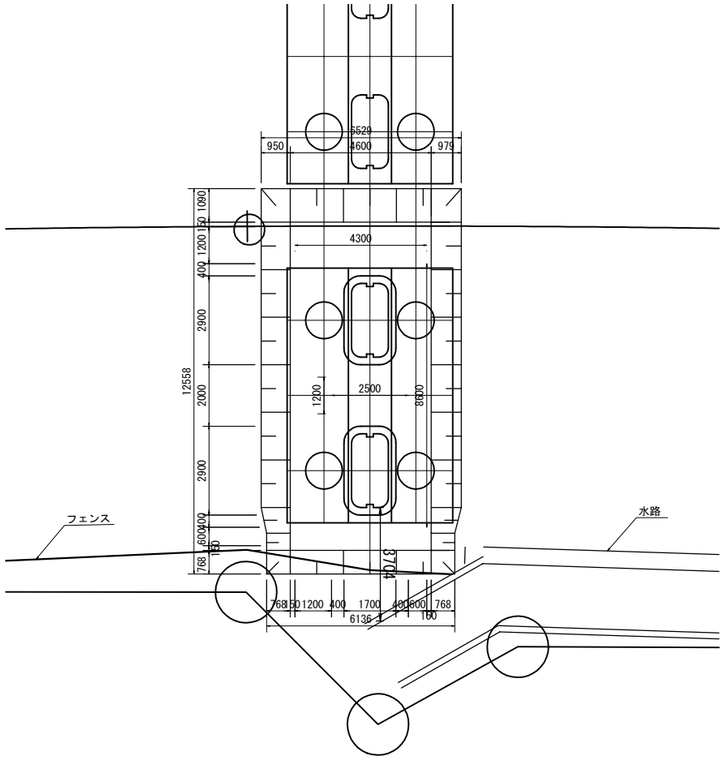
正面図



平面図

下り線

上り線

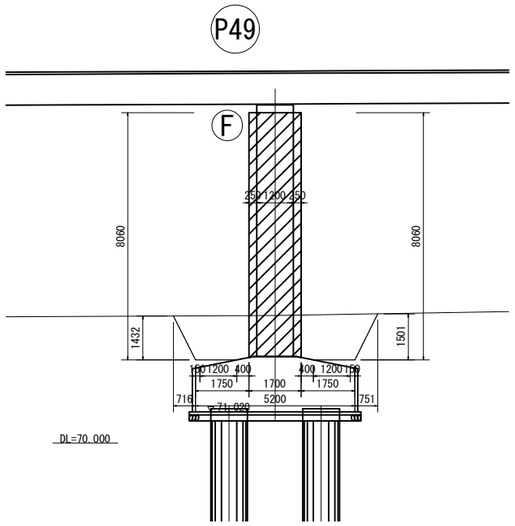


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P48橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

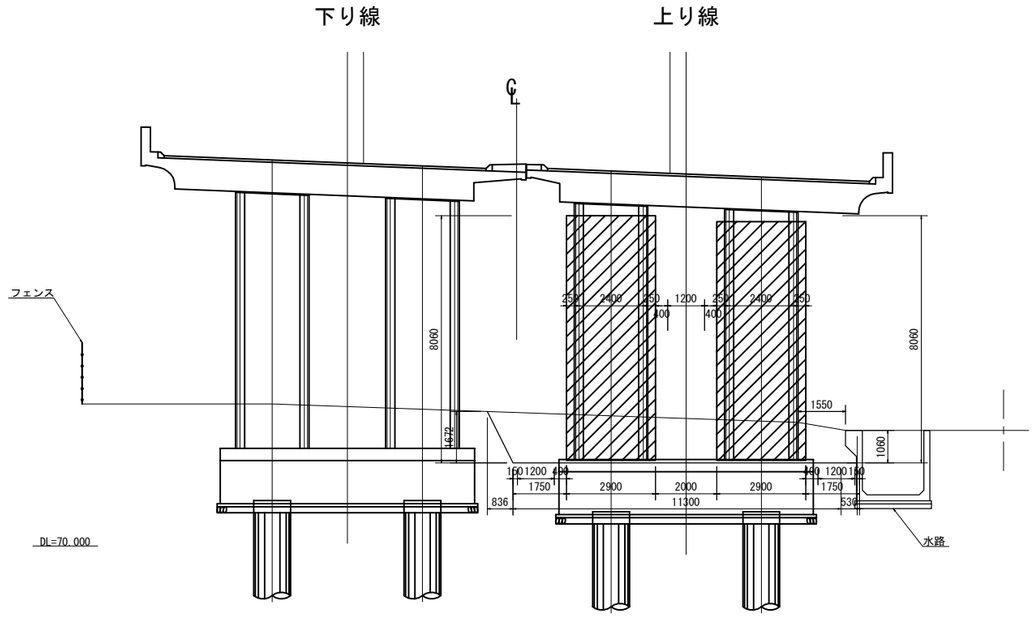
P49橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

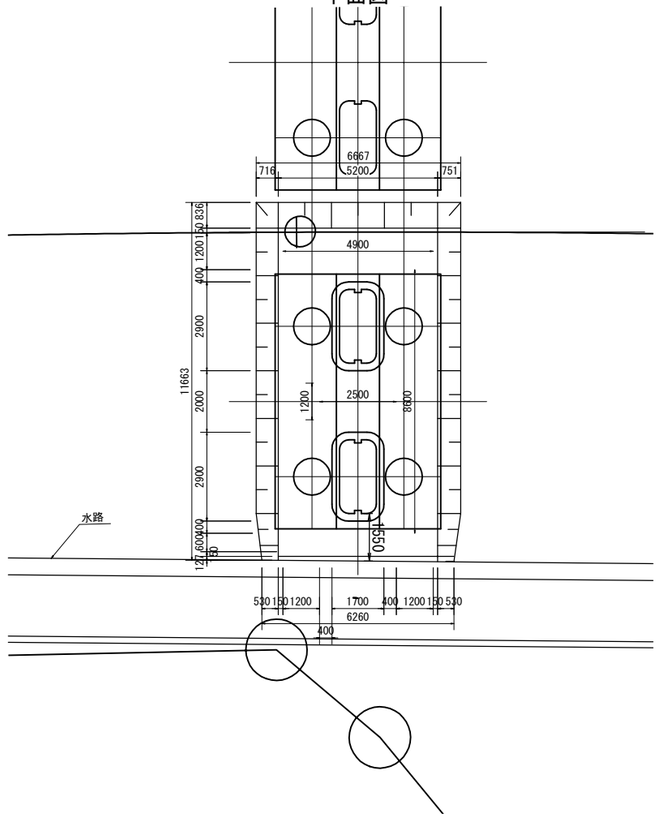
側面図



正面図



平面図

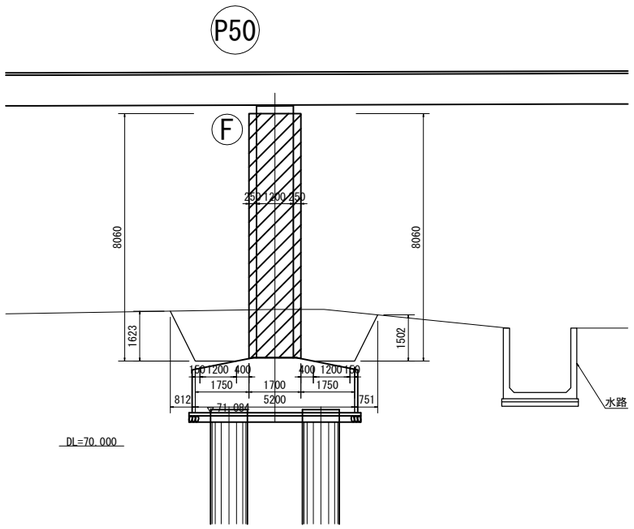


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P49橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

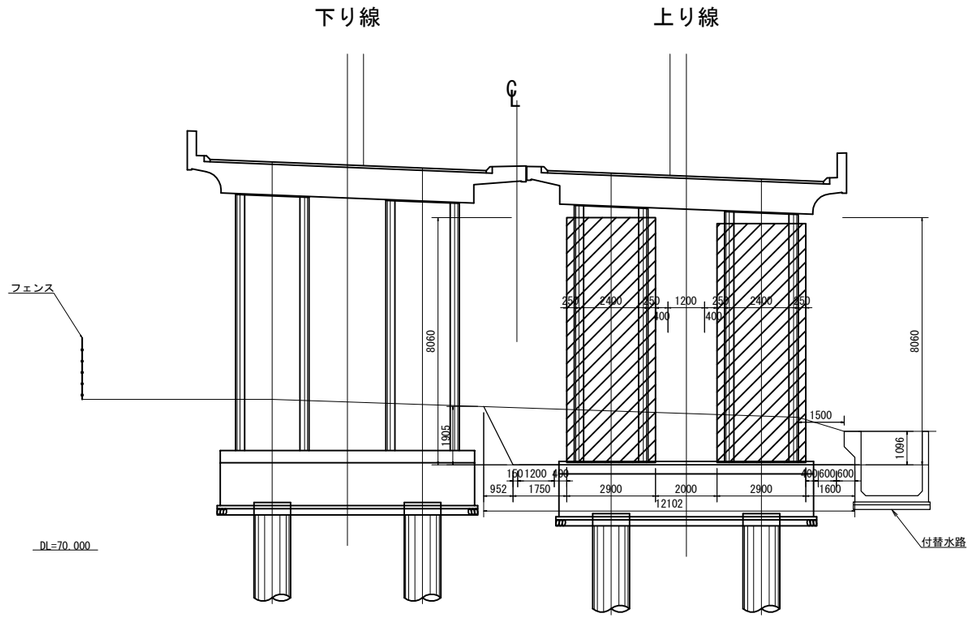
P50橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

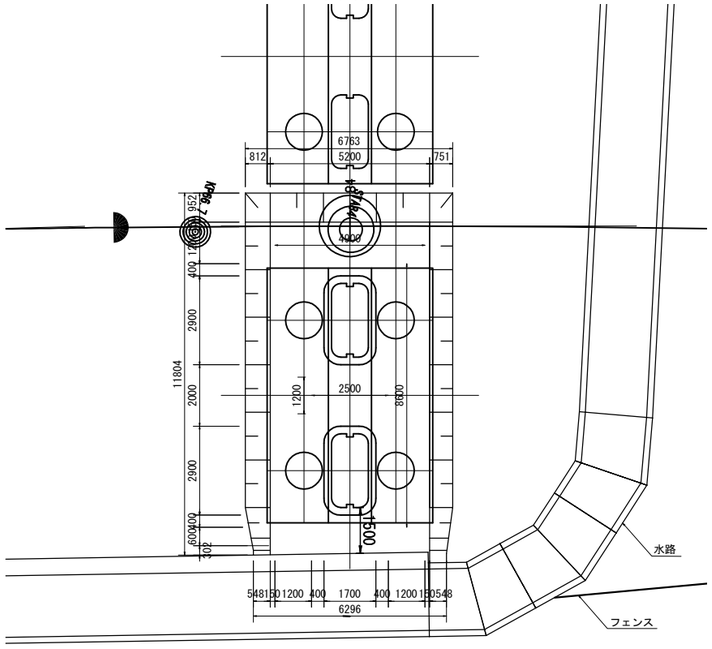
側面図



正面図



平面図

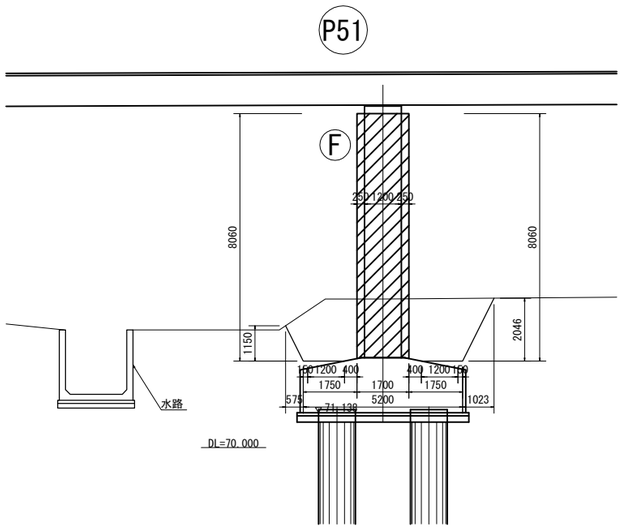


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P50橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

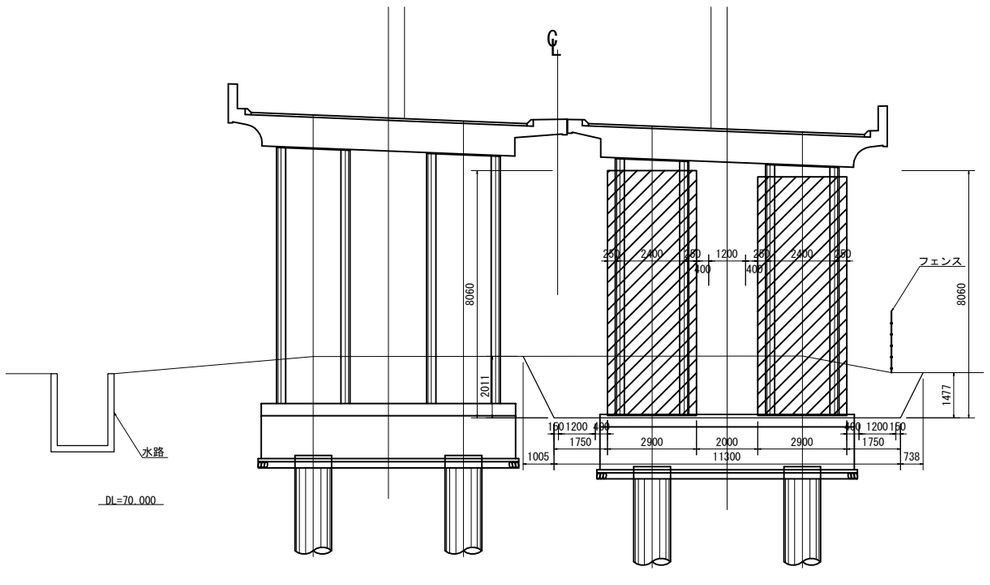
P51橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

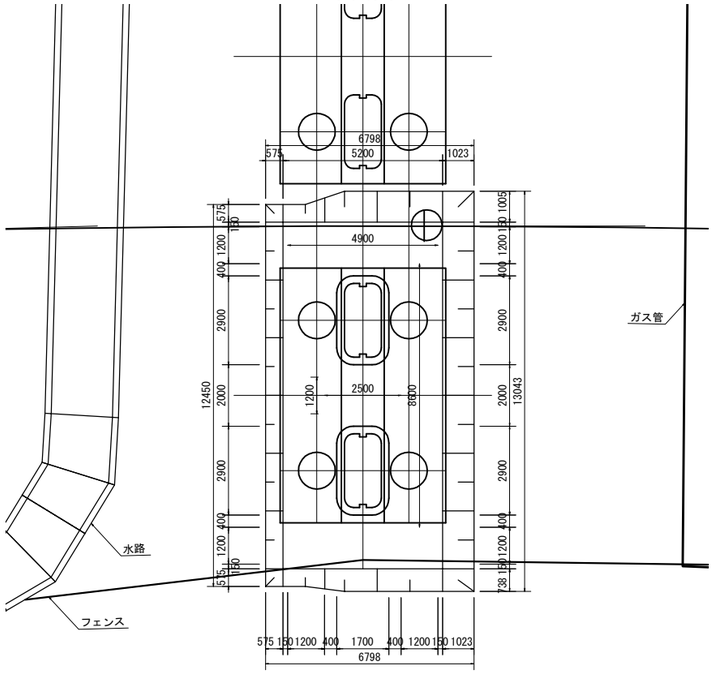
側面図



正面図



平面図

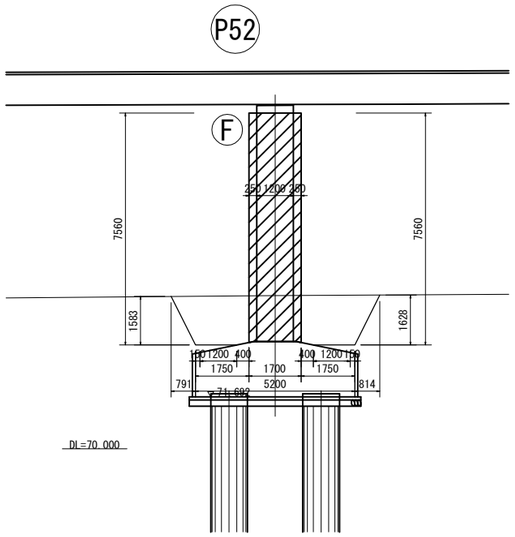


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P51橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

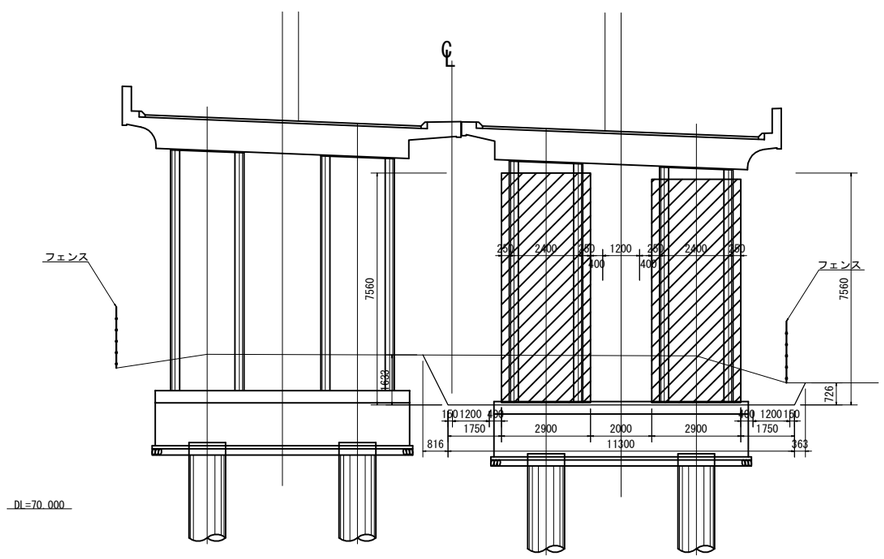
P52橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

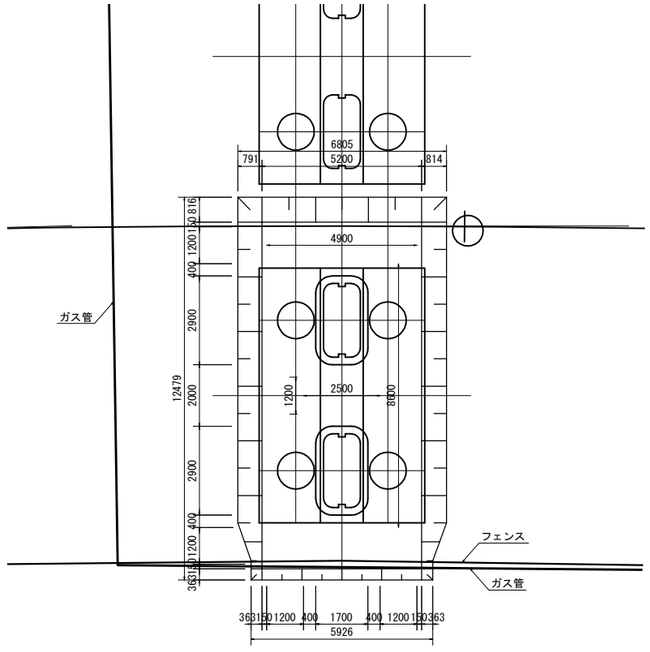
側面図



正面図



平面図

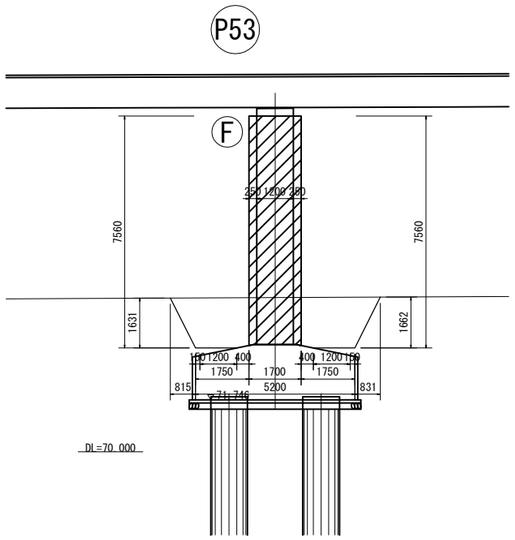


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P52橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

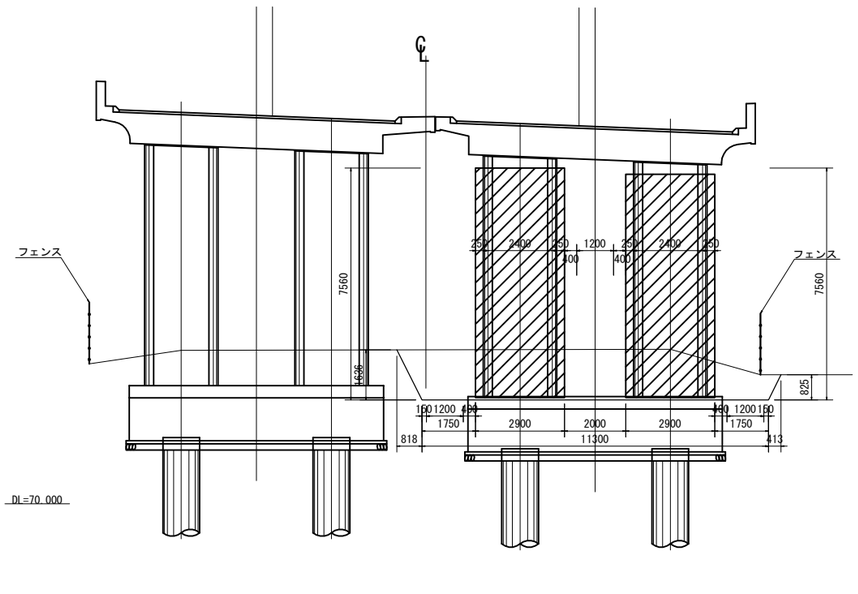
P53橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

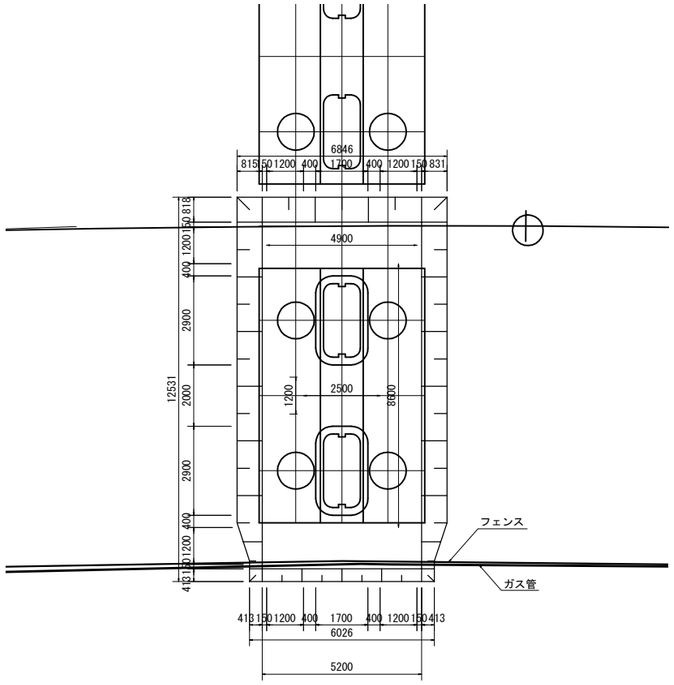
側面図



正面図



平面図

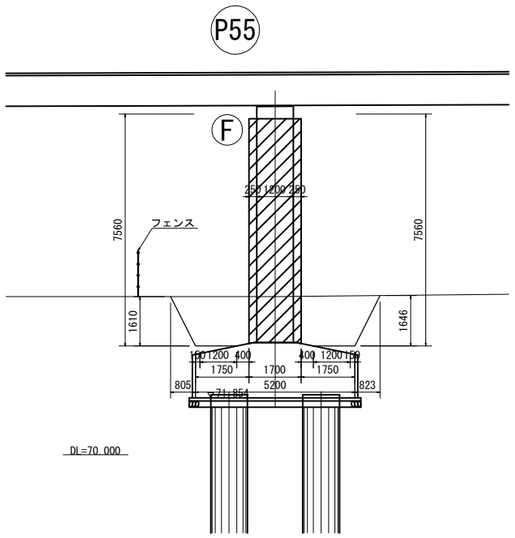


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P53橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

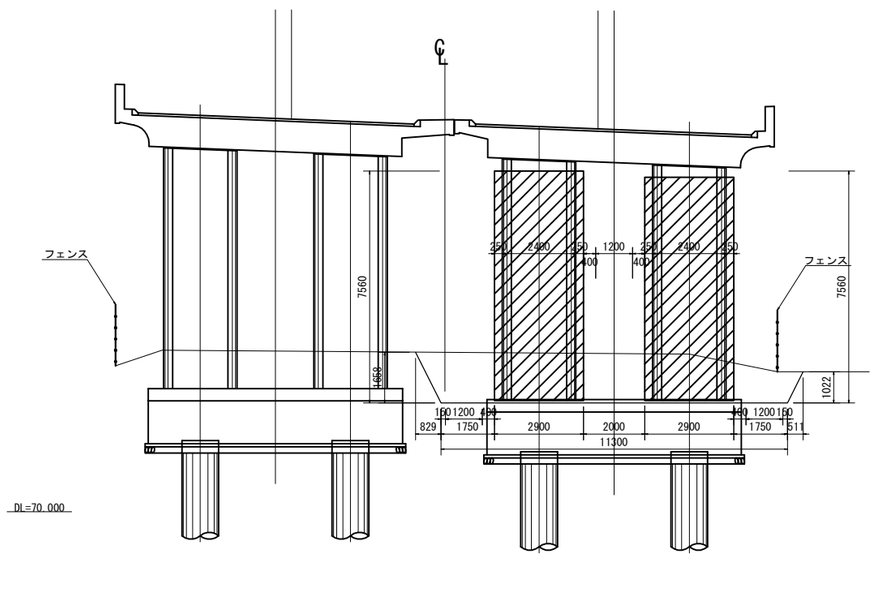
P55橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

側面図



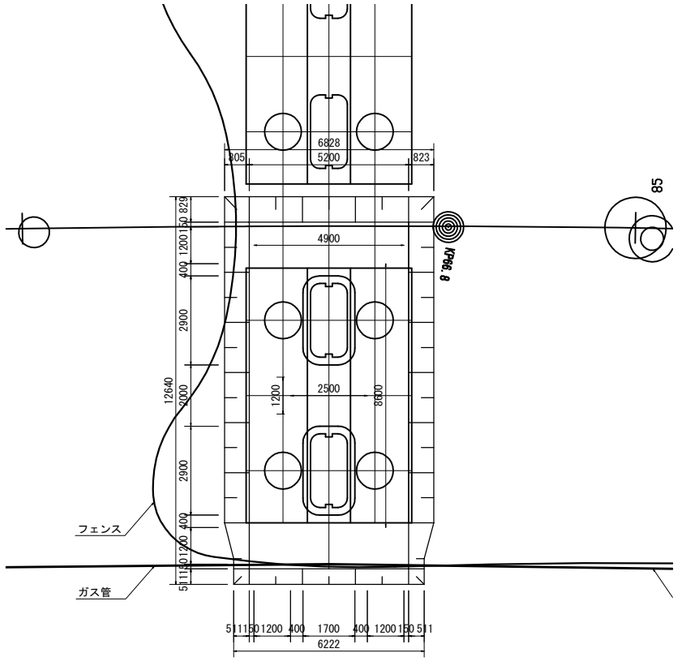
正面図



平面図

下り線

上り線

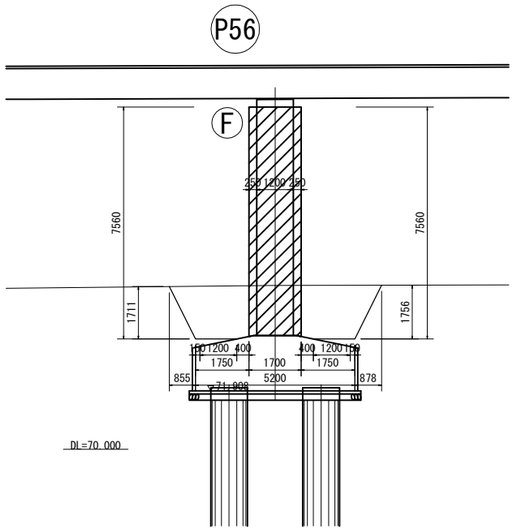


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P55橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

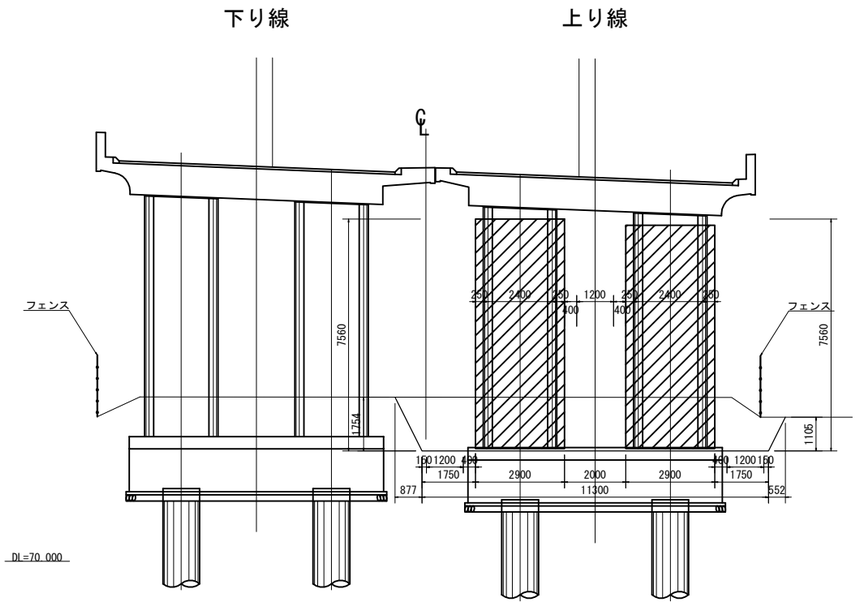
P56橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

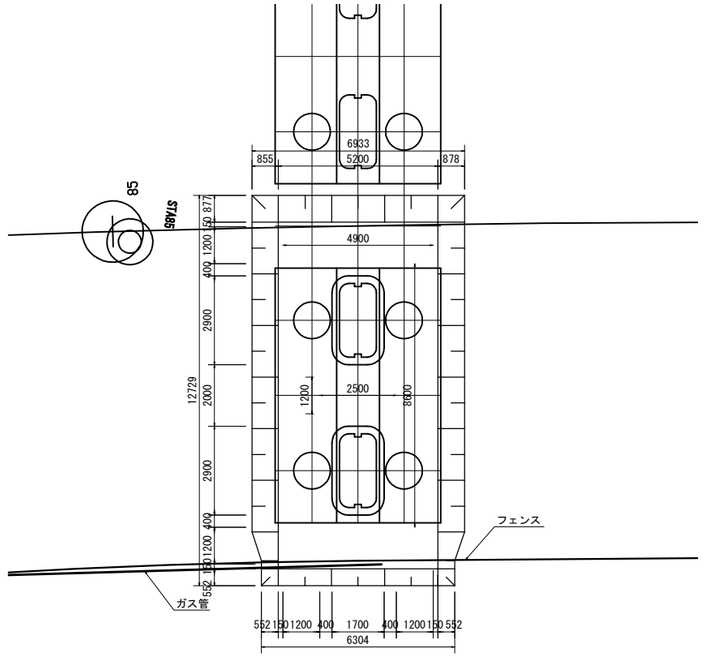
側面図



正面図



平面図

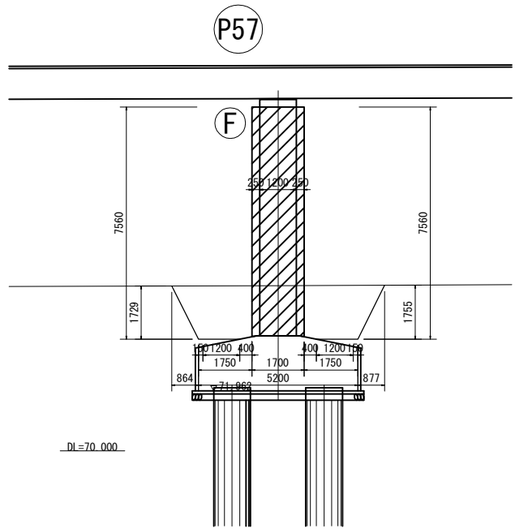


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P56橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

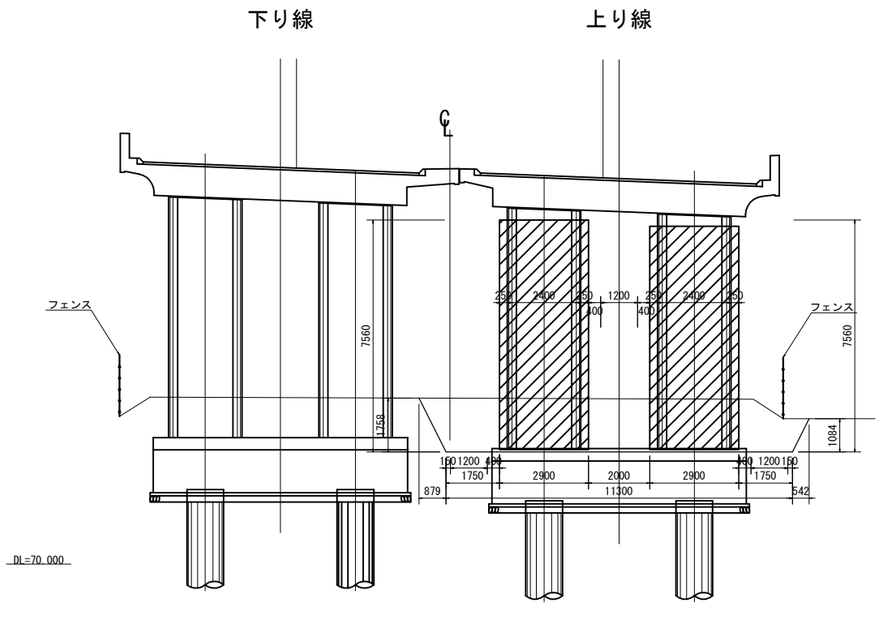
P57橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

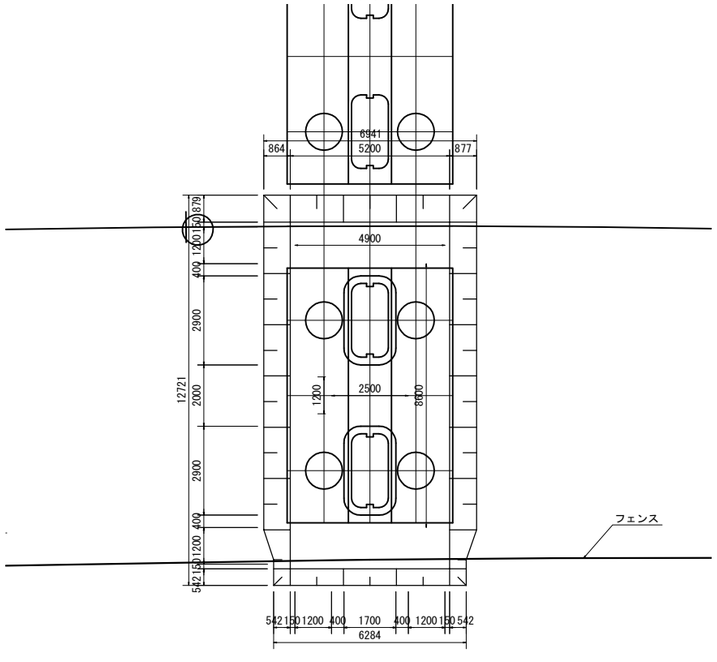
側面図



正面図



平面図

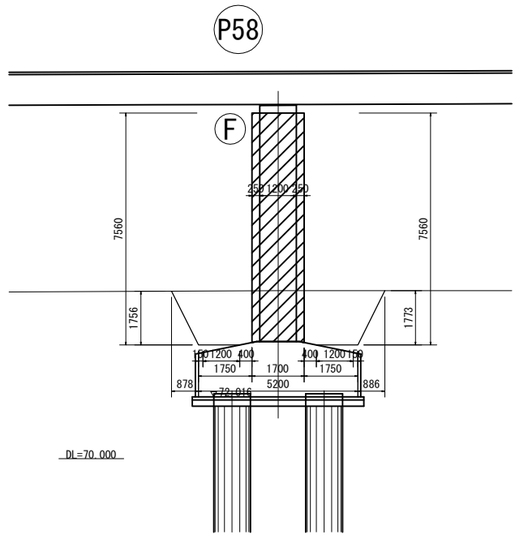


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P57橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

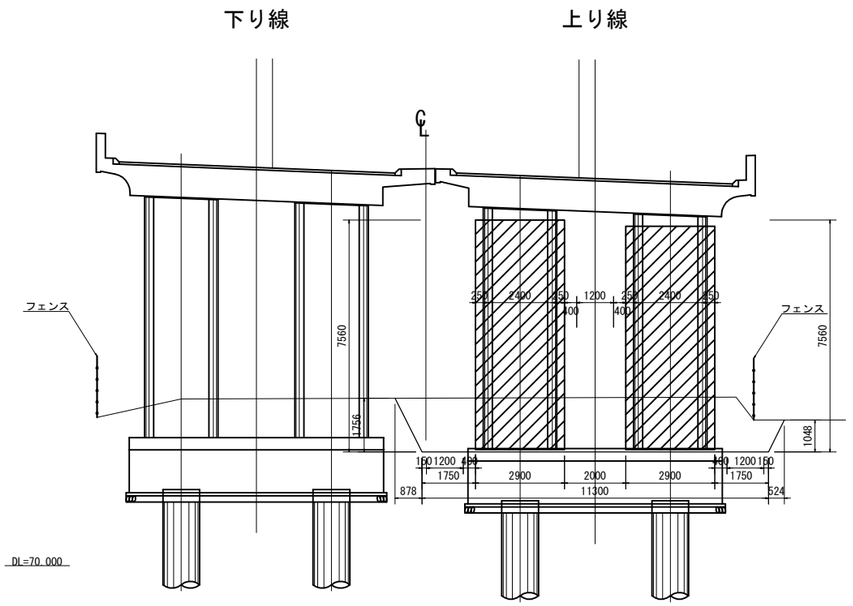
P58橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

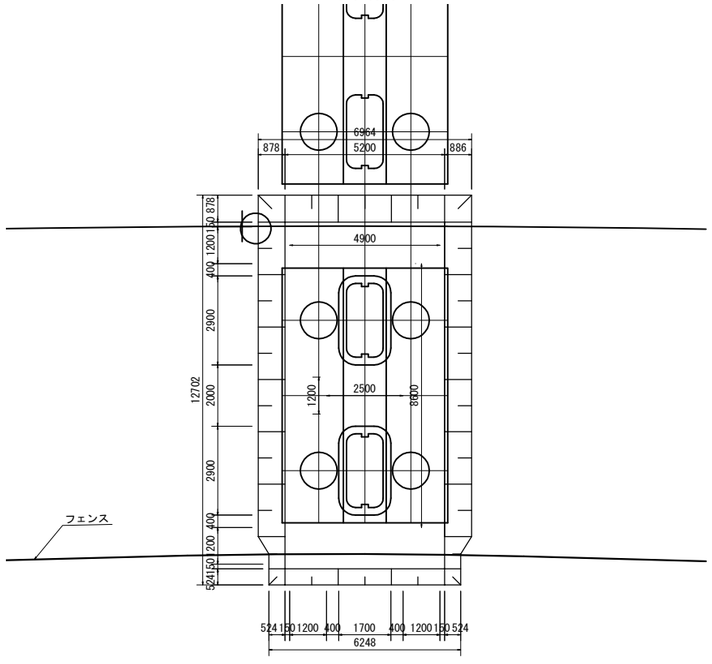
側面図



正面図



平面図

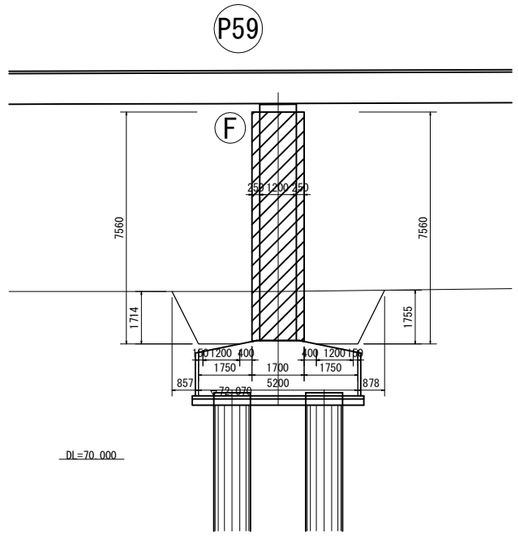


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P58橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

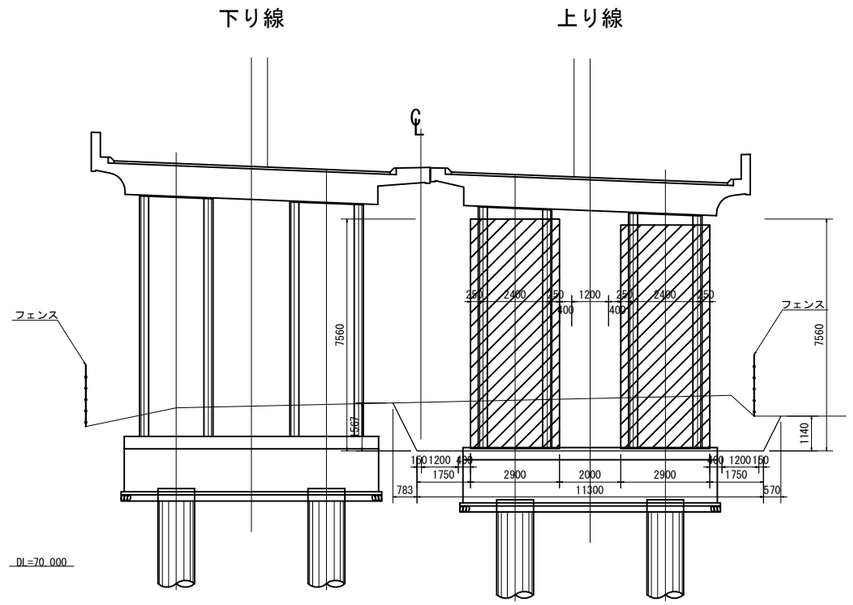
P59橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

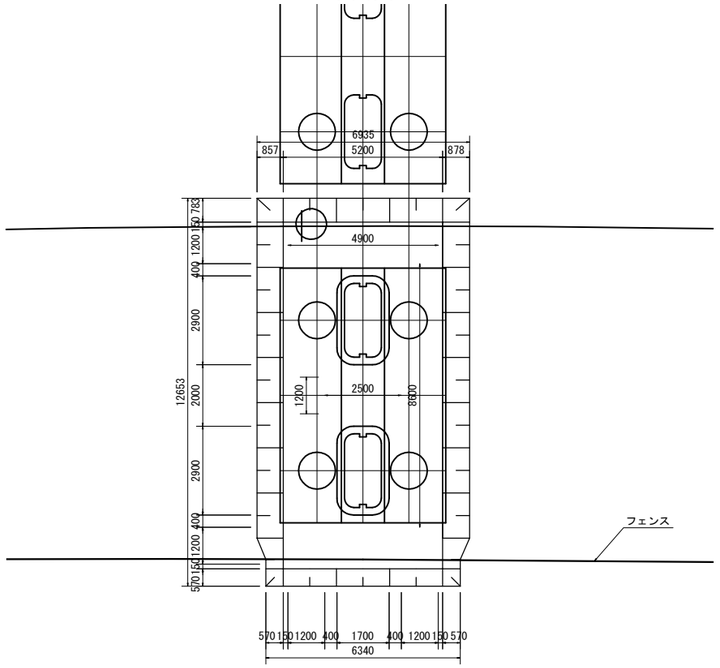
側面図



正面図



平面図

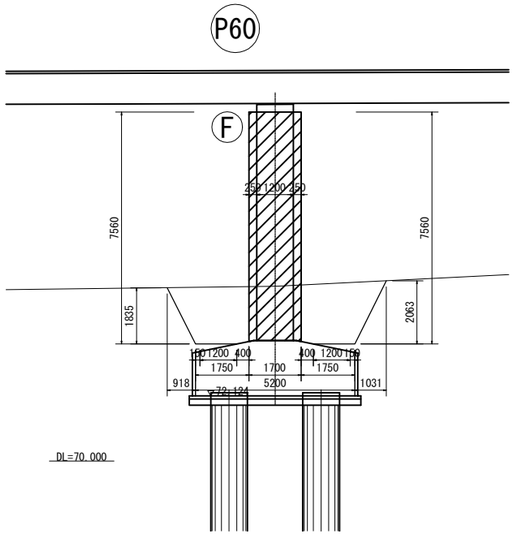


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P59橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

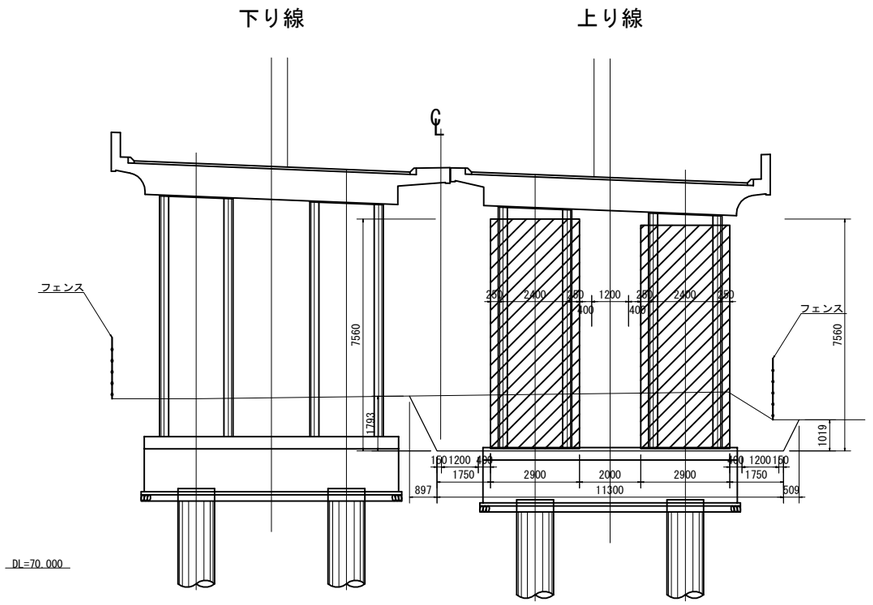
P60橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

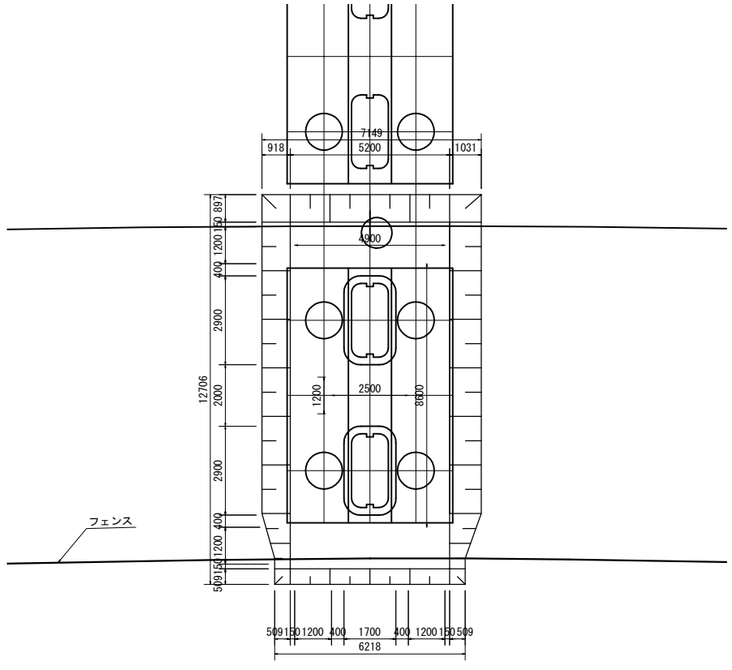
側面図



正面図



平面図

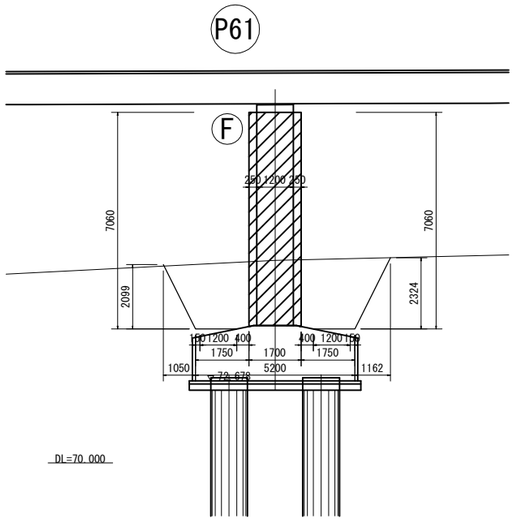


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P60橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

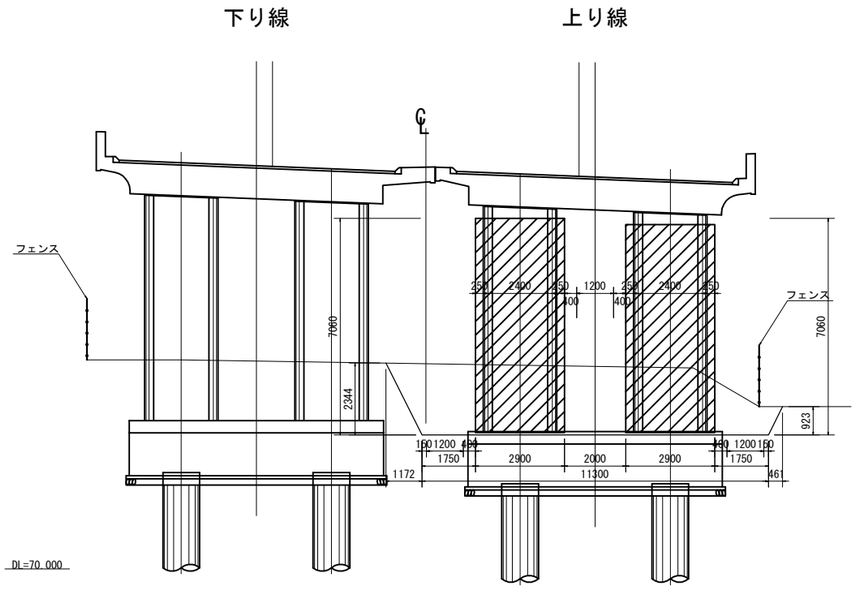
P61橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

普通部

側面図



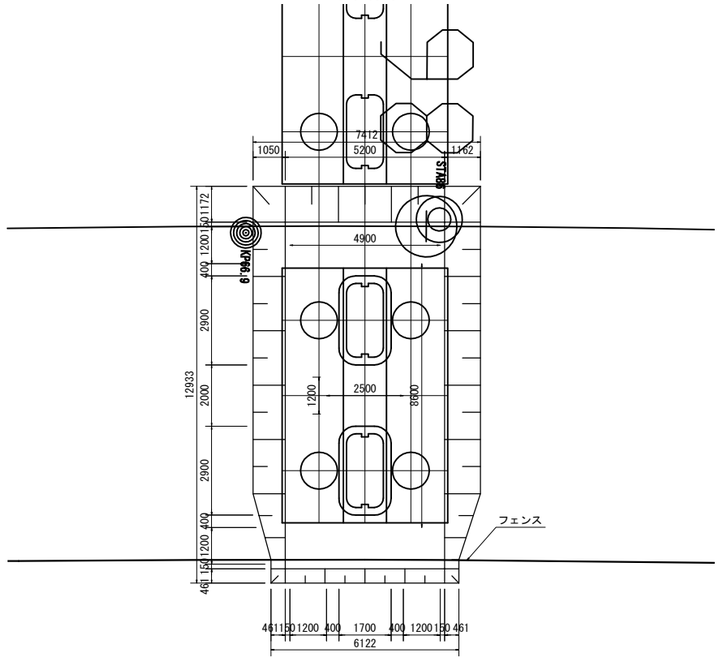
正面図



平面図

下り線

上り線

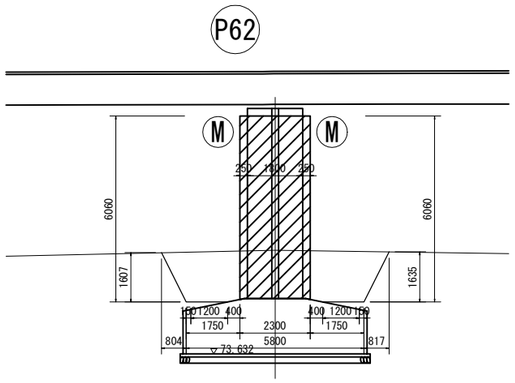


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P61橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P62橋脚 構造物掘削図（上り線）S=1:200

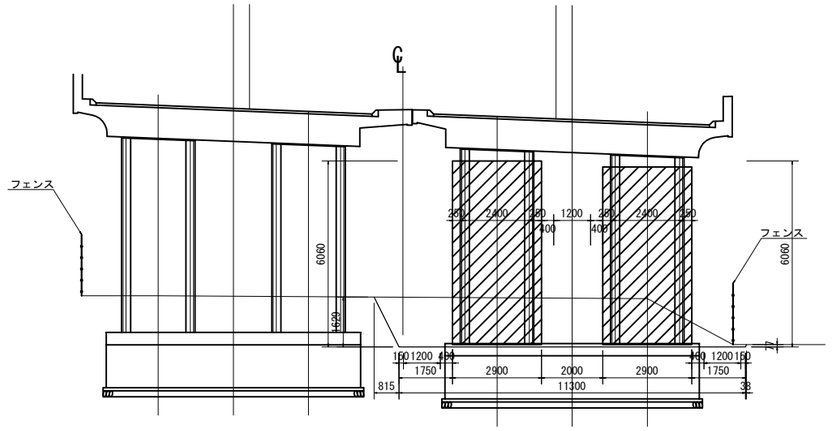
普通部

側面図



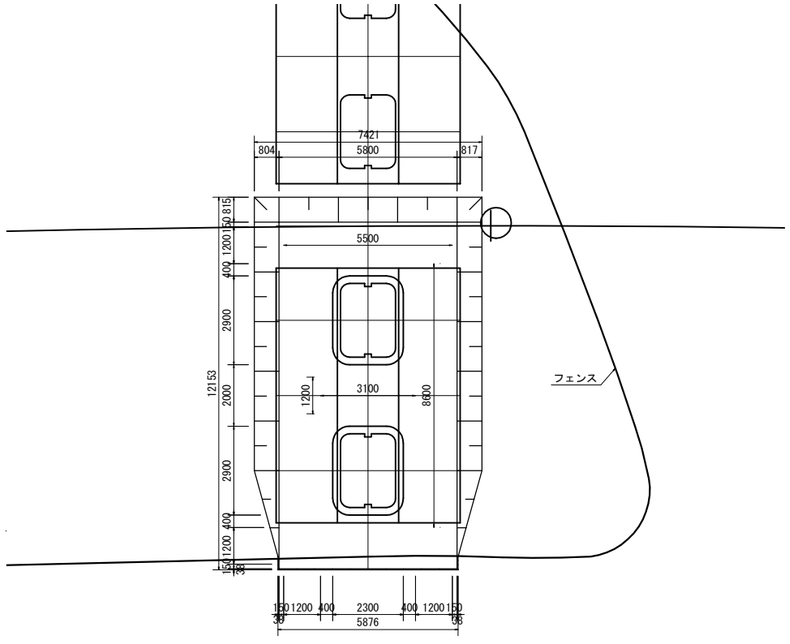
DL=70.000

正面図



DL=70.000

平面図

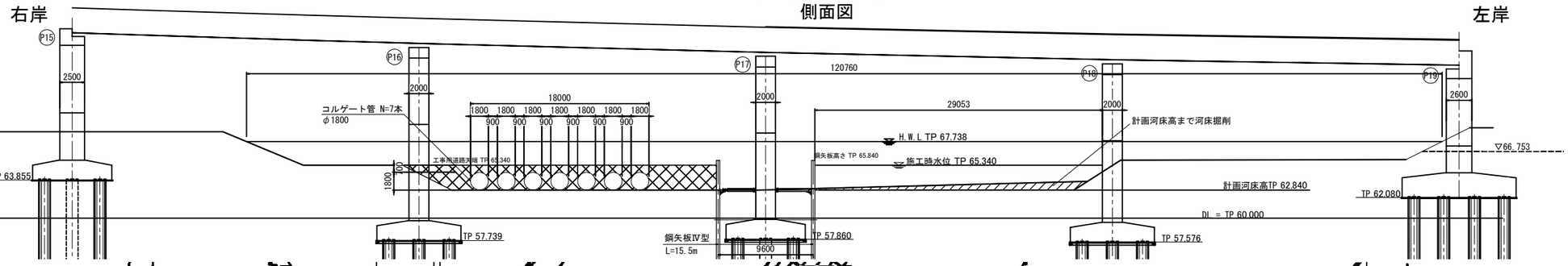


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P62橋脚 構造物掘削図（上り線）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

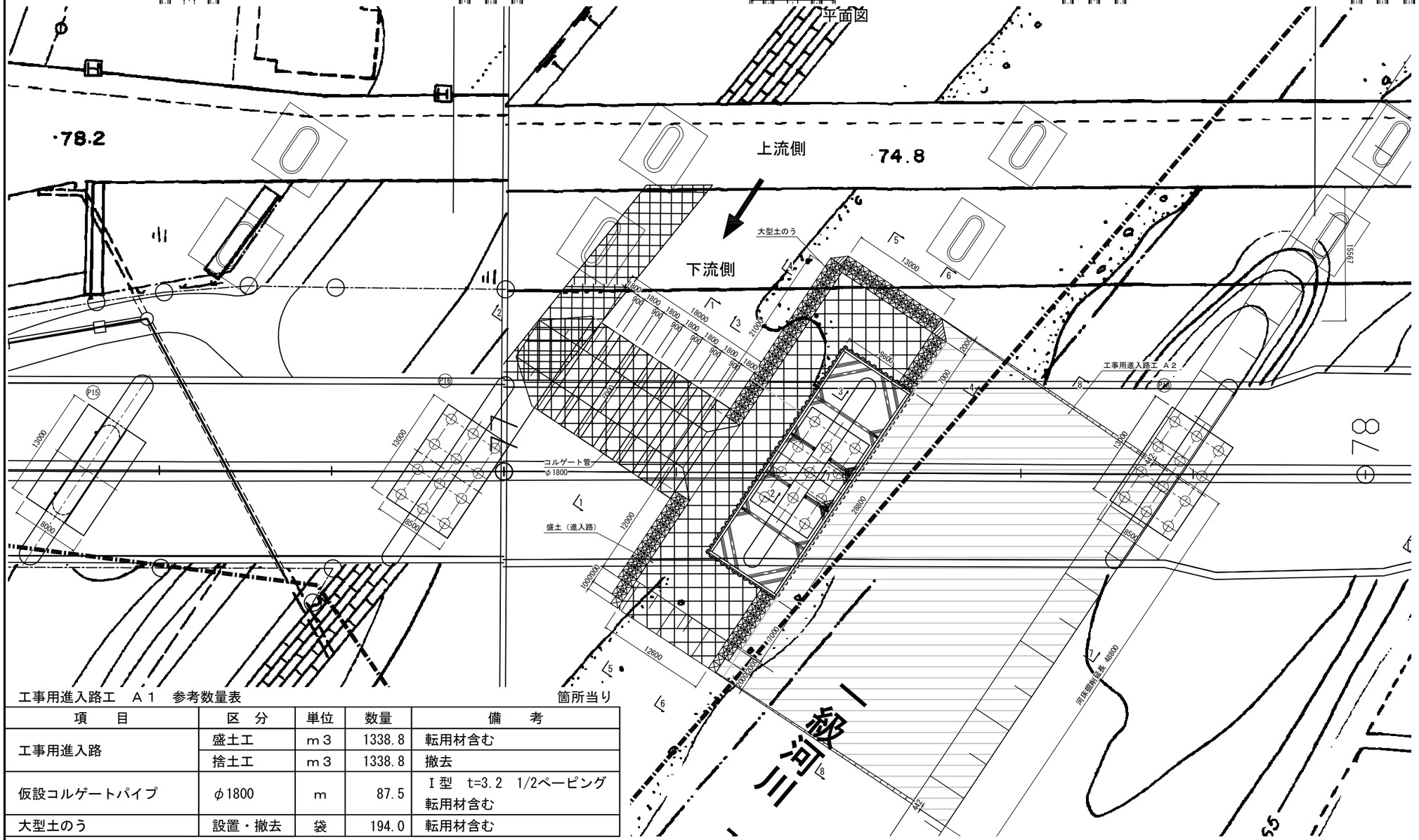
工事用進入路計画図（その１） S=1:500

(P17橋脚施工時)

側面図



平面図



工事用進入路工　Ａ１　参考数量表　　箇所当り

項　　目	区　分	単位	数量	備　　考
工事用進入路	盛土工	ｍ３	1338.8	転用材含む
	捨土工	ｍ３	1338.8	撤去
仮設コルゲートパイプ	φ1800	ｍ	87.5	Ⅰ型　t=3.2　1/2ペーピング 転用材含む
大型土のう	設置・撤去	袋	194.0	転用材含む

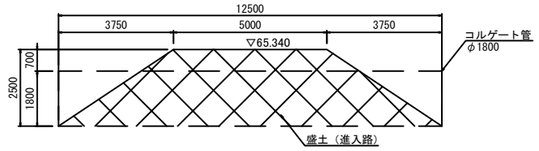
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 工事用進入路計画図（その１）		
縮　尺	1:500	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

工事用進入路計画図（その２） S=1:200

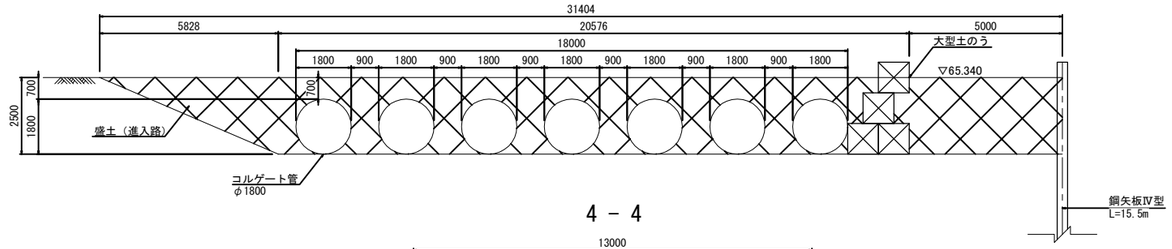
(P17橋脚施工時)

断面図

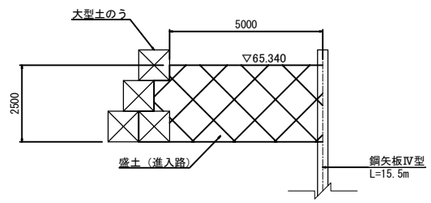
1 － 1



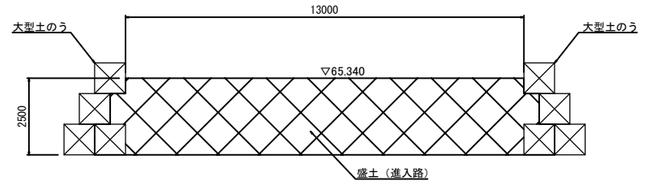
2 － 2



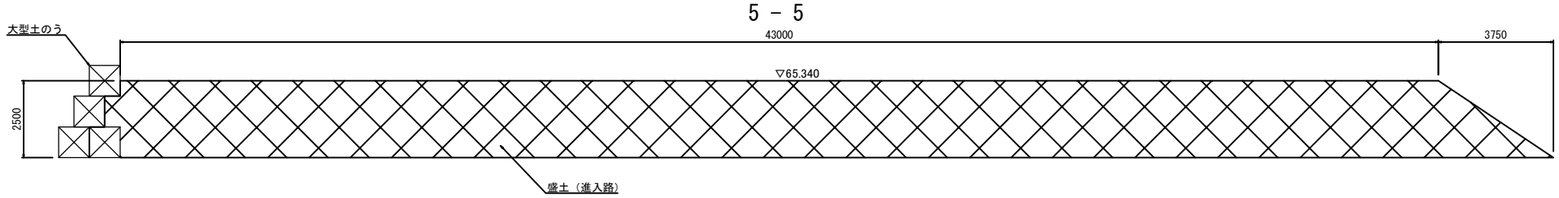
3 － 3



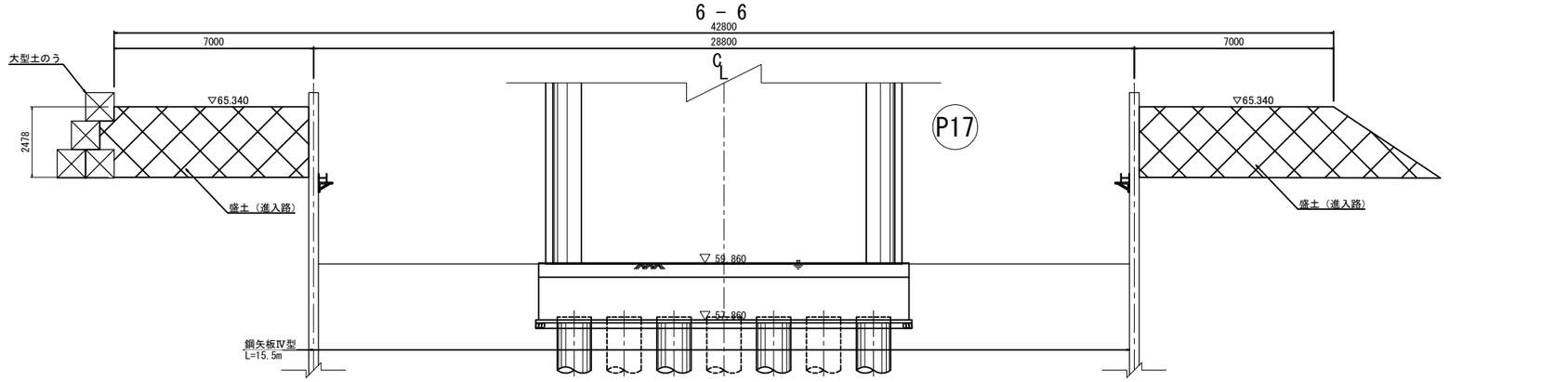
4 － 4



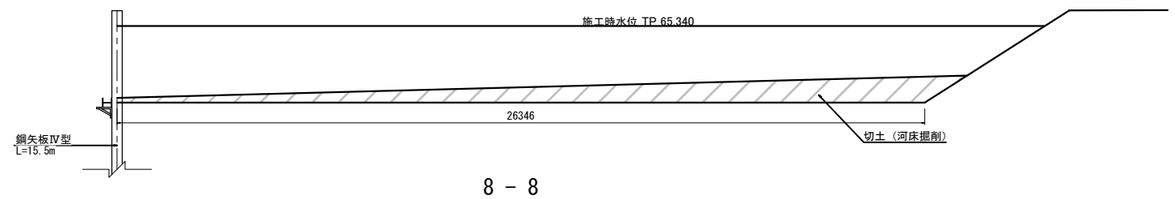
5 － 5



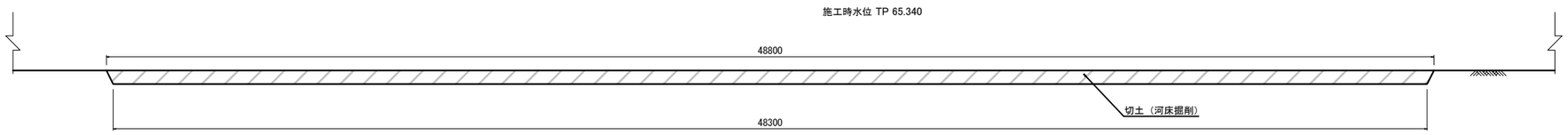
6 － 6



7 － 7



8 － 8



施工凡例

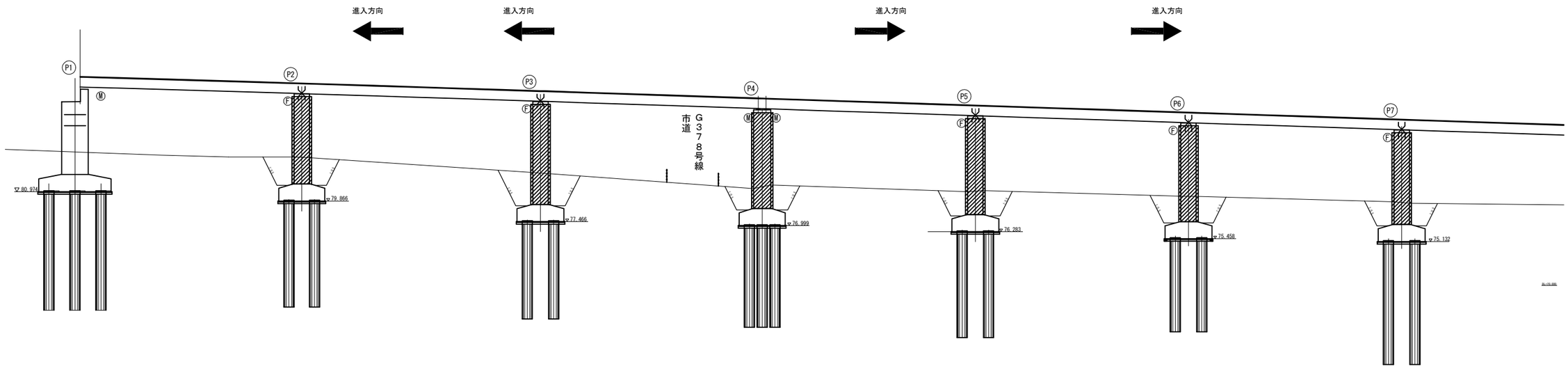
河川・水路　盛　土(進入路)

切　土(河床掘削)

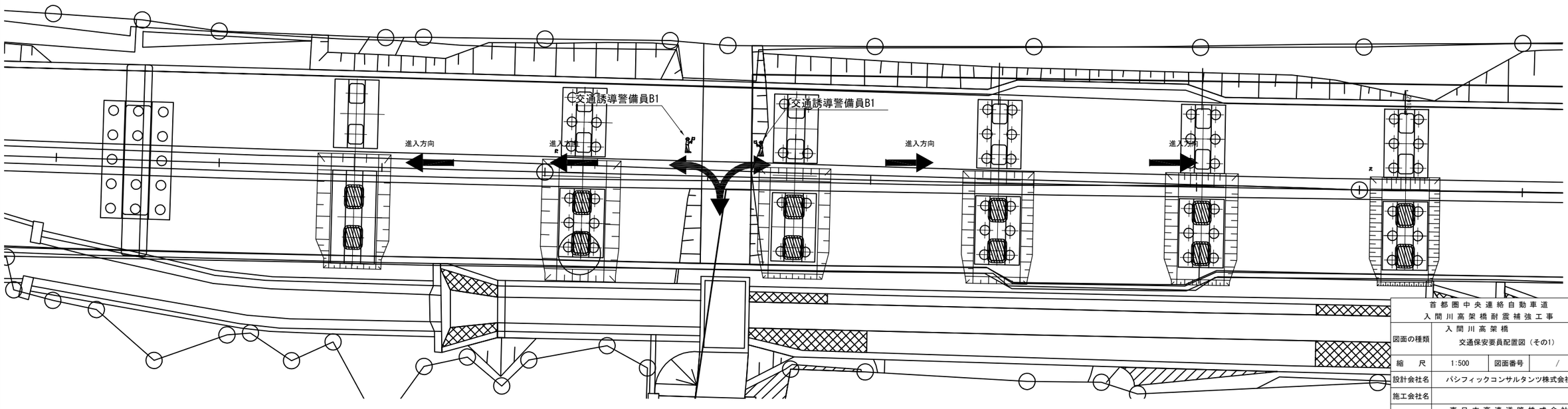
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 工事用進入路計画図（その２）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

交通保安要員配置図（その1）　S=1:500

側面図



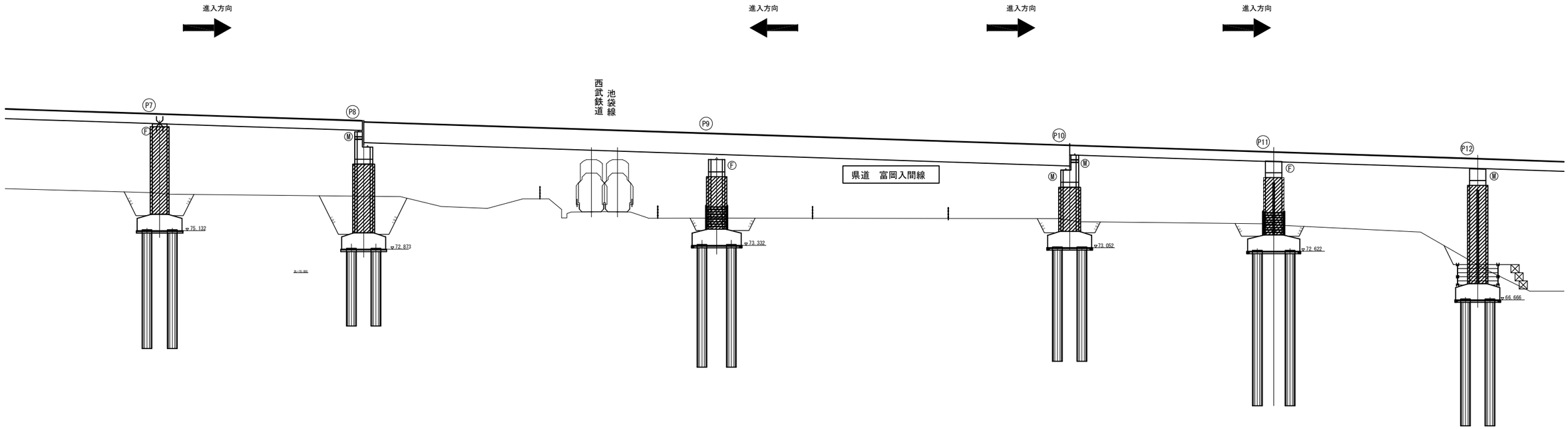
平面図



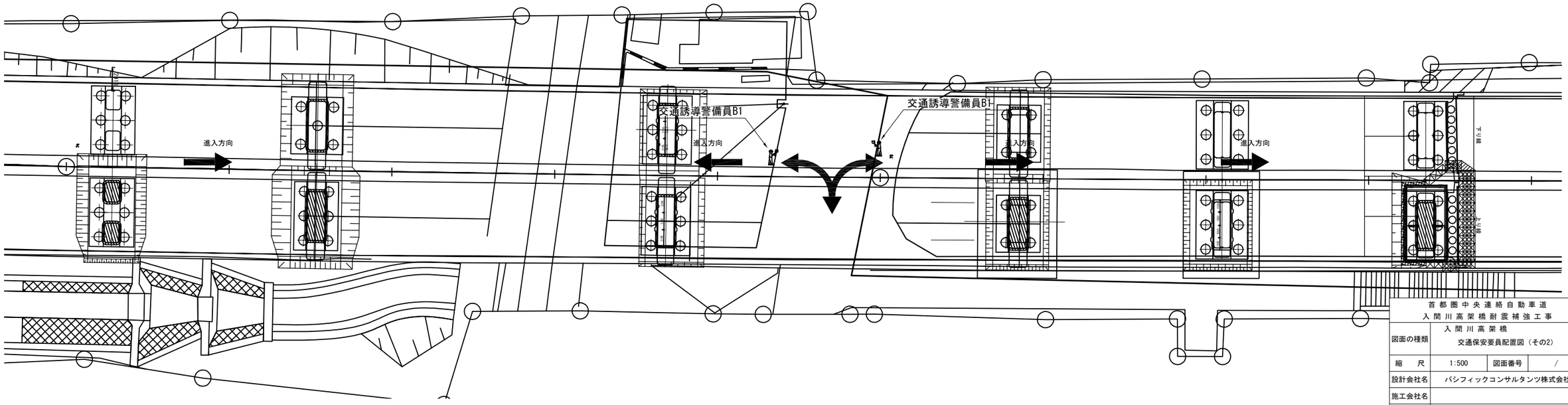
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 交通保安要員配置図（その1）		
縮　尺	1:500	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

交通保安要員配置図（その2）　S=1:500

側面図



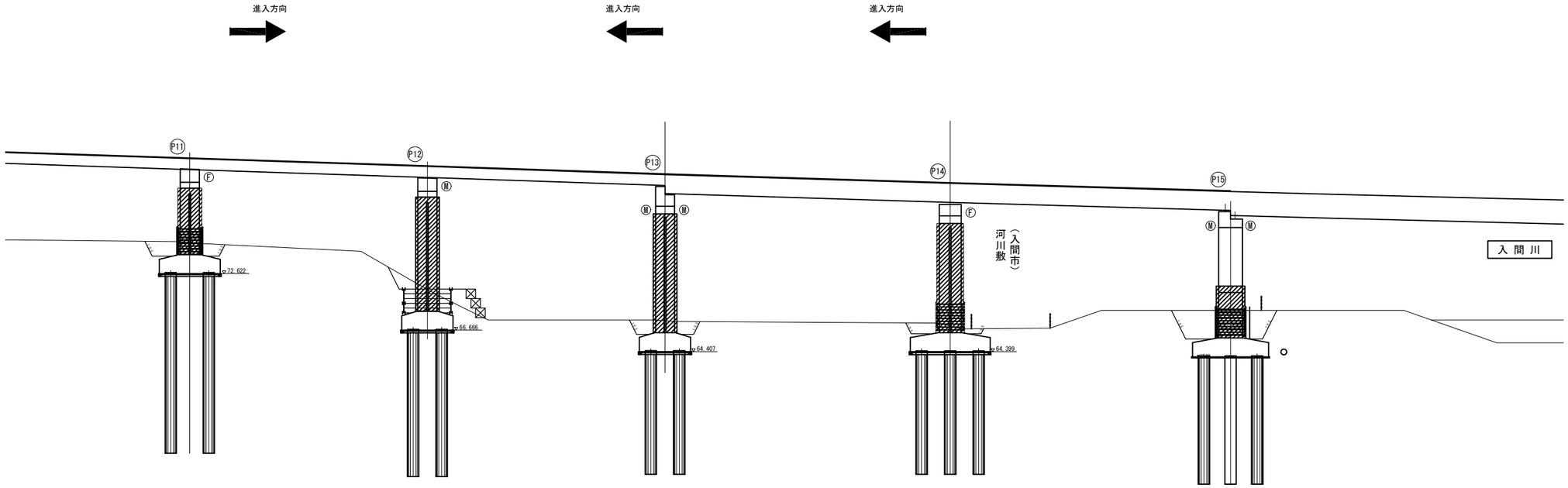
平面図



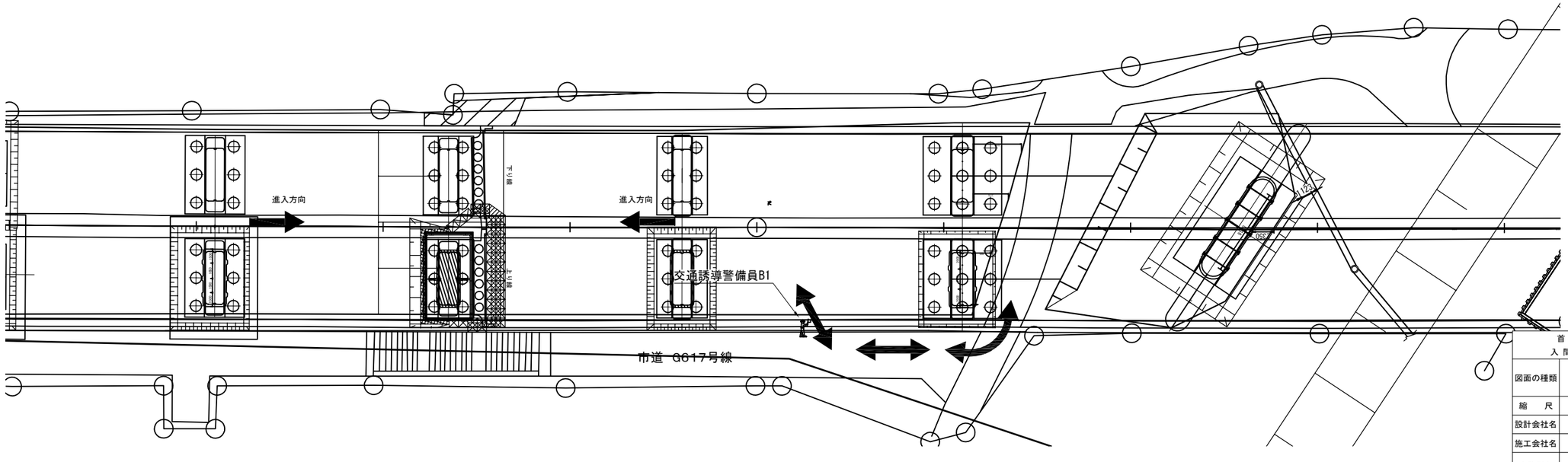
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 交通保安要員配置図（その2）		
縮　尺	1:500	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

交通保安要員配置図（その3）　S=1:500

側面図



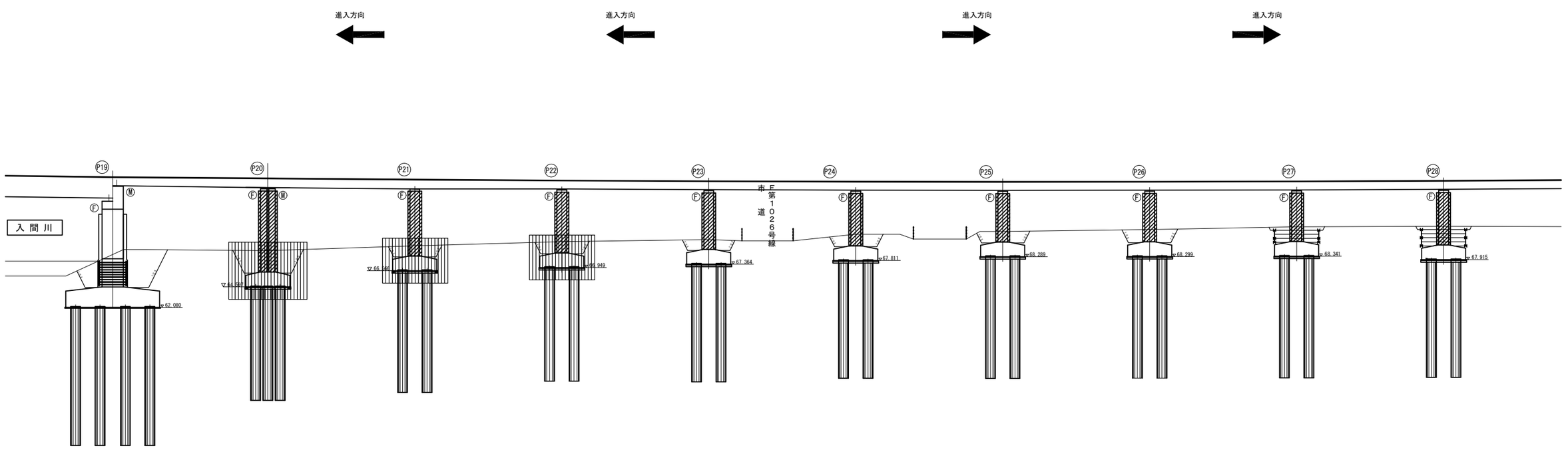
平面図



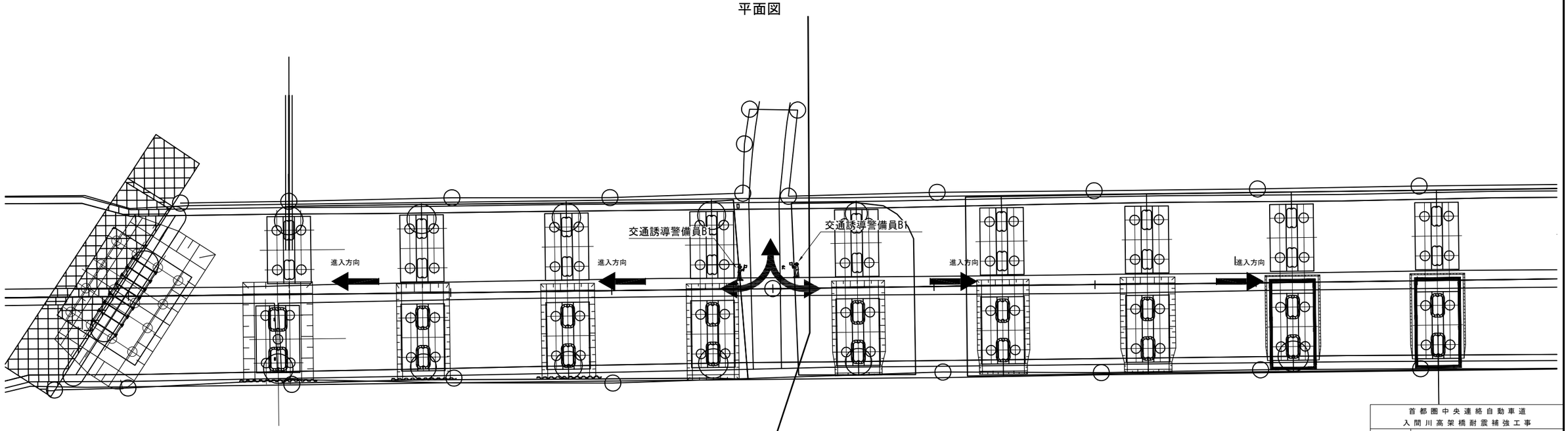
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 交通保安要員配置図（その3）		
縮　尺	1:500	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

交通保安要員配置図（その4）　S=1:500

側面図



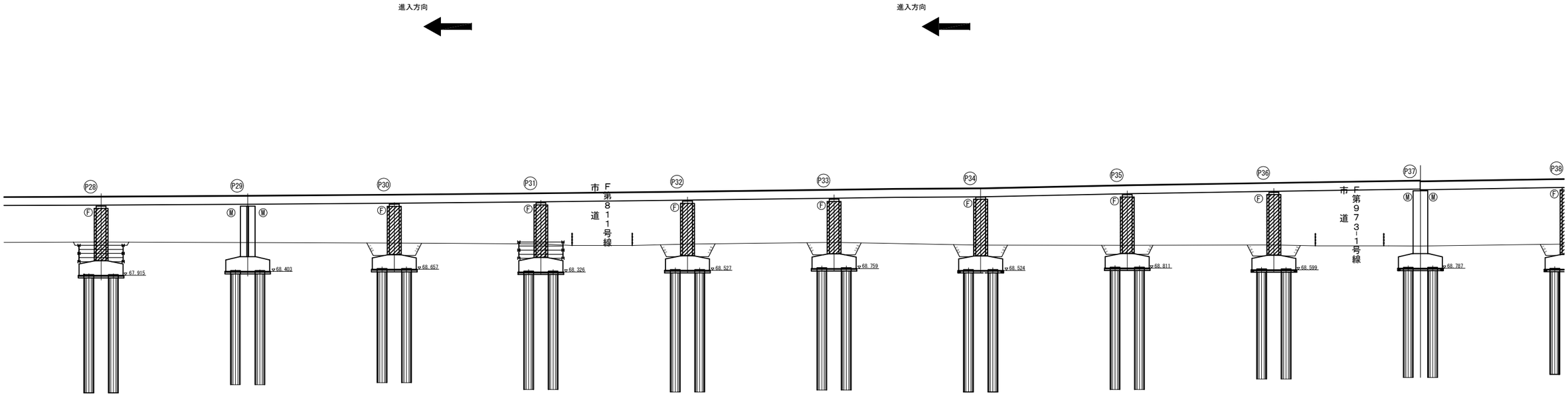
平面図



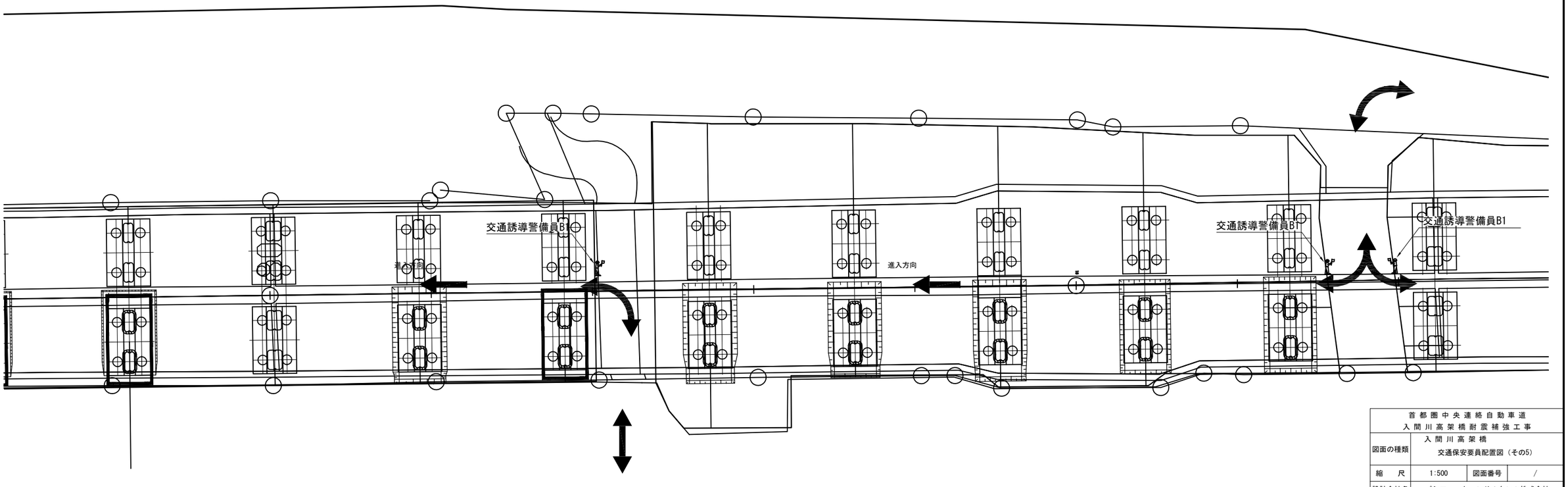
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 交通保安要員配置図（その4）		
縮　尺	1:500	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

交通保安要員配置図（その5）　S=1:500

側面図



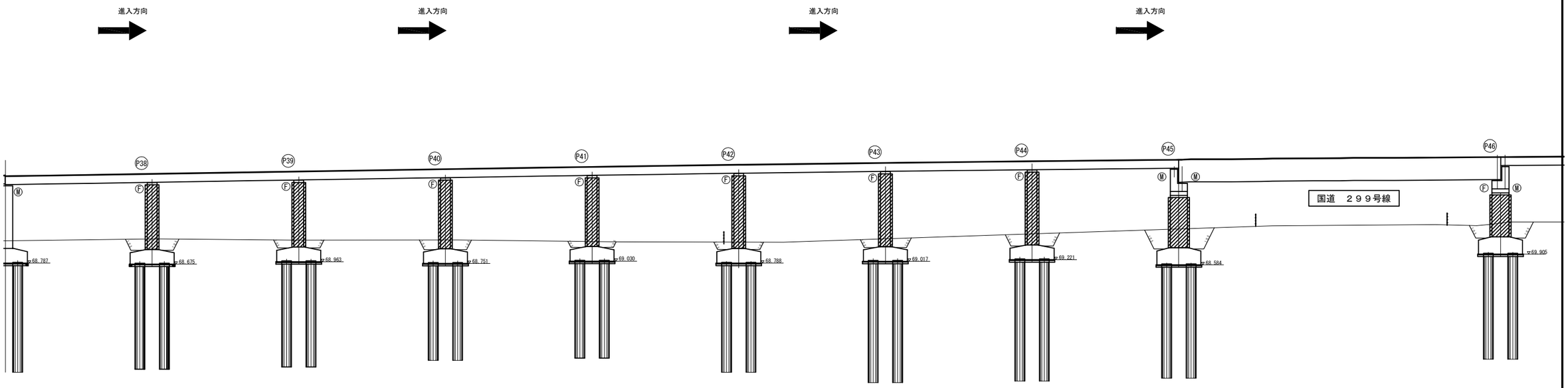
平面図



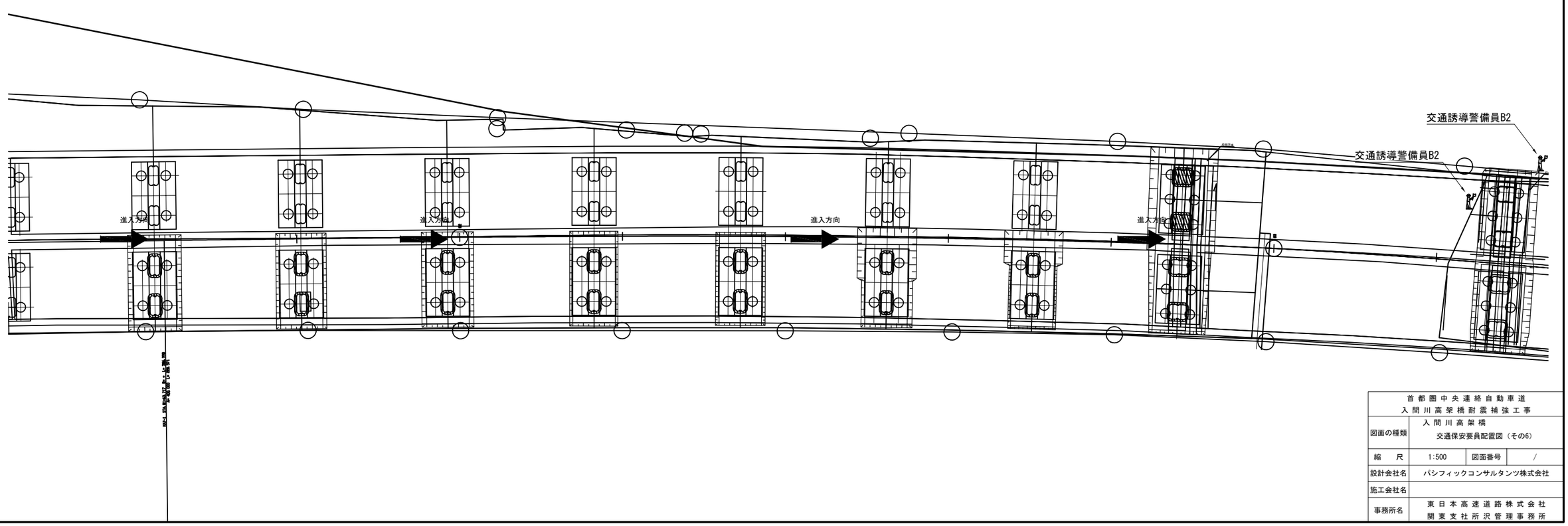
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 交通保安要員配置図（その5）		
縮　尺	1:500	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

交通保安要員配置図（その6）　S=1:500

側面図



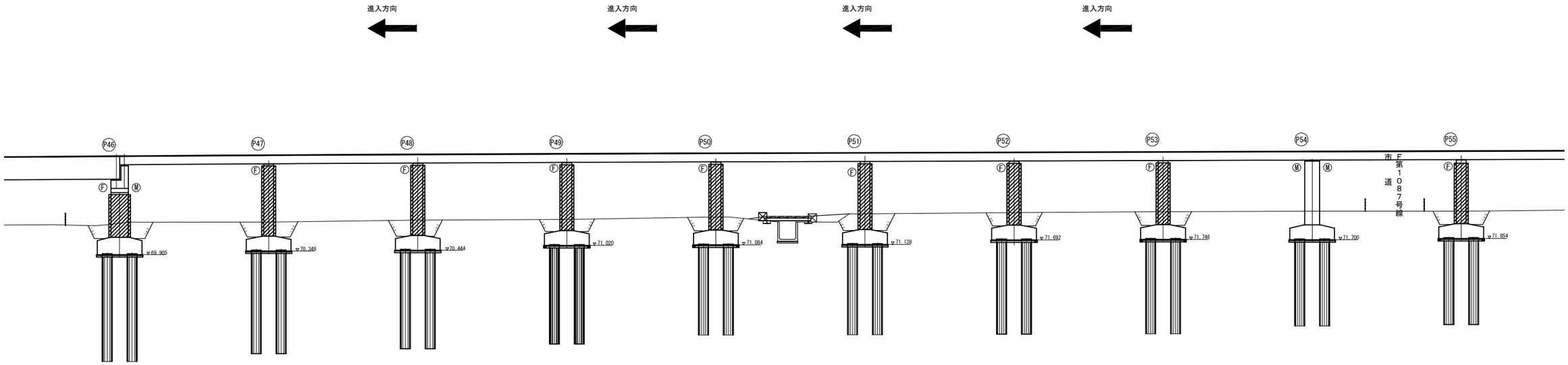
平面図



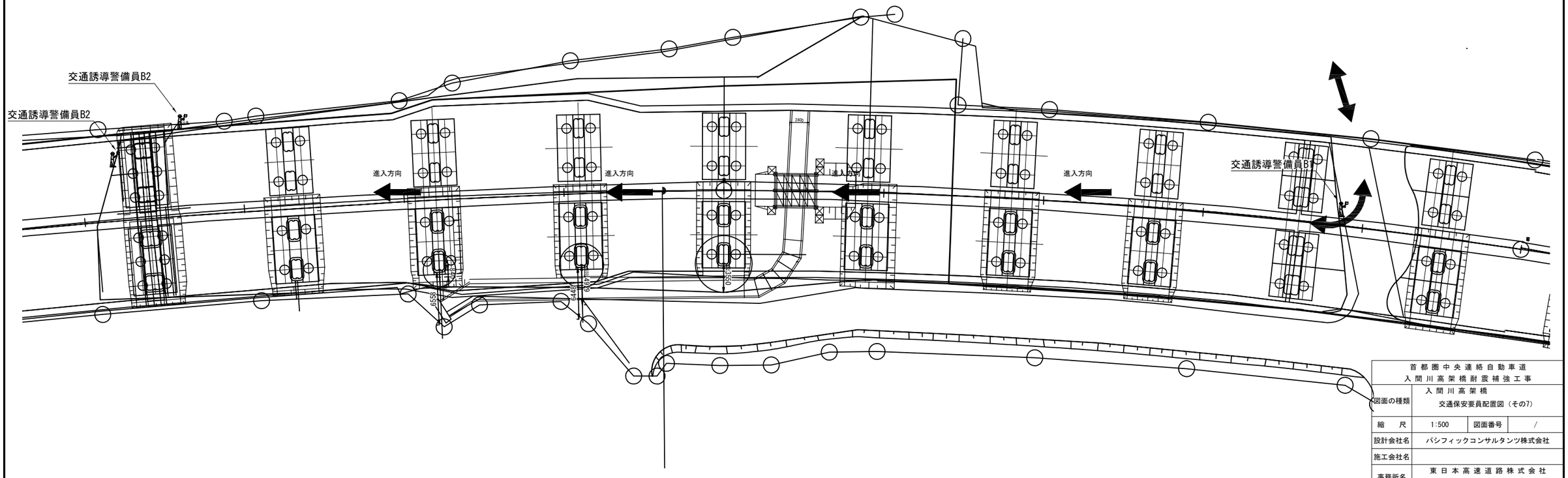
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 交通保安要員配置図（その6）		
縮　尺	1:500	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

交通保安要員配置図（その7）　S=1:500

側面図



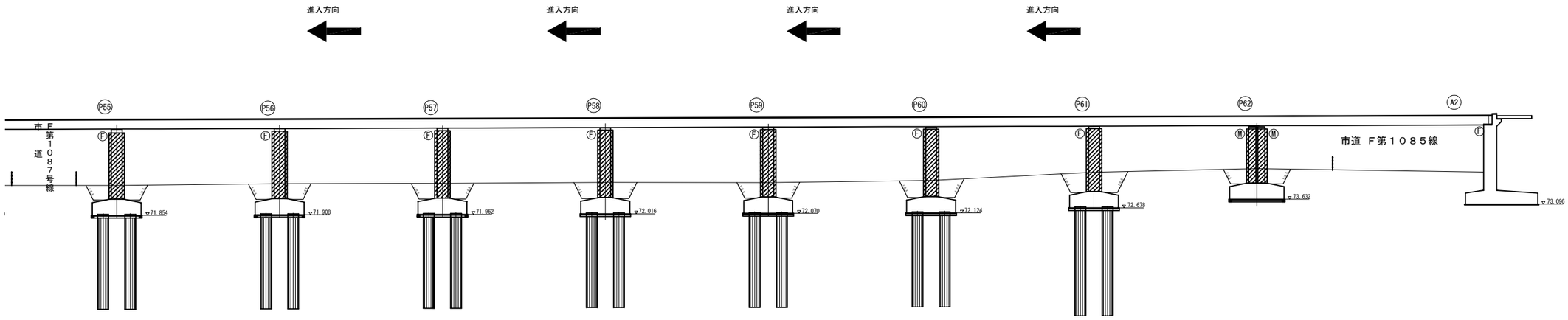
平面図



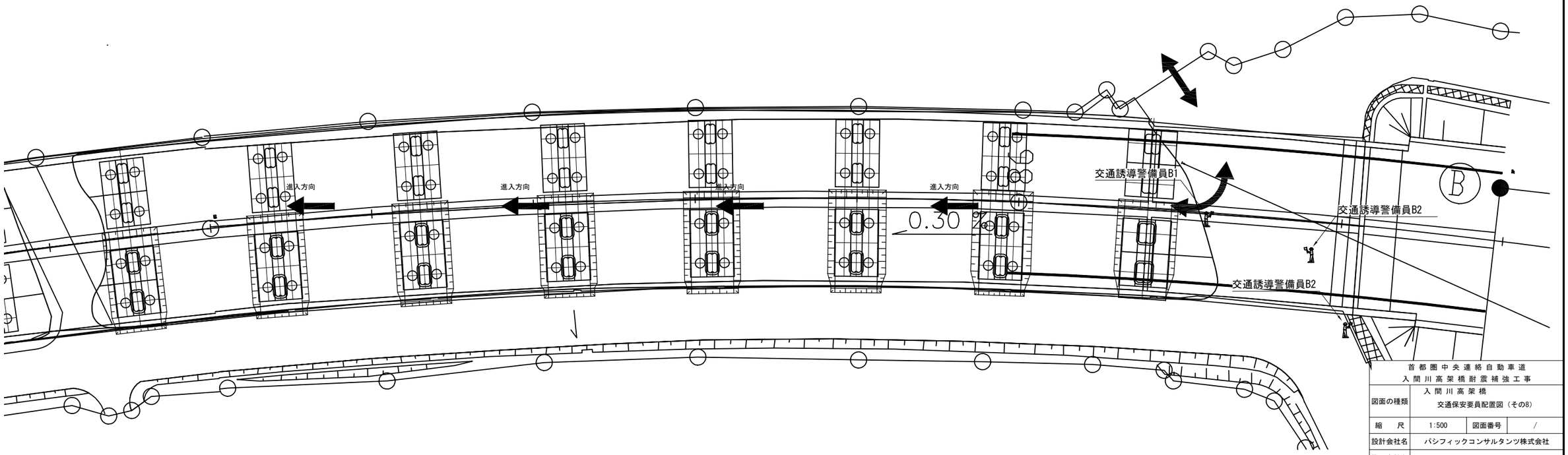
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 交通保安要員配置図（その7）
縮　尺	1:500
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

交通保安要員配置図（その8）　S=1:500

側面図



平面図

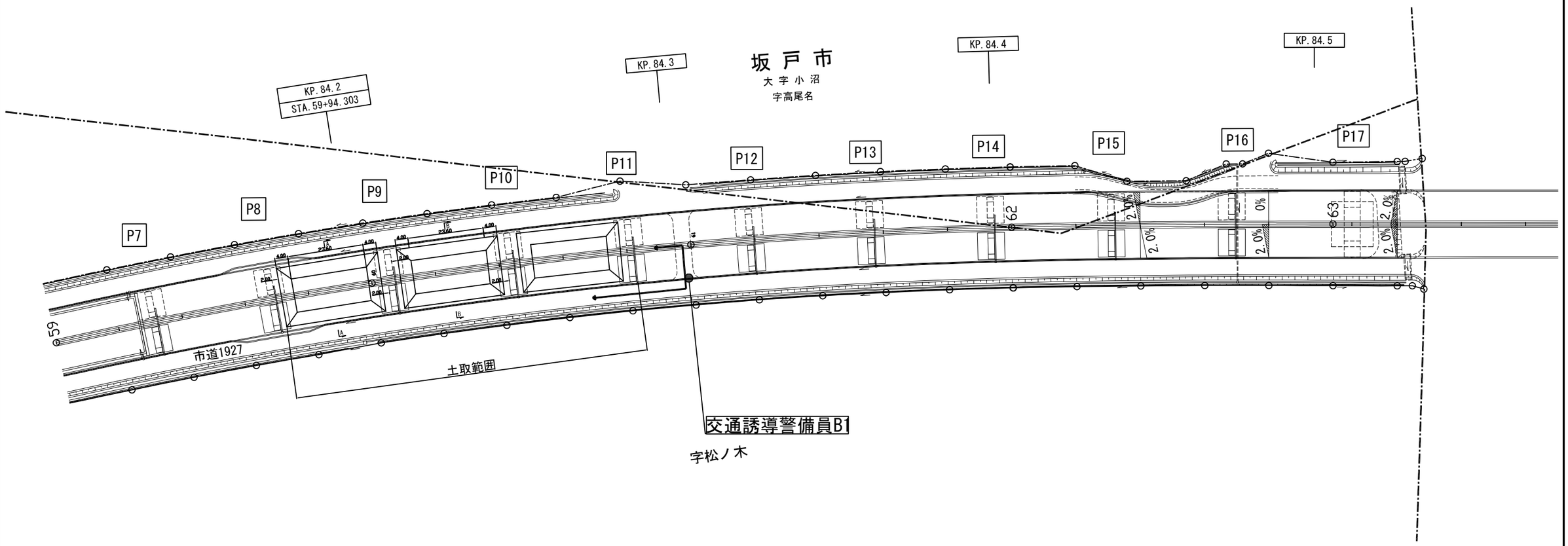


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 交通保安要員配置図（その8）
縮　尺	1:500
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

交通保安要員配置図（その9）　S=1:125

坂戸高架橋下

土取場・自工区外盛土場　平面図

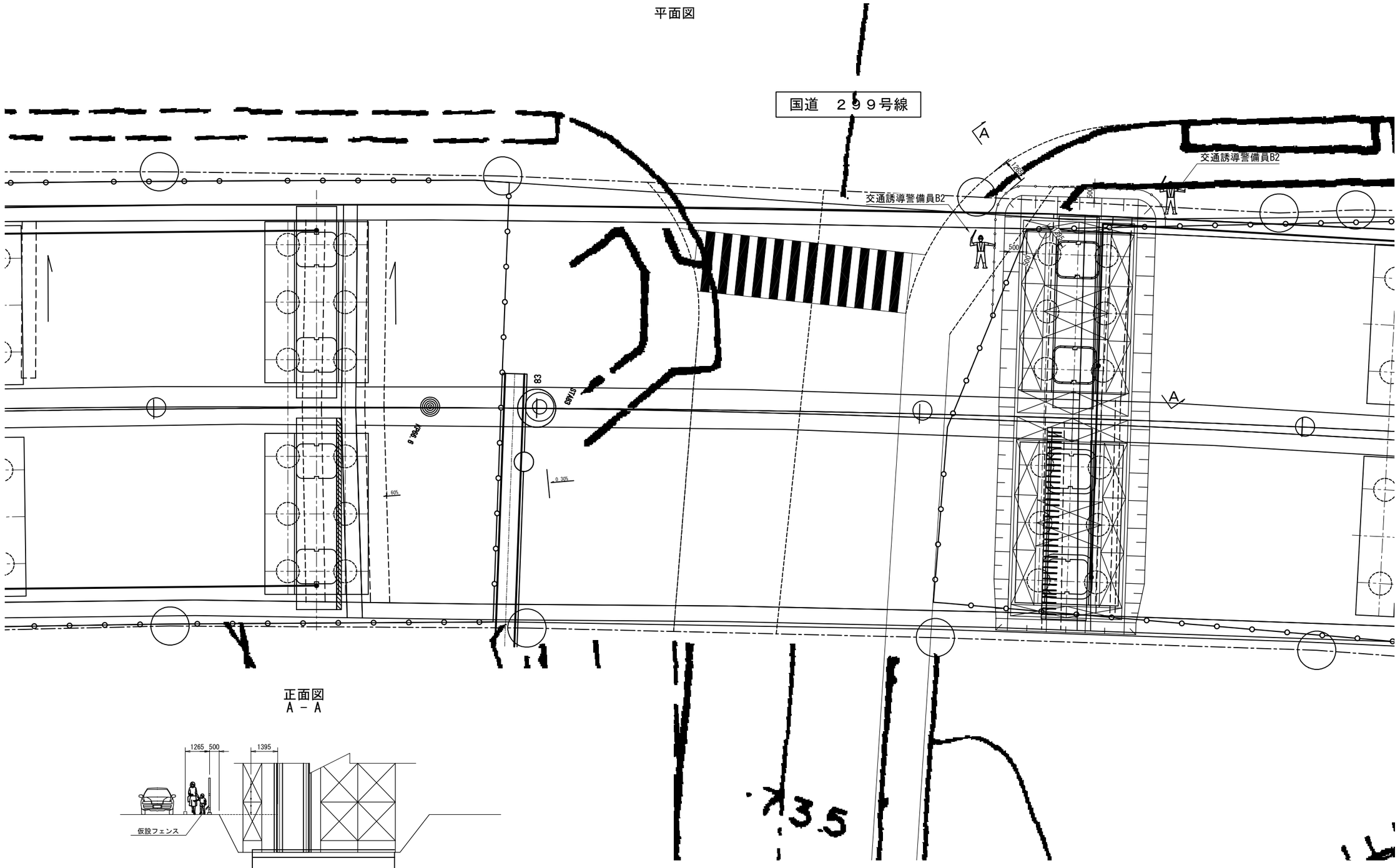


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	交通保安要員配置図（その9）		
縮　尺	1:125	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

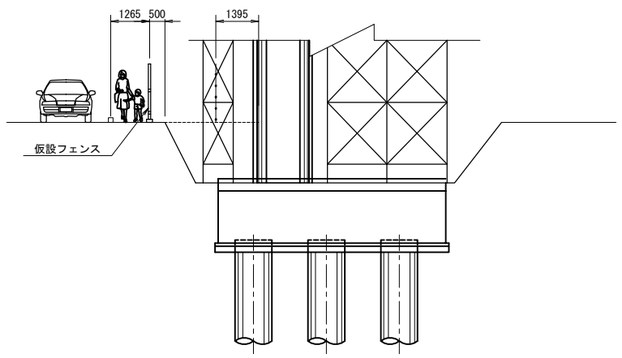
交通保安要員配置詳細図（その１）S=1:200

P45, P46橋脚

平面図



正面図
A － A

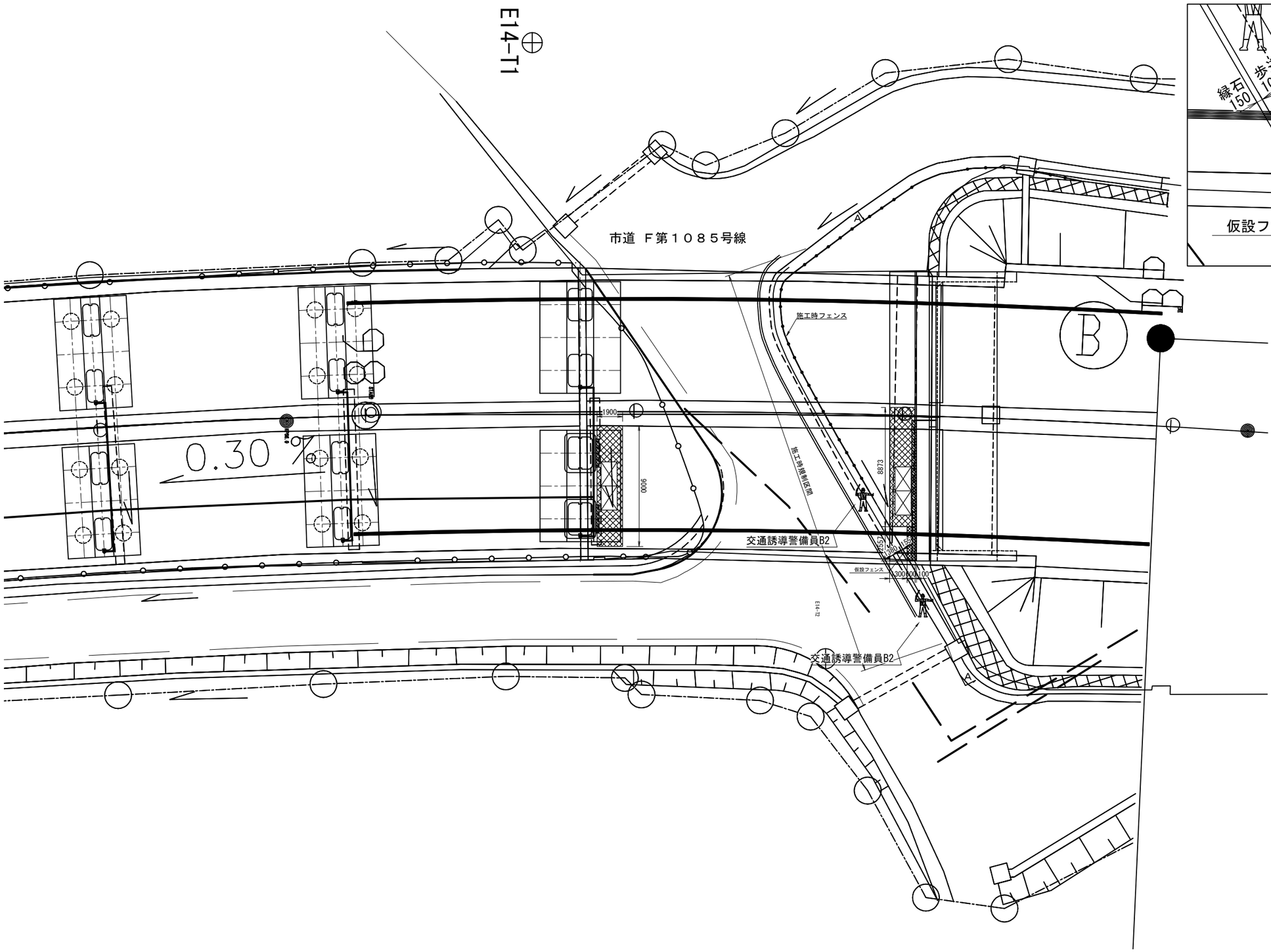


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事				
図面の種類	入間川高架橋 交通保安要員配置詳細図（その１）			
縮　尺	1:200	図面番号	/	
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所			

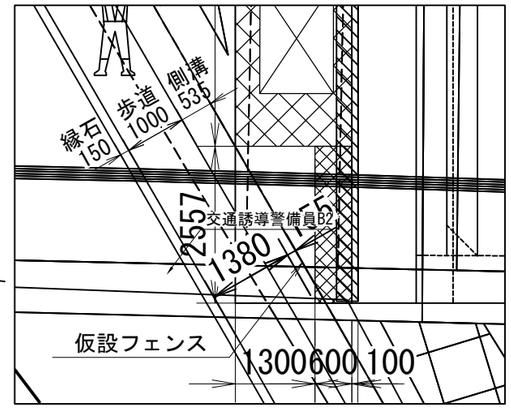
交通保安要員配置詳細図（その２）S=図示

A2橋台

平面図 S=1:300



A2橋台部拡大図 S=1:100



注記

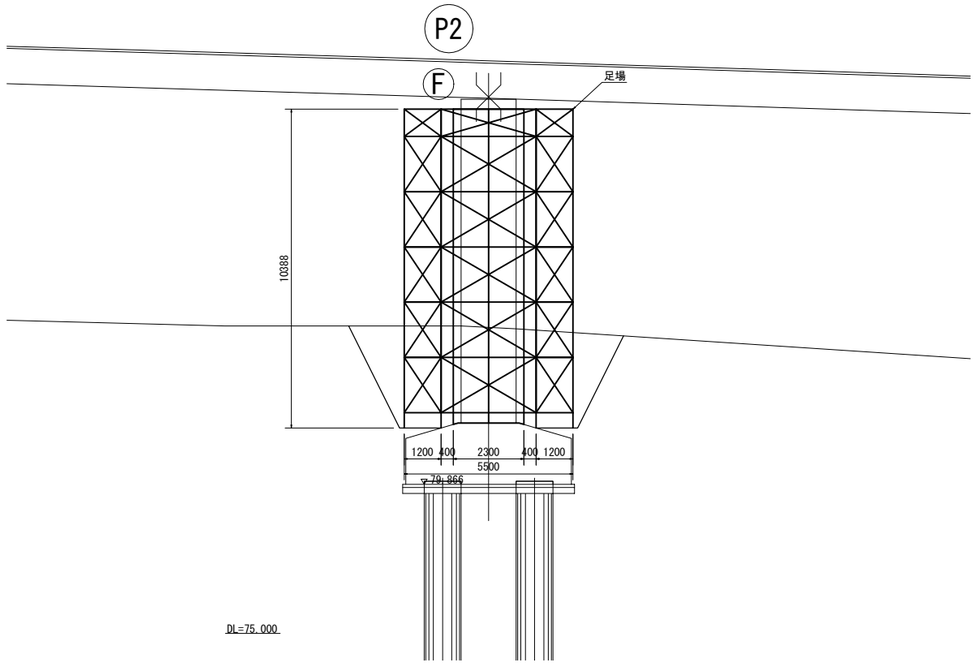
1）歩道、側溝、縁石の幅は現地計測結果を反映した。

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 交通保安要員配置詳細図（その２）		
縮　尺	図示	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

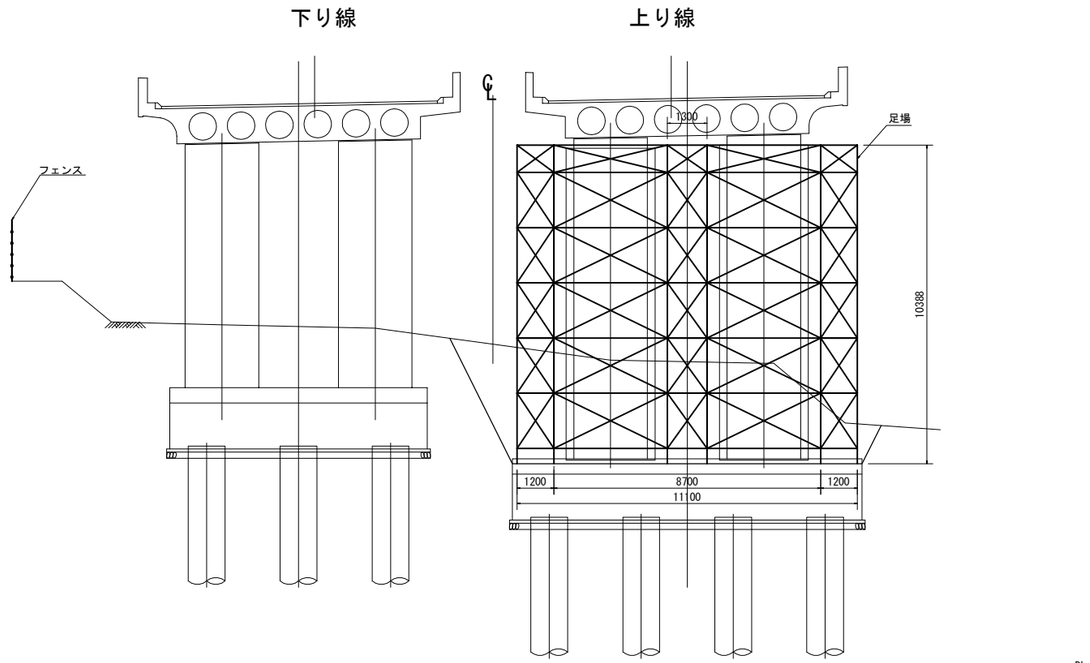
P2橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



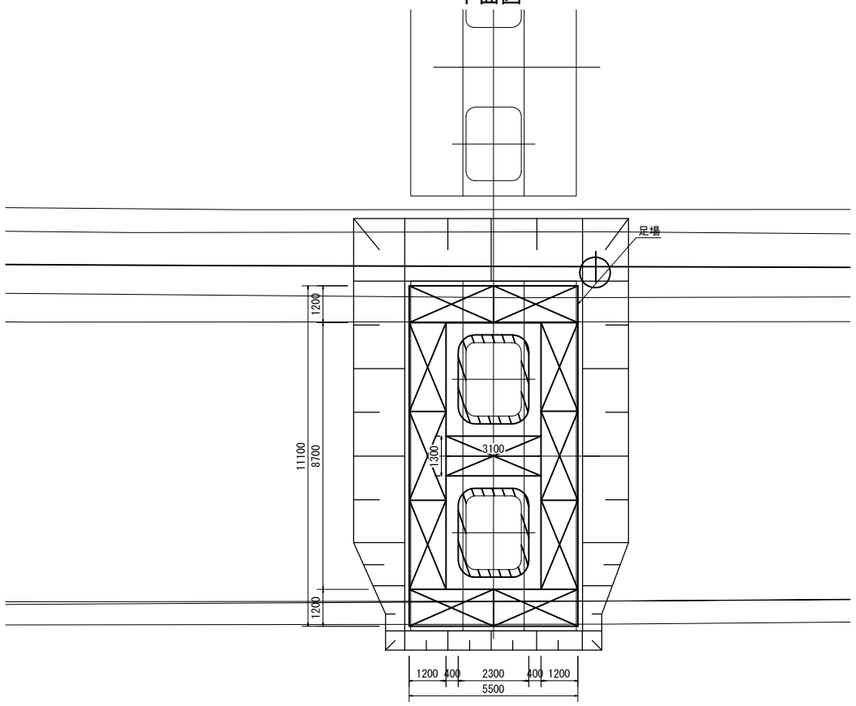
正面図



平面図

下り線

上り線

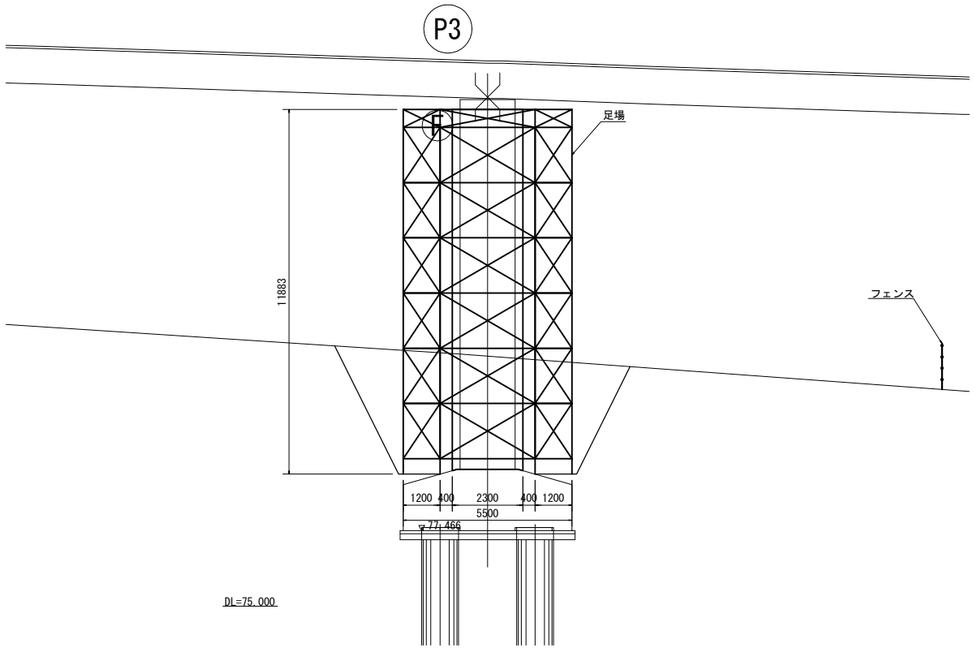


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P2橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

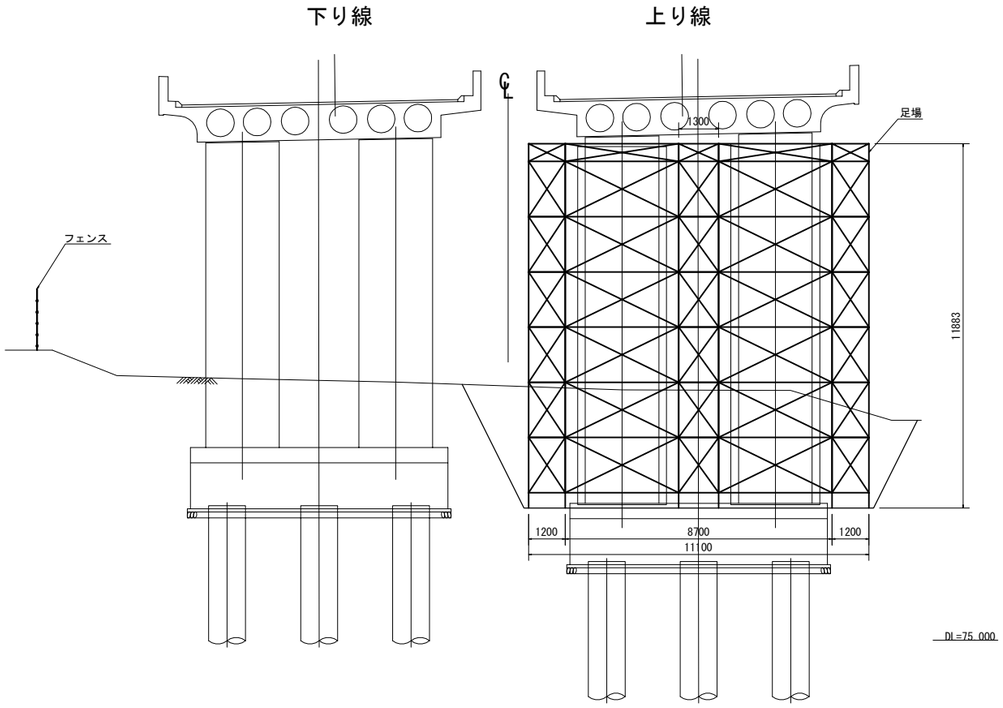
P3橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

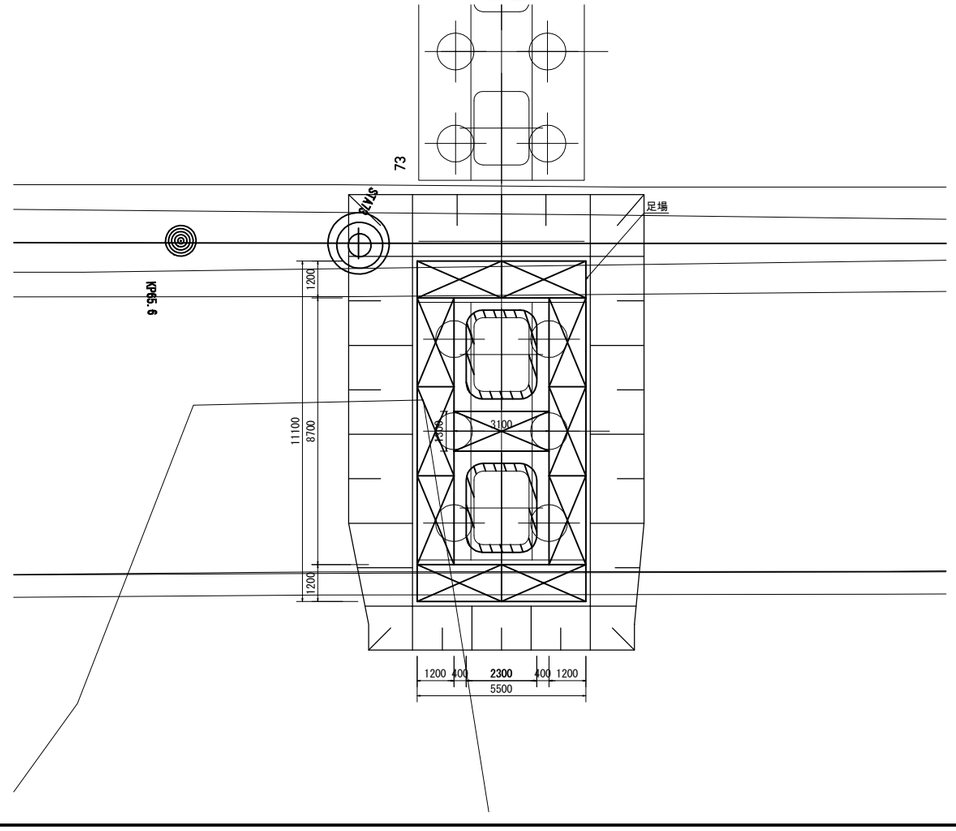
側面図



正面図



平面図

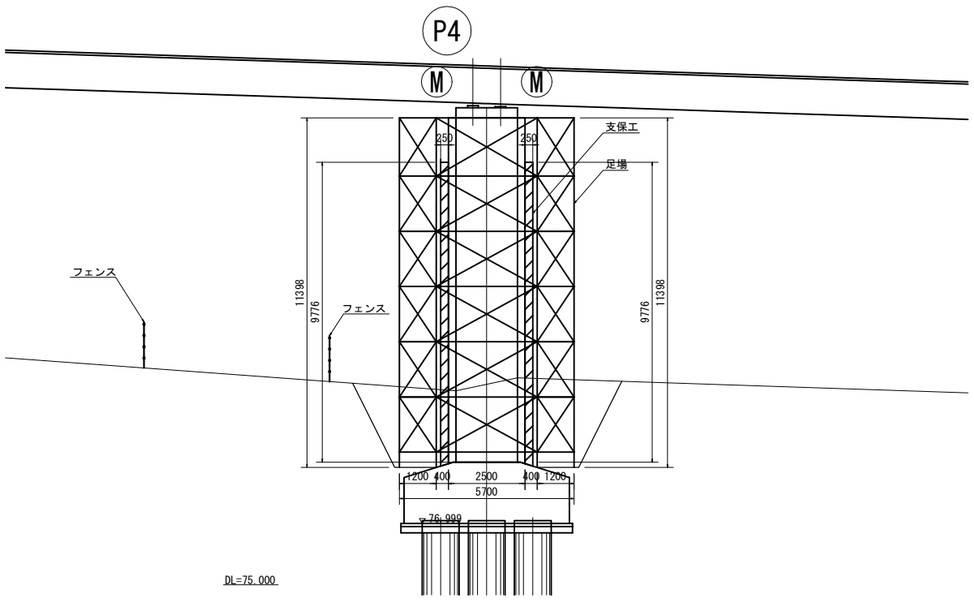


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P3橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

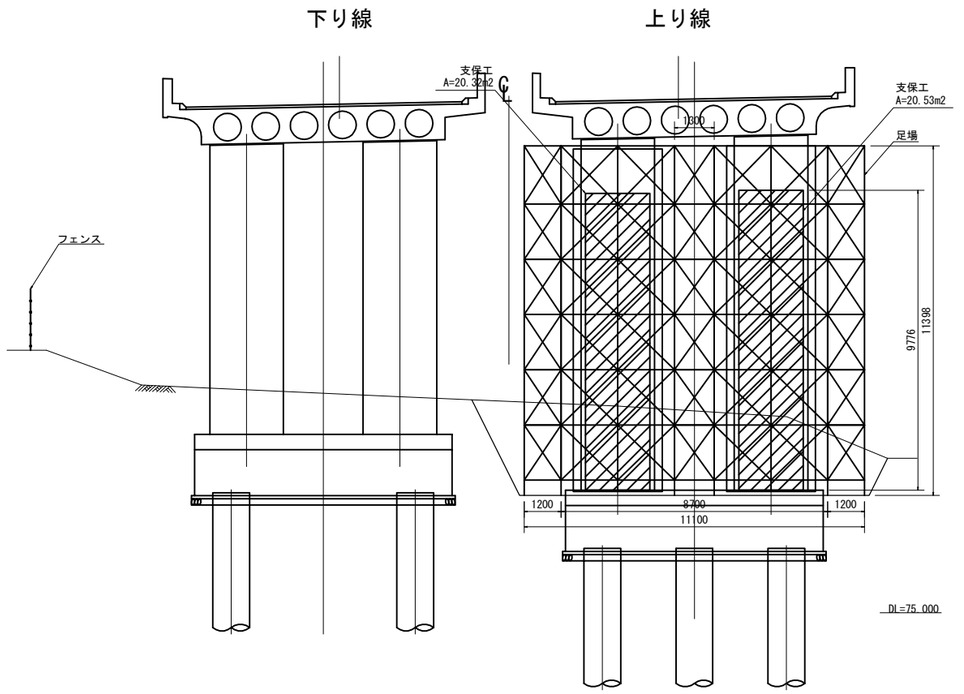
P4橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



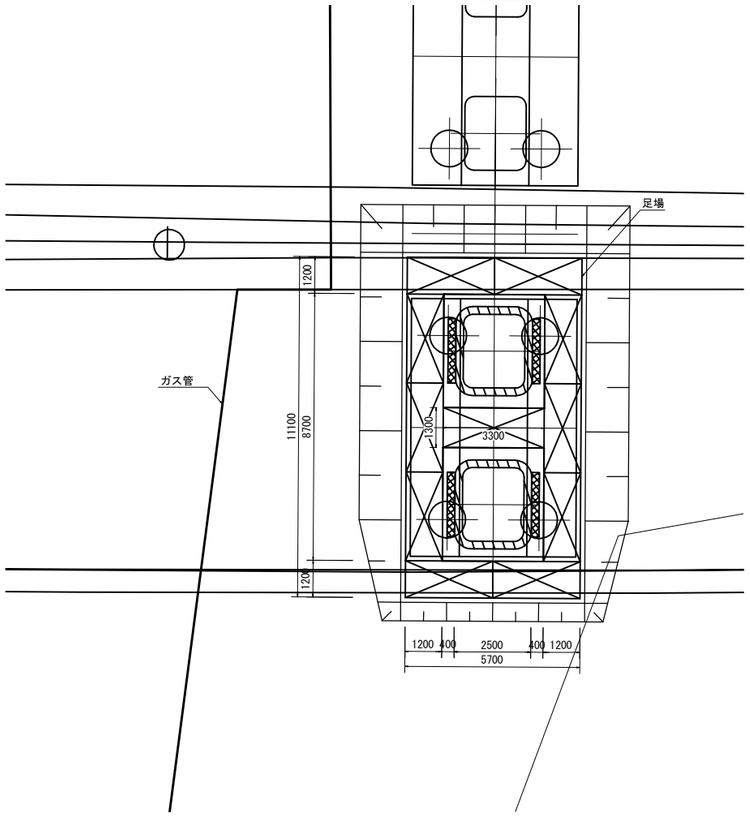
正面図



平面図

下り線

上り線

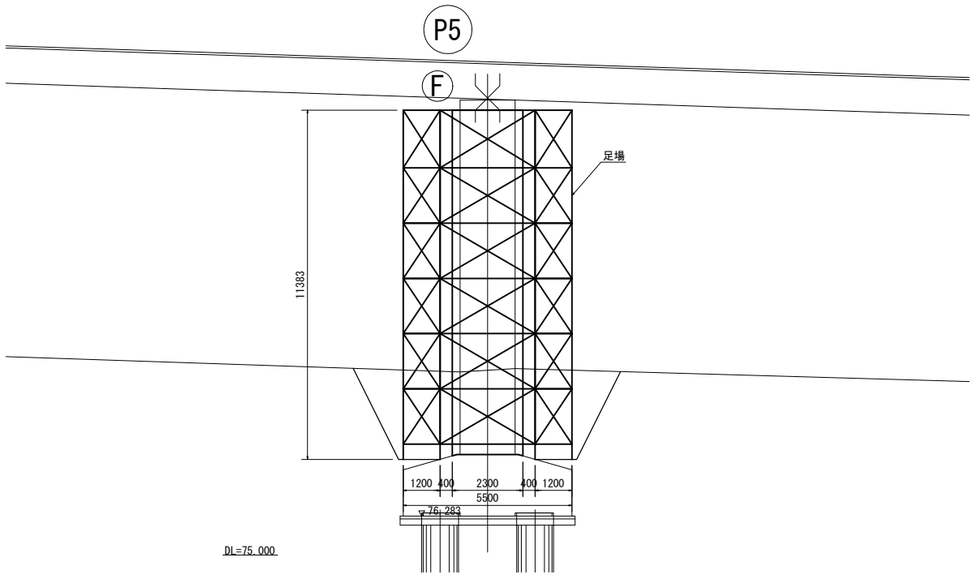


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P4橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

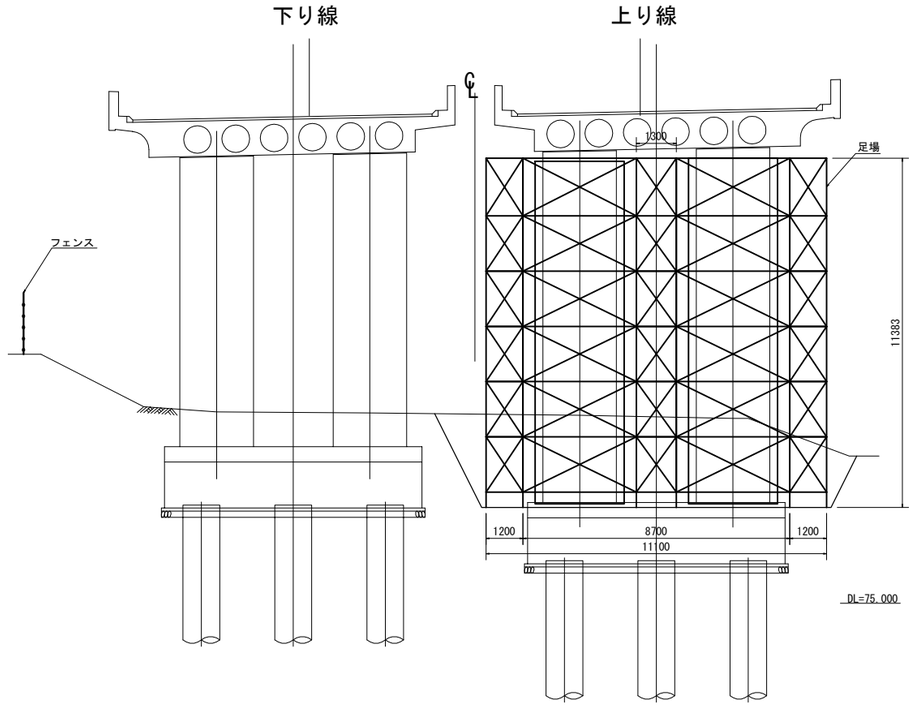
P5橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



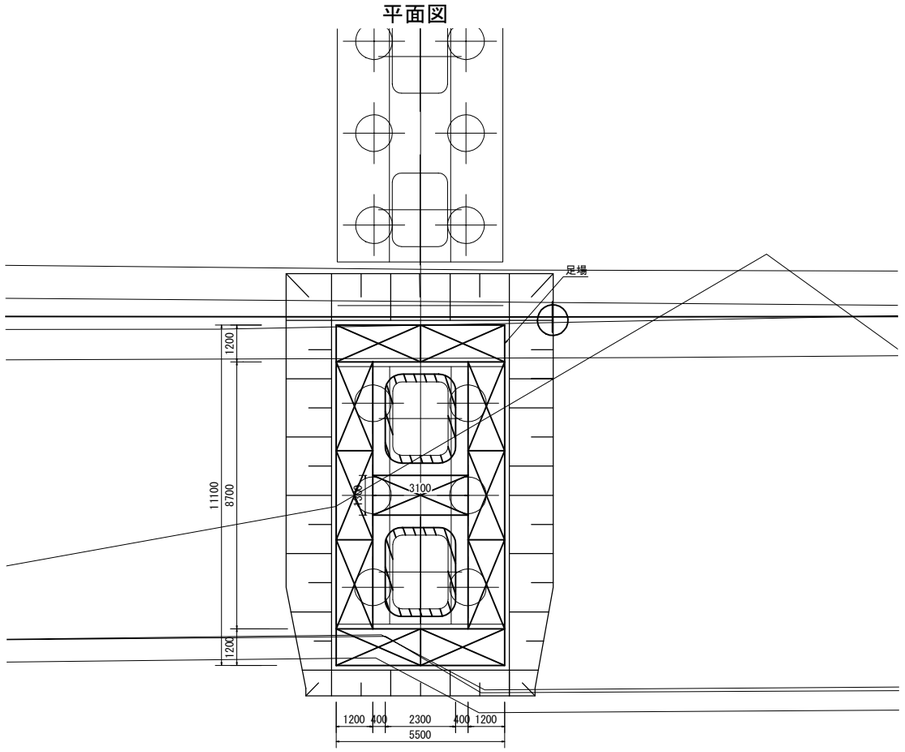
正面図



平面図

下り線

上り線

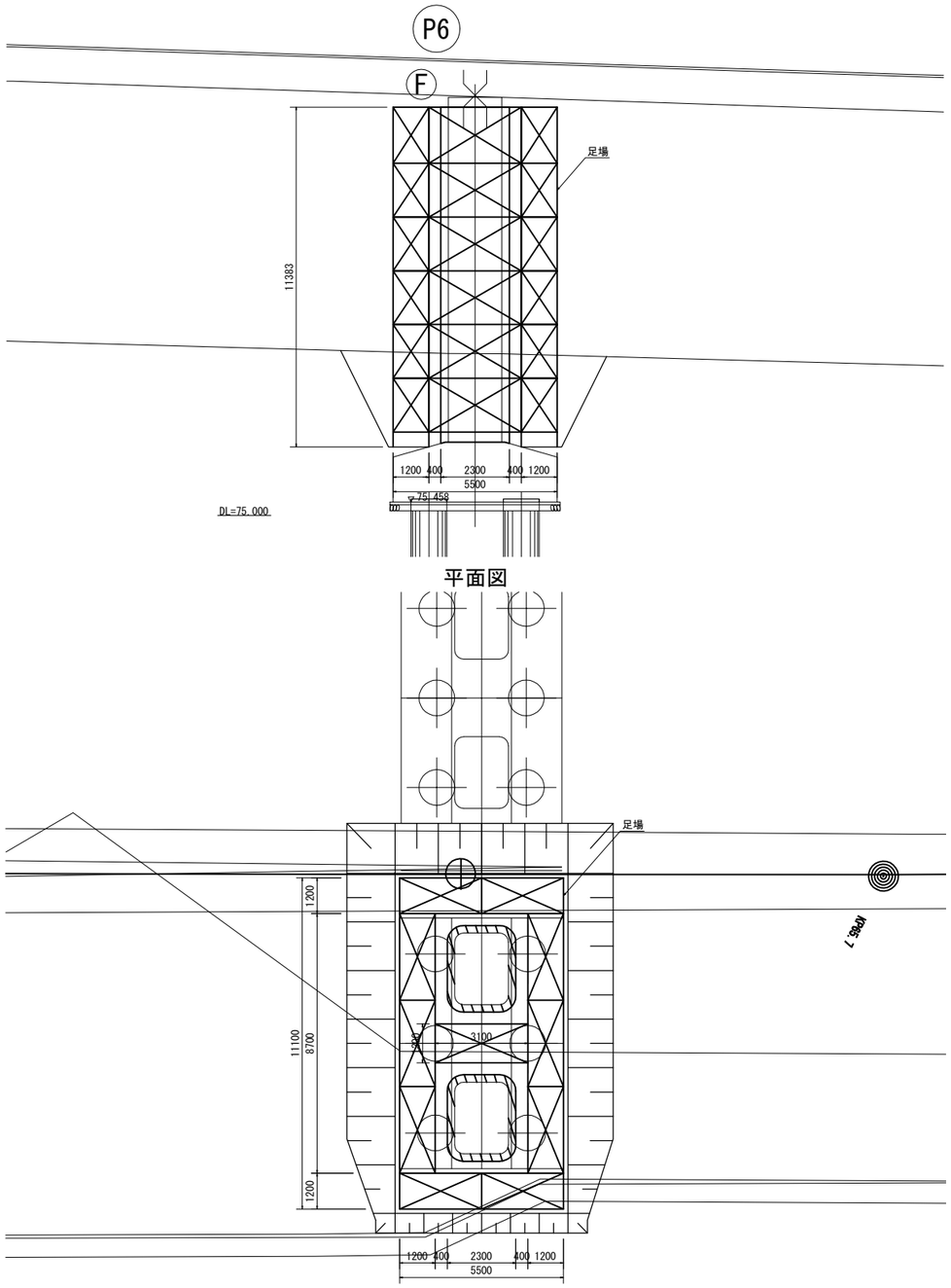


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P5橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

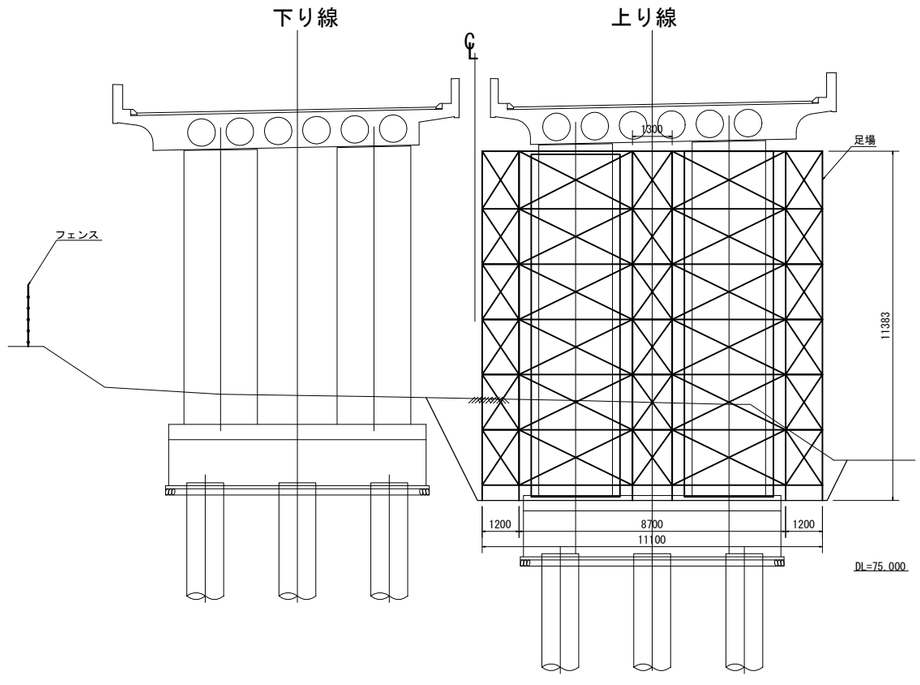
P6橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



正面図

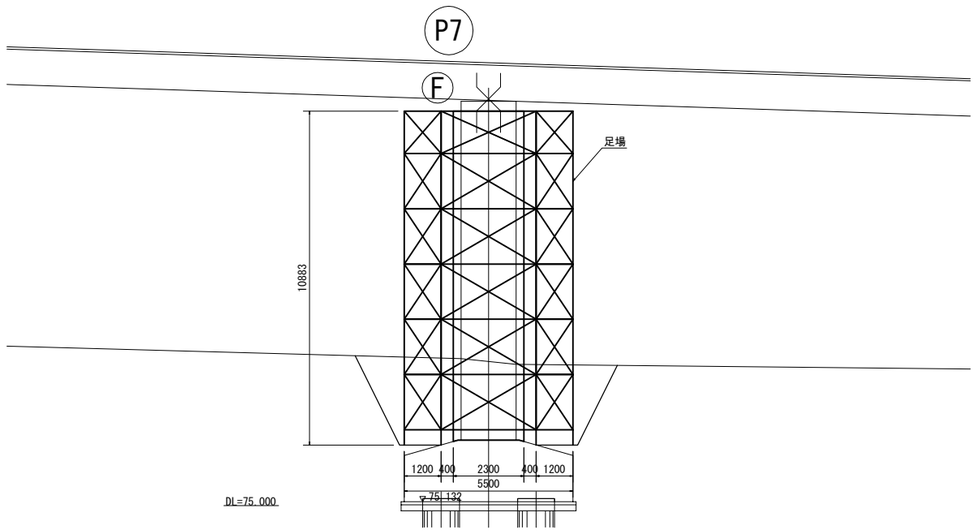


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P6橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

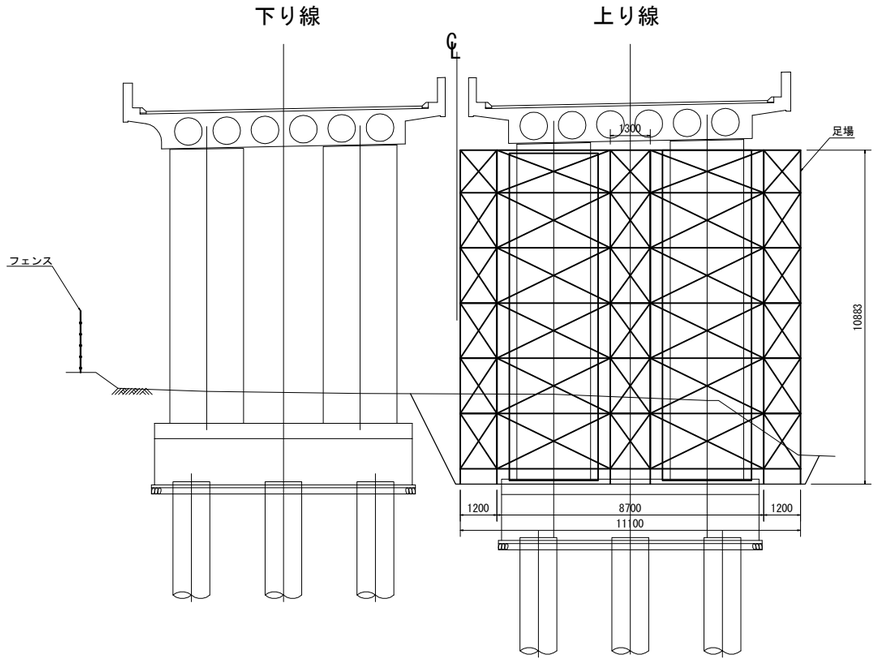
P7橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

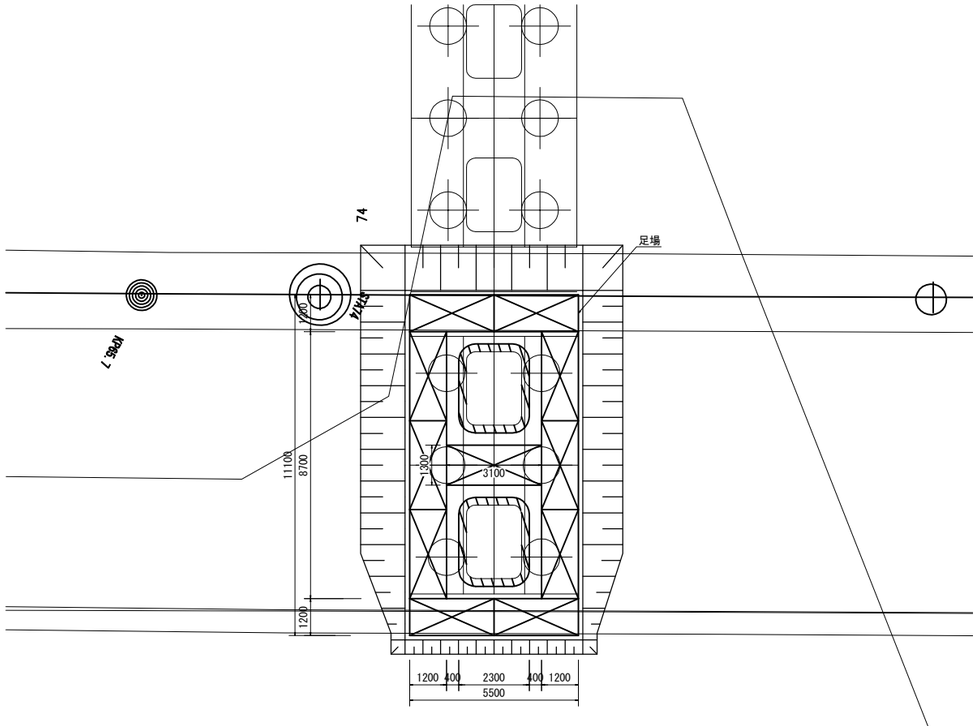
側面図



正面図



平面図

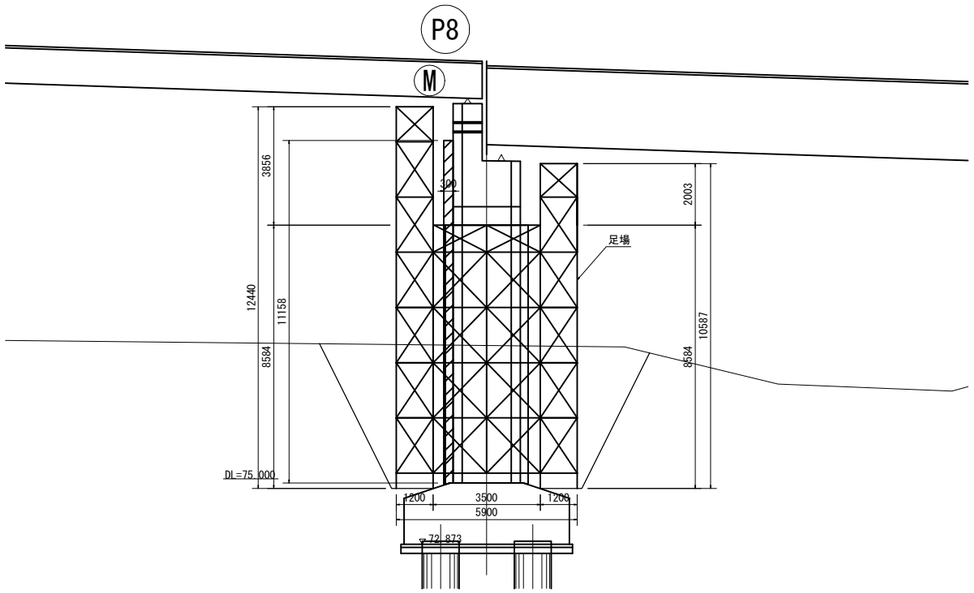


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P7橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

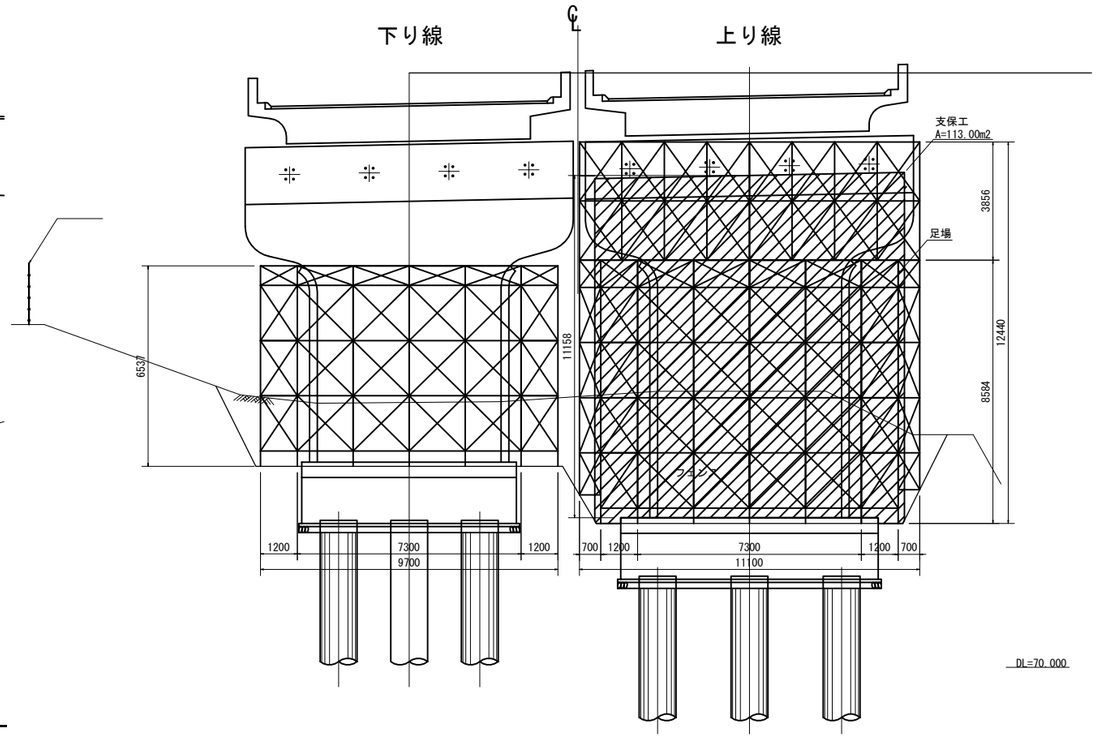
P8橋脚 足場計画図（上下線）（参考図）S=1:200

普通部

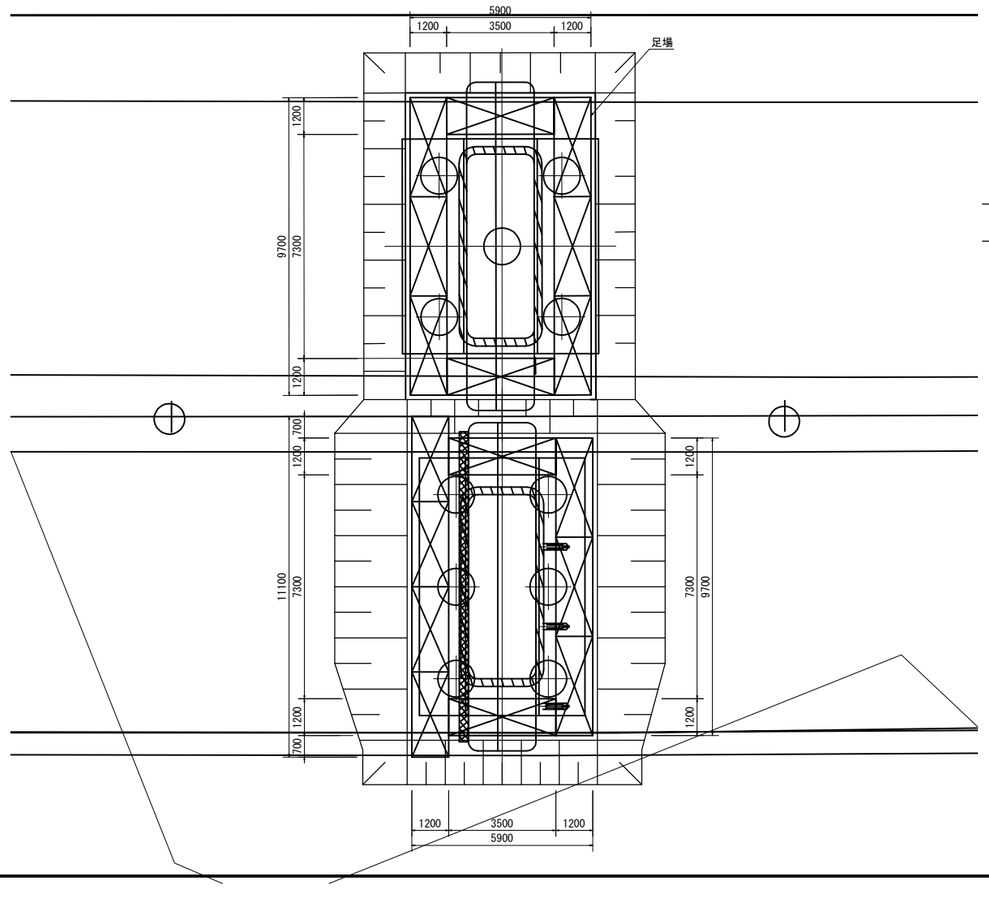
側面図



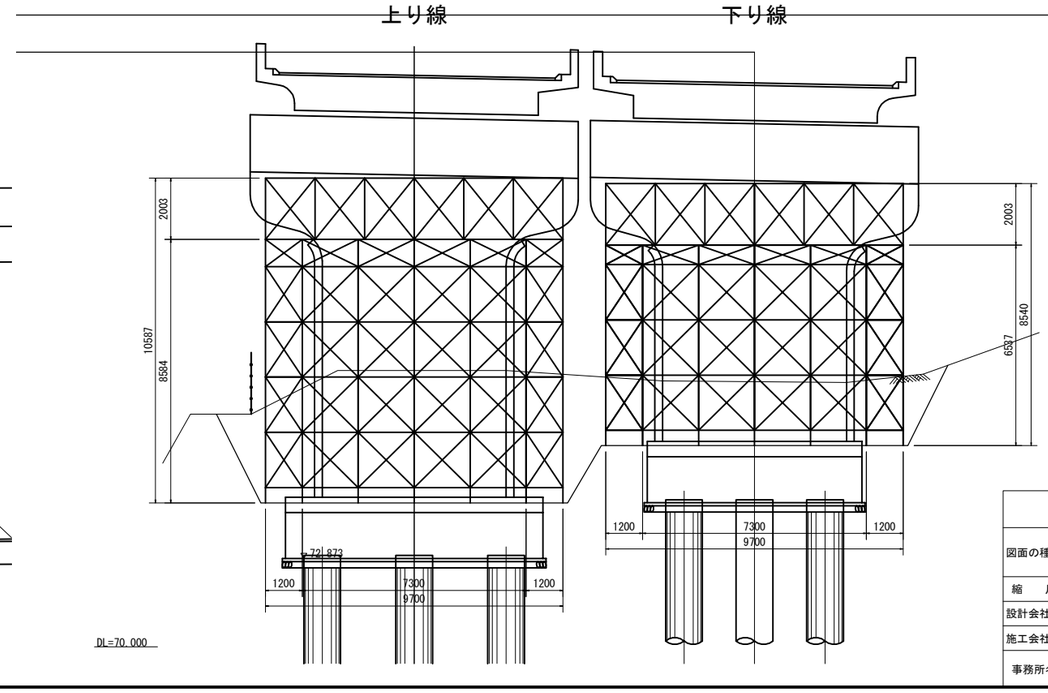
正面図（起点側）



平面図



正面図（終点側）

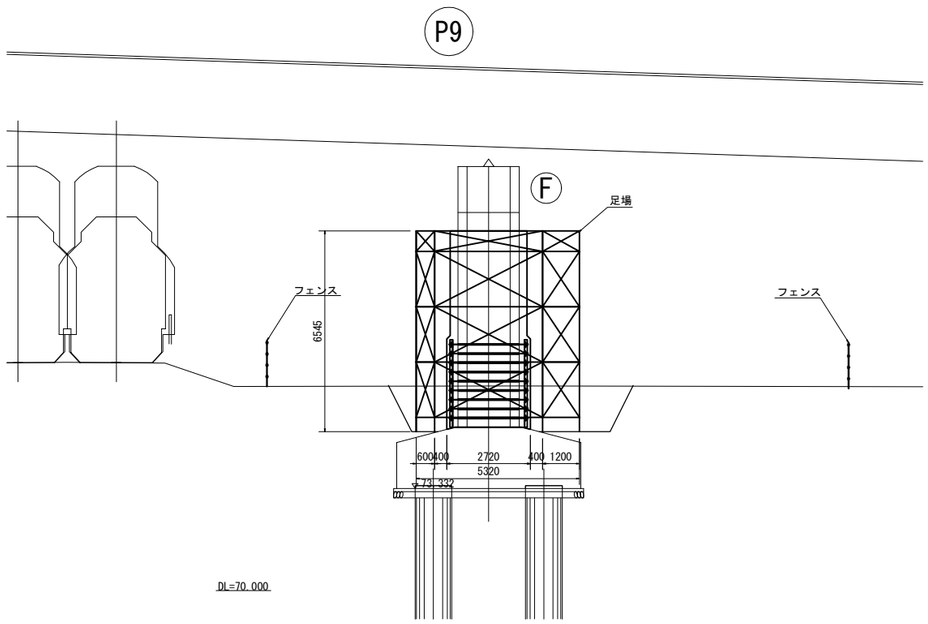


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P8橋脚 足場計画図（上下線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

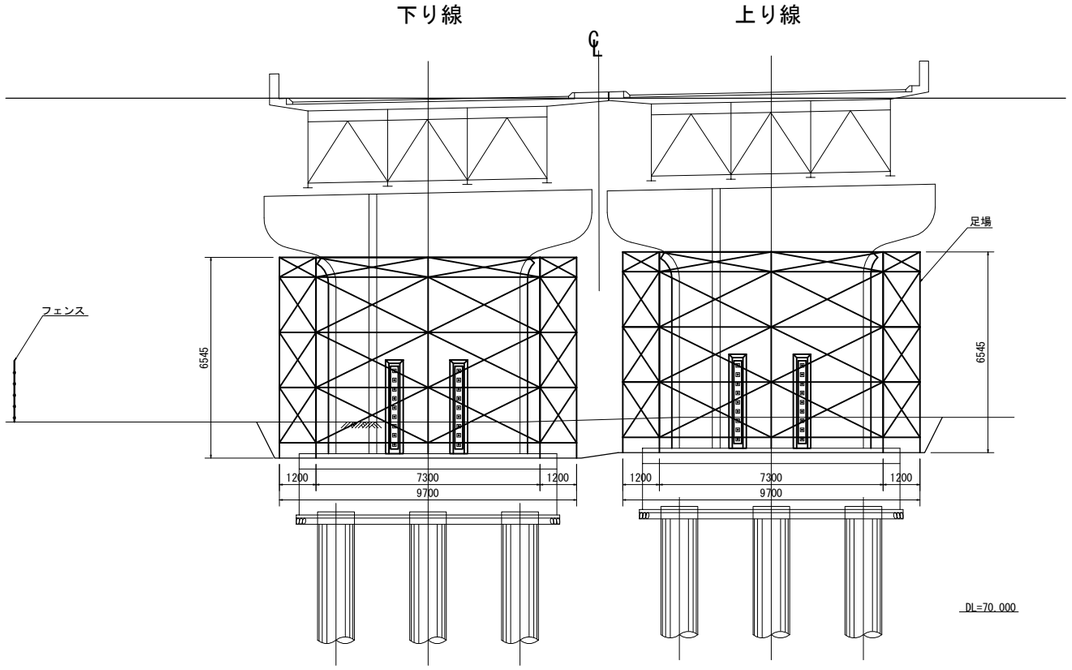
P9橋脚 足場計画図（上下線）（参考図）S=1:200

普通部

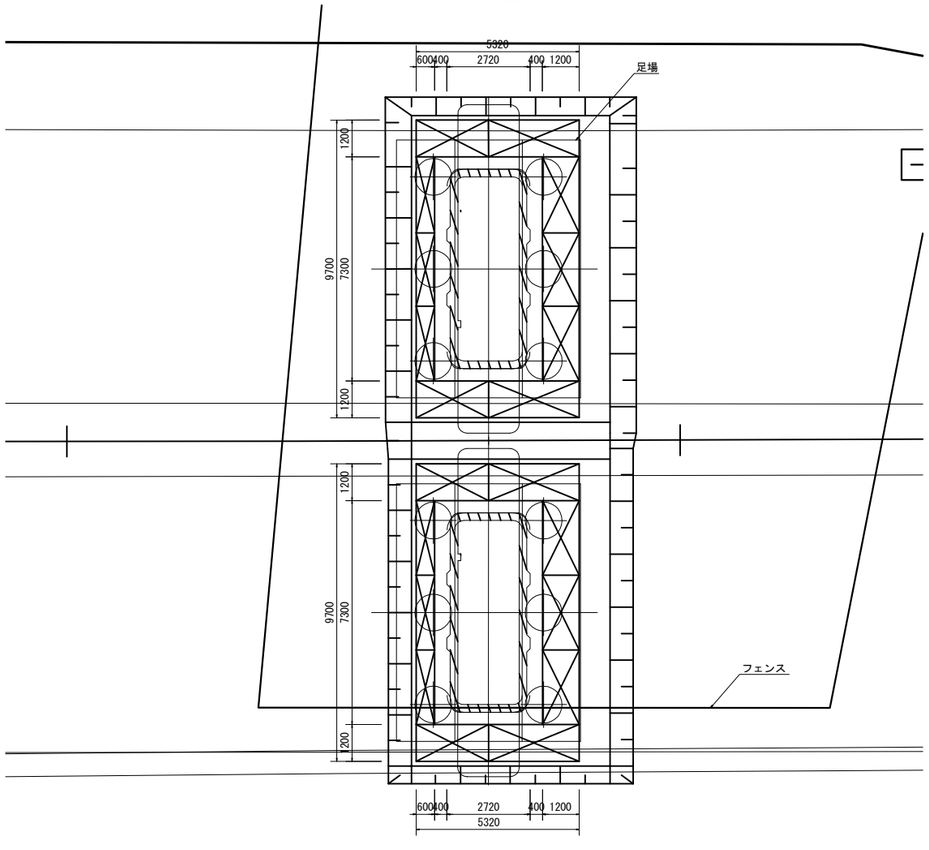
側面図



正面図



平面図

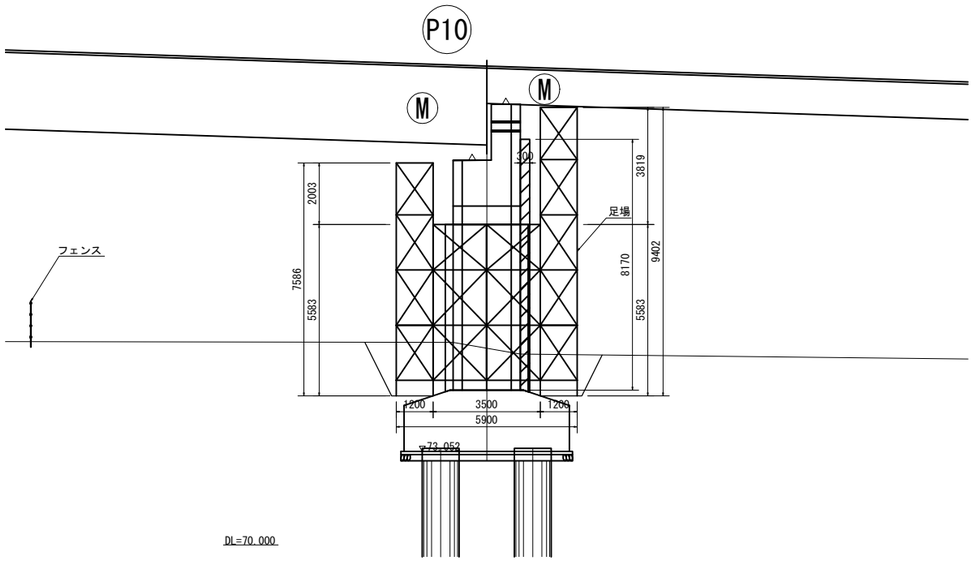


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P9橋脚 足場計画図（上下線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

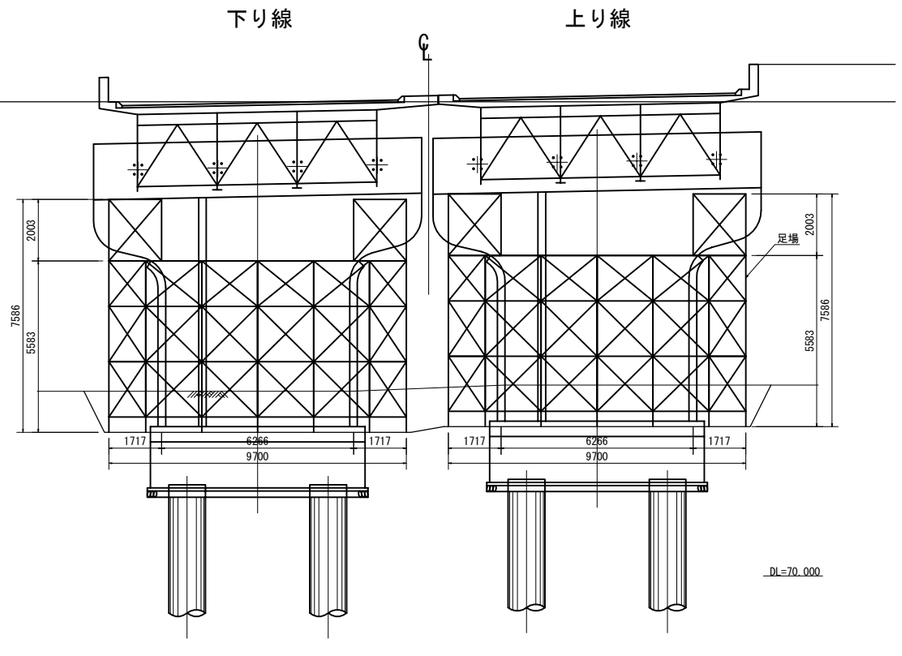
P10橋脚 足場計画図（上下線）（参考図）S=1:200

普通部

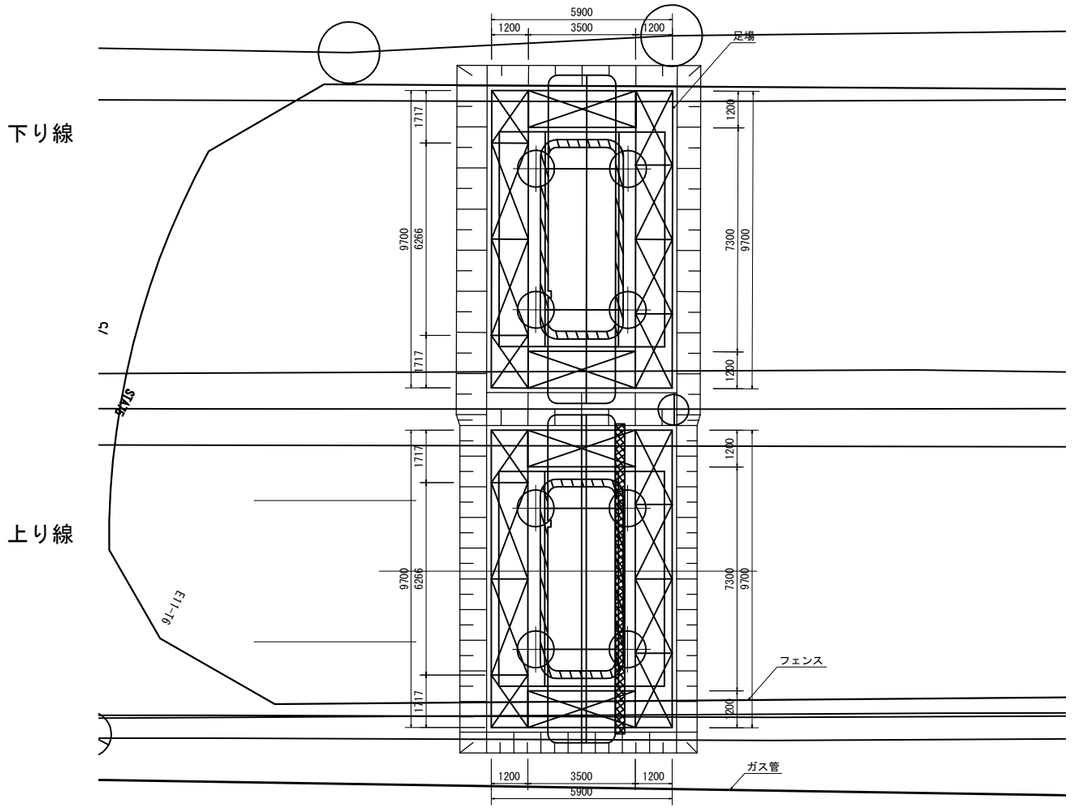
側面図



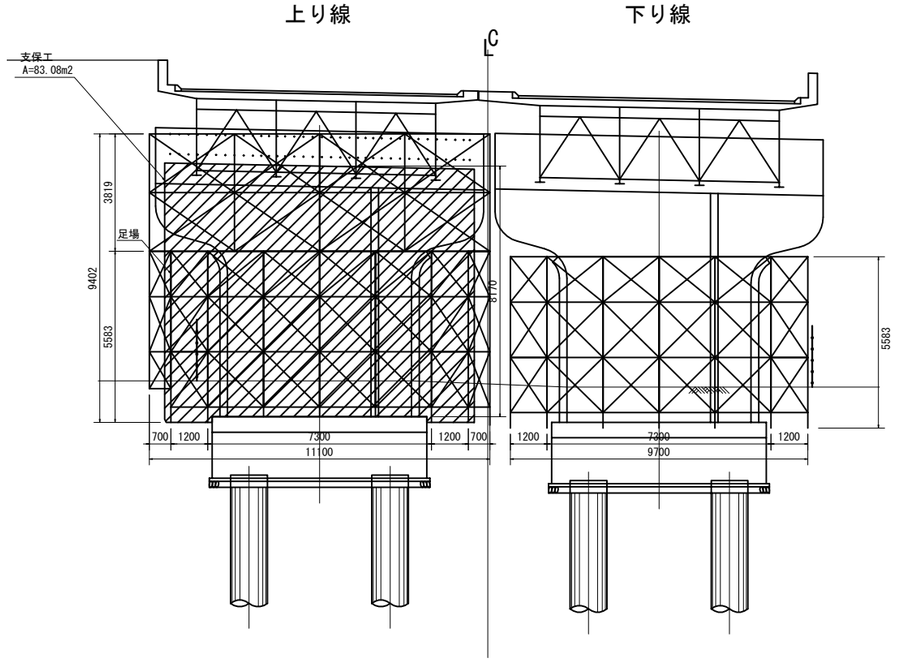
正面図（起点側）



平面図



正面図（終点側）

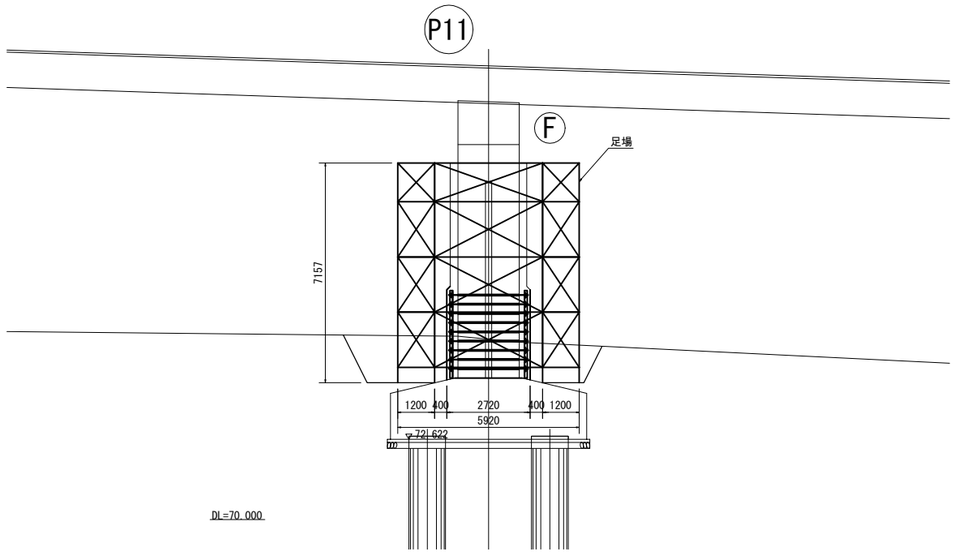


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P10橋脚 足場計画図（上下線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

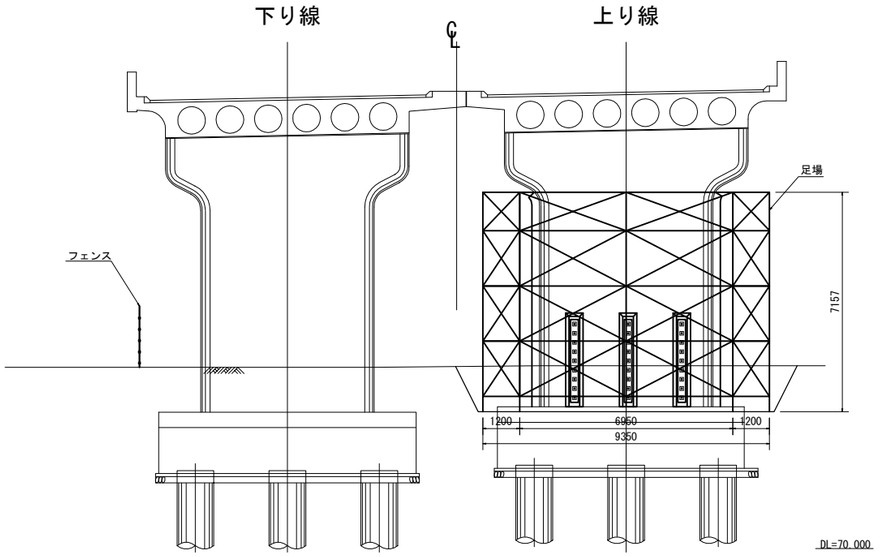
P11橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

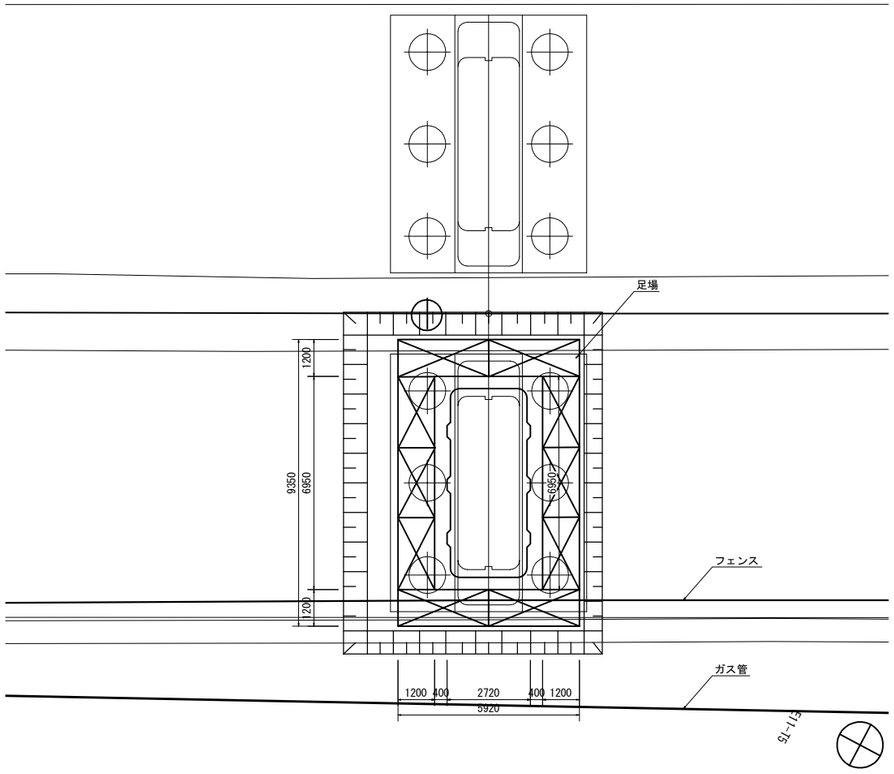
側面図



正面図



平面図

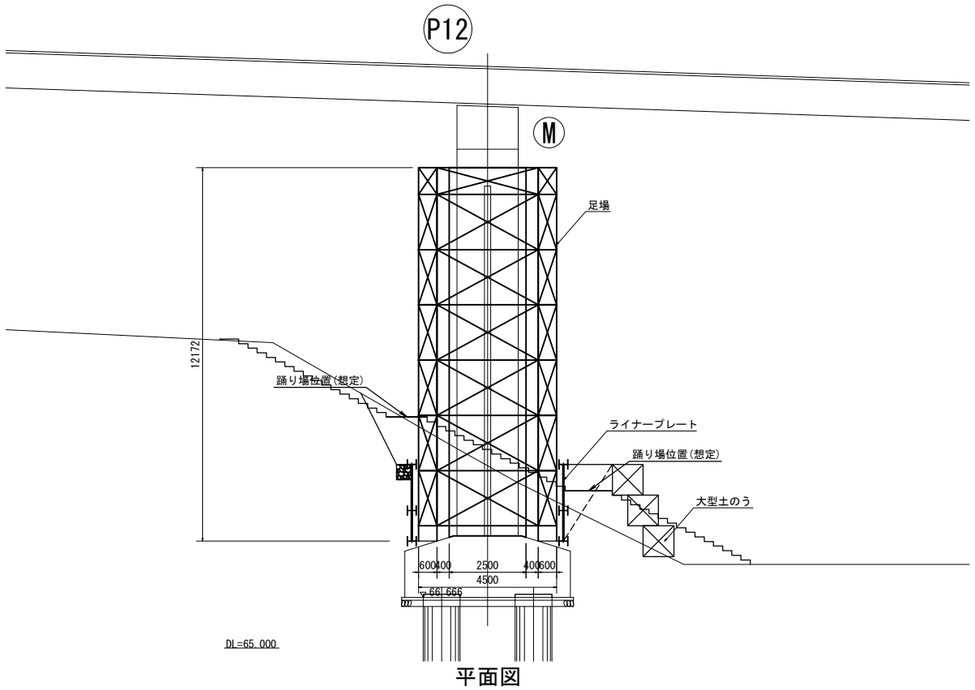


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P11橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

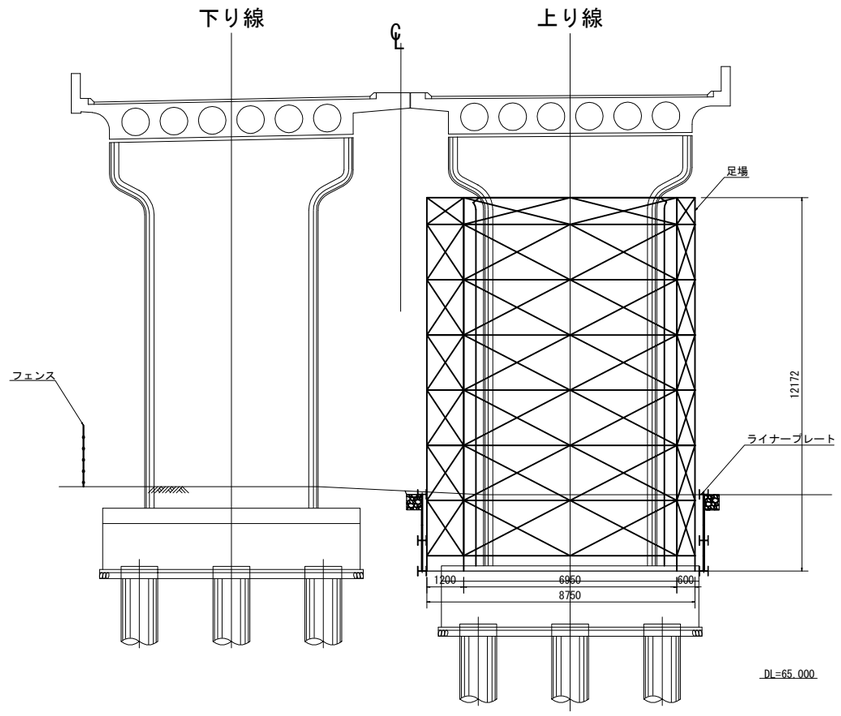
P12橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

特殊部

側面図



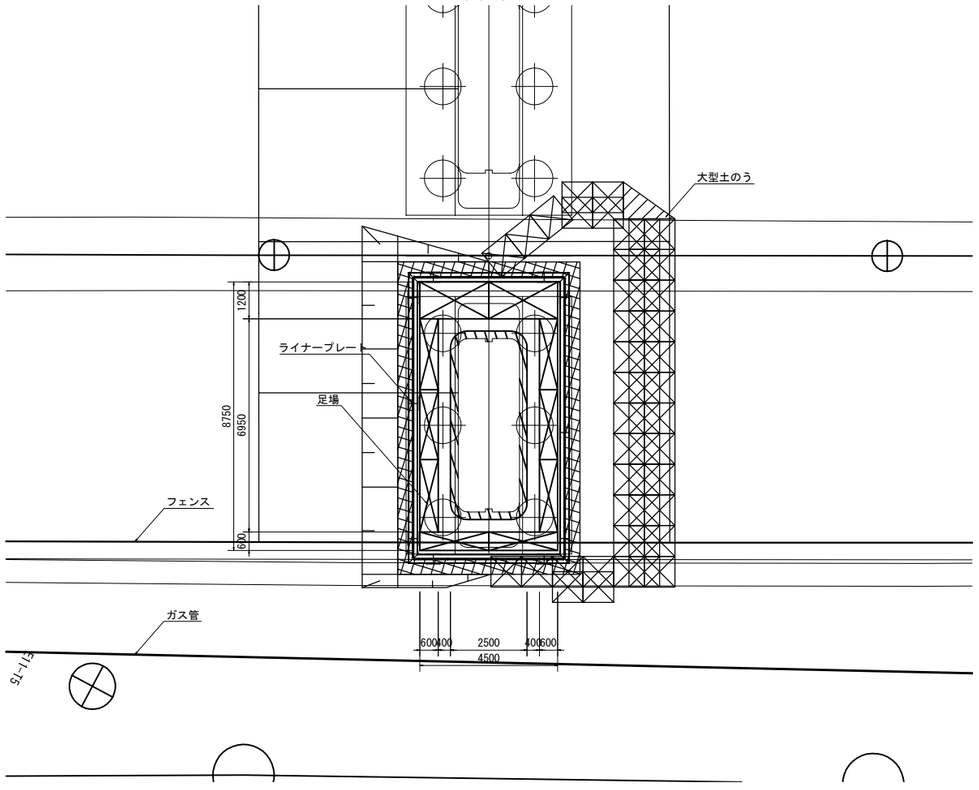
正面図



平面図

下り線

上り線

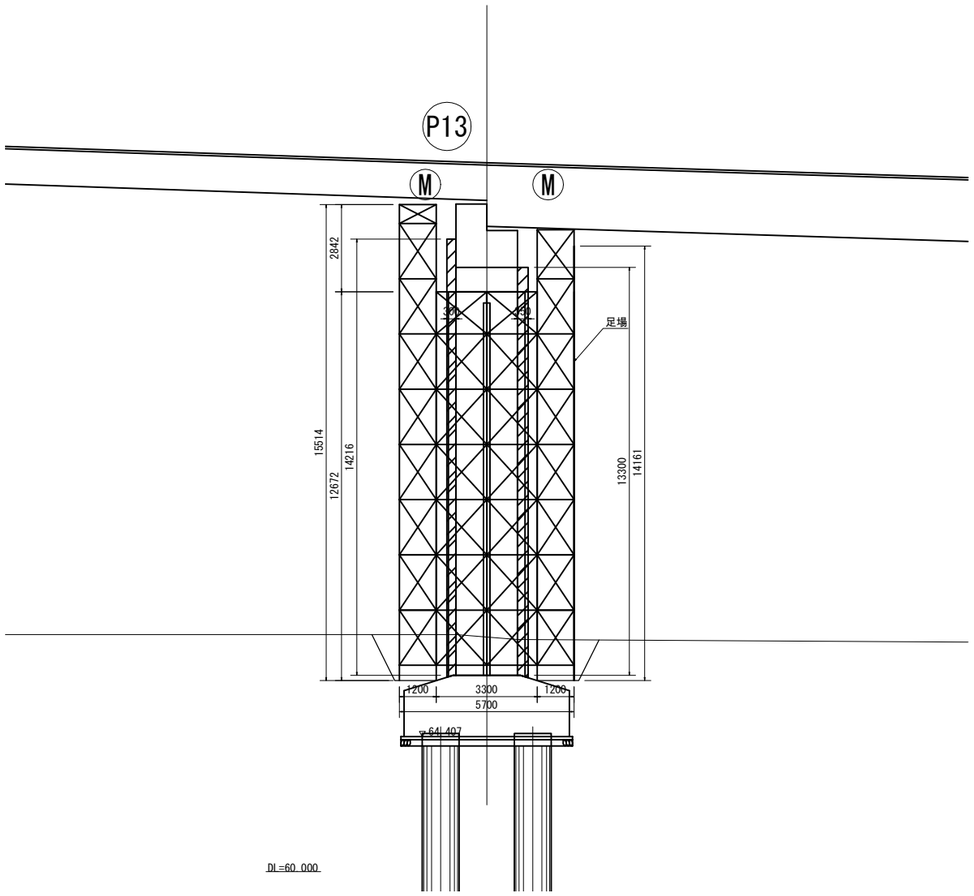


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P12橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

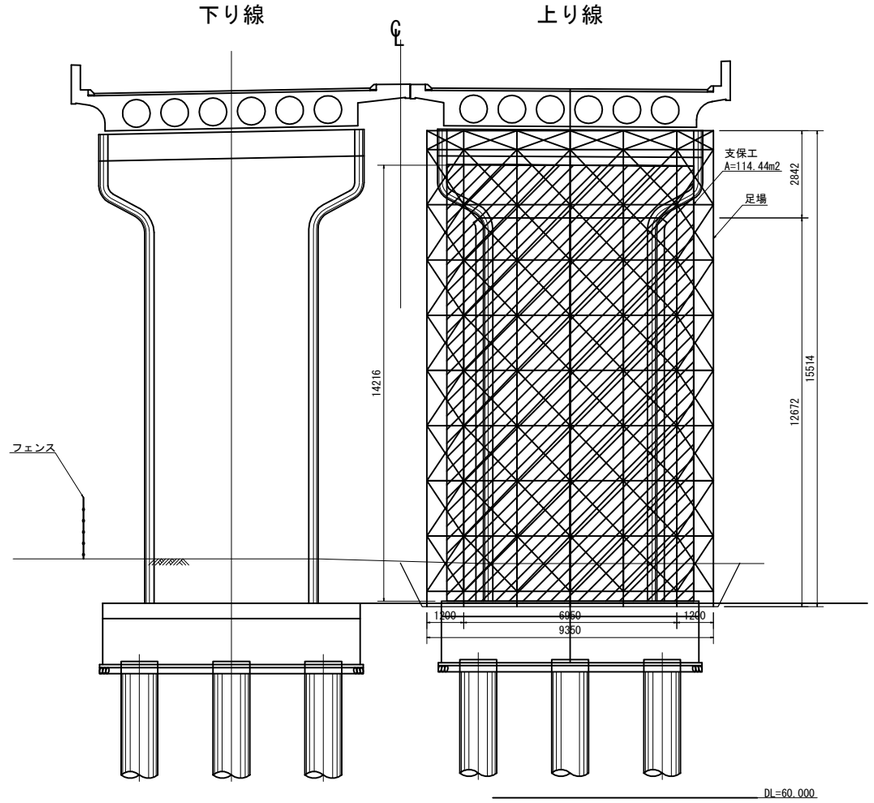
P13橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



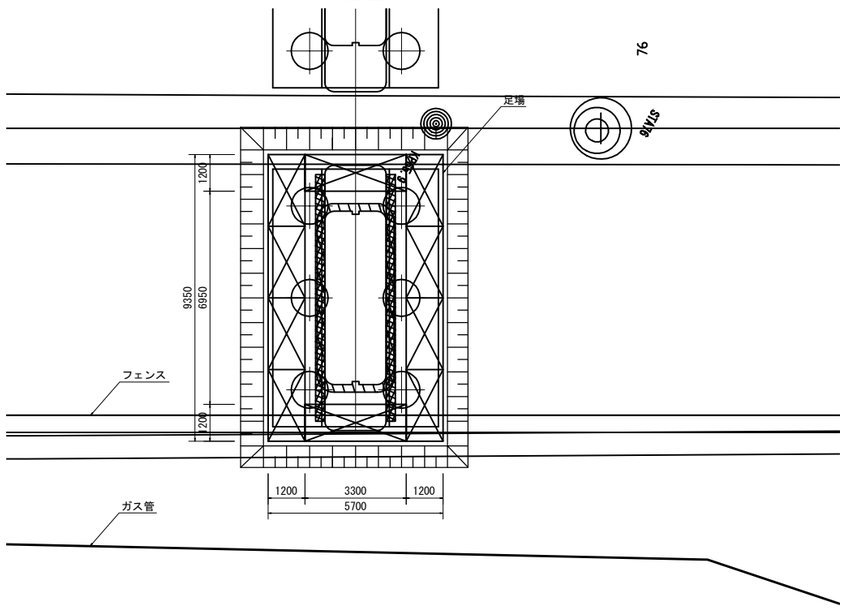
正面図（起点側）



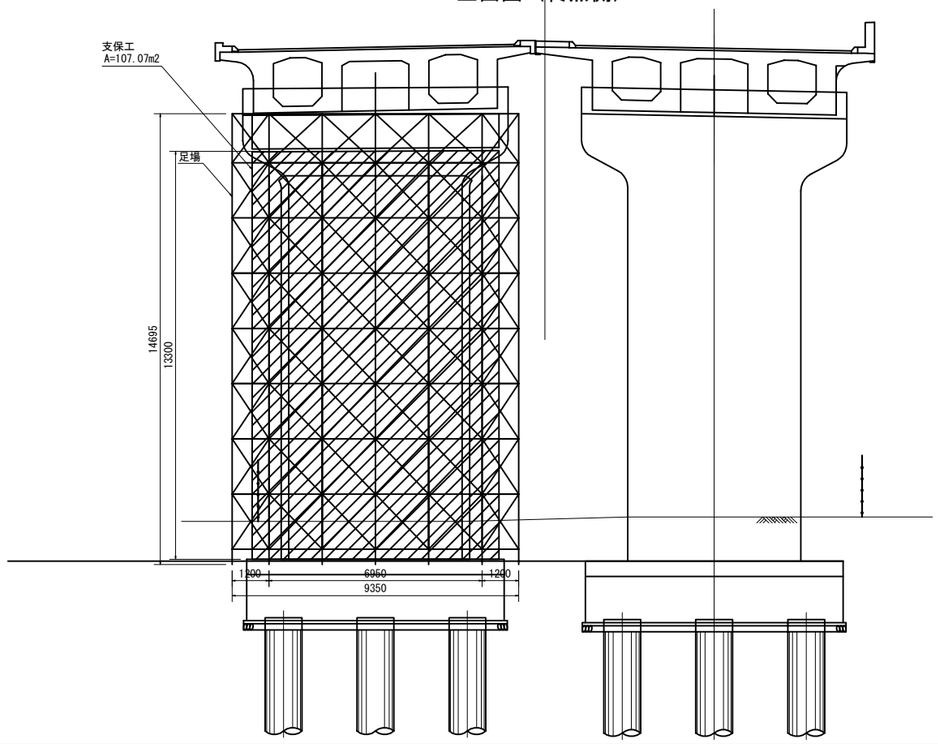
平面図

下り線

上り線



正面図（終点側）

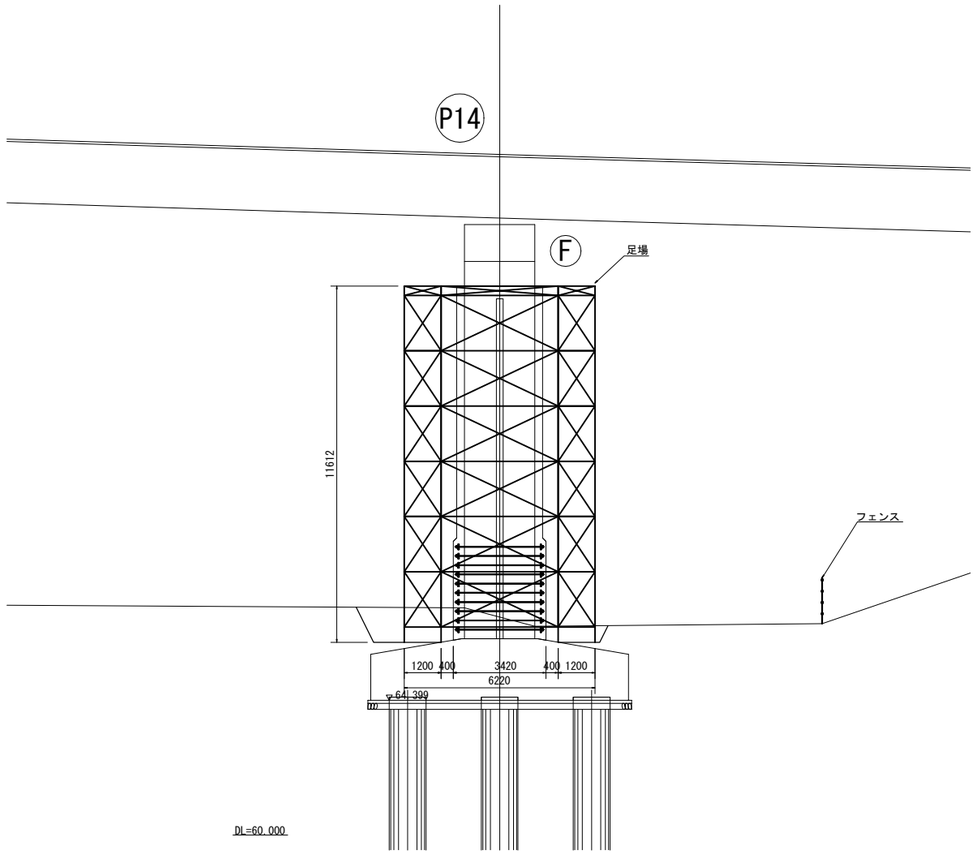


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P13橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

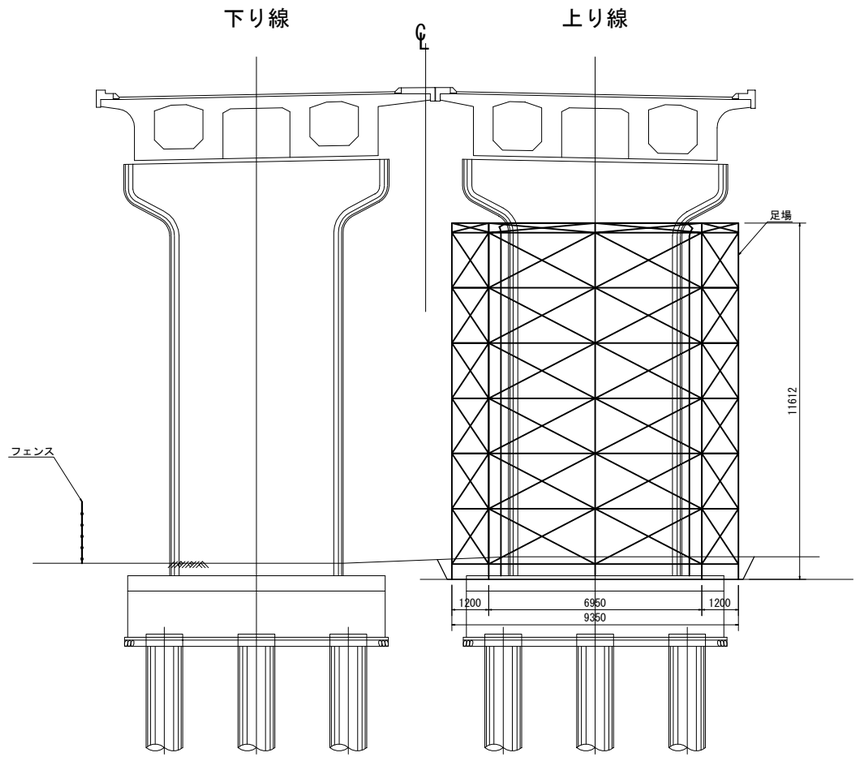
P14橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

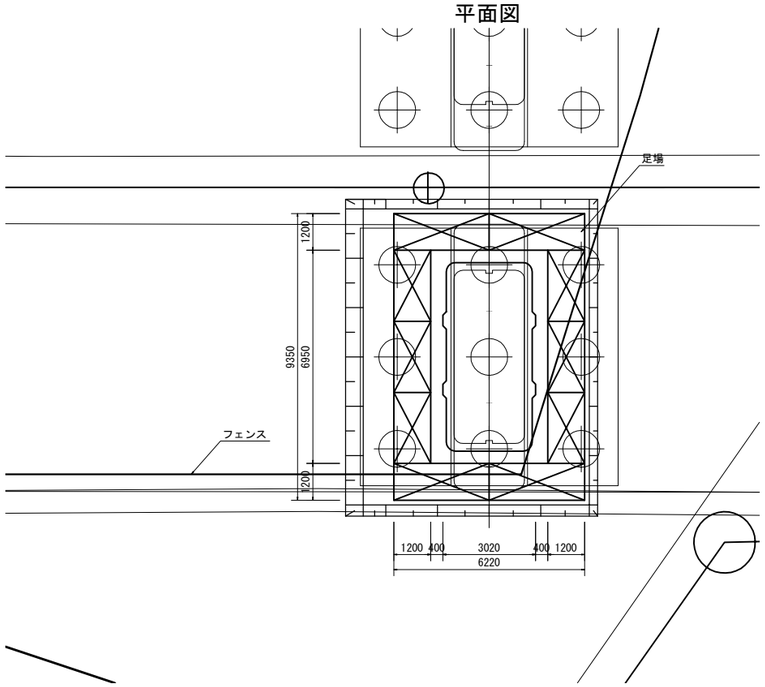
側面図



正面図



平面図

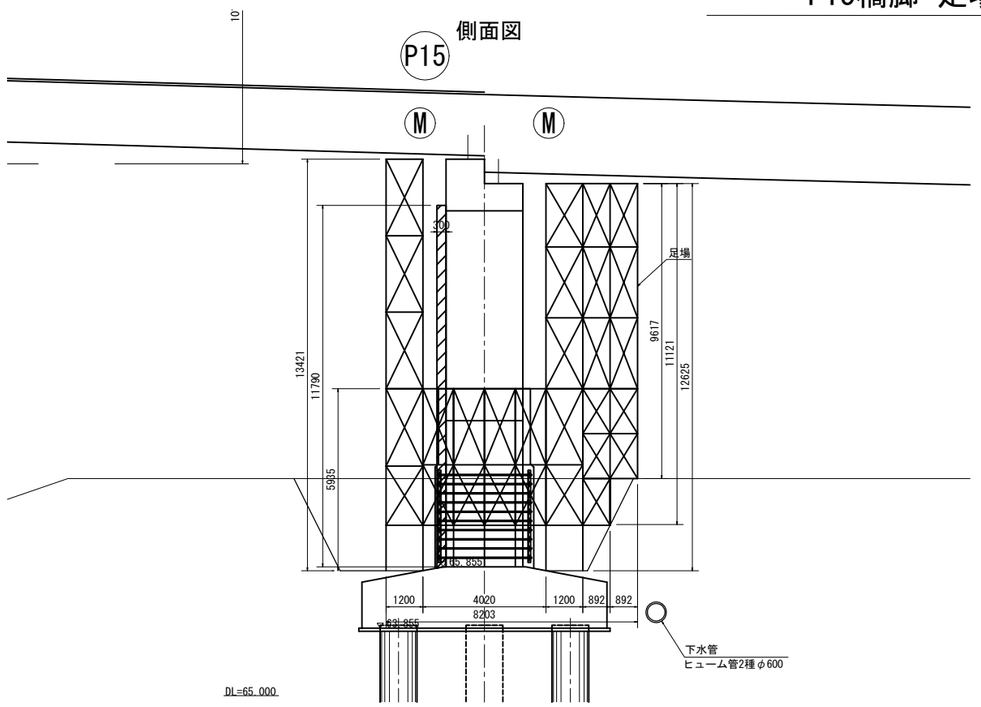


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P14橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

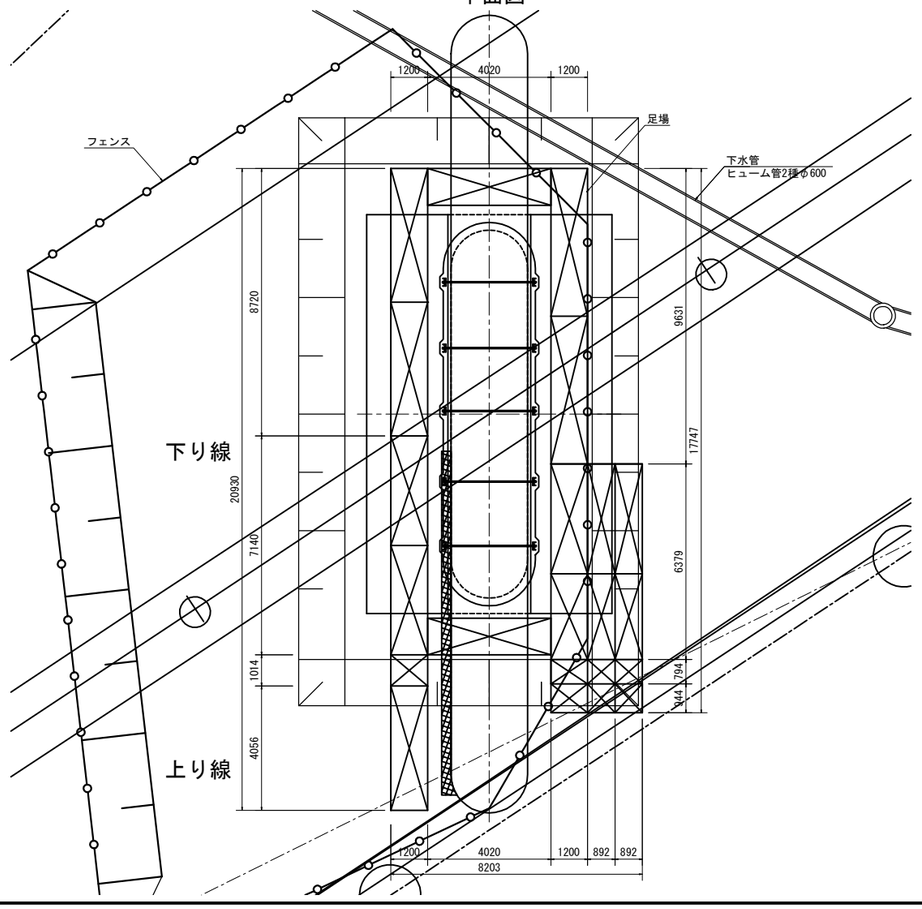
P15橋脚 足場計画図（参考図）　S=1:200

普通部

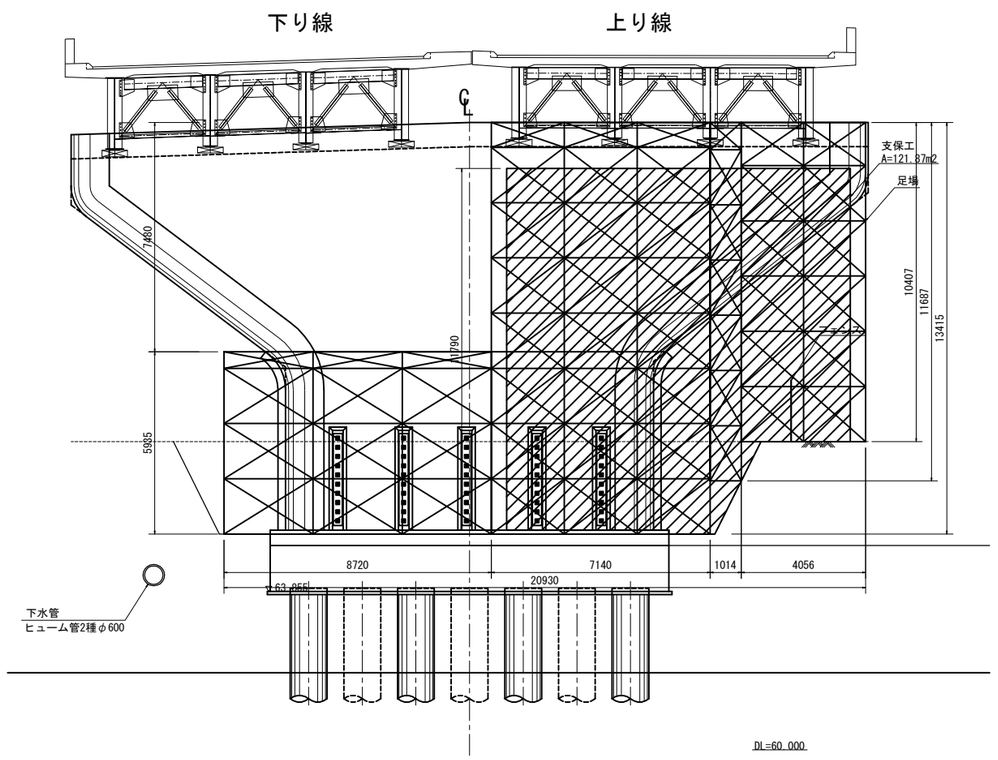
側面図



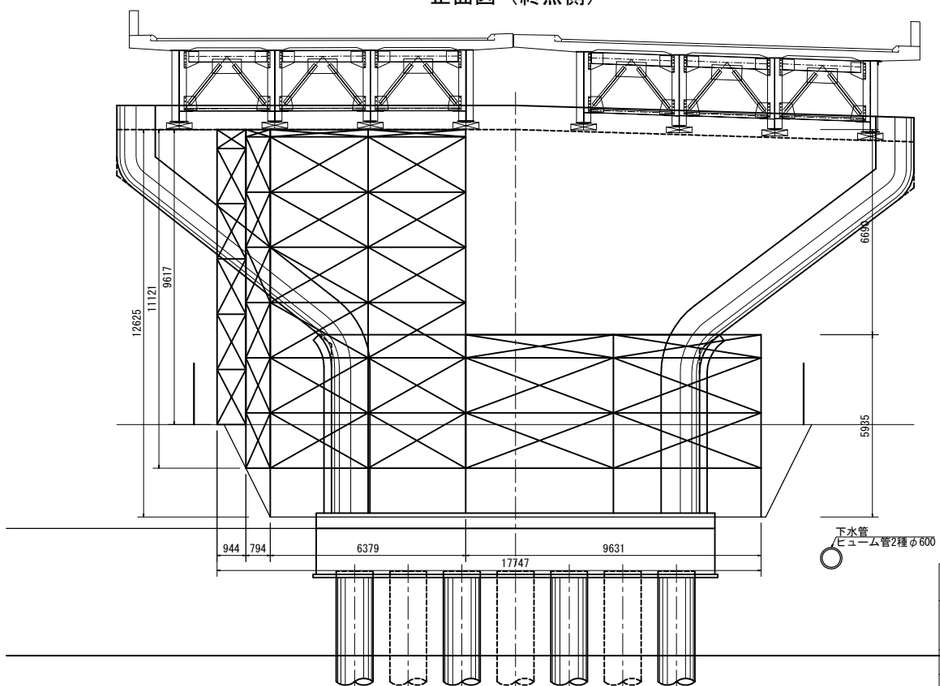
平面図



正面図（起点側）



正面図（終点側）

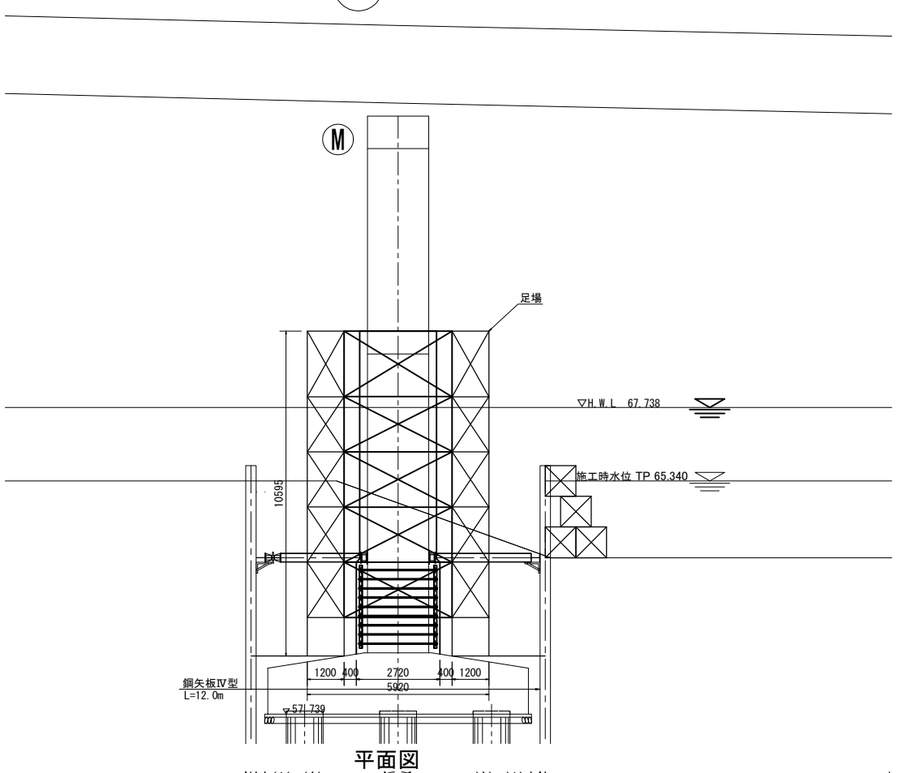


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P15橋脚 足場計画図（参考図）
縮尺	1:200　図面番号　/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

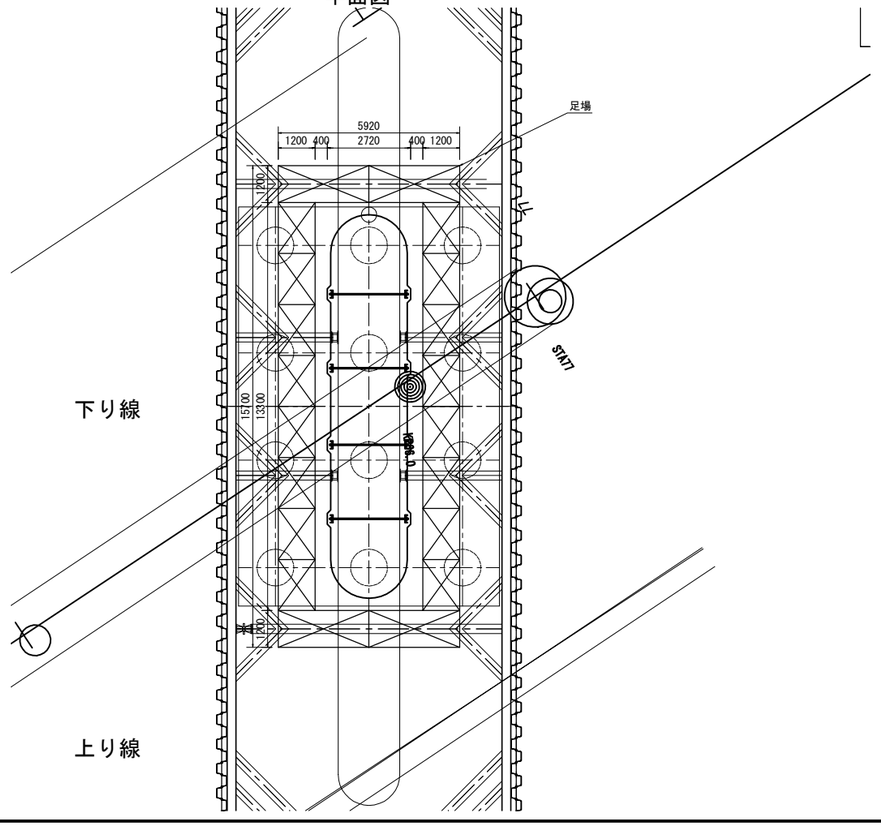
P16橋脚 足場計画図（参考図） S=1:200

特殊部

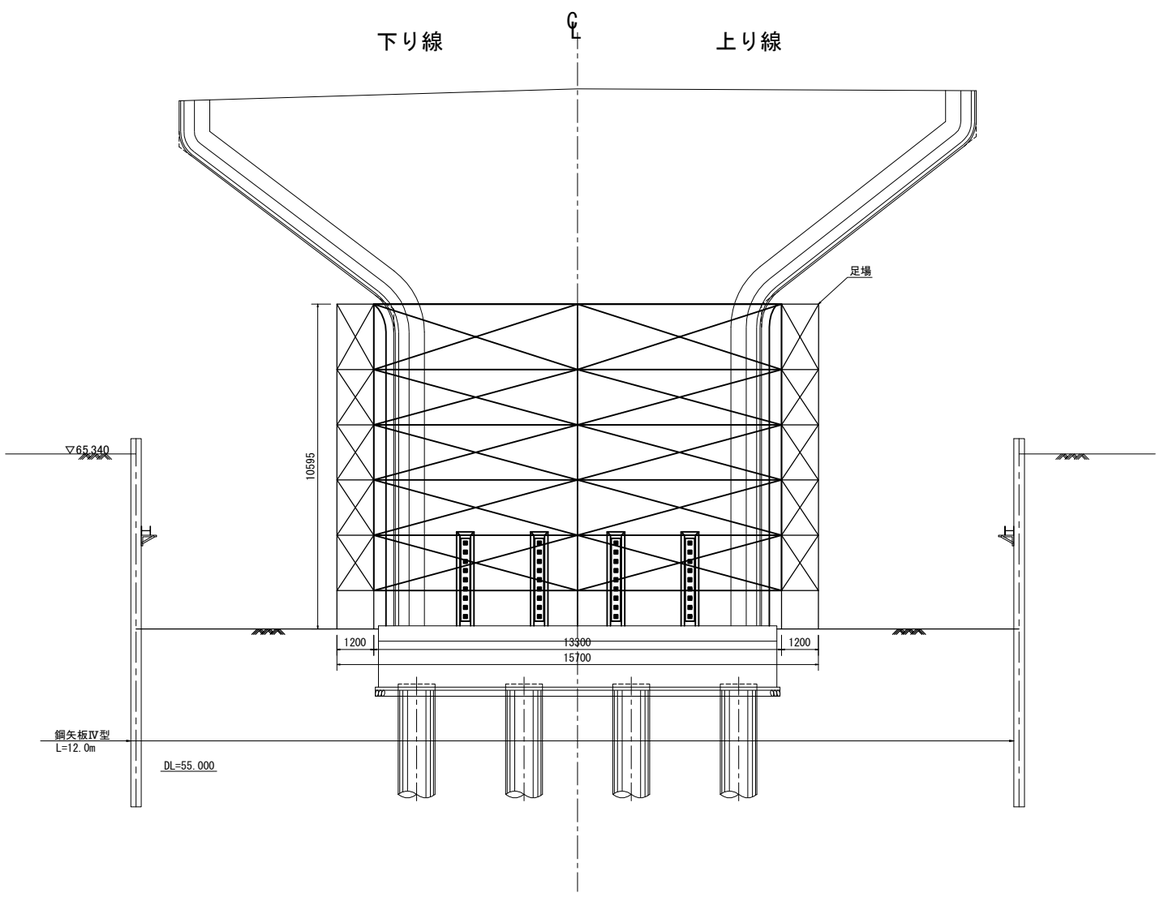
側面図



平面図



正面図

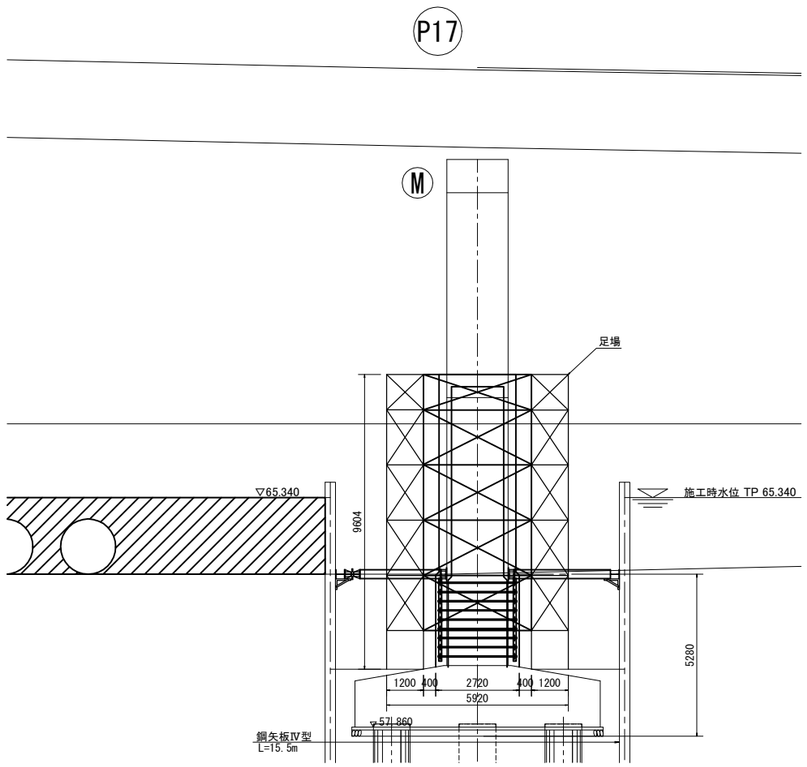


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P16橋脚 足場計画図（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

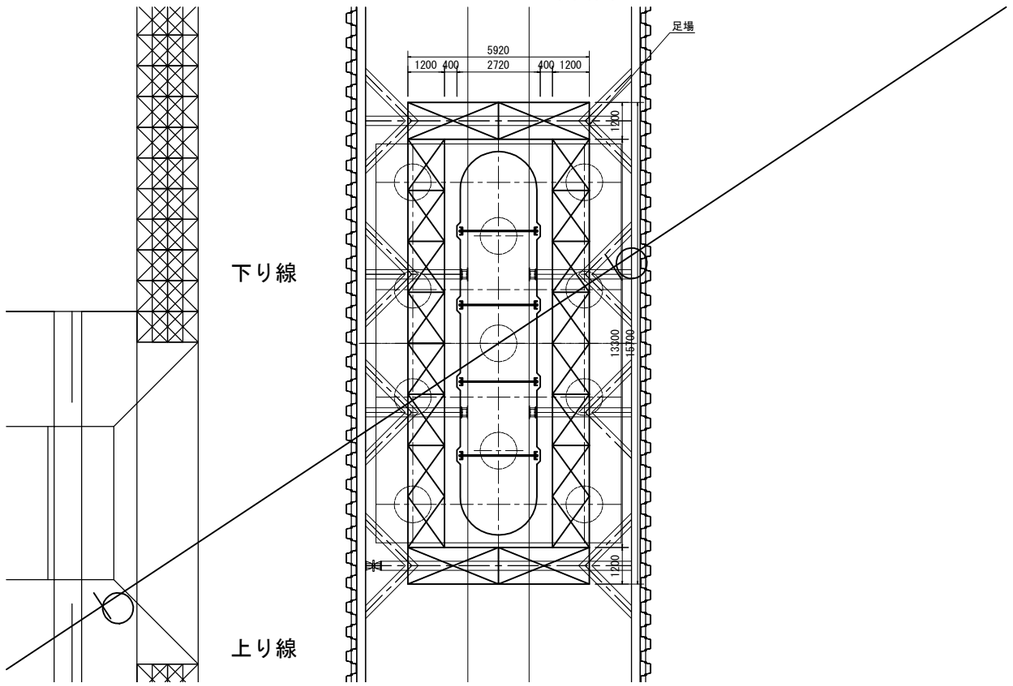
P17橋脚 足場計画図（参考図）　S=1:200

特殊部

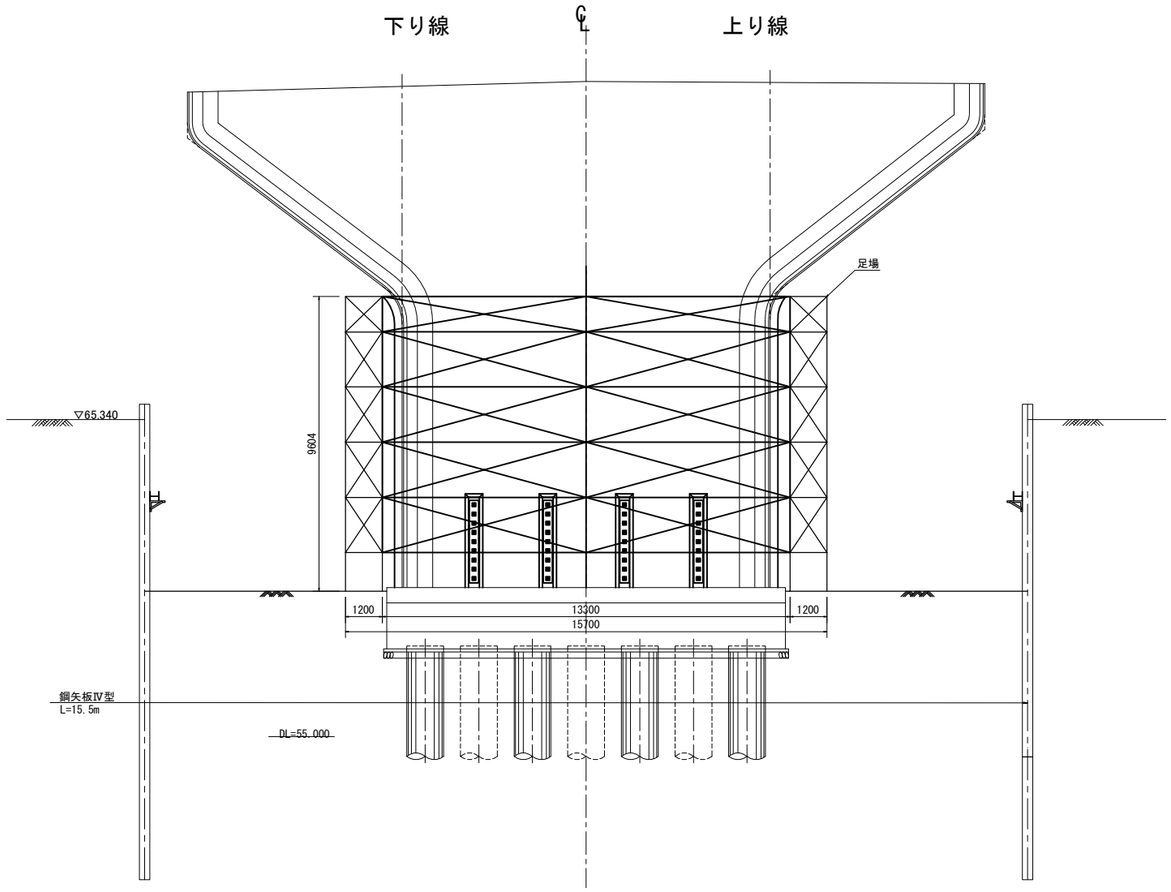
側面図



平面図



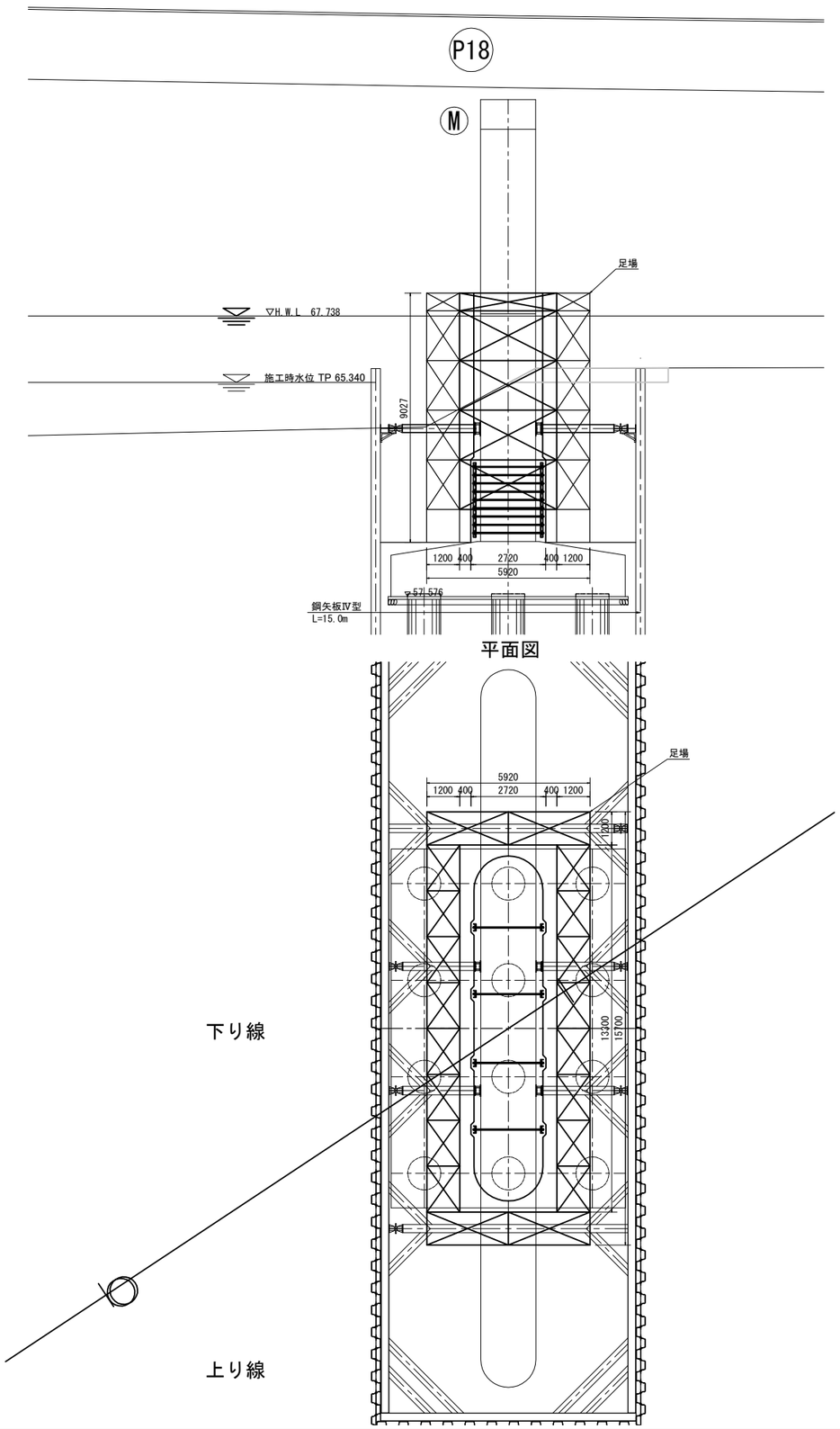
正面図



首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P17橋脚 足場計画図（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

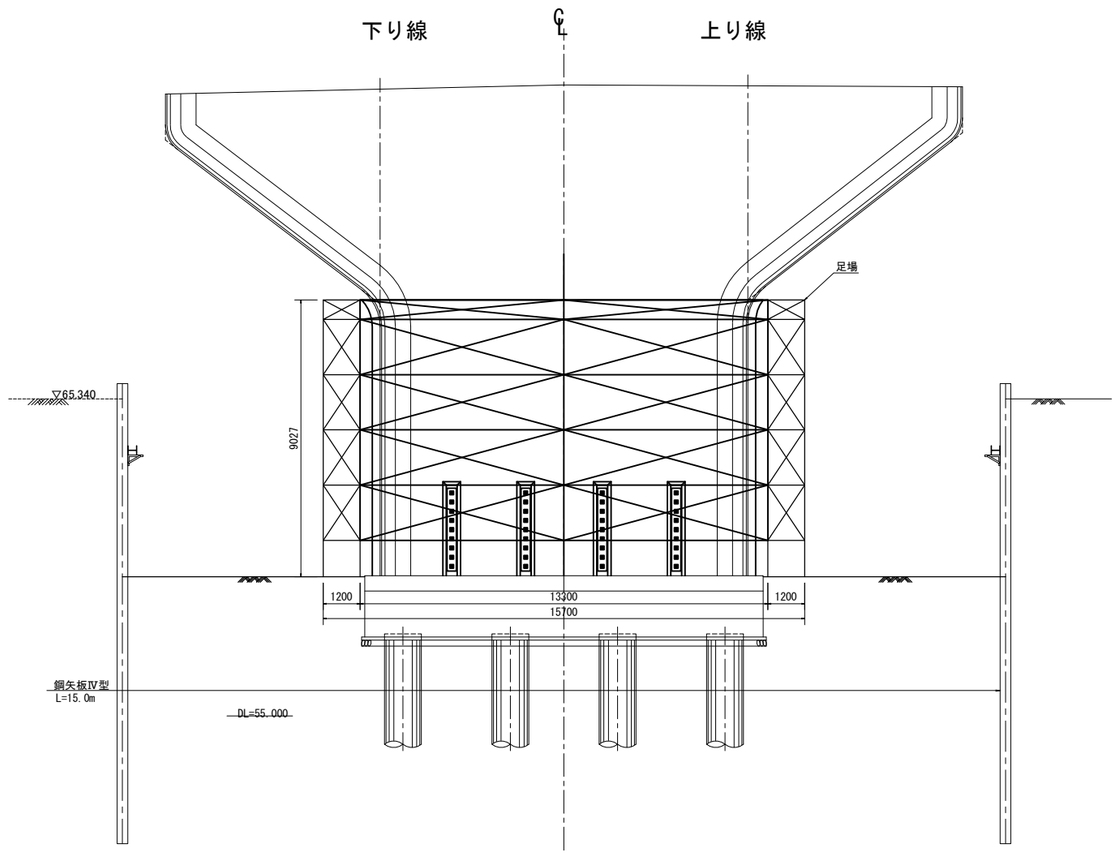
P18橋脚 足場計画図（参考図） S=1:200

側面図



特殊部

正面図



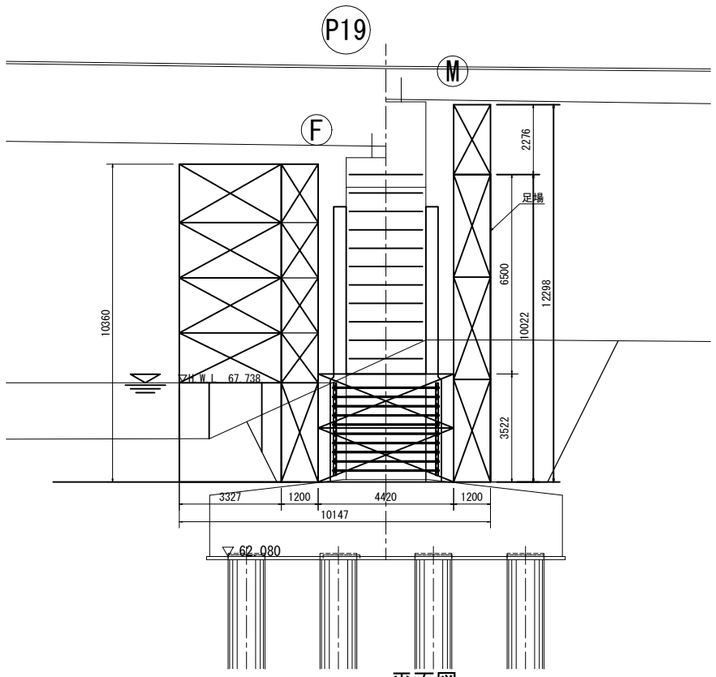
平面図

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P18橋脚 足場計画図（参考図）		
縮尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

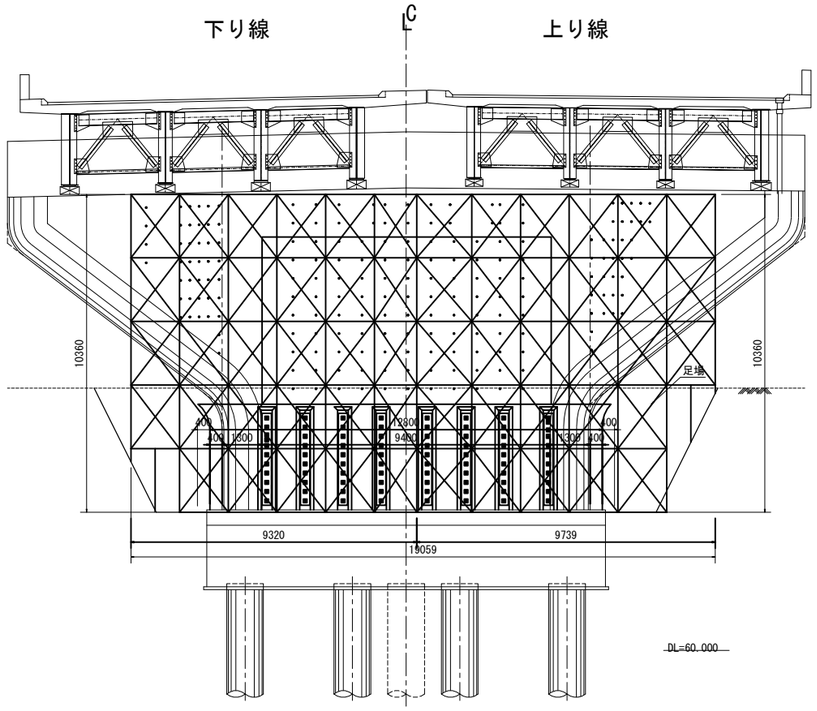
P19橋脚 足場計画図（参考図） S=1:200

普通部

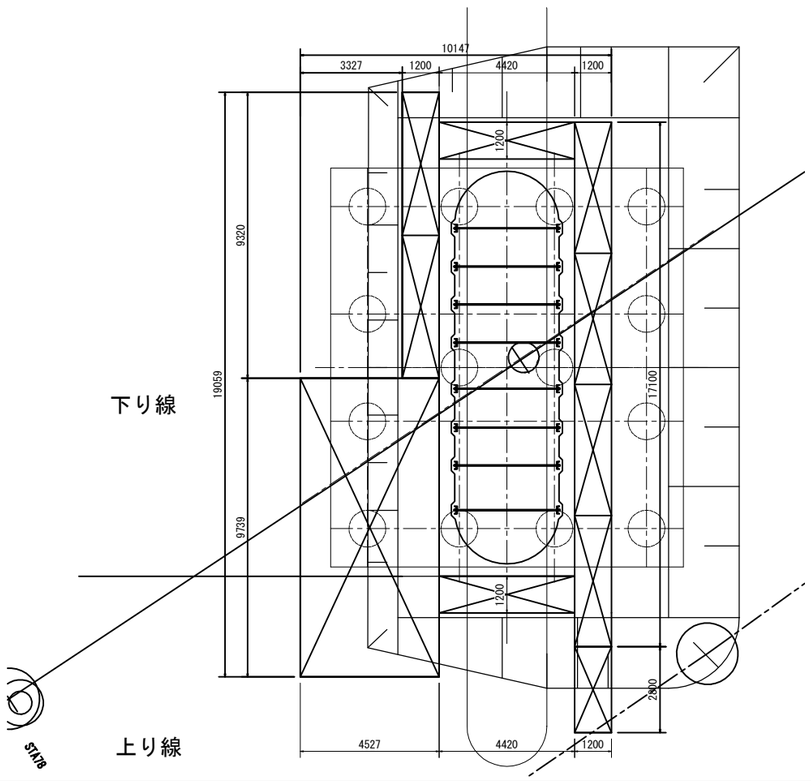
側面図



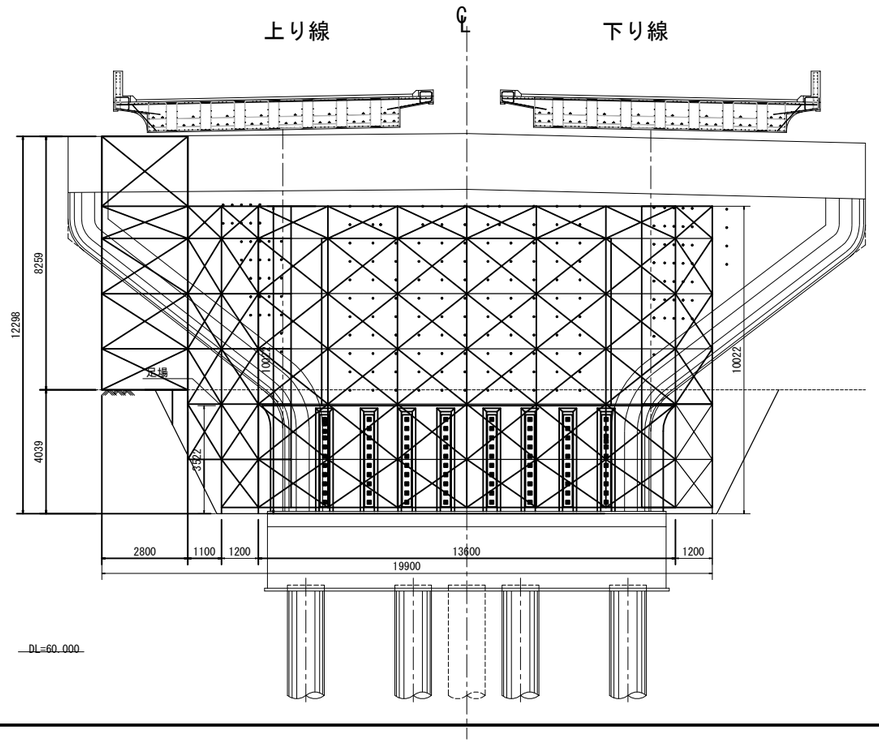
正面図
起点側



平面図



終点側

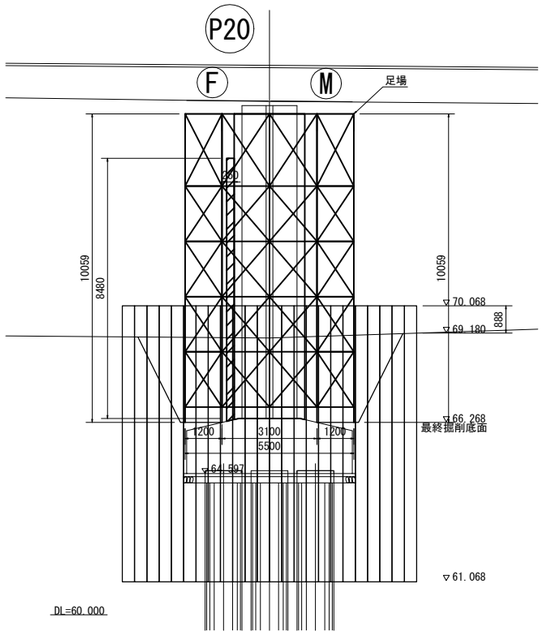


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P19橋脚 足場計画図(参考図)		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

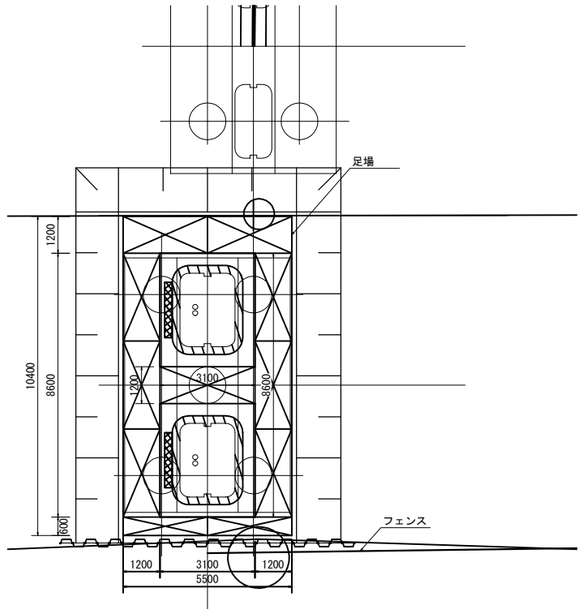
P20橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

特殊部

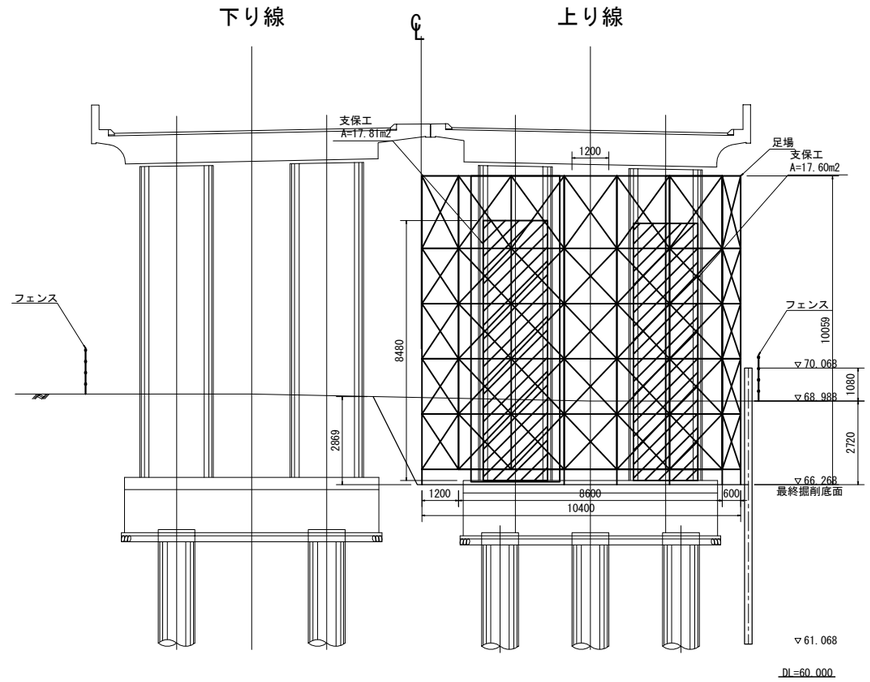
側面図



平面図



正面図



下り線

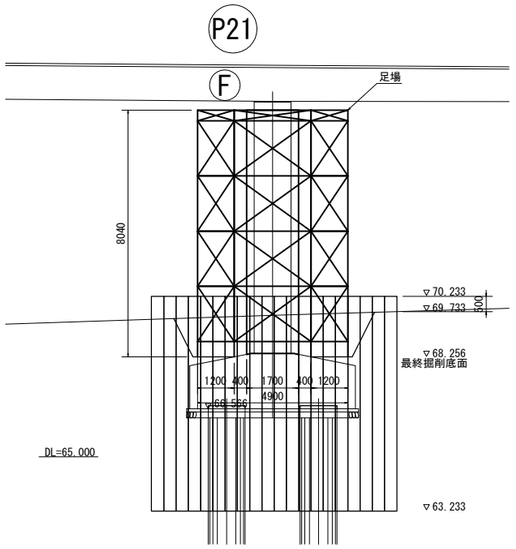
上り線

首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P20橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

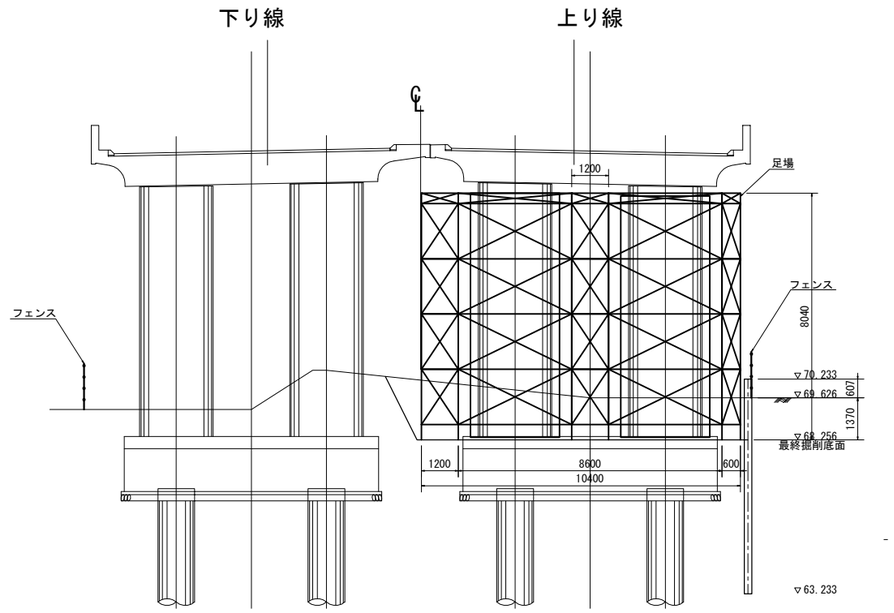
P21橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

特殊部

側面図



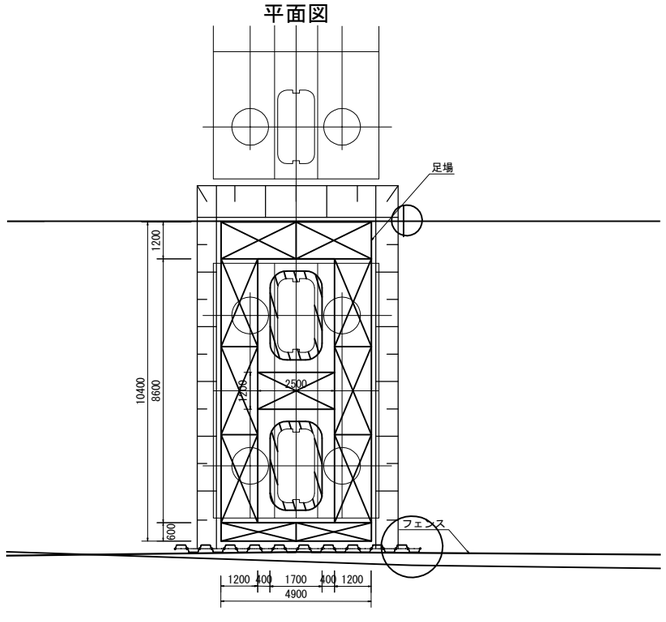
正面図



平面図

下り線

上り線

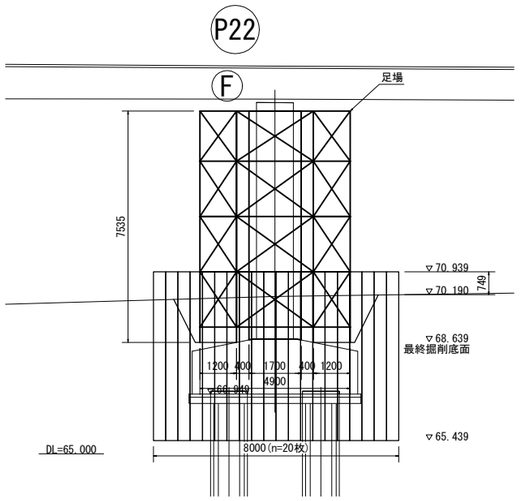


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P21橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

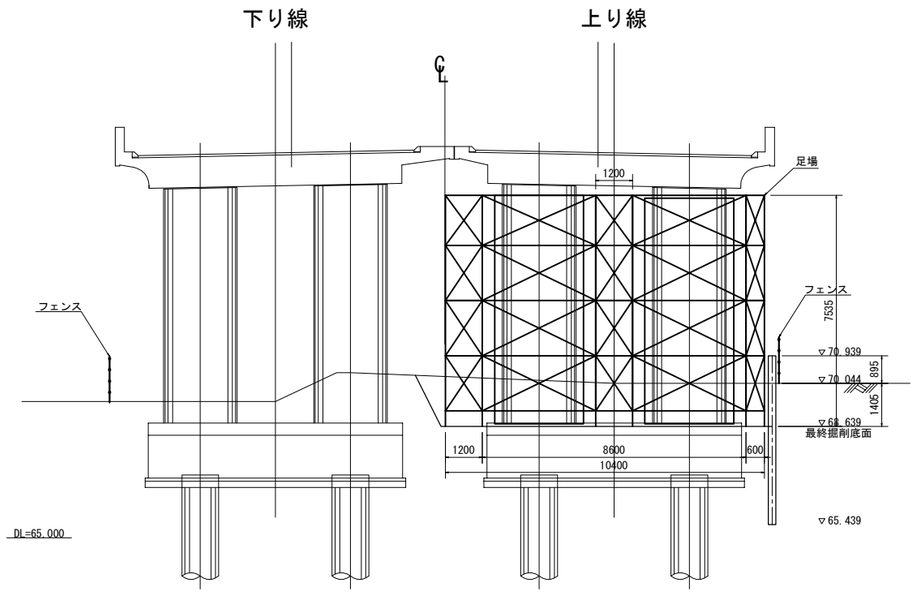
P22橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

特殊部

側面図



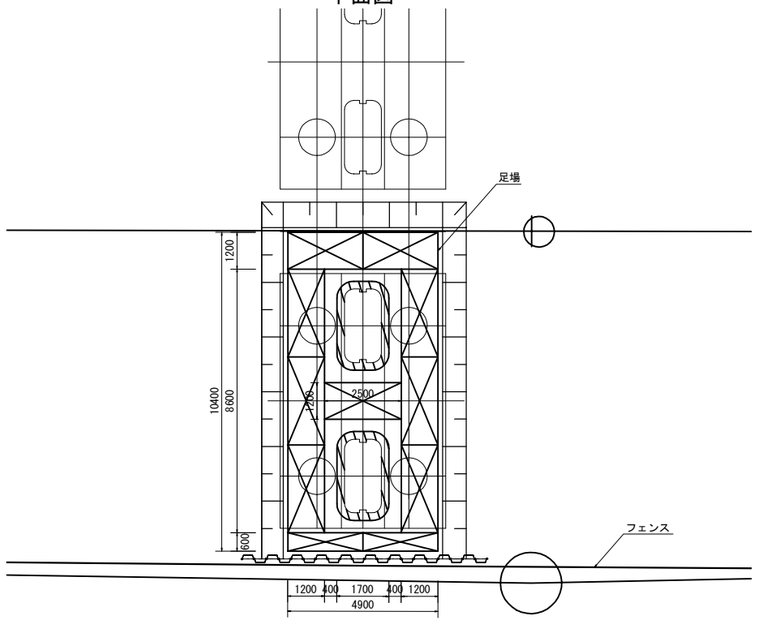
正面図



平面図

下り線

上り線

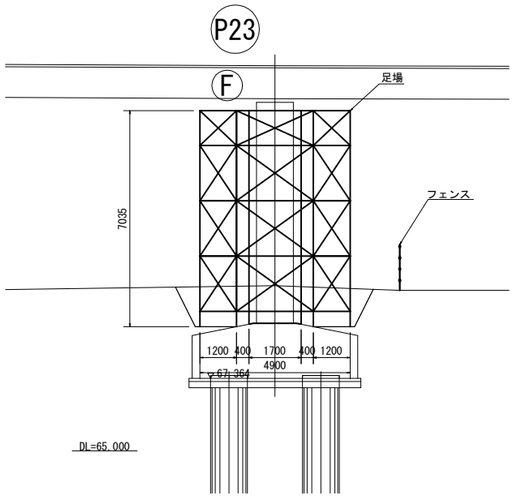


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P22橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

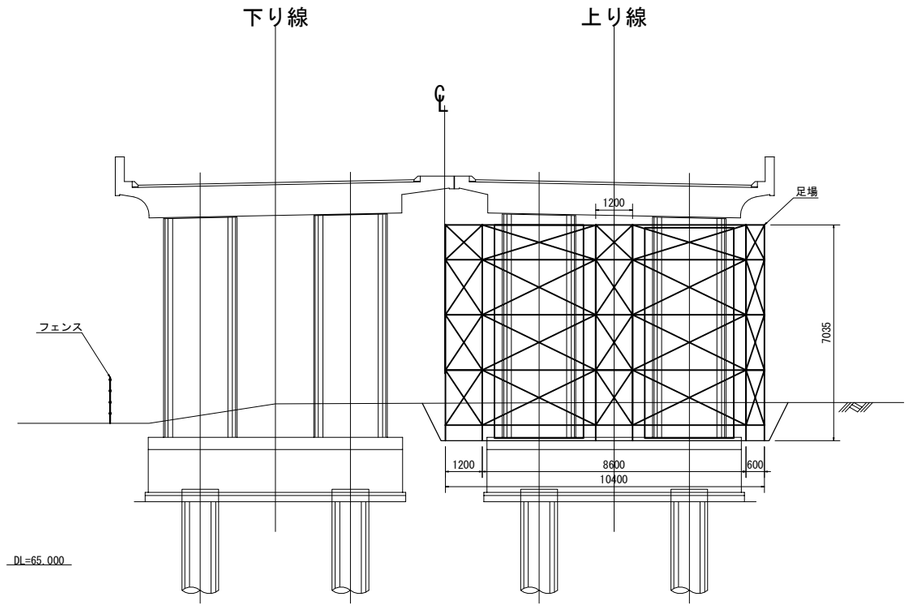
P23橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



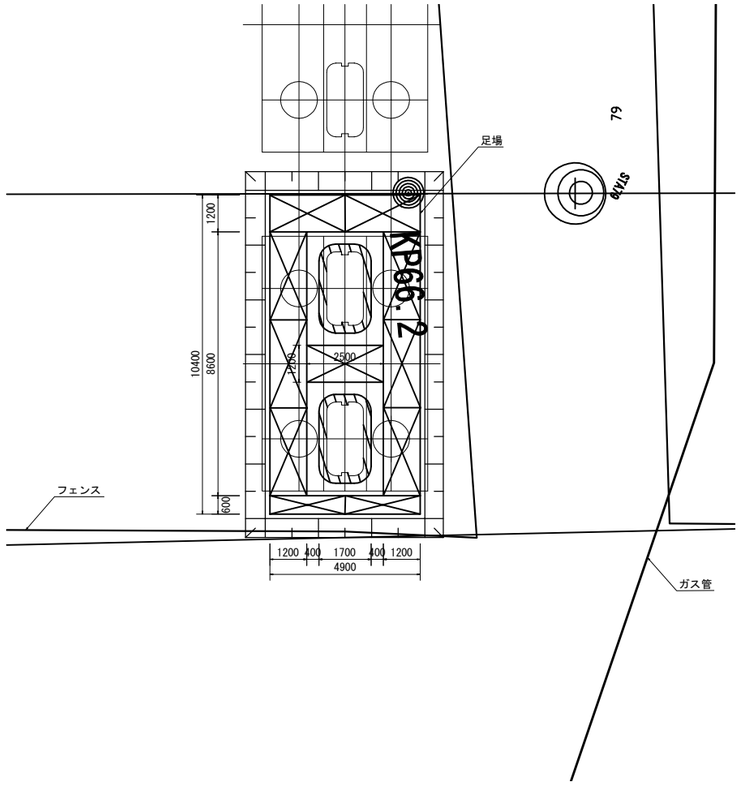
正面図



平面図

下り線

上り線

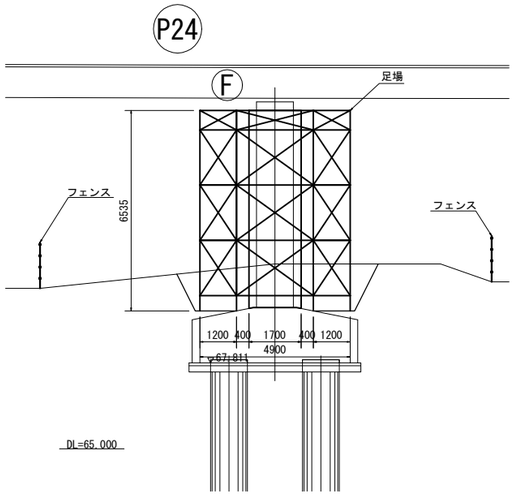


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P23橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

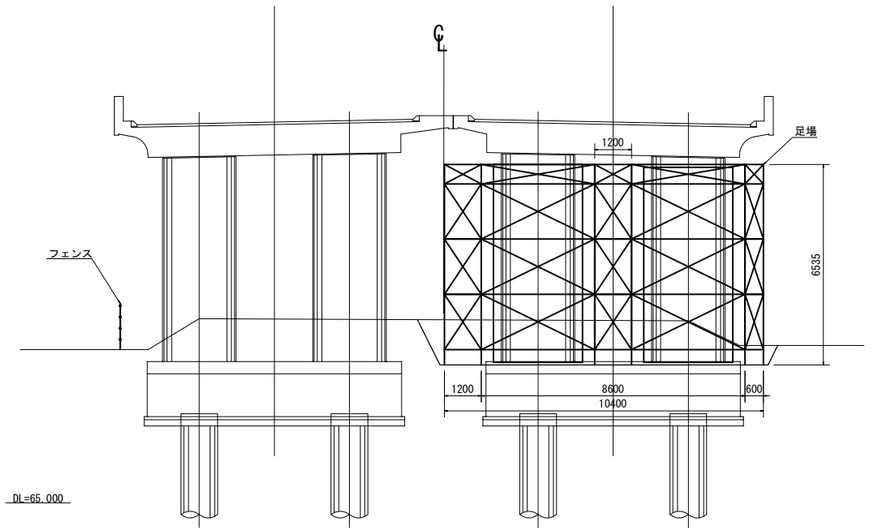
P24橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

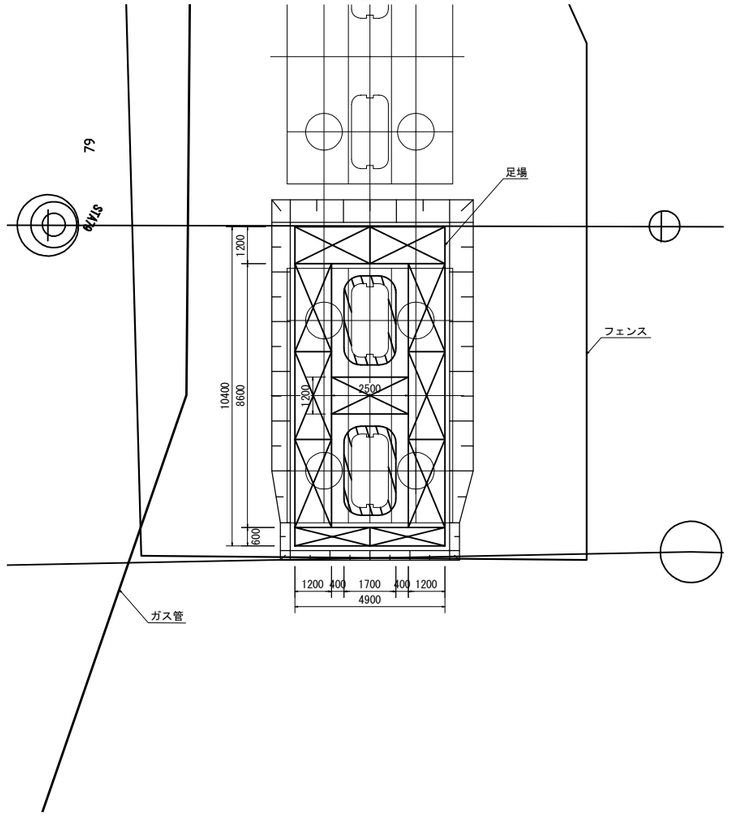
側面図



正面図



平面図

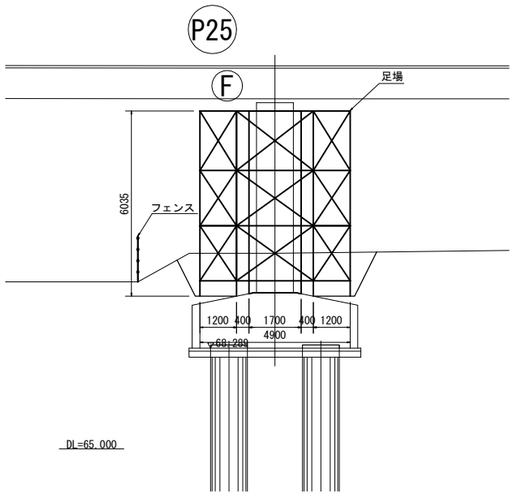


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P24橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

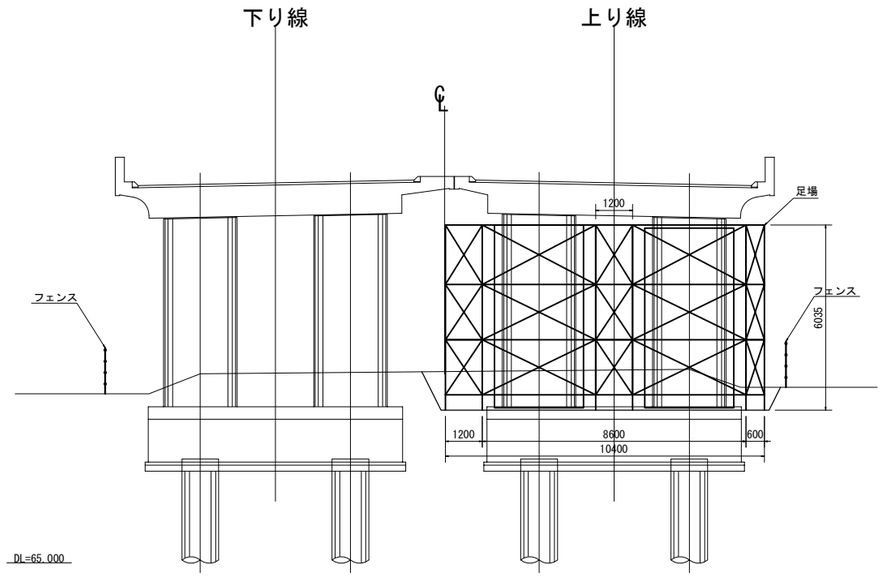
P25橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



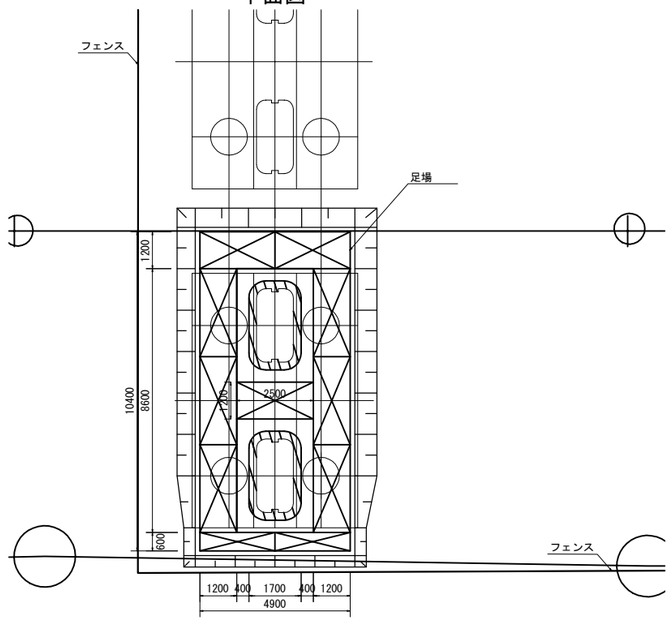
正面図



平面図

下り線

上り線

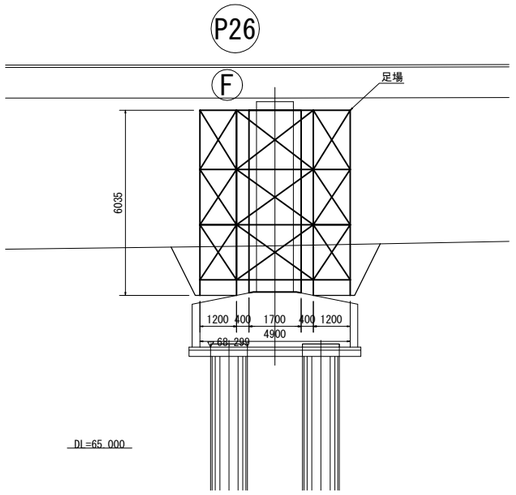


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P25橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

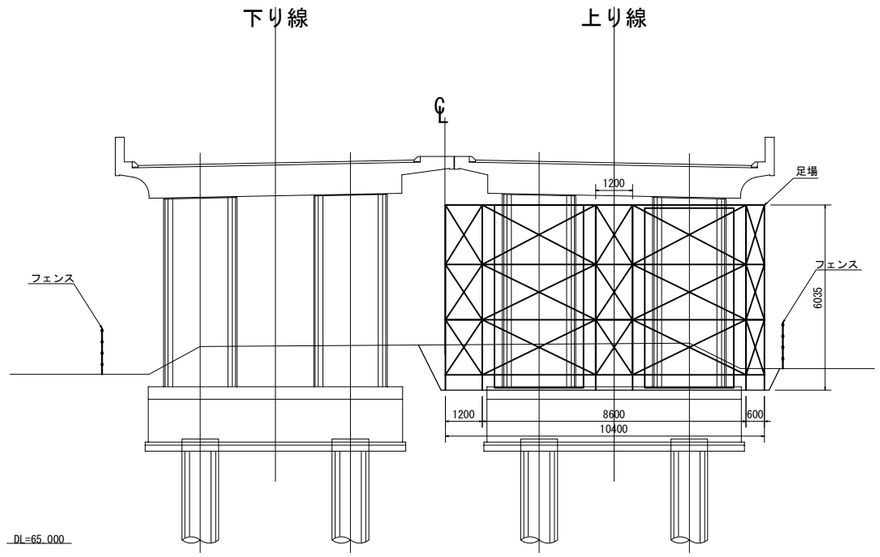
P26橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



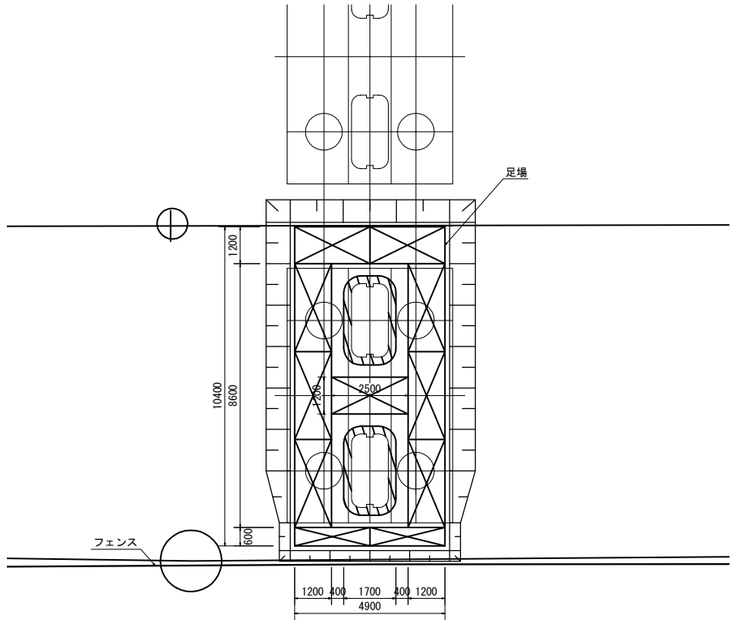
正面図



平面図

下り線

上り線

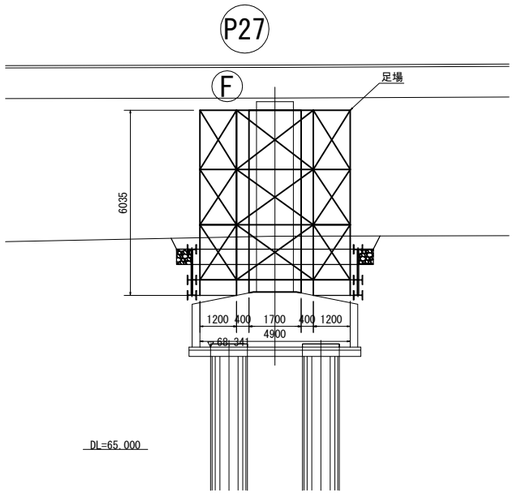


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P26橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

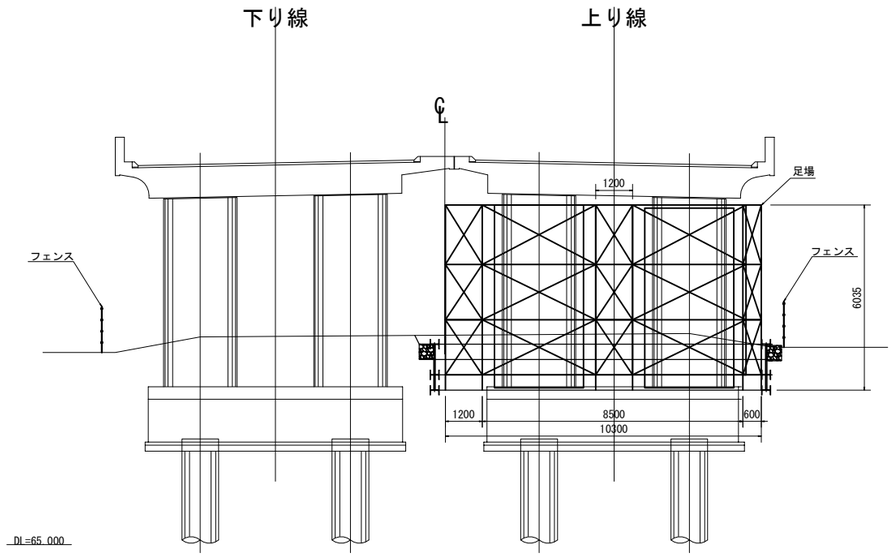
P27橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

特殊部

側面図



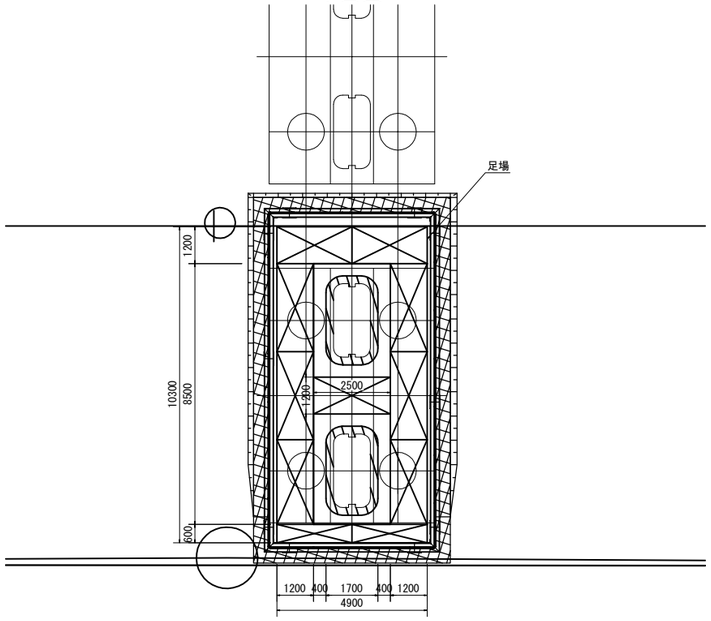
正面図



平面図

下り線

上り線

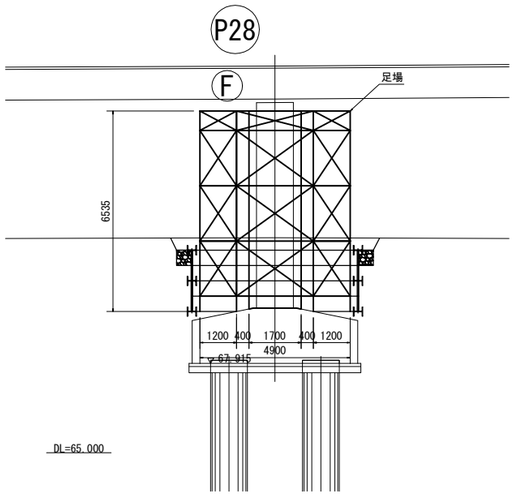


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P27橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

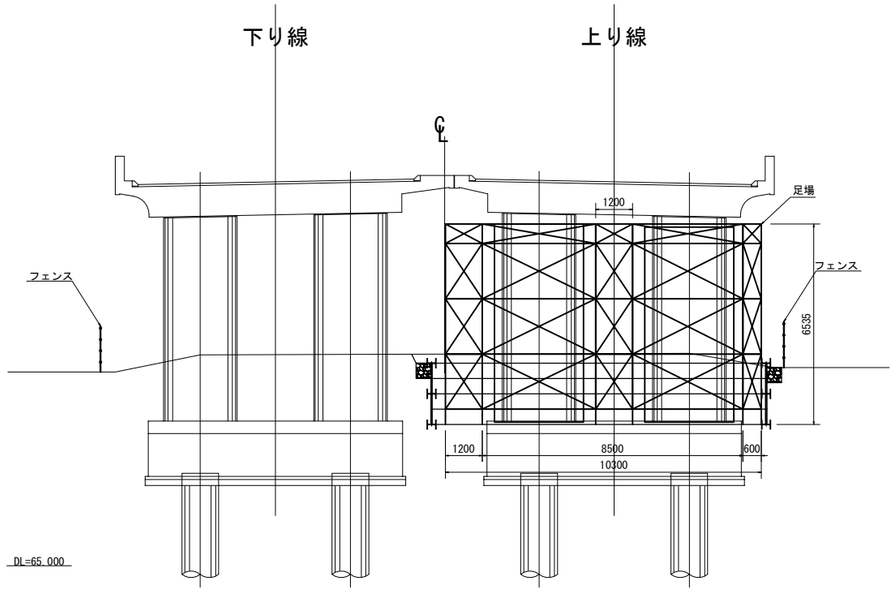
P28橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

特殊部

側面図



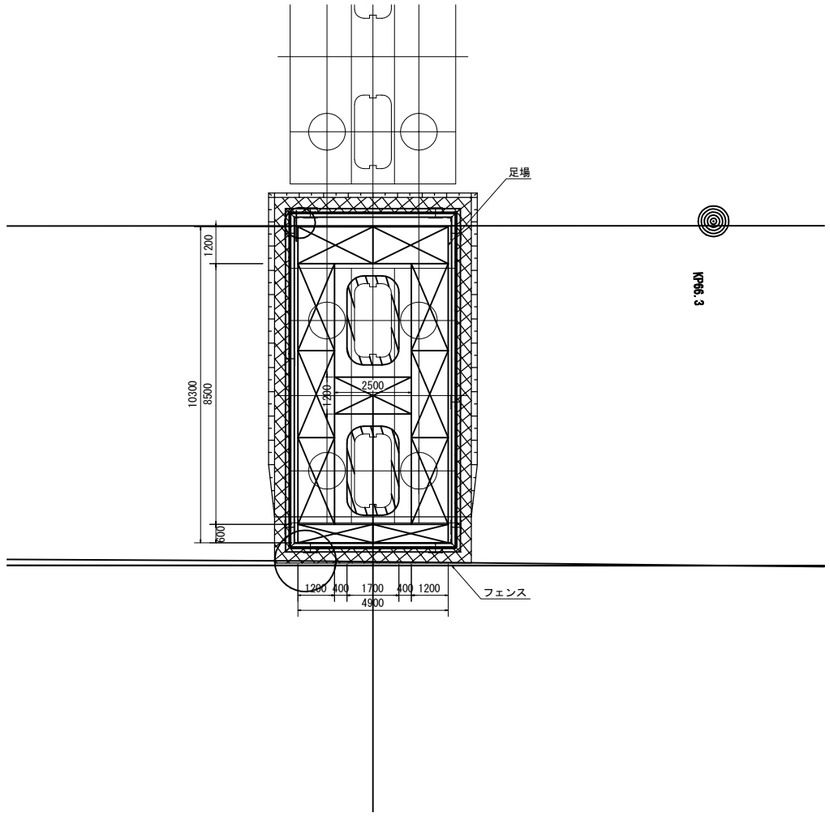
正面図



平面図

下り線

上り線

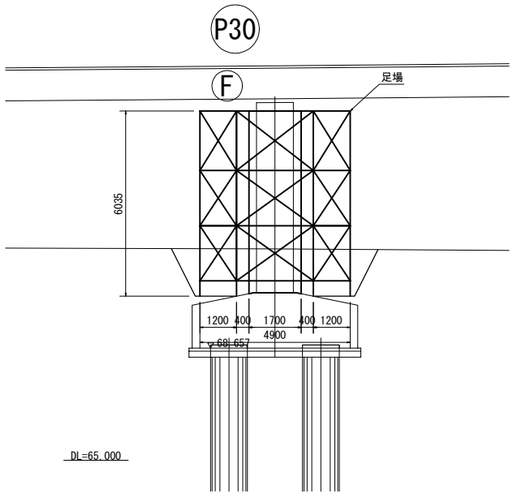


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P28橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

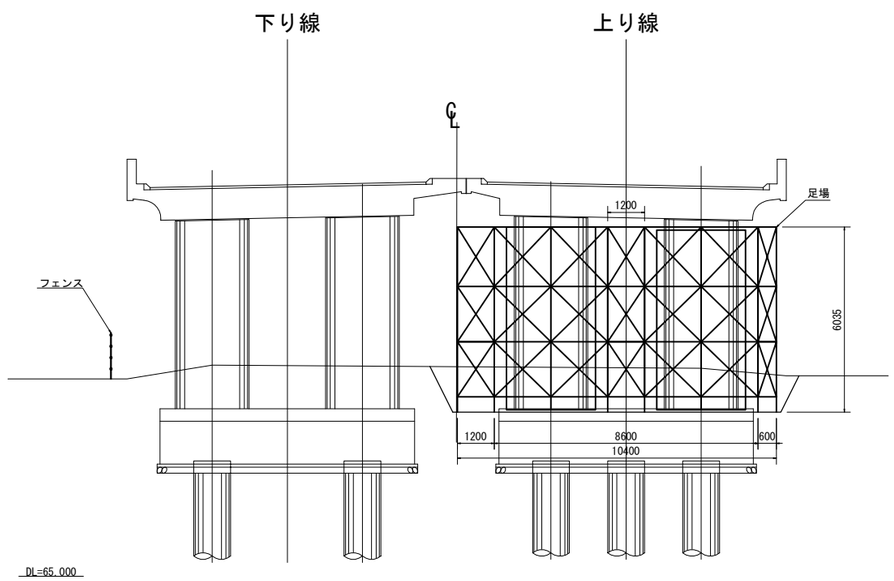
P30橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



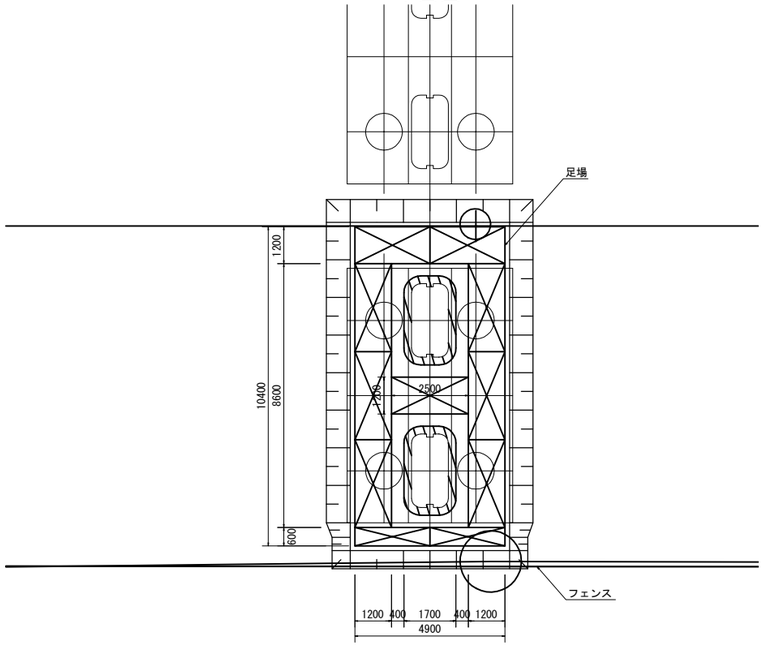
正面図



平面図

下り線

上り線

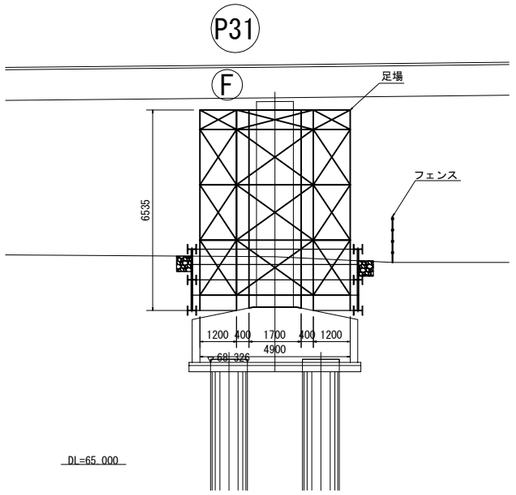


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P30橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

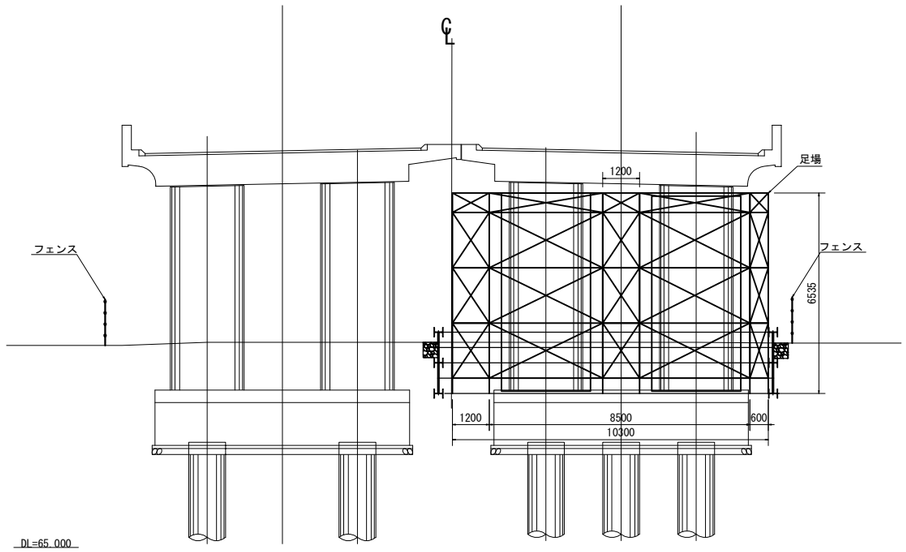
P31橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

特殊部

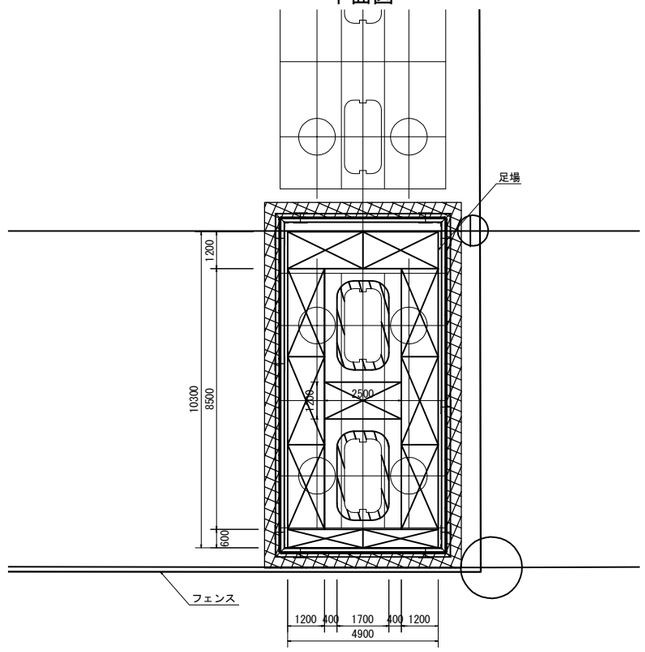
側面図



正面図



平面図

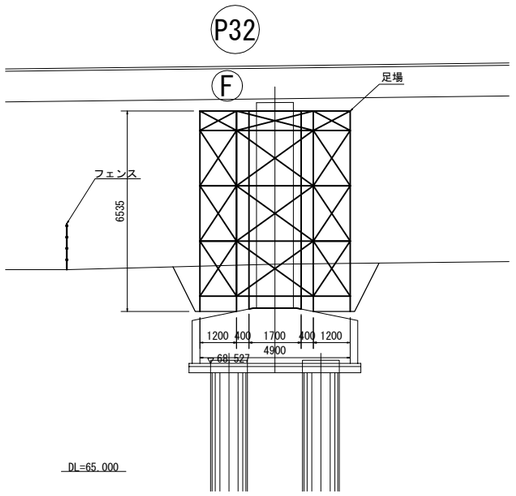


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P31橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

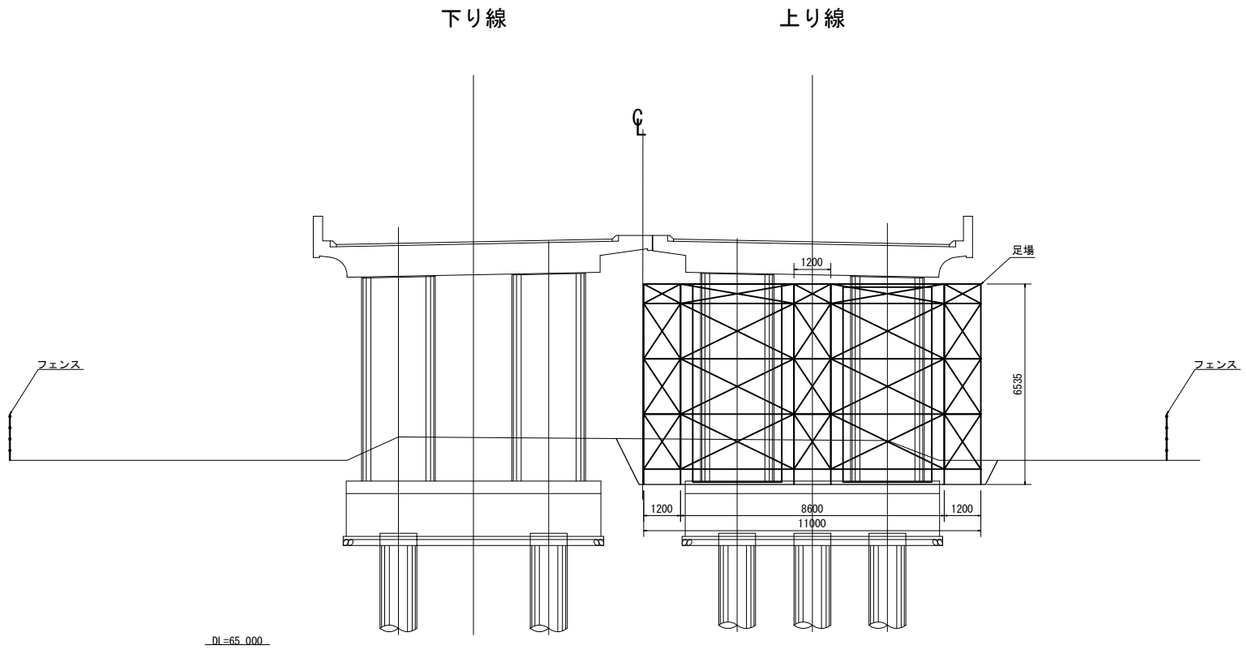
P32橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

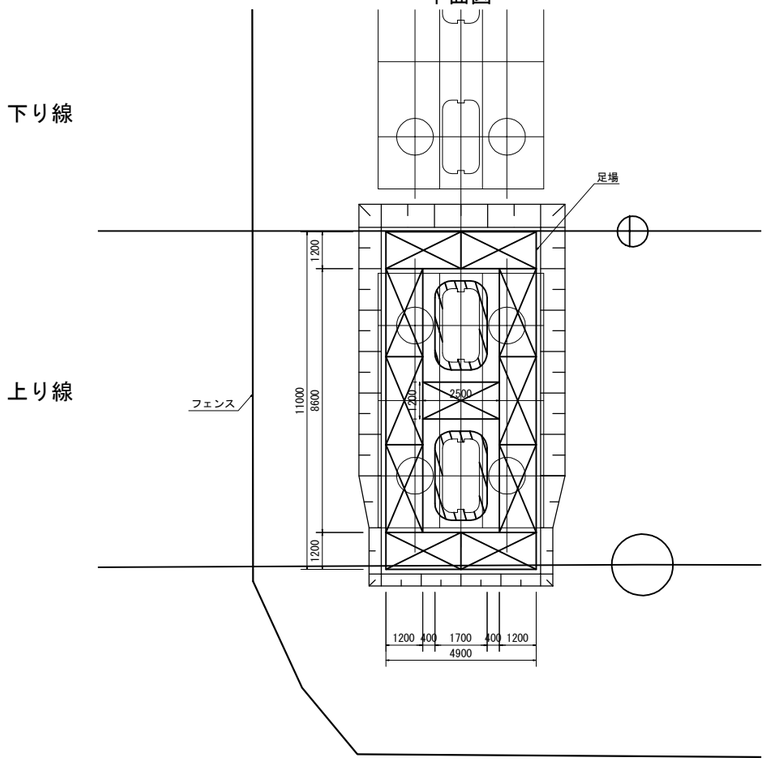
側面図



正面図



平面図

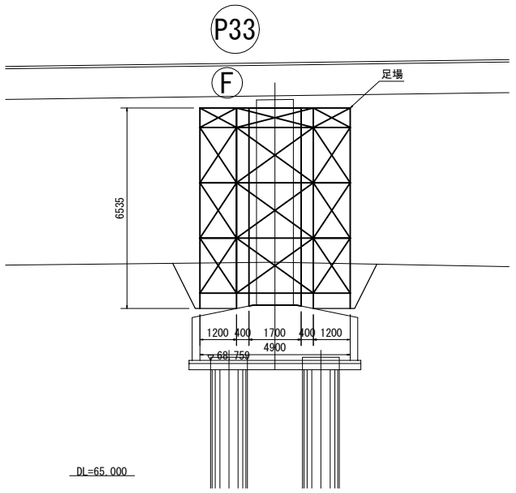


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P32橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

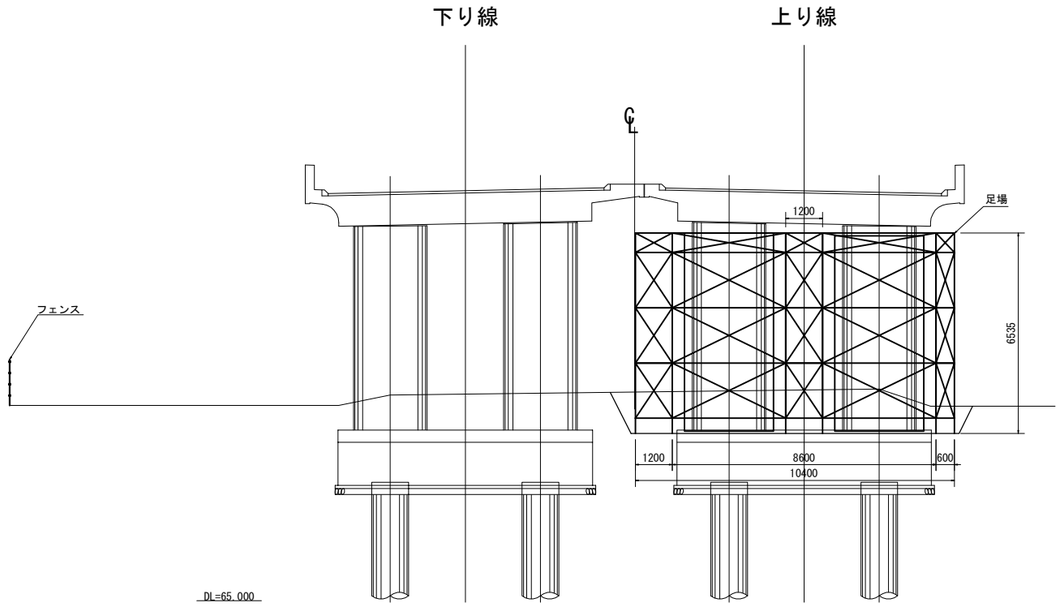
P33橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



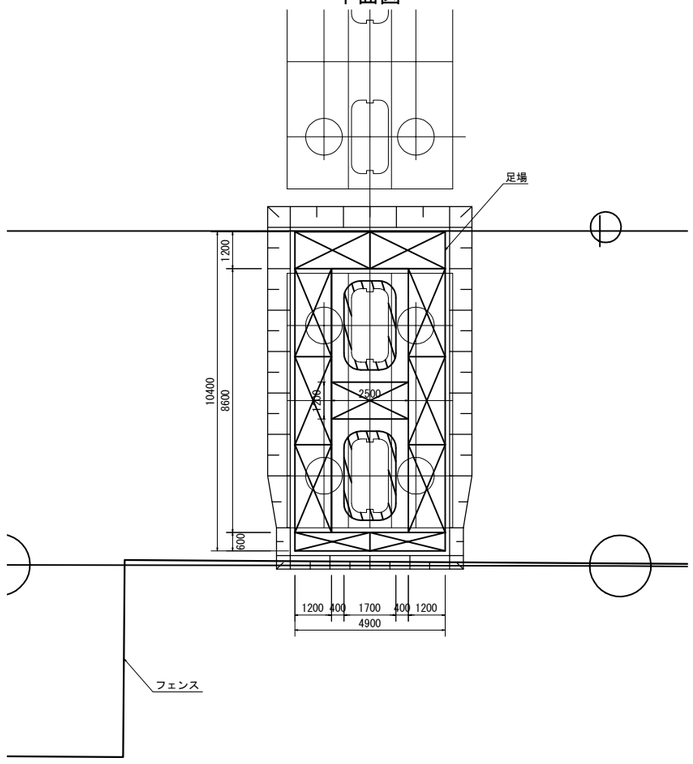
正面図



平面図

下り線

上り線

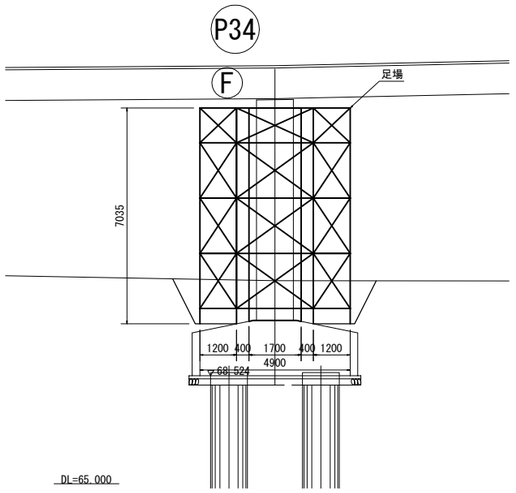


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P33橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

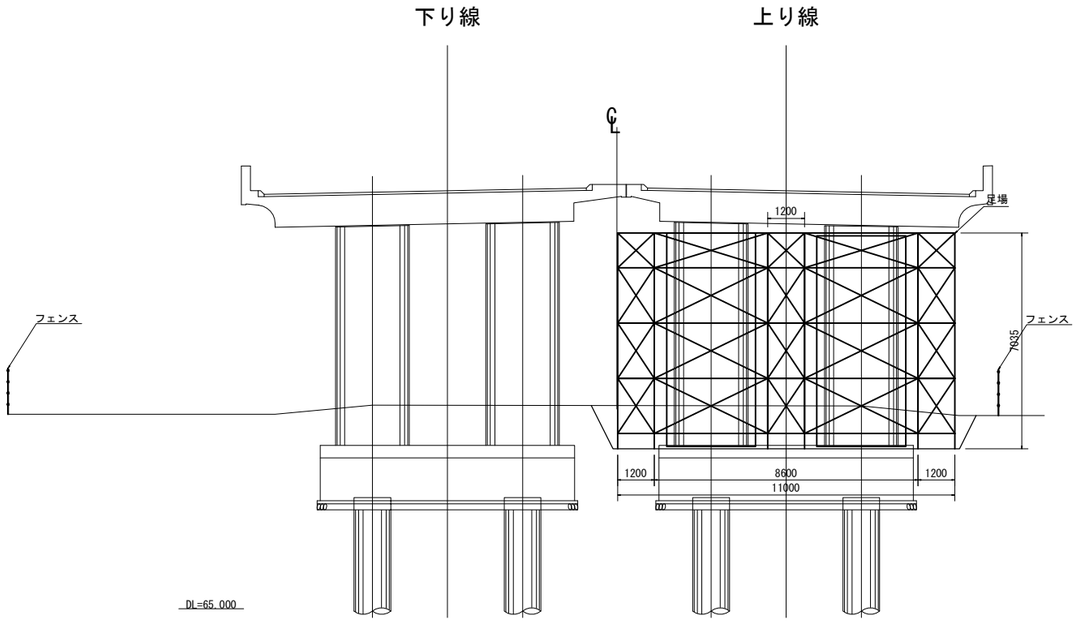
P34橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

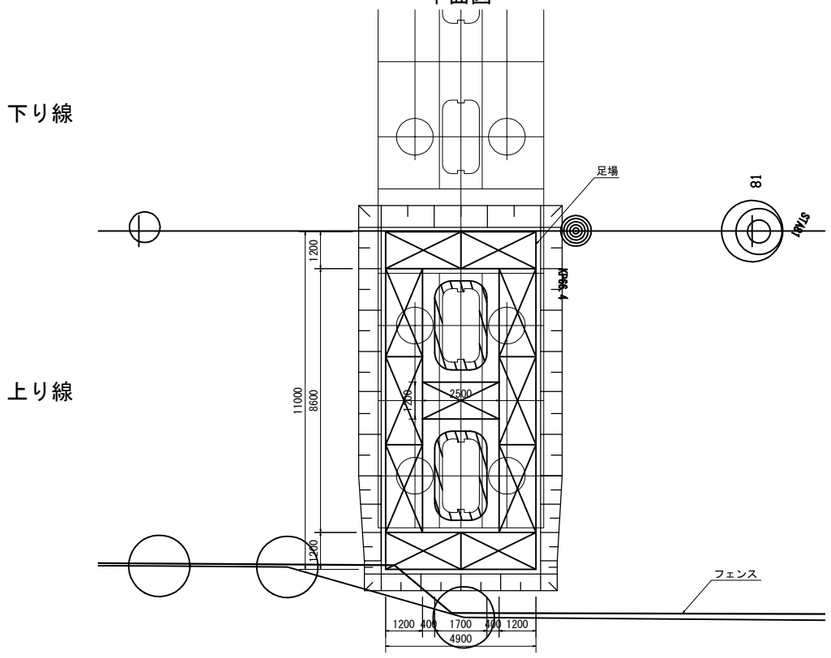
側面図



正面図



平面図

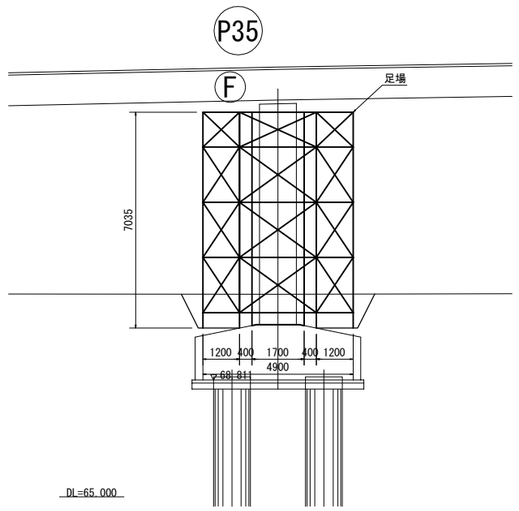


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P34橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

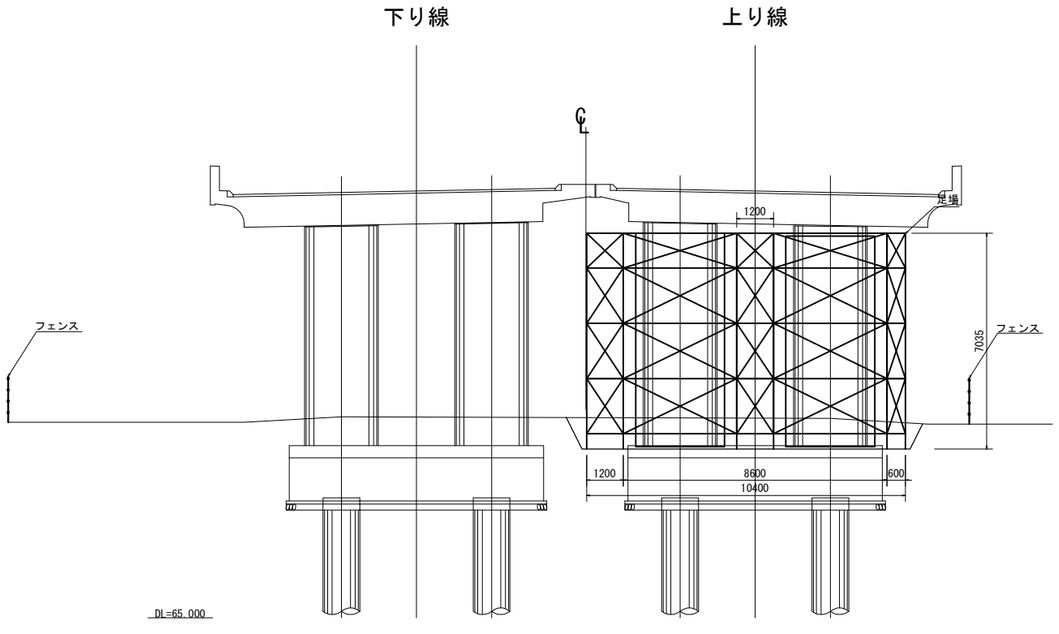
P35橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



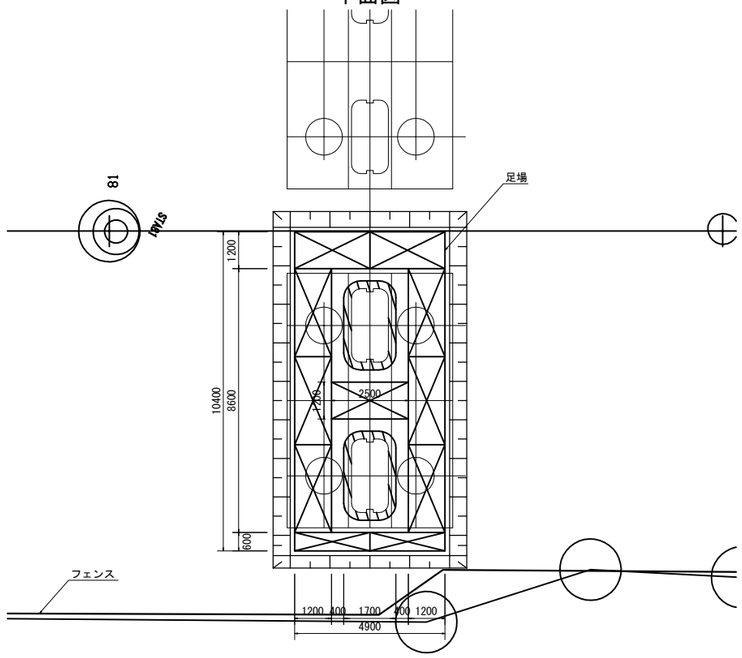
正面図



平面図

下り線

上り線

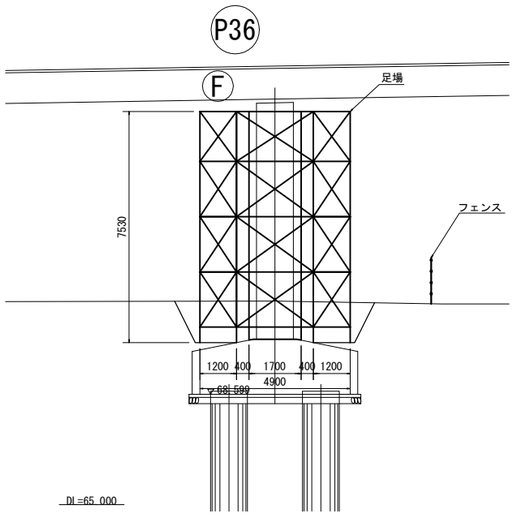


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P35橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

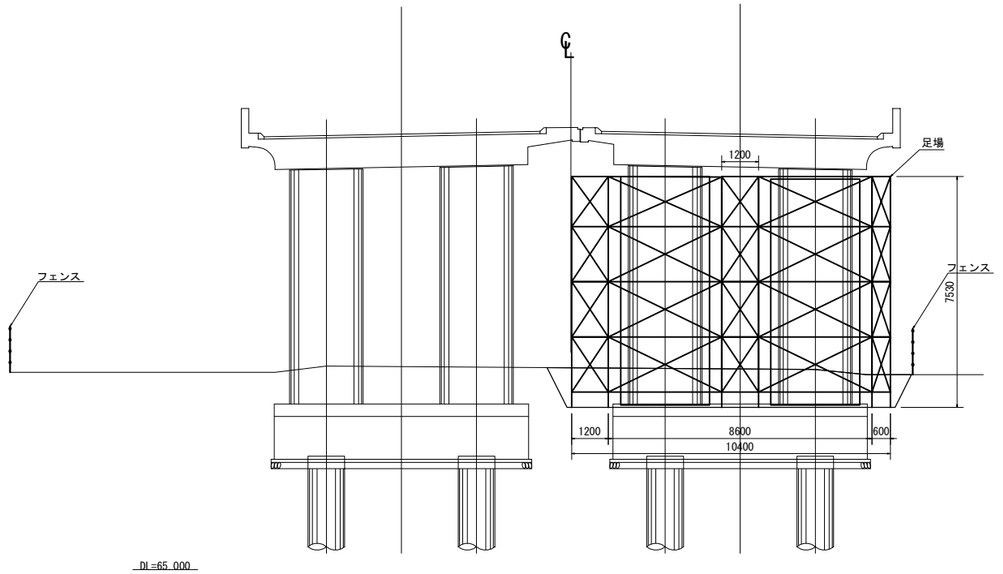
P36橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



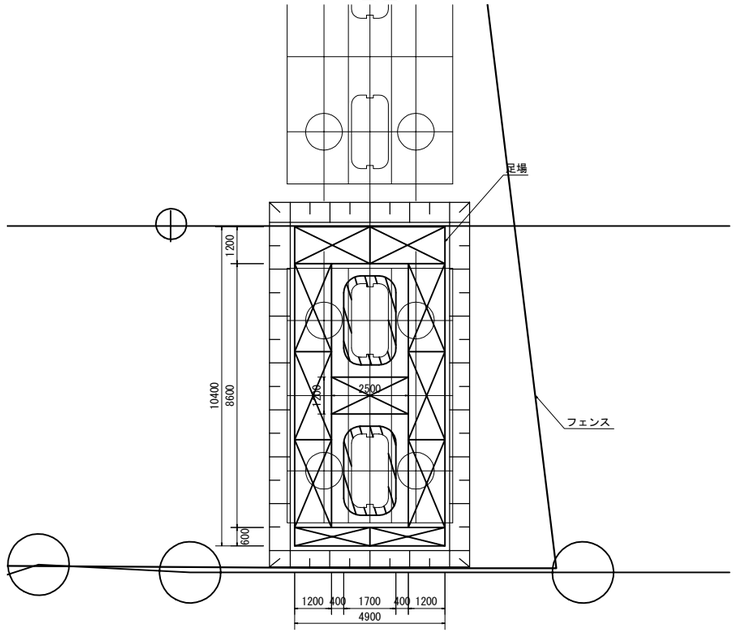
正面図



平面図

下り線

上り線

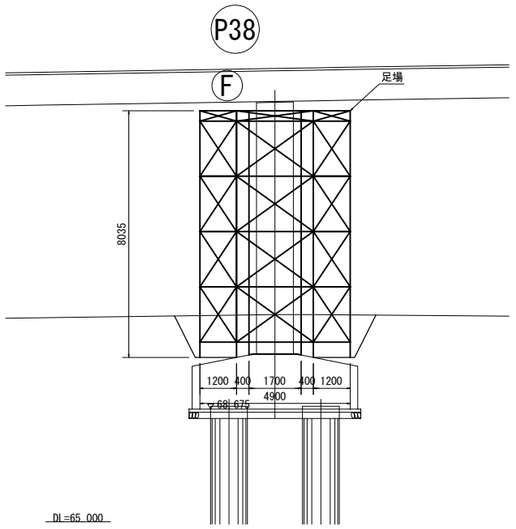


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P36橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

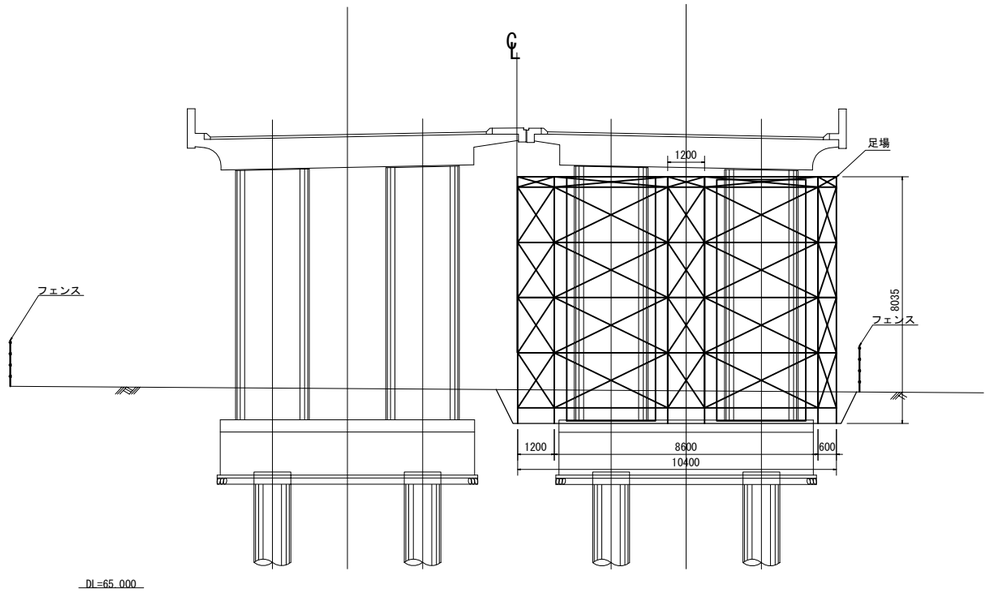
P38橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

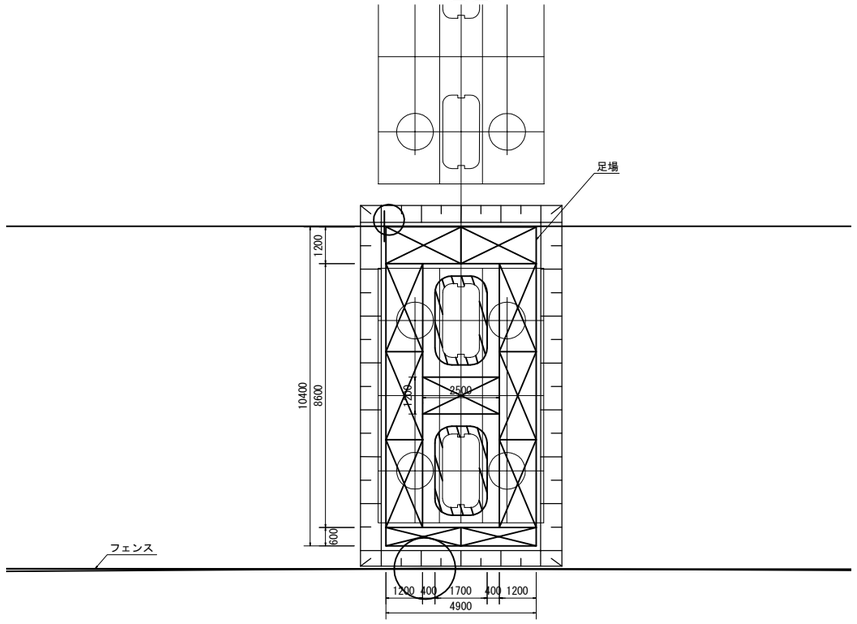
側面図



正面図



平面図

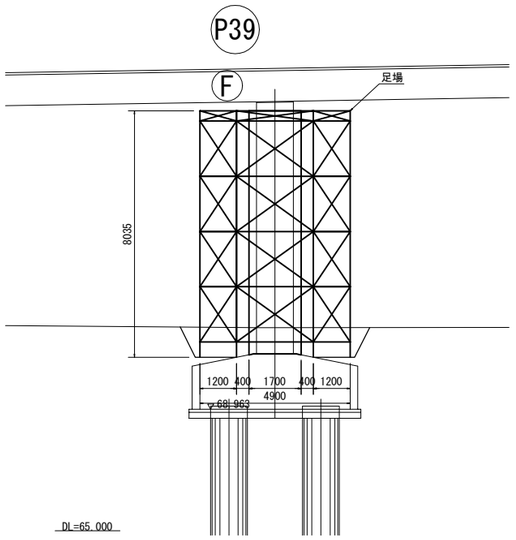


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P38橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

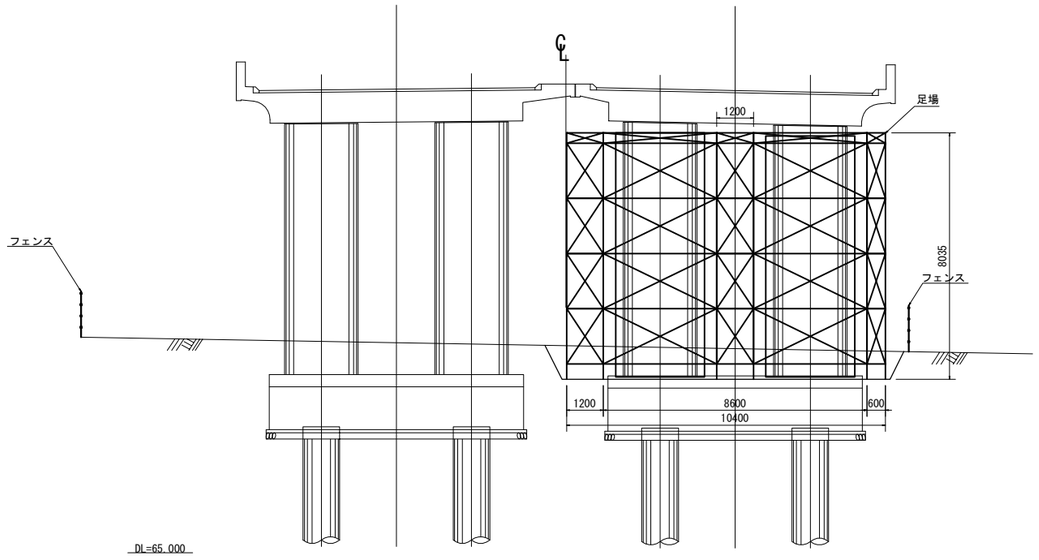
P39橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

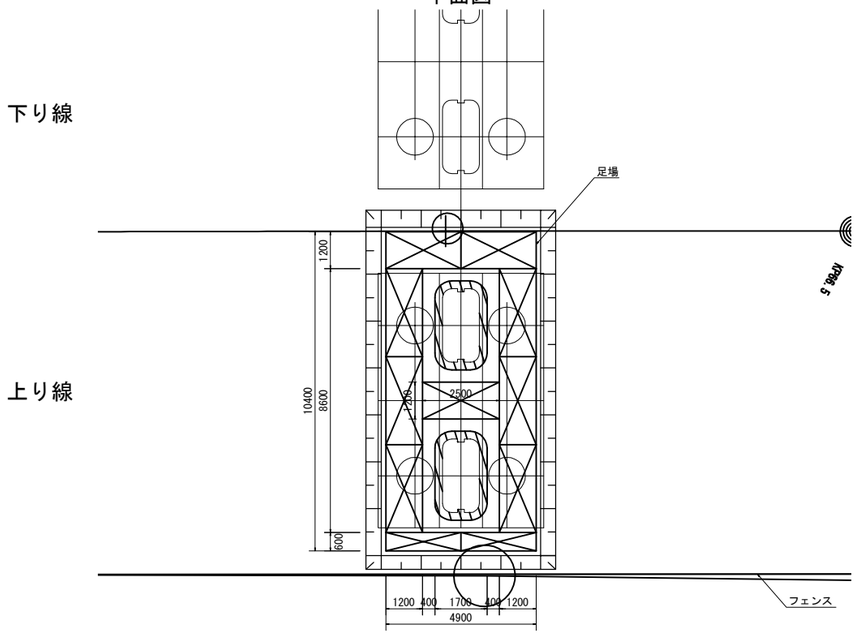
側面図



正面図



平面図

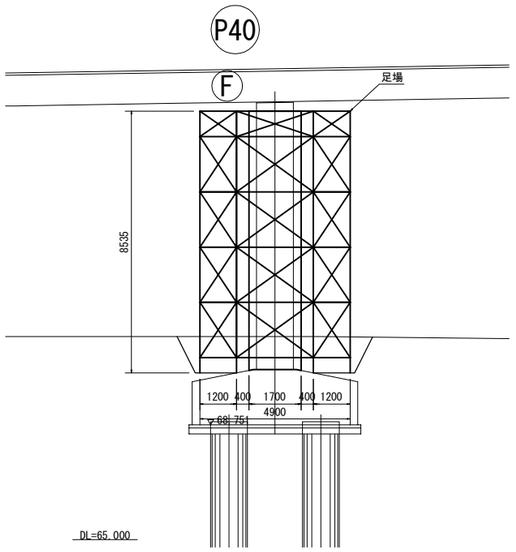


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P39橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

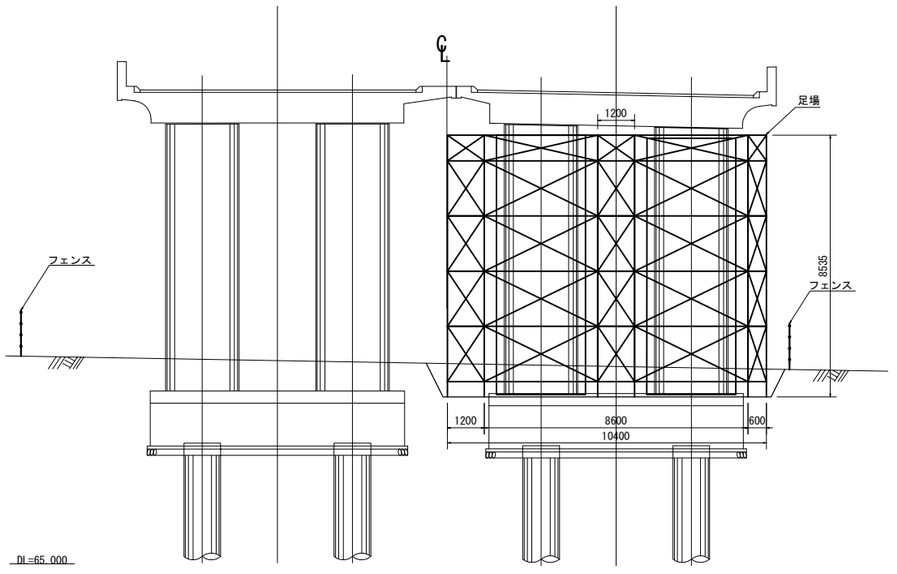
P40橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

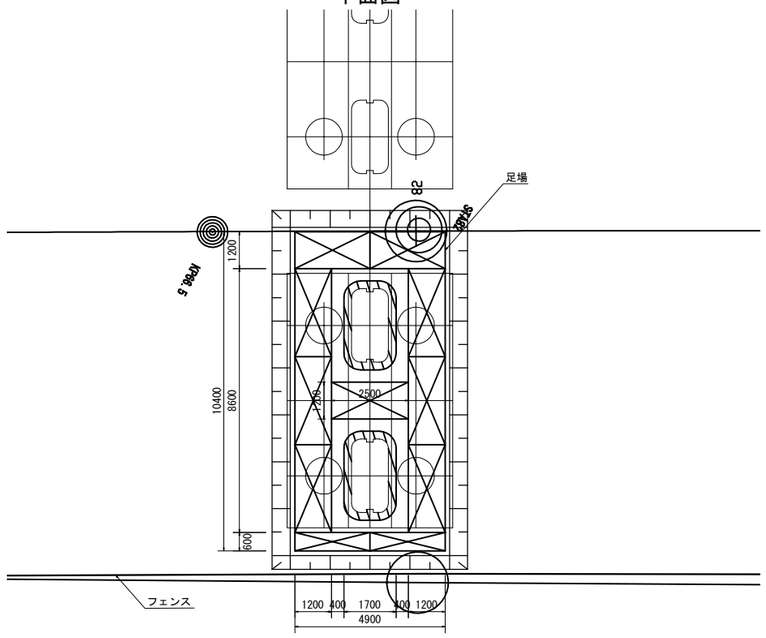
側面図



正面図



平面図



首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P40橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P41橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

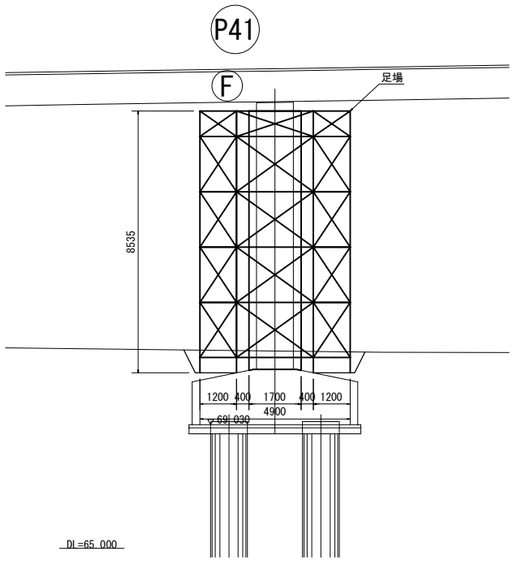
普通部

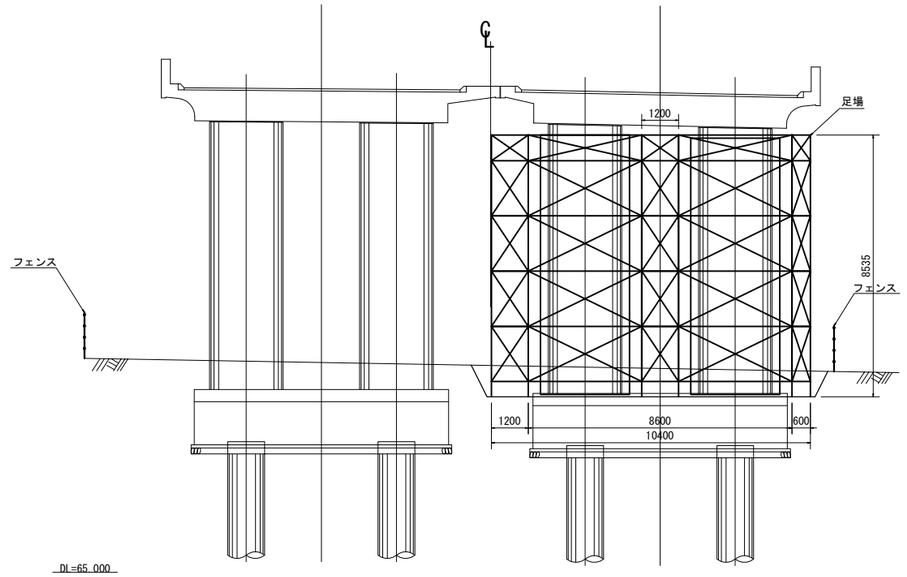
側面図

正面図

下り線

上り線

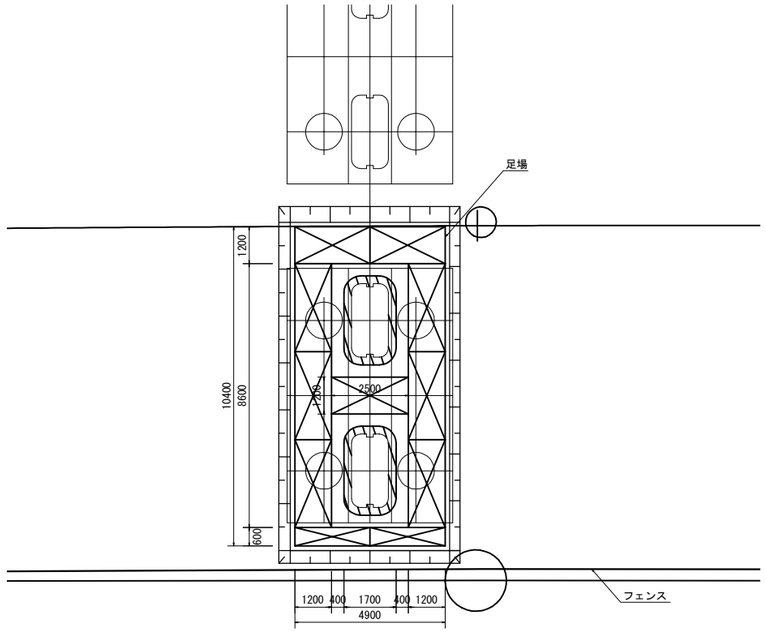




平面図

下り線

上り線

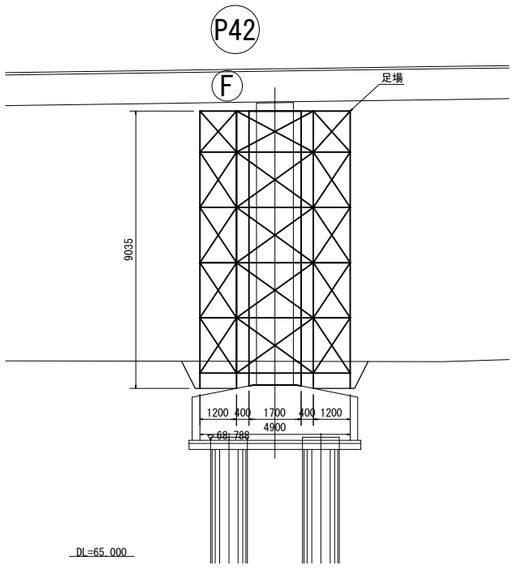


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P41橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

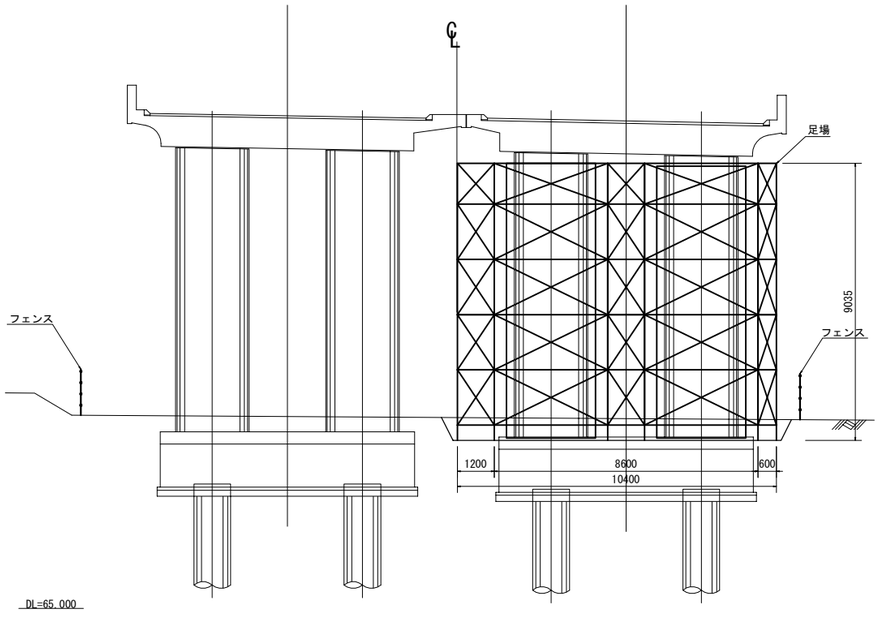
P42橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

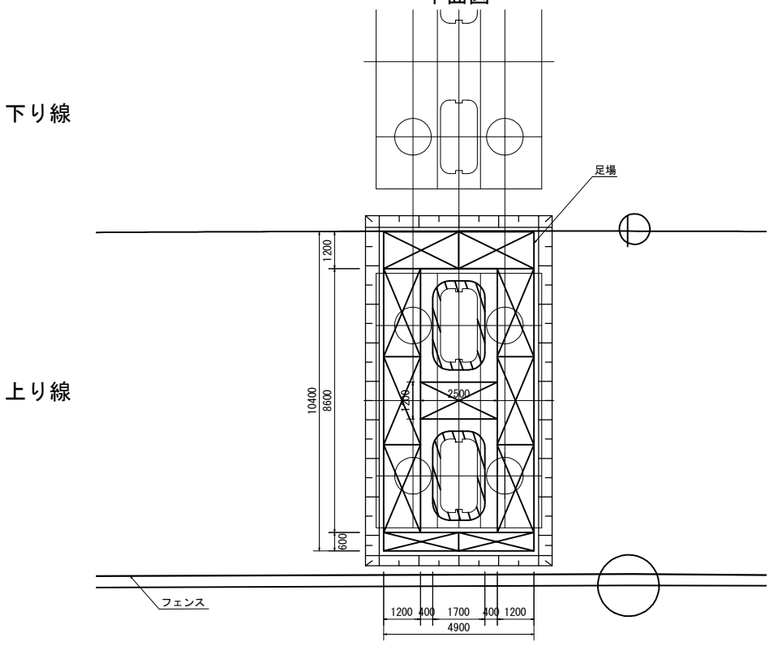
側面図



正面図



平面図

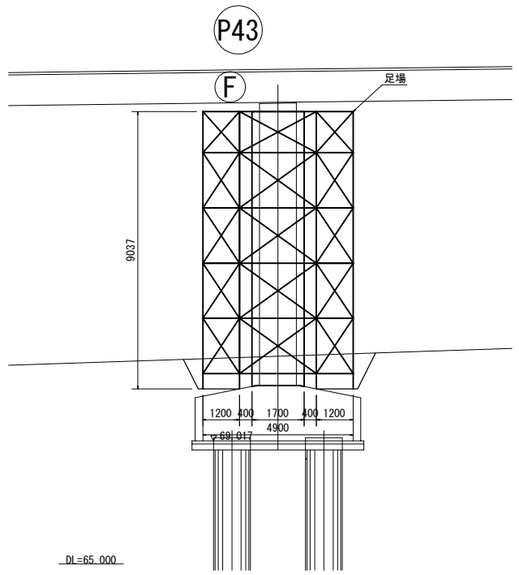


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P42橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P43橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

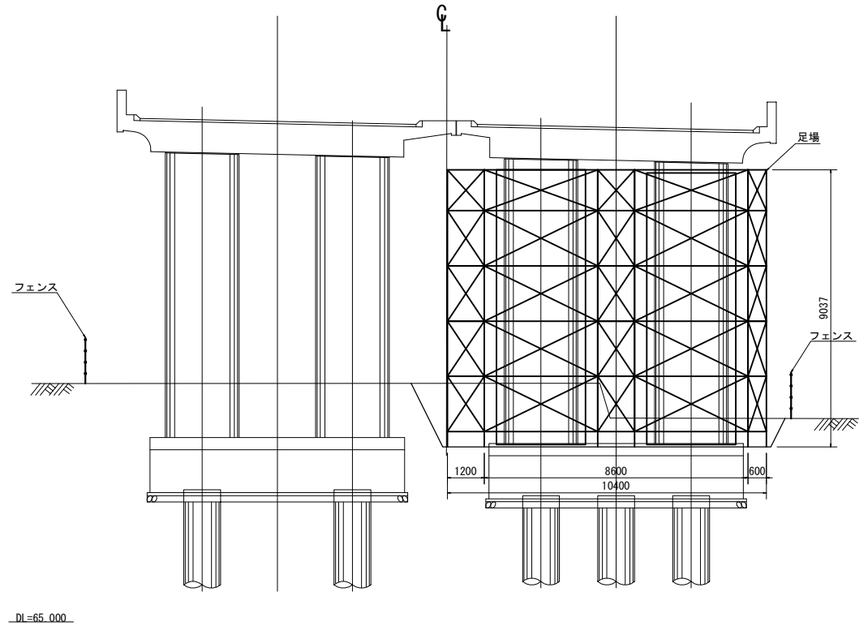
普通部

側面図



正面図

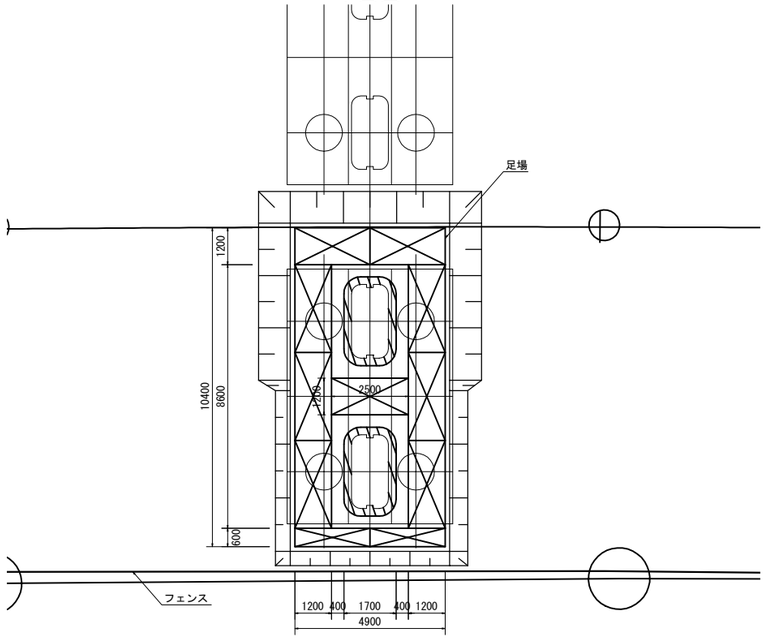
下り線　　上り線



平面図

下り線

上り線

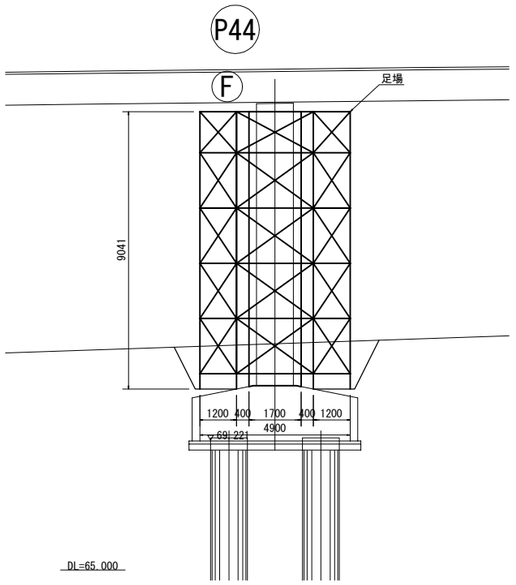


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P43橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P44橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

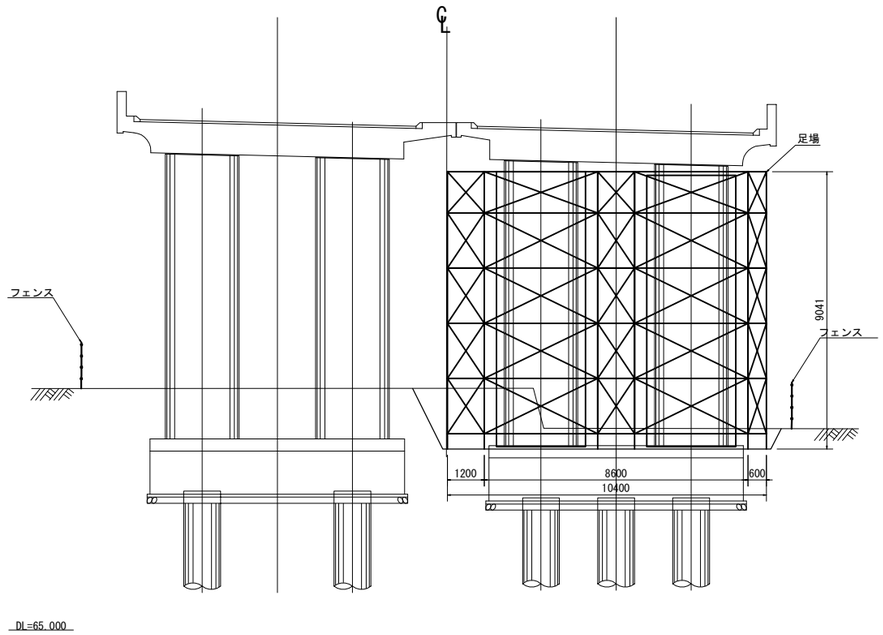
普通部

側面図



正面図

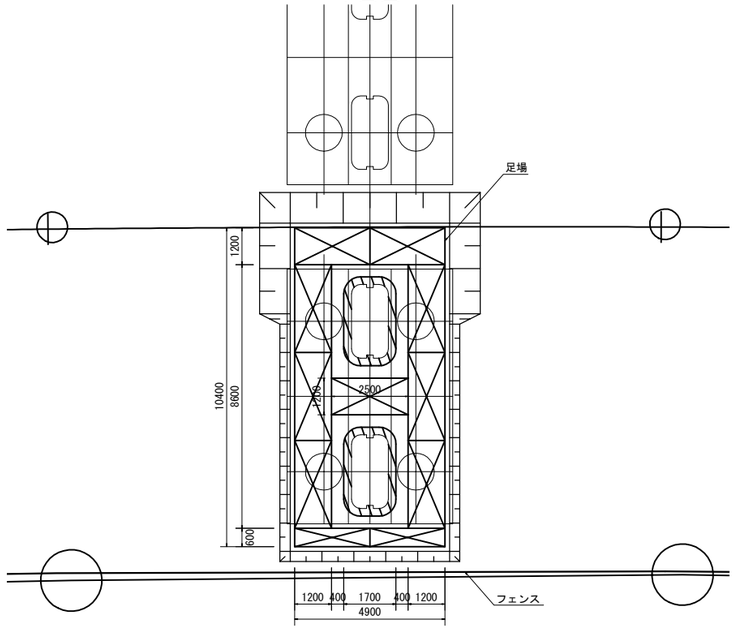
下り線　　上り線



平面図

下り線

上り線

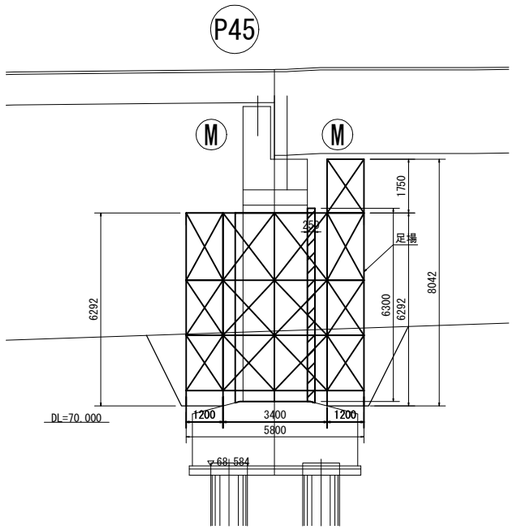


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P44橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

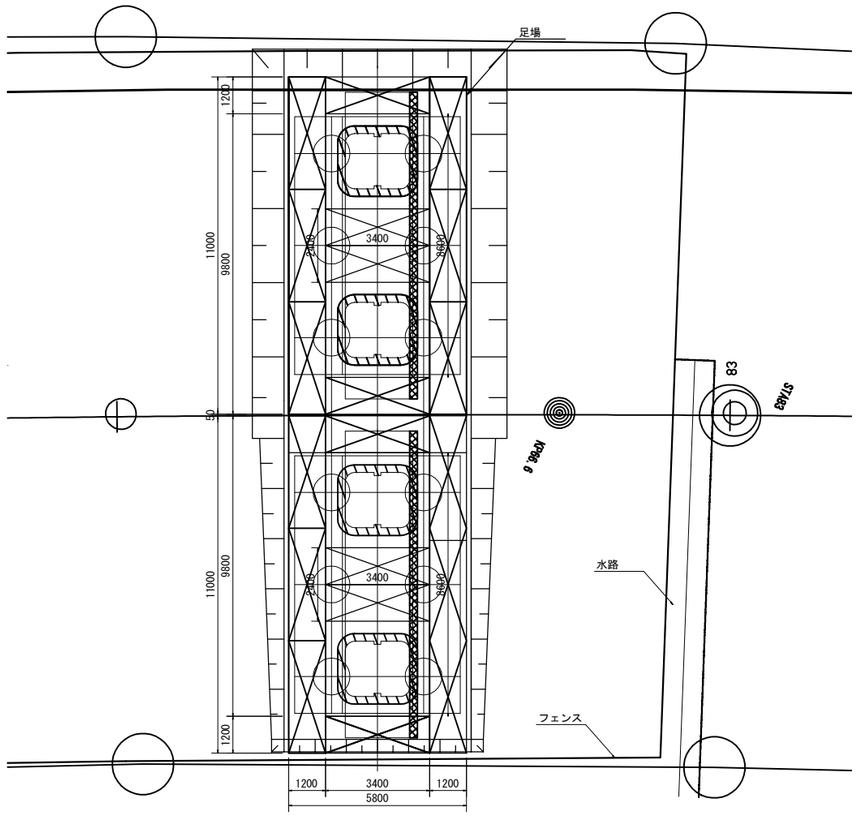
P45橋脚 足場計画図（上下線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図

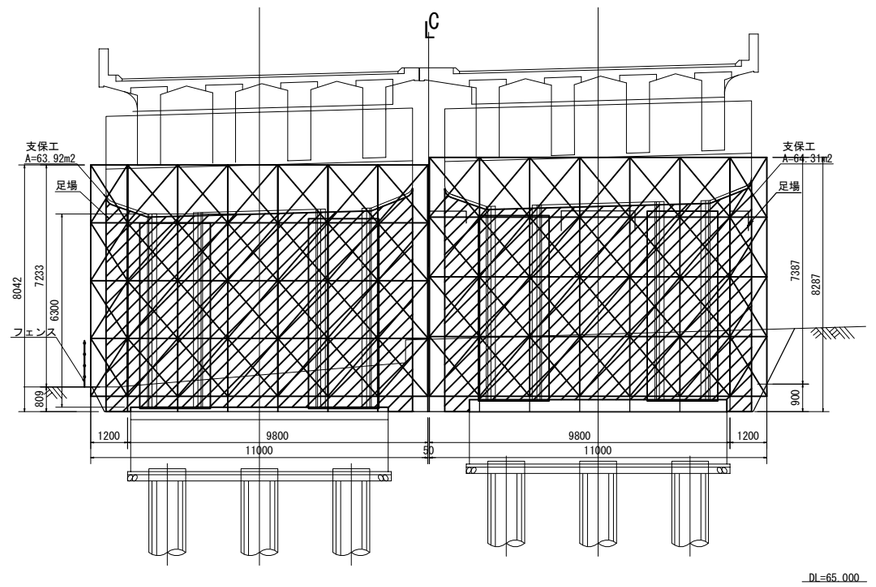


平面図



正面図

上り線　　下り線

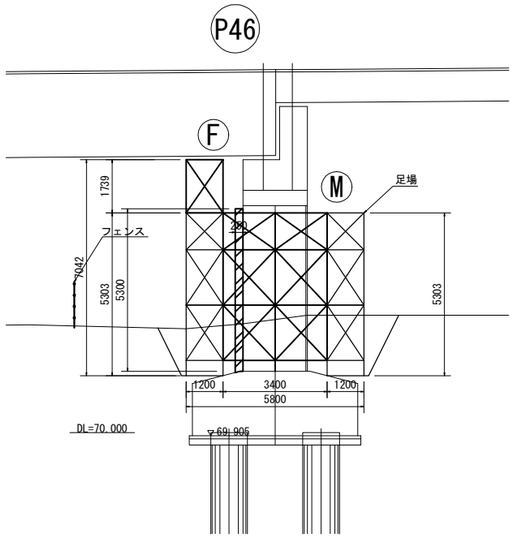


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P45橋脚 足場計画図（上下線）（参考図）
縮　尺	1:200　図面番号　/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

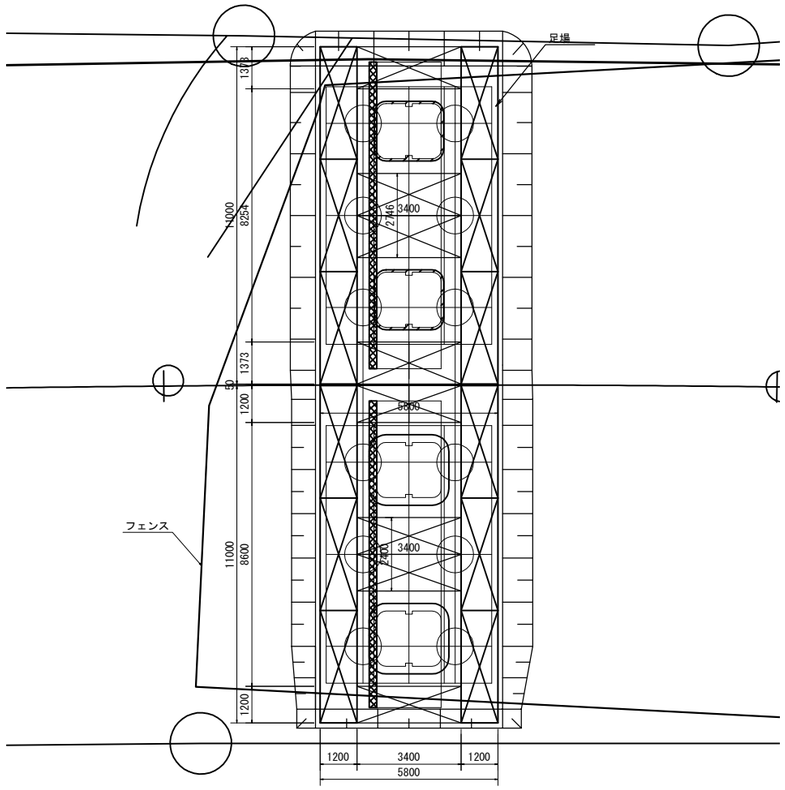
P46橋脚 足場計画図（上下線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



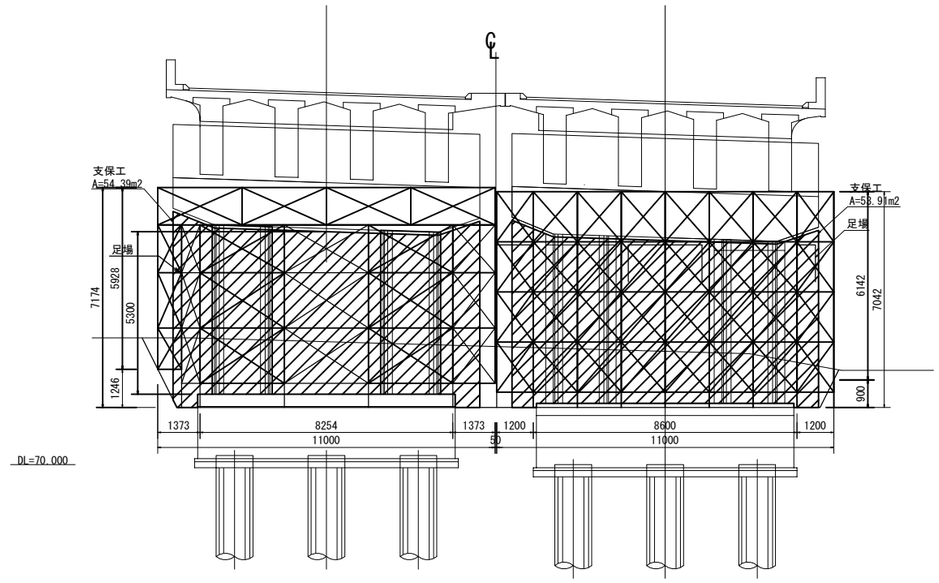
平面図



下り線

上り線

正面図

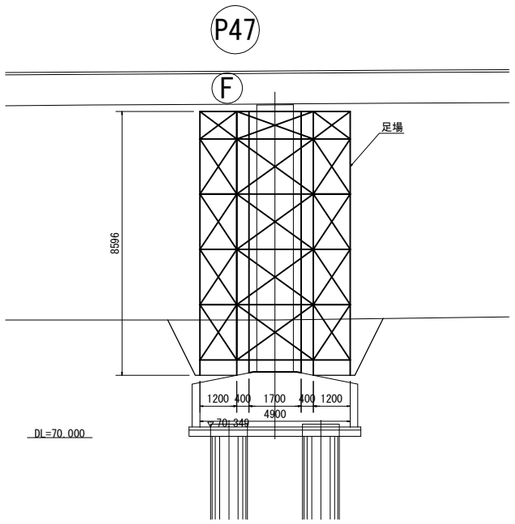


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事	
図面の種類	入間川高架橋 P46橋脚 足場計画図（上下線）（参考図）
縮尺	1:200
図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所

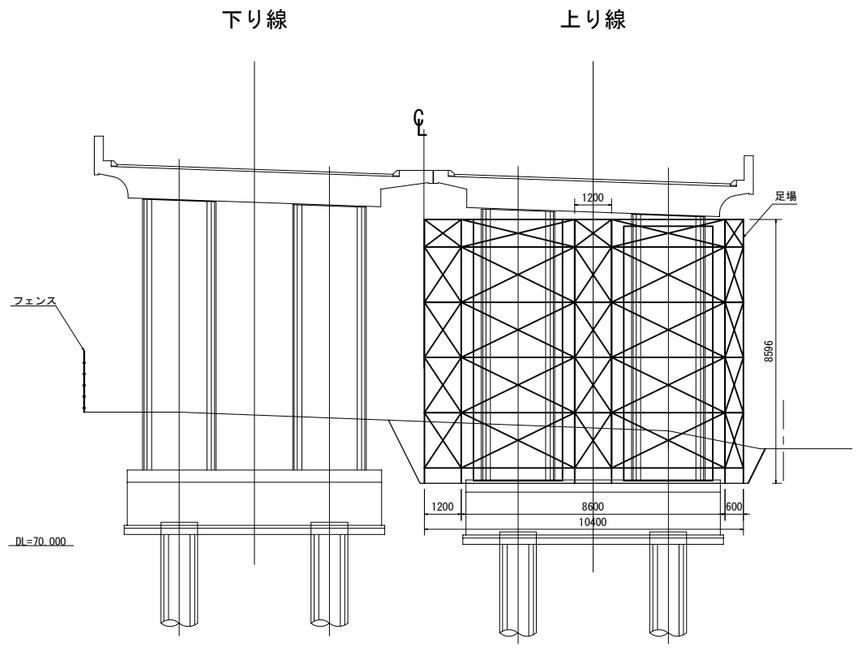
P47橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

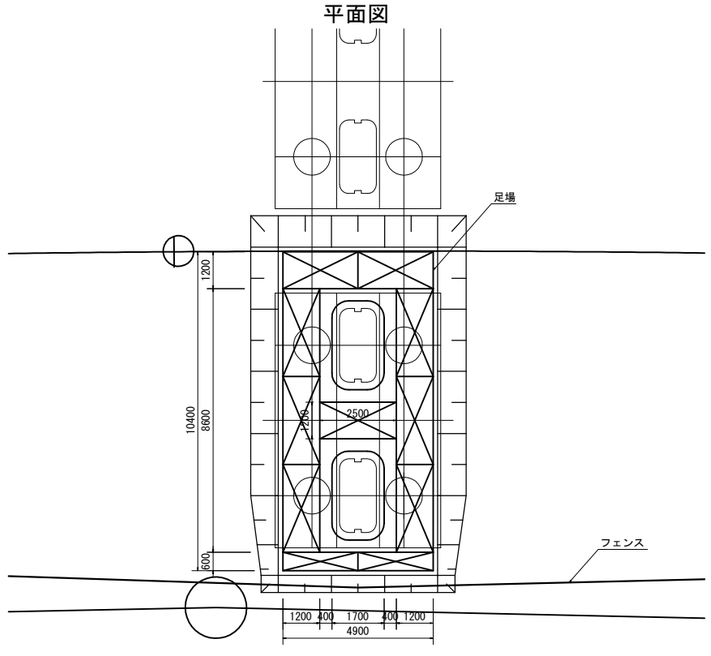
側面図



正面図



平面図

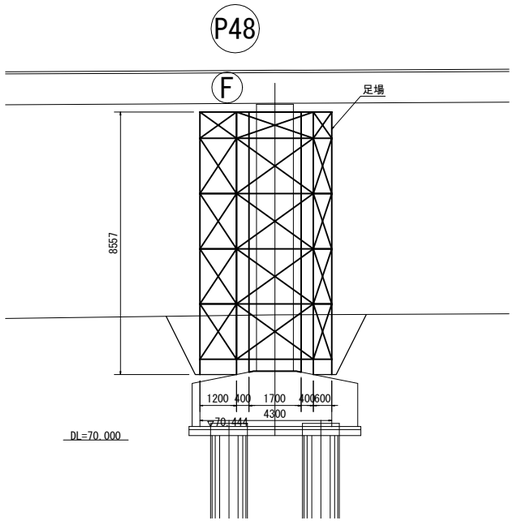


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P47橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

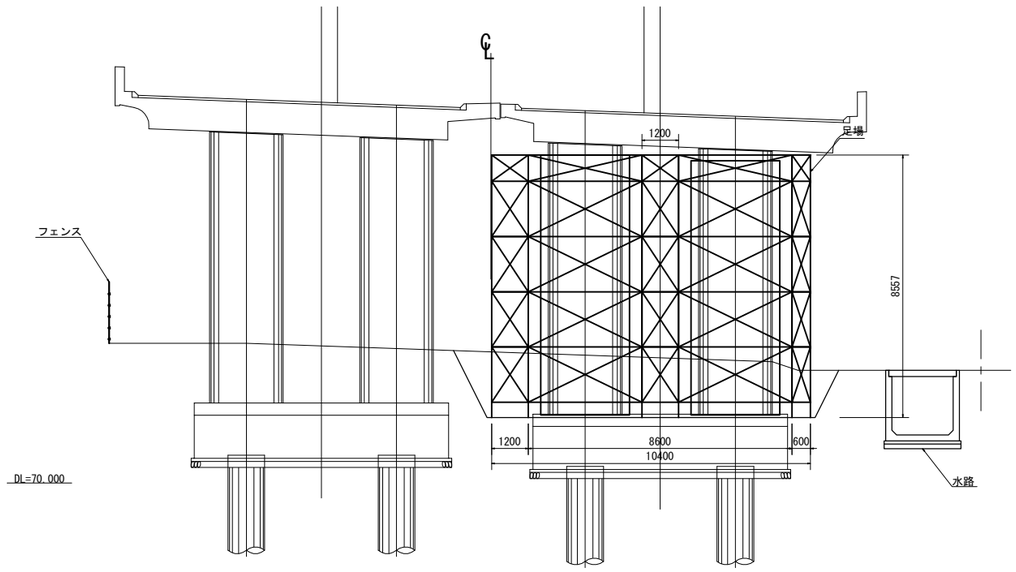
P48橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



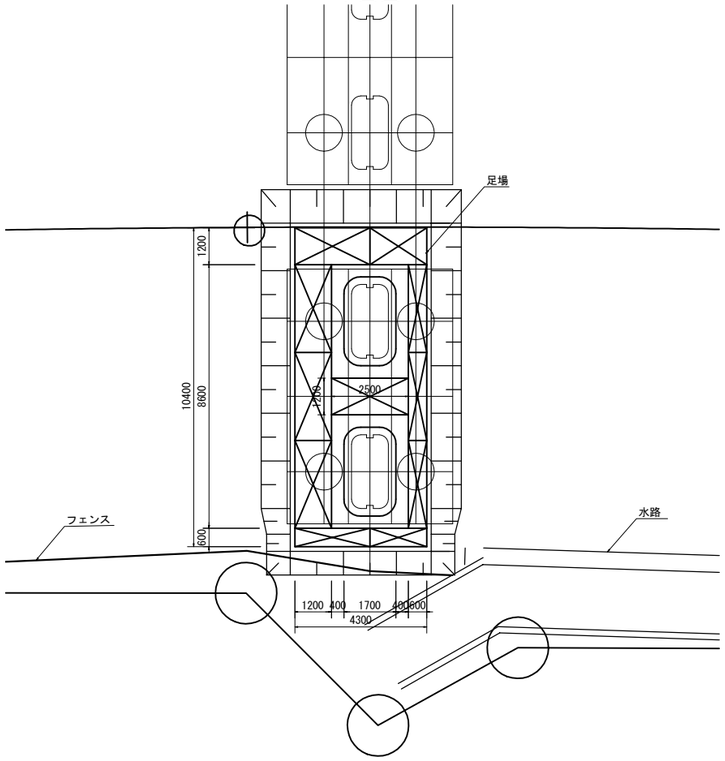
正面図



平面図

下り線

上り線

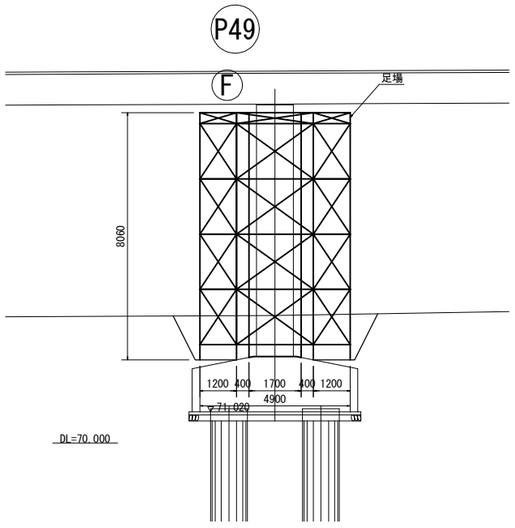


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P48橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

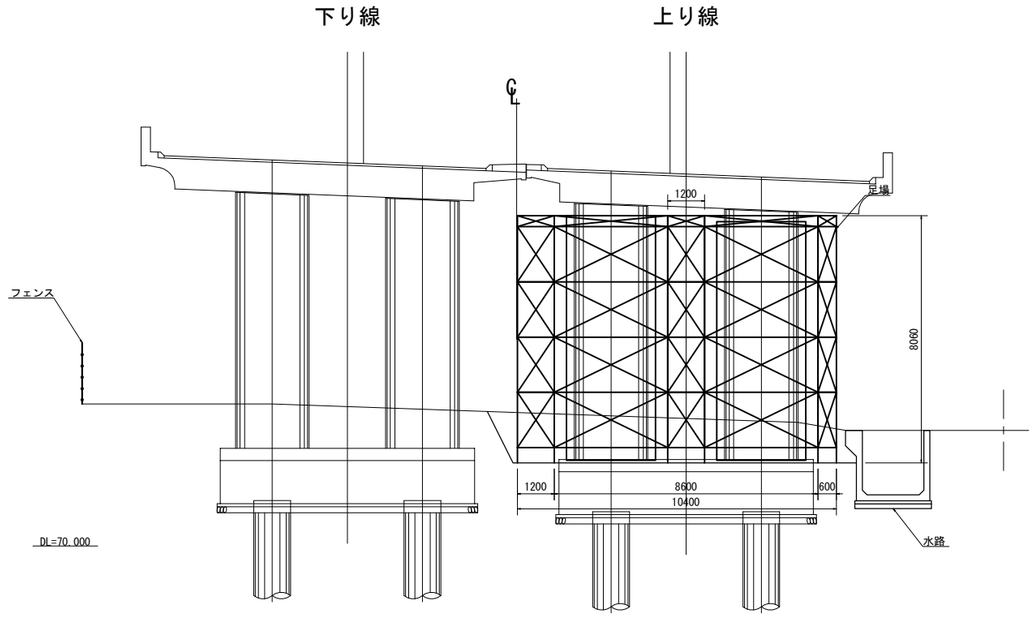
P49橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



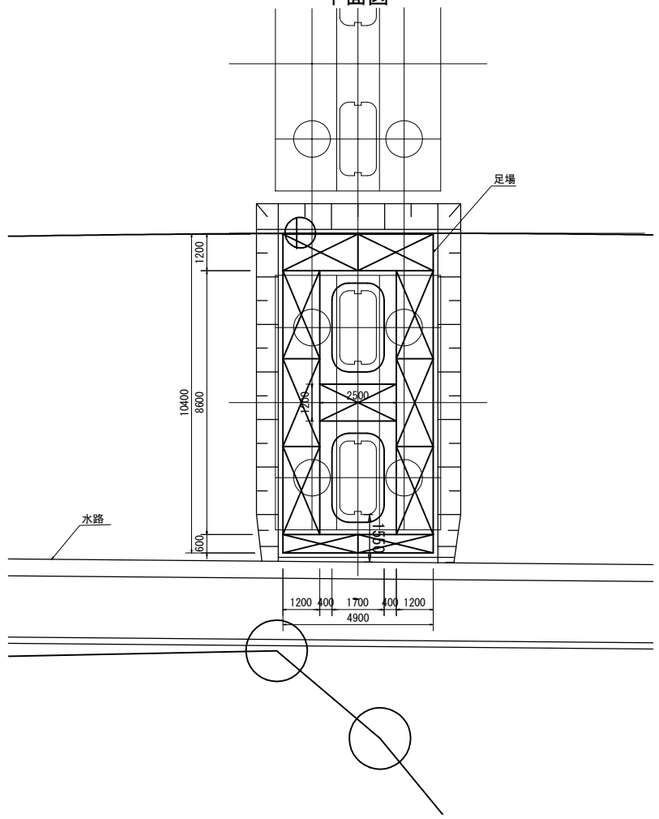
正面図



平面図

下り線

上り線

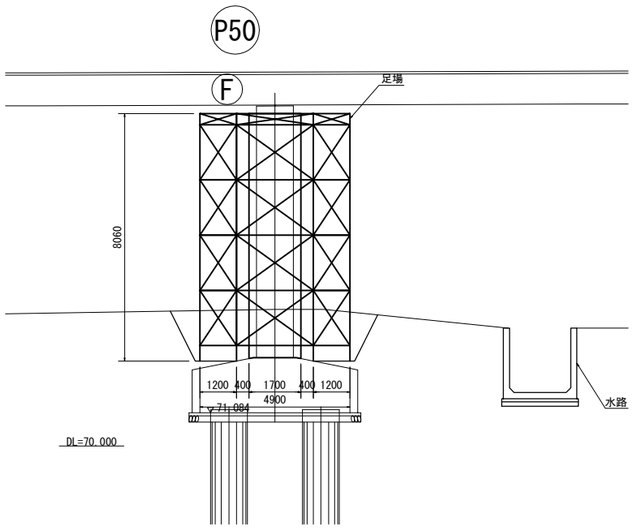


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P49橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

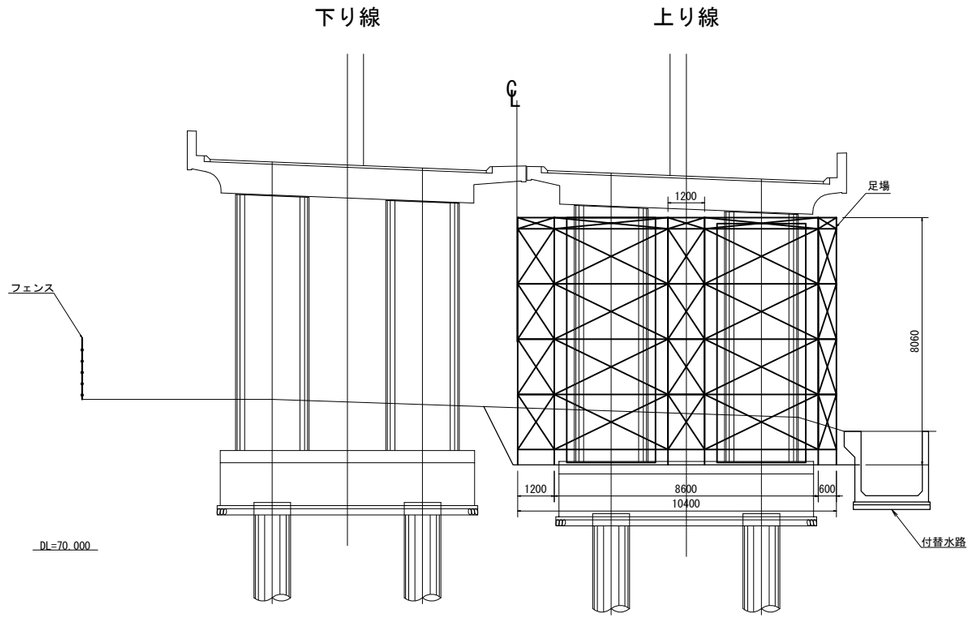
P50橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



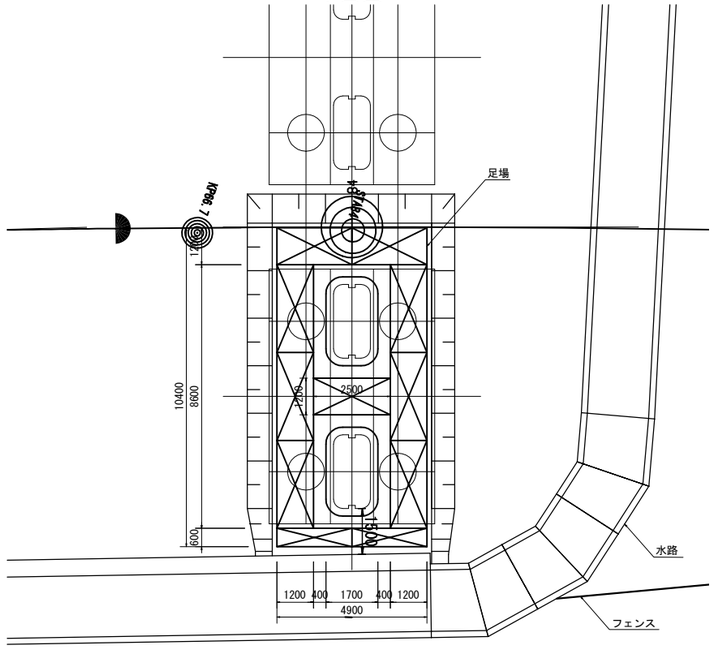
正面図



平面図

下り線

上り線

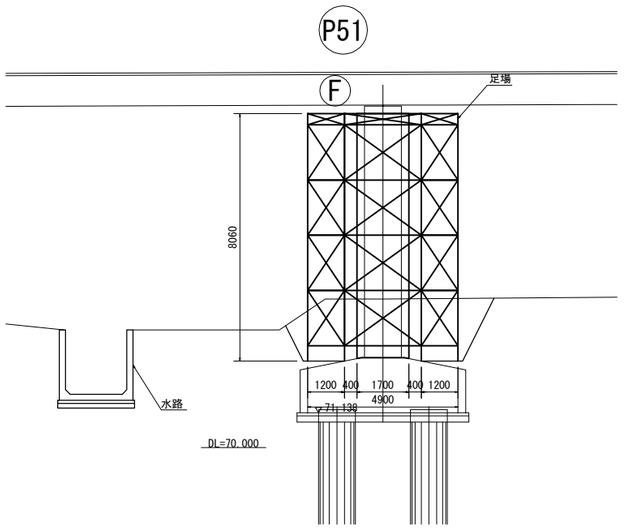


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P50橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P51橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

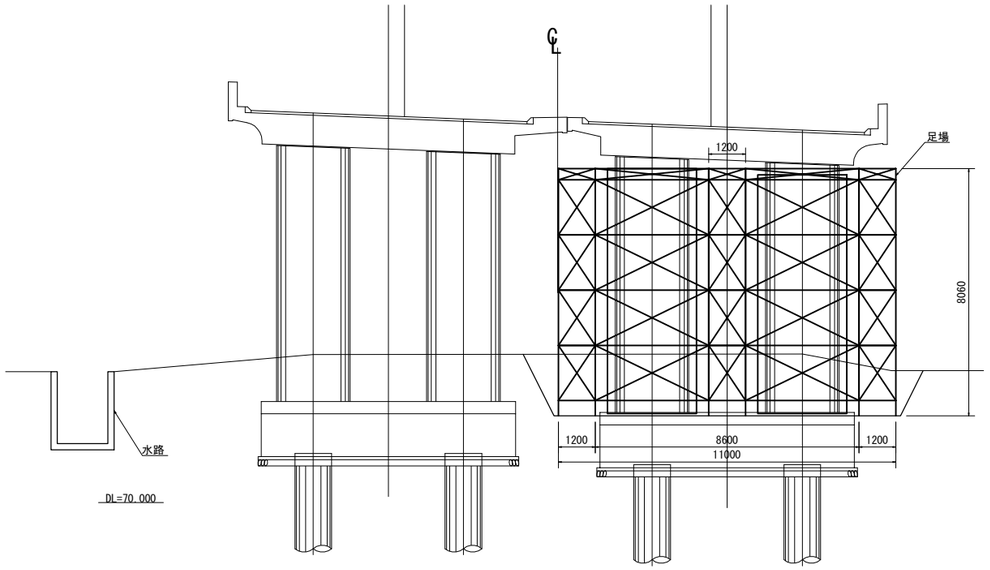
普通部

側面図

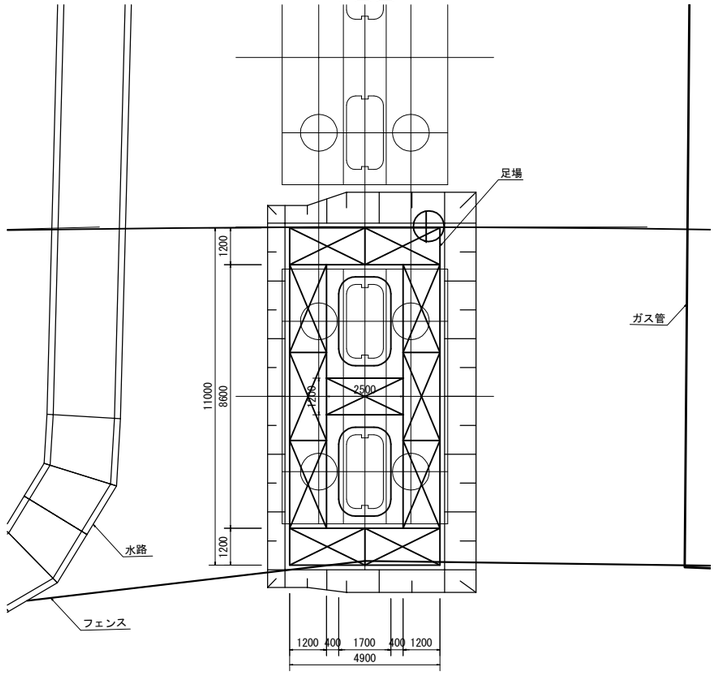


正面図

下り線　　上り線



平面図

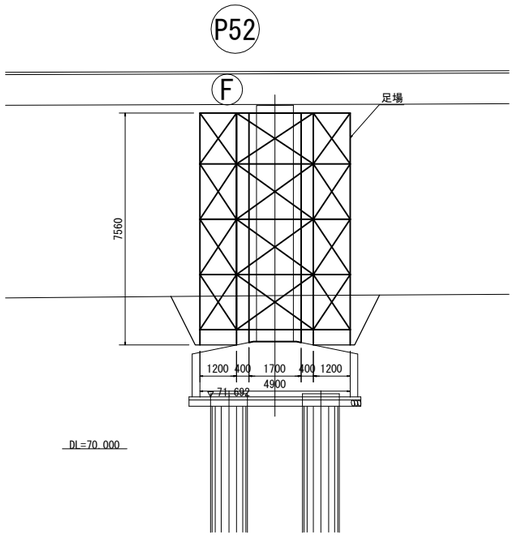


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P51橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

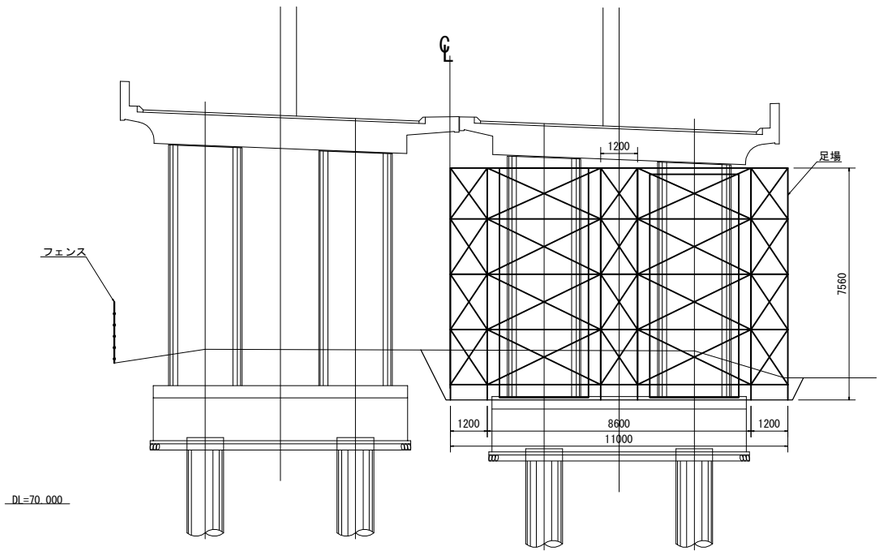
P52橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

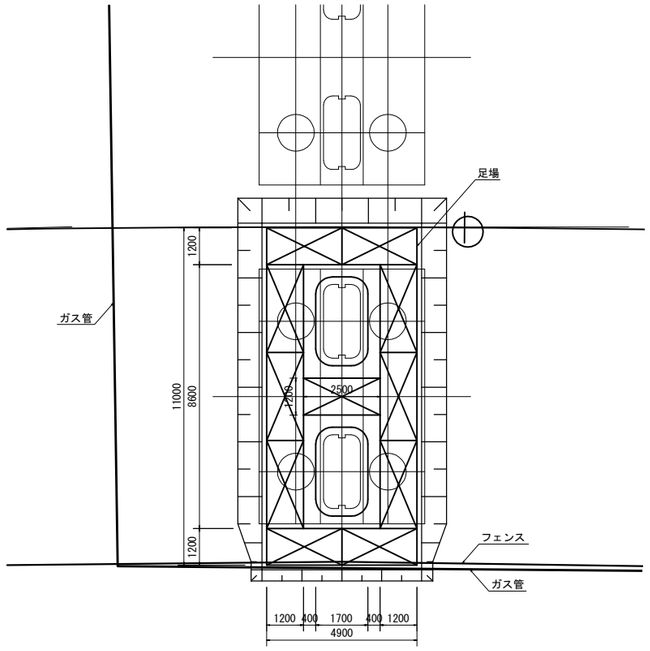
側面図



正面図



平面図

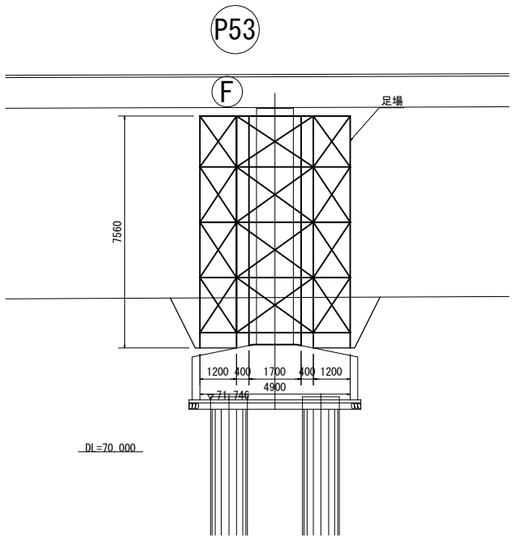


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P52橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

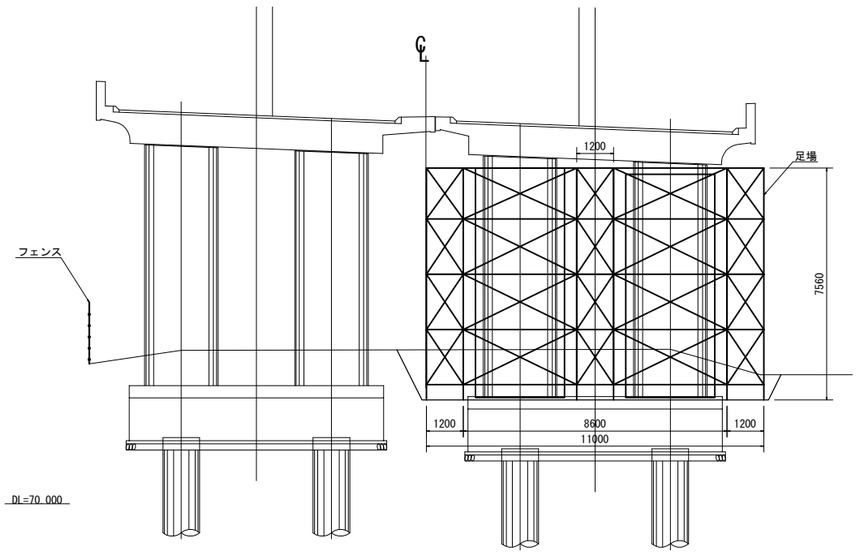
P53橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



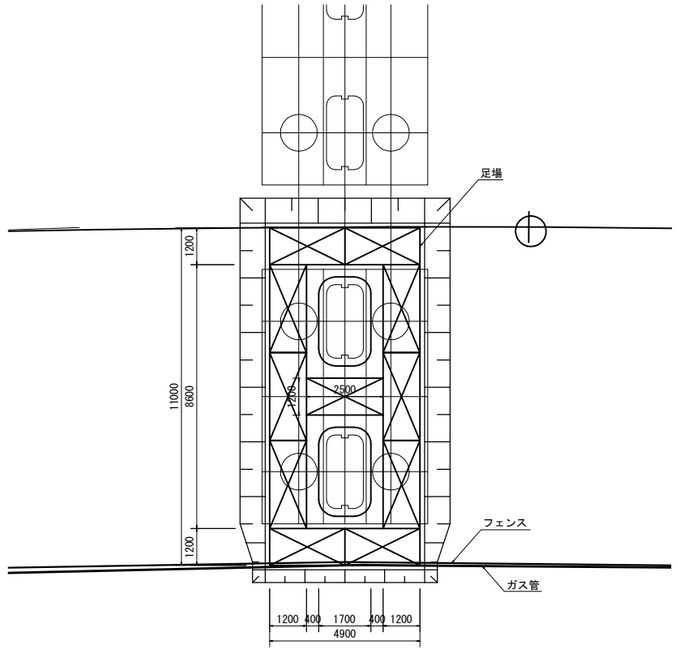
正面図



平面図

下り線

上り線

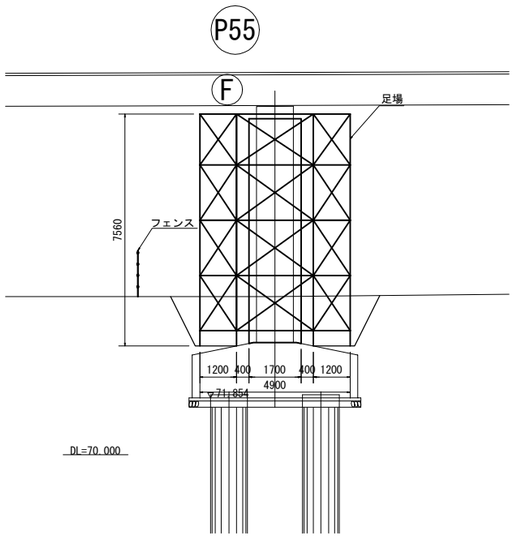


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P53橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

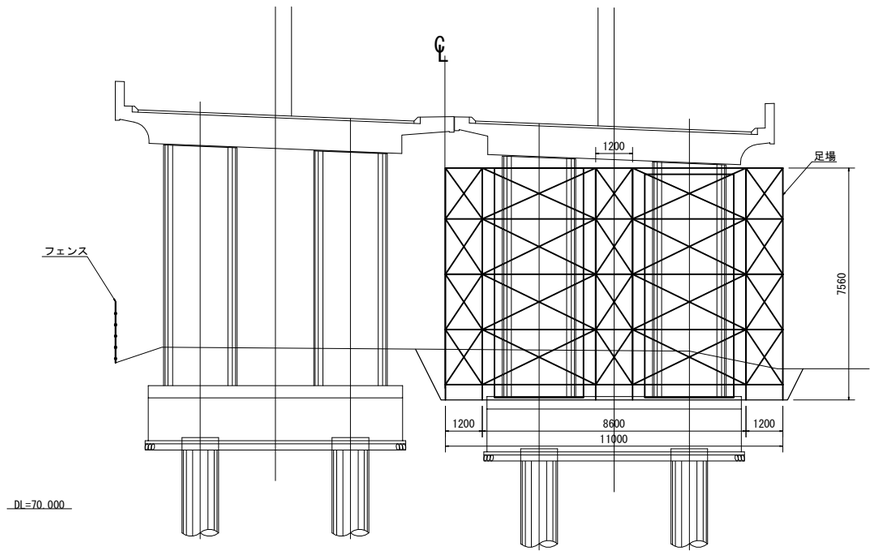
P55橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

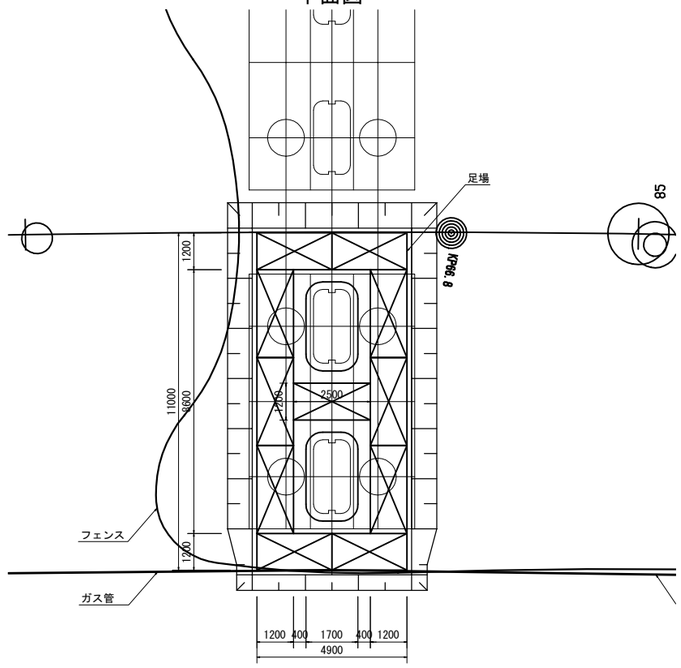
側面図



正面図



平面図

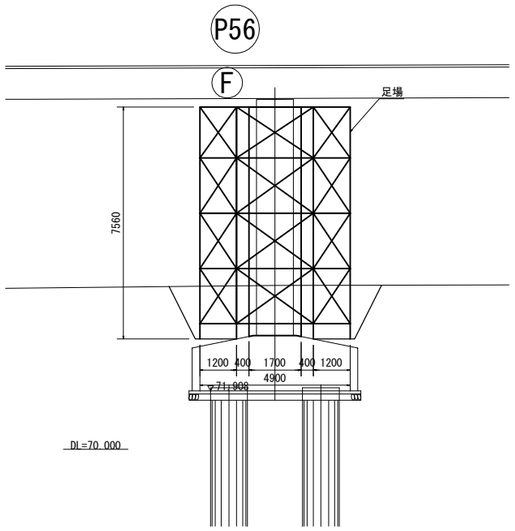


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P55橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

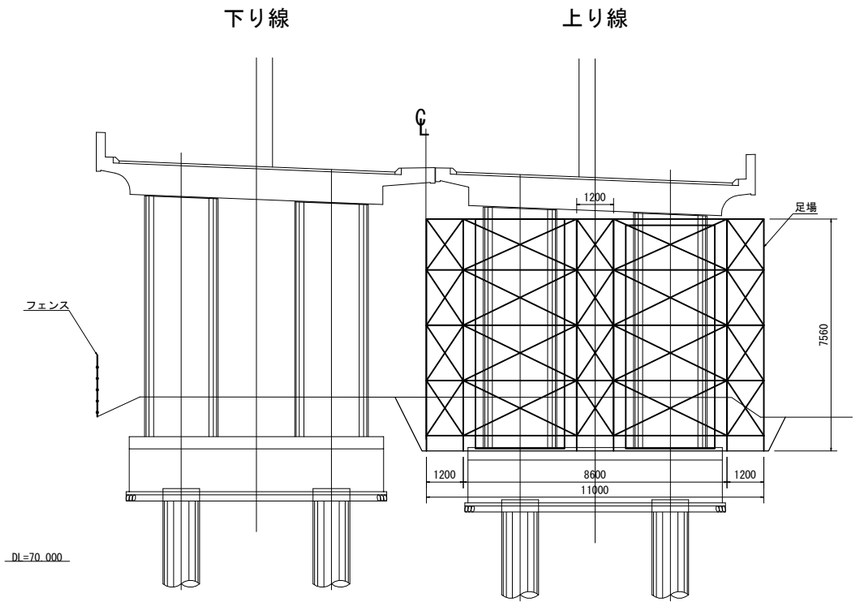
P56橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



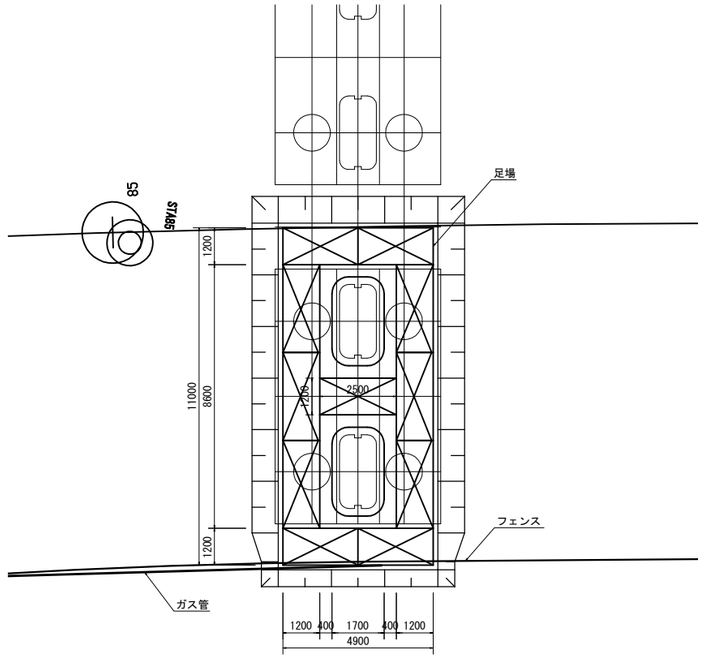
正面図



平面図

下り線

上り線

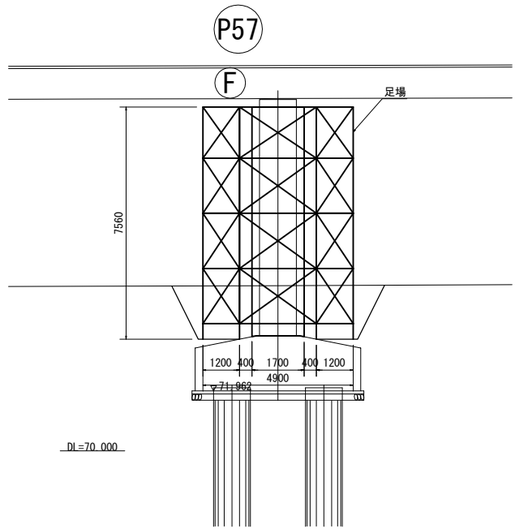


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P56橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

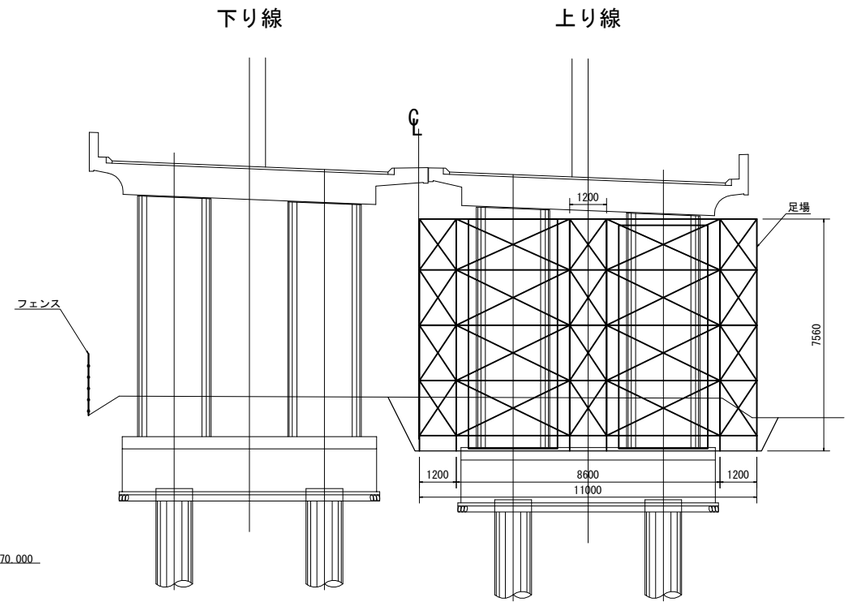
P57橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



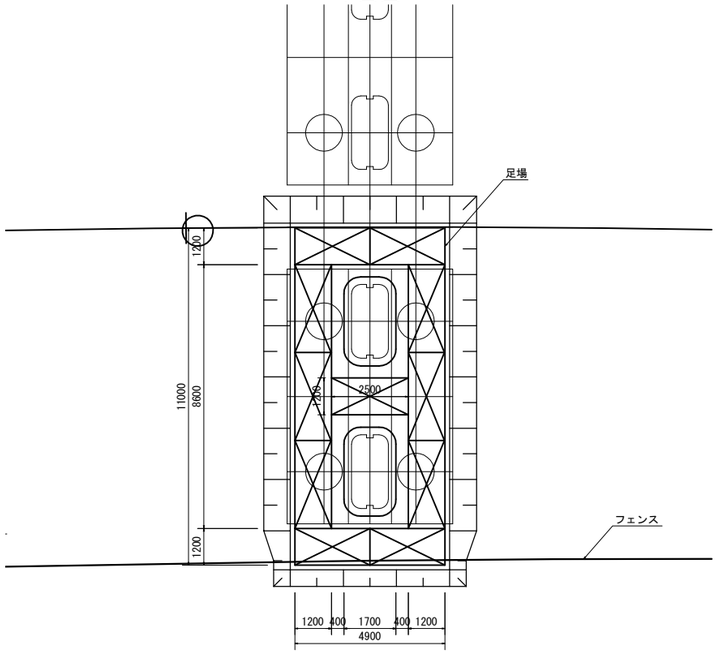
正面図



平面図

下り線

上り線

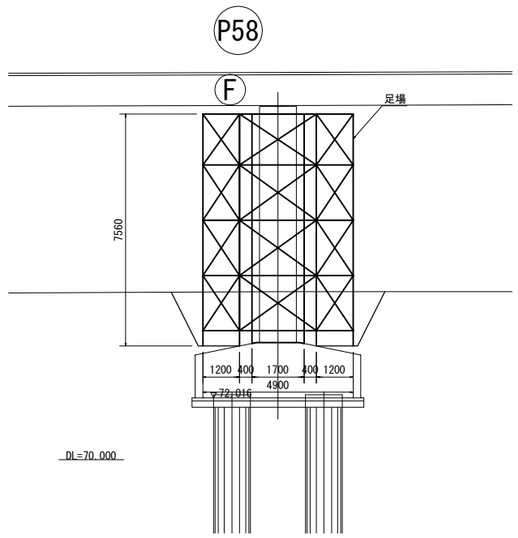


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P57橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

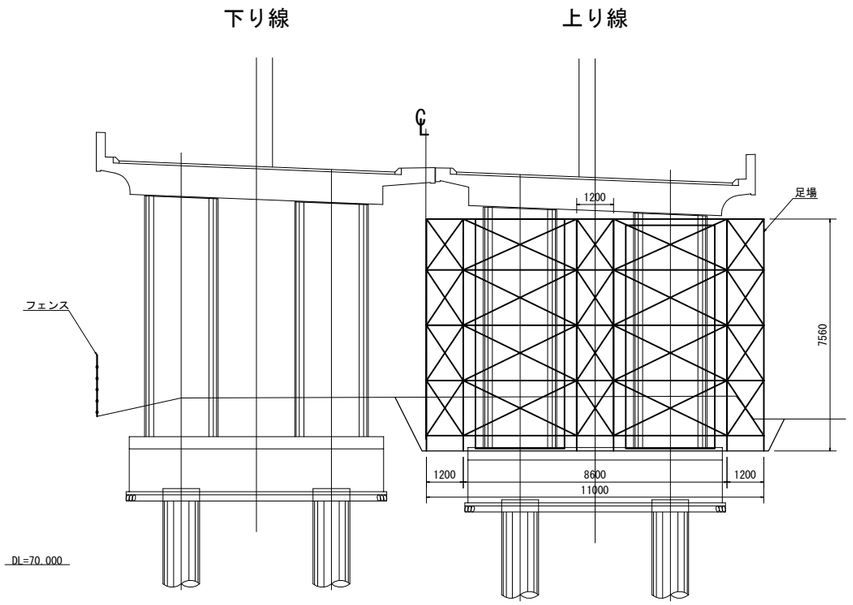
P58橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



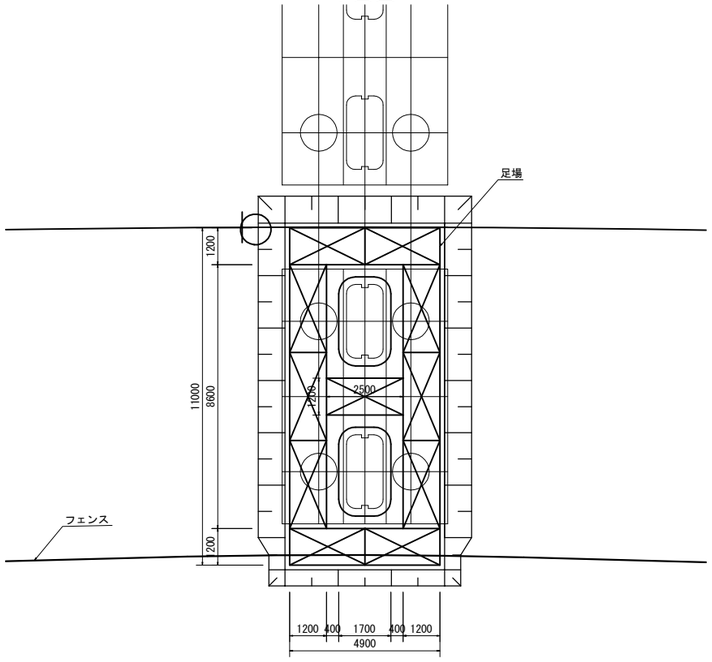
正面図



平面図

下り線

上り線

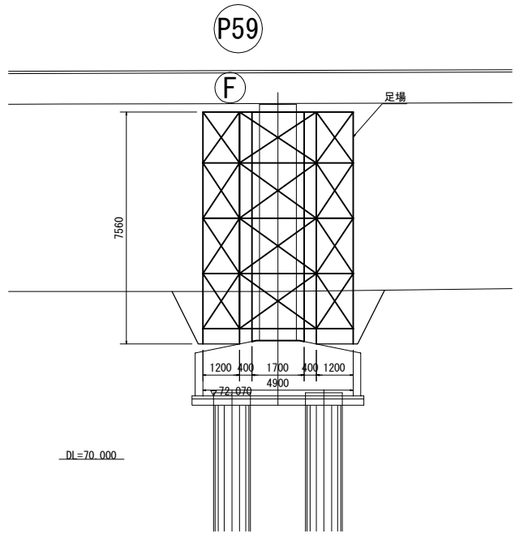


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P58橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

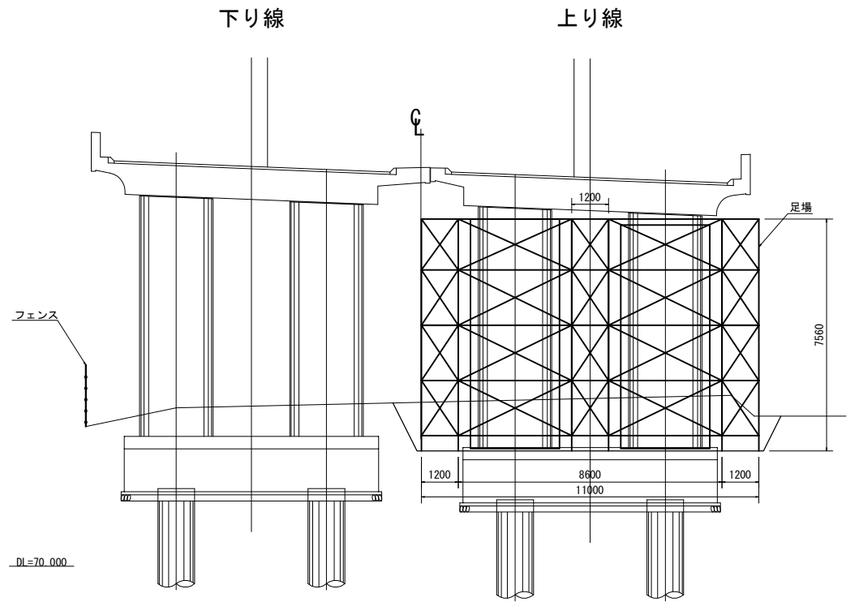
P59橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



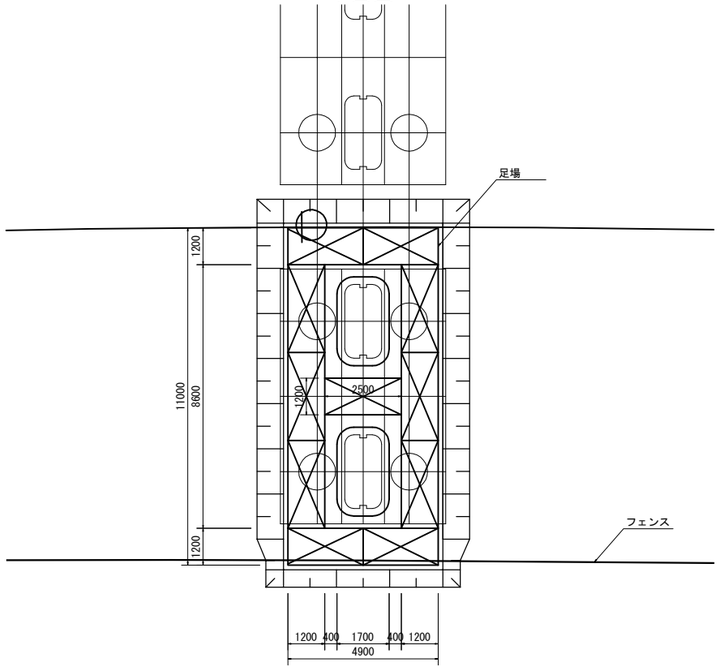
正面図



平面図

下り線

上り線

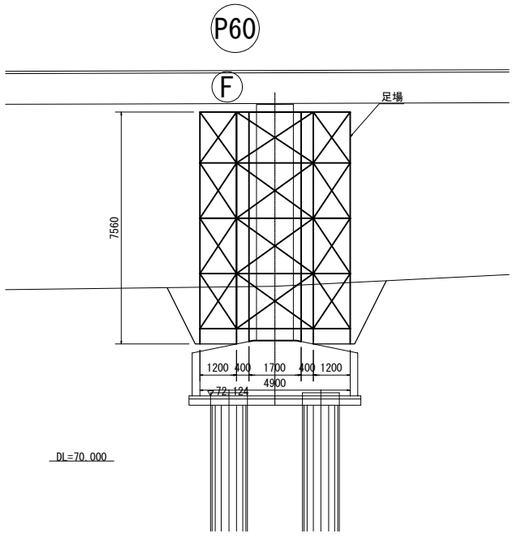


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P59橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

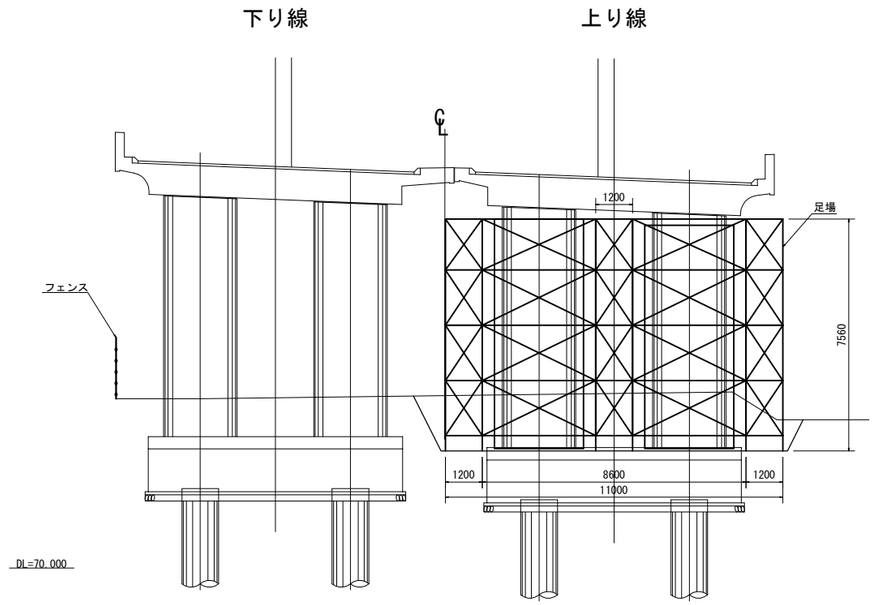
P60橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



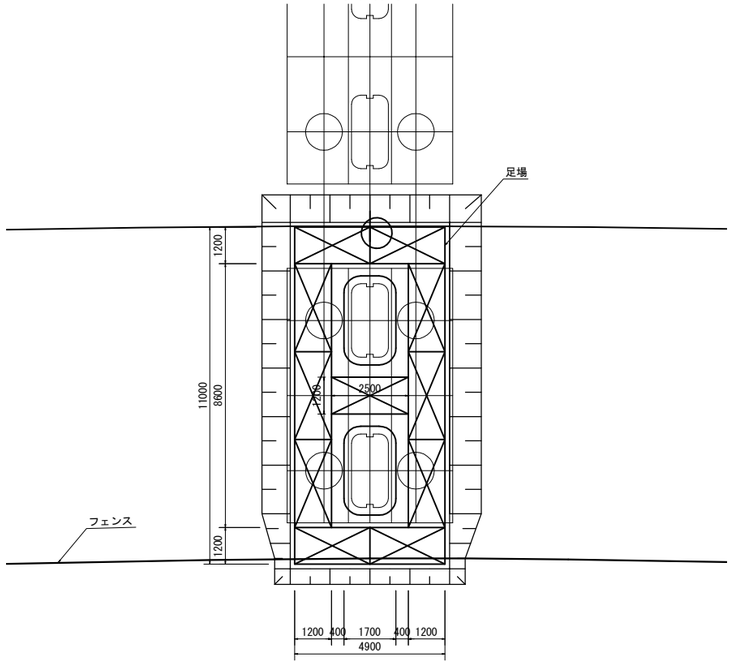
正面図



平面図

下り線

上り線

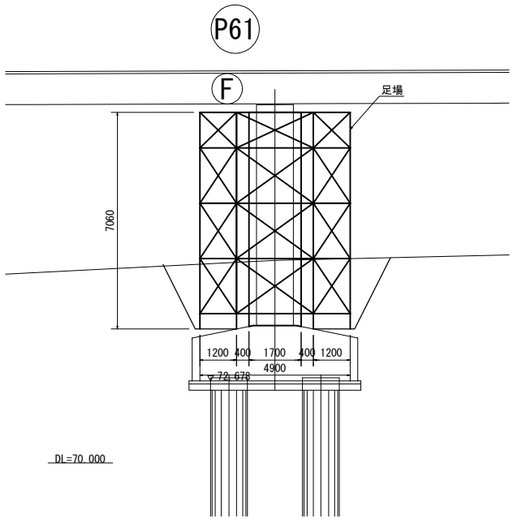


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P60橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

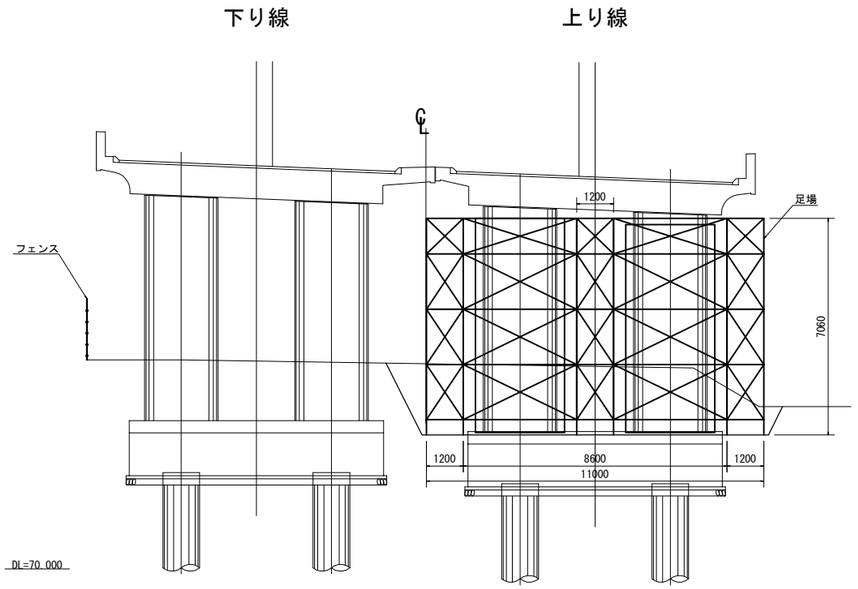
P61橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

側面図



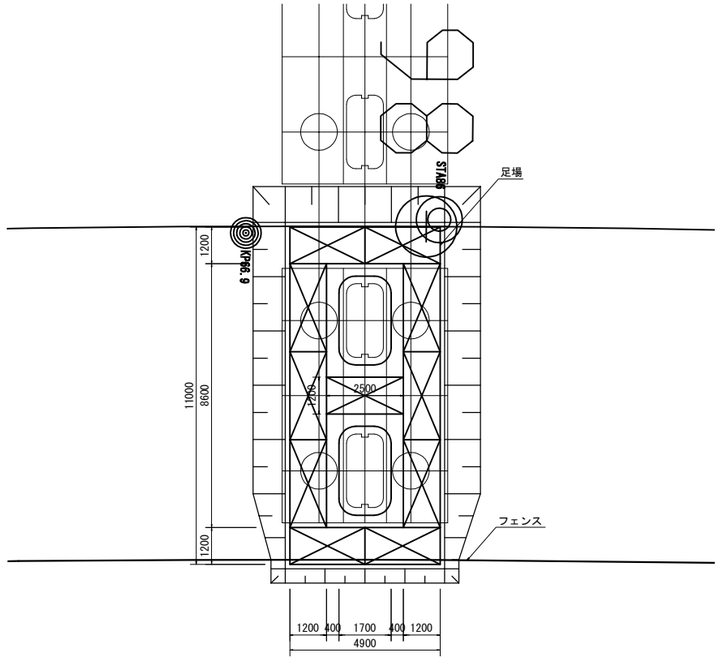
正面図



平面図

下り線

上り線

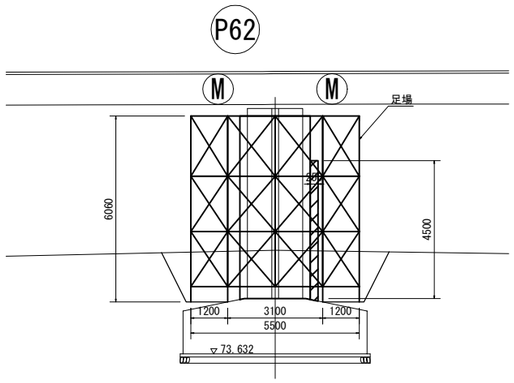


首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P61橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

P62橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

普通部

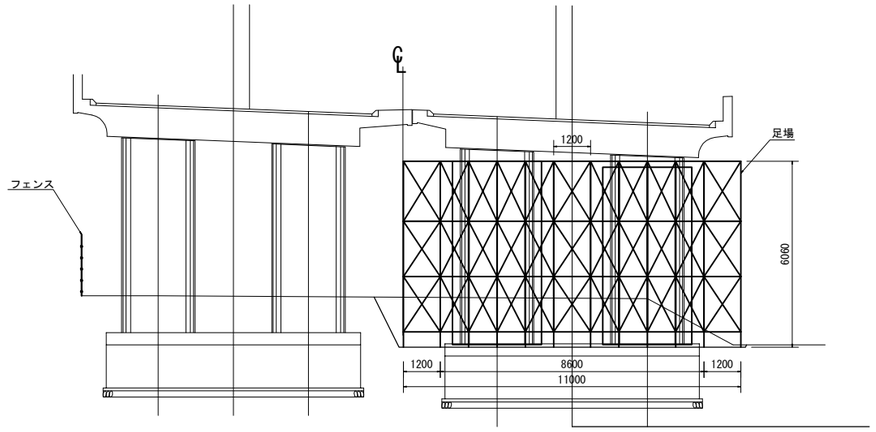
側面図



DL=70.000

正面図

下り線　　上り線

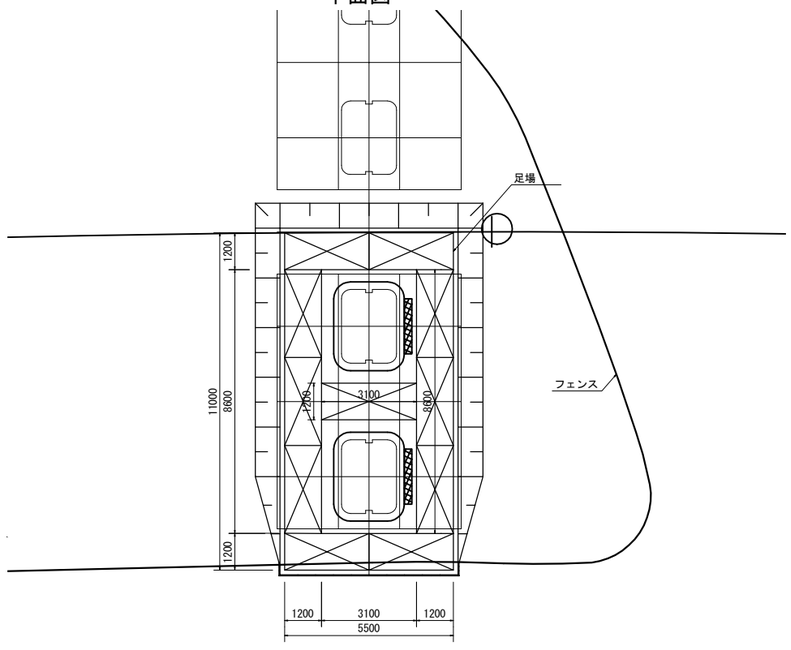


DL=70.000

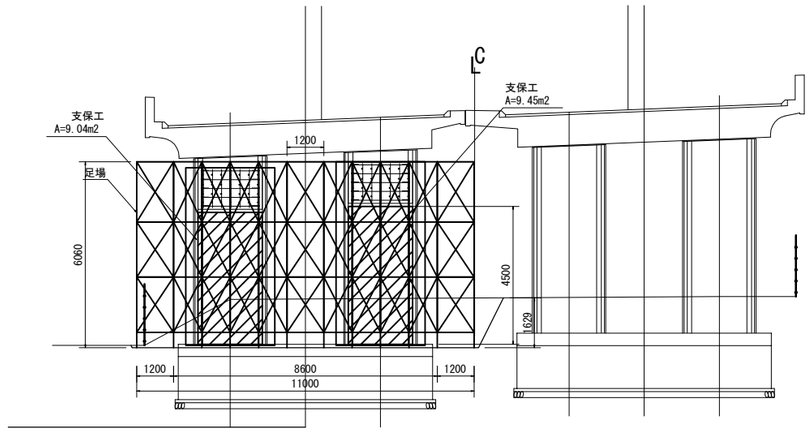
平面図

下り線

上り線



上り線　　下り線

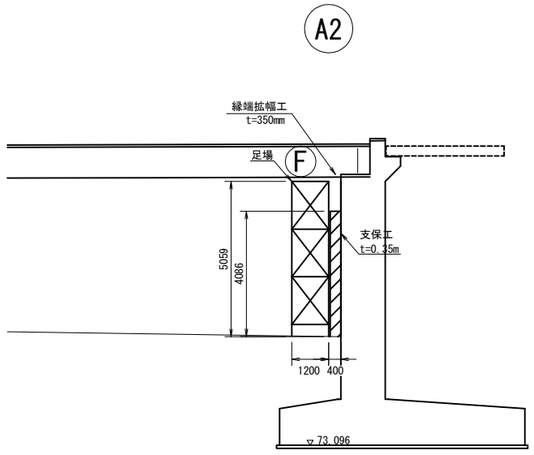


DL=70.000

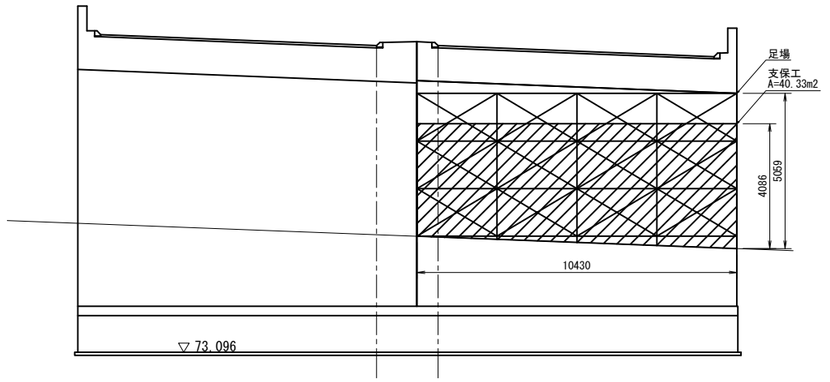
首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 P62橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		

A2橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）S=1:200

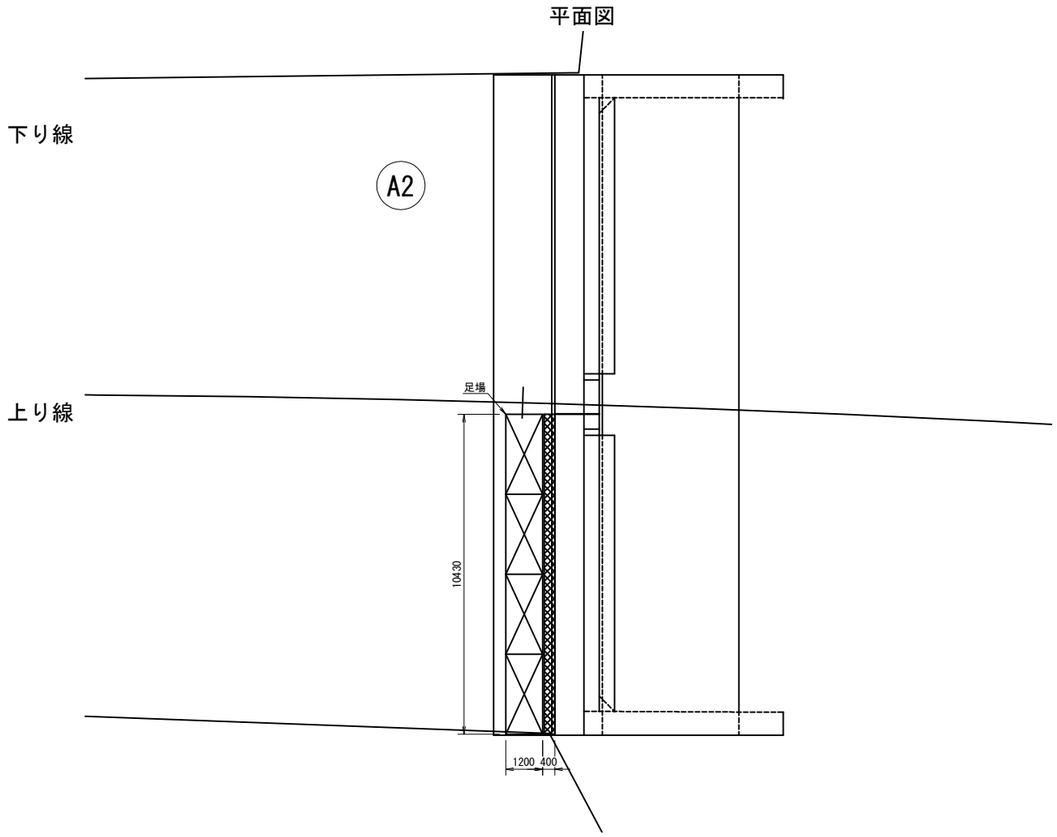
側面図



正面図



平面図



首都圏中央連絡自動車道 入間川高架橋耐震補強工事			
図面の種類	入間川高架橋 A2橋脚 足場計画図（上り線）（参考図）		
縮　尺	1:200	図面番号	/
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社所沢管理事務所		